日本菌類誌

北海道大學名譽教授，日本學士院會員
農學博士
伊藤誠哉著

第二卷
擔子菌類
第四號
キクラゲ目・シロキクラゲ目・アカキクラゲ目・
ヒダナシタケ目（サルノコシカケ目）

東京・書肆
株式會社
養賢堂發行

1955

お祝い世界の魚々には法様々ぬ頃へ来りました
あそ浅ない丁度餅のなくなつた處に餅を、又栗を
北限地の外にある当地への美事なる栗、満点へ
贈下され、孫共一同大悦びであります。いつ
もながら色々の御配慮を辱うしま有難をあり
加へて感謝致します。御身御大切に

一月廿五日　札幌郊北十五条東二保道誠

日 本 菌 類 誌

北海道大學名譽敎授，日本學士院會員
農 學 博 士
伊 藤 誠 哉 著

第 二 卷
擔 子 菌 類
第 四 號
キクラゲ目・シロキクラゲ目・アカキクラゲ目・
ヒダナシタケ目（サルノコシカケ目）

東 京・書 肆
株式會社
養 賢 堂 發 行

1955

Mycological Flora of Japan

SEIYA ITO

Nogakuhakushi

Prof. Emer. of the Hokkaido University, M.J.A.

Vol. II

Basidiomycetes

No. 4

Auricularìales, Tremellales, Dacrymycetales, Aphyllophorales (*Polyporales*)

Tokyo

Yokendo

1955

著者は本邦産菌類研究のため
朝日新聞社より科学奨励金の
交付を受けたり茲に同社に対
し深甚なる感謝の意を表す

目　　次

Basidiomycetes 擔子菌綱 1

Heterobasidiae 異擔子菌亜綱 1

Auriculariales キクラゲ目 2

Auriculariaceae キクラゲ科 2

Pilacraceae トメパリキン科 10

Septobasidiaceae モンパキン科 11

Tremellales シロキクラゲ目 15

Tremellaceae シロキクラゲ科 15

Dacrymycetales アカキクラゲ目 31

Dacrymycetacae アカキクラゲ科 31

Homobasidiae 同擔子菌亞綱 45

Hymenomycetes 菌蕈類 45

Aphyllophorales ヒダナシタケ目 45

(*Polyporales* サルノコシカケ目)

Exobasidiaceae モチビョウキン科 46

Clavariaceae ホウキタケ科 56

Cantharellaceae アンズタケ科 96

Corticiaceae コウヤクタケ科 104

Phylacteriaceae イボタケ科 170

Hydnaceae ハリタケ科 185

Meruliaceae シワタケ科 201

Fistulinaceae カンゾウタケ科 210

Polyporaceae サルノコシカケ科 211

菌學名屬別索引 391

菌學名種別索引 414

菌和名索引 443

Basidiomycetes 擔子菌 （續）

菌類分類様式は漸次研究の進むに従つて變化し，各研究者の見解によつて定められ未だ固定の域に達せず。本書さきに記述せるものに就きて改變の要あるもの多々あるはやむを得ざるところなり。擔子菌に就きては次の如く改め記述することとせり。

亞綱分類表

A. 顯花植物の各部に寄生し，有隔菌絲は多くは寄主細胞間隙に存す。菌絲體は單核と双核との兩時代ありて，後期に於て或細胞は大形となり，その細胞内の2核は癒合して双相核となる。この細胞は通常厚き有色の膜を有して休眠胞子として役立ち，之れを黑穗菌に於ては黑穗胞子，銹菌にては冬胞子と稱するも，その性格に於て異なる所なく，假りに兩者を合して終末胞子と稱す。終末胞子は無性的に生ずる厚膜胞子とは全く異なるものなり。終末胞子は發芽して眞直或は屈曲せる横隔による4室或は1室の菌絲即ち前菌絲（擔子柄）を生じ，之の中に於て双相核は減數分裂を行い4（或は更に分裂して多數）核を作る。前菌絲上に通常4個の胞子（小生子）を生じ，その各々の内に1核を入る。これ等の胞子（小生子）は發芽して單核の菌絲を生じ或は結合して後双核菌絲を生ず，終末胞子は寄主體内或はその表面に生ずる堆中に作らる。此他無性的に種々なる双核菌絲を形成す。

Hemibasidiae 半擔子菌亞綱

Ustilaginales クロボキン目
（第二巻 一號）

Uredinales サビキン目
（第二巻 二，三號）

B. 死物寄生性のもの多く，擔子柄は休眠性の終末胞子より生ぜず，菌絲端に生じ，子實層を形成す。

a. 擔子柄は叉狀或は横隔又は縦隔によつて4室となる。尙1室にて膨大せる擔子柄上嚢を有するものあり。

Heterobasidiae 異擔子菌亞綱

b. 擔子柄は1室

Homobasidiae 同擔子菌亞綱

α. 裸實及半被實

A. Hymenomycetes 菌蕈類

β. 被實 B. Gastromycetes 腹菌類

HETEROBASIDIAE 異擔子菌亞綱

大部分は死物寄生なるも，蘚類或は顯花植物に寄生するものあり，有隔菌絲は多くは單核及び双核時代を有し，後者より特有なる子實體を作る。擔子柄は常に柵狀に並列して子實層を作るも，時に稍々分散的のものあり，擔子柄は膨大せる細胞にて，内に双核を有し，この核は癒合す，稀に擔子柄が暗色にて厚膜のものあるも，休眠性なく，擔子胞子の形成は多くの遲延なく行わる。擔子柄に3型あり，横隔にて4室なるもの，縦隔にて4室なるもの，及び1室にて2或は4個の膨大せる擔子柄上嚢を有するものとあり。子實體は濕時屢々膠質或は蠟質。擔子胞子は屢々水中にて發芽し，多くの點より芽生す。擔子胞子は通常單に胞子と略稱さる。

目檢索表

A. 擔子柄は多室。

a. 擔子柄は長圓筒形にて眞直或は屈曲し，横隔によつて4室に分たる。擔子柄に於ける核分裂の際紡錘絲は擔子柄の長軸と平行す，即ち縦性なり。 **Auriculariales キクラゲ目**（2）

b. 擔子柄は卵球形にて十字形縦隔によつて4室に分たる。擔子柄内に於ける核分裂の際紡錘絲は擔子柄の長軸に直角をなす，即ち横性なり。

Tremellales シロキクラゲ目（15）

B. 擔子柄は1室，圓筒形にて長き2本の上嚢（小柄）を生じ胞子を生ず，紡錘絲は縦性なり，胞子は常に發芽前隔膜を生じ2次胞子を生ず。

Dacrymycetales アカキクラゲ目（31）

AURICULARIALES キクラゲ目

菌絲は絲狀にて隔膜を有し，多くは菌絆（扣子器，clamp）を有す。子實體は粗なる麻屑狀のものより，緊密なる絨狀又は膏薬狀をなし，或は着生物より隆起し，膠質又は軟骨質の耳朶狀，貝殼狀をなし，更に有柄頭狀のもの等種々ありて，その大さ數 mm より數 cm に及ぶ。子實層は多くは裸出し所謂裸實（gymnocarp）なるも，初め菌絲層卽ち外皮（periderm）にて覆われ所謂被實（angiocarp）のものあり，子實層の表面は平滑或は皺あり，時に蜂窩狀を呈す。擔子柄は多くは直ちに菌絲の先端或は側邊に生じ，上下囊の區別なきも，一旦球形の下囊（hypobasidium）を作り之れより上囊（epibasidium）を生ずるものあり，下囊は屢々厚膜，有色にて稍々休眠胞子として役立つものにて，從來擔子柄前細胞(probasidium)と稱せり。擔子柄は長圓筒狀棍棒形をなし，內に２核を存す。この２核は一旦癒合したる後，２回分裂をなす，分裂の際その紡錘絲は擔子柄の縱軸に平行し，所謂縱性（stichobasidial）なり。擔子柄は橫隔によつて４室に分れ各室より小柄を生じ，之れに球形，楕圓形或は長形の擔子胞子卽ち胞子を着く。この主要胞子の外に分生胞子を生ずるもの多し。多くは材上に死物寄生するも或種は活物寄生をなす。之れに屬する菌類中汎布種あるも熱帶產のもの多し。

本邦既知科檢索表

A. 植物に活物或は死物寄生。
  a. 子實體は無莖にて，その表面に露出せる粗或は密なる子實層を作る，擔子柄は上下囊の區別あるもの或はその區別なきものあり，明かなる小柄を有す。
    キクラゲ科 Auriculariaceae（２）
  b. 子實體は有莖にて頂部に放射狀菌絲より成る頭部を作り，その菌絲間に擔子柄を生ず。
    トメバリキン科 Pilacraceae（10）
B. 介殼蟲に寄生或は共生，擔子柄は普通よく發達せる下囊を有し，之れより４室の上囊を生ず。
    モンパキン科 Septobasidiaceae（11）

AURICULARIACEAE キクラゲ科

植物に活物寄生するものあるも多くは枯死せる植物體，特に材上に生ず。子實體は着生物上に擴布，背着或は特立する耳朶狀をなし，膜質，膠質或は蠟質等あり。子實層は露出し，平滑，皺狀或は廣き蜂窩狀なり。擔子柄は上囊と下囊との區別あるもの或は之れなきものあり，擔子柄は多くは長筒棍棒形，3〜4 室に橫裂し，小柄を生じて，胞子を着く。分生胞子に種々あり。

本邦既知屬檢索表

A. 通常植物の地下部及び根際部に寄生，子實體は綿屑狀にて廣く擴布す、擔子柄下囊は圓筒形或は不明瞭，上囊は彎曲す。
    ムラサキモンパ屬 **Helicobasidium**（２）
B. 植物の地上部に死物寄生，子實體は背着し，堅緻なる膠質或は蠟質なり，擔子柄に上下囊の區別なく，紡錘形。
    プラチグロエア屬 **Platygloea**（４）
C. 植物の地上部に死物寄生，子實體は傘形或は耳朶形，强靱なる膠質なり，擔子柄に上下囊の區別なく，圓筒形。
    キクラゲ屬 **Auricularia**（４）

Helicobasidium PAT.
ムラサキモンパ屬

PATOUILLARD, Bull. Soc. Bot. Fr. 32 : 171. 1885; 33 : 335. 1886.
Stypinella SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 383. 1887.
Herpobasidium J. LIND, Ark. Bot. 7 : 5. 1908.

菌體の形及び大さは不定にて，着生物上に擴布し，羅紗狀或は膜狀を呈す，一樣なる菌絲よりなりありて層を作らず，菌絲は多數の隔膜を有し，屢々紐狀に結合し，黑褐色の分岐せる根狀菌絲束（rhizomorph）を作り，地上或は寄生植物上に存す。子實層は菌體の表面を蔽い，菌絲より直に擔子柄を生ず，擔子柄は稍々不等高にて圓筒形，屈曲し，橫隔によりて４室に分たるるを普通とし，各室より錐形の小柄を生じ，無色の胞子を着く。植物莖幹，根部

に寄生す。(本屬名は helix (蝸牛，螺旋) 及 basidium (擔子柄) より出づ)

基準種　　*H. purpureum* (TUL.) PAT.

Helicobasidium mompa TANAKA

ムラサキモンパ

TANAKA, Jour. Coll. Sci. Tokyo Imp. Univ. 4: 193, *pl. 25–27*. 1891—PATOUILLARD, Ess. Tax. 12. 1900—K. ITO, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 43: 1–126, *pl. 11*, *f. 1–32*. 1949.

(田中，植．雜．4:387. 1890—P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28: 266. 1901—白井，日．菌．目．40. 1905; ed. 2. 269. 1917; ed. 3. 157. 1927—澤田，臺．農事報 129 *f. 1–8*. 1917; 臺．博．報 30: 4. 1917; 臺．菌．調．報．1: 402, *pl. 11*, *f. 7–10*. 1919; 東北生物研究 1:95. 1950—原，日．菌．目．147. 1954)

Stypinella Mompa LINDAU, Forstl. Naturw. Zeits. 4: 458. 1895. (德淵，植物學集說，308. 1911)

Helicobasidium Mompa f. *macrosporum* HARA, 大日本蚕糸会報 (Jour. Seric. Assoc. Japan), 26: 725, *f. 1–6*. 1917—T. TANAKA, Mycologia, 11: 86. 1919.

Helicobasidium purpureum var. *orientale* PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 36: 176. 1920—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 558. 1925.

Septobasidium compactum BOEDIJN, Comm. Gen. Exp. St. 26: 7. 1926.

Helicobasidium compactum BOEDIJN, Arch. Theecult. 4: 41 1930—BOEDIJN & STEINMANN, Bull. Jard. Bot. Buitenzorg, III. 11: 169. *f. 1*, *pl. 14*, *f. a–b*. 1931.

Stypinella purpurea (non SCHROET.)

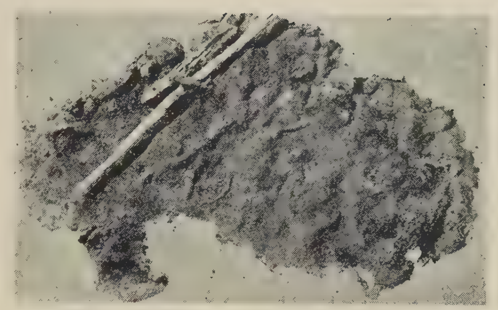
(松村，植．名鑑，1: 145. 1904—吉野，植．雜．19: 200. 1905—白井，日．菌．目．96. 1905; ed. 2. 643. 1917—安田，植．雜．28: 236. 1914)

Septobasidium Mompa (non RACIB.)

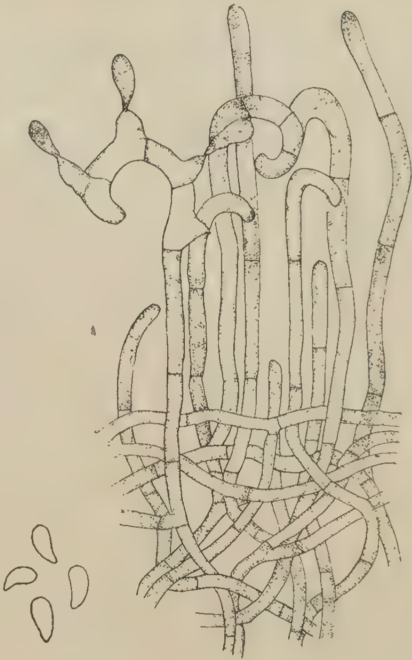
(三宅，蠶．試．報．1 (5): 331. 1916—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 13. 1917)

Septobasidium Mompa f. *macrosporum* HARA, in SACCARDO, Syll. Fung. 23: 507. 1925.

顯花植物の根，根莖或は塊莖等の表面に褐色の稍々太き菌絲及び針金樣の根狀菌絲束を附着す，菌絲は漸次廣く擴布し，赤褐色の絨狀の皮層を作り，被害部を鞘狀に包むに至る，後地上の株面及び地表に帶白紫褐色の柔軟なる紋羽樣の菌絲層を形成す。菌絲は紫褐色，紫色或は褐色，膜やや厚く，隔膜を有し，菌絆なく，径4—7 μ，根等の皮目上に微細なる菌絲塊を作る。子實層は根際部に生じ，不定形，径 3—10 cm，帶白紫色，帶白桃色にて絨狀，白粉に蔽われ剝離し易し，厚さ約 15 μ，菌絲縱列し，其間に擔子柄を生ず，擔子柄は無色，圓柱形にて彎曲し，



a



b

第1圖　ムラサキモンパ *H. mompa*

a.　地上に生ぜる子實體　×3/10 (鈴木直治氏)

b.　擔子柄及胞子　×300　　(大谷氏)

3隔膜を有し，30—50×5—8 μ，各室より1小柄を出す，小柄は先端に向つて漸細し，先端尖り，10—15×3—4 μ，先端に胞子を附す。胞子は倒卵狀楕圓形，先端圓形，基部狹細，平滑，無色，12—25×4—7 μ，活物寄生をなし，大害をなす。

所在及產地

クワ (*Morus*) リンゴ (*Malus*) 其他多數の植物に寄生　　全土一亞 (瓜・臺)

和名　ムラサキモンパ (紫紋羽) 〔田中〕

〔**因記**〕本菌は *H. purpureum* PAT. と酷似し之れと並行培養をなして其異同を查定するの要を認めらる。

疑 問 種

Helicobasidium typhuloides (PECK) PAT.

(PATOUILLARD, Bull. Soc. Myc. Fr. 36 : 176. 1920—KILLERMANN, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pflanzenfam. ed. 2. 6: 106. 1928)

Platygloea SCHROET.
プラチグロエア属

SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 384. 1887.

Achroomyces BONORDEN, Handb. Allgem. Myk. 135. 1851.

Tachaphantium BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7 : 78. 1888.

子實體は着生物上に扁平或は褥狀に背着，小形，蠟質或は膠質，子實層は密にて平滑，蠟質の表面層あり。擔子柄は上下囊の區別なく，長形にて密集し，橫隔にて4室に分たる，子實層內に無性菌絲を混在す，擔子柄の各室より絲狀の小柄を出し，無色，卵形或は圓筒形の胞子を着く。材上に生ず。

（本屬名は platys（廣き）gloia（粘液）より出づ）

基準種 *P. nigricans* SCHROET.

疑 問 種

Platygloea sp.

(LLOYD, Myc. Writ. 4. Lett. 42 : 15. 1912)

Auricularia BULLIARD ex MERAT
キクラゲ屬

BULLIARD, Champ. Fr. 277. 1795—MERAT, Nouv. Fl. Env. Paris, ed. 2. 1 : 33. 1821.

Auricula BATTARRA, Fung. Agr. Arim. Hist. 26. 1755.

Patila ADANSON, Fam. 2 : 5. 1763.

Exidia FRIES, Syst. Myc. 2 : 220. 1822. pr. p.

Hirneola FRIES, Syst. Orb. Veg. 93. 1825.

Laschia FRIES, Linn. 5 : 533. 1830; Epicr. Myc. 499. 1838.

Oncomyces KLOTZSCH, Linn. 7 : 195. 1832.

Laschia subgen. *Auriculariella* SACCARDO, Syll. Fung. 7 : 407. 1888.

子實體は比較的大形にて裂片狀，盤狀，盃狀又は耳朶狀をなし，坐生或は廣狹不定の柄脚部を有す，濕時膠質或は膠狀革質にて乾時收縮し堅き革質となる，扁平或は反轉し，背面に毛を有するもの多く，環紋を有するものあり，子實面は平滑にて襞又は網狀隆起を生ず。擔子柄には上下囊の區分なく，互に併列し，圓筒形，橫隔により4室に分れ，細長の小柄を生じ，先端に圓筒形乃至腎臟形の胞子を着く。樹幹上に生ず。

（本屬名は auricula（耳朶）より出づ）

基準種 *A. mesenterica* (DICKS.) FR.

本邦既知種檢索表

A. 子實層面に明かなる網狀襞あり。子實體は盤形或は不規則に淺裂し，緣邊反轉し，着生物上に擴布或は傘狀となる。(*Euauricularia*)

a. 子實體は傘狀をなし膠狀革質，背面は明かに絨毛狀，環紋を有す。

ヒダキクラゲ *A. mesenterica* (4)

b. 子實體は盤狀にて膠質，背面殆ど無毛なり。

アミキクラゲ *A. delicata* (6)

B. 子實層面は平滑にて明かなる網狀襞なし。(*Hirneola*)

a. 子實體は扁平，圓形，徑 1—2cm，甚だ薄く，乾時軟骨狀紙質，上層は特別なる組織とならず。

カミキクラゲ *A. papyracea* (6)

b. 子實體は耳朶狀或は不規則に淺裂し，幾分柄狀部あるか或は少くとも着生物上に擴布せず，膠質，乾時革質となる，上層は柵狀組織狀をなす。

α. 子實體は乾酪白色。

ウスギキクラゲ *A. leucochroma* (7)

β. 子實體は暗色。

I. 背面に密毛あり，乾時軟骨質，子實層は通常黑色なり。

キクラゲ *A. auricula-judae* (7)

II. 背面に著しき粗毛あり，乾時軟骨狀革質，子實層は帶紫色なり。

アラゲキクラゲ *A. polytricha* (8)

Auricularia mesenterica (DICKS.) PERS.
ヒダキクラゲ

PERSOON, Myc. Eur. 1 : 97. 1822—Fries, Epicr. Myc. 555. 1838; Hymen. Eur. 646. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 272. 1860—Kickx, Fl. Crypt. Flandr. 2: 260. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 29. 1869—Cooke, Handb. Brit. Fungi, 1 : 319, *f. 83*. 1871; Handb. Austr. Fungi, 205. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 303, *pl. 20, f. 3*. 1872; Enchir. Fung. 207. 1886—GILLET, Champ. Fr. 741, cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 191. 1882—WINTER, Pilze, 1 : 283. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 386. 1887—BREFELD, Unters. Gesam. Myk. 7:76, *pl. 4, f. 1b—11*. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 762. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1267. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 :57, *f. 1—2*. 1892; Brit. Fungi, 446, *pl. 33, f. 4*. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 15. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 113. 1903; Icon. Myc.

23 : *pl. 1108*. 1932—W. G. SMITH, Brit. Basid. 445, *f. 112*. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 18. 1909; Hymen. Fr. 15. 1927 —ROLLAND, Atl. Champ. 92, *pl. 106*, *n. 242*. 1910 —BARRETT, Mycologia, 2 : 16. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3. Pilze 2(1): 3. 1912—WEIR, Phytopath. 3:192. 1913—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 908, *f. 2*. 1914—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 45 : 455. 1918—LLOYD, Myc. Writ. 5 : 873, *f. 1490*. 1919—REA, Brit. Basid. 727. 1922—NEUHOFF, Arkiv. Bot. 28 : 56, *pl. 8*. 1926—MENDOZA, Philipp. Jour. Sci. 65:100, *pl. 63*, *f. 1*. 1938—PILAT, Ann. Myc. 38:62. 1940—KOBAYASI, Bull. Centr. Nat. Mus. Manchoukuo, 4 : 22, *f. 6*, *pl. 4*. 1942.

(LLOYD, Myc. Writ. 6:980. 1920; 1126. 1922—安田，植. 雜. 35:67. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 31. 1927—今關，植. 分. 地. 13 : 247. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 28. 1952—原，日. 菌. 目. 31. 1954)

Helvella mesenterica DICKS. Crypt. Brit. 1:20. 1785.

Helvella tremellina SWARTZ, Prodr. 149. 1788.

Thaelaephora mesenterica GMEL. Syst. Nat. 2(2) : 1440. 1792.

Merulius mesentericus SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 138. 1794.

Auricularia tremellodes BULL. Champ. Fr. 278, *pl. 290*. 1795.

Auricularia violacea BULL. Champ. Fr. 278. 1795.

Auricularia corrugata SOW. Col. Fig. Engl. Fung. 3 : *pl. 290*. 1800.

Thelephora mesenterica PERS. Syn. Meth. Fung. 571. 1801—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 392. 1844.

Thelephora purpurea PERS. Syn. Meth. Fung. 571. 1801.

Thelephora tremellina SWARTZ, Fl. Ind. Occid. 1935. 1806.

Thelephora tremelloides DC. Fl. Fr. 2 : 104. 1815.

? *Auricularia ornata* PERS in FREYC. Voy. Uranie, 177, *pl. 2*, *f. 4*. 1826—GRAFF, Mycologia, 9:7. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5:872, *f. 1489*. 1919.

Phlebia mesenterica FR. Elench. Fung. 1 : 154. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 162. 1836.

Oncomyces mesenterica KLOTSCH, Linn. 7:195. 1832.

Auricularia pusio BERK. Jour. Linn. Soc. 17 : 386. 1879—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 764. 1888.

Patila mesenterica KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 864. 1891.

Patila lobata KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 864. 1891.



第2圖　ヒダキクラゲ *A. mesenterica*
a. 子實體の內面　b. 同背面　×2/5
c. 擔子柄及胞子　×480（大谷氏）

子實體は無柄にて着生物上に擴布し，径5—15cm，多くは傘状に反捲す，質は幾分堅き膠質にて，1.5—2.5mm の厚さを有し，等厚なり，縁部は波狀にて多少淺裂す，內面は帶赤色或は暗褐色にて放射狀に皺襞を有し或は網狀となり，稀に殆ど平滑なり，乾時灰黑色，粉狀，革質にて稍々堅し。傘は半圓形，縁は全縁或は傘狀裂片となり，上面に明なる同心環紋を有し，濃淡部交互に並び，濃色部は黑くして殆ど平滑，淡色部は淡灰白色にて初め密なる軟毛ありて後無毛となり灰色となる。內部組織は一様に堅き膠質にて，その構成菌絲は薄膜或は厚膜，菌絆を有し，分岐し，密にて，幅1.5—4.5μ，下面の組織は稍々帶赤色を呈し，外皮なし。背毛は錯雜し，束と

なり，1室，分岐せず，130—500×2.5—3.5μ．膜厚く，淡帶赤黄色或は殆ど無色なり，子實層の厚さは100μに達す。擔子柄は圓筒形，4室に分れ，56—63×4—6.3μ，小柄は幅2—2.5μ，胞子は卵形或は腎臓形，基部尖り，無色，顆粒あり，8.5—13.3×5—7μ．多くは11×6μ。

所在及産地

廣葉樹（ニレ（*Ulmus*）．クリ（*Castanea*）ブナ（*Fagus*）カシワ（*Quercus*）カバ（*Betula*）等）枯幹上．北海道，本州—歐．北米．濠．亞（朝．支．比）

和名 ヒダキクラゲ（皺木耳）〔安田〕

Auricularia delicata (FR.) P.HENN.

アミキクラゲ

P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 17 : 19. 1893—LLOYD, Myc. Writ. 5 : 784, *f. 1177*. 1918—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 8 : 392, *pl. 3, f. 5*. 1921—MENDOZA, Philipp. Jour. Sci. 65, *pl. 61, f. 3*. 1938—KOBAYASI, Bull. Centr. Nat. Mus. Manchoukuo, 4 : 21, *f. 1—5, pl. 5, f. A–B*. 1942.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32 : 217. 1893; Monsunia, 1 : 5. 1899—松村，植．名鑑，1 : 132. 1904—白井，日．菌．目．12. 1905; ed. 2, 67. 1917; ed. 3, 31. 1927—原，日．菌．目．31. 1954)

Laschia delicata FR. Linn. 5 : 533. 1830; Epicr. Myc. 499. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 407. 1888.

Laschia tremellosa FR. Summa Veg. Scand. 325. 1849—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 407. 1888.

Auricularia tremellosa PAT. Jour. Bot. 1 : 226, *pl. 4, f. 9—10*. 1887—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. Peradeniya, 4 : 416. 1910.

Auricul : delicata KUNTZE, Rev. Gen. 3(2) : 443. 1898.

Auricula tremellosa KUNTZE, Rev. Gen. 3(2) : 446. 1898.

Auricularia Hunterii LLOYD, Myc. Writ. 5 : 808, *f. 1258*. 1918 ; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 29. 1936.

Auricularia crassa LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1275, *f. 2825—2826*. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 28. 1936.

Hirneola delicata BRES. KILLERMANN, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl.–fam. ed. 2. 6 : 108, *f. 81 J*. 1928.

（澤田，臺．菌．調．報．5 : 60. 1931）

Auricularia Auricula–Judae (non SCHROET.) MOELLER, Protobas. 36, 164, *pl. 1, f. 1 d–e*. 1895. pr. p.—HOLTERMANN, Myk. Unters. Tropen, 47, *pl. 6, f. 1 b, c, e*. 1898.

子實體は群生，幼時椀茸狀，盤形或は倒圓錐形，子實層は多少凹面にて徑5—10mm，厚さ3—6mm，熟後盤形となり，徑2.5—10cm，厚さ5—10mm，膠質，乾時軟骨質となる，無柄にて着生物に中心或は稍々中心部にて附着し，多少壓低され，中心部多くは厚し，緣邊は多少狹細，平面或は波狀，全緣なり，外面は帶赤色，帶紫赭褐色或は淡色にて絹絲狀毛あり，平滑或は多少粗豪なり，內面は扁平或は稍々凹面にて明かに網狀，稍々白色或は帶赤色，粉狀なり，網目は稍々深く，放射狀不等大の圓形，長形或は多角形にて緣は稍々厚く，0.3—0.5mmあり，密に接合す，肉の構成菌絲は薄膜，弛く分岐し，幅1—3μ，無色にて明に菌絆を有す。乾時子實體は全く軟骨狀膜質，半透明にて光澤あり，上面多少絨毛狀なり，背毛は疎にして單室，無色，38—185(−250)×5.6—9(−14)μ，厚膜にて厚さ1—3μあり，外皮は擬柔組織をなし，各細胞は球形或は楕圓形，無色或は暗色にて3—5層あり，子實層は淡帶赤黄色，高さ85—100μ，擔子柄は圓筒形，兩端稍々狹細，長さ38—50μ，横隔間7—9μあり，小柄は絲狀，長さ3.5—38μ，先端多少厚くして子實層より抽出す。胞子は腎臓形にて屈曲し，先端圓形，基端僅か尖り，無色，9.5—12×3.5—5.5μ，發芽して管上に二次の胞子を生ず，卵形にて5.5×2.8—3.5μ。

所在及産地

廣葉樹枯幹上、小笠原島，琉球—亞（臺．支．印．瓜）濠．南北米．阿．

和名 アミキクラゲ（網木耳）〔澤田〕

Auricularia papyracea YASUDA ex LLOYD

カミキクラゲ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 32 : 331. 1918—LLOYD, Myc. Writ. 5. Lett. 68 : 12. 1918—KOBAYASI, Bull. Centr. Nat. Mus. Manchoukuo, 4 : 24. 1942.

(LLOYD, Myc. Writ. 5. Lett. 68 : 7. 1918—白井，日．菌．目．ed. 3. 31. 1927—原，日．菌．目．31. 1954)

子實體は群生し，屢々互に癒着す，扁平球形，全緣，徑1—2cm，無柄，幾分堅き膠質，厚さ0.5—0.7mm，着生物に內着す，外面は無毛，同心環紋を有し，平滑或は痂皮狀にて灰色なり，內面は褐色にて平滑或は多少粗糙なり，乾時軟骨狀紙質，半透明にて內面褐色，外面淡色なり，內部組織の構成菌絲は平行に並び，幅2.8—4μ，厚膜，無色，僅か分岐し，菌絆を有す。子實層は厚さ66—100μ，絲狀體は絲狀，幅2—2.5μ，淡褐色を呈す。擔子柄は圓筒形，淡褐色或は殆ど無色，50—70×5—7μ，小柄は無色，10×1.5—2μ。胞子は圓筒形，稍々屈曲し

無色，12.5—16×4—4.5 μ。

所在及產地

ヤナギ (*Salix*) 等の枯幹上　本州

和名 カミキクラゲ（紙木耳）〔安田〕

Auricularia leucochroma KOBAY.

ウスギキクラゲ

KOBAYASI, Bull. Centr. Nat. Mus. Manchoukuo, 4 : 26, *f. 10*, *pl. 4*, *f. A*. 1942.

Auricularia albicans LLOYD. Myc. Writ. 7 : 1363, *f. 3255*. 1925.

Hirneola albida (non ROMELL) KOBAY. Bot. Mag. Tokyo, 51 : 804, *pl. 17*, *f. E*. 1937.

Auricularia albida (原，日. 菌. 目. 31. 1954)

子實體は盃形，着生物に中心或は偏心部にて附着し，殆ど無柄，徑 2—5 cm，高さ 1—2.5 cm，彈性軟骨質にて堅し．乾時は軟骨質なり，緣邊は全緣にて眞直或は內屈，房狀，厚さ 0.5—1 mm，乾時も殆ど收縮せず，上面は絨毛を有し，淡乾酪色，下面は乾酪白色．平滑或は粗糙なり，肉は無色にて構成菌絲は幅 1—2 μ，厚膜，有隔，菌絆あり，外皮は厚さ 65—75 μ，その構成細胞は棍棒形にて柵狀組織狀に並び，厚膜，無色，12—20×3.5—6.5 μ。毛は密生し，互に絡れ合い或は束をなし，不規則に屈曲し，無色或は淡乾酪色，隔膜なく，上方狹細，500—700(−900)×3—8 (多くは 5.5—6) μ。子實層は厚さ 170 μ に及ぶ。絲狀體は絲狀にて無枝或は分岐し，幅 0.7—1 μ。擔子柄は絲狀，上方厚く，45—50×2.5—3.5 μ，4 室に分れ，各隔膜間 10—15 μ，胞子未詳。

所在及產地

モンテンボク (*Hibiscus glaber* MATSUM.) の枯幹上　小笠原島

和名 ウスギキクラゲ（淡黃木耳）〔小林〕

Auricularia auricula-judae (BULL. ex FR.) QUÉL.　キクラゲ

QUÉLET, Enchir. Fung. 207. 1886—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 386. 1889—MOELLER, Protobas. 36, *pl. 1*, *f. 1 a–c*. 1895—SAPPIN-TROUFFY, Botanniste, 5 : 54—57. 1896—PATOUILLARD, Ess. Tax. 15, *f. 8a*. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 18. 1909; Hymen. Fr. 1 : 15. 1928—ROLLAND, Atl. Champ. 92, *pl. 106*, *n. 241*. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3. Pilze 2(1) : 3, *pl. 13*, *f. 3—4*. *pl. 13B*. 1912—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5) : 908, *f. 3*. 1914—KAWAMURA, Ill. Jap. Fungi, *pl. 13*, *f. 6—7*. 1915—LLOYD, Myc. Writ. 5 : 783, *f. 1175*. 1918—REA, Brit. Basid. 727. 1922—GUESSOW & ODELL, Mushr & Toadst. 211, *f. 108*. 1927—MENDOZA, Philipp. Jour. Sci. 65 : 99 *pl. 63*. 1938—KOBAYASI, Bull. Centr. Nat. Mus. Manchoukuo, 4 : 27, *f. 11*. *pl. 6*, *f. C*. 1942.

(P. HENNINGS, Hedwigia 32 : 37, 217. 1893; Monsunia 1 : 5. 1899—松村，植. 名鑑，1 : 132. 1904—白井，日. 菌. 目. 11. 1905; ed. 2. 67. 1917; ed. 3. 31. 1927—安田，植. 雜. 26 : 420. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 5. Lett. 65 : 13. 1917; Lett. 67 : 7, 11. 1918; Lett. 69 : 7. 1919; 6 : 1079. 1902; 6 : 1126. 1922—川村，日. 菌. 圖說，*n. 199*. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 107. 1931—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，439，*f. 234—5*. 1945—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 28. 1952—原，日. 菌. 目. 31. 1954—今關及土岐，林. 試. 研. 報. 67 : 21. 1954)

Tremella Auricula L. Sp. Plant. 2 : 1157. 1753. (KAEMPFER, Amoen. Exot. 832. 1712—THUNBERG, Fl. Jap. 345. 1784)

Auricula Judae BATTARRA, Fungi Agr. 26, *pl. 3*, *f. Fc*. 1755—KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 844. 1891.

Peziza Auricula L. Syst. Veg. ed. 15 : 1018. 1767.

Merulius Auricula ROTH, Tent. Fl. Germ. 1 : 535. 1788.

Tremella auriformis HOFFM. Veg. Crypt. 31, *pl. 4*, *f. 4*. 1790.

Peziza Auricula-Judae BULL. Champ. Fr. 1 : 241, *pl. 427*, *f. 2*. 1791.

Tremella Auricula-Judae PERS. Obs. Myc. 2 : 93. 1799; Syn. Meth. Fung. 624. 1801.

Auricularia sambucina MARTIUS, Fl. Crypt. Erlang. 459. 1817—FUCKEL, Symb. Myc. 29. 1869—WINTER, Pilze, 1 : 283. 1884—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7 : 70, *pl. 4*, *f. 3—9*. 1888.

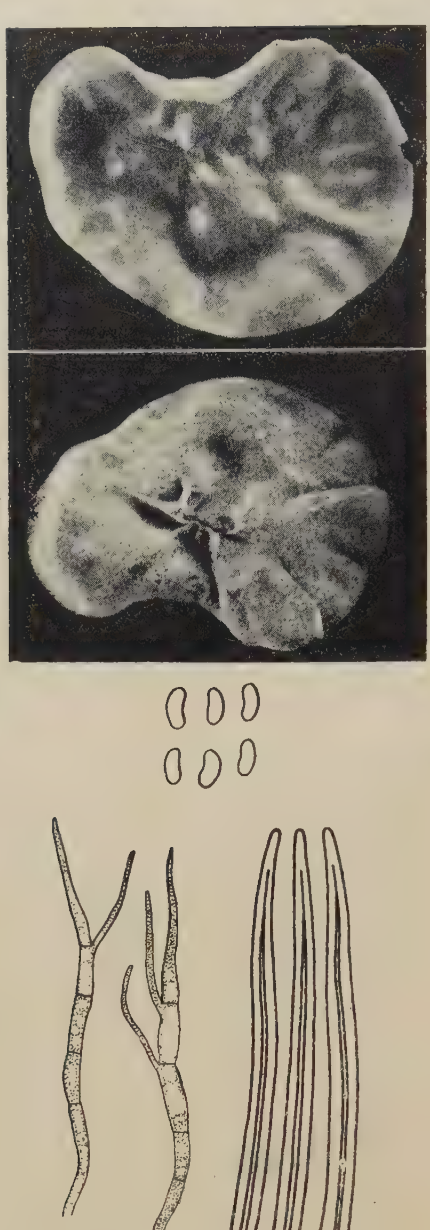
Gyraria auricularis S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 594. 1821.

Exidia Auricula-Judae FR. Syst. Myc. 2 : 221. 1823; Epicr. Myc. 590. 1838—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 217. 1835—CORDA, Icon. Fnng. 3 : 35, *pl. 9*, *f. 137*. 1839—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 314. 1844—BARLA, Champ. Nice, 102, *pl. 44*, *f. 17—18*. 1886.

Exidia Auricula WALLR. Fl. Crypt. 2 : 559. 1833—FRIES, Summa Veg. Scand. 340. 1849.

Hirneola auricula-Judae BERK. Outl. Brit. Fung. 289, *pl. 18*, *f. 7*. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 349, *f. 97*. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 313, *pl. 1*, *f. 6*. 1872—GILLET, Champ. Fr. 775, cum icone. 1874—FRIES, Hymen. Eur. 695. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 201. 1822—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 766. 1888; 11 : 144. 1895—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 58, *f. 4*. 1892; Brit. Fungi, 446, *pl. 38*, *f. 4*. 1911—W.G. SMITH, Brit. Basid. 446, *f. 113*. 1908—GRAFF, Mycologia, 9 : 8. 1917; Bull. Torr. Bot. Club. 45 : 456. 1918.

(安田，植. 雜. 9 : 371. 1895—LLOYD, Myc. Writ.


a
b
c d

第3圖 キクラゲ *A. auricula-judae*
a. 子實體の內面 b. 同背面 ×1
c. 擔子柄及胞子 d. 背毛 ×480 (大谷氏)

4. Lett. 42:15. 1912; Lett. 43:7. 1912; Lett. 60: 6. 1915—三宅, 蠶. 試. 報. 1(5): 333. 1916—金平, 臺. 博. 報. 37:135. 1918—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5: 58. 1931; 東北生物研究, 1:96. 1950—TENG, Centr. Biol. Lab. Sci. Soc. China, 7 : 102. 1932—KOBAYASI, Bot. Mag. Tokyo, 51 : 803. 1937; 日. 隱. 植. 圖. 363, *pl. 172, f. 2—3.* 1939)

Hirneola Auricula KARST. Deut. Fl. 93, *f. 27.* 1880—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1268. 1916—BRESADOLA, Icon. Myc. 23: *pl. 1109.* 1932.

Auricularia Auricula UNDERWOOD, Mem. Torr. Bot. Club, 12:15. 1902—BARRETT. Mycologia, 2 : 12. 1910.

子實體は鐘形或は耳朶狀, 徑 3—12cm, 膠質, 脈狀の襞を有し, 外面は赤褐色にて滑かに密毛あり, 乾時は帶赤黃色或は藍黑色を呈す, 內面は褐色にて乾時黑色となる。肉組織は幅 2—3.5 μ の菌絲より成る。背毛は密集束生し, 圓筒形にて先端に向つて漸細し, 58—170×5—6.5 μ, 多くは長さ 115—135 μ, 淡褐色或は殆ど無色なり, 先端鋭頭, 時に鈍頭, 中腔は細し; 擔子柄は圓筒形, 60—77×4.2—5.5 μ, 4 室に分る。胞子は腎臟形, 11—15×4—7 μ. 可食。

所 在 及 產 地

廣葉樹, 稀に針葉樹の幹上 全土一汎布

和 名 キクラゲ (木耳) ミミタケ (耳茸)

Auricularia polytricha (MONT.) SACC.

アラゲキクラゲ

SACCARDO, Misc. 2:12. 1885—PATOUILLARD, Ess. Tax. 15. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 5:783. 1918—REA, Brit. Basid. 728. 1922—MENDOZA, Philipp. Jour. Sci. 65:102, *pl. 63, f. 2.* 1938—KOBAYASI, Bull. Centr. St. Mus. Manchoukuo, 4 : 29, *f. 14—16.* 1942.

(川村, 日. 菌. 圖說, *n. 204.* 1909—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori. Soc. Agr. Sci. 3:107. 1931—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 441, *f. 236.* 1945—原, 日. 菌. 目. 31. 1954—今關及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67 : 21. 1954)

? *Peziza nigrescens* SWARTZ, Nova Gen. et Sp. Pl. 150. 1788.

? *Peziza nigricans* SWARTZ, Fl. Ind. Occid. 3: 1938. 1806.

? *Auricularia ampla* PERS. in FREYC. Voy. Uranie, 177. 1826.

Exidia polytricha MONT. in BELANGER, Voy. Ind. Orient. 154. 1834.

Exidia purpurascens JUNGH. Fl. Crypt. Javae Ins. 25, *pl. 4, f. 13.* 1838.

Exidia hispidula BERK. Ann. Nat. Hist. 396. 1839.

? *Exidia porphyrea* LÉV. Ann. Sci. Nat. Bot. II, 3 : 218. 1844.

? *Exidia ampla* LÉV. Ann. Sci. Nat. Bot. III, 5 : 159. 1846.

? *Hirneola ampla* FR. Fung. Nat. 26. 1848—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 765. 1888—GRAFF, Mycologia, 9 : 8, 1917; Bull. Torr. Bot. Club. 45: 456. 1918.

(白井, 日. 菌. 目. 41. 1905; ed. 2. 279. 1917; ed. 3. 163. 1927)

Hirneola polytricha FR. Fung. Nat. 26. 1848; Nov. Symb. Myc. 101. 1851—MONTAGNE, Syll. Crypt. 181. 1856—SACCARDO, Syll. Fung. 6:766. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi. 206, *pl. 12, f. 90.* 1892—MASSEE, Trans. New Zeal. Inst. 39: *pl. 2, f. 8.* 1906—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. Peradeniya, 4 : 415. 1910.

(松村, 植. 名鑑, 1 :147. 1904—白井, 日. 菌. 目. 41. 1905; ed. 2. 279. 1917; ed. 3. 163. 1927—安田, 日. 植. 圖. 1: *pl. 40, f. 1—5.* 1900—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5 : 61. 1931; 東北生物研究, 1 : 97. 1950—TENG, Centr. Lab. Sci. Soc. China, 7 : 70, 102. 1932; Bull. Fan. Mem. Inst. Biol. 4 : 283. 1933—KOBAYASI, Bot. Mag. Tokyo, 51:803. 1937; 日. 隱. 植. 圖. 363, *pl. 172, f. 1.* 1939—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 134. 1940—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:28. 1952—今關, 植. 研. 雜. 17 : 175. 1941.

? *Hirneola porphyrea* FR. Fung. Nat. 27. 1848—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 768. 1888.

Hirneola nigra FR. Fung. Nat. 27. 1848.

Hirneola hispidula BERK. Jour. Linn. Soc. 14: 352. 1875—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 769. 1888.

Auricula hispidula KUNTZE, Rev. Gen. 2: 844. 1891.

? *Auricula ampla* KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 844. 1891.

? *Auricula nigra* KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 844. 1891.

Auricula polytricha KUNTZE, Rev. Gen. 2:844. 1891.

? *Auricularia nigra* EARLE, Bull. Torr. Bot. Club, 26 : 633. 1899.

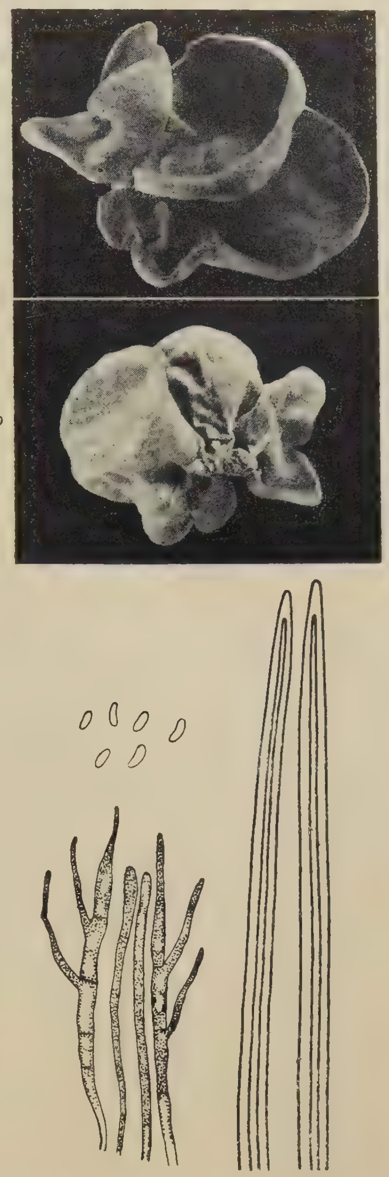
Auricularia hispidula FARL. Bib. Ind. 1 : 307. 1905.

? *Auricularia nigrescens* FARL. Bib. Ind. 1 : 308. 1905—BARRETT, Mycologia, 2 : 15. 1910.

? *Hirneola nigricans* GRAFF, Mycologia, 9 : 9. 1917.

? *Auricularia porphyrea* PAT. Ann. Crypt. Exot. 1 : 3. 1928.

Auricularia Auricula-Judae (non SCHROET.) HOLTERMANN, Myk. Unters. Tropen, *pl. 4, f. 1a, 1d.* 1898.



第4圖 アラゲキクラゲ *A. polytricha*
a. 子實體の內面　b. 同背面　×3/5
c. 擔子柄及胞子　d. 背毛　×360 (大谷氏)

子實體は破出し，群生或は叢生，初め倒圓錐形或は椀茸狀，徑及高さ約1cm，裏返り或は反捲す，熟後半球形或は耳朶狀に擴がり時に葉狀となる，緣邊は鈍直或は幾分內屈又は波狀にて全緣或は淺裂す，稍々堅き膠質或は軟骨狀膠質，子實層部多少脆弱なり，高さ 1.5—3cm，徑 2—6cm，稀に 20cm に達し，厚さ 0.5—1cm，中央附近にて着生物に着き，無柄或は短柄を有す，外面は短絨毛密生し，赤褐色，內面は褐黑色，淡紫褐色或は帶赤黃褐色にて粗く畝立ち，緣邊は明に房狀なり，乾時子實體は殆ど收縮せずして，外面は帶赤黃色，赫褐色或は灰色，內面は紫黑色，紫色或は淡紫黑色にて粉狀なり，多少光澤を有す。肉組織は革狀膠質或は軟骨狀膠質にて厚さ 800—1000 μ (外皮層約 135 μ，髓層 400—450 μ,

子實下層 130—150 μ 子實層 110—115 μ)。背毛は多くは束生し，淡帶赤黃色或は殆ど無色，300—1100×5—7.7 μ, 內腔細く或は殆どなし，下面外皮は殆ど無色にて上面外皮は暗色なり，髓層は殆ど無色にて，縱走する幅 1—2 μ, 菌絆を有する菌絲より成る。子實下層は幅 1.5—3 μ の表面に直角に密に並ぶ菌絲より成る。擔子柄は圓筒形，60—70×3.5—5 μ, 4 室，胞子は屈曲せる圓筒形，無色，8—13×3—5 μ. 可食。

所在及產地

ニワトコ (*Sambucus*) 其他の廣葉樹，稀に針葉樹の幹上　本州，九州，小笠原島—北南米．濠．亞(印．錫．爪．支．比．臺) 南洋

和名 アラゲキクラゲ (粗毛木耳) 〔澤田〕

疑問種

Hirneola picea

(LLOYD, Myc. Writ. 5. Lett. 63 : 9. 1916)

PILACRACEAE トメバリキン科

子實體は小形にて高さ 1—10 mm，有莖，頭狀，肉質或は膠質，頭部は莖端より放射狀に走れる菌絲よりなり，その菌絲端は弛く結合して外皮樣となる。擔子柄は放射菌絲の側邊に生じ，圓筒形にて眞直或は屈曲す，4 室，胞子は坐生或は一見小柄を有せずに生ず，胞子は 1 室，無色或は褐色。

本邦既知屬

トメバリキン屬 **Pilacre** (10)

Pilacre FR.
トメバリキン屬

FRIES, Syst. Orb. Veg. 1 : 364. 1825; Syst. Myc. 3 : 204. 1829—WEINMANN, Linnaea, 9 : 413. 1834.

Ecchyna FRIES, Nov. Fl. Suec. 5 : 80. 1819.

Phleogena LINK, Handb. Erkenn. Nutzb. Gew. 3 : 396. 1833—WEESE, Ber. Bot. Ges. 37 : 519. 1919.

? *Lasioderma* MONTAGNE, Fl. Alg. 1 : 399. 1846.

Botryochaete CORDA, Icon. Fung. 6 : 47. 1854.

菌體は頭狀，有莖にて，頭部は球形，乾ける粉狀を呈し，纖弱なる分岐せる放射狀菌絲より成る，莖は圓筒形にて中空ならず，子實層の外部に薄き密なる纖維質にて早失性の外皮を有す。擔子柄は圓筒形にて眞直或は屈曲し，4 室，菌絲の側邊に分散或は群生す。胞子は坐生或は甚だ短き小柄端に生じ，楕圓形或は類球形，平滑，淡色なり，樹上生．

(本屬名は pila (球) creo (生ずる) より出づ)

基準種　*P. faginea* (FR.) BERK. et BR.

Pilacre faginea (FR.) BERK. et BR.
トメバリキン

BERKELEY & BROOME, Ann. Mag. Nat. Hist. II. 5 : 365, *pl. 11, f. 5*, 1850—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 356. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fung. 2 : 625, *f. 295.* 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 14 : 8, *pl. 12, f. 16.* 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 4 : 580. 1886—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 48. 1892—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 5. 1912—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5) : 910, *f. 4.* 1914.

Onigena faginea FR. Symb. Gast. 25. 1818; Syst. Myc. 3 : 209. 1829.

Onigena decorticata SCHW. Syn. Fung. Carol. 65 : 1822—FRIES, Syst. Myc. 3 : 209. 1829.

Phleogena faginea LINK, Handb. Erkenn. Nutzb. Gew. 3 : 396. 1833—WEESE, Ber. Deut. Bot. Ges. 37 : 519. 1919—SHEAR & DODGE, Jour. Agr. Res. 30 : 407, *pl. 1—2.* 1925.

(原，菌類研究，4 : 1. 1939; 日．菌．目．251. 1954)

Botryochaete faginea CORDA, Icon. Fung. 6 : 46, *pl. 9, f. 95.* 1854.

Ecchyna faginea FR. K. Vetensk. Akad. Förhandl. 14 : 151. 1857—QUÉLET, Enchir. Fung. 268. 1886—PATOUILLARD, Ess. Tax. 17, *f. 10.* 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 19. 1909; Hymen. Fr. 16. 1928—REA, Brit. Basid. 729. 1922.

Pilacre Petersii BERK. et CURT. Ann. Mag. Nat. Hist. III, 3 : 362. 1859—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 356. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 2 : 625. 1871; Handb. Austr. Fungi, 382. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 14 : 8, *pl. 12, f. 17.* 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 4 : 580. 1886—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7 : 27. *pl. 1—3.* 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 48. *f. 1.* 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 17. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 5, *pl. 13, f. 5—7.* 1910.



第 5 圖　トメバリキン *P. faginea* (LINDAU 氏圖より模寫)

群生，子實體頭部は種々なる大さを有し，徑約 1—5 mm，球形にて上部稍々壓低さる，帶白色にて褐色を帶び或は灘色を呈す，莖は長さ 1—3 mm，時にそれ以

上に及び，幅種々あり，頭部と同色，老時黒色となる，肉は褐色，粗なる綿絮狀なり，外皮は熟後破れて內部より胞子を出し粉狀を呈す。擔子柄は圓筒形にて4室，胞子は楕圓形或は類球形，平滑，無色，5—11×4—9，菌絲は幅3—4 μ，多數の菌絆を有す。

所在及産地

切株，樹皮上　北海道，本州—歐．北米．濠．亞（比）

和名　トメバリキン（留針菌）〔原〕

SEPTOBASIDIACEAE モンパキン科

菌體は種々變化し，多くは齎生物上に擴布し，乾きたる膏薬狀，紋羽狀或は海綿狀を呈す，僅少の種類に於て一様に堅緻なる質を有するものあるも多くは3層より成り，樹皮上に存する基層(subiculum)と子實層を生ずる上層との間に菌絲の直立せる束が柱狀をなしある層あり，菌絲は多くの隔膜を有し菌絆を有せず，菌絲上に擔子柄下嚢所謂擔子柄前細胞(probasidial cell) を生じ之れより擔子柄上嚢を生ず，下嚢の膜は無色なるを常とするも時に有色なり，又此細胞を有せざるものあり，擔子柄上嚢は橫隔にて4室，又は 1, 2, 3 室のものあり，眞直或は屈曲す。胞子は楕圓形にて往々屈曲し，無色，發芽前多數の隔膜を生ず。副胞子形を有するものあり，植物葉莖幹上に介殼蟲と共生或は之れに寄生す。

本邦既知屬

モンパキン屬 **Septobasidium** (11)

Septobasidium PAT. emend. COUCH
モンパキン屬

PATOUILLARD, Jour. Bot. 6:61. 1892—COUCH, Septobas. 67. 1938.

Gausapia FR. Syst. Orb. Veg. 302. 1825.

Glenospora BERKELEY et DESMAZIERES, Jour. Roy. Hort. Soc. 4 : 255. 1849.

Ordonia RACIBORSKI, Bull. Acad. Sci. Cracovie, 3 : 360. 1909.

Mohortia RACIBORSKI, Bull. Acad. Sci. Cracovie, 3 : 361. 1909.

科の性質と同じく，本科に屬する *Uredinella* は銹菌に類似し介殼蟲を入るる腔室を有せざるによりて區別さる。本屬のものは樹枝上に擴布し，數mmより 30cm 以上に至るものありて，外見地衣植物の如く，從來膏薬病菌と稱せり，然れ共 *Corticium* 屬に對し膏薬菌と稱するにより混亂を避くるため紋羽菌と稱するを可とすべし，子實體の色も種々あり，淡灰色，暗褐色，紫色或は殆ど黒色のものあり，常に介殼蟲に寄生或は共生するの特性を有し，蟲を包容する腔室を有するが爲めに基層と柱層と上層とを區別し得べく，更に上層に子實層を分ち得るものあり，擔子柄に上下嚢を區別し得るものと然らざるものとあり，從來下嚢を有するものを本屬とし，有せざるものを *Helicobasidium* となしたるも，一般的性質殊に介殼蟲との生態的關係によりて特に1屬とすることの妥當なるを認めらる。

（本屬名は septum（隔壁）basidium（擔子柄）より出づ）

基準種　*S. velutinum* PAT.

本邦既知種檢索表

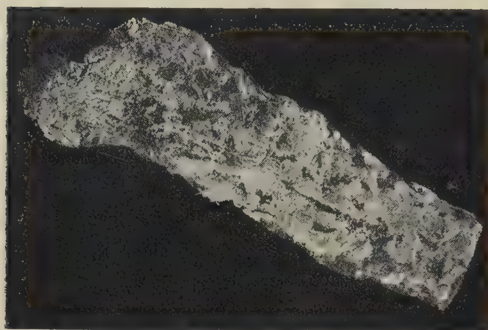
A. 擔子柄は4室
  a. 擔子柄は彎曲し，下嚢を有す。菌體は高き柱狀層を有し，表面普通淡烟灰色にて平滑。
    ハイイロモンパキン ***S. bogoriense*** (11)
  b. 擔子柄は眞直にて，下嚢なし，菌體は紫褐色乃至暗褐色にて緣邊部灰白色。
    クワモンパキン ***S. tanakae*** (13)

B. 擔子柄未詳
  a. 分生胞子あり，菌體は明かなる層を作らず，普通小褥狀，表面に小剛毛あり，濃褐色。
    ケモンパキン ***S. pilosum*** (13)
  b. 分生胞子なし，菌體に明かに柱狀層あり。
    α. 表面平滑或は絨毛あり，褐色にて緣邊部淡色。
    サクラノモンパキン ***S. prunophilum*** (14)
    β. 表面平滑，紺色にて緣邊部細房狀。
    コンイロモンパキン ***S. indigophorum*** (14)
    γ. 表面平滑，鈍黃色，緣邊部白色にて綿狀。
    ブラッシモンパキン
    S. mariani var. ***japonicum*** (14)

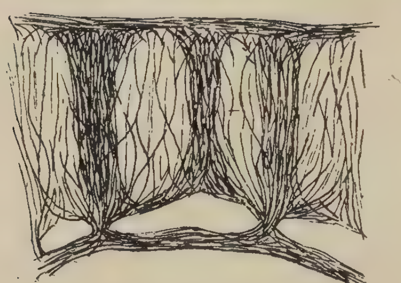
Septobasidium bogoriense PAT.
ハイイロモンパキン

PATOUILLARD, in P. HENNINGS, Monsunia, 1 : 138. 1900—SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 184. 1902—BOEDIJN & STEINMANN, Bull. Jard. Bot. Buitenzorg, III. 11:205, *f. 25—26, pl. 13, b–c.* 1931—COUCH, Septobasid. 213, *pl. 61, f. 3—10. pl.*

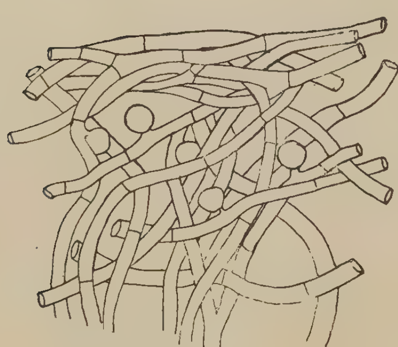
103, f. 4—7. pl. 104, f. 10—12. 1938.
（栃内，科學南洋，3：85, *f. 1—3.* 1940）



a



b



c



d

第6圖　ハイイロモンパキン *S. bogoriense*
a. 子實體　×2/3　b. 同斷面　×20
c. 同上層　×420（大谷氏）
d. 擔子柄及胞子（澤田氏）

Septobasidium Mompa RACIB. Bull. Acad. Sci. Cracovie, 3:355. 1909. (non *Helicobasidum Mompa* TAN.)—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 445. 1912. (LLOYD, Myc. Writ.5 : 722. 1917)
Septobasidium pedicellatum (non PAT.)
（吉野，植．雜．19:200. 1905—白井，日．菌．目．91. 1905; ed. 2. 609. 1917; ed. 3. 357. 1927—澤田，植．雜．26:307, *1 f.* 1912; 臺．菌．調．報．1：416, *pl. 11, f. 16—17.* 1919; 東北生物研究，1:96. 1950—安田，植．雜．28：477. 1914—藤黑，植．雜．28：482. 1914—三宅，蠶．試．報．1(5)：332. 1916—LLOYD, Myc. Writ. 5. Lett. 66:7. 1917—原，日．菌．目．333. 1954）

子實體は生枝幹上に生じ，背着して紋羽膏藥狀，烟灰色或は淡褐灰色乃至灰褐色にて普通淡菫の色彩を帶ぶ，表面子實層部は平滑　縁の境界明かなり，厚さ 600—1000 μ　普通3層より成る，基層は薄くして厚さ 20—100 μ　中層は稍々切株狀　或は時に細長の高き柱あり，各柱の間は約 100 μ, 或は 1 mm に及ぶ，各柱の幅は 50—100 μ，高さ 100—500 μ，弛き菌絲より成る，柱の中心部の菌絲は細微の網狀に不規則纒絡す，上層は厚さ種々異り 900 μ に及ぶものあり，肉の菌絲は寧ろ弛く組合い，上向し帶褐色にて幅 3—4 μ あり，子實層は厚さ種々ありて通常 40—85 μ　密に集まり纒絡せる褐色の菌絲より成る，この菌絲より無色，分岐せる不規則に曲り，時に渦巻となる幅約 2.1 μ の菌絲を生ず，子實層は前層より密なるがため容易に區別さる。擔子柄前細胞卽ち下嚢は球形或は類球形，徑 8—10 μ，時に 8.4×13 μ あり，擔子上嚢は4室，彎曲し，25—35×5.3—6 μ，基部に擔子下嚢卽ち前細胞は空胞となつて附着す，小柄は短く，胞子は楕圓形にて屈曲し，18×4 μ。介殼蟲と共に存す。

所在及産地

マグワ（*Morus alba* L.）カヂノキ（*Broussonetia papyrifera* Vent.）モモ（*Prunus persica* STOKES）スモモ（*P. salicina* LINDL.）等の枝幹上。

和名　ハイイロモンパキン（灰色紋羽菌）ハイイロコウヤクビョウキン（灰色膏藥病菌）〔澤田〕

本州，四國，九州—亞（臺．瓜．印．支）南洋．濠．北米．

〔因記〕從來本菌は本邦にて *Septobasidium pedicellatum* の名の下に *S. tanakae* と混同報告せられたり。*S. pedicellatum* は 2—3 mm の小形なる菌體にて大形なる下嚢（徑 16—25 μ），幅廣き屈曲せる擔子柄上嚢（40—50×12.6—13.8 μ），並に子實層に於ける細き菌絲（2.8—4.2 μ）等を有するを特徴とするものなり。

Septobasidium tanakae (MIYABE) BOED. et STEINM.

クワモンパキン

BOEDIJN & STEINMANN, Bull. Jard. Bot. Buitenzorg, III. 11 : 169. 1931.

Stypinella Tanakae MIYABE

（齋田，内外普通植物誌，下等植物編，315. 1910）

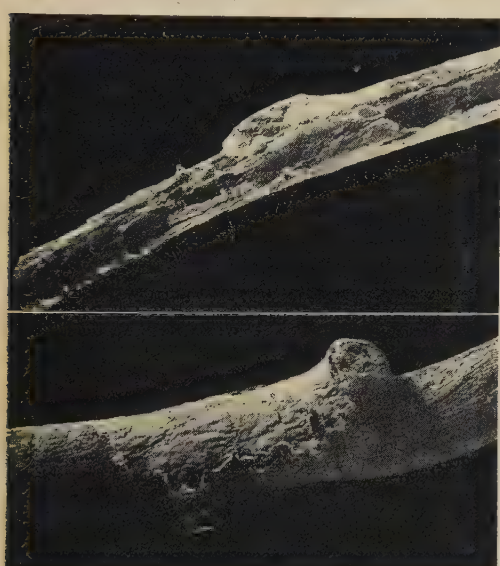
Stypinella Tanakae SAIDA

（德淵，植物學集說，308. 1911）

Helicobasidium Tanakae MIYABE in SAWADA, Bot. Mag. Tokyo, 26:104, *f. 2.* 1912; 臺．菌．調．報. 2:104. 1922—SACCARDO, Syll. Fung. 23:558.1925.

（松村，植．名鑑，1 : 146. 1904—澤田，植．雜. 26 : 307. 1912 ; 東北生物研究 1 : 95. 1950—三宅，蠶．試．報. 1(5): 333. 1916; 白井，日．菌．目. ed. 2. 269. 1917 ; ed. 3. 157. 1927)

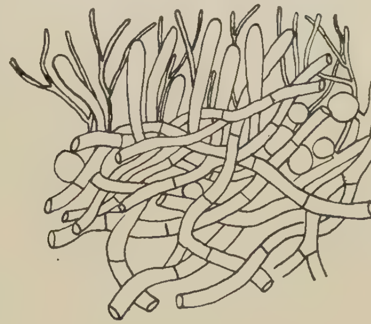
子實體は樹枝上に生じ，背着被膜狀，表面は帶淡紫褐色，栗褐色或は暗褐色，天鵞絨狀，初め圓形，後擴大し，時に 10 cm に至る，緣邊部は普通灰白色なり，厚さ約 1 mm にて，菌絲は褐色，有隔，分岐し，比較的厚膜，幅 3—5 μ にて錯綜す。上層の菌絲は稍々細くして盛に分岐し，ここに棍棒狀の囊體卽ち擔子柄を作る。擔子柄は初め無色單胞にて密に內



a



b



c



d

第 7 圖　クワモンパキン *S. tanakae*
a. 子實體　×2/3　b. 同斷面　×20　c. 同上層 ×600 （大谷氏）　d. 擔子柄及胞子 （澤田氏）

容物を含み，後紡錘形となる，49—65×8—9 μ, 2—4橫隔を生じ，小柄 35—63×3. 5—4 μ。胞子は鎌形にて少しく彎曲し，先端圓頭，基端尖り，平滑，無色，27—40×4—6 μ。被膜下に常に介殼蟲あり。

所在及產地　マグワ (*Morus alba* L.) ソメイヨシノ (*Prunus yedoensis* MATSUM.) モモ (*P. persica* STOKES) ウメ (*P. mume* S. et Z.) スモモ (*P. salicina* LINDL.) アンズ (*P. ansu* KOMAROV) ナシ (*Pyrus communis* L.) キリ (*Paulownia tomentosa* STEUDEL) 等の枝幹上，本州，四國，九州

和名　クワモンパキン（桑紋羽菌）〔澤田〕

Septobasidium pilosum BOED. et STEINM.

ケモンパキン

BOEDIJN & STEINMANN, Arch. Theecult. 4 : 48. 1930; Bull. Jard. Bot. Buitenzorg, III. 11 : 174, *f. 2—3.* 1931—COUCH, Jour. Elisha Mitch.

Sci. Soc. 51:73, *pl. 7, f. 8—9. pl. 18, f. 1—8.* 1935; Septobasid. 261, *pl. 18, f. 1—8. pl. 75, f. 8—9.* 1938.

子實體は樹枝上に背着，饅頭形，徑1—10 mm，高さ約 1.5 mm，表面濃褐色，微細の剛毛簇生す，緣は有限，肉は無層，厚さ約 0.8—1.5 mm，基部に寧ろ僅少の太き菌絲が樹皮上に擴がり之れより，暗色單條有隔の眞直なる菌絲を直立す，この菌絲の側邊，殊に基部に近く分生胞子の群體を生ず，この群體の各細胞は初め無色，後暗色厚膜となり，群體のまま脫落す，各細胞は徑 8—17 μ，各群の形は不規則なるも，略々球狀をなし，徑 25—26 μ。擔子柄下囊は短き有隔の菌絲の枝端に生じ，球形，往々細刺を有し，徑 12—17 μ，上囊未詳，介殼蟲と共に存す。

所在及產地

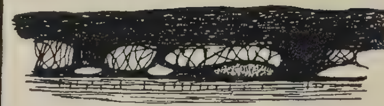
チヤ (*Thea sinensis* L.) の枝幹上

本州—亞(瓜)，北米.

和名 ケモンパキン (毛紋羽菌)



a



b



c

第 8 圖

コンイロモンパキン *S. indigophorum*

a. 子實體 ×2/3　b. 同斷面 ×14

c. 同上層 ×480　(大谷氏)

Septobasidium prunophilum Couch
サクラノモンパキン

Couch, Septobasid. 280, *pl. 48, f. 13—14.* 1938.

子實體は背着，小圓形の膜層或は小枝を包み，長さ 10—15 cm に及ぶ，表面は平滑，絨狀にて，稀に剝げ易し，色は汚栗褐色乃至黑褐色，緣邊淡色，有限にて廓大鏡下にては幾分總毛を認むることあり，肉は厚さ 450—700 μ，普通 500 μ 內外にて，明かに 4 層より成る，(1) 基層は厚さ約 40 μ，密にて暗色の幅 3.6—4 μ の菌絲より成る，(2) 基層より稍々分散せる柱を生ず，柱は高さ約 100 μ，幅 85—130 μ にて，幅 3.8—5 μ の菌絲より成る，古き部分にては柱間菌絲に充さる，(3) 柱の上に上層あり，厚さ 300—400 μ，稍々密なる菌絲より成る，各菌絲は幅 3.8—5 μ，僅かに分岐し，斜上し殆ど水平に擴がる，(4) 以上の菌絲の上に子實層を生ず，厚さ 40—80 μ，帶褐色を呈し，直立，平行せる密なる菌絲より成る，各菌絲は幅 3.6—4 μ あり，擔子柄上下囊未詳，介殼蟲に寄生す。

所在及產地

サクラ (*Prunus yedoensis* etc.) の枝幹上　本州

和名 サクラノモンパキン (櫻紋羽菌)

Septobasidium indigophorum Couch
コンイロモンパキン

Couch, Septobasid. 282, *pl. 48, f. 15.* 1938.

子實體は小圓形の膜層，徑 1—2 cm，表面は平滑，紺色，或は青黑色，緣は有限，微に覆瓦狀をなす，肉は厚さ 330—550 μ，3 層より成る，(1) 基層は甚だ薄く，普通厚さ 16—20 μ，時に 60 μ に及び，白色及び暗色の幅 3.8 μ 內外の菌絲より成る，(2) 基層より僅少の短き柱を生ず，柱は高さ約 75 μ，幅 90—150 μ，幅 3.8—4 μ の暗褐色の菌絲より成る，(3) 上層は厚さ 190—365 μ，暗褐色の幅 3.8—4 μ の弛き菌絲より成る。擔子柄は未詳，介殼蟲に寄生す。

所在及產地

サクラ (*Prunus*) クワ (*Morus*) の枝幹上　本州

和名 コンイロモンパキン (紺色紋羽菌)

〔**因記**〕 本菌は子實體の紺色或は青黑色なるにより容易に認めらる。

Septobasidium mariani Bres. var. japonicum Couch
ブラッシモンパキン

Couch, Septobasid. 137, *pl. 110, f. 7.* 1938.

本菌は擔子柄未詳なるがため眞の分類をなす能わざるも，其色並に外觀は *S. mariani* の晩秋に於けるものと全く同樣なるにより，暫く變種とされたるものなり。子實體の外緣は白色を呈し，約 1 mm の間は綿狀，之れより內の部は基層と平行なる層にて，水平に擴がる菌絲より成り板狀をなし，その板は往々反轉し蜂窩狀となり或は全く板を失つて中層の柱を露出す，柱は甚だ密に並列し，高さ 1—3 mm，幅 40—200 μ にて幅 3—4 μ の菌絲よりなる，柱の先端は刷毛狀に分岐し，上層に連る，上層は厚さ 100—

160 μ, 菌絲の先端は殆ど全く直立し，無色或は淡褐色，徑 3—4 μ, 分岐す，基層は厚さ 80—250 μ, 密なる褐色菌絲より成る。介殼蟲と共に存す。

所在及產地

エゴノキ(*Styrax japonica* S. et Z.)の枝上　本州

和名　ブラッシモンパキン（刷毛紋羽菌）

Tremellales　シロキクラゲ目

擔子柄が縱隔によつて分割さるる菌はすべて本目に屬するにより，其子實體の形は多種多樣なり，卽ち痂屑狀，殼皮狀，球塊狀，葉狀，頭狀等ありて，子實層部の表面も平滑，襞，蜂窩狀，更にハリタケの如き齒牙狀突起を有するもの等あり，其質は濕時吸水して膠質蒟蒻狀なるもの多く，稍々革質，蠟質等あり，乾時角質となる。色は白，黃，褐色或は殆ど黑色のものあり，菌體の全面或はその一部に子實層を生ず，子實層は初めより露出するもの或は外皮に覆わるるものあり，擔子柄は菌絲端に生じ，球形或は長形にて十字形に交わる縱隔により4室或は2室に分たれ　稀に擔子柄鎖生し斜隔を生ずるものあり，初め幼擔子柄は2核を存し，之れが癒合せる後2回分裂す，紡錘絲は橫性 (chiastbasidial) なり，擔子柄各室の頂部管狀に伸長し，埋在せる膠層の表面に達す，この管は上囊と認むるや否やに就き異論あり，先端に腎臟形或は長形，1室の胞子を着く，胞子は屢々發芽して第二次胞子を作り，或は其表面に多數の分生胞子を芽生す，但し好適條件にては菌絲を生じて分生胞子を作る。普通腐木上に生ず。

本邦旣知科

シロキクラゲ科 Tremellaceae (15)

Tremellaceae　シロキクラゲ科

子實體は膠質，蠟質にて，多少乾燥し纖維質のものあり，形は種々ありて，扁平，褥形，裂片狀或は傘形等をなし，子實層は露出し，その表面は平滑或は腦狀襞あり，更に蜂窩狀或は齒牙狀突起を有するものあり，擔子柄は菌絲端に孤生し，圓形或は多少棍棒形にて，縱隔によつて4室となるを常型とするも3室或は2室のものあり，各室の頂部より多少長き管部を伸長し，先端に小柄を着け胞子を着く，菌絆は多くの種に於て二次菌絲卽ち双核時代のものに存在す。

〔**因記**〕本目には本科の外 *Sirobasidiaceae*（ジュズタンシキン科）及 *Hyaloriaceae*（スイショウキン科）等あり，前者は擔子柄が鎖狀をなし，各室は斜隔或は縱隔によりて2或は4室となるもの，後者は子實體が被實にて子實層は皮膜に被われ，有莖頭狀のものなり，此等兩科に屬する菌は未だ本邦に產するを知られず。

本邦旣知屬檢索表

A. 子實體の表面は平滑にて襞を生ずるものあるもシワタケ (*Merulius*) の如き孔窩或はハリタケの如き齒牙狀突起を有せず，無莖

a. 子實體は着生物上に廣く擴布し定形なし。

α. 綿絮狀膜質乃至膠狀革質，全面に刺を有す。

オロシタケ屬 **Heterochaete** (16)

β. 絨狀，後蠟質乃至肉質，刺なく，帶白色。

ロウタケ屬 **Sebacina** (16)

b. 子實體は定形

α. 子實體は球形，塊莖狀，洋獨樂形にて屢々腦狀の襞を作り，更に耳朶狀又は花瓣狀をなす。

I. 子實體は暗色，表面に乳頭狀疣あり，分生胞子は鉉形。

ヒメキクラゲ屬 **Exidia** (18)

II. 子實體は多くは鮮色或は淡色，表面に襞あり，分生胞子は鉉形ならず。

1. 子實體表面に剛刺なし。

甲. 子實體全部同質

シロキクラゲ屬 **Tremella** (20)

乙. 子實體は2層より成る。

ニカワタケ屬 **Naematelia** (27)

2. 子實體表面に剛刺あり

トゲシロキクラゲ屬**Nakaiomyces** (27)

β. 子實體はホウキタケの如く，棒形或は珊瑚狀

ニカワツノタケ屬 **Holtermannia** (28)

γ. 子實體は不完全なる漏斗形をなし，子實層は下位にて平滑或は襞あり。

ニカワジョウゴタケ屬 **Phlogiotis** (29)

B. 子實層面にハリタケの如き齒牙狀突起あり，子實體は傘形にて有莖或は半圓形

ニカワハリタケ屬 **Tremellodon** (30)

Heterochaete PAT.

オロシタケ屬

PATOUILLARD, Bull. Soc. Myc. Fr. 8:120. 1892; Ess. Tax. 25. 1900.

子實體は綿絮膜質或は膠狀革質，全面有刺，刺上には胞子を作らず，擔子柄は卵球形，十字形に縱裂し，2—4 上囊（小柄）を有す。胞子は無色，眞直或は屈曲，發芽管上に 1 分生胞子を着く。

（本屬名は heteros（異なる）chaete（刺）より出づ）

基準種 *H. andina* PAT.

本邦既知種檢索表

A. 淡黃赤色，小刺長し

オロシタケ ***H. tenuicula*** (16)

B. 灰褐或は灰藁色，小刺短し

ニカワウロコタケモドキ

H. ogasawarasimensis (16)

Heterochaete tenuicula (LÉV.) PAT.

オロシタケ

PATOUILLARD, Bull. Soc. Myc. FR. 10:76. 1894; Ess. Tax. 26. 1900.

Hydnum tenuiculum LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 5:145, 1846—SACCARDO, Syll. Fung. 6:461. 1888.

Bonia papyrina PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 8: 48. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 11:123. 1895.

Mycobonia papyrina

（千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 29. 1952）

子實體は背着，薄く，膜狀紙質，容易に基物より剝離す，緣は全緣，銳く，反轉す，淡黃赤色，幅 8—15 cm に擴布し，長さ幅の 1—4 倍に及ぶ。子實層面は平滑にて，規則正しく刺を散生す，刺は菌絲の集結より成り，圓筒形，鈍頭，褐色，300×3—40 μ，肉は革質，帶黃色，密なる層をなし，更に密なる部分より刺を生ず，囊狀體は無色，薄膜，先端鈍頭，幅 8—10 μ，子實層より 15—20 μ 抽出す。擔子柄は縱裂し，4 室，20×10—14 μ。

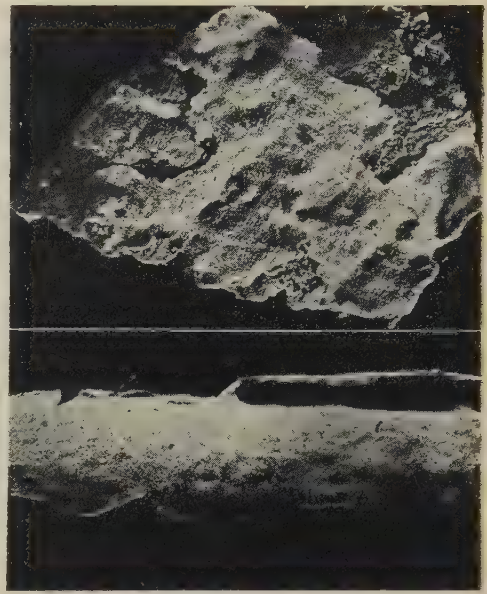
所在及產地

廣葉樹枯枝上　　　北海道一歪(爪)

和名 オロシタケ（擂碎板茸）〔千葉及寺本〕

Heterochaete ogasawarasimensis S. ITO et IMAI

ニカワウロコタケモドキ



第 9 圖 ニカワウロコタケモドキ *H. ogasawarasimensis* 子實體 ×2 （大谷氏）

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 133. 1940.

子實體は背着，廣く擴布，固着し，革質，薄殼皮狀，徑 3 cm，互に癒合して長さ 14 cm に及ぶ，時に緣邊僅か剝離し，反轉す，反轉上面は灰藁色，平滑，環溝あり，子實層は乾燥，灰褐色或は灰藁色，稍々波曲，小刺或は小粒を密生す，緣邊は類藁色，平滑，廓大鏡下にて綿狀房毛あり，小刺は剛直，厚く，類圓筒形，先端鈍頭或は稍々頭狀，黃褐色，150—180×40—60 μ。囊狀體は長尖頭或は銳頭，無色，35—50×7.5—10 μ，擔子柄は楕圓形或は類圓壔形，十字形に縱裂し，無色，約 15×10 μ，胞子は楕圓形或は類圓筒形，1 側壓邊され，無色，12.5—15×5 μ。

所在及產地

マルバナワシログミ (*Elaeagnus rotundata* NAKAI) の枝幹上　　　小笠原島

和名 ニカワウロコタケモドキ（擬膠鱗茸）〔今井〕

Sebacina TUL.

ロウタケ屬

TULASNE, Ann. Sci. Nat. V. 15 : 225. 1872.

Soppitella MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:106. 1892. pr. p.

子實體は初め毛氈狀にて後蠟質乃至肉質となり，遂に堅き破片となる，一定の形なく廣く擴布し殼皮となる。子實層は體の表面を蔽い，平滑，擔子柄は

縦隔により4室となり,長き小柄生じ,先端に圓筒形,兩端圓形,無色なる胞子を着く。副胞子形としては殼皮上に單條の擔子梗を生じ，その先端纖形に分れ之れに1箇或は多くの長卵形,無色の分生胞子を着く。（本屬名は sebum（脂肪）より出づ）

基準種　*S. incrustans* PERS.

本邦既知種検索表

A. 地上,蘚類或は落枝を蔽うて不正形の被膜狀をなす。　ロウタケ ***S. incrustans*** (17)

B. コフキタケの子實層面に枝狀纖維となり擴布す。イトタケ ***S. dendroidea*** (17)

Sebacina incrustans (PERS.) TUL.

ロウタケ

TULASNE, Ann. Sci. Nat. V. 15:225, *pl. 10, f. 6—10.* 1872—KARSTEN, Hattsv. 2 : 201. 1882—QUÉLET, Enchir. Fung. 230. 1886—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7:103, *pl. 6, f. 22—26.* 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 391. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 24. 1900—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 913, *f. 5*(p. 918). 1914—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1286. 1916—REA, Brit. Basid. 737. 1922.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 31:736. 1902—松村, 植. 名鑑, 1:173. 1904—白井, 日. 菌. 目. 91. 1905; ed. 2. 609. 1917; ed. 3. 357. 1927—安田, 植. 雜. 34 : 295. 1920—小林, 日. 隱. 植. 圖. 369, *pl. 175, f. 1—3.* 1939—原, 日. 菌. 目. 332. 1954)

Clavaria laciniata BULL. Champ. Fr. 208, *pl. 415, f. 1.* 1788—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 158.* 1799—DC. Fl. Fr. 2 : 102. 1815.

Corticium incrustans PERS. Obs. Myc. 1 : 39. 1796.

Merisma cristatum PERS. Comm. Fung. Clav. 96. 1797; Syn. Meth. Fung. 583. 1801.

Merisma serratum PERS. Comm. Fung. Clav. 106, *pl. 4, f. 4, 7.* 1797; Syn. Meth. Fung. 583. 1801; Myc. Eur. 1: 156, 159. 1821.

Thelephora incrustans PERS. Syn. Meth. Fung. 577. 1801—FRIES, Syst. Myc. 1:448. 1821; Elench. Fung. 1 : 214. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 170. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:331. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 259. 1867.

Thelephora sebacea PERS. Syn. Meth. Fung. 577. 1801; Myc. Eur. 1 : 135. 1822—NEES, Syst. Pilze Schwam. 240, *pl. 34, f. 256 B.* 1817—FRIES, Epicr. Myc. 542. 1838; Hymen. Eur. 637. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. XVII, *pl. 17, f. 6.* 1860—FUCKEL, Symb. Myc. 29. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:314. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 301. 1872—GILLET, Champ. Fr. 745. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 305. 1876—WINTER, Pilze 1 : 347. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 540. 1888—W. G. SMITH, Brit. Basid. 402. 1908.

Thelephora cristata FR. Syst. Myc. 1:434. 1821; Elench. Fung. 1:168. 1828; Epicr. Myc. 539. 1838; Hymen. Eur. 637. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 164. 1836; Outl. Brit. Fung. 268. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:313. 1871; Handb. Austr. Fungi, 180. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 301. 1872; Enchir. Fung. 204. 1886—GILLET, Champ. Fr. 745. 1874—WINTER, Pilze 1:347. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:539. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1141. 1916—SCHROETER, Pilze, Schles. 1 : 431. 1888—W. G. SMITH, Brit. Basid. 402. 1908.

Corticium sebaceum MASS. Jour. Linn. Soc. 27: 127. 1891; Brit. Fung. Fl. 1:121. 1892—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 193. 1892.

Soppitiella sebacea MASS. Brit. Fung. Fl. 1:106. 1892.

Soppitiella cristata MASS. Brit. Fung. Fl. 1:107, *f. 18—19* (p. 97). 1892.

Sebacina laciniata BRES. Ann. Myc. 1 : 116. 1903; Icon. Myc. 23 : *pl. 1123.* 1932—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 25. 1909 ; Hymen. Fr. 39. 1928—PILÁT, Ann. Myc. 38:63. 1940.

子實體は着生物上に扁平に擴がり，形1定せずして，不規則なる膜狀をなし，徑 20 cm に及ぶものあり，時に塊莖狀又は鐘乳石の如き形となり先端幾分針狀或は房狀，幼時乳白色にて蠟狀肉質，緣は屢々不規則にて綿屑狀なり，熟時褐色或は暗褐色となり堅くして脆し，葉莖等を被覆するが爲に表面凹凸あり，厚さ1様ならず，肉は類白色，蠟質，後革質，堅緻なり。子實層は上面に生じ，平坦，粉狀，擔子柄下囊は球形乃至卵形，無色，16—18×8—12 μ，4縦裂す，上囊（小柄）は長さ 25—35 μ に至る。胞子は長楕圓形，屈曲，無色，平滑，10—12×6—7 μ。幼時子實體表面に擔子梗を絨毛狀に生ず，擔子梗は先端纖形に分岐し 1—3 個の分生胞子を坐生す，分生胞子は卵形，平滑，無色，10—12×3—4 μ。

所在及産地

地上，蘚類，草間，落枝上

北海道，本州—歐. 北米. 亞（支）

和名　ロウタケ（蠟茸）〔安田〕

Sebacina dendroidea (BERK. et CURT.) LLOYD

イトタケ

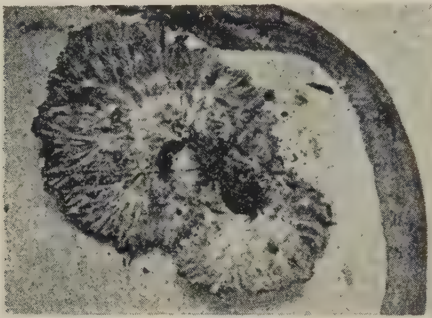
LLOYD, Myc. Writ. 4:538, *f. 742.* 1915; 5:583, *f. 824.* 1916; STEVENSON & CASH, New Fung.

Names Lloyd, 33. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61:6. 1916—安田, 植. 雑. 33 : 16. 1919—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 357. 1927—原, 日. 菌. 目. 332. 1954)

Hymenochaete dendroidea BERK. et CURT. Jour. Linn. Soc. 14 : 69. 1873.

Thelephora dendroidea COOKE, Grev. 8 : 150. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6 ; 543. 1888.



第10圖 イトタケ *S. dendroidea*
(LLOYD 氏による)

コフキタケの子實層面に乳白色の被膜となり，其面に枝狀に分岐したる軟き纖維を生ず，その纖維の長さ 1cm 內外にて，胞子未詳なり，本菌はその所屬性質等未知のものなるが，今假りに LLOYD氏の名を附して，將來の硏究を待つこととせり。

所在及產地

コフキタケ (*Elfvingia applanata*) の子實層面　本州一亞(錫)

和名 イトタケ (絲茸)〔安田〕

Exidia FR.

ヒメキクラゲ屬

FRIES, Syst. Myc. 2. 220. 1823.

子實體は膠質，柔軟，半透明にて，球形，塊莖狀，洋獨樂形或は不正形，普通基部の一部にて着生物に附着し，其表面屢々腦漿狀の襞を有し，乳頭狀の疣を存す。子實層は菌體の全面或は一部に生ず。擔子柄は縱隔により4室となり，胞子は圓筒形にて僅に屈曲して腎臟形となり，無色，發芽前に横隔を生じ，各室より短き菌絲を出し其先端に鉤形の分生胞子を着く。(本屬名は exidio (流出) より出づ)

基準種 *E. glandulosa* (BULL.) FR.

本邦既知種檢索表

A. 子實層は兩面に存し，子實體は褥形，乾葡萄狀。
　タマキクラゲ ***E. uva-passa*** (18)

B. 子實層は上面に存す。

a. 乾時白色の密疣を存す，子實體は扁平波狀。
　ツブキクラゲ ***E. japonica*** (18)

b. 乾時疣は同色にて目立たず。

α. 子實體上面に圓き，多くは緣ある子實層あり，洋獨樂形。

I. 子實體は初め黃褐色，後暗色となる。
　E. recisa (19)

II. 子實體は初めより帶黑色。
　キツネノコンニヤク ***E. truncata*** (19)

β. 子實體上面の子實層に緣なし，子實體球形或は鏡玉形，黑色
　ヒメキクラゲ ***E. glandulosa*** (20)

Exidia uva-passa LLOYD.

タマキクラゲ

LLOYD, Myc. Writ. 5:774, *f. 1166*. 1918; 6: 898, *f. 1577*. 1919; 7 : 1345. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 32. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 5 Lett. 67:7. 1918; Lett. 68:7. 1918—安田, 植. 雑. 35 : (47). 1921—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 134. 1927—原, 日. 菌. 目. 121. 1954)

子實體は濕時壓低されたる褥形にて，表面褐色を呈し，皺多く，恰も乾葡萄の如き觀を呈す，肉は無色，膠質にて，表面の子實層部は褐色を呈す。子實層は子實體の兩面に存す，擔子柄は球形，徑約 12 μ，縱隔にて4室に分れ，褐色の外層に埋まる。胞子は無色，圓筒形にて屈曲す。

所在及產地

樹枝 (コナラ (*Quercus*) 等) 上　本州一亞(臺)

和名 タマキクラゲ (玉木耳)〔安田〕

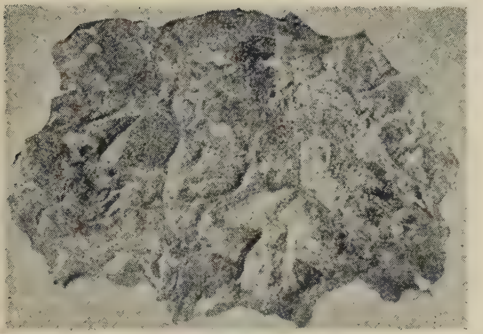
Exidia japonica LLOYD

ツブキクラゲ

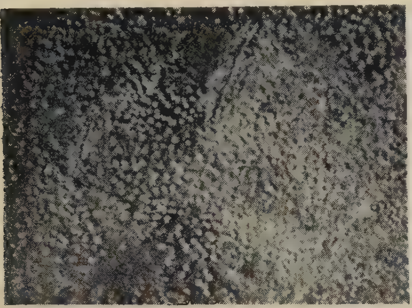
LLOYD, Myc. Writ. 5:599, *f. 845—847*. 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 32. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 576. 1925. (ut YASUDA)

(安田, 植. 雑. 31 : 197. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 134. 1927—KILLERMANN, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl.—fam. ed. 2. 6:115. 1928—原, 日. 菌. 目. 121. 1954)

子實體は扁平にて不規則に波曲す，暗色にて殆ど黑色なり，濕時厚さ 2—3 mm，乾時厚さ 1 mm 以下の薄き皺よりなる膜となる，肉は無色にて僅少の暗色菌絲を混じ，その菌絲は密となりて薄き表層を作る。表面は突出せる菌絲の結束せる疣を以て蔽わる。この疣は濕時黑色，乾時白色なり，擔子柄は 7—8 × 8—10 μ，縱隔によりて4室となり暗色の表層に埋ま



a



b

第11圖　ツブキクラゲ *E. japonica*
a. 子實體　b. 同廓大 (LLOYD 氏による)

る。胞子不明。

所在及產地

樹皮上　本州

和名 ツブキクラゲ (粒木耳)〔安田〕

Exidia recisa (DITM.) FR.

FRIES, Syst. Myc. 2 : 223. 1823; Elench. Fung. 2:34. 1828; Epicr. Myc. 590. 1838; Hymen. Eur. 693. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 218. 1836; Outl. Brit. Fung. 289. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 313. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 348, *f. 96.* 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:314. 1872; Elench. Fung. 229. 1886—GILLET, Champ. Fr. 774. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:348. 1876—WINTER, Pilze, 1:284. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 772. 1888—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7:92, *pl. 5, f. 19.* 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:59, *f. 8* (p. 56). 1892; Brit. Fungi, 446. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 24. 1900—W.G. SMITH, Brit. Basid. 448. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 22. 1909; Hymen. Fr. 29. 1928—REA, Brit. Basid. 734. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 33 : *pl. 1110, f. 2.* 1932.

(LLOYD, Myc. Writ. 6 : 980. 1920)

Tremella sagarum RETZ, Vet. Ak. Handl. 240. 1767.

Peziza gelatinosa BULL. Champ. Fr. 1 : 239. *pl. 460, f. 2.* 1789.

Tremella recisa DITM. in STURM, Deut. Fl. 1:27, *pl. 13.* 1813—NEES, Syst. Pilze Schw. 156, *f. 141.* 1817—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 593. 1821—PERSOON, Myc. Eur. 1 : 103. 1822.

Tremella salicum PERS. Myc. Eur. 1:102. 1822.

Exidia gelatinosa SCHROET. Pilze Schles. 1 : 391. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3. Pilze 2(1): 9. 1912—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 914. 1914.

Exidia sagarum SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1274. 1916.

子實體は洋獨樂形或は半球形, 徑 0.5—2cm, 有莖, 初め黃褐色, 後暗褐色となる, 乾時光澤ある黑色を呈す, 外面粒狀, 上面扁平或は鉢狀に凹み, 通常著しき緣を有し, 幾分下屈す, 肉は同色, 膠質, 柔軟半透明なり。子實層は上面を蔽い, 平滑にて後疣狀となる。胞子は圓筒形にて兩端圓形, 屈曲し, 15—18×4—5μ, 發芽前4室となる。分生胞子は鉤狀をなす。

所在及產地

樹枝上　北海道, 本州—歐

和名

Exidia truncata FR.

キツネノコンニヤク

FRIES, Syst. Myc. 2 : 224. 1823; Epicr. Myc. 591. 1838; Hymen. Eur. 693. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:313. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 29. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 314. 1872; Enchir. Fung. 229. 1886—GILLET, Champ. Fr. 774. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 348. 1876—WINTER, Pilze, 1:284. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 392. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 772. 1888—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7 : 92, *pl. 5, f. 18.* 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 24. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:115. 1903; Icon. Myc. 33: *pl. 1111, f. 1.* 1932—W. G. SMITH, Brit. Basid. 447. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Soc. Fr. 25: 23. 1909; Hymen. Fr. 30. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 9. 1912—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 915, *f. 7* (p. 918). 1914—REA, Brit. Basid. 734. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 33 : *pl. 1111, f. 1.* 1932.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32:37. 1903—松村, 植. 名鑑, 1:141. 1904—白井, 日. 菌. 目. 33. 1905; ed. 2. 229. 1917; ed. 3. 134. 1927—小林, 日. 隱. 植. 圖. 367, *pl. 174, f. 7.* 1939—原, 日. 菌. 目. 121. 1954)

子實體は半球形, 洋獨樂形或は鏡玉形, 有莖, 徑



第12圖 キツネノコンニヤク *E. truncata*
子實體 ×7/12 (小林氏原圖より模寫)

2.5—6cm, 軟膠質, 黑色, 乾時光澤ある黑色となる, 基部は黑色の皺襞及び隆起を有す, 肉は淡黑色にて半透明, 子實層部は扁平或は僅か凹凸あり, 小形の疣を散在す。擔子柄は卵形, 15—20×10—11 μ, 胞子は腎臟形, 無色, 平滑, 14—18×4—7 μ。

所在及產地 廣葉樹枯枝上 本州—歐

和名 キツネノコンニヤク (狐崑蒻)

Exidia glandulosa (BULL.) FR.

ヒメキクラゲ

FRIES, Syst. Myc. 2:224. 1823; Elench. Fung. 2:34. 1828; Epicr. Myc. 591. 1838; Hymen. Eur. 694. 1874—BERKELEY, Engl. Fr. 5(2): 218. 1836; Outl. Brit. Fung. 289. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 313. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:349, *f. 95.* 1871; Handb. Austr. Fungi, 207, *f. 91.* 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 314. 1872; Enchir. Fung. 229. 1886—GILLET, Champ. Fr. 775, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:349. 1876—WINTER, Pilze, 1:285. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 773. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1:392.1888—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7:88, *pl. 5, f. 2—4.* 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 58, *f. 9* (p. 56). 1892; Brit. Fungi, 446, *pl. 30, f. 9.* 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 24. 1900—ATKINSON, Mushr. 206. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 448, *f. 114.* 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 23. 1909; Hymen. Fr. 31. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 11, *pl. 14, f. 4.* 1912—BRESADOLA, Icon. Myc. 33 : *pl. 1112.* 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 332. 1933.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53:8. 1914; 6:980. 1920; 7: 1126. 1922—安田, 植. 雜. 29 : 34. 1915—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi. *pl. 15, f. 8—9.* 1915—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 229. 1917; ed. 3. 133. 1927—原, 日. 菌. 目. 121. 1954)

Tremella arborea HUDS. Fl. Angl. 2 : 563. 1778.

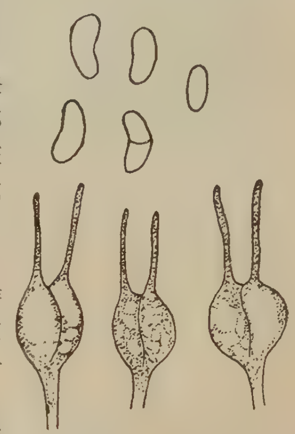
Tremella atra MUELL. Fl. Dan. 99, *pl. 884.* 1782.

Tremella glandulosa BULL. Champ. Fr. 220, *pl. 420, f. 1.* 1788—DC. Fl. Fr. 2 : 91. 1815.

Tremella spiculosa PERS. Obs. Myc. 2:99. 1799; Syn. Meth. Fung. 624. 1801.

Auricularia glandulosa WAHLENB. Fl. Suec. 2 : 994. 1826.

Exidia arborea SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1275. 1916.



第13圖 ヒメキクラゲ
E. glandulosa 擔子柄及胞子
×680 (大谷氏)

子實體は球形或は鏡玉形, 幾分扁平, 表面波曲し, 狹き基部にて着生す, 初め灰色, 後帶黑色, 孤生或は群生, 徑 3—6cm, 乾時紫色の光澤ある殆ど平滑の皮を作る, 肉は黑色, 軟骨質にて半透明なり。子實層は上面を蔽い, 初め平滑にて後圓錐形の疣を散生し, 不明確の緣を有し, 子實體の下部は不規則なる皺襞ありて子實層なし。擔子柄は卵形, 15—21×9—11 μ, 胞子は圓筒形, 兩端圓くして屈曲す, 12—16×4—5 μ, 發芽前に 2 室となる。分生胞子は甚だ小形にて著しく屈曲し, 短き發芽管或は幼き菌絲端に生ず。

所在及產地

廣葉樹枯枝上 本州—歐. 北米. 亞 (西比)

和名 ヒメキクラゲ (姫木耳) 〔安田〕
クロキクラゲ (黑木耳) 〔川村〕

Tremella DILL. ex FR.

シロキクラゲ屬

DILLENIUS, Hist. Musc. 41. 1741—FRIES, Syst. Myc. 2 : 210. 1823.

子實體は膠質或は軟骨質にて乾時堅く屢々骨質と

なる，扁平のものあるも多くは球状，塊茎状を呈す，基部を以て着生し，表面に脳皺状の襞を有し，剛刺を有せず，體の全部同質にて層を作らず，子實層は體表全面に擴布し，擔子柄は型的にて，胞子は球形乃至楕圓形なり，分生胞子は菌絲端及び胞子發芽管上に生じ，球形或は卵形，芽生作用をなすを特徴とす。（本屬名は tremulus（震動）より出づ）

基準種　*T. frondosa* FR.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は葉狀にて各片は寧ろ薄くして堅緻なり，擔子柄は表面に近く整列し，稍々正しき子實層を作り，上嚢は短し（*Sparassoides*）– 子實體は橙黄色。

a. 胞子は球形或は類球形。

キンハナビラタケ **T. samoensis** (21)

b. 胞子は卵形，稀に類球形。

オガサワラキンハナビラタケ **T. boninensis** (21)

B. 子實體は着生物上に擴布，或は脳皺狀又は葉狀にて，各片は厚くして柔軟なり，擔子柄は正しき子實層を作らずして膠質物內に不等高に埋在し，從つて上嚢は長さ不等なり。（*Tremellella*）

a. 子實體は殼皮狀に着生物上に擴布す。（*Crustaceae*）

α. 枯幹，枯枝上に擴布し，表面平滑或は幾分波狀をなし，稍々粘質。

ネバリニカワタケ **T. viscosa** (22)

β. 地上に擴布し，蘚類に混在し，樹枝上に攀上し，捲縮或は不規則の小塊に分る。

ツチコンニヤク **T. incrustans** (22)

γ. 樹皮上に擴布し，葉狀片を生ず。

シロキクラゲモドキ **T. candida** (22)

b. 子實體は褥狀或は塊茎狀にて捩曲或は瘤を有す。（*Cerebrinae*）

α. 純白色

I. 菌類に寄生し，褥狀或は扁球形にて表面平滑。　**T. mycetophiloides** (22)

II. 褥形にて脳皺狀。

シロニカワタケ **T. pulvinalis** (23)

III. 塊茎狀にて僅かの襞あり。

クズノタマ **T. neofibulifera** (23)

β. 白色なるも純白ならず。

I. 薔薇色を帶び，有疣。**T. caulicola** (23)

II. 汚白色或は汚黄褐色にて短き葉狀片を有す。　**T. isabellina** (23)

γ. 猩紅色にて一部橙黄色或は白色。

T. flammea (23)

c. 子實體は葉狀或は角形（*Mesenteriformes*）

α. 橙黄色。

I. 初め塊茎狀，褶襞波狀にて，後葉狀となる。

コガネニカワタケ **T. mesenterica** (24)

II. 角形にて不規則に分岐し或は開張す。

キイロニカワタケ　**T. iduensis** (24)

β. 褐色。

I. 薄き葉狀にて叢生す，乾時褐色にて，吸水せば淡き帶紅鈍黄色となる。

T. roseo-tincta (24)

II. 多く連續せる裂片となり，褐色にて肉色を帶び，乾時紫褐色となる。

ハナビラニカワタケ **T. foliacea** (25)

γ. 黑色。クロハナビラニカワタケ

T. fimbriata (25)

δ. 白色。

I. 裂片は連續或は缺刻，縁邊は全縁或は波狀

シロキクラゲ **T. fuciformis** (26)

II. 裂片は密に集團となり角狀の突起を有す。

カタマリシロキクラゲ **F. corniculata** (26)

Tremella samoensis LLOYD

キンハナビラタケ

LLOYD, Myc. Writ. 5:875, *f. 1495—1496*; 7: 1117, *f. 2113*. 1922—TENG, Sinensia, 5:473. 1934—KOBAYASI, Sci. Rep. Bunrika, Daig. B.4:9, *f. 5*, *pl. 1*, *f. A*. 1939.

（原，日．菌．目．367. 1954）

子實體は坐生，徑 3—6 cm，不規則なる裂片となり花瓣狀或は幾分角狀となる，各片厚さ 1 mm に及び，時に堅緻，軟骨狀膠質，表面は橙黄色或は鈍黄色を呈し，平滑なり，縁邊波狀或は捩れ，乾時軟骨質，帶赤黄色となる。擔子柄は表層に並び，楕圓形乃至卵形，13—16—19×8—9.5 μ にて 4 分す，上嚢（小柄）は長さ 10 μ に及ぶ，胞子は球形或は類球形短柄を有す，平滑，殆ど無色，6.5—8.3 μ。

所在及產地

枯木上　　本州一亞（比・支）南洋

和名 キンハナビラタケ（金花瓣茸）〔小林〕

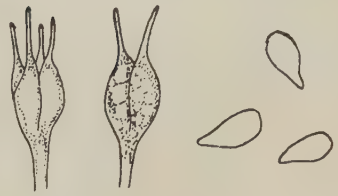
Tremella boninensis S. ITO et IMAI

オガサワラキンハナビラタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 133. 1940.

Tremella samoensis var. *boninensis* KOBAY.

Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 10, *f. 6—7*, *pl. 1*, *f. B-D*. 1939.



第 14 圖 オガサワラキンハナビラタケ *T. boninensis* 擔子柄及胞子 ×680 (大谷氏)

子實體は徑 5—10 cm, 或はそれ以上に及び, 裂片は大形, 不規則に凹凸波曲す, 縁邊は波狀, 厚さ 1 mm に達し, 堅緻, 軟骨狀膠質, 表面は淡橙黄色乃至純黄色なり, 乾時軟骨狀角質, 黄色, 擔子柄卵形或は洋梨形, 15.5—17.5×10.5—14 μ, 4 縱裂し, 上囊 (小柄) は 40—50×2.5—3 μ。胞子は卵形, 稀に類球形, 7—10×4.8—6.3 μ, 無色, 平滑。分生胞子は子實層內に混在し, 楕圓形或は類球形, 無色, 3.5—3.8×2—2.8 μ。前種に比して裂片大形, 胞子卵形なるによつて異る。

所在及產地

モクタチバナ (*Bladhia Sieboldii* (MIQ.) NAKAI) の枯木上 小笠原島

和名 オガサワラキンハナビラタケ (小笠原金花瓣茸) 〔小林〕

Tremella viscosa (SCHUM. ex Fr.) BERK.

ネバリニカワタケ

BERKELEY & BROOME, Ann. Mag. Nat. Hist. 13 : 227, *pl. 15*, *f. 4*. 1854—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 288. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 347. 1871; Handb. Austr. Fungi, 208. 1892—FRIES, Hymen. Eur. 691. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 228. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 785. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1284. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 395. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 62. 1892 ; Brit. Fungi, 448. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 22. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 14. 1912—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 919. 1914—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B.4 : 11. 1939.

(安田, 植. 雜. 33 : 34. 1919—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 395. 1927—原, 日. 菌. 目. 367. 1954)

Thelephora viscosa SCHUM. Fl. Saell. 2 : 397. 1803.

Exidia viscosa REA, Brit. Basid. 735. 1922.

子實體は扁平に擴布し, 徑 4—10 cm, 厚さ 1—2 mm, 膠質, 半透明, 表面少しく粘り, 白色を呈し, 緩波狀或は屢々有疣, 縁邊僅かに狹細し不規則なる波狀をなす, 肉は無色, 膠質, 透明にて, 幅 1.7—2.5 μ の絡れたる菌絲より成る。擔子柄は類球形或は卵形, 無色, 2—4 縱裂, 15—16.5×12.5—12.7 μ, 上囊 (小柄) は長さ 50—100 μ, 幅約 1.5 μ, 頂端に類卵形, 無色, 10—11.5—12.5×6.5—8.5 μ の胞子を着く。

所在及產地

枯枝上 本州—歐. 濠

和名 ネバリニカワタケ (粘膠茸) 〔安田〕

Tremella incrustans KOBAY.

ツチコンニヤク

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 12. 1939.

(原, 日. 菌. 目. 367. 1954)

子實體は地上に擴布反轉し, 後草木, 腐木, 蘚類等の上に攀上して擴がる, 白色, 膠質, 表面に不規則なる疣あり, 徑 3—10 cm, 厚さ 1—4 mm, 乾時軟骨狀膜となる, 屢々半球形或は褥形の部分に分る。擔子柄は洋梨形或は球形, 無色, 13.5—15×10—11.5—12.5 μ。胞子は卵形或は腎臟形, 9—11.5×4.5—7.5 μ。

所在及產地

地上及枯草木上 本州

和名 ツチコンニヤク (土崑蒻) 〔小林〕

Tremella candida LLOYD

シロキクラゲモドキ

LLOYD, Myc. Writ. 5 : 851, *f. 1425*. 1919; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 34. 1936 (non PERS. 1801)—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 12, *pl. 5*, *f. C*. 1939.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 69 : 10. 1919—原, 日. 菌. 目. 367. 1954)

子實體は扁平に擴布し, 長さ 10 cm 以上に及び, 稍々軟骨樣膠質なり, 白色, 表面著しく葉狀, 裂片細く, 不規則に波狀をなし, 高さ 2 cm に及ぶ, 擔子柄は卵形, 15—16×10.5—12.5 μ, 2—4 縱裂す。胞子は類球形, 短柄あり, 無色 7.7—10.5×6.3—7.7 μ。

所在及產地

枯幹上 本州

和名 シロキクラゲモドキ (擬白木耳) 〔小林〕

Tremella mycetophiloides KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 13. 1939.

(原, 日. 菌. 目. 367. 1954)

子實體は *Aleurodiscus* 菌の子實層に寄生し, 孤生或は群生し, 扁球形或は隆起又は擴布し, 膠狀肉質, 徑 0.1—1 mm, 多くは 0.2—0.5 mm, 表面白色,

平滑，肉組織は無色，半透明，厚さ約 300—350μ，無色の幅 2.8—3.5μ の菌絲が基部より放射狀に走る。擔子柄は扁球形或は球形，2—4 縱裂，徑 16.8—20μ，無色，上囊（小柄）は長さ 80μ に及び，幅 2μ。胞子は球形或は卵形，1 端尖り，無色，12.5—13×9.5—10μ。分生胞子は子實層中に混在し，卵形或は球形，無色，5.5—6.5—7×4.2—5—6.3μ。

所在及産地

シラビソ（*Abies veitchii* LIND.）の枯幹上に生ぜる *Aleurodiscus* 菌子實層上　本州

和名

Tremella pulvinalis KOBAY.

シロニカワタケ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 14, *f. 8*. 1939.

（原，日．菌．目．367. 1954）

子實體は膠質にて着生物上に擴布し，剝離し難し，徑 2.5cm に及ぶ，表面に脳漿狀凹凸ありて白色なり，肉組織は無色にて，菌絲は叉狀に分岐し，明かに菌絆を有し，幅 2.5—3μ あり，擔子柄は卵形或は楕圓形，無色，2—4 縱裂し，14—16×9—11μ。胞子は卵形或は楕圓形，1 端尖り，無色，7—10×4—6μ，1 油球あり。

所在及産地

枯木上蘚類間　本州

和名　シロニカワダケ（白膠茸）〔小林〕

Tremella neofibulifera KOBAY.

クズノタマ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 15, *pl. 2, f. A*. 1939.

（原，日．菌．目．367. 1954）

子實體は群生或は屢々叢生し，隆起し，徑 3—7 cm，多くは 4cm，高さ 2—4cm，緩脳漿狀凹凸又は廣片に分れ，白色，平滑，粉狀なり，肉組織は無色，半透明，柔膠質にて，菌絲は幅 2—3.5μ にて弛く走る。擔子柄は卵形，無色，13.2—15.5×9—10μ，2—4 縱裂す。胞子は卵形，無色，5.5—6—8.5×4.5—5—5.5μ。

所在及産地　枯幹上　本州

和名　クズノタマ（葛玉）〔小林〕

Tremella caulicola KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 15, *pl. 3, f. D*. 1939.

（原，日．菌．目．367. 1954）

子實體は半球形或は長褥形，0.7—2.5×0.3—1cm，高さ 8mm，膠質，表面は脳漿狀襞或は疣あり，帶紅白色或は殆ど白色，熟後僅かに粉狀を呈す，肉組織は無色，半透明，菌絲は幅 1.7—3.5μ あり。擔子柄は球形，2—4 縱裂し，10—14×12.5—15μ，上囊（小柄）は長さ 35—55μ，幅約 1.5μ。胞子は卵形，無色，7—7.7×5.5—6.3μ，發芽して長き菌絲を出す。分生胞子は子實層内に混在し，球形，無色，平滑，徑 4—5μ。

所在及産地

ヤマヨモギ（*Artemisia gigantea* KITAM.）の枯莖上　本州

和名

Tremella isabellina LLOYD

LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1357, *f. 3201*. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 36. 1936.

（LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1320. 1924—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 16. 1939—原，日．菌．目．367. 1954）

子實體は類球形，徑約 2.5cm，汚白色或は汚黄褐色，短き葉狀裂片を有す。擔子柄は球形，胞子は屈曲し，無色，10×5μ。

〔**因記**〕本種は本邦にて J.E.A. LEWIS の採集せしものにて LLOYD は前記の如き簡單なる記載を記せし後，次の如き記事を掲ぐ，即ち *Tremella* 屬と *Exidia* 屬との區別として，後屬が屈曲せる胞子を有するものとなさんとせしが，本種が屈曲せる胞子を有するを見，この企てを中止せり，又本種を水に霑せるとき *T. fuciformis* の有色種ならんと思いしも胞子の異なるにより，之れを新種とせりと。

Tremella flammea KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 16, *f. 9—10*. 1939.

（原，日．菌．目．367. 1954）

子實體は群着廣裂片狀或は不規則なる脳漿狀，徑 1—3cm，膠質，種々なる色を呈し，黄金緋，一部橙黄色にて，一部褪色して白色を呈す，平滑，僅に粉狀なり，肉組織は子實層部黄色，中部白色，菌絲は幅 2.8—4.2μ。擔子柄は楕圓形，黄色，11.2—12×9.5—10μ，偏心的に散在し順次成熟す。胞子は卵形，無色，1 端尖り，5—5.6×4.2—5μ，發芽して卵形，無色，2—2.8×1.5—2μ の分生胞子を生ず。

所在及産地

シイタケ榾木孔中　本州

和名

Tremella mesenterica RETZ ex FR.

コガネニカワタケ

RETZ, Vet. Ak. Handl. 249. 1769—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 622. 1801; Myc. Eur. 1:99. 1822—NEES, Syst. Pilze Schwäm. 157, *f. 142.* 1817—FRIES, Syst. Myc. 2 : 214. 1823; Epicr. Myc. 588. 1838; Hymen. Eur. 691. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5a(2): 216. 1836; Outl. Brit. Fung. 287. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 311. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:118. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 403. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:345. 1871; Handb. Austr. Fungi, 208, *f. 93.* 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 315. 1872; Enchir. Fung. 228. 1886—GILLET, Champ. Fr. 779, c. icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:346. 1876; Hattsv. 2 : 195. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 446. 1889—WINTER, Pilze, 1:284, *f. 1—3.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:783. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1281. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 396. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:61, *f. 14.* 1892; Brit. Fungi, 447. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 21, *f. 12, a–c, e.* 1900—W.G. SMITH, Brit. Basid. 450. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25:20. 1909; Hymen. Fr. 21. 1928—ROLLAND, Atl. Champ. 91, *pl. 105, n. 237.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 14, *pl. 14B, f. 2.* 1912—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 921, *f. 8.* 1914—REA, Brit. Basid. 730. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 23 : *pl. 1120, f. 1.* 1932—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 :331. 1935—NEUHOFF, Ark. Bot. 28 : 22. 1936—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 :17, *f. 11—12, pl. 3, f. A–C.* 1939.

(原, 日. 菌. 目. 367. 1954)

Elvella mesenterica SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl. 168, f. 4—6.* 1763.

Tremella chrysocoma BULL. Champ. Fr. *pl. 174.* 1783.

Tremella auriformis HOFFM. Veg. Crypt. 1:31, *pl. 6, f. 4.* 1787.

Tremella cerebrina BULL. Champ. Fr. 221, *pl. 386.* 1788—DC. Fl. Fr. 2 :92. 1815—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 216. 1836.

Gyraria mesenterica S.F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 593. 1821.

Tremella lutescens BREF. Unters. Gesam. Mykol. 7 : 109, *pl. 7, f. 1—2.* 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 69 : 10. 1919)

子實體は初め扁平腦漿狀或は瘤狀, 徑0.5—1.5cm, 軟骨狀膠質, 表面は屈曲凹凸し或は粗糙, 橙黄色なり, 球形或は類球形の徑 1.5—2 μ の分生胞子に蔽われ, 後葉狀或は 3—5 裂片となり, 各片徑 2—7 cm となる, 橙黄色或は黄金色, 膠質, 肉組織は黄金色, 半透明なり, 子實層は厚さ 100—150 μ, 中に分生胞子を存し或は之れを缺く。擔子柄は球形, 4縦裂し, 16—25×14—20 μ, 上嚢(小柄)は長さ 160 μ に及び, 幅 2—3.5 μ。胞子は球形或は洋梨形, 無色, 11—14—15×7.5—8.5—12 μ, 發芽して頂點より菌絲を生じ或は屢々球形, 無色, 徑 4—5 μ の分生胞子を生ず。



第15圖 コガネニカワタケ *T. mesenterica* ×1.3 (小林氏原圖より模寫)

所在及産地

闊葉樹の枯木上

北海道, 本州一汎布

和名 コガネニカワタケ (黄金膠茸) 〔安田〕

ヒヤクヒロタケ (百尋茸) 〔三村〕

Tremella iduensis KOBAY.

キイロニカワタケ

KOBAYASI. Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 19, *f. 13—14, pl. 2, f. B.* 1939.

(原, 日. 菌. 目. 367. 1954—今關及土岐, 林. 試. 研. 報. 67 : 22. 1954)

子實體は叢生, 膠質, 初め角狀圓筒形, 無枝, 時に分岐す, 後先端擴大し, 熟後 2—5 角を生じ或は時に2回分岐又は厚葉狀となり, 幅及高さ1—2.5cm, 內屈す, 緣邊厚く角狀となる, 初め橙黄色, 次に硫黄色, 熟後橙色となる, 肉組織は黄色, 半透明なり。擔子柄は楕圓形, 黄色, 4縦裂し, 17—18×12—13 μ, 上嚢(小柄)は同色, 幅約 3 μ, 胞子は卵形或は球形, 殆ど無色, 8.5—9.5×7.7—8.5 μ。

所在及産地

シイ (*Shiia sieboldi* MAKINO) の落枝上　本州

和名 キイロニカワタケ(黄色膠茸)〔今關及土岐〕

Tremella roseo-tincta LLOYD

LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1229, *f. 2555.* 1923; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 36. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1188. 1923—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B.4:20. 1939—原, 日. 菌. 目. 367. 1954)

子實體は薄葉狀, 叢生す, 吸水時は淡き汚桃色に

て乾時暗褐色を呈す，子實層は兩面にありて平滑，同色，肉は薄く，無色，中層膠質，子實層部は密にて淡色なり，擔子柄は長形にて縱裂す。胞子は球形，無色，1端尖り，多くは不透明なるも，內に大油球を存して透明のものあり。

所在及産地

和名

〔**因記**〕本種は本邦にて J.E.A. LEWIS の採集せるものにて LLOYD はこの乾燥標本を受取り，肉眼的には *T. foliacea* (*T. frondosa*) と思いしも吸水せば全く異なる色となり且つ肉の性質全く異なるの故を以て新種とせるものなり。

Tremella foliacea PERS. ex FR.
ハナビラニカワタケ

PERSOON, Obs. Myc. 2:98. 1799; Syn. Meth. Fung. 626. 1801; Myc. Eur. 1:101. 1822—FRIES, Syst. Myc. 2:212. 1822; Epicr. Myc. 588. 1838; Hymen. Eur. 690. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 215. 1836; Outl. Brit. Fung. 287. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 311. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:117. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 345. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:314. 1872; Enchir. Fung. 228. 1886—GILLET, Champ. Fr. 777. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:345. 1876; Hattsv. 2: 195. 1882—WINTER, Pilze, 1:288. 1884—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25: 19. 1909; Hymen. Fr. 20. 1928—MASSEE, Brit. Fungi, 447. 1911—LLOYD, Myc. Writ. 6: 1097. 1920—REA, Brit. Basid. 730. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 332. 1933—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4:20, *f. 15—16, pl. 4, f. A–B.* 1939.

(原，日．菌．目．367. 1954—今關及土岐，林．試．研．報．67 : 22. 1954)

Tremella mesenteriformis BULL. Champ. Fr. 230, *pl. 406, f. A.* 1788.

Gyraria foliacea S.F.GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 594. 1821.

Tremella succina PERS. Myc. Eur. 1:101. 1822.

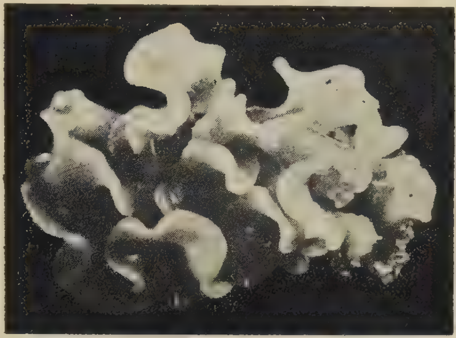
Tremella ferruginea BERK. Engl. Fl. 5(2):215. 1836.

Ulocolla foliacea BREF. Unters. Gesam. Mykol. 7:98, *pl. 6, f. 2.* 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1:394. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6:778. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 12, *pl. 4, f. 5.* 1912—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 917. 1914—BRESADOLA, Icon. Myc. 23: *pl. 1114, f. 2.* 1932.

Exidia saccharina FR. var. *foliacea* PAT. Ess. Tax. 24. 1900.

Ulocolla mesenteriformis SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1277. 1916.

子實體は葉狀にて再三分裂し花瓣の如し，徑12cm，高さ 6cm に及ぶ，基部は樹皮より破出し，軟骨狀



第 16 圖　ハナビラニカワタケ *T. foliacea*
(小林氏原寫眞より轉寫)

膠質にて不規則の襞を有し，褐色堅緻，裂片よりも暗色なり，各裂片は基部より放射狀に擴がり，膠質にて，緣邊は相連り分離せざるか或は切れ，著しく波狀捩曲し，厚くして 1.5—2mm あり，各片の兩面は平滑，褐色或は肉褐色，後帶赤黃色となる，乾時は紫褐色なり，肉組織は淡紅色，半透明。擔子柄は球形，殆ど無色，9—10 μ，絲狀體は有色。胞子は球形，無色，7×5.5—6 μ，分生胞子は子實層內に混じ，楕圓形，平滑，淡帶赤黃色，3.5—4.5×2.6—3.3 μ。

所在及産地

種々なる廣葉樹の枯幹上

北海道，本州—歐．南北米．濠．亞(支．西比)

和名　ハナビラニカワタケ (花瓣膠茸)〔安田〕
ギンジモドキ (擬銀耳)〔三浦〕

〔**因記**〕本種と *T. frondosa* BULL. ex FR. とは極めて類似しありて同一種となすもの，或は兩者混亂せるもの等あり，今玆には別種とし，*T. frondosa* に觸れず。

Tremella fimbriata PERS. ex FR.
クロハナビラニカワタケ

PERSOON, Obs. Myc. 1: 97. 1799; Syn. Meth. Fung. 626. 1801; Myc. Eur. 1: 103. 1822—FRIES, Syst. Myc. 2:212. 1822; Epicr. Myc. 588. 1838; Hymen. Eur. 690. 1874—BERKELEY, Engl. Fr. 5(2): 215. 1836; Outl. Brit. Fung. 286. 1860—RABEHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 312. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 116. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:344. 1871—GILLET, Champ. Fr. 778. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:194. 1882—QUÉLET, Enchir. Fung. 227. 1886—WINTER, Pilze, 1:288. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:780. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 60. 1892; Brit.

Fungi 447. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 21. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 450. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 16. 1912—REA, Brit. Basid. 730. 1922—LLOYD Myc. Writ. 7: 1275, *f. 2824*. 1924—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 23, *pl. 5*, *f. A–B*. 1939.
（原，日．菌．目．367．1954）

Tremella verticalis BULL. Champ. Fr. *pl. 272*. 1785—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1281. 1916.

Tremella undulata HOFFM. Veg. Crypt. 1: *pl. 7*, *f. 1*. 1787—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 626. 1801—MOELLER, Protobasid. 111, *pl. 2*, *f. 1*. 1895.

Tremella tinctoria PERS. Myc. Eur. 1: 101. 1822.

? *Tremella crispa* LLOYD, Myc. Writ. 7: 1152, *f. 2237—2238*. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 35. 1936.

子實體は孤生，葉狀，花瓣狀，膠質にて再三分裂片となり，徑 6cm，高さ 4cm に及ぶ，乾時殆ど收縮せず，兩面粗面にて黑色或は暗褐色，褪色して淡褐色となり，乾時黑色なり，基部は不規則に捩曲し，暗色，極片は分離し連續せずして，有柄扇形に直立し，幅及高さ 1.5—2.5cm，著しき波狀をなす，肉組織は全部同厚にて約 0.6—0.8mm。擔子柄は卵形，4 縱裂，暗色，13—16×10—11 μ。胞子は卵形或は球形，暗色或は殆ど無色，10.5—12.5×7—9 μ。

所在及產地

廣葉樹上 本州—歐．南米．濠

和名 クロハナビラニカワタケ（黑花瓣膠茸）

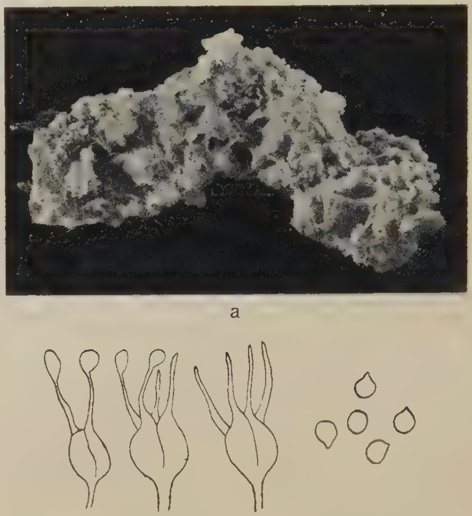
〔小林〕

Tremella fuciformis BERK.

シロキクラゲ

BERKELEY, Jour. Bot. 8: 277. 1856; Jour. Linn. Soc. Bot. 10: 340. 1868—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 782. 1888—MOELLER, Protobasid. 115, *pl. 1*, *f. 5*, *pl. 4*, *f. 13*. 1895—PATOUILLARD, Ess. Tax. 21. 1900—FARLOW, Rhodora, 10: 11. 1908—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 922. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 5: 790, *f. 1188*. 1918; 6: 1051, *f. 1953*. 1920—COKER, Jour. Elisha Mitch. Sci. Soc. 35: 140, *pl. 38*, *pl. 56*, *f. 7*. 1920—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 8: 365. 1921—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 24, *pl. 6*, *f. A*. 1939.
（川村，植．雜．23: 113. 1909; 日．菌．圖說，*n. 234*. 1929—三村，林．試．報．7: 109. 1909—白井，日．菌．目．ed. 2. 661. 1917; ed. 3. 395. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68: 7. 1918—澤田，臺．博．學．報，25: 128. 1934; 臺．菌．調．報．7: 67. 1942—小林，日．隱．植．圖．365, *pl. 173*, *f. 1*. 1939—原，日．菌．目．367. 1954）

子實體は孤生或は叢生，葉狀にて屢々再三分裂片となり，徑 10cm に及ぶ，基部は樹皮より破出し，捩曲す，白色又は黃色，軟骨狀膠質，裂片よりも堅緻なり，往々樹皮下に黃色にて徑 5—10cm 以上の膜を作る，裂片は膠質，白色，大形の花瓣狀となり，特立或は捩曲し，連續す，厚さ約 3mm，波狀をなす，兩面平滑にて子實層に蔽われ，緣は裂片狀に裂け或は波狀をなし，屢々圓錐形，中空の裂片を混ず。擔子柄は卵形或は球形，2—4 縱裂，無色，9.8—12.5 μ，胞子は卵形，1 端尖り，無色，5.5—7×5—5.3 μ。



a b

第 17 圖 シロキクラゲ *T. fuciformis*
a. 子實體 ×1 b. 擔子柄及胞子 ×480（大谷氏）

所在及產地

廣葉樹枝幹上 本州，四國，九州—阿．南北米．濠．亞（印．爪．支．臺）南洋諸島

和名 シロキクラゲ（白木耳）ギンジ（銀耳）
シロキツネノコンニヤク（白狐崑蒻）

f. corniculata KOBAY.

カタマリシロキクラゲ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 25, *pl. 6*, *B*. 1939.
（原，日．菌．目．367．1954）

裂片密にかたまり，緣邊は角形，圓錐形或は不規則叉狀をなす，其他は基本種と同一なり。

所在及產地

腐木上 本州

和名 カタマリシロキクラゲ（塊白木耳）〔小林〕

疑 問 種

Tremella lichenoides L.
(THUNBERG, Fl. Jap. 346. 1784)

Naematelia FR.

ニカワタケ屬

FRIES. Syst. Myc. 2 : 227. 1823.

Encephalium LINK, Mag. Nat. Fr. Berlin, 7:33. 1816.

Tremella Auct. pr. p.

一般性質は *Tremella* 屬と同様なるも子實體は明かに異なる2組織より成るにより區別さる。子實體の基部及び中心部は周邊部よりも密なる纖維質組織より成り，周邊部は膠質にて子實層を有す，これによりて *Tremella* 屬よりも堅緻にて乾時角質となる。(本屬名は nama (流れ) eiles (包む) より出づ)

基準種　*N. encephala* (PERS.) FR.

本邦既知種　ニカワタケ *N. encephala* (27)

Naematelia encephala (PERS.) FR.

ニカワタケ

FRIES, Obs. Myc. 2:370. 1818; Syst. Myc. 2: 227. 1823; Elench. Fung. 2:35. 1828; Epicr. Myc. 591. 1838; Hymen. Eur. 696. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 219. 1836; Outl. Brit. Fung. 290. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:310. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:350, *f. 98*. 1871—GILLET, Champ. Fr. 780. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:350. 1876; Hattsv. 2:200. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 445. 1899—WINTER, Pilze, 1:282. 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 230. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:793. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1285. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:64, *f. 3*. 1892; Brit. Fungi, 448. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 452, *f. 117*. 1908—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 8 : 369. 1921—LLOYD, Myc. Writ. 7:1149, *f. 2223—2224*. 1922—REA, Brit. Basid. 733. 1922—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B.4 : 6, *f. 4*. 1939.
(原, 日. 菌. 目. 221. 1954)

Tremella encephaliformis WILLD. Bot. Mag. 4 : 17. *pl. 4, f. 14*. 1788—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 921. 1914.

Tremella encephala PERS. Syn. Meth. Fung. 623. 1801; Myc. Eur. 1 : 98. 1822—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 5:326. 1877—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 395. 1888—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7:129, *pl. 8, f. 20—24*. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:115. 1903; Icon. Myc. 33 : *pl. 1122*. 1932—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 15. 1912—REA, Brit. Basid. 732. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 24. 1928.

Tremella japonica YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 29 : (385). 1915.

Naematelia japonica LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54 : 3, 5. 1915; 7: 1149. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 33. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 580. 1925.

Naematelia encephaliformis COKER, Jour. Elisha Mitch. Sci. Soc. 35 : 137. 1920.

子實體は孤生或は群生，塊莖狀或は扁球形，徑 1.5—3 cm，平滑或は襞皺あり，膠狀軟骨質，外面黃色或は赤黃色にて乾時帶赤黃色或は黑紫色なり，肉



第18圖　ニカワタケ *N. encephala*　×1.5
(小林氏原圖より模寫)

組織は2樣あり，膠質組織は半透明にて厚さ約 800—1000 μ，無色なる徑1—2 μ の多少平行に並ぶ菌絲より成り，外部子實層に蔽わる，他の肉質組織は堅緻，白色或は黃白色にて乾時帶黃色なり，細長の不規則に絡れたる，幅 2.5—4 μ の菌絲より成る。擔子柄は並列せず，球形，徑 15—17 μ，帶黃色，縱裂す。胞子は卵形，無色，1室，7.7—9×6.5—7 μ。

所在及産地

枯株上　　本州—歐. 北米

和名　ニカワタケ (膠茸) 〔安田〕

〔因記〕本菌は歐米產 *N.encephala* に比するに數倍の大さを有し，且つその肉組織は彼れに比して柔軟にて濃黃色なるの故を以て LLOYD氏 は *N. japonica* と命名せるものなり。

Nakaiomyces KOBAY.

トゲシロキクラゲ屬

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 2. 1939.

Tremella Auct. pr. p.

子實體は稍々腐朽せる樹幹上に叢生或は孤生し，花瓣狀に裂け或は葉狀片に分る，膠質にて，白色，黃色或は帶赤色なり，乾時軟骨狀膜質となる。子實層は平滑にて兩面に生ず。剛毛は全面に疎生或は密生し，無枝，剛直，刺狀にて褐色或は帶黑色なり，長き束となりたる細胞より成り，基部球狀をなし，

子實層に埋まる。擔子柄は球形或は卵形，縱裂し 2—4 上嚢（小柄）を生ず。胞子は卵形或は球形，無色にて發芽時に隔膜を生ぜず。*Tremella* 屬に近似するも剛刺あるを以て異なる。

（本屬名は中井猛之進氏の姓と myces（菌）とより出づ）

基本種　*N. nipponicus* KOBAY.

本邦既知種

トゲシロキクラゲ ***N. nipponicus*** (28)

Nakaiomyces nipponicus KOBAY.
トゲシロキクラゲ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 4, *f. 1—3.* 1939.

（原，日．菌．目．221. 1954）

子實體は葉狀，膠質，白色，幅 5—15 cm，不規則に再三裂け，先端の裂片は指狀をなし屈曲す，表面粗糙なり，剛毛は體の全面に散生し，刺狀强直にて，長さ 450—700 μ, 1—3 節あり，基部は褐色或は殆ど黑色，幅 30—45 μ，先端に向つて漸細し，



a　b

第 19 圖　トゲシロキクラゲ *N. nipponicus*
a. 子實體 ×1　b. 剛毛 ×150
（小林氏原圖より模寫）

白色となる；子實層內に入りて膠質，淡帶赤黃色，多くは徑 17 μ の球體を作る。擔子柄は卵形或は洋梨形，2—4 縱隔を有し，無色，9.8—12.6×8.4—10.8 μ，上嚢（小柄）は長さ 20—30 μ，胞子は卵形，無色，7—7.7×5.5—6 μ。

所在及產地　枯株上　九州

和名　トゲシロキクラゲ（刺白木耳）〔小林〕

Holtermannia SACC. et TRAV.
ニカワツノタケ屬

SACCARDO & TRAVERSO, Syll. Fung. 19:871. 1910.

Clavariopsis (non WILLD.) HOLTERMANN, Mykol. Unters. Tropen, 85. 1898.

Clavaria sect. *Clavariopsis* KILLERMANN, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl.-fam. ed. 2. 6: 156. 1928. pr. p.

子實體は直立し，角形或は分岐して珊瑚狀をなし各枝は圓筒形，鈍頭，外見箒茸に類似す，軟骨質或は亞膠質なるも革質ならず，子實層は平滑にて兩面に生ず，擔子柄は縱隔によりて分たれ，2—4 上嚢（小柄）を生ず。胞子は楕圓形或は卵形，平滑，無色なり，腐木上に叢生稀に孤生す。

（本屬名は CARL. HOLTERMANN 氏の姓より出づ）

基準種　*H. pinguis*(HOLTERM.)SACC. et TRAV.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は無枝或は僅かに分岐す（*Holtermanniella*）—子實體叢生，角形にて通常分岐せず，高さ 0.5—1.3cm，膠狀軟骨質，暗紫色，後先端白色となる。ニカワツノタケ ***H. corniformis*** (28)

B. 子實體は珊瑚狀（*Coralloides*）—子實體は軟骨質，白色，基部帶紫色，高さ 2.5—3 cm。

サンゴタケ ***H. coralloides*** (29)

Holtermannia corniformis KOBAY.
ニカワツノタケ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 3: 78, *f. 1, pl. 11, f. A.* 1937.

（小林，日．隱．植．圖．365, *pl. 173, f. 2.* 1939—原，日．菌．目．152. 1954）



第 20 圖　ニカワツノタケ *H. corniformis*
（小林氏原寫眞より轉寫）

子實體は群生，初め球形にて後角形，圓筒形或は幾分壓邊され，中實，分岐せざるも，稀に叉狀となる，先端は稍々尖り，高さ0.5—1.3cm，基部幅1.5—2mm，表面は子實層に蔽われ，平滑，不透明，初め暗紫色を呈し，後先端の方白色となる，熟後帶赤黄色となり遂に液化す。擔子柄は順次に成熟し，2—4 縦裂す，球形，淡帶赤黄色或は無色，10—11×7.5—9μ。分生胞子は各胞子上に1—5箇生じ，楕圓形，平滑，無色，5—6.5×3.3—3.6μ。

所在及産地

フサザクラ (*Euptelea polyandra* S. et Z.)

落枝上 本州

和名 ニカワツノタケ（膠角茸）〔小林〕

Holtermannia coralloides KOBAY.

サンゴタケ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 3 : 80, *f. 2*, *pl. 11*, *f. B.* 1937.

（原，日．菌．目．152. 1954）

子實體は孤生し，珊瑚狀，多くは高さ2.5—3cm，軟骨質，白色にて基部の方暗紫色を呈す，基部迄分岐し，各枝は展開し，再三分る，圓筒形，その先端



第21圖 サンゴタケ *H. coralloides* 擔子柄及胞子 ×800（小林氏原圖より模寫）

は鈍頭，表面有疣，徑2—3mm，不透明，粘質ならず，老熟して淡赭色に褪色す。擔子柄は並裂し，洋梨形にて稍々長き基部を有す，長さ10—14μ. 胞子は卵形，平滑，無色，6.5×5.3μ。

所在及産地

林內倒木上 八丈島

和名 サンゴタケ（珊瑚茸）〔小林〕

Phlogiotis QUÉL.

ニカワジョウゴタケ屬

QUÉLET, Enchir. Fung. 202. 1886.

Guepinia FRIES, Syst. Orb. Veg. 92. 1825; Elench. Fung. 2:30. 1828. (non BASTARD, 1812. gen. Crucif.)

Gyrocephalus sensu BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7 : 130. 1888. (non PERSOON, 1824=*Gyromitra* FRIES, 1849)

子實體は不完全なる漏斗形をなし，有柄，膠狀軟骨質にて外面に子實層を生ず，擔子柄は球形にて，縦裂し，長き4箇，時に2箇の上嚢（小柄）を出し卵形無色の胞子を着く，副胞子形なし。

（本屬名は phlog-(火焔の)-otis (耳) より出づ）

基準種 *P. helvelloides* (FR.) MARTIN

〔因記〕本屬及アカキクラゲ科所屬タテガタツノマタタケ屬(*Guepiniopsis*)及ツノマタ屬(*Guepinia*)の屬名に就きては相當の論議あるべきも，玆には暫く G.W.MARTIN 氏 (Am. Jour. Bot. 23:627. 1936) の説に從つて記載せり。

本邦既知種

ニカワジョウゴタケ ***P. helvelloides*** (29)

Phlogiotis helvelloides (DC. ex FR.) MARTIN

ニカワジョウゴタケ

MARTIN, Am. Jour. Bot. 23 : 628. 1936.

（小林，日．隱．植．圖．369, *pl. 175*, *f. 4—7.* 1939）

Tremella rufa JACQ. Misc. Austr. 1 : 143, *pl. 14.* 1778.

Tremella helvelloides DC. Fl. Fr. 2:93. 1815.

Guepinia helvelloides FR. Elench. Fung. 2:31. 1828; Epicr. Myc. 566. 1838; Hymen. Eur. 697. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 314. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 30. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 301, *pl. 20*, *f. 4.* 1872—GILLET, Champ. Fr. 776, cum icone. 1874—WINTER, Pilze 1:281, *f. 1—2.* 1884—REA, Brit. Basid. 733. 1922.

（今井，北．林．報．27:15. 1929；植．動．2:2074, *f. 1—2.* 1934）

Guepinia rufa PAT. Ess. Tax. 23, *f. 14.* 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. 25 : 22. 1909; Hymen. Fr. 28. 1928—ROLLAND, Atl. Champ. 92, *pl. 105*, *n. 240.* 1910—BRESADOLA, Icon. Myc. 23 : *pl. 1130.* 1932.

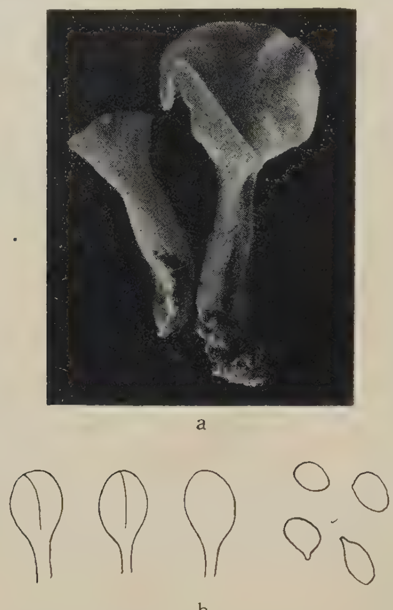
Phlogiotis rufa QUÉL. Enchir. Fung. 202. 1886; Fl. Myc. Fr. 16. 1888.

Gyrocephalus rufus BREF. Unters. Gesam. Mykol. 7:130, *pl. 6*, *f. 27.* 1888—SACCARDO Syll. Fung. 6:795. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1288. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:65, *f. 10* (p. 56). 1892; Brit. Fungi 451. 1911—ATKINSON, Mushr. ed. 2. 207, *f. 208.* 1903—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 17, *pl. 14 C*, *f. 4.* 1912.

（野口（今關），植．硏．雜．10:119, *f. 1—3.* 1934—逸見，植．動．2 : 1643, *f. 3.* 1934—原，日．菌．

目. 144. 1954)

子實體は直立し，孤生或は群生，形種々ありて箆形或は縦に切れ込みのある不完全の漏斗状をなし，高さ 5—10 cm，幅 4—6 cm，有柄或は無柄，縁邊は全縁或は裂片となり，外側に反開す，薔薇色乃至紫



第 22 圖　ニカワジヨウゴタケ *P. helvelloides*
a. 子實體 ×2/3　b. 擔子柄及胞子 ×544
（大谷氏）

紅色，濃淡の變化あり，寒天質にて少しく粘りありて半透明なり。子實層は外面に存し，同色，平滑或は僅に皺あり，白粉を裝ふ。擔子柄は倒卵形，12—21×8—12 μ，4 縦裂，長き上嚢(小柄)上に胞子を着く，胞子は卵形又は楕圓形，1 端尖り，無色，7.5—9×5—6 μ。

所在及産地

落葉，落枝間　　北海道，本州一歐，北米

和名　ニカワジヨウゴタケ（膠漏斗茸）〔今關〕
ニカワハナビラタケ（膠花瓣茸）〔今井〕

Tremellodon Fr.

ニカワハリタケ屬

FRIES, Hymen. Eur. 618. 1874.
Hydnum * *Tremellodon* PERS. Myc. Eur. 2 : 172. 1825.

菌體は貝殻或は帽狀にて無柄或は側柄を有し，膠質にて乾時軟骨質となる，上面平滑にて下面にハリタケの如き齒牙狀突起を群生し，其表面に子實層あり。擔子柄は型的にて胞子は球形乃至楕圓形なり。副胞子形不詳。

（本屬名は Tremella（屬名）odous（齒）より出づ）

基準種　*T. gelatinosum* (SCOP.) FR.

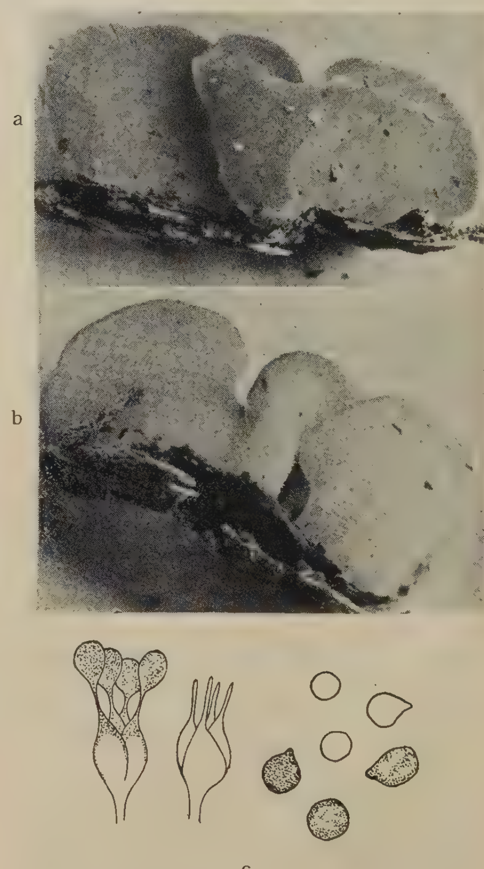
本邦既知種

ニカワハリタケ *T. gelatinosum* (30)

Tremellodon gelatinosum (SCOP.) FR.

ニカワハリタケ

FRIES, Hymen. Eur. 618. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 343. 1876; Hattsv. 2 : 95. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 455. 1889—WINTER, Pilze 1 : 289, *f. 1.* 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 197. 1886—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 397. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 749. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1073. 1916—COOKE, Handb. Austr. Fung. 173, *f. 68.* 1892—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 66, *f. 4—5.* 1892; Brit. Fungi, 449. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 24, *f. 16.* 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 385, *f. 86.* 1908—ROLLAND,



第 23 圖　ニカワハリタケ *T. gelatinosum*
a. 子實體背面　b. 同下面 ×1
c. 擔子柄及胞子 ×544 （大谷氏）

Atl. Champ. 91, *pl. 105, n. 239.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 18, *pl. 14 C.f.1—3.* 1912—LINDAU, Krypt. Mark Brand. 5a(5): 923, *f. 12.* 1914—REA, Brit. Basid. 736. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 23 : *pl. 1115—1116.* 1932—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 332, *f. 72.* 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:6. 1912—安田, 植. 雜. 27:71. 1913—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 661. 1917; ed. 3. 395. 1927—原, 日. 菌. 目. 367. 1954)

Hydnum gelatinosum SCOP. Fl. Carn. 2 : 472. 1772—JACQUIN, Fl. Austr. 3 : *pl. 239.* 1775—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 560. 1801; Myc. Eur. 2 : 172. 1825—DC. Fl. Fr. 2 : 110. 1815—NEES, Syst. Pilze Schwam. 234, *f. 244.* 1817—FRIES, Syst. Myc. 1:407. 1821; Epicr. Myc. 512. 1838—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:407. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 259. 1860—CURREY. Jour. Linn. Soc. 5:181, *f. 1.* 1861—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:298. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 294. 1872.

Hydnum crystallinum MUELL. Fl. Dan. *pl. 717.* 1782.

Tremellodon crystallinum QUÉL. Fl. Myc. Fr. 440. 1888—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 24. 1909; Hymen. Fr. 33. 1928.

子實體は半圓形或は扇形にて廣側面を以て坐生し或は屢々側部に柄を有し，覆瓦狀に生ず，緣邊に向つて狹細す，徑 2—6 cm，膠質にて無色乃至白色，上面は多くは灰色にて後帶褐色となる，毛束に蔽わるるも平滑に見え光澤なし，下面には長さ 2—5 mm の白色にて尖れる齒狀突起密生す。柄は長さ 1 cm 內外にて幅廣し。擔子柄は殆ど球形或は卵形，9—9.5 μ，無色，2—4 縱裂す。胞子は球形乃至長楕圓形，無色，6—8×5—6.5 μ。

所在及產地

針葉樹枯幹上　　北海道，本州—歐．北米．濠

和名 ニカワハリタケ（膠針茸）〔安田〕

DACRYMYCETALES アカキクラゲ目

種々なる植物體，殊に古き木材及び枯木に死物寄生をなす。子實體は薄き廣き膜狀，或は褥形，球形等にて表面に皺を有するものより盃形，棍棒形，釘形，箆形或は珊瑚形等種々ありて，黃色，橙黃色，褐色，紅色等あり，何れも膠質，蠟質にて乾時薄皮或は角質塊となる。子實層は菌體の全面或は一部に生ず，擔子柄は膠質物內に埋在し，初め菌絲の先端膨大し長筒形或は長棍棒形となり，1 室なり，之れ擔子柄の下囊（hypobasidium）にして，その先端に叉狀の太き長枝卽ち上囊（epibasidium）を生じて先端小柄となり胞子を着く。初め下囊內に 2 核を有し，互に癒合したる後 2 回分裂す，紡錘絲は縱性（stichobasidial）なり，斯くして生じたる 4 核の內，上の 2 核は 1 核宛上囊に移りて胞子に入り，下の 2 核は廢頹す。胞子は 1 室，無色，發芽前に橫隔を生じ，2—4 室更に 12 室に及ぶ，發芽管或は小形の分生胞子を簇生す。

本邦既知科

アカキクラゲ科 Dacrymycetaceae (31)

DACRYMYCETACEAE アカキクラゲ科

目の性質に同じ，

本邦既知屬檢索表

A. 子實體は異質の組織より成る。頭部は膠質にて薄膜の菌絲より成り，莖部は軟骨質にて厚膜の菌絲より成り，特別なる皮層を作らず。
Ditiola (32)

B. 子實體は同質の組織より成る。

a. 子實體は膠質にて薄膜の菌絲よりなる。

α. 皮層は特に球形或は棍棒形，往々鎖狀に連結せる大形の細胞より成り，その細胞は厚き膠質の膜を有す—子實體は洋燭欒形或は盃形，稀に扇形にて有柄或は殆ど坐生し，傾斜或は下垂す，子實層は盃中或は盤の表面に生ず。

タテガタツノマタタケ屬 **Guepiniopsis** (32)

β. 皮層の存在するときは菌絲より成り，或は少くとも薄膜の細胞より成る。

アカキクラゲ屬 **Dacrymyces** (34)

b. 子實體は軟骨狀膠質にて厚膜の菌絲より成る。

α. 子實層は體の一部に存す。

I. 子實體は皮層を有し，形は碗茸に類似し，子實層は下面にあり。

フェムスジョウタケ屬 **Femsjonia** (38)

II. 子實體は皮層なく，形は箆形或は盃形にて，子實層は上面にあり。

ツノマタタケ屬 **Guepinia** (39)

β. 子實體は皮層なく，形は箒茸に類似し，子實層は殆ど全面にあり。

ニカワホウキタケ屬 **Calocera** (41)

Ditiola FR.

FRIES, Syst. Myc. 2 : 169. 1823.

Helotium ALBERTINI & SCHWEINITZ, Consp. Fung. 348. 1805.

Coryne BERKELEY, Grev. 2 : 33. 1873. pr. p.

Dacryopsis MASSEE, Jour. Myc. 6 : 180. 1891.

Dacryomitra sect. *Dacryopsis* KILLERMANN, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl.-fam. ed. 2. 6: 123. 1928.

子實體は明かに有柄にて直立し，頭狀部と莖部とは構成菌絲の性を異にす。頭狀部は半球形或は盤狀形，莖より幅廣く，表面平滑或は粗糙，兩面子實層に蔽われ或は下面無性なり，肉は膠質にて，構成菌絲は分岐，有隔，不規則に走り，薄膜なり。莖部は圓筒形，屢々根狀，革質或は膠狀軟骨質，乾時軟骨質なり，內部は密に縱走する絲狀菌絲より成る，外部は殆ど平滑或は有毛にて，有隔，先端棍棒形，厚膜の絲狀菌絲より成る。胞子は楕圓形，1—3 隔膜を有す。分生胞子は時に子實層中に生じ，楕圓形，1 室なり。

（本屬名は dis (2) ioulos (毛) より出づ）

基準種 *D. radicata* (ALB. et SCHW.) FR.

本邦既知種 ***D. nuda*** (32)

Ditiola nuda BERK. et BR.

BERKELEY & BROOME, Ann. Nat. Hist. II, 2: 267, *pl. 9, f. 4*, 1848—W. G. SMITH, Brit. Basid. 458. 1908—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 108, *f. 1*, *pl. 11*, *f. A*. 1939.

Exidia pedunculata BERK. et CURT. Grev. 2:19. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6:773. 1888.

Dacryopsis nuda MASS. Jour. Myc. 6 : 181, *f. 25—26*. 1891; Grev. 20 : 24. 1891; Brit. Fung. Fl. 1:69, *f. 5—6* (p. 56). 1892; Brit. Fungi, 450. 1911—SACCARDO, Syll. Fung. 11 : 149. 1895—LLOYD, Myc. Writ. 5:841. *f. 1406—1408*. 1919; 7 : 1348. 1925.

Dacryomitra pedunculata BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 8 : 389, *f. 5*. 1921.

Dacryomitra nuda PAT. Ess. Tax. 31. 1900—REA, Brit. Basid. 744. 1922—KILLERMANN, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl.-fam. ed. 2. 6 : 123. 1928.

子實體は群生，高さ約 3—3.5 mm。莖部は圓筒形，高さ 1—1.5 mm，時に 3 mm に及び幅約 1 mm，時に 2.5 mm に至る，軟骨狀膠質，內部は分岐せる幅 3—3.5 μ にて，黃色，密に結合する絲狀菌絲より成り，表面は白色，帶黃赤色或は汚褐色，有毛或は殆ど平滑なり，皮部の菌絲は殆ど無色にて，幾分平行に並び，先端の細胞は棍棒形或は卵形，15—17×4—7 μ。頭狀部は腦漿狀或は盤狀，徑 2.5—3.5 mm，時に 5 mm に及ぶ，橙黃色にて，膠質なり，內部の菌絲は薄膜，幅 1.4—2.5 μ，顆粒を含み，橙黃色なり，上面は平滑或は粗糙，子實層に蔽わる，下面は屢々莖に直生し無性なり，外壁の菌絲は薄膜，有隔，先端棍棒形或は厚からず，顆粒を含む，擔子柄下囊は長さ 60—66 μ，帶黃色，上囊は 25—30×3.5—6.3 μ。胞子は長楕圓形，屈曲，黃色，11.2—14.7×5—6 μ，3 隔膜を有す。分生胞子は子實層中に生じ，腎臟形或は卵形，2—2.5×1 μ，1 室，無色なり。

所在及產地 針葉材上 本州—歐．北米

和名

Guepiniopsis PAT.

タテガタツノマタタケ屬

PATOUILLARD, Tab. Fung. 28. 1883; Hymen. Eur. 159. 1887; Ess. Tax. 30. 1900, pr. p.

Peziza Phialea* PERSOON, Myc. Eur. 1:279. 1822.

Guepinia FR. sensu TULASNE, Ann. Sci. Nat. IV, 19 : 224. 1853.

Heterotextus LLOYD, Myc. Writ. 7:1151. 1922.

Dacrymyces FR. sensu NEUHOFF, Arkiv Bot. 28 : 37. 1936. pr. p.

子實體は洋盃形或は洋燭臺形，稀に扇形，橫傾或は點頭，有莖或は殆ど無莖，膠質にて乾時軟骨質となる。傘の上面は扁平或は凹み，子實層に被わる，外面は無毛，屢々溝あり，肉の構成菌絲は疎に分岐し，薄膜，皮部は明かに存在し，大なる球形，楕圓形，棍棒形或は紡錘形の屢々鎖狀をなす厚き膠狀膜を有する細胞より成る，この細胞の內腔は狹し。莖は着生物より破出し，圓筒形，細長にて緻密，傘部と同質。胞子は楕圓形或は圓筒形，屈曲，發芽前 3—7 橫隔を生ず。

（本屬名は *Guepinia* (屬名)-opsis (類似) より出づ）

基準種 *G. merulinus* (PERS.) PAT.

〔附記〕 本屬名につきては *Phlogiotis* の部に記せり。

本邦既知種検索表

A. 子實體は膠質，幾分軟骨狀，子實層面は凹面，皮層細胞は楕圓或は卵形にて鎖生

タテガタツノマタタケ ***G. merulinus*** (33)

B. 子實體は軟膠質にて半透明，子實層面は凸面，皮層細胞は諸形にて鎖生せず。

ミヤマダクリオキン ***G. alpinus*** (33)

Guepiniopsis merulinus (PERS.) PAT.

タテガタツノマタタケ

PATOUILLARD, Hymen. Eur. 159. *pl. 4, f.11.* 1887; Ess. Tax. 30, *f. 22a.* 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25:35. 1910; Hymen. Fr. 70. 1928—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 110, *f. 2A, pl. 9, f. 4.* 1939

(小林，日.隱.植.圖. 373, *pl. 177, f. 3—4.* 1939—原，日.菌.目. 141. 1954)

Peziza (*Phialea*) *merulina* PERS. Myc. Eur. 1: 279. 1822.

Guepinia Peziza TUL. Ann. Sci. Nat. IV, 19:224. 1853; V, 15: *pl. 9, f.1—4.* 1872—FRIES, Hymen. Eur. 697. 1874—GILLET, Champ. Fr. 776. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 227. 1886—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 401. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 336. 1891; Brit. Basid. 457, *f. 121.* 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 69, *f. 16*(p. 56). 1892; Brit. Fungi, 451. 1911—LLOYD, Myc. Writ. 6:921. *f. 1651.* 1920; 7:1234, *f. 2604—2606.* 1923.

(安田，植.雜. 32:174. 1918—白井，日.菌.目. ed. 3. 152. 1927)

Guepinia cochlearis QUÉL Champ. Jura Vosg. 3 : 547. 1875.

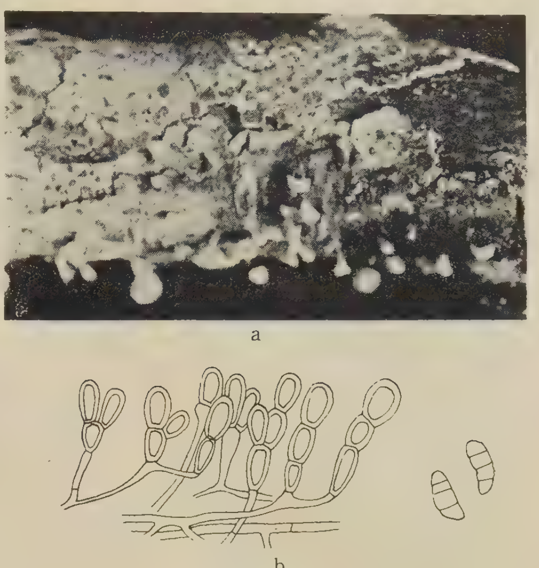
Guepinia merulina QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 12 : 507. 1883; Enchir. Fung. 227. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 806. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1292. 1892—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 210. 1892.

Guepiniopsis tortus PAT. Tab. Fung. 28. 1883.

Ditiola merulina REA, Brit. Basid. 743. 1922.

Tremella lutescens (non PERS.) QUÉL. Champ. Jura Vosg. 1 : 515, *pl. 20, f. 6.* 1872.

子實體は群生或は叢生，有莖洋盃形，軟骨狀膠質，乾時軟骨質，高さ 5—8 mm，盃部は點頭，徑 3—8 mm，深さ 3—4 mm，屢々楯狀に擴がる。橙黃色或は黃色，內側は無毛にて子實層に被われ，緣邊狹細，波曲，多くは缺刻あり，外側は無毛，壁は厚さ 33—66 μ，楕圓或は卵形の 9—13×6—9 μ，厚膜，黃色，鎖生する細胞より成る，肉の構成菌絲は幅 2—3.5 μ，薄膜，分岐，有隔にて菌絆なし。莖は圓筒狀，2—4 ×1—1.5 mm，溝あり，無毛，帶赤色なり。擔子柄下嚢は黃色，長さ 100 μ に及び，幅 3.5—4.2 μ。胞子は楕圓形，屈曲，殆ど無色，11.2—13×4.2—5 μ，3 隔膜あり。



第 24 圖　タテガタツノマタタケ *G. merulinus*
a. 子實體　b. 皮層の一部及胞子 ×600
（小林氏原圖より寫す）

所在及產地　枯幹上　　本州—歐. 北米

和名　タテガタツノマタタケ(楯形角叉茸)〔安田〕

Guepiniopsis alpinus (TRACY et EARLE) KOBAY.

ミヤマダクリオキン

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 112, *f. 2, B.* 1939.

Guepinia alpina TRACY et EARLE, in GREENE, Plant. Baker. 1:23. 1901—SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 1117. 1902.

Guepinia monticola TRACY et EARLE, in GREENE, Plant. Baker. 1:23. 1901—SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 1117. 1902.

Ditiola Shopei COKER, Jour. Elisha Mitch. Sci. Soc. 46 : 117. 1930.

Heterotextus alpinus MARTIN, Mycologia, 24: 217, *pl. 5, f. 1—16.* 1932.

子實體は群生或は叢生，洋獨樂形，熟時展開す，黃色乃至帶赤黃色，徑 0.6—1.2 cm，高さ 0.5—0.7 cm，基部破出，殆ど無莖，子實層は扁平或は多少凸面，粗糙なり，肉は柔膠質，半透明，帶黃色にて構成菌絲は纖細にて幅 1.5—2 μ，菌絆あり，皮部の細胞

は棍棒形，球形，紡錘形，圓筒形或は鋭頭楕圓形にて帶黃色，15—50×10—20 μ，內腔狹し，擔子柄下囊は 55—70×3.5—4.2 μ，上囊長さ 20 μ に及び，內容顆粒狀なり。胞子は長楕圓形，基部鋭尖，無色，15—17×5—6 μ，3 橫隔あり。

所在及產地

カラマツ（*Larix kaempferi* SARG.）其他山地針葉樹枯枝上 本州—北米

和名 ミヤマダクリオキン（深山ダクリオ菌）

〔小林〕

Dacrymyces Fr.

アカキクラゲ屬

FRIES, Syst. Myc. 2 : 228. 1823.

Dacryomyces NEES, Syst. Pilze Schw. 89. 1817.

子實體は叢生或は群生し，扁平，饅頭形，半球形或は底着腦漿狀等諸形ありて其全面子實層に蔽わる，倚時に葉狀をなして稍々直立し或は洋獨樂形，稀に有莖，一部子實層に蔽わるるものあり，肉の構成菌絲は無色或は殆ど無色，薄膜にて，膠質，一様なり，皮部の存するものに於ては薄膜の細胞或は稍々厚膜の菌絲より成る。胞子は卵形，屈曲楕圓形或は圓筒形にて，1 室或は 3—7—20 隔膜を有す，發芽して長形，無色，1 室の分生胞子を簇生す。

（本屬名は dacryon（涙）myces（菌）より出づ）

基準種 *D. deliquescens* (BULL.) DUBY

本邦既知種檢索表

A. 子實體は洋獨樂形ならず，全面に子實層あり。（*Eudacrymyces*）

a. 初め分生胞子の子座を生じ，後擔子柄體に變ず。

ヒメアカキクラゲ ***D. deliquescens*** (34)

b. 擔子柄體は分生胞子子座より發達せず。

α. 子實體橙黃色。

I. 子實體稍々直立，扇形，先端掌狀となる。

ハナビラダクリオキン ***D. palmatus*** (35)

II. 子實體は饅頭形，扁平或は盤狀。

1. 子實體軟骨質

アカキクラゲ ***D. aurantius*** (35)

2. 子實體膠質或は軟膠質

甲. 子實體盤狀，膠質 ***D. adpressus*** (36)

乙. 子實體饅頭形，軟膠質 ***D. subalpinus*** (36)

β. 子實體橙黃色ならず。

I. 子實體薔薇色。

1. 子實體無莖。

モモイロダクリオキン ***D. roseotinctus*** (36)

2. 子實體有莖。 ***D. puniceus*** (36)

II. 子實體帶黃色，藍色，帶赤黃色或は乳白色，針葉樹材上生。

1. 子實體小形，徑 2 mm 以下

甲. 子實體鏡玉形或は壓低球形，表面平滑，綠黃色或は帶赤黃色。

D. punctiformis (36)

乙. 子實體球形或は壓低球形，表面波狀，淡帶赤黃色或は藍色，後乳白色となる。

ヒメダクリオキン ***D. minor*** (37)

2. 子實體中形，徑 2 mm 以上

甲. 子實體球形，凸面扁平，黃色。

D. applanatus (37)

乙. 子實體粒形，黃色乃至帶赤黃色。

モミノダクリオキン ***D. tremellosus*** (37)

B. 子實體は洋獨樂形或は椀茸狀，子實層は一部にあり。（*Tubinaster*）

a. 子實體は軟膠質，內部及皮部薄膜菌絲より成る。

α. 胞子 3 隔膜 ***D. nikkomontanus*** (37)

β. 胞子 7 隔膜 ***D. pulcher*** (37)

b. 子實體は堅膠質，皮部厚膜菌絲より成る。

α. 胞子 3 隔膜 ***D. pezizoides*** (37)

β. 胞子 7 隔膜 ***D. chrysocomus*** (38)

Dacrymyces deliquescens (BULL.) DUBY

ヒメアカキクラゲ

DUBY, Bot. Gall. 2:729. 1830—TULASNE, Ann. Sci. Nat. III. 19:216—219, *pl. 12, f. 13—19. pl. 13, f. 1—8.* 1853—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 290. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 351. 1871; Handb. Austr. Fungi, 209. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 5:327. 1877; Enchir. Fung. 231. 1886—GILLET, Champ. Fr. 782, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:351. 1876; Hattsv. 2:201. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 460. 1899—WINTER, Pilze, 1 : 277, *f. 1—4.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 798. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1290. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:399. 1888—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7 : 141—152, *pl. 9.* 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 67. 1892; Brit. Fungi, 449. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 29. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:115. 1903; Icon. Myc. 23: *pl. 1127, f. 1.* 1932—W. G. SMITH, Brit. Basid. 455. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25: 33. 1909; Hymen. Fr. 67. 1928—BURT, Ann.

Missouri Bot. Gard. 8 : 382. 1921—REA, Brit. Basid. 741. 1922—LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1211. 1923—CLELAND, Mushr. Toadst. South Austr. 2 : 335. 1935—WEHMEYER, Papers Mich. Acad. Sci. Art Lett. 20 : 250. 1935—NEUHOFF, Arkiv. Bot. 28 : 44. 1936—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 114, *f. 3A*, *pl. 9*, *f. E.* 1939.

Tremella deliquescens BULL. Champ. Fr. 219, *pl. 455*, *f. 3.* 1789—DC. Fl. Fr. 2 : 91. 1815.

Tremella lacrymalis PERS. Syn. Meth. Fung. 628. 1801; Myc. Eur. 1 : 104. 1822.

Gyraria lacrymalis S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 595. 1821.

Dacrymyces tortus FR. Elench. Fung. 2 : 36. 1828; Epicr. Myc. 592. 1838—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 53. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 115. 1867.

Dacryomyces lacrymalis CORDA, Icon. Fung. 2:32, *pl. 14*, *f. 115.* 1838—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 52. 1844.

Septocolla adpressa BONORD. Handb. Allgem. Mykol. 152, *f. 247.* 1851.

子實體は群生，時に叢生，殼皮狀にて，集團は徑 20cm に及ぶ，分生胞子の子座は球形にて緣なし，平滑，徑 0.6—4mm，多くは 2—3mm，粘膠質，初め橙黃色，後橙黃赤色或は火焰色となる，放射狀に並ぶ帶黃色の菌絲より成る。分生胞子は子座の表面に群生し，圓筒形，楕圓形或は紡錘形，7—12×4.2—5.6 μ，無色或は帶黃色，1 室，後 2—3 隔膜を生ず。擔子柄形成子實體は分生胞子子座より變じ，饅頭形或は幾分長形，徑 1.5—6mm，多くは 3—5 mm，膠質，表面平滑或は亂曲波狀の襞あり，淡黃薔薇色或は帶赤黃色，後淡色となる，構成菌絲は薄膜，厚さ 2—4.5 μ，多くは 2—3 μ，菌絆なし。擔子柄下囊は 49—60×2.8—3.5 μ，上囊は長さ 21—25 μ。胞子は腎臟形，無色，10.5—17×5—5.5 μ，多くは14×5 μ，3 隔膜を有す。

所在及產地

針葉材上　北海道，本州—歐.北米.濠.亞(西比)

和名　ダクリオキン（ダクリオ菌）〔小林〕

ヒメアカキクラゲ（姬赤木耳）〔安田〕

Dacrymyces palmatus (SCHW.) BURT

ハナビラダクリオキン

BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 8:379. *pl. 3*, *f. 2.* 1921—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 331. 1933—NEUHOFF, Arkiv. Bot. 28 : 44. 1936—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 117, *f. 3 F*, *pl. 11*, *f. B.* 1939.

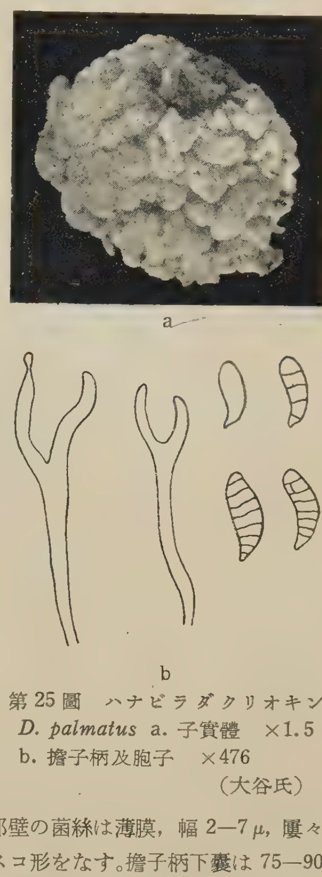
Tremella palmata SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. N. S. 4:186. 1832—SACCARDO, Syll. Fung. 6:782. 1888—COKER, Jour. Elisha Mitch. Sci. Soc. 35: 151. 1920.

Dacryomyces chrysosperma BERK. et CURT. Grev. 2:20. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6:801. 1888.

Dacryomyces flabellum ELL. et EVERH. Proc. Acad. Nat. Sci. Philadelphia 324. 1894—SACCARDO, Syll. Fung. 11 : 148. 1895.

Dacryomyces palmata LLOYD, Myc. Writ. 6: 989, *pl. 159*, *f. 1726.* 1921.

子實體は孤生或は叢生，幾分固き膠質，初め角狀或は腦漿狀にて後稍々直立し，熟時先端短縮して扇狀に擴り或は不規則の葉狀裂片となる，高さ 0.5—3.5cm，徑 0.5—4mm（5×8 cm に達す），表面平滑或は皺あり，子實層に蔽われ，橙黃色なり，下方は淡色，無性にて，基部は時に有毛なり，肉の構成菌絲は幅 2—3.5 μ，帶黃色，薄膜，疎に分岐し，有隔，菌絆なし，無性部壁の菌絲は薄膜，幅 2—7 μ，屢々菌絲の先端フラスコ形をなす。擔子柄下囊は 75—90×4.5 μ，帶黃色，上囊長さ 20—33 μ。胞子は長楕圓形，屈曲，15—18.5×5.5—7 μ，帶黃色，7 隔膜あり。



a

b

第 25 圖　ハナビラダクリオキン
D. palmatus　a. 子實體　×1.5
b. 擔子柄及胞子　×476
（大谷氏）

所在及產地

針葉樹枝幹上.北海道，本州—北米.歐.亞(支.西比)

和名　ハナビラダクリオキン(花瓣ダクリオ菌)〔小林〕

Dacrymyces aurantius (SCHW.) FARLOW

アカキクラゲ

FARLOW, Appalanchia, 3 : 248. 1883—COKER,

Jour. Elisha Mitch. Sci. Soc. 35 : 163. 1920—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 118, *pl. 11*, *f. E.* 1939.

Tremella aurantia SCHW. Syn. Fung. Carol. *n.* 1131. 1822—FRIES, Syst. Myc. 2 : 213. 1822.

Dacryomyces aurantia LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44 : 6. 1913.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7, 10. 1917—安田, 植. 雜. 32 : 174. 1918—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 114. 1927—原, 日. 菌. 目. 102. 1954)

子實體は破生し，稍々叢生隆起し，時に扁平，長さ 1—5 cm，軟骨質，表面波狀或は念珠狀，橙黄色，子實層に蔽わる，內部は黃色，幅 2.5—3.5 μ，菌絆なき菌絲密なり，子實下層は纖細なる幅約 2 μ の菌絲より成る，無性部壁は時に子實體の基部の近くを蔽い，膠狀厚膜，幅 5—8 μ の菌絲に蔽わる。胞子は長形，18—23×6.3—7.5 μ，7 横隔あり。

所在及產地 針葉樹上 本州—北米

和名 アカキクラゲ (赤木耳)〔安田〕

Dacrymyces adpressus KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 120, *f. 3G*, *pl. 10*, *f. B.* 1939.

子實體は稍々破出し，初め椀茸狀，熟時擴り，凸面盤狀， 1—1.4×1.5—1.8 cm，緣邊壓縮，固き膠質なり，外部は腦漿狀，橙黃色，內部は幅 2—6.3 μ，多くは 2.8—4.2 μ，菌絆を有する菌絲より成る，壁は平滑，淡色なり，壁の菌絲は纖維狀，厚さ 3.5—5.6 μ，隔たれる隔膜を有す。擔子柄下囊は帶黃色，110×5.5 μ に及び，上囊長さ 3.5 μ，胞子は屈曲圓筒形，無色，22—26×7.5—11 μ，8—13 隔膜あり，發芽して長楕圓形，無色，8×3.8—4 μ の分生胞子を簇生す。

所在及產地

カラマツ (*Larix kaempferi* SARG.) 樹上 本州

和名

Dacrymyces subalpinus KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 120, *f. 4 M.* 1939.

子實體は群生，稍々破出，隆起し，底着，柔膠質，徑 5—13 mm，粗き襞を有し或は腦漿狀，橙黃色，肉は半透明，構成菌絲は無色，薄膜，幅 2—4.2 μ，疎に有隔，分岐，菌絆なし。擔子柄下囊は 125×8 μ に及び，上囊長さ 60 μ に達す。胞子は屈曲紡錘形，基部迄厚く，無色，35—37×9—9.5 μ，15—16 隔膜，縱膜ありて俵狀なり。

所在及產地 廣葉樹皮上 本州

和名

Dacrymyces roseotinctus LLOYD

モモイロダクリオキン

LLOYD. Myc. Writ. 7:1229, *f. 2558—2559.* 1923; 1279, *f. 2812.* 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 40. 1936—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B.4:120, *pl. 10 f. D.* 1939.

Dacryomyces rosea LLOYD, Myc. Writ. 7:1188. 1923.

子實體は孤生或は群生，圓形或は長楕圓形に擴布し，稍々扁平或は凸面，緣邊稍々狹細，徑 2—5 cm，厚さ 6—10 mm，膠質にて稍々粘質，表面粗糙或は有疣，薔薇色，疣は徑約 2—4 mm，肉は帶薔薇色にて，幅 1.7—2.8 μ，菌絆なき菌絲より成る。擔子柄下囊は 55—65×4—4.5 μ，上囊は長さ 15—18 μ。胞子は楕圓形，屈曲，無色，16—24×6—8 μ，7 横隔あり。

所在及產地

針葉枯木上 本州，九州—南洋諸島

和名 モモイロダクリオキン (桃色ダクリオ菌)〔小林〕

Dacrymyces puniceus KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 121, *f. 4 L*, *pl. 9*, *f. B.* 1939.

子實體は群生或は叢生，直立，高さ 8—12 mm，同質にて膠質，屢々互に癒合す，幅 5 cm の集團をなす。頭狀部は壓低球形或は腦漿狀，屢々開張し，緣邊は下屈す，徑 10 mm，稀に 20 mm に達す，紅色，內部は半透明にて構成菌絲は幅 2.4—2.8 μ，無色なり。莖は廣圓筒形，時に基部迄肥厚し，幅 4—6 mm，無毛，頭部より濃色なり，壁の菌絲は幅 2—2.8 μ，先端肥厚せず。擔子柄下囊は 85×3.5—5 μ に及び，上囊は長さ17—35 μ。胞子は紡錘形或は腎臟形，無色，14—17—(20)×6.3—7 μ，7 隔膜あり。

所在及產地 枯木上 本州

和名

Dacrymyces punctiformis NEUHOFF

NEUHOFF, Arkiv Bot. 28:45, *pl. 7*, *f. 1d.* 1936—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 122, *f. 3*, *pl. 9*, *f. A.* 1939.

Dacrymyces tortus FR. Elench. Fung. 2 : 38. 1828. pr. p.

子實體は群生或は癒合し，壓低球形或は鏡玉形，徑 1.5—2.5 mm，多くは 2 mm，高さ 1—1.2 mm，基部は細く直生，表面多くは平滑，殆ど皺なく，汚綠黃色，肉は膠質にて幅 1.4—1.8 μ の菌絲より成る。擔子柄下囊は 42×2.5—3 μ に及び，上囊は長さ 16 μ に達す。胞子は腎臟形，無色，11.2—12.5×3.8—4.2 μ，多くは 1 室，稀に 2—3 隔膜を生ず。

所在及產地

エゾマツ (*Picea*) 枯木上　北海道

和名

Dacrymyces minor PECK

ヒメダクリオキン

PECK, N. Y. St. Mus. Rep. 30: 49. 1879—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 800. 1888—WEHMEYER, Papers Mich. Acad. Sci. Art Lett. 20: 250. 1935—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 123, *f. 3B, pl. 11, f. G.* 1939.

子實體は群生，稀に 2—3 癒合す，粘膠質，底着球形或は壓低球形，0.2—0.4×0.3—1.5 mm，表面は波狀凸面にて粗糙ならず，淡橙黃色或は藍色，熟後乳色となり褪色して白色となる，內部は無色，幅 1.5—2 μ，菌絆を有する菌絲より成る。擔子柄下囊は 65—70×3.6—5 μ，殆ど無色，上囊は長さ 25 μ に及ぶ。胞子は腎臟形，殆ど無色，14—16×6—7 μ，多くは 15×6.5 μ，3 隔膜を有す。

所在及產地　針葉樹腐材上　本州—北米

和名　ヒメダクリオキン（姬ダクリオ菌）〔小林〕

Dacrymyces applanatus KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 123, *f. 4J, pl. 10, f. C.* 1939.

子實體は癒合し或は群生し，圓形，凸面扁平，徑 2—4 mm，高さ 1.5 mm，集團の徑は 1—1.5 cm，表面は平滑或は亂曲皺ありて橄欖黃色なり，肉の構成菌絲は無色，薄膜，幅 2.8—5 μ，多くは 3.5 μ，疎に分岐し，菌絆を有す。擔子柄下囊は黃色，50—60×3.5 μ，上囊長さ 18—22 μ。胞子は楕圓形，14—17×5.2—6.3 μ，3 隔膜を有す。

所在及產地

針葉材上　本州

和名

Dacrymyces tremellosus KOBAY.

モミノダクリオキン

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 124, *f. 4K.* 1939.

子實體は破出し，群生す，疣形，徑 2—6 mm，亂曲腦襞狀，黃色，肉の構成菌絲は纖細にて幅 1.4—1.8 μ，疎に分岐し，菌絆なし。擔子柄下囊は長さ 50 μ に及び，幅 2.8—5.6 μ，上囊長さ 22 μ に達す。胞子は卵形或は屈曲楕圓形，12.5—13.5×5.6—7 μ，3 隔膜を有す。

所在及產地　モミ (*Abies firma* S. et Z.) の枯幹上　本州

和名　モミノダクリオキン（樅のダクリオ菌）〔小林〕

Dacrymyces nikkomontanus KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 125, *f. 4N–O, pl. 11, f. C–D.* 1939.

子實體は洋獨樂形，3—4×3—4 mm，黃色，有莖なり。莖は纖細にて圓筒形，長さ 1—1.5 mm，白毛あり，肉の構成菌絲は平行に並び，幅 3.5 μ 至り，薄膜なり。頭狀部の內部は半透明にて柔膠質，構成菌絲は幅 1.5—2.5 μ，疎に分岐し，有隔なり，皮部は無毛，黃色にて，構成菌絲は多隔，幅 2.8—3.5 μ，屢々先端厚く 7 μ に達し，稀に不規則に分岐す，子實體頂部は凸面，平滑或は粗糙なり。擔子柄下囊は 50×4 μ に及び，無色，上囊は長さ 20 μ。胞子は楕圓形，屈曲，12—14.5×5.5—6.3 μ，無色，3 隔膜を有す。

所在及產地

針葉材或は針葉樹上蘚類間　本州

和名

Dacrymyces pulcher KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 125. 1939.

子實體は無莖，洋獨樂形，柔膠質，1—1.5×2 cm，肉は半透明にて，纖細なる緩き菌絲より成る，皮部は無毛，黃色にて，多隔の平行せる菌絲より成る，その菌絲の先端 2—3 細胞は不規則に厚く，棍棒形，圓筒形，屢々縊れ，幅 3.5—7 μ あり，子實體頂部は扁平，黃色なり。擔子柄下囊は 60—66×4—4.5 μ，黃色，上囊長さ 20—35 μ。胞子は楕圓形，屈曲，16—19×5—7 μ，7 隔膜を有す。

所在及產地　針葉枯木上　本州

和名

Dacrymyces pezizoides KOBAY.

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 126, *f. 3H, pl. 10, f. A.* 1939.

子實體は叢生或は群生し，椀茸狀，僅に有莖，膠

狀肉質，緊密にて，高さ 1—1.5，幅 1—2cm，子實層は平滑或は粗糙なり，橙黄色，熟時粒狀を呈す，緣邊厚く，初め內屈，後不規則波狀をなす，乾時軟骨質，黃褐色となる，皮部は平滑，無毛にて，厚膜，多隔，幅 3.5—7μ，不規則なる菌絲より成る，その菌絲先端の細胞は卵形，長さ 8—10μ，幅 7.7μ に及ぶ，肉は黃色にて薄膜，幅 1.5—2.8μ，殆ど無色，不規則なる菌絲より成る。莖は破出し，圓筒形或は洋燭臺形，長さ 0.4—0.7mm，無毛，基部暗褐色なり。擔子柄下囊は黃色，幅 3.5μ，上囊は長さ 12μ に及ぶ。胞子は長楕圓形，基部稍々尖り，屈曲す，12.6—15.5×5—6.3μ，黃色，3隔膜を有す。

所在及產地 サワフタギ(*Palura pilosa* NAKAI)の枯幹上　本州

和名

Dacrymyces chrysocomus (BULL. ex FR.) TUL.

TULASNE, Ann. Sci. Nat. III. 19 : 221. 1853—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 291. 1860—FRIES, Hymen. Eur. 699. 1874—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 352. 1871—GILLET, Champ. Fr. 782, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:352. 1876; Hattsv. 2 : 202. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 458. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 278. 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 231. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:798. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1289. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 400. 1888—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7 : 156, *pl. 10, f. 12—17.* 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:67, *f. 13.* 1892; Brit. Fungi, 449. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 29. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 455. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25:34. 1909; Hymen. Fr. 69. 1928—REA, Brit. Basid. 741. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 23:*pl. 1128, f. 1.* 1932—NEUHOFF, Arkiv. Bot. 28 : 52, *f. 1b.* 1936—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 126, *f. 3D.* 1939.

Peziza chrysocoma BULL. Champ. Fr. 254, *pl. 376, f. 2.* 1787—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 152.* 1799—DC. Fl. Fr. 2:78. 1815—FRIES, Syst. Myc. 2 : 140. 1823—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 347. 1844—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 205. 1836.

Peziza aurea PERS. Obs. Myc. 1:41. 1796; Syn. Meth. Fung. 635. 1801; Myc. Eur. 1:304. 1822.

Peziza subplana SCHUM. Enum. Pl. Saell. 2: 416. 1803—PERSOON, Myc. Eur. 1 : 305. 1822.

子實體は稍々破出し，初め球形，徑 1—2mm，後椀茸狀となる，無莖，膠質，徑 3—5mm，高さ約 2mm。盤部は圓形，扁平或は稍々凸面，平滑，稀に粗糙，暗褐色或は藍色なるも橙黃色ならず，壁は無毛にて，纖維狀，幅 5—7μ，狹腔，少隔，黃色の菌絲より成る，肉の菌絲は疎に分岐し，幅 1.4—2.8μ，薄膜，菌絆なし，擔子柄下囊は 66×4.2μ に及び，上囊は長さ 40μ に達す。胞子は屈曲楕圓形，22—27×9—10.5μ，黃色，內容は夥粒狀，7隔膜を有す。

所在及產地

アカマツ (*Pinus densiflora* S. et Z.) の枯枝上　本州—歐

和名

Femsjonia FR.
フエムスジヨウタケ屬

FRIES, Summa Veg. Scand. 341. 1845; Hymen. Eur. 695. 1874.

Guepinia (non FR.) BREFELD, Unters. Gesam. Myk. 7 : 161. 1888.

子實體は着生物より破出し，群生，洋盃形，軟骨質，有莖或は無莖。盃部は點頭，表面白色或は他色，有毛粉狀なり。子實層は下面に生じ，扁平或は凹面，實質は堅緻にて纖維狀，厚膜の菌絲より成り，外皮は並列或は不規則に走る厚膜菌絲より成る。莖は圓筒形，堅緻，質は盃部に於けるが如し。擔子柄上囊は絲狀，長叉狀にて頂端に胞子を着く。胞子は楕圓形，腸詰形又は圓筒形，發芽前橫隔によりて多室となる。(本屬名は E. FRIES 氏の生地 Femsjö (瑞典の地名) より出づ)

基準種　*F. luteo-alba* FR.

本邦既知種檢索表

A. 子實體外面白色，有毛，胞子多隔。
　フエムスジヨウタケ ***F. luteo-alba*** (38)

B. 子實體外面帶赤黃色，胞子 1—3 隔。
　フエムスジヨウタケモドキ ***F. orientalis*** (39)

Femsjonia luteo-alba FR.
フエムスジヨウタケ

FRIES, Summa Veg. Scand. 341. 1845; Monogr. Hymen. Suec. 2 : 283. 1863; Hymen. Eur. 695. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 200. 1882—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 779. 1888—W. G. SMITH, Brit. Basid. 456, *f. 120.* 1908—MASSEE, Brit. Fungi, 452. 1911—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1053, *f. 1958—1959.* 1921; 7 : 1275. *f. 2820.* 1924—REA, Brit. Basid. 743. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 71. 1927—BRESADOLA, Icon. Myc.

23 : *pl. 1129*. 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:331. 1933—WEHMEYER, Papers Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 20 : 251. 1935—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 216, *f. 1*, *pl. 19*, *f. A F.* 1939.

(HEMMI, Bot. Mag. Tokyo, 46 : 164. 1932)

? *Elvella lentiformis* SCOP. Fl. Carn. 2 : 481. 1772.

Exidia pezizaefomis LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 9 : 127. 1848.

Femsjonia pezizaeformis KARST. Myc. Fenn. 3 : 352. 1876.

Ditiola conformis KARST. Hattsv. 2:203. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 461. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 6:813. 1888—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 8 : 386. 1921.

Ditiola luteo-alba QUÉLET, Enchir. Fung. 227. 1886.

Guepinia femsjoniana OLS. in BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7:161, *pl. 11*, *f. 3—5*. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 807. 1888.

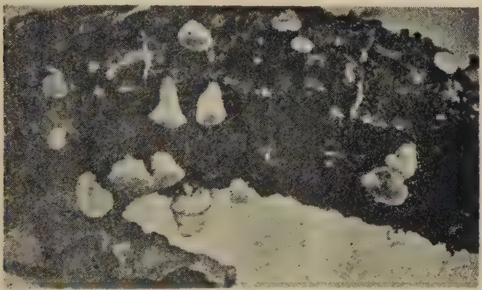
Ditiola Ulcis PLOWR. Trans. Brit. Myc. Soc. 1: 55, *pl. 2*, *f. 2—6*. 1898.

Dacryopsis Ulcis SACC. et SYD. Syll. Fung. 16 : 223. 1902.

Ditiola radicata BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 34. 1909 (non FR.)

Ditiola lentiformis SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1295. 1916. pr. p.

子實體は着生物より破出し，無莖或は短莖を有す。莖は堅緻にて基部暗色，其他の性質盃部の如し，2—3×1.5—2 mm。盃部は倒洋盃形或は盤形，徑 3—5 mm，縁邊多少狹細，外側は乾時白色，粉狀有毛，時



第 26 圖　フエムスジヨウタケ *F. luteo-alba* (LLOYD 氏による)

に生時淡橙黃色なり，內側は子實層に蔽われ，凹面，平滑，橙黃色，稀に粉狀なり，肉は膠狀軟骨質，乾時全部軟骨質となる，無色或は黃色にて，構成菌絲は纖維狀，厚膜，少數の隔膜を存し，分岐し，菌絆を有せず，黃色，幅 1.7—6 μ，多くは 3—4 μ，外皮は明かにて厚さ 160—180 μ あり，之を構成する菌絲は密に並列し，厚膜，一樣にて，幅 5—9 μ，隔膜なく，多くは分岐せず，先端多少不規則に曲る，無色或は下方淡橙黃色，內腔は狹し。擔子柄下囊は長さ約 50 μ，幅 2—2.8 μ。內部橙黃色，上囊は長さ 20—25 μ。胞子は腸詰形にて基部狹細，帶黃色，15—23×5—10 μ，發芽前多室となる。

所在及產地

無皮及腐朽材上　　本州—歐. 北米. 亞(西比)

和名　フエムスジヨウタケ〔小林〕

ニカワタケ（膠茸）〔逸見〕

Femsjonia orientalis KOBAY.
フエムスジヨウタケモドキ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bnurika Daig. B. 4 : 217, *f. 2*. 1939.

子實體は着生物より破出し，有莖，膠狀軟骨質，外面一樣に帶赤黃色，莖は圓筒形にて堅緻，3—5×2—3 mm，平滑，構成菌絲は幅 5—6.3 μ，厚膜，少しく分岐し隔膜あり，菌絆を有し，殆ど無色なり。盃部は倒洋盃形，徑 3—5 mm，緣邊厚く，外部は無毛，平滑，盃面は扁平或は凹面にて子實層に蔽わる，外皮の菌絲は幅 3—6.3 μ，厚膜，分岐せざるか或は分岐し，隔膜なきか或は僅に之を有し，稀に先端厚く，不規則なり。擔子柄下囊は長さ 70 μ，幅 4.2 μ に及び，上囊は長さ 20 μ。胞子は長楕圓形，基部稍々尖り，13—14×6—6.3 μ，隔膜 1—3。

所在及產地　針葉材上　　本州

和名　フエムスジヨウタケモドキ（擬フエムスジヨウ茸）〔小林〕

Guepinia FR. sensu MARTIN
ツノマタタケ屬

FRIES, Elench. Fung. 2 : 30. 1828. pr. p.—MARTIN, Am. Jour. Bot. 23 : 627—9. 1936.

Guepiniopsis PATOUILLARD, Ess. Tax. 30. 1900. pr. p.

子實體は直立，有莖，箆形或は扇狀に分枝し，又は洋盃形，同質軟骨質，乾時角質，側邊及び上面に子實層あり，肉は纖維狀菌絲より成り，皮部不明瞭なり。擔子柄は叉狀上囊を出し，胞子は卵形或は圓筒形，發芽前 1—3 橫隔を生ず。

（本屬名は FRIES 氏時代の採集家 J. P. GUEPIN 氏の姓より出づ）

基準種　*G. spathularia* (SCHW.) FR.

〔**因記**〕本屬名につきては *Phlogiotis* の部に記せり。

本邦既知種検索表

A. 子實體は箆形

a. 子實體は幅廣く，分岐せざるか多少分岐す，子實層面に襞あり。

ツノマタタケ **G. *spathularia*** (40)

b. 不規則或は掌狀に分岐し，各裂片は狹し，子實層面は殆ど平滑。

ホソツノマタタケ ***G. fissa*** (40)

B. 子實體は頭形

イマゼキツノマタタケ

G. ***imazekiana*** (41)

Guepinia spathularia (SCHW.) FR.

ツノマタタケ

FRIES, Elench. Fung. 2:32. 1828; Epicr. Myc. 566. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 807. 1888—MASSEE, Grev. 21 : 6. 1892—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 210. 1892—HARDER, Mush. 484, *f. 408*. 1908—BRESADOLA, Ann. Myc. 9 : 551. 1911; 14:234. 1916—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 991, *f. 1763, 1770—1*. 1920; 7 : 1151, *f. 2236*. 1922—BODMAN, Mycologia, 30 : 635, *f. 1—44*. 1938—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 218, *f. 3A–C*. 1939.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 2 : 15. 1912—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 20, f. 1—3*. 1925—白井，日．菌．目．ed. 3. 152. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:108. 1931—小林，日．隱．植．圖．371, *pl. 176, f. 1—2*. 1939—逸見及赤井，木．腐．菌學，442, *f. 237—9*. 1945)

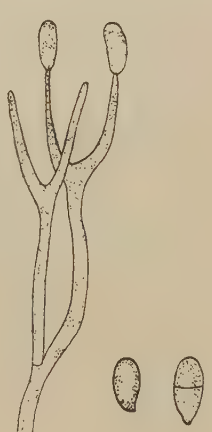
Merulius Spathularia SCHW. Syn. Fung. Carol. n. 839. 1822.

Guepiniopsis spathularius PAT. Ess. Tax. 30 *f. 22b*. 1900.

子實體は着生物より破出し，列生或は叢生，高さ 5—16 mm，膠狀軟骨質，乾時角質となり，多少粘る。莖は圓筒形或は壓縮され，1—8×0.5—2.5 mm，等厚，屢々基部結合し，無枝或は叉狀に分岐し，濃紫色，乾時帶白色となる，肉の構成菌絲は縱走し，無色，殆ど分岐せず，僅に隔膜を有し，幅 2—4 μ，外圍の菌絲は列に並び，厚膜，膠質，等幅にて 3.5—5.6 μ，先端鈍頭或は尖り，內腔狹くして，帶黃色なり。傘は箆形或は扇形，壓縮され，分岐せざるか或は多少裂片となり，緣邊は外方に反捲し，屈曲す，4—7×2—7 mm，前面子實層に蔽われ，膠質，褶襞ありて，橙黃色なり，後面は無性にて，有毛，乾時帶白色となり，柄に連る。擔子柄下囊は長さ 35 μ，幅 2.5 μ に及び，上囊 12.5—15.5×2.5 μ，胞子は卵形或は腸詰形，基部尖り，黃色，7—10.5×3.5—4.2 μ，發芽前 1 橫隔を生ず。



a



b

第 27 圖

a. ツノマタタケ *G. spathularia* 子實體 ×1

b. 同擔子柄及胞子（小林氏原圖による）

所在及產地 枯幹及柱等の腐朽材上 北海道，本州，九州—南北米．阿．濠．亞（印．比．支）

和名 ツノマタタケ（角股茸）〔安田〕

Guepinia fissa BERK.

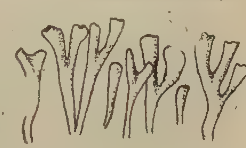
ホソツノマタタケ

BERKELEY, Ann. Mag. Nat. Hist. 10. Suppl. 383, *f. 15*. 1843—SACCARDO, Syll. Fung. 6:811. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 6:880, *f. 1510*. 1919—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 219, *f. 3D–G, 4, pl. 18*. 1939.

(白井，日．菌．目．39. 1905; ed. 2. 263. 1917; ed. 3. 152. 1927—安田，植．雜．27:117. 1913—原，日．菌．目．140. 1954)

Guepiniopsis fissus PAT. Ess. Tax. 30. 1900.

子實體は群生或は叢生，高さ 3—30 mm，膠狀軟骨質なり。莖は無枝或は分岐し，圓筒形或は壓縮され，基部結合し，有毛，帶赤黃色或は黑色，肉は堅緻にて，その構成菌絲は幅 2—2.8 μ，分岐，有隔，菌絆なく，厚膜，黃色なり，外圍の菌絲は絲狀にて列に並び，長さ 80—90 μ，無枝或は先端に叉に分れ，等幅，1—2 隔膜を有し，厚膜，幅 2.8—5 μ，多くは 3.5—4 μ，無色或は黃色なり。傘は掌狀に裂け或は不規則に分岐す，各枝は壓縮され狹く，線狀，前方子實層に被われ，橙黃色或は帶赤色なり。擔子柄下囊は 35×2—2.5 μ に及び，上囊 10—15.5×2 μ，黃色。胞子は卵形或は腸詰形，基部尖り，帶黃色，7—10.5×3.5—4 μ，1 橫隔を生ず。



第 27 圖 c. ホソツノマタタケ *G. fissa* 子實體 ×1

所在及產地 腐木上 北海道，本州，小笠原島—亞（錫．爪．比）南洋諸島．南米．濠

和名 ホソツノマタタケ（細角股茸）〔小林〕

Guepinia imazekiana KOBAY.

イマゼキツノマタタケ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 220, *f. 5.* 1939.

子實體は孤生或は叢生，頭形，直立，同質，軟骨質にて全部橙黃色なり。頭狀部は盤狀，徑5—7 mm，厚1.5 μに及ぶ，緣邊は厚く，反捲し，多少屈曲し，上面子實層に蔽われ，下面無性，平滑なり。莖は中心に生じ，圓筒形，5—7×1—1.5 mm，等幅或は上方に向つて稍々太く，無毛なり，肉の構成菌絲は幅1.4—2.8 μ，帶黃色，厚膜，有隔，分岐し，菌絆なく，密に結合す，外皮は不明瞭にて，その菌絲は緩く列に並び，幅2.8—4.2 μ，厚膜，等幅，帶黃色，有隔，無枝なり，擔子柄下囊は50×3.5 μに及び，上囊は長さ12—14 μ，帶黃色なり。胞子は長楕圓形にて屈曲し，14—15.5×4.2—5 μ，3横隔を生ず。分生胞子は菌絲端に生じ，卵形，1室，無色，2×1 μ。

所在及產地

針葉枯木上 本州

和名 イマゼキツノマタタケ（今關角股茸）

Calocera FR.

ニカワホウキタケ屬

FRIES, Syst. Myc. 1 : 485. 1821.

Clavaria PERSOON, Syn. Meth. Fung. 585. 1801. pr. p.

子實體は群生或は叢生，直立，角形にて，無枝或は珊瑚狀をなし，又上方掌狀に擴がる，軟骨質，屢々粘氣あり，殆ど全面子實層に蔽わる。胞子は卵形或は圓筒形，屈曲し，1—3 横隔を生ず。

（本屬名は kalos（美なる）keras（角）より出づ）

基準種 *C. viscosa* (PERS.) FR.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は角形或は圓筒形，無枝又は上部僅かに分岐或は擴がる。
 a. 子實體白色
  シロツノマタタケ *C. alba* (41)
 b. 子實體黃色或は橙黃色。
  α. 上部掌狀に擴がる。
   モミジフノリタケ *C. palmata* (41)
  β. 上部擴がらず。
   I. 子實體は銳尖，胞子小形，8—9×3.5—5 μ。
    1. 高さ 4—20 mm 或はそれ以上に及ぶ。
     ツノフノリタケ *C. cornea* (42)
    2. 小形，細く，高さ 2.5—4.5 mm。
     ヒメツノフノリタケ *F. gracilis* (42)
   II. 子實體は鈍頭，胞子 10—13.5×5—6 μ。
    ツノフノリタケモドキ *C. corniformis* (42)
B. 子實體は明かに分岐し或は灌木狀
 a. 子實體は小形。
  α. 子實體は基部にて分れ，各裂片周邊に圓筒形或は角狀の枝を有す。
   ヒメツノタケモドキ *C. flavida* (43)
  β. 子實體は基部に於て密に分岐す。
   ヒメツノタケ *C. coralloides* (43)
 b. 子實體は大形。
  α. 高さ 8 cm に及び，上部に於て 2—3 叉す。
   ニカワホウキタケ *C. viscosa* (43)
  β. 高さ 4 cm に及び，分岐少く，基部に絨毛あり。
   フノリタケ *C. furcata* (44)

Calocera alba KOBAY.

シロツノマタタケ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 224. 1939.

Calocera variiformis (non LLOYD)

（小林，日. 隱. 植. 圖. 371, *pl. 176, f. 3—4.* 1939 —原，日. 菌. 目. 39. 1954）

子實體は群生し或は基部結合す，圓筒形，無岐或は 2—3 叉し，又は不規則に分岐す，枝は水平，先端上向し或は反轉し，長さ 4—10 mm，基部厚さ 0.5—0.8 mm，上方に向つて肥大し，厚さ 1 mm に及び，先端稍々尖り，或は截頭又は咬斷狀，圓筒狀或は壓縮し，軟骨質，白色或は淡橙黃色，無毛，平滑なり，肉の構成菌絲は稍々厚膜，分岐，無色，菌絆なし。胞子は楕圓形或は圓筒形，無色，1油球を有し，發芽時1隔膜を生じ，屢々縊れ，7—9×4—5 μ。

所在及產地 廣葉樹材上 本州

和名 シロツノマタタケ（白角股茸）［小林］

Calocera palmata (SCHUM.) FR.

モミジフノリタケ

FRIES Epicr. Myc. 581. 1838; Summa Veg. Scand. 339. 1849; Hymen. Eur. 680. 1874—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 120. 1868—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 312. 1872; Enchir. Fung. 223. 1886—GILLET, Champ. Fr. 756. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 192. 1882—WINTER, Pilze, 1 : 281. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 733. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1220. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 401. 1888—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7 : 165, *pl. 11, f. 19—20.* 1888—W. G.

SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 331. 1891; Brit. Basid. 438. 1908—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 204. 1892—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25:35. 1909; Hymen. Fr. 73. 1928—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 924, *f. 1656—7*, 1920: 7 : 1151, *f. 2233.* 1922—WEHMEYER, Papers Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 20 : 248. 1935—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 224. 1939.

(安田, 植. 雜. 35:240 1921—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 60. 1927—原, 日. 菌. 目. 39. 1954)



第 28 圖 a. モミジフノリタケ *C. palmata* の子實體(LLOYD 氏による)

Tremella palmata SCHUM. Enum. Plant. Saell. 2 : 442. 1803.

子實體は上方壓縮され, 掌狀に擴がる。其他の性質はツノフノリタケ (*C. cornea*) と全く同一なり。

所在及產地

枯木上に疎生　本州, 九州一歐. 北南米. 亞(支)

和名 モミジフノリタケ (楓海蘿茸)〔安田〕

Calocera cornea (BATSCH) FR.

ツノフノリタケ

FRIES, Syst. Myc. 1 : 486. 1821; Epicr. Myc. 581. 1838; Summa Veg. Scand. 339. 1849; Hymen. Eur. 680. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 178. 1836; Outl. Brit. Fung. 284. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:319. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 120. 1868—FUCKEL, Symb. Myc. 31. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 339. 1871; Handb. Austr. Fungi, 204. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 312. 1872; Enchir. Fung. 223. 1886—GILLET, Champ. Fr. 756, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 345. 1876; Hattsv. 2: 192. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 455. 1899—WINTER, Pilze 1 : 280. 1884—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 158, *pl. 4, f. 10.* 1887; Ess. Tax. 31, *f. 24.* 1900—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 401. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 734. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1221. 1916—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7:164, *pl. 11, f. 14—17.* 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:72. 1892; Brit. Fungi, 450. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 438. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 25 : 35. 1909; Hymen. Fr. 73. 1928—LLOYD, Myc. Writ. 6:924, *f. 1658.* 1920—REA, Brit. Basid. 745. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51 : 421. 1935—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 222, *f. 6A-C.* 1939.

(安田, 植. 雜. 37 : 34. 1923—小林, 日. 隱. 植. 圖. 373, *pl. 177, f. 1—2.* 1939—原, 日. 菌. 目. 39. 1954)

Clavaria cornea BATSCH, Elench. Cont. 1 : *f. 161.* 1786—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 596. 1801—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 1 : *pl. 40.* 1796.

Clavaria aculeiformis BULL. Champ. Fr. 214, *pl. 463, f. 4.* 1789—DC. Fl. Fr. 2 : 98. 1815.

子實體は群生し, 屢々 2—5 叢生す, 高さ 0.4—1.5—2 cm, 圓筒形, 同大なるか上方狹細或は肥厚し, 基部は幅 0.8—1 mm なり, 無岐或は叉狀に分岐し,



第 28 圖 b. ツノフノリタケ *C. cornea* の子實體 ×1 (BREFELD 氏原圖より模寫)

先端稍々尖り, 圓筒狀或は先端に向つて壓縮擴張し, 幅 1—1.5 mm, 外部は無毛, 橙黃色或は淡色なり, 肉は軟骨質にてその構成菌絲は無色, 薄膜, 有隔, 分岐し, 菌絆なく, 幅 1.5—3.5 μ なり。擔子柄下囊は 35×2—3 μ に及び, 上囊 10×2 μ。胞子は卵形, 屈曲, 8—9×3.5—5 μ。發芽時 1, 稀に 2 隔膜を生ず。

所在及產地

廣葉, 針葉樹材上　北海道, 九州一汎布種

和名 ツノフノリタケ (角海蘿茸)〔安田〕

f. gracilis KOBAY.

ヒメツノフノリタケ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 223, *f. 6 E.* 1939.

子實體は群生, 纖細, 圓筒形, 兩端狹細, 高さ 2.5—4.5 mm, 無岐, 幅 0.5 mm, 無毛, 先端尖り, 外部黃色なり。胞子は腸詰形, 屈曲, 基部尖り, 無色, 7.7—9×3.5—4 μ, 發芽時 1 隔膜を生ず。

所在及產地 切株及材上　北海道, 本州

和名 ヒメツノフノリタケ (姬角海蘿茸)〔小林〕

Calocera corniformis KOBAY.

ツノフノリタケモドキ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4 : 223, *f. 6D, pl. 19, f. B.* 1939.

子實體は群生, 屢々基部結合す, 軟骨質, 圓筒形, 長さ 4—8 mm, 同幅, 稀に上方壓縮擴張, 先端多くは鈍頭, 基部幅 0.7—1.2 mm, 外部黃色, 後橙黃色となる。子實層は兩面, 時に 1 側面に生ず, 肉の構成菌絲は幅 2.8—5 μ, 無色, 薄膜, 少しく隔膜を有し, 分岐, 密に結合す。擔子柄下囊は 40—50×3.5

μ，上嚢 20×3.5μ，胞子は卵形或は腸詰形，10—13.5×5—6μ，無色，熟後1，稀に3個に及ぶ隔膜を生ず。

所在及産地　針葉樹材上　本州

和名　ツノフノリタケモドキ（擬角海蘿茸）〔小林〕

Calocera flavida LLOYD
ヒメツノタケモドキ

LLOYD, Myc. Writ. 7: 1278, *f. 2850*. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 38. 1936—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 225, *f. 6G. pl. 19, f. E*. 1939.

子實體は着生物より破出し，乾時角質，帯赤色，高さ 4mm，徑 5mm，基部迄不規則なる葉狀，粗糙，上部多數分岐し，各枝は圓筒形或は角形にて無岐或は叉狀分岐し，0.6—1.5×0.2—0.4mm，疣を有す，肉の構成菌絲は縱走し，殆ど無色，分岐，有隔，菌絆なく，幅1.7—4.5μ，薄膜なり。子實層は兩面に生じ，高さ 50—80μ。擔子柄下嚢は黄色，30×2.4—3.5μ，上嚢 7—12×2—3μ。胞子は腸詰形，屈曲，9—14×3.5—5.5μ，1端尖り，1隔膜あり。

所在及産地　トドマツ（*Abies sachalinensis* FR. SCHMIDT）幹上　北海道

和名　ヒメツノタケモドキ（擬姫角茸）〔小林〕

Calocera coralloides KOBAY.
ヒメツノタケ

KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 225, *f. 6 H, pl. 19, f. C*. 1939.

子實體は着生物より破出し，珊瑚狀，基部迄密に分岐す，3—4—5×3—6mm，枝は下方圓筒狀或は稍々壓縮し，幅 0.5—1.2mm，2—3 回掌狀或は叉狀に分岐し，上向或は方向一定せず，頂枝は上端狹細し尖り，無毛，黄色，乾時帯赤黄色，肉桂色或は帯赤色なり，肉は黄色にて構成菌絲は幅 2—7μ，縱走し，厚膜，分岐，有隔，菌絆なし。擔子柄下嚢は 35×2—2.5μ に及び，上嚢は 10—12.5×1.5—2μ。胞子は長卵形，屈曲，無色，7.5—10×3.5—4.2μ，發芽時1横隔を生ず。

所在及産地　廣葉樹枯木上　本州

和名　ヒメツノタケ（姫角茸）〔小林〕

Calocera viscosa (PERS.) FR.
ニカワホウキタケ

FRIES, Syst. Myc. 1: 486. 1821; Elench. Fung. 1: 233. 1828; Epicr. Myc. 581. 1838; Summa Veg. Scand. 339. 1849; Hymen. Eur. 680. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 177. 1836; Outl. Brit. Fung. 284. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 319. 1844—BONORDEN, Handb. Allgem. Mykol. 153, *f. 237*. 1851—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 120. 1868—FUCKEL, Symb. Myc. 31. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 339, *f. 91*. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 311. 1872; Enchir. Fung. 223. 1886—GILLET, Champ. Fr. 756, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 344. 1876; Hattsv. 2: 191. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 454. 1899—WINTER, Pilze, 1: 281, *f. 1*. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 732. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 402. 1888—BREFELD, Unters. Gesam. Mykol. 7: 166, *pl. 11, f. 6—13*. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 71, *f. 11*. 1892; Brit. Fungi, 450, *pl. 27, f. 8*. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 31. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 438. 1908—REA, Brit. Basid. 744. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 23: *pl. 1106*. 1932—KOBAYASI, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daig. B. 4: 226, *f. 6F, pl. 19, f. D*. 1939.

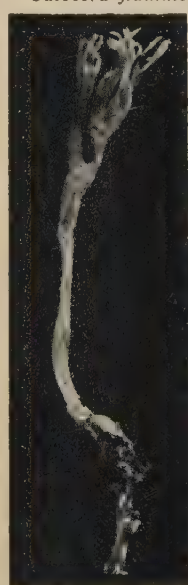
（LLOYD, Myc. Writ. 7: 1345. 1925—小林，日.隱.植.圖. 373, *pl. 177, f. 5—6*. 1939—原，日.菌.目. 39. 1954）

Clavaria flammea SCHAEFF. Fung. Bavar. 4: 118, *pl. 174*. 1774.

Clavaria viscosa PERS. Comm. Fung. Clav. 53. *pl. 1, f. 5*. 1797; Syn. Meth. Fung. 594. 1801—DC. Fl. Fr. 6: 30. 1815.

Calocera flammea QUÉLET, Fl. Myc. 457. 1888—ROLLAND, Atl. Champ. 90, *pl. 104, n. 236*. 1910—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1220. 1916—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 73. 1928.

子實體は束生，珊瑚狀，高さ 2.5—8cm，膠狀軟骨質，乾時角質，全面鮮橙黄色，子實層に被わる，基部は屢々結合し，圓筒形にて稍々同幅或は壓縮し，





第29圖　ニカワホウキタケ *C. viscosa* の子實體 ×1　（大谷氏）

幅 2—5 mm，時に根狀束あり，外部は平滑，粘質なり，上部は 2—3 叉す，各枝圓筒形，先端に向つて狹細，極枝は小圓錐形，長さ 1—3 mm。肉の中軸は彈性，白色なり，その構成菌絲は密に結合し，幅3—5 μ，無色，無岐，有隔，菌絆なし，子實下層の構成菌絲は厚膜，幅 2—5 μ，僅かに分岐す。擔子柄下嚢は黃色，長さ約 35 μ，幅 1.7—2.8 μ，上嚢長さ 10 μ に及ぶ。胞子は楕圓狀圓筒形，屈曲，基端尖り，黃色，7—11×3.5—4.2 μ，發芽時 1—3 隔膜を生ず。

所在及産地

針葉樹枯木上　北海道，本州—歐．北米．亞(印．樺)

和名 ニカワホウキタケ（膠箒茸）〔小林〕

Calocera furcata FR.

フノリタケ

FRIES, Epicr. Myc. 581. 1838; Summa Veg. Scand. 339. 1849 ; Hymen. Eur. 680. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:319. 1844—BONORDEN, Allgem. Mykol. 153, *f. 236*. 1851—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 344. 1876; Hattsv. 2 : 192. 1882: Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 455. 1899—WINTER, Pilze 1:280. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 401. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 733. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 31. 1900—BRESADOLA, Icon. Myc. 23 : *pl. 1107*. 1932. (LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 69:10. 1919—安田，植．雜．33:284. 1919—白井，日．菌．目．ed. 3. 60. 1927—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 133. 1940—原，日．菌．目．39. 1954)

Clavaria mucida (non PERS.) HORN. Fl. Dan. 22 : *pl. 1305*, *f. 1*. 1806.

Clavaria furcata FR. Syst. Myc. 1:486. 1821.

Calocera viscosa var. *furcata* QUÉL. Enchir. Fung. 223. 1886.

Calocera flammea var. *furcata* QUÉL. Fl. Myc. 457. 1888—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 73. 1928.

Calocera mucida SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1221. 1916.

Calocera cornea f. *furcata* NEUHOFF, Arkiv. Bot. 28 : 37. 1936.

子實體は單一或は分岐少なく，柔軟なる，亞軟骨質にて粘りあり，圓筒狀棍棒形或は圓筒狀紡錘形にて斷面圓形，先端尖り，叉狀をなし，基部根狀，白絨毛を帶ぶ，高さ 1—3—4，幅 0.5—2 mm，黃色或は橙黃色。擔子柄下嚢は圓筒形，30—40×3.5—5 μ，上嚢は廣き叉狀をなす。胞子は楕圓狀圓筒形，屈曲，小嘴あり，無色，平滑，7—10×4—5 μ，發芽前 1 隔膜を生ず。

所在及産地

針葉樹枯材上　　　　　　北海道，本州—歐

和名 フノリタケ（海蘿茸）〔安田〕

HOMOBASIDIAE 同擔子菌亞綱

多くは死物寄生にて或種は活物寄生をなす。屢々生木或は枯木の材中に生活す。子實體に諸形あり，その一部に子實層を作る。擔子柄は1室にて特に擔子柄上嚢を作らずして，通常4個の小柄を生じ，その各々に1胞子を附着す。胞子は通常水中に於ても1發芽管によつて發芽す。普通2つの菌類群に分つ。

A. 子實層は初めより全く空中に曝露する即ち全裸實のもの或は初期丈け膜に覆わるる即ち半裸實のもの　A. **Hymenomycetes 菌蕈類** (45)

B. 子實層は胞子の完熟後迄子實體内に包まるる即ち被實のもの

　B. **Gastromycetes 腹菌類**

Hymenomycetes 菌蕈類

菌蕈類は人により1目，2目或は數目に分たる。ここには2目とす。

A. 全裸實のもの

　Aphyllophorales ヒダナシタケ目 (45)

　(*Polyporales*)（サルノコシカケ目）

B. 半裸實のもの

　Agaricales マツタケ目

APHYLLOPHORALES (*Polyporales*)

ヒダナシタケ目（サルノコシカケ目）

子實體の形及質は甚だ變化す，質は屢々硬く，革質或は木質にて，更に肉質のものあり。子實體成生の始原より被膜に包まるることなく，從つて子實層は初めより空中に露出し，只1種ヒトクチタケ(*Cryptoporus volvatus*)に於て包膜を有するを例外とす。子實層の發育は無限的にて，外界の事情により遠心的に擴大する性を有す。

本目に屬する最も原始的なるものは特別なる子實體を作らず，只單に被害植物體表に擔子柄を並列するに留まるも，これより進みたるものは基物上に菌絲擴布し菌絲層を作り，その上に子實層を生ず。かかる菌絲層は多少形態的及組織的に異なる層を作るに至り，遂に子實體は直立或は緣邊反轉し，棍棒形，樹枝狀，漏斗形或は坐生又は側生，更に莖を有する傘形を呈するに至る。これ等發達の過程に於て平坦なる子實層は皺狀，粒狀，齒牙狀，網狀，管孔狀等の突起を作るに至る。發達低度のものには縱性擔子柄を有するもの多く，高度のものは多くは横性なり。

本目は從來只單に子實層托の外見的特徴のみにより分類せられたるも，其後研究の進むに從つて組織的並に發生的性質を明かにせられ，系統的分類を企てられつつあり。玆には各種性質の綜合によつて次の9科に分ちて記述せり。

科檢索表

I. 活物寄生菌にて顯花植物葉莖果實等を侵し，その表面に棍棒形の擔子柄を密生或は散生す，胞子は發芽前に横隔を生じ，各細胞より分生胞子を生ず。

　モチビヨウキン科 Exobasidiaceae (46)

II. 地上生或は樹上生，子實體は肉質或は革質，直立し，絲狀，棍棒形或は樹枝狀，然し傘を作らず，子實層は平坦或は僅か縱皺あり，大なり小なり兩面生，胞子は無色或は帶黃色，發芽管を以て發芽す。　**ホウキタケ科 Clavariaceae** (56)

III. 地上生或は樹上生，子實體は肉質，直立し，漏斗形或は喇叭形或は棍棒形にて先端廣く且つ截頭，外周に子實層ありて廣く低き縱畦あり，外見マツタケ目の如きも擔子柄內核分裂の紡錘絲は縱性なり。　**アンズタケ科 Cantharellaceae** (96)

IV. 樹上生，背着にて廣く基物上に擴布固着し，或

は反轉して傘狀となり，稀に直立し有莖となる，纖維質，膜質或は革質，極めて稀に膠質のものあり，子層實は平坦，種々異形の絲狀讚及囊狀讚を有し，稀に之れを缺く，胞子は無色。

コウヤクタケ科 Corticiaceae (104)

V. 地上或は樹上生，子實讚は薬狀，珊瑚狀，傘形，半背着或は背着し，纖維質の膜質，肉質或は革質，肉は通常暗褐色なる特性あり，子實層托は平坦，粒狀，刺狀，稀に孔狀，囊狀讚は通常缺如，胞子は一般に有色，有稜或は有疣。

イボタケ科 Phylacteriaceae (170)

VI. 地上及樹上生，子實讚は肉質或は革質，稀に木質，形種々ありて，有莖の傘形，側生或は背着す，子實層托は齒牙狀，刺狀，粒又は瘤等の突起を有す，胞子は無色，或は淡色，平滑或は突起あり。

ハリタケ科 Hydnaceae (185)

VII. 樹上生，子實讚は膜肉質或は蠟質，多くは背着にて反轉傘，更に有莖のものあり，子實層托は鈍く突起し，周縁有性，後網狀の廣く淺き空窩を作る，下級の種に於ては平坦或は殆ど平坦なり，胞子は無色或は有色，子實層平坦なるものはコウヤクタケ科と同様なるも胞子が有色なるにより區別さる。

シワタケ科 Meruliaceae (201)

VIII. 樹上生，子實讚は肉質，背着，反轉或は側莖を有し，子實層面に多數の長管を密集し，外見サルノコシカケ科に類似するも各管獨立遊離せるを異點とす，胞子は殆ど無色。

カンゾウタケ科 Fistulinaceae (210)

IX. 通常樹上生，稀に地上生，子實讚は木質，栓質，革質或は肉質，背着，反轉，坐生或は有莖，子實層托は管孔狀，孔口は正圓形，多角形，迷路狀，齒牙狀，更に放射狀褶等に變化す。

サルノコシカケ科 Polyporaceae (211)

EXOBASIDIACEAE　モチビョウキン科

本科に屬する菌は顯花植物の葉，莖，更に果實にも寄生し，被害部を肥大，屈曲し，屢々著しき菌癭を作る。菌絲は細胞間隙を走り，菌絆なく，接觸細胞內に吸根を入れ或は細胞內に入る，熟後表皮を破り或は氣孔より擔子柄を抽出し，特別なる子實讚を作らず。擔子柄は棍棒形或は圓筒形にて密に並列し，先端に 2—6 又は 8 個の小柄を生じ，多くは鎌形に屈曲せる胞子を着く。子實層中に囊狀讚なし。擔子柄內の核分裂に當り或種に於て縱橫性の共に起るものあり。胞子は發芽前橫隔を生じ，各室より發芽管を生じ分生胞子を作り，或は芽生す。

本邦既知屬檢索表

A. 菌絲は細胞間隙に存し，擔子柄は表皮細胞より抽出し，通常 4—6 胞子を生ず，絲狀讚なし。

モチビョウキン屬 **Exobasidium** (46)

B. 菌絲は細胞內生にて，擔子柄は氣孔より抽出して團塊となり，屢々長き絲狀讚を混在し，擔子柄は型的には 2 小柄を有す。

コルヂアナ屬 **Kordyana** (55)

〔因 記〕 從來本科に屬するものとして *Microstroma* 及び *Urobasidium* を記し，本邦所產のものとして *M. juglandis*, *M. album* var. *japonicum*, *M. tonellianum* 及び *Urobasidium rostratum* の 4 種を報告さる。然れ共兩屬共に不完全菌類に屬すべきものなるを確かめらるるに至りたるを以て，ここには之れを省けり。

Exobasidium WORON.

モチビョウキン屬

WORONIN, Verh. Nat. Ges. Freib. 4:397. 1867.

菌絲は葉莖內細胞間隙に擴布し，屢々肥大せる菌癭を作り又天狗巢を生ず。擔子柄は表皮を破りて抽出し，白粉を散布せるが如く見ゆ，棍棒形或は圓筒形にて，先端に 4，稀に 2—6 箇の小柄を生じ，之れに鎌形の胞子を着く。胞子は發芽前橫隔を生じ，發芽管を出し分生胞子を作り或は芽生す。

(本屬名は exo-(外) basidium (擔子柄) より出づ)

基準種　*E. vaccinii* (FUCK.) WORON.

本邦既知種檢索表

A. ガンコウラン科 (*Empetraceae*) 寄生種，葉片を侵し，少しく肥厚黃變せしむ。

ガンコウランハブクレモチビョウキン

E. empetri (47)

B. ツバキ科 (*Ternstroemiaceae*) 寄生種。

a. ツバキ (*Camellia*) に寄生。

α. 芽を侵し著大なる菌癭を作る。

ツバキモチビヨウキン *E. camelliae* (48)

β. 葉を侵し著しき肥厚を起さず。

ツバキコナモチビヨウキン

E. nudum (48)

b. サザンクワに寄生，葉芽を侵し全葉肥厚す。

サザンクワモチビヨウキン

E. gracile (49)

c. チヤ (*Thea*) に寄生。

α. 葉片被害部は肥厚せず，子實層は網狀をなす。チヤアミモチビヨウキン

E. reticulatum (49)

β. 葉片に圓形膨腫を起し，子實層は綿絮又は粉狀。チヤハブクレモチビヨウキン

E. vexans (50)

C. ツツヂ科 (*Rhodoraceae*) 寄生種。

a. ハナヒリ (*Eubotryoides*) に寄生，葉に圓形病斑を生じ著しき變形を起さず。

ハナヒリヒラモチビヨウキン

E. bisporum (50)

b. ネヂキ (*Lyonia*) に寄生，著しき菌癭を作る。

ネヂキモチビヨウキン ***E. pieridis*** (51)

c. シヤクナゲ屬 (*Rhododendron*) 寄生種。

α. 眞正シヤクナゲ區 (*Eu-Rhododendri*) 寄生種。

I. 半球形或は扁球形の菌癭をつくる，ホンシヤクナゲに寄生。

シヤクナゲタマモチビヨウキン

E. hemisphaericum (51)

II. 全葉黄變し，著しき肥厚をなさず，シロシヤクナゲ，キバナシヤクナゲに寄生。

シヤクナゲコナモチビヨウキン

E. shiraianum (51)

β. 其他のツツヂ區に寄生。

I. 天狗巢を生ず，ヤマツツヂ，ホツツヂに寄生。ツツヂテングスモチビヨウキン

E. pentasporium (52)

II. 球狀或は不正形癭を作り，變形著し，サツキ，キリシマ，モチツツヂ，ヤマツツヂ其他に寄生。ツツヂモチビヨウキン

E. japonicum (53)

d. スノキ屬 (*Vaccinium*) 寄生種。

α. 葉裏に子實層を生じ，變形を起さず，小柄は2，クロマメノキ，クロウスゴ，エゾノクロウスゴ，オオバスノキ等に寄生。

クロマメノキコナモチビヨウキン

E. vaccinii-uliginosi (53)

β. 各部を侵し，種々なる病狀を呈し，菌癭を作る。小柄は通常4，コケモモ，オオバスノキに寄生。

コケモモモチビヨウキン

E. vaccinii (54)

D. ハイノキ (*Symplocaceae*) 寄生種，葉芽を侵し，珊瑚狀變形を起す，クロキに寄生。

クロキモチビヨウキン

E. symploci-japonicae (55)

Exobasidium empetri

ガンコウランハブクレモチビヨウキン

幼葉を侵し，全葉少しく肥厚し，稍々黄變するの



第30圖 ガンコウランハブクレモチビヨウキン *E. empetri*

a. 被害の狀　b. 擔子柄及胞子 ×680 （大谷氏）

みにて著しき病徴を呈さず。菌絲は細胞間隙を走り，擔子柄は表皮を貫きて抽出するも著しき子實層を作らず，從つて肉眼的には殆ど擔子柄の生成を認めず。擔子柄は棍棒形にて屢々中膨れとなり，比較的短大なり，20—28×8.5 μ，頂に太き2小柄を叉狀に生じ稀に4小柄を有す。胞子は楕圓形或は倒卵形，小嘴を有し，平滑，無色，8.5—14×5.5—9.5 μ，發芽前1横隔を生ず。

寄主及産地

ガンコウラン（*Empetrum nigrum* L. var. *japonicum* K. KOCH）　北海道

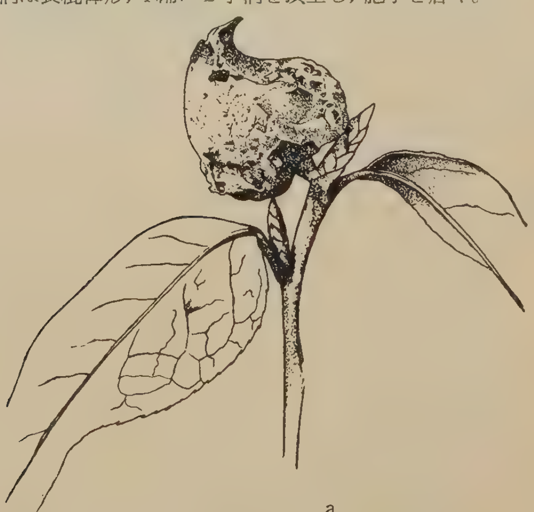
和名　ガンコウランハブクレモチビヨウキン（岩高蘭葉腫餅病菌）

Exobasidium camelliae SHIRAI
ツバキモチビヨウキン

SHIRAI, Bot. Mag. Tokyo, 10:51, *pl. 4, f. 1—3.* 1896—SACCARDO, Syll. Fung. 14 : 229. 1899.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28:226. 1901—松村，植. 名鑑，1:142. 1904—吉永，植. 雜. 18:31. 1904—吉野，植. 雜. 19 : 200. 1905—白井，日. 菌. 目. 33. 1905; ed. 2. 231. 1917; ed. 3. 134. 1927—德淵，植. 集說，308. 1911—今關，日. 隱. 植. 圖. 375, *pl. 178, f. 1—3.* 1939—赤井，植. 雜. 53:118, *f. 1—6, pl. 1.* 1939—原，日. 菌. 目. 121. 1954)

芽を侵し，著しき大形の肥大變形を起さしむ。往々全芽は中空なる幾分球形の不規則菌癭となり長さ15 cm 或はそれ以上に達す。子實層は菌癭の全面を一様に覆う，初め皮下組織の10數の細胞層に被わるるも後表層破れて小片となり子實層露出す。擔子柄は長棍棒形，4稀に2小柄を頂生し，胞子を着く。



a



b

第31圖　ツバキモチビヨウキン *E. camelliae*
a. 被害の狀　b. 擔子柄及胞子　×400
（大谷氏）

胞子は圓壔狀倒卵形，14.5—19×6—8 μ，發芽前1—7横隔及1—2縱隔を生じ，各室より，分生胞子を生ず。

寄主及産地

ツバキ（*Camellia japonica* L. var. *hortensis* MAK.）　本州，四國，九州

和名　ツバキモチビヨウキン（椿餅病菌）〔白井〕

Exobasidium nudum (SHIRAI)
ツバキコナモチビヨウキン

Exobasidium camelliae var. *nudo* SHIRAI，農業國，5 : 23. 1911.

(白井，日. 菌. 目. ed. 3. 134. 1927—原，日. 菌. 目. 121. 1954)

Exobasidium sp. 逸見，日. 植. 病. 報. 2 : 293. 1930.

梢及葉を侵し，被害梢は不規則に膨大彎曲し，初め帶黃白色，後白粉に蔽わる，葉に於ては中肋其他の



a



b

第32圖　ツバキコナモチビヨウキン *E. nudum*
a. 被害の狀　b. 擔子柄及胞子 ×400（大谷氏）

部分に稍々圓形或は不正形，徑1—4cm の病斑を生じ，葉表稍々凹入し，黄色或は黄紅色の外圈を有し，葉裏稍々膨出し，表面に白色の子實層を生ず。子實層は早く露出し，擔子柄は長棍棒形，100×7.5μ 內外，4小柄を有し，胞子は圓壔狀倒卵形，8.5—17×4.5—7μ，發芽前1—3横隔を生ず。

寄主及產地

ツバキ(*Camellia japonica* L.)　本州，四國，九州

和名　ツバキコナモチビヨウキン（椿粉餅病菌）

Exobasidium gracile (SHIRAI) SYD.

サザンクワモチビヨウキン

SYDOW, Ann. Myc. **10**: 277. 1912.

Exobasidium Camelliae var. *gracilis* SHIRAI, Bot. Mag. Tokyo, **10**: 52, *pl. 4, f. 4—8*. 1896—SACCARDO, Syll. Fung. **14**: 229. 1899.

（松村，植．名鑑，**1**: 142. 1904—吉永，植．雜．**18**: 31. 1904—白井，日．菌．目．33. 1905; ed. 2. 231. 1917; ed. 3. 134. 1927—赤井，日．植．病．報．**9**: 61, *f. 1—2, pl. 3*. 1939—原，日．菌．目．121. 1954）

Exobasidium Camelliae-oleiferae SAWADA，臺．博．報．**25**: 138. 1935；臺．菌．調．報．**7**: 69, *pl. 1, f. 15—18*. 1942.

（原，日．菌．目．121. 1954）

葉芽を侵し，全葉肥厚し初め淡綠白，後紅色を呈す，肥厚部は肉質にて常葉の數倍の厚さを有す。子實層は葉裏，時に兩面に生ず，初め 3—4 細胞層に覆わるるも，此層は熟後剝離し薄片となりて葉縁に附着殘存し，子實層露出す。擔子柄は長棍棒形，2—4 小柄を生じ，胞子を着く。胞子は圓壔形にて基部狹細，少しく屈曲し，14.5—20×3—7μ，發芽前多くは3横隔を生じ，各室より分生胞子を生ず。

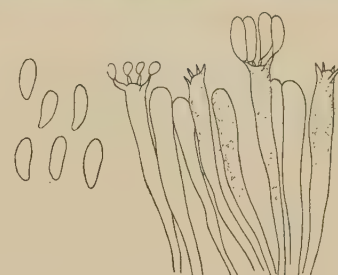
寄主及產地

サザンクワ (*Camellia sasanqua* THUNB.)

本州，四國，九州—臺(臺)



a



b

第33圖　サザンクワモチビヨウキン *E. gracile*
a. 被害の狀　b. 擔子柄及胞子 ×400（大谷氏）

和名　サザンクワモチビヨウキン
（山茶花餅病菌）〔白井〕

Exobasidium reticulatum ITO et SAWADA

チヤアミモチビヨウキン

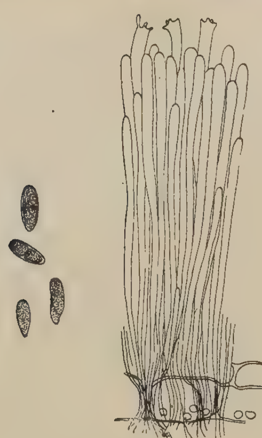
S. ITO & SAWADA, Bot. Mag. Tokyo, **26**: 241, *f. 1—7*. 1912.

（澤田，臺．農．報，**70**: 1. 1912；臺．農．試．特．報．**11**: 104. 1915; **19**: 427—藤黑，植．雜．**28**: 485. 1914—白井，日．菌．目．ed. 2. 233. 1917; ed. 3. 135. 1927—今關，日．隱．植．圖．377, *pl. 179, f. 3—5*. 1939—原，日．菌．目．122. 1954）

葉を侵し，初め小淡黃色の病斑を生ず，多くは病斑は 1—2 個にて徑 2—3cm に及び，時に全葉を覆う，後暗褐色となり全葉乾固收縮す。子實層は葉の裏面に表皮を破りて露出し，小網狀に連結し，白色，後暗褐色となる。擔子囊は長圓壔狀棍棒形，100—135×3—4μ，多くは4小柄を生ず，小柄長さ 2—3μ。胞子は圓壔狀倒卵形，眞直或は多少屈曲す，9—12



a



b

第34圖 チヤアミモチビヨウキン *E. reticulatum*
a. 被害の狀 ×1 b. 擔子柄及胞子 ×400

×3—3.5 μ, 發芽前1横隔を生じ發芽管を生ず。

寄主及産地

チヤ (*Thea sinensis* L.) 本州一亞(臺)

和名 チヤアミモチビヨウキン (茶網餅病菌)

Exobasidium vexans MASS.
チヤハブクレモチビヨウキン

MASSEE, Bull. Misc. Inf. 1898:111, *f. 6—10.* 1898—SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 198. 1902—SPESCHNEW, Pilzpar. Teestr. 10, *pl. 1, f. 11—15.* 1907—MCRAE, Bull. Agr. Res. Inst. Pusa, 18. 1910—SYDOW & BUTLER, Ann. Myc. 10:274. 1912.

(川上及鈴木, 臺. 農. 試. 報. 1:30. 1908—川上, 臺. 農. 報. 38. 1911—澤田, 臺. 農. 報. 70. 1912; 臺. 農. 試. 報. 11:96, *pl. 4, f. 1—6.* 1915; 19:433. 1919—藤黑, 植. 雜. 28 : 485. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 235. 1917; ed. 3. 135. 1927—原, 日. 菌. 目. 122. 1954)



第35圖 チヤハブクレモチビヨウキン *E. vexans* 被害の狀 ×1 (MCRAE 氏による)

嫩葉, 嫩枝を侵し, 葉に於ては初め圓形に褪色し, 上面漸次凹陷し, 時に其表面紅色を帶ぶ, 葉裏水腫狀に膨れ白粉に覆わる, 徑 4—15 mm, 後局部枯死穿孔す, 嫩枝に於ては被害部膨大屈曲し, 後被害部以上の部枯死す。子實層は葉裏凸面に生じ, 擔子嚢は長圓壔狀棍棒形, 49—150×3.5—6 μ, 小柄は2稀に4個, 長さ 3—4.5 μ, 胞子は圓壔狀倒卵形, 11—16×3.5—6 μ, 發芽前に1横隔を生じ, 各室より發芽管を生ず。

寄主及産地

チヤ (*Thea sinensis* L.) 本州一亞(臺. 印)

和名 チヤハブクレモチビヨウキン
(茶葉腫餅病菌)

Exobasidium bisporum SAWADA
ハナヒリヒラモチビヨウキン

SAWADA, Tohoku Biol. Res. 1:97, *f. 1.* 1950.

葉を侵し, 病斑は散生し, 類圓形或は圓形, 稍々



a



b

第36圖　ハナヒリヒラモチビヨウキン
E. bisporum

a. 被害の狀　b. 擔子柄及胞子　×400（大谷氏）

隆起或は平坦、葉表にては黃褐白色，赤橙色或は帶紫褐色にて濃赤褐色の縁を有す，裏面は白色，粉狀，徑 1cm 或はそれ以上に及ぶ。擔子柄は葉裏に生じ棍棒形，2小柄を生ず，40—55×6—9μ，胞子は圓壔形或は長倒卵形，稍々屈曲し，基端鈍尖す，平滑，無色，15—24×6—7μ，發芽に當り多くは3横隔を生じ，發芽して線形或は長紡錘形，7—14×1—2.5μの二次胞子を生ず。

寄主及産地　ハナヒリノキ（*Eubotryoides grayana* HARA var. *oblongifolia* HARA）ヒロハハナヒリノキ（var. *glabra* HARA）北海道，本州

和名　ハナヒリヒラモチビヨウキン

（木藜蘆平餅病菌）〔澤田〕

Exobasidium pieridis P. HENN.

ネヂキモチビヨウキン

P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32:38. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 17: 190. 1905—SYDOW & BUTLER, Ann. Myc. 10: 277. 1912.

（P. HENNINGS, Hedwigia, 40, Beibl. 125. 1901; Bot. Jahrb. 31:736. 1902—松村，植. 名鑑，1:142. 1904—白井，日. 菌. 目. 34. 1905; ed. 2. 233. 1917; ed. 3. 135. 1927—吉永，植. 雜. 16:2. 1902—赤井，植. 硏. 雜. 15:484, *f. 1—4.* 1939—原，日. 菌. 目. 121. 1954）

葉及葉柄並に莖を侵し，莖は肥大し，約2倍徑に及ぶことありて，結節狀癭を作り，或は葉のみを侵して癭を作る，各癭は稍々肉質にて類球形或は裂け，肉色にて粉狀，大さ1樣ならず。擔子柄は棍棒形，4小柄を有し，胞子は圓壔狀紡錘形にて屈曲せず，無色，7—9×3μ。

寄主及産地

ネヂキ（*Lyonia nejiki* NAKAI et HARA＝*Pieris ovalifolia* MAKINO）　本州，四國—亞(印)

和名　ネヂキモチビヨウキン（ネヂキ餅病菌）

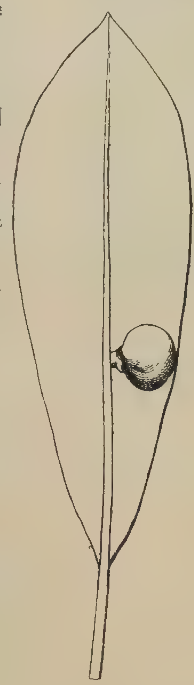
Exobasidium hemisphaericum SHIRAI

シヤクナゲタマモチビヨウキン

SHIRAI, Bot. Mag. Tokyo, 10:53, *pl. 4, f. 12—17,* 1896—SACCARDO, Syll. Fung. 14: 230. 1899.

（白井—松村及三好，新. 日. 植. 圖說，1: *pl. 60.* 1900; 日. 菌. 目. 33. 1905; ed. 2. 233. 1917; ed. 3. 134. 1927—P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28: 267. 1901; 34:599. 1905—松村，植. 名鑑，1:142. 1904—吉永，植. 雜. 18:31. 1904—澤田，臺. 菌. 調. 報. 5:64, *pl. 3, f. 29.* 1931; 東北，生. 硏. 1:98. 1950—原，日. 菌. 目. 121. 1954）

葉裏中肋，葉脈及嫩枝を侵し，菌癭を作る。癭は肉質，初め洋梨形にて上部圓形，基部狹細，後膨大し 3cm 以上の半球形又は扁球形となる，外層密にて內層海綿狀，表面白色を呈す。子實層は上皮下に生じ，後破出し，癭の殆ど全面を蔽う。擔子柄は棍棒狀圓筒形，4小柄を有す。胞子は圓壔狀紡錘形，眞直又は少しく屈曲し，15—19×3.5—4.5μ，發芽前橫隔を生じ，發芽して分生胞子を生ず。



a



b

第37圖　シヤクナゲタマモチビヨウキン
E. hemisphaericum　a. 被害の狀（白井氏原圖）
b. 擔子柄及胞子　×400（大谷氏）

寄主及産地

ホンシヤクナゲ（*Rhododendron Metternichii* SIEB. et ZUCC. var. *hondoense* NAKAI）

本州，四國—亞(臺)

和名　シヤクナゲタマモチビヨウキン

（石南玉餅病菌）

Exobasidium shiraianum P. HENN.

シヤクナゲコナモチビヨウキン

P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32: 38. 1903—SAC-

CARDO, Syll. Fung. 17 : 190. 1905.

（白井，日. 菌. 目. 34. 1905; ed. 2. 235. 1917; ed. 3. 135. 1927—原，日. 菌. 目. 122. 1954）

葉を侵し，葉片殆ど肥厚せざるか或は少しく肥厚し，全葉褪色す，子實層は葉裏に生じ，廣く擴布し，



a



b

第 38 圖　シヤクナゲコナモチビヨウキン
E. shiraianum
a. 被害の狀　b. 擔子柄及胞子 ×544（大谷氏）

白色にて粉狀を呈す。擔子柄は棍棒形，4 小柄を有し，胞子は紡錘形，眞直或は稍々屈曲し，無色，7—11×2.5 μ。天狗巣を起さず。

寄主及産地　シロバナシヤクナゲ（*Rhododendron fauriae* FR. var. *rufescens* NAKAI），キバナシヤクナゲ（*R. chrysanthum* PALL.）北海道，本州

和名　シヤクナゲコナモチビヨウキン
（石南粉餅病菌）

Exobasidium pentasporium SHIRAI
ツツヂテングスモチビヨウキン

SHIRAI, Bot. Mag. Tokyo, 10:53, *pl. 18—19.* 1896—SACCARDO, Syll. Fung. 14 : 230. 1899.

（P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 267. 1901; 32: 38. 1903—松村，植. 名鑑，1:142. 1904—白井，日. 菌. 目. 34. 1905; ed. 2. 233. 1917; ed. 3. 135. 1927—SYDOW, Ann. Myc. 11 : 93. 1913—澤田，東北. 生. 硏. 1 : 99. 1950—原，日. 菌. 目. 121. 1954）

Microstroma pentaspora SHIRAI，今關，日. 隱. 植. 圖. 377, *pl. 179, f. 1—2.* 1939.

葉莖を侵し，病斑は葉の 1 部，或は全葉面に 1 様に擴がり，淡綠色，肥厚せざるか或は僅に肥厚し，菌絲は莖中に越年し天狗巣を生ず。子實層は葉裏表皮下に生じ，擔子柄は表皮及び氣孔より抽出し，白



a



b



c

第39圖　ツツヂテングスモチビヨウキン
E. pentasporium
a, b. ホツツヂ被害の狀（原圖）
c. 斷面　×180（白井氏原圖より模寫）

色を呈す。擔子柄は圓壔狀棍棒形，4—6，多くは5小柄を生ず。胞子は圓壔狀腎臟形，約 14.5×4 μ。

寄主及產地

ヤマツツヂ（*Rhododendron kaempferi* PLAN.）コメツツヂ（*R. tschonoskii* MAX.）ホツツヂ（*R. weyrichii* MAK.）等　北海道—本州

和名　ツツヂテングスモチビヨウキン
（躑躅天狗巢餅病菌）

Exobasidium japonicum SHIRAI
ツツヂモチビヨウキン

SHIRAI, Bot. Mag. Tokyo, 10:52, *pl. 4, f. 9—11.* 1896—SACCARDO, Syll. Fung. 14:229. 1899—REA, Brit. Basid. 725. 1922.

（P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28:266. 1901—松村, 植. 名鑑, 1:142. 1904—吉永, 植. 雜. 18:31. 1904—白井, 日. 菌. 目. 34. 1905; ed. 2. 233. 1917; ed. 3. 134. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 375, *pl. 178, f. 4—5.* 1939—澤田, 東北. 生. 硏. 1:98. 1950—原, 日. 菌. 目. 121. 1954）

Exobasidium Rhododendri (sub CRAMER)

（P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32:38. 1903—松村, 植. 名鑑, 1:142. 1904—白井, 日. 菌. 目. 142. 1905; ed. 2. 233. 1917; ed. 3. 135. 1927—吉野, 植. 雜. 19:200. 1905—原, 日. 菌. 目. 122. 1954）

葉を侵し菌癭を作る。菌癭は肉質，葉裏に球狀の袋となり或は不正形にて葉の1部或は全葉變形す，膨大部は初め綠色にて光澤あり，漸次日射面紅色となり，子實層の成生によつて粉白色となる。擔子柄は表皮を破りて抽出す，圓壔狀棍棒形にて，4稀に2—5小柄を生ず。胞子は圓壔狀腎臟形，平滑，無色，12—14.5×4 μ。

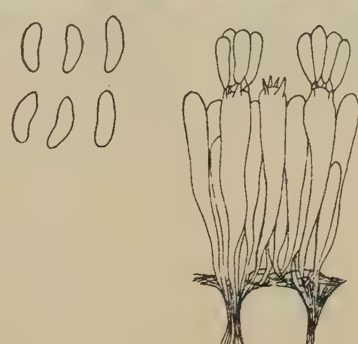
寄主及產地

サツキ（*Rhododendron lateritium* PLANCH.）





a



b

第40圖　ツツヂモチビヨウキン *E. japonicum*
a. 被害の狀　b. 擔子柄及胞子　×600（大谷氏）

キリシマツツヂ（*R. obtusum* PLANCH.）
モチツツヂ（*R. linearifolium* S. et Z.）
ヤマツツヂ（*R. kaempferi* PLANCH.）等. 全土

和名　ツツヂモチビヨウキン（躑躅餅病菌）〔白井〕

Exobasidium vaccinii-uliginosi BOURD.
クロマメノキコナモチビヨウキン

BOURDOT, Bull. Soc. Bot. Fr. 41:CCXLIV. 1894—SACCARDO, Syll. Fung. 21:420. 1912; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1205. 1916—TRANZSCHEL, Pilze

Myx. Kamtsch. 571. 1914—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 2 : 654. 1915—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 76. 1928.

Exobasidium Vaccinii f. *ramicola* THOMAS, Verh. Zool. Bot. Ges. Wien, 86. 1889.

Exobasidium Vaccinii d. *Vaccinii uliginosi* FUCK. Fungi rh. 2610; Symb. Myc. Nachtr. 3: 7. 1895.

葉芽を侵し，子實層は葉裏に生じ，圓形或は全葉面を被い，白色絨毛狀，著しき變形を起さず，葉表は赤色を呈す。擔子柄は密に並列し，大形，２小柄を有し，胞子は基部の方屈曲し，平滑，無色，16—20×7—8 μ（原記載は 25—32×8—12 μ）。

寄主及産地

クロマメノキ（*Vaccinium uliginosum* L.）

クロウスゴ（*V. axillare* NAKAI）

エゾノクロウスゴ（*V. chamissonis* BONG.）

オオバスノキ（*V. smallii* A. GRAY）

北海道、本州—歐．北米．亞（西比）

和名　クロマメノキコナモチビヨウキン（クロマメノキ粉餅病菌）



a

b

第 41 圖　クロマメノキコナモチビヨウキン *E. vaccinii-uliginosi*
a. エゾノクロウスゴ被害の狀
b. オオバスノキ上の擔子柄及胞子 ×600
（大谷氏）



a

b

第 42 圖　コケモモモチビヨウキン *E. vaccinii*
a. コケモモ被害の狀　b. 擔子柄及胞子 ×540
（大谷氏）

Exobasidium vaccinii (FUCK.) WORON.

コケモモモチビヨウキン

WORONIN, Verh. Nat. Ges. Freib. 4(4):397, *pl. 1—3.* 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 26. 1869—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 321. 1876; Hattsv. 2: 152. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 431. 1889—WINTER, Pilze 1 : 322. 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 213. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 664. 1888; Fl. Ital. Crypt. 1206. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 413. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 108, *f. 22.* 1892; Brit. Fungi, 430. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 35, *f. 26.* 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 423, *f. 103.* 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 29, *pl. 15, f. 5—6.* 1912

—TRANZSCHEL, Pilze Myx. Kamtsch. 571. 1914—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 2:649, *pl.* 21. 1915—REA, Brit. Basid. 725, 1922—BOURDOT et GALZIN, Hymen. Fr. 75. 1928.

（吉永，植. 雑. 15:96. 1901—P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32:38. 1903(?)—松村，植. 名鑑，1:142. 1904—白井，日. 菌. 目. 34. 1905; ed. 2. 235. 1917; ed. 3. 135. 1927—澤田，東北. 生. 研. 1 : 99. 1950—原，日. 菌. 目. 122. 1954)

Fusidium Vaccinii FUCK. Bot. Zeit. 19 : 251. 1861)

葉，幼梢及花を侵し，屢々菌癭を作る，葉に於ては葉裏或は兩面に子實層擴く擴布し，葉癭は球形或は不正形，上面は幾分赤色を帶ぶるを常とし，裏面に子實層を生ず，子實層は痂狀或は氈狀にて密，帶灰白色なり，擔子柄密生或は幾分散生する叢よりなり，之れに稍々直立せる纖細の多少纒絡し分岐せる分生胞子を生ずる菌絲を混ず。擔子柄は型的には4小柄を有す。胞子は無色，1室或は1隔膜を有す，10—20×2.5—5 μ，普通約 12—18×3—3.5 μ，發芽に當つて3横隔を生ず。分生胞子は1室，6—9×1—1.5 μ。

寄主及産地

コケモモ (*Vaccinium vitis-idaea* L.)

オオバスノキ (*V. smallii* A. GARY)

北海道，本州—歐. 北米

和名 コケモモモチビヨウキン(コケモモ餅病菌)

Exobasidium symploci-japonicae KUSANO et TOKUB.

クロキモチビヨウキン

KUSANO, Bot. Mag. Tokyo, 21:138, *f. 1.* 1907—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 420. 1912.

(白井，日. 菌. 目. ed. 2. 235. 1917; ed. 3. 135. 1927—原，日. 菌. 目. 122. 1954)

葉芽を侵し，初め稍々肥厚せる柱狀の莖部を生じ，



第43圖 クロキモチビヨウキン *E. symploci-japonicae* 被害の狀 ×1/4（大谷氏）

更に之れより 2—3 枝を出し，各節より出づる葉は扁平となるもの少なく寧ろ病莖に似て恰も肥厚せる珊瑚狀を呈す，又被害輕微のものは葉は長倒卵形にて稍々本形を存す，芽苞は多くは健全にて變形枝條の基部に殘存す。子實層は被害部の全面に生じ白色，擔子柄は長棍棒形，長さ 120—140 μ，4稀に 2—5 小柄を生ず。胞子は棍棒形，屈曲，17—22.5×6—7 μ。

寄主及産地

クロキ (*Symplocos lucida* SIEB. et ZUCC.)

本州，四國，九州

和名 クロキモチビヨウキン(黒木餅病菌)〔草野〕

疑 問 種

Exobasidium Butleri SYD.

(澤田，東北. 生. 研. 1 : 98. 1950)

Exobasidium hexasporium KUSANO

(*Microstroma hexaspora* (KUSANO) SHIRAI)

(白井，日. 菌. 目. ed. 2. 233. 1917; ed. 3. 134. 1927—原，日. 菌. 目. 121. 1954)

Exobasidium Magnusii WORONICHIN

(澤田，東北. 生. 研. 1 : 99. 1950)

Exobasidium Sawadae YAMADA, Descr. Cat. Formosan Fung. 1:431, *pl. 11, f. 18—21.* 1919.

(*Glomerularia Cinnamomi* SAWADA, 臺. 博. 學. 報，19 : 1914)

(白井，日. 菌. 目. ed. 3. 135. 1927—原，日. 菌. 目. 122. 1954)

Exobasidium Symploci ELL. et MART.

(草野，植. 雑. 21 : 138. 1907—白井，日. 菌. 目. 34. 1905; ed. 2. 233. 1907, ed. 3. 135. 1927—原，日. 菌. 目. 122. 1954)

Exobasidium Yoshinagai P. HENN. Bot. Jahrb. 31 : 736. 1902—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 190. 1905.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 40, Beibl. 125. 1901—吉永，植. 雑. 16 : 2. 1902—松村，植. 名鑑，1: 142. 1904—白井，日. 菌. 目. 34. 1905; ed. 2. 235. 1917; ed. 3. 136. 1927—原，日. 菌. 目. 122. 1954)

Kordyana RACIB.

コルヂアナ屬

RACIBORSKI, Paras. Algen u. Pilze Java's 2: 35. 1900—GÄUMANN, Ann. Myc. 20 : 257. 1922.

菌絲は葉を侵し，細胞間隙及細胞內を走り，比較的速かに被害部を枯死せしめ，菌癭を作らず。後菌絲は多數氣孔下室に密集し，氣孔を通じて擔子柄を放射狀に抽出し，往々絲狀體を混生す。擔子柄は不等高にて特別に子實層を作らず，細長にて，先端に型的には2小柄を生ず。擔子柄內に於ける核分裂の

紡錘絲の方向は縱性なり。

（本屬名の語源不明）

基準種　*K. celebensis* GÄUM.

本邦既知種　ツユクサハクハンビヨウキン

K. commelinae (56)

Kordyana commelinae SAWADA

ツユクサハクハンビヨウキン

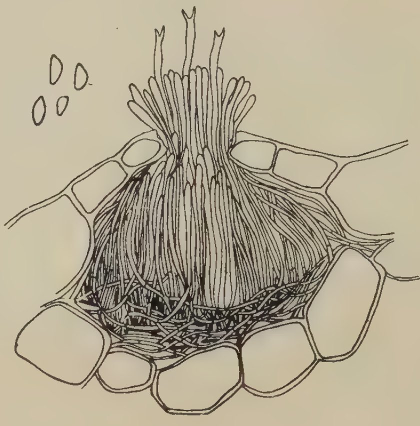
SAWADA, Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, **62**: 83. 1922; Descr. Cat. Form. Fungi, **4**:85, *pl. 3, f. 8—10*. 1923.

（澤田，東北. 生. 硏. 1:100. 1950—原，日. 菌. 目. 171. 1954）

葉を侵し，病斑は1葉上に1乃至數個，圓形にて徑4—8 mm，上面橙藁色にて綠色緣を有し，裏面極めて僅か凸面をなし白色細粒狀の黴を密生す，被害葉は衰弱，黃變萎凋す。菌絲は細胞間隙並に細胞內を



a



b

第44圖　ツユクサハクハンビヨウキン

K. commelinae

a. 被害の狀　×2

b. 擔子柄及胞子　×400　（大谷氏）

走り氣孔に近く多量となり擔子柄を形成す。擔子柄は氣孔下に於ける部分は束狀となり高さ 52—60 μ，幅ほぼ同じ，その先端は氣孔より外部に出で，高さ約 100 μ，幅約 200 μ の集塊となる。擔子柄は主として葉裏に生じ，稀に上面に出づ，細長にて基部漸細，單條，稀に分岐す，35—64×3—3.5 μ，2小柄を有す；小柄は長さ 3.5—4.5 μ。胞子は半圓形或は楕圓形，鎌形，圓頭，基端尖り或は鈍角，平滑，無色，10—14×3.5—6 μ。

寄主及產地

ツユクサ（*Commelina communis* L.）

本州—亞(臺)

和名　ツユクサ白斑病菌　〔澤田〕

〔**因記**〕本菌胞子の發芽法につきて澤田氏は發芽時に1橫隔，稀に3橫隔を生じ，發芽管にて發芽する旨を記せり。基準種は酵母の如く發芽するものなるにより此の點につき向後の調査を要す。

CLAVARIACEAE　ホウキタケ科

子實體は直立し稀に懸垂し，單一にて絲狀，圓筒形，棍棒形，紡錘形，或は舌狀をなし，或は分岐して叉狀，鹿角狀，珊瑚狀，樹枝狀又は箒狀等をなす，孤生，群生，東生或は叢生す，莖は限界確然たるものと然らざるものあり，初め莖の先端は扁平にて擴大しねぢ廻し狀をなすものと圓筒形のものとあり，これによりその後の分岐の狀態を異にし，扁平或は車軸分岐をなす，各枝の腋は銳角，鈍角，新月形，盃形等をなし，先端は銳頭，鈍頭或は短枝簇生して雞冠狀を呈す，肉は肉質，革質，蠟質等ありて脆弱或は强靱なり，菌絲は2菌絲型（中核及生殖菌絲）のものは少く，多くは1菌絲型なり，各菌絲は屢々膨大し，2次的橫隔を作るものあり，厚膜或は薄膜，菌絆或は菌橋卽ち隔膜より隔たれる部分にて橋形に菌絲の連結するものあり，子實層は莖の下部以外の全面を被うを型的とし，擔子柄は4或は2小柄を有し，胞子は平滑或は刺疣あり，異形體としては囊狀體，粘囊體の外に油狀樹脂を冠むる油冠囊體

(oleocystidia) 或は莖の表面に莖嚢體 (caulocystidia) を有するものあり，稀に2叉絲狀體を有す。子實體に發達せる基層を有するもの少く，菌絲は着生物內に擴布し，稀に根狀束を有す，活物寄生をなすもの極めて少く，大形肉質のものは多く食用に供せらる。

〔附記〕本科につきての輓近の分類學的研究としては E. J. H. CORNER 氏の著 (1950) あり，本誌は氏の式に從つて記述せり。

本邦既知屬檢索表

A. 子實體は强靱革質，耐久性，絲狀，樹枝狀或は扁平分岐し，子實層は兩面生にて漸次1面生に傾く。

a. 二菌絲型にて無色の中核菌絲と通常菌絆を有する生殖菌絲よりなる，子實體は甚だ細き絲狀枝を有するか或は單一絲狀體なり，分岐は扁平或は不定，肉は强靱にて乾時角質，胞子は無色，平滑，油球なし，粘嚢體は缺如す。

α. 子實體は垂曲し倒針の叢をなす，單一或は不定分岐し，長さ 2.5cm に及ぶ，嚢狀體は缺如，胞子は大形，材上生。

ハナビタケ屬 **Deflexula** (58)

β. 子實體は直立一子實體の基部を取りまく背着皮膜を有せず，子實體は著しく分岐し或は單一，絲狀にて小形。

フサタケ屬 **Pterula** (59)

b. 一菌絲型，或は粘嚢體あり，枝は稀に絲狀一二叉絲狀體或は剛毛體なし。

α. 粘嚢體を有す，子實體は盃狀分岐をなすか或は單一にて狹倒圓錐形，無性の先端を有す，强靱或は膠質，乾時角質，菌絲は菌絆を有し，膨大或は膨大せず，胞子は無色，小形，油球なし，材上生にて稀に地上生。

フサヒメホウキタケ屬 **Clavicorona** (60)

β. 粘嚢體なし一子實體は扁平分岐し，强靱，稀に膠質，乾時革質或は角質，菌絲は膨大せず，屢々厚膜なり，胞子は無色或は有色，平滑，粗面或は有刺，屢々有稜，油球なし一胞子は平滑，無色，菌絲は寧ろ厚膜にて菌絆なきを型的とし或はこれを有す，子實體は白，蒼白，帶褐或は帶黃色，强靱或は强靱なる膠質なり。

ビロウドホウキタケ屬 **Aphelaria** (61)

B. 子實體は通常肉質，蠟質或は膠質，早腐性，圓筒形或は壓扁され，單一或は分岐す，分岐は通常扁平分岐ならず，菌絲は一般に膨大し，粘嚢體，二叉絲狀體，剛毛體なし。

a. 胞子膜は帶赤黃色或は褐色にて，材上生のものには無色のものあるもその時は菌絲厚膜なり，子實體は分岐し稀に單一，多くは菌絆を有す，胞子は楕圓形にて屢々伸長し稀に類球形，油球を有し或は缺如す。

α. 胞子は黃，帶赤黃或は褐色，平滑或は種々の刻紋あり，多くは油球を有す，子實體は屢々著色，地上或は材上生。

ホウキタケ屬 **Ramaria** (62)

β. 胞子は無色或は甚だ淡き黃色，一般に油球なく，平滑，狹楕圓形，菌絲は厚膜となる，子實體は白色，蒼白，遮色，帶赤黃色或は帶褐色，强靱，稀に單一，材上生。

シラウオタケ屬 **Lentaria** (70)

b. 胞子膜は無色 (稀に內容有色，乾時帶黃色，若し褐色膜なれば類球形にて油球あり)，菌絲は薄膜 (若し厚膜なれば單一子實體)

α. 單一體，大形にて腐蝕物上生のものより小形にて材上生のものまであり，稀に不定枝を出す，或屬にては先端無性或は頭部を有す，肉質，蠟質或は膠質，稀に强靱，菌絲は通常菌絆を有し膨大す，胞子は油球なきか或は不明瞭なり。

I. 嚢狀體の先端に油狀樹脂分泌物を被むる所謂油冠嚢體 (oleocystidia)，或は嚢狀體を有す，子實體は小形或は微小，菌絲は莖の表面に膠着す一子實體は直立し，類圓錐形乃至類球形の中空なる頭部を有し，平滑或は有皺或は壓平さる，材上生。

タマバリタケ屬 **Physalacria** (71)

II. 嚢狀體が若し存在するも薄膜の類嚢狀體なり。

1. 子實層厚し，子實體直立す，肉質，蠟質或は堅緻にて膠質ならず，菌絲厚膜ならず一大形にて肥大棍棒形，ウスタケ狀のものより細長或は絲狀のものに至る，黃，褐，赤，焦茶色或は桃色又は菫色を帶ぶ，肉は海綿狀，堅緻或は細長種にては寧ろ剛直なり。スリコギタケ屬

Clavariadelphus (72)

2. 子實層薄し，小形乃至微小，多くは絲狀或は棍棒形乃至類球形の頭部を有す一直立す。

甲.菌絲は膨大せず,子實體は多くは微小,針狀,稀に分岐す,無莖。

シダガマホタケモドキ屬 **Ceratellopsis** (76)

乙.菌絲は多少膨大す,確然たる莖上に膠着す。

イ.菌核を有す。

ガマホタケ屬 **Typhula** (77)

ロ.菌核を有せず一厚膜の嚢狀體なし一頭部圓筒形,棍棒形或は球形,全面有性。

ガマホタケモドキ屬 **Pistillaria** (79)

β. 分岐體或は單一體,多くは地上生,一般に肉質或は脆し,菌絲は型的に膨大し,往々菌絆なくして二次的橫隔を作る,胞子は多くは1油球或は多油球にて,若し油球なきときは二次的橫隔菌絲あり。

I.擔子柄は2胞子を有し,圓筒形乃至類棍棒形,胞子分散後二次的橫隔を生ず,小柄は通常著しく內屈す,胞子は平滑,廣楕圓形乃至類球形,1油球或は多油球を含む,子實體は單一或は分岐し,車軸,扁平或は雞冠狀分岐をなす,大部分地上生。

カレエダタケ屬 **Clavulina** (80)

II.擔子柄は棍棒形にて眞直の小柄を有し,多くは4胞子を生じ,二次的橫隔を作らず,分岐法は決して扁平或は雞冠狀ならず。

1.菌絲は菌絆を有せず,多くは二次的橫隔を生ず,擔子柄は菌絆なきか或は廢き菌橋を有す,子實體は單一或は分岐し,多くは脆し,胞子は無油球或は多油球にて稀に1油球を含む,平滑。

ソウメンタケ屬 **Clavaria** (83)

2.菌絲は菌絆を有し,二次的橫隔なし,胞子は多くは1油球を含む。

甲.胞子は微細なる刺或は疣を有し,子實體は分岐す。

ヒメホウキタケ屬 **Ramariopsis** (89)

乙.胞子は平滑,僅かの種に於て粗刺或は粗面を有す(但し後者の場合は子實體は單一),子實體は單一或は分岐し,多くは肉質にて幾分脆し,僅かのものは膠質或は强靱なり,白色或は諸色にて,屢々黃,橙,桃或は赤色なり。

ナギナタタケ屬 **Clavulinopsis** (90)

Deflexula CORNER
ハナビタケ屬

CORNER, Monogr. Clav. 394. 1950.
Mucronella Auct. plur. pr. p.

子實體は僅か分岐せる垂曲の針叢よりなり,時に單一針なり,各叢は先行の刺針の基部より不定針の形成によつて作られ,分岐法は全然不定法なり,各針は突錐形或は絲狀にて先端分岐せず,基端に墓盤或は基層なし,肉は緊緻にて强靱,2菌絲型にて中核菌絲と生殖菌絲よりなり,菌絆あり。子實層は短かき莖部を除き全面に存し,擔子柄は大形,棍棒形,4小柄を有し,胞子は大形,球形或は楕圓形,厚膜,平滑,無色,嚢狀體なし,材上生,熱帶產。

(本屬名は deflecto(下屈)より出づ)

基準種 *D. fascicularis*(BRES. et PAT.)CORNER

本邦既知種檢索表

A. 胞子球形,刺は18mmに及び,屢々分岐す。

シダレハナビタケ ***D. fascicularis*** (58)

B. 胞子卵形,刺は25mmに及び,分岐少し。

ハナビタケ ***D. pacifica*** (59)

Deflexula fascicularis (BRES. et PAT.) CORNER
シダレハナビタケ

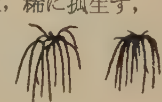
CORNER, Monogr. Clav. 395, *f. 162—3, pl. 11, f. 3.* 1950.

Pterula fascicularis BRES. et PAT. in LLOYD, Myc. Writ 1 : 50. 1901; 5 : 865, *f. 1470.* 1918; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 63. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 16:1116. 1902; 17 : 200. 1905.

Mucronella fascicularis (non FRIES) LLOYD, Myc. Writ. 4 : 532, *f. 727.* 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68 : 7. 1918)

子實體は長さ18mm,基部幅0.5—1mmに及ぶ針の束よりなり,各束は多くは群生,稀に孤生す,各針は鋭尖にて垂下し,單一或は僅か分岐し,白色にて後淡帶赤黃色,更に淡汚帶赤黃の肉色となる,基層を有せず,肉は堅靱にて撓曲性,臭なし。子實層は兩面生にて,莖部に於て之れを缺き甚だ狹き短き外生菌絲を有し無性擔子柄を散生



第45圖 a. シダレハナビタケ *D. fascicularis*×3/4

するのみ，子實層は厚さ 150 μ にて埋在胞子あり。擔子柄は棍棒形，25—50×8—11 μ，胞子は球形，小嘴を有し，平滑，無色，9—10.5×9—10 μ，嚢狀體なし。

所在及產地 枯木上　本州一亜(比.馬)南洋

和名 シダレハナビタケ（枝垂花火茸）

Deflexula pacifica (KOBAY.) CORNER

ハナビタケ

CORNER, Monogr. Clav. 399. 1950.

Mucronella pacifica KOBAYASI, Bot. Mag. Tokyo, 53:160. *f. 4.* 1939. (S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. soc. 15 : 128. 1940—原，日. 菌. 目. 210. 1954)

? *Hydnum fasciculare* (non BERK. et CURT.) (白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 283. 1917; ed. 3. 165. 1927)

子實體は高さ 2.5 cm に及び，基部幅 0.03—0.1 cm，少數乃至多數の針が叢生し，垂曲し，基層なし，弓形突錐狀，單一或は基部に於て叉狀をなす，白色，後稍々帶赤黃色となる，肉は緊緻にて中實，菌絲は幅 3.5—4 μ，縱走す。擔子柄は棍棒形，40—45×9—10 μ，4 小柄を有す，胞子は卵形，小嘴を有し，稍々厚膜，平滑，無色，12—13.5×6.5—7 μ，油球なし，嚢狀體なく，僅少の絲狀，幅 2 μ の菌絲ありて，擔子柄間に起り僅か抽出す。



第 45 圖
b. ハナビタケ
D. pacifica ×3/4

所在及產地

オオバシマムラサキ (*Callicarpa subpubescens* HOOK. et ARNOTT.) 等の枯幹上　小笠原島

和名 ハナビタケ（花火茸）〔小林〕

Pterula FRIES

フサタケ屬

FRIES, Syst. Orb. Veg. 90. 1825—CORNER, Monogr. Clav. 501. 1950.

Penicillaria CHEVALLIER, Fl. Gen. 1:111. 1826.

Phaeopterula P. HENNINGS, Hedwigia, 43:175. 1904.

子實體は多く分岐して叢狀となり或は單一なり，莖は一般に判然，短くして細く，時に基盤を有す，各枝は幅 0.3—1 mm，細長，圓柱形，先端細突錐狀或は絲狀に漸細す，分岐は交互平面に扁平叉狀に行われ多軸，或は叉狀分岐の短縮により外觀輪生の如くなり，尙不定分岐によつて單軸ともなる，肉は強靱，2 菌絲型なり，子實層は莖部及主枝の先端以外に存す，擔子柄は小形，棍棒形，2—4 小柄を有す，胞子は楕圓形乃至類球形，多くは平滑，無色，油球なし，嚢狀體は存し或は缺如，粘嚢體なし；腐蝕物，材及植物性殘物上生，溫帶及主に熱帶產。

（本屬名は pteron（羽毛）より出づ）

基準種　*P. subulata* FR.

本邦既知種檢索表

A. 胞子卵形或は楕圓形。

　a. 胞子 8—10×5—7 μ，枝は灰白色，後黃色，先端多く分裂す，枯木上生。

　　カンザシタケモドキ ***P. subulata*** (59)

　b. 胞子 5—10×3—4 μ，枝は白色より褐色となる，先端分裂せず，枯枝落葉上

　　フサタケ ***P. multifida*** (59)

B. 胞子紡錘形，胞子 12—19×6—7 μ，枝は淡褐色，先端多裂す，地上生。

　　カンザシタケ ***P. fusispora*** (60)

Pterula subulata FR.

カンザシタケモドキ

FRIES, Syst. Orb. Veg. 90. 1825; Linnaea, 5: 532, *pl. 11, f. 4.* 1830; Hymen. Eur. 682. 1874—GILLET, Champ. Fr. 757. 1874—WINTER, Pilze, 1:303, *f. 1—2.* 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 223. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 741. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1253. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 87. 1892; Brit. Fungi, 442. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 42. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 439. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2 (1): 140, *pl. 26, f. 1.* 1912—LLOYD, Myc. Writ. 5: 863, *f. 1463.* 1916—REA, Brit. Basid. 724. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 83. 1928—CORNER, Monogr. Clav. 523. 1950.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:7. 1918—安田，植. 雜. 36:228. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 307. 1927—原，日. 菌. 目. 288. 1954)

Anthina (*Pterula*) *subulata* FR. Syst. Myc. 3: 286. 1832.

子實體は密生，直立，強靱，高さ 3—4 cm，僅に分岐し，灰白色，各枝は互に交錯し，等幅，基部狹細す，漸次黃變し，先端は多裂し突錐形或は絲狀，平滑，胞子は卵形，平滑，無色，8—10×5—7 μ。

所在及產地 林地腐木上　本州一歐

和名 カンザシタケモドキ（擬簪茸）〔安田〕

Pterula multifida FR. **フサタケ**

FRIES, Linnaea, 5:531. 1830; Monogr. Hymen. Suec. 2 : 282. 1863; Hymen. Eur. 682. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:184. 1882—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 15:6. 1886; Enchir. Fung. 223.

1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 741. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1254. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 88. 1892; Brit. Fungi, 442. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 42. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 439. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 5:863, *f. 1464—1465.* 1919—REA, Brit. Basid. 724. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 83. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 486, f. 2.* 1935—CORNER, Monogr. Clav. 519. 1950.

（IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11 : 44. 1929—原，日. 菌. 目. 288. 1954）

?*Pterula penicillata* BERK. in LLOYD, Myc. Writ. 5 : 863, *f. 1466—1467.* 1917; 7 : 1340, *f. 3125.* 1925; STEVENSON & CASH, New Fungus Names Lloyd, 64. 1936.

（LLOYD, Myc. Writ. 7:1267. 1924—安田，植. 雜. 38 : 47. 1924—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 307. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 409, *pl. 195, f. 1.* 1939—原，日. 菌. 目. 288. 1954）

Penicillaria multifida CHEV. Fl. Gen. 1 : 111. 1826.



第 46 圖　フサタケ *P. multifida* ×1

子實體は纖細，針狀の細枝を密に分岐し樹枝狀をなす，高さ 2—5 cm，白色乃至灰白色，後汚淡黃色より褐色となり，乾時黑色となる，莖枝共に細く，徑0. 3—1 mm，先端銳尖す，肉は靱性，乾時半透明の軟骨質毛狀となる。胞子は苹子形或は楕圓形，1 側扁平，有嘴，平滑，無色，6—7. 5×3—4 μ。莖の基端膜狀となり放射狀をなして基物に着生す。

所 在 及 產 地

枯枝落葉上　　　北海道，本州，九州—歐

和 名　フサタケ（總茸）〔安田〕

Pterula fusispora YAS.
カンザシタケ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 34:15, *f. 1—2.* 1920.

（安田，植. 雜. 33 : 297. 1919—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 307. 1927—原，日. 菌. 目. 288. 1954）



第 47 圖　カンザシタケ *P. fusispora* ×1（安田氏原寫眞より摸寫）

子實體は細き圓柱狀にて上部に至り少數の枝を分ち先端に至りて多く分裂す，軟骨質を帶び淡褐色，平滑，高さ 2.5—3 cm，莖は充實し徑 0.5—1 mm，基端に放射狀黃褐色の菌絲を有し，これによりて基物に着生す。胞子は紡錘形，時に少しく屈曲し，平滑，無色，12—19×6—7 μ，1 油球あり。

所 在 及 產 地　地上　　　本州

和 名　カンザシタケ（簪茸）〔安田〕

Clavicorona DOTY
フサヒメホウキタケ屬

DOTY, Lloydia, 10:38. 1947—CORNER, Monogr. Clav. 285. 1950.

Clavaria Auct. plur. pr. p.

子實體は直立，箒形にて明かなる莖を有し或は單一にて倒圓錐形をなし盃狀の先端を有す，枝は 2—8 個輪生し倒圓錐形，盃狀分岐を重ねて行う，基端に材上生種に於ては基層を有す，色は種々なるも生長先端は白色なり，肉は强靱なる膠質，乾時撓曲性或は纖維狀類革質，1 菌絲型或は 2 菌絲型，菌絆あり，屢々辛味を有す。子實層は莖及枝の基部の上側並に盃狀先端には存在せず，擔子柄は小形，類棍棒形，4 小柄を有し，胞子は小形，楕圓或は類球形，薄膜，平滑或は粗面にて有點，無色，囊狀體を有し或はなく，粘囊體は大形，埋在或は僅か抽出す。材上或は地上生，溫帶及熱帶產。

（本屬名は clava（棍棒）corona（冠）より出づ）

基準種　*C. taxophila* (THOM) DOTY

本邦既知種

フサヒメホウキタケ *C. pyxidata* (60)

Clavicorona pyxidata (PERS. ex FR.) DOTY
フサヒメホウキタケ

DOTY, Lloydia, 10:38. 1947—CORNER, Monogr. Clav. 292. 1950.

Clavaria pyxidata PERS. Comm. Fung. Clav. 47, *pl. 1, f. 1.* 1797; Syn. Meth. Fung. 589. 1801; Myc. Eur. 1:165. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1:470. 1821; Epicr. Myc. 573. 1838; Hymen. Eur. 669. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:325. 1844—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:330. 1876; Hattsv. 2: 169. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 377. 1889—QUÉLET, Enchir. Fung. 218. 1886—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 33 : 22. 1880—WINTER, Pilze, 1: 314. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 698. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 79. 1892—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 199. 1892—W. G. SMITH, Brit. Basid. 432. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 134. 1912—REA, Brit. Basid. 709. 1922

—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9:34, *pl. 6, f. 47.* 1922—COKER. Clav. U. S. Can. 92, *pl. 26—27, 84, f. 6—7.* 1923.

(HEMMI, Bot. Mag. Tokyo, 46: 164, *f. 4.* 1932—今井，植. 動. 2:1551. 1934—今關，日. 隱. 植. 圖. 399, *pl. 190, f. 3.* 1939—原，日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavaria coronata SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4: 182. 1832.

Clavaria Petersii BERK. et CURT. Grev. 2: 7. 1873.

Clavaria laetissima BERK. Jour. Linn. Soc. 18: 386. 1881.

Clavicorona coronata DOTY, Lloydia, 10: *f. 2.* 1947.



第 48 圖　フサヒメホウキタケ *C. pixidata* 子實體 (COKER 氏による)

子實體は群生或は束生，高さ5—6 cmにて13 cmに及び，著しき盃狀分岐をなし，1節に3—4，更に6枝を出し，更に數回同樣の分枝を重ね，各枝共分岐部急に擴大して盃狀となるを特徵とす，全形箒狀樹枝形にて徑8 cmに及ぶ，鮮黃色，老時或は傷時鈍帶赤黃色となり，時に淡白色にて後淡色或は帶白黃色，更に淡桃色或は幾分赤色を帶ぶ。莖は細く，徑 1.5—2.5 mm，平滑，白或は帶褐桃色の絨毛を粗生又は密生す，基端に無定形或は白或は帶褐桃色の絨毛塊を有す。肉は白或は淡色，撓曲性，寧ろ强靱，乾時殆ど角質となる，1菌絲型にて膨れ，幅 3—12 μ，髓部は弛く，子實下層に次ぐ部は密にて縱走す。子實層は薄く，擔子柄は幅 3.5—4.5 μ，4小柄あり，胞子は楕圓形或は苹子形，平滑，無色，4—5×2—3 μ，油球なし。囊狀體は紡錘形，類圓筒形，薄膜，尖頭，無色，僅か或は 20 μ も抽出す，18—45×4—7 μ，粘囊體は大部分子實下層中にありて僅か上向子實層面に達す，長さ 500 μ に及び，幅 5—8 μ，辛味あり，時に溫和。

所在及產地

林地腐木上　　本州—歐. 北米. 濠. 亞 (爪. 小亞)

和名　フサヒメホウキタケ (房姬箒茸)〔逸見〕

Aphelaria CORNER
ビロウドホウキタケ屬

CORNER, Monogr. Clav. 180. 1950.

子實體は直立，分岐し，僅少の種に於て分岐少く或は殆ど單一なり，分岐は扁平多岐にて後2叉し，交互面或は或種に於ては外見1面に分岐し，先端屢々絲狀にてフサタケ狀なり，革質或は膠質，白,淡灰,帶黃，帶褐或は淡肉色を呈するも鮮明色ならず，肉は1菌絲型にて，菌絲は膨大せず，長形細胞より成り，僅か膜厚く，型的には菌絆なきも有するものあり，無色。子實層は厚く，一般には莖上及枝の上面になきか或は退步的無性子實層あり，囊狀體及粘囊體缺如，擔子柄は棍棒形にて寧ろ太く，小柄は 2—4 個，胞子は無色，平滑，類球形乃至長楕圓形，油球なし，多くは地上生にて僅か材上生のものあり，多くは熱帶產にて僅か溫帶產。

(本屬名は apheles (平易單調なる) より出づ)

基本種　*A. dendroides* (JUNGH.) CORNER.

本邦既知種檢索表

A. 菌絆なし，胞子 8—12×7.5—10.5 μ，熱帶產。
　　ビロウドホウキタケ ***A. dendroides*** (61)

B. 菌絆あり，胞子 14—23×5—8 μ，北溫帶產。
　　A. tuberosa (62)

Aphelaria dendroides (JUNGH.) CORNER
ビロウドホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 182, *f. 12, 52—56, pl. 14.* 1950.

Clavaria dendroides JUNGH. Verh. Bot. Genoot. 17: 33, *pl. 6, f. 20.* 1839.

? *Thelephora funalis* LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2: 208. 1844.

Thelephora dendroides LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2: 209. 1844.

Merisma dendroides LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 5: 158. 1846.

Pterula dendroides FR. Nov. Symb. Myc. 101. 1851—PATOUILLARD, Ess. Tax. 42. 1900.

? *Lachnocladium funale* SACC. Syll. Fung. 6: 739. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61: 6. 1916—安田，植. 雜. 30: 240. 1916—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 307. 1917; ed. 3. 176. 1927—原，日. 菌. 目. 173. 1954)

Lachnocladium dendroides SACC. et SYD. Syll. Fung. 16: 213. 1902.

子實體は孤生，群生或は束生，全形は箒狀樹枝形，通常數回分岐を重ね，分岐は扁平分岐法にて下段は

多岐，上段は2叉にて交互平面に出づ，汚淡白色にて幾分粘土色，汚淡黄色，或は淡汚灰黄色，後基部より灰色或は灰淡黄色となる，先端は淡白色，革質，强靱，乾時角質，捩曲，暗褐色となる。莖は通常劃然，3—22×1.5—2.5mm，平滑，屢々白色或は淡黄色の軟毛狀菌絲を附す。枝は幅 1—1.5mm，扁平にて上端太くなり狹き扇形となる，末端は屢々長尖錐形，直立して稍々硬し。肉は縱走せる密なる菌絲より成り，中心部に於て僅か弛く，子實下層下は甚だ密なり，1菌絲型にて菌絆なく，徑 2—4μ。子實層は枝の先端及び少くとも莖の下半部には存在せず，擔子柄は25—65×9—12μ，棍棒形，2—4小柄あり，胞子は類球形，小嘴あり，平滑，無色，7.5—9×7—8μ(10—12×9.5—10.5μ)，囊狀體なし，臭强く，酸味あり。

所在及產地

林內地上　　小笠原島—熱帶亞細亞.濠.阿

和名　ビロウドホウキタケ（天鵞絨箒茸）〔安田〕

Aphelaria tuberosa (FR.) CORNER

CORNER, Monogr. Clav. 192, *f. 61.* 1950.

Thelephora tuberosa FR. Elench. Fung. 1:167. 1828; Epicr. Myc. 535. 1838; Hymen. Eur. 634. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):164. 1836; Outl. Brit. Fung. 267. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:311. 1871—SACCARDO, Syll. Fung. 6:528. 1888—W. G. SMITH, Brit. Basid. 400. 1908.

(KILLERMAN, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl.-fam. II, 6 : 146. 1928)

Thelephora contorta KARST. Not. Soc. Fenn. 10 : 368. 1868; Myc. Fenn. 3 : 304. 1876—FRIES, Hymen. Eur. 635. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 349. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 529. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 43. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):102. 1912—BOURDOT & GALZIN, Hymen Fr. 82. 1928.

Lachnocladium semivestitum BERK. et CURT. Grev. 1 : 161. 1872—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 739. 1888—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 6: 271, *pl. 5, f. 4.* 1919—COKER, Clav. U. S. Can. 196, *pl. 78—80, 90, f. 7—11.* 1923.

Polyozus contortus KARST. Hattsv. 2:122. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 394. 1889.

(LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1079. 1921)

Stereum tuberosum MASS. Brit. Fung. Fl. 1: 130. 1892; Brit. Fungi, 422. 1911—REA, Brit. Basid. 662. 1922.

Clavaria gigaspora COTTON, Naturalist, 97. 1907; Trans. Brit. Myc. Soc. 3 : 33. 1907; & WAKEFIELD, l. c. 6. 179. 1919.

子實體は高さ 6.5cm に及び，孤生，群生，或は束生す，扁平分岐をなす，下枝は廣く掌狀に，上枝は狹くして2叉す，淡藁色或は帶黃灰色，先端白色にて强靱，莖は長さ 2cm に及び，幅 1.3—3.2mm，明瞭或は不明瞭，屢々基部より掌狀の主枝を分つ，枝は下部にて 3—5 或はそれ以上に分れ，上部にて2叉し僅か扁平となる，多數にて叢狀となり，或は寧ろ少數にて疎，屢々不規則なり，肉は强靱，類革質，特に莖部に於て著し，菌絲は幅 2—5μ，菌絆あり，囊狀體なし。子實層は先端以外の全面を蔽い，厚さ 200μ に及び，擔子柄に2形あり，1は型的にて 50—70×11—15μ，棍棒形，2—3—4，多くは4小柄を有し，他は 30—60×13—18μ，先端に於て 2—4 に縱裂し，各裂片は太き小柄（—18×3μ）となつて伸長し，屢々中部に横隔を生ず，胞子は長楕圓形，類紡錘形或は類圓筒形，小嘴あり，平滑，無色，14—20(—24)×5—7(—9)μ，顆粒狀。

所在及產地

野外及林內地上　　本州—北米.亞(支)

和名

Ramaria S. F. GRAY emend DONK
ホウキタケ屬

S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:655. 1821—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 103. 1933.

Cladaria RITGEN, Schr. Marb. Ges. 2:31. 1937.

Clavaria sect. *Ramaria* FR. Epicr. Myc. 571. 1838. pr. p.

Clavariella KARSTEN, Rev. Myc. 3:21. 1881.

Phaeoclavulina BRINKMANN, Jahrb. Westf. Prov. Ver. Wiss. Kunst. Bot. 197. 1896—7.

子實體は巨大乃至小形，輪狀分岐，多叉或は二叉，稀に扁平分岐す，一般に有色，或種に於て淡白色，肉は脆く，肉狀纎維質，軟革質，强靱或は膠質，屢々帶菫色或は帶赤色，1菌絲型（*R. stricta* は2菌絲型），薄膜或は少しく厚く，*stricta* 群に於ては甚だ厚し，菌絆あり，子實層は屢々腹背に存じ枝の上側無性なり，擔子柄は多くは4小柄を有し，胞子は大形，楕圓形，平滑，粗面，有疣或は有刺，淡黃，帶赤黃色，肉桂色或は銹色，一般に1乃至數油球あり，囊狀體及粘囊體なし，地上生或は材上生，汎布種。（本屬名は ramus（枝）より出づ）

基準種　*R. botrytis* (FR.) RICK.

本邦既知種檢索表

A. 胞子は有刺，擔子柄は2小柄を有す。

a. 枝の先端青色，他は赭褐乃至暗褐煙草色，大形，熱帶產。 トビイロホウキタケ
R. cyanocephala (63)

b. 枝の先端白色，他は暗黃褐或は赤褐色。
サキジロホウキタケ **R. grandis** (64)

c. 枝の先端暗橙色，他は黃橙色。
コアラホウキタケ **R. nigrescens** (64)

B. 胞子は有疣―鮮赭色或は肉桂色，先端淡色，擔子柄は4小柄を有す。
ヒメホウキタケ **R. flaccida** (64)

C. 胞子は粗面或は平滑，擔子柄は4小柄を有す。

a. 材上生，子實體基部に多くの菌絲擴布す，菌絲は厚膜，子實體は小形或は中等大。

α. 胞子は7―11×4―5.5 μ，微粗面或は殆ど平滑，溫帶產。

I. 擦傷により葡萄酒色或は褐色となる―先端明黃色，枝は淡黃乃至赭色，後褐色となる，箒狀，平行す，多くは廣葉樹上。
チヤホウキタケ **R. stricta** (65)

II. 擦傷により赤變せず―乾酪色，淡桃赭色，後暗肉桂色となる，先端淡同色，時に綠色を帶ぶ，枝は寧ろ粗なり，通常針葉樹上。
チヤホウキタケモドキ **R. apiculata** (66)

β. 胞子は6―9×4―5 μ，熱帶產―胞子平滑，束生，淡黃或は帶赤黃色，多枝。
シマホウキタケ **R. moelleriana** (66)

b. 地上生，菌絲は薄膜或は甚だ僅か厚膜，子實體は中等大乃至大形。

α. 胞子は平滑にて微かなる縱線あり―淡灰黃，澁色或は帶赤黃色，先端濃桃色乃至紫色，通常肥大，錯雜す，胞子 12―20×4―6 μ。
ホウキタケ **R. botrytis** (66)

β. 胞子に縱線なし。

I. 多少桃色或は赤色。

1. 先端は鮮黃色―莖は肥大，高さ 30 cm に及び，淡汚桃乃至橙赤色，乾時粉碎し易し，胞子 8―15×4―6 μ，粗面。
ハナホウキタケ **R. formosa** (67)

2. 先端は枝より黃色ならず。

甲. 先端は薔薇桃色―枝は乾酪色，後淡汚桃色，澁色，最後に褐色となる，肥大，胞子 7―11.5×3.5―4.5 μ，粗面或は殆ど平滑。
コホウキタケ **R. botryoides** (68)

乙. 先端は同色或は淡色にて異色或は濃色とならず―大形，珊瑚桃色にて乾酪色に褪色，胞子は粗面或は殆ど平滑，7―9×3―4 μ。
サンゴホウキタケ **R. subbotrytis** (68)

II. 鮮黃色，帶赤黃色或は橙色。

1. 擦傷により赤變す―硫黃或は檸果黃色，胞子 10―18×4―6.5 μ，粗面。
キホウキタケ **R. flava** (68)

2. 赤變せず―黃金色乃至橙色，先端甚だ密なる短枝を有し肥大，胞子 8―15×3―6 μ，微かに粗面或は殆ど平滑。
コガネホウキタケ **R. aurea** (69)

III. 帶白色乃至淡卵黃色或は帶赤黃色，胞子 9―15×3―5 μ，平滑。
トサカホウキタケ **R. obtusissima** (70)

Ramaria cyanocephala (BERK. et CURT.) CORNER

トビイロホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 568, *f. 251―253, pl. 14.* 1950.

Clavaria cyanocephala BERK. et CURT. Jour. Linn. Soc. 10: 338. 1869―SACCARDO, Syll. Fung. 6: 711. 1888―COKER, Clav. U. S. Can. 191, *pl. 90.* 1923.

Lachnocladium giganteum PAT. Jour. Bot. 3: 34, *pl. 1, f. 1.* 1889; Ess. Tax. 44. 1900―SACCARDO, Syll. Fung. 9: 254. 1891―MARTIN, Mycologia, 31: 515. 1939.

Lachnocladium insigne PAT. Jour. Bot. 3: 34, *pl. 1, f. 2.* 1889; Ess. Tax. 45. 1900―SACCARDO, Syll. Fung. 9: 254. 1891.

Lachnocladium Englerianum P. HENN. in ENGLER & PRANTL. Natürl. Pfl.-Fam. I, 1**: 138, *f. 73.* 1897; Bot. Jahrb. 25: 499. 1898―SACCARDO, Syll. Fung. 16: 209. 1902.

Clavaria aeruginea PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 14: 189. 1898―SACCARDO, Syll. Fung. 16: 204. 1902.

Clavaria Zippelii (non LÉV.) (S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15: 52. 1937)

子實體は 6―30×5―15 cm，多枝，群生，稀に束生す，灰褐色，赭褐色，赭肉桂色にて後暗褐煙草色となる，先端濃青色或は綠青色，擦傷によつて汚赤紫色に變ず，莖は 0.6―6.5×0.3―1.6 cm，圓筒形或は僅か上部太く，比較的細長，同色，普通基部漸細し白色にて白色菌絲ありて稍々絨狀なり，枝は基部に於て幅 5―15 mm，普通規則正しく叉狀分岐を

繰返す，節間は上に至るに隨つて伸長す，圓筒形，直立，箒狀，密集，時に開張す，腋及枝の內側に稍々毛ありて無性，先端稍々鋭頭なり，肉は帶白色或は淡黃色，子實層下は濃黃色，空氣に曝せば速に汚赤紫色となる，寧ろ乾質なるも脆く，腐敗し易し，菌絲は幅 2.5—10 μ，場所により 13 μ に及び，菌絆あり。子實層は厚さ 600 μ に及び，擔子柄は 55—75×9—11 μ，2，稀に 1.3 小柄あり，無性擔子柄を混ず，胞子は苹子形或は扁桃形，表面に圓錐形無色，長さ 1—3 μ の刺を粗生す，暗褐黃色，10—17.5×5.5—10 μ，多油球あり，味僅か苦く，臭少し。

所在及産地

林地　　小笠原島—熱帶亞細亞.阿

和名 トビイロホウキタケ（鳶色箒茸）〔今井〕

Ramaria grandis (PECK) CORNER

サキジロホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 595. 1950.

Clavaria grandis PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 29: 73. 1902—SACCARDO, Syll. Fung. 17: 195. 1905—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 15, *pl. 3, f. 13.* 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 192, *pl. 75, 76, 90, f. 1, 6.* 1923.

(川村，日. 菌. 圖說，*n. 208.* 1929—今井，植. 動. 2: 1693. 1934—原，日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavaria spiculospora ATKINS. Ann. Myc. 7: 368. 1909—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 426. 1912 (ut *spiculosperma*)—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 17, *pl. 2, f. 11.* 1922.

子實體は群生，大形，6—18×2—12 cm，全體暗黃褐或は赤褐色にて枝端急に白色を呈す，莖は 1—6×1—2 cm，堅固，劃然，深く根を下す，莖の下部に白色軟毛あり，擦傷によりて鈍褐色，淡菫色或は紫色となる，枝は夥多，直立，密集し，2—4 回分岐す，各枝は寧ろ堅固にて末端急に圓尖す，肉は純白，傷時速かに變色す，緊緻なるも柔軟，菌絲は 4—7.5 μ，密なり。子實層は厚くして有層，擔子柄は幅 10 μ 內外，2 小柄あり，胞子は倒卵形，有刺，11—13×6—7 μ，味苦く收斂性，胞子紋は暗黃褐色。

所在及産地

廣葉樹林地　　本州—北米

和名 サキジロホウキタケ（先白箒茸）〔川村〕

Ramaria nigrescens (BRINKM.) DONK

コアラホウキタケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 104. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 608. 1950.

Phaeoclavulina nigrescens BRINKM. (non *Clavaria nigrescens* FR.)

Clavaria Broomei COTT. et WAKEF. Trans. Brit. Myc. Soc. 6: 170. 1919—REA, Brit. Basid. 711. 1912—COKER, Clav. U.S. Can. 186, *pl. 71, 89, f. 15—18.* 1923.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11: 38. 1929; 12: 14. 1931; 植. 動. 2: 1693, *f. 4.* 1934—原，日. 菌. 目. 71. 1954)

Phaeoclavulina Broomei v. OVEREEM, Bull. Jard. Bot. Buit. III, 5: 277. 1923.

子實體は孤生或は群生，4—8×2—4 cm，黃橙色，先端暗橙色，擦傷によりて速に褐變す。莖は短く，膨れず，白色にて擦傷により桃色となる，幾分分岐し，根部小なり，枝は少く，1—2 或は 2—3 回分岐



第 49 圖

コアラホウキタケ *R. nigrescens*×1/2（今井氏）

し，不規則，稍々直立，先端扁平，大枝は皺を有す，肉は白色，擦時葡萄酒色となる，殊に基部に於て著し，組織中に大形囊狀體を有す。擔子柄は 40—50×8—9 μ，2 小柄を有す，胞子は紡錘形或は苹子形，著しき刺を有す，14—18×6—8 μ，胞子紋は濃帶赤黃色又は橙黃色，苦味。

所在及産地

林地上　　北海道—歐

和名 コアラホウキタケ（小粗箒茸）〔今井〕

Ramaria flaccida (FR.) RICKEN

ヒメホウキタケ

RICKEN, Vadem. 254. 1918—CORNER, Monogr. Clav. 576. 1950.

Clavaria flaccida FR. Syst. Myc. 1: 471. 1821; Hymen. Eur. 671. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 324. 1884—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 280. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 334. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 310. 1872—GILLET, Champ. Fr. 769. 1874—KARSTEN,

Myc. Fenn. 3 : 332. 1876—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 32:36. 1879—WINTER, Pilze, 1:311. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 702. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1237. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:80. 1892; Brit. Fungi, 439. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 433. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 215. 1910; Hymen. Fr. 100. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 138. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6:175. 1919—REA, Brit. Basid. 712. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9:26, *pl. 4, f. 25—26.* 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 488.* 1928—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 266. 1935.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:39. 1929; 12 : 15. 1931; 植. 動. 2 : 1695, *f. 6.* 1934—今關, 日. 隱. 植. 圖. 403. 1939—原, 日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavariella flaccida KARST. Hattsv. 2:186. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 389. 1889—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 448. 1888.

Clavaria abietina (non PERS.) QUÉLET, Enchir. Fung. 219. 1886—COKER, Clav. U. S. Can. 179, *pl. 68—70, pl. 88, f. 20—21, pl. 89, f. 3—7.* 1923. pr. p.

子實體は 3—6(10)×3—4 cm, 灰黃或は帶赤黃色, 後鮮赭色或は肉桂色となる, 細長, 軟弱, 白色の綿絮狀菌絲氈より起る。莖は 1.5—2(3)×0.1—0.25 cm, 時に殆んどなし。枝は多數, 直立, 群集, 1—3 回分岐し内屈し, 先端は尖り, 淡色, 肉は白色, 上部帶黃色, 變色せず, 强靱にて彈性ありて, 後軟弱となる, 菌絲は幅 3—10 μ, 嵌絆あり, 擔子柄は 20—30×4.5—7 μ, 4 小柄を有す, 胞子は楕圓形或は萃子形, 有疣, 極めて淡き帶赤黃色, 5—8×3—4 μ。



第 50 圖 ヒメホウキタケ *R. flaccida* (今井氏)

所在及產地

針葉樹, 稀に廣葉樹腐蝕落葉上

北海道—歐. 北米. 濠. 阿. 亞(支)

和名 ヒメホウキタケ (姬箒茸) 〔今井〕

Ramaria stricta (PERS.) QUÉL.

チヤホウキタケ

QUÉLET, Fl. Myc. 464. 1888; Champ. Jura Vosg. Suppl. 18:470. 1891—CORNER, Monogr. Clav. 623, *f. 249, 266.* 1950.

Clavaria stricta PERS. Comm. Fung. Clav. 45, *pl. 4, f. 1.* 1791; Syn. Meth. Fung. 588. 1801; Myc. Eur. 1:163. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1:468. 1821; Epicr. Myc. 575. 1838; Hymen. Eur. 673. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):174. 1836; Outl. Brit. Fung. 281, *pl. 18, f. 5.* 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:323. 1844—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 22:87. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:334. 1871; Handb. Austr. Fungi, 200. 1892—GILLET, Champ. Fr. 767. cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1:310. 1844—QUÉLET, Enchir. Fung. 220. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 705. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:81. 1892; Brit. Fungi, 440. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 433. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):136, *pl. 23, f. 2.* 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 174. 1919—REA, Brit. Basid. 713. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9:23, *pl. 4, f. 23, pl. 5, f. 29.* 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 162, *pl. 61, 62, 88, f. 7—8.* 1923—GÜSSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 211, *pl. 107, f. 1.* 1927—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 487.* 1928.

(安田, 植. 雜. 28 : 324. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 143. 1917; ed. 3. 85. 1927—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12:14. 1931; 植. 動. 2:1694. 1934—原, 日. 菌. 目. 73. 1954)

Clavariella stricta KARST. Hattsv. 2:188. 1882—SCHROETER, Pilze Schles. 1:448. 1889.

Clavaria pallida SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1244. 1916.

子實體は4—10×3—8cm, 屢々束生, 淡黃或は灰黃乃至赭色, 時に肉色を帶ぶ, 後赭褐色或は肉桂色, 先端明黃色, 擦傷により各部共暗褐或は葡萄酒色となる, 莖は 1—6×0.3—1 cm, 劃然, 淡色, 白色菌絲氈或は紐狀根狀束より起る, 枝は多數, 多岐, 2 叉, 直立, 箒狀, 長く, 各枝略々平行し,



第 51 圖 チヤホウキタケ *R. stricta* ×1 (大谷氏)

先端尖る，肉は白色或は帶黃色，強靱，撓曲性，菌絲は幅3—10μ，菌絆あり，厚膜。子實層は厚さ100μに及び，少くとも枝の先端に存せず，擔子柄は30—40×7—9μ，4或は2小柄あり。胞子は圓壔形或は卒子形，微かに粗面或は平坦，7—10×4—5μ，胞子紋は銹赭色或は肉桂黃色。苦味又は少しく辛味あり，香よし。

所在及産地

廣葉樹，時に針葉樹腐木上　北海道，本州—歐・北米・濠

和名 チヤホウキタケ（茶箒茸）〔安田〕

Ramaria apiculata (FR.) DONK

チヤホウキタケモドキ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:105. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 555. 1950.

Clavaria apiculata FR. Syst. Myc. 1:470. 1821; Elench. Fung. 1:229. 1828; Epicr. Myc. 575. 1838; Hymen. Eur. 673. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:323. 1884—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:333. 1876—WINTER, Pilze, 1:310. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:705. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1242. 1916—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 136. 1912—COKER, Clav. U. S. Can. 157, *pl. 39, f. 3, pl. 88, f. 2—5*. 1923.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:28. 1929; 12:15. 1931; 植. 動. 2:1694, *f. 5*. 1934—今關，日. 隱. 植. 圖. 403, *pl. 192, f. 1*. 1939; 及土岐，林. 試. 研. 報. 67: 22. 1954—原，日. 菌. 目. 71. 1954)

Clavariella apiculata KARST. Hattsv. 2:188. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 390. 1889—P. HENNINGS, Verh. Bot. Ver. Brandenb. 37:30. 1895.

Clavaria Tsugina PECK, Bull. N. Y. St. Mus. 67: 27. 1903.



第52圖　チヤホウキタケ
R. apiculata ×1
（大谷氏）

子實體は高さ7cmに及び，孤生或は束生，小形或は中等大，初め淡桃赭色或は乾酪色なるも，後濃黃褐乃至暗肉桂色を呈し，枝端は白色，後淡き同色，時に綠色を帶ぶ，莖は短く幅3—4mm，基部より或は直ちに分岐す，多くの纖維狀菌絲或は白絨毛菌絲氈より起る。枝は寧ろ長くて扁平，多岐，比較的密にて直立，2—3の長き鋭き先端を有す，肉は密にて強靱，菌絲は幅3—4μ，少しく苦味あり，臭殆どなし，子實層は厚さ75μに及び，擔子柄は幅7.5μ，4小柄を有し，胞子は楕圓形，微かに粗面或は微疣乃至殆ど平滑，淡黃色，6—10×3.5—5μ，胞子紋は鈍赭色。

所在及産地

針葉樹腐木上　北海道，本州—歐・北米・亜（西比）

和名 チヤホウキタケモドキ（擬茶箒茸）〔今井〕

Ramaria moelleriana (BRES. et ROUM.) CORNER

シマホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 606. 1950.

Lachnocladium Moellerianum BRES. et ROUM. Rev. Myc. 1890:36, *pl. 92, f. 6*. 1890—SACCARDO, Syll. Fung. 9: 252. 1891.

Lachnocladium Warburgii P. HENN. Hedwigia, 32: 218. 1893; Monsunia 1: 8. 1900—SACCARDO, Syll. Fung. 11: 139. 1895.

（松村，植. 名鑑，1: 149. 1904—白井，日. 菌. 目. 45. 1905; ed. 2. 307. 1917; ed. 3. 179. 1927—原，日. 菌. 目. 173. 1954）

Lachnocladium Lauterbachii P. HENN. Bot. Jahrb. 18, Beibl. 25. 1894—SACCARDO, Syll. Fung. 11: 140. 1895.

Lachnocladium strictum P. HENN. Bot. Jahrb. 22:86. 1895—SACCARDO, Syll. Fung. 14:239. 1899.

子實體は高さ3—10cm，束生，多岐，強靱，黃色或は帶赤黃色，莖は高さ2cmに及び，幅3—5mm，稍々圓柱狀，基部に於て稍々太くして白絨毛あり，淡白色の菌絲より起る，枝は反覆二叉し，緊密，直立，軸は弓形にて扁平或は鋭くして僅か扁平，先端稍々雞冠狀或は長突錐狀，菌絲は幅3—8μ，菌絆あり。子實層は1側にて主枝の下側に存す，胞子は橢圓形，平滑，淡黃，淡褐或は無色，6—8×3—5μ。

所在及産地

枯木上　小笠原島—阿. 熱帶亜細亜

和名 シマホウキタケ（島箒茸）

Ramaria botrytis (PERS.) RICKEN

ホウキタケ

RICKEN, Vandem. 253. 1918—CORNER, Monogr. Clav. 560, *f. 248*. 1950.

Clavaria acroporphyria SCHAEFF. Fung. Bavar. *pl. 176*. 1774—QUÉLET, Fl. Myc. 466. 1888—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26: 213. 1910—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen.

1228. 1916.

Clavaria plebeja WULF. in JACQ. Misc. 2:101, *pl. 13*. 1778—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 698. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 199. 1892.

Clavaria botrytis PERS. Comm. Fung. Clav. 41. 1797; Syn. Meth. Fung. 587. 1801; Myc. Eur. 1:161. 1822—NEES, Syst. Pilze Schw. 169, *f. 150, α, β*. 1817—FRIES, Syst. Myc. 1:466. 1821; Epicr. Myc. 571. 1738; Hymen. Eur. 667. 1874—CORDA, Icon. Fung. 5:81, *pl. 10, f. 75*. 1842—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 327. 1844—BARLA, Champ. Nice, 83, *pl. 40, f. 1—3*. 1859—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 278. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:126. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:331. 1871; Handb. Austr. Fungi, 198. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:308, *pl. 21, f. 4*. 1872; Enchir. Fung. 217. 1886—GILLET, Champ. Fr. 764. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 327. 1876; Hattsv. 2: 166. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 375. 1889—WINTER, Pilze, 1: 316. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 692. 1882—SCHROETER, Pilze Schles. 1:446. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 75. 1892; Brit. Fungi. 438. 1911—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 202, *f. 202*. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 430. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 90, *pl. 103, f. 231*. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 136, *pl. 24D, f. 2*. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6: 171. 1919—REA, Brit. Basid. 709. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 7, *pl. 1, f. 1*. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 94. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1083*. 1932.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 39, Beibl. 155. 1900—松村, 植. 名鑑, 1: 135. 1904—白井, 日. 菌. 目. 21. 1905; ed. 2. 141. 1917; ed. 3. 84. 1927—安田, 植. 雜. 22: 373. 1908—KAWAMURA, Illus. Jap. Fung. *pl. 12, f. 10*. 1914; 日. 菌. 圖說, *n. 221*. 1929—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12: 13. 1931; 植. 動. 2: 1552. 1934—今關, 日. 隱. 植. 圖. 401, *pl. 191, f. 1*. 1939; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67: 22. 1954—原, 日. 菌. 目. 71. 1954)

Clavaria sculpta BECK, Verh. Zool. Bot. Ges. Wien, 39: 603. 1889.

Clavaria Rieleii BOURD. Bull. Soc. Myc. Fr. 13: 14. 1897.

子實體は大形, 7—15×6—20cm, 白色, 後灰黃色, 蘯色或は帶赤黃色にて, 濃桃色, 赤色, 紫色或は淡紅紫色の先端を有す, 莖は太く, 3—4×1.5—6cm, 白色, 後帶黃色となり, 極めて多數群集せる不規則の太き枝を生じ, 珊瑚狀をなす, 枝は多叉, 下部堅固, 甚だ多數, 短く, 錯雜し, 或は幾分長形となる, 先端多岐群集し屢々花椰菜狀をなす, 肉は白色, 變色せず, 稍々脆し, 水潤狀, 菌絲は幅3—12μ, 菌絆あり, 子實層は厚からず, 擔子柄は 60—70×8—10μ, 2—4小柄を有す, 胞子は圓壔狀楕圓形, 平滑にて微かに縦線あり, 12—20×4—6μ, 多くは14—16×4.5—5.5μ, 1—3 油球あり, 胞子紋は帶赤黃色なり, 香味良好。

所在及產地

廣葉樹林地

北海道, 本州, 九州—歐. 北米. 亞(支)

和名 ホウキタケ (箒茸), ムラサキホウキタケ (紫箒茸)〔安田〕, ネズミタケ (鼠茸)

〔**因記**〕本邦にてホウキタケと稱しつつあるものは不純なるものの如し, 將來の調査を要す。

Ramaria formosa (PERS. ex FR.) QUÉL.

ハナホウキタケ

QUÉLET, Fl. Myc. 466. 1888—CORNER, Monogr. Clav. 584, *f. 248, 255—256*. 1950.

Clavaria formosa PERS. Comm. Fung. Clav. 41. 1794; Syn. Meth. Fung. 585. 1801; Myc. Eur. 1: 162. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1:466. 1821; Hymen. Eur. 671. 1874—CORDA, Icon. Fung. 3: 52, *pl. 9, f. 136*. 1839—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 324. 1844—BARLA, Champ. Nice, 84, *pl. 40, f. 4*. 1859—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 333. 1871; Handb. Austr. Fungi, 200. 1892—QUÉLET, Champ. Jura. Vosg. 2:360. 1873; Enchir. Fung. 219. 1886—GILLET, Champ. Fr. 768. cum icone. 1874—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 32:36. 1879—WINTER, Pilze, 1:312. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:700. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1236. 1916—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 328. 1891; Brit. Basid. 432. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:79. 1892; Brit. Fungi, 438, *pl. 34, f. 1*. 1911—ATKINSON, Mushrooms, 201, *f. 201*. 1903—ROLLAND, Atl. Champ. 90, *pl. 104, f. 234*. 1910—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26: 213. 1910; Hymen. Fr. 96. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 139. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6:173. 1919—REA, Brit. Basid. 710. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 11, *pl. 2, f. 7*. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 127, *pl. 41, 42, 86, f. 1—2*. 1923—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1087*. 1932.

(川村, 日. 菌. 圖說, *n. 118*. 1929—今井, 植. 動. 2: 1553. 1934—今關, 日. 隱. 植. 圖. 403, *pl. 192, f. 2*. 1939)

Clavariella formosa KARST. Hattsv. 2:185. 1882—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 448. 1888.

Clavaria formosula BRITZ. Hym. Südb. 8:287. 1885.

Clavaria densa PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 41:

79. 1888.

子實體は群生或は束生，大形，7—30×6—15cm，淡汚桃色，橙赤色或は帶桃赭色，先端は檬果黃色，莖は 3—6×2.5—6cm，速に多くの枝に分れ，屢々殆ど基部より枝を出す爲，多くの個體が叢生せるが如き觀を呈す，基部白色，白色の根狀束を附す，枝は多數にて，下枝は多叉，最後の枝は2叉，節間は短或は長にて變化甚し，屢々縱皺を有す，先端は鈍或は稍々鋭し，肉は白色或は稍々同色，屢々擦傷によつて汚赤褐色，後黑色となる，脆く，吸水性ならず，乾時砕け易し，菌絲は幅 3—13 μ，菌絆あり，乳管あり。子實層は厚さ 50—55 μ，擔子柄は 40—60×7—10 μ，4小柄を有し，胞子は圓壔狀楕圓形，粗面，8—15×4—6 μ，1—3 油球あり，胞子紋は帶赤黃色，味少しく苦く，有毒と稱せらる。

所在及產地

主に廣葉樹林地上 本州—北米・濠・亞(支)

和名 ハナホウキタケ (花箒茸)

Ramaria botryoides (PECK) CORNER

コホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 562. 1950.

Clavaria botryoides PECK, Bull. N.Y. St. Mus. 94, ; 21, 49, *pl. 93, f. 5—7.* 1905—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 426. 1913—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 8, *pl. 1, f. 2.* 1922.

(安田，植. 雜. 38 : 147. 1924—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 84. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 108. 1931)

Clavaria botrytis (non PERS. ex FR.) COKER, Clav. U.S. Can. 111, *pl. 31, 32, 85, f. 1.* 1923.

子實體は大形，7—16×3—15cm，白色短大の根狀基部より地平面に於て分岐し，淡乾酪色を呈し，先端に向つて桃色となり，先端は薔薇桃色となる，老時澁色或は帶褐澁色となり，先端は鈍煉瓦褐色を呈す，枝は上方に屈曲し，寧ろ長く，有皺，上端に至りて多くの枝を出す，肉は堅緻，充實，脆弱，同色なり。子實層は厚さ 30 μ，擔子柄は幅 8 μ，4小柄あり，胞子は楕圓形，粗面或は平滑にて縱線なし，7—11.5×3.5—4.5 μ，胞子紋は淡卵黃色。香味あしからず。

所在及產地 林地上 本州—北米・濠

和名 コホウキタケ (小箒茸) 〔安田〕

Ramaria subbotrytis (COKER) CORNER

サンゴホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 625. 1950.

Clavaria subbotrytis COKER, Clav. U.S. Can. 116, *pl. 28, f. 5, pl. 85, f. 5—6.* 1923—KAUFFMAN, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 8 : 150. 1927.

(今井，植. 動. 2 : 1693, *f. 3.* 1934—原，日. 菌. 目. 73. 1954)

子實體は4—10×5.5—9cm，幼時全部濃桃色，下部乾酪色に褪色す，莖は高さ 1—3cm にて太く，基部狹細，無毛，基部常に桃色或は白色，枝は太さ5—10mm，下部は多叉にて幅 2—4mm，上部は2叉，多數，稍々密，直立或は僅か擴張屈曲す，先端は鈍く，太さ1—1.5mm，肉は同色にて表面よりも永く桃色を殘す，變色せず，寧ろ脆く，乾時粉砕せず，菌絲に菌絆なし，子實層は 55—65 μ，擔子柄は幅6.5—9.5 μ，4小柄を有し，胞子は楕圓形，平滑或は微疣あり，淡肉桂黃色，7—9×3—4 μ，胞子紋は桃色を帶ぶ，香味殆どなし。

所在及產地 林地上 北海道—北米

和名 サンゴホウキタケ (珊瑚箒茸) 〔今井〕

Ramaria flava (SCHAEFF. ex Fr.) QUÉL.

キホウキタケ

QUÉLET, Fl. Myc. 466. 1888—CORNER, Monogr. Clav. 577, *f. 248.* 1950.

Clavaria flava SCHAEFF. Fung. Bavar. *pl. 175.* 1763—PERSOON, Comm. Fung. Clav. 43. 1797; Syn. Meth. Fung. 586. 1801; Myc. Eur. 1 : 162. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 467. 1821—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 324. 1844—BARLA, Champ. Nice, 85, *pl. 40, f. 5.* 1859—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 308. 1872; Enchir. Fung. 217. 1886—PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 24 : 81. 1872; 48 : 210, *pl. 39, f. 1—4.* 1896—GILLET, Champ. Fr. 764. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 327. 1876; Hattsv. 2 : 166. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 375. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 317. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 692. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1227. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 447. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 46. 1900—W.G. SMITH, Brit. Basid. 430. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 213. 1910; Hymen. Fr. 95. 1928—MAIRE, Bull. Soc. Myc. Fr. 27 : 450. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 136. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 169. 1919—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 12, *pl. 4, f. 19.* 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 491.* 1925—GÜSSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 208. 1927—BRESADOLA, Icon. Myc. 22 : *pl. 1086.* 1932.

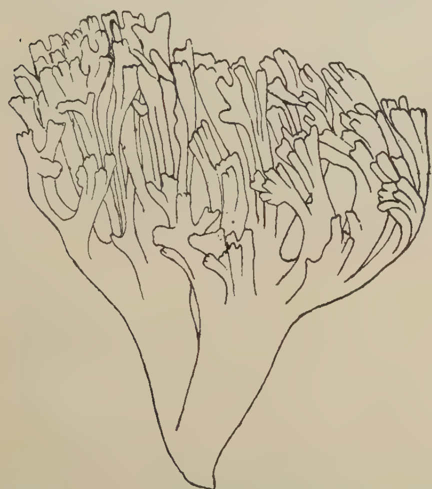
(安田，植. 雜. 28 : 30. 1914—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 141. 1914; ed. 3. 84. 1927—川村，日. 菌. 圖說，*n.*

207. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3: 108. 1931—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12: 14. 1931；植. 動. 2: 1553. 1934—今關，日. 隱. 植. 圖. 401, *pl. 191*, *f. 2*. 1939—原，日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavaria flava var. *divaricata* PERS. Myc. Eur. 1: 162. 1822—BARLA, Champ. Nice, *pl. 40*, *f. 5*. 1859.

Clavaria lutea VITT. Descr. Fg. Mang. *pl. 29*, *f. 3*. 1835—VENTURI, Mic. Bresc. 36, *pl. 41*, *f. 4*. 1848—1860.

子實體は 10—20×7—15cm，硫黄色或は檬果黄色，老時帶赤黄色，莖は 5—8×4—5cm，莖部白色，老



第 53 圖　キホウキタケ *R. flava*　×1/5 (原圖)

時及擦傷時屢々帶赤或は血赤色となる，枝は密集，壓縮され，叢生，下部多叉，上部 2 叉す，寧ろ細くして節間寧ろ長し，肉は白色或は淡黄色，脆し，水潤狀，擦傷により表面に近き部分は屢々赤變す。子實層は薄し，擔子柄は 4 小柄を有し，胞子は長楕圓形，明かに有疣，11—18×4—6.5 μ，2 或は數油球あり，胞子紋は淡帶赤黄色，味溫和，可食。

所在及産地

林地上　　北海道，本州，九州—歐

和名　キホウキタケ（黄箒茸）

Ramaria aurea (SCHAEFF. ex FR.) QUÉL.

コガネホウキタケ

QUÉLET, Fl. Myc. 467. 1888—CORNER, Monogr. Clav. 557. 1950.

Clavaria aurea SCHAEFF. Fung. Bavar. *pl. 287*. 1770—FRIES, Epicr. Myc. 574. 1838; Hymen. Eur. 670. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 325. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 280. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 126. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi. 1: 333. 1871; Handb. Austr. Fungi, 200. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 309. 1872; Enchir. Fung. 219. 1886—GILLET, Champ. Fr. 768. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 331. 1876—WINTER, Pilze, 1: 313. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 699. 1888; Fl.-Ital. Crypt. Hymen. 1239. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 79. 1892; Brit. Fungi, 439, *pl. 34*, *f. 8*. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 432. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26: 213. 1910; Hymen. Fr. 95. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 139. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6: 170. 1919—REA, Brit. Basid. 710. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 13, *pl. 3*, *f. 12*. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 142, *pl. 86*, *f. 17*. 1923—GÜSSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 206, *pl. 106*, *f. 1*. 1927—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1085*. 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 49. 1933.

(安田，植. 雜. 28: 31. 1914—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 141. 1917; ed. 3. 84. 1927—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12: 13. 1931; 植. 動. 2: 1553. 1934—原，日. 菌. 目. 71. 1954)

Clavaria flavescens SCHAEFF. Fung. Bavar. *pl. 285*. 1770.

Clavariella aurea KARST. Hattsv. 2: 184. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 388. 1889—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 449. 1888.



第 54 圖　コガネホウキタケ *R. aurea*　×1/2 (大谷氏)

子實體は大形，5—12×10—20cm，全體赭黄色，黄金色或は卵黄色，時に橙色或は赤銹色を呈し，老時濃赭色となる，莖は太く，2—4×1—5cm，短くして屢々球根狀，基部帶白色なり，枝は寧ろ短く，密にて太く，多枝，屢々花椰菜狀をなす，先端は生時淡色，肉は白色，表面に近く帶黄色，變色せず，寧ろ脆く，菌絲は 3—15 μ，菌絆あり。子實層は厚からず，擔子柄は 45—75×6—8 μ，2—4 小柄あり，胞子は圓壔形，粗面，時に殆ど平滑，8—15×6—8 μ，1 或は數油球あり，可食。

所在及産地
林地上　本州—歐.北米.濠.亞(小亞.樺)
和名　コガネホウキタケ（黄金箒茸）〔安田〕

Ramaria obtusissima (PECK) CORNER
トサカホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 609. 1950.
Clavaria obtusissima PECK, Bull. N. Y. St. Mus. 167 : 39. 1913—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9:11, *pl. 4, f. 18.* 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 146, *pl. 56, 87, f. 5—8.* 1923.
（安田，植．雜．37 : 208. 1923—白井，日．菌．目．ed. 3. 85. 1927—今井，植．動．2 : 1553. 1934—原，日．菌．目．72. 1954）

子實體は大形，9—15×6—14cm，白色，淡乾酪色，後黄蝋色，或は帶赤黄色となり，褪色して，淡卵黄色となる，先端淡黄色，莖は大形，太さ 2—5cm，短く，地平面より强固なる主枝に分る，枝は密，上部徑 1—5mm，直立，寧ろ長し，繰返し分岐し，先端鈍し，肉は白色，むしろ脆く，肉質，纖維質或は幾分彈性，變色せず。子實層は 90—100μ，擔子柄は幅 7.5—9.5μ，4 小柄あり。胞子は楕圓狀圓筒形，平滑，9—15×3—5μ，胞子紋は帶赤黄色なり。味寧ろ苦く，臭溫和，可食といふ。

所在及産地　林地上　北海道，本州—北米
和名　トサカホウキタケ（雞冠箒茸）〔安田〕

Lentaria CORNER
シラウオタケ屬

CORNER, Monogr. Clav. 437. 1950.

子實體は車軸狀分岐にて多叉後2叉，更に僅か分岐，殆ど單一迄變化す，白色，乾酪色，灰黄色，蝋色，肉色，帶赤黄色或は褐色，屢々基物上に擴がる白色或は黄色の絨毛樣菌絲層より起る，肉は堅靱にて撓曲性，1菌絲型にて菌絆あり，菌絲は膨れ，厚膜となる，屢々苦味を有す。子實層は通常厚く，擔子柄は棍棒形，4稀に 2—8 小柄あり，胞子は白色，平滑，狹楕圓形，油球なし，囊狀體なし，材上及腐葉上，溫帶及熱帶産。
（本屬名は lentus（柔軟なる）より出づ）
基準種　*L. surculus* (BERK.) CORNER
本邦既知種　シラウオタケ ***L. mucida*** (70)

Lentaria mucida (PERS. ex FR.) CORNER
シラウオタケ

CORNER, Monogr. Clav. 442. 1950.
Clavaria mucida PERS. Comm. Fung. Clav. 55, *pl. 2, f. 3.* 1797; Syn. Meth. Fung. 595. 1801; Myc. Eur. 1:172. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1:476. 1821; Epicr. Myc. 580. 1838; Hymen. Eur. 679. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 320. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 4:331. 1876; Enchir. Fung. 222. 1886—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 24:82. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 337. 1876; Hattsv. 2:176. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 379. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 304. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:729. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1251. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:444. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 203. 1892—ATKINSON, Mushrooms, 203, *f. 204.* 1903—LIND, Bot. Gaz. 37:62, *f. 16—17.* 1904—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 130. 1910—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 50, *pl. 9, f. 77.* 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 30, *pl. 3, 81, f. 23—25.* 1923—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51. 416. 1935.
（安田，植．雜．29:35. 1915—白井，日．菌．目．ed. 2. 141. 1917; ed. 3. 84. 1927—川村，日．菌．圖說，*n. 209.* 1929—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12 : 20. 1931; 植．動．2:1701. 1934—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:108. 1931—今關，日．隱．植．圖．407, *pl. 194, f. 4—5.* 1939—原，日．菌．目．72. 1954）

子實體は纖細，0.3—1.5×0.1cm，群生或は孤生，大部分は單一，時に 2—6 線狀斜上の枝を出し，或



第55圖　シラウオタケ *L. mucida* ×1
（ATKINSON 氏による）

は先端裂け又は小雞冠狀となる，中實，鋭頭，稀に鈍頭棍棒狀，圓筒狀紡錘形，殆ど不明瞭なる莖に漸細す，白色，淡黄色或は稀に桃色を呈し，先端は時に煉瓦紅色，帶褐色或は黑色となる，纖細なるも强靱にて曲ぐるも折れず，菌絲は幅 3—6μ，菌絆あり。子實層は全面に存し，擔子柄は 15—21×4—5μ，4 小柄あり，胞子は狹楕圓或は圓壔狀楕圓形，平滑，無色，4.5—7.5×2—3μ。

所在及産地　林地腐木上，單胞綠藻と共に存す。
北海道，本州—歐.北米.濠.亞(西比)
和名　シラウオタケ（白魚茸）〔川村〕

キリタケ（錐茸）〔安田〕

Physalacria PECK
タマバリタケ屬

PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 9:2. 1882—CORNER, Monogr. Clav. 456. 1950.

Baumanniella P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 23: 543. 1897.

Eoagaricus KRIEGER, Bull. Md. Acad. Sci. 3:7. 1923.

子實體は單一，小形，高さ 1—25 mm，有柄頭狀，白色或は帶黃色，頭部は球形，圓錐形或は種々なる襞ありて脳漿狀或は扁平，中空，莖は圓筒形，中實，肉は緊緻蠟質，1 菌絲型，菌絆あり，子實層は全頭部を蔽い時に頂部等無性，擔子柄は小形，狹棍棒形，2—4 小柄あり，胞子は白色，平滑，稀に粗面，楕圓狀紡錘形乃至球形，囊狀體は特有なる所謂油冠囊狀體（oleocystidia）にて，棍棒形或は有嘴紡錘形，子囊下層に埋在或は僅か抽出し，先端に無色膜に包まれたる帶黃或は帶褐色の樹脂分泌物を被むる，莖上には一般に莖囊體を有す。樹材或は植物質物上，溫帶殊に熱帶産。（本屬名 physalis（囊），acre（尖端）より出づ）

基準種 *P. inflata* (SCHW.) PECK

本邦既知種檢索表

A. 頭部球形或は類球形。
  a. 頭部徑 1—5 mm，團集して 1—4 cm に至る，擔子柄は 2 或は 4 小柄あり，胞子 3.5—5×1.7—2 μ。オオタマバリタケ
     P. inflata* var. *orientalis (71)
  b. 頭部徑 3 mm に及ぶ，擔子柄は 4 小柄あり，胞子 10—13×3—5 μ。
     タマバリタケ ***P. sasae*** (71)
  c. 微小，頭部徑 0.4—0.5 mm。
     タマバリタケモドキ f. ***sterilis*** (71)
B. 頭部ドーム形，徑 0.3—1 mm，擔子柄は 2 小柄あり，胞子 9—11×4—5 μ。
     ヒメタマバリタケ ***P. komabensis*** (72)

Physalacria inflata PECK var. orientalis KOBAY.
オオタマバリタケ

KOBAYASI, Jap. Jour. Bot. 26 : 315, *f. 2.* 1951.

子實體は直立或は垂下，孤生或は屢々數個或は數十個の頭部が密に球狀に團集し徑 1—4 cm となり，莖は纖形に並ぶ。頭部は單立の場合は球形或は扁球形にて，基部は莖の上端を包む，徑 1—5 mm，團集の場合は互に壓迫され脳漿狀の皺を生じ，脆し，かかるものにては個々の頭部 1 cm 以上に至る。肉は膜質，表面は粉白，內部は熟時中空なり。子實層は頭部の下面及側面の 1 部に生ず。頭部組織の厚さ 90—200 μ，莖は絲狀，白色，3—7×0.2—1 mm，密に束狀をなす菌絲より成る，側壁に微毛及囊狀體あり，菌絲は徑 2.5—4.4 μ。囊狀體は棍棒形，25—39×5—6 μ。頭部の菌絲は無色，薄膜，菌絆なく，徑 3—3.7 μ，囊狀體は多くは子實層に埋沒し，棍棒形，無色，薄膜，屢々中部に縊れあり，上端に分泌物を着く，37—46×10—15 μ，擔子柄は 15—17×3.5—4 μ，4 或は 2 小柄あり，胞子は普通楕圓形，稍々卵形或は長形，小嘴あり，平滑，無色，3.5—5×1.7—2 μ。

所在及產地　シオジ（*Fraxinus*）上　本州，九州

和名　オオタマバリタケ（大玉針茸）〔小林〕

Physalacria sasae IMAI
タマバリタケ

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13 : 385. 1934—CORNER, Monogr. Clav. 468. 1950.

（小林，植．研．雜．26:312. 1951—原，日．菌．目．269. 1954）

子實體は群生或は孤生，頭狀，白色，乾時藁色となる，頭部は徑 3 mm に及び，類球形或は卵形，中空なり，莖は圓筒形，中實，長さ 1 mm，厚さ 0.2 mm に及ぶ，擔子柄は圓筒形，4 小柄あり，胞子は楕圓形，有刺，無色，10—13×3—5 μ。囊狀體は紡錘形，無色，60—70×10—13 μ。

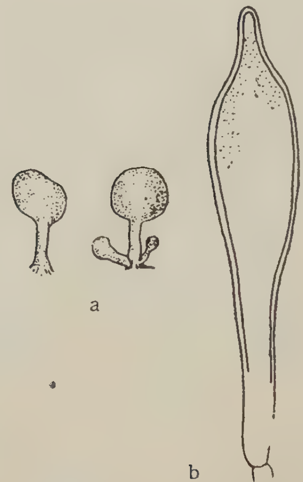
所在及產地

オクヤマザサ（*Sasa kurilensis* MAKINO et SHIBATA var. *crenua* NAKAI）腐桿上　北海道

和名　タマバリタケ（玉針茸）〔今井〕

forma sterilis KOBAYASI, Jap. Jour. Bot. 26 : 316, *f. 3.* 1951.
タマバリタケモドキ

子實體は散生或は束生，微小，純白，高さ 0.8—1 mm，頭部は球形或は扁球形，徑 0.4—0.5 mm，表面粉白にて脆く，中空，水滴を分泌することあり，莖は 0.3—0.5×0.1 mm，圓柱狀，平滑，白色，半透明，基脚より放射狀白色菌絲を出し圓盤狀をなす，莖の組織は密に束狀をなせる菌絲よりなる，菌絲は薄膜，菌絆なく，徑 2.5—3.7 μ。頭部表面は絲狀體及囊狀體に蔽われ，擔子柄を見ず，絲狀體は密に並列し，棍棒形，先端圓頭或は尖頭，22—25×5 μ，



第56圖　タマバリタケモドキ *P. sasae f. sterilis*
a. 子實體×25　b. 囊狀體　×720
（小林氏原圖より模寫）

囊狀體は紡錘形，大形にて多少厚膜，散在し，尖頭，52—54×8.5—12 μ。

所在及產地

ネマガリザサ (*Sasa paniculata* MAK. et SHIB.) 生稈上　　本州

和名　タマバリタケモドキ（擬玉針茸）〔小林〕

Physalacria komabensis IMAZ.
ヒメタマバリタケ

IMAZEKI, Jap. Jour. Bot. 11:339, *f. 1—2.* 1935. (小林，植．硏．雜．26:312. 1951—原，日．菌．目．269. 1954)

子實體は群生或は束生，微小，白色。頭部は幼時球形，成時下面扁平となり上面半球形にて饅頭狀或はドーム狀となる，粉狀，中空，徑0.3—1 mm。莖は同幅，細く，無毛，中實，0.3—1×0.1 mm，囊狀體は紡錘形，無色，結晶を冠るものあり，34—40×9.5—13 μ。擔子柄は2小柄あり，胞子は圓壔形或は圓壔狀楕圓形，平滑，無色，9—11×4—5.5 μ。

所在及產地　廣葉樹腐木上　　本州

和名　ヒメタマバリタケ（姬玉針茸）〔今關〕

Clavariadelphus DONK
スリコギタケ屬

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 72. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 269. 1950.

子實體は孤生，時に束生す，絲狀或は棍棒形，舌狀或は洋獨樂形にて，或種は截頭にて先端無性なり，普通は單一にて，肥大乃至絲狀なり，初め淡黃或は淡帶赤黃色にて時に桃色或は菫色を帶ぶ，後濃帶赤黃色，褐色，赤色或は銹色となる，肉は寧ろ緊緻にて脆からず，大形種に於ては海綿質，1菌絲型にて菌絆を有し，膨れ，薄膜，2次隔膜なし，時に乳管を有するものあり，子實層は厚く，大形菌に於ては縱皺あり，基部及或種に於ては先端に存せず。擔子柄は眞直或は稍々內屈する4小柄を有す，胞子は長楕圓形，苹子形，扁桃形乃至類圓筒形，顆粒狀油球あり。囊狀體なし。腐蝕上或は枝葉及毬果上に生ずるも切株上のものなし。北溫帶產。

（本屬名はClavaria(屬名) adelphus(體)より出づ）

基準種　*C. pistillaris* (L. ex FR.) DONK.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は洋獨樂形にて無性の截頭を有す—黃色或は橙赭色，後赤變或は肉桂色となる，6—15×2—9 cm，針葉樹林地上生。
　スリコギタケモドキ ***C. truncatus*** (72)

B. 子實體は有性の圓形或は尖れる先端を有す。
　a. 子實體は甚だ大形にて，7—30×2—6 cm，廣葉樹林地上生。
　　α. 胞子 11—16×6—10 μ，子實體は黃色，後赭色或は赤又は褐色を帶ぶ。
　　　スリコギタケ ***C. pistillaris*** (73)
　　β. 胞子 7—12.5×3.7—7.5 μ，子實體は肉色或は薔薇桃色，後赤赭黃色。
　　　ヘラスリコギタケ var. ***americanus*** (74)
　b. 子實體は前者より小形。
　　α. 子實體は屢々舌狀或は箆狀となる，3—10×0.5—1.5 cm，淡赭色或は幾分赤色を帶ぶ，胞子8—15×3—6 μ，林地上。
　　　コスリコギタケ ***C. ligula*** (74)
　　β. 子實體は絲狀乃至狹棍棒形。
　　　I. 子實體は 10—30×0.2—0.8 cm，黃色，後赤褐色，胞子 10—18.5×4.5—9 μ，枯木上。
　　　　クダタケ ***C. fistulosus*** (75)
　　　II. 子實體は幅狹く細長，3—15×0.05—0.2 cm，淡赭色乃至褐色，胞子 6—12×3.5—5 μ，廣葉樹腐葉枝上。
　　　　ホソヤリタケ ***C. junceus*** (76)

Clavariadelphus truncatus (QUÉL.) DONK
スリコギタケモドキ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:73. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 282. 1950.

Clavaria truncata QUÉL. Enchir. Fung. 221.

1886; Fl. Myc. 458. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 6: 988, *f. 1755.* 1920—LOVEJOY, Bot. Gaz. 50: 385. 1910—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 432. 1912—KONRAD, Bull. Soc. Myc. Fr. 39: 43, *pl. 3.* 1923—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 495.* 1925—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 119. 1928.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11: 42. 1929; 12: 18. 1931; 植. 動. 2:1700, *f. 14.* 1934—原, 日. 菌. 目. 73. 1954)

Craterellus pistillaris FR. Epicr. Myc. 534. 1838; Hymen. Eur. 1: 632. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 520. 1888—HARPER, Mycologia, 5: 261. 1913—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 341. 1914—WEHMEYER, Can. Jour. Res. 18c: 94. 1940.

Clavaria pistillaris auct. BRESADOLA, Icon. Myc. 23: *pl. 1102.* 1932.

子實體は高さ 6—15cm, 初め圓筒形にて鋭頭なるも, やがて棍棒形より洋燭樂形となり截頭, 頂部不平坦, 無性にて, 往々凹面或は有孔となる, 徑 2—9cm, 外側は下方に徐々に狹細し, 黄色, 後不平坦となり, 皺或は水泡狀膨れを生ず, 頂部は鮮黄色, 帶赤黄色, 橙色或は帶赤色なり, 莖は 3—8×0.4—1.5cm, 往々膨れ, 基端に白色菌絲網を附す, 肉は白色或は帶赤黄色, 擦傷によつて僅か褐紫色となる, 纖維狀肉質, 後海綿質, 表層脆し, 子實層は初め黄色, 橙色なるも後紅色を帶び或は黄肉桂色となる, 擔子柄は 60×12μ, 4 小柄あり, 胞子は楕圓狀圓壔形, 平滑, 無色, 9—13×5—7μ, 多油球或は顆粒狀, 味良好, 臭なきか僅かに存す, 可食。



第57圖 スリコギタケモドキ *C. truncata* ×1/2 (今井氏)

所在及產地 針葉樹林地 北海道—歐·北米·阿

和名 スリコギタケモドキ (擬擂子木茸) 〔今井〕

Clavariadelphus pistillaris (L. ex FR.) DONK

スリコギタケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 73. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 279, *f. 14B, 17—18, 105*; *pl. 3.* 1950.

Clavaria pistillaris L. Sp. Plant. 2: 1182. 1753—PERSOON, Comm. Fung. Clav. 61. 1797; Syn. Meth. Fung. 597. 1801; Myc. Eur. 1: 174. 1822—DC. Fl. Fr. 2: 96. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1: 477. 1821; Elench. Fung. 1: 230. 1828; Epicr. Myc. 578. 1838; Hymen. Eur. 676. 1874—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 658. 1821—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 175. 1836; Outl. Fung. 283. 1860—CORDA, Icon. Fung. 5: 81, *pl. 10, f. 76.* 1842—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 321. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 337. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 311, *pl. 21, f. 2.* 1872; Enchir. Fung. 221. 1886—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 336. 1876; Hattsv. 2: 173. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 378. 1889—WINTER, Pilze, 1: 306, *f. 1.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 722. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1251. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 445. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 85, *f. 8.* 1892; Brit. Fungi, 435, *pl. 34, f. 6.* 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 436, *f. 107D.* 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 90, *pl. 104, f. 235.* 1910—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26: 218. 1910; Hymen. Fr. 119. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 131, *pl. 24.* 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 193. 1919—REA, Brit. Basid. 717. 1922.

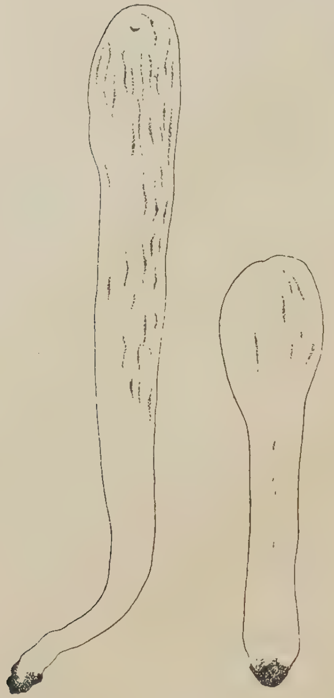
(安田, 植. 雜. 35: 11. 1921—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 85. 1927—川村, 日. 菌. 圖說, *n. 30.* 1929—今井, 植. 動. 2: 1700. 1934—今關, 日. 隱. 植. 圖. 407, *pl. 194, f. 1—2.* 1939—原, 日. 菌. 目. 72. 1954) pr. p.

Clavaria herculeana S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 657. 1821.

Clavaria spathulata CHEV. Fl. Gen. Paris, 1: 108, *pl. 8, f. 2.* 1826.

Clavariella pistillaris KARST. Rev. Myc. 3: 21. 1881.

子實體は散生或は群生し, 束生せず, 7—30×2—6cm, 初め類圓筒形にて尖頭, 後鈍頭となり, 棍棒形, 擂子木狀をなし, 往々洋燭樂形にて幾分截頭となる, 甚だ豐大, 屢々縦皺を有し, 皺は往々甚だ密となる, 淡黄色, 後多少濃赭色となり, 往々赤色或は帶褐色となる, 擦傷によつて帶褐葡萄酒色となる。莖は限界不明瞭, 基部に白絨毛あり, 肉は緊密, 後軟く, 海綿狀綿絮質, 白色, 擦傷により速に帶紫褐色となる, 子實層は常に全面に存し, 一般に厚く, 100—300μ, 多くの胞子を含む, 擔子柄は 90—120×11—13μ, 稀に小形, 10μ も抽出す, 4 小柄を有し, 稀に 2 小柄, 胞子は圓壔狀楕圓形, 屢々中部僅かに縊れ, 平滑, 無色或は黄色を帶ぶ, 11—16×6—10μ, 油球なし。味は寧ろ苦し, 可食。



第 58 圖　スリコギタケ *C. pistillaris* ×3/5（原圖）

所在及產地

廣葉樹林地上　　本州—歐. 亞(支)

和名　スリコギタケ（擂子木茸）〔安田〕

〔**因記**〕從來スリコギタケと稱せるものの內には箆形扁平なるものをも混同せり，ここにはCORNER氏に從つて後者を變種として次に記せり。

var. **americanus** CORNER

ヘラスリコギタケ

CORNER, Monogr. Clav. 280. 1950.

Clavaria pistillaris (non L. ex FR.)

ATKINSON, Mushr. ed. 2. 203, *f. 203.* 1903—PECK, Bull. N. Y. St. Mus. 94; 50, *pl. 93, f. 1—4.* 1905—HARPER, Mycologia, 5 : 261. 1913—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 58. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 83, *pl. 22, 23, 83, f. 14—17.* 1923—GÜSSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 208, *pl. 107 A.* 1927.

（安田，植. 雜. 35 : 11. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 85. 1927—川村，日. 菌. 圖說，*n. 30.* 1929—今井，植. 動. 2 : 1700. 1934—今關，日. 隱. 植. 圖. 407, *pl. 194, f. 1—2.* 1939—原，日. 菌. 目. 72. 1954) pr. p.

基種と色，形，及小形胞子によつて區別さる。子實體は屢々肉色或は薔薇色にて，後熟時赭色或は灰黃色となり，屢々多少扁平或は舌狀，時に少數の短き分岐をなす，孤生或は束生す，胞子は7–12. 5(–14) × 3. 7—7. 5 μ，平均9. 8×5. 5 μ，擔子柄は60—70×6. 5—8 μ。



第 59 圖　ヘラスリコギタケ *C. pistillaris* var. *americanus* ×3/5（川村氏原圖より模寫）

所在及產地

廣葉樹林，稀に針葉樹林地　北海道，本州—北米

和名　ヘラスリコギタケ（箆擂子木茸）〔安田〕

Clavariadelphus ligula (SCHAEFF. ex FR.) DONK

コスリコギタケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 73. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 278. *f. 104.* 1950.

Clavaria ligula SCHAEFF. Fung. Bavar. 116, *pl. 171.* 1763—PERSOON, Comm. Fung. Clav. 66. 1797; Syn. Meth. Fung. 596. 1801; Myc. Eur. 1 : 175. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 477. 1821; Elench. Fung. 1 : 230. 1828; Epicr. Myc. 578. 1838; Hymen. Eur. 676. 1784—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 321. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 124. 1867—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 311. 1872; Enchir. Fung. 221. 1886—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 24 : 82. 1872—GILLET, Champ. Fr. 761. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 336. 1876; Hattsv. 2 : 174. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 378. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 306. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 722. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1252. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 445. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 330. 1891; Brit. Basid. 436. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 85. 1892; Brit. Fungi, 435, *pl. 34, f. 7.* 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 131, *pl. 24 B, f. 1.* 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 193. 1919—REA, Brit. Basid. 718. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 :

58, *pl. 10, f. 95*. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 86, *pl. 28, f. 1, pl. 84, f. 1—2*. 1923—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 120. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 23 : *pl. 1103*. 1932.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11 : 41. 1929; 12 : 19. 1931; 植. 動. 2 : 1700, *f. 15*. 1934—今關, 日. 隱. 植. 圖. 407, *pl. 194, f. 3*. 1939—原, 日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavaria caespitosa WULF. in JACQ. Misc. 2: 98, *pl. 12, f. 2*. 1781.

Clavaria pulvinata PERS. Comm. Fung. Clav. 65. 1797.

Clavaria luteola PERS. Comm. Fung. Clav. 66. 1797; Syn. Meth. Fung. 598. 1801; Myc. Eur. 1: 179. 1822.

Clavariella ligula KARST. Rev. Myc. 3 : 21. 1881.

子實體は孤生或は群生, 3—10×0.5—1.5cm, 黄乾酪色, 後帶赤黄色或は幾分赤色を帶ぶ, 單一, 稀に2叉となる, 普通長棍棒形, 鈍頭, 屢々扁平とな



第60圖 コスリコギタケ *C. ligula* ×1/2 （大谷氏）

り舌狀或は篦狀となる, 莖は不明確, 基部に白絨毛あり, 白色菌絲に連る, 肉は白色, 稍々海綿質, 綿絮狀にて弛し, 菌絲はスリコギタケと同樣にて菌絆あり。子實層面は平坦或は稍々粗面, 擔子柄は40—65×6—9 μ, 4小柄あり, 胞子は狹楕圓或は類楕圓形, 鈍頭或は稍々鋭頭, 平滑, 無色, 8—15×3—6 μ, 顆粒を含む。

所在及産地

林地上 北海道, 本州—歐・北米・阿

和名 コスリコギタケ（小擂木茸）〔今井〕

Clavariadelphus fistulosus

(HOLMSK. ex FR.) CORNER

クダタケ

CORNER, Monogr. Clav. 272. 1905.

Clavaria fistulosa HOLMSK. Otia Fl. Dan. 1: *pl. 6*. 1790—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 599. 1801; Myc. Eur. 1 : 177. 1822—DC. Fl. Fr. 2: 97. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1 : 479. 1821; Elench. Fung. 231. 1828; Epicr. Myc. 579. 1838; Hymen. Eur. 677. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 320. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 311. 1872; Enchir. Fung. 221. 1886; Fl. Myc. 459. 1888—GILLET, Champ. Fr. 761. 1874—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 26 : 72. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 337. 1876; Hattsv. 2 : 175. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 379. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 305. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 723. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1252. 1916—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 330. 1891; Brit. Basid. 436, *f. 107 C*. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 86. 1892; Brit. Fungi, 435. 1911—LIND, Ann. Myc. 5 : 272. 1907—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 218. 1910; Hymen. Fr. 120, *f. 49*. 1928—HARPER, Mycologia, 10 : 53. 1918—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 194. 1919—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 59, *pl. 10, f. 96*. 1922—REA, Brit. Basid. 718. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 87, *pl. 84, f. 3*. 1923—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 496*. 1934.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13 : 386. 1934; 植. 動. 2 : 1702, *f. 19*. 1934—原, 日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavaria Ardenia SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 215*. 1799—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 599. 1801; Myc. Eur. 1 : 178. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 478. 1821; Epicr. Myc. 579. 1836—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 657. 1821—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 175. 1836; Outl. Brit. Fung. 283. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 320. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 338. 1871—WINTER, Pilze, 1 : 305. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 724. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 444. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 87. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 113. 1903—HARPER, Mycologia, 10: 53. *pl. 3*. 1918.

Clavaria fistulosa var. *ardenia* FR. Hymen. Eur. 677. 1874—GILLET, Champ. Fr. 761. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 175. 1882—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 330. 1891.

Calocera tuberosa FR. Hymen. Eur. 680. 1874.

Clavariella fistulosa KARST.



第61圖 クダタケ *C. fistulosus* ×2/5（今井氏）

Rev. Myc. 3 : 21. 1881.

子實體は群生或は孤生し，束生せず，10—30×0.2—0.8cm，巨大なるものは幅 1.3cm に及ぶ，單一，絲狀，圓筒形にて鋭頭，後稍々棍棒形にて鈍頭となる，時に截頭のものあり，平滑，眞直或は屢々下部捩曲す，黃色にて後茶色，銹色，赤褐色となる，中空，基部に屢々絨毛ありて短き根を有す，肉は黃色，緊密にて，稍々剛直，菌絲は幅 1.5—15 μ，菌絆あり，乳管を有す，菌絲は粘囊體の如き圓形端を有す。囊狀體なし。子實層は上 2/3 を被う，擔子柄は 40—65×8—11.5 μ，4 小柄あり，胞子は狹楕圓形或は稍々紡錘形，先端稍々尖り，平滑，無色，10—18.5×4.5—9 μ，細顆粒狀油球あり。香味なし。

所在及產地 腐木上 北海道—歐・北米

和名 *クダタケ*（管茸）〔今井〕

Clavariadelphus junceus

(ALB. et SCHW. ex FR.) CORNER

ホソヤリタケ

CORNER, Monogr. Clav. 275. 1950.

Clavaria pilosa PERS. Comm. Fung. Clav. 74. 1797.

Clavaria hirta Fl. Dan. *pl. 1257*. 1799.

Clavaria triuncialis β. juncea ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 287. 1805.

Clavaria juncea FR. Obs. Myc. 2 : 291. 1818; Syst. Myc. 1 : 479. 1821; Elench. Fung. 1 : 231. 1828; Epicr. Myc. 579. 1838; Hymen. Eur. p. 677. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 1 : 176. 1822—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 320. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 283. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 124. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 32. 1869—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 22 : 87. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 338. 1871; Handb. Austr. Fungi, 203. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 311. 1872; Enchir. Fung. 221. 1886—GILLET, Champ. Fr. 761. cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 305. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 724. 1888; Fl. Ital. Fung. Hymen. 1252. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 86. 1892; Brit. Fungi, 435. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 436. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 218. 1910; Hymen. Fr. 122. 1928—HARPER, Mycologia, 10 : 56, *pl. 5*. 1918—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 195. 1919—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 60, *pl. 10, f. 98*. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 23 : 1104. 1932.

Clavaria virgultorum PERS. Myc. Eur. 1 : 186. 1822.

Typhula juncea KARST. Hattsv. 2 : 181. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 384. 1889—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 441. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 124. 1912—COKER, Clav. U. S. Can. 200, *pl. 84, f. 4*. 1923—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 269. 1935.



第 62 圖 ホソヤリタケ *C. junceus* ×1/2（原圖）

子實體は孤生或は群生し，3—15×0.05—0.2cm，絲狀鋭頭，後屢々狹紡錘形或は稍々棍棒狀となり，鋭頭，後鈍頭となる，寧ろ硬く剛直なるも，老時軟弱となる，淡褐赭色，後淡赭色或は帶褐灰色或は幾分赤色を帶ぶ，莖は限界明かにて，長さ 1—5cm，有性部より稍々細く，基部に壓邊されたる纖維あり之れによつて着生す，時に上部に不定枝を出す，平滑，根狀束を有す，肉は寧ろ緊密にて剛直，脆からず，水潤性，古標品にては中空なり，菌絲は幅 10—25 μ，菌絆あり，莖の表層には稍々厚き凝固せる壁あり，莖囊體は能く發達し，子實層には囊狀體なし，子實層は厚さ 90 μ に及び，多くの小形にて屢々褐色の無形或は稍々結晶せる粒を含む，擔子柄は 30—55×7—10 μ，4 小柄あり，胞子は扁桃形，平滑，無色，6—12×3.5—5.5 (—6) μ，油球なし。强き酸臭味あり。

所在及產地

廣葉樹枯葉枝間腐枝葉上

本州—歐・北米・阿・濠・亞（支）

和名 ホソヤリタケ（細槍茸）

Ceratellopsis KONR. et MAUBL.

シダガマホタケモドキ屬

KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6 : 502. 1937—CORNER, Monogr. Clav. 198. 1950.

Ceratella (QUÉLET, pr. p.) PATOUILLARD, Hymen. Eur. 157. 1887. (non HOOKER)

子實體は絲狀にて甚だ小形，單一にて，或物は僅かに分岐す，長さ 0.5—1mm，著しく尖る無性頂端を有し，老時屢々先端迄有性となる，莖は甚だ短く或は缺如す，質は强靱纖維質にて蠟質の子實層を有す，菌絲は 1 菌絲型，膨大せず，菌絆を有す，菌核な

し，子實層は連續或は斷續し，厚からず，擔子柄は2—4小柄あり，胞子は楕圓乃至球形，平滑，稀に粗面，無色。嚢狀體缺如，僅かの種に存在す，莖嚢體は多くは缺如す。種々なる植物殘物上に生ず，北温帶産。（本屬名 Ceratella（屬名）-opsis（似）より出づ）

基準種　*C. aculeata* PAT.

本邦既知種　シダガマホタケモドキ **C. dryopteridis** (77)

Ceratellopsis dryopteridis (IMAI) CORNER

シダガマホタケモドキ

CORNER, Monogr. Clav. 203. 1950.

Pistillaria Dryopteridis IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13 : 386. 1934.

（原，日．菌．目．275. 1954）

子實體は群生或は孤生，小形，高さ 1—5 mm，白色，線形或は絲狀，平滑，莖と明かなる限界なし，擔子柄は類圓筒形にて厚からず，幅 5 μ内外，2 小柄あり，胞子は廣楕圓形，有嘴，有刺，無色，9—12.5×5—6.5 μ。

所在及產地

シラネワラビ（*Dryopteris austriaca* WOYN. SCHINZ et THELL.）の腐葉上　北海道

和名　シダガマホタケモドキ（羊齒擬蒲穗茸）

〔今井〕

Typhula FR. emend. KARST.

ガマホタケ屬

FRIES, Obs. Myc. 2:296. 1818; Syst. Myc. 1: 494. 1821—emend. KARSTEN, Finl. Nat. Folk, 37: 181. 1882.

Clavaria γ Typhula PERSOON, Syn. Meth. Fung. XVIII. 1801.

Typhula subgen. *Phacorrhiza* FRIES, Auct.

Phacorrhiza PERSOON, Myc. Eur. 1:192. 1822.

Pistillaria DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 100. 1933 (non FRIES)

子實體は高さ 1—100 mm，單一，甚だ小形乃至長形，菌核より生じ，絲狀の無性莖の先端に類球形，棍棒形，圓筒形或は絲狀の有性頭部を有す，質は莖部に於て特に角質或は軟骨質，頭部に於ては特に緊密蠟質或は柔軟，菌絲は1菌絲型にて膨大し，本來は菌絆を有す。子實層は頭部の生長しつつある先端以外の全面に存し，擔子柄は2—8，多くは4小柄あり，胞子は楕圓形，平滑，無色。嚢狀體は多くは缺如す。菌核は徑 0.5—6 mm，小形にて球形或は多少扁平，普通黃色，褐色或は黑色なり。死植物殘體上生にて地上生ならず。死物或は活物寄生。北温帶産。（本屬名は typha（ガマの穗）より出づ）

基準種　*T. phacorrhiza* FR.

本邦既知種檢索表

A. 頭部圓筒形，絲狀にて長さ 1 cm 以上に及ぶ。
  a. 帶赤黃色，高さ 2.5—10 cm。
    アカエガマホタケ **T. phacorrhiza** (77)
  b. 桃色にて白莖あり，高さ 3.5—30 mm。
    フユガレガマホタケ **T. incarnata** (78)

B. 頭部短圓筒形，楕圓或は棍棒形，長さ 1 cm 以下。
  a. 胞子大形にて長さ 15 μ に及ぶ，子實體は赤褐色。
    タマナギナタタケ **T. tochinaiana** (78)
  b. 胞子小形，長さ 10 μ 以下を普通とす。
    α. 白色にて，莖は桃赤色，菌核は赤褐色乃至黑色。　コアカエガマホタケ **T. erythropus** (79)
    β. 白色にて，莖は帶褐色，菌核は暗褐色。
      イシカリガマホタケ **T. ishikariensis** (79)
    γ. 全體白色，菌核は黑色。
      クロツブガマホタケ **T. subsclerotioides** (79)

Typhula phacorrhiza (REICH.) FR.

アカエガマホタケ

FRIES, Obs. Myc. 2:298. 1818; Syst. Myc. 1: 495. 1821; Elench. Fung. 1 : 236. 1828; Epicr. Myc. 585. 1838; Hymen. Eur. 683. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 180. 1836; Outl. Brit. Fung. 284. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 318. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:121. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 341. 1871—GILLET, Champ. Fr. 770. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 339. 1876; Hattsv. 2 : 182. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 385. 1889—WINTER, Pilze, 1:302, *f. 1—2.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 444. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1256. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:441. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:89. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 48. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 441, *f. 110 A.* 1908—REA, Brit. Basid. 721. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 202. 1923—CORNER, Monogr. Clav. 678, *f. 48, 286 g. 287 a.* 1950.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11 : 44. 1929—原，日．菌．目．373. 1954)

Clavaria phacorrhiza REICH. Schrift. Nat. Fr. Berl. 1:315, *pl. 9, f. 4—5.* 1775—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 233.* 1799—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 607. 1801; Myc. Eur. 1:192. 1822—NEES, Syst. Pilze Schw. 170. 1817—S. F. GRAY,

Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 658. 1821.

Phacorrhiza filiformis GREV. Scot. Crypt. Fl. 2 : *pl. 93*. 1824.

子實體は高さ2.5—10cm, 絲狀, 白色にて後乾酪色, 帶褐色, 帶赤黃色或は淡色となる, 菌核より1或は時に2—3個を生ず, 頭部は 10—20×0.5—1mm, 絲狀圓筒形, 銳頭無性の先端を有す, 莖との區別不明瞭なり, 莖は幅 0.3—0.8mm, 高さ甚だ變化す, 撓曲性, 絲狀, 微毛を散生す, 肉は寧ろ角狀軟骨質, 菌絲は幅 3—16 μ, 隔壁部に於て僅か縊れ, 多くの部分に菌絆なし, 暗褐色の結晶を存す, 囊狀體なし, 莖の表面に莖囊體あり, 形は稍々圓筒形, 無色, 平滑, 有隔, 基部僅か厚膜, 長さ 80 μ に及び, 幅 4—6 μ。擔子柄は 20—33×9—12 μ, 棍棒形, 2—4 小柄あり, 胞子は 11—15×4—8 μ, 甚だ變化す, 楕圓形或は稍々圓筒形, 1側膨れ, 薄膜, 油球なし。菌核は 1—6×1.5—3.5mm, 扁平, 往々淺裂し不正形, 淡色或は淤色, 橙褐色乃至黑褐色, 表生, 微小柄にて附着す, 平滑, 乾時皺を生ず, 軟骨質。

所在及産地

枯莖稈及枯葉上　　北海道—歐・北米

和名 アカエガマホタケ (赤柄蒲穗茸) 〔今井〕

Typhula incarnata LASCH ex FR.
フユガレガマホタケ

FRIES, Epicr. Myc. 585. 1838; Hymen. Eur. 683. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 285. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:318. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:341. 1871—KARSTEN, Hattsv. 2:182. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 385. 1889—WINTER, Pilze, 1:301. 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 224. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:745. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1258. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:89. 1892—W. G. SMITH, Brit. Basid. 441. 1908—REA, Brit. Basid. 721. 1922—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:95. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 673, *f. 284b, 286b, 287c*. 1950.

Clavaria filata PERS. Myc. Eur. 1 : 187. 1822.

Typhula filata HERTER, Krypt. Fl. Mark Brand. 6(1): 152. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 122. 1912.

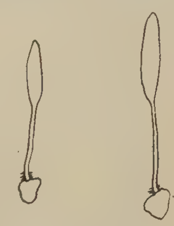
Typhula Itoana IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:42. 1929; Jap. Jour. Bot. 8:5, *f. 1—3*. 1936—REMSBERG, Mycologia, 32:70, *f. 6, 17, 19, 30, 42, 52, 56, 58*. 1840—WERNHAM, Phytopath. 31:940, *f. 1*. 1931—VANG, Medd. Plantepat. Afd. Kgl. Vet. Landb. Kob. 28 : 1. 1945.

(原, 日. 菌. 目. 373. 1954)

Typhula graminum (non KARST.) TASUGI, Jour. Imp. Agr. Exp. St. Tokyo, 1:55, *pl. 6—7*, 1929; 197, *pl. 17—18*. 1930; 2:457. 1935—VOLK, Zeits. Pfl. Krankh. 47 : 339, *f. 1—14*. 1937.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 401. 1927)

子實體は高さ 3.5—30mm, 菌核より1或は數個を生じ, 單一, 稀に枝を出す, 頭部は 1—20×0.4—2mm, 絲狀, 圓筒形にて短き時は楕圓狀圓壔形をなす, 中空, 銳頭或は鈍頭, 帶白色にて後肉色或は薔薇桃色となる, 莖は 5—20×0.5—1mm, 透明白色或は帶白乾酪色, 後灰色或は汚褐色となる, 微毛あり, 肉の菌絲は幅 5—6 μ, 菌絆あり, 僅か粘囊體狀の菌絲あり, 擔子柄は 15—40×5—8 μ, 2(4)小柄あり, 胞子は楕圓形或は卵形, 1側膨る。菌核は0.5—4.5×0.5—2mm, 類球形, 多少扁平, 平滑, 乾時或は老時粗面, 未熟の時は桃橙色, 後淤色乃至赤褐色或は暗褐色となる, 破出し, 屢々脫落す, 大形のものは中空となる, 麥類の冬損を起す。



第63圖
フユガレガマホタケ
T. incarnata ×1
(原圖)

所在及産地

禾本類枯桿, 葉及草莖葉上

北海道, 本州—歐・北米

和名 フユガレガマホタケ (冬枯蒲穗茸) 〔今井〕

Typhula tochinaiana (IMAI) CORNER
タマナギナタタケ

CORNER, Monogr. Clav. 685. 1950.

Clavaria Tochinaiana IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11 : 72. 1930; 12 : 19. 1931.

(今井, 植. 動. 2:1701, *f. 17*. 1934—原, 日. 菌. 目. 73. 1954)

子實體は多くは孤生し, 高さ 1.5—7cm, 菌核より生ず。頭部は長棍棒形或は殆ど線形, 1—5×0.2—0.4cm, 初め斷面圓形なるも後壓邊され, 表面に溝を生ず, 色は變化性に富み, 帶紅革色乃至赤褐色, 幼時暗色, 無性莖部と區分さる, 肉は略々同色, 中實, 無性莖部は 10—30×0.5—1.5mm, 淡黃褐色乃至赤褐色, 普通頭部より濃色なり。擔子柄は類棍棒形, 幅約 7.5 μ。4胞子を着く, 胞子は圓壔狀楕圓形, 無色, 12.5—15×6—7.5 μ, 菌核は球形或は楕圓形, 扁平或は殆ど歪形, 屢々縮皺



第 64 圖
タマナギナタタケ
T. tochinaiana ×1
(原圖)

あり，革色乃至橙黄栗褐色，3—8×1—2 mm。

所在及産地

甘藍腐葉上　北海道，本州

和名 タマナギナタタケ（球長刀茸）〔今井〕

Typhula erythropus (PERS.) FR.

コアカエガマホタケ

FRIES, Obs. Myc. 2:297. 1818; Syst. Myc. 1: 495. 1821; Epicr. Myc. 585. 1838; Hymen. Eur. 683. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 181. 1836; Outl. Brit. Fung. 284. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt.Fl. 1:318. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 121. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:341. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 312. 1872; Enchir. Fung. 224. 1886—GILLET, Champ. Fr. 770. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 338. 1876; Hattsv. 2:182. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basid. 385. 1889—WINTER, Pilze, 1: 302. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:774. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1259. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 440. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:88, *f. 5*. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 48, *f. 31, 1*. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 440, *f. 110 D*. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 120. 1912—REA, Brit. Basid. 721. 1922—CORNER, Monogr. Clav. 668, *f. 289*. 1950.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:74. 1930—原，日．菌．目．373. 1954)

Clavaria erythropus PERS. Comm. Fung. Clav. 84, *pl. 12, f. 14*. 1797; Syn. Meth. Fung. 606. 1801; Myc. Eur. 1: 191. 1822—DC. Fl. Fr. 6: 29. 1815—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 658. 1821.

Phacorrhiza erythropus GREV. Scot. Crypt. Fl. 1: *pl. 43*. 1823.

Cnazonaria erythropus DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 97. 1933.

子實體は高さ 5—25 mm，細長，1菌核より1或は稀に 2—3 箇を生ず，頭部は 1—6×0.3—0.5 mm，圓筒形或は鈍頭棍棒形，屢々僅か屈曲す，白色なり，莖は 1—20×0.1—0.3 mm，絲狀にて幾分微毛あり，桃赤色，後赤黑色となる，角質なり，肉の菌絲は幅2—20μ，或菌絲に菌絆あり，散在せる結晶あり，莖の表面には莖囊體あり，形圓錐形にて先端鋭或は鈍，厚膜，赤褐色，長さ60μに及び幅 4—8μ，子實層は頭部全面にあり，擔子柄は 18—30×5—7μ，2—4 小柄あり，胞子は圓壔形，苹子形，平滑，無色，5—9×2.5—3.5μ，油球なし。菌核は 0.5—2×0.4—1 mm，扁平楕圓形或は短圓壔形，平滑，赤褐色乃至黑色，多少破出す。

所在及産地 草本枯葉莖枝上　北海道—歐

和名 コアカエガマホタケ（小赤柄蒲穗茸）〔今井〕

Typhula ishikariensis IMAI

イシカリガマホタケ

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:74. 1930. (原，日．菌．目．373. 1954)

子實體は群生或は孤生，高さ 0.5—1.5 cm，菌核より生ず。棍棒部は圓筒形，圓壔狀棍棒形，長紡錘形或は稀に倒卵形，長さ 0.2—0.5 cm，幅 0.5—1 mm，白色或は帶白色，粉狀，乾時淡黃褐色となり，明かに莖部と區別せらる。莖は長さ 3—10 mm，絲狀にて，甚だ細長，帶褐色，乾時暗色となる，廓大鏡下にて少しく粉狀なり。擔子囊は圓筒狀棍棒形，幅約 5.5μ，4 胞子を着く。胞子は楕圓形或は圓壔形，8—10×4μ，平滑。菌核は球形，楕圓形或は不正形にて屢々壓低され，0.5—1 mm，濕時暗褐色，乾時帶黑色なり。麥類冬枯を起す。

所在及産地

苜蓿，小麥等の枯莖葉上　北海道

和名 イシカリガマホタケ（石狩蒲穗茸）〔今井〕

Typhula subsclerotioides IMAI

クロツブガマホタケ

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11: 75. 1930.

(原，日．菌．目．373. 1954)

子實體は群生或は孤生，高さ 1—2.5 cm，菌核より生ず。棍棒部は線狀棍棒形，線狀紡錘形或は紡錘形，圓柱狀或は稍々壓邊され，0.5—1×0.1—0.2 mm，白色，老時及乾時帶灰色となり，更に帶黃色，遂に帶褐色に變ず，平滑なり。莖は全長の約半ばを占め，幅約 0.5 mm，等大，上部僅かに粉狀，基部絨毛あり，擔子囊は 4 或は 2 胞子を着く，胞子は楕圓形或は圓壔形，無色，8—10×4—5μ，菌核は球形，屢々 1 側壓邊さる，黑色，時に黑褐色，0.5—3×2.5 mm，多くは徑 2—2.5 mm なり。

所在及産地

草本腐體上（菜豆，稗等）　北海道

和名 クロツブガマホタケ（黑粒蒲穗茸）〔今井〕

Pistillaria FR.

ガマホタケモドキ屬

FRIES, Syst. Myc. 1: 496. 1821.

Typhula subgen. *Leptorrhizae* FRIES, Hymen. Eur. 684. 1874. pr. p.

Cnazonaria CORDA, in STURM, Deut. Fl. Pilze, 7: 55. 1829.

Scleromitra CORDA, in STURM, Deut. Fl. Pilze,

7 : 55. 1829.

Sphaerula PATOUILLARD, Tab. Fung. 1 : 27. 1883.

Gliocoryne MAIRE, Bull. Soc. Bot. Fr. 55 : 120. 1908.

子實體は普通小形或は細長，單一，時に分岐す，頭部は稍々類球形，棍棒形，或は圓筒形，初め頂端無性にて後有性となる。莖は無性にて，菌核なし，肉は軟蠟質，軟骨質或は稍々角質，菌絲は1菌絲型にて，膨大，菌絆を有し或は頭部になし，普通菌絲間及其面に結晶あり，多くは嚢狀體なく，莖嚢體は一般に存在す。子實層は薄く，擔子柄は2—4，稀に1小柄を有す，胞子は楕圓乃至類球形，平滑，無色，植物殘體上。多くは北溫帶產。

（本屬名は pistellum（きね）より出づ）

基準種　*P. pusilla* FR.

本邦既知種檢索表

A. 頭部類圓筒形，先端截頭，全高 1—2cm，頭部 8—16×1.5—2mm，胞子 3—3.5×1.5—2.5μ，楢腐木上。シロヒメスリコギタケ
P. quercicola（80）

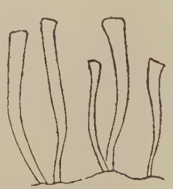
B. 頭部楕圓，圓筒或は棍棒形，全高 2—8mm，頭部 1—3×0.5—1mm，胞子 7.5—10×3.5—5μ，フキ腐葉柄上。
フキガマホタケモドキ **P. petasitidis**（80）

C. 頭部線狀棍棒形或は線狀圓壔形，全高 0.5—1cm，頭部 2—4×0.5—1mm，胞子 6—7×3—3.5μ，草原地上。　コシロガマホタケ **P. alba**（80）

Pistillaria quercicola（IMAI）

シロヒメスリコギタケ

Clavaria quercicola IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11 : 41. 1929; 12 : 20. 1931.（今井，植．動．2 : 1701, *f. 18*. 1934—原，日．菌．目．72. 1954）



第65圖　シロヒメスリコギタケ *P. quercicola* ×1　（今井氏）

子實體は群生或は孤生，高さ 1—2cm，頭部は類圓筒形，多くは先端截頭，基部に向つて僅か狹細す，8—16×1.5—2mm，白色，乾時帶黃色或は帶褐色となる，莖と明かに區分するを得ず，莖は 2—5×1mm，平滑，白色。擔子柄は4小柄を有し，胞子は楕圓形，3—3.5×1.5—2.5μ，1油球あり。

所在及產地

楢（*Quercus*）腐木上　　北海道

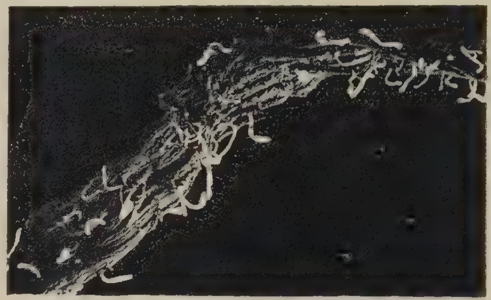
和名　シロヒメスリコギタケ（白姬擂子木茸）〔今井〕

Pistillaria petasitidis IMAI

フキガマホタケモドキ

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11 : 76. 1930.（原，日．菌．目．275. 1954）

子實體は群生，高さ 2—8mm，菌核なし，頭部は楕圓形，圓壔形或は棍棒形，1—3×0.25—1mm，平滑，無毛，白色，莖と稍々區別さる，莖は殆ど等幅或は僅か下方狹細，1—5×0.2—0.5mm，水潤白色，



第66圖　フキガマホタケモドキ *P. petasitidis* ×1　（大谷氏）

廓大鏡下にて粗面なり，肉は類膠質，濕時軟く，乾時堅硬なり。擔子柄は4小柄を有し，胞子は楕圓形にて膨れ，7.5—10×3.5—5μ。

所在及產地

フキ（*Petasites japonica* MIQ.）の腐葉柄上　　北海道

和名　フキガマホタケモドキ（蕗擬蒲穗茸）〔今井〕

Pistillaria alba（IMAI）

コシロガマホタケ

Typhula alba IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11 : 73. 1930.

（原，日．菌．目．373. 1954）

子實體は高さ 0.5—1cm，孤生或は群生，菌核を有せず，頭部は線狀棍棒形或は線狀圓壔形，2—4×0.5—1mm，白色，老時或は乾時先端より黃變す，平滑なり，莖は長さ 3—7mm，絲狀，細長，白色，後帶褐或は帶黃色となる，初め僅かに綿毛あるも後殆んど無毛となる。擔子柄は4小柄あり，胞子は楕圓或は圓壔狀楕圓形，有嘴，6—7×3—3.5μ。

所在及產地　草原地上　　北海道

和名　コシロガマホタケ（小白蒲穗茸）〔今井〕

Clavulina SCHROET.

カレエダタケ屬

SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 442. 1888—COR-

NER, Monogr. Clav. 294. 1950.

子實體は分岐し或は單一，一般に扁平分岐法にて，多少雞冠狀先端を有す，或種に於て僅か腹背を有し上面無性なり，白色或は諸色を呈するも，鮮黃，褐赤或は黑色のものなし，肉は堅靱，蠟狀纖維質或は寧ろ脆きものあり，1菌絲型にて多くは菌絆あり，廣き弛き髓部あり時に中空となる。子實層は厚く，擔子柄は稍々圓筒形，抽出し，通常胞子分散後横隔を生ず，2稀に1小柄を有す，小柄は通常內屈し短し。胞子は白色，類球形或は廣楕圓，鈍嘴あり，平滑，全胞子を殆ど充たす程の1大油球あり。囊狀體は多くは存在せず。地上生，稀に材上生，溫帶及熱帶產，

本屬名は clava(棍棒)，ulus (縮小詞) より出づ)

基準種　*C. cristata* (FR.) SCHROET.

本邦既知種檢索表

A. 子實體の菌絲は褐色膜を有し，僅か膨大す，子實層は1側面に存す一高さ 9cm に及び，暗褐色，粗豪，莖に剛毛あり，枝は掌狀，寧ろ少數。

ケアシホウキタケ ***C. ornatipes*** (81)

B. 子實體の菌絲は無色膜を有し，通常膨大す一菌絆を有す一囊狀體なし。

a. 淡菫色を呈し，灰色，肉色等に變化す一單一，僅か分岐或は屢々多枝，高さ 10cm に及び，胞子 7—10×6—8μ。

ムラサキホウキタケモドキ

C. amethystinoides (81)

b. 白色或は黃色。

α. 多岐一高さ 10cm に及び，先端屢々雞頭狀，子實層稀に1側，胞子 7—11×6.5—10μ。

カレエダタケ ***C. cristata*** (82)

β. 單一にて僅か分岐一高さ 12cm に及び，屢々縱皺あり，中空，胞子 9—14×8—11μ。

カレエダタケモドキ ***C. rugosa*** (82)

Clavulina ornatipes (PECK) CORNER

ケアシホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 333, *f. 24, 28—30, 142—143, pl. 15, f. 3.* 1950.

Clavaria ornatipes PECK, Bull. N.Y. St. Mus. 122: 18, 160. 1908—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 432. 1912—COKER, Clav. U.S. Can. 67, *pl. 9, f. 2, pl. 15, 83, f. 1—2.* 1923—KAUFFMAN, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 5: 118, *pl. 2, f. 1.* 1925.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13: 386. 1934—原，日．菌．目．72. 1954)

Lachnocladium ornatipes BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 65, *pl. 11, f. 102.* 1922.

子實體は孤生或は僅か群生，高さ 2.5—9mm，細長にて明瞭なる莖を有し，扁平なる掌狀にて，屢々僅少の枝を有し，寧ろ强靱，暗褐銹色或は暗褐葡萄酒色，先端は帶赤黃色或は白色，乾時淡色となる。莖は 1—6×0.2—0.3cm，或は扁平にて上部幅 8mm に及ぶ，圓筒形或は幾分扁平にて縱皺あり，暗褐色或は暗褐葡萄酒色，下部或は全部剛毛を有す，剛毛は主に上向し尖頭の刺狀をなし，屢々莖の基端より地上に擴がる，枝は幅 1.5—2mm，少數より稍々多數にて，稀に單一，一般に掌狀に1平面に 3—7 枝を生じ，又僅か簡單なる2叉をなす，扁平，平滑或は縱皺あり，直立す。先端は圓錐形にて尖頭，時に短絲狀となる，肉は同色，寧ろ纖維狀强靱，子實層は暗灰桃色或は暗褐葡萄酒色，厚さ 120μ に及び，擔子柄は 20—36×6—7.5μ，20μ も抽出し，2小柄を有す。胞子は類球形，平滑，無色，8—10.5×7.5—9.5μ，1或は多油球あり。囊狀體なし。臭なく，味溫和或は徐々に苦くなる。

所在及產地　林地上　北海道一北米．亞(馬)

和名　ケアシホウキタケ（毛足箒茸）〔今井〕

Clavulina amethystinoides (PECK) CORNER

ムラサキホウキタケモドキ

CORNER, Monogr. Clav. 298. 1950.

Clavaria amethystinoides PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 34: 102. 1907—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 429. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 42. *pl. 8, f. 63,* 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 65, *pl. 9, f. 1, pl. 14, 82, f. 23—25, pl. 83, f. 3.* 1923.

(HEMMI, Bot. Mag. Tokyo, 46: 161, *f. 2.* 1932—今井，植．雜．2: 1551. 1934—今關，日隱．植．圖．401. 1939—原，日．菌．目．71. 1954)



第67圖　ムラサキホウキタケモドキ *C. amethystinoides* ×1　（大谷氏）

子實體は孤生或は群生，高さ 3—10cm，不規則なる稍々單一，鹿角狀の分岐をなし，寧ろ屢々分岐するに至る，淡汚肉色，淡灰色，帶桃遊色，灰褐色或は甚だ淡き菫色を呈し，老時先端黑色な

り，莖は0.5—3.5×0.1—0.25cm，短或は長，枝より寧ろ暗色なり，枝は單一或は掌狀分岐し，扁平，幅1mm，時に稍々雞頭狀，屢々不規則，普通僅少にて斜上す，先端鈍或は鋭頭，肉は枝にては柔軟にて寧ろ蠟質にて脆く，莖にては强靱にて撓曲性，菌絲は幅9μに及び，念珠狀をなす，臭なく，味微なり。子實層は厚さ130μに及び，擔子柄は幅7—10μ，2小柄あり，胞子は類球形乃至廣楕圓形，平滑，無色，7—10×6—8μ，1油球あり。囊狀體なし。

所在及産地 林地上　　本州—北米

和名 ムラサキホウキタケモドキ

（擬紫箒茸）〔逸見〕

Clavulina cristata (HOLMSK. ex FR.) SCHROET.

カレエダタケ

SCHROETER, Pilze Schles. 1:442. 1888—CORNER, Monogr. Clav. 312, *f. 27, 124—125, 145*. 1950.

Ramaria cristata HOLMSK. Otia Fung. Dan. 1:92, *pl. 23*. 1790—QUÉLET, Fl. Myc. 464. 1888.

Ramaria fallax HOLMSK. Otia Fung. Dan. 1: 92. 1790.

Clavaria cristata PERS. Comm. Fung. Clav. 43. 1797; Syn. Meth. Fung. 591. 1801; Myc. Eur. 1: 166. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1: 473. 1821; Epicr. Myc. 572. 1838; Hymen. Eur. 668. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 174. 1836; Outl. Brit. Fung. 280. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:326. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 332. 1871; Handb. Austr. Fungi, 199.1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 309. 1872; Enchir. Fung. 218. 1886—GILLET, Champ. Fr. 767. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 329. 1876—WINTER, Pilze, 1: 315. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 695. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:77.1892; Brit. Fungi, 437. 1911—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 48: 211, *pl. 39, f. 8—12*. 1896—PATOUILLARD, Ess. Tax. 46. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 431. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 89, *pl. 103, f. 230*. 1910—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26: 211. 1910; Hymen. Fr. 102.1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 128. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6:176. 1919—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9:31, *pl.6, f. 40*.1922—REA, Brit. Basid. 705. 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 68, *pl.9, f.4, pl.17, 19, f.2*. 1923—GÜSSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 208, *pl. 104, f. 2*. 1927—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl.1094*. 1932—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 492, f. 1*. 1935—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2: 267. 1935.

（川村，日. 菌. 圖說，*n. 130*. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:108. 1931—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12: 11. 1931; 植. 動. 2: 1550. 1934—今關，日. 隱. 植. 圖. 399, *pl. 190, f. 2*. 1939—原，日. 菌. 目. 71.1954）

Clavaria cristata β. fallax FR. Syst. Myc. 1: 473. 1821.

Clavariella cristata KARST. Hattsv. 2: 187. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 389. 1889.

子實體は孤生，群生或は束生，高さ2.5—8cm，多枝，稀に稍々單一，莖は一般に明瞭，先端は尖頭にて雞頭狀をなす，白色にて屢々黃色を帶び，帶赤黃色，煤色或は帶桃白色となる，莖は高さ0.5—3cm，或は殆どなし，枝は多叉或は下部2叉，先端は一般に雞頭狀或は尖鋸齒狀をなし，時に單一菌絲となる，屢々扁平，往々單に尖錐狀をなす，肉は寧ろ堅靱或は脆く，往々中空，乾時白色，菌絲は菌絆を有す。子實層は厚く，擔子柄は40—60×6—8μ，2小柄を有す，胞子は類球形，少しく厚く，平滑，無色，7—11×6.5—10μ，1油球を有す。臭及味に特徵なし，可食。



第68圖　カレエダタケ *C. cristata* ×1/2　（大谷氏）

所在及産地 林地上　　全土—全溫帶

和名 カレエダタケ（枯枝茸）〔川村〕

Clavulina rugosa (BULL. ex Fr.) SCHROET.

カレエダタケモドキ

SCHROETER, Pilze Schles. 1: 442. 1888—CORNER, Monogr. Clav. 336, *f. 144—145*. 1950.

Clavaria rugosa BULL. Champ. Fr. 206, *pl.448, f. 2*. 1789—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 594.1801; Myc. Eur. 1 :173. 1822—DC. Fl. Fr. 2: 98. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1:473. 1821; Elench. Fung. 1: 230. 1828; Epicr. Myc. 572. 1838; Hymen. Eur. 669. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 175. 1836; Outl. Brit. Fung. 280, *pl. 18, f. 3*. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:326. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:125. 1867—COOKE, Handb. Brit.

Fungi, 1: 332. 1871; Handb. Austr. Fungi, 199. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 309, *pl. 20*, *f. 5*. 1872; Enchir. Fung. 218. 1886—GILLET, Champ. Fr. 766. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 329. 1876; Hattsv. 2: 168. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 376. 1889—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 31: 53. 1879—WINTER, Pilze, 1: 314. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 696. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1234. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 78. 1892; Brit. Fungi, 434, *pl. 38*, *f. 6*. 1911—W.G. SMITH. Brit. Basid. 431. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 90, *pl. 103*, *f. 233*. 1910—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26: 212. 1910; Hymen. Fr. 101. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 128. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6: 185. 1919—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 32, *pl. 6*, *f. 42*. 1922—REA, Brit. Basid. 706. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1098*. 1932.

（今井，植. 動. 2: 1550, *f. 1*. 1934)

Ramaria rugosa S.F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 655. 1821—QUÉLET, Fl. Myc. 464. 1888.

子實體は孤生，群生或は稍々束生，4—12×0.3—1cm，單一或は1—3の無岐の短枝を生じ，鹿角狀をなす，圓筒狀，平坦，多少棍棒形となる，鈍頭，縱皺あり，粗糙に膨れ，腦漿狀となる，屢々扁平，下方不明瞭なる莖に狹細す，白色乃至乾酪色，稀に黃色を呈す，乾時淡赭黃色，肉は寧ろ強靱にて緊密，菌絲は菌絆を有す。子實層は厚さ150μ，擔子柄は40—85×6—9.5μ，2小柄あり，胞子は廣卵狀楕圓形，平滑，無色，9—14×8—12μ，1油球あり。臭及味は微弱。



第69圖　カレエダタケモドキ *C. rugosa* ×1/2

所在及産地　林地上　本州—歐·濠

和名　カレエダタケモドキ（擬枯枝茸）

Clavaria FR. emend. CORNER

ソウメンタケ屬

FRIES, Syst. Myc. 1: 466. 1821—CORNER, Monogr. Clav. 214. 1950.

子實體は一般に單一にて屢々束生し，時に分岐す，脆質，白色，桃色，赤色，紫色，菫色，灰色或は褐色にて稀に黃色，分岐は車軸法。莖は劃然或は不劃然，小菌體には認め易し。肉は厚く或は薄く，菌絲は薄膜，膨脹，菌絆なく，2次隔膜を生ず。子實層は厚く或は薄く，決して1側ならずして，先端に及ぶ，擔子柄は多くは4小柄あり，菌絆なく（Syncoryne）或は廣き菌橋あり（Holocoryne），胞子は白色或は桃色，普通平滑，類球形或は圓筒狀楕圓形，薄膜，一般に油球なきか或は顆粒狀油球あり。囊狀體なきか或は薄膜のもの（cystidiole）あり。地上生，時に藻類と伴う。溫帶及熱帶產。

（本屬名は clava（棍棒）より出づ）

基準種　*C. vermicularis* FR.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は分岐す—紫水晶色，淡菫，葡萄酒色，高さ8cmに及ぶ，胞子4—7×3—5μ，溫熱帶產。

ムラサキホウキタケ ***C. zollingeri*** (84)

B. 子實體は單一。

a. 紫色或は帶紫褐色—胞子は通常5.5—9×3—5μ，束生，針葉樹下，溫帶產。

ムラサキナギナタタケ ***C. purpurea*** (84)

b. 珊瑚赤色或は薔薇桃色—胞子5—8×2.5—3.5μ，溫帶產。

ベニセンコウタケ ***C. rosea*** (85)

c. 灰色，煤色或は黑色。

α. 束生—高さ2—4cm，淡黃或は灰黃色，後煤色，胞子平均6×3.5μ，溫帶產。

サヤナギナタタケ ***C. fumosa*** (85)

β. 孤生或は群生—高さ1.5—5cm，灰褐色，後黑色，胞子球形，4—6μ，日本產。

クロセンコウタケ

C. avellano-nigrescens (86)

d. 黃色莖或は全部黃色系色。

α. 子實體は圓筒形，胞子9—12×4.5—6μ，溫帶產。　キアシセンコウタケ

C. argillacea (86)

β. 子實體は披針形，胞子6—7.5×3—4，日本產。　ヤリノホタケ ***C. lanceolata*** (87)

γ. 子實體は扁壓されたる棍棒形或は圓壔狀棍棒形，胞子8—10×4.5—5.3μ，日本產。

メアカンナギナタタケ

C. meakanensis (87)

e. 白色。

I. 胞子7—10×5—9μ，多油球，擔子柄基部に菌橋あり，溫帶產。

シロヤリタケ ***C. acuta*** (87)

II. 胞子前者より小形，通常油球なく，擔子柄に菌橋なし。

1. 莖6—15mm，透明的，胞子5×3μ，小笠

原産。ムニンヤリノホタケ
C. subacuta (88)

2.茎は不明瞭或は前者より短し。

甲.束生，茎不明瞭，高さ 6—12cm，胞子 5—7×3—4 μ, 汎布種。シロソウメンタケ
C. vermicularis (88)

乙.群生，孤生或は稍々叢生，茎は通常明瞭にて透明的，胞子類球形にて 3—6 μ，汎布種。シロソウメンタケモドキ
var. ***sphaerospora*** (89)

Clavaria zollingeri LÉV. emend. V. OVER.

ムラサキホウキタケ

LÉVEILLÉ, Ann. Sci. Nat. III, 2: 155. 1846—V. OVEREEM, Bull. Jard. Bot. Buit. III, 5: 270. 1923—CORNER, Monogr. Clav. 258, *f. 10, 95—98, pl. 1, f. 1—2.* 1950.

Clavaria amethystina ZOLL. Geneesk. Arch. Neerl. Ind. 1 : 381. 1844 (non FR. 1821)

Clavaria Nymaniana P. HENN. Monsunia, 1 : 9. 1900.

Clavaria lavendula PECK, Bull. N.Y. St. Mus. 139 : 47. 1910—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 47, *pl. 9, f. 73.* 1922—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 23, 75. 1933—WEHMEYER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 20 : 256. 1935.

Clavaria amethystina (non Bull. ex FR.) COKER, Clav. U.S. Can. 90, *pl. 24—25, 28. f. 2—3, pl. 84, f. 5.* 1923—Auct. pl. pr. p.

(KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi. *pl. 9, f. 20,* 1914; 日. 菌. 圖說, ***n. 196.*** 1929—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 141. 1917; ed. 3. 84. 1927—安田, 植. 雜. 33: 141. 1919—今井, 植. 動. 2 : 1552. 1934—ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15: 52. 1937—今關, 日. 隱. 植. 圖. 401, ***pl. 191, f. 3.*** 1939—原, 日. 菌. 目. 71. 1954)

子實體は高さ 1.5—7.5cm，通常束生にて群生或は孤生することあり，著しく分岐し或は僅かなることありて殆ど單一なるに至る，濃き紫水晶色或は菫色にて灰色，帶褐菫色，淡菫桃色或は葡萄酒色等に變化す。茎は 0—3cm×2—3mm，屢々基部より分岐す，淡色にて屢々帶灰色或は淡白色，老時帶黄色となる，枝は幅 1—3mm，肥大品にては基部幅 3—5 mm あり，1—4 回分岐，肥大品に於ては基部多叉なり，鈍頭或は突錐形，屢々僅かにて不正形，稀に無枝なり，多少箒狀，腋は圓し，肉は同色にて脆く，乾時黄變す，菌絲は一菌絲型にて菌絆なし。子實層は厚さ 100 μ に及び，擔子柄は 40—60×6—9 μ，4 稀に 2—3 小柄あり，胞子は廣楕圓形或は類球形，平滑，無色，4—7×3—5 μ，油球なし。臭及味なし，時に强臭ありという。

所在及產地 林內地上　北海道，本州，小笠原島—歐.北米.濠.亞(錫.爪.馬)

和名 ムラサキホウキタケ（紫箒茸）〔川村〕

Clavaria purpurea MUELL. ex FR.

ムラサキナギナタタケ

MUELLER, Fl. Dan. *pl. 837, f. 2.* 1870—PERSOON, Comm. Fung. Clav. 68. 1797; Syn. Meth. Fung. 600. 1801; Myc. Eur. 1 : 185. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 480. 1821; Epicr. Myc. 576. 1838; Hymen. Eur. 674. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 281. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 335. 1871—GILLET, Champ. Fr. 763. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 334. 1876; Hattsv. 2 : 171. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 377. 1889—QUÉLET, Enchir. Fung. 220. 1886—WINTER, Pilze, 1: 309. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 717. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1246. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 82. 1892; Brit. Fungi, 434. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 434. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 133. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 188. 1919—REA, Brit. Basid. 714. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 116. 1928—COKER, Clav. U. S. Can. 51, ***pl. 8, 82, f. 9—11.*** 1923—CORNER, Monogr. Clav. 246. 1950.

(安田, 植. 雜. 27: 561. 1913—KAWAMURA, Illus. Jap. Fung. *pl. 19, f. 9—11.* 1915; 日. 菌. 圖說, ***n. 197.*** 1927—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 143. 1917; ed. 3. 85. 1927—今井, 植. 動. 2: 1698. 1934—今關, 日. 隱. 植. 圖. 405, ***pl. 193, f. 3.*** 1939—原, 日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavaria nebulosa PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 25 : 326. 1898—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 47, *pl. 8, f. 72.* 1922.

Clavaria fumosa KAUFFM. Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 1 : 124. 1923.

Clavaria fumosoides KAUFFM. Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett.



第 70 圖 ムラサキナギナタタケ *C. purpurea* ×1

8: 145. 1928.

Clavaria occidentalis ZELLER, Mycologia, 21: 97, *f. 1.* 1929.

子實體は高さ 2.5—12cm，單一，通常束生し，1束 20 個に及ぶ，往々群生或は孤生す，紫色，灰紫色，褐紫色，帶紫煙褐色にて，時に淡色或は褐色を呈し，褪色して淡卵黃乃至淡汚桃色となる，基部に白絨毛あり，頭部幅 1.5—5 mm，類圓筒形，細長，鋭頭，後紡錘形，壓邊され，屢々縦溝あり，鈍頭にて中空，稀に基部に於て癒着し叉狀を呈す，莖は區分明かならず，淡乾酪色，白絨毛あり，肉は脆く，白色或は淡き同色，菌絲は幅 3—15 μ，菌絆なきか或は僅か存在す。子實層は屢々剝落す，擔子柄は 70—75×6—8 μ，4 小柄を有し，胞子は楕圓形乃至圓壔形，小嘴あり，平滑，無色，5.5—9×3—5 μ，時に大形のものを混ず，囊狀體は 45—130×5—9 μ，圓筒形或は下方に僅か狹細し，無色，鈍頭，多數に存在し，抽出す。味臭なきか微なり。

所在及產地　針葉樹林地　本州，九州—歐. 北米

和名　ムラサキナギナタタケ（紫長刀茸）〔安田〕

Clavaria rosea DALM. ex FR.
ベニセンコウタケ

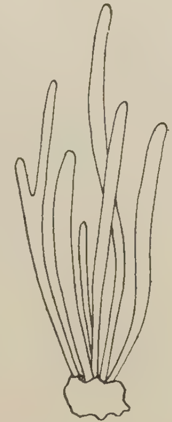
DALMAN, Vetensk. Akad. Handl. 157. 1811—FRIES, Obs. Myc. 2: 290, *pl. 5, f. 2.* 1818; Syst. Myc. 1: 482. 1821; Epicr. Myc. 577. 1838; Hymen. Eur. 674. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 175. 1836; Outl. Brit. Fung. 281. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 322. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 335. 1871—GILLET, Champ. Fr. 764. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2: 171. 1882—WINTER, Pilze, 1: 308, *f. 2.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 717. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1245. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 82. 1892; Brit. Fungi, 434. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W.G. SMITH, Brit. Basid. 434. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 133. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6: 188. 1919—REA, Brit. Basid. 714. 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 40, *pl. 81, f. 16—19.* 1923—CORNER, Monogr. Clav. 248. 1950.

(P. HENNINGS, Hedwigia. 39, Beibl. 155. 1900—松村，植. 名鑑，1: 135. 1904—白井，日. 菌. 目. 21. 1905; ed. 2. 143. 1917; ed. 3. 85. 1927—KAWAMURA, Illus. Jap. Fung. *pl. 19, f. 5—6.* 1925; 日. 菌. 圖說，*n. 117.* 1927—今井，植. 動. 2: 1697. 1934—原，日. 菌. 目. 73. 1954)

子實體は高さ 2—5cm，單一，孤生或は 2—7 個 1 群となる，鮮薔薇桃色，明桃色或は赤桃色，先端褪色して帶黃色となる，幅 1—5 mm，圓筒形にて鋭頭，後紡錘形にて鈍頭，往々扁平となりて短 2 叉或は齒牙狀，莖は短かく，明瞭にて透明的，肉は脆く，淡き同色或は白色にて，子實層下は濃き薔薇色を呈す，菌絲は幅 11 μ，菌絆なし。擔子柄は幅 7 μ，4 小柄あり，胞子は楕圓形，平滑，無色，5—8×2.5—3.5 μ。味臭なきか微なり。

所在及產地　林間草地上　本州—歐. 北米

和名　ベニセンコウタケ（紅線香茸）

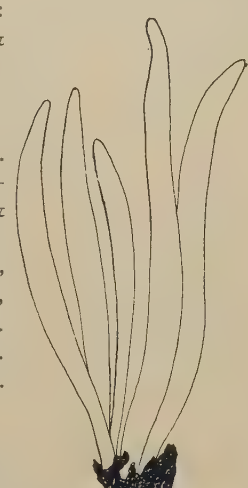


第 71 圖　ベニセンコウタケ *C. rosea* ×1

Clavaria fumosa PERS. ex FR.
サヤナギナタタケ

PERSOON, Comm. Fung. Clav. 76. 1797; Obs. Myc. 1: 31. 1796; Syn. Meth. Fung. 602. 1801; Myc. Eur. 1: 182. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1: 483. 1821; Epicr. Myc. 578. 1838; Hymen. Eur. 676. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 321. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 337. 1871—GILLET, Champ. Fr. 762. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2: 173. 1882—QUÉLET, Enchir. Fung. 221. 1886—WINTER, Pilze, 1: 306. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 721. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1245. 1916—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 330. 1891; Brit. Basid. 435. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 84. 1892; Brit. Fungi, 437. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 133. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6: 183. 1919—REA, Brit. Basid. 717. 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 50, *pl. 7, f. 7—8.* 1923—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 119. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1101, f. 1.* 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 331. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 235. 1950.

(安田，植. 雜. 38: 122. 1924—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 84. 1927—今井，植. 動. 2: 1695, *f. 7.* 1934—今關，日. 隱. 植. 圖. 405,



第 72 圖　サヤナギナタタケ *C. fumosa* ×3/4

pl. 193, f. 1. 1939—原, 日. 菌. 目. 72. 1954)

子實體は高さ 1.5—14cm, 單一にて密に束生, 淡乾酪色, 帶白色, 或は灰黃色, 後淡鼠色或は煤色となり, 稀に濃色或は暗褐色となる, 幅 1.5—7mm, 圓筒形, 後類棍棒形, 壓邊されて多少紡錘形となり, 屢々撚曲す, 銳頭より鈍頭となる, 細長或は寧ろ剛直, 基部に向つて帶白色となる, 中空. 莖は不明瞭或は缺如, 肉は白色にて脆し, 菌絲は徑 3—30 μ, 菌絆なし。子實層は厚くして 100 μ に及び, 擔子柄は 30—45×6—7 μ, 4 小柄あり, 胞子は楕圓形或は寧ろ苹子形, 有嘴, 平滑, 無色, 5—8×3—4 μ, 油球なきか顆粒を含む, 嚢狀體なし, 臭なく, 味可なり。

所在及產地 野外及林地

北海道, 本州—歐. 北米. 亞(西比. 爪)

和名 サヤナギナタタケ (鞘長刀茸)〔安田〕

Clavaria avellano-nigrescens IMAI
クロセンコウタケ

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12 : 20. 1931—CORNER, Monogr. Clav. 229. 1905.

(今井, 植. 動. 2:1699, *f. 13.* 1934—原, 日. 菌. 目. 71. 1954)

子實體は孤生或は群生, 單一, 長棍棒形, 鈍頭, 1.5—5×0.2—0.4cm, 幼時灰褐色, 成時及乾時黑色となる, 莖との區分明瞭ならず, 基端白色にて綿毛を有す, 中實なり。胞子は球形, 有嘴, 平滑, 無色, 4—6 μ。



第73圖 クロセンコウタケ *C. avellano-nigrescens* ×1 (今井氏)

所在及產地 林地蘚間 北海道

和名 クロセンコウタケ (黑線香茸)〔今井〕

Clavaria argillacea PERS. ex FR.
キアシセンコウタケ

PERSOON, Comm. Fung. Clav. 74. 1797—FRIES, Syst. Myc. 1 : 482. 1821; Hymen. Eur. 675. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 322. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 282. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 125. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 336. 1871; Handb. Austr. Fungi, 202. 1892—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 24 : 82. 1872—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:310. 1872; Enchir. Fung. 221. 1886—GILLET, Champ. Fr. 763. cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 172. 1882—WINTER, Pilze, 1 : 307. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:719. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1247. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 445. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:83. 1892; Brit. Fungi, 435. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 434. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 132. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 191. 1919—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 53, *pl. 9, f. 85.* 1922—REA, Brit. Basid. 716. 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 28, *pl. 81, f. 9.* 1923—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 116. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 494, f. 2.* 1934—CORNER, Monogr. Clav. 225, *pl. 2, f. 2.* 1950.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:70. 1930; 12 : 17. 1931; 植. 動. 2 : 1698, *f. 10.* 1934—原, 日. 菌. 目. 71. 1954)

Clavaria flavipes PERS. Neue Bot. Mag. 1 : 117. 1794; Comm. Fung. Clav. 75, *pl. 1, f. 4.* 1797; Syn. Meth. Fung. 602. 1801; Myc. Eur. 1 : 182. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 483. 1821.

Clavaria ericetorum PERS. Obs. Myc. 2:60. 1799; Syn. Meth. Fung. 600. 1801; Myc. Eur. 1:180. 1822—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 217. 1910.

Clavaria ericetorum var. *argillacea* QUÉL. Enchir. Fung. 221. 1886; Fl. Myc. 461. 1888.

? *Clavaria subfalcata* (non KARST.) ATK. Ann. Myc. 6:58. 1908—SACCARDO, Syll. Fung. 21:435. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9:51, *pl. 9, f. 80.* 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 21, *pl. 2, 81, f. 5, pl. 91, f. 22.* 1923.

(逸見及倉田, 植. 分. 地. 2:112. 1933—今井, 植. 動. 2 : 1698, *f. 9.* 1934—今關, 日. 隱. 植. 圖. 407. 1939—原, 日. 菌. 目. 73. 1954)

子實體は孤生或は群生, 又は 2—10 叢生, 高さ 3—8cm, 單一, 帶白色, 灰黃色, 乾酪色, 黃粘土色, 淡枸櫞黃色或は綠黃色なり, 幅 2—8mm, 圓筒形にて稍々銳頭, 後棍棒形にて鈍頭, 稀に分岐す, 莖に向つて漸次狹細す, 莖は長さ 1.5cm に及び, 明瞭, 有性部より濃色, 明黃色乃至硫黃色, 寧ろ脆し, 肉は淡白或は帶黃色, 屢々中空となる, 菌絲は幅 3—25 μ, 菌絆なし, 子實層は薄く, 截頭部も有性, 擔子柄は 55—74×6—8.5 μ, 基部に菌橋あり, 2—4 小柄あり, 胞子は楕圓形或は類圓筒形, 屢々少しく屈曲し, 小嘴あり, 9—12×4.5—6 μ, 多油球を含む。無臭。



第74圖 キアシセンコウタケ *C. argillacea* ×1 (今井氏)

在所及產地 草間地上 北海道, 本州—歐.

北米·濠

和名　キアシセンコウタケ（黄足線香茸）〔今井〕

〔**因記**〕CORNER氏は米國産 *Clavaria subfalcata* ATK. につきて疑問を抱き本種ならんと稱す，今玆には暫く同氏に從つて本種に附記せり。

Clavaria lanceolata IMAI

ヤリノホタケ

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:71. 1930; 12:18. 1931.

（今井，植．動．2:1699, *f. 11.* 1934—原，日．菌．目．72. 1954）



第75圖 a. ヤリノホタケ *C. lanceolata*（今井氏）

子實體は群生或は稀に2—3束生す，高さ 1.2—4cm，幅 0.1—0.3cm，披針形或は稍々圓筒形，通常扁平となり，先端尖り，莖部と寧ろ明かに區別され，乾酪色乃至白黄色，肉は黄色にて中實す，莖は 3—10×1—2mm，檬果黄色にて頭部より鮮色，光澤あり。擔子柄は4胞子を付く，胞子は圓壔形或は楕圓形，平滑，6—7.5×3—4μ。

所在及産地　草間地上生　北海道

和名　ヤリノホタケ（槍穗茸）〔今井〕

〔**因記**〕今井氏は本菌は前種に似るも小披針形にて，且つ胞子の小形なるの故を以て新種とし，CORNER氏は同一菌なりという。

Clavaria meakanensis IMAI

メアカンナギナタタケ

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11. 71. 1930; 12:18. 1931.

（今井，植．動．2:1699, *f. 12.* 1934—原，日．菌．目．72. 1954）



第75圖 b. メアカンナギナタタケ *C. meakanensis*（今井氏）

子實體は高さ 1—3.5cm，群生或は孤生，頭部は 0.8—3×0.2—0.5cm，棍棒形或は圓壔狀棍棒形，屢々扁平となりて縱皺を生ず，時に多少屈曲し，莖より明かに區別さる，藁色或は乾酪色にて乾時帶白黄色となる，肉は緣に於て類白色，中心髓部黄色にて中實。莖は 2—5×1mm，殆ど同幅，檬果黄色にて光澤あり。擔子柄は圓筒狀棍棒形，4或は2胞子を付く，胞子は圓壔形，平滑，8—10×4.5—5.3μ，顆粒を含む。

所在及産地　山地腐蝕土上　北海道

和名　メアカンナギナタタケ（雌阿寒長刀茸）〔今井〕

〔**因記**〕今井氏は本種はキアシセンコウタケに近似するも其形及色彩の差により新種とし，CORNER氏は同一種となせり。

Clavaria acuta SOW. ex FR.

シロヤリタケ

SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fung. *pl. 333.* 1803—FRIES, Syst. Myc. 1:485. 1921; Epicr. Myc. 580. 1838; Hymen. Eur. 679. 1874—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:657. 1821—PERSOON, Myc. Eur. 186. 1822—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 177. 1836; Outl. Brit. Fung. 283. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:338. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 5:325. 1877; Enchir. Fung. 222. 1886—GILLET, Champ. Fr. 760. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6:729. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1248. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:444. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:85. 1892; Brit. Fungi, 433. 1911—COTTON, Trans. Brit. Myc. Soc. 3:31. 1907—W. G. SMITH, Brit. Basid. 436. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 130. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6. 185. 1919—REA, Brit. Basid. 719. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 25, *pl. 81, f. 8, pl. 92, f. 1—2.* 1923—CORNER, Monogr. Clav. 222, *f. 75, pl. 2, f. 4.* 1950.

（IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:70. 1930; 12:17. 1931; 植．動．2:1698, *f. 8.* 1934—HEMMI, Bot. Mag. Tokyo, 46:162. 1932—原，日．菌．目．71. 1954）

Clavaria falcata PERS. Comm. Fung. Clav. 81, *pl. 1, f. 3a, b.* 1797; Syn. Meth. Fung. 604. 1801; Myc. Eur. 1:186. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1:485. 1821; Epicr. Myc. 1:580. 1838; Hymen. Eur. 678. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:320. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2:360. 1873; Suppl. 5:326. 1877; Enchir. Fung. 222. 1886—GILLET, Champ. Fr. 761. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:176. 1882—WINTER, Pilze, 1:304. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1:444. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26: 219. 1910; Hymen. Fr. 111. 1928.

Clavaria filipes BERK. et RAV. Grev. 2:17. 1873.

Clavaria fragilis REA, Brit. Basid. 717. 1922. (non FR.)



第76圖　シロヤリタケ　*C. acuta* ×1

子實體は孤生或は小群をなし，或は密に叢生，高さ 1—8cm，單一，光澤ある白色，甚だ脆し，幅 1—3mm，

圓筒形にて鋭頭，後壓遏せられ鈍頭，中空となる，細長，纖細，莖は 0.5—2cm×1—1.5mm，普通明瞭にて，透明的なり，菌絲は幅 4—12 μ, 中心部は20—30 μ，菌絆なし。子實層は厚からず，擔子柄は25—40×8—10 μ, 2—4 小柄あり，基部に菌橋あり，胞子は廣楕圓乃至類球形，小嘴あり，平滑，無色，7—10×5—9μ，顆粒狀油球あり。嚢狀體なし。臭及味なし。

所在及產地 草間或は露地上　北海道，本州—歐·北米·濠

和名 シロヤリタケ（白槍茸）〔今井〕

Clavaria subacuta S. ITO et IMAI
ムニンヤリノホタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15 : 56. 1937—CORNER, Monogr. Clav. 249. 1950.

子實體は 2—4×0.1—0.15cm，單一，叢生，白色，圓筒形，先端漸尖或は鈍頭，莖は長さ 0.6—1.5 cm，明瞭にて頭部より細し，透明的白色。胞子は楕圓形或は類卵形，平滑，無色，5×3 μ。

所在及產地 林地上　小笠原島

和名 ムニンヤリノホタケ（無人槍穗茸）〔今井〕

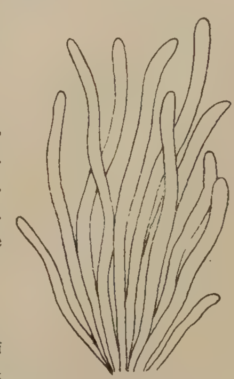
Clavaria vermicularis SWARTZ ex FR.
シロソウメンタケ

SWARTZ, Vetensk. Akad. Handl. *pl. 6*, *f. 2.* 1811—FRIES, Syst. Myc. 1 : 484. 1821; Hymen. Eur. 675. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 176. 1836—GILLET, Champ. Fr. 763. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 221. 1880; Fl. Myc. 462. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 720. 1880—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 83. 1892; Brit. Fungi, 435. 1911—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 202. 1892—W. G. SMITH, Brit. Basid. 435, *f. 107B.* 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 217. 1910; Hymen. Fr. 110. 1928—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 183. 1919—BURT, Ann. Misssouri Bot. Gard. 9 : 48, *pl. 9*, *f. 74.* 1922—REA, Brit. Basid. 716. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 493*, *f. 1.* 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 268. 1935—CORNER, Monogr. Clav. 251, *f. 93—94.* 1950. (KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 18*, *f. 13.* 1925—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 85. 1927—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12 : 16. 1931; 植. 動. 2 : 1695. 1934—今關，日. 隱. 植. 圖. 405, *pl. 193*, *f. 2.* 1939; 及土岐，林. 試. 研. 報. 67 : 23. 1954—原，日. 菌. 目. 73. 1954)

Clavaria vermiculata SCOP. Fl. Carn. 2 : 483. 1772—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fung. 3: *pl. 253.* 1803—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 657. 1821—PERSOON, Myc. Eur. 1 : 184. 1822—FRIES, Epicr. Myc. 577. 1838—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 322. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 282. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 337. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 310. 1872—KARSTEN, Hattsv. 2 : 172. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 378. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 307. 1884—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 132. 1912—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1246. 1916—COKER, Clav. U. S. Can. 45, *pl. 5—6*, *82*, *f. 5—6.* 1923. (川村，日. 菌. 圖說，*n. 129.* 1929)

Clavaria cylindrica BULL. Champ. Fr. *pl. 463*, *f. 1.* 1789—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 656. 1821—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1246. 1916.

Clavaria fragilis HOLMSK. Otia Fung. Dan. 1 : 7, *pl. 2.* 1790—FRIES, Syst. Myc. 1 : 484. 1821; Elench. Fung. 232. 1828; Epicr. Myc. 573. 1838; Hymen. Eur. 675. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 176. 1836; Outl. Brit. Fung. 283. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 321. 1844—BARLA, Champ. Nice, 88, *pl. 41*, *f. 14—16.* 1859—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 124. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 337. 1871; Handb. Austr. Fungi, 202. 1892—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 24 : 82. 1872—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 310. 1872; Enchir. Fung. 221. 1886; Fl. Myc. 462. 1888—GILLET, Champ. Fr. 762. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 335. 1876; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 378. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 721. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 445. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 84. 1894—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 435. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 218. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 132. 1912—BRESADOLA, Icon. Myc. 22 : *pl. 1100.* 1832.



第 77 圖　シロソウメンタケ *C. vermicularis* ×3/4

(ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15 : 54. 1937)

Clavaria eburnea PERS, Syn. Meth. Fung. 603. 1801; Myc. Eur. 1 : 183. 1822—DC. Fl. Fr. 2 : 97. 1815—NEES, Syst. Pilze Schw. 170. 1817.

子實體は高さ 3—12cm，單一にて，密に束生し，稀に群生，孤生し，3—6 個癒着することあり，白色，甚だ脆し，幅 3—5mm，圓筒形，後伸長して長紡錘形となり，扁平にて溝を生ず，

屢々屈曲或は撓曲，稀に二叉す，中實にて後多くは中空となる，鋭頭より鈍頭となり，屢々頂端に向つて黄變し，老時全部淡黄色となる，莖は不明瞭にて短き僅か細き無性部として認めらる，肉の菌絲は幅3—16 μ，菌絆なし。子實層は薄く，擔子柄は 30—45×6—8 μ，4 小柄あり，胞子は楕圓形或は苹子形，小嘴あり，平滑，無色，5—7×3—4 μ，通常油球なきも，時に 1 油球あり。嚢狀體なし。味及臭なし。

所在及産地 野外及林地上 北海道，本州，九州，小笠原島—歐・北米・阿・濠・亞（支・錫・爪）

和名 シロソウメンタケ（白素麵茸）

var. **sphaerospora** BOURD. et GALZ.

シロソウメンタケモドキ

BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 1 : 110. 1928 (ut forma)—CORNER, Monogr. Clav. 254. 1950.

子實體は高さ 3—4(—7) cm，胞子は類球形にて 3—6 μ，僅かのもの洋梨形にて 4.5—5×3(4) μ。

所在及産地

林地上 本州，小笠原島—歐・北米・濠・亞（支）

和名 シロソウメンタケモドキ（擬白素麵茸）

Ramariopsis DONK emend. CORNER

ヒメホウキタケ屬

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 89. 1933 (ut subgen.)—CORNER, Monogr. Clav. 636. 1950.

子實體は分岐し，稀に單一，諸色を呈し，蠟狀肉質，脆弱或は寧ろ强靱，莖は通常劃然にて寧ろ細長，屢々白絨毛を有す，枝は車軸狀にて多叉或は二叉にて圓筒形。肉は 1 菌絲型にて菌絆あり，膨脹す。子實層は厚く或は薄く，擔子柄は棍棒形，小乃至中形，4 稀に 2 小柄あり，小柄は眞直或は稍々内屈す。胞子は白色，楕圓或は類球形，細疣或は小刺を有す。嚢狀體なし。地上稀に材上生，主に北溫帶產。

（本屬名は Ramaria (屬名)-opsis (似) より出づ）

基準種 *R. kunzei* (FR.) DONK

本邦既知種檢索表

A. 白色種—高さ 2—12cm，莖は短絨毛を有す。
　　シロヒメホウキタケ ***R. kunzei*** (89)

B. 黄金色乃至橙色種—高さ 5cm に及び，莖は平滑或は微粉を帶ぶ。
　　アカヒメホウキタケ ***crocea*** (90)

Ramariopsis kunzei (FR.) DONK

シロヒメホウキタケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 89. 1933—CORNER, Monogr. Clav. 640, *f. 273—274*. 1950.

Clavaria Kunzei FR. Syst. Myc. 1 : 474. 1821; Elench. Fung. 1:230. 1828; Epicr. Myc. 573. 1838; Hymen. Eur. 669. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 325. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 280. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 333. 1871; Handb. Austr. Fungi, 199. 1892—PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 24:81. 1872—GILLET, Champ. Fr. 766. 1874—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 3:444, *pl. 2. f. 11*. 1875; Enchir. Fung. 218. 1886—KARSTEN, Hattsv. 2 : 169. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 376. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 314. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 697. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1233. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 78. 1892; Brit. Fungi, 437. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 46. 1900—W.G. SMITH, Brit. Basid. 432. 1908—COTTON, Trans. Brit. Myc. Soc. 3 : 180. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 129. 1912—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6:177. 1919—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9:29, *pl. 5, f. 36*. 1922—REA, Brit. Basid. 707. 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 95, *pl. 20, 84, f. 9—18*. 1923.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11:40. 1929; 12:12. 1931; 植. 動. 2:1550. 1934—HEMMI, Bot. Mag. Tokyo, 46:165, *f. 5*. 1932—今關，日. 隱. 植. 圖. 399, *pl. 190, f. 1*. 1939—原，日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavaria chionea PERS. Myc. Eur. 1:167. 1822.

Clavaria subcorticalis SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4 : 182. 1832.

Clavulina Kunzei SCHROET. Pilze Schles. 1 : 442. 1888.

Ramaria Kunzei QUÉL. Fl. Myc. 464. 1888.

Clavaria asperula ATK. Ann. Myc. 6:54. 1908.

Clavaria asperulans ATK. Ann. Myc. 6:55. 1908.

Clavaria subcaespitosa PECK, Bull. N.Y. St. Mus. 167 : 39. 1913—COKER, Clav. U.S. Can. 101, *pl. 84, f. 19*. 1923.

Lachnocladium subcorticale BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 66. 1922.

子實體は高さ 2—12cm，雪白色，象牙白色或は乾酪白色，稀に桃色或は肉色を帶ぶ，孤生，群生或は束生，多枝或は少枝，寧ろ柔靱にて彈性，多少脆弱に變化す，莖及主枝の基部に短絨毛あり，莖は 0.5—2.5×0.25—0.6cm，往々缺如，通常明瞭，往々基部に於て黄色或は桃色なり，枝は大形品にては幅 2—5mm，基部は 3—5 叉，上部は細く 2 叉す，分岐點近く彎曲して後直立し，箒狀，密集或は粗，通常圓筒形，往々扁平なり，小形品の枝は細長にて反覆 2 叉し，往々甚だ整形なり，先端は鋭く或は鈍く，決して雞冠狀ならず，肉の菌絲は 1 菌絲型にて，幅



第 78 圖 シロヒメホウキタケ
R. kunzei ×1 (大谷氏)

3—10 μ, 菌絆なし。嚢状體なし。子實層は初め薄く，後 100 μ に及び，莖及主枝の絨毛ある部に缺如，擔子柄は25—40×5—6μ, 4 小柄あり，胞子は廣楕圓形或は殆ど球形，小嘴あり，微刺，有疣或は粗刺あり，無色，3—5.5×2.3—4.5 μ，1 油球あり。臭及味なきか微なり。

所在及産地 林內及野外地上，稀に腐木上 北海道，本州一歐. 南北米. 濠

和名 シロヒメホウキタケ (白姫箒茸) 〔今井〕

Ramariopsis crocea (PERS. ex FR.) CORNER

アカヒメホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 638. 1950.

Clavaria crocea PERS. Icon. Descr. Fung. 2:36, *pl. 11, f. 6*. 1800; Syn. Meth. Fung. 595. 1801; Myc. Eur. 1:169. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1:472. 1821; Epicr. Myc. 575. 1838; Hymen. Eur. 671. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:324. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 280. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:334. 1871; Handb. Austr. Fungi, 200. 1892—WINTER, Pilze, 1:311. 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 219. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:702. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1240. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:80. 1892—W. G. SMITH, Brit. Basid. 433. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):137. 1912—COKER, Clav. U. S. Can. 107, *pl. 28, f. 4, pl. 84, f. 26—28*. 1923—WEHMEYER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 20:256. 1935—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:267, *f. 60*. 1935.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hit. Soc. 11:39. 1929; 12:13. 1931; 植. 動. 2:1552, *f. 2*. 1934—原, 日. 菌. 目. 71. 1954)

Clavariella crocea HERTER, Krypt. Fl. Mark Brand. 6(1):164. 1910.

子實體は高さ 5cm に及び，分岐す，孤生或は 2—4 群生す，全面黃金色，擦傷の爲帶綠色のことあり，莖は 1cm に及び，普通全高の $\frac{1}{4}$—$\frac{1}{2}$ を占む，區分明瞭にて微粉を帶ぶ，枝は 2—4 回緩き 2 叉をなし，圓筒形，腋は新月形，鋭頭或は鈍頭，纖細なるも彈力性にて脆からず，肉の菌絲は 2.5—5.5 μ，菌絆あり。子實層は厚さ 20 μ，擔子柄は 4 小柄を有し，胞子は類球形，不明瞭の小刺を有し，無色，3—4×2—3.5 μ，1 油球あり。臭及味なし。

所在及産地 林內草間地上 北海道一歐. 北米. 濠

和名 アカヒメホウキタケ (赤姫箒茸) 〔今井〕

Clavulinopsis van Ov.

ナギナタタケ屬

van OVEREEN, Bull. Jard. Bot. Buit. III, 5:278. 1923.

Corincularia BONORDEN, Handb. Myk. 166. 1851. (non HOFFMAN 1789)

Clavaria Auct. pl. pr. p.

子實體は孤生，群生或は束生，單一或は分岐し，箒形，諸色を呈し，屢々白色，黃色，橙色或は赤色，稀に褐色，灰色或は紫色，莖は多少劃然。分岐法は車輪狀にて交互，肉は肉狀蠟質乃至寧ろ强靱，決して *Clavaria* の如く脆からず，1 菌絲型にて菌絆あり，多くは膨大す。子實層は一般に厚く，莖上には存せず，子實體の先端迄被覆す，擔子柄は棍棒形，4 時に 2—3，稀に 4—6 小柄を生ず，胞子は白色，油球によつて黃色を帶ぶ，平滑或は時に粗刺を有するものあり，球形，卒子形或は楕圓形，多くは 1 油球あり。地上生，稀に材上生。汎布種。

(本屬名 Clavulina (屬名)-opsis (似) より出づ)

基準種 *C. miniata* (BERK.) CORNER

本邦既知種檢索表

A. 胞子は粗疣或は鈍刺を有し，類球形，子實體は鮮黃乃至橙黃，單一，汎布種。

キソウメンタケ ***C. helvola*** (91)

B. 胞子は平滑，子實體は單一或は分岐。

a. 白色系種一白色にて帶黃色となる，高さ 1.5 cm，2—5 回 2 叉，基部に白絨毛あり，胞子 5—7.5 μ 小笠原產。

オガサワラシロヒメホウキタケ

C. boninensis (91)

b. 黃色系種。

α. 分岐體一高さ 8 cm に至り，黃，卵黃或は帶赤黃色，先端新月形に 2 叉す，溫帶產。

キンホウキタケ　***C. corniculata*** (92)

β. 單一體にて稀に分岐す。

I. 胞子廣楕圓乃至類球形。

1. 熱帶種, 胞子 4—7 μ, 高さ 2—16 cm, 黄色, 橙色或は杏色。

ムニンキアシセンコウタケ
C. amoena (93)

2. 溫帶種, 胞子 5—9×4.5—8.5 μ, 高さ 5—14 cm, 鮮黄色, 著しき小嘴あり。

ナギナタタケ　***C. fusiformis*** (93)

II. 胞子は楕圓形にて幅より明かに長し。

1. 著大の小嘴 (長さ 1—2 μ) を有す—高さ 10 cm に及び, 明黄色乃至橙色, 胞子 5—7.5×3.5—6 μ, 溫帶產。

クワベンタケ　***C. pulchra*** (94)

2. 小嘴は長さ 1 μ 以下—高さ 8 cm に及び, 橙色或は杏色, 先端淡色或は白色, 胞子 5—8×2.5—4 μ, 溫帶種。

ダイダイナギナタタケ
C. luteo-alba (94)

c. 赤色系種。

α. 高さ 7 cm, 幅 3 mm に及び, 圓筒形, 橙赤色乃至緋色, 胞子 5—7×4—5.5 μ, 米國及支那產。アカナギナタタケ

C. aurantio-cinnabarina (94)

β. 高さ 14 cm, 幅 1 cm に及び, 長紡錘形, 赤桃色乃至緋色, 胞子 6—8 μ, 日本種。

ベニナギナタタケ　***C. miyabeana*** (95)

γ. 高さ 10 cm, 幅 4 mm, 圓筒形, 後紡錘形にて屢々扇狀 (幅 5 cm に及ぶ) となる, 胞子 5—7×4.5—6.5 μ, 熱帶產。

アケボノソウメンタケ　***C. miniata*** (95)

d. 褐色系種—高さ 5 cm に及び, 3—4 回 2 叉, 煙草色, 胞子 5×3 μ, 日本種。

ヒメホウキタケモドキ　***C. subumbrinella*** (96)

Clavulinopsis helvola (PERS. ex FR.) CORNER

キソウメンタケ

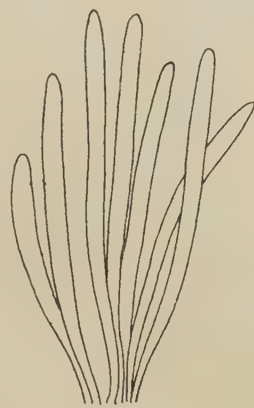
CORNER, Monogr. Clav. 372, *f. 9, 146h, pl. 10, f. 2.* 1950.

Clavaria helveola PERS. Comm. Fung. Clav. 69. 1797; Syn. Meth. Fung. 598. 1801.

Clavaria helvola FR. Syst. Myc. 1 : 482. 1821—PERSOON, Myc. Eur. 1 : 180. 1822—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 176. 1836.

Clavaria inaequalis sensu COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 189. 1929—COKER, Clav. U. S. Can. 63. 1923.

(KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 3, f. 12—13.* 1912; 日. 菌. 圖說, *n. 125.* 1929—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 143. 1917; ed. 3. 84. 1927—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12 : 17. 1931; 植. 動. 2 : 1697. 1934; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67 : 23. 1954—原, 日. 菌. 目. 72. 1954)



第 79 圖　キソウメンタケ
C. helveola ×1

子實體は 3—7 cm×1.5—4 mm, 單一, 孤生或は小群をなすも束生せず, 類圓筒形或は伸長し, 棍棒形となる, 成時稍々鈍頭なるも老時更に鈍頭或は圓頭となる, 稀に先端に短枝を出す, 鮮黄色乃至橙黄色なり, 莖は 5—18×1—1.5 mm, 通常明瞭にて淡き同色, 肉は白色或は帶黄色, 中空, 稍々綿絮狀, 緊密蠟質, 脆からず, 菌絲は幅 4—10 μ, 菌絆あり。囊狀體なし。子實層は薄く, 擔子柄は 30—48×6—7.5 μ, (2—)4 小柄あり, 胞子は類球形, 屢々稍々多角形, 寧ろ粗なる疣或は鈍頭の刺(長さ 1—2 μ)を有し, 無色或は帶黄色, 4—7×3.6—6 μ, 1 油球あり。臭及味なし。

所在及產地　林內及草原地上　　全土—歐·北米·阿

和名　キソウメンタケ (黄素麵茸) 〔川村〕

〔**因記**〕 從來本邦にてキソウメンタケの學名として *Clavaria inaequalis* FR. を充當せしが, CORNER 氏 (1950) によれば本學名は極めて不確實なる Nomen ambiguum にて著者によりて別種を指すものなり, 本邦產のものは *C. helvola* に充當するが如し。

Clavulinopsis boninensis (ITO et IMAI) CORNER

オガサワラシロヒメホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 359. 1950.

Clavaria boninensis S. ITO. et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15 : 53. 1937.

子實體は高さ約 1.5 cm, 群生, 2—5 回叉狀分岐し, 白色, 後帶黄色となる, 乾時特に著し, 枝端は鋭頭にて甚だ短し, 基部は白色にて短絨毛あり, 胞子は類球形或は類卵形, 小嘴あり, 平滑, 無色, 5—7.5 μ。

所在及産地 陰林地上 小笠原島
和名 オガサワラシロヒメホウキタケ
（小笠原白姫箒茸）〔今井〕

Clavulinopsis corniculata
(SCHAEFF. ex FR.) CORNER
キンホウキタケ

CORNER, Monogr. Clav. 362, *f. 146 F. pl. 10, f. 1.* 1950.

Clavaria corniculata SCHAEFF. Fung. Bavar. *pl. 173.* 1763—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 589. 1801; Myc. Eur. 1 : 170. 1822—NEES, Syst. Pilze Schw. 170, *pl. 16, f. 152.* 1817—FRIES, Syst. Myc. 1 : 471. 1821—BERKELEY, Engl. Fl. 5 (2) : 174. 1836—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 212. 1910; Hymen. Fr. 108. 1928—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 181. 1919—REA, Brit. Basid. 708. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 38, *pl. 7, f. 55.* 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 489, f. 2.* 1935.

(IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12 : 12. 1931; 植. 動. 2 : 1551. 1934—逸見及倉田, 植. 分. 地. 2 : 111. *f. 1—2.* 1933—原, 日. 菌. 目. 71. 1954)

Clavaria fastigiata L. Sp. Plant. 2 : 1183. 1753—DC. Fl. Fr. 2 : 100. 1815—FRIES, Epicr. Myc. 571. 1838; Hymen. Eur. 667. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 327. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 279. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 126. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 331. 1871; Handb. Austr. Fungi, 198. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 308. 1872; Enchir. Fung. 218. 1886—GILLET, Champ. Fr. 765. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 328. 1876; Hattsv. 2 : 167. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 376. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 316. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 694. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1231. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 447. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 76. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 46. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 430. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 135. 1912.

Clavaria muscoides L. Sp. Plant. 2 : 1183. 1753—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : 157. 1799—DC. Fl. Fr. 2 : 99. 1815—FRIES, Epicr. Myc. 571. 1838; Hymen. Eur. 667. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 327. 1844—BERKELEY, Oult. Brit. Fung. 279. 1860—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 47 : 151. 1894—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 331. 1871; Handb. Austr. Fungi, 198. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 309. 1872; Enchir. Fung. 218. 1886—GILLET, Champ. Fr. 765. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 328. 1876; Hattsv. 2 : 167. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 376. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 316. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 694. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1231. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 76. 1892; Brit. Fungi, 439. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 46. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 430. 1908—COKER, Clav. U. S. Can. 80, *pl. 9, f. 3, pl. 21, 83, f. 12—13.* 1923—BRESADOLA, Icon. Myc. 22 : *pl. 1096, f. 2.* 1932.

(THUNBERG, Fl. Jap. 348. 1784—MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 392. 1868—松村, 植. 名鑑, 1 : 135. 1904)

Ramaria muscoides HOLMSK. Otia Fung. Dan. 1 : 87, *pl. 21.* 1790.

Ramaria fastigiata HOLMSK. Otia Fung. Dan. 1 : 90, *pl. 22.* 1790—QUÉLET, Fl. Myc. 466. 1888.

Clavaria pratensis PERS. Comm. Fung. Clav. 52. 1797; Syn. Meth. Fung. 590. 1801—FRIES, Syst. Myc. 1 : 471. 1821—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 174. 1836.

Ramaria corniculata S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 655. 1821—QUÉLET, Fl. Myc. 466. 1888.

Ramaria pratensis S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 655. 1821.

Clavaria vitellina PERS. Myc. Eur. 1 : 170. 1822.

Clavaria similis PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 43 : 24. 1890.

Clavaria Peckii SACC. Syll. Fung. 9 : 249. 1891.

Clavaria fellea PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 51 : 292. 1898.

Clavaria corniculata var. *pratensis* COTTON et WAKEF. Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 182. 1919—REA, Brit. Basid. 708. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 108. 1928.


第 80 圖 キンホウキタケ
C. corniculata ×1(大谷氏)

子實體は高さ2—8cm, 全體黄色, 卵黄色或は赭黄色, 最後に基部より褐色に變ず, 通常 2—3 回 2叉分岐をなし, 稀に單一なり, 內屈, 新月狀突錐形の先端を有す, 寧ろ强靱, 通常群生或は束生す, 莖は 0.6 —4cm × 1—4 mm, 通常短く, 稀に缺如, 基部に稍々白毛あり, 枝は圓筒形, 腋は寬き新月狀に分岐し, 往々下枝は多叉なり, 先端同色, 肉は同色, 菌絲は幅2—10μ, 菌絆なし, 嚢狀體なし,

子實層は初め薄く，後 100μ に及び，擔子柄は 35—60×7—9μ，4小柄あり，胞子は殆ど或は全く球形，小嘴あり，平滑，無色，4.5—7μ，1油球あり。臭は新麥粉臭或は無く，味は苦し。

所在及産地 草原及林地　北海道，本州—歐．北米．濠

キンホウキタケ（金箒茸）〔齋田〕

和名 ヒメツノタケ（姫角茸）〔今井〕

Clavulinopsis amoena (ZOLL. et MOR.) CORNER

ムニンキアシセンコウタケ

CORNER, Monogr. Clav. 352, *f. 8, 147—148, pl. 8, f. 3, 6, pl. 9.* 1950.

Clavaria amoena ZOLL. et MOR. Nat. Geneesk. Arch. Neerl. Ind. 1 : 380. 1844.

Clavaria subaurantiaca P. HENN. et NYM. Monsunia, 1 : 8. 1900—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. Perad. 9 : 331. 1925.

Clavaria strigosa P. HENN. et NYM. Monsunia, 1 : 8. 1900. (non PERS.)

Clavaria subargillacea S. ITO et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15 : 55. 1937.

Clavaria laeta (non BERK. et BR.) LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1128. 1922.

子實體は單一，稀に扁平となり短枝を出す，孤生，群生或は束生，色彩，形容，大小及習性等甚だ變化す，2—16×0.2—0.7 cm，或は扁平のものは幅 11 mm に及ぶ，初め紡錘形にて鋭頭，後圓筒形にて鈍頭或は類棍棒形となり，更に稍々截頭ともなる，屢々多少深くして廣き縱皺を生じ，屢々捩曲す，稀に箆狀となりて 1—3 の鈍或は稍々鋭き角或は短枝を生ず，稀に眞に分岐して 2—4 枝を出す，枝は長さ 2—3 cm にて單一或は2叉の先端を有す，淡き檬果黄色を呈し，後鮮卵黄色或は桃黄色乃至杏色となり，鮮橙黄，赭色に變じ，或は永續的に檬果黄色なり，先端は屢々帶白色となり，時に $\frac{1}{3}$ に及ぶ，莖は 2—15×1—2.5 mm，不明瞭，通常基部に白絨毛或は粗糙なり，淡き同色，肉は緊密蠟質，中實或は中空，淡き同色，菌絲は幅 7—14μ，菌絆あり。子實層は莖以外の全面にあり，厚さ 300μ 內外に及び，擔子柄は 35—60×5—10μ，2—3—4，多くは4小柄あり，胞子は類球形，小嘴あり，平滑，無色或は淡黄色，4—7(—8)×4—6.5μ，1大油球あり。臭及味なし。

所在及産地 林內及圃場　小笠原島—熱帶亞，濠

和名 ムニンキアシセンコウタケ（無人黄足線香茸）〔今井〕

Clavulinopsis fusiformis (SOW. ex FR.) CORNER

ナギナタタケ

CORNER, Monogr. Clav. 367, *f. 9, 146 i.* 1950.

Clavaria fusiformis SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 234.* 1799—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 601. 1801; Myc. Eur. 1 : 178. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 480. 1821; Elench. Fung. 1 : 231. 1828; Epicr. Myc. 577. 1838; Hymen. Eur. 674. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 175. 1836; Outl. Brit. Fung. 281. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 322. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 335, *f. 89.* 1871; Handb. Austr. Fungi, 202. 1892—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 23 : 53. 1872—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 310. 1872; Enchir. Fung. 220. 1886; Fl. Myc. 461. 1888—GILLET, Champ. Fr. 763. c. ic. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 171. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 376. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 308. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 718. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1248. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 83. 1892; Brit. Fungi, 437, *pl. 34, f. 4.* 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 47. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 434. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26 : 217. 1910; Hymen. Fr. 113. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 132. 1912—MURRILL, Mycologia, 7 : 225, *pl. 163, f. 9.* 1915—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6 : 184. 1919—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 44, *pl. 8, f. 66.* 1922—REA, Brit. Basid. 714. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 54, *pl. 11—12, 18, f. 14.* 1923—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 494, f. 1.* 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 268. 1935.

（安田，植．雜．28 : 326, 394. 1914—白井，日．菌．目．ed. 2. 141. 1917; ed. 3. 84. 1927—川村，日．菌．圖說，*n. 126.* 1929—IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12 : 16. 1931; 植．動．2 : 1696. 1934—原，日．菌．目．72. 1954）

Clavaria fasciculata VILL. Hist. Pl. Dauph. 3 : 1052. 1789—PERSOON, Comm. Fung. Clav. 73. 1797—DC. Fl. Fr. 2 : 97. 1815.

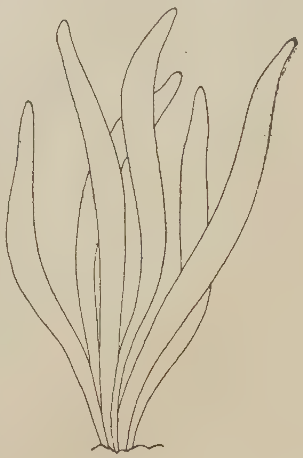
Clavaria platyclada PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 23 : 419. 1896; Rep. N. Y. St. Mus. 50 : 114. 1897—SACCARDO, Syll. Fung. 14 : 237. 1899—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9 : 45, *pl. 8, f. 68.* 1899.

（安田，植．雜．37 : 119. 1923—白井，日．菌．目．ed. 3. 85. 1927—原，日．菌．目．72. 1954）

Clavaria fragilis (non HOLMSK.)

（松村，植．名鑑，1 : 135. 1904—安田．植．雜．22 : 373. 1927—KAWAMURA, Illus. Jap. Fung. *pl. 17, f. 1—2.* 1925—原，日．菌．目．72. 1954）

子實體は高さ 5—14cm，單一，密に叢生，莖の基部癒着束生す，成時鮮黃色乃至褐黃色，先端褐色に凋萎す，紡錘形にて中空，銳頭，中位に脆し，寧ろ緊密，幅 2—6mm，或は扁平にて幅 12mmに及ぶ，通常稍々圓筒形或は狹き紡錘形，壓邊されて屢々縱溝あり，稀に先端に近く2叉す，莖は限界不明瞭なり，薄き白絨毛あり，肉の菌絲は幅2—10μ,菌絆あり。子實層は厚さ 100μに及び，擔子柄は 40—65×6—9μ，4小柄あり，胞子は廣楕圓，廣苹子形或は類球形，太き小嘴あり，5—9×4.5—8.5μ，1大油球或は多油球あり，胞子紋は白色或は帶黃色。



第 81 圖　ナギナタタケ
C. fusiformis　×1/2

所在及產地　野外，林內草間　北海道，本州—歐. 北米. 濠

和名　ナギナタタケ（長刀茸）〔安田〕

Clavulinopsis pulchra (PECK) CORNER
クワベンタケ

CORNER, Monogr. Clav. 384, *f. 146d*, *pl. 8*, *f. 4—5*. 1950.

Clavaria pulchra PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 28: 53, *pl.1*, *f. 10*. 1876—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 725. 1888—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 57, *pl. 10*, *f. 93*. 1922—COKER, Clav. U. S. Can. 58, *pl. 1*, *f. 6—7*, *pl. 6*, *13*, *82*, *f. 16—18*, 1923—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 82. 1933—WEHMEYER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 20: 253. 1935.

(川村，日. 菌. 圖說，*n. 194*. 1929—今井，植. 動. 2: 1696. 1934—原，日. 菌. 目. 72. 1954)

Clavaria persimilis COTTON, Trans. Brit. Myc. Soc. 3: 182. 1910—COTTON & WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 6: 192. 1919.

Clavaria inaequalis var. *aurantia* BRES. Icon. Myc. 22: *pl. 1099*. 1932.

子實體は 1.5—10×0.12—0.6cm，單一，孤生，群生或は少數叢生，明黃色乃至濃黃色，橙黃色，乾時濃橙色なり，圓筒形にて銳頭，後鈍頭となり，壓邊され，往々舌狀或は皺を生ず，莖は 2—20×1—1.7mm，明瞭，乾時微毛あり，肉は淡色，屢々中空，綿絮狀にて緊密，脆からず，菌絲は幅 3—12μ，菌絆あり。囊狀體なし。子實層は 100μに及び，擔子柄は 40—60×7—10μ，2, 3, 4 小柄あり，胞子は卵形，廣楕圓形或は類球形，著大の小嘴あり，無色，5—7.5×3.5—6μ，1—2 油球あり，味臭なきか良好。

所在及產地
野外及林內地上　北海道，本州—歐. 北米. 亞(支)

和名　クワベンタケ（花瓣茸）〔川村〕

Clavulinopsis luteo-alba (REA) CORNER
ダイダイナギナタタケ

CORNER, Monogr. Clav. 374, *pl.8*, *f.1—2*. 1950.

Clavaria luteo-alba REA, Trans. Brit. Myc. Soc. 2: 66, *pl. 3*, *f.1 B*. 1904; Brit. Basid. 715. 1922—COKER, Jour. El. Mitch. Sci. Soc. 63: 54. 1947.

Clavaria helveola (non PERS. ex FR.) COKER, Clav. U. S. Can. 37, *pl. 1*, *f. 2*, *pl. 81*, *f. 12—14*. 1923.

Clavaria citrina (non RAFINESQUE, 1808, nec QUÉLET, 1876)

(逸見及倉田，植. 分. 地. 2: 113, *f. 4*. 1933)

子實體は高さ 8cm に及び，幅 1—3mm，單一，稀に 2—3 の短枝を出す，散生或は小群に束生す，圓筒形或は狹棍棒形にて屢々壓邊さる，稀に扁平となり幅 1cm に至る，銳頭後鈍頭，屢々屈曲或は波曲，往々微縱皺あり，淡赭黃色或は肉色にて濃黃色，橙色或は杏色となる，先端は淡色或は白色にて後同色となり，凋縮し，乾時赭色を呈す，莖は同色，多少明瞭なり，肉は同色或は橙黃色，綿絮狀，脆く，時に細く中空，菌絲は幅 2—8μ，菌絆あり，囊狀體なし。子實層は厚さ 120μに及び，擔子柄は 40—60×6—7μ，(2—)4 小柄あり，胞子は楕圓形，1側扁平，幾分卵形，小嘴あり，平滑，無色，5—8×2.5—4.5μ，1乃至數油球あり。臭なし。

所在及產地　野外及林間地上　本州—歐. 北米

和名　ダイダイナギナタタケ（橙長刀茸）〔逸見〕

Clavulinopsis aurantio-cinnabarina (SCHW.) CORNER
アカナギナタタケ

CORNER, Monogr. Clav. 358. 1950.

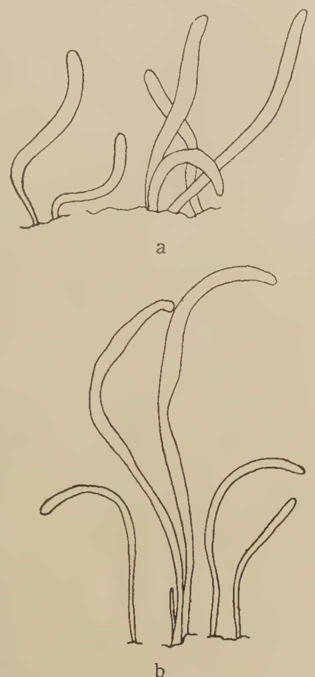
Clavaria aurantio-cinnabarina SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4: 183. 1832—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 718. 1888—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 9: 43, *pl. 8*, *f. 65*. 1922—COKER, Clav. U.S. Can. 60, *pl. 1*, *f. 8*, *pl. 82*, *f. 19—22*. 1923—WEHMEYER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 20: 254. 1935.

（逸見及倉田，植. 分. 地. 2：113. *f. 3.* 1933—今井，植. 動. 2:1699. 1934—原，日. 菌. 目. 71. 1954）

Clavaria Shimadai IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11：41. 1929; 12：21. 1931.

（今井，植.動. 2：1702. 1934—原，日.菌.目.73.1954）

子實體は高さ1.5—7cm，單一，孤生，群生或は束生，濃橙赤色にて鮭肉橙色乃至緋色に變化し，淡橙色に褪色す，幅 1.2—3 mm，圓筒形，稍々鋭頭或は鈍頭，往々扁平にて縱皺或は溝あり，莖の限界明瞭ならず，乾時橙黄或は赤褐色，先端は通常無性なり。肉は濃橙色，褪色せず，中位に脆し。菌絲は幅4.5—5.5μ，僅か菌絆あり，嚢狀體なし，子實層は 130μ に及び，多くの小結晶あり擔子柄は幅 5.5—7.5 μ，(2)4 小柄あり，胞子は類球形，平滑，無色或は淡黄色，5—7×4—5.5μ，1 油球あり。悪臭あり。



第 82 圖　アカナギナタタケ
C. aurantio-cinnabarina
（a. COKER 氏圖版より，b. 逸見氏原寫眞より模寫）

所在及産地　林地及草間地上
北海道，本州—北南米. 亞(支)

和名　アカナギナタタケ（赤長刀茸）〔逸見〕

Clavulinopsis miyabeana (S. ITO)
ベニナギナタタケ

Clavaria Miyabeana S. ITO, in IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 11：72. 1930; 12：16. 1931.

(HEMMI, Bot. Mag. Tokyo. 46：160, *f. 1.* 1932—今井，植. 動. 2：1698. 1939—本郷，植. 分. 地. 14：53, *f. 1.* 1950—原，日. 菌. 目. 72. 1954)

子實體は束生，叢生或は群生，高さ 5—14cm，頭部 4—10×0.3—1cm，厚さ 1—2.5cm，長紡錘形，初め類圓筒形，後扁平となり，遂に撓曲す，赤桃色乃至緋色，初め平滑なるも，後速かに細き縱溝及び中央に大なる溝を生ずること多く，頂端尖り，無性基部との區劃なし，中實或は一部中空，肉は同色，幾分緊緻，味及臭なし，無性基部は淡色或は類白色，擔子柄は類圓筒形或は類棍棒形，幅約7μ，4或は2小柄を有す，胞子紋は白色，胞子は球形，小嘴を有し，平滑，無色，徑 6—8μ，1 油球を含む。



第 83 圖　ベニナギナタタケ
C. miyabeana 子實體（逸見氏による）

所在及産地　林内腐蝕土上　北海道，本州

和名　ベニナギナタタケ（紅長刀茸）〔今井〕

〔**因記**〕CORNER 氏は本種を色のみによつて前種と區別するは意味なしとて異名となしたり，然れ共前種は米國にて記載されたるものにて COKER 氏の圖につきて見るも甚しく形態を異にするものと認めらる。

Clavulinopsis miniata (BERK.) CORNER
アケボノソウメンタケ

CORNER, Monogr. Clav. 378, *f. 157—158, pl. 7, f. 4, 7.* 1950.

Clavaria miniata BERK. Jour. Bot. 2：416. 1843.

Clavaria phoenicea ZOLL. et MOR. Nat. Genesk. Arch. Neerl. Ind. 1：381. 1844.

Clavaria laeta BERK. et BR. Jour. Linn. Soc. 14：76. 1875—SACCARDO, Syll. Fung. 6：718. 1888—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. Perad. 9：330. 1925.

(ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15：55. 1937)

? *Lachnocladium simplex* P. HENN. Monsunia, 1：142. 1900.

子實體は 5—10×0.2—0.4cm，屢々扁平となり幅 4—8mm に及ぶ，單一，稀に短枝を出す，時に擴がりて扇狀となりて幅 3—5cm，小群に束生，稀に孤生，圓筒形，後紡錘形，鋭頭，後鈍頭，速に縱溝を生じ，皺あり，全部橙桃色，薔薇杏色，赤橙色等にて，先端黄色に褪色す，莖は長さ 14mm に及び，限界不明瞭，類圓筒形，淡き同色，基部帶白色，乾

時薄き白絨毛あり，肉は淡同色，寧ろ蠟質，僅か强靱，中空となる，菌絲は幅 3—15μ，菌絆あり，囊狀體なし，子實層は 150μ に至り，擔子柄は 40—90×7—8.5μ，2，3，4小柄あり，胞子は球形或は類球形，短き小嘴あり，平滑，無色，5—7×4.5—6.5μ，1油球あり，味及臭なし。

所在及産地 林内及野外地上
小笠原島—阿．濠．亞(錫．馬．爪)
和名 アケボノソウメンタケ（曙素麵茸）〔今井〕

Clavulinopsis subumbrinella
(IMAI) CORNER

ヒメホウキタケモドキ

CORNER, Monogr. Clav. 392. 1950.
Clavaria subumbrinella IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13 : 386. 1934.
（原，日．菌．目．73. 1954）

子實體は高さ5cm内外，孤生，枝は3—4回2叉し，先端稍々尖る，全體汚黃褐色，煙草色，莖は明かに區別され，基部白毛を有す。擔子柄は棍棒形，胞子は廣楕圓形，平滑，無色，約 5×3μ。

所在及産地 林地 北海道
和名 ヒメホウキタケモドキ（擬姬箒茸）〔今井〕

CANTHARELLACEAE アンズタケ科

子實體は肉質或は膜質にて棍棒形，漏斗形或は喇叭形をなし，其外側に子實層を作る。子實層は平滑，或は縱肋脈又は網狀脈を有し，往々莖部との境界明かならず。擔子柄内に於ける核分裂の際，その紡錘絲は擔子柄の長軸に平行（縱性分裂）をなし，マツタケ科と異る。

本邦既知屬檢索表

A. 胞子無色，平滑。
a. 子實體は肉質，有莖，子實層面には叉狀襞あり，網狀に連結す。
アンズタケ屬 **Cantharellus** (96)
b. 子實體は肉質，膜質，漏斗形或は中窩あり，子實層面は平滑或は殆ど平滑。
クロラッパタケ屬 **Craterellus** (101)
c. 子實體は膜質，篦形或は盃形，懸垂，子實層面は有褶，小形纖細の齒。
チヂミタケ屬 **Dictyolus** (104)
B. 胞子有色，粗面，子實體は肉狀革質，有莖，子實層面に褶襞あり，網狀に連結す。
ラッパタケ屬 **Neurophyllum** (102)

Cantharellus FR.
アンズタケ屬

FRIES, Syst. Myc. 1 : 316. 1821.
Chanterel ADANSON, Fam. Pl. 2 : 11. 1763.
Merulius HALLER, Hist. Stirp. Helv. 3 : 150. 1768. pr. p.
Gomphus S.F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 638. 1821.
Turbinellus EARLE, Bull. N. Y. Bot. Gard. 5: 407. 1909.
Alectorolophoides EARLE, Bull. N.Y. Bot. Gard. 5 : 407. 1909.

子實體は肉質或は稍々强靱，時に乾時木質となる，傘形乃至管狀或は喇叭形をなし，傘部と莖部との境界明かならず。子實層は傘の下面及び莖の上部に生じ，普通狹き鈍稜の襞の形をなす，襞は叉狀に分岐し或は互に絡れ，稀に著しき橫脈によつて幾分孔狀をなす，屢々蠟狀光澤あり。擔子柄は一般に長形にて撓曲性の小柄を有し，2—8胞子を着く。胞子は無色，平滑，沃度反應なく，胞子紋は白色，帶黃色或は灰黃色なり，菌絲は傘肉と子實層部との間に差別なく，型的には KOH 液にて變色せず，菌絆を有するものも，有せざるものもあり，囊狀體は型的には無し。地上生。

（本屬名は kantharos（水飲盃）より出づ）
基準種 *C. cibarius* FR.

本邦既知種檢索表

A. 傘は正形にて全緣，莖は中心生。
a. 子實體は朱紅色，老時褪色。
ベニウスタケ ***C. cinnabarinus*** (97)
b. 子實體は赤色ならず。
α. 傘及莖は肉質，中實。
I. 傘は徑 3—8cm，黃橙色，莖太し。
アンズタケ ***C. cibarius*** (97)
II. 傘は徑 1.5—2cm，橙色乃至帶赤黃色，無毛，莖細長。
ヒナアンズタケ ***C. minor*** (98)
β. 傘は類膜質，莖は管狀，光澤あり。
I. 傘は中窩を有するか或は漏斗形。
1. 傘は黃灰色或は煤色，褶襞及莖は帶黃色。

ミキイロウスタケ
C. infundibuliformis (98)
2. 傘は暗褐煤色，褶襞及莖は灰色或は暗褐灰色。アクイロウスタケ
C. cinereus (99)
II. 傘は喇叭形或は深き漏斗形，遊色鱗片を有し鮮黃色，褶襞は帶黃色乃至乾酪色。
ウスタケ *C. floccosus* (100)
B. 傘は半圓形，莖は側生，子實體は白色，後帶黃色。
シロアンズタケ *C. pallidus* (100)

Cantharellus cinnabarinus SCHW.

ベニウスタケ

SCHWEINITZ, Trans. Am. Phil. Soc. II, 4:153. 1832—PECK, Mem. N. Y. St. Mus. 4:155, *pl. 55, f. 1—8.* 1900—KAUFFMAN, Agar. Mich. 36, *pl. 2.* 1918—GüSSOW & ODELL, Mushr. Toadst. 72. 1927.

(廣江，蕈類の硏究，2: 15, *f. 1.* 1936—原，日. 菌. 目. 41. 1954)

Agaricus cinnabarinus SCHW. Schr. Nat. Ges. Leipz. 1:73. 1822.

Hygrophorus cinnabarinus SACC. Syll. Fung. 5:414. 1887.

Chanterel cinnabarinus MURR. N. Am. Fl. 9: 170. 1910; Mycologia, 5:258, *pl. 92, f. 3.* 1913.

子實體は群生或は散生，肉質，傘は丸山形乃至中央壓低され，更に幾分漏斗狀となる，屢々大形品に於ては不正形となる，徑 2—4cm，表面は朱紅色，平滑或は稍々粗面，老時褪色す，緣は初め內屈，波狀乃至淺裂す，同色。肉は白色にて外層赤色を帶ぶ。莖は圓筒形或は基部狹細，無毛，平滑或は稍々線條あり，傘と同色，中實，2—5×0.4—0.7cm，子實層面の褶は長く莖上に沿下し，分岐し纒絡す，各褶間隔廣く，傘面と同色或は稍々淡色なり，胞子は楕圓形，平滑，無色，8—9×5—6μ，胞子紋は白色或は稍々淡き桃色を帶ぶ。

所在及產地

林地上 本州—北米

和名 ベニウスタケ（紅臼茸）〔廣江〕

Cantharellus cibarius FR.

アンズタケ

FRIES, Syst. Myc. 1:318. 1821; Epicr. Myc. 365. 1838; Monogr. Hymen. Suec. 2:206. 1863; Hymen. Eur. 455. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 125. 1836; Outl. Brit. Fung. 215. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:446. 1844—BARLA, Champ. Nice, 55, *pl. 28, f. 7—15.* 1859—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:207. 1867—CORDA, Champ. Fr. 2:130, *pl. 32, f. 1.* 1870—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:227. 1871; Ill. Brit. Fungi, 7: *pl. 1103.* 1888—1890; Handb. Austr. Fungi, 80. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:215. 1872; Enchir. Fung. 138. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 352, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:224. 1876; Hattsv. 1:238. 1879—WINTER, Pilze, 1:523. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5:482. 1887—SCHROETER, Pilze Schles. 1:510. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 2:319. 1893; Brit. Fungi, 213, *pl. 18, f. 7.* 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 128. 1900—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 128, *f. 126.* 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 294. 1908—ROLLAND, Atlas Champ. 52, *f. 115.* 1910—RICKEN, Blätterp. 2: *pl. 1, f. 2.* 1915—KAUFFMAN, Agar. Mich. 35, *pl. 3.* 1918—REA, Brit. Basid. 542. 1922—GüSSOW & ODELL, Mushr. Toadst. 72, *pl. 28, f. 1.* 1927—BRESADOLA, Icon. Myc. 10: *pl. 471.* 1929—LANGE, Agar. Denm. 11:40. 1936—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6:504. 1937—IMAI, Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 43:354. 1938.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 39, Beibl.: 155. 1900—松村，植. 名鑑，1:133. 1904—白井，日. 菌. 目. 17. 1905; ed. 2. 107. 1917; ed. 3. 62. 1927—川村，植. 雜. 32:412, *f. 1.* 1908: Ill. Jap. Fungi, *pl. 3, f. 8—11.* 1912; 日. 菌. 圖說，*n. 21,* 1929—安田，植. 雜. 31:171. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:980. 1920—梅村，富士. 植. 誌，367. 1923—今關，日. 隱. 植. 圖. 499, *pl. 240, f. 3—4.* 1939; 及土岐，林. 試. 硏. 報. 67:23. 1954—原，日. 菌. 目. 41. 1954)

Agaricus chantharellus L. Sp. Pl. 2: 1171. 1753—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 1: *pl. 46.* 1797.

Merulius Cantharellus SCOP. Fl. Carn. ed. 2. 2:461. 1772—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 488. 1801—KUNTZE, Rev. Gen. 3(2): 494. 1898.

Cantharellus edulis PERS. Disp. Fung. 26. 1797—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 456. 1915.

Cantharellus vulgaris S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:639. 1821.

Alectorolophoides cibarius EARLE, Bull. N. Y. Bot. Gard. 5:407. 1909.

Chanterel Chantharellus MURR. N. Am. Fl. 9: 169. 1910; Mycologia, 9:257, *pl. 11, f. 1.* 1917.

Cantharellus Friesii (non QUÉL.)

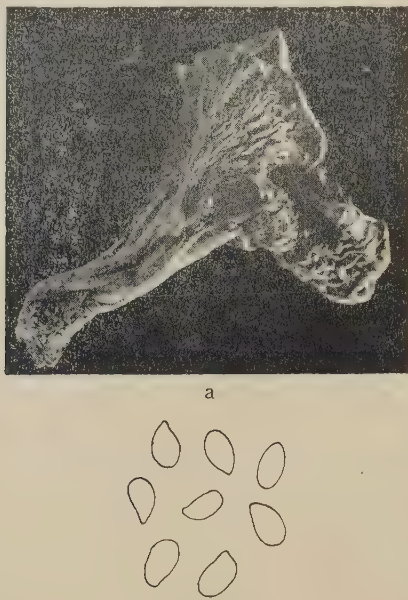
(川村，植. 雜. 22:414. 1908; 日. 菌. 圖說，*n. 87.* 1929—原，日. 菌. 目. 41. 1954)

Cantharellus minor (non PECK)

(川村，植. 雜. 23:465. 1909; Illus. Jap. Fungi, *pl. 1, f. 17.* 1912—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 109.

1917; ed. 3. 62. 1927—Lloyd, Myc. Writ. 5, Lett. 65:6. 1917—安田，植. 雜. 31:330. 1917—今關，日. 隱. 植. 圖. 499, *pl. 240*, *f. 5*. 1939; 及土岐，林. 試. 硏. 報. 67 : 23. 1954—原，日. 菌. 目. 41. 1954)

群生或は孤生，稀に叢生，傘は徑 3—8cm，丸山形，洋獨樂形，後扁平となり幾分壓低され裏返る，緣は內捲し，屢々淺裂し，後僅か反轉す，表面は殆



a

b

第 84 圖　アンズタケ *C. cibarius*
a. 子實體 ×1　　b. 胞子 ×680 (大谷氏)

ど無毛，黃橙色，中央帶白色或は橙黃色，肉は帶黃色，乾時帶白色となる，堅緻，味なく，杏の香あり，子實層面は褶襞狀にて，各褶は莖に垂下し，厚く，粗にて，屢々纒絡す，橙黃色乃至淡赤橙黃色なり。莖は 2.5—9×0.5—2cm，略同幅或は上方又は下方に狹細，同色或は僅か淡色，無毛或は基部稍々軟毛を有す，中實，胞子は楕圓形，平滑，7.5—9×6μ，胞子紋は白色或は微かに帶赤黃色を帶ぶ。可食。

所在及產地

林地　　　　北海道，本州，九州—汎布

和名　アンズタケ(杏茸)〔川村〕，コモタケ〔方言〕
コアンズタケ (小杏茸) 〔川村〕,
ヒメアンズタケ (姬杏茸) 〔安田〕

Cantharellus minor Peck

ヒナアンズタケ

Peck, Ann. Rep. N. Y. St. Cab. 23 : 122. 1872—Saccardo, Syll. Fung. 5 : 483. 1887—Imai, Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 43:355. 1938.

Canterel minor Murr. N. Am. Fl. 9:169. 1910; Mycologia, 5 : 257, *pl. 92*, *f. 1*. 1913.

孤生或は群生，傘は徑 1.5—2cm，丸山形乃至開張し，時に不正形或は中心凹陷す，表面は無毛，橙黃色乃至帶赤黃色，緣は初め內捲し，全緣或は裏返る，肉は淡色，肉質，味溫和，子實層面に褶襞あり，各褶は垂生，稍々密集し，甚だ狹幅，屢々叉狀をなすも纒絡せず，同色，莖は細長，2—3×0.2—0.3cm，圓筒形，下方狹細或は往々同幅，平滑，橙色乃至黃色。胞子は楕圓形或は類倒卵形，中膨，平滑，無色，7—7.5×4.5μ，胞子紋は帶黃色，可食。

所在及產地

林地　　　　北海道—北米

和名　ヒナアンズタケ (雛杏茸)

〔**因記**〕 從來本邦にてコアンズタケ或はヒメアンズタケと稱せるものはアンズタケの小形なるものと認めらる，北海道に於けるヒナアンズタケとは傘形並に莖等全く異れり。

Cantharellus infundibuliformis (Scop.) Fr.

ミキイロウスタケ

Fries, Epicr. Myc. 366. 1838; Monogr. Hymen. Suec. 2 : 208. 1863; Hymen. Eur. 458. 1874—Rabenhorst, Deut. Krypt. Fl. 1 : 445. 1844—Berkeley, Outl. Brit. Fung. 216. 1860—Cooke, Handb. Brit. Fungi, 1:229. 1871; Ill. Brit. Fungi, 7 : *pl. 1109*. 1888—1890—Quélet, Champ. Jura Vosg. 1 : 216. 1872; Enchir. Fung. 139. 1886—Gillet, Hymen. Fr. 354. 1874—Karsten, Myc. Fenn. 3:226. 1876; Hattsv. 1:240. 1879—Winter, Pilze 1 : 521. 1884—Saccardo, Syll. Fung. 5 : 490. 1887; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 450. 1915—Schroeter, Pilze Schles. 1:509. 1888—Massee, Brit. Fung. Fl. 2 : 324. 1893; Brit .Fungi, 214, *pl. 18*, *f. 1*. 1911—Peck, Mem. N. Y. St. Mus. 4:158, *pl. 56*, *f. 9—16*. 1909—W. G. Smith, Brit. Basid. 296. 1908—Migula, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 275, *pl. 47 B*. 1912—Ricken, Blätterp. 3, *pl. 1*, *f. 4*. 1915—Kauffman, Agar. Mich. 37. 1918—Rea, Brit. Basid. 544. 1922—Bresadola, Icon, Myc. 10 : *pl. 478*. 1929—Imai, Jour. Fac. Agric. Hokkaido Imp. Univ. 43 : 356. 1938.

(今關，植. 硏. 雜. 11:290, *f. 1*. 1935; 日. 隱. 植. 圖. 499, *pl. 240*, *f. 1*. 1939—廣江，茸類の硏究 2 : 15, *pl. 1*, *f. 1*. 1936—原，日. 菌. 目. 41. 1954)

Merulius infundibuliformis Scop. Fl. Carn. ed. 2. 2 : 462. 1772.

Agaricus cantharelloides Sow. Col. Fig, Engl. Fungi, 1 : *pl. 47*. 1797.

Chanterel infundibuliformis Murr. N. Am. Fl. 9 : 168. 1910. pr. p.




a　　b

第85圖　ミキイロウスタケ *C. infundibuliformis*
a. 子實體　b. 同斷面 ×1（大谷氏）

群生或は孤生，傘は徑 2—5cm，類膜質，膜狀肉質，中窩を有し，後漏斗形となり，莖の空洞に連る，表面は生時黄灰色，黄茶或は幹色卽ち淡黄褐色乃至煤色を呈し，乾時淡色となる，殆ど平滑或は粗面，放射狀纖維紋あり，不明瞭の環紋を有す，緣は下方に屈曲し，不規則に淺裂波狀に起伏す。肉は表面よりも遙に淡色，子實層面に褶襞あり，各褶は厚く，疎離，分岐し又網狀に纏絡す，長く莖上に垂生し，帶黄色，後粉狀にて灰色，莖は淡黄色或は灰白色，粉狀，基部幾分厚肉，中空，4—8×0.4—0.6cm。胞子は廣楕圓形或は類球形，小嘴あり，平滑，無色，9—11×7.5—9μ，胞子紋は白色。

所在及産地

林地　　北海道，本州—歐.北米.亞(樺.支)

和名　ミキイロウスタケ（幹色臼茸）〔今關〕，アシギウスタケ（脚黄臼茸）〔廣江〕

Cantharellus cinereus (PERS.) FR.

アクイロウスタケ

FRIES, Syst. Myc. 1 : 320. 1821; Epicr. Myc. 366. 1838; Monogr. Hymen. Suec. 209. 1863; Hymen. Eur. 458. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 126. 1836; Outl. Brit. Fung. 216. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 445. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:208. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:229. 1871; Ill. Brit. Fungi, 7 : *pl. 1110a*. 1888—1890; Handb. Austr. Fungi, 81. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 216. 1872; Enchir. Fung. 139. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 353. cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 1 : 240. 1879—WINTER, Pilze 1 : 521. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5 : 490. 1887—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 2 : 324. 1893; Brit. Fungi, 215. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 297. 1908—RICKEN, Blätterp. 4, *pl. 1*, *f. 6*. 1915—REA, Brit. Basid. 544. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 499*. 1928; 6:504. 1937—BRESADOLA, Icon. Myc. 10 : *pl. 480*. 1929—LANGE, Agar. Denm. 11:41. 1936—IMAI, Jour. Fac. Agric. Hokkaido Imp. Univ. 43 : 357. 1938.

（原，日. 菌. 目. 41. 1954）

Helvella hydrolips BULL. Champ. Fr. *pl. 465*, *f. 2*. 1791.

Merulius cinereus PERS. Icon. Descr. Fung. 1 : 10, *pl. 3*, *f. 3*. 1798; Syn. Meth. Fung. 490. 1801.

Cantharellus hydrolips SCHROET. Pilze Schles. 1:509. 1888—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 449. 1915.

Chanterel infundibuliformis MURR. N. Am. Fl. 9 : 168. 1910. pr. p.

群生或は幾分叢生，傘は徑 2—5cm，類膜質，丸山狀漏斗形，屢々莖の基部迄空洞となる，表面は絨毛鱗片を有し，暗褐色，後帶白色となる，肉は同色。



a　　b

第86圖　アクイロウスタケ *C. cinereus*
a. 子實體　b. 同斷面 ×4/5

臭及味溫和。子實層面は褶襞あり，各褶は厚く，襞狀，屢々網狀をなす，初め灰色，後帶白色，粉狀，垂生，粗，莖は 3—8×0.4—0.8cm，下方狹細，屈曲し，無毛，暗褐灰色，殆んど帶黑色，中空。胞子は楕圓形，平滑，無色，8—10×5—6μ，胞子紋は白色。

所在及産地

林地　　北海道—歐.北米

和名　アクイロウスタケ（灰色臼茸）〔今井〕

Cantharellus floccosus SCHW.

ウスタケ

SCHWEINITZ, Trans. Am. Phil. Soc. II, 4:153. 1832—SACCARDO, Syll. Fung. 5:491. 1887—PECK, Mem. N. Y. St. Mus. 4:156, *pl.55*, *f.9—13.* 1900—KAUFFMAN, Agar. Mich. 34. 1918—BRESADOLA, Icon. Myc. 10: *pl. 475*. 1929—IMAI, Jour. Fac. Agric. Hokkaido Imp. Univ. 43: 357, *pl. 5*, *f. 8*. 1938.

(KAWAMURA, Ill. Jap. Fungi, *pl. 3*, *f. 23—25*. 1912; 日. 菌. 圖說, *n. 55*. 1929—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 47: 9. 1913; 7: 1296. 1924; 1357, *f. 3202*. 1925—安田, 植. 雜. 29: 169. 1915—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 109. 1917; ed. 3. 62. 1927—梅村, 富士. 植. 誌, 367. 1923—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3: 113. 1931—原, 日. 菌. 目. 41. 1954—今關及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67: 23. 1954)

Craterellus sinuosus var. *floccosus* QUÉL. Enchir. Fung. 201. 1886.

Turbinellus floccosus EARLE, Bull. N. Y. Bot. Gard. 5: 407. 1909.

Chanterel floccosus MURR. N. Am. Fl. 9: 168. 1910; Mycologia. 14: 25, *pl. 2*. 1922.

孤生或は群生，稀に幾分叢生，傘は徑 4—12 cm, 高さ 7—16 cm，幼時類圓筒形或は角笛形，後長形となり，喇叭形乃至漏斗形，遂に深き漏斗狀となる，表面は顯著なる鱗被を有し。鮮黃色にて黃褐色乃至澁褐色の斑點を有し，老時暗色となる，緣は初め內捲し，波狀，屢々淺裂す。肉は白色，寧ろ薄く，肉質，稍々柔軟。味溫和，臭なし，子實層面に褶襞あり，各褶は垂生，不規則に粗，2—4 回分岐し，纒絡す，厚く，狹幅，襞狀，帶黃色乃至乾酪色にて粉狀。莖は短く，赤色，桃色，帶赤黃色，白色或は灰色にて粉狀。胞子は楕圓形，平滑，無色，12—15×6.5—8 μ，胞子紋は黃色。可食。

所在及產地 主にモミ屬 (*Abies*) 林地

北海道，本州，九州—歐·北米

和名 ウスタケ（臼茸）〔川村〕，ラッパタケ（喇叭茸），チョウノフエ（蝶の笛），チヨコタケ（猪口茸）





a b



c

第 87 圖 ウスタケ *C. floccosus*
a. 子實體 ×1 b. 同斷面 c. 胞子 ×476（大谷氏）

Cantharellus pallidus LLOYD

シロアンズタケ

LLOYD, Myc. Writ. 5: 661, *f. 949*. 1917; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 150. 1936 (non VELENOVSKY)—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 142. 1925—IMAI, Jour. Fac. Agric. Hokkaido Imp. Univ. 43: 358, *pl. 5*, *f. 9*. 1938.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 6. 1917—安田, 植. 雜. 22: 49. 1918—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 62. 1927—今關, 植. 硏. 雜. 11: 292, *f. 2—3*. 1935; 日. 隱. 植. 圖. 499, *pl. 240*, *f. 2*. 1939—原, 日. 菌. 目. 41. 1954)

群生或は叢生，傘は肉質，厚肉，徑 4—9 cm，洋燈欒形，反轉する緣を有する漏斗形，類漏斗形，不正形，側莖にて箆形，裂片狀或は分岐す，表面は生時白色或は帶白色，乾時帶黃褐色，子實層は



第 88 圖 シロアンズタケ *C. pallidus* ×1/2
（今關氏原寫眞より模寫）

生時及幼時白色，後黄色となる，鈍頭狹幅の襞褶を有す，莖は不等長，時に 2—4 回分岐す，普通根狀部を有す，白色或は帶白色，乾時褪色す。胞子は橢圓形，平滑，無色，8—12×4—4.5μ，胞子紋は黄色或は淡帶赤黄色。可食。

所在及產地

主に廣葉樹林落葉間　　北海道，本州，四國

和名　シロアンズタケ（白杏茸）〔安田〕

疑問種

Cantharellus cystidioides LLOYD, Myc. Writ. 7: 1188, 1227, *f. 2534—6.* 1923; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 150. 1936.

Cantharellus flabellatus BERK. Jour. Linn. Soc. 16:50. 1878—SACCARDO, Syll. Fung. 5:495. 1887.
（白井，日．菌．目．17. 1905; ed. 2. 109. 1917; ed. 3. 62. 1927—原，日．菌．目．41. 1954）

=*Leptoglossum flabellatum* (BERK.) P. HENN. in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl.-fam. 1, 1,** 201. 1900.
（松村，植．名鑑，1 : 150. 1904—白井，日．菌．目．47. 1905; ed. 2. 319. 1917; ed. 3. 186. 1927—原，日．菌．目．180. 1954）

Craterellus PERS.

クロラッパタケ屬

PERSOON, Myc. Eur. 2 : 4. 1825.

子實體は肉質或は膜質，漏斗形，喇叭形，稀に中窩洋獨樂形。莖は中心生にて傘部に移行す。子實層は外側面に存在し，表面平坦或は粗面なり。擔子柄は 2, 4 小柄を有し，胞子は橢圓，卵形或は圓壔形，平滑，無色，胞子紋は白色或は帶黄色。囊狀體なし。地上生。

（本屬名は krater（盃，深き鉢）より出づ）

基準種　*C. cornucopioides* (L. ex FR.) PERS.

本邦既知種檢索表

A. 傘及莖は鼠色或は灰黑色，子實層面灰白或は淡灰紫色，胞子 10—15×7—9μ。
　　クロラッパタケ　***C. cornucopioides*** (101)

B. 傘は幾分洋獨樂形，傘面暗褐色，子實層面暗灰色，胞子 6—7.5×5—6μ。
　　コクロラッパタケ　***C. dubius*** (102)

C. 傘は中窩を有し幾分漏斗形，全面赤橙色，胞子 10—11×6—7μ。
　　アカラッパタケ　***C. aureus*** (102)

Craterellus cornucopioides (L. ex FR.) PERS.

クロラッパタケ

PERSOON, Disp. Meth. Fung. 71. 1797; Myc. Eur. 2 : 5. 1825—FRIES, Epicr. Myc. 532. 1838; Hymen. Eur. 631. 1874—CORDA, Icon. Fung. 5 : 82, *pl. 10, f. 80.* 1842—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 266, *pl. 19, f. 6.* 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 399. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 257. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 31. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 309, *f. 79.* 1871; Handb. Austr. Fungi, 177. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 298. 1872; Enchir. Fung. 201. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 740. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 302. 1876; Hattsv. 2 : 119. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 272. 1889—WINTER, Pilze 1 : 353, *f. 1—2.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 515. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1133. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 436. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 136, *f. 6.* 1892; Brit. Fungi, 430, *pl. 32, f. 1.* 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 132. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 397, *f. 95.* 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 54, *pl. 54, n. 120.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 106, *pl. 21, f. 1—3.* 1912—MURRILL, Mycologia, 4:5, *pl. 56, f. 10.* 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 333, *pl. 17, f. 17.* 1914—REA, Brit. Basid. 546. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 10: *pl. 485.* 1929—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6 : 504. 1937.

(P. HENNINGS, Hedwigia 39, Beibl.: 155. 1900—松村，植．名鑑，1 : 138. 1904—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44 : 8. 1913—安田，植．雜．27 : 223. 1913; 31 : 45. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 177. 1917; ed. 3. 105. 1927—川村，日．菌．圖說，*n. 75.* 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 108. 1931—原，日．菌．目．94. 1954—今關及土岐，林．試．硏．報．67 : 23. 1954)

Peziza cornucopioides L. Sp. Plant. 2 : 1181. 1753—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 1 : *pl. 74.* 1797.

Elvella cornucopioides SCOP. Fl. Carn. 2 : 476. 1772.

Merulius cornucopioides PERS. Comm. Fung. Clav. 65. 1797; Syn. Meth. Fung. 491. 1801—NEES, Syst. Pilze Schwam. 229, *f. 235.* 1817.

Cantharellus cornucopioides FR. Syst. Myc. 1 : 321. 1821—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 636. 1821—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 126. 1836.

子實體は群生或は孤生，漏斗形乃至長喇叭形，高さ 5—11 cm，徑 4—6 cm，肉質，極めて薄く，柔軟，表面は深く地際附近迄凹陷し，濕時鼠色，乾時灰褐色，多數の纖維狀小鱗被あり，緣は全緣或は淺裂し，下方に捲曲し，波狀に起伏す，外側子實層面は灰白



第89圖 クロラッパタケ *C. cornucopioides* ×1

色或は淡灰紫色，低き縦皺襞あるか或は殆ど平坦，子實層は地表近く迄形成さるるか或は莖と區別し得るものあり。胞子は卵形或は廣楕圓形，平滑，無色，10—15×7—9 μ。可食。

所在及產地 森林內地上　　全土—歐·北米

和名 クロラッパタケ（黑喇叭茸）〔安田〕，
ウスタケ（臼茸），クロウスタケ（黑臼茸）

Craterellus dubius PECK

コクロラッパタケ

PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 31:38. 1879; 32:36. 1879; Bull. 2:45. 1887—MOFFATT, Bull. Nat. Hist. Surv. Chicago, 8:132. 1909—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:335. 1914.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:8, 14. 1916)

Trombetta dubia KUNTZE, Rev. Gen. 2:873. 1891.

子實體は孤生或は叢生，漏斗形或は稍々洋獨樂形にて上背面卽ち表面は深く地際迄凹陷す，肉質にて薄く，柔軟，高さ 2—7 cm，幅 1—5 cm，表面は綿絮狀，暗褐色或は褐色，緣は全緣或は淺裂し，下方に捲曲し且つ波狀に起伏す，外面子實層部は暗灰色にて粗面，不明瞭なる不規則にもつれたる皺襞あり，乾時褪色し殆ど平坦となる。莖は短く，中空，子實層部と同色。胞子は廣楕圓形或は類球形，平滑，無色，6—7.5×5—6 μ。

所在及產地 林內或は樹下地上　　本州—北米

和名 コクロラッパタケ（小黑喇叭茸）

Craterellus aureus BERK. et CURT.

アカラッパタケ

BERKELEY & CURTIS, Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4:123. 1858—SACCARDO, Syll. Fung. 6:516. 1888.

（安田，植．雜．29:116, 421. 1915; 31:45. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 177. 1917; ed. 3. 105. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:108, *pl. 2, f. 6.* 1931—廣江及河崎，茸類の研究 1:44, *2 f.* 1935—原，日．菌．目．94. 1954）

Trombetta aurea KUNTZE, Rev. Gen. 2:873. 1891.

子實體は肉質，傘形にて中窩を有し，幾分漏斗形，高さ 2.5—7 cm，赤橙色，半乾時薔薇色，乾時黃色，傘は圓形，緣は波狀に捲縮す，徑 1—3.5 cm，表面粗糙，子實層面に多くの襞條ありて平滑，肉は赤橙色。莖は中空，漸次傘部より移行し，上部に低き襞條ありて平滑，上部徑 3—8 mm，基部漸細す。胞子は楕圓形，平滑，無色，10—11×6—7 μ，可食。

所在及產地 林地上　　本州—亞（支）

和名 アカラッパタケ（赤喇叭茸）〔安田〕，
トキイロラッパタケ（鴇色喇叭茸）〔廣江〕

Neurophyllum PAT.

ラッパタケ屬

PATOUILLARD, Hymen. Eur. 129. 1887.

子實體は肉狀革質，洋獨樂形乃至棍棒形或は偏心形，莖は中心或は偏心生，稀に側生，傘部に移行す。子實層面は褶襞狀，厚く，垂下し，網狀纏結す。胞子は帶赤黃色乃至黃色，微粒を有す。

（本屬名は neuron（筋肉）phyllon（葉）より出づ）

基準種 *N. clavatum* (PERS. ex FR.) PAT.

本邦旣知種檢索表

A. 子實體は洋獨樂形，莖は中實
　　ラッパタケ ***N. clavatum*** (102)

B. 子實體は漏斗形，莖部中空。
　　フジウスタケ ***N. fujisanensis*** (103)

Neurophyllum clavatum (PERS. ex FR.) PAT.

ラッパタケ

PATOUILLARD, Tab. Anal. 1:193, *f. 434.* 1887; Ess. Tax. 133. 1900—REA, Brit. Basid. 548. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 497.* 1927; 6:504. 1937—IMAI, Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 43:359. 1938.

（原，日．菌．目．225. 1954）

Elvella carnea SCHAEFF. Fung. Bavar. 4, Ind.: 106, *pl. 164.* 1774.

Clavaria truncata SCHMID. Icon. Plant. Manip. 237. 1793—1797.

Merulius clavatus PERS. Obs. Myc. 1:22. 1796; Syn. Meth. Fung. 498. 1801.

Merulius carneus PERS. Comm. Fung. Clav. 28. 1797.

Cantharellus clavatus FR. Syst. Myc. 1:322. 1821—HARPER, Mycologia, 5:261, *pl. 93—4.* 1913—RICKEN, Blätterp. 1, *pl. 1, f. 1.* 1915—KAUFFMAN, Agar. Mich. 34, *pl. 2.* 1918—BRESADOLA, Icon. Myc. 10: *pl. 482.* 1929.

Gomphus clavatus S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 638. 1821.

Gomphus truncatus PERS. Myc. Eur. 2:9. 1825.

Craterellus clavatus FR. Epicr. Myc. 533. 1838; Hymen. Eur. 632. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 399. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 299. 1872; Enchir. Fung. 201. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 741. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2: 120. 1882—WINTER, Pilze 1: 351. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 519. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 437. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 137. 1892—W. G. SMITH, Brit. Basid. 398. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 54, *pl. 52, n. 114.* 1910—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 329, *pl. 15, f. 6.* 1914.

（安田，植．雜．22：372．1908—白井，日．菌．目．ed. 2. 177. 1917; ed. 3. 105. 1927—原，日．菌．目．94. 1954）

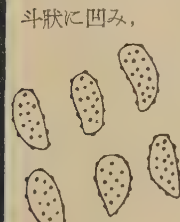
Cantharellus brevipes PECK, Ann. Rep. N. Y. St. Mus. 33: 21, *pl. 1, f. 18—20.* 1879.

Trombetta clavata KUNTZE, Rev. Gen. 2: 873, 1891.



Craterellus carneus SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1135. 1916

子實體は孤生或は叢生，洋獨樂形，先端截頭，後漏斗狀に凹み，



a　　b

第 90 圖　ラッパタケ *N. clavatus*
a. 子實體 ×1　b. 胞子 ×680（大谷氏）

基部は漸細して莖となる，高さ 4—10 cm，上徑 3—8 cm，粗面，鈍黄色，緣は薄くして直立す，肉は肉質にて厚く，白色，彈性あり。子實層は初め紫色を呈し，後肉色となり，更に灰色又は焦茶色等に移行す，平滑，粉狀，緣に近く襞狀をなし，他部は皺を生じ網狀を呈す。莖は倒圓堆狀，帶白淡紫色，後同色となり，1—2×0.8—1.5 cm，稀に分岐し，基部軟毛あり。擔子柄は 4 小柄を有し，胞子は楕圓狀卵形，微疣あり，10—12×4—6 μ，1，2 油球あり，胞子紋は淡黄色。可食。

所在及產地　林地上　北海道，本州—歐・北米

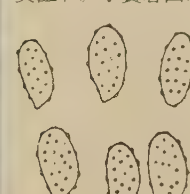
和名　ラッパタケ（喇叭茸）〔安田〕

Neurophyllum fujisanensis (IMAI)
フジウスタケ

Cantharellus fujisanensis IMAI, Bot. Mag. Tokyo, 55: 519. 1941.

子實體は群生或は叢生，傘は徑 3—8 cm，高さ 5—10 cm，幼時類圓筒形或は類角形，後漏斗形，遂に角笛形となる，初め肉桂色の小鱗片を有す，後鱗片は橙黄肉桂色或は肉桂色にて 5×5 mm に及び反轉す，緣は長く內捲し，遂に波狀に裏返る，肉は白色，肉質，稍々脆弱，臭溫和。子實層面は





a　　b

第 91 圖　フジウスタケ *N. fujisanensis*
a. 子實體 ×1　b. 胞子 ×680（大谷氏）

襞狀にて各褶は叉狀分岐し，網狀をなし，厚く，長く莖上に垂下す，初め白色，後黄肉桂色を呈す。莖は中空，下方に向つて徐々に狹細す，初め白色，後褶と同色，無毛。胞子紋は黄肉桂色，胞子は楕圓形，有嘴，帶黄色，微疣あり，12.5—15×6—7.5 μ，可食。

所在及產地

針葉及混淆林地上　本州

和名　フジウスタケ（富士臼茸）〔今井〕

〔**因記**〕本菌はウスタケと外見近似するも，傘肉

厚く，莖は殆ど赤色を帶びず，殊に胞子が有疣なるを相違點とす。

Dictyolus Quél.
チヂミタケ屬

Quélet, Enchir. Fung. 139. 1886.
Leptoglossum Karsten, Hattsv. 1 : 242. 1879.
Leptotus Karsten, Hattsv. 1 : 242. 1879.
Cantharellus Fries. pr. p.

小形纖細の菌，白色或は灰色，蘚類及材上に生ず，傘は膜質，箆形或は盃形，側着或は中央背部にて着生，懸垂す。子實層は脈或は縦狀襞を有し，時に殆ど平滑。胞子は無色，楕圓形或は核子形，平滑，囊狀體なし。

（本屬名は dictyon（網）より出づ）

基準種　*D. lobatus* (Pers.) Quél.

本邦既知種

ムニンチヂミタケ ***D. boninensis*** (104)

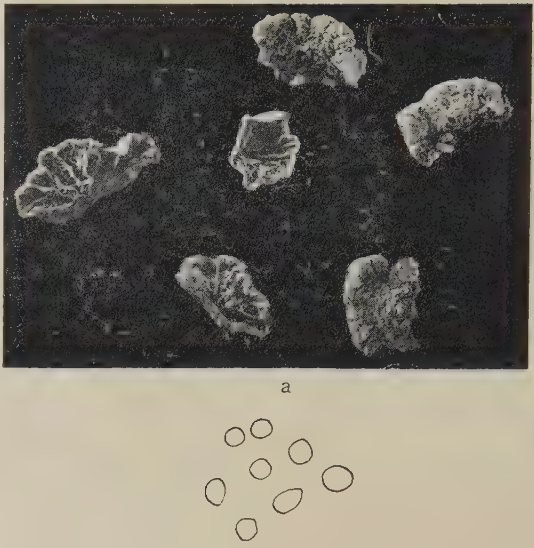
Dictyolus boninensis S. Ito et Imai
ムニンチヂミタケ

S. Ito & Imai, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 20. 1939.

子實體は材上に群生，叢生或は疊生す。傘は小形，5—14×5—8 mm，半球形，類腎臟形或は類扇形にて，坐生或は側生す，表面丸山形にて，放射狀並に横に溝あり，基部鼠色，屢々粉狀，緣部は淡色，肉は膜質乃至類肉質，甚だ薄し，褶はほぼ同色にて放射狀をなし，甚だ隔り，稍々内部に於て側脈にて連結さる，稜は鈍し。胞子は類球形，平滑，無色，6×5 μ。

所在及産地　陰林腐木上　　小笠原島

和名　ムニンチヂミタケ（無人島縮茸）〔今井〕



第 92 圖　ムニンチヂミタケ *D. boninensis*
a. 子實體 ×2　　b. 胞子 ×680（大谷氏）

Corticiaceae　コウヤクタケ科（ウロコタケ科）

子實體は全背着，半背着，坐生，稀に有莖，全背着種に於ては基物上に綿絮狀，皮膜狀或は膏藥狀に擴布し，半背着種にては狹く或は廣く反轉して傘形をなし，坐生種にては基部垂下す，普通樹上生なるも，稀に地上生にて有莖直立するものあり，肉は纖維質，膜質或は革質，極めて稀に膠質のものあり，通常淡色にて暗褐色ならず。子實層は平坦にて時に稍々粗面，種々なる異形體を有するものあり，即ち普通の絲狀體 (paraphyses) の外，叉狀に分岐する二叉絲狀體 (dichophyses)，樹枝狀或は鹿角狀に分岐する樹枝絲狀體 (dendrophyses)，瓶洗刷毛の如き刺を有する有刺絲狀體 (acanthophyses) 等，或は囊狀體 (cystidia) の 1 種にて粘液を含む粘囊體 (gloeocystidia)，其他尖頭厚膜の剛毛體 (setae)，或は菌絲の結着せる束刺，更に組織中に星芒刺を含むもの等種々あり。

本邦既知屬檢索表

A. 子實體は綿絮狀，絨毛狀或は皮膜狀，擔子柄は散生して連續的の子實層をなさず。
　クモノスコウヤクタケ族 **Hypochneae** (105)
　＊子實體は黴狀にて網狀の膜をなし，細粒を存す，菌絲は節間短く，直角に分岐し，屢々十字形細胞を作る，擔子柄は聚繖狀團塊となる，短圓筒形，4 或は 6—8 小柄を有す，胞子は通常平滑，無色。　クモノスコウヤクタケ屬
　Pellicularia (105)

B. 子實體は膜質，堅靭，背着にて擴布し，或は稀に緣邊遊離又は反轉，子實層は平坦，胞子は無色，屢々諸形の絲狀體及囊狀體を有するものあり。
　コウヤクタケ族 **Corticieae** (108)
　a. 子實層は同質にて囊狀體（絲狀體）なし。
　　コウヤクタケ屬 **Corticium** (108)
　b. 子實層には紡錘形乃至圓堆形の囊狀體あり。

カワタケ屬 **Peniophora** (114)

c. 子實層には薄膜の粘嚢體あり。

ネバリコウヤクタケ屬 **Gloeocystidium** (119)

d. 子實層は深處より起れる多細胞の圓筒形無性の束刺あり。

カミコウヤクタケ屬 **Epithele** (122)

C. 子實體は背着し，膏藥狀，肉の菌絲先端に厚膜星芒狀細胞を生ず。

ホシゲタケ族 **Asterostromeae** (123)

＊子實層は皮膜狀，平坦，胞子平滑或は有刺。

ホシゲタケ屬 **Asterostroma** (123)

D. 子實體は背着，膏藥狀，肉は帶黃色或は淡黃褐色の鹿角狀或は尖頭の樹枝狀分岐せる菌絲の纒絡によつて作らる，胞子は無色或は僅か有色，平滑或は有刺，屢々粘嚢體を有す。

コウヤクタケモドキ族 **Vararieae** (124)

コウヤクタケモドキ屬 **Vararia** (124)

E. 子實體は革質或は栓質，皿狀或は少くとも緣は劃然，反轉，子實層に粘嚢體及眞の嚢狀體あり，擔子柄及胞子通常大形。

アカコウヤクタケ族 **Aleurodiscineae** (125)

アカコウヤクタケ屬 **Aleurodiscus** (125)

F. 子實體は革質或は木質，傘形にて基部垂生，反轉或は背着し，稀に有莖，子實層は堅緻，平滑，屢々嚢狀體あり。 ウロコタケ族 **Stereae** (130)

a. 子實體は樹上生，基部垂下，擴布，反轉或は背着，外面に絨毛狀被膜を有し，子實層平滑。

α. 子實層に嚢狀體及剛毛體なし。

ウロコタケ屬 **Stereum** (130)

β. 子實層に嚢狀體を有す。

マツノウロコタケ屬 **Lloydella** (143)

γ. 子實層に突錐狀褐色厚膜の剛毛體を有す。

タバコウロコタケ屬 **Hymenochaete** (154)

δ. 子實層に褐色菌絲の毛束を有す。

クスリウロコタケ屬 **Veluticeps** (166)

b. 子實體は地上生，盃形，漏斗形或は篦形にて有莖，革質，子實層は下位，粗面剛直。

タチウロコタケ屬 **Podoscypha** (150)

G. 子實體は木狀革質，傘狀漏斗形，有莖或は無莖，子實層に木質の縱肋脈及粗疣を有す。

フトウラスジタケ族 **Cladoderreae** (166)

フトウラスジタケ屬 **Cladoderris** (166)

H. 子實體は微小，樹皮上或は草莖上に懸垂し，盃形或は管狀にて其內面に子實層を形成す，有莖或は無莖。 フウリンタケ族 **Cyphelleae** (167)

a. 坐生或は有莖，盃形にて散生す。

フウリンタケ屬 **Cyphella** (167)

b. 管形にて基層より列生し，各管互に癒着せず。

パイプタケ屬 **Solenia** (168)

I. 子實體は肉質，有莖，盛に分岐し，花瓣狀或は甘藍狀團塊となる。

ハナビラタケ族 **Sparasseae** (169)

ハナビラタケ屬 **Sparassis** (169)

J. 子實體は膠質，腎臟形或は扇形，坐生。

ニカワウロコタケ族 **Gloeostereae** (170)

ニカワウロコタケ屬 **Gloeostereum** (170)

〔因 記〕 本科の分類に就きては更に硏究を要するもの多し，例えば *Pellicularia* 屬中には *Phylacteriaceae* の *Tomentella* 屬に近きものあり，*Gloeocystidium* を *Peniophora* と分つことの可否，*Stereum* と *Lloydella* とを分つべきか，有莖の *Stereum* を *Podoscypha*，*Cladoderris* となすこと，*Cyphella*，*Solenia* は *Cyphellaceae* 科とし又 *Hymenochaete* 及 *Veluticeps* は *Hymenochaetaceae* として分類すべきか，肉質なる *Sparassis* 屬を子實層の1面生なる點より本科に收むるの可否，更に膠質なる *Gloeostereum* の分類上の位置等幾多の疑義あるも，暫く前記の如く分類し，將來の硏究を俟つ。

I. Hypochneae クモノスコウヤクタケ族

子實體は綿絮狀，絨毛狀或は皮膜狀にて，擔子柄はその內に散生して連續的の子實層をなさず。

Pellicularia Cooke emend Rogers
クモノスコウヤクタケ屬

Cooke, Grev. 4:116. 1876—Rogers, Farlowia, 1:96. 1943.

Corticium sect. *Botryodea* Bourd. & Galz. Bull. Soc. Myc. Fr. 27:247. 1911.

Tomentella sect. *Tomellastrum* subsect. *Botrytes* Bourd. & Galz. Bull. Soc. Myc. Fr. 40:137. 1924.

Botryobasidium Donk, Med. Nederl. Myc. Ver. 18—20:116. 1931.

Botryohypochnus Donk, Med. Nederl. Myc. Ver. 18—20:118. 1931.

Hypochnus Fries, pr. p.

子實體は背着，黴狀にて網狀皮膜を作り，微粒を有す，菌絲はアニリン靑にて强く染り，太く，基部

以外のものは短き細胞より成り，直角に分岐して屢々十字形細胞を作る，上向菌絲は通常數回聚繖狀に分岐し，先端に擔子柄を纖生す，寄生種に於ては時に比較的短かくして分岐少し，擔子柄は類圓筒形，支持細胞より幅甚だ大ならず，比較的短く，4或は6—8小柄あり，胞子は平滑或は稀に有刺，無色或は淡帶赤黃色，囊狀體は缺如或は種々の形のものあり，死物或は兼活物寄生。

（本屬名は pellicula（皮膜）より出づ）

基準種　*P. Koleroga* COOKE

本邦既知種檢索表

A. 菌絲は幅 7—13 μ，多くは 8—12 μ，菌核周緣近部細胞は 15—26×26—50 μ，胞子は 7—12.5×4—7 μ。
　クモノスコウヤクタケ ***P. filamentosa*** (106)

B. 菌絲は幅 5—11 μ，多くは 6—8 μ，菌核周緣近部細胞は 7—18×22—37 μ，胞子は 13—16×5—8 μ。
　ササキクモノスコウヤクタケ ***P. sasakii*** (107)

Pellicularia filamentosa (PAT.) ROGERS
クモノスコウヤクタケ

ROGERS, Farlowia, 1 : 113, *f. 11.* 1943.

Rhizoctonia Solani KUEHN, Krankh. Kulturgew. 224. 1858—DUGGAR, Ann. Missouri Bot. Gard. 2 : 424, *f. 5—9.* 1915—Auct. plur.

Hypochnus filamentosus PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 7 : 163, *pl. 21, f. 2.* 1891; Ess. Tax. 65. 1900—SACCARDO, Syll. Fung. 11 : 130. 1895.

Hypochnus Solani PRILL. et DEL. Bull. Soc. Myc. Fr. 7 : 220, *f. A, a.* 1891—PATOUILLARD, Ess. Tax. 65. 1900—SACCARDO, Syll. Fung. 11 : 130. 1895—Auct. plur.

（白井，日．菌．目．43. 1905; ed. 3. 171. 1927—MATSUMOTO, Ann. Missouri Bot. Gard. 8 : 63. 1921; Bull. Imp. Coll. Agr. For. Morioka, 5 : 1, *pl. 1.* 1923; 8 : 1. 1924—原，日．菌．目．162. 1954）

Corticium vagum var. *Solani* BURT, in ROLFS, Science, N. S. 18 : 729. 1903—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 295. 1926.

Corticium Solani BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 27 : 248. 1911; Hymen. Fr. 242. 1928.

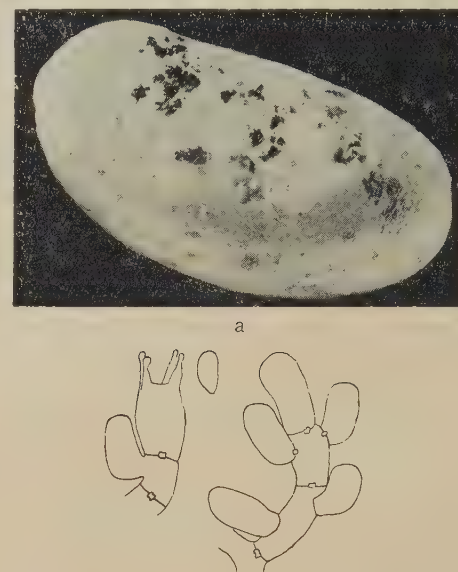
Corticium vagum sensu BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5 : 128, *f. 3a.* 1918. pr. p.; 13 : 295, *f. 3a.* 1926. pr. p.—Auct. plur. (non BERK. et CURT.)

（白井，日．菌．目．ed. 3. 103. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 634. 1929—今關，日．隱．植．圖．379, *pl. 180, f. 1—2.* 1939—原，日．菌．目．92. 1954）

Botryobasidium Solani DONK, Med. Nied. Myc. Ver. 18—20 : 117. 1931—ROGERS, Univ. Iowa St. N. H. 17 : 18. 1935.

Pellicularia filamentosa f. sp. *solani* EXNER, Mycologia, 45 : 716, *f. 1, 5a, 6.* 1953.

營養菌絲は地中及地面に存する腐木中に存し，或は多數の植物の地下部並に根際部に寄生し，殊に馬鈴薯，甜菜等の重要作物を侵し屢々大害をなす，被害植物によりて其狀1樣ならざるも被害部に蜘蛛巢



第93圖　クモノスコウヤクタケ *P. filamentosa*
a. 馬鈴薯上の菌核（大谷氏）
b. 擔子柄及胞子（ROGERS 氏による）

狀菌絲を外生す，菌色は幾分有色にて通常黃褐色を呈し，一部は純然たる營養菌絲にて他は稍々塊狀の叢をなす，此等の菌絲は幼時殆ど無色にて空胞を有し，多少不規則に橫隔を有す，節間 100—200 μ，幅 7—13 μ，多くは 8—12 μ，分岐は幼時生長の方向に向つて伸び，その主莖と連結する部分に於て幾分縊れを有す，成熟するに從つて有色，1樣の形となり剛直，節間を增し，着生部の縊れは不明となり，分岐は直角となる。或植物上に於ては被害部に菌叢或は粉塊を作る。かかる場合は甚だ異なりたる性質の菌絲より成り，幼時盛に分岐し聚繖狀をなす，各枝は短卵狀細胞の鎖狀となり，且つ叉狀に分岐し，遂に菌核を作る。菌核は馬鈴薯塊莖上に普通に形成さるるも他の植物には少し，其大さ甚だ小なるものより 1—2 cm に及ぶものあり，普通多少扁平にて不正形，濃栗褐色，多くは平滑にて，斷面に於て略々大さ外觀1樣なる構造を有し，周緣に近き部に於て 15—26×26—50 μ。

子實體は纖弱なる剝げ易き雪片狀或は薄き白絹菌

狀皮膜より成り，乾時白色乃至雁皮色或は半透明なり，菌絲は直角に分岐して，十字形細胞を有し，菌絆なし，徑7—13，多くは8—12μ，基部細胞は長くして屢々幾分有色，擔子柄の下の細胞は無色にて短く，屢々樽狀節を有す，多數分岐して小なる不完全なる相稱的繖形狀に擔子柄を生ず，擔子柄は類圓筒形にて樽形（中央部最廣）或は倒洋梨形或は棍棒形（頂端最廣），12—18×8—11μ，4小柄を生ず，小柄は初め鈍瘤にて後角形となり，5.5—12×1.5—3.5μ，胞子は楕圓形或は圓壔狀楕圓形，薄膜，內側扁平，僅か中部より下部最も廣く，截頭狀小嘴あり，7—12.5×4—7μ，時に強き前菌絲にて發芽し，之れに同樣の二次胞子を生ず。

所在及產地

馬鈴薯，甜菜其他塊莖，莖上

北海道，本州—歐．北米

和名 クモノスコウヤクタケ（蜘蛛巢膏藥茸）

〔因記〕B. EXNER 氏は *Hypochnus solani* と *H. sasakii* とは各々 *P. filamentosa* の生態型（forma specialis）なりとし，前菌は種々なる植物の莖の基部及根の腐朽を起すものにて馬鈴薯葡萄糖寒天及CZAPEK寒天培養基 28°C 培養に於て2週間中の菌核形成は變化し，或培養にては多數の小形（2mm以下）溢色乃至濃褐色の互に扁平群に癒着し得る菌核を作り，又他の培養にては只培養基の大部分を蔽う菌核狀細胞の層或は絨狀子座を作るに止まるものとなし，後菌は禾本科植物の葉及葉鞘の斑點（banded sclerotial disease）及び種々なる双子葉植物の葉枯を起すものにて，前菌と同樣なる培養に於て一定の形卽ち殆ど球形（寒天に接着する面は扁平，又時に長形），徑1—6mm の濃褐色の菌核を生ずる旨を記し，各々特有の病害を起し，異なる病狀を呈するも，單一胞子の培養に於ての變化等より，之等を種として認むるより生態型となすことを可とすと結論せり，今玆には兩菌を別種として記述せり。

Pellicularia sasakii (SHIRAI)
ササキクモノスコウヤクタケ

Hypochnus Sasakii SHIRAI, Bot. Mag. Tokyo, 20:319, *f. 1—3*. 1906.

（佐々木，樟病蟲調査報告豫報，2. 1906；臺灣樟害蟲調査第1回報告，46—47. 1907；第二回報告，51—53. 1907—川上及鈴木，臺．農．試．報．1:48. 1908—澤田，臺．農事報，49:1，*f. 1*. 1910；植．雜．26:182，*f.* 1912；臺．農．試．特．報．4:69，*pl. 1*，*f. 1—2*，*pl. 2—5*. 1912；臺．菌．調．報．1:471. 1919—藤黑，植．雜．28:392. 1914—白井，日．菌．目．ed. 2. 293. 1917；ed. 3. 171. 1927—櫻井，愛媛．農．報．1:1—60. 1917—逸見及横木，農．園．2(9)：3—14；(10)：3—18. 1927—横木，病蟲．雜．14:146. 1927—遠藤，病蟲．雜．14:283. 1927；植．病．研究，1:126，*pl. 4*，*f. 2*. 1931—MATSUMOTO, YAMAMOTO & HIRANE, Jour. Soc. Trop. Agr. 4:370. 1932; 5:322. 1933—MATSUMOTO & HIRANE, Jour. Soc. Trop. Agr. 5: 369. 1933—MATSUMOTO & YAMAMOTO, Trans. Nat. Hist. Form. 25:161. 1935)

Sclerotium Oryzae (non CATT.)

（吉野，新農報，93:29. 1907）

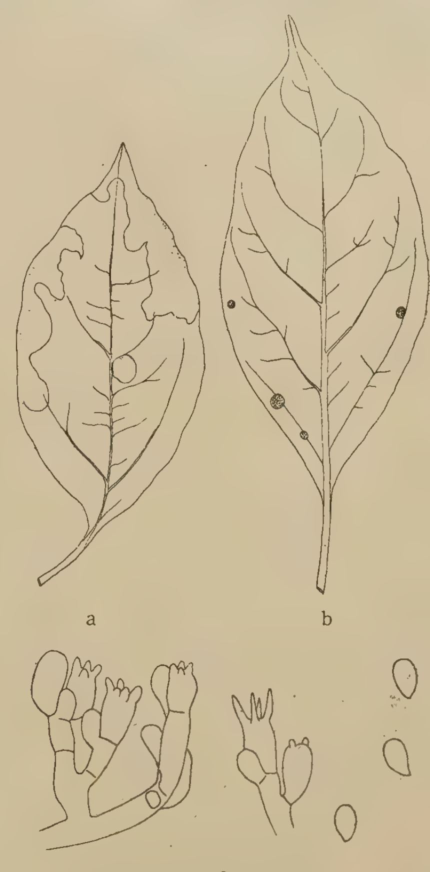
Sclerotium irregulare MIYAKE, Jour. Coll. Agr. Tokyo Imp. Univ. 2:265. 1910.

Corticium Sasakii MATSUMOTO, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 8:119. 1934.

（原，日．菌．目．91. 1954）

Pellicularia filamentosa f. spec. *Sasakii* EXNER, Mycologia, 45:717, *f. 3, 5 c. 7*. 1953.

極めて多數の植物を侵し，病徵幾分の差を生ず，通常葉片を侵し，熱湯を注げるが如く速に枯死せしめ，落葉は屢々菌絲により纏結附着す，稻等の禾本科植物にては葉鞘及葉片に雲紋を生ず，病斑部上に菌絲層を生ずるときは纖弱なる蜘蛛巢狀を呈し，初



第94圖　ササキクモノスコウヤクタケ *P. sasakii*
a. クスの葉被害の狀　b. 同上菌核
c. 擔子柄及胞子（澤田氏による）

め白色にて屢々泥灰色を呈す，菌絲は叉狀分岐し，多隔，初め光線を屈折し，後老成部は顆粒狀となり空胞を作るものあり，初め無色，老部は褐色を呈す，徑 5—11μ，多くは 6—8μ，菌絲は結合して菌核を作る。菌核は表面粗にて饅頭形，卵形，長楕圓形或は癒合し，多くは圓形にて裏面凹陷す，形成數多からざるを常とす，褐色乃至暗褐色，徑 1—3mm，時に 8mm に及ぶ，斷面外部の色と同色，乾時黑褐色，內外組織の分化なく，只外部のものは小にて內部のものは大形，周緣部に於て 7—18×22—37μ，薄膜にて微細なる顆粒を含む，子實層は被害部或はその附近に灰白色粉末狀となりて形成せられ，菌絲端纖狀に分枝し，先端に擔子柄を生ず，擔子柄は無色，倒卵狀乃至長倒卵狀にて，13—16×6—10μ，先端に 2—4 小柄を生ず，長さ 4—8μ，胞子は倒卵形，小嘴あり，平滑，無色，6—11×5—8μ，白絹病を起す。

所在及產地

多數植物葉莖上

本州，四國，九州—北米・亞(臺・其他)

和名 ササキクモノスコウヤクタケ（佐々木蜘蛛巢膏藥茸），オオツブシラキヌビヨウキン（大粒白絹病菌），オオツブキンカクビヨウキン（大粒菌核病菌），イネモンガレビヨウキン（稻紋枯病菌）

II. Corticieae コウヤクタケ族

子實體は膜質にて强靱，樹材上に背着擴布し，或は緣邊遊離又は反轉し，稀に有莖のものあり，子實層は通常平坦，胞子は無色，子實層內に種々なる形をなせる絲狀體及囊狀體を有するもの多し。

Corticium Pers. ex Fr.

コウヤクタケ屬

Persoon, Orb. Myc. 1 : 37. 1796—Fries, Gen. Hymen. 15. 1836.

Thelephora * *Corticium* Persoon, Myc. Eur. 1 : 128. 1822.

Lyomyces Karsten, Hattsv. 2 : 153. 1822.

Punctularia Patouillard, Bull. Boiss. 57. 1895.

Cerocorticium P. Hennings, Monsunia, 1 : 138. 1899.

子實體は着生物上に背着擴布し，稀に周緣遊離或は僅か反轉す，皮膜或は綿絮狀をなす，肉は層をなさず，纖維質，綿質或は肉質，屢々甚だ貧弱，濕時多くは柔軟，乾時收縮し屢々龜裂す，緣邊確然或は纖維狀，子實層は平坦にて連續，稀に幾分粒狀を呈す。擔子柄は棍棒形乃至倒卵圓壔形，2—8，普通 4 個の小柄を生ず，胞子は平滑，無色或は甚だ淡色，眞の絲狀體及囊狀體なし，樹皮及草莖上生。

（本屬名は cortex（皮）より出づ）

基準種 *C. caeruleum* (Schrad.) Fr.

本邦既知種檢索表

A. 子實體の肉は著しき色を有せず。

a. 子實層は白色或は類白色。

α. 胞子は球形或は類球形。

I. 體內に多くの厚膜胞子あり。

ワタゲオオコウヤクタケ ***C. vellereum*** (109)

II. 體內に厚膜胞子なし。

ヤケイロコウヤクタケ

C. portentosum (109)

β. 胞子は長形。

I. 胞子は長さ 6μ 以上。

1. 肉は厚さ 85—150μ，胞子廣楕圓形，5—7.5×3—5μ，廣葉樹枯木上。

オガサワラカミコウヤクタケ

C. boninense (110)

2. 肉は厚さ 30μ，胞子は楕圓狀圓筒形，8—12×2.5—3μ，ヘゴ上。

ヘゴノコウヤクタケ ***C. cyatheae*** (110)

II. 胞子小形。

1. 菌絲は結晶を被むる。

チヤイロオオコウヤクタケ

C. scutellare (109)

2. 菌絲に結晶なし。

甲. 子實體は稍々厚く，柔革狀，菌絲は徑 1—2μ，胞子は4—5.5×2—3μ。

チチイロコウヤクタケ

C. galactinum (110)

乙. 子實體は薄く，膜狀，菌絲は 2—3μ にて 5μ に及ぶ，胞子は 5—10×3—6μ，菌核形成旺盛なり。

コツブコウヤクタケ

C. centrifugum (110)

b. 子實層は乾時有色。

α. 胞子長形，5—9×3.5—6μ。

アカギンコウヤクタケ ***C. confluens*** (111)

β. 胞子長形，9—12×6—8μ，分生胞子を有す。

ニクイロオオコウヤクタケ

C. salmonicolor (112)

B. 子實體の肉は有色。

α. 子實體は褐色。

エビコウヤクタケ ***C. evolvens*** (112)

β. 子實體は青藍色。

アイコウヤクタケ ***C. caeruleum*** (113)

Corticium vellereum ELL. et CRAGIN
ワタゲオオコウヤクタケ

ELLIS & CRAGIN, Jour. Myc. 1 : 58. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 615. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 137. 1890—WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 5 : 128. 1914—REA, Brit. Basid. 674. 1922—BURT. Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 179. 1926—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 184. 1928.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 634. 1929)

Corticium chlamydosporium BURT, in PECK, N. Y. St. Mus. Rep. 54 : 154. 1901.

Coticium Bresadolae BOURD. Rev. Sci. Bourb. 23 : 6. 1910—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 27 : 233. 1911.

子實體は廣く擴布，固着し，徑3—10cm，稍々厚く，强靱，濕時小片に剝ぐを得，白色，乾酪黄色或は紅黄色，平坦，粉狀或は蠟質，稀に龜裂す，緣は白色，纖維狀，肉は厚さ 200—500μ，色なく，構成菌絲は弛く纒絡し，薄膜，菌絆あり，徑3—5μ，通常多數の厚膜胞子あり，胞子紋は白色，胞子は平滑，類球形，無色，5—7×4.5—6μ，厚膜胞子の大さは胞子に稍々同じ。

所在及産地　廣葉樹枯木上　本州—歐·北米

和名 ワタゲオオコウヤクタケ

(綿毛大膏薬茸)〔伊藤篤〕

Corticium portentosum BERK. et CURT.
ヤケイロコウヤクタケ

BERKELEY & CURTIS, Grev. 2 : 3. 1873—MORGAN, Jour. Cinn. Soc. Nat. Hist. 10 : 201. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 636. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 129. 1890—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 27 : 235. 1911 ; Hymen. Fr. 225, *f. 68*. 1928—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 187. 1926—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 45. 1934—PILÁT, Ann. Myc. 38 : 63. 1940.

(安田，植. 雜. 38 : 156. 1923—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 103. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 637. 1927—原，日. 菌. 目. 91. 1954)

Corticium diminuens BERK. et CURT. Grev. 2 : 3. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 631. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 158. 1890.

Terana portentosa KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 872. 1891.

Corticium portentosum var. *crystallophorum* Ell. et Ev. Bull. Torr. Bot. Club, 24 : 125. 1897.

Stereum portentosum HOEHN. et LITSCH. Sitzb. Akad. Wien, 116 : 743. 1907—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1153. 1916.

? *Corticium grammicum* P. HENN. Bot. Jahrb. 38 : 106. 1905.

Corticium Aluta BRES. in HOEHN. & LITSCH. WIESNER Festschr. Wien, 62. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 47. 1912.

子實體は長く，廣く擴布し，長さ 4—12cm，幅2—4cm，厚き柔革狀，濕時小片に剝ぐを得，白色，乾時鈍黄色となる，平坦にて稀に僅か龜裂す，緣は屢々帶白色，軟絨毛狀，肉は厚さ 150—1000μ，子實層と同色，厚きときは有線或は層をなす，構成菌絲は極めて密に纒絡し，强靱，徑約 1—2μ，結晶を被らず，菌絆なし，子實層面より抽出して屈曲せる絲狀體となる，組織內に稍々多數の鑛質物の塊を埋在す，擔子柄は尠く，胞子は無色，平滑，球形，4.5—7μ，通常僅か存在す。

所在及産地　枯幹上. 本州—歐·北南米·亞(支)

和名 ヤケイロコウヤクタケ(燒色膏薬茸)〔安田〕

Corticium scutellare BERK. et CURT.
チヤイロオオコウヤクタケ

BERKELEY & CURTIS, Grev. 2 : 4. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 634. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 128. 1890—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 192. 1926.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 635. 1929—原，日. 菌. 目. 92. 1954)

子實體は長くして廣く擴布，固着し，2—8×1—4cm，薄し，乾時白色より乾酪色に變ず，蠟質，屢々有粒，後小龜裂に甚しく裂く，龜裂は1mmに1—3ありて着生物より剝落し，時に白き基層を殘す，緣は薄し，肉は厚さ 120—250μ，色なく，構成菌絲は稍々直立し，纒絡し，薄膜，徑2.5—3.5μ，子實下層部のものは結晶を被むる。胞子は無色，平滑，4—6×2—3μ。

所在及産地

廣葉樹枯枝上　本州，九州—北米

和名 チヤイロオオコウヤクタケ

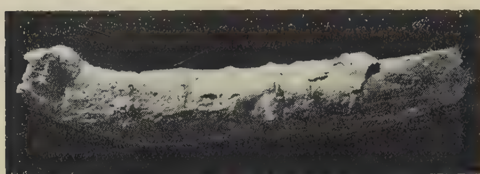
(茶色大膏薬茸)〔伊藤篤〕

Corticium boninense S. ITO et IMAI

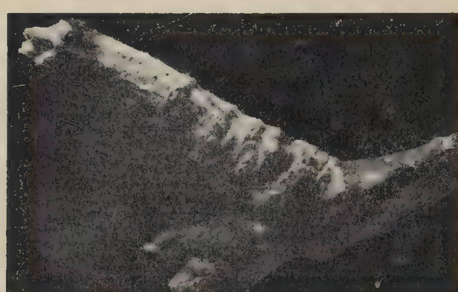
オガサワラカミコウヤクタケ

S.ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 131. 1940.

子實體は擴布し，甚だ薄く，類膜質，固着し，剝げず，白色，乾時稍々乾酪色を帶ぶ，龜裂せず，緣



a





b

第95圖 オガサワラカミコウヤクタケ *C. boninense*
a. 子實體 ×1 b. 胞子 ×680 (大谷氏)

は薄く不劃然なり，肉は厚さ 85—150μ，胞子は類卵形或は廣楕圓形，平滑，無色，5—7.5×3—5μ。

所在及產地

廣葉樹落木上 小笠原島

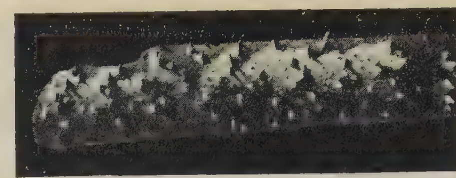
和名 オガサワラカミコウヤクタケ
(小笠原紙膏藥茸)〔今井〕

Corticium cyatheae S. ITO et IMAI

ヘゴノコウヤクタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 132. 1940.

子實體は不規則に擴布固着し，極めて薄く，白色乃至灰白色，粉狀，肉は厚さ 30μ に及び，子實下層殆どなし，擔子柄は棍棒形，4 小柄を有し，小柄は長さ約 8μ，胞子は楕圓狀圓筒形，平滑，無色，8—



第 96 圖 ヘゴノコウヤクタケ *C. cyatheae*
被害の狀 ×1 (大谷氏)

12×2.5—3μ。

所在及產地

ヘゴ(*Cyathea boninensis* OPEL.)葉柄上 小笠原島

和名 ヘゴノコウヤクタケ (ヘゴ膏藥茸)〔今井〕

Corticium galactinum (FR.) BURT

チチイロコウヤクタケ

BURT, Bull. Chicago Acad. Sci. 7 : 137. 1909; Ann. Missouri Bot. Gard. 8 : 199. 1926.

(安田，植．雜．37 : 119. 1923—白井，日．菌．目 ed. 3. 102. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 635. 1929—逸見及赤井，木．腐．菌學，226. 1945—原，日．菌．目．91. 1954)

Thelephora galactina FR. Nov. Symb. Myc. 120. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 541. 1888—SCHRENK, Bot. Gaz. 34 : 65. 1902.

Corticium rigescens BERK. et CURT. Grev. 20 : 12. 1891.

子實體は長く且つ廣く擴布し，長さ 4—12 cm，幅 2—4 cm，稍々厚く，柔革狀，着生物に固着し，小片に剝ぐを得，白色乃至乾酪色，蠟質，平坦，龜裂せず，緣は不劃然にて薄し，肉は厚さ 200—1000μ，無色，菌絲は稍々上向し，密に纒絡し，無色，結晶なく，幅約 1—2μ，菌絲の屈曲せる先端或はその枝は子實層の表面を作る，幅約 0.5—1μ，胞子紋は白色，胞子は楕圓形，平滑，無色，4—5.5×2—3μ。

所在及產地

枯木及根際(モミ) 本州，九州—北米

和名 チチイロコウヤクタケ(乳色膏藥茸)〔安田〕
チチイロオオコウヤクタケ
(乳色大膏藥茸)〔伊藤篤〕

Corticium centrifugum (LÉV.) BRES.

コツブコウヤクタケ

BRESADOLA, Ann.Myc. 1 : 96. 1903—V. HOEHNEL, Oesterr. Bot. Zeits. 54 : 427. 1904; Ann. Myc. 3 : 188. 1905—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 27 : 240. 1911; Hymen. Fr. 197. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 52. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 206. 1926—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 37. 1934—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51 : 416. 1935—ROGERS, Far-

lowia, 1 : 286. 1943 (ut nom. dub.) (non FRIES, 1874)

(小林，長尾研究所菌. 研. 報. 2:119, *f. 73*. 1952 —原，日. 菌. 目. 91. 1954)

Rhizoctonia centrifuga LÉV. Ann.Sci. Nat. II, 20 : 225. 1843.

Corticium arachnoideum BERK. Ann.Mag. Nat. Hist. 13:345, *pl. 9, f. 3*. 1844; Outl. Brit. Fungi, 273. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 321. 1871; Handb. Austr. Fungi, 194. 1892—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:135. 1890; Brit. Fung. Fl. 1 : 122. 1892; Brit. Fungi, 415. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 412. 1908—REA, Brit. Basid. 676. 1922.

Hypochnus centrifugus TUL. Sel. Fung. 1 : 113. 1861—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 654. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1198. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 416. 1888.

(澤田，植. 雜. 26:129, *f. 1*. 1912; 臺. 農. 特. 報. 4:72, *pl. 1, f. 5—7, pl. 6, f. 5—9*. 1912; 11:127. 1915; 臺. 中央. 研. 農. 報. 2 : 171. 1919; 臺. 菌. 調. 報. 1 : 438. 1919—藤黑，植. 雜. 28 : 391. 1914 —三宅，蠶. 試. 報. 1 : 334. 1916—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 291. 1917; ed.3. 170. 1927—中田，九. 大. 農. 學藝. 誌. 2:16, *f. 1—2*. 1926—横木，病蟲. 雜. 14: 146. 1927; 農. 園. 2 : 487. 1927—逸見及横木，農. 園. 2(9) : 3; (10) : 3. 1927—遠藤，日. 微生. 病. 雜. 22 : 1851. 1928; 植. 病. 研究，1:142, *pl. 3, f. 8, pl. 4, f. 4.*; 159. 1931—原，日. 菌. 目. 160. 1954)

Sclerotium Rolfsii SACC. Ann. Myc. 9 : 257. 1911; Syll. Fung. 22 : 1500. 1913.

(中田，九. 大. 農. 學藝. 誌. 1:177, *pl. 3*; 310, *pl. 5*. 1925; 2 : 7, *f. 1—2*. 1926; 169, 237, 291. 1927; 3 : 292. 1929)

Hypochnus Cucumeris (non FRANK)

(吉野，植. 雜. 19 : 168, 201. 1905—白井，日. 菌. 目. 43. 1905—川上及鈴木，臺. 農. 試. 報. 1: 18. 1908—澤田，臺. 農. 特. 報. 2 : 1, *pl. 1—6*. 1911)

極めて多數植物を侵し，大害をなす，被害部は莖の地際部に多く，其他葉鞘，葉片等にて各々の病徵同一ならざるも，共に組織を糜爛し，全株及局部を枯死せしむ。初め菌絲は蜘蛛巣状を呈し，後纖弱なる膜狀となり，連續，少しく固着し，白色乃至灰白色，絹絲樣光澤を呈し，緣は薄くして蜘蛛巣狀，肉は薄く基層殆どなし，菌絲は無色，薄膜，多隔，鋭角を以て分岐し，徑 2—3 μ にて 5 μ に及ぶ，結晶を被らず，上方の菌絲には菌絆なきも，下方のものには稀に存在す。菌核は菌絲層の表面に群生し，初め下半部菌絲中にあるも後殆ど裸出す，球形又は塊狀長形，徑 1.5—3 mm，稀に 6 mm に及び，表面少しく凹凸あるも，略々平滑にて光澤あり，紫褐，褐或は暗褐色にて幾分堅し，斷面に於て周緣部は稍々多角形大形の細胞より成り，皮部 1—2 層は褐色を帶ぶ，內部は球形或は不規則の厚膜細胞より成り，無色，菌核は發芽して菌絲を生ず，通常本菌は無性にて胞子を作らざるも，完全に發達せるものは密なる子實層を形成す，子實層は粉狀を呈し，密に分岐せる菌絲の先端に長倒卵形の擔子柄を生ず，その大さ 9—20 × 5—7 μ にて，4，稀に 2 個の小柄を有す，小柄は長さ 3—7 μ，胞子は倒卵形，基部狹細，平滑，無色，5—10 × 3—6 μ。白絹病を起す。



第 97 圖　コツブコウヤクタケ
C. centrifugum 擔子柄及胞子
（澤田氏による）

所在及產地

多數植物莖葉上

全土—歐. 北南米. 濠. 亞（臺. 其他）

和名　コツブコウヤクタケ（小粒膏藥茸），
コツブシラキヌビョウキン（小粒白絹病菌）

Corticium confluens FR.

アカギンコウヤクタケ

FRIES, Epicr. Myc. 564. 1838; Hymen. Eur. 655. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 276. 1860 —COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 325. 1871— QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 7 : 232. 1879; Enchir. Fung. 211. 1886—KARSTEN, Hattsv. 2 : 150. 1882—WINTER, Pilze, 1 : 332. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 626. 1886; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1170. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:133. 1890; Brit. Fung. Fl. 1:122. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 66. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 98. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 412. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 27:252. 1911; Hymen. Fr. 179, 212. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 47. 1912—REA, Brit. Basid. 679. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 220. 1926—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 333. 1936; Ann. Myc. 38 : 63. 1940.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 640. 1929)

Thelephora confluens FR. Obs. Myc. 1:152. 1815; Syst. Myc. 1:447. 1821; Elench. Fung. 1:218. 1828 —PERSOON, Myc. Eur. 1:136. 1822—RABENHORST,

Deut. Krypt. Fl. 1 : 388. 1844.

Thelephora epiderma PERS. Myc. Eur. 1 : 136. 1822.

Hypochnus confluens BONORD. Handb. Allgem. Mykol. 159. 1851.

Corticium confluens var. *subcalceum* KARST. Rev. Myc. 10 : 74. 1888.

子實體は着生物上に擴布し，長さ 2—8cm，幅 1—3cm，稍々厚く，蠟状膜質，濕時小片に剝ぐを得，帶白色乃至淡黃白色，乾時淡紅肉桂色，平坦にて僅か龜裂す，緣は不劃然にて薄し，肉は厚さ 200—500μ，無色，上向の密に纒絡結合する薄膜，徑 2.5—3μ の菌絲より成る，菌絲上に結晶なく，時に菌絆あり。胞子は卵形，無色，平滑，5—9×3.5—6μ，生成多し。

所在及産地

廣葉樹腐木上　　本州—歐. 北米. 阿. 亜(支. 西比)

和名 アカギンコウヤクタケ（赤銀膏藥茸），
アカギンタケ（赤銀茸）〔伊藤篤〕

Corticium salmonicolor BERK. et BR.
ニクイロオオコウヤクタケ

BERKELEY & BROOME, Jour. Linn. Soc. 14 : 71. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 620. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 122. 1890—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 227. 1926—WAKEFIELD, Bull. Misc. Inf. 1926 : 312—LEE & YATES, Philipp. Jour. Sci. 14 : 657, *pl. 1—7*. 1919.

（白井，日. 菌. 目. ed. 3. 103. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 639. 1929—澤田，臺. 菌. 調. 報. 6 : 55. 1933—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，227. 1945—原，日. 菌. 目. 91. 1954）

Terana salmonicolor KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 872. 1891.

Necator decretus MASS. Bull. Misc. Inf. 1898 : 119—SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 1904. 1902.

Corticium javanicum ZIMM. Centralbl. Bak. II, 7 : 103. *f. 3*. 1901.

Corticium Zimmermanni SACC. et SYD. Syll. Fung. 16 : 1117. 1902; 17 : 169. 1905.

（藤黑，植. 雜. 28 : 394. 1914—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 175. 1917—澤田，臺. 農事報. 80 : 1. 1913；臺. 菌. 調. 報. 1 : 495. 1919）

子實體は廣く擴布し，着生物に固着し，長さ 2—20cm，幅 1—3cm，薄き，柔膜狀，濕時剝ぐを得，淡赤黃色乃至橙黃紅色，乾時淡藍黃乃至淡黃色に褪色す，粉狀，平坦，乾時僅に龜裂す，緣は薄し，肉は厚さ 100—200μ，着生物上に長徑に走る菌絲より成り，その上に稍々上向する分岐し，粗に纒絡する菌絲より成る廣き層あり，その菌絲は徑 4—7μ，結晶なく，菌絆なし。胞子は無色，平滑，9—12×6—8μ，分生胞子（*Necator*）は鎖生，14—18×7—8μ。樹木に寄生，大害をなす。

所在及産地

柑橘其他極めて多數植物幹枝上
本州，九州—熱帶地方

和名 ニクイロオオコウヤクタケ
（肉色大膏藥茸）〔伊藤篤〕，
アカゴロモビヨウキン（赤衣病菌）〔澤田〕

Corticium evolvens FR.
エビコウヤクタケ

FRIES, Epicr. Myc. 557. 1838; Hymen. Eur. 646. 1874—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 264. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 320. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 303. 1872; Suppl. 18 : 465. 1891; Enchir. Fung. 208. 1886—GILLET, Champ. Fr. 751. 1874—WINTER, Pilze 1 : 339. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 604. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1164. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 423. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 118, *pl. 6, f. 4*. 1890; Brit. Fung. Fl. 1 : 118. 1892; Brit. Fungi, 413. 1911—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 319. 1891; Brit. Basid. 410. 1908.

（LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett 51 : 4. 1914—安田，植. 雜. 28 : 325. 1914; 31 : 42. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 175. 1917; ed. 3. 102. 1927—今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67 : 22. 1954）

Corticium laeve PERS. Disp. Meth. 30. 1797—FRIES, Epicr. Fung. 560. 1838; Hymen. Eur. 649. 1874—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 94. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 170. 1905; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1167. 1916—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 27 : 232. 1911; Hymen. Fr. 183. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 58. 1912—WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 4 : 115, *pl. 3, f. 23—24*. 1913—REA, Brit. Basid. 673. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 280. 1926—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 333. 1936.

（安田，植. 雜. 31 : 42. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 103. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 636. 1939—今關，日. 隱. 植. 圖. 379, *pl. 180, f. 3*. 1939；及土岐，林. 試. 硏. 報. 67 : 22. 1954—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，227. 1945—原，日. 菌. 目. 91. 1954）

Thelephora laevis PERS. Syn. Meth. Fung. 575. 1801; Myc. Eur. 1 : 130. 1823—FRIES. Syst. Myc. 1 : 451. 1821; Elench. Fung. 1 : 206. 1828—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 273. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 321. 1871.

Thelephora evolvens FR. Obs. Myc. 1 : 154. *pl. 4, f. 5*. 1815; Syst. Myc. 1 : 441. 1821; Elench. Fung. 1 : 181. 1825.

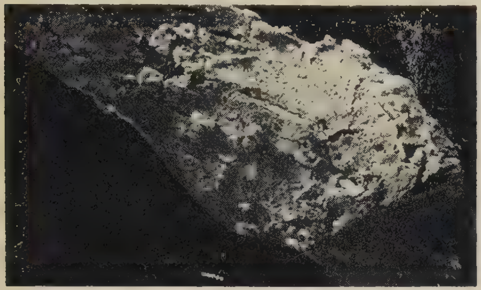
Thelephora laxa PERS. Myc. Eur. 1 : 143. 1822.

Hypochnus laevis BONORD. Handb. Allgem. Mykol. 160. 1851.

Stereum evolvens KARST. Hattsv. 2:126. 1882.

Terana evolvens KUNTZE, Rev. Gen. 2: 872. 1891.

子實體は通常廣く擴布し，稀に小形にて盤形，極めて稀に少しく反轉す，長さ 1—10cm，幅 1—5cm，稀に徑僅に 1—3mm のものあり，厚き膜狀，柔軟，濕時小片に剝ぐを得，乾酪色より，淡紅肉桂色乃至



a



b

第 98 圖　エビコウヤクタケ *C. evolvens*
a. 子實體 ×1　　b. 擔子柄及胞子 ×680
（大谷氏）

褐色となる，蠟質，平坦，多少波狀をなし，時に粗疣狀なり，乾時龜裂す，白色綿絮狀或は粗なる組織の厚層によつて着生物に附着す，緣は白色，絹絲狀に放射狀なるも，時に子實體が椀茸狀をなすときは緣は遊離し徑 1—3mm なり。肉は厚さ 200—500μ，2層よりなり，子實層は極めて密，幾分有色にて子實層表面と同色なり，之の下に存する廣層は弛くして斜上する薄膜なる徑 3—4μ の菌絲より成る，菌絲は時に著しく油球に富み，節狀隔膜を有し，結晶なし。胞子は無色，平滑，7—10×4—6μ，1 側扁平にて，尖れる基端に向つて漸細し，通常抽出する擔子柄の先端に扁平面にて膠着す。

所在及產地

廣葉樹枯幹上

北海道，本州，四國—歐. 北米. 亞(西比. 樺)

和名　シロコウヤクタケ（白膏藥茸）〔安田〕
エビコウヤクタケ，エビオオコウヤクタケ
（蝦大膏藥茸）〔伊藤篤〕

Corticium caeruleum (SCHRAD.) FR.

アイコウヤクタケ

FRIES, Epicr. Myc. 562. 1838; Hymen. Eur. 651. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 274. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 265. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:322. 1871; Handb. Austr. Fungi, 195. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 305. 1872; Enchir. Fung. 210. 1886—GILLET, Champ. Fr. 752, cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:147. 1882—WINTER, Pilze, 1:335. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 614. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1167. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 151. 1890; Brit. Fung. Fl. 1 : 127. 1892; Brit. Fungi, 416. *pl. 33, f. 3.* 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 66. 1900—W. G. SMITH. Brit. Basid. 414. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 27:232. 1911; Hymen. Fr. 183. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):57. 1912—WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 4:119, *pl. 3, f. 26.* 1913—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 45 : 457. 1918—COKER, Jour. Elischa Mitch. Sci. Soc. 36 : 169, *pl. 33, f. 1.* 1921—REA, Brit. Basid. 673. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13 : 301. 1926—PILÁT, Ann. Myc. 38 : 63. 1940.

（白井，日. 菌. 目. ed. 2. 173. 1917; ed. 3. 102. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67 : 11. 1918; 7 : 1128. 1922—安田，植. 雜. 33 : 263. 1919—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:638. 1929—今關，日. 隱. 植. 圖. 180, *pl. 180, f. 4.* 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，226. 1945—原，日. 菌. 目. 91. 1954）

Thelephora caerulea SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 187. 1794—DC. Fl. Fr. 2 : 107. 1815—PERSOON, Myc. Eur. 1:147. 1822—FRIES, Elench. Fung. 1 : 202. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 168. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 389. 1844.

Auricularia phosphorea SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 1 : *pl. 30.* 1797.

Thelephora fimbriata ROTH, Catal. 2 : *pl. 9, f. 2.* 1800.

Thelephora Indigo SCHW. Syn. Fung. Carol. 107. 1822.

Thelephora atrocaerulea TROG, Flora 15 : 560. 1832.

Terana caerulea KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 872. 1891.

子實體は全背着にて廣く擴布固着し，幾分圓形，徑 2—15cm，稍々厚く，膜質，濕時剝ぐを得，表面は美なる青藍色，平坦にて稍々絨毛狀，緣は薄く，同色或は狹き白色帶あり，肉は 200—500μ の厚さあり，外層は濃青色，蠟質綿屑狀。子實層は同色にて乾時淡色，平滑にて乳頭狀突起あり，稍々蠟質にて微粉を帶ぶ，擔子柄は 30—48×6—7.5μ，4 小柄を有す，胞子は卵狀楕圓形，平滑，無色，7—9×4—6

μ，菌絲は薄膜或は稍々厚膜にて纒絡し，菌絆あり，表面に結晶なく，幅 3—4.5 μ。

所在及産地

枯木上（廣葉樹）

北海道，本州—歐. 北米. 亜(支. 比)

和名 アイコウヤクタケ（藍膏薬茸）〔安田〕，
コンイロコウヤクタケ（紺色膏藥茸），
アイイロオオコウヤクタケ
（藍色大膏薬茸）〔伊藤篤〕

Peniophora Cooke
カワタケ屬

Cooke, Grev. 8 : 20. 1879.

Kneiffia Bresadola, Ann. Myc. 1 : 99. 1903. pr. p.

子實體は擴布し，其性狀前屬コウヤクタケ（*Corticium*）と類似するも，子實層に囊狀體を有するを異點とす。囊狀體は圓錐形乃至紡錘形，硬直，平滑，無色，屢々結晶を被むり，其先端のみを抽出す。擔子柄は棍棒形，胞子は多くは卵狀圓筒形，平滑，無色なり。

（本屬名は penis（刺） penion（梭（ひ），phoreó（荷う）より出づ）

基準種 *P. quercina* (Fr.) Cooke

本邦既知種檢索表

A. 子實體は膜質。
 a. 子實體は外圍に菌絲束を分出す。(*Radicatae*)
  キヒモカワタケ ***P. filamentosa*** (114)
 b. 子實體外緣に菌絲束なし。
  α. 囊狀體は圓筒形，厚膜にて其內腔は細く先端に至り急に廣大す，子實體面はワニ皮狀に龜裂す。(*Tubuliferae*)
   ナメシカワタケ ***P. glebulosa*** (115)
  β. 囊狀體は甚しく厚膜ならず(*Membranaceae*)
   1. 菌絲に菌絆なく，一般に厚膜
    1. 菌絲は結晶を被むる，子實層面は白色，後淡黃色或は淡褐色，絨狀。
     ウスキイロカワタケ ***P. cremea*** (115)
    2. 菌絲は結晶を被らず。
     甲. 囊狀體は短く，著しき結晶を被むる，胞子小形 (4—5×2—3 μ)，子實層面淡汚桃色。
      クリームカワタケ ***P. ravenelii*** (115)
     乙. 囊狀體は結晶あるか或は之を缺き，長し，胞子 4.5—6×2.5—3 μ，子實層面淡黃乃至淡桃色
      ヒラカワタケ ***P. affinis*** (116)

B. 子實體は蠟質，半透明，基物に附着，平滑，鏡下にて絨毛を認む，乾時羊皮狀，囊狀體は多數，先端に多くの結晶を被むる，肉は無色。(*Ceraceae*)
  カミカワタケ ***P. gigantea*** (116)

C. 子實體は初め蠟質なるも後强固堅靱となり基物に附着，時に乾時收縮し緣邊遊離し或は裂け，其の裂目に沿うて內捲す，色は種々ありて濃色，囊狀體は屢々初期に粘囊體狀を呈することあり。(*Cororatae*)
 a. 肉は淡黃白色にて基物に沿う部分暗色なり，子實體は淡黃白或は乾酪色。
  キカワタケ ***P. similis*** (117)
 b. 肉は暗色。
  α. 子實體は箇體及老幼により著しく變化し，肉は同色，囊狀體顯著ならず。
   サビカワタケ ***P. versicolor*** (117)
  β. 子實體は稍々一定の色を呈す。囊狀體は顯著なり。
   I. 囊狀體は結晶を被むる。
    1. 子實體は灰色乃至淡灰褐色。
     ハイイロカワタケ ***P. cinerea*** (117)
    2. 子實體は淡灰色或は淡紫灰色。
     ツクシカワタケ ***P. nuda*** (118)
   II. 囊狀體は平滑或は粗面，子實體は肉色或は菫赤色。
    1. 裏面（反捲部）は黑色。
     カワタケ ***P. quercina*** (118)
    2. 裏面淡色乃至褐色。
     コマバカワタケ var. ***komabensis*** (119)

Peniophora filamentosa (Berk. et Curt.) Burt
キヒモカワタケ

Burt, in Coker, Jour. Elisha Mitch. Sci. Soc. 36:162. *pl. 32, f.5—6.* 1921; Ann. Missouri Bot. Gard. 12:320. 1925—Bourdot & Galzin, Hymen. Fr. 311. 1928.

(T. Ito, Bot. Mag. Tokyo, 43:521. 1929—原，日. 菌. 目. 238. 1954)

Corticium filamentosum Berk. et Curt. Grev. 1 : 178. 1873—Saccardo, Syll. Fung. 6:619. 1888—Massee, Jour. Linn. Soc. 27 : 154. 1890.

Peniophora unicolor Peck, Rep. N.Y. St. Mus. 43:66. 1890—Saccardo, Syll. Fung. 9:239. 1891.

Corticium radiatum P. HENN. Pilze Ostafr. 54. 1895—SACCARDO, Syll. Fung. 14 : 222. 1899.

Peniophora radiata V. HOEHN. et LITSCH. Sitzb. Akad. Wien, 115(1) : 746. 1907; 117(1) : 1092. 1908.

子實體は廣く背着し，膜質，剝げ易し，2—10×1—3cm，時に癒合して長徑をます，乾時黄褐色乃至鶯色，緣邊及基層は同色或は稍々淡色，屢々菌絲束を分出す，肉は厚さ 150—400μ，有色，菌絲は弛く纒絡し，薄膜，徑 3—4μ，表面に赭色の結晶を密着す，結晶は KOH 液にて容易にとけ，肉は初め桃色となりて後漂白さる。囊狀體は結晶を被むり，40—50×6—8μ，子實層に限られて存し，その面より 40μ 程抽出す。胞子は楕圓形，平滑，無色，3—5×2—3μ。

所在及產地

廣葉樹の枯木及材上　　九州—歐. 北米

和名 キヒモカワタケ（黃紐皮茸），キカワタケ（黃皮茸）〔安田〕

Peniophora glebulosa (FR.) SACC. et SYD.

ナメシカワタケ

SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 195. 1902; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1182. 1916—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 71. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28 : 384. 1913; Hymen. Fr. 288. 1928—REA, Brit. Basid. 688. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12 : 282. 1925—BRESADOLA, Icon. Myc. 22 : *pl. 1076, f. 1.* 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51 : 417. 1935.

（安田，植. 雜. 37 : 66. 1923—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 245. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 517. 1929—原，日. 菌. 目. 238. 1954）

Thelephora calcea var. *glebulosa* FR. Elench. Fung. 1 : 215. 1828.

Corticium calceum FR. Epicr. Myc. 562. 1838. pr. p.

Corticium glebulosum BRES. Fung. Trid. 2 : 63. *pl. 173, f. 2.* 1898—PATOUILLARD, Ess. Tax. 66. 1900.

Kneiffia glebulosa BRES. Ann. Myc. 1 : 104. 1903.

子實體は廣く且つ固く背着し，薄膜質，3—15cm，表面は白色，後少しく淡汚桃色，淡黃白色或は乾酪色となる，緣は薄し，子實層面は囊狀體のために絨狀を呈す，乾時ワニ皮狀に龜裂す，肉は厚さ 50—200μ，白色，菌絲は寧ろ直立し，纒絡し，薄膜，徑 1—3μ，結晶を被らず，囊狀體は厚膜にて內腔狹く，先端に於て屢々廣大す，時に先端に近く粒狀結晶を被むる，60—150×7—10μ，子實層面より 50—100μ 抽出す，子實體全面に甚だ多數に生ず，胞子は圓筒形，少しく屈曲，平滑，無色，6—9×1.5—2μ。

所在及產地

主に針葉樹，稀に廣葉樹の枯木，樹皮面

本州—歐. 北米. 亞（西比）

和名 ナメシカワタケ（鞣皮茸）〔安田〕

Peniophora cremea (BRES.) SACC. et SYD.

ウスキイロカワタケ

SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 195. 1902; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1185. 1916—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28 : 396. 1913; Hymen. Fr. 303. 1927—WAKEFIELD, Trans. Brit. Myc. Soc. 5 : 131. 1914—REA, Brit. Basid. 691. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12 : 261. 1925—BRESADOLA, Icon. Myc. 22 : *pl. 1075, f. 2.* 1932.

（T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 520. 1929—原，日. 菌. 目. 238. 1954）

Corticium cremeum BRES. Fungi. Trid. 2 : 63. *pl. 173, f. 2.* 1898.

Kneiffia cremea BRES. Ann. Myc. 1 : 100. 1903—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 18. 1934.

子實體は廣く背着し，剝げ易し，膜質及蠟質，4—15×2—4cm，初め白色，後淡黃色となり，更に淡黃褐色に及ぶ，絨毛，乾時龜裂し白色の基層を露わす，周緣は白色にて綿質，肉は厚さ 100—300μ，白色，菌絲は多少結晶を被むる。囊狀體は長紡錘形又は圓筒形，平滑又は先端に結晶を附す，子實層外に突出すること 60μ に及ぶも，組織內に埋在するもあり，40—70—120×5—9μ。胞子は楕圓形，少しく屈曲，平滑，無色，5—8×3—4μ。

所在及產地

廣葉樹枯枝上　　本州—歐. 北南米. 阿

和名 ウスキイロカワタケ（淡黃色皮茸）〔伊藤篤〕

Peniophora ravenelii COOKE

クリームカワタケ

COOKE, Grev. 8 : 21. *pl. 124, f. 1—2.* 1879—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 643. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25 : 150. 1889—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12 : 269. 1925.

（T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 517. 1929—原，日. 菌. 目. 238. 1954）

Kneiffia Ravenelii BRES. in RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 27. 1934.

子實體は廣く且つ固く背着，2—8×1—3cm，薄く，濕時小片に剝ぐ，表面は乾時淡汚桃色にて，多少龜裂す，緣は薄し，肉は厚さ 100—300μ，白色，菌絲は直立し，密に纒絡し結晶を被らず，囊狀體は

圓錐形，鈍頭或は僅かに尖頭，著しき結晶を被むる，子實體全面に甚だ多數存在し，組織內に埋在するものは 30—40×12—18 μ，子實層中のものは 30×8—10 μ。胞子は平滑，無色，4—5×2—3 μ。

所在及產地

カシ（*Quercus*）類其他の廣葉樹の樹皮面及枯枝上　本州，九州—北南米

和名　クリームカワタケ（乾酪皮茸）〔安田〕

Peniophora affinis BURT

ヒラカワタケ

in PECK, Bull. N. Y. St. Mus. 54:954. 1902—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12 : 266. 1925—ROGERS, Farlowia, 1 : 318. 1943.

Peniophora laevis sensu BURT, in PECK, Bull. N.Y. St. Mus. 54:954. 1902—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12 : 257. 1926. (non *Thelephora laevis* PERS. = *Corticium laeve* PERS.)—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):72. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28 : 398. 1913; Hymen. Fr. 307. 1928—REA, Brit. Basid. 692. 1922.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 519. 1929—原，日. 菌. 目. 238. 1954)

Kneiffia laevis BRES. Ann. Myc. 1 : 99. 1903—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 26. 1934.

Peniophora laevis var. *affinis* LITSCH. Oesterr. Bot. Zeitschr. 88 : 117. 1939.

子實體は廣く擴布し，20—30×2—4 cm，膜質，固着し，濕時剝ぐを得，乾時淡黃色乃至淡汚桃色或は淡桃色，屢々龜裂し，割目に淡色の基層を露わす，緣は淡色，放射狀纖維あり，斷面無色，厚さ 300—500 μ，菌絲は無色，徑 3—5 μ，結晶を被らず，基物に沿うて廣層に密に縱列し，子實層に於て斜上す，囊狀體は結晶あるか或は之を缺き，30—60×5—8 μ，30 μ 程抽出し，子實層にのみ存在す，胞子は平滑，無色，4.5—6×2.5—3 μ。

所在及產地

樹皮材上　本州—歐. 北南米

和名　ヒラカワタケ（平皮茸）〔伊藤篤〕

Peniophora gigantea (FR.) MASS.

カミカワタケ

MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25:142. 1889; Brit. Fung. Fl. 1:110. 1892; Brit. Fungi, 418. 1911—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 422. 1889—W. G. SMITH, Brit. Basid. 417. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 69. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28:401. 1913; Hymen. Fr. 318. 1928—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1183. 1916—REA, Brit. Basid. 693. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12 : 216. 1925—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51 : 419. 1935; 52 : 334. 1936.

（安田，植. 雜. 35:12. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 245. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 516. 1929—今關，日. 隱. 植. 圖. 381. *pl. 181, f. 1—2.* 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，229, *f. 69.* 1945—原，日. 菌. 目. 238. 1954)

Thelephora gigantea FR. Obs. Myc. 1:152. 1815; Syst. Myc. 1:448. 1821; Elench. Fung. 1:213. 1828—PERSOON, Myc. Eur. 1 : 150. 1822—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 170. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 390. 1844.

Thelephora pergamenea PERS. Myc. Eur. 1 150. 1822.

Thelephora fimbriata SOMMERF. Fl. Lapp. 282. 1826.

Coticium giganteum FR. Epicr. Myc. 559. 1838; Hymen. Eur. 648. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 272. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 264. 1867—FUCKEL, Symb. Myk. 27. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 320. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2 : 359. 1873; Enchir. Fung. 209. 1886—GILLET, Champ. Fr. 751. 1874—KARSTEN, Myc, Fenn. 3:311. 1876; Hattsv. 2:142. 1882—PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 28:52. 1876—WINTER, Pilze 1:337. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:610. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 422. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 67. 1900.

(原，日. 菌. 目. 91. 1954)

Kneiffia gigantea BRES. Ann. Myc. 1:100. 1903—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 20. 1934.

子實體は廣く擴布背着し，半透明の蠟質，皮膜狀，濕時膨脹し，剝げ易し，徑 3—30 cm，表面は白色，乾時軟骨質，羊皮狀をなし，子實層は平坦，細微の



a　b

第 99 圖　カミカワタケ *P. gigantea*

a. 子實體 ×1.1　b. 囊狀體及胞子（今關氏による）

絨毛あり，乾時淡桃色，淡黄白或は淡灰色を帶ぶ，緣は白色，放射狀纎維あり，乾時往々遊離，反曲す，肉は厚さ 100—500 μ，無色，基物の方に廣層あり，菌絲は密集，多少縱列し，著しくその膜が粘化し只內腔を認むるに止まる。徑 3—5 μ。囊狀體は子實層或は約 100 μ に至る層に限られて存し，約 40—50×8—12 μ。胞子は楕圓形乃至倒卵形，基部狹細，平滑，無色，4.5—5×2.5—3 μ。

所在及產地

針葉樹の枯木上，建築材上

本州，四國，九州一歐．北南米．亞(西比)

和名 カミカワタケ（紙皮茸）〔安田〕

Peniophora similis (BERK. et CURT.) MASS.

キカワタケ

MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25:147. 1889—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12:336. 1925.

(T. ITO. Bot. Mag. Tokyo, 43:518. 1929—原，日．菌．目．238. 1954)

Corticium simile BERK. et CURT. Jour. Linn. Soc. 10:337. 1868—SACCARDO, Syll. Fung. 6:631. 1888.

子實體は廣く背着，蠟狀革質，淡黄白色或は帶赤黄色，多少絨樣を呈し，龜裂を生ず，緣は淡く，少しく反轉す，肉は厚さ 200—500 μ，後 2 mm に及ぶ，淡黄白色にて，基物に沿う部分暗色なり，KOH 液によつて脫色さる，菌絲は密にて直立し，徑 3 μ，囊狀體は圓錐形或は紡錘形，無色，結晶を附し，15—25×6—8 μ，全面に甚だ夥しく生ず，胞子は腸詰形，平滑，無色，4×1 μ。

所在及產地

廣葉樹の枯枝或は材の下面　　九州一北米

和名 キカワタケ（黄皮茸）〔安田〕

Peniophora versicolor (BRES.) SACC. et SYD.

サビカワタケ

SACCARDO, Syll. Fung. 16:193. 1902; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1180. 1916—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28:403. 1913; Hymen. Fr. 322. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1073.* 1932.

(安田，植．雜．34:195. 1920—白井，日．菌．目．ed. 3. 246. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:521. 1929—逸見及赤井，木．腐．菌學，230. 1945—原，日．菌．目．238. 1954)

Corticium versicolor BRES. Fungi. Trid. 2:61. *pl. 171.* 1898.

子實體は廣く，固く背着し，初め蠟質，子實層面の色彩は箇體及び老幼によりて著しく變化す，紫褐色或は黑紫色，老後淡色となり銹色或は淡黄褐色となる，白粉を帶び，平坦，乾時龜裂す，肉は同色，囊狀體は顯著ならず，紡錘形，無色粉狀結晶を附するも，後脫落す，淡褐色，35—45×6—8 μ。胞子は楕圓形，平滑，無色，7—11×4.5—6 μ。

所在及產地

廣葉樹，稀に針葉樹の樹皮面，枯木上　本州一歐

和名 サビカワタケ（銹皮茸）〔安田〕

Peniophora cinerea (PERS.) COOKE

ハイイロカワタケ

COOKE, Grev. 8:20, *pl. 123, f. 8.* 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6:643. 1888; 9:241. 1891; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1184. 1916—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 423. 1889—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25:148. 1889; Brit. Fung. Fl. 1:112. 1892; Brit. Fungi, 419. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 418. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 71. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28:407. 1913; Hymen. Fr. 325. 1928—REA, Brit. Basid. 696. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12:348. 1925—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51:419. 1935; Ann. Myc. 38:63. 1940.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:521. 1929—原，日．菌．目．238. 1954)

Corticium cinereum PERS. Disp. Meth. 31. 1797—FRIES, Epicr. Myc. 563. 1838; Hymen. Eur. 654. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 275. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:266. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 27. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:324. 1871; Handb. Austr. Fungi, 195. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:305. 1872; Enchir. Fung. 211. 1886—GILLET, Champ. Fr. 753. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:316. 1876; Hattsv. 2:148. 1882—WINTER, Pilze 1:333. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1:424. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 67. 1900.

Thelephora cinerea PERS. Syn. Meth. Fung. 579. 1801; Myc. Eur. 1:148. 1822—DC. Fl. Fr. 6:32. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1:453. 1821; Elench. Fung. 1:221. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 172. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 388. 1844.

Thelephora lilacina SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. N. S. 4:168. 1832.

Corticium fumigatum THUEM. Bull. Torr. Bot. Club, 6:95. 1876; Myc. Univ. 513. 1876.

Peniophora lilacina MASS. Jour. Linn. Soc. 25: 147. 1889.

Kneiffia cinerea BRES. Ann. Myc. 1:103. 1903—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 24. 1934.

子實體は固く背着し，剝げず，蠟質，甚だ薄く，徑 2—5 mm にて互に癒着して 2—5×0.5—1 cm に

及ぶ，表面は灰色乃至淡灰褐色にて，白粉を帯ぶ，乾時龜裂を生ず，肉は厚さ 50—100 μ，淡褐色にて，着生物に近く暗色にて不透明なる特性あり，菌絲は密に纒絡し，徑約 3 μ，幾分有色なり。囊狀體は廣く分布し，結晶を被むる，25—40×4.5—9 μ。胞子は圓筒形，平滑，無色，6—9×2—3 μ。

所在及産地

諸種の廣葉及針葉樹の枯枝上

本州，九州—殆ど汎布

和名 ハイイロカワタケ（灰色皮茸）〔伊藤篤〕

Peniophora nuda (FR.) BRES.

ツクシカワタケ

BRESADOLA, Atti J.R. Acad. Agiati, III, 3 : 114. 1897—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 73. 1912—BOURDOT et GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28: 405. 1913; Hymen. Fr. 322. 1928—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1188. 1916—REA, Brit. Basid. 695. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12 : 345. 1925.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 520. 1929—原，日．菌．目．238. 1954)

Thelephora nuda FR. Syst. Myc. 1 : 447. 1821; Elench. Fung. 1:221. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 172. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 388. 1844.

Corticium nudum FR. Epicr. Myc. 564. 1838; Hymen. Eur. 655. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 276. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 325. 1871—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 317. 1876; Hattsv. 2 : 148. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 416. 1889—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 3:232. 1879; Enchir. Fung. 211. 1886—WINTER, Pilze 1:332. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:626. 1888—W. G. SMITH, Brit. Basid. 412. 1908.

Peniophora ochracea (non FR.) MASS. Jour. Linn. Soc. 25 : 150. 1889.

子實體は固く背着，蠟質，甚だ薄し，2—6×1—2 cm，表面は淡灰色或は淡紫灰色，粉狀，乾時龜裂す，肉は帶褐色，基物に接する所暗色にて不透明なり，厚さ 75—160 μ，菌絲は寧ろ直立し，徑 3 μ，幾分有色。囊狀體は結晶を被むり，子實體全面に存し，普通約 20—25×6 μ，基物に近きものは大形にて時に徑 15 μ に及ぶ。胞子は平滑，無色，屈曲し，5—10×3—4 μ。

所在及産地

廣葉樹枯枝上 九州—歐．北米

和名 ツクシカワタケ（筑紫皮茸）〔伊藤篤〕

Peniophora quercina (FR.) COOKE

カワタケ

COOKE, Grev. 8 : 20, *pl. 125*, *f. 13.* 1879—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 641. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25 : 141. 1889; Brit. Fung. Fl. 1 : 109. 1892; Brit. Fungi, 418. 1911—REA, Brit. Basid. 696. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 485*, *f. 3.* 1929: 6 : 498. 1937—BRESADOLA, Icon. Myc. 22 : *pl. 1071*. 1932.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32 : 38. 1903—松村，植．名鑑，1 : 158. 1904—白井，日．菌．目．62. 1905; ed. 2. 409. 1917; ed. 3. 245. 1927—安田，植．雜．32 : 357. 1918)

Auricularia corticalis BULL. Champ. Fr. 285, *pl. 436*, *f. 1.* 1789.

Thelephora quercina PERS. Syn. Meth. Fung. 573. 1801; Myc. Eur. 1 : 124. 1822—NEES, Syst. Pilze Schwam. 239, *f. 253.* 1817—FRIES, Syst. Myc. 1 : 442. 1821; Elench. Fung. 1 : 186. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 167. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 388. 1844.

Thelephora corticalis DC. Fl. Fr. 2 : 106. 1815.

Thelephora adglutinata PERS. Myc. Eur. 1 : 134. 1822.

Corticium quercinum S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:653. 1821—FRIES, Epicr. Myc. 563. 1838; Hymen. Eur. 653. 1871—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 275. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 266. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 27. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:324. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 304. 1872; Enchir. Fung. 210. 1886—GILLET, Champ. Fr. 754. cum icone. 1874—WINTER, Pilze 1 : 333. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 641. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1:425. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 67. 1900—W. G. SMTH, Brit. Basid. 416, *f. 101 A–C.* 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 89, *pl. 102*, *n. 228.* 1910.

Peniophora corticalis BRES. Hymen. Kmet. 114. 1897—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 73. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28 : 408. 1913; Hymen. Fr. 328. 1928.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:522. 1929—原，日．菌．目．238. 1954)

Kneiffia corticalis BRES. Ann. Myc. 1:102. 1903.

子實體は着生物上に擴布し，初め圓形，後互に癒合す，革質，徑 1—18 cm，緣に放射狀纖維あり，後乾きて縮み緣邊僅か遊離反轉し，中央部のみ附着す，肉色或は菫赤色，平坦，龜裂せずして中部に疣あり，裏面黑色，平滑，肉は淡肉色，厚くして堅緻；基部の菌絲は褐色，多少厚膜，徑 3—4 μ。囊狀體は棍棒狀紡錘形，鈍尖，厚膜，平滑或は粗面，50—70×5—12 μ。擔子柄は棍棒形，30—40×5—7 μ，4 小柄を有す。胞

子は腸詰形或は圓筒形にて屈曲, 10—12×3—4 μ。

所在及産地

クリ (*Castanea*) 等廣葉樹枯幹上　本州—歐. 北米

和名　カワタケ（皮茸）〔安田〕

var. **komabensis** (HENN.) V. HOEHN. et LITSCH.

コマバカワタケ

V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 744. 1907.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43: 523. 1929—原, 日. 菌. 目. 238. 1954)

Corticium Komabensis P. HENN. Bot. Jahrb. 32: 38. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 17: 169. 1905.

(松村, 植. 名鑑, 1: 137. 1904—白井, 日. 菌. 目. 25. 1905; ed. 2. 175. 1917; ed. 3. 103. 1927—原, 日. 菌. 目. 91. 1954)

基種の裏面は黑色なるも, 本菌は淡色乃至褐色なるを異點とす。

所在及産地

コナラ (*Quercus*) クリ (*Castanea*) 等枯枝上　本州

和名　コマバカワタケ（駒場皮茸）〔伊藤篤〕

疑 問 種

Peniophora discoidea P. HENN. Bot. Jahrb. 28: 267. 1901—SACCARDO, Syll. Fung. 16: 193. 1902.

(松村, 植. 名鑑, 1: 158. 1904—白井, 日. 菌. 目. 62. 1905; ed. 2. 409. 1917; ed. 3. 245. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43: 523. 1929—原, 日. 菌. 目. 238. 1954)

Gloeocystidium KARST.

ネバリコウヤクタケ屬

KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 429. 1889.

Gloeopeniophora V. HOEHNEL et LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 77. 1907.

子實體の性質はコウヤクタケ (*Corticium*) 屬と同樣なるも, 子實層內に多くは多少埋在せる薄膜にて結晶を被らざる液管卽ち粘囊體 (gloeocystidia) の存在するを以て區別せらる。

粘囊體は普通の囊狀體と其起原に於て同性質のものにて其膜薄くして結晶を被らず, 內容は擔子柄のものに類似する無色の液體なるも, 往々顆粒狀又は多少淡黃色を呈し, 又沃度によつて褐色を呈す, 時に普通の囊狀體と粘囊體との中間形のもの又兩者を共存するものあり, 之れ等は暫く本屬中に收めて記述せり。

(本屬名は gloios (粘る) cysts (囊) より出ず)

基準種　*G. exsudans* KARST.

本邦既知種檢索表

A. 子實層に粘囊體の外に囊狀體を有し, 前屬との中間性を有す。(*Gloeopeniophora*)

a. 子實體は剝げ難く, 淡桃或は淡卵黃色, 粘囊體は圓筒紡錘形, 時に廣卵形, 胞子 7—12×4—5 μ。

ニクカワタケ　***G. incarnatum*** (119)

b. 子實體は剝げ易く, 白色乃至淡桃色, 粘囊體は洋梨形, 胞子 8—16×3—5 μ。

シロチヤカワタケ　***G. mutatum*** (120)

B. 子實層に囊狀體なし。(*Eu-Gloeocystidium*)

a. 子實體は白色, 乾時淡褐色, 粘囊體は圓筒形或は棍棒形。

α. 子實體は薄く, 100—240 μ, 胞子類球形。

ナメシネバリコウヤクタケ ***G. abeuns*** (121)

β. 子實體は厚く, 450—700 μ, 胞子楕圓形。

オガサワラネバリコウヤクタケ

G. boninensis (121)

b. 子實體は卵黃色或は綠黃色, 粘囊體は洋梨形, 胞子楕圓形。コガネネバリコウヤクタケ

G. chrysocreas (121)

Gloeocystidium incarnatum (PERS.)

ニクカワタケ

Thelephora incarnata PERS. Syn. Meth. Fung. 573. 1801; Myc. Eur. 1: 130. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1: 444. 1821; Elench. Fung. 1: 219. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 171. 1836.

Thelephora fallax PERS. Syn. Meth. Fung. 574. 1801; Myc. Eur. 1: 131. 1822.

Auricularia aurantiaca SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 3: *pl. 291*. 1803.

Thelephora bolaris PERS. Myc. Eur. 1: 138. 1822.

Thelephora lateritia PERS. Myc. Eur. 1: 139. 1822.

Corticium incarnatum FR. Epicr. Myc. 564. 1838; Hymen. Eur. 654. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 275. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 266. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 27. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 324. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 305. 1872; Enchir. Fung. 211. 1886—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 24: 80. 1872—GILLET, Champ. Fr. 753. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 316. 1876; Hattsv. 2: 145. 1882—WINTER, Pilze 1: 333. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 625. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 424. 1888—MORGAN, Jour. Cincin. Soc. Nat. Hist. 10: 201. 1888.

Peniophora incarnata COOKE, in MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25: 147. 1882; Brit. Fung. Fl. 1: 111. 1892; Brit. Fungi, 419. 1911—KARSTEN,

Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 424. 1889; Hedwigia, 28: 27. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 241. 1891; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1189. 1916—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 192. 1892—W.G. SMITH, Brit.Basid. 419. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28 : 404. 1913; Hymen. Fr. 321. 1928—REA, Brit. Basid. 694. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12:307. 1925—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51 : 419. 1935; 52 : 334. 1936—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 485*, *f. 2.* 1929; 6 : 498. 1937.

(安田，植. 雑. 32:264. 1918—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 245. 1927—T.ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 518. 1929—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，229. 1945—原，日. 菌. 目. 238. 1954)

Peniophora aemulans KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 425. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 239. 1891.

Corticium(*Gloeocystidium*)*aemulans* BRES. Ann. Myc. 1 : 100. 1903.

Kneiffia incarnata BRES. Ann. Myc. 1:104. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 182. 1905.

Gloeocystidium aemulans BRES. in V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 115 (1) : 1562, *f. 2.* 1906.

Gloeopeniophora incarnata V. HOEHN. et LITSCH. Sitzb. Akad. Wien, 116 : 816. 1907; Fragm. Myk. 13 : 68. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 79. 1912.

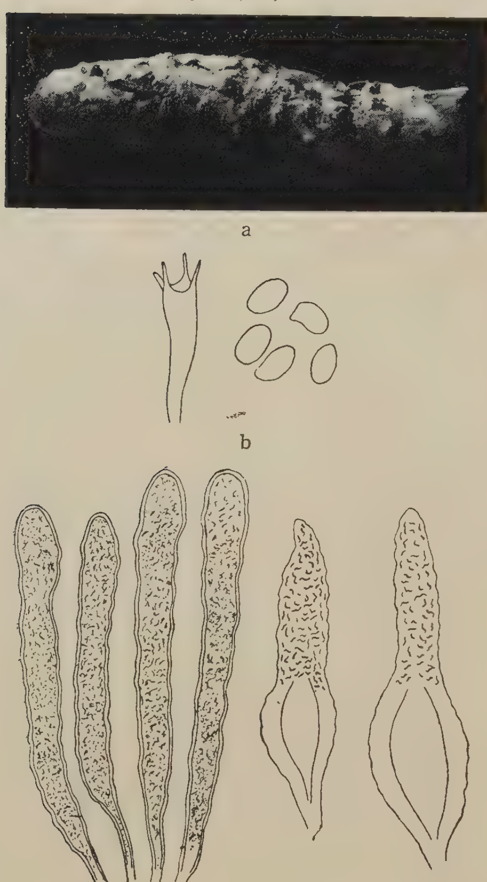
子實體は着生物上に擴布，固着し，革質，互に癒合す，2—10×1—2cm，乾時淡桃色或は淡卵黄色にて，龜裂を生ず，縁は往々淡色にて，薄し，肉は厚さ 100—250μ，無色，菌絲は基物に沿うて密に絡れ，後稍々直立す，徑 2—3μ，粘嚢體は多數に生じ，圓筒紡錘形，30—60×6—10μ，時に廣卵形にて 30—45×10—15μ，嚢狀體は紡錘形或は圓筒形，厚膜，結晶を帶ぶ，30—45×6—10μ，稀に層面より抽出す，胞子は圓筒形，1 側壓邊され，平滑，無色，7—12×4—5μ。

所 在 及 產 地

廣葉樹及針葉樹の樹皮面及枯枝上

本州，九州—歐. 北米. 亜(西比)

和 名 ニクカワタケ (肉皮茸)〔安田〕



第 100 圖 ニクカワタケ *G. incarnatum*

a. 子實體 b. 擔子柄及胞子

c. 嚢狀體 d. 粘嚢體 (b—d ×544) (大谷氏)

Gloeocystidium mutatum (PECK)

シロチヤカワタケ

Corticium mutatum PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 43 : 67. 1890—SACCARDO, Syll. Fung. 9:230. 1891—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 94. 1903.

Peniophora mutata V. HOEHN. et LITSCH. Sitzb. Akad. Wien, 115(1):1587. 1906—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):67. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28:399. 1913; Hymen. Fr. 310. 1928—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1186. 1916—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12 : 299. 1925—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51 : 420. 1935.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 517. 1929)

Peniophora Allescheri (ut SACC. et SYD.)

(安田，植. 雑. 34:266. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 245. 1927—原，日. 菌. 目. 238. 1954)

子實體は廣く背着し，3—7×1—3cm，稍々肉質，膜狀，厚く，濕時剝げ易し，乾時白色乃至淡桃色，時に中央部に小瘤或は *Radulum* 屬のものの如き小齒又は放射狀の皺を有し，時に龜裂して，白色，纖維質の基層を露出す，周縁は白色にて放射狀に綿毛様なり，肉は厚さ 300—1000μ，菌絲は弛く並び，斜上し，薄膜，徑 3—4μ，菌絆あり，粘嚢體は洋梨形にて，約 15×7μ，多少多く存在し，時に長き屈

曲する形となる，100×4—5μ，嚢状體は結晶を有し，或は之れを缺き，50—100×6—15μ，時に層外に抽出せず，或は時に甚だ少し，胞子は圓筒狀，平滑，無色，8—16×3—5μ，主に 12×3.5μ なり。

所在及産地

廣葉樹の樹皮面，枯木上　九州—歐．北米．亞(西比)

和名　シロチヤカワタケ（白茶皮茸）〔安田〕

Gloeocystidium abeuns (BURT) T. ITO

ナメシネバリコウヤクタケ

T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43: 641. 1929.
（逸見及赤井，木．腐．菌學，230. 1945—原，日．菌．目．134. 1954）

Corticium abeuns BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13: 250. 1926.

Corticium alutaceum (ut BRES.)
（安田，植．雜．34: 182. 1920—白井，日．菌．目．ed. 3. 102. 1927—原，日．菌．目．91. 1954）

子實體は廣く擴布し，4—13×2—5cm，薄膜狀，軟弱，濕時小片に剝ぐを得，白色乃至黃白色，乾時乾酪黃色，平坦，無裂或は僅か龜裂す，緣は帶白色，薄し，纒絡菌絲より成る。肉は厚さ 100—240μ，稍々直立し纒絡せる菌絲より成る，その菌絲は幅 2.5—3μ にて結晶なし。粘嚢體は多數埋在し，30—60×4—7μ。胞子は無色，平滑，類球形，6—7×4—6μ，多く生成さる。

所在及産地

各種針葉樹，稀に廣葉樹枯木上
本州，九州—北米．南阿

和名　ナメシネバリコウヤクタケ（鞣粘膏藥茸）〔伊藤篤〕，ナメシコウヤクタケ（鞣膏藥茸）〔安田〕

Gloeocystidium boninensis S. ITO et IMAI

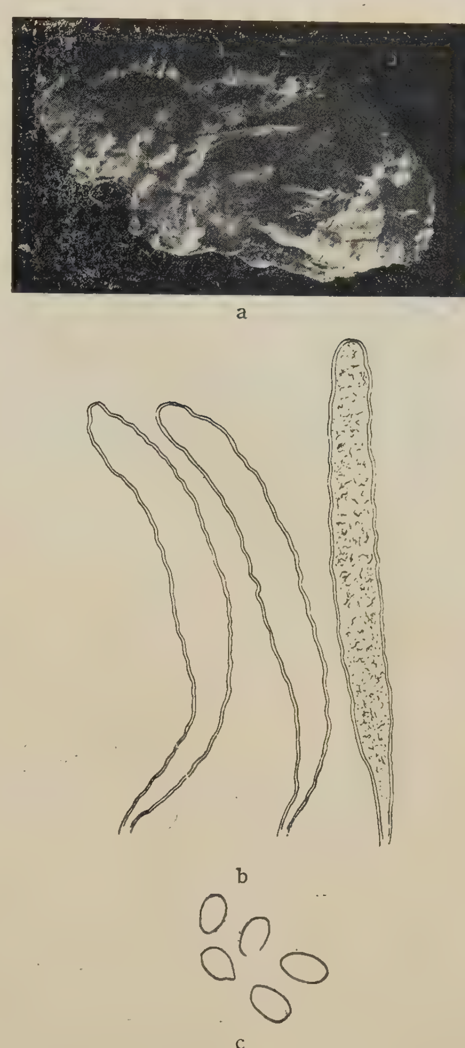
オガサワラネバリコウヤクタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16: 131. 1940.

子實體は廣く且つ固く展着し，10×5cm に及び，稍々厚く，蠟性肉質，乾時硬化す，生時白色にて，乾きて乾酪色或は淡褐色となり，僅か龜裂を生ず。肉は厚さ 450—700μ，殆ど無色。胞子は楕圓形，平滑，無色，8—10×4—6μ，多產なり。粘嚢體は夥しく存在し，棍棒形或は圓筒形にて，基物に近きところより生じ，稀に先端を子實層上に抽出す，徑 7—10μ，捻轉し，內容淡黃色なり。

所在及産地

廣葉樹枯木上　小笠原島



第101圖　オガサワラネバリコウヤクタケ
G. boninensis　a. 子實體 ×1　b. 粘嚢體
c. 胞子（b—c ×544）　（大谷氏）

和名　オガサワラネバリコウヤクタケ（小笠原粘膏藥茸），オガサワラニカワウロコタケ（小笠原膠鱗茸）〔今井〕

Gloeocystidium chrysocreas (BERK. et CURT.) T. ITO

コガネネバリコウヤクタケ

T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43: 641. 1929.
（逸見及赤井，木．腐．菌學，230. 1945—原，日．菌．目．134. 1954）

Corticium chrysocreas BERK. et CURT. Grev. 1: 178. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 618. 1888

—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13:270. 1926. (安田，植. 雜. 37:202. 1923—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 102. 1927)

Corticium crocicreas MASS. Jour. Linn. Soc. 27: 151. 1890—V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 776. 1907.

Terana chrysocreas KUNTZE, Rev. Gen. 2:872. 1891.

? *Odontia Wrightii* (non BURT)

(安田，植. 雜. 34:137. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 237. 1927—原，日. 菌. 目. 227. 1954)

子實體は廣く擴布，密着し，全然剝ぎ難し，3—8×1—3cm，稍々厚く，卵黄色及び綠黄色乃至暗淡黄白色，平坦，或は幾分乳頭を生ず，乾時龜裂す，綠は薄し，肉は厚さ 120—300μ，一様に綠黄色，構成菌絲は直立し，密に纏絡，結合し，幅約 2μ，甚だ多數の嚢體を有す，洋梨形乃至球形，15—21×6—9μ，KOH 液にて桃色となる。胞子は楕圓形，平滑，無色，4.5—5×2.5—3μ，胞子紋は白色。

所在及產地

クリ (*Castanea*) 其他廣葉樹の枯木或は樹皮面

九州—北米

和名 コガネネバリコウヤクタケ(黃金粘膏藥茸)，コガネコウヤクタケ（黃金膏藥茸）〔安田〕，キコメバタケ（黃米齒茸）〔安田〕

Epithele PAT.

カミコウヤクタケ屬

PATOUILLARD, Ess. Tax. 59. 1900.

Hypochnus § *Epithele* PATOUILLARD, Bull. Soc. Myc. Fr. 15 : 202. 1899.

Athelia PERS. Myc. Eur. 1 : 83. 1822.

子實體は背面展着，蠟質，革質，粉狀，薄膜，子實層面に夥しき小刺或は小瘤の存在によつて粗糙なり，この小刺は無色薄膜の菌絲が束狀に集合せるものにて，子實層下部より生ず，擔子柄は棍棒形，無色，2—4 小柄を有し，胞子は平滑，無色なり。

（本屬名は epi-(上) と thele (小瘤) より出づ）

基準種 *E. typhae* (PERS.) PAT.

本邦既知種

カミコウヤクタケ ***E. typhae*** (122)

Epithele typhae (PERS.) PAT.

カミコウヤクタケ

PATOUILLARD, Bull. Soc. Myc.Fr. 15:202. 1899; Ess. Tax. 60, *f. 41, 1—3.* 1900—V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 115(1): 1597. 1906—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):114. 1912—REA, Brit. Basid. 671. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6:498. 1924—PILÁT, Ann. Myc. 24:228, *pl. 15, f. 26.* 1926—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 246. 1928.

Athelia Typhae PERS. Myc. Eur. 1 : 84. 1822.

Thelephora Typhae FR. Elench. Fung. 1 : 226. 1828.

Corticium Typhae DESM. in FUCKEL, Symb. Myc. 28. 1869—FRIES, Hymen. Eur. 657. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 211. 1886—WINTER, Pilze 1:339. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:640. 1888; 17:174. 1905; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1178. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 137. 1891; Brit. Fung. Fl. 1 : 123. 1892; Brit. Fungi, 416. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:97. 1903—W.G.SMITH, Brit. Basid. 412. 1908—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6 : 498. 1927.

Athelia scirpina THUEM. Myc. Univ. *n.* 1505.

Corticium scirpinum WINT. Pilze 1 : 340. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 630. 1888.

（安田，植. 雜. 37 : 137. 1923—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 103. 1927—原，日. 菌. 目. 92. 1954)

Hypochnus Typhae PAT. Tab. Anal. 2 : 31, *f. 578.* 1887.

Kneiffia Typhae PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 9:132. 1893.

子實體は頗る薄く，紙様膜質，初め白色，小圓形，後互に癒合し廣く展着し，2—10cm に及ぶ，周綠は綿質或は粉狀なり，初め白色，後淡黄色となる。子實層に小刺狀或は小瘤狀突起ありて粗糙なり，この突起は薄膜菌絲が束狀に集合せるものにて，長さ 80—160μ，太さ 30—40μ，子實層の下部より生ず。擔子柄は棍棒形，30—40×8—10μ。胞子は紡錘形，平滑，無色，10—25×6—8μ。

所在及產地

ガマ (*Typha*) イグサ (*Juncus, Scirpus*) 等の葉上

本州—歐

和名 カミコウヤクタケ（紙膏藥茸）〔安田〕

III. Asterostromeae ホシゲタケ族

子實體は背着し膏薬狀をなし，肉の菌絲の先端に厚膜の星芒狀細胞を生ず。

Asterostroma MASS.
ホシゲタケ屬

MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25 : 154. 1889.

子實體は背着生にて廣く擴布し，緣邊は纖維狀をなす。子實層內に星芒狀の褐色の刺狀體所謂星芒刺を有するを特徵とす，胞子は球形或は長形，無色或は帶黃色なり。

（本屬名は aster（星）stroma（床）より出づ）

基準種　*A. muscicolum* (BERK. et CURT.) MASS.

本邦既知種　ホシゲタケ ***A. cervicolor*** (123)

Asterostroma cervicolor (BERK. et CURT.) MASSEE.
ホシゲタケ

MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25: 155. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9: 237. 1891—PATOUILLARD, Ess. Tax. 122. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 36 : 44. 1920—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 11: 28. 1924—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 12. 1934.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43: 642. 1929—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，231. 1945—原，日. 菌. 目. 30. 1954)

Corticium cervicolor BERK. et CURT. Grev. 1 : 179. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 621. 1888.

Asterostroma albo-carneum (non SCHW.) MASS. Jour. Linn. Soc. 25 : 155, *pl. 46, f. 8—9*. 1889.

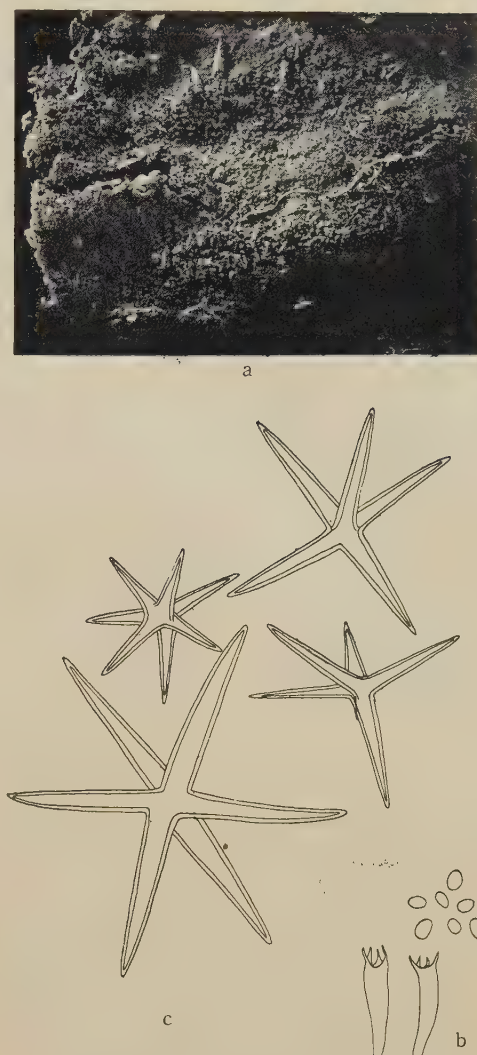
Asterostroma corticola MASS. Jour. Linn. Soc. 25 : 155. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 236. 1891.

Asterostroma pallidum MORGAN, Jour. Cincin. Soc. Nat. Hist. 18: 38, *pl. 1, f. 6*. 1895—SACCARDO, Syll. Fung. 14 : 223. 1899.

Asterostroma hapalum (non BERK. et BR. nec MASS.)

（安田，植. 雜. 38: 95. 1924—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 30. 1927）

子實體は全背着生，徑 0.6—13cm，薄し，海綿質にて軟く，乾燥性，緣は纖維綿狀，子實層面は黃褐色，絨樣の觀あり，平滑，粉狀，肉は厚さ 150—300 μ，菌絲は薄膜，無色，徑 2—2.5 μ，緩く纒絡す，その間に褐色厚膜にて 3—7，普通 5 出する星芒狀體を混在す。擔子柄は 4 小柄を有し，胞子は球形或は卵形，無色，初め平滑なるも後小刺を生ず，4—5 μ 或は 7—8×5 μ，絲狀體は紡錘形，30—45×8—12 μ，子實層外に抽出す。



第 102 圖　ホシゲタケ *A. cervicolor*
a. 子實體 ×1　　b. 擔子柄及胞子
c. 星芒狀體 (b—c ×400)（大谷氏）

所在及産地

ヤナギ (*Salix*) 其他の樹皮面上

北海道，本州，九州—北南米. 亞(印)

和名　ホシゲタケ（星毛茸）〔安田〕

IV. Vararieae (*Asterostromelleae*) コウヤクタケモドキ族

子實體は背着して膏藥狀をなし，肉は帶黄色或は淡黄褐色なる鹿角狀或は尖頭の樹枝狀に分岐せる菌絲の纏絡によつて作らる，胞子は僅か有色，平滑或は有刺，子實層内に屢々粘嚢體を有す。

Vararia KARST.
コウヤクタケモドキ屬

KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. Till. 3:96. 1897.

Xerocarpus KARSTEN, Hattsv. 2:133. 1882. pr. p.

Xerocarpus(*Vararia*) KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 417. Bihang. 1889.

Asterostromella V. HOEHNEL et LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 773. 1907.

子實體は着生物上に擴布密着し，碎け易く，綿絮狀，薄膜質或は殆ど蠟質，子實層は擔子柄と二叉絲狀體とより成る，二叉絲狀體は無色或は有色，先端尖り，子實層面に氈皮を作る。擔子柄は氈皮を貫きて散生し，棍棒形にて 2—4 小柄を有す。胞子は薄膜，平滑，無色。

(本屬名の語源不明)

基準種　*V. investiens* (SCHW.) KARST.

本邦既知種檢索表

A. 落葉落木上生。
- a. 子實體淡黄乃至橙黄色。
  - コウヤクタケモドキ ***V. investiens*** (124)
- b. 子實體白色乃至淡黄白色。
  - ウスキカワタケ ***V. phyllophila*** (124)

B. 地上生，子實體淡肉桂色。
- ツチウロコタケ ***V. epigaea*** (125)

Vararia investiens (SCHW.) KARST.
コウヤクタケモドキ

KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. Till. 3, 96. 1897.

Radulum investiens SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. N. S. 4: 165. 1832—SACCARDO, Syll. Fung. 11: 112. 1895.

Corticium alutarium BERK. et CURT. Grev. 2: 4. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 634. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 137. 1890.

Xerocarpus alutarius KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 418. 1889.

Thelephora subochracea PECK, N. Y. St. Mus. Rep. 46: 109. 1893—SACCARDO, Syll. Fung. 11: 116. 1895.

Corticium investiens BRES. Hymen. Kmet. 46. 1897; Ann. Myc. 1: 95. 1903—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13: 283. 1926.

Asterostromella investiens V. HOEHN. et LITSCH. Sitzb. Akad. Wien, 117(1): 1083. 1908—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 27: 265. 1911; Hymen. Fr. 395. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2 (1): 43. 1912—PILÁT, Ann. Myc. 24: 224. 1926; Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 329. 1933.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44: 1. 1930—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，235. 1945—原，日. 菌. 目. 30. 1954)

子實體は廣く擴布，固着し，長さ 2—20cm，幅 1—5cm，普通厚く，强靱，乾燥，濕時小片に剝ぐを得，淡黄色乃至橙黄色等着生物によつて異なる，幾分軟毛狀，龜裂せず，緣は薄し，肉は厚さ 150—600 μ，子實層と同色にて，少數の平滑，無色，徑 2.5 μ の菌絲の外，多數の帶黄色，硬直の菌絲より成り，その菌絲は叉狀又は鹿角狀に分岐し，末枝は短かく尖頭にて，擔子柄外に抽出す，粘嚢體なし，擔子柄は 4 胞子を生じ，胞子は無色，平滑，12×4 μ，細長嘴を有する基端に向つて漸細す，胞子粉堆は淡藁色なり。

所在及産地

各種落葉落枝上　　本州—歐. 北米. 亞(西比)

和名 コウヤクタケモドキ (擬膏藥茸)〔伊藤篤〕

Vararia phyllophila (MASS.) ROGERS et JACKS.
ウスキカワタケ

ROGERS & JACKSON, Farlowia, 1: 323. 1943.

? *Athelia epiphylla* PERS. Traite Champ. 67. 1819; Myc. Eur. 1: 84. 1822.

? *Thelephora epiphylla* FR. Elench. Fung. 1: 226. 1828.

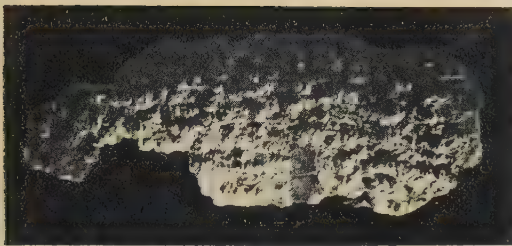
? *Hypochnus epiphyllus* WALLR. Fl. Krypt. Germ. 2: 309. 1833.

Corticium epiphyllum sensu RAV. Fung. Am. Exs. *n*. 457. 1881.

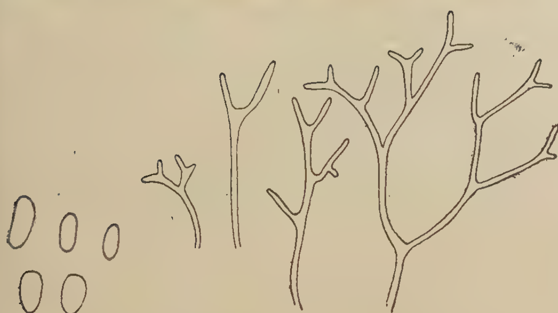
Peniophora phyllophila MASS. Jour. Linn. Soc. 25: 150. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9: 238. 1891—REA, Brit. Basid. 697. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 12: 241. 1925.

(S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16: 131. 1940)

Asterostromella epiphylla V. HOEHN. et LITSCH. Sitzb. Acad. Wien, 116(1): 773, *f. 3*. 1907.



a



b c

第103圖 ウスキカワタケ *V. phyllophila*
a. 子實體 ×1 b. 胞子 c. 絲狀體 (b—c ×544)
(大谷氏)

子實體は廣く擴布し，薄く，固着して，全く剝げず，白色，乾時淡黃白色となる，緣は薄し，徑約5cmに及ぶ，肉は厚さ 40—80μ，無色，菌絲は稍々直立し，纒絡，分岐し，薄膜，徑 2μ，結晶を被らず，菌絆なし，擔子柄及分岐せる絲狀體の群を荷う又稀に狹細せる嚢狀體あり，嚢狀體は結晶なく，30—45×4—10μ，普通埋在し，時に 32μ も抽出す，絲狀體は無色にて子實層面に於て甚だ細長の鹿角狀分岐をなす，胞子は 10—22×1.5—3μ。

所在及產地

廣葉樹落葉落枝上　　小笠原島—北米

和名 ウスキカワタケ（薄黃革茸）〔今井〕

Vararia epigaea (LLOYD)

ツチウロコタケ

Asterostroma epigaeum LLOYD, Myc. Writ. 5: 709, *f. 1060*. 1917; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 43. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 533. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. Lett. 66 : 7. 1917)

Stereum epigaeum YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 32 : 75. 1918.

(白井，日. 菌. 目. ed. 3. 378. 1927)

Asterostromella epigaea T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44 : 90. 1930.

(今關，日. 隱. 植. 圖. 381, *pl. 181*, *f. 3—4*. 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，236. 1945—原，日. 菌. 目. 30. 1954)

子實體は地上に擴布密着し，不定形なるも略々盤形をなす，徑 2—10cm，厚さ 10mm に及ぶ，子實層は淡肉桂色，不規則に起伏し，粉毛を帶ぶ，肉は木質にて堅硬，肉桂色，多年生にて子實層を形成す，胞子は殆ど無色，球形，5—6μ，樹狀體は數回叉狀に分岐し，先端尖り，稍々厚膜，單胞，淡褐色にて，密生し，擔子柄は容易に認め難し。

所在及產地

裸地上，稀に腐木上　　本州，四國，九州

和名 ツチウロコタケ（土鱗茸）〔安田〕，ツチコウヤクタケモドキ（擬土膏藥茸）〔伊藤篤〕

V. Aleurodiscineae アカコウヤクタケ族

子實體は革質或は栓質にて皿形或は少くとも緣は劃然，反轉，子實層に粘嚢體及眞の嚢狀體あり，擔子柄及胞子は通常大形なり。

Aleurodiscus RABENH. emend. PAT.

アカコウヤクタケ屬

RABENHORST, Fungi Eur. exs. n. 1824. 1874; Hedwigia, 13 : 184. 1874—PATOUILLARD, Ess. Tax. 52. 1900—V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 796. 1907.

子實體は初め着生物上に着くも，後往々緣邊隆起反轉して皿狀となり，稀に半圓形傘狀となる，蠟質乃至革質，乾時堅硬となる。子實層は粉狀，平滑或は龜裂す，大形の擔子柄より成り，屢々其間に薄膜にて種々なる形をなせる絲狀體を存するも二叉絲狀體なし，組織內に粒或は結晶を多存す，擔子柄は大なる4小柄を着け，胞子は大形，楕圓形或は卵形，强き無色膜を有し，平滑或は有刺狀，內容赤色を帶ぶ。(本屬名は aleuron (粉)，discos (皿) より出づ)

基準種 *A. amorphus* (PERS.) RABENH.

本邦既知種檢索表

A. 子實層には擔子柄と並びて念珠狀の絲狀體のみを有す。

a. 子實體は盤形，下面中央部莖狀となり着生す—子實層肉色乃至緋色にて褪色して黃褐或は淡絲褐色を呈す。

アカコウヤクタケ ***A. amorphus*** (126)

b. 子實體は不正形に擴布し，蠟質，肉赤色，後赤黄色乃至黄色を呈す。

コガネコウヤクタケ ***A. aurantius*** (127)

B. 子實層に有刺絲狀體を有す一盤形或は盃形。

a. 念珠狀の絲狀體を混ず，子實層灰褐色。

サカズキコウヤクタケ ***A. oakesii*** (127)

b. 念珠狀の絲狀體なし，子實層淡肉色，乾時白色。

ニクコウヤクタケ ***A. japonicus*** (127)

C. 子實層に樹枝絲狀體あり。

a. 嚢狀體なし，子實層純白色，老時龜裂多く，薄皮乃至薄殼皮狀。

ヒビコウヤクタケ ***A. acerinus*** (127)

b. 嚢狀體あり，子實層は白色，後稍々材色，龜裂なし，皿狀にて擴大不正形となる。

シックイコウヤクタケ ***A. reflexus*** (128)

D. 子實體に單一或は多少分岐し，或は型的ならざる樹枝絲狀體あり。

a. 子實體はウロコタケの如く介殼狀，子實層面は灰色乃至淡褐色。

ウロコタケモドキ ***A. stereoides*** (128)

b. 子實體は全背着或は緣僅かに反轉す。

α. 子實層は鮮色を呈す。

I. 薔薇色。

ウスベニコウヤクタケ ***A. roseus*** (128)

II. クリーム色。

アズマコウヤクタケ ***A. orientalis*** (129)

β. 子實層は白色乃至淡色。

I. 白色或は汚白色。

チヨウクタケ ***A. subcruentatus*** (129)

II. 淡肉色。

ツガコウヤクタケ ***A. tsugae*** (130)

Aleurodiscus amorphus (PERS.) RABENH.

アカコウヤクタケ

RABENHORST, Hedwigia, 13:184. 1874—COOKE, Grev. 3:136. 1875; Handb. Austr. Fungi, 192. 1892—SCHROETER, Pilze Schles. 1:429. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 53. 1900—V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1):799, *pl. 1, f. 2.* 1907—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 61, *pl. 17 C, f. 2.* 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28:350. 1913; Hymen. Fr. 331. 1928—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1161. 1916—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5:180, *f. 1.* 1918—LLOYD, Myc. Writ. 6:926, *f. 1666—1667.* 1920—REA, Brit. Basid. 672. 1922—PILÁT, Ann. Myc. 24:211, *pl. 15, f. 3.* 1926; Bull. Soc. Myc. Fr. 49:328. 1933—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1069.* 1932—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5:497, *pl. 484, f. 2.* 1935; 6:497. 1937. (LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51:4. 1914; 7:1267. 1924—安田，植. 雜. 28:234. 1914; 31:42. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 17. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:460. 1929—今關，日. 隱. 植. 圖. 383, *pl. 182, f. 1, 3.* 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學, 234. 1945—原，日. 菌. 目. 11. 1954)

Peziza amorpha PERS. Syn. Meth. Fung. 657. 1801; Myc. Eur. 1:269. 1822—DC. Fl. Fr. 6:25. 1815.

Thelephora amorpha FR. Elench. Fung. 1:183. 1826—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:391. 1844.

Corticium amorphum FR. Epicr. Myc. 559. 1838; Hymen. Eur. 648. 1874—FUCKEL, Symb. Myc. 28. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:304. 1872—WINTER, Pilze 1:338. 1844—SACCARDO, Syll. Fung. 6:606. 1888—W. G. SMITH, Brit. Basid. 410. 1908.

Nodularia balsamicola PECK, N. Y. St. Mus. Rep. 24:96, *pl. 4, f. 23—26.* 1872.

Peziza Willkommii HARTIG, Wicht. Krankh. Waldb. 98, *pl. 5, f. 16—21.* 1874.

Cyphella amorpha QUÉL. Enchir. Fung. 215. 1886.



第 104 圖 アカコウヤクタケ *A. amorphus* 子實體 ×1.1 (今關氏による)

子實體は盤形にて圓形或は不正形，下面中央部にて基物に着生し，緣は遊離して多少上方に反轉して內方に巻き，其の部の外面に白色密毛を生ず，散生或は時に集合し，直徑 2—4，稀に 6 mm に及び，厚さ 0.5—1 mm，基物に接着する部分は2 mm內外に至る，稍々肉質，乾時革質，子實層は初め粉狀，肉色或は緋色，乾時褪色して黄褐或は淡綠褐色となる，肉は厚さ 500—1000 μ，菌絲は白色，徑約 3—6 μ，寧ろ厚膜にて結晶を被むる，組織間に徑 12 μ に及ぶ粒狀結晶を混在す，擔子柄は棍棒形，長大にて 100—150×10—30 μ，內容は淡紅色，4 個の大なる小柄を有す。胞子は廣楕圓形，微細なる刺を有し，無色或は微かに肉色を帶び，20—30×16—25 μ。絲狀體に 2 種あり，1 は絲狀棍棒形にて徑 3 μ，他は太くして念珠狀にて徑

4—10μ。

所在及産地

針葉樹の樹皮上　　　　北海道，本州—歐. 北米

和名 アカコウヤクタケ（赤膏薬茸）〔安田〕

Aleurodiscus aurantius (PERS.) SCHROET.

コガネコウヤクタケ

SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 429. 1888—V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1):801, *pl.2, f.3.* 1907—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):61, *pl.17 C, f.1.* 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. 28:351. 1913; Hymen. Fr. 331. 1928—LLOYD, Myc. Writ. 6:929, *f.1682.* 1920—PILÁT, Ann. Myc. 24:213, *pl.15, f.4.* 1926; Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 332. 1936.

(T. ITO, Bot.Mag. Tokyo, 43:464. 1929—原，日. 菌. 目. 11. 1954)

Corticium aurantium PERS. Disp. Fung. 21. 1797—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 606. 1888.

Thelephora aurantia PERS. Syn. Meth. Fung. 576. 1801; Myc. Eur. 1 : 138. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 445. 1821.

Corticium Marchandii PAT. Tab. Anal. 1 : *f. 25.* 1883—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 628. 1888.

子實體は全背着生，初め圓形なるも，後擴大して癒合し不正形となる，生時は蠟質乃至肉質，乾時痂皮狀となる，緣は不規則なるも，常に明かなり，纖維を有す，子實層は平滑或は小疣あり，白粉狀，初め肉赤色，後赤黃色，乃至鮮黃色，乾時褪色し，龜裂を生ず。擔子柄は棍棒形，35—70×9—15μ，4本の強き錐狀の，曲れる小柄を有す，その長さ20μに及び，基部幅2—2.5μあり，胞子は楕圓形，小嘴あり，初め微刺あるも，後殆ど平滑，無色，內容淡紅色，12—20×10—13μ，絲狀體は不正棍棒形，一部は擔子柄の如く廣く，他部は狹く，先端念珠狀となる。

所在及産地

各種樹木の枝上　　　　本州—歐. 亞(西比)

和名 コガネコウヤクタケ（黃金膏薬茸）〔安田〕

Aleurodiscus oakesii (BERK. et CURT.) COOKE

サカズキコウヤクタケ

COOKE, Grev. 3 : 172. 1875—V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 802, *pl. 3, f.1.* 1907—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5 : 183, *f.3.* 1918—LLOYD, Myc. Writ. 6:927, *f.1671.* 1920.

(安田，植. 雜. 31:42. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 17. 1927—T.ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:461. 1929—原，日. 菌. 目. 11. 1954)

Corticium Oakesii BERK. et CURT. Grev. 1:166. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6:606. 1888—PIERCE, Bull. Torr. Bot. Club, 17 : 301, *pl. 110, f. a—i.* 1890.

子實體は盤狀或は椀茸狀にて徑1—2mm，散生或は癒合して2×1cmに至る，稍々肉質にて乾時革質なり，下面中央部にて基物に着生し，緣は遊離し，上向し內屈す，下側は帶白色にて軟毛あり，子實層は凹面，粉狀，灰褐色なり，肉は厚さ600μ內外，菌絲は無色，稍々厚膜，結晶を被る，徑3—3.5μ，擔子柄は80—100×12μ，4小柄あり。胞子は楕圓形，平滑，無色，18—21×12—13μ，絲狀體は絲狀にて先端に2形あり，1は徑6μの軸より3μ位の約12本の側枝を生じ，他のものは先端に2—3の念珠を生ず。

所在及産地

廣葉樹の樹皮面　　　　本州—北米

和名 サカズキコウヤクタケ（盃膏薬茸）〔安田〕，ハイイロコウヤクタケ（灰色膏薬茸）〔安田〕

Aleurodiscus japonicus YAS.

ニクコウヤクタケ

YASUDA, Bot.Mag. Tokyo, 33:33. 1919—LLOYD, Myc. Writ. 6:927, *f.1672.* 1920—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 527. 1926.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917; 6:927, *f. 1672.* 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 17. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:461. 1929—今關，日. 隱. 植. 圖. 383, *pl. 182, f. 4.* 1939—原，日. 菌. 目. 11. 1954)

子實體の外形はアカコウヤクタケに酷似す，初め皿狀，徑1—4mm，後癒合して不規則に擴大す，下面中央部にて基物に接着し，周緣は上方に反轉し，外面は白色密毛を被り，蠟質を帶び軟し。子實層は淡肉色，乾時白色，微粉を帶ぶ，擔子柄は稍々紡錘狀圓筒形，4小柄を有す，胞子は扁楕圓形，微に肉色を帶び，殆ど平滑，25—30×12.5—17μ，絲狀體は多數に存し徑3—6μ，表面に長短不定の細枝を多數に出し，瓶洗刷毛狀を呈す。

所在及産地

クスノキ (*Cinnamomum*) の樹皮面　　本州，九州

和名 ニクコウヤクタケ（肉膏薬茸）〔安田〕

Aleurodiscus acerinus (PERS.) V. HOEHN. et LITSCH.

ヒビコウヤクタケ

V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad.

Wien, 116(1): 804, *pl. 2, f. 6.* 1907—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 62, *pl. 17D, f. 3.* 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 28: 352. 1913; Hymen. Fr. 334. 1928—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1160. 1916—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5 : 196, *f. 9.* 1918—REA, Brit. Basid. 672. 1922—PILÁT, Ann. Myc. 24: 216, *pl. 15, f. 9—10.* 1926.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43: 463. 1929—今關, 日. 隱. 植. 圖. 383, *pl. 182, f. 6.* 1939—原, 日. 菌. 目. 11. 1954)

Corticium acerinum PERS. Obs. Myc. 2: 37. 1799—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 415. 1889.

Thelephora acerina PERS. Syn. Meth. Fung. 581. 1801; Myc. Eur. 1 : 152. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 453. 1821; Hymen. Eur. 645. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 172. 1836.

Stereum acerinum FR. Epicr. Myc. 554. 1838—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 271. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 317. 1871; Handb. Austr. Fungi, 187. 1892—GILLET, Champ. Fr. 748. 1874—WINTER, Pilze 1 : 346. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 587. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Scc. 27: 202. 1890; Brit. Fung. Fl. 1: 134. 1892; Brit. Fungi, 424. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 406. 1908.

Xerocarpus acerinus KARST. Hattsv. 2 : 139. 1882.

Corticium alliaceum QUÉL. var. *aceris* SCHULZ. Hedw. 24: 148. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 629. 1888.

Hypochnus acerinus PAT. Rev. Myc. 166. 1889; Bull. Soc. Myc. 5 : 30. 1889.

Aleurodiscus subacerinus V.HOEHN. et LITSCH. Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 807. 1907.

子實體は全背着，不規則に擴布，固着し，薄く，平坦，痂皮狀，徑約3mm，時に10×3mmに至る，緣は劃然，肉は厚さ45—80—100μ，白色，白墨狀，多數の結晶を含む，菌絲は密に纒絡し，無色，薄膜，稍々直立し，徑2—3μ，著しく結晶を被むる。子實層は純白色，粉狀，平滑，後縱横の龜裂を生ず，擔子柄は棍棒形，36—50—60×6—9—14，2—4小柄を有す，胞子は卵形乃至楕圓形，1端尖り，10—15×6—11μ，絲狀體は細くして，樹枝狀に短枝を出し，その先端尖る。

所 在 及 產 地

カエデ (*Acer*) 等廣葉樹皮上　　全土

和 名　ヒビコウヤクタケ (皸膏藥茸) 〔安田〕，ヒビチヨウクタケ (皸白墨茸) 〔今關〕

Aleurodiscus reflexus YAS.

シックイコウヤクタケ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 35 : 269. 1921—LLOYD, Myc. Writ. 7: 1121. *f. 2144.* 1922—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 463. 1929.

(白井，日. 菌. 目. ed. 3. 17. 1927—原，日. 菌. 目. 11. 1954)

子實體の周緣少しく上方に反轉して皿狀を呈し，後擴大して不正形となり，周緣高まり裏返りて幅1—3mmの傘を生ず，橫徑0.5—4cm，厚さ0.5—2mm，革質，硬く，表面白色，粉毛を帶び，環層なし，子實層面は白色，後稍々材色，白粉を被むる，胞子は球形，平滑，無色，12—15μ，絲狀體は絲狀，樹枝狀に分岐す，嚢狀體は棍棒形，薄膜，無色，尖頭，30×7—10μ，多くの結晶を被むる。

所 在 及 產 地

アラカシ (*Quercus*) の樹皮面　　九州

和 名　シックイコウヤクタケ (漆喰膏藥茸) 〔安田〕

Aleurodiscus stereoides YAS.

ウロコタケモドキ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 35: 161. 1921—LLOYD, Myc. Writ. 6: 1066, *f. 2010—2011.* 1921—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 465. 1929.

(LLOYD, Myc. Writ. 6: 1095. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 17. 1927—原，日. 菌. 目. 11. 1954)

子實體は半背着，傘は介殼狀にて基部に向つて漸細し，徑1—1.6cm，厚さ1—5mm，硬く，革質，表面は灰褐色或は黑褐色，平滑，同心環溝あり，子實層面は灰色乃至淡褐色，微白粉を被むる，緣は厚く，波狀をなす，擔子柄は圓筒形，無色，幅10—12μ，胞子は短楕圓形或は類球形，平滑，微褐色を帶ぶ，微細の小嘴あり，16—20×13—16μ，絲狀體は圓柱狀，上部急細し，長毛狀に終る，無色，徑7—10μ，稀に少數の結晶を被むる。

所 在 及 產 地　樹皮面　　千島

和 名　ウロコタケモドキ (擬鱗茸) 〔安田〕

Aleurodiscus roseus (PERS.) V. HOEHN. et LITSCH.

ウスベニコウヤクタケ

V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 115(1): 1568. 1906—PILÁT, Ann. Myc. 24: 219, *pl. 15, f. 20.* 1926; Bull. Soc. Myc. Fr. 51: 414. 1935; Ann. Myc. 38 : 63. 1940.

Corticium roseum PERS. Neues Mag. Bot. 1 : 111. 1794; Disp. Meth. 31. 1797—FRIES, Epicr. Myc. 560. 1838; Hymen. Eur. 650. 1874—BERKE-

LEY, Engl. Fl. 5(2):168. 1836; Outl. Brit. Fung. 273. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:265. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:321. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2:359. 1873; Enchir. Fung. 209. 1886—GILLET, Champ. Fr. 751. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:313. 1876—WINTER, Pilze, 1:336. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:611. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1166. 1916—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 27:233. 1911; Hymen. Fr. 227. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 58. 1912—COKER, Jour. Elischa Mitch. Sci. Soc. 36:171, *pl. 23, f. 3—5*. 1921—REA, Brit. Basid. 673. 1922—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 13:224. 1926.

(三宅, 蠶. 試. 報. 1(5): 334. 1916—安田, 植. 雜. 34:163. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 103. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:639. 1929—原, 日. 菌. 目. 91. 1954)

Thelephora rosea PERS. Syn. Meth. Fung. 575. 1801; Myc. Eur. 1:131. 1822—DC. Fl. Fr. 6:33. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1:451. 1821; Elench. Fung. 1:203. 1828—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:390. 1844.

Lyomyces roseus KARST. Hattsv. 2:153. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 418. 1889.

Hypochnus roseus SCHROET. Pilze Schles. 1: 419. 1888.

Corticium roseolum MASS. Jour. Linn. Soc. 27: 140, *pl. 6, f. 2*. 1890; Brit. Fung. Fl. 1:124. 1892; Brit. Fungi, 416. 1911—W.G. SMITH, Brit. Basid. 413. 1908.

子實體は擴布し, 初め多少圓形にて, 徑 3—12 mm, 屢々互に癒合し長さ 1—10 cm, 幅1—3 cm に及ぶ, 稍々厚く, 幾分膜狀, 濕時小片に剝離す, 子實層は鮮かなる薔薇色, 乾時赤黃色, 有粉, 平滑, 後龜裂す, 緣は初め短白絨毛あり, 後同質, 肉は厚さ 200—280 μ, 菌絲は厚膜, 徑 2—4.5 μ, 結晶を被らず, 菌絆あり, 擔子柄は不正棍棒形, 25—45×6—10 μ, 淡赤色內容あり, 小柄は 2 或は 4, 屈曲せる錐形, 長さ 6—8 μ, 胞子は楕圓形, 多くは無色或は淡赤色, 平滑, 8—15×6—10 μ, 粘囊體なし, 絲狀體は多數にて, 單一或は分岐し, 幅1.5—3 μ, 多くは結晶を被むる。

所在及產地

廣葉樹, 稀に針葉樹の樹皮及材面上

北海道, 本州—歐. 北米. 亞(西比. 支)

和名 ウスベニコウヤクタケ(淡紅膏藥茸)〔安田〕, ウスベニオオコウヤクタケ
(淡紅大膏藥茸)〔伊藤篤〕

Aleurodiscus orientalis LLOYD

アズマコウヤクタケ

LLOYD, Myc. Writ. 6:927, *f. 1673*. 1920; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 43. 1936.

(安田, 植. 雜. 34:213. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 17. 1927—T. ITO. Bot. Mag. Tokyo, 43:462. 1929—原, 日. 菌. 目. 11. 1954)

子實體は廣く擴布し固着し, 周緣は上方に少しく反轉す, 薄く, 革質を帶び, 徑 3—10 cm, 厚さ 0.4—1 mm, 子實層は表面乾酪色にて稍々鞣皮色を帶び, 白粉を帶び, 往々裂目あり, 反轉せる表面は細かき環輪を具う, 肉は白色, 擔子柄は大にて圓柱狀, 無色, 徑 10—17 μ, 胞子は大にて短楕圓形或は球形, 平滑, 無色, 16—18×14—15 μ, 或は徑 16—18 μ, 絲狀體は絲狀にて分岐し, 無色。

所在及產地

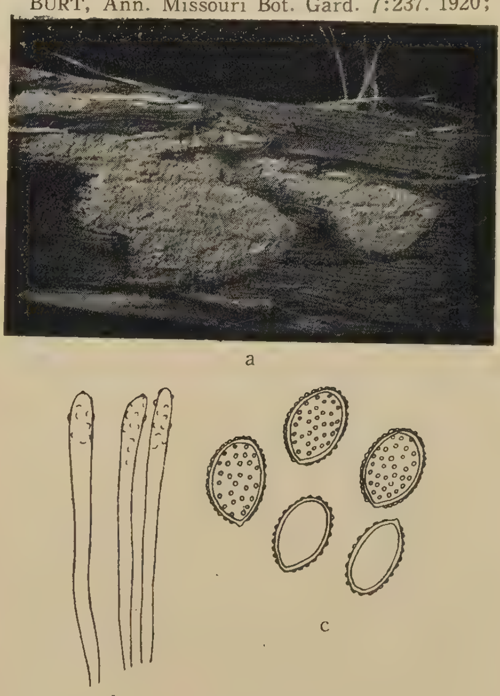
カシ類 (*Quercus*) 樹皮面　本州

和名 アズマコウヤクタケ (東膏藥茸)〔安田〕

Aleurodiscus subcruentatus (BERK. et CURT.) BURT

チヨウクタケ

BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:237. 1920;



第105圖　チヨウクタケ *A. subcruentatus*
a. 子實體 ×1　b. 絲狀體　c. 胞子 (b—c ×612)
(大谷氏)

13:308. 1926—ZELLER, Mycologia, 14 : 179. 1922.
（安田，植. 雜. 35:92. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 17. 1927—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:463. 1929—今關，日. 隱. 植. 圖. 383, *pl. 182, f. 2, 5.* 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，235. 1945—原，日. 菌. 目. 11. 1954）

Stereum subcruentatum BERK. et CURT. Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4 : 123. 1858—SACCARDO, Syll. Fung. 6:567. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 171. 1890.

（MIQUEL, Frol. Fl. Jap. 392. 1868—P. HENNINGS. in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pflanzenfam. 1, 1**: 125. 1900—松村，植. 名鑑，1 : 175. 1904—白井，日. 菌. 目. 96. 1905; ed. 2. 639. 1917; ed. 3. 380. 1927—原，日. 菌. 目. 354. 1954）

子實體は全背着生，時に周緣少しく上方に反轉す，徑 2—15 mm，反轉部表面は白色乃至淡黃褐色にて粉狀，皺襞あり，子實層は平坦，白色乃至汚白色，鳥糞の附着せるが如し，緣は稍々厚さを增し，限界劃然たり，肉は厚さ 500—1000 μ，擔子柄は棍棒狀圓筒形，40—60×10—12 μ，胞子は廣楕圓形，有疣，無色，12—18×9—12 μ，絲狀體は絲狀，單一，徑 2—3 μ，結晶を被むる。

所 在 及 產 地

コメツガ（*Tsuga*）スギ（*Cryptomeria*）等樹皮上 北海道，本州

和 名 チヨウクタケ（白堊茸）〔安田〕

Aleurodiscus tsugae YAS.

ツガコウヤクタケ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 35 : 145. 1921—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1066. *f. 2009.* 1920—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43 : 465. 1929.

（LLOYD, Myc. Writ. 6:1096. 1920; 7:1345. 1925—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 17. 1927—原，日. 菌. 目. 11. 1954）

子實體は全背着生，頗る薄く，蠟質，徑 1.5—6 cm，厚さ 0.15—0.3 mm，緣邊は劃然，平滑，黑褐色，子實層は淡肉色，平坦，白粉狀，細かき龜裂あり，擔子柄は大形，幅 13 μ 內外，4 個の長大なる小柄を有す，胞子は楕圓形，平滑，微赤色を帶ぶ，16—22×14—17 μ，絲狀體は絲狀。

所 在 及 產 地

コツメガ（*Tsuga*）樹皮面 本州

和 名 ツガコウヤクタケ（栂膏藥茸）〔安田〕

疑 問 種

Aleurodiscus sendaiensis YAS.

（LLOYD, Myc. Writ. 7:1162. 1922—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 43:466. 1927—原，日. 菌. 目. 11. 1954）

VI. Stereae ウロコタケ族

子實體は革質或は木質にて傘形をなし基部着生物上に沿下し，反轉或は背着，稀に莖を有す，子實層は堅緻にて平滑，屢々囊狀體を有す。

Stereum PERS. ex FR.

ウロコタケ屬

PERSOON, Obs. Myc. 1:35. 1796—FRIES, Epicr. Myc. 545. 1838—PATOUILLARD, Ess. Tax. 71. 1900.

子實體は革質或は木質，稀に膠質，多くは多年生，通常正形にて傘面に屢々環紋を有す，肉は外層，中層及子實層の 3 層より成る，着生物上に背着し，多くは其緣邊或は大部分反轉し水平に展出し，或は半圓形，扇形にて莖を側生す，子實層は下面に生じ，革質，平滑なり。囊狀體及剛毛體なし，擔子柄は 4 小柄を有し，胞子は無色，多くは材幹上に着生す。（本屬名は stereon（固い）より出づ）

基準種 *S. hirsutum* (WILLD.) FR.

本 邦 既 知 種 檢 索 表

A. 傘は半圓形坐生，中心凸形坐生，或は緣邊反轉して作らる，總て樹上生，多數の型的反轉種は往々全背着をなすものあり。

a. 洋梨形の胞體が組織內に存在す—柔軟革質，密軟毛を被むる，囊狀體なし。

ムラサキウロコタケ ***S. purpureum*** (131)

b. 色素管あり，生時子實層は傷によつて出血す。

α. 出血乳汁は赤色，管は暗色，多數，子實體は束生疊生，絨毛乃至粗毛を有し，煙草色，カシワ上：

チウロコタケ ***S. gausapatum*** (132)

β. 出血乳汁は赤色，管は暗色，多數，子實體は狹く反轉す，子實層は多層，廣葉樹上。

シミダシカタウロコタケ ***S. rugosum*** (133)

γ. 出血乳汁は赤色，管は多數，針葉樹上。

チウロコタケモドキ ***S. sanguinolentum*** (134)

δ. 子實層面は橙黃，傷時深紅色，子實體は扇形. 乾時子實層面に多數の龜裂を生ず。

アメウロコタケ ***S. rimosum*** (135)

c. 胞體及色素管なし。

α. 子實層に著しき形或は色の絲狀體なし。

I. 子實體は初め毛被の爲めに淡黄の色彩を帶び，老時灰色となり，遂に毛被脱落して，中間層の堅き有色表面を露出し，屢々環紋を生じ，光澤あり。

1. 半背着生，初め淡赤黄色，粗毫毛あり，子實層は淡卵黄色，往々淡煙灰色，中間層は狹き黄金色層によつて境さる，色素管は稀に子實層中に存在す。

キウロコタケ ***S. hirsutum*** (135)

2. 初め半背着生，後中心凸形坐生，密綿毛を被むり，往々狹き環帶に裂け，薄の內に栗褐色の裸面を露わす，緣は正常には淺裂せず，子實體は徑 2—7 cm。

チヤウロコタケ ***S. fasciatum*** (136)

3. 絹狀絨毛束被が放射狀に並び，後無毛，光澤を發し，放射狀畦を生ず，緣は淺裂せず，横に折重ることなく，縮れず。

フジウロコタケ ***S. versicolor*** (137)

4. 傘は長幅 2—10 mm，群集し，折重なり或は縮み，基部の方に粗毛あり，緣邊は光澤ありて環紋あり，黄褐色乃至淡栗褐色，色素管は時に存在す。

ミヤマチヤウロコタケ ***S. rameale*** (137)

II. 子實體表面暗褐色或は黑褐色。

1. 煙草色，絨狀粗毛，後緣邊より無毛となりて，中間層の黑色角質の殼皮を露出す，子實層は粉狀，胞子は 4—5×2.5—3 μ。

サビウロコタケ ***S. vibrans*** (138)

2. 表面絨毛ありて，黑色中間層の色素は KOH 液に溶く，子實層は銹色，放射狀畦あり，針葉樹上。

サビカワウロコタケ ***S. radiatum*** (138)

β. 絲狀體は瓶洗刷毛の如き有刺絲狀體にて有色。

I. 傘部表面平滑，無毛。

1. 扇形，深裂掌狀，表面淡褐乃至赤褐，子實層灰白，肉白色，ナラ，カシ等上。

モミジウロコタケ ***S. spectabile*** (139)

2. 傘形，表面黑色，子實層帶白色，淡黄又は淡肉桂色，肉は濃肉桂色，カシ其他上。

オオカタウロコタケ ***S. annosum*** (139)

3. 傘形，表面栗褐，子實層帶白材色，肉は材色，カシワ上。

チシマウロコタケ ***S. kurilense*** (140)

II. 傘部表面毛被あり。

1. 傘形，深裂，表面は淡材色，淡桃色或は褐色，子實層淡灰褐色。

ケウロコタケ ***S. vellereum*** (140)

2. 傘形，表面褐色，子實層紫褐色或は褐色，肉は濃褐色，クリ上。

アズマウロコタケ ***S. illudens*** (140)

3. 傘形，表面肉桂色，子實層汚白乃至肉桂色，肉は暗肉桂色，カシ上。

オオウロコタケ ***S. princeps*** (141)

4. 傘形，表面肉桂色，子實層鈍橙黄色，肉は肉桂色，カシ上。

ヒウガオオウロコタケ ***S. hiugense*** (141)

γ. 絲狀體は絲狀にて先端僅かに叉狀分岐す，通常背着なるも，時に反轉す，柔軟革質，子實層面幼時赤菫色，後灰褐色。

スミレウロコタケ ***S. roseo-carneum*** (142)

B. 全背着。

α. 有刺絲狀體を有す—木質にて厚く，群生し，恰も癒着後龜裂して出來たる如き觀を呈す，側面卽ち傘に相當する部分は黑色，子實層面は淡桃色乃至類白色，粉狀。

カタウロコタケ ***S. frustulosum*** (142)

β. 有刺絲狀體なし—栓質にて薄く，擴布し，灰白色乃至灰黄色，絨毛あるも後無毛，生時香あり。

ニオイウロコタケ ***S. odoratum*** (143)

Stereum purpureum PERS. ex FR.

ムラサキウロコタケ

PERSOON, Disp. Fung. 30. 1797; Obs. Myc. 2: 92. 1799—FRIES, Epicr. Myc. 548. 1838; Hymen. Eur. 639. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 270. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 261. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 29. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 316. 1871; Handb. Austr. Fungi, 186. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2: 301. 1873; Enchir. Fung. 205. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 747. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 305. 1876; Hattsv. 2: 123. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 396. 1889—WINTER, Pilze 1: 345. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 563. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1146. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 427. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 186. 1890; Brit. Fung. Fl. 1: 132, *f. 14*. 1892; Brit. Fungi, 423, *pl. 32*, *f. 4*. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 72. 1900—W.G. SMITH, Brit. Basid. 405. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 94, *pl. 18*, *f. 1*. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 124, *f. 13*, *pl. 4*, *f. 29*. 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc.

Myc. Fr. 37 : 120. 1921; Hymen. Fr. 379. 1928—REA, Brit. Basid. 664. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:324. 1933;51:411. 1935;52:330. 1936; Ann. Myc.38 :65. 1940.

(安田，植. 雜. 23:402. 1909—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53 : 7. 1914; 6 : 1012. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 639. 1917; ed. 3. 380. 1927—梅村，富士. 植. 誌. 382. 1932—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，247, *f. 80*. 1945—原，日. 菌. 目. 354. 1954)

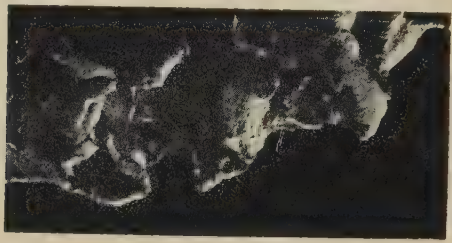
Thelephora purpurea SCHUM. Fl. Saell. 2 : 398. 1803—PERSOON, Syn.Meth. Fung. 571. 1801; Myc. Eur. 1:121. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1: 440. 1821—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:395. 1844.

Stereum vorticosum FR. Obs. Myc. 2:275. 1818; Epicr. Myc. 548. 1838; Hymen. Eur. 639. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 563. 1888.

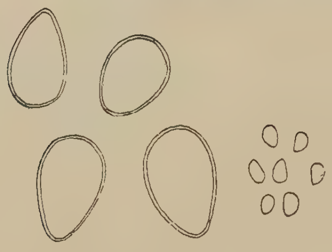
Stereum nipponicum LLOYD, Myc. Writ. 7:1273. *f. 2801*. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 56. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1265. 1924)

子實體は一部背着し，上端反轉し，半圓形或は介殼狀の傘を作る，徑 2—8 cm，屢々疊生す，革質，乾時堅硬，上面は軟毛を密布し，淡黃色，環紋を有



a



b c

第 106 圖　ムラサキウロコタケ *S. purpureum*
a. 子實體 ×2　b. 傘肉内に存する胞體
c. 胞子 (b—c ×544)　(大谷氏)

し，緣は全緣，時に捩曲し或は淺裂す，子實層面は平坦，無毛，淡紫褐色乃至暗紫褐色，肉は白色，軟革質，厚さ 500—800 μ，組織内に洋梨形或は類球形の無色細胞（胞體）を混在す，之の胞體は 15—30×12—25 μ，囊狀體なし，胞子は楕圓形，1 側壓邊され，平滑，或は粗粒を有し，無色，5—7×2.5—3 μ。

所在及產地　廣葉樹枯木上
北海道，本州—歐. 北米. 亞(西比. 支)

和名　ムラサキウロコタケ（紫鱗茸）〔安田〕

Stereum gausapatum FR.
チウロコタケ

FRIES, Hymen.Eur. 638. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 204. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:560. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 180. 1890—PATOUILLARD, Ess. Tax. 72. 1900—HERTER, Krypt. Mark Brand. 6:124. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):95. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:136, *f. 18*, *pl. 4*, *f. 36*. 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 37 : 110. 1921; Hymen. Eur. 374. 1928—PILÁT, Ann. Myc. 38 : 64. 1940.

(西門，三橋及中山，農學硏究，34:451. (大阪營林局報附錄，6)*pl. 1*, *f. 5—7*; *pl. 4*, *f. 23—24*. 1942—千葉及寺本，東大. 農. 演. 林. 報. 43 : 29. 1952—原，日. 菌. 目. 353. 1954—今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67 : 22. 1954)

Thelephora gausapata FR. Elench. Fung. 1:171. 1828; Epicr. Myc. 538. 1838.

Thelephora spadicea (non PERS. 1801) FR. Elench. Fung. 1 : 176. 1828.

Stereum spadiceum FR. Epicr. Myc. 549. 1838; Hymen. Eur. 640. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 270. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 262. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 317. 1871; Handb. Austr. Fungi, 186. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 302. 1872; Enchir. Fung. 205. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 748. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 124. 1882—WINTER, Pilze 1: 345. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 564. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1147. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 426. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 190. 1891; Brit. Fung. Fl. 1 : 133. 1892; Brit. Fungi, 423. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 405. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 88, *pl. 102*, *n. 227*. 1910.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 39:6. 1912; Lett. 45 : 5. 1913; 5, Lett. 66 : 7. 1917; 6 : 1012. 1920—安田，植. 雜. 27:562. 1913; 31:43. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 639. 1917; ed. 3. 380. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 391, *pl. 186*, *f. 3—4*. 1939)

Stereum cristulatum QUÉL. Champ. Jura Vosg. 3:443, *pl. 1*, *f. 15*. 1875—PATOUILLARD, Ess. Tax. 72. 1900.

Stereum spadiceum var. *plicatum* PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 50 : 132. 1879.

Stereum hirsutum var. *cristulatum* QUÉL. Enchir. Fung. 205. 1886.

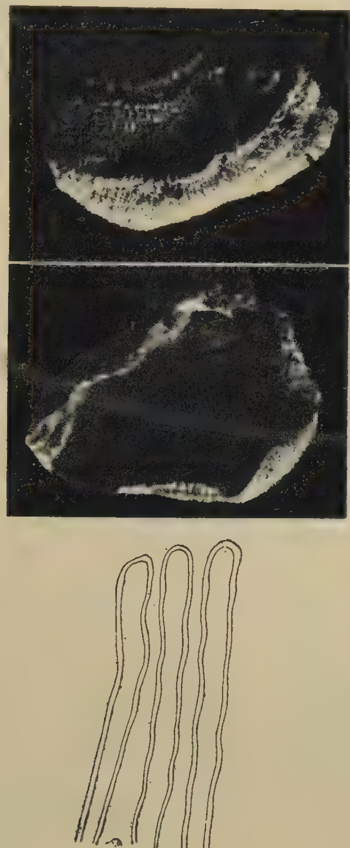
Stereum occidentale LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett.

69: 12. 1919.

Stereum plicatulum LLOYD, Myc. Writ. 7: 1157, *pl. 222, f. 2286*. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1162. 1922; 1267. 1924)

子實體は半背着生にて，縁邊廂狀に展出し，半圓形或は扇狀又は貝殼狀となり，多數束生疊生，互に癒着す，背着面は 10 cm にも及び，傘部は縦 1—2.5



a　b　c

第 107 圖　チウロコタケ *S. gausapatum*
a. 子實體の表面　b. 同裏面（a—b ×2）
c. 色素管 ×680　（大谷氏）

cm，横約 1 cm 或はそれ以上に至る，堅革質，傘の表面は黄褐色或は赤褐色，煙草色にて，密絨毛乃至粗豪毛を被むり，時に毛は倒伏して殆ど無毛の觀を呈す，多少放射狀の皺襞を存し，環紋あり，周縁は波狀，屢々淺裂す，子實層面は生時傷付けば赤褐色の血を出し，乾けば暗褐色となる，肉は毛被を除きて厚さ 600—700 μ，子實層中に多數の赤色色素を入るる管（75—120×5 μ）を混在す，嚢狀體なし，胞子は楕圓形，平滑，無色，5—8×2.5—4 μ。

所在及産地

闊葉樹株，枯枝上，シイタケ榾木上

北海道，本州，九州—北米.歐.濠.亞（支）

和名　チウロコタケ（血鱗茸）〔安田〕

Stereum rugosum PERS. ex FR.
シミダシカタウロコタケ

PERSOON, Disp. Fung. 30. 1797—FRIES, Epicr. Myc. 552. 1838; Nov. Symb. Mycol. 94. 1851; Hymen. Eur. 643. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 271. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 263. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 28. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 317. 1871; Handb. Austr. Fungi, 187. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 303. 1872; Enchir. Fung. 206. 1886—GILLET, Champ. Fr. 749. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 308. 1876; Hattsv. 2: 128. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 397. 1889—WINTER, Pilze 1: 342. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 572. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1150. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 426. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 191. 1890; Brit. Fung. Fl. 1: 133. 1892; Brit. Fungi, 423, *pl. 33, f. 2*. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 405. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 95. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 142, *f. 19, pl. 4, f. 38—39*. 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 37: 111. 1921; Hymen. Fr. 374. 1928—REA, Brit. Basid. 663. 1922—DONK, Med. Niederl. Myc. Ver. 18—20: 180. 1931—PILÁT, Ann. Myc. 38: 65. 1940.

(KILLERMANN, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl-fam. ed. 2. 6: 143. 1928—今關，植．硏．雜．15: 585, *f. 20*. 1939—原，日．菌．目．354. 1954)

Stereum Coryli PERS. Obs. Myc. 1: 35. 1796.

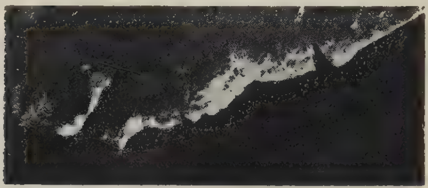
Thelephora rugosa PERS. Syn. Meth. Fung. 569. 1801; Myc. Eur. 1: 127. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1: 439. 1821; Elench. Fung. 1: 177. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 166. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 393. 1844.

Thelephora corylea PERS. Syn. Meth. Fung. 569. 1801; Myc. Eur. 1: 126. 1822.

Thelephora Laurocerasi BERK. Engl. Fl. 5(2): 173. 1836.

子實體は木栓質或は革質にて堅硬，主として背面展着にて徑 2—6 cm，縁邊僅に遊離し，幅 2—12 mm の廂狀傘を作る，傘の表面は初め絹絲狀にて淡桃色，後環溝及放射狀溝を生じ灰色に褪色す，縁は全縁，肉は帶白色或は淡肉桂色，厚さ 500—1800 μ，子實層は帶白色或は灰褐色，粉狀，傷によつて赤褐の血を出す。嚢狀體及有刺絲狀體を缺き，色素を含む管は多數に存在す，その內容は黄褐色，幅 3—6 μ，子實層中に埋在す。胞子は長楕圓形，1 側扁平，平滑，

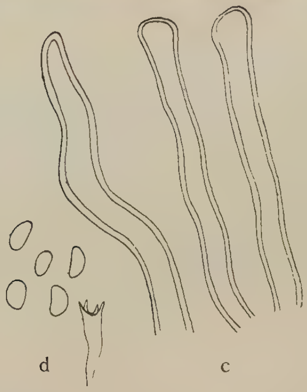
無色，7—9×2.5—4μ，木材の白腐を起す。



a



b



d c

第108圖 シミダシカタウロコタケ *S. rugosum*
a. 子實體の傘面 ×1.5 b. 同子實層面 ×1.2
c. 色素管 d. 擔子柄及胞子 (b—c ×476)
(大谷氏)

所在及產地 廣葉樹枯幹上
本州，九州—歐.北南米.濠.亞(支)

和名 シミダシカタウロコタケ
(汚點出堅鱗茸)〔今關〕

Stereum sanguinolentum (ALB. et SCHW.) FR.

チウロコタケモドキ

FRIES, Epicr. Myc. 549. 1838; Hymen. Eur. 640. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 271. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:262. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 28. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:317. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:302. 1872; Enchir. Fung. 205. 1886—GILLET, Champ. Fr. 748, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 306. 1876; Hattsv. 2:125. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 396. 1889—WINTER, Pilze 1:345. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:564. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1149. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:189. 1891; Brit. Fung. Fl. 1:132. 1892; Brit. Fungi, 423. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 405. 1908—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 144, *f.20, pl.5, f.40.* 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 37:109. 1921; Hymen. Fr. 373. 1928—REA, Brit. Basid. 663. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:325. 1933; 51:410. 1935; Ann. Myc. 38:65. 1940.

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1162. 1922—今關及青山，日.植.病.報，16:88. 1952—千葉及寺本，東大.農.演.林.報. 43:29. 1952)

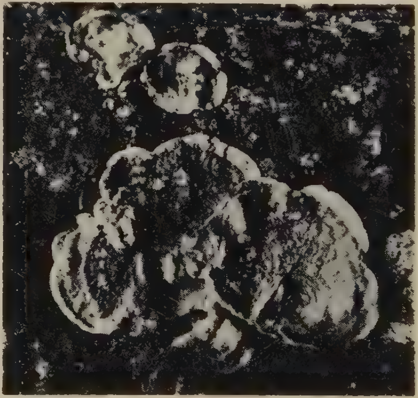
Thelephora crispa PERS. Syn. Meth. Fung. 568. 1801; Myc. Eur. 1:122. 1801.

Thelephora sanguinolenta ALB. et SCHW. Consp. Fl. Lusat. 274. 1805—FRIES, Syst. Myc. 1:440. 1821; Elench. Fung. 1:178. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):167. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:394. 1844.

Thelephora sericea β. sanguinolenta PERS. Myc. Eur. 1:117. 1822.

Stereum crispum SCHROET. Pilze Schles. 1: 427. 1888—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 18:465. 1891—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 95. 1912.

子實體は半背着生，革質，薄し，背着部は 1—5 cm，反轉部は幅 2—10 mm，表面は絨毛乃至絹毛を有し，毛は壓低され，幾分放射狀に並ぶ，乾時淡桃



第109圖 チウロコタケモドキ *S. sanguinolentum*
子實體 (龜井氏)

色乃至淡黃白色，緣は薄し，子實層面は無毛，傷時出血す，乾時收縮し，背着部にては龜裂を生じ基物に達す，乾時灰褐色乃至材褐色，肉は厚さ 400—600 μ，子實層中に斜上する徑 3—4 μ の色素を含む管を多存す，囊狀體なし，胞子は楕圓形，少しく屈曲，

平滑，無色，6—7×2.5μ，木材腐朽の初時赤色を帶ぶ。

所在及産地　針葉樹の株或は丸太上

北海道，本州—歐.北米.亞(西比.支)

和　名　チウロコタケモドキ

(擬血鱗茸)〔千葉・寺本〕

Stereum rimosum BERK.

アメウロコタケ

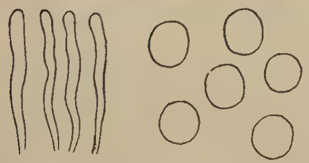
BERKELEY, Lond. Jour. Bot. 3 : 169. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 568. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 187. 1890—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. Peradeniya, 9 : 265. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917—安田, 植. 雜. 33 : 141. 1919—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 380. 1927—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

子實體は扇形に展開し，基部狹小となりて着生す，革質，1.5—3.5×2.5—6 cm，緣は屢々數箇の裂片に分る，表面は軟毛を被むり，時に放射狀線條あり，褐色或は黃褐色の環紋あり，子實層面は生時橙黃色，



a



b　　　c

第110圖　アメウロコタケ *S. rimosum*

a. 子實體 ×1　b. 膠質絲狀體　c. 胞子

(b—c ×612)　(大谷氏)

傷時深紅色となる，通常環溝と小疣とを有し，乾けば白色となり，處々に淡黃色の部分を殘し，多數の龜裂を生ず，肉は厚さ1—1.5 mm，囊狀體なく，膠質絲狀體あり，胞子は球形，平滑，無色，6—7μ。

所在及産地

枯木上　本州，九州—阿.亞(印)

和名　アメウロコタケ（飴鱗茸）〔安田〕

Stereum hirsutum (WILLD.) FR.

キウロコタケ

FRIES, Epicr. Myc. 549. 1838; Nov. Symb. Mycol. 94. 1851; Hymen. Eur. 639. 1874—S.F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 653. 1821—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 270, *pl. 17, f. 7.* 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 261. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 28. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 316. *f. 81.* 1871; Handb. Austr. Fungi, 185. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2 : 302. 1873; Enchir. Fung. 205. 1886—GILLET, Champ. Fr. 747. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 306. 1876; Hattsv. 2 : 124. 1882—WINTER, Pilze 1 : 345. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 563. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 427. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 181. 1890; Brit. Fung. Fl. 1 : 131. 1892; Brit. Fungi, 423, *pl. 32, f. 8.* 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 72. 1900—W.G. SMITH, Brit. Basid. 404, *f. 98.* 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 88, *pl. 102, n. 226.* 1910—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7 : 150, *f. 22, pl. 5, f. 42.* 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 37 : 107. 1921; Hymen. Fr. 370. 1928—REA, Brit. Basid. 664. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 323. 1933; 52 : 330. 1936; Ann. Myc. 38 : 64. 1940—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6 : 496. 1937.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 13. 1912; Lett. 49 : 10. 1914; Lett. 53 : 7. 1914; Lett. 56 : 4. 1915; Lett. 61 : 5. 1916; 5, Lett. 66 : 7. 1917—安田, 植. 雜. 28 : 91. 1914; 31 : 43. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 379. 1927—北島, 林. 試. 報. 28 : 35, *pl. 3, f. 25, pl. 8, f. 25.* 1928—今關, 日. 隱. 植. 圖. 391, *pl. 186, f. 2.* 1939; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67 : 22. 1954—西門, 三橋及中山. 農學研究. 34 : 452, (大阪營林局報附錄, 7), *pl. 2, f. 11—14; pl. 5, f. 26; pl. 10, f. 42—3.* 1942—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 241. *f. 75.* 1945—千葉及寺本, 東大. 農. 演. 林. 報. 43 : 29. 1952—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

Auricularia reflexa BULL. Champ. Fr. *pl. 274.* 1785—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 1 : *pl. 27.* 1797.

Thelephora hirsuta WILLD. Fl. Berol. 397. 1787—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 570. 1801; Myc. Eur. 1 : 116. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1 : 439. 1821; Elench. Fung. 1 : 178. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 116. 1836—CORDA, Icon. Fung. 3 : 51, *pl. 9, f. 134.* 1839—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 395. 1844.

Thelephora ochracea (non FR.) SCHW. Syn. Fung. Carol. 106. 1822.

Thelephora subzonata FR. Elench. Fung. 1 : 181. 1828.

Corticium subzonatum FR. Epicr. Myc. 557. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 608. 1888.

Stereum variicolor LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53 : 10. 1914.

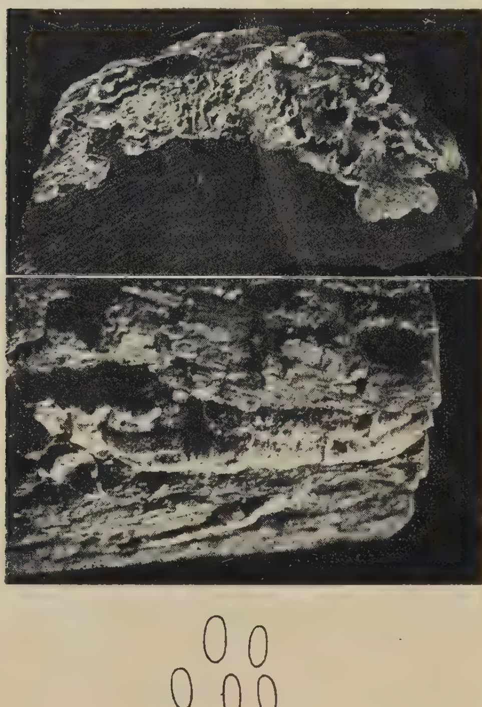
Stereum reflexum SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1148. 1916.

Stereum cinericum LLOYD, Myc. Writ. 7:1131. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 52. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1126. 1922(ut *cinerescens*)

a

b



c

第 111 圖　キウロコタケ *S. hirsutum*
a. 子實體子實層面 ×1/2　b. 同背面 ×1
c. 胞子 ×612　(大谷氏)

子實體は廣く擴布し，後反轉し半圓形或は扇形の傘を作り，多數疊生す，稀に全く背着生，徑 1—3×1—2 cm，横に連りて 10 cm に及ぶことあり，革質，堅韌，背面は短粗毛を密生，同心環紋顯著ならず，淡黄色，後雨露に曝され灰白色となる，縁は鈍くして黄色，子實層面は淡黄色乃至帶赤褐色，後褪色す，平坦，無毛，肉は厚さ 500—700 μ，嚢狀體なし，胞子は長楕圓形，平滑，無色，5—7.5×2—3 μ，木材白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯木及材上，シイタケ榾木上

全土一汎布

和名 キウロコタケ（黄鱗茸）〔安田〕

Stereum fasciatum (SCHW.) FR.

チヤウロコタケ

FRIES, Epicr. Myc. 546. 1838; Nov. Symb. Mycol. 93. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6:560. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 180. 1890—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:155, *f. 23*, *pl. 5*, *f. 43—45*. 1920—LLOYD, Myc. Writ. 7:1337, *.3098*. 1925—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 372. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 323. 1933; Ann. Myc. 38 : 64. 1940.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38 : 10. 1911; 4, Lett. 45:4, 5. 1913; Lett. 46:3. 1913; 6:963, 1096. 1920; 7 : 1126. 1922; 7 : 1320. 1924—安田, 植. 雜. 26:19. 1912;31:43. 1917—梅村, 植. 雜. 28:358. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 378. 1927—金平, 臺. 博. 會. 報. 36:88. 1918—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5 : 67. 1931; 7:73. 1942—今關, 日. 隱. 植. 圖. 391, *pl. 186*, *f. 1*. 1939; 植. 硏. 雜. 17 : 175. 1941; 植. 分. 地. 13:247. 1943—西門, 三橋及中山, 農學硏究, 34 : 454, (大阪營林局報附錄, 9), *pl. 2*, *f. 15—6*; *pl. 3*, *f. 21—2*. 1942—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 242, *f. 76*. 1945—千葉及寺本, 東大. 農. 演. 林. 報. 43:28. 1952—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

Thelephora fasciata SCHW. Syn. Fung. Carol. 106. 1822.

Thelephora Ostrea NEES, Acta Acad. Leop. Carol. Nov. 13 : 13, *pl. 2*. 1826—FRIES, Elench. Fung. 1:175. 1828; Nov. Symb. Mycol. 93. 1851.

Thelephora versicolor β. fasciata FR. Elench. Fung. 1 : 175. 1828—SCHWEINITZ, Trans. Am. Phil. Soc. N. S. 4 : 167. 1832.

Stereum ostreum FR. Epicr. Myc. 547. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6:571. 1888—BRESADOLA, Hedwigia, 51 : 321. 1912.

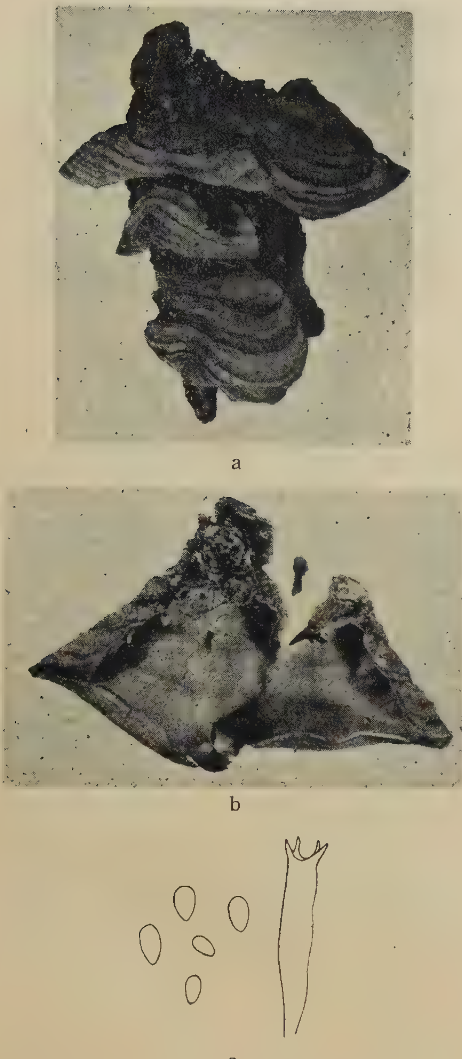
(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1345. 1925)

Thelephora mollis LÉV. Ann. Sci. Nat. Bot. III, 5 : 147. 1846.

Stereum arcticum FR. Hymen. Eur. 639. 1874.

Stereum molle SACC. Syll. Fung. 6 : 577. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:175. 1890—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 187. 1892.

子實體は半背着生，革質，强靱，傘は半圓形，扇形等をなし，多數覆瓦狀に疊生す，1—5×1—4 cm，厚さ 0.5—1 mm，上面は黄白色或は材色を帶び，屢々褐色乃至赤褐色の著しき輪紋を有す，全體に短密毛あるか或は平滑部と密毛部と輪狀に交互す，縁は薄く刄狀，黄味を帶び，全縁又は淺裂す，肉は白色，殆ど無色の菌絲より成る，傘の背面に接して暗褐色の皮層あり。子實層は略々白色或は淡黄白色，乃至淡褐色，平滑，嚢狀體なし。胞子は 6×2.5—3 μ，無色。木材白腐を起す。



第112圖 チヤウロコタケ *S. fasciatum*
a. 傘の表面 ×2/3 b. 同裏面 ×1
c. 擔子柄及胞子 ×612 (大谷氏)

所在及産地

廣葉樹及針葉樹枯木上, シイタケ榾木上
全土一歐. 北南米. 濠. 南洋. 亞(西比. 支. 臺)

和名 チヤウロコタケ (茶鱗茸)

Stereum versicolor (SWARTZ) FR.

フジウロコタケ

FRIES, Epicr. Myc. 547. 1838; Nov. Symb. Mycol. 94. 1851—BERKELEY, Ann. Mag. Nat. Hist. 10: 382, *pl. 11, f. 13.* 1842—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 561. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 172. 1890—SPEGAZZINI, Fungi Chilenses, 10. 1910—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 166, *pl. 5, f. 47.* 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 13. 1912—梅村, 富士. 植. 誌. 382. 1923—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 380. 1927—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

Helvella versicolor SWARTZ, Nov. Gen. Sp. Pl. 149. 1788.

Thelephora versicolor SWARTZ, Fl. Ind. Occ. 3: 1933. 1806—FRIES, Syst. Myc. 1: 438. 1921.

Stereum radians FR. Nov. Symb. Myc. 94. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 573. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 188, *pl. 7, f. 5.* 1890—PATOUILLARD, Ess. Tax. 72. 1900.

子實體は半圓形或は介殼狀の傘を作る, 1—2.5×1.5—4 cm, 疊生す, 革質, 甚だ薄し, 表面は淡卵黄色, 放射狀に倒伏する絹毛束を被むる, 後毛は不明瞭となり, 光り, 放射狀小皺を生じ, 肉桂色或は濃褐色となる, 周緣は全緣。子實層面は平滑, 淡黄色乃至淡灰褐色, 肉は厚さ 300—400 μ。嚢狀體, 粘嚢體及色素管なし。胞子は平滑, 無色, 4—5×2—2.5 μ。

所在及産地

廣葉樹幹上 本州一北南米. 南阿. 濠

和名 フジウロコタケ (富士鱗茸) 〔梅村〕.

Stereum rameale (SCHW.) BURT

ミヤマチヤウロコタケ

BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 169, *f. 24, pl. 5, f. 48.* 1920.

Thelephora ramealis SCHW. Syn. Fung. Carol. 106. 1822.

Thelephora hirsuta β. ramealis SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. N. S. 4: 167. 1832.

Stereum complicatum FR. Epicr. Myc. 548. 1838; Nov. Symb. Mycol. 94. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 579. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 178. 1890.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32: 38. 1903—松村, 植. 名鑑, 1. 175. 1904—白井, 日. 菌. 目. 95. 1905; ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 378. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61: 6. 1916—安田, 植. 雑. 30: 394. 1916; 31: 43. 1917—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

Thelephora lobata BERT. Mém. Acad. Sci. Bologna, I, 7: 360, *pl. 19, f. e–g.* 1856—UNDERWOOD & EARLE, Bull. Alabama Agr. Exp. St. 232. 1897.

Stereum radians (non FR.) MORGAN, Jour. Cincinn. Soc. Nat. Hist. 10: 194. 1888.

Stereum Bertolonii SACC. Syll. Fung. 11: 210. 1895.

子實體は半背着生, 革質, 硬し。傘は介殼狀にて

縁邊時に淺裂し，稀に背着す，2—3.5×1.5—2.3cm，薄し，傘面には稍々剛毛を有するも周縁は無毛なり，基部に放射狀の微毛あり，光澤を有し，淡黄褐色乃至淡褐色，多少環紋あり。子實層面は平坦，無毛，淡黄色或は淡黄褐色，肉は厚さ 300—450μ，囊狀體，粘囊體なし。胞子は圓筒形，少しく彎曲，平滑，無色，6—7×2—2.5μ。

所 在 及 產 地

コナラ (*Quercus*) 其他廣葉樹の枯木上

本州，四國—北米

和 名　ミヤマチヤウロコタケ(深山茶鱗茸)〔安田〕

Stereum vibrans BERK. et CURT.

サビウロコタケ

BERKELEY & CURTIS, Jour. Linn. Soc. 10:332. 1868—SACCARDO, Syll. Fung. 6:577. 1888—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:179, *pl.5*, *f.52*. 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53:8. 1914—安田，植. 雜. 28:521. 1914; 31:44. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 381. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 389, *pl. 185*, *f. 5—6*. 1939; 及土岐，林. 試. 硏. 報. 67:22. 1954—西門，三橋及中山，農學研究，34:455. (大阪營林局報附錄，10)*pl. 2*, *f. 17—18*; *pl. 6*, *f. 28*; *pl. 8*, *f. 36*. 1942—原，日. 菌. 目. 355. 1954)

Hymenochaete vibrans MASS. Jour. Linn. Soc. 27:117. 1891.

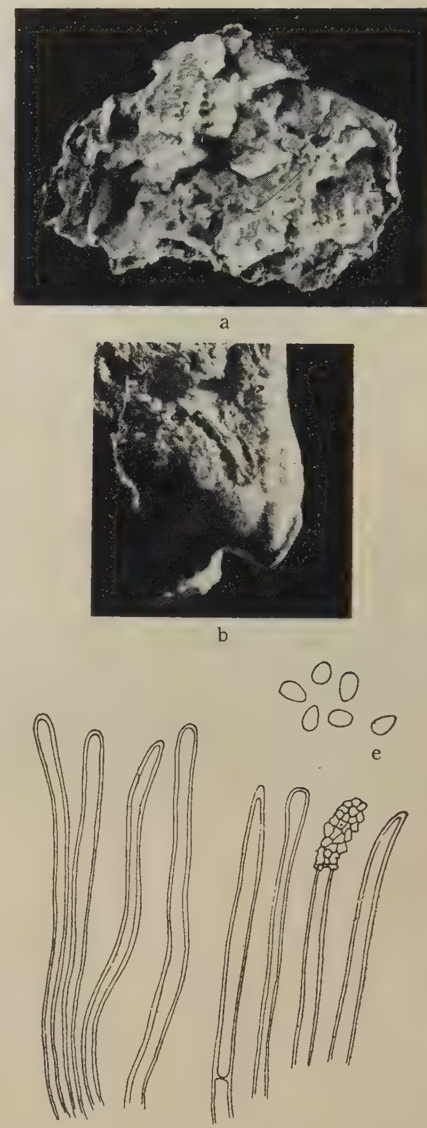
(安田，植. 雜. 28:521. 1914—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 289. 1917; ed. 3. 169. 1927)

Stereum liratum LLOYD, Myc. Writ. 5:764, *f.1148*. 1918; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 55. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917; 764, *f. 1148*. 1918)

Hymenochaete lirata T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44:154. 1930. (原，日. 菌. 目. 159. 1954)

子實體は革質，半圓形，中央にて基物に着生，或は扇形にて側邊にて癒着，裂片となる，横徑 3—8cm，表面は著しく屈曲し，幼き部分は絨狀剛毛あり，附着部に近き古き部分は幾分無毛となる，狹き環溝を有し，幾分環紋あり，暗褐色，後焦茶褐色となる。子實層面は平坦，焦茶褐色乃至灰色，幾分粉狀なり，肉は厚さ 600—800μ，毛被の下に黑色の堅き殼皮あり，中間層は暗褐色，KOH 液にて黑色となる，子實層は1層，色素管，囊狀體或は有刺絲狀體なく，剛毛樣の菌絲は肉中の菌絲より稍々厚膜，先端鈍圓或は鋭尖，隔膜を有し，徑 4—5μ，屢々結晶を被む る。胞子は平滑，無色，4—5×2.5—3μ，材の白孔腐を起す。



第 113 圖　サビウロコタケ *S. vibrans*
a. 傘の裏面 ×2/3　b. 同表面
c. 傘面絨狀剛毛　d. 剛毛樣菌絲
e. 胞子 (c—e ×476)　(大谷氏)

所 在 及 產 地

廣葉樹枯幹上，シイタケ榾木上

本州，四國，九州—北米. 亞(支)

和 名　サビウロコタケ (銹鱗茸)〔安田〕

Stereum radiatum PECK

サビカワウロコタケ

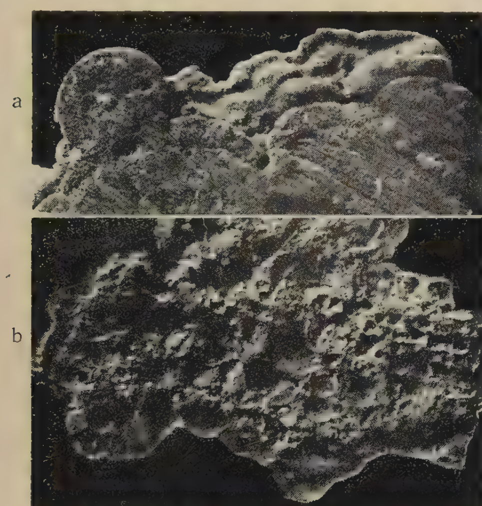
PECK, Bull. Buf. Soc. Nat. Sci. 1:62. 1873; Rept. N.Y.St.Mus. 26:72. 1874—SACCARDO, Syll. Fung.

6 : 571. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 195. 1891—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7 : 181, *pl. 5*, *f. 53*. 1920—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 373. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 324. 1933; 51 : 411. 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1265. 1924; 1338, *f. 3108*. 1925)

Stereum radiatum var. *reflexum* PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 49 : 45. 1896—SACCARDO, Syll. Fung. 14 : 217. 1900.

子實體は革質，薄く，背着して徑 2—10×3cm に及び，全周緣は總て遊離し，時に上方に反轉す，反轉部は幅 2—8mm，上面黑色，絨毛を被むり，細波狀，緣は幾分淺裂す。子實層面は平坦ならず，光澤



第 114 圖 サビカワウロコタケ *S. radiatum*
a. 子實體の傘面 ×2　b. 同子實層面 ×1
（大谷氏）

なく，中央より放射する廣き低き皺あり，鮮かなる銹色を呈す，肉は厚さ 1000μ，密に縱列する徑 3.5—4μ の有色菌絲より成る，この菌絲の色は KOH 液によりて脫色さる。嚢狀體なし，胞子は圓壔形，少しく屈曲，平滑，無色，9—10×3.5—4μ。

所在及產地　針葉樹及廣葉樹の腐材上

北海道—北米・歐・亞（西比）

和名　サビカワウロコタケ（銹皮鱗茸）

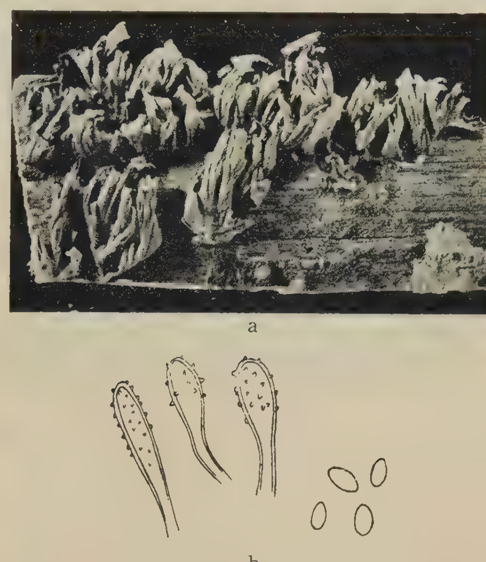
Stereum spectabile KLOTZ.

モミジウロコタケ

KLOTZSCH, Nova Acta Acad. Leop. Carol. 19 : 238, *pl. 5*, *f. 2*. 1843—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 569. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 172. 1891—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 45 : 460. 1918.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 49 : 10. 1914; Lett. 56 : 4. 1915; 5 : 745, *f. 1118*. 1917; Lett. 66 : 7. 1917; 7 : 1296, 1321. 1924; 1334, *f. 3075*. 1925; 1345. 1925—安田，植．雜．28 : 150. 1914; 31 : 44. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 639. 1917; ed. 3. 380. 1927—今關，日．隱．植．圖．391, *pl. 186*, *f. 5*. 1939—原，日．菌．目．354. 1954)

子實體は扇形にて多數裂片に深裂し掌狀をなし，夥しく多數疊生す，革質にて極めて薄く，表面は平滑，放射狀の細條と環紋を有し，淡褐色乃至赤褐色，絹絲樣光澤あり，緣は內下方に著しく屈曲す，肉は



第 115 圖 モミジウロコタケ *S. spectabile*
a. 子實體 ×1　b. 有刺絲狀體及胞子 ×612
（大谷氏）

白色なり，子實層は平滑，灰白色，嚢狀體なく，有刺絲狀體あり，その絲狀體は棍棒形，上端少しく太く，微細なる突起を有す，無色にて徑 3μ。

所在及產地

廣葉樹（ナラ，カシ等）枯枝幹上

本州，四國，九州—濠．阿．亞（馬．比）

和名　モミジウロコタケ（楓鱗茸）〔安田〕

Stereum annosum BERK. et BR.

オオカタウロコタケ

BERKELEY & BROOME, Jour. Linn. Soc. 14 : 67. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 586. 1888—BRESADOLA, Hedwigia, 53 : 76. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1008, *f. 1857*. 1920—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. Peradeniya, 9 : 268. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1345. 1925—今關，植．研．雜．15 : 587, *f. 18—19*. 1939—原，日．菌．目．353. 1954)

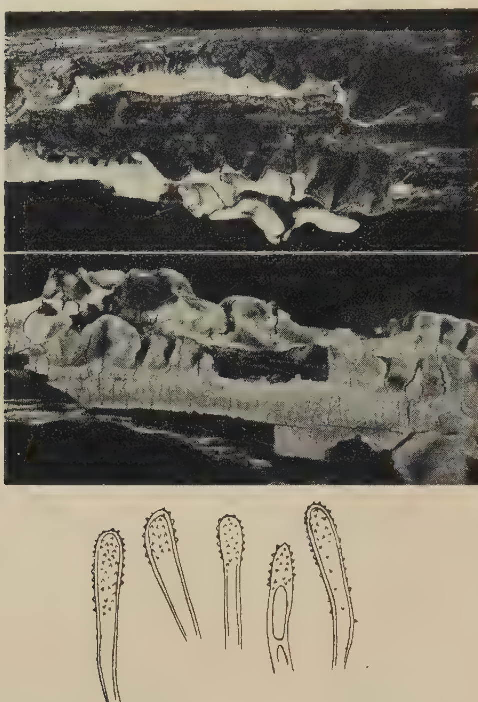
Stereum durum BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7 : 226, *f. 46*, *pl. 6*, *f. 75*. 1920.

Stereofomes annosus RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 54. 1934.

子實體は背着生（徑 3cm）或は上縁反轉し傘を作る（1cm），上背面は細き多數の環溝を並生し，平滑，無毛，黑色なり。子實層面は平坦，無毛，帶白色乃

a

b



c

第116圖　オオカタウロコタケ *S. annosum*
a. 子實體 ×4/5　　b. 同 ×1.5
c. 有刺絲狀體 ×612　　（大谷氏）

至淡赤黃色或は淡肉桂色，粉狀，屢々疎なる龜裂を生ず，肉は厚さ 2—3mm，濃肉桂色，KOH 液にて忽ち黑變す。囊狀體なく，有刺絲狀體の多數を子實層內に生ず，圓筒形，12—15×4—5μ，木材白色孔腐を起す。

所在及產地

カシ類（*Quercus*）シイ（*Shiia*）サクラ（*Prunus*）ハゼ（*Rhus*）等の樹幹上
本州，九州—亞（錫. 爪. 比）北南米

和名　オオカタウロコタケ（大堅鱗茸）〔今關〕

Stereum kurilense YAS.
チシマウロコタケ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 38 : 145. 1924.
（白井，日. 菌. 目. ed. 3. 379. 1927—原，日. 菌. 目. 353. 1954）

子實體は半背着生にて，緣邊少しく反轉し波狀をなし，傘狀をなす，2—20×1—3cm，革質，稍々厚し，厚さ 0.5—2mm，傘面は栗褐色，平滑にて不規則なる凹凸ありて環溝あり。子實層面は平滑，龜裂を生じ，帶白材色，處々に淡褐色を呈せる稍々濃色の部分あり，肉は材色，細き橫層を有す，子實層內に有刺絲狀體あり。胞子は圓柱狀楕圓形，平滑，無色，8—10×3—4μ。

所在及產地

カシワ（*Quercus*）樹皮面　　千島，北海道

和名　チシマウロコタケ（千島鱗茸）〔安田〕

Stereum vellereum BERK.
ケウロコタケ

BERKELEY, Fl. N. Zeal. 183. 1853—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 579. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 173. 1892—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 184. 1892—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 251, *f. 56*. 1935.
（LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 46 : 4. 1913）

子實體は半背着生。傘は半圓形或は介殼狀をなし，深裂し，屢々基部狹細，多數疊生す，幅 1.2cm に及ぶ，表面は剛毛を密布し，環紋及環溝あり，淡材色，淡桃色或は褐色，子實層面は平滑，淡灰褐色。胞子は圓筒形，平滑，無色，5.5—6×2μ。

所在及產地

廣葉樹枯枝上　　本州—濠

和名　ケウロコタケ（毛鱗茸）

Stereum illudens BERK.
アズマウロコタケ

BERKELEY, Lond. Jour. Bot. 4 : 59. 1845—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 571. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 181. 1890—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 185. 1892—LLOYD, Myc. Writ. 5 : 785, *f. 1178—1179*. 1918—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 251. 1935.
（安田，植. 雜. 34 : 322. 1920; 38 : 146. 1924—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 379. 1927—原，日. 菌. 目. 353. 1954）

Stereum spiniferum LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51 : 4, *f. 565*. 1914; Lett. 60 : 11. 1915）

子實體は半背着生，革質，傘は半圓形或は貝殼狀，薄く，徑 1—2cm，表面は褐色にて濃褐色の環紋あり，剛毛を密布す，子實層面は平滑，紫褐色或は褐色，粉狀，肉は薄く，濃褐色，有刺絲狀體を有し，囊狀體を缺く。胞子は圓筒狀楕圓形，平滑，無毛，5—7×2—2.5μ。

所在及産地

クリ (*Castanea*) の樹皮上　　九州一濠

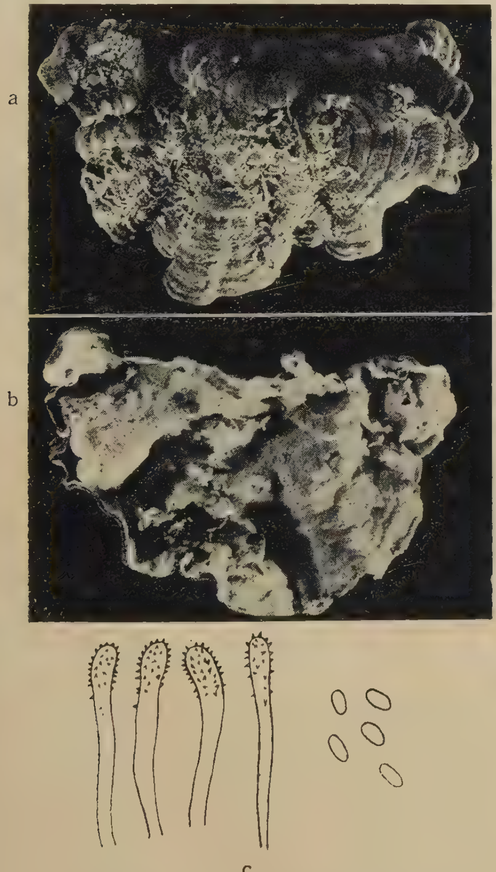
和名 アズマウロコタケ（東鱗茸）〔安田〕

Stereum princeps (JUNGH.) LÉV.
オオウロコタケ

LÉVEILLÉ, Ann. Sci. Nat. Bot. III, 2:210. 1844—SACCARDO, Syll. Fung. 6:570. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:170. 1890—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club. 45:460. 1918—LLOYD, Myc. Writ. 6: 923, *f. 1653*. 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 33:1. 1911; 4, Lett. 46:4. 1913; Lett. 54:3. 1915; 6:1096. 1920—安田, 植. 雜. 29:295. 1915; 31:44. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 380. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 393, *pl. 187, f. 3—4*. 1939; 植. 硏. 雜. 15:579. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 238. 1945—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

Thelephora princeps JUNGH. Fl. Crypt. Java, 1:39. 1838.



第117圖　オオウロコタケ *S. princeps*
a. 子實體傘面　b. 同子實層面(a—b)　×1/2
c. 有刺絲狀體及胞子　×612　（大谷氏）

Stereum scytale BERK. Jour. Bot. Kew Gard. Misc. 6:170. 1850.

Stereum contrarium BERK. Jour. Linn. Soc. 16:52. 1878—SACCARDO, Syll. Fung. 6:579. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:188. 1890.

（松村, 植. 名鑑, 1:175. 1904—白井, 日. 菌. 目. 95. 1905; ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 378. 1927）

子實體は多年生，木質，堅硬にて稍々脆し。傘は表面波狀をなせる半圓形，時に基部着生物上に垂下背着し，或は基部狹小となりて扇形となる，普通多數疊生し，甚だ大形，4—10×3—6×0.1—0.3cm，表面は濃肉桂色の緻密なる絨毛帶と黑色の平滑帶と交互し著しき淺き環溝を有す，肉は濃肉桂色にて背面に黑色の薄き殼皮あり。子實層は汚白色乃至淡黃褐色にて粉狀なり，子實層は層をなし，最新層は無色，舊層は淡黃色を呈す，子實層の表面は KOH 液によつて忽ち暗褐色より黑色に變ず。胞子は楕圓形，無色，平滑，約 4×2.5μ。嚢狀體及び剛毛體なく，多數の有刺絲狀體を有す，この絲狀體は棍棒形にて頂端に微細なる突起を帶び，徑 3—4μ，木材白色孔腐を起す。

所在及産地

カシ類 (*Quercus*) の枯幹，倒木上

本州，四國，九州一亞(臺. 爪. 比. 印. 支)

和名 オオウロコタケ（大鱗茸）〔安田〕

Stereum hiugense IMAZ.
ヒウガオオウロコタケ

IMAZEKI, Jap. Jour. Bot. 15:580, *f. 16—17*. 1939. (原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

傘は多年生にて無莖或は基部垂生背着し上部反轉す，半圓形或は橫に廣く，生時革質，乾時革狀木質にて堅緻，1—3×2—10×約0.1cm，表面は不規則に襞狀波曲す，緣は薄く，內屈し，波狀をなし，僅か淺裂す，表面に多數の環紋及環溝あり，永存的の密絨樣軟毛を被むる，毛層厚さ約 50μ ありて厚膜の帶赤黃色の幅 3.5—7.5μ の菌絲より成る，傘肉は淡肉桂色或は材色にて厚膜なる帶赤黃色，幅 4—7μ の菌絲及び薄膜なる無色幅 3—4μ の菌絲より成る，KOH 液により徐々に褐色となる，子實層は生時鈍橙黃色にて，乾時灰白色となり，層を有す。嚢狀體を缺き，有刺絲狀體を多生す，これは無色にて，徑 3—4μ，棍棒形にて先端部に小突起を有す。胞子は無色，圓壔形，基端有嘴，5—6×2.5μ。木材の白腐を起す。

所在及産地 カシ類 (*Quercus*) 枯幹上　九州

和名 ヒウガオオウロコタケ(日向大鱗茸)〔今關〕



第118圖 ヒウガオオウロコタケ *S. hiugense*
a. 子實體の傘面 ×1 b. 同子實層面 ×2/3
c. 有刺絲狀體及胞子 ×612 (大谷氏)

Stereum roseo-carneum (SCHW.) FR.

スミレウロコタケ

FRIES, Nov. Symb. Myc. 96. 1851—PATOUILLARD, Ess. Tax. 73. 1900—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7 : 229, *f. 48*, *pl. 6*, *f. 77*. 1920.

(西門, 三橋及中山, 農學研究, 34:449, (大阪營林局報附錄, 4) *pl. 1*, *f. 4*; *pl. 5*, *f. 25*; *pl. 8*, *f. 32—35*, 1942—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

Thelephora roseo-carnea SCHW. Syn. Fung. Carol. 107. 1822.

Thelephora anthrochroa (non PERS. nec FR.) SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. n.s. 4 : 168. 1832.

Corticium lilacino-fuscum BERK. et CURT. Grev. 1 : 180. 1873—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 143. 1890—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 621. 1888.

Corticium subrepandum BERK. et COOKE, Grev. 6 : 81. 1878—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 119. 1890—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 608. 1888.

Stereum lilacino-fuscum LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68 : 8. 1919.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67 : 11. 1918; 69 : 10. 1919)

Stereum sendaiense YASUDA, in LLOYD, Myc. Writ. 5 : 680, *f. 1015*. 1917.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 13. 1917—安田, 植. 雜. 31 : 221. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 380. 1927)

子實體は柔軟革質, 普通背着し, 擴布癒着し, 6×1.5cm に及ぶ, 時に緣は遊離し, 稀に明かに反轉す, 1—3mm, 表面は密綿毛を被むり, 淡黃白色乃至淡桃色なり, 環層あり, 緣は全緣。子實層面は平坦, 龜裂し, 光澤なく, 幼時淡紅紫色, 熟時漸次灰褐色に變ず, 肉は厚さ 250—300 μ, 幼時子實層は 1 層, 多數の著しき絲狀體を有す, 絲狀體は絲狀にて先端有色, 分岐して鹿角樣となる, 擔子柄の形成によつて稍々不明瞭となる, 胞子は楕圓形, 1 側扁平, 平滑, 無色, 6—9×4—5 μ。

所在及產地

廣葉樹枯枝上, シイタケ榾木上 本州—南北米

和名 スミレウロコタケ (菫鱗茸) 〔安田〕

Stereum frustulosum (PERS.) FR.

カタウロコタケ

FRIES, Epicr. Myc. 552. 1838; Hymen. Eur. 643. 1874—FUCKEL, Symb. Myc. 28. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2 : 359. 1873; Enchir. Fung. 206. 1886—GILLET, Champ. Fr. 749. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 308. 1876—WINTER, Pilze 1 : 342. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 572. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1153. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 199. 1890; Brit. Fung. Fl. 1 : 134. 1892; Brit. Fungi, 424. 1911—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 318. 1891; Brit. Basid. 406. 1908—PATOUILLARD, Ess. Tax. 72. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 5 : 696, *f. 1040—1042*. 1917; 7 : 1336, *f. 3087*. 1925—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1) : 96, *pl. 18*, *f. 3*. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7 : 227, *f. 47*, *pl. 6*, *f. 76*. 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 37 : 124. 1921; Hymen. Fr. 383. 1928—REA, Brit. Basid. 665. 1922.

(白井, 日. 菌. 目. 95. 1905; ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 378. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54 : 3. 1915; 5 : 696, *f. 1041*. 1917; 6 : 980. 1920—北島, 林. 試. 報. 28 : 34, *pl. 3*, *f. 23—4*, *pl. 8*, *f. 28*. 1928—今關, 日. 隱. 植. 圖. 393, *pl. 187*. *f. 5*. 1939; 植

硏. 雜. 15:585. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 243, *f. 77.* 1945—千葉及寺本, 東大. 農. 演. 林. 報. 43: 29. 1952—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

Thelephora frustulata PERS. Syn. Meth. Fung. 577. 1801; Myc. Eur. 1:134. 1822—DC. Fl. Fr. 6:31. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1:445. 1821; Elench. Fung. 1:191. 1828—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 393. 1844.

Thelephora sinuans PERS. Myc. Eur. 1:128. 1822.

Thelephora perdix HARTIG, Zersetz. Holzes. 103, *pl. 13.* 1878.

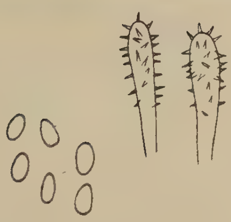
Xenocarpus frustulosus KARST. Hattsv. 2: 134. 1882.

Xylobolus frustulosus KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 404. 1889.

子實體は全背着生，徑 0.2—1cm，初め半球形の小疣，後擴大し多數隣接するも癒合せず，壓接して不規則多角形となり，恰も龜裂によりて小片に分割



a



b

第 119 圖　カタウロコタケ *S. frustulosum*
a. 子實體 ×1　b. 有刺絲狀體及胞子 ×612
(大谷氏)

されたる觀を呈す，木質，堅硬，多年生，厚さ 2mm 內外，緣は黑色を呈す。子實層面は中高，灰白色乃至淡赤褐色，粉狀，肉は肉桂色，多層。胞子は長卵形或は卵形，平滑，無色，5—6×3—3.5μ。子實層內に有刺絲狀體を混在す。木材白色孔腐を起す。

所在及產地

カシ類 (*Quercus*) 枯木上
全土—歐. 北米. 亞(支)

和名　カタウロコタケ（堅鱗茸）〔安田〕

Stereum odoratum FR.
ニオイウロコタケ

FRIES, Epicr. Myc. 553. 1838; Hymen. Eur. 644. 1874—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2: 359. 1873; Elench. Fung. 207. 1886—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:309. 1876—WINTER, Pilze 1:341. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 584. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1154. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 198. 1890—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 94. 1912—BRESADOLA, Ann. Myc. 18: 63. 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 37: 128. 1921.

(安田, 植. 雜. 30:154. 1916; 31:43. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 639. 1917; ed. 3. 379. 1927—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

Thelephora odorata FR. Syst. Myc. 1:445. 1821; Elench. Fung. 1:207. 1828—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 392. 1844.

Xerocarpus odoratus KARST. Hattsv. 2: 137. 1882.

Phanerochaete odorata KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 427. 1889.

Corticium odoratum BOURD. et GALZ. Hymen. Fr. 225. 1928.

子實體は廣く擴布し，全背固着，栓質，薄くして限界なく，互に癒着す，多年生にて多層，表面灰白色乃至灰黃色，粉狀，初め絨毛あるも後無毛となる。胞子は稍々船形，平滑，無色，7—8×3.5—4μ。生時香あり。乾時香なし。

所在及產地

針葉樹の枯幹上　　四國，小笠原島—歐

和名　ニオイウロコタケ（香鱗茸）〔安田〕

疑問種

Stereum duriusculum BERK. et BR.
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45:4. 1913; 5, Lett. 63:8. 1916—梅村, 富士. 植. 誌. 382. 1923—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 375. 1927—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

Stereum pusillum BERK.
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66: 7. 1917)

Stereum sepium LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68: 12. 1918; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 58. 1936. (non BURT, 1920)
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68: 7. 1918)

Stereum palmicolum = *Stereofomes palmicola* S. ITO et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16: 128. 1940. (胞子未詳)

Lloydella BRES.
マツノウロコタケ屬

BRESADOLA, in LLOYD, Myc. Writ. 1:51. 1901.

本屬の性質はウロコタケ屬(*Stereum*)と同様なるも，嚢狀體（粘嚢體を含む）の存在によりて區別さる。

（本屬名は米國菌學者 CURTIS GATES LLOYD 氏の姓より出づ）

基準種　*L. cinerascens* (SCHW.) BRES.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は半圓形坐生或は半背着。
 a. 粘嚢體を有す。
  α. 柔軟，海綿質，暗褐乃至黑褐色，環溝あり，反轉部 1—4cm，肉は表面の方有色。
   ウラジロウロコタケ ***L. bicolor*** (144)
  β. 木栓革質，褐色，環紋明かならず，反轉部 0.6—2cm，肉は暗褐色。
   マンサクウロコタケ ***L. hamamelidis*** (145)
 b. 普通の嚢狀體を有す。
  α. 嚢狀體は暗色或は暗色となる，圓筒形，鈍頭，結晶を有す，針葉樹上。
   I. 革狀海綿質，乾燥，背着すること多く，子實層面粉狀，多層。
    マツノウロコタケ ***L. abietina*** (145)
   II. 甚だ厚く，氈狀，環溝あり，乾時アニス香あり，有色埋在の胞子を有す。
    カオリウロコタケ ***L. rugispora*** (146)
  β. 嚢狀體壁は粗面或は結晶を被むり，全部或は結晶の下部幾分有色，尖頭，色素管に類似せず。
   I. 傘の上面淡材色，子實層面美淡紫色，乾時煙草色，嚢狀體は淡黃色，平滑，粗面或は結晶あり，40—90×5—15μ。
    カミウロコタケ ***L. umbrina*** (146)
   II. 傘の上面暗渇色，子實層面帶黃褐或は帶綠褐色，嚢狀體は淡褐色，平滑，粗面或は結晶あり，25—40×6—10μ。
    オカベウロコタケ ***L. okabei*** (147)
  γ. 嚢狀體は結晶を有し，無色，絲狀體は著しからず。
   I. 木栓質，剛直，環溝あり，黑褐色，子實層赤味を帶ぶ，嚢狀體は 30—50×8—12μ，針葉樹上。
    カサウロコタケ ***L. sulcata*** (147)
   II. 革質，煙草色，環溝あり，毛被の下に角狀殼皮あり，子實層は白色，嚢狀體は 30—36×7μ，カシ樹上。
    コカサウロコタケ ***L. subpileata*** (148)
   III. 極めて薄く，栗褐色，平滑，子實層は淡紅色，嚢狀體は 56—70×16—24μ，廣葉樹上
    ウスベニウロコタケ ***L. rosea*** (149)
  δ. 嚢狀體は結晶を有し，無色，絲狀體は色及形著し。
   I. 前記コカサウロコタケに類似するも，子實層に嚢狀體の外に多數の有刺絲狀體を有す
    コカサウロコタケモドキ ***L. sepia*** (149)
   II. 狹く反轉し，暗褐色，徑 2—10mm，子實層は絨毛狀，黑褐色，絲狀體は有色，先端に叢枝を有す。
    ヒメサビウロコタケ ***L. versiformis*** (149)
B. 全背着，子實層面は凹凸あること多く，絨狀の觀を呈す。
 a. 子實層面は淡き柔皮色，胞子は 6×5μ，或は 4—6μ。
   ヤマトウロコタケ ***L. japonica*** (150)
 b. 子實層面は褐色，胞子は 5—7×2—3μ。
   シマウロコタケ ***L. boninensis*** (150)

Lloydella bicolor (PERS.) BRES.

ウラジロウロコタケ

BRESADOLA, in LLOYD, Myc. Writ. 1:51. 1901; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 46. 1936.

（千葉及寺本，東大. 農. 演. 林. 報. 43:28. 1952）

Thelephora fusca SCHRAD. Spic. Fl. Germ. 184. 1794.

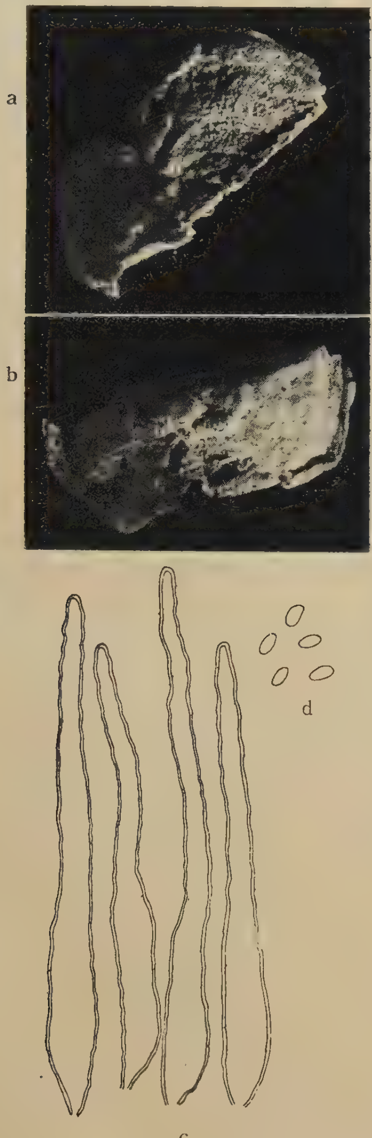
Thelephora bicolor PERS. Syn. Meth. Fung. 568. 1801; Myc. Eur. 1:122. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1:438. 1821—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 394. 1844.

Stereum bicolor FR. Epicr. Myc. 549. 1838; Hymen. Eur. 640. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2: 125. 1882—QUÉLET, Enchir. Fung. 205. 1886—WINTER, Pilze 1:344. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:565. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 177. 1891—REA, Brit. Basid. 655. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:15. 1912; Lett. 45:5. 1913; Lett. 46:5. 1913; Lett. 53:7. 1914; Lett. 61:5. 1916; 5, Lett. 68:7. 1918—安田，植. 雜. 26:362. 1912; 31:43. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 378. 1927—澤田，臺. 博. 學. 報. 25:180. 1935; 臺. 菌. 調. 報. 7:71. 1942—今關，日. 隱. 植. 圖. 389, *pl. 185, f. 1—2*. 1939—原，日. 菌. 目. 353. 1954)

Stereum coffeatum BERK. et CURT. Grev. 1: 164. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6:568. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:190. 1891.

Stereum fuscum KARST. Icon. Hymen. 6, *pl. 2, f. 9.* 1884; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 397. 1889—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 13: 283. 1884; Fl. Myc. Fr. 14. 1888—BRESADOLA, Hymen. Kmet. 106. 1897; Icon. Myc. 22: *pl. 1067, f. 1.* 1932—PATOUILLARD, Ess. Tax. 73. 1900—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 117, *f. 10, pl. 4, f. 26.* 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 37: 123. 1921; Hymen. Fr. 382. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 323. 1933; 51: 411. 1935; Ann. Myc. 38: 64. 1940.



第120圖 ウラジロウロコタケ *L. bicolor*
a. 子實體の表面　b. 同裏面 (a—b ×1)
c. 粘嚢體　d. 胞子 (c—d ×400) (大谷氏)

Lloydella fusca SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1156. 1916—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 97. 1912.

子實體は幾分膜質，柔軟，海綿狀，往々背着，3—10×1—3cm，普通反轉し貝殼狀となり，長さ 1—4 cm，幅 2—5cm，屢々疊生す，絨毛を有し，後無毛となる，幾分環溝あり，乾時暗褐色乃至黑褐色なり，子實層面は平坦，無毛，白色，乾時乾酪色乃至淡鼠色，肉は厚さ 1000μ，表面の方有色，子實層部は無層，屈曲する粘嚢體あり，その大さ 20—60×5—7μ，稀に長さ90μに至る。胞子は無色，3—4.5×2—3μ。

所在及産地

マツ (*Pinus*) 其他廣葉樹枯幹上

全土—歐. 北米. 阿. 亞. (印. 臺. 西比. 支)

和名 ウラジロウロコタケ (裏白鱗茸) 〔安田〕

Lloydella hamamelidis (YAS.)

マンサクウロコタケ

Stereum hamamelidis YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 38: 75. 1924.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 379. 1927—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

子實體は全背展着，薄し，初め不規則なる圓形，後數個癒着して樹皮面を縱走す，乾時木栓革質を帶び，緣邊上方に向つて反捲遊離す，徑 0.6—2cm，癒着して長さ 10cm に至る，厚さ 0.3—0.5mm，遊離緣の表面は褐色，壓低されたる密毛を有し，環紋明かならず，肉は暗褐色なり，子實層面は灰褐色，多數の龜裂を有し，粉狀，嚢狀體なく，粘嚢體は深く組織內に埋在し，棍棒形，先端鈍圓，平滑，無色，48—74×7—13μ，胞子は圓柱形，少しく彎曲，平滑，無色，8—9×2—2.5μ。

所在及産地

マンサク (*Hamamelis*) の枯枝上　本州

和名 マンサクウロコタケ (金縷梅鱗茸) 〔安田〕

Lloydella abietina (PERS. ex FR.)

マツノウロコタケ

Thelephora striata SCHRAD. Spic. Fl. Germ. 186. 1794.

Thelephora abietina PERS. Syn. Meth. Fung. 573. 1801—FRIES, Syst. Myc. 1: 442. 1821.

Stereum abietinum FR. Obs. Myc. 1: 274. 1815; Epicr. Myc. 552. 1838; Hymen. Eur. 643. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 574. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 72. *f. 48.* 1900—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 186, *f. 28, pl. 5, f. 56.* 1920—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 322. 1933.

(千葉及寺本, 東大. 農. 演. 林. 報. 43: 28. 1952)

Stereum striatum FR. Epicr. Myc. 551. 1838; Nov. Symb. Mycol. 94. 1851; Hymen. Eur. 641. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 568. 1888.

Stereum glaucescens FR. Hymen. Eur. 644. 1874 —SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 575. 1888.

Hymenochaete fimbriata ELL. et EV. Jour. Myc. 1:149. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:599. 1888 —MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 113. 1890.

Hymenochaete abnormis PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 42:126, *pl. 1, f. 13—16.* 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 227. 1891.

Hymenochaete abietina MASS. Jour. Linn. Soc. 27 : 115. 1890.

Lloydella striata BRES. in LLOYD, Myc. Writ. 1 : 51. 1901.

子實體は革狀海綿質, 乾燥, 厚し, 背着擴布し, 2—8×2—5cm, 稀に反轉し, 幅 3—8mm の傘となる。その表面は密綿毛を被むり, 不明瞭なる環紋を有す, 暗栗褐色, 粒狀或は平坦ならず, 子實層面は淡灰乃至灰靑色, 肉は厚さ 400—900μ, 中間層と子實層とにて厚さ 300—600μ, 毛被の下に暗色なる密なる層を有す, 子實層は有層, 多數の囊狀體を含む, 囊狀體は有色にて圓筒形, 鈍頭, 平坦或は粗面又は多少結晶を被むり, 色素管に多少似たる觀を呈し, 90—150×6—8μ, 60μ 程抽出す, 胞子は楕圓形, 1側扁平, 平滑, 無色, 9—13×4—5μ。

所在及産地　針葉樹の材上
　　北海道, 本州—歐. 北米. 亞(西比)

和名　マツノウロコタケ
　　(松鱗茸)〔千葉及寺本〕

Lloydella rugispora (ELL. et EV.)
カオリウロコタケ

Hymenochaete rugispora ELL. et EV. Proc. Acad. Nat. Soc. Phil. 1890:219. 1890—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 228. 1891.

Stereum rugisporum BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7 : 188, *f. 29, pl. 6, f. 58.* 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1128. 1922)

子實體は革狀海綿質, 乾燥, 厚し, 半背着生, 背着部は徑 1—4cm, 時に癒合し倚大形となる, 反轉部は長さ幅共に 1—4cm, 時に横に癒着して 6—8cm に及ぶ, 傘の上面は毛茸を有し, 深き環溝あり, 幼時暗褐色, 後緣邊にその色を殘し, 他部は灰色に褪色し, 香を放つ, 子實層面は平坦, 類白色或は灰色, 肉は厚さ 2—3mm, 中間層と子實層との厚さ 800—1200μ, 中間層は密にて暗色, 子實層は有層, 時に有色の囊狀體及び有色の胞子を混在す, 囊狀體は有色, 圓筒形, 鈍頭, 平滑, 粗面或は結晶を被むり, 100—150×7—9μ, 120μ も抽出す, 之の囊狀體は有色菌絲の觀あるも, 傷時出血することなし, 胞子は平滑, 無色, 9—13×3—4.5μ。

所在及産地
　針葉樹枯木上　　本州—北米

和名　カオリウロコタケ (薫鱗茸)

Lloydella umbrina (BERK. et CURT.)
カミウロコタケ

Thelephora crassa LÉV. in GAUDICHAUD, Voy. Botnite Bot. 1:190, *pl. 139, f. 1.* 1846. (non *Stereum crassum* FR. Nov. Symb. Mycol. 95. 1851)

Stereum umbrinum BERK. et CURT. Grev. 1: 164. 1873—WAKEFIELD, Bull. Misc. Inform. 1915: 369. 1915—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 191, *f. 31, pl. 6, f. 59.* 1920—PILÁT, Ann. Myc. 38 : 65. 1940.

(今關, 日. 隱. 植. 圖. 389, *pl. 185, f. 3—4.* 1939—西門, 三橋及中山, 農學硏究, 34 : 447. (大阪營林局報, 附錄, 2) *pl. 1, f. 1—3; pl. 3, f. 19—20; pl. 7, f. 29—31.* 1942—千葉及寺本, 東大. 農. 演. 林. 報. 43 : 29. 1952—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

Hymenochaete crassa BERK. in COOKE, Grev. 8:148. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6:597. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 114. 1890.

Hymenochaete umbrina BERK. et CURT. in COOKE, Grev. 8 : 148. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6:598. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 113. 1890—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 8. 1934.

Hymenochaete vinosa COOKE, Grev. 8 : 149. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 600. 1888.

Hymenochaete multispinulosa PECK, Bot. Gaz. 7 : 54. 1882—SACCARDO, Syll. Fung. 6:600. 1888 —MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 108. 1890.

Hymenochaete scabriseta COOKE, in RAVENEL, Fungi Am. 717. 1882—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 113, *pl. 5, f. 7.* 1890.

Lloydella scabriseta V. HOEHN. et LITSCH. Sitzb. Akad. Wien, 115(1): 1580. 1906.

Hymenochaete purpurea COOKE et MORGAN, in COOKE, Grev. 11:106. 1883—SACCARDO, Syll. Fung. 6:597. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 115. 1890.

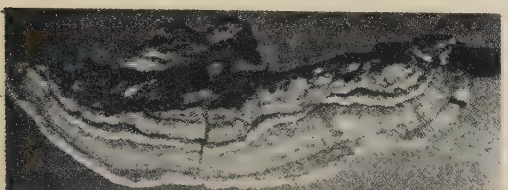
Kneiffia purpurea BRES. Ann. Myc. 1:100. 1903.

Peniophora intermedia MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25:143. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9:238. 1891.

Hymenochaete Kalchbrenneri MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:116. 1890—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 230. 1891.

Stereum membranaceum (non FR.)
(安田, 植. 雜. 27:503. 1913; 31:44. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 639. 1917; ed. 3. 379. 1927—澤田, 臺. 博. 會. 報. 25:234. 1935; 臺. 菌. 調. 報. 7:75. 1942)

子實體は半背着生, 上緣は反轉し半圓形乃至長き棚狀の傘となる, 柔軟なる革質を帶び, 厚さ 0.5—3 mm, 傘の上面は初め菫色, 後淡材色を呈し, 初



a



b

第121圖　カミウロコタケ *L. umbrina*
a. 子實體(西門氏による)　b. 嚢狀體 ×544
(大谷氏)

め密毛あるも後平滑, 肉は略々白色, 子實層は粉毛を帶び, 生時美しき淡紫色を呈し, 乾時紫色を失い, 煙草色となる。胞子は圓柱狀, 平滑, 無色, 7—8×3.5—4.5 μ, 嚢狀體は長紡錘形, 淡黄色の厚膜を有し, 表面に細き結晶を被むる, 40—90×5—15 μ, 子實層の下部より發し, 最長 40 μ 程抽出す。材の白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯枝上, シイタケ榾木上
全土—北南米. 濠. 亞(支. 臺)

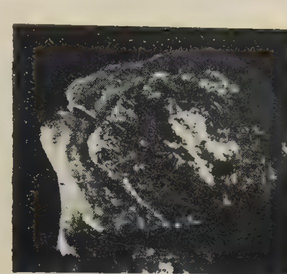
和名　カミウロコタケ (紙鱗茸)〔安田〕

Lloydella okabei S. ITO et IMAI

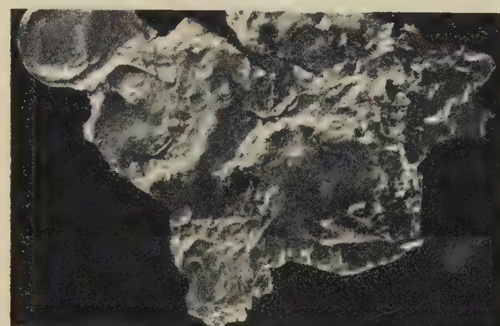
オカベウロコタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:132. 1940.

子實體は革質にて薄く, 廣く背面展着, 稀に僅か庇狀に反轉す, 反轉部上背面は暗褐色, 僅に毛茸あり, 子實層面は平坦或は凹凸あり, 帶黄褐色或は帶



a



b



c

第122圖　オカベウロコタケ *L. okabei*
a. 子實體の表面　b. 同裏面 (a—b ×1)
c. 嚢狀體及胞子 ×544　(大谷氏)

綠褐色, 白粉を被りたるが如き觀あり, 古きものは僅に龜裂を生ず, 肉は厚さ 150—550 μ, 古きものは子實層によつて層をなす, 嚢狀體は多數存在し, 長圓錐形或は紡錘形, 厚膜, 25—40×6—10 μ, 淡褐色, 平滑或は粗面, 上半部に結晶を着く, 胞子は楕圓形, 平滑, 無色, 7—8×5 μ。

所在及產地

ヤロード (*Ochrosia*) の樹皮面　小笠原島

和名　オカベウロコタケ (岡部鱗茸)〔今井〕

Lloydella sulcata (BURT) LLOYD

カサウロコタケ

LLOYD, Myc. Writ. 5:619, *f. 878—879.* 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 47. 1936.

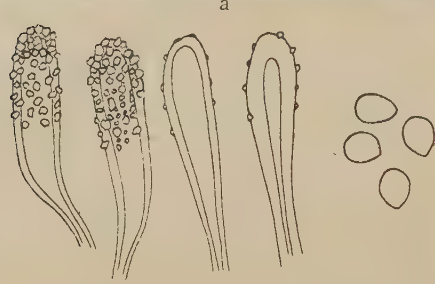
Stereum sulcatum BURT, in PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 54:134. 1901; Ann. Missouri Bot. Gard. 7:211, *f.39*, *pl.6*, *f.68*. 1920—LLOYD, Myc. Writ. 5:619, *f.878—879*. 1916—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 325. 1933.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:9. 1916—安田, 植. 雜. 31:40, 44. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed.3. 380. 1927—沼田, 林學. 雜. 13:662, *f*. 1931—山本, 伊藤, 臺. 博. 報. 22:437. 1932; 23:44. 1933—今關, 日, 隱. 植. 圖. 393, *pl. 187*, *f. 1—2*. 1039; 植. 硏. 雜. 15: 582. 1939—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 6:55. 1933; 7:76. 1942—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 236, *f. 71—2*. 1945—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

子實體は時に半背着，多くは側生，多年生，木栓質，堅硬，傘は貝殼狀或は不正鐘形，極めて大形にて徑 10 cm 以上に及ぶ，表面は灰褐色，基部黑褐色，無毛，厚き堅硬なる殼皮を被むり，著しき環溝並に



a



b

第 123 圖　カサウロコタケ *L. sulcata*
a. 子實體（龜井氏）×2/5
b. 嚢狀體及胞子 ×544　　（大谷氏）

放射狀の深き龜裂を有し，極めて粗荒なり，肉は厚く，600—1500 μ，殆んど白色或は材白色，多層，KOH 液に殆ど反應なし，子實層面は白色乃至黃白又は淡赤褐色，傷時赤味を增す，平坦ならず，時に小疣あり，嚢狀體は各層中に多數に存在し，棍棒形，厚膜，無色，表面に著しく結晶を被むる，32—65×7—24 μ，有刺絲狀體なし，胞子は類球形，無色，6—8 μ，材に大形，不規則なる白色孔腐を起す。

所在及産地
針葉樹(カヤ)樹幹上
本州—北米. 亞(臺. 西比)

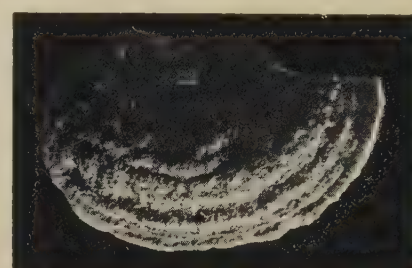
和名 カサウロコタケ（笠鱗茸）〔安田〕

Lloydella subpileata (BERK. et CURT.) V. HOEHN. et LITSCH.

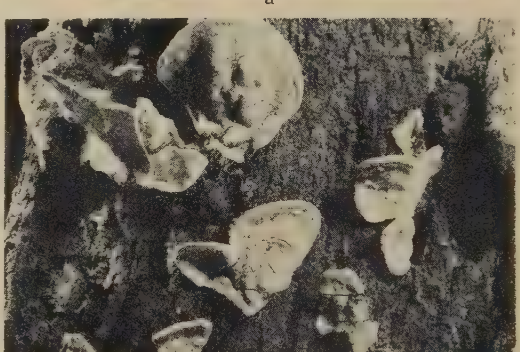
コカサウロコタケ

V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 757. 1907—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 97. 1912.

Stereum subpileatum BERK. et CURT. Lond. Jour. Bot. 1:238. 1849; Grev. 1:163. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 585. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:192. 1891—LONG, Jour. Agr. Res. 5: 421, *pl.41*. 1915—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:



a



b



c

第 124 圖　コカサウロコタケ *L. subpileata*
a. 子實體表面　b. 同裏面（a—b ×1）
c. 嚢狀體及胞子 ×612　　（大谷氏）

213, *f. 40*, *pl. 6*, *f. 69*. 1920—COKER, Jour. Elisha Mitch. Sci. Soc. 36:177, *pl. 21, 35*. 1921—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 37:111. 1921; Hymen. Fr. 375. 1928.

(今關，植．硏．雜．15:579, *f. 15*. 1939—逸見及赤井，木．腐．菌學．238. 1945)

Hymenochaete tjibodensis P. HENN. Monsunia, 1:140. 1899—SACCARDO, Syll. Fung. 16:188. 1902.

Stereum induratum (non BERK.)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60:8. 1915—安田，植．雜．30:67. 1916; 31:43. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 639. 1917; ed. 3. 379. 1927—逸見，植．病．研究，2:328, *f. 1*. 1933; 及赤井，木．腐．菌學，239, *f. 73—4*. 1945—井上，日．植．病．學．報．5:1. 1935—原，日．菌．目．353. 1954)

子實體は半背着生，革質，傘は庇狀にて長さ 1—6 cm に及ぶ，厚し，乾時甚だ堅く且つ脆し，表面は著しく波曲，環紋及環溝を有し，密綿毛に被わる，肉桂色，緣は全緣，子實層面は平滑，淡黃白色，肉は厚さ 800—1200μ，多層，KOH 液により徐々に肉桂色乃至暗褐色に變ず，嚢狀體を有し，その表面に著しき結晶を被むる，有刺絲狀體なし，胞子は卵形，平滑，無色，4—5×3μ，材の白色孔腐を起す。

所在及産地

カシ類 (*Quercus*) の枯木上

本州，四國，九州—歐・北米

和名　コカサウロコタケ（小笠鱗茸）〔今關〕，ミヤマウロコタケ（深山鱗茸）〔安田〕

Lloydella rosea (YAS.)

ウスベニウロコタケ

Stereum roseum YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 37:125. *f. 1*. 1923.

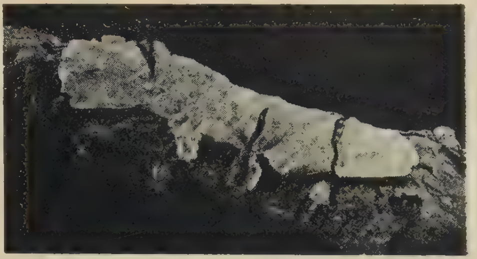
(安田，植．雜．36:41. 1922—LLOYD, Myc. Writ. 7:1128. 1922—白井，日．菌．目．ed. 3. 380. 1927—今關，日．隱．植．圖．395, *pl. 188*, *f. 4—5*. 1939—西門，三橋及中山，農學硏究，34:456.（大阪營林局報附錄，11) *pl. 2*, *f. 8—10*; *pl. 6*, *f. 27*; *pl. 9*, *f. 37—8*. 1942—原，日．菌．目．354. 1954)

子實體は全背着生にて着生物に密着し，不整形，僅かに緣邊反轉す，厚さ 0.5 mm 以下にて極めて薄く，生時稍々柔き肉質，乾時薄革質乃至膜質，背面は栗褐色にて平滑，子實層は平滑，淡紅色を呈し，乾時褪色す。胞子は桿狀乃至腸詰形，無色，6.5—8×2.5—3μ，嚢狀體は紡錘形，厚膜，無色，表面に結晶を被むる，56—70×16—24μ。

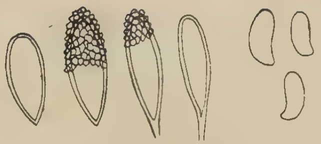
所在及産地

廣葉樹枯枝（サクラ，クリ，カシ等）上，シイタケ榾木上　　本州，四國，九州

和名　ウスベニウロコタケ（薄紅鱗茸）〔安田〕



a



b

第 125 圖　ウスベニウロコタケ *L. rosea*
a. 子實體 ×1　　b. 嚢狀體及胞子 ×612
（大谷氏）

Lloydella sepia (BURT)

コカサウロコタケモドキ

Stereum sepium BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:215, *f. 41*, *pl. 6*, *f. 70*. 1920. (non *St. sepia* LLOYD, 1918)

(今關，植．硏．雜．15:582. 1939—原，日．菌．目．354. 1954)

Stereum Burtissimum LLOYD, Myc. Writ. 7:1288. 1924. (non PECK)

子實體は木栓質，乾時剛直，堅硬，背着し，廣く反轉し，貝殼狀或は半圓形，2—4×6 cm，表面は環溝を有し，幾分環紋あり，密綿毛を被むり，黑褐色なり，緣は淡色にて全緣，子實層面は平坦，光澤なく，淡黃白色乃至淡灰褐色なり，肉は厚さ 600—1500 μ，或は更に厚し，KOH 液にて徐々に肉桂色乃至暗褐色となる，子實層部は多層，嚢狀體及有刺絲狀體を混生す，嚢狀體は圓筒形，表面に結晶を存し，子實層深部に埋在する部は有色なり，絲狀體は絲狀圓筒形，頂部に小刺を有す，12—25×3—5μ，胞子は楕圓形，平滑，無色，4×2.5μ。

所在及産地

廣葉樹腐材下面　　本州—北米

和名　コカサウロコタケモドキ（擬小笠鱗茸）〔今關〕

Lloydella versiformis (BERK. et CURT.)

ヒメサビウロコタケ

Stereum versiforme BERK. et CURT. Grev

1:164. 1873—SACCARDO, Syll. Fung. 6:580. 1888 —MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:193. 1891—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:222, *f.44, pl.6, f.73.* 1920—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:326. 1933; 51:412. 1935; Ann. Myc. 38:65. 1940.

(安田, 植. 雜. 32:49. 1918—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 380. 1927—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

Peniophora Ellisii MASS. Jour. Linn. Soc. 25: 144. 1891—SACCARDO, Syll. Fung. 9:237. 1891.

Hymenochaete versiformis
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917)

子實體は半背着生, 初め小圓形にて, 後多數癒合して長形となり, 7×1—2cm, 稍々厚く, 龜裂を生ず, 後周縁少しく反轉し, 幅 1—2mm の傘を作る, その表面は平坦ならず, 小皺襞ありて暗褐色, 肉は厚さ 200—400μ, 嚢狀體を混生す, 子實層は絨狀, 多少小疣あり, 暗褐色, 嚢狀體は圓筒形, 表面に凹凸あり, 45—75×12—24μ, 胞子は腸詰形, 平滑, 無色, 5—7×2—3μ, 子實層面の絨狀なるは頂部に於て短枝に分岐せる褐色絲狀體の存在による。

所在及產地
廣葉樹枯枝上　本州—北米. 亜 (西比. 支)

和名 ヒメサビウロコタケ (姫銹鱗茸)〔安田〕

Lloydella japonica (YAS.) S. ITO et IMAI
ヤマトウロコタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:132. 1940.

Stereum japonicum YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 37:60. *f. 1.* 1923—LLOYD, Myc. Writ. 7:1274, *f. 2810.* 1924.

(安田, 植. 雜. 33:189. 1919—LLOYD, Myc. Writ. 7:1266. 1924—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 379. 1927—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

子實體は基物に固く背面展着し, 6.5—15cm に及ぶ, 革質にて薄し, 子實層面は淡き柔皮色, 絨狀の觀を呈す, 平坦或は少しく凹凸あり, 肉は厚さ 500—800μ, 嚢狀體は多數存在し, 多くは組織内に埋在す, 稍々紡錘形或は棍棒形, 厚膜, 淡黃色或は淡褐色, 上半部に結晶を附す, 25—40×6—12μ, 胞子は類球形或は球形, 平滑, 無色, 6×5μ, 或は徑 4—6μ。

所在及產地
廣葉樹の枯枝上　小笠原島

和名 ヤマトウロコタケ (大和鱗茸)〔安田〕

Lloydella boninensis (YAS.)
シマウロコタケ

Stereum boninense YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 33:112. 1919—SACCARDO, Syll. Fung. 23:509. 1926.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 378. 1927—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

Hymenochaete boninensis YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 37:61, *f. 2.* 1923—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44:157. 1930.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 169. 1927—原, 日. 菌. 目. 159. 1954)

子實體は基物上に廣く全背展着し, 徑 10cm 以上に至る, 軟くして厚く, 厚さ 1—7mm, 子實層面は不規則なる粗大の凹凸あり, 絨狀の觀を呈し, 褐色, 肉は綿様にて黃褐色, 嚢狀體は多數に生じ, 淡褐色, 薄膜, 鈍頭, 往々結晶を被むる, 大形なるものには横隔あり, 40—60×6—10μ, 胞子は長楕圓形, 平滑, 無色, 5—7×2—3μ。

所在及產地　樹皮面　小笠原島

和名 シマウロコタケ (島鱗茸)〔安田〕,
シマオオウロコダケ (島大鱗茸)〔伊藤篤〕

Podoscypha PAT.
タチウロコタケ屬

PATOUILLARD, Ess. Tax. 70. 1900.
Thelephora FRIES, pr. p.
Stereum Auct. pr. p.

子實體は有莖, 直立し, 盃形, 漏斗形, 扇形或は舌形革質にて薄し, 莖は木質或は軟骨質, 單一或は分岐す, 傘の表面は無毛或は絨毛あり, 屢々絹絲様光澤ありて環紋あり, 肉は1様にて, 有色, 子實層は下位, 平滑或は縱線あり, 擔子柄は短棍棒形, 胞子は卵形, 平滑, 無色。

(本屬名は podo-(足) scyphus (盃) より出づ)

基準種　*P. elegans* (MEYER) PAT.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は漏斗形。
- a. 子實體は多數簇生し, 大なる覆瓦狀花瓣形となる, 黃褐乃至紫褐色, 粘嚢體を有す。
　　タチウロコタケ ***P. elegans*** (151)
- b. 子實體は孤生或は群生。
  - α. 子實體は淺き漏斗形, 屢々數個合着し花形をなす, 淡黃色, 嚢狀體及粘嚢體なし。
　　ハナウロコタケ ***P. burtiana*** (151)
  - β. 子實體は深き漏斗形。
    - I. 全體白色, 嚢狀體を有す。
　　シロウロコタケ ***P. diaphana*** (151)

II. 全體褐色，粘嚢體を有す。

サカズキウロコタケ *P. surinamensis* (152)

B. 子實體は舌狀。

a. 子實體は全高 4cm に及ぶ。

シタウロコタケ *P. obliqua* (152)

b. 子實體は全高 1.5cm 以下。

シタウロコタケモドキ *P. obliquula* (153)

C. 子實體は扇形或は樹枝狀。

a. 子實體は紫赤色或は黑褐色。

キブリウロコタケ *P. harmandi* (153)

b. 子實體は白色。

サギウロコタケ *P. albida* (153)

Podoscypha elegans (MEYER) PAT.

タチウロコタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 71. 1900.

Thelephora elegans MEYER, Fl. Esseq. 305. 1818—FRIES Syst. Myc. 1:430. 1821; Epicr. Myc. 545. 1838.

Thelephora macrorrhiza LÉV. Ann. Sci. Nat. Bot. III, 5:146. 1846.

Stereum elegans LLOYD, Myc. Writ. 4, Stip. Ster. 24, *f. 539*. 1913; 5:598, *f. 843*. 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 53. 1936—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7: 105, *pl. 3, f. 15*. 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 49:10. 1904; 5: 660, *f. 946—947*. 1917; 6, Lett. 65:5. 1917—安田，植. 雜. 28:192. 1914; 31:45. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 378. 1927—原，日. 菌. 目. 353. 1954)

子實體は地上生，有莖，革質，漏斗形にて時に 1 側のみ著しく成長し，或は 1 側深裂す，多數覆瓦狀に簇生して花瓣狀となる，個々の傘は徑 1—3cm なるも時に10數箇簇生し傘部に於て癒着し甚だ大なる團塊となることあり，表面は無毛にて放射狀の皺あり，黃褐色或は紫褐色，緣は薄くして淡色，多少淺裂す，肉は傘部に於て厚さ約 400μ，子實層面は屢々灰白色にて粉狀，縱の皺襞あり，屢々龜裂す，莖は明かにて短きも，時に長大となる，軟毛を被むり，暗褐色，上方に於て分岐す，10×1—2mm，嚢狀體を缺き，粘嚢體は徑 4.5μ，長く，薄膜，無色，胞子は類球形，平滑，無色，3.5—4.5μ。

所在及產地

林內地上 本州，九州—南中米. 濠. 亞(印. 錫)

和名 タチウロコタケ (立鱗茸)〔安田〕

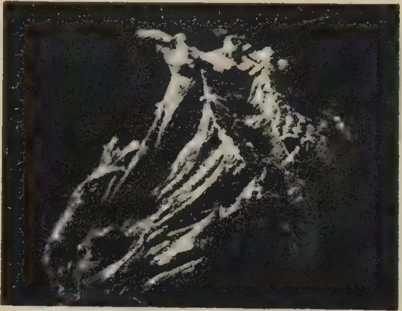
Podoscypha burtiana (PECK)

ハナウロコタケ

Stereum Burtianum PECK, N.Y. St. Mus. Bull. 75:21, *pl. O, f. 30—34*. 1904—SACCARDO, Syll. Fung. 17:163. 1905—LLOYD, Myc. Writ. 4, Stip. Ster. 21, *f. 537*. 1913—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:93, *pl. 2, f. 5*. 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 47:9, 15. 1913; 5, Lett. 63:9. 1916; Lett. 66:7. 1917; Lett. 67:10. 1918; Myc. Writ. 7:1162. 1922—安田，植. 雜. 27: 469. 1913; 31:44. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 378. 1927—澤田，臺. 博. 會. 報. 25:421. 1935; 臺. 菌. 調. 報. 7:72. 1942—今關，日. 隱. 植. 圖. 395, *pl. 188, f. 2*. 1939—原，日. 菌. 目. 353. 1954)

子實體は莖を有し群生す，傘は淺き漏斗形をなし，屢々數箇合着し花形をなす，徑 1—3cm，高さ 1.2—2cm，革質，薄く，時に 1 側裂けて莖に及ぶ，表面は放射狀縮皺或は纖維質菌絲と綿絲狀隆起あり，



第 126 圖 ハナウロコタケ *P. burtiana*
子實體 ×1 (大谷氏)

生時淡黃色にて光澤あり，乾時褐色，緣は白色，普通齒牙狀に淺裂す，肉は薄く，厚さ約 600μ，强靱なり，子實層は平坦或は放射狀皺襞あり，無毛，生時淡黃或は淡黃褐色，乾時淡桃乃至褐色，莖は中心或は側生，中實，圓柱狀，5—15×1—2mm，表面に微毛あり，嚢狀體を缺く，胞子は類球形，平滑，無色，3—4μ，或は 4×3μ。

所在及產地

廣葉樹林地 全土—北米. 亞(臺)

和名 ハナウロコタケ (花鱗茸)〔安田〕

Podoscypha diaphana (SCHW.)

シロウロコタケ

Thelephora diaphana SCHW. in BERKELEY & CURTIS, Jour. Acad. Nat. Sci. Phil. 2:278. 1853.

Thelephora Willeyi CLINTON, in PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 26:71. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6:524. 1888.

Thelephora komabensis P. HENN. Bot. Jahrb. 31 : 736. 1902—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 165. 1905.

（松村，植．名鑑，1 : 176. 1904—白井，日．菌．目．98. 1905; ed. 2. 651. 1917; ed. 3. 389. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Stip. Ster. 21. 1913—原．日．菌．目．360. 1954）

Stereum diaphana COOKE, in SACCARDO, Syll. Fung. 6:558. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 162. 1890—LLOYD, Myc. Writ. 4, Stip. Ster. 19, *f. 534.* 1913—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7 : 97, *f. 3, pl. 2, f. 8—9.* 1920.

（安田，植．雑．30 : 207. 1916）

子實體は深漏斗狀，時に深く切れて裂片となる，2—4×0.8—2cm，有莖，革質，薄く，白色，乾時多少透明性となる，絹絲狀光澤あり，纖維質，線條あり，時に微かに皺襞あり，又微かに環紋あり，周緣は薄く，全緣或は鋸齒狀，莖は圓筒形，短くして細し，白色，上部無毛，基部は多少有毛にて球狀となる，肉は傘部に於て厚さ 200μ，白色，子實層面は白色，レンズにて毛茸を認めらる，嚢狀體は圓筒形，無色，薄膜，結晶なく，徑 6—9μ，子實層外に 20—60μ 程抽出す。胞子は楕圓形，平滑，無色，4—5×2.5—3μ。

所在及產地

廣葉樹林地上　　本州一北米

和名　シロウロコタケ（白鱗茸）〔安田〕

Podoscypha surinamensis (LÉV.) PAT.

サカズキウロコタケ

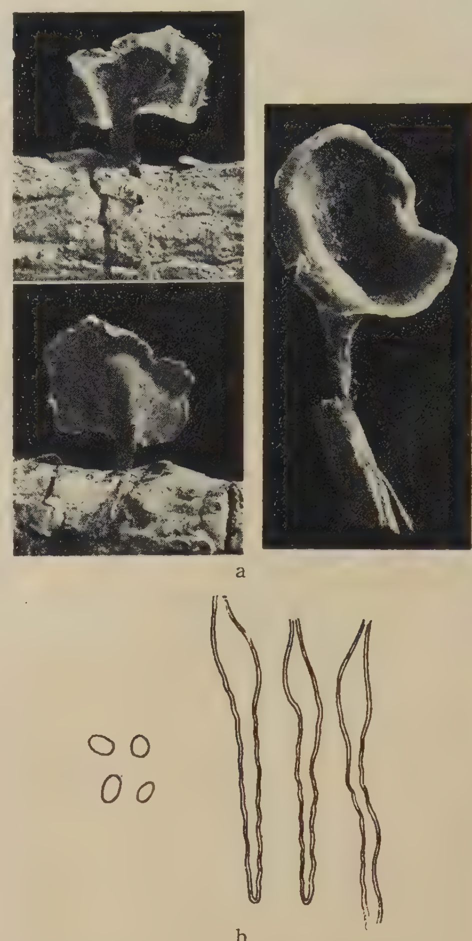
PATOUILLARD, Ess. Tax. 71. 1900.

Stereum surinamense LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2:209. 1844—SACCARDO, Syll. Fung. 6:556. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:161. 1890—LLOYD, Myc. Writ. 4, Stip. Ster. 26, *f. 544.* 1913—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:91, *pl. 2, f. 4.* 1920.

(S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:129. 1940—今關，植．硏．雑．17:176, *f. 1.* 1941—原，日．菌．目．354. 1954）

Stereum fulvo-nitens BERK. Ann. Mag. Nat. Hist. II, 9:198. 1852—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 556. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:162. 1891.

子實體は漏斗形，時に1側更に伸長す，高さ 1.5—4cm，徑 1—2.5cm，革質，無毛，光澤あり，線條を有し，乾時蘫色乃至蘫栗褐色，微かに多數の甚だ狹き環紋を有す。莖は中心生或は偏心生，圓筒形，乾時灰褐色乃至暗栗褐色，纖維毛或は微毛を被むり，基端菌絲の盤にて着生す，3—7×1.5mm，子實層面は平坦，無毛，灰褐色乃至肉桂色，肉は厚さ 400μ，粘嚢體は長さ 15—30μ，中膨れの基部（徑 6—9μ）を有し，時に擔子柄の上に僅に抽出す，胞子は平滑，無色，3—4×2—3μ。



第 127 圖　サカズキウロコタケ *P. surinamensis*
a. 子實體 ×2　　b. 粘嚢體及胞子 ×612
（大谷氏）

所在及產地　枯木上　小笠原島一
北南米．濠．阿．亞（印．比）南洋諸島

和名　サカズキウロコタケ（盃鱗茸）〔今井〕

Podoscypha obliqua (MONT. et BERK) PAT.

シタウロコタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 71. 1900.

Stereum obliquum MONT. et BERK. in BERKELEY, Lond. Jour. Bot. 3 : 334. 1844—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 558. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 170. 1891—LLOYD, Myc. Writ. 4, Stip. Ster. 39, *f. 562.* 1913.

(S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 128. 1940)

a
b





c

第128圖　シタウロコタケ *P. obliqua*
a. 子實體 ×1.5　b. 同 ×2　c. 胞子 ×612
（大谷氏）

子實體は革質，薄く，伸長して舌狀をなし，全高4cmに及び，栗褐色，不明瞭なる環紋あり，光澤を有し，レンズ下にて微細の絹樣線條あり，緣に不明瞭の房毛あり。莖は長さ約1cm，直立，側生，絨毛を被むり，基端膜狀圓盤となり着生す。子實層は類灰色，有線，胞子は球形，平滑，無色，徑約4μ。

所在及產地

枯枝上　小笠原島—南米．濠．亞（爪．比）

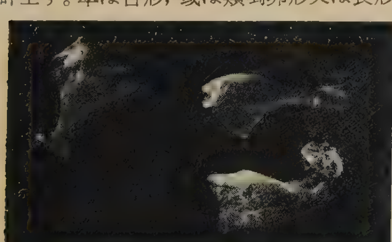
和名　シタウロコタケ（舌鱗茸）〔今井〕

Podoscypha obliquula (S. ITO et IMAI)

シタウロコタケモドキ

Stereum obliquulum S. ITO et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 128. 1940.

子實體は普通側莖なるも稀に偏心又は中心生となる，群生す。傘は舌形，或は類倒卵形又は長形にて，



第129圖　シタウロコタケモドキ *P. obliquula*
×2.4　（大谷氏）

長さ5—10mm，幅3—8mm，緣は全緣或は波狀，稀に淺裂す，表面短綿毛を有し，光澤あり，中部栗褐色或は褐色，緣は淡色，環溝あり，子實層面は淡色，稍々粉狀，肉は甚だ薄く，緣邊紙狀なり。莖は2—10×0.5—1mm，稍々同色，赭色の絨毛あり。胞子未詳。

所在及產地

枯木上　小笠原島

和名　シタウロコタケモドキ（擬舌鱗茸）〔今井〕

Podoscypha harmandi (LLOYD)

キブリウロコタケ

Stereum Harmandi LLOYD, Myc. Writ. 4, Stip. Ster. 22. 1913; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 54. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51 : 4. 1914—安田，植．雜．28 : 293. 1914; 31 : 45. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 379. 1927—原，日．菌．目．353. 1954)

子實體は篦形，扇形，或は樹皮狀にて短莖を有し，高さ4cm內外，革質にて薄く，無毛，紫赤色或は黑褐色，表面に多くの縱襞あり，緣は褐色にて薄し，肉は黑褐色。胞子は球形，平滑，無色，4—5μ。

所在及產地

林內地上　本州

和名　キブリウロコタケ（木振鱗茸）〔安田〕

Podoscypha albida (LLOYD)

サギウロコタケ

Stereum albidum LLOYD, Myc. Writ. 4 : 555, *f. 763*. 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 49. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 507. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61 : 6. 1916—安田，植．雜．30 : 207. 1916; 31 : 44. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 637. 1917; ed. 3. 377. 1927—今關，日．隱．植．圖．395, *pl. 188*, *f. 1*. 1939—原，日．菌．目．352. 1954)

子實體には短莖を有し，傘は極めて薄き革質，扇形，稀に不完全なる漏斗狀となり，往々深裂して掌狀をなす，徑0.5—3cm，上面は殆ど平滑，白色，放射狀の微細なる縮皺を有す，肉は白色，厚さ0.2mm內外なり。莖は圓柱狀或は少しく扁平，5—10×1—3mm，普通傘の1側に着く，白色にて微毛を被り，基端は圓盤狀に擴がり地面に着く。子實層は傘の下面に存し，白色，平滑，胞子は無色，3×2μ。

所在及產地

林地上　本州，九州

和名　サギウロコタケ（鷺鱗茸）〔安田〕



第130圖　サギウロコタケ *P. albida*　×1.3
（今關氏による）

Hymenochaete Lév.

タバコウロコタケ屬

Léveillé, Ann. Sci. Nat. III, 5 : 150. 1846.

子實體は全背着生，半背着生或は半圓形乃至棚狀の傘を形成し，稀に有莖，1年生又は多年生，革質，膜質或は木質，ウロコタケ (*Stereum*) 屬に類似するも，子實層に剛毛體の存するによりて分たる。子實體は子實層と菌絲層とより成り，前者は1層乃至多層，或は明かなる層を成さぬも極めて厚くして中に多數の剛毛體を混ずる所謂剛毛體層を作るものあり，後者菌絲層は1樣なるものと上下に特に菌絲の緻密なる層を生ずるものとあり，子實層或は剛毛體層に接するものを内部境界層，背面に存するものを皮層と呼ぶ。剛毛體は剛直刺狀，厚膜，胞子は通常無色なり。肉の菌絲及剛毛體は苛性加里によりて濃褐色となる。

（本屬名は hymen (膜) chaete (長房毛) より出づ）

基準種　*H. tabacina* (Sow.) Lév.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は無莖にて半圓形或は棚狀の傘を有し，其基部通常垂生す。(*Apodes*)

a. 肉は黄褐色。

α. 皮層を有す。

Ⅰ. 子實層は1層

1. 子實層下に內部境界層あり。

タバコウロコタケ ***H. tabacina*** (155)

2. 內部境界層なし。

甲. 剛毛體層を作らず。

い. 絲狀體を有す。

マツノタバコウロコタケ ***H. yasudai*** (156)

ろ. 絲狀體なし。

エビウロコタケ ***H. rubiginosa*** (157)

乙. 剛毛體層を作る，子實體は殆ど背着。

エビウロコタケモドキ ***H. rufomarginata*** (158)

Ⅱ. 子實層は多層。

オオタバコウロコタケ ***H. adusta*** (158)

β. 皮層を有せず。

Ⅰ. 傘は皺曲せず，1—2×0.3—0.6cm。

コガネウロコタケ ***H. sallei*** (158)

Ⅱ. 傘は細かく放射狀に皺曲す，0.5×0.3cm。

ヒメウロコタケ ***H. attenuata*** (159)

b. 肉は白色，老廢後初めて黄褐色となる。

ミヤベオオウロコタケ ***H. intricata*** (160)

B. 子實體は全背着にて廣く着生物上に擴布す。(*Resupinatae*)

a. 子實體は子實層と菌絲層とより成る。

α. 子實層面に龜裂なく平坦なり。

Ⅰ. 子實層は1層。

1. 周緣不明確，子實體は藍色，絲狀體なし。

シブウロコタケ ***H. arida*** (161)

2. 周緣稍々確然，子實體は暗血紅色，鹿角狀絲狀體を有す。

アカオオウロコタケ ***H. mougeotii*** (161)

Ⅱ. 子實層と菌絲層は交互に重り多層となる，子實層面は濃肉桂色。

ケイヒウロコタケ ***H. cinnamomea*** (162)

β. 子實層面は龜裂す。

Ⅰ. 子實層は厚くして多層，子實層面煙草色乃至媚茶色，老時汚灰汁色。

アツミヒビウロコタケ ***H. unicolor*** (163)

Ⅱ. 剛毛體層と菌絲層と交互に重なり多層となる，子實層面丁字茶色。

ケイヒウロコタケモドキ ***H. spreta*** (163)

b. 子實體全部剛毛體層より成る。

α. 羽狀分岐せる絲狀體を混生す，子實層面は黄褐乃至赤褐色。

トビイロウロコタケ

H. fomitoporioides (163)

β. 絲狀體なし。

Ⅰ. 子實層面小龜裂を生ず。

1. 子實層面梅鼠，焦茶，丁字茶色，廣葉樹幹上。

ヒビウロコタケ ***H. corrugata*** (164)

2. 子實層面暗褐色，周圍黄褐色，ヤシ葉柄

上。ヤシウロコタケ
H. palmicola (165)

II. 子實層面龜裂なし，黃褐乃至暗褐色，子實體甚だ薄し。

ウスカミウロコタケ **H. pertenuis** (165)

C. 子實體は子實層と皮層とより成り，龜裂なし，暗丁字色，絨毛狀。

シブウロコタケモドキ **H. episphaeria** (165)

Hymenochaete tabacina (SOW. ex FR.) LÉV.
タバコウロコタケ

LÉVEILLÉ, Ann. Sci. Nat. III, 5: 152. 1846—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 271. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 318. 1871; Grev. 8: 145. 1880; Handb. Austr. Fungi, 189. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 590. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1158. 1916—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 399. 1899—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 112. 1891; Brit. Fung. Fl. 1: 117. 1892; Brit. Fungi, 420. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 408. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 99. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5: 325, *f. 9*, *pl. 17*, *f. 16*. 1918—REA, Brit. Basid. 668. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 38: 180. 1922; Hymen. Fr. 388. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 327, 1933; 51: 412. 1935; Ann. Myc. 38: 65. 1940—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 9. 1934—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2: 5, *pl. 1*, *f. a*, *pl. 4*, *f. a, a'*. 1940.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32: 39. 1903—松村, 植. 名鑑, 1: 148. 1904—白井, 日. 菌. 目. 43. 1905; ed. 2. 289. 1917; ed. 3. 169. 1927—安田, 植. 雜. 26: 119. 1912. pr. p.—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44: 153. 1930. pr. p.—今關, 日. 隱. 植. 圖. 385, *pl. 183*, *f. 5—6*. 1939—千葉及寺本, 東大. 農. 演. 林. 報. 43: 29. 1952—原, 日. 菌. 目. 159. 1954)

Helvella nicotiana BOLTON, Hist. Fung. Halif. *pl. 174*. 1788.

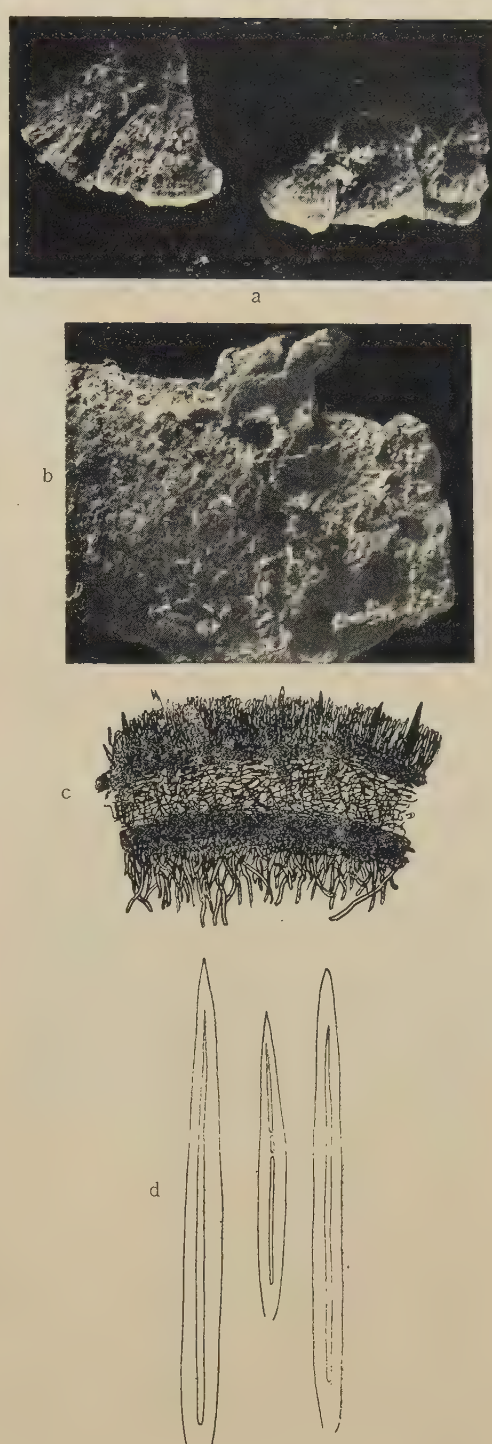
Auricularia tabacina SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 1: *pl. 25*. 1797.

Thelephora tabacina FR. Syst. Myc. 1: 437. 1821; Elench. Fung. 1: 173. 1828—PERSOON, Myc. Eur. 1: 118. 1822—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 165. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 394. 1844.

Thelephora tabacina α. chrysoloma PERS. Myc. Eur. 1: 118. 1822.

Thelephora imbricatula SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. N. S. 4: 166. 1832.

Stereum tabacinum FR. Epicr. Myc. 550. 1838; Hymen. Eur. 641. 1874—FUCKEL, Symb. Myc. 28. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 302. 1872; Enchir. Fung. 205. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 749. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 307. 1876;



第131圖 タバコウロコタケ *H. tabacina*
a. 子實體表面 ×2.5 b. 同裏面 ×2
c. 同斷面 ×135 d. 剛毛體 ×476 (大谷氏)

Hattsv. 2:126. 1882—WINTER, Pilze 1 : 343. 1884 —SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 428. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53 : 8. 1914—安田, 植. 雑. 31:44. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed.3. 380. 1927 —原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

Stereum avellanum FR. Epicr. Myc. 551. 1838. pr. p.; Hymen. Eur. 642. 1874. pr. p.

Hymenochaete avellanea COOKE, Grev. 8 : 146. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 592. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 103. 1891.

Hymenochaete imbricatula LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 5 : 152. 1846—COOKE, Grev. 8 : 146. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 103. 1891.

Hymenochaete imbricata SACC. Syll. Fung. 6: 593. 1888.

子實體は半背着生，上緣反轉して傘を形成す，通常多數疊生す。傘は半圓形又は棚狀，屢々横に連る，1×0.5cm 内外，柔革質，上面は初め短密毛ありて鈍光澤あり，金茶乃至檜皮色を呈するも，後殆ど無毛となり暗丁字茶となる，通常著しき放射狀皺と數個の暗色環紋を有す，下面は媚茶又は暗丁字茶色を呈し，不規則なる細皺と放射狀の細裂を生ず。肉は厚さ 250—400μ，菌絲層は厚さ 200—350μ，背面に明なる皮層あり，その厚さ 10—30μ，毛被に連る，子實層に接して内部境界層あり，子實層は1層，剛毛體は子實層中に存するも菌絲層中にも少しく埋在す，その大さ 40—90—110×9—15μ。木材を白腐す。

所在及産地 廣針葉樹枯幹上

北海道，本州—歐. 北米. 濠. 亞（西比. 支）

和名 タバコウロコタケ（煙草鱗茸）〔安田〕

Hymenochaete yasudai IMAZ.

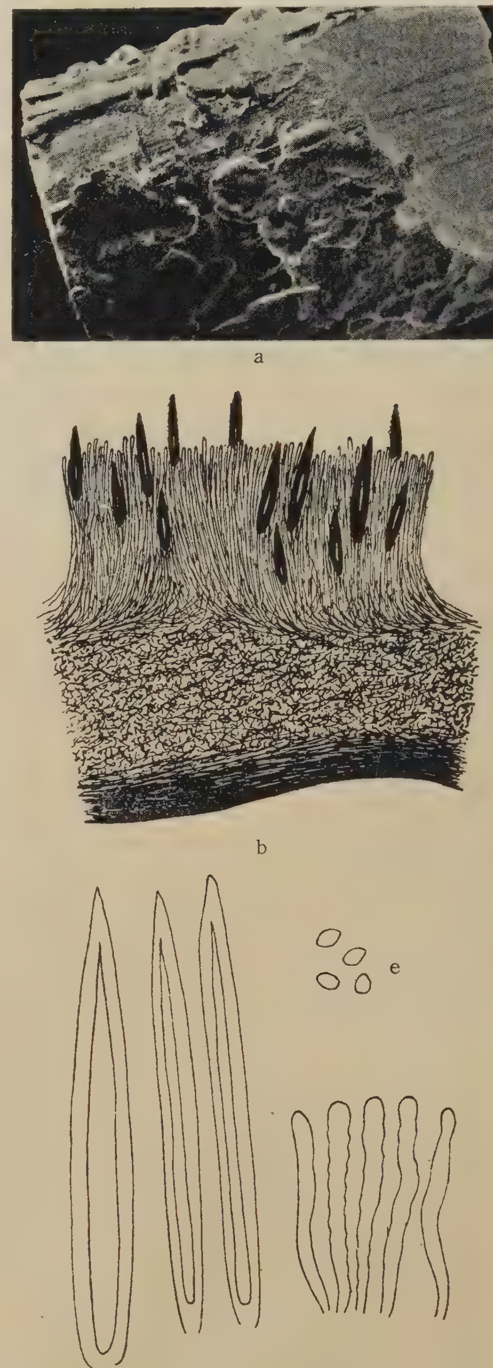
マツノタバコウロコタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2:6, *pl. 1, f. b, pl. 4, f. b, b'*. 1940.

（原，日. 菌. 目. 159. 1954—今關及土岐，林. 試. 研. 報. 67 : 25. 1954）

Hymenochaete tabacina (non LÉV.) T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44 : 153. 1930. pr. p.

子實體は殆ど全背着生にて，上緣反轉し狹き傘を作る。傘は半圓形乃至棚狀にて强く下屈す，3—10×1—3mm，革質，緣は薄く不整細鋸齒狀，上面は殆ど無毛，放射狀の皺襞あり，灰褐色，灰色，殆ど灰黑色等を呈し，細き著しき環紋あり，緣邊は狹く檜皮色を呈す，下面は黃色を帶びたる煙草色乃至焦茶色，稍々絨毛狀，放射狀細裂あり，緣は狹く鮮檜皮色なり。肉は厚さ 80—300μ，菌絲層は厚さ 50—250μ，背面に明なる皮層あり，その厚さ 25—37μ，その外面に殆ど無色の菌絲より成る緊密の薄き層被を存す。子實層は 1 層，剛毛體の外に絲狀體を有す。



第 132 圖　マツノタバコウロコタケ *H. yasudai*
a. 子實體 ×1　b. 同斷面 ×120　c. 剛毛體　d. 絲狀體　e. 胞子（c—e ×544）（大谷氏）

剛毛體は大さ 40—110×7—18μ，子實層の外に多數菌絲層中に埋在す。絲狀體は菌絲と同色にて黃褐色，表面微かに凹凸あり，幅 2—2.5μ，多數存在す。胞子は無色，不整楕圓形，平滑，4.5—5.5×2.5—3μ。木材白腐を起す。

所在及産地

針葉樹枯幹上　　本州，四國，九州—亞(朝)

和名 マツノタバコウロコタケ

(松煙草鱗茸)〔今關〕

Hymenochaete rubiginosa (DICKS. ex FR.) LÉV.

エビウロコタケ

LÉVEILLÉ, Ann. Sci. Nat. III, 5 : 151. 1846—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 271. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 318. 1871; Grev. 8 : 145. 1880; Handb. Austr. Fungi, 189. 1892—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 398. 1879—WINTER, Pilze 1:320.1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:589. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:97. 1891; Brit. Fung. Fl. 1:115, *f. 5a*. 1892; Brit. Fungi, p. 420, *pl. 32, f. 3*. 1911—W.G.SMITH, Brit. Basid. 407, *f. 99*. 1908—SPEGAZZINI, Fungi Chilenses, 10. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 99. 1912—BROWN, Mycologia, 7 : 1, *pl. 150—151*. 1915—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5:332, *f. 11, pl. 17, f. 14*. 1918—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 38:183. 1922; Hymen. Fr. 390. 1928—REA, Brit. Basid. 667. 1930—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 482*. 1930; 6:496. 1937—PILÁT, Hedwigia, 70:117. 1930—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2:8, *pl. 1, f. c, pl. 4, f. c, c'*. 1940.

(白井，日．菌．目．ed. 2. 289. 1917; ed. 3. 169. 1927—T.ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44:5. 1930—今關，日．隱．植．圖．385, *pl. 183, f. 1—2*. 1939—逸見及赤井，木．腐．菌學，250. 1945—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 130. 1940—原，日．菌．目．159. 1954)

Helvella rubiginosa DICKS. Pl. Crypt. Brit. 1: 20. 1785.

Auricularia ferruginea BULL. Champ. Fr. 281, *pl. 378*. 1787—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 1 : *pl. 26*. 1797.

Thelephora rubiginosa SCHRAD. Spic. Fl. Germ. 185. 1797—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 567. 1801; Myc. Eur. 1:120. 1822—FRIES, Syst. Myc. 1:436. 1821; Elench. Fung. 1 : 172. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 165. 1836.

Thelephora ferruginea DC. Fl. Fr. 2: 104. 1815.

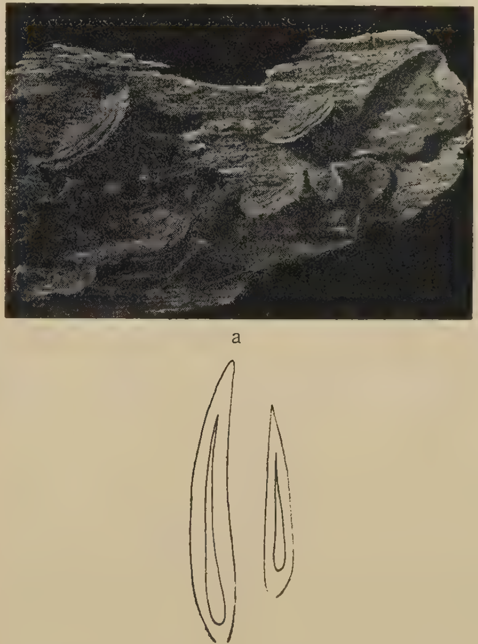
Stereum rubiginosum FR. Epicr. Myc. 550. 1838; Hymen. Eur. 641. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:394. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 262. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 28. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:302. 1872—GILLET, Champ. Fr. 749. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 306. 1876; Hattsv. 2 : 126. 1882—SCHROETER. Pilze Schles. 1 : 428. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915; 6:980. 1920—安田，植．雑．29 : 208. 1915; 31 : 44. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 689. 1917—原，日．菌．目．354. 1954)

Stereum ferrugineum FR. Epicr. Myc. 550. 1838; Hymen. Eur. 640. 1874—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 302. 1872; Enchir. Fung. 205. 1886—GILLET, Champ. Fr. 747. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 125. 1882—WINTER, Pilze 1 : 344. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:565. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1146. 1916.

Hymenochaete ferruginea MASS. Jour. Linn. Soc. 27:103. 1891—BRESADOLA, Hymen. Kmet. 45. 1897—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1159. 1916.

子實體は半背着生にて上半大きく反轉し傘となる，着生物より剝離し易し。傘は半圓形，貝殼狀又は稍々鍾形をなし，多數疊生す，1—2.5×1—3cm，堅硬なる革質，緣は全緣，上面は煙草色，焦茶色或は黑色，著しき多くの狹き環溝を有す，初め，微絨毛狀，後平滑，緣は暗丁字茶色なり，下面は茶褐乃至煙草色，微粉面，小疣を不規則に散生す。肉は厚さ



a　b

第133圖 エビウロコタケ *H. rubiginosa*
a. 子實體 ×1　b. 剛毛體 ×544 (大谷氏)

500—800 μ，菌絲層は厚さ 400—700 μ，背部に明なる皮層あり，その厚さ 20—30 μ，外面の毛被に連る，剛毛體層は厚さ 75—100 μ，全層中不定の位置に剛毛體を存するも層をなさず。剛毛體は 45—57×5—7.5 μ。胞子は無色，不整長楕圓形，平滑，4—6×2—3 μ。木材白色孔腐を起す。

所在及產地 廣葉樹枯幹，殊に剝皮材上
本州，四國，九州，小笠原島，琉球—歐.阿.北中南米.濠

和名 エビウロコタケ（蝦鱗茸）〔安田〕

Hymenochaete rufomarginata IMAZ.

エビウロコタケモドキ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2:9, *pl. 1, f. d, pl. 4, f. d, d′*. 1940.

（原，日．菌．目．159. 1954）

子實體は殆ど全背着生にて，廣く擴布するも，上緣僅かに反轉し狹き傘を作る，緣邊部は普通遊離し且全體固着性ならず，傘は短徑 2—3 mm，小棚狀をなして波曲す，上面は煙草色乃至焦茶色，短密毛を被る，下面は稍々絨毛狀，上面と殆ど同色。周緣丁字茶色を呈す。肉は厚さ 200—300 μ，菌絲層は厚さ 150—200 μ，背部に明なる皮層を有し，厚き毛被に連る。子實層は1層にて，初め 1 列に剛毛體を配置するも後厚さ 100 μ に達し剛毛體層を作る。剛毛體は 27—45×5—7 μ，剛毛體の外に黃褐色の絲狀體を有す。木材白色孔腐を起す。

所在及產地 廣葉樹枯幹上　本州

和名 エビウロコタケモドキ（擬蝦鱗茸）〔今關〕

Hymenochaete adusta (LÉV.) BRES.

オオタバコウロコタケ

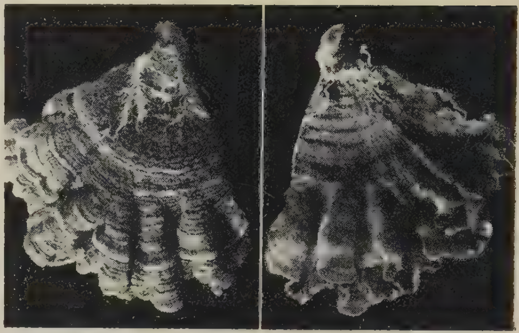
BRESADOLA, Hedwigia, 51 : 323. 1911—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 45 : 457. 1918—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2:10, *pl. 2, f. g, h, pl. 4, f. e, e′*. 1940.

（原，日．菌．目．159. 1954）

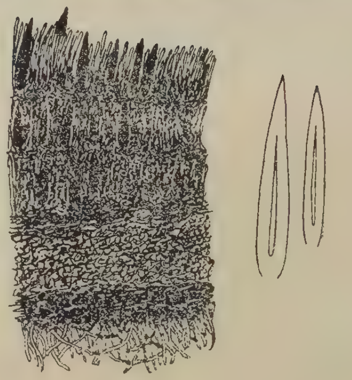
Stereum adustum LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 3 : 213. 1844—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 562. 1888.

Thelephora adusta LÉV. in GAUDCH. Voy. Bonite, 192, *pl. 139, f. 2*. 1846.

傘は半圓形，多數疊生，屢々下半部大きく垂生背着す。傘は 6×3.5 cm に及び，革質にて稍々柔軟，緣は薄くして刃狀，全緣又は波曲，上面は著しき粗毛を有し，多數の著しき環紋を有す，鳶茶色乃至煙草色，下面は煙草色，平滑にて粉面，緣は狹く檜皮色を



a　b



c　d

第 134 圖　オオタバコウロコタケ *H. adusta*
a. 子實體表面　b. 同裏面（a–b ×4/5）
c. 同斷面 ×120　d. 剛毛體 ×544（大谷氏）

呈す。肉は厚さ 130—400 μ，菌絲層は厚さ 100—150 μ，菌絲は幅 3—3.5 μ，子實層の下に稍々明なる內部境界層あり，背面の皮層は厚さ 30 μ 內外，特に緊密にて顯著，その外面は 700 μ に達する毛被を被むる。子實層は累次層をなし 8 層に達するものあり，各層厚さ 30 μ。剛毛體は 20—40×5—6 μ，各子實層中に整然と配列す。擔子柄は無色，幅 3—3.5 μ，木材白色孔腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯幹上　九州，小笠原島—亞（比）

和名 オオタバコウロコタケ（大煙草鱗茸）〔今關〕

Hymenochaete sallei BERK. et CURT.

コガネウロコタケ

BERKELEY & CURTIS, Jour. Linn. Soc. 10 : 333. 1869—COOKE, Grev. 8 : 146. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 593. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 28 : 101. 1891—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5 : 314, *f. 4, pl. 17, f. 15*. 1918—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2:11, *pl. 2, f. j, pl. 4, f. f, f′*. 1940.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44:154. 1930. pr. p.—今關, 日. 隱. 植. 圖. 385, *pl. 183, f. 3—4*. 1939; 及士岐, 林. 試. 硏. 報. 67 : 24. 1954—千葉及寺本, 東大. 農. 演. 林. 報. 43: 29. 1952—原, 日. 菌. 目. 159. 1954)

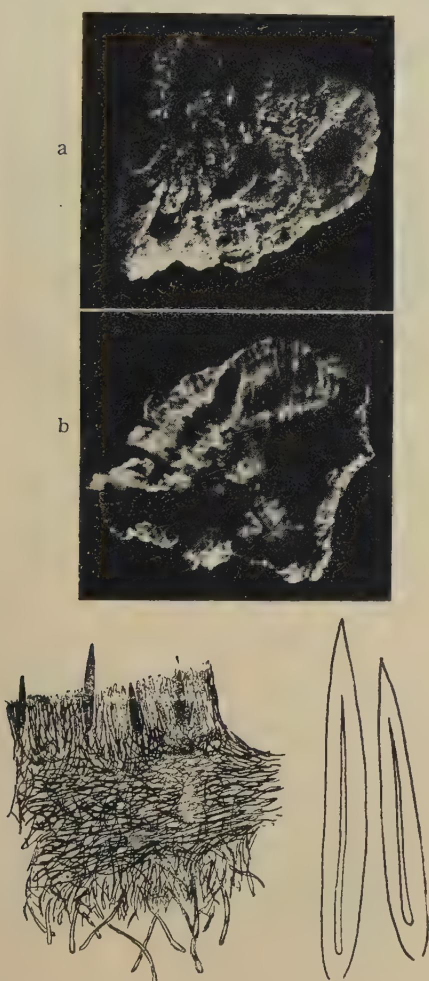
Stereum tenuissimum FR. Nov. Symb. Myc. 95. 1851.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915; Lett. 61:6. 1916—安田, 植. 雜. 29:386. 1915; 31:44. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed.3. 380. 1927—原, 日. 菌. 目. 354. 1954)

Hymenochaete tenuissima BERK. Jour. Linn. Soc. 10 : 333. 1863.

(安田, 植. 雜. 29 : 386. 1915)

Stereum elegantissimum SPEG. Anal. Soc. Cientif. Argent. 16 : 38. 1883.



c　　d

第 135 圖　コガネウロコタケ *H. sallei*
a. 子實體表面　　b. 同裏面 (a—b ×3)
c. 同斷面 ×120　　d. 剛毛體 ×544 (大谷氏)

Hymenochaete elegantissima SACC. Syll. Fung. 6:594. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 99. 1891.

子實體は薄く柔軟なる革質, 略々背着生なるも上半部豐かに反轉し傘を作る。傘は半圓形或は棚狀, 1—2×3—6 mm, 普通下曲し, 緣は薄くして細鋸齒狀, 上面は柔短毛を密布し, 同心環紋を有す, 濃檜皮色にて緣は山吹茶色, 下面は濃檜皮色乃至煙草色にて平坦なり。肉は厚さ 200—400 μ, 菌絲層は單純にて上下共に境界層なし, 背部は漸次毛被に移る。子實層は 1 層, 剛毛體は 45—90—110×6—11 μ, 最大 60 μ 迄突出し, 又菌絲層に長く尾を引くことあり。胞子は無色, 不整長楕圓形, 平滑, 3—4×1.5—2.5 μ。木材白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯幹上　　北海道, 本州, 九州,
小笠原島—亞(臺. 比)中南米

和名　コガネウロコタケ (黃金鱗茸) 〔安田〕

Hymenochaete attenuata LÉV.
ヒメウロコタケ

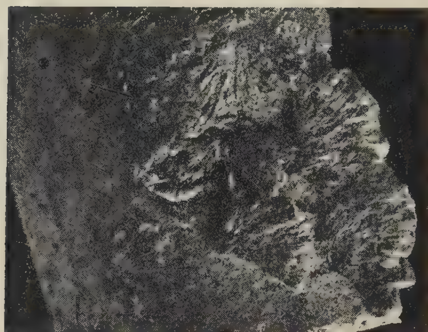
LÉVEILLÉ, Ann. Sci. Nat. III, 5 : 152. 1846—COOKE, Grev. 8 : 146. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6:591. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 98. 1891—BRESADOLA, Hedwigia, 53 : 77. 1913—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2:12, *pl. 2, f. k, l, pl. 4, f. g, g'*. 1940.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 69:10. 1919—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44:155. 1930—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 129. 1940—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 249, *f. 81—2*. 1945—原, 日. 菌. 目. 159. 1954)

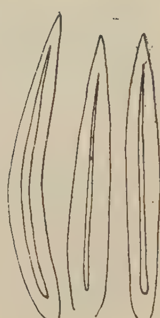
Stereum attenuatum LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 1: 212. 1844—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 46:6. 1913; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 50. 1936.

(安田, 植. 雜. 28:192. 1914; 31:44. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5:963. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 378. 1927—原, 日. 菌. 目. 353. 1954)

子實體は半ば背着生なるも通常覆瓦狀に多數の傘を疊生す。傘は半圓形或は稍々扇形をなし, 細く放射狀に皺曲す, 5×3 mm 或は以下, 上面は丁字茶色, 暗栗梅色乃至煙草色, 緣は檜皮色, 絹絲狀光澤ある短毛を被むる, 成時著しからざる環紋或は 2—3 の黑色環紋を有す, 下面は暗栗梅色, 平坦。肉は厚さ 200—250 μ, 菌絲層は單純にて境界層を有せず, 背面は漸次毛被に移る。子實層は 1 層。剛毛體は比較的細長く, 60—150×10—15 μ, 長く尾を菌絲層に引くもの多し。胞子は無色, 不整長楕圓形, 平滑,



a



b

第 136 圖　ヒメウロコタケ *H. attenuata*
a. 子實體 ×2　　b. 剛毛體 ×544（大谷氏）

6—7.5×2μ (4—4.5×1.5—2.5μ)。木材白腐を起す。

所在及產地　廣葉樹枯幹上
本州，四國，九州，小笠原島—亜(瓜. 比)

和名　ヒメウロコタケ（姫鱗茸）〔安田〕

Hymenochaete intricata LLOYD
ミヤベオオウロコタケ

LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1157, *f. 2290*. 1923—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2 : 1?, *pl. 1*, *f. f*, *pl. 5*, *f. h*, *h'*. 1940.

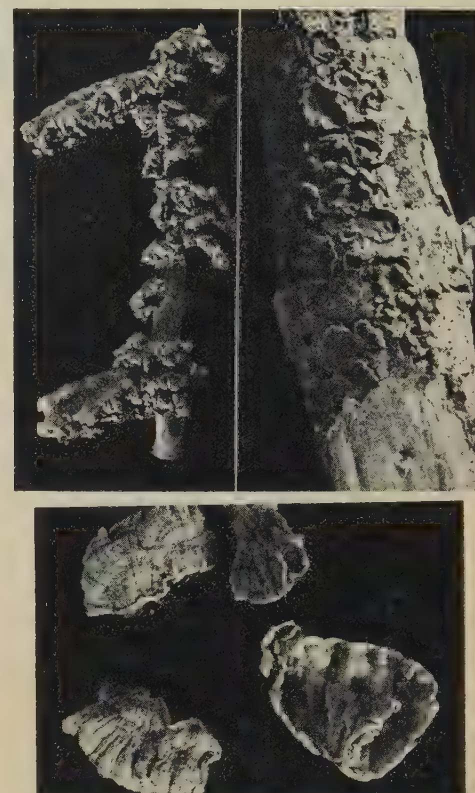
(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44 : 156. 1930—原，日. 菌. 目. 159. 1954)

Stereum (or *Hymenochaete*) *intricatum* LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1157, *f. 2290*. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 54. 1936.

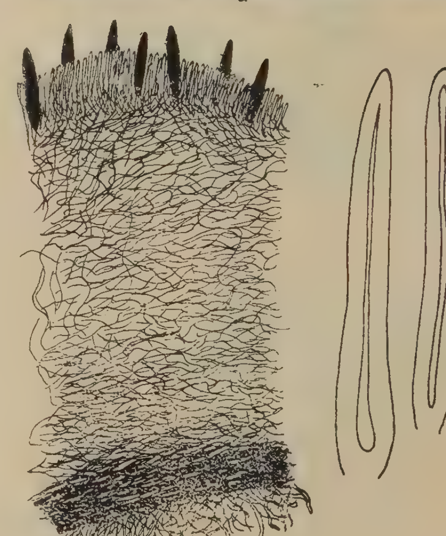
(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1929)

Stereum Sallei (non BERK. et CURT.) T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44 : 154. 1930. pr. p.

子實體は半ば背着生又は大部分背着し，上半は反轉して傘を作り或は覆瓦狀に疊生す。傘は半圓形，強く下屈す，3—15×3—6 mm，上面は初め檜皮色乃至丁字茶色の短密毛を被り殆ど環紋を缺く，漸次毛被は褪色，剝落し，灰色となり或は煙草色の皮層を現わし，環紋を生ず，下面は煙草色乃至黄茶色，緣は淡色，殆ど黄白色を呈す，老時子實層に略々放射



a



b　　c

第 137 圖　ミヤベオオウロコタケ *H. intricata*
a. 子實體 ×1　　b. 同斷面 ×120
c. 剛毛體 ×544　　（大谷氏）

狀の裂目を生ず。肉は厚さ 250—1000μ, 菌絲層は殆ど無色なる菌絲よりなり，苛性加里液にて變色せず，古き子實體に於ては黃褐色の菌絲より成る，背部には明なる皮層發達し，その厚さ 15μ，毛被の厚さ 100μ 內外あり，黃褐色を呈す。子實層は1層，黃褐色を呈す。剛毛體は子實層に近き菌絲層より發し，極めて長大，稍々疎生，先端鈍圓，廣脚，50—110×7—24μ。木材白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯幹上（アズキナシ）—　全國

和名　ミヤベオオウロコタケ

（宮部大鱗茸）〔伊藤篤〕

Hymenochaete arida (KARST.) SACC.

シブウロコタケ

SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 228. 1891—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5 : 340, *f. 15*. 1918—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 38 : 181. 1922; Hymen. Eur. 389. 1928—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2 : 14, *pl. 4*, *f. j*, *j′*. 1940.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44: 4. 1930—千葉及寺本，東大. 農. 演. 林. 報. 43: 29. 1952—原，日. 菌. 目. 159. 1954—今關及土岐，林. 試. 研. 報. 67:24. 1954)

Corticium simulans BERK. et BR. Jour. Linn. Soc. 14:72. 1875—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 128. 1891—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 622. 1888.

Hymenochaetella arida KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 428. 1889.

Hymenochaetella laxa KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 428. 1889.

Hymenochaete laxa SACC. Syll. Fung. 9 : 228. 1891.

Hymenochaete simulans BRES. Hedwigia, 35 : 289. 1896; Ann. Myc. 10:271. 1911—PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 49:34. 1897—V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 116(1): 775. 1907.

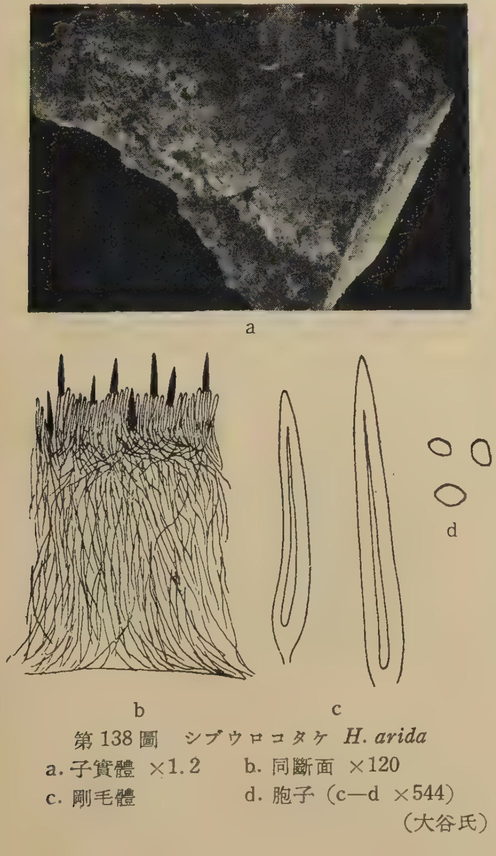
子實體は全背着生，初め着生物上に圓形となるも後擴大癒合し不正形となる，固着性，周緣は極めて薄く不明劃，子實層は表面檜皮色，暗檜皮色或は黃茶，緣は淡色乃至殆ど白色なり。肉は厚さ 50—100μ，菌絲層は淡黃褐色，徑 3—4μ の菌絲が弛く錯綜し，境界層なし。子實層は1層，剛毛體は 30—60×5—9μ。胞子は不整楕圓形，平滑，無色，5×3μ。

所在及產地

廣葉生樹又は枯幹上

北海道，千島，本州—亞(錫)北米．歐

和名　シブウロコタケ（澁鱗茸）〔安田〕，
シブオオウロコタケ（澁大鱗茸）〔伊藤篤〕



第 138 圖　シブウロコタケ *H. arida*
a. 子實體 ×1.2　b. 同斷面 ×120
c. 剛毛體　d. 胞子（c—d ×544）
（大谷氏）

Hymenochaete mougeotii (FR.) COOKE

アカオオウロコタケ

COOKE, Grev. 8 : 147. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6:595. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1157. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:111, *pl.5*, *f.6*. 1891—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 189. 1892—REA, Trans. Brit. Myc. Soc. 4:312, *pl. 9*. 1912; Brit. Basid. 669. 1922—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 98. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 38 : 180. 1922; Hymen. Fr. 388. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 481*. 1925; 6 : 496. 1937—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:326. 1933—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2 : 14, *pl. 5*, *f. i*, *i′*. 1940.

(LLOYD, Myc. Writ. 6:980, 981. 1920—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44:2. 1930—今關，日. 隱. 植. 圖. 387, *pl. 184*, *f. 3—4*. 1939)

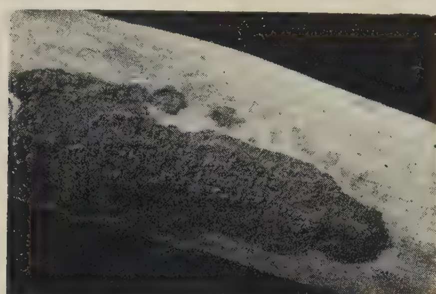
Thelephora Mougeotii FR. Elench. Fung. 1:188. 1828—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:391. 1844.

Corticium Mougeotii FR. Epicr. Myc. 558. 1838; Hymen. Eur. 654. 1874—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:304. 1872—GILLET, Hymen. Fr. 753. 1874—WINTER, Pilze 1 : 333. 1884.

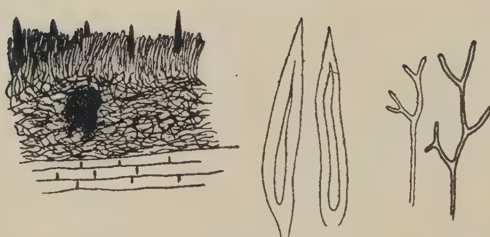
Stereum Mougeotii QUÉL. Enchir. Fung. 206. 1886.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61:6. 1916—安田, 植. 雑. 31 ; 43, 171. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 379. 1927)

子實體は全背着生，廣く擴布し密着す，普通薄質なるも時に厚き毛氈狀をなし丘狀に隆起す。子實層の表面は，'あかのしろ' 色,柿色乃至鳶色,微粉毛面を



a



b c d

第 139 圖 アカオオウロコタケ *H. mougeotii*
a. 子實體 ×1/2 b. 同斷面 ×120 c. 剛毛體
d. 絲狀體 (c—d ×544) (大谷氏)

呈す，緣は稍々劃然。肉は厚さ 100—150μ，稀に 2 mm に至る，菌絲層の菌絲は水平に並び，着生物に接して暗褐色の境界層を作る。子實層は 1 層。剛毛體は稍々疎生，35—77×7—13.5μ,絲狀體は多數に存在し，2—3 回分岐せる鹿角狀，徑 2—3μ，殆ど無色。胞子は不整長楕圓形，平滑，5—7×2—3μ，木材白腐を起す。

所在及產地 主に廣葉樹枯幹上

北海道，千島，本州，九州—歐.濠.亞(西比)

和名 アカウロコタケ (赤鱗茸)〔安田〕，

アカオオウロコタケ (赤大鱗茸)〔伊藤篤〕

Hymenochaete cinnamomea (PERS.) BRES.

ケイヒウロコタケ

BRESADOLA, Hymen. Kmet. 46. 1897—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):98. 1912—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1158. 1916—BURT. Ann. Missouri Bot. Gard. 5:345, *f. 17*. 1918—REA, Brit. Basid. 670. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 38:182. 1922; Hymen. Fr. 389. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51:413. 1935; Ann. Myc. 38 : 65. 1940—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2 : 15, *pl. 3, f. k, k'*. 1940.

(原，日. 菌. 目. 159. 1954)

Thelephora cinnamomea PERS. Myc. Eur. 1 : 141. 1822—FRIES, Elench. Fung. 1 : 201. 1828—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 389. 1844.

Corticium cinnamomeum FR. Epicr. Myc. 561. 1838—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 305. 1872; Enchir. Fung. 209. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 752. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 146. 1882—WINTER, Pilze 1 : 336. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 613. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 320. 1891.

Hypochnus cinnamomeus BONORD. Handb. Allgem. Myk. 160. 1851—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 418. 1888.

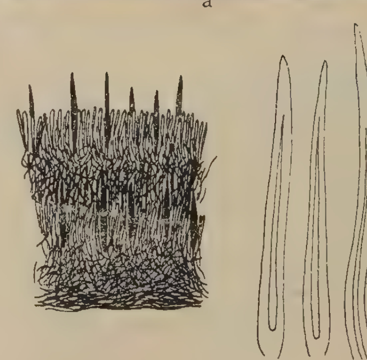
Hymenochaetelle rudis KARST. Hedwigia, 35 : 173. 1896.

Hymenochaete rudis SACC. Syll. Fung. 14 : 218. 1899.

子實體は全背着生にて廣く擴布し固着す，緣は比較的劃然又は不明劃なり。子實層の表面は濃肉桂色，平坦にて龜裂なし。肉は厚さ 300—400μ，菌絲層は交互に重なり，多層となる，厚さ 40—50μ，弛かに



a



b c

第 140 圖 ケイヒウロコタケ *H. cinnamomea*
a. 子實體 ×1.2 b. 同斷面 ×120
c. 剛毛體 ×544 (大谷氏)

錯綜せる菌絲より成る。剛毛體は細長く，50—110×4—6μ。木材白色孔腐を起す。

所在及産地

廣葉樹枯幹上

本州，九州—歐.北米.亞(西比.支)

和名 ケイヒウロコタケ（桂皮鱗茸）〔今關〕

Hymenochaete unicolor BERK. et CURT.

アツミヒビウロコタケ

BERKELEY & CURTIS, Jour. Linn. Soc. 10:335. 1868—COOKE, Grev. 8:148. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6:597. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27:108. 1891—LLOYD, Myc. Writ. 4:572, *f. 780—781*. 1916—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5: 342, *f. 16*. 1918—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 7. 1934—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2:16, *pl. 3, f. m, n, pl. 5, f. m, m'*. 1940.

（原，日．菌．目．159. 1954）

Hymenochaete fuliginosa BERK. et CURT. Jour. Linn. Soc. 10:335. 1868. (non LÉV.)

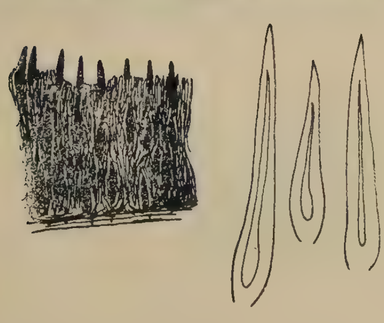
Hymenochaete rimosa (non LÉV.)

（T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44:92. 1930—原，日．菌．目．159. 1954）

子實體は全背着生，初め稍々革質にて着生物に固着するも後漸次木質様に硬化肥厚す，緣は初め稍々纖維狀なるも，厚さを增すに從つて劃然となる。子實層の表面は煙草色乃至媚茶色等にて，老時汚灰汁色となる，深き割目を生じ，多角の小片に龜裂す。肉は厚さ 350—1000μ，菌絲層は通常極めて薄く殆ど不明瞭なるも稀に 150μ に至る。子實層は明なる層をなして重なり，8層に及ぶものあり，層間に菌絲層を挾まず。剛毛體は 35—80×5—12μ。木材白色孔腐を起す。



a



b c

第141圖 アツミヒビウロコタケ *H. unicolor*

a. 子實體 ×2　　b. 同斷面 ×120

c. 剛毛體 ×544　　（大谷氏）

所在及産地

廣葉樹枯幹上　　本州，小笠原島—中南米

和名 アツミヒビウロコタケ

（厚身皸(罅)鱗茸）〔今關〕

Hymenochaete spreta PECK

ケイヒウロコタケモドキ

PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 30:47. 1879—SACCARDO, Syll. Fung. 6:595. 1888—BURT, Bull. Missouri Bot. Gard. 5:348, *f. 19*. 1918—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 7. 1934—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2:17, *pl. 5, f. n, n'*. 1940.

Hymenochaete laevigata MASS. Jour. Linn. Soc. 27:107. 1890.

子實體は全背着生，廣く擴がり固着す，緣は劃然たらず。子實層の表面は略々丁字茶色を呈し，細き龜裂を生ず。肉は厚さ 300μ 以上，剛毛層と菌絲層と交互に重なり多層をなす，菌絲層は厚さ 15μ 內外，錯綜せる菌絲より成る，剛毛體層は厚さ 150μ 內外に及び，深淺不定の位置に剛毛體を散生す。剛毛體は25—45×5—7μ にて比較的短小なり。木材白腐を起す。

所在及産地 廣葉樹枯幹上　　本州—北南米

和名 ケイヒウロコタケモドキ

（擬桂皮鱗茸）〔今關〕

Hymenochaete fomitoporioides S. ITO et IMAI

トビイロウロコタケ

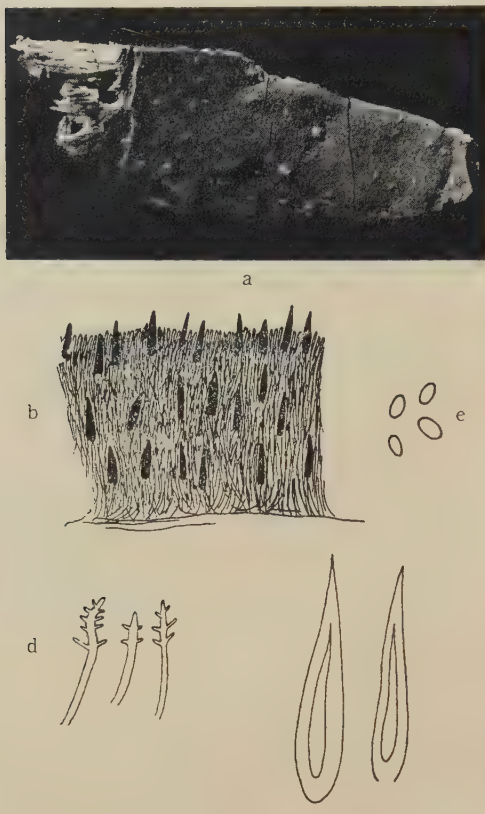
S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:129. 1940.

子實體は廣く且つ固く全背面展着をなし，木質。子實層面は無毛，平坦，黃褐色乃至赤褐色，肉組織は厚さ 1mm に及び，菌絲層を缺き，殆ど全層が剛毛體層をなす。剛毛體は 37—50×7—10μ，僅に突出す，頂端に於て羽狀分岐せる絲狀體を混在す。胞子未詳。

所在及産地

廣葉樹の樹皮面　　　　　　　小笠原島

和名 トビイロウロコタケ（鳶色鱗茸）〔今井〕



第 142 圖　トビイロウロコタケ *H. fomitoporioides*
a. 子實體 ×2　b. 同斷面 ×120　c. 剛毛體
d. 絲狀體　e. 胞子（c—e ×544）（大谷氏）

Hymenochaete corrugata (FR.) LÉV.

ヒビウロコタケ

LÉVEILLÉ, Ann. Sci. Nat. III, 5: 152. 1846—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 272. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 319. 1871—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 595. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 110. 1891; Brit. Fung. Fl. 1: 117. 1892; Brit. Fungi, 421. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 408. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 98. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5: 358, *f. 27*. 1918—REA, Brit. Basid. 669. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 38: 184. 1922: Hymen. Fr. 392. 1928—RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 8. 1934—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2: 18, *pl. 3. f. p*, *pl. 5*, *f. o, o'*. 1940.

（今關，日. 隱. 植. 圖. 387, *pl. 184*, *f. 1—2*. 1939—千葉及寺本，東大. 農. 演. 林. 報. 43: 29. 1952—原，日. 菌. 目. 159. 1954）

Thelephora corrugata FR. Obs. Myc. 1: 134. 1815; Elench. Fung. 1: 224. 1828—PERSOON, Myc. Eur. 1: 134. 1822—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 172. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 388. 1844.

Thelephora Padi PERS. Myc. Eur. 1: 142. 1822.

Corticium corrugatum FR. Epicr. Myc. 565. 1838; Hymen. Eur. 656. 1874—GILLET, Hymen. Fr. 753. 1874—WINTER, Pilze 1: 331. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 425. 1888.

Stereum corrugatum QUÉL. Champ. Jura Vosg. 2: 359. 1873; Enchir. Fung. 206. 1886.

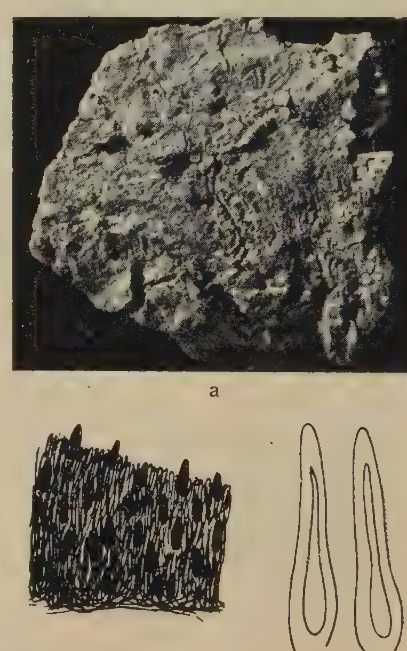
Hymenochaete insularis BERK. Grev. 1: 165. 1873—COOKE, Grev. 8: 148. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 598. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27: 107. 1890.

Xerocarpus corrugatus KARST. Hattsv. 2: 138. 1882.

Hymenochaete rimosa LLOYD. Myc. Writ. 7: 1345. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 45. 1936.

(T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44: 92. 1930. pr. p.—原，日. 菌. 目. 159. 1954)

子實體は全背着生，廣く擴布し，固着す，周緣は劃然たらず。子實層の表面は梅鼠色，焦茶色，丁字茶色等にて不定，帶粉面，細き多角形の龜裂を生ず。肉は厚さ 150μ 內外，全體剛毛體層より成り，菌絲



第 143 圖　ヒビウロコタケ *H. corrugata*
a. 子實體 ×2　b. 同斷面 ×135
c. 剛毛體 ×612　（大谷氏）

層を缺く。剛毛體は 35—60×7.5—12μ，比較的短大，鈍頭，全層中に深淺不定の位置に散生す。擔子柄は 10—13×3.5—4μ。胞子は不整長楕圓形，平滑，無色，6×2μ。木材白腐を起す。

所在及産地

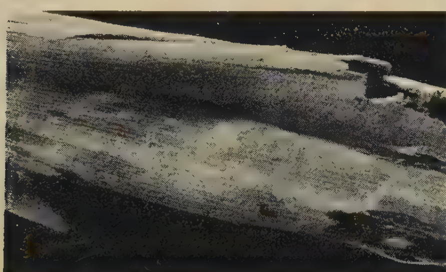
廣葉樹枯幹上

北海道，本州，九州—歐.北南米

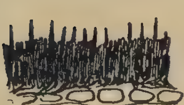
和名 ヒビウロコタケ（皸(罅)鱗茸）〔今關〕

Hymenochaete palmicola S. ITO et IMAI
ヤシウロコタケ

S. ITO et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 129. 1940.



a



b



c

第 144 圖　ヤシウロコタケ *H. palmicola*
a. 子實體 ×4/5　b. 同斷面 ×120
c. 剛毛體 ×544　（大谷氏）

子實體は廣く且つ固く全背面展着をなし，甚だ薄し。子實層は暗褐色，周縁は黃褐色，後に小龜裂を生ず。肉組織は厚さ 60—240μ，菌絲層を缺き，剛毛體層は暗褐色。剛毛體は夥しく密生し，暗褐色，40—55×6—7μ，5—30μ の長さに突出す。胞子は楕圓形，平滑，無色，4—5×2—2.5μ。

所在及産地

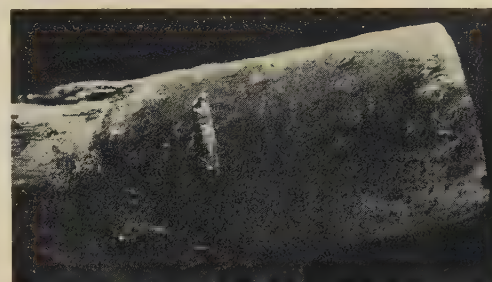
ヤシ (*Cocos nucifera* L.) 葉柄上　小笠原島

和名 ヤシウロコタケ（椰子鱗茸）〔今井〕

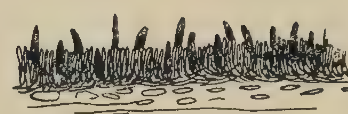
Hymenochaete pertenuis S. ITO et IMAI
ウスカミウロコタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 130. 1940.

子實體は全背着，初め小形なるも隣接のものと癒合し大形となる，甚だ薄し。子實層面は黃褐色乃至



a



b



c

第 145 圖　ウスカミウロコタケ *H. pertenuis*
a. 子實體 ×1.5　b. 同斷面 ×135
c. 剛毛體 ×612　（大谷氏）

暗褐色，龜裂なし，肉組織は厚さ 50—75μ，菌絲層を缺く。剛毛體は夥しく密生し。35—65×7—10μ，半分或はそれ以上突出す，多くは彎曲す。胞子は楕圓形，平滑，無色，5×2.5μ。

所在及産地

廣葉樹枯枝上　小笠原島

和名 カミウロコタケ（紙鱗茸）〔今井〕

Hymenochaete episphaeria (SCHW.) MASS.
シブウロコタケモドキ

MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 111. 1891—COOKE, Grev. 20 : 11. 1891—SACCARDO, Syll. Fung. 11 : 123. 1895—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 5 : 362, *f. 28*. 1918—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 2 : 19, *pl. 5*, *f. p, p'*. 1940.
（原，日. 菌. 目. 159. 1954）

Thelephora episphaeria SCHW. in FRIES, Elench. Fung. 1 : 225. 1828; Trans. Am. Phil. Soc. N. S. 4 : 169. 1832.

子實體は全背着生，廣く擴布し固着す，緣は劃然ならず。子實層の表面は暗丁字茶色，微絨毛狀，龜裂を生ぜず。肉は厚さ 40μ 內外にて極めて薄く，子實層及び着生物に接する部に暗色の境界層を有す。境界層は厚さ 5—10μ，剛毛體は皆この層より出ず，剛毛體は 33—50×7—10.5μ，他に黃褐色，菌絲狀の絲狀體を有す。木材白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯幹上 本州—北米

和名 シブウロコタケモドキ（擬澁鱗茸）〔今關〕

Veluticeps COOKE

クスリウロコタケ屬

COOKE, Grev. 8 : 148. 1880—PATOUILLARD, Ess. Tax. 75. 1900.

Hymenochaete § *Veluticeps* MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 116. 1890.

子實體は背着或は半背着，貝殼狀，半圓形或は盃形にて革質乃至木質，上背面は毛を被むり絨樣なり。一般の形態は前屬と同樣なるも，その子實層面に暗色の菌絲が束狀に集合し層外に突出するを異點とす。（本屬名は velutinus（絨樣）ceps（頭）より出づ）

基準種 *V. medicum* (CURREY) COOKE

Veluticeps medicum (CURREY) COOKE

クスリウロコタケ

COOKE, Grev. 8 : 148. 1888.

（今關，日. 隱. 植. 圖. 387, *pl.184, f.5—6.* 1939; 及土岐，林. 試. 研. 報. 67 : 25. 1954）

Stereum medicum CURREY, Trans. Linn. Soc. 1 : 127, *pl. 20, f. 9—10.* 1876—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 582. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 202. 1891.

（安田，植. 雜. 31 : 43. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 379. 1927—原，日. 菌. 目. 354. 1954）

Hymenochaete medica LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 10. 1917.

（LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 6. 1917—T. ITO, Bot. Mag. Tokyo, 44 : 157. 1930—原，日. 菌. 目. 159. 1954）

Fomes angulus LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45 : 6. 1913; Fomes, 278. 1915—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 394. 1925.

（LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45 : 4. 1913—梅村，植. 雜. 28 : 358. 1914—安田，植. 雜. 31 : 50. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 237. 1917; ed. 3. 137. 1927）

Fomes angularis LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes: 239, *f. 586.* 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 81. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 395. 1925.

（白井，日. 菌. 目. ed. 3. 137. 1927）

Stereum japonicum YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 33 : 189. 1919; 37 : 60, *f. 1.* 1923.

（白井，日. 菌. 目. ed. 3. 379. 1927）

Lloydella medica RICK, Monogr. Thel. Resup. Riogr. 3. 1934.

子實體は木質或は木栓質，堅緻，多年生，全背着或は緣邊反轉して傘を作る。傘は不正形，地圖形，樹皮面に殆ど密觸す，幅 2—3cm，厚さ 1—1.5cm，表面は黑色，狹き隆起せる環溝あり，緣は不規則に凹凸す，子實層面は肉桂色乃至焦茶色，絨毛狀，肉は暗褐或は肉桂色，濃淡の層あり，暗褐色の菌絲束が層面より突出す，菌絲束は數十本の菌絲が密に結合し濃色，各菌絲は長短不同にて先端遊離し，箒狀をなす。木材の褐腐を起す。

所在及產地

シイ（*Shiia*）等廣葉樹材上

本州，四國—亞(印. 比)南米

和名 クスリウロコタケ（藥鱗茸）〔安田〕，
クスリオオウロコタケ（藥大鱗茸）〔伊藤篤〕，
チズガタサルノコシカケ
（地圖形猿腰掛）〔梅村〕

VII. Cladoderreae フトウラスジタケ族

子實體は木狀革質にて，傘狀の漏斗形，有莖或は無莖，子實層は木質の縱肋脈及粗疣あり。

Cladoderris PERS.

フトウラスジタケ屬

PERSOON, in GAUDICHAUD, Voy. Urania Bot. 176. 1826—FRIES, Fungi Natal. 20. 1848.

Actinostroma KLOTZSCH, Nov. Acta. Car. Suppl. 1 : 236. 1843.

Beccariella CESATI, Myc. Born. 9. 1877.

Thelephorella KARSTEN, Hedwigia, 28 : 191. 1889.

子實體は木狀革質，傘狀漏斗形，有莖或は無莖，子實層は下面に存し，木質の縱肋脈及び粗疣を有す。胞子は平滑，無色。

（本屬名は clados（枝）derris（房）より出づ）

基準種 *C. dendritica* PERS.

本邦既知種檢索表

A. 子實體表面は密綿毛あり，子實層面灰白或は材白色，嚢狀體は狹徳利形或は紡錘形，結晶あり。

フトウラスジタケ ***C. spongiosa*** (167)

B. 子實體表面は粗豪の密毛を被むり，子實層面は淡汚桃色，嚢狀體は毛狀，結晶なし。

アラゲウロコタケ ***C. caperata*** (167)

Cladoderris spongiosa FR.
フトウラスジタケ

FRIES, Fungi Natal. n. 20. 1848—SACCARDO, Syll. Fung. 6:548. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 181. 1892—LLOYD, Myc. Writ. 4, Syn. Gen. Clad. 5, *f. 526*. 1913.

(澤田，臺. 博. 學. 報. 25:179. 1935；臺. 菌. 調. 報. 7:76. 1942—今關，日. 隱. 植. 圖. 395, *pl.188, f.3*. 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，255, 1945—原，日. 菌. 目. 68. 1954)

子實體は短莖を有し，傘は漏斗形或は廣扇形，徑2—20cm，革質を帶ぶ，上面は淡材色乃至淡褐色にて著しき綿毛を密生し，厚き毛氈狀となる，放射狀の粗皺を存す，下面は灰白色或は材白色，著しき放射狀の肋脈を存し，小疣を粗生或は稍々密生す。胞子は無色，偏長卵形，7.5—9×5μ。嚢狀體は狹徳利形又は紡錘形，上半に結晶を被むり，25—45×10—15μ。

所在及產地

腐木上　　本州，琉球—阿. 濠. 亜(比. 臺)

和名 フトウラスジタケ（太裏條茸）

Cladoderris caperata (BERK. et MONT.) PAT.
アラゲウロコタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 73. 1900.

Thelephora caperata BERK. et MONT. Ann. Sci. Nat. III, 11:241. 1849—MONTAGNE, Syll. Crypt. 175. 1856—SACCARDO, Syll. Fung. 6:523. 1888. (澤田，臺. 菌. 調. 報. 5:67. 1931—原，日. 菌. 目. 360. 1954)

Stereum caperatum MASS. Jour. Linn. Soc. 27: 161. 1890—LLOYD, Myc. Writ. 4, Stip. Ster. 17. *f. 531*. 1913—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 7:87, *f. 1*. 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:7. 1918—安田，植. 雜. 33:75. 1919—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 378. 1927—原，日. 菌. 目. 353. 1954)



第146圖 アラゲウロコタケ *C. caperata*
(LLOYD 氏による)

子實體は漏斗形，有莖或は無莖，革質，高さ2—10cm，徑 2—15cm，薄し，上背面は淡汚桃色にて，放射狀の隆起脈を有し，通常粗豪の密毛を被むる，子實層面は背面より稍々淡色，放射狀に隆起襞を有し，無毛，肉は厚さ600—700μ，構成菌絲は密にて縱列し，厚膜，無色，徑約3μ。莖は中心生なるも，時に特に莖とならず直ちに基物に着生す，着生部は有毛の盤形をなす，莖は 0.5—2×0.2—0.5cm。嚢狀體は毛狀をなし結晶を被らず，徑3—4.5μ，撓曲，屢々先端に近く縊れ，層外に 12μ 程抽出す。胞子は平滑，無色，8—10×3—4.5μ。

所在及產地

廣葉樹の腐木上　　本州—南北米

和名 アラゲウロコタケ（荒毛鱗茸）〔安田〕

VIII. Cyphelleae フウリンタケ族

子實體は微小，樹皮上或は草莖上に懸垂し，盃形或は管形をなし，その内面に子實層を形成す，有莖或は無莖。

Cyphella FR.
フウリンタケ屬

FRIES, Syst. Myc. 2:201. 1822.

Calyptella QUÉLET, Fl. Myc. Fr. 25. 1888.

Cymbella PATOUILLARD, Ess. Tax. 57. 1900.
Phaeocarpus PATOUILLARD, Ess. Tax. 57. 1900.

子實體は小形,多くは孤生し,膜質,盃形,鐘形或は漏斗形にて,稀に殆ど扁平となる,基部に於て多くは柄狀となり,着生物より懸垂す。子實層は內部卽ち下面に生じ,平坦或は皺あり,擔子柄は棍棒形にて4小柄を生じ,胞子は楕圓形或は卵形,平滑,無色,稀に黃乃至褐色を帶ぶ。莖葉,樹木或は蘚上生。

(本屬名はCyphos(盃)或はcypella(耳孔)より出づ)
基準種 *C. digitalis* FR.

本邦既知種檢索表

A. 背面褐色,密毛を被むる,廣葉樹枯木上。
　　コブシタケ ***C. pendula*** (168)
B. 背面淡色,無毛,ヘゴ上。
　　ヘゴフウリンタケ ***C. cyatheae*** (168)

Cyphella pendula (SCHWAEGR) FR.
コブシタケ

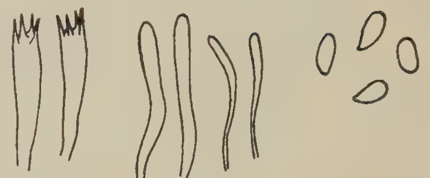
FRIES, Syst. Myc. 2:203. 1823; Epicr. Myc. 567. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6:674. 1888.
(安田,植. 雜. 33:76. 1919—白井,日. 菌. 目. ed. 3. 112. 1927)
Peziza Digitalis SCHW. Syn. Fung. Car. n. 1183. 1822.
Peziza pendula SCHWAEGR in litt. (sec. FRIES)
Chaetocypha pendula KUNTZE, Rev. Gen. 2: 847. 1891.
Cyphella digitalis (non FRIES)
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61:6. 1916—安田,植. 雜. 30:240. 1916 (ut *digitata*)—白井,日. 菌. 目. ed. 3. 112. 1927—原,日. 菌. 目. 101. 1954)

子實體は頗る小形,1.5—3×1.7—5 mm,樹皮面に懸垂す,柔膜質,薄き不規則なる盃形,基端狹小となる,周緣は 2—6 片に深裂す,乾時捲縮し拳の如し,外背部表面は褐色,極めて短き密毛に被わる,肉は褐色。子實層面は平滑,黃色,胞子は楕圓形,平滑,無色,4×2.5µ。

所在及產地
林內廣葉樹枯木上　　本州—北米
和名 コブシタケ (拳茸) 〔安田〕

Cyphella cyatheae S. ITO et IMAI
ヘゴフウリンタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 14:131. 1940.



第147圖 ヘゴフウリンタケ *C. cyatheae*
擔子柄,絲狀體及胞子 ×612 (大谷氏)

子實體は群生,盃狀,無莖,0.5—1 mm,薄膜質,乾時淡褐或は淡黃色,子實層は盃狀體の內側にありて稍々淡色,平坦,外面は無毛,平滑或は多少粉狀。擔子柄は棍棒狀圓筒形,2—4 胞子を着く,胞子は稍々紡錘形或は楕圓形,平滑,無色,7.5—10×5—6µ。絲狀體に2形ありて棍棒狀圓筒形或は狹き棍棒形なり。

所在及產地
ムニンヘゴ (*Cyathea boninensis* COPEL.) 葉柄上　　小笠原島
和名 ヘゴフウリンタケ (ヘゴ風鈴茸) 〔今井〕

疑問種

Cyphella epileuca BERK. et CURT. Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4:124. 1858—SACCARDO, Syll. Fung. 6:680. 1888.
(松村,植. 名鑑, 1:139. 1904—白井,日. 菌. 目. 27. 1905; ed. 2. 189. 1917; ed. 3. 112. 1927—原,日. 菌. 目. 101. 1954)
Cyphella (?) *involuta* LLOYD, Myc. Writ. 7: 1274, *f. 2813*. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 44. 1936.
(LLOYD, Myc. Writ. 7:1265. 1924)
Cyphella quercina LLOYD, Myc. Writ. 7:1357, *f. 3196, 3198*. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 44. 1936.
(LLOYD, Myc. Writ. 7:1345. 1925)

Solenia HOFFM. ex FR.
パイプタケ屬

HOFFMANN, Deut. Fl. 2: *pl. 8*. 1795—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 675. 1801—FRIES Syst. Myc. 2:200. 1823.

子實體は群生,叢生或は孤生し,管狀,洋盃形或は洋瓥燊形にて,膜質或は革質,無莖或は殆ど無莖,基物上に表生する早失性の菌絲上に存す,外側多くは有毛,內側に子實層あり,緣邊內屈し稍々口を鎖す,通常互に密生するが爲めに恰も1個の子實體なるが如き觀を呈す。子實層は平滑,擔子柄は密生し,棍棒形,2—4 小柄を有す。胞子は楕圓形,卵形或は圓筒形,無色或は有色なり。材上或は草莖上。

(本屬名は solen (パイプ,鞘) より出づ)
基準種 *Solenia candida* PERS.

Solenia filicina PECK

シダパイプタケ

PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 28: 52. 1876—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 426. 1888—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 11: 18. 1924.

子實體は小管形にて棍棒形或は圓筒形，徑約 0.25—0.35 mm，壓着せる毛を被むり，帶赤黃色，基層は帶赤黃色にて緣は白色或は淡色，有毛，胞子は廣紡錘形にて屈曲せず，平滑，10—11×4.5 μ。

所在及產地

シダ莖基部　北海道—北米

和名 シダパイプタケ（羊齒煙管茸）



第 148 圖　シダパイプタケ *S. filicina*
a. 斷面 ×135　b. 胞子 ×612（大谷氏）

IX. Sparasseae ハナビラタケ族

子實體は直立し，有莖，肉質，盛に分岐し，花瓣狀或は甘藍狀團塊となる，胞子は無色，平滑なり。

Sparassis FR.

ハナビラタケ屬

FRIES, Syst. Myc. 1: 464. 1821.

Musseeola, KUNTZE, Rev. Gen. 2: 859. 1891.

子實體は肉質，基部の太き莖より數回分岐し，各枝端は扁平なる花瓣狀或は銀杏葉狀となり，著しく波曲し，全形は稍々球形なる 1 集團となる，各傘は薄く，下面に子實層を生ずるも，傘の捩曲により上下の變化著しくして腹背の區別明かならず。擔子柄は棍棒形にて 4，或は 2 小柄を有し，胞子は卵形，楕圓形或は球形，平滑，無色，胞子紋は淡黃色なり。嚢狀體なし。菌絲は根狀束となり。屢々樹根に附着す。

（本屬名は sparasso（裂く）より出づ）

基準種　*S. crispa* (WULF.) FR.

本邦既知種　ハナビラタケ *S. crispa* (169)

Sparassis crispa (WULF.) FR.

ハナビラタケ

FRIES, Syst. Myc. 1: 465. 1821; Elench. Fung. 227. 1828; Epicr. Myc. 570. 1838; Hymen. Eur. 666. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 331. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 330, *f. 87*. 1871; Handb. Austr. Fungi, 198. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 308. 1872; Enchir. Fung. 202. 1886; Fl. Myc. 16. 1888—GILLET, Champ. Fr. 757. cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2: 165. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 387. 1889—WINTER, Pilze 1: 317, *f. 1*. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 690. 1888—W.G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 326. 1891; Brit. Basid. 428, *f. 106*. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 74, *f. 1*. 1892; Brit. Fungi, 433. 1911—ROLLAND, Atl. Champ. 89, *pl. 102*. 1903—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 26: 211. 1910; Hymen. Fr. 84. 1928—LLOYD, Myc. Writ. 6: 910, *f. 1613*. 1920—REA, Brit. Basid. 660. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6: 501. 1937.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38: 10. 1911—川村，日. 菌. 圖說, *n. 13*. 1929—今關，日. 隱. 植. 圖. 409, *pl. 195*, *f. 2*. 1939—原，日. 菌. 目. 345. 1954)

Elvella ramosa SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl.*



第 149 圖　ハナビラタケ *S. crispa*
子實體 ×1/2　（大谷氏）

163. 1763.

Clavaria crispa WULF. in JACQ. Misc. 2 : 100, *pl.14, f.1.* 1781—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 585. 1801; Myc. Eur. 1 : 160. 1822.

Sparassis ramosa SCHROET. Pilze Schles. 1 : 449. 1888—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1222. 1916.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 39, Beibl.:155. 1900—松村，植. 名鑑，1:174. 1904—白井，日. 菌. 目. 92. 1905; ed. 3. 367. 1927—安田，植. 雜. 25:443. 1911—原，日. 菌. 目. 345. 1954)

Masseeola crispa KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 859. 1891.

子實體は 5—20cm 或はそれ以上の直徑を有し，白色或は黃白色なる無數の波曲せる花瓣狀薄片の團塊なり。基部は塊狀或は短大，稀に稍々長き莖を有し，之れより上方左右に分岐を重ぬ，各枝は肉質，扁平，花瓣狀或は銀杏葉狀をなし，且つ波狀に彎曲するが爲めに大花冠狀となる。子實層は箇々の枝片の下面に生ず。胞子は卵形或は短楕圓形，平滑，無色，6—7×4—5μ。莖は基物內に沒入す。

所在及產地

針葉樹切株又は枯幹地際部

北海道，本州，四國—歐. 北米. 濠

和名 ハナビラタケ（花片茸）〔安田〕

X. Gloeostereae ニカワウロコタケ族

子實體は膠質にて腎臟形或は扇形，坐生。

Gloeostereum S. ITO et IMAI

ニカワウロコタケ屬

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13 : 11. 1933.

子實體は膠質，初め球形にて，後類腎臟形或は類扇形の傘となり，無莖，表面は無性，絨毛を被むる，下面は有性，無毛にて小疣を有し或は皺襞あり。擔子柄は頭狀，1室，4小柄を有す。胞子は無色，楕圓形，平滑。囊狀體は類圓筒形或は棍棒形，無色。（本屬名は gloios（粘着の）Stereum（屬名）より出づ

基準種 *G. incarnatum* S. ITO et IMAI

本邦既知種

ニカワウロコタケ ***G. incarnatum*** (170)

Gloeostereum incarnatum S. ITO et IMAI

ニカワウロコタケ

IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13:11, *f. 1—3.* 1933.

傘は膠質，2.5—15×2.5—10cm，初め球形，のち類腎臟形或は類扇形，往々疊生す，無莖，表面は無性，絨毛を被むり，白色或は鮭肉色，のち暗褐色となる，下面は有性，無毛，稍々小疣或は皺襞を有し，クリーム色乃至鮭肉色，のち粉狀を呈す，肉は淡褐色。擔子柄は棍棒形，幅約 5μ，1室，4長小柄を有す，胞子は卵狀楕圓形，稍々屈曲，小嘴あり，平滑，無色，6—8.5×3μ。囊狀體は圓筒形，圓筒狀棍棒形，無色，50—140×5—10μ，絲狀體は絲狀，先端僅か廣し，無色。

所在及產地

ニレ（*Ulmus*）イタヤ（*Acer*）の生木及腐木上

北海道

和名 ニカワウロコタケ（膠鱗茸）〔今井〕

PHYLACTERIACEAE イボタケ科

子實體は全背着，半背着，坐生或は有莖，坐生種は傘の基部垂下し或は半圓形をなし，有莖種は種々の形をなし，傘形，有枝箒茸狀或は花瓣狀をなす，莖は單一なるも僅か分岐するものあり，肉は纖維狀，肉質或は革質等種々あるも，一般に暗褐色（褐色或は黑色）なるを大なる特徴とし，稀に白色のことあり，乾時屢々强臭を有するも亦特徵なり。子實層托は平滑，粒狀或は有刺，稀に孔狀にて粗面，胞子は一般に有色，類球形にて有稜或は有疣，菌絲は有節なり。

族及屬檢索表

A. 子實體は全背着，傘形或は有枝箒茸狀，肉は綿絮狀，膜質或は革質，常に暗色，子實層托は平滑或は粒狀，稀に刺狀をなす。

1. イボタケ族 **Phylacterieae** (171)

a. 子實體は全背着，綿絮狀，表面平坦或は乳頭狀突起を有す。

ラシヤタケ屬 **Tomentella** (171)

b. 子實體は有莖，坐生或は背着，纖維狀革質，傘形，或は箒狀，子實層面は絹絲樣光澤ある皺或

は廣き鈍き粒あり。

イボタケ屬 **Thelephora** (172)

B. 子實體は有莖，地上生，莖は單一，肉質或は革質，子實層托は明かに刺狀をなす。

2. シシタケ族 **Hydnelleae** (176)

a. 子實體は革質。

チヤハリタケ屬 **Calodon** (176)

b. 子實體は肉質。シシタケ屬 **Sarcodon** (181)

C. 子實體は地上生，花瓣狀多傘，肉は柔肉質，乾時堅脆，黑色となる，子實層托は廣き鈍き褶狀をなしウスタケに類似す。

3. カラスタケ族 **Polyozelleae** (184)

カラスタケ屬 **Polyozellus** (184)

D. 子實體は有莖，肉質，子實層托は管孔狀をなす。

4. クロカワ族 **Boletopseae** (185)

クロカワ屬 **Boletopsis** (185)

I. Phylacterieae (*Thelephoreae*) イボタケ族

子實體は全背着，傘形或は有枝箒茸狀，肉は綿絮狀，膜質或は革質，常に暗色，子實層托は平滑或は粒狀，稀に刺狀をなす。

Tomentella (PERS. ex FR.) PAT.

ラシヤタケ屬

PERSOON, Obs. Myc. 1:38. 1799. pr. p.—PATOUILLARD, Ess. Tax. 120. 1900.

Hypochnus FRIES. pr. p.

子實體は背着，弛く纒れたる菌絲より成り，綿絮狀或は膜質，平坦或は稍々乳頭狀突起あり，肉は有色，柔軟，僅か密なり，子實層は通常連續せず，各所に擔子柄を群生す，嚢狀體なし，胞子は有色にて黄，黄褐，褐或は灰色を呈し，類球形或は多くは不正有稜又は有刺，樹皮，蘚苔或は地上生。

(本屬名は tomentum (毛) より出づ)

基準種　*T. ferruginea* (PERS. ex FR.) PAT.

本邦既知種　ラシヤタケ *T. fusca* (171)

Tomentella fusca (PERS. ex FR.) SCHROET.

ラシヤタケ

SCHROETER, Pilze Schles. 1: 419. 1888—V. HOEHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 117(1): 1112. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 91. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40: 147. 1924; Hymen. Fr. 494, *f. 132.* 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51: 409. 1935.

(安田，植. 雜. 33: 113. 1919—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 391. 1927—原，日. 菌. 目. 362. 1954)

Corticium fuscum PERS. Obs. Myc. 1:38. 1796—FRIES, Hymen. Eur. 651. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:314. 1876—WINTER, Pilze 1:335. 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 210. 1886; Fl. Myc. 8. 1888.

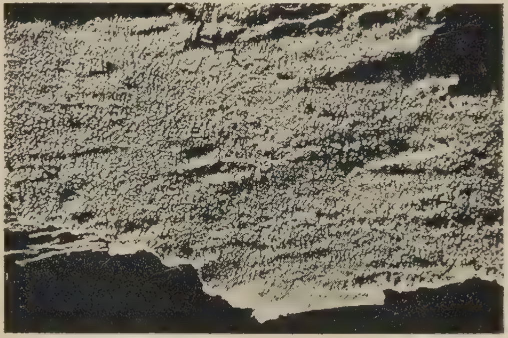
Thelephora vinosa PERS. Syn. Meth. Fung. 578. 1801.

Hypochnus fuscus FR. Obs. Myc. 2:280. 1818; Summa Veg. Scand. 337. 1848—KARSTEN, Symb. Myc. Fenn. 8: 13. 1881; Hattsv. 2: 163. 1882—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 662. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1200. 1916—BRESADOLA, Fung. Kmet. 51. 1897; Ann. Myc. 1: 106. 1903.

Thelephora fusca FR. Syst. Myc. 1:451. 1821; Elench. Fung. 1:201. 1828; Epicr. Myc. 544. 1838—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 395. 1844.

Zygodesmus fuscus CORDA, Icon. Fung. 4: 26, *f. 81.* 1840.

子實體は着生物上に擴布し，薄膜狀にて，剝ぐを得，暗褐色，肉桂色或は褐色にて幾分菫色を帶ぶ，徑 2—10 cm，肉は厚さ 200—350 μ，菌絲は着生物に沿うて僅かに存在し，上向し，分岐し，粗く纒絡す，同色。子實層は同色，粗にて薄し，胞子は帶赤褐色，類球形或は多くは不正稜形，有刺，7—9×5—6 μ。



a



b

第 150 圖　ラシヤタケ *T. fusca*

a. 子實體 ×2　b. 胞子 ×612 (大谷氏)

所在及產地

腐木，苔石上　本州—歐. 亞(西比)

和名　ラシヤタケ (羅紗茸) 〔安田〕

Thelephora Fr.

イボタケ屬

FRIES, Syst. Myc. 1:428. 1821. (non sensu PAT.)

Phylacteria PERSOON, Myc. Eur. 1:111. 1822 —PATOUILLARD, Hymen. Eur. 153. 1887.

Merisma PERSOON, Myc. Eur. 1:155. 1822. pr. p.

Scyphopilus KARSTEN, Hattsv. 2:155. 1882.

子實體は纖維狀革質，柔軟，有莖，坐生或は背着，形種々ありて樹枝狀，扇狀或は花瓣狀，肉は纖維狀革質或は海綿質，有色。子實層は下面，平坦，絹絲狀皺あるか或は散在せる鈍粒あり，擔子柄は 2—4 小柄を有し，胞子は有稜或は有疣，褐色。囊狀體なし，地上生。

(本屬名は thele (疣) phoreo (柄) より出づ)

基準種　*T. terrestris* Ehrh. ex Fr.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は直立し，明かなる莖を有す。
- a. 傘部は甚だ狹く分岐し，各片は扁平或は圓筒形，子實層は兩面或は 1 面生。
  - α. 高さ 2—7 cm，多岐，無毛，生時惡臭あり。　　モミジタケ ***T. palmata*** (172)
  - β. 高さ 3—5 cm，多岐，微毛あり，莖に絨毛を有す，惡臭なし。　　トサカイボタケ ***T. anthocephala*** (173)
- b. 傘部は樹枝狀をなし，放射狀に擴り，小形菌，莖に絨毛あり。　　キブリイボタケ ***T. multipartita*** (173)

B. 莖は短く塊狀或は傘の基部莖狀となり，傘は扇形にて重なりて花瓣狀となる。
- a. 表面材木色，殆ど平坦或は放射狀細皺あり。　　ツブイボタケ ***T. papillosa*** (174)
- b. 表面材木色と黑褐色との斑色，放射狀皺襞あり，纖維狀　　イボタケ ***T. japonica*** (174)

C. 他物上に被覆となり，半背着或はこれに枝を生ず。
- a. 多くの傘を反轉す，傘面に放射狀鱗片あり。　　チヤイボタケ ***T. terrestris*** (174)
- b. 上部に於て多くの扇形枝を生じ，先端筆毛狀，平滑。　　クマデタケ ***T. spiculosa*** (175)

Thelephora palmata (SCOP.) FR.

モミジタケ

FRIES, Syst. Myc. 1:432. 1821; Elench. Fung. 1:167. 1828; Epicr. Myc. 537. 1838; Hymen. Eur. 634. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 1:113. 1822—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):163. 1836; Outl. Brit. Fung. 267. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:398. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 30. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:312. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:300. 1872; Enchir. Fung. 203. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 742. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:303. 1876—WINTER, Pilze, 1:349. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:529. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1140. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:432. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:104. 1892; Brit. Fungi, 425. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:91. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 401. 1908—HERTER, Krypt. Fl. Mark Brand. 6:131, *f. 4c* (p. 108). 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):102. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:201, *pl. 4, f. 4*. 1914.

(安田，植. 雜. 26:420. 1912; 31:45. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51:4. 1914—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 653. 1917; ed. 3. 389. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Agr. Sci. 3:108. 1931—今關，日. 隱. 植. 圖. 397, *pl. 189, f. 5—6*. 1939—原，日. 菌. 目. 361. 1954)

Clavaria palmata SCOP. Fl. Carn. 2:483. 1772—NEES, Syst. Pilze Schw. 169, *f. 151 B*. 1817.

Merisma foetidum PERS. Comm. Fung. Clav. 92. 1797; Syn. Meth. Fung. 584. 1801—CORDA, Icon. Fung. 5:82, *pl. 10, f. 77*. 1842.

Merisma palmatum PERS. Myc. Eur. 1:157. 1822—KARSTEN, Hattsv. 2:156. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 433. 1889.

Phylacteria palmata PAT. Ess. Tax. 119. 1900 BOURDOT & L. MAIRE, Bull. Soc. Myc. Fr. 36: 75. 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40:121. 1924; Hymen. Fr. 465. 1928—REA, Brit. Basid. 652. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:321. 1933—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel.



第 151 圖　モミジタケ *T. palmata*
a. 子實體 ×1　b. 胞子 ×612 (大谷氏)

Fung. 5 : *pl. 480, f. 2.* 1930; 6 : 494. 1937.

Thelephora soluta LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1228, *f. 2452.* 1923; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 60. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1273, *f. 2802.* 1924)

子實體は有莖，直立，軟革質，傘部は不規則に多く分岐し，幾分集團となり，2—7×1—5cm，各裂片は通常扁平，平坦にて先端に向つて廣幅となり略々掌狀に分岐を重ね，最先端は薄き鑿形となり，房毛を有し白色を呈し，他の部は暗紫色，乾時栗褐色なり，子實層は先端及莖部を除き全面に形成され腹背の別なし，胞子は黃褐色，細き角狀突起を有し，有稜廣楕圓形，8—11×7—8 μ。莖は單一或は早く分岐し，1—1.5×0.1—0.2cm。惡臭あり。

所在及產地

地上　北海道，本州—歐.北米.濠.亞(西比)

和名　モミジタケ（楓茸）〔安田〕

Thelephora anthocephala (BULL.) FR.
トサカイボタケ

FRIES, Epicr. Myc. 535. 1836; Nov. Symb. Myc. 91. 1851; Hymen. Eur. 634. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 267, *pl. 17, f. 4.* 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 311. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 299. 1872; Elench. Fung. 203. 1886; Fl. Myc. 430. 1888—GILLET, Hymen. Fr. 743. 1878—WINTER, Pilze, 1 : 350. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 528. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1139. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 103. 1892; Brit. Fungi, 425. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 91. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 400. 1908—HERTER, Krypt. Fl. Mark Brand. 6 : 131. 1901—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 102. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 203, *pl. 4, f. 1.* 1914—LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1272, *f. 2795—6.* 1924.

(今關及土岐，林. 試. 研. 報. 67 : 24. 1954)

Clavaria anthocephala BULL. Champ. Fr. 2 : 197, *pl. 452, f. 1.* 1789—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 156.* 1799.

Merisma foetidum β. anthocephala PERS. Syn. Meth. Fung. 584. 1801.

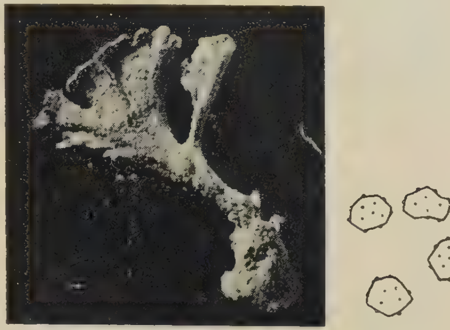
Thelephora palmata β. anthocephala FR. Syst. Myc. 1 : 433. 1821—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 398. 1844.

Thelephora digitata FR. Epicr. Myc. 537. 1836.

Merisma anthocephalum KARST. Hattsv. 2 : 156. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 433. 1889.

Phylacteria anthocephala PAT. Ess. Tax. 119. 1900—BOURDOT & L. MAIRE, Bull. Soc. Myc. Fr. 36 : 76. 1920—REA, Brit. Basid. 652. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40 : 122. 1924; Hymen. Fr. 466. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 480, f. 1.* 1930; 6 : 494. 1937.

子實體は叢生，有莖，直立，軟革質，傘部は多岐集團狀，3—5×1—3cm，幾分銹色，乾時灰褐或は肉桂褐色，微細毛を被むる，分裂せる各片は上方廣幅



a　b

第 152 圖　トサカイボタケ　*T. anthocephala*
a. 子實體 ×1/2　b. 胞子 ×680（大谷氏）

にて，先端は房狀，帶白色なり，各片は直立す。莖は單一，同大，1—1.5×0.1—0.2cm，絨毛あり。子實層托は平坦，同色，胞子は淡茶色，粒狀角形乃至粒狀有刺，6—8×6 μ。無臭。

所在及產地

地上　本州—歐.北米

和名　トサカイボタケ（雞冠疣茸）〔今關及土岐〕

Thelephora multipartita FR.
キブリイボタケ

FRIES, Elench. Fung. 1 : 166. 1828; Epicr. Myc. 536. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 535. 1888—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 205, *pl. 4, f. 7 a.* 1914.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1162. 1922—安田，植. 雜. 37 : 201. 1923—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 389. 1927—原，日. 菌. 目. 361. 1954)

Phylacteria multipartita PAT. Ess. Tax. 119. 1900.

子實體は群生，有莖，直立，革質，樹枝狀にて，2—3×1—2cm，暗褐赭色，乾時淡色，莖の上部より不規則に枝を輪生し，各枝は略々同長にて多數の裂片に分れ，多裂せる漏斗形をなす，各裂片は扁平にて先端廣く掌狀をなし，末端白色，表面には纖維狀條線を有す。莖は直立或は內屈，同幅或は上方漸細，時に上部分岐，栗褐色，絨毛あり，1—2×0.1—0.3 cm。子實層は下位，著しからざる多くの疣粒あり，無毛，灰褐色或は紫灰色，肉は材木色。胞子は楕圓形，有粒，黃褐色，7—8×6 μ。



第153圖　キブリイボタケ *T. multipartita*
a. 子實體 ×1　b. 胞子 ×680（大谷氏）

所在及産地

林地　北海道—北米

和名　キブリイボタケ（木振疣茸）〔安田〕

Thelephora papillosa LLOYD
ツブイボタケ

LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:5, *f.*(p.8). 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 60. 1936. (non FRIES. 1828)—YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 30:346, *1f.*1916—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 504. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915; Lett. 56 : 4, 8, *f. 708*. 1915; 5, Lett. 65:5, 9. 1917; 6: 890. 1919; 6 : 1096. 1920—安田，植. 雑. 29 : 421. 1915; 31:45. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 389. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 397, *pl. 189*, *f. 2—4*. 1939—原，日. 菌. 目. 361. 1954)

子實體は地上生，1.5—5×6—8cm，基部に短莖あり，莖は塊狀或は扁平にて不定形，莖上に數個或は多數の扇形乃至扇狀腎臟形の傘を四方に着け，全形花冠狀となる，時に傘は多片に分れずして不正漏斗形となり，又は1方にのみ傘を開き扇形となる。傘は薄く，柔革質，表面材白色，殆ど平滑或は放射狀細皺を有し，又不明瞭なる環紋あり。子實層面は淡泥褐色乃至淡綠褐色，乳頭狀疣粒を密布す。胞子は淡黃褐色，有疣，有稜球形，徑6—7μ。乾時臭氣あり。

所在及産地

地上　本州，四國，九州

和名　ツブイボタケ（粒疣茸）〔安田〕

Thelephora japonica YAS.
イボタケ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 30 : 345, *1f.* 1916.

(安田，植. 雑. 30 : 419. 1916; 31 : 45. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5:597, *f. 841*. 1916; Lett. 63: 9. 1916—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 389. 1927—原，日. 菌. 目. 360. 1954—今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67: 24. 1954)

子實體は共通の基部ありてこれより花瓣狀に多くの裂片を重生す，高さ 3cm，徑 5cm，革質，各裂片は薄くして扇形，基部は狹小の柄となる，裂片の最廣部は徑 2cm 内外，表面は平滑，材木色と黑褐色との斑色にて放射狀皺襞あり，纖維狀，數個の環溝あり，肉は材木色，裏面は淡褐色にて多數の細乳頭に被わる，乳頭は徑 0.2—0.25 mm。胞子は球狀，粗大なる粒を有し，淡褐色，徑 7—8μ。

所在及産地

林地上　本州，九州

和名　イボタケ（疣茸）〔安田〕

Thelephora terrestris EHRH. ex FR.
チヤイボタケ

EHRHART, Crypt. Exs. n. 178. 1785—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 566. 1801; Hymen. Eur. 1:113. 1822—DC. Fl. Fr. 6 : 31. 1815—NEES, Syst. Pilze Schwam. 237, *f. 251*. 1817—FRIES, Syst. Myc. 1: 431. 1821; Elench. Fung. 1:170. 1828; Epicr. Myc. 538. 1836; Hymen. Eur. 635. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 165. 1836; Outl. Brit. Fung. 267. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:398. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:258. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 30. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 312. 1871; Handb. Austr. Fungi, 180. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:300. 1872; Enchir. Fung. 203. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 744. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:157. 1882—WINTER, Pilze 1:348. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:536. 1888; 17:161. 1905—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 432. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:105. 1892; Brit. Fungi, 426. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 401. 1908—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:91. 1903; Icon. Myc. 22:*pl. 1066*. 1932—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 101. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:219, *pl. 5*, *f. 10*. 1914—CLELAND, Toadst. Mashr. S. Austr. 2 : 255. 1935.

(安田，植. 雑. 31 : 144. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 389. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 397, *pl. 189*, *f. 1*. 1939—原，日. 菌. 目. 361. 1954)

Agaricus tristis BATSCH, Elench. Fung. 1: 163, *pl. 24*, *f. 121*. 1786.

Auricularia caryophyllea(non SCHAEFF.)BULL. Champ. Fr. *pl. 278*, *283*, *f. 6—7*. 1790.

Thelephora caryophyllea PERS. Obs. Myc. 1:36. 1796.

Stereum laciniatum PERS. Obs. Myc. 1:36. 1796.

Thelephora laciniata PERS. Syn. Meth. Fung. 567. 1801—Auct. plur.

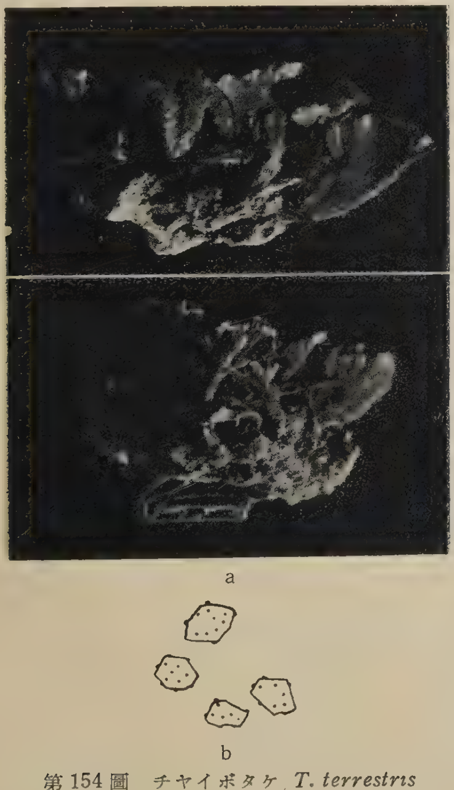
(德淵，植. 雜. 20：118. 1906—安田，植. 雜. 31：45, 169. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 653. 1917; ed. 3. 389. 1927—原，日. 菌. 目. 361. 1954)

Phylacteria laciniata PAT. Ess. Tax. 119. 1900.

Phylacteria terrestris PAT. Ess. Tax. 119. 1900—ROLLAND, Atl. Champ. 88, *pl. 101, n. 224.* 1910—REA, Brit. Basid. 653. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40：126. 1924; Hymen. Fr. 470. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49：320. 1933; 51：409. 1935—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5：*pl. 478.* 1930; 6：493. 1937.

Thelephora tristis SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1138. 1916.

子實體は地上生，短き基脚部を有し，その上方に數個の扇形乃至半圓形の傘を着くるも，往々草莖，樹木の基部に匐ひ上り不規則に背着し，多數の傘を



a

b

第154圖　チヤイボタケ *T. terrestris*
a. 子實體 ×1　b. 胞子 ×680（大谷氏）

反轉して作る。暗紫褐色，薄く，柔軟なる革質を帶ぶ，傘の横徑 2—3cm，時に棚狀をなして長く連る，緣邊は常に薄く，鋸齒狀に細裂す，上面は放射纖維狀の鱗片を被り粗糙なり。子實層は多數の不規則形の小疣を有す。胞子は疣を被むり。角張りたる球形乃至卵圓形，黃褐色，8—11×7.2—8μ。

所在及產地

多く砂地上，屢々松の根際部等に着生

北海道，本州—歐. 北米. 亞（樺. 朝. 西比）

和名　チヤイボタケ（茶疣茸）〔安田〕

Thelephora spiculosa FR.

クマデタケ

FRIES, Syst. Myc. 1：434. 1821; Epicr. Myc. 539. 1838; Hymen. Eur. 637. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1：397. 1844—WINTER, Pilze, 1：347. 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 204. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6：539. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1142. 1916—BRESADOLA, Ann. Myc. 1：91. 1903—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 1：225, *pl. 4, f. 2.* 1914.

(LLOYD, Myc. Writ. 4: Lett. 47：9. 1913—安田，植. 雜. 27：503. 1913—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 653. 1917; ed. 3. 389. 1927—原，日. 菌. 目. 361. 1954)

Merisma penicillatum PERS. Comm. Fung. Clav. 96. 1797; Syn. Meth. Fung. 583, *pl. 3, f. 16.* 1801; Myc. Eur. 1：156. 1822.

Merisma cristatum β. fuscum ALB. et SCHW. Consp. Fl. Lusat. 284. 1805.

Thelephora penicillata FR. Syst. Myc. 1：434. 1821; Elench. Fung. 1：168. 1828—SCHROETER, Pilze Schles. 1：431. 1888—v. HÖHNEL & LITSCHAUER, Sitzb. Akad. Wien, 117(1)：22. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1)：101. 1912.

(安田，植. 雜. 31：45. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 389. 1927—原，日. 菌. 目. 361. 1954)

Corticium spiculosum KARST. Hattsv. 2：142. 1882.

子實體は形狀多樣にて叢生し，大さ異なる群團となる，高さ 1—2cm，徑 2—4cm，單一個體の基部は基物に展着し，上部に於て多數の枝に分る，各枝は扁平にて扇形，先端針狀分岐し，筆毛狀をなす，初め淡柔皮色，老時暗紫褐色，先端帶白色，高さ 1—2cm，徑約 1mm，枝の幅 4—6mm，各枝の表面は平滑にて放射狀の皺あり，肉は暗褐色。子實層面は平坦或は少しく縮皺あり。胞子は不正球形或は不正稍圓形，有刺，褐色，8—9×6—7μ。

所在及產地

林內地上落葉上　本州—歐. 北米

和名　クマデタケ（熊手茸）〔安田〕

II. Hydnelleae シシタケ族

子實體は有莖，地上生，莖は分岐せず，肉質或は革質，子實層托は明かに刺狀をなす。

Calodon Quél.

チヤハリタケ屬

Quélet, in Cooke & Quélet, Clav. Hymen. 196. 1878; Enchir. Fung. 190. 1886.

Hydnum Fries. pr. p.

Hydnellum Karsten, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5 : 27. 1879.

Phellodon Karsten, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 6 : 15. 1881.

子實體は栓質，革質にて强靱，有莖，屢々束生す，傘は無毛或は鱗片を有し，肉は有色，屢々層を有す，針は突錐狀，胞子は小形，類球形，稜形或は有刺，褐色或は殆ど無色。

(本屬名は kalos (美しき) odon (齒) より出づ)

基準種 *C. suaveolens* (Scop. et Fr.) Quél.

本邦既知種檢索表

A. 子實體及莖は同一組織より成る。

a. 針は暗色にて暗褐色或は銹色。

α. 傘面に環紋なし，橙黃色，胞子淡褐色。

キハリタケ ***C. aurantiacum*** (176)

β. 傘面に環紋あり。

I. 傘は橙褐色，胞子無色。

テンハリタケ ***C. olidum*** (177)

II. 傘は黃褐乃至銹色，胞子褐色。

チヤハリタケ ***C. zonatum*** (177)

b. 針は白色，後灰色。

α. 傘面灰褐乃至焦茶色，環紋あり，胞子無色。

ジヨウゴハリタケ ***C. cyathiforme*** (178)

β. 傘面黑色乃至黑褐色。

I. 著しき惡臭あり，胞子無色。

クサハリタケ ***C. graveolens*** (178)

II. 惡臭なし。

1. 莖は上部太く，平滑，胞子無色。

クリハリタケ ***C. melaleucum*** (179)

2. 莖は不整圓筒形にて不規則に隆起す，基部有毛にて塊狀，胞子無色。

クロハリタケ ***C. nigrum*** (179)

B. 子實體及莖は2組織より成る，外面肉質。

a. 莖の中心革質，胞子無色，針は白色，後灰色又は灰褐色。 ツツジタケ ***C. putidum*** (180)

b. 莖の中心木質。

α. 傘面褐色，稍々環紋あり，胞子無色或は微色，針は生時白色，乾時灰又は灰褐色。

フクリンハリタケ ***C. amicum*** (180)

β. 傘面帶褐灰色或は灰白色，環紋なし，胞子無色，針は白色，後灰色，莖及傘の中心部黑色。

シブハリタケモドキ ***C. albo-nigrum*** (181)

Calodon aurantiacum (Alb. et Schw. ex Fr.) Karst.

キハリタケ

Karsten, Hattsv. 2 : 107. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 358. 1889—Quélet, Enchir. Fung. 190. 1886; Fl. Myc. 442. 1888—Patouillard, Ess. Tax. 118. 1900—Bourdot & Galzin, Bull. Soc. Myc. Fr. 40 : 115. 1924; Hymen. Fr. 458. 1928—Konrad & Maublanc, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 470*. 1934; 6 : 493. 1937.

Hydnum floriforme Schaeff. Fung. Bavar. 2 : *pl. 146, f. 4*. 1763.

Hydnum aurantiacum Alb. et Schw. Consp. Fung. Lusat. 265. 1805—DC. Fl. Fr. 6 : 38. 1815—Fries, Obs. Myc. 1 : 131. 1815; Syst. Myc. 1 : 403. 1821; Elench. Fung. 1 : 131. 1828; Epicr. Myc. 508. 1838; Hymen. Eur. 603. 1874—Persoon, Myc. Eur. 2 : 169. 1825—Rabenhorst, Deut. Krypt. Fl. 1 : 409. 1844—Fuckel, Symb. Myc. 25. 1869—Quélet, Champ. Jura Vosg. 1 : 292. 1872—Gillet, Champ. Fr. 721. cum icone. 1874—Karsten, Myc. Fenn. 3 : 289. 1876—Winter, Pilze, 1 : 380. 1884—Saccardo, Syll. Fung. 6 : 438. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1088. 1916—W. G. Smith, Outl. Brit. Fung. Suppl. 304. 1891; Brit. Basid. 377. 1908—Massee, Brit. Fung. Fl. 1 : 153. 1892; Brit. Fungi, 395. 1911—Rea, Brit. Basid. 634. 1922—Bresadola, Icon. Myc. 21 : *pl. 1052*. 1932.

(Lloyd, Myc. Writ. 4, Lett. 51 : 4. 1914; 7 : 1296. 1924—安田，植. 雜. 31 : 47. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 283. 1917; ed. 3. 164. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 415, *pl. 198, f. 3, 6*. 1936—原，日. 菌. 目. 154. 1954)

Hydnum stohlii Rabenh. Hedwigia, 12 : 113. 1873—Fries, Hymen. Eur. 610. 1874—Saccardo, Syll. Fung. 6 : 451. 1888.

Hydnum suberosum var. *aurantiacum* Batsch, Elench. Fung. 103, *pl. 40, f. 222*. 1789—Persoon, Syn. Meth. Fung. xxx. 1801.

Hydnellum aurantiacum Karst. Medd. Soc.

Faun. Fl. 5: 41. 1879.

Phaeodon aurantiacus SCHROET. Pilze Schles. 1: 459. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 165. 1912.

傘は略々圓形，扁平乃至淺き皿狀，徑 2—4.5 cm，屢々縁邊不規則に淺裂し，又多數癒着して花形となる。表面は橙黄色乃至朱褐色，環紋は不明瞭，放射狀の隆起又は皺狀突起ありて粗面，縁は白色を帶び，軟短毛あり，肉は橙黄色，條紋あり，革狀木栓質，緊密にて厚し。莖は 1.5—3×0.5—1 cm，圓柱狀又は基部塊狀或は不規則に膨起す。針は白色，後暗褐色，長さ 2—4 mm，莖に沿下し，又傘縁には形成されず。胞子は類球形，疣粒を被むり，淡褐色，徑 5—6 μ，多油球を存す。

所在及產地

廣葉樹林地上　　　本州—歐. 北米

和名 キハリタケ（黄針茸）〔安田〕

Calodon olidum (BERK.)

テンハリタケ

Hydnum olidum BERK. Jour. Linn. Soc. 16: 51. 1878—SCHROETER, Gartenfl. 35: 138. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 443. 1888.

(松村，植. 名鑑，1: 147. 1904—白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66: 7, 10. 1917—安田，植. 雜. 34: 249. 1920—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

子實體は有莖，革質，群生，高さ 2.5—3.5 cm，傘は漏斗狀，薄し，徑 3—4 cm，傘面は橙褐色，細かき放射狀皺條あり，壓迫されたる細鱗片を有し，環紋あり，肉は纖維質，强靱，同色。莖は基部肥大，橙褐色，天鵞絨狀の密軟毛あり，1.5—2×0.3—0.7 cm。針は細く，密生，暗褐色，長さ 2—3 mm. 胞子は球形，疣粒あり，無色，徑 4 μ，生時香氣あり。

所在及產地

地上　　　本州—亞(印)

和名 テンハリタケ（黄鼬針茸）〔安田〕

Calodon zonatum (BATSCH ex FR.) KARST.

チヤハリタケ

KARSTEN, Hattsv. 2: 108. 1882—QUÉLET, Enchir. Fung. 190. 1886—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40: 117. 1924; Hymen. Fr. 460. 1928—PATOUILLARD, Ess. Tax. 118. 1900—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 475.* 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 319. 1933; Ann. Myc. 38: 69. 1940—MILLER, Mycologia, 27: 370, *pl. 33, f. 15.* 1935—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6: 493. 1937—SNELL, Mycologia, 37: 51. 1945.

Hydnum zonatum BATSCH, Elench. Fung. 2: 109, *pl. 40, f. 224.* 1789—NEES, Syst. Pilze Schw. 233, *f. 242.* 1817—FRIES, Epicr. Myc. 509. 1838; Hymen. Eur. 605. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 408. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 258. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 253. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 25. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 295. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 292. 1872—GILLET, Champ. Fr. 722. cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1: 378. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 441. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1091. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 151. 1892; Brit. Fungi, 395. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 377. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 86, *f. 217.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 166. 1912—REA, Brit. Basid. 635. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1056.* 1932.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45: 4. 1913; Lett. 51: 4. 1914; Lett. 53: 7. 1914; 5, Lett. 63: 5. 1916; Lett. 67: 11. 1918—安田，植. 雜. 31: 47. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 287. 1917; ed. 3. 167. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 417, *pl. 199, f. 3—4.* 1939—原，日. 菌. 目. 156. 1954)

Hydnum concrescens PERS. Obs. Myc. 1: 74. 1796; Syn. Meth. Fung. 556. 1801.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 9. 1916; Lett. 67: 11. 1918—安田，植. 雜. 30: 350. 1916; 31: 74. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 165. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Hydnum cyathiforme b. FR. Syst. Myc. 1: 405. 1821.

Hydnellum zonatum KARST. Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5: 27. 1879—BANKER, Mycologia, 5: 199. 1913.

(今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67: 23, *pl. 5, f. 4,* 1954)

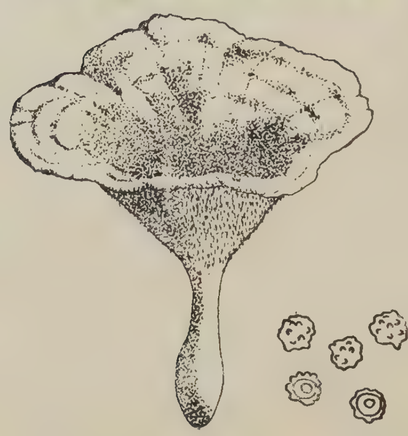
Phaeodon zonatus SCHROET. Pilze Schles. 1: 458. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 166. 1912.

(安田，植. 雜. 28: 4. 1914)

Hydnellum concrescens BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12: 157. 1906.

子實體は有莖，革質，群生し，屢々癒着す。傘は扁平，後壓低され，淺き漏斗形となる，徑 1—7.5 cm，表面は黄褐色乃至銹色，周縁淡色，放射狀の皺と明かなる環紋を有し，絹絲狀にて後平滑となる，縁は薄し，肉は同色，厚さ 2 mm 以下なり。莖は中心或は稍々偏心生，0.5—2×0.15—0.3 cm，基部膨大し球根狀となる，中實，堅靱，傘と同色，表面に短密毛あり，針は長さ 1—3 mm，同色，先端灰白色，後煤色となる，莖上に沿下し，傘縁には形成されず。擔子柄は 20—35×5—6 μ，胞子は類球形，粗粒あり，





第 155 圖　チヤハリタケ *C. zonatum*
a. 子實體 ×1　　b. 胞子 ×680（大谷氏）

褐色，4.5—6×3.5—4.5μ，屢々1油珠を有す。

所在及産地　林地上

北海道，本州，九州—歐.北米.濠.亞(西比.支)

和名　チヤハリタケ（茶針茸）〔安田〕

Calodon cyathiforme (SCHAEFF. ex FR) QUÉL

ジヨウゴハリタケ

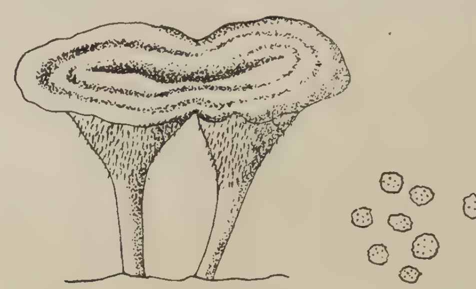
QUÉLET, Enchir. Fung. 191. 1886—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 360. 1889—PATOUILLARD, Ess. Tax. 119. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40:118. 1924; Hymen. Fr. 462. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:320. 1933—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 477*. 1932; 6 : 493. 1937.

Hydnum cyathiforme SCHAEFF. Fung. Bavar. 2 : *pl. 139*. 1763—FRIES, Hymen. Eur. 606. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 290. 1876—WINTER, Pilze, 1:377. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:443. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1095.1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 456. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 305. 1891; Brit. Basid. 378. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 155. 1892; Brit. Fungi, 396. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):161, *pl. 27B*. 1912—REA, Brit. Basid. 634. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 21:1058. 1932.（安田，植. 雜. 31:47. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1345. 1925—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 165. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954）.

Hydnum tomentosum (non L.) FRIES, Syst. Myc. 1:405. 1821; Epicr. Myc. 510. 1838—GILLET, Champ. Fr. 720. 1878.

Phellodon cyathiforme KARST. Hattsv. 2 : 96. 1882.

子實體は有莖，革質，屢々束生，傘は扁平，後盃形或は漏斗形となる，徑 2.5—6cm，屢々互に癒着



第 156 圖　ジヨウゴハリタケ *C. cyathiforme*
a. 子實體 ×1　　b. 胞子 ×680（大谷氏）

す，表面は淡灰褐色或は焦茶色，周緣白色にて，後全面1色となる，環紋を有し，絹絲狀，中央部有毛，肉は白色，後暗褐色となる，薄し，莖は 2—3×0.5—0.8cm，同色，稍々同幅，平滑なり，針は長さ 0.5—1mm，甚だ細長，白色，莖上に沿下す。胞子は球形或は類球形，粗疣あり，無色，3—4×2.5—3.5μ。

所在及産地

林地上　　　　北海道，本州—歐.亞(西比)

和名　ジヨウゴハリタケ（漏斗針茸）〔安田〕

Calodon graveolens (PERS. ex FR.) QUÉL.

クサハリタケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 191. 1886—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40:118. 1924; Hymen. Fr. 462. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 477*. 1932; 6 : 493. 1937.

Hydnum leptopus γ graveolens PERS. Myc. Eur. 2 : 171. 1825.

Hydnum fuscum foetens SECR. Myc. Suesse, 2 : 513. 1833.

Hydnum graveolens DELAST. in FRIES, Epicr. Myc. 509. 1838; Hymen. Eur. 605. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 258. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 296. 1871—QUÉLET, Champ. Jura

Vosg. 2:357. 1873—GILLET, Champ. Fr. 719. 1874—WINTER, Pilze, 1:377. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:442. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1094. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 457. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:155. 1892; Brit. Fungi, 395. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 378. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 162. 1912—REA, Brit. Basid. 633. 1922.

（安田，植. 雜. 27:340. 1913; 31:47. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 165. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954）

Phellodon graveolens KARST. Hattsv. 2 : 96. 1882.

Phellodon pullus BANKER, Mycologia, 5 : 62. 1913. pr. p.

子實體は有莖，革質。傘は丸山形にて波曲し，屢々漏斗形となる，徑 2—5cm，堅靱にて薄し，表面は黑褐色，乃至黑色，環紋なく，粗面，絹絲狀，周緣白色，乾時灰色となる，肉は同色或は淡色なり，革質，强靱。莖は 1.5—3×0.1—0.3cm，上部太く，平滑，黑色なり，針は白色，後灰色となり，長さ 0.5—1mm，密生，莖に沿下す，胞子は球形，有刺，無色，徑 3—4μ，1 油球を有す。强き惡臭あり。

所在及產地

針葉樹林地上　　本州—歐. 北米

和名 *クサハリタケ*（惡臭針茸）〔安田〕

Calodon melaleucum (FR.) QUÉL.

クリハリタケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 191. 1886.

Hydnum pullum SCHAEFF. Fung. Bavar. 4 : 98, *pl. 272*. 1774—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1094. 1916.

Hydnum tomentosum γγ atro-album ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 266. 1805.

Hydnum melaleucum FR. Obs. Myc. 1:141.1815; Syst. Myc. 1:406. 1821; Elench. Fung. 1:131. 1828; Epicr. Myc. 510. 1838; Hymen. Eur. 606. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 408. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:253. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 25. 1869—GILLET, Champ. Fr. 720. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:290. 1876—WINTER, Pilze, 1:377. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 443. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 456. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 305. 1891; Brit. Basid. 378. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:155. 1892; Brit. Fungi, 395. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 162. 1912—REA, Brit. Basid. 633. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53:7. 1914; Lett. 56 : 4. 1915—安田，植. 雜. 31 : 47. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 166. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Phellodon melaleucus KARST. Hattsv. 2 : 96. 1882.

Calodon pullum QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 19 : 488. 1893.

Phellodon pullus BANKER, Mycologia, 5 : 62. 1913. pr. p.

子實體は有莖，革質，叢生す。傘は不正形にて扁平，中央稍々壓低さる。徑 1.5—3cm，表面は初め灰紫色，後黑色となる，周緣白色なり，條線ありて環紋なく，絹絲樣光澤あり，平滑，肉は菫色乃至黑色，革質，薄く，緊緻，時に條線あり。莖は 1.5—2×0.2—0.3cm，黑色，上部太く，平滑なり。針は白色，後類白色となり，長さ 0.5—1mm，細長，薄し。胞子は球形，有稜，有點，無色，徑 3—4μ。惡臭なし。

所在及產地

針葉樹林地上　　本州—歐. 北米

和名 *クリハリタケ*（栗針茸）〔安田〕

Calodon nigrum (FR.) QUÉL.

クロハリタケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 191. 1886—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 359. 1889—PATOUILLARD, Ess. Tax. 119. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40:118. 1924; Hymen. Fr. 461. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 476*. 1927; 6 : 493. 1937.

Hydnum suberosum cinereum BATSCH, Elench. Fung. 2 : 107. 1789.

Hydnum pullum SWARTZ, Act. Acad. Holm. 248. 1810.

Hydnum nigrum FR. Obs. Myc. 1 : 134. 1815; Syst. Myc. 1 : 404. 1821; Epicr. Myc. 509. 1838; Hymen. Eur. 605. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2 : 168. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 408. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 25. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:295. 1871; Handb. Austr. Fungi, 170. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:293. 1872—GILLET, Champ. Fr. 720, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:289. 1876—WINTER, Pilze, 1:375. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:442. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1093. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:457. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 304. 1891; Brit. Basid. 378. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:154. 1892; Brit. Fungi, 395. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):160, *pl.27, f.2*. 1912—REA, Brit. Basid. 633. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44:8. 1913; 7:1320. 1924—安田，植. 雜. 27 : 387. 1913; 31 : 47. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 415, *pl. 198, f.1, 4*. 1939—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Hydnum cinereum PERS. Myc. Eur. 2:168. 1825.
Hydnum olivaceo-nigrum SECR. Myc. Suisse, 2 : 520. 1833.
Phellodon niger KARST. Hattsv. 2 : 95. 1882.
Phellodon pullus BANKER, Mycologia, 5 : 62. 1913. pr. p.

子實體は有莖，革質乃至木栓質，傘は扁平乃至淺き盃形，徑 2—4cm，表面は殆ど黑色にて周緣白し，無毛或は有毛，中央部に疣及皺を有し，粗糙，環紋著しからず，肉は黑色，栓質，强靱，莖は 3—5×



第 157 圖　クロハリタケ *C. nigrum* 子實體 ×1

0.5—1.5cm，傘と同色，不整圓筒形にて處々に不規則の隆起を生ず，基部有毛にて時に塊狀となり，屢々根を有す。針は白色，後灰色となり，長さ 2mm 內外，莖上に少しく沿下す。胞子は球形，微疣を有し，無色，徑 4.5—6μ，悪臭なし。

所在及產地

針葉樹林地上　　本州一歐

和名　クロハリタケ（黑針茸）〔今關〕
シブハリタケ（澁針茸）〔安田〕

Calodon putidum (ATKINS.)

ツツジタケ

Hydnum putidum ATKINS. Mushrooms. ed. 2. 199. *f. 199*. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 363. 1912.

（梅村，植. 雜. 29:65. 1915—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—原，日. 菌. 目. 156. 1954）

子實體は有莖，孤生，時に叢生し合着す，高さ 8—12cm，傘は外圍不正形にて偏心的なり，初め中窩を有するか或は壓低され，後稍々漏斗狀となる，濕時幾分柔靱，乾時堅緻，徑 8—12cm，傘面は初め白色，後乾酪色乃至黃白色となり，老時中央部鈍褐色，時に黑褐色となり，緣邊白色を殘存す，著しき環溝を有し，細密軟毛を帶ぶるも老時溝部以外は平滑となる，傘緣は下屈し，時に淺裂し，往々その裂片は傘面に表わる，寧ろ厚く，幾分銳きか或は鈍し，肉は上層海綿狀，中部革質にて堅靱，暗色。莖は剛直，不正形，7—10×2—4cm，外層厚き海綿質，髓部堅し。針は初め白色或は乾酪色，老時灰色又は灰褐色となる，細長，密生，莖部に沿下す。胞子は球形，有刺，無色，3—4μ，生時香氣あり。可食。

所在及產地

山林地上　　本州一北米

和名　ツツジタケ（躑躅茸）〔梅村〕

Calodon amicum QUÉL.

フクリンハリタケ

QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 12 : 504, *pl. 6, f. 14*. 1883; Fl. Myc. 444. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 118. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40 : 119. 1924; Hym. Fr. 462. 1928—MILLER, Mycologia, 27 : 370, *pl. 33, f. 11*. 1935.

Hydnum amicum QUÉL. Grev. 8 : 115, *pl. 131, f. 1*. 1880—WINTER, Pilze, 1:385. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 432. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1081. 1916—ROLLAND, Atl. Champ. 87, *pl. 101, f. 223*. 1910.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63 : 9, 14. 1916)

Sarcodon amicum QUÉL. Enchir. Fung. 189. 1886.

Hydnum vellereum PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 50 : 110. 1897.

Phellodon vellereus BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12 : 168. 1906.

Phellodon amicus BANKER, Mycologia, 5 : 62. 1913.

傘は徑 12cm 以下，單一或は癒着，不正形，有環溝，普通中央壓低さる，細密軟毛を有し，稍々環紋を有し，廣き帶白色の緣帶及び中心の方褐色なり，肉の上層は軟氈狀，下層は强靱にて緻密なり。莖は長さ 1—4cm，幅 0.5—2cm，不平坦，大さ甚だ變化し，柔海綿狀の外層と堅木質の中心部より成り，

傘の古き部分と同色，針は長さ2—4 mm，密集，突錐形，圓柱狀，生時白色，乾時淡灰乃至灰褐色，擔子柄 20—30×4—5 μ，胞子は球形，粗刺を有し，無色或は微色，徑3.5—4.5 μ。

所在及産地

地上　　本州一歐.北米

和名 フクリンハリタケ（覆輪針茸）

Calodon albo-nigrum (PECK)

シブハリタケモドキ

Hydnum albonigrum PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 50:110. 1897—SACCARDO, Syll. Fung. 14:201. 1899—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1055*. 1932.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:9. 1916—安田，植.雜. 31:47. 1917—白井，日．菌．目．ed. 3. 164. 1927—原，日．菌．目．154. 1954)

子實體は有莖，肉質，傘は外圍類圓形，上面丸山形にて中央壓低され，稍々漏斗狀となる，無環紋，細毛あり，帶褐灰色，或は灰白色，徑 2.5—7 cm，肉は2層より成り，上層白色にて，綿絮狀，柔軟，下層黑色にて，稍々木質なり，針は白色，後灰色となる，初め粒狀，後針狀となり，傘緣にてはウスバタケ狀或は稍々褶狀となる。莖は肥大，不定形にて不等幅に壓縮さる，帶灰藍色，濕時帶黑色，細密軟毛を有す，肉は傘肉と同様2層より成り，外層は柔軟，綿狀，灰藍色，內層は木質，黑色にて傘の黑層に連る，3—4×1—2 cm，時に上部叉狀或は枝狀に分岐す，强臭あり。擔子柄は棍棒形，20—25×5—6 μ，胞子は球形，有粒，無色，徑 4—5 μ。

所在及産地

混淆林地上　　本州一北米.歐

和名 シブハリタケモドキ（擬澁針茸）〔安田〕

Sarcodon QUÉL.

シシタケ屬

in COOKE & QUÉLET, Clav. Hymen. 195. 1878; Enchir. Fung. 188. 1886—KARSTEN, Rev. Myc. 3: 20. 1881.

Hydnum FRIES. pr. p.

Phaeodon SCHROETER, Pilze Schles. 1: 458. 1888.

子實體は肉質，有莖，傘は無毛，絨毛或は鱗片を有し，平坦或は環紋あり，肉は暗色，莖は中心，偏心或は側生，針は突錐狀，單一，擔子柄は 2—4 小柄を有し，嚢狀體なし，胞子は小形，類球形，有稜或は有刺，型的には褐色を呈す。

（本屬名は sarco-(肉) odon (歯) より出づ）

基準種　*S. imbricatum* (L. ex FR.) KARST.

本邦既知種檢索表

A. 大形或は中形種，胞子は疣粒を有す。

a. 胞子有色。

α. 子實體は深き漏斗形ならず。

I. 傘面は粗面。

1. 傘に覆瓦狀大鱗片あり，黑褐色，徑 5 23 cm。

シシタケ ***S. imbricatum*** (181)

2. 傘に鱗片狀毛叢あり，淡褐色，徑 5—10 cm。　ケロウジ ***S. scabrosum*** (182)

II. 傘面は平滑。

1. 傘面灰褐色，後小裂片狀に裂く，徑 3—15 cm。

シシタケモドキ ***S. laevigatum*** (182)

2. 傘面綠灰色，徑 2.5—7 cm。

オリーブハリタケ ***S. blackfordae*** (183)

β. 子實體は深き漏斗形，大鱗片を散生す，帶紅褐色，徑 5—12 cm。

コウタケ ***S. aspratum*** (183)

b. 胞子無色，傘面中心鱗片狀，灰菫色，徑 3—10 cm。　スミレハリタケ ***S. violascens*** (183)

B. 甚だ小形，漏斗形，傘面暗褐色，徑 0.5—1.2 cm，胞子有刺，無色。

チヤボハリタケ ***S. pygmaeum*** (184)

Sarcodon imbricatum (L. ex FR.) KARST.

シシタケ

KARSTEN, Hattsv. 2:103. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 355. 1889—QUÉLET, Enchir. Fung. 188. 1886—PATOUILLARD, Ess. Tax. 118. 1900—BANKER, Mycologia, 5: 14. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40:107. 1924; Hymen. Fr. 448. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6: 492. 1937.

Hydnum imbricatum L. Sp. Plant. 2:1173. 1753—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 1: *pl. 73* 1797—NEES, Syst. Pilze Schw. 232. 1817—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 554. 1801—FRIES, Syst. Myc. 1: 398. 1821; Elench. Fung. 1: 130. 1828; Epicr. Myc. 505. 1838; Hymen. Eur. 598. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):155. 1836; Outl. Brit. Fung. 257. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 411. 1844—BARLA, Champ. Nice, *pl. 38, f. 1—4*. 1854—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:250. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 25. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 293. 1871—GILLET, Champ. Fr. 718 cum icone. 1874—KARSTEN, Hymen. Fenn. 3: 286. 1876—WINTER, Pilze, 1: 384. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 430. 1888; Fl. Ital. Crypt.

Hymen. 1078. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 150. 1892; Brit. Fungi, 394. 1911—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 198, *f. 200*. 1903—W.G. SMITH, Brit. Basid. 375. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 86, *pl. 99, f. 217*. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 167, *pl. 28, f. 1—3*. 1912—REA, Brit. Basid. 631. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 21 : *pl. 1035*. 1932.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:15. 1912—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 14, f. 3—4*. 1915; 日. 菌. 圖說, *n. 81*. 1929—安田, 植. 雜. 31:48. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 417, *pl. 199, f. 1—2*. 1939—原, 日. 菌. 目. 155. 1954)

Hydnum cervinum PERS. Obs. Myc. 1:74. 1796; Myc. Eur. 2:158. 1825—DC. Fl. Fr. 6: 35. 1815—CORDA, Icon. Fung. 5 : 82, *pl. 10, f. 81*. 1842.

Hydnum squamosum DC. Fl. Fr. 2:112. 1815.

Hydnum squarrosum NEES, Syst. Pilze Schw. 232, *f. 240*. 1817.

Phaeodon imbricatus SCHROET. Pilze Schles. 1 : 460. 1888.

(安田, 植. 雜. 26 : 360. 1912)

子實體は有莖, 肉質, 傘は初め低き山形にて, 後扁平となり, 更に屢々淺き漏斗狀となる, 徑 5—23 cm, 表面は覆瓦狀の茶褐乃至黑褐色の著しき大鱗片に被わる, 鱗片は厚く, 中央部のものは特に大形にて緣に至るに從つて小形となる, 環紋なし, 肉は厚く, 稍々强靱なる肉質, 白色にて淡赤褐色を帶び, 時に條線あり。莖は 2.5—5×1—3cm, 中心或は稍々偏心生, 中實, 强靱, 白色にて淡褐色を帶び, 平滑, 針は初め灰白色, 後濃褐色となる, 長さ 1cm に及ぶ, 密生し, 莖上に沿下す。胞子は類球形, 疣粒を有し, 褐色, 徑 5—7μ, 1 油球あり。味苦し, 可食。

所在及產地

針葉樹林地上　　北海道, 本州—歐. 北米

和名 シシタケ (獅子茸) 〔方言〕

Sarcodon scabrosum (FR.) KARST.

ケロウジ

KARSTEN, Hattsv. 2:104. 1882—QUÉLET, Enchir. Fung. 188. 1886—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40:109. 1924; Hymen. Fr. 451. 1928.

(今關及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67 : 24, *pl. 6, f. 6*. 1954)

Hydnum striatum SCHAEFF. Fung. Bavar. 3: 271. 1770—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1079. 1916.

Hydnum scabrosum FR. Epicr. Myc. 505. 1838; Hymen. Eur. 599. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 383. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:431. 1888—W.G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 302. 1801; Brit. Basid. 375. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:151. 1892; Brit. Fungi, 394. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 164. 1912—REA, Brit. Basid. 682. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1039*. 1932.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51: 4. 1914—梅村, 植. 雜. 29 : 64. 1915—安田, 植. 雜. 31 : 48. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 287. 1917; ed. 3. 167. 1927—原, 日. 菌. 目. 156. 1954)

Phaeodon scabrosus P. HENN. in ENGL. & PRANTL, Natürl. Pfl.-fam. 1, 1**: 149. 1900.

(安田, 植. 雜. 28:355. 1914—KAWAMURA, Illus. Jap,. Fungi, *pl. 17, f. 10—12*. 1925)

子實體は有莖, 肉質, 傘は外圍圓形にて丸山形, 後開張し, 壓低され, 淺き漏斗狀となる, 徑 5—10 cm, 表面は淡褐色, 微細なる密毛を帶び, 環紋なし, 毛は後に毛叢となり鱗片狀, 中央部網目狀となる, 肉は緊密, 帶黃色乃至帶黑色。莖は漸次傘より移行し, 狹細し, 灰色或は傘と同色, 3—4×1—2cm, 針は灰褐色, 先端屢々白色を帶ぶ, 長さ 8mm に及び, 莖上に沿下す。胞子は球形, 疣粒を有し, 淡褐色, 5—7×4.5—5.5μ。味辛苦なり。

所在及產地

林地上　　本州—歐. 米

和名 ケロウジ (毛老人) 〔方言〕,

シカタケ (鹿茸) 〔方言〕

Sarcodon laevigatum (SWARTZ ex FR.) KARST.

シシタケモドキ

KARSTEN, Rev. Myc. 3(1): 20. 1881; Hattsv. 2:104 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 356. 1889—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 11 : 399. 1882; Enchir. Fung. 189. 1886—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40: 111. 1924 ; Hymen. Fr. 453. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 468*. 1927; 6 : 492. 1937—BANKER, Mycologia, 5: 14. 1913—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 318. 1933; 52 : 328. 1936.

Hydnum laevigatum SWARTZ, Act. Acad. Holm. 243. 1810—FRIES, Obs. Myc. 1 : 140. 1815; Syst. Myc. 1 : 399. 1821; Elench. Fung. 1 : 130. 1828; Epicr. Myc. 506. 1838; Hymen. Eur. 599. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 411. 1844—BARLA, Champ. Nice, *pl. 38, f. 5—6*. 1859—FUCKEL, Symb. Myc. 25. 1869—GILLET, Champ. Fr. 718. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 383. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 433. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1082. 1912—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 457. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit.

Fung. Suppl. 303. 1891; Brit. Basid. 375. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:151. 1892; Brit. Fungi, 394. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 164. 1912—REA, Brit. Basid. 632. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1042*. 1932.

Hydnum bubalinum PERS. Myc. Eur. 2:161. 1825.

子實體は有莖，肉質，傘は屢々稍々不正形にて，平山形，後扁平となり，壓低さる，徑 5—15cm，表面は灰褐色，初め褐色を帶ぶ，平滑，後小形の鱗片に裂く，緣は內屈し，軟毛あり，肉は灰白色，幼時或は傷時淡紫色を呈す，厚くして緊密なり。莖は 4—6×2—3cm，灰色或は淡紫色，屢々偏心生，殆ど同幅，殆ど無毛なり。針は暗褐色，先端白色，大形にて長さ 1—2cm に及び，莖上に沿下す。胞子は類球形，疣粒あり，暗褐色を帶ぶ，6—7×4—5μ。臭不良，可食。

所在及產地

針葉樹林地上　　北海道—歐. 亞(西比)

和名 シシタケモドキ（擬獅子茸）〔今井〕

Sarcodon blackfordae (PECK)

オリーブハリタケ

Hydnum Blackfordae PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 33:218. 1906—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 365. 1912.

（安田，植. 雜. 32:136. 1915—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67: 11. 1918; Lett. 68: 8. 1918; 6: 1083. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 164. 1927—原，日. 菌. 目. 154. 1954)

子實體は有莖，肉質，脆く碎け易し。傘は圓形にて丸山形，徑 2.5—7cm，表面は灰色或は綠灰色，無毛，肉は白色にて赤斑あり，空氣に觸れて徐々に暗色となる。針は稍々突錐形，帶黃灰色にて，乾時褐色となる，長さ 2—5mm。莖は同色，平滑，充實，乾時中空，2.5—4×0.3—0.4cm。胞子は類球形，疣粒あり，淡褐色，徑 8—10μ。

所在及產地

林地上　　本州—北米

和名 オリーブハリタケ（橄欖針茸）〔安田〕

Sarcodon aspratum (BERK.)

コウタケ

Hydnum aspratum BERK. in COOKE, Grev. 10: 121. 1882; 17: 16. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 433. 1888; 9: 209. 1891.

（田中，植. 雜. 4: 386. 1890—松村，植. 名鑑，1: 194. 1904—白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 281. 1917—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 13, f. 4—5*. 1915; 日. 菌. 圖說，*n. 198*. 1929—安田，植. 雜. 31:48. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 6, Lett. 65: 1095. 1921; 7: 1111, *f. 2065*. 1922—今關，日. 隱. 植. 圖. 415, *pl. 198, f. 2, 5*. 1939—原，日. 菌. 目. 154. 1954)

(*Phaeodon aspratus* P. HENN. in ENGL. & PRANTL, Natürl. Pfl. Fam. 1, 1**: 149. 1900.

（安田，植. 雜. 23:403. 1909—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 423. 1917; ed. 3. 254. 1927—原，日. 菌. 目. 246. 1954)

子實形は有莖，肉質，傘は漏斗形，淡紅を帶びたる淡褐色，乾時黑褐色となる，傘の凹みは莖の下半部に及び深き孔をなす，徑 5—12cm，表面に大なる鱗片を稍々疎生す。莖は 3—6×1—1.5cm，基部に向つて狹細，中空，稀に中實，針は棘狀，莖上に沿下し，褐紫色。胞子は類球形，疣粒あり，淡褐色，徑 5—6μ。乾時芳香を放つ，可食。

所在及產地

廣葉樹林地上　　北海道，本州

和名 コウタケ（香茸）〔方言〕

Sarcodon violascens (ALB. et SCHW. ex FR.) QUÉL.

スミレハリタケ

QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 11: 399. 1882; Enchir. Fung. 189. 1886—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 40: 112. 1924; Hymen. Fr. 454. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 469*. 1935; 6: 492. 1937.

Hydnum violascens ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 265. 1805—FRIES, Syst. Myc. 1: 401. 1821; Epicr. Myc. 507. 1838; Hymen. Eur. 602. 1874—GILLET, Champ. Fr. 716. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 437. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1086. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 457. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 84. 1903; Icon. Myc. 21: *pl. 1049*. 1932—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 164. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66: 7, 10. 1917—安田，植. 雜. 23: 113. 1919—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 167. 1927—原，日. 菌. 目. 156. 1954)

Tyrodon violascens KARST. Hattsv. 2: 91. 1882.

子實體は有莖，肉質或は肉狀纖維質，傘は圓形にて丸山形にて中窩あり，後扁平となり，更に壓低さる，徑 3—11cm，表面は初め絨毛粉狀，後平滑，放射狀疎皺を生じ，中央部鱗片狀となる，緣は內屈し，帶白色，肉は白色，後灰白色となる，初め稍々菫色。莖は 2—4×1—2cm，稍々同幅或は基部狹細，或は癒着す。針は密生，細く，白色，後灰菫色，長さ



a



b

第158圖 スミレハリタケ *S. violascens*
a. 子實體 ×4/5 b. 胞子 ×680 (大谷氏)

2.5—4mm, 莖上に沿下す。胞子は類球形, 微疣あり, 無色或は殆ど無色, 3.5—5×3.5—4μ。臭なし。

所在及產地
針葉樹林地上 北海道, 本州一歐
和名 スミレハリタケ (菫針茸) 〔安田〕

Sarcodon pygmaeum (YAS.)
チヤボハリタケ

Hydnum pygmaeum YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 35:220. 1921—LLOYD, Myc. Writ. 7:1107, *f. 2038*. 1922.
(LLOYD, Myc. Writ. 6:1095. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 166. 1927—原, 日. 菌. 目. 156. 1954)

子實體は甚だ小形, 有莖, 肉質, 高さ15—22mm, 傘は深き漏斗形, 薄し, 徑5—12mm, 厚さ0.5—1.2mm, 表面は暗褐色, 柔密毛を被むり, 環紋なし, 肉は薄く, 材色なり。莖は纖細にて長く, 平滑, 暗褐色或は殆ど黑色, 7—14×0.5—1.5mm, 針は柔軟, 密生, 淡褐色を帶ぶ, 長さ0.4—1mm。胞子は球形, 有刺, 無色, 徑4μ内外なり。

所在及產地 林地上 九州
和名 チヤボハリタケ (矮雞針茸) 〔安田〕

III. Polyozelleae カラスタケ族

子實體は地上生, 花瓣狀多傘, 肉は柔肉質, 乾時脆くして黑色となる, 子實層托は廣き鈍き褶狀をなしウスタケに類似す。

Polyozellus MURR.
カラスタケ屬

MURRILL, N. Am. Fl. 9:171. 1910.

子實體は地上生, 花瓣狀多傘にて, 肉は柔肉質, 乾時堅くして脆く炭質となる, 子實層は廣き低き縱皺を有しウスタケに似たり, 胞子は類球形, 有粒, 無色, 嚢狀體なし。

(本屬名は poly-(多) ozus (枝) より出づ)

基準種 *P. multiplex* (UNDERW.) MURR.

本邦既知種 カラスタケ ***P. multiplex*** (184)

Polyozellus multiplex (UNDERW.) MURR.
カラスタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9:171. 1910.
(今關, 自然科學と博物館, 9(4): 10. 1938; 及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67:23, *pl. 2*, *f. 1—2*. 1954—原, 日. 菌. 目. 281. 1954)

Cantharellus multiplex UNDERWOOD, Bull. Torr. Bot. Club, 26:254. *f. 1*. 1899—MOUNCE & JACKSON, Mycologia, 29:286, *f. 1*. 1937—SMITH & MORSE, Mycologia, 39:502. 1947.

Phyllocarbon Yasudai LLOYD, Myc. Writ. 6:1066, *f. 2003*. 1921.

Craterellus multiplex SHOPE, Mycologia, 39:502. 1947.

子實體は大形にて束狀多傘, マイタケに類似し, 高さ6—15cm, 徑1mに及ぶ團塊を作る, 傘は複合, 時に互に癒着し, 箆形或は殆ど漏斗形をなし, 下部狹細して莖に移行す, 2—5×0.3—1—3cm, 表面は生時鉛色, 暗紫色或は帶黑色, 乾時黑褐乃至黑色, 不明瞭の環紋毛あるも老時消失す, 緣は薄く, 圓形, 波狀或は淺裂し, 白或は帶白色, 稀に同色, 有毛, 下面有性, 肉は暗紫色, 厚さ1—3mm, 子實層面には捩曲せる縱皺及び之れを結びつける小脉ありてウスタケのそれに類似し, 灰色, 粉狀, 莖は境界不明瞭, 0.5—3×0.5—1cm, 圓形, 中實, 分岐或は癒着, 暗紫色乃至黑色, 稀に帶白色の毛あり, 共通の地中基部に連る。擔子柄は4胞子を生じ, 胞子は不正球形或は球狀卵形, 有粒, 4—6×4—6μ, 嚢狀體なし。可食。

所在及產地
林地上 本州, 九州一北米. 亞(朝)
和名 カラスタケ (烏茸) 〔今關〕,
カラスマイタケ (烏舞茸) 〔今關〕

IV. Boletopseae クロカワ族

子實體は有莖，肉質，子實層托は管孔狀をなす。

Boletopsis FAYOD
クロカワ屬

FAYOD, Malpighia, 3: 72. 1889.

子實體は地上生，肉質，有莖，肉は白色，空氣に觸れて少しく變色す，胞子はタマチョレイタケ屬 (*Polyporus*) とは全く異なりて，シシタケ屬 (*Sarcodon*) に類似し，類球形にて有疣，角張ることを特長とす。

(本屬名は Boletus(屬名)-opsis(類する) より出づ)

基準種　*B. leucomelas* (PERS. ex FR.) FAYOD

本邦既知種　クロカワ **B. leucomelas** (185)

Boletopsis leucomelas (PERS. ex FR.) FAYOD
クロカワ

FAYOD, Malpighia, 3: 72. 1889—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 65. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 47. 1941.

(原，日．菌．目．34. 1954)

Boletus leucomelas PERS. Syn. Meth. Fung. 515. 1801.

Polyporus leucomelas FR. Syst. Myc. 1: 345. 1821 (sub *subsquamosus* γ): Epicr. Myc. 429. 1838; Hymen. Eur. 524. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 40. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 434. 1844—GILLET, Champ. Fr. 660. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 250. 1876; Hattsv. 2: 23. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 288. 1889—COOKE, Grev. 13: 85. 1885—W. G. SMITH, Outl. Suppl. 281. 1891; Brit. Basid. 336. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 229. 1892; Brit. Fungi, 366. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 78. 1900—W. G. SMITH, Trans. Brit. Myc. Soc. 2: 171, *pl. 15*. 1916—LLOYD, Myc. Writ. 3, Ovinus Polyp. 77, *f. 498*. 1911; Stip. Polyp. 167. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 220. 1912—REA, Brit. Basid. 578. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 102. 1925; Hymen. Fr. 519. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 19: *pl. 949*. 1931—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 422*. 1935; 6: 481. 1937.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45: 5. 1913; 7: 1296. 1924—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 7*, *f. 29—30*. 1913; 日．菌．圖說，*n. 29*. 1929—安田，植．雜．27: 387. 1913; 31: 56. 1917—梅村，植．雜．29: 63. 1915—白井，日．菌．目．ed. 2. 477. 1917; ed. 3. 292. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3: 109. 1931—今關，日．隱．植．圖．429, *pl. 205*, *f. 2*. 1939)

Polyporus griseus PECK, Bull. Buf. Soc. Nat. Sci. 1: 60. 1873; Rep. N. Y. St. Mus. 26: 68. 1874—COOKE, Grev. 13: 81. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 62. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Ovinus Polyp. 78, *f. 500*. 1911—AMES, Ann. Myc. 11: 238. 1913. (non BRESADOLA. 1912)

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67: 11. 1918)

Caloporus subsquamosus var. *leucomelas* QUÉL. Enchir. Fung. 164. 1886; Fl. Myc. 405. 1888.

Caloporus leucomelas PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 48: 423, *f. 1, 3—6*. 1931; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 20, *pl. 3—5*, *f. 4*. 1936.

Scutiger griseus MURR. Bull. Torr. Bot. Club. 30: 431. 1903; N. Am. Fl. 9: 67. 1907.

Boletopsis grisea BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 47. 1941.

子實體は有莖，肉質，群生，傘は略々圓形にて丸山形，後扁平となり，更に展開して縁邊反轉す，屢々波狀に起伏す，徑 5—20 cm，表面は鼠色乃至灰黑色，時に少しく赤紫色を帶ぶ，短き粗毛に被われ鞣皮の觸感を與う，縁は波狀，淺裂す，肉は厚さ 1 cm 以上，殆ど白色なるも，空氣に觸れて少しく赤紫色となる，肉質，苦味，管孔は長さ 1—2 mm，莖に垂生す，孔口は圓形なるも，漸次迷路狀となる，口縁は白色，後鼠色となる。莖は中心生，圓柱狀，堅く，表面は短毛を有し，同色，肉は鼠色を帶ぶ，2—10×1—2.5 cm，胞子は類球形，疣粒を被むりて角張る，無色，4.5—6μ，可食。

所在及産地

林地　　本州—歐．北米

和名　クロカワ（黑皮），ロウジ（老人）〔方言〕

HYDNACEAE ハリタケ科

子實體は種々なる形態を有し，背着，半背着或は側莖又は中心莖を有する傘となる，肉質，纖維質，革質，蠟質或は木質なり，肉は暗褐色ならず，子實層は子實體の外側或は下側に生ぜる針狀，齒牙狀或は瘤狀の突起面に生ず，之れ等の突起は孔の縁の削裂によりて生ずるものにあらず。擔子柄は多くは4小柄を有し，胞子は平滑，無色或は淡色なり。多くは死物寄生にて或種類は木材腐蝕を起す。

本邦既知屬檢索表

A. 子實體は全背着。

a. 膜質，殼皮狀，齒は疣狀乃至稍々錐狀をなし，先端多裂或は筆狀，囊狀體束を有す。

コメバタケ屬 **Odontia** (186)

b. 蠟質或は肉質，齒は太く，鈍頭，不整形にて不規則に散在或は癒合す。

オクバタケ屬 **Radulum** (187)

c. 膜質或は革質，齒は薄齒狀にて中斷せる放射狀列をなす。

クシノハシワタケ屬 **Lopharia** (188)

d. 肉質或は蠟質，針は型的の突錐形にて鋭頭，囊狀體束なし。

サガリハリタケ屬 **Oxydontia** (189)

B. 子實體は半背着乃至有莖。

a. 樹上生。

α. 子實體は盛に分岐し或は褥狀塊にて細長の針を簇生す．柔軟，肉質。

サンゴハリタケ屬 **Hericium** (190)

β. 子實體は有傘，長き側着の直立莖を有す。胞子は僅か粗面。

マツカサタケ屬 **Auriscalpium** (192)

γ. 子實體は半背着，坐生或は不分明の側莖を有す，胞子平滑。

I. 肉質乃至革質。

1. 胞子粉堆白色。

ニクハリタケ屬 **Steccherinum** (193)

2. 胞子粉堆有色。

オガサワラハリヒラタケ屬 **Boninohydnum** (197)

II. 木質。 マンネンハリタケ屬 **Echinodontium** (197)

b. 地上生，子實體は肉質，胞子平滑，無色，子實體は淡色。 ハリタケ屬 **Hydnum** (199)

Odontia PERS. ex FR.

コメバタケ屬

PERSOON, Obs. Myc. 2:16. 1799—FRIES, Epicr. Myc. 528. 1838—MILLER, Mycologia, 25:292. 1933.

Kneiffia FRIES, Epicr. Myc. 529. 1838.

Dacryobolus FRIES, Summa Veg. Scand. 404. 1849.

Grandiniella KARSTEN, Hedwigia, 24:8. 1895.

Kneiffiella UNDERWOOD, Bull. Torr. Bot. Club, 24: 205. 1897.

Neokneiffia SACCARDO, Tab. Com. Gen. Fung. 11. 1898.

Pycnodon UNDERWOOD, Bull. Torr. Bot. Club, 25: 431. 1898.

Etheirodon BANKER, Bull. Torr. Bot. Club, 29: 441. 1902.

Hydnopsis REA, Brit. Basid. 650. 1922.

子實體は背着，膜狀，綿絮狀，殼皮狀或は稀に蠟質，往々粉狀を呈す，齒は變化性に富み，圓錐形乃至突錐形，或は圓筒形にて，その先端分裂或は筆狀をなすを特徴とす，常に囊狀體を有す，胞子に種々あり，材上生。(本屬名は odonta (齒) より出づ)

基準種 *O. fimbriata* PERS.

本邦既知種檢索表

A. 囊狀體は圓筒形，有隔，初め平滑，後粗き結晶を被むる，胞子 6—12×3.5—6μ。

シロコメバタケ ***O. setigera*** (186)

B. 囊狀體は特有形にて，先端球形に膨れ，多數の放射狀結晶に被わる，胞子 4.5—6×2.5—3μ。

ハリタケモドキ ***O. bicolor*** (187)

Odontia setigera (FR.) MILLER

シロコメバタケ

MILLER, Mycologia, 26: 19, *pl. 2, f. 3.* 1934.

Thelephora aspera PERS. Myc. Eur. 1:153. 1822.

Thelephora setigera FR. Elench. Fung. 1:208. 1828—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:387. 1844.

Kneiffia setigera FR. Epicr. Myc. 529. 1838; Hymen. Eur. 628. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 265. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 309, *f. 78.* 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 3: 443. 1875; Enchir. Fung. 196. 1886—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:301. 1876; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 367. 1889—WINTER, Pilze 1 : 358, *f. 1—2.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 510. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:180, *f. 16—17.* 1892; Brit. Fungi, 401. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:103. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 394, *f. 93.* 1908.

Corticium setigerum KARST. Hattsv. 2 : 143. 1882.

Corticium myxosporum KARST. Hattsv. 2 : 240. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 413. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 614. 1888—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 27 : 130. 1890.

Kneiffiella setigera P. HENN. in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pflanzenfam. 1, 1**: 140, *f. 75 C–E.* 1897.

Peniophora setigera BRES. Hymen. Hung. Kmet. 40. 1897—v. HOEHNEL & LITSCHAUER, Ann. Myc. 4 : 289. 1900; Sitzb. Akad. Wien, 115(1): 1555. 1906—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc.

Fr. 28:399. 1912; Hymen. Fr. 309. 1928—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 69. 1912—REA, Brit. Basid. 692. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51: 418. 1938.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1346. 1925)

Odontia acerina PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 53: 847. 1900.

Peniophora aspera SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1182. 1916.

子實體は背着し，着生物上に擴布固着し，初め薄く，蜘蛛巣狀，後厚さを增し，綿絮狀乃至稍々蠟質となり，時に龜裂し，白色乃至淡汚桃色，緣は同樣にて白色，平坦或は有齒，齒は短圓錐形，鈍頭，先端僅か有毛，菌絲は徑 2—5μ，多數の菌絆を有す，弛く配列さる，嚢狀體は 25—75×6—11μ，圓筒形，時に狹細し，有隔，菌絆を有し，齒の先端に近き處にて著しく伸出す，初め平滑，後粗き結晶を被むる。擔子柄は 15—35×5—8μ，棍棒形，4 小柄を有す。胞子は楕圓形乃至圓筒形，平滑，無色，6—12×3.5—6μ。

所在及產地 主に廣葉樹皮又は材上

本州—歐. 北米. 亞(西比)

和名 シロコメバタケ（白米齒茸）

Odontia bicolor (ALF. et SCHW. ex FR.) QUÉL.

ハリタケモドキ

QUÉLET, Enchir. Fung. 195. 1886; Fl. Myc. 435. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 87. 1903—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 30: 265. 1914; Hymen. Fr. 429, *f. 115*. 1928—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1124. 1916—REA, Brit. Basid. 647. 1922—MILLER, Mycologia, 26: 27, *pl. 3, f. 5*. 1934.

(今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67: 27. 1954)

Hydnum bicolor ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 270. 1805—FRIES, Syst. Myc. 1: 417. 1821; Elench. Fung. 1: 136. 1828; Epicr. Myc. 518. 1838; Hymen. Eur. 615. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 187. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 405. 1844—KARSTEN, Hattsv. 2: 102. 1882—WINTER, Pilze, 1: 371. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 470. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 454. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 163. 1892; Brit. Fungi, 398. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 383. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 155. 1912.

Hydnum subtile FR. Syst. Myc. 1: 425. 1821; Elench. Fung. 1: 140. 1828; Epicr. Myc. 519. 1838; Hymen. Eur. 617. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 182. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 404. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 24. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2: 358. 1873—GILLET, Hymen. Fr. 727. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn, 3: 296. 1876; Hattsv. 2: 99. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 353. 1889—WINTER, Pilze, 1: 369. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 476. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 453. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 154. 1912.

Hydnum ochroleucum var. *subtile* PERS. Myc. Eur. 2: 186. 1825.

Odontia subtilis QUÉL. Enchir. Fung. 196. 1886; Fl. Myc. 435. 1888—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1121. 1916.

Hydnum serratum PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 50: 112. 1897.

子實體は背着擴布し，薄く，固着し，柔軟，粉狀，老部は革質となり，僅か罅裂す，生時淡黃色，緣は粉狀，不劃然，屢々幅廣く，同色或は白色，齒は長さ 0.3mm に及び，短く，脆く，稍々正形，鈍頭或は數針に分る，一樣に散生し，老部に於て多く群集す，尖頭の冠毛は普通無性菌絲より成る，菌絲は幅 2—3μ，細く，互に崩れて膠着す，菌絆なし，嚢狀體は徑 6—18μ，先端球形に膨大し，放射狀結晶を密着し或は時に黃色物質を含む，組織內に埋在或は抽出す。擔子柄は棍棒形，10—20×3—5μ，胞子は圓壔形，斜に狹細し，平滑，無色，4.5—6×2.5—3μ。

所在及產地

針葉樹上，腐木上 本州—歐. 北米

和名 ハリタケモドキ（擬針茸）〔今關及土岐〕

疑 問 種

Odontia Wrightii (BERK. et CURT.) (=*O. Archeri* (BERK.) WAKEF.)

(安田，植. 雜. 34: 137. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 237. 1927—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，259. 1945—原，日. 菌. 目. 227. 1954)

Radulum FR.

オクバタケ屬

FRIES, Elench. Fung. 1: 148. 1828.

Phaeoradulum PATOUILLARD, Tax. Hymen. 69. 1900.

Tylodon BANKER, Bull. Torr. Bot. Club, 29: 440. 1902.

子實體は背着生にて扁平に擴布し，或は上緣反轉す，蠟質或は肉質，上面に種々なる形を有する突起あり，卽ち丘狀，隆肉狀或は圓筒形等にて太く，不正形，鈍頭，不規則に分散或は癒着す。擔子柄は 4 小柄を有し，胞子は無色或は有色，楕圓形，類球形或は圓壔形，平滑，嚢狀體なく，嚢狀體樣の無性擔子柄を混在することあり，材上生。

(本屬名は radulum (大目鑢) より出づ)。

基準種 *R. orbiculare* FR.

本邦既知種 オクバタケ ***R. molare*** (188)

Radulum molare FR.

オクバタケ

FRIES, Elench. Fung. 1:151. 1828; Epicr. Myc. 525,1838; Hymen. Eur. 623. 1874—QUÉLET. Champ. Jura Vosg. 2:359. 1873; Enchir. Fung. 199. 1886—GILLET, Hymen. Fr. cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 114. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 363. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 363. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 494. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 5, Gen. Radul. 6, *f. 973*. 1917—REA, Brit. Basid. 640. 1922.

(今關，日. 隱. 植. 圖. 419, *pl. 200, f. 3*. 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，260. 1945—原，日. 菌. 目. 331. 1954)

Sistotrema molariforme PERS. Myc. Eur. 2: 194, *pl. 22, f. 1*. 1825.

Hydnum Radula SECR. Myc. Suisse, n. 27. 1833.

Radulum Radula GILL. Hymen. Fr. 733. 1874.

Radulum molariforme HERTER, Krypt. Fl. Mark Brand. 6(1): 174. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):148. 1912—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1116. 1916.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915—安田，植. 雜. 29:295. 1915; 31:46. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 339. 1927—STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 75. 1936)

Radulum membranaceum BRES. Fungi Kmet. n. 134. 1897—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 30 : 245. 1914; Hymen. Fr. 403. 1928.

子實體は薄くして，樹皮面に固着す，圓形或は不規則なる形を呈し，廣く擴がる，直徑 3—20 cm あり，軟骨質にして初めは白色を呈すれども，後に材色を帶ぶるに至る，緣邊の少しく遊離せる表面は白き密毛を以て被われ，內部の實質は寒天質を帶ぶ，裏面は平滑にして不規則なる齒牙狀をなせる許多の突起を有す，この突起は子實體の全面に密生せずして諸處に散在群存し，其表面は子實層を以て蔽わる，長さ 1—3 mm あり，胞子は無色にして卵圓形をなし，平滑なり，長徑 3.5 μ，短徑 2 μ あり。

所在及産地

ヤエザクラ (*Prunus*) 幹上 本州—歐

和名 オクバタケ (奧齒茸)〔安田〕

Lopharia KALCHBR. et OWAN

クシノハシワタケ屬

KALCHBRENNER & MAC OWAN, Grev. 10:58. 1881.

Thwaitesiella MASSEE, Grev. 21 : 2. 1892.

子實體は全背着或は緣邊少しく反轉す，紙狀膜質或は革質，子實層面に薄齒狀の突起を生ず，突起は大小形狀不定にて斷續せる放射狀の列をなし，往々不完全なる網目を作る，嚢狀體を有す。

(本屬名は lophos (櫛) より出づ)

基準種 *L. lirellosa* KALCHBR. et OWAN.

本邦既知種

クシノハシワタケ ***L. mirabilis*** (188)

Lopharia mirabilis (BERK. et BR.) PAT.

クシノハシワタケ

PATOUILLARD, Bull. Soc. Myc. Fr. 11:15, *pl. 1, f. 4—5*. 1895; Ess. Tax. 74. 1900.

(今關，日. 隱. 植. 圖. 419, *pl. 200, f. 1—2*. 1939; 植. 硏. 雜. 15 : 307, *f. 6—7*. 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，258. 1945—原，日. 菌. 目. 185. 1954)

Radulum mirabile BERK. et BR. Jour. Linn. Soc. 14:61. 1875—SACCARDO, Syll. Fung. 6:946. 1888—LLOYD. Myc. Writ. 5, Gen. Radul. 3, *f. 967*. 1917.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67:11. 1918—原，日. 菌. 目. 311. 1954)

Thwaitesiella mirabilis MASS. Grev. 21 : 3, *pl. 182, f. 8—9*. 1892.

Lopharia javanica P. HENN. et NYM. Monsunia, 1:144. 1899—SACCARDO, Syll. Fung. 16:180. 1902.

(安田，植. 雜. 29 : 61. 1915; 31 : 46. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 327. 1917; ed. 3. 192. 1927)

Irpiciporus Noharae MURR. Mycologia, 1 : 166. 1909.

(野原，植. 雜. 24 : 7, *f. 3, 6 c*. 1910)

Irpex Noharae SACC. et SYD. Syll. Fung. 21 : 377. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:7. 1916; Lett. 65:3, 5, 6, 13. 1917; 601, *f. 851*. 1916; 716, *f. 1074*. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 299. 1917; ed. 3. 175. 1927)

Radulum javanicum LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 59:4. 1915; 5, Gen. Radul. 3, 11—12. 1917; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 74. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1922)

子實體は全背着或は上半部反轉して傘となる。傘は半圓形にて上面汚白色，著しく密毛を被り，明かなる環紋あり，肉は白色，革質，厚さ 1 mm 以下にて薄し，子實層は傘の下面に生じ，薄齒狀の突起を疎生す，突起の大さ，形狀等不定にて，時に放射狀に配列し，時に互に連絡し，不完全なる網目を作る。子實層に嚢狀體あり，嚢狀體は長紡錘形，無色，厚



a



b

第159圖　クシノハシワタケ *L. mirabilis*
a. 子實體 ×3/5　b. 嚢狀體及胞子 ×476
（大谷氏）

膜，結晶を被る，50—130×15—22μ，胞子は卵形又は楕圓形，無色，10.5—13.5×4.5—6μ，木材白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹枯枝上　　　全土一亞(錫.爪)

和名　クシノハシワタケ（櫛歯皺茸）〔安田〕

Oxydontia MILLER
サガリハリタケ屬

MILLER, Mycologia, 25: 294. 1933.

Hydnum QUÉLET, in COOKE & QUÉLET, Clav. Hymen. 200. 1878.

Acia KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5: 28. 1878.

子實體は背着，擴布し，固着或は剝離し得，綿絮狀，肉質或は蠟質，針は型的に長く，尖錐形なり，嚢狀體なく，胞子は種々變化す。材上生。

（本屬名は oxys（鋭き）odonta（齒）より出づ）

基準種　*O. setosa* (PERS.) MILLER

本邦既知種檢索表

A. 針は長くして 1cm に及び，白色，胞子球形。
　　サガリハリタケ ***O. copelandii*** (189)

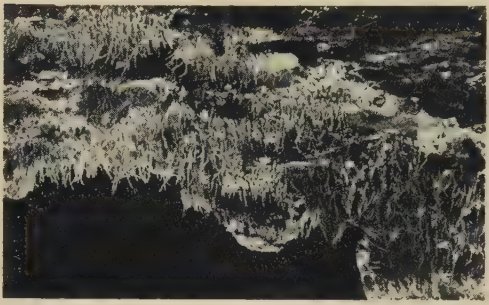
B. 針は長さ 0.7—1.5mm，黄色，胞子楕圓形。
　　キコハリタケ ***O. chrysella*** (189)

Oxydontia copelandii (PAT.)
サガリハリタケ

Hydnum Copelandii PAT. Leafl. Philipp. Bot. 2251. 1914—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 474. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 6: 963. 1920—安田，植. 雜. 34: 213. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 165. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 411, *pl. 196, f. 1.* 1939—原，日. 菌. 目. 154. 1954)

子實體は全背着生にて着生物に固着し，傘を作らず，形不定なるも，略々圓形或は楕圓形をなし，多



a



b

第160圖　サガリハリタケ *O. copelandii*
a. 子實體 ×1　b. 胞子 ×680（大谷氏）

數の針を懸垂し，常に周緣部に狹き不實帶あり，全體白色，後漸次黄白乃至灰黄白色となり，乾時材色を呈す，肉は薄く，肉質乃至柔革質，白色，厚さ 1mm 内外，針の長さ 1cm に及び，徑 1mm 内外なり，胞子は球形，無色，平滑，5—6μ。

所在及産地

廣葉樹枯枝幹上　　　全土一亞(比)

和名　サガリハリタケ（懸垂針茸）〔安田〕

Oxydontia chrysella (BERK. et CURT.)
キコハリタケ

Hydnum chrysellum BERK. et CURT. Ann. Mag. Nat. Hist. II, 12: n. 183. 1853—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 466. 1888.

(安田，植. 雜. 35: 11. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3, 165. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

子實體は全背着，薄く，肉質，徑 1.5—4cm，肉は白色，針は密生し，細く，鋭頭，長さ 0.7—1.5 mm，黃色，胞子は楕圓形，平滑，無色，3—4×2μ。

所在及産地

ミズナラ (*Quercus*) 等の樹皮面　本州—北米

和名　キコハリタケ（黃小針茸），キハリタケ(黃針茸)〔安田〕

Hericium PERS. ex S. F. GRAY
サンゴハリタケ屬

PERSOON, Comm. Fung. Clav. 28. 1797; Myc. Eur. 2:150. 1825—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 652. 1821—MILLER, Mycologia, 25 : 298. 1933.

Manina SCOPOLI, Diss. Sci. Nat. 1 : 97. 1772.

Medusina CHEVARIER, Fl. Gen. Paris, 278. 1826.

Dryodon QUÉLET, in COOKE & QUÉLET, Clav. Hymen. 198. 1878.

Friesites KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5 : 41. 1879.

子實體は肉質或は稍々肉質にて樹幹に側生し，瘤狀或は分岐し，之れより長き突錐狀の針を懸垂す，一般に粘嚢體を有す，胞子は球形或は類球形にて油球を有す。材上生。

（本屬名は hericius (ハリネズミ) より出づ）

基準種　*H. coralloides* PERS. ex S. F. GRAY

本邦既知種檢索表

A. 子實體は分岐せる枝の集團よりなる，胞子は 4—7μ。

a. 枝は上下左右に錯雜し，針は長さ 6 mm 以上のもの稀れにて，枝の下側に幾分 1 様に分布す，胞子は4—5×3—4μ。

サンゴハリタケ ***H. laciniatum*** (190)

b. 主枝は少數にて短く，比較的强靱，針は長さ 5—15 mm ありて，型的には末枝の先端及び枝側に存する管狀突起上に叢生す，胞子は徑 5.5—7μ。　サンゴハリタケモドキ

H. coralloides (191)

B. 子實體は塊狀にて，稀に分枝する傾向を示す。

a. 子實體の背面は無性にて，先端及下面に長針あり，長さ 6 cm に至る。

ヤマブシタケ ***H. erinaceus*** (191)

b. 子實體の全面に針あり，上部にある針は捩曲す，針の長さ 2 cm 内外。

シシガシラ ***H. caput-medusae*** (192)

Hericium laciniatum (LEERS) BANKER
サンゴハリタケ

BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12 : 114. 1906—MILLER, Mycologia, 27 : 366, *pl. 33*, *f. 8*. 1935.

Manina flagellum SCOP. Diss. Sci. Nat. 97, *pl. 11*. 1772—BANKER, Mycologia, 4 : 276. 1912.

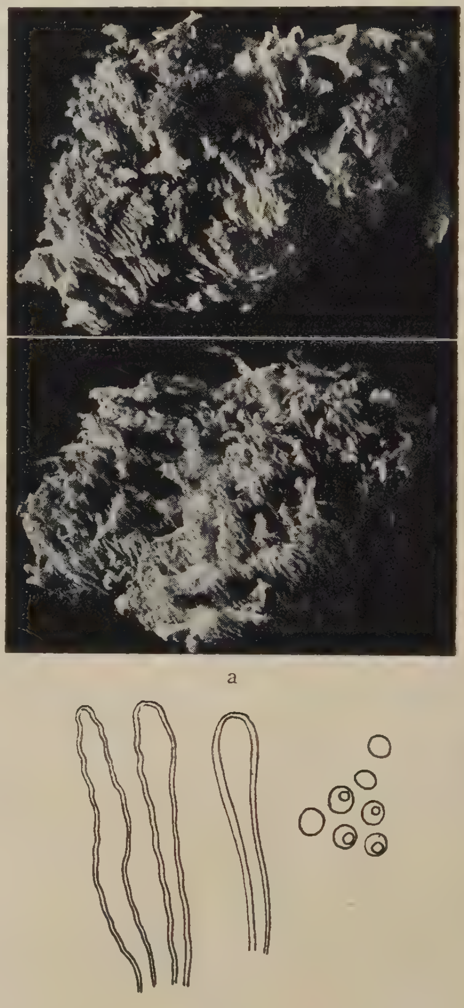
Hydnum laciniatum LEERS, Fl. Herb. 276. 1775.

Hydnum ramosum BULL. Champ. Fr. 305, *pl. 390*. 1788.

Hydnum abietinum SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 181. 1791.

Hydnum coralloides SCOP. ex FRIES, Syst. Myc. 1 : 408. 1821. pr. p.—Auct. plur.

（白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 283. 1917; ed. 3. 164. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 980. 1920—安



第 161 圖　サンゴハリタケ *H. laciniatum*
a. 子實體 ×3/5　b. 粘嚢體及胞子 ×612
（大谷氏）

田，植. 雜. 34:163. 1920—川村，日. 菌. 圖說，*n. 14.* 1929—今關，日. 隱. 植. 圖. 413, *pl. 197, f. 1.* 1939—原，日. 菌. 目. 154. 1954)

Medusina coralloides CHEV. Fl. Gen. Paris, 1: 279. 1826.

子實體は反覆分岐する多少纒絡する枝の集團より成り，枝は基物に入れる共通の基部より起る，柔軟，肉質，白色，乾時淡赤黄色乃至黒銹色に變ず，針は長さ1—6 mm，圓柱狀，突錐形，鋭頭，枝の下面に多少一様に分布し，屢々先端の小枝の上側にも生ず，肉の菌絲は幅 3—20 μ，時に菌絆あり，粘囊體は幅 5—7 μ，子實下層より起り子實層を貫く，內に帶黄色の光物質を含む，擔子柄は 20—35×5—6 μ，棍棒形，僅か油球あり，胞子は類球形，平滑，無色，4—5×3—4 μ，1油球あり。可食。

所在及產地

枯幹上　　北海道，本州—歐. 北米

和名 サンゴハリタケ（珊瑚針茸）〔安田〕

Hericium coralloides (SCOP. ex FR.) PERS. ex S. F. GRAY

サンゴハリタケモドキ

PERSOON, Comm. Fung. Clav. 28. 1797; Myc. Eur. 2:150. 1825—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 652. 1821—MILLER, Mycologia, 27: 367, *pl. 33, f. 4.* 1935.

(S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15: 127. 1940)

Hydnum coralloides SCOP. ex FRIES, Syst. Myc. 1: 408. 1821. pr. p.—Auct. plur.

Dryodon coralloides QUÉL. in KARSTEN, Hattsv. 2: 92. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 350. 1889—QUÉLET, Enchir. Fung. 192. 1886; Fl. Myc. 438. 1888—BRESADOLA & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 30: 277. 1914; Hymen. Fr. 442. 1928.

Manina coralloides BANKER, Mycologia, 4: 272. 1912.

子實體は通常數個の比軟的短き强靱なる主莖より，短き稍々細長の枝を生じて形成さる，柔軟，肉質，白色，乾時淡卵黄色乃至褐色の諸彩を帶ぶ，針は長さ5—15 mm，圓柱狀，鋭頭，通常枝端及び枝側に生ずる短き瘤上に叢生す，肉の菌絲は幅 3—20 μ，時に菌絆を有す，粘囊體は徑 6—8 μ，時に 25 μ も抽出す。擔子柄は棍棒形，20—45×5—6 μ，胞子は球形，平滑，無色，5.5—7 μ，1油球あり。可食。

所在及產地

枯幹上　　本州，小笠原島—歐. 北米

和名 サンゴハリタケモドキ（擬珊瑚針茸）

Hericium erinaceus (BULL. ex FR.) PERS.

ヤマブシタケ

PERSOON, Myc. Eur. 2: 153. 1825—MILLER, Mycologia, 27: 368, *pl. 33, f. 13.* 1935.

Hydnum Erinaceus BULL. Champ. Fr. 304, *pl. 34.* 1791—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 560. 1801—DC. Fl. Fr. 2: 108. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1: 407. 1821; Elench. Fung. 1: 132. 1828; Epicr. Myc. 512. 1838; Hymen. Eur. 208. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 157. 1836; Outl. Brit. Fung. 259. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 407. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 24. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 297. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 294. 1872—GILLET, Champ. Fr. 724. cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1: 375. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 449. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1097. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 157. 1892; Brit. Fungi, 396. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 116, *f. 59.* 1900—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 198, *f. 197.* 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 379, *f. 85 D,* 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 86, *f. 220.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 159. 1912—REA, Brit. Basid. 636. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1060.* 1932.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28: 267. 1901—松村，植. 名鑑，1: 147. 1904—白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 283. 1917; ed. 3. 165. 1927—安田，植. 雜. 29: 116, 296. 1915; 31: 48. 1917—KAWAMURA, Illus. Jap. Fung. *pl. 13, f. 3.* 1915; 日. 菌. 圖說，*n. 122.* 1929—今關，日. 隱. 植. 圖. 413, *pl. 197, f. 2.* 1939; 植. 分. 地. 13: 248. 1943—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，261, *f. 85.* 1945—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Medusina patula CHEV. Fl. Gen. Paris, 1: 279. 1826.

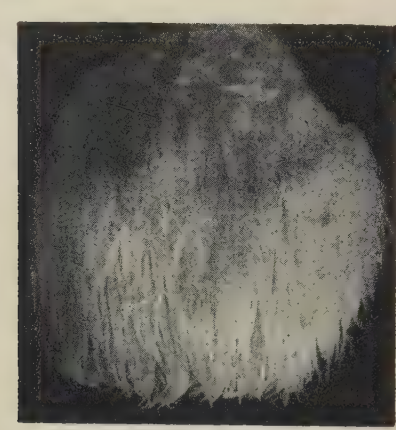
Dryodon erinaceus KARST. Hattsv. 2: 92. 1882—QUÉLET, Enchir. Fung. 192. 1886—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 30: 277. 1914; Hymen. Fr. 442. 1928—PILÁT, Ann. Myc. 38: 68. 1940.

Manina cordiformis BANKER, Mycologia, 4: 277. 1912.

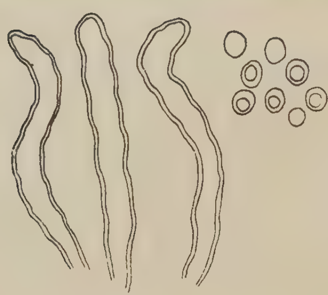
子實體は中實或は有孔の稍々扁平の塊體にて樹幹に側着す，その下面及外部より長き下向する針を生ず，軟肉質，白色，乾時淡卵黄色乃至褐色の諸彩を帶ぶ，針は長さ1—4 cm，屈曲し，圓柱狀，鋭頭，基部に於て互に多少癒着す，屢々表面にて短き波狀の無性針或は毛となる，肉の菌絲は幅 3—20 μ，時に菌絆あり，粘囊體は幅 5—9 μ，子實下層より起り，甚だ光る內容あり，擔子柄は 25—40×5—7 μ，胞子は類球形平滑，無色，5—6.5×4.5—5 μ，1油球あり。可食。

所在及產地

枯幹上　　全土—歐. 北米. 亞(支)



a



b

第 162 圖 ヤマブシタケ *H. erinaceus*
a. 子實體 ×3/5 b. 粘嚢體及胞子 ×544
（大谷氏）

和名 ヤマブシタケ（山伏茸），
ハリセンボン（針千本）

Hericium caput-medusae (BULL. ex FR.) PERS.

シシガシラ

PERSOON, Comm. Fung. Clav. 26. 1797; Myc. Eur. 2 : 154. 1825.

Clavaria caput-Medusae BULL. Champ. Fr. 210. *pl. 412*. 1788.

Hydnum caput-Medusae PERS. Syn. Meth. Fung. 564. 1801—DC. Fl. Fr. 2: 108. 1815—NEES, Syst. Pilze Schw. *f.* ccxlix. 1817—FRIES, Syst. Myc. 1 : 409. 1821; Elench. Fung. 1 : 133. 1828; Epicr. Myc. 512, 1838; Hymen. Eur. 608. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 259. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 297. 1871—GILLET, Champ. Fr. 725. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 449. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1098. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 157. 1892; Brit. Fungi, 396. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 116. 1900—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 198. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 516. 1908—REA, Brit. Basid. 636. 1922.

（川村，日. 菌. 圖說，*n. 231*. 1929—原，日. 菌. 目. 154. 1954）

Dryodon caput-Medusae QUÉL. Enchir. Fung. 193. 1886.

子實體は多數の分枝結合して球塊狀となり懸垂す，稍々有莖，白色にて，後煤灰色となる，徑 7—10 cm，全表面に針を生ず，針は上部にあるもの捩曲し特異なる狀を呈し，下側にあるものは眞直にて，長さ 10—20 mm，肉は白色，軟くして彈性あり。胞子は球狀卵形，無色乃至淡肉色，6.5×5 μ。可食。

所在及產地

枯幹上	本州—歐. 北米

和名 シシガシラ（獅子頭）〔川村〕

Auriscalpium S. F. GARY

マツカサタケ屬

S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 650. 1821—KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5 : 27. 1879.

Pleurodon QUÉLET, in COOKE & QUÉLET, Clav. Hymen. 198. 1878. pr. p.—KARSTEN, Rev. Myc. 9 : 19. 1881.

Leptodon QUÉLET, Enchir. Fung. 191. 1886. pr. p.

傘は全緣或は淺裂し，側莖，革質，針は細長，突錐形，嚢狀體が若し存在せば僅か分化せるものなり，胞子は小形，無色，通常球果上に生ず。

（本屬名は auris（耳）scalprum（搔取のみ）より出づ）

基準種 *A. vulgare* S. F. GRAY

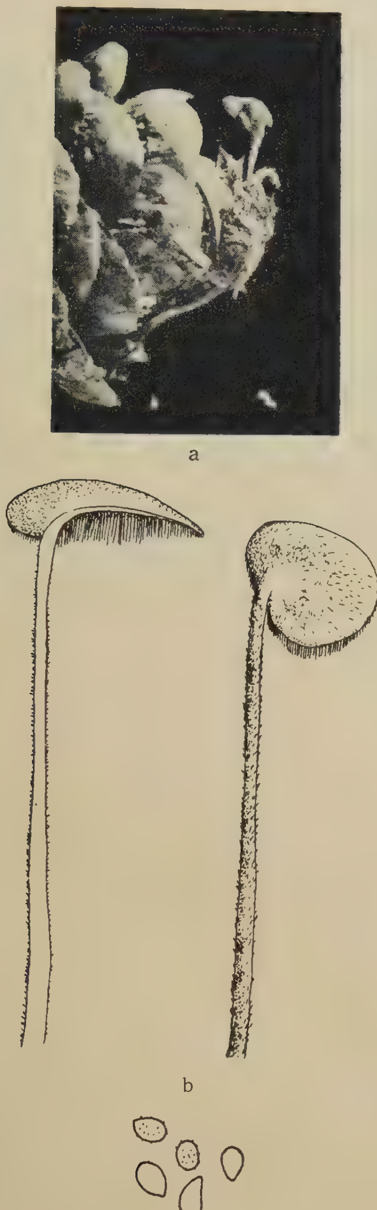
本邦既知種 マツカサタケ ***A. vulgare*** (192)

Auriscalpium vulgare S. F. GRAY

マツカサタケ

S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 650. 1821—KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5 : 27. 1879—MILLER, Mycologia, 27 : 365, *pl. 33*. 1935.

Hydnum auriscalpium L. Sp. Plant. 2 : 1178. 1753—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 557. 1801—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi. 3 : *pl. 267*. 1803—FRIES, Obs. Myc. 1 : 146. 1815; Syst. Myc. 1 : 406. 1822; Epicr. Myc. 511. 1838; Hymen. Eur. 607. 1874—DC. Fl. Fr. 2 : 110. 1815—NEES, Syst. Pilze Schw. 233, *pl. 32. f. 243*. 1817—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 156. 1836; Outl. Brit. Fung. 258. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 407. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 254. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 24. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 296. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 293. 1872—GILLET, Champ. Fr. 724. cum icone. 1874



第163圖　マツカサタケ *A. vulgare*
a. 子實體 ×1　b. 同擴大　c. 胞子 ×680
（大谷氏）

—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:291. 1876—WINTER, Pilze, 1:376. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 445. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1095. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:456. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:156. 1892; Brit. Fungi, 396. 1911—ROLLAND, Atl. Champ. 86, *pl. 99, f. 219.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 159, *pl. 27, f. 1.* 1911—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1059.* 1932.

（川村，植．雜．22：272，*1 f.* 1908; Illus. Jap. Fung. *pl. 12, f. 13—15.* 1914; 日．菌．圖說，*n. 44.* 1929—安田，植．雜．28：30. 1914; 31：47. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63：14. 1916—中路，植．雜．30:102. 1916—白井，日．菌．目．ed. 2. 283. 1917; ed. 3. 164. 1927—原，日．菌．目．154. 1954）

Pleurodon auriscalpium KARST. Hattsv. 2: 110. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 360. 1889—PATOUILLARD, Ess. Tax. 116. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 30:274. 1914; Hymen. Fr. 439. 1928.

Leptodon auriscalpium QUÉL. Enchir. Fung. 192. 1886; Fl. Myc. Fr. 441. 1888.

Auriscalpium auriscalpium BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12：178. 1906.

傘は幅 1—2 cm，扁平，心臟形乃至腎臟形，側着，僅か丸山形，革質，細剛毛を被むり，黑褐色乃至殆ど黑色。莖は直立，長さ 1—6 cm，細長，革質，細剛毛あり，上部黑褐色乃至殆ど黑色，膨れ，基部海綿質にて僅か褐色を帶ぶ，針は長さ 1.5 mm 以下，細長，圓柱狀，銳頭。擔子柄は棍棒形，15—20×5—6 μ，胞子は倒卵形，有嘴或は基部僅か狹細，平滑或は微細刺を有し，無色，4.5—5×3.5—4 μ。囊狀體は時に存在し，15—30×3—6 μ，薄膜，尖錐形。

所在及產地

腐球果上　　北海道，本州—歐．北米

和名　マツカサタケ（松傘茸）〔川村〕

Steccherinum S. F. GRAY
ニクハリタケ屬

S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:651. 1821—MILLER, Mycologia, 25：296. 1933.

Pleurodon QUÉLET, in COOKE & QUÉLET, Clav. Hymen. 198. 1878. pr. p.

Creolophus KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5：27. 1879.

Climacodon KARSTEN, Rev. Myc. 3：20. 1881.

Leptodon QUÉLET, Enchir. Fung. 191. 1886—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 146. 1887.

Mycoleptodon PATOUILLARD, Tax. Hymen. 116. 1900.

傘は側生の莖狀部を有し或は坐生し，反轉或は稀に背着す，一般に强靱，纖維質，革質，時に類肉質なり，針は圓柱狀或は扁平，囊狀體は普通に存在し，胞子は小形，平滑，卵形乃至圓壔形，粉堆は白色。材上生。

基準種　*S. ochraceum* (GMEL. ex FR.) S. F. GRAY

本邦既知種検索表

A. 背着性強く，後に反轉す，傘面は帶赤黃色，針は長さ 1—2 mm，形及大さ略々等しく，肉色，胞子 3—4×2—2.5 μ。

ニクハリタケ *S. ochraceum* (194)

B. 坐生或は短側莖あり，背着部ありても比較的僅かなり。

a. 針は長さ 6—18 mm，傘面白色，子實層面乳白色，胞子4—6×2.5—3.5 μ。

ハリヒラタケ *S. septentrionale* (195)

b. 針は長さ 1—8 mm。

α. 胞子長さ 5 μ 以下。

I. 纖維肉質，傘面淡黃色，粘質，針は長さ 1—6 mm，胞子 4—5×2—2.5 μ，菌絲に双菌絆あり。

アセハリタケ *S. pulcherrimum* (196)

II. 革質，菌絲に双菌絆なし，胞子長さ 4 μ 以下。

1. 緣に近く微環紋あり，針長 1—3 mm，褐色，胞子 2.5—3×1.25 μ。

チヤウラハリタケ *S. adustum* (196)

2. 明かなる環紋あり，針長 2 mm，胞子 3—4×2 μ。

チヤハリタケモドキ *S. rawakense* (196)

β. 胞子長さ 5 μ 以上。

I. 肉質，針長 4—8 mm，胞子 5—7×2 μ，緣邊甚だ薄し。

カミハリタケ *S. pergameneum* (197)

II. 軟革質，針長 1.5—3 mm，胞子 9×4 μ，甚だ薄からず。

オウギハリタケ *S. helvolum* (197)

Steccherinum ochraceum (GMEL. ex FR.) S. F. GRAY

ニクハリタケ

S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:651. 1821—MILLER, Mycologia, 27 : 358, *pl. 33, f. 1*. 1935. (千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 29. 1952—今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67 : 27. 1954)

Hydnum ochraceum GMEL. in LINN. Syst. Nat. 2 : 1440. 1735—PERSOON, Obs. Myc. 1 : 75. 1796; Syn. Meth. Fung. 559, *pl. 5, f. 5*. 1801—FRIES, Syst. Myc. 1 : 414. 1821; Epicr. Myc. 514. 1838; Hymen. Eur. 612. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 158. 1836; Outl. Brit. Fung. 259. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 406. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:298. 1871; Handb. Austr. Fungi, 171. 1892—GILLET, Champ. Fr. 725. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 373. 1884—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 14 : 7. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:457. 1888 ; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1101. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 454. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 158. 1892; Brit. Fungi, 396. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:85. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 380, *f. 85E*, 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 157. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:6. 1912; 6:963, 980. 1920—安田，植. 雜. 27 : 71. 1913; 31:46. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2:285. 1917; ed. 3. 166. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 411, *pl. 196, f. 2—3*. 1939—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Hydnum Daviesii SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, *pl. 15*. 1797.

Hydnum Rhois SCHW. Schr. Nat. Graz. Leipzig, 1 : 103. 1822.

Hydnum pudorinum FR. Elench. Fung. 1:133. 1828.

Hydnum flabelliforme BERK. Lond. Jour. Bot. 4 : 306. 1845.

Hydnum plumarium BERK. et CURT. Grev. 1 : 97. 1873.

Climacodon pudorinus KARST. Hattsv. 2 : 97. 1882.

Climacodon ochraceus KARST. Hattsv. 2:98. 1882.

Pleurodon pudorinum QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 13 : 282. 1884.

Leptodon pudorinum QUÉL. Enchir. Fung. 192. 1886.

Leptodon ochraceum QUÉL. Enchir. Fung. 192. 1886.

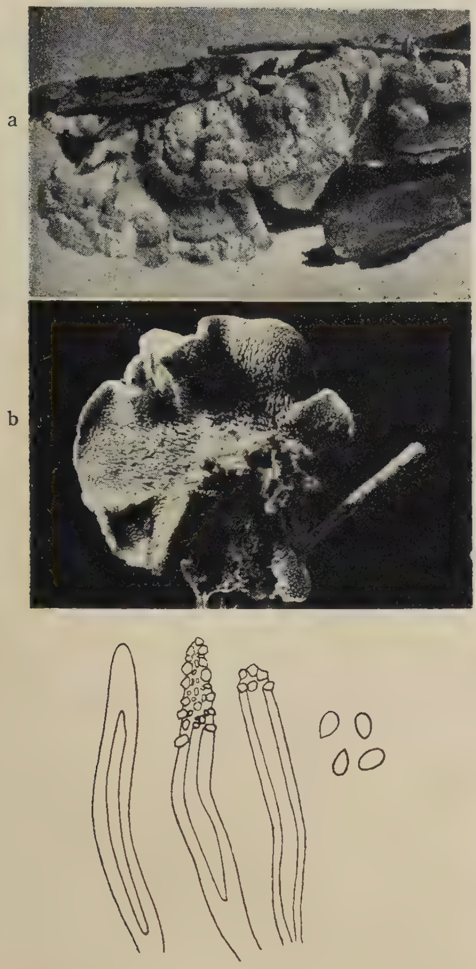
Hydnum conchiforme SACC. Syll. Fung. 6:458. 1888.

Mycoleptodon ochraceum PAT. Ess. Tax. 117. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 30:275. 1914; Hymen. Fr. 440. 1928—REA, Brit. Basid. 639. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 304. 1933; 51:403. 1935; Ann. Myc. 38 : 68. 1940.

Steccherinum Rhois BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12 : 112. 1906; Mycologia, 4 : 311. 1912.

Hydnum alnicolum VEL. Ceske Houby. 745. 1922.

子實體は薄く，革質，初め着生物上に擴布し，後反轉して傘を作る。傘は半圓形，貝殼狀，橫徑 1—3 cm，表面は短粗毛を密に被むり，明かなる環紋あり，白色或は淡帶赤黃色を呈す，緣は白色，毛を有し，稍々突起を有し或は全緣なり，肉は白色，强靱，厚さ 1 mm 內外，針は長さ 1—2 mm，突錐形，鋭頭，圓柱狀或は扁平なり，肉色或は淡桃色を呈す。擔子柄は棍棒形，12—15×3—5 μ，胞子は倒卵形，



第164圖　ニクハリタケ *S. ochraceum*
a. 子實體表面 ×1　b. 同裏面 ×1.3
c. 嚢狀體及胞子 ×612　（大谷氏）

平滑，無色，3—4×2—2.5μ，屢々1油球あり，嚢狀體は多數，長く，棍棒形乃至圓筒形，厚膜，普通著しく結晶を被むり，20—100×4—9μ，頭部僅かに抽出す。

所在及産地

枯枝幹上　全土—歐．北米．濠．亞（西比．支）

和名　ニクハリタケ（肉針茸）〔安田〕

Steccherinum septentrionale (FR.) BANKER

ハリヒラタケ

BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12 : 130. 1906—MILLER, Mycologia, 27 : 360, *pl. 33*, *f. 3*. 1935.

（千葉及寺本，東．大．演．林．報．43 : 29. 1952）

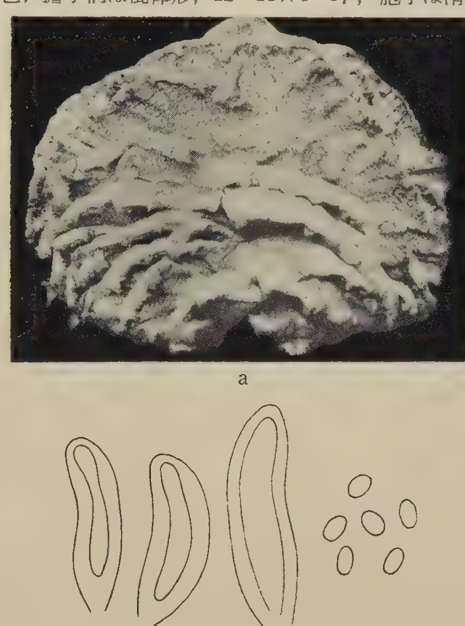
Hydnum septentrionale FR. Syst. Myc. 1 : 414. 1821; Epicr. Myc. 513. 1838; Hymen. Eur. 610. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 393. 1876—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 453. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 116. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 157. 1912—GUESSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 203, *pl. 105*. 1927.

（LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1012. 1920—安田，植．雜．36 : 52. 1922—白井，日．菌．目．ed. 3. 167. 1927—川村，日．菌．圖說，*n. 232*. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 109. 1931—逸見及赤井，木．腐．菌學，262, *f. 86*. 1945—原，日．菌．目．156. 1954）

Climacodon septentrionalis KARST. Rev. Myc. 3 : 20. 1881; Hattsv. 2 : 97. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 351. 1889—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 310. 1933.

Creolophus septentrionalis BANKER, Mycologia, 5 : 293. 1913.

子實體は多數の無莖なる水平の傘を疊生し，その基部に於て癒合し，小形の一點より生じ，大團をなす。傘は多少扁平，普通 2—15×3—15 cm，時に更に大形となる，纖維質，傘面は細密毛を被むり，無環紋，生時白色，乾時粗皺を有し帶赤黃色，緣は截形，僅か內屈す。針は長さ 6—18 mm，細長，圓柱狀，鋭頭，全緣，乳白色，乾時汚褐赤色乃至汚赤褐色，擔子柄は棍棒形，12—18×4—5μ，胞子は楕圓



第165圖　ハリヒラタケ *S. septentrionale*
a. 子實體 ×1/2　（龜井氏）
b. 嚢狀體及胞子 ×544　（大谷氏）

形，平滑，無色，4—6×2.5—3.5μ，嚢狀體は 30—50×10—16μ，短く，紡錘形，厚膜，10—25μ 突出す。

所在及産地 枯幹上

北海道，本州，九州—歐. 北米. 亞(西比)

和名 ハリヒラタケ（針平茸）〔川村〕，

エゾハリタケ（蝦夷針茸）〔安田〕

Steccherinum pulcherrimum (BERK. et CURT.) BANKER

アセハリタケ

BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12:129. 1906—MILLER, Mycologia, 27:361, *pl. 33*, *f. 7*. 1935.

(今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67 : 27. 1954)

Hydnum pulcherrimum BERK. et CURT. Jour. Bot. & Kew Gard. Misc. 1:235. 1849—SACCARDO, Syll. Fung. 6:452. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 116. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 379. 1908—REA, Brit. Basid. 637. 1922.

(今關，日. 隱. 植. 圖. 411, *pl. 196*, *f. 4*. 1939—原，日. 菌. 目. 156. 1954)

Hydnum friabile FR. Nova Symb. Myc. 90. 1851.

Steccherinum agaricoides BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12 : 130. 1906.

Creolophus pulcherrimus BANKER, Mycologia, 5 : 294. 1913.

Creolophus agaricoides BANKER, Mycologia, 5: 294. 1913.

? *Hydnum discolor* FR. Syst. Myc. 1:411. 1821; Epicr. Myc. 513. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 452. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:9. 1916; 68: 7. 1918—安田，植. 雜. 31:46, 95. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 165. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Dryodon pulcherimum PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 315, *pl. 17—8*, *f. 4*. 1933.

Donkia pulcherrima PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 328. 1936.

子實體は傘形，坐生，孤生乃至疊生，傘は外圍半圓形乃至扇形，屢々背着基部を有す，時に鐙形或は丸山形，大さ種々あり，柔軟，撓曲性，纖維肉質，生時濕潤にて時に乳白色の粘液を有す，乾時柔軟或は護謨質乃至脆弱，初め帶白色，後淡黃色となる，乾時澁色乃至暗栗褐色，各傘は長さ 8cm，幅 15cm に達し，基部に於て厚さ 0.2—10mm，表面は密に纖維或は毛を有す，緣は甚だ薄し，針は長さ 1—6mm，普通約 5mm，細長，圓柱狀，鋭頭，全緣，乾時澁色，擔子柄は棍棒形，12—18×3—4μ，胞子は變化し，楕圓形，僅か壓邊され，平滑，無色，4—5×2—2.5μ，嚢狀體なし，菌絲に双菌絆を有するを特徵とす。

所在及産地 廣葉樹枯木上

本州，九州—歐. 北中米. 濠. 亞(西比)

和名 アセハリタケ（汗針茸）〔今關〕

Steccherinum adustum (SCHW.) BANKER

チヤウラハリタケ

BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12:132, *pl. 33*. *f. 4*. 1935—MILLER, Mycologia, 17: 363, *pl. 33*. *f. 4*. 1935.

Hydnum adustum SCHW. Syn. Fung. Carol. 103, *pl. 2*, *f. 7—9*. 1822—FRIES, Elench. Fung. 1:132. 1828; Epicr. Myc. 510. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 444. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 941, *f. 1735*. 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53:8. 1914—安田，植. 雜. 28:389. 1914; 31:47. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 281. 1917; ed. 3. 164. 1927)

子實體は革質，乾時脆弱，傘は半圓形，扇形或は腎臟形にて基部背着し，或は坐生又は短側莖を有すること多く，稀に偏心或は中心莖を有す，屢々舊傘上に不具或は正形の小傘を疊生す，2—4×3—7cm，多少扁平，着生物或は莖に向つて壓低さる，微細の軟毛を有し，白色乃至稍々暗色の黃褐色を呈し，緣邊の方に微かなる環紋あり，針は長さ 1—3mm，細長，圓柱狀，角柱形或は扁平，時に癒着，屢々先端分岐す，初め帶白色，後銹色となる，擔子柄は棍棒形，8—15×3μ，胞子は微小，短圓筒形，平滑，無色或は顆粒を有す，2.5—3×1—1.25μ。

所在及産地

枯木上 本州—北米

和名 チヤウラハリタケ（茶裏針茸）〔安田〕

Steccherinum rawakense (PERS.) BANKER

チヤハリタケモドキ

BANKER, Mycologia, 4 : 312. 1912—MILLER, Mycologia, 27 : 363, *pl. 33*, *f. 5*. 1935.

Hydnum rawakense PERS. Freyc. Voy. Aut. Monf. Bot. 175. 1826—FRIES, Epicr. Myc. 515. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 459. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 5, 9. 1917)

Hydnum reniforme BERK. et CURT. Jour. Linn. Soc. 10 : 325. 1869.

Hydnum glabrescens BERK. et RAV. Grev. 1 : 97. 1873.

Hydnum guaraniticum SPEG. Anal. Soc. Cl. Argent. 17 : 74. 1884.

Hydnum basiasperatum P. HENN. Hedwigia, 36 : 199. 1897.

Mycoleptodon Rawakense PAT. Ess. Tax. 117.

1900.

Mycoleptodon reniforme PAT. Ess. Tax. 117. 1900.

Mycoleptodon guaraniticum PAT. Ess. Tax. 117. 1900.

Steccherinum Morgani BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12: 127. 1906.

Steccherinum reniforme BANKER, Mem. Torr. Bot. Club, 12: 127. 1906.

子實體は革質，乾時脆弱，傘は水平，腎臓形乃至扇形，多少扁平，坐生或は稍々有莖，時に小形の背着基部を有す，密に疊生し，屢々基部の方癒合す，表面環薄を有し，無毛或は甚だ短き粗毛を被むる，乾時肉桂色，針は長さ 2.5 mm 以下，細長，圓柱狀或は角柱形，突錐形，鋭頭，乾時栗褐色，擔子柄は棍棒形，12—15×4μ，胞子は楕圓形，平滑，無色，3—4×2μ。嚢狀體は 15—30×5—9μ，短紡錘形，鋭頭，厚膜，約 10μ 程突出す。

所在及產地

樹幹上　　本州—南中北米．亞(ボルネオ)

和名 チヤハリタケモドキ（擬茶針茸）

Steccherinum pergameneum (YAS.)
カミハリタケ

Hydnum pergameneum YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 33: 75. 1919—LLOYD, Myc. Writ. 6: 878. *f. 1500*. 1919.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 68: 7. 1918—白井，日．菌．目．ed. 3. 166. 1927—原，日．菌．目．155. 1954)

子實體は無莖，薄く，肉質，乾時膜狀となる，傘は扇形にて基部狹小となる，5.5—8×5—6 cm，厚さ 0.2—0.5 cm，緣に向つて薄くなり，僅かに 0.15 mm なり，表面は白色，平滑，乾時放射狀皺襞を生ず，肉は肉質，乾時海綿狀となる。子實層面は白色，針は細長，柔軟，稍々密生し，乾時淡黃色を帶ぶ，長さ 4—8 mm，幅 0.1—0.4 mm。胞子は圓壔形，兩端圓形，平滑，無色，5—7×2μ。嚢狀體なし。

所在及產地

樹幹上　　本州

和名 カミハリタケ（紙針茸）〔安田〕

Steccherinum helvolum (LÉV.)
オウギハリタケ

Hydnum helvolum LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2: 204. 1844—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 446. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 116. 1900.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61: 6, 7. 1916; 5, Lett. 63: 9. 1916; 7: 1126. 1922—安田，植．雜．30: 154. 1916; 31: 46. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—原，日．菌．目．155. 1954)

子實體は無莖，薄く，軟革質，傘は扇形，基部狹小となりて樹皮面に着生す，3—4.5×3—5.5 cm，傘面は白色，平滑，乾時淡黃色を帶び，放射狀皺襞を生ず，無環紋，緣は甚だ薄し，肉は白色，乾時材色なり，針は細く，稍々密生，白色，長さ 1.5—3 mm，胞子は短楕圓形，平滑，無色，9×4μ。

所在及產地

樹幹上　　本州—亞(爪)

和名 オウギハリタケ（扇針茸）〔安田〕

Boninohydnum S. ITO et IMAI
オガサワラハリヒラタケ屬

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15: 127. 1940.

子實體は坐生，疊生，傘は扁平，生時肉質，乾時強靱，刺は突錐形にて基部互に分離す，擔子柄は 4 小柄を有し，胞子は楕圓形，平滑，粉堆はオリーブ色。材上生。

（本屬名はBonin(小笠原)Hydnum(屬名)より出づ）

基準種　*B. pini* S. ITO et IMAI.

本邦既知種

オガサワラハリヒラタケ　***B. pini*** (197)

Boninohydnum pini S. ITO et IMAI
オガサワラハリヒラタケ

S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 15: 127. 1940.

子實體は坐生，疊生，傘は半圓形，扁平，側着，生時肉質，乾時強靱となる，徑約 6×3 cm，表面は白色或は帶黃色，綿絮絨毛狀，肉は灰色，刺は突錐形，基部互に離れ，稍々密集或は稍々隔離し，約 6×0.5 mm，初め卵黃色，後帶綠黃色，乾時帶褐色となる。嚢狀體なし，擔子柄は 4 小柄を有し，胞子は圓壔形或は楕圓形，平滑，淡黃色，約 5×2.5μ，粉堆暗黃綠色。

所在及產地

リウキウマツ（*Pinus luchuensis* MAYR）幹株上　　小笠原島

和名 オガサワラハリヒラタケ（小笠原針平茸）〔今井〕

Echinodontium ELL. et EV.
マンネンハリタケ屬

ELLIS & EVERHART, Bull. Torr. Bot. Club,

27 : 49. Feb. 1900.

Hydnofomes P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 267. Mar. 1900.

Hydnophysa CLEMENTS, Gen. Fungi, 108. 1909.

子實體は多年生，木質，堅硬，背着後反轉して傘を作る，傘は硬き殼皮を被むり，環溝あり，子實層面には多數の突起を有す，突起は木質にて束生し，突錐形或は棒狀をなす。擔子柄は4小柄を有し，胞子は楕圓形，平滑，無色。

（本屬名はchinos（ハリネズミ）odous（齒）より出づ）

基準種 *E. tinctorium* ELL. et EV.

本邦既知種檢索表

A. 肉は鮮赤色，厚く，針（突起）は太く大形，針葉樹幹上生。

マンネンハリタケ ***E. tsugicola*** (198)

B. 肉は上層煙草色或は焦茶色，下層肉桂色，針（突起）は細く小形，廣葉樹上生。

コウヤクマンネンハリタケ ***E. japonicum*** (198)

Echinodontium tsugicola (P. HENN. et SHIRAI) IMAZ.

マンネンハリタケ

IMAZEKI, Jour. Jap. Bot. 11 : 517, *f. 2—4.* 1935.
（今關，日. 隱. 植. 圖. 419, *pl. 200, f. 5—6.* 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學, 269, *f. 90—1.* 1945—原，日. 菌. 目. 112. 1954）

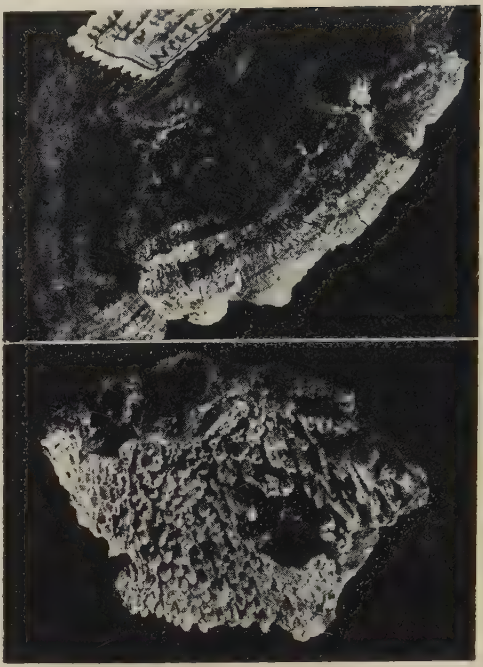
Hydnofomes tsugicola P. HENN. et SHIRAI, Bot. Jahrb. 28 : 268. 1900—SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 177. 1902.
（松村，植. 名鑑, 1 : 147. 1904—白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 287. 1917; ed. 3. 167. 1927）

子實體は半背着生にて大きく不規則に擴がり，緣邊反轉して貝殼狀乃至著しく波曲せる傘を作る。傘の上面は堅き殼皮を被むり，暗褐色乃至黑褐色にて，著しき環溝と龜裂を有す，厚さ 1 cm 以下，肉は木質にて甚だ堅く，鮮朱色を呈す，下面は穹狀に窪み，灰白にて，鐘乳石狀の突起を懸垂す，突起は基部癒着し，鈍頭，長短不同にて長さ 2—10 mm，徑 0.5—2.5 mm，往々上半部互に癒着す。子實層は下面一帶に生じ，層中に多數の囊狀體を埋在す，囊狀體は 30—40×6—12 μ，多數の結晶を被むる。胞子は廣楕圓形，平滑，無色，6—7.5×4.5—5 μ。心材を赤褐色に腐朽す。

所在及產地

モミ（*Abies firma* S. et Z.）コメツガ（*Tsuga diversifolia* MAST.）ツガ（*T. Sieboldii* CARR.）

a



b



c

第166圖 マンネンハリタケ *E. tsugicola*
a. 子實體表面 b. 子實體裏面 ×1
c. 囊狀體及胞子 ×612 （大谷氏）

生幹上 本州

和名 マンネンハリタケ（萬年針茸）〔白井〕

Echinodontium japonicum IMAZ.

コウヤクマンネンハリタケ

IMAZEKI, Jour. Jap. Bot. 11 : 520, *f. 5.* 1935.
（逸見及赤井，木. 腐. 菌學, 271. 1945—原，日. 菌. 目. 112. 1954）

子實體は殆ど全背面にて樹皮面に固着し，極めて不規則に擴布し，徑 2—10 cm，後僅かに上緣部反轉し，狹き傘を作る，傘は幅 2—4 mm，表面は殆ど黑色，緣邊は狹く淡灰白色にて稍々褐色を帶ぶ，無毛，無環紋，稍々粗面なり，肉は厚さ約 1 mm，木質，硬くして脆し，2層より成る，上層は煙草色或は焦茶色，下層は肉桂色なり，針は細く，針狀にて，數個基部にて合着或は全長側着することありて束狀或

は鑿状となる，單一のものは長さ 0.4—1cm，基部の徑約 0.5mm，先端尖頭，汚白色，肉は木質にて脆し。子實層は厚さ 30—50μ，無色，多數の嚢狀體を埋藏す，嚢狀體は子實層より抽出せず，無色，常に結晶を被り，廣紡錘形或は徳利形，40—55×6—15μ。擔子柄は棍棒形，4小柄あり，胞子は廣楕圓形，平滑，無色，6—7.5×4—4.5μ。

所在及産地

アラカシ(*Quercus glauca* THUNB.)の枯木上
本州

和名　コウヤクマンネンハリタケ
（膏藥萬年針茸）〔今關〕

Hydnum L. ex FR. emend. PAT.
ハリタケ屬

LINNÉ, Sp. Plant. 2: 1178. 1753—FRIES, Syst. Myc. 1: 307. 1821—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 145. 1887; Ess. Tax. 115. 1900.

Dentinum S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 650. 1821—MILLER, Mycologia, 25: 298. 1933.

Tyrodon KARSTEN, Rev. Myc. 3: 19. 1881.

Hypothele PAULET ex BANKER, Torreya, 4: 113. 1904.

傘は中心莖を有し，肉質，肉は白色或は淡色を呈す，針は突錐形にて垂下し，擔子柄は 2—4 小柄を有す，胞子は類球形，平滑，殆ど無色，嚢狀體なし。地上生。

（本屬名は hydna（イモタケ類似菌の名）より出づ）

基準種　*H. repandum* L. ex FR.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は大形（傘徑多くは 5cm 以上）
  a. 針は莖上に沿下し，傘形屢々不正形。
    α. 傘面は黄色系色，針形不等。
      カノシタ ***H. repandum*** (199)
    β. 傘面其他白色，他は前者と同樣。
      シロカノシタ var. ***album*** (200)
  b. 針は莖上に沿下せず，傘は正形，傘面赤褐色。
    イタチハリタケ ***H. rufescens*** (200)
B. 子實體は小形，白色，針は莖上に沿下す。
  ヒメハリタケ ***H. albidum*** (201)

Hydnum repandum L. ex FR.
カノシタ

LINNÉ, Sp. Plant. 2: 1178. 1753—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 176*. 1799—PERSOON, Obs. Myc. 2: 96. 1799; Syn. Meth. Fung. 555. 1801—DC. Fl. Fr. 2: 111. 1815—FRIES, Obs. Myc. 1: 138. 1815; Syst. Myc. 1: 400. 1821; Flench. Fung. 1: 130. 1828; Epicr. Myc. 506. 1838; Hymen. Eur. 601. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 155. 1836; Outl. Brit. Fung. 258, *pl. 17, f. 2*. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 410. 1844—BARLA, Champ. Nice, *pl. 39, f. 1—9*. 1859—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 250. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 25. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 294, *f. 71*. 1871; Handb. Austr. Fungi, 170. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 291. 1872—GILLET, Champ. Fr. 716. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 287. 1876—WINTER, Pilze, 1: 382. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 435. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1084. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 457. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 152, *f. 1*. 1892; Brit. Fungi, 395, *pl. 27, f. 7*. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 115. 1900—ATKINSON, Mushrooms, 198, *pl. 78, f. 198*. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 376, *f. 85A*. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 87, *f. 222*. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 163. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 30: 279. 1914; Hymen. Fr. 445. 1928—REA, Brit. Basid. 630. 1922—GUESSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 203, *pl. 104*. 1927—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1044*. 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 318. 1933; Ann. Myc. 38: 68. 1940.

(KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 7, f. 8—10*. 1913; 日. 菌. 圖說, *n. 189*. 1929—梅村, 植. 雜. 29: 64. 1915—安田, 植. 雜. 31: 48. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3: 109. 1931—原, 日. 菌. 目. 156. 1954)

Hydnum flavidum SCHAEFF. Fung. Bavar. 4: *pl. 318*. 1774—LLOYD, Myc. Writ. 6: 957. 1920.

Hydnum carnosum BATSCH, Elench. Fung. 111. 1789.

Hydnum clandestinum BATSCH, Elench. Fung. 113. 1789.

Hydnum medium PERS. Obs. Myc. 2: 96. 1799.

Dentinum repandum S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 650. 1821—MILLER, Mycologia, 27: 369, *pl. 33, f. 9*. 1935—SNELL, Mycologia, 37: 51. 1945.

Tyrodon repandus KARST. Rev. Myc. 3: 19. 1881; Hattsv. 2: 90. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 348. 1889.

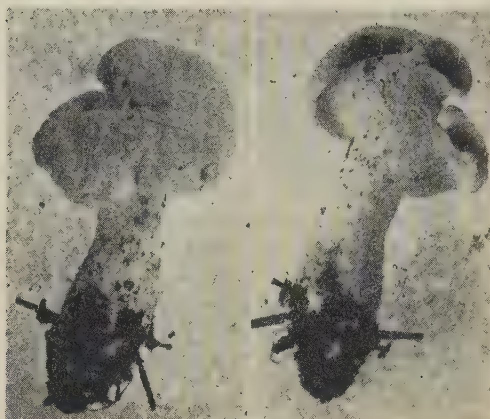
Sarcodon repandum QUÉL. Enchir. Fung. 189. 1886.

Hydnum umbilicatum PECK, Bull. N. Y. St. Mus. 10: 953. 1902.

Hypothele repanda BANKER, Torreya, 4: 113. 1904.

? *Hydnum japonicum* LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2: 203. 1844—SACCARDO, Syll, Fung. 6: 435. 1888.

(松村, 植. 名鑑, 1: 147. 1904—田中, 植. 雜. 4: 386.



a



b

第 167 圖 カノシタ *H. repandum*
a. 子實體 ×1 b. 胞子 ×544（大谷氏）

1890—白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

子實體は群生，肉質，有莖，脆弱，傘は丸山形，中央窪み，更に壓低され，裏返り，不正形にて不平坦，徑 5—10 cm，時に 12 cm に及ぶ，表面は淡黃，乾時淡卵黃乃至黃褐色となる，平滑或は微細毛を帶び，粉狀，緣は屢々波狀に起伏し，淺裂す，肉は白色，柔軟，厚し。莖は白色乃至同色，稍々不正形，平滑，中實，長さ 7 cm 以下。針は長さ 1—6 mm，甚だ脆く，密生，不等形にて尖錐形或は壓邊され，莖上に沿下し短疣となる，傘と同色或は淡色。擔子柄は棍棒形，25—40×5—9 μ，胞子は倒卵形乃至類球形，著しき嘴を有し，平滑，無色，7—9×6.5—7.5 μ。臭及味微なり，可食。

所在及產地

林地上 全土—歐. 北米. 濠. 亞（西比. 支）

和名 カノシタ（鹿の舌？）〔方言〕

var. **album** QUÉL.

シロカノシタ

REA, Brit. Basid. 630. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:15. 1912—安田，植. 雜. 27:340. 1913—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 287. 1917; ed. 3. 167. 1927—川村，日. 菌. 圖說，*n. 188.* 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Agr. Sci. 3:109. 1931—今關，日. 隱. 植. 圖. 413, *pl. 197, f. 3.* 1939; 及土岐，林. 試. 硏. 報. 67:26. 1954—原，日. 菌. 目. 156. 1954)

傘は乳白色を呈するにより基種と區別さる。可食。

所在及產地

林地上 全土—歐. 北米. 濠

和名 シロカノシタ（白鹿舌？）〔安田〕，
シロロウジ（白老人）〔方言〕

Hydnum rufescens SCHAEFF. ex FR.

イタチハリタケ

SCHAEFFER, Fung. Bavar. 2: 141. 1763—PERSOON, Obs. Myc. 2:95. 1799; Syn. Meth. Fung. 555. 1801—FRIES, Obs. Myc. 1: 140. 1815; Syst. Myc. 1:401. 1821; Epicr. Myc. 506. 1838; Hymen. Eur. 601. 1874—NEES. Syst. Pilze Schw. 233, *pl. 32, f. 241 B.* 1817—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:410. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:251. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 25. 1869—GILLET, Champ. Fr. 717. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 288. 1876—SACCARDO, Syll. Fung. 6:436. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1085. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:458. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:152. 1892; Brit. Fungi, 395. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 115. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 376. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 164. 1912—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1046.* 1932.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 69:10. 1919; 7: 1345. 1925—安田，植. 雜. 36:21. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 167. 1927—原，日. 菌. 目. 156. 1954)

Hydnum repandum var. *rufescens* PERS. Myc. Eur. 2: 161. 1825—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:294. 1871—BARLA, Champ. Nice, *pl. 39, f. 10—12,* 1886—REA, Brit. Basid. 631. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fl. 445. 1928.

Tyrodon rufescens KARST. Hattsv. 2: 90. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 349. 1889.

Sarcodon repandum var. *rufescens* QUÉL. Enchir. Fung. 189. 1886.

子實體は有莖，肉質，脆弱，傘は圓形にて，丸山形，中央窪み，徑 4—10 cm，表面は淡赤褐色にて鼬の毛色に似たり，平滑，或は微毛を被むり，環紋なし，緣は時に淺裂す。莖は偏心生のこと多く，平滑，白色，中實，約 1.8×0.5 cm，針は規則正しく，密生，同色，長さ 2.5—4 mm，莖上に沿下せず，胞子は有稜球形，平滑，無色或は淡色，徑 6—8 μ。

所在及產地

林地上 本州—歐. 北米. 阿

和名 イタチハリタケ（鼬針茸）〔安田〕

Hydnum albidum PECK

ヒメハリタケ

PECK, Bull. N. Y. St. Mus. 2 : 10. 1887; Rep. N. Y. St. Mus. 51:310, *pl. 56, f. 1—7*. 1898; Mem. N. Y. St. Mus. 4:175, *pl. 67, f. 1—7*. 1900—SACCARDO, Syll. Fung. 9:209. 1891—PATOUILLARD, Ess. Tax. 115. 1900.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915; Lett. 56:4. 1915; Lett. 61 : 5. 1916; 5, Lett. 66 : 7. 1917—安田，植. 雜. 29 : 208. 1915; 31 : 48. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 281. 1917; ed. 3. 164. 1927—原，日. 菌. 目. 154. 1954)

Hydnum repandum var. *albidum* BRES. Icon. Myc. 21 : *pl. 1045*. 1932.

Dentinum albidum SNELL, Mycologia, 37:51.1945.

子實體は小形，有莖，肉質を帶ぶ，傘は外圍圓形，中央部凹む，0.8—2cm，傘面は白色，稍々乾燥せば諸處に淡赤色の斑點を生ず，平滑，環紋なし，傘緣は全緣にて往々淺裂す，肉は白色，針は細かくして密生す，白色，莖上に沿下す。莖は傘より漸次移行し，白色，平滑，充實，1.2—2×0.2—0.4cm，胞子は球形，平滑，無色，徑 3μ。

所在及産地 林地上　　本州—北米

和名 ヒメハリタケ（姬針茸）〔安田〕

疑 問 種

Hydnum affine LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1296. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 67. 1936. (nom. nud.)

Hydnum conigenum PECK

(安田，植. 雜. 30 : 52. 1916; 31 : 47. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 283. 1917; ed. 3. 164. 1927—原，日. 菌. 目. 154. 1954)

Hydnum cucullatum HAR. et PAT. Bull. Mus. Hist. Nat. 2:130. 1902—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 150. 1905.

(白井，日. 菌. 目. ed. 2. 283. 1917; ed. 3. 165. 1927—原，日. 菌. 目. 154. 1954)

Hydnum cuneatum LLOYD, Myc. Writ. 7:1345. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 68. 1936.

Hydnum delicatulum KLOTSCH

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1162. 1922—安田，植. 雜. 37 : 200. 1923—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 165. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Hydnum fragile FR.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1162. 1922)

Hydnum fuligineo-album SCHMIDT

(白井，日. 菌. 目. ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 165. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Hydnum Ikenoi SACC. Syll. Fung. 17:147. 1905. =*Hydnum sp.* P. HENN. Bot. Jahrb. 31:736. 1902.

(白井，日. 菌. 目. ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—原，日. 菌. 目. 155. 1954)

Hydnum stalagmodes BERK. et CURT. Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4:14. 1856—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 466. 1888.

(松村，植. 名鑑，1 : 148. 1904—白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 287. 1917; ed. 3. 167. 1927)

Hydnum Wrightii BERK. et CURT, Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4 : 14. 1858—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 442. 1888.

(MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 392. 1867—松村，植. 名鑑，1:148. 1904—白井，日. 菌. 目. 42. 1905; ed. 2. 287. 1917; ed. 3. 167. 1927—原，日. 菌. 目. 156. 1954)

MERULIACEAE シワタケ科

子實體は膜質，肉質，蠟質或は稍々膠質，背着或は一部反轉す，子實層面は初め平滑にて子實層を生じ，後漸次生長するに從つて各部盛り上りて厚き低き襞を生ず，襞は屢々捩曲纒絡し廣き淺き網狀孔窩となり，或物は多少放射狀となり或は斷續す，尙子實層は熟するも依然平坦にてコウヤクタケ(*Corticium*)の如き觀を呈す（イドタケ屬 *Coniophora*)，然れども胞子は有色にて子實層面粉狀を呈するによりて容易に他と區別するを得，有孔種等に於ては襞の側面及稜上は底面と共に一樣に子實層に被われ，凡ての方向に胞子を飛散する特性を有す。建築材等の腐蝕を起すもの多し。

本邦既知屬檢索表

A. 胞子は無色，子實層は露出或は稍々粉狀。

a. 子實層は不規則なる小粒或は放射狀にて纒絡せざる襞を有す，蠟質，後硬化す，背着生。

シワウロコタケ屬 **Phlebia** (202)

b. 子實層は褶狀襞あり，波曲す，膜狀菌にて中央或は側邊にて坐生す。

チヂレタケ屬 **Plicatura** (203)

c. 子實層は網狀或は孔窩狀に纒絡する襞を有す，坐生或は背着。シワタケ屬 **Merulius** (203)

B. 胞子は銹色或は帶赤黃色，子實層は粉狀。

a. 背着或は反轉す，子實層は網狀或は孔窩狀襞を有す。　ナミダタケ屬 **Gyrophana** (207)

b. 背着，子實層は平坦，嚢狀體なし。

イドタケ屬 **Coniophora** (208)

Phlebia Fr.

シワウロコタケ属

FRIES, Syst. Myc. 1 : 426. 1821.

子實體は背着し，廣く擴布し，或は少しく反轉す，肉狀蠟質，乾時軟骨質となる。子實層部に不規則なる小瘤或は放射狀に配列するも，纒絡せざる襞あり。胞子は楕圓形，腎臓形，圓墻形等にて無色なり，囊狀體なし。

(本屬名は phlebs (脈) より出づ)

基準種 *P. radiata* FR.

本邦既知種檢索表

A. 全背着，肉色或は橙黃赤色，緣に叢毛を射出す。
コガネシワウロコタケ ***P. radiata*** (202)

B. 半背着，傘面灰褐乃至赤褐にて，密毛を有し，著しき環溝紋あり。
ケシワウロコタケ ***P. strigoso-zonata*** (202)

Phlebia radiata Fr.

コガネシワウロコタケ

FRIES, Syst. Myc. 1:427. 1821; Elench. Fung. 1:154. 1828; Epicr. Myc. 526. 1838; Hymen. Eur. 625. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):162. 1836; Outl. Brit. Fung. 263. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 386. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 305. 1871 ; Handb. Austr. Fungi, 175. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:296. 1872; Enchir. Fung. 208. 1886—GILLET, Champ. Fr. 734. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 299. 1876; Hattsv. 2:88. 1882—WINTER, Pilze, 1:362. 1884—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 174, *f. 10—11*. 1892; Brit. Fungi, 404. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 391. 1908—REA, Brit. Basid. 625. 1922.

Auricularia aurantiaca SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 3: *pl. 291*. 1801—SACCARDO, Syll. Fung. 4 : 498. 1888.

Thelephora borealis PERS. Myc. Eur. 1 : 138. 1822.

Phlebia aurantiaca SCHROET. Pilze Deut. 1 : 461. 1888—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 346. 1889—PATOUILLARD, Ess. Tax. 107. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):146, *pl. 26*, *f. 5—6*. 1912—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1114. 1916—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39 : 96. 1923; Hymen. Fr. 342. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:287. 1933; 51:391. 1935.

(安田，植. 雜. 32 : 75. 1918—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 257. 1927—原，日. 菌. 目. 251. 1954)

Phlebia aurantiaca var. *radiata* BOURD. et GALZ. Hymen. Fr. 342. 1928.

子實體は着生物上に擴布し，不正圓形或は放射狀に分岐す，初め柔軟にて後堅緻，肉狀蠟質より軟骨質に至る，薄し，表面は著しき肉色或は橙黃赤色，緣は放射狀暗色菌絲叢を出す。子實層部には小瘤或は放射狀の皺列あり，皺は眞直或は捩曲す。胞子は圓筒形にて僅か屈曲し，平滑，無色，4—6×1.5—2.5μ，粉堆は藁色なり。

所在及產地 枯木上　本州—歐.濠.亞(西比)

和名 コガネシワウロコタケ(黃金皺鱗茸)〔安田〕

Phlebia strigoso-zonata (SCHW.) LLOYD

ケシワウロコタケ

LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 46:6. 1913—KAUFFMAN, Bull. N. Y. St. Mus. 179: 88. 1915—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 8 : 394. 1921.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45:5. 1913; Lett. 49 : 10. 1914—安田，植. 雜. 27 : 387. 1913; 31 : 46. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 427. 1917; ed. 3. 257. 1927—澤田，臺. 博. 學. 報. 25:182. 1935; 臺. 菌. 調. 報. 7:77. 1942—今關，日. 隱. 植. 圖. 419, *pl. 200*, *f. 4*. 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，258. 1945—原，日. 菌. 目. 251. 1954)

Merulius strigoso-zonatus SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. n. s. 4 : 160. 1832.

Phlebia reflexa BERK. Lond. Jour. Bot. 3:168. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 500. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 176, *f. 72*. 1892. (LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1296. 1924)

Auricularia reflexa BRES. Ann. Myc. 9 : 273. 1911.

Auricularia strigoso-zonata BRES. Ann. Myc. 18 : 70. 1920.

Auricula reflexa LLOYD, Myc. Writ. 7:1152, *f. 2242*. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 28. 1936.

子實體は背着或は上緣反轉して不規則に波曲せる傘を生ず，傘は屢々疊生し，又棚狀に橫に連る，3—5×1.8—2.5cm，時に橫徑 8cm 以上に至る，表面は淡灰褐色乃至赤褐色，著しき環溝及環紋あり，短毛を密布す，肉は肉狀蠟質，乾時軟骨質となる，褐色，子實層面には細皺襞を放射狀に生じ，暗褐乃至黑褐色を呈す。胞子は楕圓形，平滑，無色，5—5.5×3—4μ。

所在及產地 枯木上　本州—北米.濠.亞(臺)

和名 ケシワウロコタケ (毛皺鱗茸)，
シワウロコタケ (皺鱗茸)〔安田〕

Plicatura PECK

チヂレタケ屬

PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 24:75. 1872—PATOUILLARD, Ess. Tax. 108. 1900.

Trogia FRIES, Gen. Hymen. 10. 1836. pr. p.

子實體は海綿狀革質にて柔弱，水濕によりて複原す，無莖或は稍々有莖にて背面にて着生す，傘は半圓形或は稍々圓形，子實層面に褶狀の襞を放射狀に生ず，襞は鈍頭にて前方は明かに褶狀なるも，後方は縮れ分岐す，その稜部に胞子を生ず。

（本屬名は plicatus（襞ある）oura（尾）より出づ）

基準種 *P. crispa* (PERS. ex FR.) REA

本邦既知種 チヂレタケ ***P. crispa*** (203)

Plicatura crispa (PERS. ex FR.) REA

チヂレタケ

REA, Brit. Basid. 626. 1922.

Merulius fagineus SCHRAD. Spec. Fl. Germ. 137. 1794.

Merulius crispus PERS. Icon. Desc. Fung. 32, *pl. 8, f. 7.* 1800; Syn. Meth. Fung. 495. 1801; Myc. Eur. 2 : 23. 1825.

Cantharellus crispus FR. Syst. Myc. 1 : 323. 1821; Elench. Fung. 1:55. 1828; Epicr. Myc. 369. 1838—GILLET, Hymen. Fr. 356. cum icone. 1874.

Trogia crispa FR. Monogr. Hymen. Suec. 2 : 244. 1863; Hymen. Eur. 492. 1874—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:246. 1871; Ill. Brit. Fungi, *pl. 1114, f. A.* 1890; Handb. Austr. Fungi, 100. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 227. 1872—KARSTEN, Hattsv. 1:244. 1879—WINTER, Pilze, 1:494. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5:636. 1887—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 2: 303. 1893—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 137, *f. 134.* 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 314. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 3, Old spec. Ser. 1:1, *f. 211—212.* 1908—RICKEN, Blätterp. 6, *pl. 2, f. 5.* 1915—KAUFFMAN, Agar. Mich. 41. 1918—IMAI, Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 43 : 151. 1938.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 47:9. 1913; 6:963. 1920; 7:1128. 1922; 1265. 1924—安田，植．雜．27: 503. 1913—今關，日．隱．植．圖．497, *pl. 239, f. 2.* 1939—原，日．菌．目．372. 1954)

Trogia faginea SCHROET. Pilze Schles. 1:508. 1889—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 503. 1915.

Plicatura faginea KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 342. 1889—PATOUILLARD, Ess. Tax. 108. 1900—MURRILL, N. Am. Fl. 9:164. 1910—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 29:98. 1923; Hymen. Fr. 343. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:291. 1933; 51 : 391. 1935; Ann. Myc. 38 : 63. 1940.

子實體は薄く，海綿狀革質，群生し，覆瓦狀をなす，傘は徑 0.5—3cm，盃形，半圓形或は腎臟形，無莖或は稍々有莖，表面は短密毛ありて平滑，僅かに環紋あり，淡黃色乃至肉桂色，緣邊帶白色，乾時著しく捲縮す，肉は帶白色乃至肉桂色，緊緻，子實層面は白色，灰白色乃至靑灰色或は傘面と略々同色となる，脈狀の襞を放射狀に生じ，襞は鈍頭にて膨大，前方褶狀にて，後方縮れ，叉狀に分岐す，胞子は圓筒形，平滑，無色，5—6×1—2μ，臭及味なし。

所在及產地 枯幹上

北海道，本州—歐．北米．亞（小亞．西比．支）

和名 チヂレタケ（縮れ茸）〔安田〕

Merulius HALL. ex FR. sensu PAT.

シワタケ屬

HALLER, Hist. Stip. Helvet. 3:150. 1768—FRIES, Syst. Myc. 1 : 326. 1821—PATOUILLARD, Ess. Tax. 106. 1900.

Sesia ADANSON, Fam. 2 : 10. 1763—KUNTZE, Rev. Gen. 2 : 869. 1891.

Xylomyzon PERSOON, Myc. Eur. 2 : 26. 1825.

Serpula KARST. Symb. Myc. Fenn. 14:31. 1884; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 343. 1889.

子實體は背着或は反轉して傘狀となる，一般に薄く，膠質或は膠狀革質，肉は白色，子實層部は不規則なる網狀或は孔窩狀の鈍頭の襞を有し，全面子實層に被われ，通常粉狀ならず，擔子柄は棍棒形，2—4 小柄あり，胞子は型的には無色，時に極めて淡き黃色を帶ぶ，平滑，同筒形或は卵形，眞直，或は屈曲す。

（本屬名は merula（雜色の）或は merus（純粹の）より出づ）

基準種 *M. tremellosus* (SCHRAD.) FR.

本邦既知種檢索表

A. 全面背着生。

a. 子實體は膜質，子實層部肉紅色，緣邊白色，胞子5.5—7×4—5μ，無色或は淡黃色。

ヒメシワタケ ***M. molluscus*** (204)

b. 子實體は革質，子實層は栗褐色，孔緣齒牙狀となる，胞子 5×2μ，無色。

オオシワタケ ***M. castaneus*** (204)

B. 半背着にて緣邊反轉す。

a. 反轉部は半圓形傘狀，肉狀膠質，厚く，子實層面は白色，黃色或は淡紅色，胞子 4—5×1.5μ。
シワタケ ***M. tremellosus*** (205)

b. 反轉部は狹幅。

α. 革質，子實層面は白色，黃色，後肉色，薄く，胞子約 4.5—5×1.5—2.5μ，無色。
カワシワタケ ***M. corium*** (206)

β. 膜質，子實層面は黃金色，薄く，胞子 3—4.5×1.5—2μ，無色或は淡黃色。
キシワタケ ***M. aureus*** (206)

Merulius molluscus FR.
ヒメシワタケ

FRIES, Syst. Myc. 1:329. 1821; Elench. Fung. 62. 1828; Epicr. Myc. 501. 1838; Hymen. Eur. 592. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 255. 1860—FUCKEL, Symb. Myc. 22. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:290. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:289. 1872; Enchir. Fung. 186. 1886; Fl. Myc. 32. 1888—GILLET, Champ. Fr. 711. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:283. 1876; Hattsv. 2: 86. 1882—WINTER, Pilze, 1 : 396. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 416. 1888; 17 : 145. 1905; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1063. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 188. 1892; Brit. Fungi, 389. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 107. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:83. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 369. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 176. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39 : 105. 1923; Hymen. Fr. 351. 1928.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65:13. 1917—安田, 植. 雜. 31:170. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 210. 1927—原. 日. 菌. 目. 201. 1954)

Xylomyzon Molluscum PERS. Myc. Eur. 2:30. 1825.

Xylomyzon pulchrum PERS. Myc. Eur. 2 : 32, *pl. 14, f. 1—2.* 1825.

Merulius laeticolor BERK. et BR. Ann. Mag. Nat. Hist. V. 1:*n.* 1681. 1878—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 417. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 300. 1891; Brit. Basid. 369. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:188. 1892; Brit. Fungi, 389. 1911—REA, Brit. Basid. 621. 1922.

Merulius subauranticus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 38:93. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:415. 1888.

Serpula mollusca KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 344. 1889.

Sesia molusca KUNTZE, Rev. Gen. 2:870. 1891.

子實體は背着，擴布し，膜質，柔軟，剝離し易し，徑 3—10 cm，緣及基物附着部は綿毛狀，白色或は子實層部より淡色なり，子實層の襞は密にて縮れ，結合して少しく角張りたる淺孔を有し，色は變化性に富み，生時肉紅色，乾時殆ど橙黃色，肉は厚さ約 300μ，菌絲は徑 3—7μ，菌絆あり，囊狀體なし，胞子は卵形，平滑，無色或は淡黃色，5.5—7×4—5μ。

所在及產地

針葉樹枯木及材上

本州，四國—歐. 北米. 亞(西比)

和名 ヒメシワタケ（姬皺茸）〔安田〕

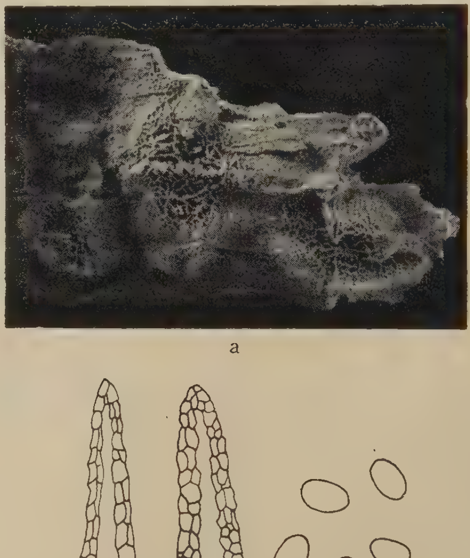
Merulius castaneus LLOYD
オオシワタケ

LLOYD, Myc. Writ. 4:555, *f. 761—762.* 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 94. 1936 (non MEYER, 1818)—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 457. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61:5. 1916; 5, Lett. 63 : 9. 1916; Lett. 68:7. 1918; 809, *f. 1259.* 1918—安田, 植. 雜. 30 : 419. 1916; 31 : 49. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 210. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 421, *pl. 201, f. 3.* 1939—原, 日. 菌. 目. 201. 1954)

Irpex castaneus LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1060, *f. 1989.* 1921; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 71. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1095. 1920; 7 : 1128. 1922; 1296. 1924)



a

b

第 168 圖 オオシワタケ *M. castaneus*
a. 子實體 ×4/5 b. 囊狀體及胞子 ×544
(大谷氏)

子實體は着生物上に廣く擴布し，薄く，革質，表面は黃褐色にて後栗褐色となる，全面に不規則なる網狀襞を生じ，淺き孔を作る。孔緣は齒牙狀となり，往々深く裂けウスバタケ (*Irpex*) 狀となる。子實層は稍々蠟質乃至軟骨質を帶び，多くの囊狀體を有す。囊狀體は楔形，無色，厚膜，表面に結晶を附す，25—50×8—12μ，胞子は長橢圓形，平滑，無色，5×2μ。

所在及產地

松の枯枝上　　本州，四國，九州

和名 オオシワタケ（大皺茸）〔安田〕

Merulius tremellosus SCHRAD. ex FR.

シワタケ

SCHRADER, Spic. Fl. Germ. 139. 1794—PERSOON, Obs. Myc. 2:92. 1799; Syn. Meth. Fung. 496. 1801—DC. Fl. Fr. 2: 132. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1: 327. 1801; Elench. Fung. 1: 57. 1828; Epicr. Myc. 500. 1838; Hymen. Eur. 591. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 414. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 255. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:215. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 22. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 289. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 289. 1872; Enchir. Fung. 186. 1886; Fl. Myc. 32. 1888—GILLET, Champ. Fr. 709. cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 282. 1876; Hattsv. 2: 84. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 342. 1889—WINTER, Pilze, 1:397, *f. 1—2*. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:411. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1062. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:466. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 189. 1892; Brit. Fungi, 389. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 107. 1900—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 194, *f. 191—192*. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 369. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 177, *pl. 30*. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 28. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 151. 1914—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 4: 313, *f. 4, pl. 20, f. 3*. 1917—REA, Brit. Basid. 620. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39: 101. 1923; Hymen. Fr. 346. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49:293. 1933; 51:392. 1935; Ann. Myc. 38: 63. 1940.

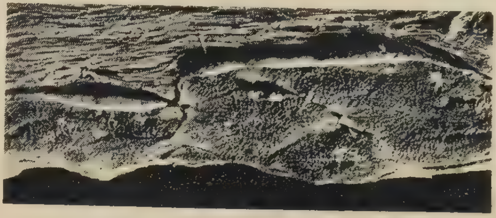
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:15. 1912; 7: 1126. 1922—安田，植. 雜. 26: 330. 1912; 31: 49. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 359. 1917; ed. 3. 211. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 421, *pl. 201, f. 2, 5*. 1939; 植. 分. 地. 13:248. 1943; 及土岐，林. 試. 研. 報. 67:27. 1954—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，281, *f. 93*. 1945—原，日. 菌. 目. 201. 1954)

Xylomyzon tremellosum PERS. Myc. Eur. 2: 30. 1825.

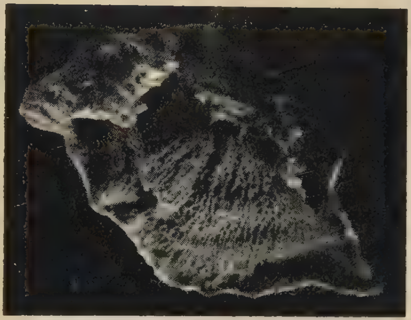
Sesia tremellosa KUNTZE, Rev. Gen. 2:870. 1891.

Merulius Pruni PECK, Bull. N. Y. St. Mus. 105: 25. 1906—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 360. 1913.

子實體は初め背着なるも，後遊離直上し，半圓形の傘を作り，橫徑 2—8 cm，更に橫に癒着し不規則の棚狀をなし，屢々疊生す，傘の縱徑は 1.5 cm に及ぶ，肉狀膠質，乾時軟骨狀となる，傘の上面は白色或は類白色にて，毛を密生し，緣に缺刻あり，子



a



b



c

第 169 圖　シワタケ *M. tremellosus*
a. 子實體 1/2　　b. 同 ×1
c. 囊狀體及胞子 ×612　　（大谷氏）

實層は白，帶黃色或は淡紅色，幾分透明的にて，乾時黃褐色或は汚褐赤色となる，襞は寧ろ深き孔を作る，初め放射狀に長くして橫脈あるも，後更に小形同大の角張りたる孔となる，肉は厚さ 0.5—2 mm，基層は無色にて薄く，菌絲は徑 3—3.5μ，菌絆あり，外層は廣き膠狀層にて，子實下層は灰黃褐色を帶ぶ，囊狀體は少く，棍棒形，無色，通常結晶を被むる，30—40×6—8μ。胞子は腸詰形，平滑，無色，4—5×1.5μ。材の白腐を起す。

所在及産地 廣葉樹倒木上
全土—歐.北米.濠.亞(支.西比)
和名 シワタケ (皺茸)〔安田〕

Merulius corium FR.
カワシワタケ

FRIES, Elench. Fung. 1:58.1828; Epicr. Myc. 500. 1838; Hymen. Eur. 591. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):128.1836; Outl. Brit. Fung. 255. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:414.1844—FUCKEL, Symb. Myc. 22.1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:289.1871; Handb. Austr. Fungi, 1: 168.1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:289. 1872; Enchir. Fung. 186.1884—GILLET, Champ. Fr. 710. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:85. 1882—WINTER, Pilze, 1:396. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:413. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 465.1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:189, *f. 13.* 1892; Brit. Fungi, 389. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 107. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 369. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 177. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 27, *pl. 1, f. 3.* 1914—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 4:322, *f. 7, pl. 20, f. 7.* 1917—REA, Brit. Basid. 620. 1922—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:241. 1935—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 83: 2, *f. 1, 5.* 1950.

(LLOYD, Myc. Writ. 6:980. 1920)

Auricularia papyrina BULL. Herb. Fr. *pl.* 402. 1788—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi. 3: *pl.* 349. 1803.

Thelephora Corium PERS. Syn. Meth. Fung. 574. 1801—GREVILLE, Scott. Crypt. Fl. 3: *pl. 147.* 1825.

Boletus purpurascens DC. Fl. Fr. 6: 41. 1815.

Polyporus purpurascens PERS. Myc. Eur. 2: 60. 1825.

Merulius papyrinus QUÉL. Fl. Myc. 32. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:82. 1903; Icon. Myc. 21: *pl. 1034.* 1932—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1063. 1916—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39:101. 1923; Hymen. Fr. 347. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52:322. 1936; Ann. Myc. 38: 63. 1940.

Sesia Corium KUNTZE, Rev. Gen. 2:870. 1891.

子實體は背着し，擴布して，徑 1—4cm，屢々水平枝上にて横に癒合して長さ 6cm に及ぶ，革質にて柔軟，薄く，最後に緣邊剝離して反轉し，屢々覆瓦狀をなす，緣に絨毛あり，白色なり，反轉緣は幅 1—3mm なり，子實層面は初め平坦,漸次襞を生じ，襞は結合して網狀の淺孔を作る，初め乳白色或は帶黄色，後肉色，乾時淡汚桃色乃至肉桂色を呈す，孔は 1mm 間約 3 ケあり，肉は厚さ 300—500μ，弛く纒絡せる無色の菌絲より成る，菌絲は徑 3—4μ，菌絆なし，嚢狀體なし，胞子は圓筒形，1 側扁平，平滑，無色，大さは研究者によつて一樣ならず，4.5—5×1.5—2.5μ。

所在及産地 廣葉樹枯木上
本州—歐.北米.濠.亞(支.西比)
和名 カワシワタケ (皮皺茸)

Merulius aureus FR.
キシワタケ

FRIES, Elench. Fung. 1:62.1828; Epicr. Myc. 501. 1838; Hymen. Eur. 592. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:414. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 22. 1869—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:283. 1876; Hattsv. 2:85. 1882—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 5:324—XXXII. 1877; Enchir. Fung. 186. 1886—WINTER, Pilze, 1:396. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:415. 1888; 17: 145. 1905—SCHROETER, Pilze Schles. 1:465. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 107. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:82. 1903—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 176. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 27. 1914—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 4:343, *f. 26, pl. 21, f. 25.* 1917—REA, Brit. Basid. 623. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39: 105. 1923; Hymen. Fr. 351. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52: 322. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 6:1095. 1920—安田，植. 雜. 36: 204. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 210. 1927——原，日. 菌. 目. 201. 1954)

Merulius vastator (non TODE) FR. Syst. Myc. 1: 329. 1821.

Serpula aurea KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 344. 1889.

Sesia aurea KUNTZE, Rev. Gen. 2: 870. 1891.

子實體は着生物上に背着，擴布し，或は往々半背着となり緣邊狹く反轉す，多くは小形にて屢々横に癒着す，通常約 1×0.5cm，膜質，柔軟，着生物に接する部及び反轉部の上層は綿狀をなす，容易に剝離し得，緣及傘の表面は乾時淡卵黄色なり，肉は厚さ 300—400μ，或はそれ以上に及び，菌絲は徑 2.5—4μ，菌絆あり，子實層面は黄金色，乾時橙黄色乃至黑銹色，放射狀に捩曲結合せる淺孔を有す，稜は薄く鋭し，肉は薄く，厚さ 300—400μ，軟し，胞子は圓筒形，平滑，無色或は甚だ僅か淡黄色，3—4.5×1.5—2μ。嚢狀體なし。

所在及産地
針葉樹枯木上　　本州—歐.北米.亞(西比)
和名 キシワタケ (黄皺茸)〔安田〕

Gyrophana PAT.
ナミダタケ屬

PATOUILLARD, Catl. Pl. Tunis. 53: 1897; Ess. Tax. 108. 1900.

Merulius Auct. pr. p.

Xylomyzon PERS. pr. p.

Serpula S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 637. 1821.

Gyrophora PATOUILLARD, Hymen. Eur. 143. 1887. (non ACHAR.)

Serpula SCHROETER, Pilze Schles. 1: 466. 1888.

子實體は背着にて稀に反轉し，薄く或は厚し，蠟質，膜質或は綿絮狀，子實層部は不規則なる網狀襞を有し，全面有性にて粉狀を呈す，胞子は銹色乃至帶赤黃色，卵形，平滑。

（本屬名は gyros（圓き）phanus（著しき）より出づ）

基準種　*G. lacrymans* (WULF.) PAT.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は發達良好の際緣邊反轉す，緣邊は白色絨毛狀，子實層部黃金色，胞子は 7—12×5—6.5μ。

ナミダタケ ***G. lacrymans*** (207)

B. 子實體は常に背着，緣邊迄網狀にて赤褐色，胞子は 7—8×4.5—5μ。

コナナミダタケ ***G. pulverulenta*** (208)

Gyrophana lacrymans (WULF. ex FR.) PAT.
ナミダタケ

PATOUILLARD, Catl. Pl. Tunis. 53. 1897; Ess. Tax. 108. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39: 106. 1923; Hymen. Fr. 352. 1928.

Boletus lacrymans WULF. in JACQ. Misc. Austr. 2: 111, *pl. 8, f. 2.* 1781—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 1: *pl. 113.* 1797.

Merulius vastator TODE, Abh. Hall. Naturf. Ges. 1: 351, *pl. 2, f. 1—4.* 1783—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 497. 1801.

Sistotrema cellare PERS. Syn. Meth. Fung. 29. 1801.

Merulius destruens PERS. Syn. Meth. Fung. 496. 1801—NEES, Syst. Pilze Schw. 230, *f. 238.* 1817—CORDA, Icon. Fung. 3: 49, *pl. 8, f. 125.* 1839—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 216. 1867—GILLET, Champ. Fr. 709. cum icone. 1874.

Himantia domestica PERS. Syn. Meth. Fung. 703. 1801.

Boletus arboreus SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 3: *pl. 346.* 1803.

Merulius lacrymans SCHUM. Enum. Plant. Saell. 2: 371. 1803—DC. Fl. Fr. 2: 132. 1815—FRIES, Syst. Myc. 1: 328. 1821; Elench. Fung. 1: 59. 1828; Epicr. Myc. 502. 1838; Hymen. Eur. 594. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 129. 1836; Outl. Brit. Fung. 256, *pl. 2, f. 1.* 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 413. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 22. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 291, *f. 68.* 1871; Handb. Austr. Fungi, 169. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 289. 1872; Enchir. Fung. 187. 1886—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 285. 1876; Hattsv. 2: 87. 1882—WINTER, Pilze, 1: 394. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 419. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1065. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 186. 1892; Brit. Fungi, 389. 1911—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 194, *f. 189—190.* 1903—ROLLAND, Atl. Champ. 86, *pl. 98, f. 216.* 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 370, *f. 83.* 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 178, *pl. 30 B.* 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc, 26. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 5: 616, *f. 872.* 1916—BURT. Ann. Missouri Bot. Gard. 4: 340, *f. 25, pl. 21, f. 24.* 1917—REA, Brit. Basid. 622. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1032.* 1932—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2: 241. 1935—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 83: 9, *f. 6.* 1950.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28: 269. 1901—松村，植．名鑑，1: 154. 1904—白井，日．菌．目．54. 1905; ed. 2. 359. 1917; ed. 3. 210. 1927—安田，植．雜．31: 222. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67: 11. 1918; 7: 1126. 1922—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 20, f. 4—5.* 1925; 日．菌．圖說，*n. 218—9.* 1929—今關，日．隱．植．圖．421, *pl. 201, f. 1, 4.* 1939—逸見及赤井，木．腐．菌學，276, *f. 92.* 1945—原，日．菌．目．201. 1954)

Thelephora (Himantia) domestica FR. Syst. Myc. 1. 451. 1821; Elench. Fung. 1: 201. 1828.

Serpula destruens S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 639. 1821.

Xylomyzon destruens PERS. Myc. Eur. 2: 27. 1825.

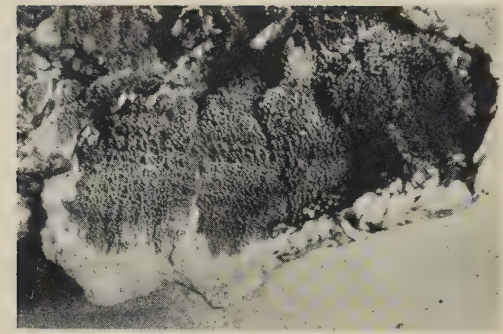
Gyrophora lacrymans PAT. Hymen. Eur. 143. 1887—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 346. 1889.

Serpula lacrymans SCHROET. Pilze Schles. 1: 466. 1888.

Sesia byssina KUNTZE, Rev. Gen. 2: 870. 1891; 3(2): 521. 1893.

Merulius domesticus FALCK, Zeits. Hygiene, 55: 478. 1907.

子實體は柔肉質にて濕潤，後膜狀革質となる，廣く着生物上に擴布し，時に 1m 大の皮膜となる，多くは多少完全に扁平なるも，時に緣邊反轉し廣唇狀をなし，又時に覆瓦狀をなす。子實層面は黃金色にて，緣部は白色にて絨毛狀，厚くして，屢々不快臭を有する水滴を分泌す，子實層部は初め低き襞を生



a



b

第 170 圖 ナミダタケ *G. lacrymans*
a. 子實體 ×1（龜井氏） b. 胞子 ×544
（大谷氏）

ず，襞は鈍頭にて，後裂けて鋸歯狀となり，網狀の不等大（1—2mm）の網目及び孔窩狀に連結す，最後に胞子粉に被われて褐色となる，胞子は楕圓形或は卵形，平滑，黄褐色，7—12×5—6.5μ，嚢狀體なし，菌絲は菌絆を有し，菌絆より枝を生ずる特徴を有す，屢々菌絲は結束し，太き白色の破れ易き或は革質の強き紐を作る。恐るべき害菌にて建築材の腐蝕を起すにより家菌（Hausschwamm）と稱せらる。

所在及産地

木材，殊に床板上　　全土—汎布

和名 ナミダタケ（涙茸）カキン（家菌）

Gyrophana pulverulenta (FR.) PAT.
コナナミダタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 108. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39:107. 1923; Fl. Fr. 353. 1928.

Auricularia pulverulenta SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 214*. 1799.

Merulius pulverulentus FR. Elench. Fung. 1: 60. 1828; Epicr. Myc. 502. 1838; Hymen. Eur. 594. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 129. 1836—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 217. 1869—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 419. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1065. 1916—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 179. 1912.

Merulius lacrymans var. *pulverulentus* QUÉL. Enchir. Fung. 187. 1886—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 301. 1891; Brit. Basid. 370. 1908—REA, Brit. Basid. 622. 1922.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 31: 737. 1902—松村, 植. 名鑑, 1: 154. 1904—白井, 日. 菌. 目. 54. 1905; ed. 2. 359. 1917; ed. 3. 210. 1927—原, 日. 菌. 目. 201. 1954)

Merulius umbrinus (non FR.) BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 4: 355. 1917.



第 171 圖 コナナミダタケ *G. pulverulenta*
胞子 ×544 （大谷氏）

前種と類似し，廣く擴布し，皮膜狀，細微粉狀，環紋ありて乾燥，下面蜘蛛巣狀，普通中央より緣に向つて徐々に頽廢す，襞は緣迄網狀，赤褐色，本邦産のものは胞子小形にて 7—8×4.5—5μ。

所在及産地

濕潤なる建築材或は壁上　　本州—歐·北米

和名 コナナミダタケ（粉涙茸）

Coniophora DC. ex PERS.
イドタケ屬

DECANDOLLE, Fl. Fr, 6: 34. 1815—PERSOON, Myc. Eur. 1: 153. 1822.

Thelephora subt. *Coniophora* FRIES, Elench. Fung. 1: 193. 1828.

Corticium § *Coniophora* FRIES, Hymen. Eur. 657. 1874.

Karstenia BRITZELMAYR, Bot. Centralbl. 71: 94. 1897.

Prillieuxia SACCARDO et SYDOW, Syll. Fung. 14: 225. 1899.

子實體は褐色を呈し，肉質，蠟質，稍々革質又は膜質，背着生にて擴布す。子實層は平滑，波狀或は粒狀にて，普通胞子によつて粉狀を呈す。胞子は楕圓形，舟形或は紡錘形にて平滑，褐色なるを普通とす，異形體なく，菌絲に菌絆あり。

（本屬名は conis（粉塵）phero（荷う）より出づ）

基準種 *C. puteana* (SCHUM. ex FR.) KARST.

本邦既知種檢索表

A. 肉は白色乃至帶白色。

a. 子實體は肉質，剝げ易く，子實層に小疣あり。
イドタケ ***C. puteana*** (209)

b. 子實體は乾燥綿膜質，多少固着し，子實層は平坦，菌絲は崩壞し易し。

カベタケ ***C. arida*** (209)

B. 肉は黒褐色，木栓質，子實層に小疣あり。

ヤスリタケ ***C. matsuzawae*** (209)

Coniophora puteana (SCHUM. ex FR.) KARST.

イドタケ

KARSTEN, Myc. Fenn. 3:319. 1876; Hattsv. 2: 159. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 435. 1889—PATOUILLARD, Tab. Anal. 113, *f. 253.* 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 212. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:647. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1192. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25:129. 1889; Brit. Fung, Fl. 1:102. 1892; Brit. Fungi, 412. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 109. 1900—REA, Brit. Basid. 626. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6:489. 1937.

(安田, 植. 雜. 32:303. 1918—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 98. 1927—原, 日. 菌. 目. 85. 1954)

Thelephora cerebella PERS. Syn. Meth. Fung. 580. 1801.

Thelephora puteana SCHUM. Pl. Saell. 2:397. 1803—FRIES, Syst. Myc. 1:448. 1821; Elench. Fung. 1:194. 1828; Epicr. Myc. 542. 1938—PERSOON, Myc. Eur. 1:144. 1822—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 269. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:315. 1871.

Coniophora cerebella PERS. Myc. Eur. 1:155. 1822—SCHROETER, Pilze Schles. 1:430. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:110. 1903—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):82. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 4:240, *f. 1.* 1917—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39:111. 1923; Hymen. Fr. 358. 1928.

(逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 232. 1945)

Hypochnus confluens BONORD. Handb. Allgem. Myk. 159. 1851.

Coniophora cellaris PERS. in KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:267. 1867.

Corticium puteaneum FR. Hymen. Eur. 657. 1874—COOKE, Grev. 8:88. 1880—WINTER, Pilze 1:330. 1884.

子實體は全背着にて廣く擴布し，肉質，稍々圓形にて剝げ易く，徑 4—6cm，時に伸長して 15×5cm 以上に及ぶ，乾時軟革質，初め黄白色，後帶褐オリーブ色，緣は白色にて綿狀，肉は厚さ 300—1000μ，帶白色，菌絲は密に纏絡し，無色，徑 4—7μ。子實層は同色，平坦，稍々波狀或は捩曲し，低き廣き山形の小疣あり，粉狀を呈す。囊狀體なし，胞子は帶褐オリーブ色或は銹色，廣楕圓形，鈍頭或は1端尖り，平滑，10—14×6—7μ。

所在及産地 枯木，古材上　　本州—歐. 北米

和名 イドタケ（井戸茸）〔安田〕

Coniophora arida (FR.) KARST.

カベタケ

KARSTEN, Myc. Fenn. 3:319. 1876; Hattsv. 2:161. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 436. 1889—COOKE, Grev. 8:82. 1879—QUÉLET, Enchir. Fung. 212. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:648. 1888; 17:182. 1905; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1193. 1916—MASSEE, Jour. Linn. Soc. 25:132. 1889; Brit. Fung. Fl. 1:99. 1892; Brit. Fungi, 411, *pl. 33, f. 7.* 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:110. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 420. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1):82. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard, 4:244. 1917—REA, Brit. Basid. 626. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 39:112. 1923; Hymen. Fr. 359. 1928.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:7. 1918—安田, 植. 雜. 33:168. 1919—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 98. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 381, *pl. 181. f. 5—6.* 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 233. *f. 70.* 1945—原, 日. 菌. 目. 85. 1954)

Thelephora arida FR. Elench. Fung. 1:197. 1828; Epicr. Myc. 543. 1838—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 269. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:315. 1871.

Corticium aridum FR. Hymen. Eur. 659. 1874.

Tomentella brunnea SCHROET. Pilze Schles. 1: 419. 1888.

Coniophora Cookei MASS. Jour. Linn. Soc. 25: 136. 1889; Brit. Fung. Fl. 1:101. 1892; Brit. Fungi, 412. 1911.

子實體は廣く背着，4—20×1—8cm，不正形，薄き綿膜質，緣邊黄白色にて極めて薄く蜘蛛巣狀，肉は厚さ 100—500μ，白色，極めて粗に纏絡する菌絲より成る，菌絲は薄膜，屢々崩壞す，普通無色にて，徑 2—3μ，結晶を被らず，子實層は黄褐色，泥色乃至綠黄褐色，平坦，粉狀を呈す。囊狀體なし，擔子柄は棍棒形にて密に列ばず緊密なる子實層を作らず，胞子は楕圓形1端に乳頭突起あり，平滑，黄褐色，10—12×6—8μ。

所在及産地

針葉樹枯枝上，材上　　本州—歐

和名 カベタケ（壁茸）〔安田〕

Coniophora matsuzawae YAS.

ヤスリタケ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 33:155, *f.* 1919—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:12. 1918.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68 : 7. 1918; 6 : 980. 1920—安田，植. 雜. 33:54. 1919—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 98. 1927—原，日. 菌. 目. 85. 1954)

子實體は廣く背面展着，木栓質，徑 6—22 cm，厚さ 1—3.5 mm，碎け易し，褐色，細疣を粗布し，疎なる裂目を生ず，肉は黒褐色，嚢狀體なし，胞子は楕圓形，平滑，淡褐色，9—10×6—7μ。

所在及産地

シイノキ (*Shiia*) 枯枝上　　本州

和名　ヤスリタケ（鑪茸）〔安田〕

FISTULINACEAE カンゾウタケ科

子實體は肉質にて，背着或は反轉し，又は坐生し，更に側莖を有することあり，子實層部には多數の長筒形にて互に分離せる管を有し，管の内面に子實層を作る。擔子柄内の核分裂紡錘絲は擔子柄の長軸に直角（横性）の位置をとる。

本邦既知屬　カンゾウタケ屬 **Fistulina** (210)

Fistulina BULL. ex FR.
カンゾウタケ屬

BULLIARD, Champ. Fr. 1 : 314. 1791—FRIES, Syst. Myc. 1 : 396. 1821.

Buglossus WAHLENBERG, Fl. Upsal. 439. 1820.

Hypodrys PERSOON, Myc. Eur. 2 : 148. 1825.

子實體は肉質，厚く，坐生或は短莖を有す。子實層部は傘肉より剝離せず，初め疣狀にて，稍々ハリタケ (*Hydnum*) に類似するも，後伸長して管となり，稍々イグチ (*Boletus*) に類似す。管は圓筒形にて密集するも各自分離しあり，孔口は圓形，莖の存する場合は側生にて短かく，肉質なり，胞子は類球形，平滑，有色，樹上生。

（本屬名は fistula (管) より出づ）

基準種　*F. hepatica* (SCHAEFF.) FR.

本邦既知種

カンゾウタケ ***F. hepatica*** (210)

Fistulina hepatica (SCHAEFF.) FR.
カンゾウタケ

FRIES, Syst. Myc. 1:396. 1821; Elench. Fung. 1:128. 1828; Epicr. Myc. 504, 1838; Hymen. Eur. 522. 1874—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:648. 1821—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 154. 1836; Outl. Brit. Fung. 257, *pl. 17, f. 1*. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:412. 1844—BARLA, Champ. Nice, 73, *pl. 30, f. 4—7*. 1859—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 249. 1869—FUCKEL, Symb. Myc. 22. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:292, *f. 70*. 1871; Handb. Austr. Fungi, 111. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 290. 1872; Enchir. Fung. 163. 1886—GILLET, Hymen. Fr. 653. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 247. 1876; Hattsv. 2 : 20. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 282. 1889—WINTER, Pilze 1 : 458. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 54. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 943. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 495. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 256, *f. 8—10*. 1892; Brit. Fungi, 366, *pl. 24, f. 11*. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 111. 1900—ATKINSON, Mushr. ed. 2. 186, *pl. 65, f. 1*. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 332, *f. 75*. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 3, Old. Sp. 6, *f. 219—221*. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 80, *pl. 89, f. 196*. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 241, *pl. 38*. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 117. 1914—REA. Brit. Basid. 629. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:250. 1925; Hymen. Fr. 686. 1928—GÜSSOW & ODELL, Mushr. Toadst. 194, *pl. 100 A*. 1927—BRESADOLA, Icon. Myc. 19 : *pl.* 945. 1931—CLELAND, Toadst. Mashr. S. Austr. 2:243, *f. 53—54*. 1935—LOHWAG & FOLLNER, Ann. Myc. 34 : 456, *f. 1—4*. 1936.

(田中，植. 雜. 2:170. 1880—安田，植. 雜. 31:245. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 237. 1917; ed. 3. 136. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:111, *pl. 2, f. 2*. 1931—今關，日. 隱. 植. 圖. 487, *pl. 234, f. 1—2*. 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，415, *f. 220*. 1945—原，日. 菌. 目. 124. 1954)

Boletus hepaticus SCHAEFF. Fung. Bavar. 4 : 82, *pl. 116—120*. 1774—HUDSON, Fl. Angl. ed. 2. 625. 1778—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 1 : *pl. 58*. 1797—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 549. 1801—DC. Fl. Fr. 2 : 113. 1815—NEES, Syst. Pilze Schwam. 216, *f. 209*. 1817.

Fistulina buglossoides BULL. Champ. Fr. 1 : 314. 1791.

Boletus Buglossum RETZ, Fl. Scand. 2: 250. 1805.

Buglossus quercinus WAHL. Fl. Ups. 439. 1820.

Hypodrys hepaticus PERS. Myc. Eur. 2 : 148. 1825.

子實體は厚肉，舌狀，卵狀或は半圓形，時に裂片


第 172 圖　カンゾウタケ *F. hepatica*
（LLOYD 氏による）

狀をなし，表面扁平なり，坐生或は時に短莖を側生す，徑 10—20 cm 或はそれ以上に及ぶ，表面は血赤色，暗赤色或は暗赤褐色を呈す，初め細粒狀突起及短毛ありて粗面，後平滑となる，粘質なり，肉は厚く，2—3 cm，柔軟或は强靱，肉質，鮮血色にて，赤色透明液を含み，筋肉狀の筋を有す。莖の存する場合は短圓筒形，3—7×2—4 cm，同色，有點なり，管は初め微細なる乳頭突起にて後伸長して圓筒形となる，長さ 0.5—1 cm，各管は獨立の管壁を有し，互に密集するも個々分離することを得，初め微黄色，後暗褐色となる，孔口は圓形，淡色，胞子は卵球形，小嘴あり，平滑，無色，3—6×3—6 μ，1 油球あり，臭少く，味幼時特に辛し。可食。

所在及産地

カシ（*Quercus*）シイ（*Shiia*）等廣葉樹上

北海道，本州，九州—歐．北米．濠．亞（印）

和名　カンゾウタケ（肝臟茸）〔池野〕，

センケツタケ（鮮血茸）〔大久保〕

疑　問　種

Fistulina pendula (SCHW.) BRES.

（白井，日．菌．目．ed. 3. 136. 1927—原，日．菌．目．124. 1954）

POLYPORACEAE　サルノコシカケ科

子實體は一年又は多年生にて早腐又は耐乾性，無莖又は有莖或は背着，樹上又は地上に生ず。莖は中心，偏心又は側生，傘肉と同質又は異質なり。傘は厚薄種々ありて圓形，半圓形，扇形，箆形等にて扁平なるものより凸形となり丸山形，蹄形，鐘形等をなし，孤生，疊生或は互に横に連結し棚狀をなす，表面は無毛平滑又は毛被を被むり，屢々同心圓の環紋又は環溝を有し，又放射狀の皺襞を有するものあり，傘肉の上面に斜直上せる菌絲が結合膠着し往々變形變質して特殊なる堅き組織をなせる所謂殼皮（crust）を作るもの，斜直上せざる普通菌絲の緊密結合によりてなれる所謂薄皮（cutis，pellicle）を作るもの，或は表面毛被に蔽われ，その下部に下殼（subcrust）又は下皮（subcutis）を作るもの，更に無殼無皮のものあり，傘肉は種々の色（白，材木，朱，黄，褐，黄褐，紫，紫黑色等）を呈し，肉質，革質，纖維質，木栓質，木質等種々あり。子實層を生ずる部分卽ち子實層托（hymenophore）は管孔狀なるを型的となすも多少の變化あり，1 層乃至多層，その肉卽ち實質（trama）は傘肉と同質又は異質，孔緣は厚薄あり，孔口は大小ありて圓形，多角形，蜂窩形，迷路形，不整形より褶狀，溝狀，更に齒牙狀をなすものあり，子實層には擔子柄の外に厚膜尖頭の剛毛體（seta），薄膜の嚢狀體（cystidium），更に菌絲束よりなる針狀突起所謂刺狀體（spine），を有するものあり，胞子は 1 膜なるを常とするも 2 膜を有するものあり，無色或は有色，平滑或は疣刺，刻紋を有す。本科は木材の腐朽を起し經濟的に重要なる關係を有するものなり。

菌類分類法式にては腹菌類（*Gastromycetes*），銹菌類（*Uredinales*），黑穗菌類（*Ustilaginales*）以外の凡てのものは FRIES 氏著 *Systema Mycologicum* I (1821) を以てその出發點とせらる。同書に於て本科に屬するものは只 2 屬 *Polyporus* 及 *Daedalea* あるのみにて更に *Polyporus* を 3 亞屬卽ち *Favolus*, *Microporus*, *Polysticta* に分てり，其後同氏及後繼者によつて漸次屬の增加を來し，その結果從來一般的に廣く採用せられたるものは次の 10 屬なり。

1. *Poria*,　2. *Polyporus*,　3. *Polystictus*,
4. *Fomes*,　5. *Ganoderma*,　6. *Trametes*,
7. *Hexagona*,　8. *Daedalea*,　9. *Cyclomyces*,
10. *Favolus*.

然るに近世，殊に佛國學者の研究により玆に一大新紀元を劃し，急進的に改革を企てられ，今や多數の屬の分立を見，從來の屬，殊に *Polyporus*, *Poly-*

stictus 及 *Fomes* の如きは全く舊態を存せざるに至れり，勿論近世の分類法式として未だ確定的の一定せるものなきは，研究進路上當然の歸結と謂うべく，今玆には今關氏の提唱にかかる分類法式に準據し45屬に分ちて順次記述し，各屬の分割につきては關係屬の部に於て記せり。

族檢索表

A. 子實體は常に背着し傘を作らず，但し有傘種にても事情により背着することもあるが爲に混同するを免れず。 （I）アナタケ族 **Porieae** (212)

B. 子實體は反轉し或は坐生し傘を有し，有莖のものあり。

a. 子實體は裸實にて子實層面に包膜なし。

α. 胞子膜は1重。

I. 傘肉は通常黃褐色を呈せず，剛毛體を缺く，無皮又は有殼，胞子無色。

（II）サルノコシカケ族 **Polyporeae** (222)

II. 傘肉は常に黃褐色乃至同系の色を帶び，所謂褐色菌と呼ばるる群なり，剛毛體を有するもの多く，無殼或は下殼又は殼皮を作る，胞子無色或は黃褐色。

（V）キコブタケ族 **Mucronoporeae** (351)

β. 胞子膜は通常2重，淡褐色，或は淡黃色，傘は常に明瞭なる殼皮を被むり，往々漆狀光澤あり，傘肉は通常黃褐色を呈せず。

（III）マンネンタケ族 **Ganodermeae** (339)

b. 子實體は包膜を有し子實層面を覆い半被實。

（IV）ヒトクチタケ族 **Cryptoporeae** (350)

I. Porieae アナタケ族

子實體は全背着生にて無傘，基層の肉は肉質，革質，木栓質，或は木質等，白色，鮮色或は暗褐色，子實層托は管孔狀或は齒牙狀，1層或は多層，胞子は平滑，稀に粗面，無色或は有色，但し有傘種が環境によりて偶々無傘背着生に變ぜるものとの鑑別困難なる場合多し。

屬檢索表

A. 肉は白色或は鮮色，多くは菌絲に菌絆を有す。

アナタケ屬 **Poria** (212)

B. 肉は暗色，菌絆を有せず。

サビアナタケ屬 **Fuscoporia** (219)

Poria (PERSOON) S. F. GRAY emend. CUNNING.

アナタケ屬

S.F.GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 639. 1821—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 72 : 5. 1947.

Boletus c. Poria PERS. Syn. Meth. Fung. 542. 1801.

Polyporus ser. *Poria* FRIES, Nova Symb. Myc. 54. 1851.

Physisporus GILLET, Champ. Fr. 693. 1874. pr. p.

Physisporinus KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 324. 1889.

Chaetoporus KARSTEN, Hedwigia, 29 : 148. 1890.

Podoporia KARSTEN, Hedwigia, 31 : 297. 1892.

Sarcoporia KARSTEN, Hedwigia, 33 : 15. 1894.

Ceraporia DONK. Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 170. 1933.

Merulioporia BONDARZEW et SINGER, Ann. Myc. 39 : 48. 1941.

Fibuloporia BONDARZEW et SINGER, Ann. Myc. 39 : 49. 1941.

Amyloporia BONDARZEW et SINGER, Ann. Myc. 39 : 49. 1941.

Pereniporia MURRILL, Mycologia, 34 : 595. 1942.

Meruliporia MURRILL, Mycologia, 34 : 596. 1942.

子實體は全背着にて皮膜狀，外圍は有限的或は廣く擴布す，子實層托は管孔狀或は迷路狀にて，1層或は數層なり，肉は白色或は鮮色，1菌絲型或は2菌絲型にて稀に3菌絲型なり，菌絲は無色，菌絆あるもの及び缺くものあり，稀に菌橋を有す，胞子は諸形あり，平滑，稀に粗面，無色。

（本屬名は porus（孔）より出づ）

基準種 *P. vulgaris* (FR.) S. F. GRAY

本邦既知種檢索表

A. 子實體は樹上或は材上に着生す。

a. 着生材を著しく着色せず。

α. 子實體は生時白色，帶白色或は乾酪色にて淡色。

I. 胞子は球形，卵形或は楕圓形にて狹幅ならず。

1. 子實體は柔軟脆弱，周邊に菌絲束射出し，通常雪白色，胞子は 5—6×3—5μ，針葉樹材上生。

マワタグサレキン ***P. vaillantii*** (213)

2. 子實體周邊に菌絲束なし。

甲. 子實層に頭狀の菌絲を抽出す，其他に先端に結晶を被むる嚢狀體あり，白色或は淡黃色，胞子は 3.5—4.5×2.5—3.5μ，廣葉樹材上生。

アナタケ ***P. versipora*** (214)

乙. 型的の嚢狀體なし。

イ. 子實體は白色乃至乾酪色又は黃金色，後淡桃乃至褐色等に變ず，胞子は 4—6×3—5μ，小嘴あり，針葉樹材上生。

キンイロアナタケ ***P. subacida*** (214)

ロ. 子實體は乾酪色，乾時白色或は鈍黃色となる，胞子は 4—7×3—5μ。廣葉樹材上生。

ウスキアナタケ ***P. medulla-panis*** (214)

II. 胞子は腸詰狀圓筒形にて狹幅

1. 子實體は白色乃至黃白色にて管孔內特に濃黃色，老時白墨狀となる，胞子は著しく屈曲せず，4—6×1—1.5μ。針葉樹材上生。

チヨウクアナタケ ***P. xantha*** (215)

2. 子實體は少くとも幼時雪白色にて管孔內特に黃色ならず。

イ. 胞子は著しく屈曲し半圓形となる，3—5×1—2μ。針葉樹材上生。

ヒダアナタケ ***P. lenis*** (215)

ロ. 胞子は著しく屈曲せず，4—6×1—2μ。針葉樹材上生。

ワタグサレキン ***P. vaporaria*** (216)

β. 子實體は幼時より鮮黃色にて，乾時帶橙肉桂色或は澁色となる，胞子は甚だ屈曲し，4—5.5×2μ。キアナタケ ***P. vitellina*** (216)

γ. 子實體は肉色等の赤色系。

I. 胞子類球形或は楕圓形。

1. 胞子楕圓形，3—5×2—3μ，嚢狀體 40×8μ。廣葉樹材上生。

ニクイロアナタケ ***P. eupora*** (216)

2. 胞子類球形，3—4×2.5—3.5μ，嚢狀體 100—150×12—23μ。廣葉樹材上生。

ハダイロアナタケ ***P. radula*** (217)

II. 胞子圓筒形，少しく屈曲し，5—6×1—2μ，嚢狀體は 30—45×8—15μ。針葉樹材上生。

ツガノニクイロアナタケ ***P. rixosa*** (217)

b. 着生材を濃橙黃色に着色す，子實體緣は橙黃色にて紫褐色に隈取らる，胞子3.5×2μ。

キゾメタケ ***P. epimiltina*** (218)

B. 子實體は菌核上に生ず，白色，胞子は 7.5—9×3—3.5μ。 ブクリヨウ ***P. cocos*** (218)

Poria vaillantii (DC. ex FR.) COOKE
マワタグサレキン

COOKE, Grev. 14 : 112. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:312. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 201. 1892; Brit. Fungi, 383. 1911—BRESADOLA, Hymen. Hung. Kmet. 88. 1897; Ann. Myc. 1 : 80. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 361. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 184. 1912—REA, Brit. Basid. 603. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:234. 1925; Hymen. Fr. 677. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52:319. 1936—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 72 : 11, *f. 5*. 1947.

Poria vaporaria PERS. Disp. Meth. Fung. 70. 1797.

Boletus vaporarius PERS. Syn. Meth. Fung. 546. 1801.

Boletus Medulla-panis SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 3 : *pl. 326*. 1803.

Boletus Vaillantii DC. Fl. Fr. 6 : 38. 1815.

Polyporus Vaillantii FR. Syst. Myc. 1:383. 1821; Elench. Fung. 1:122. 1828; Epicr. Myc. 487. 1938; Hymen. Eur. 579. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 114. 1925—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 147. 1836; Outl. Brit. Basid. 252. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 416. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:285. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 3 : 537. 1875—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 277. 1876—WINTER, Pilze, 1 : 406. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 467. 1888.

Physisporus Vaillantii GILL. Champ. Fr. 696. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:63. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 322. 1889.

Prothelium Vaillantii QUÉL. Enchir. Fung. 181. 1886.

Leptoporus Vaillantii PAT. Ess. Tax. 85. 1900.

子實體は稍々廣く擴布し，少しく固着し，乾時屢々緣邊遊離す，雪白色，柔軟にて脆し，緣は狹く，纖維狀黴狀或は菌絲束を作り分岐し，綿狀或は類膜狀にて往々互に連結す，基層は甚だ薄く，幅 0.5 mm 內外，類革質なり，管孔は長さ 2—12 mm，孔口は大さ形狀不整にて多角形，寧ろ大形にて徑 0.4—1 mm，孔緣は鈍くして薄く，僅か齒裂す，菌絲は厚膜，徑 2.5—3μ，少しく分岐し，菌絆稀なり，擔子柄は 12—32×4—8μ，胞子は楕圓形，或は稍々腸詰

形，平滑，無色，5—6×3—5μ。材の褐腐を起し大害をなす。

所在及産地

針葉樹腐木上及建築材上

全上—歐. 北米. 濠. 亞(錫. 西比)

和名 マワタグサレキン（眞綿腐菌）

〔**因記**〕本菌は本邦に於て極めて普通にワタグサレキンと混同せられたるものなり。

Poria versipora (PERS.) ROMELL

アナタケ

ROMELL, Sv. Bot. Tidsk. 20: 15. 1926—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 25: 150. 1940—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 72: 29, *f. 26*, *pl. 7*, *f. 3*. 1947.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 9. 1916; Lett. 67: 11. 1918—安田，植．雜．31: 49. 1917—白井，日．菌．目．ed. 3. 303. 1927)

(青島，林．試．硏．報．59: 59, (64), *f. 4*. 1953—原，日．菌．目．284. 1954)

Polyporus versiporus PERS. Myc. Eur. 2: 105. 1825.

Poria vaporaria (non COOKE) 西門，三橋及中山，農學硏究，36: 325, *pl. 15*, *f. 59—60*, *pl. 20*, *f. 21—3*. 1944.

子實體は1年生，初め島嶼狀小皮膜として現われ，後材面又は樹皮面に廣く擴布す，生時革質，乾時栓質乃至氈質にて脆し，緣は白色或は淡黃褐色にて，無性，幅 0.1—0.33 mm 內外，粉毛狀乃至澱粉粒狀なり，基層は纖維質，厚さ 0.1 mm，淡赤黃色乃至黃褐色，實質は木栓質，基層と同色，管孔口は圓形乃至多角形，齒牙狀或は迷路狀等極めて變化多し，囊狀體は個體により變化し，15—30×2.5—3.5μ，先端に結晶を被むる，又先端膨大せる薄膜の菌絲が子實層より突出す。擔子柄は棍棒形，15×5μ，胞子は類球形乃至楕圓形，平滑，無色，3.5—4.5×2.5—3.5μ。材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹，特にカシ (*Quercus*) 類枯幹，シイタケ榾木上　全土—歐. 北米. 濠

和名 アナタケ（孔茸）〔安田〕

〔**因記**〕LLOYD 氏 (Myc. Writ. 7: 1296. 1924) の本邦產菌として同定せる *Irpex Cerasi* は本菌の關係菌なるべきか。

Poria subacida (PECK) SACC.

キンイロアナタケ

SACCARDO, Syll. Fung. 6: 325. 1888—NEUMAN, Polyp. Wisc. 52: *pl. 4*, *f. 18*. 1914—OVERHOLTS, Bull. N.Y. St. Mus. 205—206: 111. 1918—MURRILL, Mycologia, 12: 79. 1920—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 399, *pl. 39*, *f. 3*. 1931—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 20: 273. 1935.

(西門，三橋及中山，農學硏究，36: 328, *pl. 16*, *f. 62*, *pl. 20*, *f. 24*. 1944—青島，林．試．硏．報．46: 157(165), *f. 4*, *pl. 2*, *f. 1—3*. 1950—千葉及寺本，東．大．演．林．報．43: 33. 1952—原，日．菌．目．284. 1954)

Polyporus subacida PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 38: 92. 1885.

子實體は1年生或は多年生，廣く擴布し，剝離し或はせず，1 m 以上に及び，厚さ 3 mm 以上に至る，革質，緣は細微毛あり，初め無性，後有性となる，帶黃白乃至淡桃色，基層は著しく，厚さ 0.3—1 mm，緣と同色なり，子實層托は厚さ 0.5—9 mm，多くは 4 mm 或はそれ以下，時に 2—3 層を有す，孔口は白色或は藁色，後黃金色，淡桃色乃至褐色となる，圓形乃至多角形，房毛あり，1 mm 間 3—5 個，孔壁極めて薄し，擔子柄は 10—12×6—8μ，4小柄あり，胞子は類圓或は廣楕圓形，小嘴あり，平滑，無色，4—6×3—5μ，1—2 油球あり，子實層托の菌絲間に屢々大なる結晶を存し，その菌絲には隔膜及菌絆なく，徑 1—5μ。型的の囊狀體なし。

所在及産地

針葉樹生枯幹根際部上，シイタケ榾木上

北海道，本州—北米

和名 キンイロアナタケ（金色孔茸）〔青島〕，ワタグサレモドキ（擬綿腐茸）

〔西門，三橋及中山〕

Poria medulla-panis (JACQ. ex FR.) COOKE

ウスキアナタケ

COOKE, Grev. 14: 109. 1886; Handb. Austr. Fungi, 153. 1892—QUÉLET, Enchir. Fung. 180. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 295. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1036. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 199. 1892; Brit. Fungi, 383. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 79. 1903; 10: 505. 1912—W. G. SMITH, Brit. Basid. 359. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 182, *pl. 31*. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 52. 1914—REA, Brit. Basid. 599. 1922—OVERHOLTS, Bull. Torr. Bot. Club, 50: 249, *f. 3*, *pl. 14*, *f. 1—4*. 1923—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 240. 1925; Hymen. Fr. 684. 1928—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 398, *pl. 39*, *f. 4*. 1931—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2: 239, *f. 52*. 1935—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52: 320, *f. 30*. 1936.

(西門及宮脇，農學硏究，33: 456, *f. 3*. 1942—西門，

三橋及中山, 農學研究, 36 : 327, *pl. 16, f. 61, pl. 20, f. 25—7.* 1944—原, 日. 菌. 目. 284. 1954)

Boletus medulla-panis JACQUIN, Misc. Austr. 1:141, *pl. 11.* 1778—PERSOON, Syn. Meth. Fung 544. 1801.

Polyporus medulla-panis FR. Syst. Myc. 1 : 380. 1821; Elench. Fung. 1:119. 1828; Epicr. Myc. 484. 1838; Hymen. Eur. 576. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:100. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):146. 1836; Outl. Brit. Fung. 251. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:418. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:18. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:282. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 284. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 274. 1876—WINTER, Pilze, 1:409. 1884—SCHROETER, Pilze Schles 1 : 468. 1888.

Poria medullaris S.F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 640. 1821.

Polyporus bibulus PERS. Myc. Eur. 2 : 99. 1825.

Polyporus pulchella SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4 : 158. 1832.

Physisporus medulla-panis GILL. Champ. Fr. 697. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 60. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 319. 1889.

Poria pulchella COOKE, Grev. 14 : 113. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 323. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1031. 1916—NEUMAN, Polyp. Wisc. 59. 1914—MURRILL, Mycologia, 11 : 236. 1919; 15 : 219, *f. 16—17, pl. 23, f. 7—9.* 1923.

(安田, 植. 雜. 34:321. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 302. 1927)

Trametes medulla-panis PAT. Ess. Tax. 93. 1900.

Poria medulla-panis var. *pulchella* BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 241. 1925; Hymen. Fr. 684. 1928.

子實體は1年生或は多年生, 平たく着生物に固着し, 剝離せず, 長さ 5—30 cm 或はそれ以上に及び厚さ 1—8 mm, 緣は初め幅 0.5—3 mm 程, 無性, 鈍圓にて厚く, 波狀をなし, 有毛, 乾酪色, 老時有性となり汚黃色となる, 基層は厚さ 1 mm に至らず, 白色乃至淡色, 菌絲は無色乃至淡黃色, 多く分岐し, 纏絡し, 結晶を被むる, 徑 1.5—3 μ, 子實層托は不明瞭の層を有し, 斜となること多し, 古層にては白色菌絲を塡充す, 長さ各季 0.5—3 mm, 孔口は緣と同色, 老時殆ど白色となり, 乾時白色或は鈍黃色なり, 圓形乃至角形, 1 mm 間 3—5 個, 胞子は廣楕圓形, 稀に截頭, 平滑, 無色, 4—7×3—5 μ。型的の囊狀體なし, 材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹材上, シイタケ榾木上

本州, 四國—歐. 北米. 濠. 亞(爪. 西比)

和名 ウスキアナタケ (淡黃孔茸) 〔安田〕

Poria xantha (FR.) LIND

チヨウクアナタケ

in ROMELL, Sv. Bot. Tidskr. 20 : 20. 1926—BAXTER, Pap. Mich. Sci. Arts Lett. 21:257. 1936—CUNNINGHAM, Bull. Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. 72 : 21, *f. 16, pl. 4, f. 2.* 1947.

(青島, 林. 試. 硏. 報. 46:155(165), *f. 1—3, pl. 1, f. 1.* 1950)

Polyporus xanthus FR. Obs. Myc. 1 : 128. 1815; Syst. Myc. 1 : 379. 1821—Auct. plur. pr. p.

Physisporus luteoalbus KARST. Rev. Myc. 9 : 2. 1887; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 318. 1889.

Poria luteo-alba SACC. Syll. Fung. 6:299. 1888.

Poria vulgaris var. *luteo-alba* BRES. Hymen. Hung. Kmet. n. 86. 1897.

Poria calcea var. *luteoalba* BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 233. 1925.

Polyporus vulgaris var. *calceus* FR. sensu ROMELL, Sv. Bot. Tidskr. 20 : 21. 1926.

Poria calcea var. *xantha* BOURD. et GALZ. Hymen. Fr. 675. 1927.

Amyloporia xantha BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 49. 1941.

子實體は1年生或は多年生, 廣く擴布し, 1 m 以上に及び, 厚さ 1—3 mm, 白色乃至黃白色, 管孔內面濃色, 乾時多くの龜裂を生じ, 老時白墨狀となる, 生時基物より離れ易く, 白墨狀のものは粉末となる, 緣は白色, 粉毛狀乃至蜘蛛巢狀, 初め幅 1—2 mm なるも, 速に有性となる, 基層は薄く, 多くは 0.5 mm より少し, 子實層托は1層或は屢々不明瞭の層あり, 長さ 1 mm 內外, 孔口は稍々角形, 帶白色, 淡桃色, 多くは帶黃白色乃至白黃橙色, 1 mm 間 5—7 個, 擔子柄は 9—10×3—5 μ, 胞子は腸詰形, 平滑, 無色, 4—6×1—1.5 μ, 油球なし, 囊狀體なく, 菌絲は波狀, 時に結晶を被むり, 稀に有隔, 菌絆なし, 徑 2—4 μ。材の褐色腐蝕を起す。

所在及産地

針葉樹枯幹, 切株上　本州—歐. 北米. 濠

和名 チヨウクアナタケ (白墨孔茸) 〔青島〕

Poria lenis (KARST.) SACC.

ヒダアナタケ

SACCARDO, Syll. Fung. 6:313. 1888—ROMELL, Ark. Bot. 11:17. 1911—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 21 : 248. 1936—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 72:19, *f. 15, pl. 4, f. 1.* 1947.

(青島, 林. 試. 硏. 報. 59:57, (64), *f. 1, pl. 1, f. 4.*

1953)

Physisporus lenis KARST. Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 14: 82. 1887; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 319. 1889.

Poria calcea var. *coriacea* BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 233. 1925; Hymen. Fr. 674. 1928.

Amyloporia lenis BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 49. 1941.

子實體は1年生，島嶼狀塊として廣く材面に擴布し，柔軟，脆からず，厚さ3mmに及ぶものあるも，普通之れより少し，緣は白色，又は淡乾酪色，無性，軟毛あり，幅2.5cmに及び，速に有性となる，基層は綿毛質，淡黃白色乃至乾酪色，厚さ0.1mm程度，子實層托の實質は同質，同色，孔口は白色乃至淡汚桃色或は帶黃白色，1mm間3—4個，形變化に富み，多角形或は迷路狀，孔壁薄く，房毛あり，擔子柄は10—14×3—5μ，胞子は腸詰形，半圓形をなす程强く屈曲する特徵あり，平滑，無色，3—5×1—2μ，菌絲は波狀，屢々結晶を被むり，幅2—4μ，菌絆及囊狀體なし，材の褐腐を起す。

所在及產地

針葉樹倒木上　本州—歐.北米.濠

和名 ヒダアナタケ（襞孔茸）〔靑島〕

Poria vaporaria (FR. non PERS.) COOKE

ワタグサレキン

COOKE, Grev. 14: 111. 1886—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 78. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 17: 131. 1905; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1035. 1916—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 232. 1922; Hymen. Fr. 673. 1928—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 397, *pl. 39, f. 2.* 1931—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52: 320. 1936.

（安田，植. 雜. 29: 386. 1915; 31: 49. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 495. 1917; ed. 3. 303. 1927—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 20, f. 6—8.* 1925—北島，林. 試. 報. 28: 16, *pl. 5, f. 35, pl. 7, f. 12.* 1928—今關，日. 隱. 植. 圖. 423, *pl. 202, f. 4.* 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，282, *f. 94—5.* 1945—原，日. 菌. 目. 284. 1954) (sensu lato)

Polyporus vaporarius FR. Obs. Myc. 2: 260. 1818; Syst. Myc. 1: 382. 1821; Elench. Fung. 1: 121. 1828; Epicr. Myc. 487. 1838; Hymen. Eur. 579. 1874.

Boletus incertus PERS. Myc. Eur. 2: 106. 1825.

Poria incerta MURR. Mycologia, 12: 78. 1920.

子實體は廣く擴布固着し，材中に白色綿絮狀菌絲を穿入す，薄くして厚さ0.5—1.5mm，緣は初め約1mm無性，白色，綿絮狀，老時有性となる，基層は1mmより薄く，老時は之を認めず。子實層托は長さ0.5—1.5mm，屢々斜生し，初め白色，老時及乾時淡汚桃色，淡卵黃色乃至黃褐色に變ず，屢々不正線狀に裂けて綿絮狀基層を露わす，孔口は同色，圓形或は多角形にて波曲或は迷路狀ならず，不等大にて1mm間平均2—4個，孔壁は全緣，老時僅か齒裂す，擔子柄は15—20×4—5μ，胞子は腸詰形にて屈曲し，平滑，無色，4—6×1—2μ，囊狀體なし，肉の菌絲は厚膜，菌絆を有し，徑2.5—3μ。材の褐腐を起し大害をなす。

所在及產地

針葉樹幹，丸太，建築材上

全土—歐.北米.亞(西比)

和名 ワタグサレキン（綿腐菌）〔安田〕

Poria vitellina (SCHW.) COOKE

キアナタケ

COOKE, Grev. 14: 110. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 329. 1888—NEUMAN, Polyp. Wisc. 47. 1914—OVERHOLTS, Mycologia, 15: 226, *f. 25—6.* 1923.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67: 7. 1918)

Boletus vitellinus SCHW. Schr. Nat. Ges. Leipz. 1: 100. 1822.

Polyporus vitellinus FR. Elench. Fung. 1: 117. 1828; Epicr. Myc. 483. 1838.

子實體は1年生，柔軟，鮮黃色，擦傷時變色せず，緣は無性，後有性となる，基層は薄く，柔軟，卵黃色，乾時黃褐色となる。管孔は脆くして纖弱，長さ0.5mm或はそれ以下にて，屢々只薄き基層の襞として現わる，乾時帶橙肉桂色或は澁色となる，孔口は不規則にて1mm間2—3個，胞子は楕圓形，甚だ屈曲し，4—5.5×2μ。囊狀體なし。

所在及產地

腐材上　本州—北米

和名 キアナタケ（黃孔茸）

Poria eupora (KARST.) COOKE

ニクイロアナタケ

COOKE, Grev. 14: 110. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 297. 1888—MURRILL, Mycologia, 13: 83. 1921—REA, Brit. Basid. 600. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 235. 1925; Hymen. Fr. 678. 1927—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 72: 28, *f. 23, 25 b, 36—37, pl. 6, f. 1.* 1947.

（靑島，林. 試. 硏. 報. 46: 159(165), *f. 5, pl. 1, f. 2.* 1950)

Polyporus euporus KARST. Not. Sällst. Faun. Fl. Fenn. 9: 360. 1868; Myc. Fenn. 3: 273. 1876—FRIES, Hymen. Eur. 575. 1874.

Polyporus attenuata PECK, Buff. Soc. Nat. Sci. Bull. 1: 61. 1873; Rep. N.Y. St. Mus. 26: 70. 1877.

Polyporus Blyttii FR. Hymen. Eur. 571. 1874.

Polyporus epilinteus BERK. et BR. Jour. Linn. Soc. 14: 55. 1875.

Physisporus euporus KARST. Hattsv. 2: 59. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 318. 1889.

Poria attenuata COOKE, Grev. 14: 110. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 299. 1888—NEUMAN, Polyp. Wisc. 49, *pl. 4, f. 19.* 1914—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2: 239. 1935.

Poria Blyttii KARST. Hattsv. 2: 83. 1882—COOKE, Grev. 14: 111. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 307. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 183. 1912.

Poria epilintea COOKE. Grev. 14: 110. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 302. 1888.

Poria nitida QUÉL. Enchir. Fung. 179. 1886; Fl. Myc. 381. 1888. (non FR.)—BRESADOLA, Ann. Myc. 10: 505. 1912.

Poria Blyttii var. *eupora* BRES. Ann. Myc. 1: 78. 1903.

Chaetoporus euporus BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 51. 1941.

子實體は1年生，圓形島嶼狀塊として基物下面に生じ，後廣く擴布し，20cm に至る，剝離し易く，革質乃至栓質，緣は白色，無性，稍々狹く，粉毛狀，基層は革質或は稍々膠質，肌色乃至柿色，厚さ 0.5 mm 內外。管孔は圓形乃至多角形，1mm 間 5—7 個，子實層托の實質は厚さ 0.3—0.7mm，基層と同色，同質，擔子柄は幅 5—6μ，胞子は楕圓形，平滑，無色，3—5×2—3μ。嚢狀體は多存，全面結晶を被むり，基部或は大部分子實層に埋在す，約 40×8μ。白色朽を起す。

所在及産地

廣葉樹（シキミ）枯枝上

本州—歐.北南米.濠.亞(爪)

和名 ニクイロアナタケ（肉色孔茸）〔青島〕

Poria radula (PERS. ex FR.) COOKE

ハダイロアナタケ

COOKE, Grev. 14: 111. 1886—QUÉLET, Enchir. Fung. 180. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 310. 1888; 17: 132. 1905; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1037. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 203. 1892; Brit. Fungi, 384. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 80. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 361. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 184. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 47. 1914—REA, Brit. Basid. 602. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 235. 1925; Hymen. Fr. 678. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 47. 1932—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 72: 26, *f. 22, 25 a, pl. 7, f. 2.* 1947.

（白井，日.菌.目. ed. 2. 495. 1917; ed. 3. 303. 1927—青島，林.試.研.報. 59: 58(64), *f. 2, pl. 1, f. 5.* 1953—原，日.菌.目. 284. 1954)

Boletus Radulus PERS. Syn. Meth. Fung. 547. 1801.

Polyporus Radulus FR. Syst. Myc. 1: 383. 1821; Epicr. Myc. 486. 1838; Hymen. Eur. 578. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 107. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 416. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 235. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 17. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 285. 1872—WINTER, Pilze, 1: 407. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 467. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 295. 1891.

Physisporus radulus GILL. Champ. Fr. 696. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2: 62. 1882.

Poria eupora var. *subfimbriata* ROMELL, Sv. Bot. Tidsk. 20: 16. 1926.

Chaetoporus radulus BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 51. 1941.

子實體は1年生，廣く材面に擴布し，剝離し易し，膜質乃至革質，緣は淡乾酪色乃至帶赤黃色，無性，幅 0.2—0.3mm，基層は膜質，淡桃色，厚さ 0.3—0.5mm，子實層托の實質は同質，同色，孔口は圓形乃至多角形，1mm 間 5—8 個，赤褐色乃至淡褐灰色，孔壁は比較的薄し，胞子は類球形或は短楕圓形，平滑，無色，3—4×2.5—3.5μ，嚢狀體は棍棒形，100—150×12—23μ，基部子實層に埋在し，表面に多數の結晶を被むる。材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹枯幹上　　本州—歐.北米.濠

和名 ハダイロアナタケ（肌色孔茸）〔青島〕

Poria rixosa KARST

ツガノニクイロアナタケ

KARSTEN, Hattsv. 2: 83. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 340. 1889—COOKE, Grev. 14: 110. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 303. 1888—ROMELL, Ark. Bot. II, 3: 13. 1911—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 252. 1925; Hymen. Fr. 672. 1927—PILÁT, Bull. Soc. Myc. 51: 385. 1935.

（青島，林.試.研.報. 59: 58(64), *f. 3, pl. 1, f. 3.* 1953)

Polyporus rixosus KARST. Myc. Fenn. 3 : 372. 1876.

Chaetoporus rixosus BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 51. 1941.

子實體は1年生或は多年生，島嶼狀塊として基物下面に現われ，廣く擴布して，10cm 內外に至る，革質，緣は淡鮭肉色にて無性，幅 0.5mm 內外，粉毛狀なり，基層は革質，汚濃桃色乃至赤褐色を呈し，厚さ 0.2—0.3mm，子實層托の實質は同質，同色，孔口は圓形乃至多角形，1mm 間 5—9 個，孔壁は比較的薄し，胞子は圓筒形，少しく屈曲し，平滑，無色，5—6×1—2μ，囊狀體は多く存在し，30—45×8—15μ，基部は殆ど埋在し，全表面に微細なる結晶を被むる。

所在及產地

針葉樹（コメツガ）枯倒木皮上

本州—歐. 北米. 亞(西比)

和名 ツガノニクイロアナタケ

（栂肉色孔茸）〔青島〕

Poria epimiltina (BERK. et BR.) LLOYD

キゾメタケ

LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1209. 1927; STEVENSON & CASH, New. Fung. Names Lloyd, 140. 1936—WAKEFIELD, Kew Bull. 1934 : 249. 1939.

Polyporus epimiltinus BERK. et BR. Jour. Linn. Soc. 14 : 54. 1875—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. Perad. 6 : 104. 1916.

Fomes epimiltinus COOKE, Grev. 15 : 51. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 207. 1888.

Poria aurantiotingens ELL. et MACBR. Bull. Lab. Nat. Hist. Univ. Iowa, 3(2) : 191. 1896.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61 : 6, 7. 1916—安田，植. 雜. 30 : 241. 1916; 31 : 49. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 302. 1927—原，日. 菌. 目. 283. 1954)

Tinctoporia aurantiotingens MURR. N. Am. Fl. 9 : 14. 1907.

子實體は全背着，固着して剝離し難し，木質を帶び，甚だ薄く，廣く擴布し，徑 6—10cm，厚さ約 2.5mm，周緣は橙黃色にて最外部は紫褐色に緣取らる，肉は橙黃色，管孔部は灰色，管長は長く，孔口は小多角形，全緣，孔壁薄し，胞子は楕圓形，平滑，無色，約 3.5×2μ，囊狀體なし，着生材を濃橙黃色に着色する特徵を有す。

所在及產地 樹材上

小笠原島—亞(錫. 馬. 印. 比)北米. 阿

和名 キゾメタケ（黃染茸）〔安田〕

Poria cocos (FR.) WOLF

ブクリヨウ

WOLF, Jour. Elischa Mitch. Soc. 38 : 127. 1922—WEBER, Mycologia, 21 : 113, *f. 1—5*. 1929.

（田中，植. 雜. 2 : 239. 1888—日野，植. 硏. 雜. 13 : 672, *f. 1—2*. 1937—橋本，植. 硏. 雜. 13 : 824, *f. 1—4*. 1937—今關，日. 隱. 植. 圖. 423, *pl. 202*, *f. 2—3*. 1939—小林，Nagaoa，2 : 120, *f. 75*. 1952—原，日. 菌. 目. 284. 1954)

Hoelen RUMPHIUS, Herb. Amb. 11 : 123. 1755—FRIES, Syst. Myc. 2 : 243. 1823.

Lycoperdon solidum CLAYTON, Fl. Virg. 176. 1762.

Sclerotium Cocos SCHW. Fung. Carol. 30. 1822.

Pachyma Cocos FR. Syst. Myc. 2 : 242. 1823; Elench. Fung. 2 : 39. 1828—SACCARDO, Syll. Fung. 8 : 908. 1889.

（原，日. 菌. 目. 233. 1954)

Pachyma Hoelen SACC. Syll. Fung. 8 : 908. 1889.

（白井，日. 菌. 目. 61. 1905; ed. 2. 405. 1917; ed. 3. 243. 1927—安田，植. 雜. 26 : 120. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53 : 8. 1914; Lett. 60 : 8. 1915—川村，日. 菌. 圖說，*n. 172*. 1930—HINO, Bull. Imp. Miyazaki Agr. For. Coll. 2 : 1. 1930—原，日. 菌. 目. 233. 1954)

菌核は地下約 10—30cm に於ける松其他の根上に形成され，球形，楕圓形，甘藷形等の不定形の大塊をなし，長徑 30cm 以上，重量 1kg に達するものあり，表面は赤褐色乃至黑赤褐色，粗皺あり，時に根皮を被むる，內部は白色にて淡紅色を帶び乾酪質なるも，乾時略々白色となる，表層は錯綜せる菌絲よりなり，內に菌絲の先端膨脹せる卵形乃至不正卵形の顆粒體を混在す，內部はこの顆粒體と板狀の粘質物とに充たされ，菌絲に乏し，これ等の組織は沃度によつて濃赤褐色を呈す，菌核の表面に子實體を生ず，子實體は全背着にて傘を作らず，全體白色にて管孔を密生す，管孔は長さ 2—20mm，孔口は圓形乃至多角形，徑 0.5—2mm あり，口緣



第 173 圖 ブクリヨウ *P. cocos*（今關氏による）

は稍々歯牙状を呈す，肉は極めて薄く，淡肉桂色乃至白色なり，胞子は圓柱狀，少しく屈曲し，1端尖り，平滑，無色，7.5—9×3—3.5μ。漢薬として利用さる。

所在及産地

松其他の根上　全土—北米.亜(支)

和名 ブクリヨウ（茯苓）〔漢名〕，

マツホド（松塊芋）〔方言〕

〔**因記**〕上記の記載は今關氏によつて記せるものにて，日野巖，橋本亮兩氏は各々茯苓菌核上に子實體を生ぜしめたり，然れども小林義雄氏は菌核内の白色組織を取りて培養せる結果之れに生ぜる子實體は全く異なり“葉狀或は扇形に擴りて直立し數個宛集り束狀をなす，高さ1—1.5cm 幅5—8mm，厚さ1mm 足らず，上縁は次第に薄くなり細かく裂ける。質は薄いため膜狀をなすが，相當に丈夫で，むしろ革質と云うてよい，兩面ともに少しく縱皺があるが，略々無毛，平滑，無光澤，類白色，後に少しく黃褐色となる，基部は短柄狀をなす，子實層は兩面に發達する，但し側絲狀の細胞が多く，棍棒狀，紡錘形或は圓筒狀で徑5μ位，擔子基は4梗（稀に2）を具う，胞子は長楕圓體又は圓筒狀，不等側，基部に突起あり，無色，平滑，大さ7—9×3—3.5μ，1個の油滴を具えていることが多い，トラマは菌絲層よりなり，その菌絲は太さ3.5—4μ，隔壁多く密に織られる”旨を發表された，尙同氏は“試驗管內の子實體はアブノーマルなものの場合が多いから，これによつて結論を下すことは出來ないが WEBER の場合とは大分異る”こと及日本では赤松，北米では種々な廣葉樹につく事も注意すべきであることを記述されたり，之れ等の點については後來の研究を要す。

Fuscoporia MURR. emend. CUNNING.
サビアナタケ屬

MURRILL, N. Am. Fl. 9: 3. 1907—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 73: 2. 1948.

Physisporus CHEVALLIER, Fl. Par. 1: 261. 1826. pr. p.

Fuscoporella MURRILL, N. Am. Fl. 9: 6. 1907.

Fomitiporia MURRILL, N. Am. Fl. 9: 8. 1907.

Fomitiporella MURRILL, N. Am. Fl. 9: 12. 1907.

Tinctoporia MURRILL, N. Am. Fl. 9: 14. 1907.

Melanoporella MURRILL, N. Am. Fl. 9: 14. 1907.

Melanoporia MURRILL, N. Am. Fl. 9: 14. 1907.

子實體は全背着，皮膜狀，子實層托は管孔狀或は迷路狀，有層或は1層なり，肉は暗色，2菌絲型にて，菌絲は黃色或は栗褐色，KOH 液によりて濃色となる，菌絆を有せず，胞子は平滑，無色或は褐色。（本屬名は fuscus（暗褐色）poria（屬名）より出づ）

基準種　*F. ferruginosa* (SCHRAD. ex FR.) MURR.

〔**因記**〕本屬は肉色及菌絲の狀よりキコブタケ族の菌と關係深きを認められ既にその關係の證明せられたるものあり，その內便宜上次の檢索表中に載せたるものあり。

本邦既知種檢索表

A. 剛毛體なし。

a. 針葉樹上生，子實體は多年生木質，明に有層にて甚だ厚し，胞子は無色，球形或は類球形，5—8μ。　モミサルノコシカケ

Phellinus hartigii (***F. tsugina***) (373)

b. 廣葉樹上生。

α. 胞子は褐色，球形或は楕圓形，5—6×3—4.5μ，嚢狀體なし。

チヤアナタケ ***F. inermis*** (220)

β. 胞子は無色，球形或は類球形，5—6μ，嚢狀體あり。

チヤアナタケモドキ ***F. punctata*** (220)

B. 剛毛體あり。

a. 體內に剛毛狀菌絲を有す。

α. 管孔有層，剛毛體は褐色，40—60×6—8μ，胞子無色，球形或は類球形，4.5—5.5×3.5—4μ。針葉樹上生。

エゾサビイロアナタケ ***F. weirii*** (220)

β. 無層，剛毛體は暗褐色，20—25×6—9μ，胞子無色或は淡褐色，7—10×6—8μ。カバ樹上生。カバアナタケ　***F. obliqua*** (221)

b. 剛毛狀菌絲なし。

α. 剛毛體は多生。

I. 剛毛體は24—45μ抽出，胞子6—7×2—2.5μ。廣針葉樹上生。

オオサビアナタケ ***Phellinus isabellinus*** (***F. veticola***) (378)

II. 剛毛體は11—30μ抽出，胞子4—5×2.5—4μ。主に廣葉樹上生。

サビアナタケ ***F. ferruginosa*** (221)

β. 剛毛體は稀に存す。

I. 剛毛體は8—21×4—5μ，胞子3—5×3—4μ。主にカバ上生。

キコブタケ ***Phellinus igniarius*** (***F. laevigata***) (374)

II. 前者より更に剛毛稀にて，短く，8—13×4—5.5μ，胞子4—5×3—4μ。主にサクラ上生。チヤサクラアナタケ

F. prunicola (222)

Fuscoporia inermis (ELL. et EV.) CUNNING.
チヤアナタケ

CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 73 : 12, *pl. 1, f. 10.* 1948.

Poria inermis ELL. et EV. Proc. Acad. Nat. Sci. Philad. 1894 : 322. 1894—SACCARDO, Syll. Fung. 11:94. 1895—OVERHOLTS, Bull. Torr. Bot. Club, 50:247, *f. 2, pl. 14, f. 5—7.* 1923—BAXTER, Pap. Mich. Sci. Arts Lett. 19 : 324, *pl. 59, f. 2.* 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917—安田, 植. 雜. 32:263. 1918—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 302. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 423, *pl. 302, f. 1.* 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 284, *f. 96—97.* 1945—原, 日. 菌. 目. 284. 1954)

Fomitiporella inermis MURR. N. Am. Fl. 9:13: 1907.

子實體は多年生, 堅緻なるも木質又は木栓質ならず, 廣く擴布し, 時に長さ1mに及ぶ, 乾時或は老品に於ては深き龜裂を生ず, 多くは枯立木の幹上に生じ, 剝離し難し, 緣は狹く無性にて幅0.5—1mm, 老時壺色を呈す, 管孔部の外緣は黑色となり幅5mmに及ぶ緣を作りて, 乾時この緣は自然に基物より分離す, 基層は薄くして, 通常厚さ0.5mmより少くして顯著ならず, 褐色を呈す。子實層托は多くは斜生し, 層なく, 長さ1—4mm, 孔口は暗黃褐色乃至類肉桂色にて, 黑黃褐色に褪色す, 類圓形乃至類角形, 孔壁薄く, 全緣, 1mm間平均4—6ケあり, 擔子柄は13×2—6μ, 胞子は球形或は楕圓形にて1側扁平, 平滑, 褐色, 5—6×3—4.5μ, 剛毛體なし, 菌絲は褐色, 徑2—3μ, 多くは分岐せず, 隔膜は淡褐色の菌絲に存し, 菌絆なし, 材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹枯木上　　本州, 四國—北米. 濠

和名 チヤアナタケ (茶孔茸) 〔安田〕

Fuscoporia punctata (FR.) CUNNING.
チヤアナタケモドキ

CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 73 : 11, *pl. 1, f. 9.* 1948.

Polyporus punctatus FR. Hymen. Eur. 572. 1874.

Poria punctata KARST. Hattsv. 2 : 83. 1882—COOKE, Grev. 14 : 111. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:309. 1888—OVERHOLTS, Mycologia, 23: 119, *pl. 12, f. 3, pl. 14, f. 15, 17.* 1931—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 21:251, *pl. 32, f. 1.* 1936—LOWE, Lloydia, 11 : 167. 1948.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1125. 1922)

Fomitiporia obliquiformis MURR. N. Am. Fl. 9 : 8. 1907.

Fomitiporia laminata MURR. N. Am. Fl. 9 : 11. 1907.

Poria Friesiana BRES. Ann. Myc. 6 : 40. 1908—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 328. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 243. 1925—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:233. 1935.

Poria laminata SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 336. 1912.

Poria obliquiformis SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 333. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1296. 1924)

子實體は多年生, 着生物上に擴布し, 固着して決して剝離せず, 乾時屢々龜裂す, 厚さ, 0.5—10mm, 緣は幅狹く, 幼品にては0.5—1mm, 古品にては多くはなし, 基層は薄く, 老時大部分消失す, 管孔は長さ各季0.5—3mm, 速に白色菌絲に塡充さる, 孔口は淡褐灰乃至暗黃褐色, 圓形, 厚膜, 全緣, 1mm間平均4—7, 多くは5個, 孔壁44—99μ, 擔子柄は膨脹し, 9—13×7—8, 多くは9×7μ, 無色, 2—4小柄あり, 胞子は球形或は類球形, 平滑, 無色, 徑5—6μ, 1油球あり, 剛毛體なし, 囊狀體狀菌絲は膨大或は球根狀基部を有し, 子實層面より抽出す。菌絲は褐色, 波曲し, 稀に有隔, 菌絆なし, 徑2—4μ。材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹立枯幹上　　本州—歐. 北米. 濠

和名 チヤアナタケモドキ (擬茶孔茸) 〔安田〕

Fuscoporia weirii (MURR.) AOSHIMA
エゾサビイロアナタケ

AOSHIMA, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 59 : 61, (64), *f. 5, pl. 2, f. 1—3.* 1953.

Fomitiporia Weirii MURR. Mycologia, 6 : 93, *pl. 122.* 1914—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 19 : 329, *pl. 65, f. 1—2.* 1931.

Poria Weirii SACC. et TROTT. Syll. Fung. 23: 430. 1925—OVERHOLTS, Mycologia, 23 : 122, *pl. 12, f. 1, 7, pl. 13, f. 9, 11, 13.* 1931.

子實體は1年生或は多年生, 倒木下面に廣く擴布し, 木栓質, 黃褐乃至焦茶色, 厚さ5—10mm, 剝離す, 緣は無性, 微毛狀, 幼時幅1—2mm, 老時屢々消失す, 基層は肉桂色, ホクチ狀, 普通幅1mm, 子實層托實質は基層と異質, 木栓質, 有層, 長さ各季2—5mm, 白色塡充物なし, 管孔層は容易に離る, 孔口は淡褐灰色乃至汚褐灰色, 多角形, 熟時薄壁, 全緣, 1mm間4—5個, 擔子柄は10—13×4—7μ, 胞子は球形或は類球形, 平滑, 無色, 4.5—5.5×3.5—4μ, 剛毛體は厚膜, 褐色, 微細なる結晶を被むる, 先端に向つて狹細す, 40—60×6—8μ, 剛毛狀菌絲多數埋在す。菌絲は時

に分岐し，隔膜あり，菌絆なし。材の輪狀腐朽を起す。

所在及産地

針葉樹枯倒木上　　　北海道，本州―北米

和名 エゾサビイロアナタケ

（蝦夷銹色孔茸）〔靑島〕

Fuscoporia obliqua (PERS. ex FR.) AOSHIMA

カバアナタケ

AOSHIMA, Bull. Tokyo Univ. Forests, 39:206, *f. 1—2, pl. 2—3.* 1951.

（千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43:33. 1952）

Boletus obliquus PERS. Syn. Meth. Fung. 548. 1801.

Polyporus obliquus FR. Syst. Myc. 1:378. 1821; Elench. Fung. 1:115. 1828; Epicr. Myc. 482. 1838; Hymen. Eur. 570. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:419. 1844—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 271. 1876—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 11:398. 1882—WINTER, Pilze, 1:414. 1884.

Polyporus incrustans PERS. Myc. Eur. 2:93. 1825.

Physisporus obliquus GILL. Champ. Fr. 700. 1874.

Poria obliqua KARST. Hattsv. 2:81. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 339. 1889—QUÉLET, Enchir. Fung. 178. 1886—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:76. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 356. 1908—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1041. 1916—REA, Brit. Basid. 606. 1922.

（原，日. 菌. 目. 284. 1954）

Fomes obliquus COOKE, Grev. 14:21. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:206. 1888.

Phaeoporus obliquus SCHROET. Pilze Schles. 1:489. 1888.

Xanthochrous obliquus BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41:274. 1925; Hymen. Fr. 642. 1928.

菌核體は樹幹の傷部より破出し，不定形の塊狀となり，通常徑 5—50 cm，表面は初め黃褐色，後黑色となり，光澤あり，著しく凹凸ありて多數の裂目を有す，肉は黃褐色，2種の組織が不規則に入り亂る，1は比較的黃色にて一定方向に排列する有隔菌絲より成り，各菌絲は徑 5—6 μ，黃褐色の色素を含む，他は短徑の厚膜菌絲が僞柔組織をなす，表層は菌絲互に膠着し，本來の形態を失い堅牢なる組織となる，菌核體內部に特有なる暗褐色の剛毛狀菌絲が不規則に迷走す，100—250×5—10 μ。子實體は稀に形成され，初め樹皮下に生じ，脫皮後表出す，廣く擴布し，大さ種々あり，初め白色，後黃色を經て淡褐色乃至褐色となる，管孔の長さ 2—8 mm，孔口は 1 mm 間 3—5 個，擔子柄は楕圓形，6—10×4—6 μ，胞子は無色乃至淡褐色，7—10×6—8 μ，子實體組織中に暗褐色にて尖頭の剛毛狀菌絲迷走す，長さ 100—420 μ，幅 5—11 μ，剛毛體は暗褐色，厚膜，20—25×6—9 μ，心材白色腐朽を起す。

所在及産地 カバ (*Betula*) 類樹幹上

北海道，本州―歐. 北米

和名 カバアナタケ（樺孔茸）〔靑島〕

Fuscoporia ferruginosa (SCHRAD.) MURR.

サビアナタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9:5. 1907.

Boletus ferruginosus SCHRAD. Spic. Fl. Germ. 172. 1794—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 544. 1801—FRIES, Obs. Myc. 2:264. 1818.

Polyporus ferruginosus FR. Syst. Myc. 1:378. 1821; Elench. Fung. 1:115. 1828; Epicr. Myc. 483. 1838; Hymen. Eur. 571. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:89. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 146. 1836; Outl. Brit. Fung. 249. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:418. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:233. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 18. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:280. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:284. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:271. 1876—WINTER, Pilze, 1:413. 1884.

Poria ferruginosa KARST. Hattsv. 2:82. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 339. 1889—COOKE, Grev. 14:114. 1886; Handb. Austr. Fungi, 156. 1892—QUÉLET, Enchir. Fung. 178. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:327. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1038. 1916—W. G. SMITH, Brit. Basid. 356. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 187. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 57. 1914—OVERHOLTS, Mycologia, 14:5, *f. 3—4, pl. 1, f. 3—4.* 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:245. 1925—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:401, *pl. 39, f. 5.* 1931—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 19:323, *pl. 62, f. 2, pl. 64.* 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:232. 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67:11. 1918; Lett. 68:7. 1918—安田，植. 雜. 32:303. 1918—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 302. 1927—原，日. 菌. 目. 284. 1954)

Physisporus ferruginosus GILL. Champ. Fr. 699. 1874.

Polyporus Macouni PECK, Bot. Gaz. 4:169. 1879.

Polyporus dichrous var. *Macouni* SACC. Syll. Fung. 6:126. 1888.

Fomes ferruginosus MASS. Brit. Fung. Fl. 1: 227. 1892; Brit. Fungi, 379. 1911—REA, Brit. Basid. 594. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 458.* 1927.

Poria Macouni OVERH. Bull. N.Y. St. Mus. 71: 86. 1917.

Phellinus ferruginosus PAT. Ess. Tax. 97. 1900—BOURDOT et GALZIN, Hymen. Fr. 1 : 625, *f. 177*. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. 49:271. 1933; 52 : 316. 1936.

子實體は1年生或は多年生，木栓質，無皮材或は樹皮上に時に 3m に及ぶ程廣く擴布するも普通 0.5 m より多からず，厚さ 0.5—6mm，緣は幼時幅 0.5—1mm，初め無性なるも熟時有性となる，基層は通常厚さ 1mm より多からず，肉桂色，子實層托は無層或は有層，各季の長さ 1—2.5，多くは 1—2mm，樹皮上に生ぜる時は幾分疊生す，孔口は暗褐色乃至褐色，普通光澤なし，乾燥標品に變化なし，類角形乃至類圓形，1mm 間 3—6，多くは 4—5 個，孔壁は熟時薄し，擔子柄は4小柄を有し，10—14×4—5 μ，胞子は球形或は楕圓形，平滑，無色，4—5×2.5—4μ。剛毛體は多數に存在し，鋭尖頭，褐色，普通 11—30μ 抽出し，時に 40μ に及ぶ，基部徑 4—8μ，菌絲は褐色，分岐せず，隔膜なく，菌絆なし，徑 2—4 μ。材の白腐を起す。

所在及産地 主に廣葉樹枯立木上

本州—歐.北米.亞(西比)

和名 サビアナタケ（銹孔茸）〔安田〕

Fuscoporia prunicola (MURR.) AOSHIMA

チヤサクラアナタケ

AOSHIMA, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 46 : 160 (165), *pl. 1, f. 3*. 1950.

Fomitiporia prunicola MURR. N. Am. Fl. 9:9. 1907.

Poria prunicola SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 331. 1912—OVERHOLTS, Mycologia, 23 : 118, *pl. 12, f. 2,6, pl. 13, f. 8*. 1931—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 19 : 326, *pl. 61*. 1934.

子實體は多年生，初め圓形に表われ，後互に癒合し，廣く擴布し，時に 3m に及ぶ，多くは固着するも，屢々緣邊僅か基物より遊離す，厚さ 15mm 又はそれ以上に及ぶ，緣は狹く，幅 0.5mm，毛狀にて，初め菑色，老時消失す，かかるものに於ては古き緣及び緣に近き管孔は灰色或は淡灰色乃至帶黑色となる，基層は薄く，普通厚さ 0.5mm より少く，老時消失す。子實層托は長さ各季 1—2mm，古層のものの內部は白色なり，不明瞭の層を有す，孔口は灰褐色，褐色乃至焦茶褐色にて，風化して灰色となる，類圓形，厚壁，全緣，1mm 間平均 4—6 個，擔子柄は 8—10×4—6μ，胞子は楕圓形或は球形，平滑，無色，4—5×3—4μ，剛毛體は稀に存在し，一般に短く，8—13×4—5.5μ，菌絲は褐色，分岐なく，隔膜及菌絆なし，徑 2μ。材の白腐を起す。

所在及産地

主にサクラ (*Prunus*) 枯木上

北海道，本州—北米

和名 チヤサクラアナタケ（茶櫻孔茸）〔青島〕

疑 問 種

Poria fatiscens (BERK. et RAV.) COOKE

(安田，植. 雜. 35:11. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 302. 1927—原，日. 菌. 目. 284. 1954)

Poria glaucogilva LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1346. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 140. 1936.

Poria ornata (PECK) SACC.

(安田，植. 雜. 35:205. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3, 302. 1927—原，日. 菌. 目. 284. 1954)

Poria sinuosa (FR.) COOKE

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1922)

Poria subspadicea (FR.) COOKE

(白井，日. 菌. 目. ed. 2, 495. 1917; ed. 3, 303. 1927—原，日. 菌. 目. 284. 1954)

Poria Tulipiferae SCHW.

(安田，植. 雜. 38:146. 1924—白井，日. 菌. 目. ed. 3, 303. 1927—原，日. 菌. 目. 284. 1954)

II. Polyporeae サルノコシカケ族

Aphyllophoraceae, subfam. *Polyporoideae* DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 116. 1933.

子實體は裸實にて子實層面に包膜を有することなし，傘肉は肉質，革質，木栓質或は木質等種々あり，種々の色を呈するも通常黃褐色を呈せず，子實層托の肉卽ち實質は傘肉と同質或は異質にて，剛毛體母菌絲なく從つて剛毛體なし，胞子は無色にて膜は1重なり。

本族は本科の主體となるものにて多數の屬を包含す，本族がキコブタケ族と最も異なる性質は傘肉が黃褐色を呈せずして，子實層に剛毛體を作らざるにあり，然れ共或屬卽ちキカイガラタケ屬 (*Gloeophyllum*) ツリガネタケ屬 (*Fomes*) 等に於ては稍々キコブタケ族と類似の色を呈するも，色調の系統に稍々異なるところあり，其菌全般の性質を考慮せば所謂褐色菌に屬するものに非ざるを知るべし。

亜族檢索表

A. 子實體は無莖或は殆ど無莖。

a. 傘面に著しき皮殼なし。

α. 傘肉は木栓質，實質と同質。

1. ホウロクタケ亞族 **Trametinae** (223)

β. 傘肉は革質にて薄く實質と略々同質。

2. カワラタケ亞族 **Coriolinae** (253)

γ. 傘肉は靱肉質，實質と異質。

3. オシロイタケ亞族 **Tyromycetinae** (273)

b. 傘面に通常皮殼あり。

α. 傘肉は稍々肉質，乾時輕き木栓質。

4. カンバタケ亞族 **Piptoporinae** (293)

β. 傘肉は殆ど木質，多くは多年生，時に殼皮を缺く。

5. ツリガネタケ亞族 **Fomitinae** (298)

B. 子實體は有莖。

a. 傘肉は靱肉質，耐乾性，樹上生。

6. ハチノスタケ亞族 **Fovolinae** (317)

b. 傘肉は肉質，早腐性，樹上又は地上生。

7. タマチョレイタケ亞族 **Polyporinae** (330)

1. Trametinae ホウロクタケ亞族

子實體は1年生又は時に多年生，無莖，稀に有莖，樹上生，傘は無皮無殼，稀に有皮，表面は平滑或は有毛，傘肉は木栓質，子實層托は管孔狀なるも概して變形し易く，迷路狀或は褶狀をなすもの多し，實質は傘肉と同質，胞子は無色，平滑。

本亞族は傘肉が木栓質なること，及び傘肉と實質とが同質なるを主要なる特徴とするもカワラタケ亞族との限界稍々不明瞭なり，然れ共大體に於て本亞族の菌は厚肉にて管孔比較的大形，孔壁厚く，尙縱斷面に於て管孔の上端が同一面に終らざる觀を呈すること及び管孔の剝れて變形することをも特徴とす，傘面は殆ど無皮無殼なるも，チヤアミタケ屬 (*Daedaleopsis*) カドアナタケ屬 (*Hexagona*) にては稍々發達す，又カワラタケ亞族に屢々認めらるるが如き下皮を有せず。但し只一屬カイガラタケ屬(*Lenzites*)のみに下皮を有す。

屬檢索表

A. 無皮無殼。

a. 傘肉は2重構造ならず。

α. 傘肉は木栓質，白，木材，朱色等，孔口は圓形或は迷路又は褶狀，囊狀體なし。

ホウロクタケ屬 **Trametes** (223)

β. 傘肉は革質又は木栓質，概して黃褐色，孔口は褶狀或は管孔狀，屢々囊狀體あり。

キカイガラタケ屬 **Gloeophyllum** (237)

b. 傘肉は2重にて上層海綿質，下層革質，木材色，孔口は迷路狀或は不整形，囊狀體なし。

ニクウチワタケ屬 **Daedalea** (243)

B. 下皮を有す。傘肉は木栓又は革狀木栓質，類白色，孔口は褶狀，子實層に菌絲突起あり。

カイガラタケ屬 **Lenzites** (245)

C. 著しからざる皮殼稍々發達す，囊狀體なきも屢々刺狀體を有す。

a. 傘肉は木栓質，肉桂乃至栗褐色，孔口は蜂窩狀或は類圓形。

カドアナタケ屬 **Hexagona** (246)

b. 傘肉は木栓質乃至革質，類白乃至木材色，孔口は圓，多角或は迷路狀乃至褶狀。

チヤアミタケ屬 **Daedaleopsis** (247)

Trametes Fr. emend. Imaz.
ホウロクタケ屬

Fries, Fl. Scand. 339. 1835; Epicr. Myc. 488. 1838. pr. p.—Imazeki, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 72. 1943.

Coriolellus Murrill, Bull. Torr. Bot. Club, 32: 481. 1905.

Cubamyces Murrill, Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 480. 1905.

Daedalea Persoon ex Fries, Auct. plur. pr. p.

Funalia Patouillard, Ess. Tax. 95. 1900.

Pycnoporus Karsten, Rev. Myc. 3(9) : 18. 1881.

子實體は1年生又は時に多年生，無莖にて屢々背着，傘は扁平或は蹄形，表面は無毛，平滑又は有毛，殼皮，下殼或は下皮等を形成せず，肉は白色，材木色，朱色等にて木栓質を帶ぶるを型的とす。子實層托は管孔狀或は褶狀，1層又は不明瞭なる層を有す，實質は肉と同質にて厚し，孔口は小乃至大形，圓形，迷路形又は溝狀に崩れ易し，囊狀體なし，胞子は無色，平滑，樹上生。

(本屬名は trama (緯) より出づ)

基準種　*T. suaveolens* Fr.

〔因 記〕 Fries 式分類に於ては管孔の形態に特に重點を置きたるところなるも，これ只外見的類似に留まり，しかも管孔の形狀は極めて變化し易く屬的基準として，さまで重視すべきに非らず，その菌の

諸般の性質を勘案し，その綜合的性質を以て行うを妥當とさるるに至れり。然れども FRIES 氏の *Trametes* 屬は比較的安定なるものと認められ，その大部分の種は存續せられ，少数の革質にてキカイガラタケ(*G. sepiarium*)に近縁なるものは *Gloeophyllum* 屬（例えば *Trametes odoratum, trabeum*）に，著しからざる皮殻を有し肉の褐色のものは *Daedaleopsis* 屬（例えば *Tr. confragosa*）に，更に傘肉薄く革質，肉桂色，下殻のあるものは *Antrodia* 屬（例えば *Tr. mollis*）に移され，又從來他屬，卽ち *Daedalea* 屬となしたるものにて下皮を有せざるもの（例えば *D. kusanoi*），*Lenzites* 屬として褶狀の管孔を有するものにて２重組織ならざるもの（例えば *L. acuta, tenuis*），更に薄肉の故を以て *Polystictus* 屬に收められたるもの（例えば *P. orientalis, sanguinea*）等は *Trametes* に移さるることとなれり。

以上記するところは今關氏の分類式に從つて述べたるところにて，學者によりて意見を異にするものあるは當然にて，殊に PILÁT 氏の *Trametes* 屬の範圍の如きは極めて廣汎に亘り *Daedalea, Lenzites, Hexagona, Hirschioporus, Irpex, Polystictus, Coriolus* 等を含めつつあり。

本邦既知種檢索表

A. 子實體は坐生或は半背着生。

a. 傘肉は白色，材色等淡色にて朱赤色或は褐色ならず。

α. 胞子 8μ より長く，多くは圓筒形或は長楕圓形。

Ⅰ. 傘面無毛或は微細毛を被むる。

1. 子實體菌絲に菌絆なし，傘面白色乃至灰色，厚肉，孔口圓形，臭强し，ヤナギに生ず。

シロアミタケ ***T. suaveolens*** (225)

2. 子實體菌絲に菌絆あり。

甲. 子實層托は管孔狀にて少しく亂るるものあり。

イ. 傘は多數重疊群生し階段狀をなし，厚さ薄く，放射狀短纖維毛あり，卵黃色乃至肉桂色，環紋不明瞭。

キイロダンアミタケ ***T. flavescens*** (226)

ロ. 傘は棚狀にて疊生の度少く，厚肉，軟毛あり，黄乃至黄褐色，環紋あり。

ダンアミタケ ***T. serialis*** (226)

乙. 子實層托は迷路狀或は褶狀をなす。

イ. 傘は扁平或は稍々蹄形，表面平滑，通常環薄あり，白色或は材色，群生重疊す，用材上。

ヒメシロアミタケ ***T. albida*** (227)

ロ. 傘は通常蹄形，表面に放射狀皺襞ありて粗澁，環溝著しからず，通常白色，時に乾時帶黄色，枯幹上。

ミヤマシロアミタケ

T. heteromorpha (228)

Ⅱ. 傘面に粗剛毛を被むる。通常多數疊生，傘は厚肉，緩き環溝あり，孔口圓形乃至角形。

ウサギタケ ***T. trogii*** (228)

β. 胞子小形，8μ 以下。

Ⅰ. 子實層托は迷路狀乃至長圓形。

1. 傘面無毛。

甲. 表面通常材色，往々汚褐色，孔口通常圓形にて時に迷路狀，傘面に扁平なる疣を散生すること多し。

ホウロクタケ ***T. dickinsii*** (229)

乙. 表面暗褐乃至暗紫褐色，孔口前者より小にて圓形，傘面平滑。

ヒメホウロクタケ ***T. purpurea*** (230)

2. 傘面微細毛を被むる。

甲. 子實層托は常に迷路狀，傘面白色乃至淡材色，不明瞭なる環紋あり。

オオミダレアミタケ ***T. kusanoana*** (230)

乙. 子實層托は長角形孔口を作り放射狀に列び，迷路狀或は溝狀のものを混在す，明かなる環溝あり。

オオチリメンタケ ***T. gibbosa*** (230)

Ⅱ. 子實層托は溝狀或は褶狀。

1. 子實層托は狹溝狀或は迷路狀，表面白色にて褐斑あり。

チリメンタケ ***T. palisoti*** (231)

2. 子實層托は完全なる褶狀，表面灰白色にて薄墨色の汚斑あり。

オオカイガラタケ ***T. acuta*** (232)

Ⅲ. 子實層托は小圓形或は多角形。

1. 孔口中等大，多角形，傘面に放射狀皺襞と不明瞭の環薄あり。

甲. 傘は扇形，灰白色乃至黄白，通常淡き鼠色を帶ぶ，胞子圓柱狀。

クジラタケ ***T. orientalis*** (232)

乙. 傘は半圓形，淡褐色，胞子楕圓形。

カワラケタケ ***T. muelleri*** (233)

2. 孔口小圓形，傘は厚く，2.5 cm に及び，饅頭形，環紋なく，殆ど白色，胞子類球形。 エゾシロアミタケ

T. ljubarskyi (233)

b. 傘肉褐色系。

α. 傘面に鼠色或は暗色の粗剛毛あり，孔口稍々大にて角形，肉は淡褐色，胞子大。

カタシラガタケ ***T. hispida*** (234)

β. 傘面に微粉毛あり，材白，木栓乃至肉桂色，肉は同色，孔口圓形或は少しく亂る，胞子大，臭あり。

ニオイヒメアミタケ ***T.malicola*** (234)

γ. 傘面無毛，鼈甲色，肉は黄褐色を帶ぶ，孔口は小多角形，胞子小。

ヒメベッコウタケ ***T. aneba*** (234)

c. 傘肉は朱赤色，胞子小形。

α. 型的には傘厚く朱色，孔口 1mm 間 2—4，着生材面に於ける菌絲は明かなる朱色。

シュタケ ***T. cinnabarina*** (235)

β. 型的には傘薄く緋色，孔口 1mm 間 6—8，着生材面に於ける菌絲は濃き緋色。

ヒイロタケ ***T. sanguinea*** (236)

B. 子實體は全背着生。

a. 縁に白色帶あり，孔口中等大，胞子大形，10—17×4—6μ。ヘビアミタケ ***T. serpens*** (236)

b. 縁に褐色帶あり，孔口微細，胞子小形，4—5×1.5μ。

ヒメヘビアミタケ ***T. sendaiensis*** (237)

Trametes suaveolens (L.) Fr.

シロアミタケ

Fries, Epicr. Myc. 491. 1833; Hymen. Eur. 584. 1874—Rabenhorst, Deut. Krypt. Fl. 1:415. 1844—Berkeley, Outl. Brit. Fung. 253. 1860—Kickx, Fl. Crypt. Flandr. 2:221. 1867—Fuckel, Symb. Myc. 21. 1869—Cooke, Handb. Brit. Fungi, 1:286. 1871—Quélet, Champ. Jura Vosg. 1:287. 1872; Enchir. Fung. 182. 1886; Fl. Myc. 373. 1888—Gillet, Champ. Fr. 702, cum icone. 1874—Karsten, Hattsv. 2:50. 1882—Winter, Pilze, 1:403. 1884—Saccardo, Syll. Fung. 6:388. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1046. 1916—Massee, Brit. Fung. Fl. 1:195. 1892; Brit. Fungi, 387. 1911—Patouillard, Ess. Tax. 94. 1900—Bresadola, Ann. Myc. 1:80. 1903—Murrill, N. Am. Fl. 9:43. 1907; North. Polyp. 19. 1914—W. G. Smith, Brit. Basid. 364. 1908—Migula, Krypt.Fl. 3, Pilze, 2(1): 232. 1912—Ames, Ann. Myc. 11:243. 1913—Neuman, Polyp. Wisc. 38, *pl. 2, f. 9.* 1914—Overholts, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:140. 1914—Rea, Brit. Basid. 615. 1922—Bourdot & Galzin, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:164. 1925; Hymen. Fr. 589. 1928—Konrad & Maublanc, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 445.* 1930—Pilát, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:20. 1932; 49:264. 1933; 51:363. 1935; 52:310. 1936; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:292, *pl. 200.* 1939; Ann. Myc. 38:75. 1940—Lowe, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 96. 1934—Bondarzew & Singer, Ann. Myc. 39: 60. 1941.

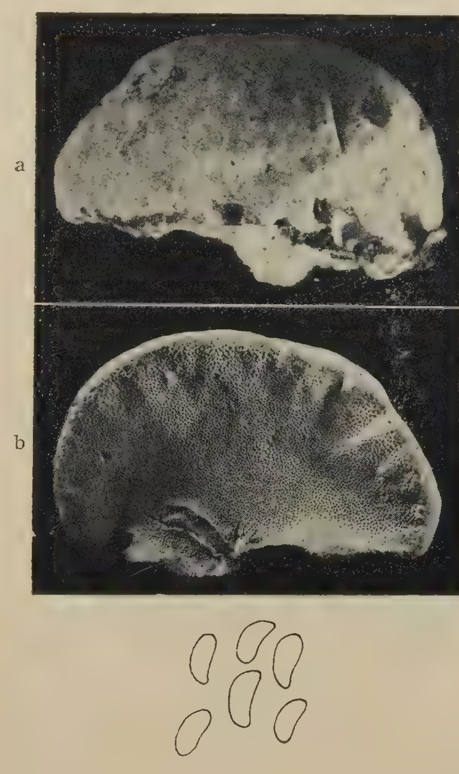
(安田，植. 雜. 33:298. 1919—Lloyd, Myc. Writ. 7: 1126. 1922—Imazeki, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:73. 1943; 植. 分. 地. 13:255. 1943—逸見及赤井，木. 腐. 菌學, 390, *f. 199.* 1945—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43:30. 1952—原，日. 菌. 目. 366. 1954)

Boletus suaveolens L. Sp. Plant. 2: 1177. 1753—Sowerby, Col.Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 228.* 1799—Persoon, Syn. Meth. Fung. 530. 1801—S. F. Gray, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:641. 1821. (non Bull.)

Polyporus suaveolens Fr. Syst. Myc. 1: 366. 1821; Elench. Fung. 1: 90. 1828—Berkeley, Engl. Fl. 5 (2) : 140. 1836—Schroeter, Pilze Schles. 1: 475. 1888.

Polyporus Itoi Lloyd, Myc. Writ. 7: 1274, *f. 2816.* 1924; Stevenson & Cash, New Fung. Names Lloyd, 108. 1936.

子實體は無莖，木栓質，傘は半圓形にて丸山形，



第174圖　シロアミタケ *T. suaveolens*
a. 子實體表面　b. 同裏面 × 7/10
c. 胞子 ×544　(大谷氏)

4—6×5—12×1—3cm，表面は白色乃至灰色或は僅か帯黄色，微細の軟毛を被むるか或は殆ど無毛，環紋なし，縁は薄く或は厚し，肉は白色或は淡色，緻密なる木栓質，乾時剛直，厚さ1—2cm，管孔は長さ0.5—1.5cm，孔口は圓形乃至僅か角形，1mm 間1—3個，口壁は厚く，白色，全縁，後薄くなり，老時屢々帯黒色，胞子は圓筒狀卵形，稍々屈曲，平滑，無色，8—9×3—5μ。材の白腐を起す。

所在及産地

ヤナギ (*Salix*) 枯樹，倒木上

北海道，本州—歐.北米.亞(西比.支)

和名　シロアミタケ (白網茸) 〔安田〕

Trametes flavescens BRES.

キイロダンアミタケ

BRESADOLA, Ann. Myc. 1:81. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 17:137. 1905; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1048. 1916—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:171. 1925; Hymen. Fr. 597. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51:363. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:296, *pl. 203b.* 1939.

(今關，植.研.雜. 15:447, *f. 14.* 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:73. 1943—千葉及寺本，東.大.演.林.報. 43:30. 1952—原，日.菌.目. 365. 1954)

Coriolellus flavescens BOND. et SING. Ann. Myc. 39:60. 1941.

子實體は半背着，疊生，傘は多數群生し階段狀をなす，幅5mm 內外，厚さ3—5mm，表面は放射狀短纖維毛を帶び，稍々粗糙，無皮無殼，環紋不明瞭，卵黄色乃至肉桂色，老時汚褐色，縁は鈍く，下方に强く彎曲す，肉は薄く，殆ど白色，多濕にて柔軟，乾時稍々脆き栓質，管孔は長さ1—3.5mm，實質は白色，子實體は乾酪色，孔口は圓形或は少しく亂れ，1mm 間2—3.5個，口縁は材白色乃至肉桂色，僅かに齒裂す。囊狀體なし，胞子は圓柱形，平滑，無色，7–12×2.5—3μ。

所在及産地

針葉樹倒木上　　北海道—歐.亞(西比)

和名　キイロダンアミタケ (黄色段網茸) 〔今關〕

Trametes serialis FR.

ダンアミタケ

FRIES, Hymen. Eur. 585. 1821—GILLET, Champ. Fr. 702. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:279. 1876; Hattsv. 2:50. 1882—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 13:281. 1884; Enchir. Fung. 183. 1886; Fl. Myc. 372. 1888—WINTER, Pilze, 1:402. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:337. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1047. 1916—PATOUILLARD, Ess. Tax. 92. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:81. 1903—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 233. 1912—AMES, Ann. Myc. 11:243. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 37, *pl. 3, f. 13.* 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:139. 1914—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:171. 1925; Hymen. Fr. 596. 1928—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:365, *pl. 30, f. 3.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 92. 1934—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51:363. 1935; 52:312. *f. 14.* 1936; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:314, *pl. 211—2a.* 1939.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67:11. 1918—安田，植.雜. 34:248. 1920—白井，日.菌.目. ed. 3. 394. 1927—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:73. 1943—原，日.菌.目. 366. 1954)

Polyporus serialis FR. Syst. Myc. 1:370. 1821; Elench. Fung. 1:92. 1828; Epicr. Myc. 476. 1838—PERSOON, Myc. Eur. 2:75. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:421. 1844.

Polyporus callosus FR. Syst. Myc. 1:381. 1821; Elench. Fung. 1:120. 1828; Epicr. Myc. 485. 1838; Hymen. Eur. 577. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:417. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 9:171. 1879—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:276. 1876—WINTER, Pilze, 1:408. 1884—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 295. 1891.

Polyporus scalaris PERS. Myc. Eur. 2:90. 1825.

Polyporus frustularis PERS. Myc. Eur. 2:91. 1825.

Physisporus callosus CHEV. in KARSTEN, Hattsv. 2:61. 1882.

Poria callosa COOKE, Grev. 14:110. 1886; Handb. Austr. Fungi, 154. 1892—QUÉLET, Enchir. Fung. 180. 1886; Fl. Myc. 382. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6:298. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:202. 1892; Brit. Fungi, 384. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 182. 1812—REA, Brit. Basid. 601. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65:6. 1917—安田，植.雜. 31:49, 245. 1917—白井，日.菌.目. ed.3. 302. 1927—原，日.菌.目. 284. 1954)

Pycnoporus serialis KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 308. 1889.

Coriolellus serialis MURR. N. Am. Fl. 9:29. 1907; North. Polyp. 10. 1914; South. Polyp. 11. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:60. 1941.

子實體は革質，乾時堅硬，著しく着生物上に擴布し，全背着或は半背着にて反轉して傘を作る。傘は甚だ狹く，互に横着して棚狀となる，0—2×1—15×0.3—1cm，傘面は壓着せる細密軟毛を被むり，環紋あり，黄色乃至黄褐色，傘縁は薄くして鋭く，波狀乃至淺裂し，同色，肉は薄くして，1mm 以下，

白色，管孔は長さ 2—8 mm，白色，孔口は白色乃至淡黄色，大さ及び形種々あり，圓形乃至角形，1 mm 間 2—3 個，孔壁の稜は初め厚くして全緣なるも，老時薄く齒狀となる，胞子は圓筒狀楕圓形，平滑，無色，7—9×2—3(4)μ，嚢狀體なし，材の褐腐を起す。

所在及産地

針葉及廣葉樹枯材上

本州—歐．北米．亞(西比)

和名 ダンアミタケ（段網茸）〔安田〕

Trametes albida (FR.) BOURD. et GALZ.
ヒメシロアミタケ

BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 167. 1925; Hymen. Fr. 591, *f. 168*. 1928 (non *Tr. albida* (SCHAEFF.) FR. Summa Veg. Scand. 324. 1845)—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 21. 1932; 51: 361. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 300, *pl. 205—6 a*. 1939; Ann. Myc. 38: 72. 1940.

(今關，植．硏．雜．15: 302, *f. 1—2*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 73. 1943; 及土岐，林．試．硏．報．67: 30. 1954—逸見及赤井，木．腐．菌學，391, *f. 200*. 1945—原，日．菌．目．365. 1954)

Daedalea albida FR. Obs. Myc. 1: 107. 1815; Syst. Myc. 1: 338. 1821.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1266. 1924)

Lenzites albida FR. Epicr. Myc. 405. 1838; Hymen. Eur. 493. 1891; Summa Veg. Scand. 315. 1845—QUÉLET, Enchir. Fung. 153. 1886—GILLET, Champ. Fr. 377. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2: 53. 1882—WINTER, Pilze, 1: 492. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5: 639. 1887; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 507. 1915—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 239. 1912.

? *Trametes sepium* BERK. Lond. Jour. Bot. 6: 322. 1847—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 342. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 92. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 81. 1903—NEUMAN, Polyp. Wisc. 37, 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 139. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 5: 850, *f. 1420*. 1919—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1 b: 94. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 6: 930. 1920—安田，植．雜．35: 240. 1921—白井，日．菌．目．ed. 3. 394. 1927)

? *Daedalea sepium* RAV. Fung. Car. 1: n. 21. 1852.

Cellularia albida KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 451. 1898.

? *Coriolellus sepium* MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32: 481. 1905; North. Polyp. 9. 1914; South. Polyp. 11. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 60. 1941.

Coriolellus Kusanoi MURR. Mycologia, 1: 165. 1909.

(野原，植．雜．24: 8, *f. 4, 6 d*. 1910—白井，日．菌．目．ed. 2. 173. 1917)

Irpiciporus Tanakae MURR. Mycologia, 1: 167. 1909.

(野原，植．雜．24: 6, *f. 1, 6 a*. 1910—安田，植．雜．28: 151. 1914)

Trametes Kusanoi SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21: 345. 1912.

(白井，日．菌．目．ed. 2. 659. 1917; ed. 3. 393. 1927)

Irpex Tanakae SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21: 378. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51: 4. 1914; 5, Lett. 66: 7, 10. 1917; Lett. 67: 10. 1918—中路，植．雜．30: 102. 1916—白井，日．菌．目．ed. 2. 299. 1917; ed. 3. 175. 1927—安田，植．雜．31: 48. 1917)

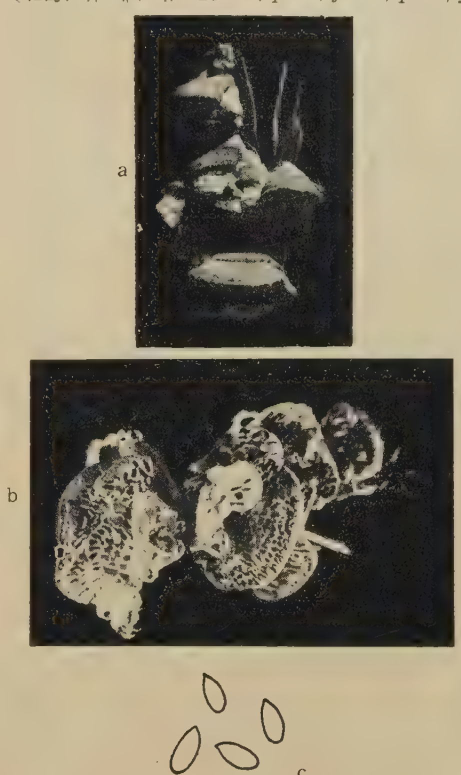
Lenzites Yoshinagai LLOYD, Myc. Writ. 7: 1108, *f. 2042*. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 93. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 6: 1096; 7: 1184. 1923)

Daedalea Kusanoi (non MURRILL) LLOYD, Myc. Writ. 7: 1331, *f. 3055*. 1924.

Trametes heteromorpha (non FRIES)

(北島，林．試．報．28: 21, *pl. 2, f. 13, pl. 7, f.*



第 175 圖 ヒメシロアミタケ *T. albida*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1 c. 胞子 ×612
(大谷氏)

14. 1928—今關, 日. 隱. 植. 圖. 471, *pl. 226, f. 1*. 1939)

子實體は無莖, 强靱革栓質, 極めて變化性に富む, 傘は通常半圓形にて貝殻狀なるも, 扁平より稍々蹄形に至る迄變化し, 群生疊生す, 横徑 1—5 cm, 厚さ0.2—1 cm, 屢々着生物の下面に大きく背着し緣邊長棚狀の傘に反轉す, 表面は白色乃至材褐色, 時に淡墨色の汚斑を有す, 微細なる密毛を被むるか或は殆ど平滑, 通常明瞭なる環溝を有す, 無皮無殼, 肉は厚さ 1 mm 内外, 白色乃至材白色, 子實層托は傘肉より稍々濃色, 孔口は圓形, 長溝狀, 迷路狀或は褶狀, 更に齒牙狀となり甚だ不定なり, 口緣は鈍く或は薄し, 胞子は圓壔形, 有嘴, 平滑, 無色, 6—16×3.5—7 μ, 嚢狀體なし, 材の赤腐を起す。

所在及産地

闊葉及針葉樹, 土木材上　　全土—汎布

和名 ヒメシロアミタケ (姫白網茸) 〔北島〕, アミウスバタケ (網薄齒茸) 〔安田〕, ? アセアミタケ (褪色網茸) 〔安田〕

Trametes heteromorpha (FR.) LLOYD

ミヤマシロアミタケ

LLOYD, Myc. Writ. 5: 848, *f. 1415—1419*. 1919; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 144. 1936—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 366, *pl. 31, f. 2*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 94. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 7. 1916; Lett. 65: 6. 1917; Lett. 69: 10. 1919—今關, 植. 硏. 雜. 15: 305, *f. 3*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 73. 1943—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43: 30. 1952—原, 日. 菌. 目. 366. 1954)

Daedalea heteromorpha FR. Obs. Myc. 1: 108. 1815; Syst. Myc. 1: 340. 1821; Elench. Fung. 1: 66. 1828.

Lenzites heteromorpha FR. Epicr. Myc. 407. 1838; Hymen. Eur. 495. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 154. 1886—GILLET, Champ. Fr. 377. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 240. 1876; Hattsv. 2: 55. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 309. 1889—WINTER, Pilze, 1: 490. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5: 646. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 504. 1915—W. G. SMITH, Brit. Basid. 316. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 240. 1912—REA, Brit. Basid. 613. 1922.

Cellularia heteromorpha KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 452. 1898.

Coriolus hexagoniformis MURR. N. Am. Fl. 9: 20. 1907; South. Polyp. 7. 1915.

Trametes lacerata LLOYD, Myc. Writ. 5: 604. 1916.

Polystictus heteromorpha LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 62: 18. 1916.

子實體は革質, 半背着生或は往々全背着生, 傘は通常蹄形をなし, 0.2—3×2—30×0.1—1 cm, 表面は細密軟毛を有し, 放射狀の著しき皺襞あり, 粗糙, 環紋あり, 著しからざる環溝あり, 白色, 乾時帶黄色, 緣は鈍く, 波狀乃至淺裂す, 下面有性, 肉は厚さ 1 mm 以下, 白色乃至淡黄色, 管孔面は淡黄乃至黄褐色, 管長 0.2—3 cm, 屢々斜に伸び横に開口す, 孔口は角形, 迷路狀又は褶狀等變化す, 孔壁は稍々厚く, 裂く, 胞子は長楕圓形, 有嘴, 平滑, 無色, 8—12×3—4 μ, 嚢狀體なし, 材の褐腐を起す。

所在及産地 闊葉及針葉枯幹上

北海道, 本州—歐. 北米. 亞(樺)

和名 ミヤマシロアミタケ (深山白網茸) 〔今關〕

Trametes trogii BERK.

ウサギタケ

BERKELEY, in TROG, Schweiz. Schw. 2: 52. 1850—FRIES, Hymen. Eur. 583. 1874—WINTER, Pilze, 1: 404. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 336. 1888—GUILLEMONT, Bull. Soc. Myc. Fr. 10: 74. 1894—PATOUILLARD, Ess. Tax. 92. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 364. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 232. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 39. 1914—BOURDOT & MAIRE, Bull. Soc. Myc. Fr. 36: 82. 1920—REA, Brit. Basid. 614. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 163. 1925; Hymen. Fr. 588. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 444*. 1930—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 20. 1932; 49: 264. 1933; 52: 311. 1954.

(安田, 植. 雜. 31: 60. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 394. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 6: 980. 1920; 7: 1126. 1922—今關, 日. 隱. 植. 圖. 471, *pl. 226, f. 5*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 73. 1943—逸見, 教育農藝, 11: 1262. 1942; 及赤井, 木. 腐. 菌學, 388, *f. 197—198*. 1945—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43: 30. 1952—原, 日. 菌. 目. 366. 1954)

Trametes hispida QUÉL. Enchir. Fung. 182. 1886; Fl. Myc. 372. 1888. (non BAGL.)

Trametes favus var. *Trogii* BRES. Ann. Myc. 6: 39. 1908.

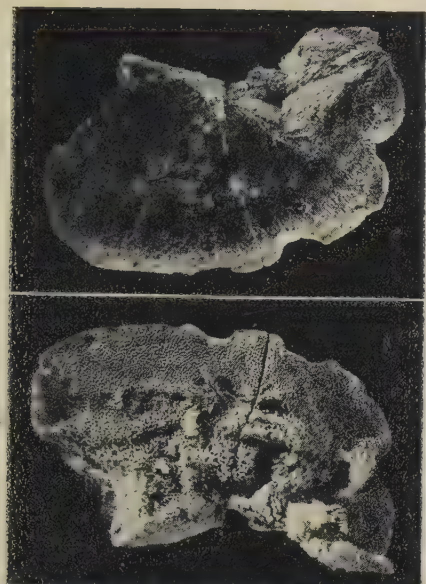
Trametes lutescens var. *Trogii* SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1050. 1916.

Funalia Trogii BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 62. 1941.

子實體は坐生, 通常多數疊生, 傘は半圓形にて低山形, 基部は通常垂生す, 2—4×3—9 cm, 厚さ 1—3 cm, 表面は材黄乃至灰褐色, 或は灰白色, 粗剛なる

a

b



第176圖　ウサギタケ *T. trogii*
a. 子實體表面　b. 同裏面 × 7/10 (大谷氏)

栗褐色の毛束を放射状に密生し，緩き環薄あり，縁は薄く，鋭し，多少下屈す，肉は白色乃至淡材色，栓質，乾時輕し，厚さ 0.5—1 cm，管孔面は淡材色或は灰白色，管長 5—10 mm，實質は肉より稍々濃色，孔口は中等大，圓形乃至角形，1 mm 間 2—3 個，口縁は薄く，多少凹凸す。胞子は長楕圓形又は圓筒形，平滑，無色，7.5—13×3.5—5 μ。材の白腐を起す。

所在及產地　廣葉樹生木及枯枝，倒木上
北海道，本州—歐. 北米. 亞(朝. 滿. 支. 西比)

和名　ウサギタケ (兎茸)〔安田〕

Trametes dickinsii BERK.

ホウロクタケ

in COOKE, Grev. 19 : 100. 1891—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 1891; 11 : 97. 1895.

(白井, 日. 菌. 目. 99. 1905; ed. 2. 659. 1917; ed. 3. 393. 1927—MURRILL, Mycologia, 1 : 167. 1909—LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 32 : 2. 1911; 4, Lett. 43 : 6. 1912; Lett. 53 : 8. 1914; 5, Lett. 65 : 3, 8. 1917; Lett. 66 : 7. 1917; Lett. 68 : 7. 1918; 6 : 980, 1096. 1920; 7 : 1267, 1320, 1321. 1924—安田, 植. 雜. 26 : 299. 1912; 31 : 60. 1917; 理學界, 15 (3) : 17. 1917—梅村, 植. 雜. 28 : 196. 1914—中路, 植. 雜. 30 : 102. 1916—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 1 : 509. 1919—逸見, 植. 病. 研究, 2 : 330, *f. 2*, *pl. 6*, *f. 4—5*. 1933—桂, 植. 病. 研究, 3 : 268, *pl. 9*. 1937—今關, 日. 隱. 植. 圖. 473, *pl. 227*, *f. 5—6*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 73, *pl. 1*, *f. 1*. 1943; 植. 分. 地. 13 : 254. 1943; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67 : 30. 1954—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 385, *f. 196*. 1945—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 30. 1952—原, 日. 菌. 目. 365. 1954)

Daedalea Dickinsii YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 36 : 128. 1922; 37 : 128, *f. 4*. 1923.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1267. 1924—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 114. 1927)

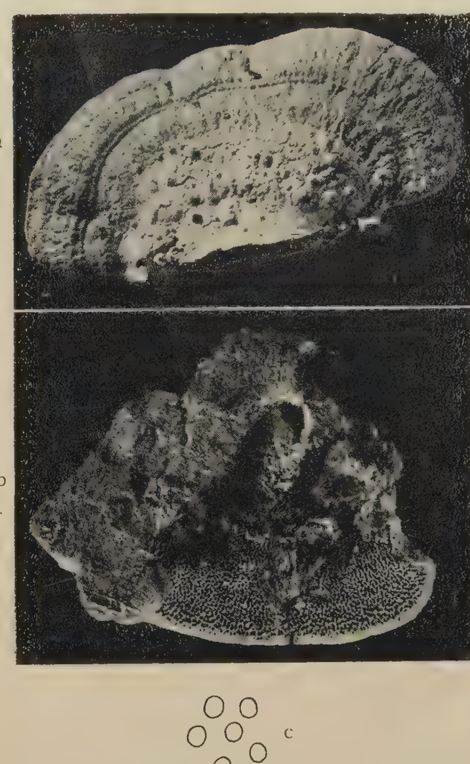
Trametes roseola (non PAT.) LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 227. 1915. (exempl. Jap. !)

子實體は坐生，韌栓質，往々疊生，傘は通常半圓形にて扁平，稀に稍々蹄狀，3—7×5—20 cm，厚さ通常 1—2.5 cm，表面は普通材色にて往々汚褐色を呈す，無毛，平滑，淺き環薄あり，時に放射狀細皺

a

b

c



第177圖　ホウロクタケ *T. dickinsii*
a. 子實體表面　b. 同裏面 × 7/10
c. 胞子 ×544　(大谷氏)

を有し，屢々扁平なる疣を散生す，緣は通常鈍く，下面無性，肉は材色，强韌なる栓質，厚さ 5—10 mm，管孔は長さ 3—15 mm，孔口は通常圓形なるも，時に迷路狀をなす，孔緣は厚く，1 mm 間 1—2 個，胞子は球形，平滑，無色，3.5—5 μ，材の褐腐を起す。

所在及產地

廣葉樹切株，倒木及材上

全土一亞(滿.支.臺.印)

和名 ホウロクタケ (焙烙茸)〔安田〕

Trametes purpurea COOKE
ヒメホウロクタケ

COOKE, Grev. 10:121. 1882—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 352. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 9. 1917.

(松村, 植. 名鑑, 1: 176. 1904—白井, 日. 菌. 目. 100. 1905; ed. 2. 661. 1917; ed. 3. 394. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65:5. 1917; 67:7, 10. 1918; 7: 1126. 1922—安田, 植. 雜. 36: 102. 1922)

子實體は坐生, 栓木質, 傘は半圓形にて低丸山形, 厚し, 3—7.5×4—12×0.5—2.5cm, 表面は暗褐色乃至暗紫褐色, 平滑, 環層あり, 肉は黄褐色, 管孔面は暗褐色, 管孔は長く, 孔口は小圓形, 徑 0.3—0.5mm, 嚢狀體なし, 胞子は類球形, 平滑, 無色, 徑約 4μ。

所在及產地

カシ (*Quercus*) 等幹上　北海道, 本州, 四國

和名 ヒメホウロクタケ (姬焙烙茸)〔安田〕

Trametes kusanoana IMAZ.
オオミダレアミタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:73. 1943 (non *Tr. Kusanoi* (MURR.) SACC. et TROTT.)

(原, 日. 菌. 目. 366. 1954)

Daedalea Kusanoi MURR Mycologia, 1: 169. 1909—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 350. 1912.

(野原, 植. 雜. 24:9, *f.5, 6a.* 1910—LLOYD, Myc. Writ. 2, Lett. 42: 16. 1912; 5, Lett. 63: 6. 1916; Lett. 65: 6. 1917; 6: 1012. 1920; 7: 1126, 1321. 1922; 1331, *f. 3054.* 1924. pr. p.—安田, 植. 雜. 28: 477. 1914; 31: 61. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 193. 1917; ed. 3. 114. 1927—澤田, 臺. 博. 學. 報. 25: 257. 1935; 臺. 菌. 調. 報. 7: 112. 1942—今關, 日. 隱. 植. 圖. 477, *pl. 229, f. 5—6.* 1939; 植. 研. 雜. 15: 306, *f. 306, f. 4—5.* 1939.)

Daedalea quercina (non PERS.)

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28: 269. 1901—松村, 植. 名鑑, 1: 139. 1904—白井, 日. 菌. 目. 28. 1905; ed. 2. 193. 1917; ed. 3. 114. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 10. 1912—川村, 日. 菌. 圖說, *n. 228.* 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3: 111. 1931—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 395. 1945)

子實體は無莖, 栓質, 傘は稍々厚く, 半圓形, 橫徑 4—8cm, 厚さ 1—2.5cm, 表面は白色, 黄白色或は淡材白色, 微毛を被むり, 又細かき毛束樣の微點を有し, 不鮮明なる環紋を有す, 緣は薄く, 稍々鈍圓, 肉は比較的薄く, 厚さ 2—5mm, 白色乃至黄

a

b



第 178 圖　オオミダレアミタケ *T. kusanoana*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1 (大谷氏)

白色, 栓質, 管孔は長さ 1—2mm に及ぶ, 孔口は幅廣く, 迷路狀, 口緣は鈍圓, 胞子は楕圓形乃至核子形, 平滑, 無色, 4—4.5×3μ。材の白腐を起す。

所在及產地

ナラ, カシ (*Quercus*) クリ (*Castanea*) 等の枯幹上及材上　本州, 九州一亞(臺. 海南島)

和名 オオミダレアミタケ (大亂網茸)〔安田〕

Trametes gibbosa (PERS. ex FR.) FR.
オオチリメンタケ

FRIES, Epicr. Myc. 492. 1838; Hymen. Eur. 583. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 415. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 253. 1860—FUCKEL, Symb. Myc. 21. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 286, *f. 66.* 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 287. 1872; Enchir. Fung. 182. 1886; Fl. Myc. 373. 1888—GILLET, Champ. Fr. 701, cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2: 49. 1882—WINTER, Pilze, 1: 403, *f. 1.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 337. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1047. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 194, *f. 2—3.* 1892; Brit. Fungi, 387. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 92. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 364. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 85, *pl. 97, f. 212.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 232. 1912—BRESADOLA, Hedwigia, 53: 68. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 39, *pl. 1, f. 8.* 1914—REA, Brit. Basid. 614. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 165. 1925; Hymen.

Fr. 589. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:19. 1932; 49:263. 1933; 51:362. 1935; Ann. Myc. 38:74. 1940; Atlas Champ. 3, Polyp. 1:129, *pl. 198—9*. 1939—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 80:3, *pl. 1, f. 2*. 1948.

(白井，日. 菌. 目. ed.2. 659. 1917; ed.3. 393. 1927—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:73. 1943; 植. 分. 地. 13:254. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43:30. 1952—原，日. 菌. 目. 365. 1954)

Merulius gibbosus PERS. Obs. Mys. 1:21. 1796.

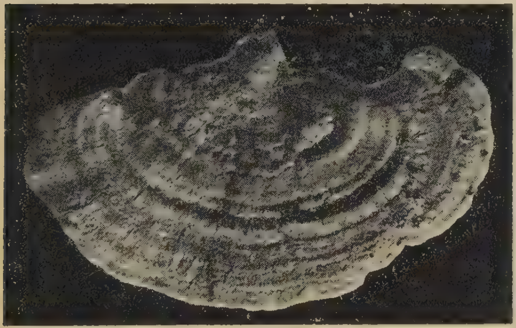
Daedalea gibbosa PERS. Syn. Meth. Fung. 501. 1801; Myc. Eur. 3:7. 1928—FRIES, Syst. Myc. 1:338. 1821—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):133. 1836—SCHROETER, Pilze Schles. 1:491. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:13. 1912; Lett. 56:4, 8. 1915; 5, Lett. 63:7. 1916; Lett. 65:6. 1917—安田，植. 雜. 31:61. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 114. 1927)

Lenzites tenuis LÉV. Ann. Sci. Nat. 5:122. 1846—SACCARDO, Syll. Fung. 5:647. 1887—LLOYD, Myc. Writ. 5:709, *f. 1061*. 1917.

(金平，臺. 博. 報. 36:88. 1918—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917; 7:1126. 1922—澤田，臺. 菌. 調. 報. 5:80. 1931—逸見及池屋，日. 植. 病. 學. 報. 2:563. 1933—今關，日. 隱. 植. 圖. 481, *pl. 231, f. 5—6*. 1939—原，日. 菌. 目. 177. 1954)

Lenzites Earlei MURR. N. Am. Fl. 9:128. 1908.



a



b

第179圖 オオチリメンタケ *T. gibbosa*
a. 子實體表面 ×2/3 b. 同裏面 ×3/5 (大谷氏)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51:4. 1914—中路，植. 雜. 30:102. 1916—安田，植. 雜. 28:293. 1914; 31:61. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 317. 1917; ed. 3. 184. 1927)

Lenzites gibbosa HEMMI, Ann. Phytopath. Soc. Japan, 9:7. 1939.

(逸見及赤井，木. 腐. 菌學, 403, *f. 208—10*. 1945)

Pseudotrametes gibbosa BOND. et SING. Ann. Myc. 39:60. 1941.

子實體は坐生，韌栓質，傘は通常半圓形にて扁平，4—10×5—15 cm，厚さ通常 1—2 cm，表面は黃白色，灰白色乃至淡材色，屢々鼠色を帶ぶ，短密毛を被むりて絨狀，明瞭なる環溝を有す，緣は薄くして鈍圓，肉は白色乃至黃白色，强韌なる栓質，厚さ 0.5—1 cm，管孔は長さ 1.5 cm に及び，黃白色乃至淡材色，孔口は圓形，角形，溝狀等にて放射狀に長く配列され，或は迷路狀又は溝狀のものを混在す，口緣は厚く，或は薄く，平坦或は少しく凹凸す。胞子は偏楕圓形，平滑，無色，4—6×2—3μ。材の白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯幹，及材上

全土—歐. 北米. 亞(比. 支. 西比)

和名 オオチリメンタケ（大縮緬茸）〔安田〕

Trametes palisoti (FR.) IMAZ.

チリメンタケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57: 120. 1952.

(原，日. 菌. 目. 366. 1954)

Daedalea Amanitoides PALISOT DE BEAUVOIS, Fl. Oware, 1:44, *pl. 25*. 1805—MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 34:480. 1907; N. Am. Fl. 9:127 1908.

Daedalea Palisoti FR. Syst. Myc. 1:335. 1821.

Daedalea repanda PERS. Gaud. Voy. Freyc. 168. 1826—MONTAGNE, Pl. Cell. Cuba, 382, *pl. 14, f. 4*. 1842.

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1296. 1924)

Lenzites Palisoti FR. Epicr. Myc. 404. 1838; Nov. Symb. Mycol. 27. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 5:650. 1887—BRESADOLA, Ann. Myc. 9: 549. 1911; Hedwigia, 53:49. 1913.

Lenzites repanda FR. Epicr. Myc. 404. 1838; Nov. Symb. Mycol. 27. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 5:650. 1887—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 103. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 89. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 6:886, *f. 1530, 1532*. 1919; 1004, *f. 1836*. 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 31:5. 1911; 4, Lett. 42:16. 1912; 7:1162. 1922; 1267. 1924—安田，植. 雜. 26:149. 1912; 31:62. 1917—白井，日. 菌. 目.

ed. 2. 317. 1917; ed. 3. 184. 1927—金平, 臺. 博. 報. 36:88. 1918; 64:15. 1923—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5: 80. 1931; 7:114. 1942; 臺. 博. 學. 報. 25:255. 1935 —今關, 日. 隱. 植. 圖. 481, *pl. 231, f. 1—2.* 1939 —原, 日. 菌. 目. 177. 1954)

Daedalea indica JUNGH. Crypt. Jav. 74. 1839.

Cellularia repanda KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 452. 1898.

子實體は無莖, 時に短莖を側生す, 革栓質, 傘は半圓形乃至腎臟形にて扁平或は少しく下方に彎曲す, 横徑 5—15 cm, 厚さ通常 0.5—1 cm, 表面は白色, 後材色, 時に褐色或は暗紅色の汚染を有す, 無毛, 平滑, 緣は薄くして鋭きか或は鈍圓, 肉は白色, 革栓質, 强靱, 管孔は長さ 2—8 mm, 白色乃至黄白色, 孔口は狹き放射狀の溝或は迷路狀, 口緣は略々平坦, 白色, 胞子は長楕圓形, 平滑, 無色, 5—7×2.5—5 μ。

所在及產地 廣葉樹枯幹上
本州, 四國, 九州—熱帶汎布. 亞(比. 支)

和名 チリメンタケ (縮緬茸) 〔安田〕

Trametes acuta (BERK.) IMAZ.

オオカイガラタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 73. 1943. (千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43: 29. 1952—原, 日. 菌. 目. 365. 1954)

Lenzites acuta BERK. Lond. Jour. Bot. 1: 146. 1842 —SACCARDO, Syll. Fung. 5: 643. 1887—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 102. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 89. 1900—BRESADOLA, Hedwigia, 56: 290. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 5: 963. 1920—今關, 日. 隱. 植. 圖. 481, *pl. 231, f. 3—4.* 1939)

Lenzites japonica BERK. et CURT. Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4: 121. 1858—SACCARDO, Syll. Fung. 5: 640. 1887.

(MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 392. 1868—松村, 植. 名鑑, 1: 150. 1904—白井, 日. 菌. 目. 46. 1905; ed. 2. 317. 1917; ed. 3. 184. 1927—安田, 植. 雜. 26: 361. 1912; 31: 61. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 16. 1912; 6: 971, 1012. 1920)

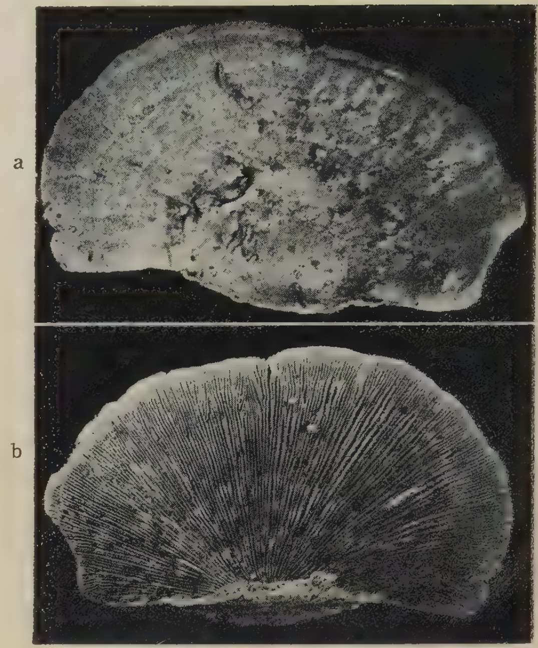
Cellularia acuta KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 451. 1898.

Cellularia japonica KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 452. 1898.

Lenzites murinus (non LÉVEILLÉ)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60: 6, 12. 1915(?); 7: 1126. 1922(!).

子實體は坐生, 靱革栓質, 傘は半圓形或は扇形にて通常扁平, 6—9×5—17 cm, 厚さ 0.5—2 cm, 表面は灰白色にて一部或は全面に鼠色或は薄墨色の汚斑



第 180 圖 オオカイガラタケ *T. acuta*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1 (大谷氏)

を有す, 殆ど平滑, 無毛, 不明瞭なる環溝を有し, 小疣を生ずることあり, 緣は薄くして鋭く, 或は鈍し, 肉は殆ど白色, 强靱なる革栓質, 子實層托は完全なる褶狀にて, 褶は疎, 1 mm 間 1—1.5 個, 稍々厚く, 往々僅か分岐し, 時に迷路溝を作る, 褶の表面は淡黄色にて褐色乃至薄墨色を呈することあり, 胞子は楕圓形或は卵形, 平滑, 無色, 3.5—5×2—3 μ。

所在及產地 廣葉樹枯幹及材上
北海道, 本州—亞(比. 印)濠

和名 オオカイガラタケ (大貝殼茸) 〔安田〕

Trametes orientalis (YAS.) IMAZ.

クジラタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 73. 1943. (原, 日. 菌. 目. 366. 1954)

Polyporus vittatus BERK. Lond. Jour. Bot. 6: 505. 1847.

Polystictus vittatus COOKE, Grev. 14: 84. 1886 —SACCARDO, Syll. Fung. 6: 268. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 10: 503. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 16. 1917; 7: 1315, *f. 3013.* 1924)

Trametes vittata LLOYD, in YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 27: 306. 1913; 31: 60. 1917. (non *Tram. vittata* LÉV. Ann. Sci Nat. III, 2: 196. 1884—SAC-

CARDO, Syll. Fung. 6 : 341. 1888)

(白井，日．菌．目．ed. 2. 661. 1917; ed. 3. 394. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 980. 1920—今關，日．隱．植．圖. 475, *pl. 228, f. 5—6.* 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 73. 1943—原，日．菌．目．366. 1954)

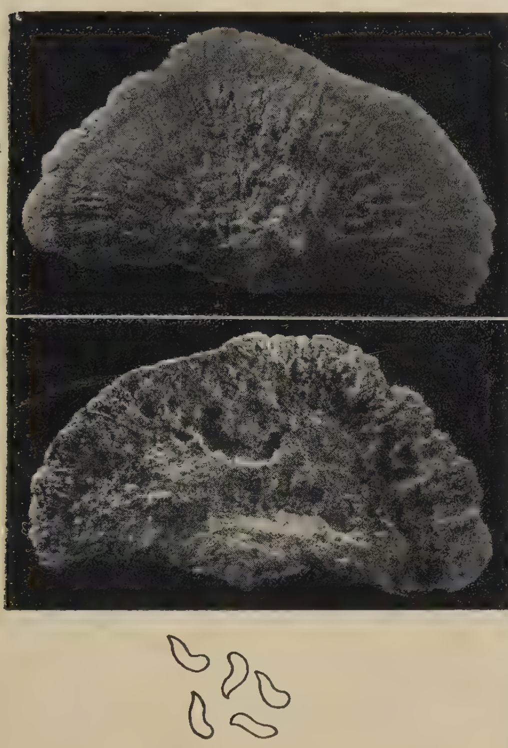
Polystictus orientalis YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 36 : 155, *f. 2—3.* 1922—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66 : 10. 1917.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66 : 7. 1917; 6 : 1095. 1920—安田，植．雜．32 : 135. 1918—白井，日．菌．目．ed. 3. 300. 1927—今關，日．隱．植．圖．463, *pl. 222, f. 1.* 1939)

子實體は無莖，栓質，通常多數疊生，傘は通常半圓形にて扁平，橫徑 6—20 cm，厚さ通常 0.5—1 cm，

a

b



c

第 181 圖　*クジラタケ　T. orientalis*

a. 子實體表面　b. 同裏面 × 3/4　c. 胞子 × 612
(大谷氏)

表面は淡き鼠色或は淡き鼠茶色にて常に灰色の色彩を帶び，微細なる絨毛を密布し，殆ど平坦，環紋を缺く，肉は白色乃至材白色，强靱，管孔は長さ 1—5 mm，同色，孔口は稍々小さく，圓形，口緣は平坦，黃白色，古きものは材色を帶ぶ。胞子は長形，1端尖り，少しく彎曲，平滑，無色，7—8×2.5—3μ。

所在及產地　廣葉樹枯枝，用材上　本州，四國，九州—亞(臺．瓜．錫．印)

和名　クジラタケ（鯨茸）〔安田〕，
モンパタケ（紋羽茸）〔安田〕

〔**因記**〕本菌の學名は *T. vittata* (BERK.) LLOYD たるべきも同一名を LÉVEILLÉ 氏が已に使用せる他菌あるにより本學名となせるものなり。

Trametes muelleri BERK.

カワラケタケ

BERKELEY, Jour. Linn. Soc. 10 : 320. 1868—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 339. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 157. 1892.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32 : 221. 1893; Monsunia, 1 : 12. 1899—松村，植．名鑑，1 : 176. 1904—白井，日．菌．目．99. 1905; ed. 2. 659. 1917; ed. 3. 393. 1927—MURRILL, Mycologia, 1 : 168. 1909—安田，植．雜．28 : 522. 1914; 31 : 60. 1917. pr. p.—金平，臺．博．報．36 : 88. 1918; 37 : 135. 1918—堀川，臺．博．報．37 : 136. 1918—澤田，臺．菌．調．報．1 : 510. 1919; 5 : 78. 1931—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 127. 1940—原，日．菌．目．366. 1954)

子實體は無莖，革質，傘は半圓形，厚く，3—7.5×5—13 cm，表面は淡褐色，絨狀密毛を被むり，不明瞭なる環層あり，往々淺き放射狀皺襞を有す，肉は材色，管孔面は淡褐色，孔口は中等大，多角形，胞子は楕圓形，平滑，無色，3×2μ。

所在及產地

枯木上　小笠原島—中南米．濠．亞(比．臺)

和名　カワラケタケ（土器茸）〔安田〕

Trametes ljubarskyi PILÁT

エゾシロアミタケ

PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 309, *f. 10, pl. 8, f. 3.* 1937.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 42 : 6, *pl. 1, f. 2.* 1949—千葉及寺本，東．大．演．林．報．43 : 30. 1952)

Haploporus Ljubarskyi BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 61. 1941.

子實體は 1 年生，無莖，傘は半圓形にて饅頭狀，3.5×8 cm，厚さ 2.5 cm に及ぶ，傘面は無殼無皮，粉毛を帶び，鞣皮狀觸感あり，殆ど白色，環紋及環溝なし，肉は類白色，厚肉，木栓質，子實層托は管孔狀，長さ 5 mm，周緣に行くに從つて漸次短し，實質は傘肉より少しく材色を帶ぶ，孔口は小にて，圓形乃至類圓形，1 mm 間に 3—4 個，口緣は全緣，孔壁は厚からず，菌絲は徑 2.5—3μ，不規則に纏絡す。胞子は類球形，平滑，無色，4.5—5.5×3.5—4

μ。材の白腐を起す。

所在及産地

ノリウツギ (*Hydrangia*) 枯幹上

北海道—亜(西比)

和名　エゾシロアミタケ (蝦夷白網茸) 〔今關〕

Trametes hispida BAGL.

カタシラガタケ

BAGLIETTO, Comm. Soc. Ital. 2(2): 261. 1865—FRIES, Hymen. Eur. 583. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 346. 1888—GUILLEMONT, Bull. Soc. Myc. Fr. 10: 74. 1894—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 163. 1925; Hymen. Fr. 587. 1928. (non *Trametes hispida* PASS. 1872)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 15. 1912; 7: 1126. 1922—安田, 植. 雜. 26: 330. 1912—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 659. 1917; ed. 3. 393. 1927—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 73. 1943; 植. 分. 地. 13: 255. 1943—原, 日. 菌. 目. 366. 1954)

Trametes lutescens BRES. Hymen. Hung. Kmet. 25. 1897—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1049. 1912. (non *Polyporus lutescens* PERS. Myc. Eur. 2: 71. 1825)

子實體は無莖, 革質, 疊生, 傘は半圓形にて丸山形或は稍々蹄形, 基部垂生す, 2—3.5×4—5 cm, 表面は灰白色にて鼠色或は暗色の粗剛毛を被むり, 僅か環紋あり, 縁は淡色, 肉は淡褐色, 管孔面汚白色, 管長長く, 孔口稍々大にて角形, 孔壁初め厚く, 平坦, 後薄く齒裂す。胞子は圓筒形, 有嘴, 平滑, 無色, 7—10×3—4μ。



a

b

第182圖　カタシラガタケ *T. hispida*

a. 子實體 ×3/4　b. 胞子 ×544 (大谷氏)

所在及産地

廣葉樹材上

北海道, 本州—歐. 亜(支)

和名　カタシラガタケ (堅白髮茸) 〔安田〕

Trametes malicola BERK. et CURT.

ニオイヒメアミタケ

BERKELEY & CURTIS, Jour. Acad. Nat. Hist. Phil. 3: 209. 1856—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 866. 1912—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 140. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 169. 1925; Hymen. Fr. 595. 1928—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 98. 1934—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 295, *pl. 201.* 1939.

(今關, 植. 研. 雜. 15: 446, *f. 13.* 1939; 植. 分. 地. 13: 255. 1943—原, 日. 菌. 目. 366. 1954)

子實體は坐生, 時に背着生, 木栓質, 疊生, 傘は半圓形或は狹き棚狀をなし, 扁平, 通常基部大きく垂生し上下相連る, 各傘は 0.5—2.8×1—4.5×0.3—0.8 cm, 表面は微かに粉毛を被むり, 1—2 の著しからざる環溝及細かき放射狀の皺襞あり, 材白色, 木栓色乃至肉栓色, 縁は急に薄し, 肉は傘面と同色, 木栓質, 芳香あり, 厚さ 2—5 mm, 管孔は同色, 長さ 1—5 mm, 往々不明瞭の層あり, 孔口は圓形或は少しく亂れ 1 mm 間約 2 個, 材白色, 後肉桂色, 孔縁は厚く, 全縁, 嚢狀體なし, 胞子は長楕圓形或は圓筒形, 有嘴, 平滑, 無色, 7—10×3—4μ。

所在及産地

カシワ (*Quercus*) 其他廣葉樹枯枝幹上

本州—歐. 北米. 亜(支)

和名　ニオイヒメアミタケ (臭姫網茸) 〔今關〕

Trametes aneba (BERK.) IMAZ.

ヒメベツコウタケ

Polyporus anebus BERK. Lond. Jour. Bot. 6: 504. 1847—COOKE, Grev. 13: 116. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 148. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 338. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53: 7. 1914—安田, 植. 雜. 28: 416. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 471. 1917; ed. 3. 288. 1927—金平, 臺. 博. 報. 64: 15. 1923—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5: 69. 1931)

? *Polyporus mariannus* PERS. Gaud. Bot. Voy. Uranie, 173. 1826—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48: 286. 1921.

子實體は無莖, 傘は半圓形或は扇形, 基部狹小となり着生物に側着す, 薄くして柔軟, 乾時革質を帶び收縮し下方に彎曲す, 3—4×4—5.5 cm, 表面は鼈甲色, 平滑, 著しからざる環層及放射狀線條あり, 肉は薄く, 黄褐色を帶ぶ, 管孔面は褐色, 管長は長く, 孔口は甚だ小にて多角形, 胞子は短楕圓形, 平滑, 無色, 4×3μ。

所在及産地

樹皮上　　本州一亞(臺.錫)南洋.阿

和名　ヒメベツコウタケ（姬鼈甲茸）〔安田〕

Trametes cinnabarina (JACQ.) FR.
シュタケ

FRIES, Summa Veg. Scand. 323. 1845; Nov. Symb. Myc. 82 : 1851; Hymen. Eur. 583. 1874—GILLET, Champ. Fr. 703. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 51. 1882—WINTER, Pilze, 1 : 404. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 353. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1048. 1916—PATOUILLARD, Ess. Tax. 92. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 364. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2 1, : 234. 1912—AMES, Ann. Myc. 11 : 243. 1913—REA, Brit. Basid. 616. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 161. 1925; Hymen. Fr. 585. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon, Sel. Fung. 5: *pl. 442*, *f. 2.* 1935—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 219. 1935—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 318, *pl. 213*. 1939; Ann. Myc. 38 : 73. 1940.

(松村, 植. 名鑑, 1 : 176. 1904—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 650. 1917; ed. 3. 392. 1927—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 73. 1943; 林. 試. 硏. 報. 42 : 6, *pl. 1*, *f. 6—7*. 1949; 及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67 : 30. 1954—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 30. 1952—原, 日. 菌. 目. 365. 1954)

Boletus cinnabarinus JACQ. Fl. Austr. 4 : 304. 1776—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 540. 1801.

Boletus coccineus BULL. Herb. Fr. *pl. 364*. 1787; *pl. 501*, *f. 1*. 1790—DC. Fl. Fr. 2 : 115. 1815.

Polyporus cinnabarinus FR. Syst. Myc. 1 : 371. 1821; Elench. Fung. 1 : 99. 1828; Epicr. Myc. 473. 1838—PERSOON, Myc. Eur. 2 : 76. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 421. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 282. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 279. 1876—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 475. 1888—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 116. 1914—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 342, *pl. 24*, *f. 1*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b : 55. 1934.

Pycnoporus cinnabarinus KARST. Rev. Myc. 3 : 18. 1881; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 308. 1889—MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 71. 1907; North. Polyp. 32. 1914; South. Polyp. 30. 1915; Mycologia, 10 : 107, *pl. 6*, *f. 1*. 1918—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 59. 1941.

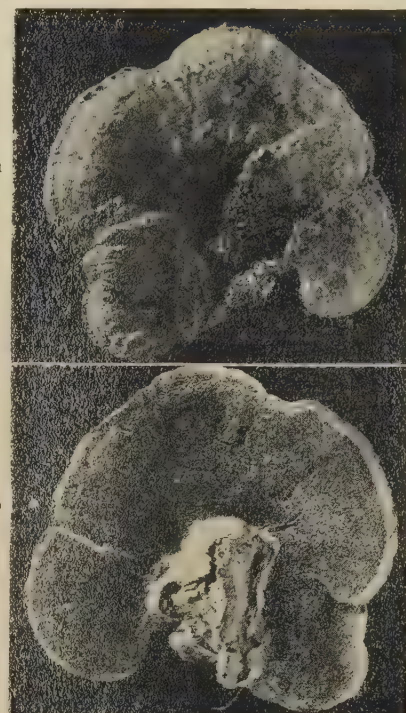
Leptoporus cinnabarinus QUÉL. Enchir. Fung. 176. 1886.

Phellinus cinnabarinus QUÉL. Fl. Myc. 395. 1888.

Polystictus cinnabarinus SACC. Syll. Fung. 6 : 245. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3 : Stip. Polyp. 144. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 69. 1914.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 269. 1901—松村, 植. 名鑑, 1 : 164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 74. 1905; ed. 2. 485. 1917; ed. 3. 297. 1927—梅村, 植. 雜. 26 : 153. 1912—KAWAMURA, Ill. Jap. Fungi, *pl. 20*, *f. 15—17*. 1925; 日. 菌. 圖說, *n. 93*. 1929—澤田, 臺. 博. 學. 報. 25 : 45. 1935; 臺. 菌. 調. 報. 7 : 84. 1942)

子實體は1年生, 稀に再生, 坐生或は半背着生, 生時强靱にて革質, 乾時剛直, 傘は半圓形或は扇形, 1—10×1—20×0.5—2cm, 傘面は無環紋, 粗荒, 細密軟毛を有し或は無毛, 無皮, 無殼, 汚赤色, 褐赤



第183圖　シュタケ　*T. cinnabarina*
a. 子實體表面　　b. 同裏面　×7/10（大谷氏）

色乃至朱色, 老時鮭肉色或は白色に褪色す, 傘緣は薄くして鋭し, 肉は綿絮狀, 無層, 傘面と同色, 厚さ 1—15mm, 管孔は長さ 4—9mm, 孔口は圓形乃至角形, 1mm 間 2—4 個, 暗赤色乃至帶黑赤色, 孔壁は鏡下にて帶黃色, 厚さ 50—200μ, 子實層は帶黃色乃至殆ど無色, 厚さ 8—10μ, 擔子柄は幅 6—7μ, 胞子は圓筒形, 稀に屈曲し, 平滑, 無色乃至帶黃色, 5—7×2—3μ, 囊狀體なし。材の白腐を起し, 材面に伸びたる菌絲は朱色を呈す。

所在及産地

廣葉及針葉樹幹, 材上

全土一歐.北米.濠.亞(支.滿.朝.臺)

和名 シュタケ（朱茸）〔川村〕，
シュイロタケ（朱色茸）〔梅村〕

Trametes sanguinea (L. ex FR.) LLOYD
ヒイロタケ

. LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1291. 1924—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 73. 1943.

（今關，林．試．硏．報．42:6, *pl. 1*, *f. 5*. 1949; 57: 120. 1952; 及土岐，林．試．硏．報．67 : 30. 1954—原，日．菌．目．366. 1954）

Boletus sanguineus L.Sp. Plant. 2 : 1646. 1762—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 541. 1801.

Polyporus sanguineus G. MEYER, Fl. Esseq. 304. 1818—FRIES, Syst. Myc. 1:371. 1821; Elench. Fung. 1:99. 1828; Epicr. Myc. 444. 1838—COOKE, Grev. 13 : 84. 1885; 15 : 50. 1886—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 115. 1914—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6. 1b : 55. 1934.

（白井，日．菌．目．74. 1905; ed. 3. 294. 1927—梅村，植．雜．28 : 196. 1914—澤田，臺．菌．調．報．1: 506. 1919）

Polystictus sanguineus FR. Nov. Symb. Myc. 59. 1851—COOKE, Grev. 14 : 79. 1886; Handb. Austr. Fungi, 141. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6:229. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 9:550. 1911; Hedwigia, 53 : 64. 1913—LLOYD, Myc. Writ. 3. Stip.Polyp. 144. 1912—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 115. 1914.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32 : 220. 1893; Bot. Jahrb. 28 : (269). 1901; 32 : 39. 1903—松村，植．名鑑，1 : 164. 1904—白井，日．菌．目．75. 1905; ed. 2. 491. 1917; ed. 3. 301. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 2 : 4. 1906; 3, Lett. 31 : 5. 1911; Lett. 38 : 9. 1911; 4, Lett. 42:13. 1912; Lett. 53 : 8. 1914; Lett. 60 : 6. 1915; 5, Lett. 65 : 5. 1917; Lett. 67 : 10. 1918; Lett. 69 : 7. 1919; 7 : 1188. 1923; 1296. 1924—安田，植．雜．22 : 373. 1908; 31 : 59. 1917; 理學界，15(3): 16. 1917; 植．硏．雜．6. 221. 1929—中路，植．雜．30:102. 1916—澤田，臺．菌．調．報．1:508. 1919—北島，林．試．報．28:6, *pl. 1*, *f. 5*, *pl. 6*, *f. 5*. 1928—平山，三重高農．學術彙報，1:21, *f. 1*, *pl. 1*. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 110. 1931—澤田，臺．博．報．25 : 42. 1935; 臺．菌．調．報．7:90. 1942—今關，日．隱．植．圖．463, *pl. 222*, *f. 2—3*. 1939; 植．硏．雜．17:182. 1941—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 122. 1940）

Microporus sanguineus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 497. 1898—PATOUILLARD, Ess. Tax. 83. 1900.

Pycnoporus sanguineus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31:421. 1904; N. Am. Fl. 9:71. 1907; South. Polyp. 30. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 59. 1941.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 167. 1909)

Trametes cinnabarina f. *sanguinea* PILÁT, Ann. Myc. 38 : 73. 1940.

子實體は無莖，韌革質，傘は半圓形乃至扇形にて扁平，横徑 3—10 cm，厚さ通常 5 mm 以下，表面は殆ど平滑或は僅かに絨狀をなし，緋色を呈し，褪色して殆ど灰白色となる場合あり，通常濃淡の環紋を生ず，肉は朱色，管孔は短く，長さ 1—2 mm，孔口は微細，圓形，1 mm 間 6—8 個，口緣は薄く，暗朱色，胞子は長楕圓形，少しく彎曲す，平滑，無色，7—8×2.5—3 μ。材の白腐を起し，材面に伸びたる菌絲は濃緋色を呈す。

所在及產地

濶葉及針葉樹枯幹，枯枝上　　全土一汎布

和名 ヒイロタケ（緋色茸）〔安田〕

Trametes serpens FR.
ヘビアミタケ

FRIES, Hymen. Eur. 583. 1874—GILLET, Champ. Fr. 704. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 183. 1886; Fl. Myc. 370. 1888—WINTER, Pilze, 1:401. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 355. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1051. 1916—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 298. 1891; Brit. Basid. 365. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:196. 1892; Brit. Fungi, 388. 1911—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 160. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 93. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 231. 1912—REA, Brit. Basid. 616. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:166. 1925; Hymen. Fr. 595. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 21 : *pl. 1022*, *f. 2*. 1932.

(LLOYD, Myc. Writ 5, Lett. 66:7. 1917; Lett. 69:7. 1919; 851, *f. 1122—1124*. 1919—安田，植．雜．32:249. 1918—白井，日．菌．目．ed. 3. 394. 1927—今關，日．隱．植．圖．471, *pl. 226*, *f. 2*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 73. 1943—原，日．菌．目．366. 1954）

Polyporus serpens FR. Obs. Myc. 2 : 265. 1818—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 280. 1876.

Daedalea serpens FR. Syst. Myc. 1 : 340. 1821; Elench. Fung. 1 : 71. 1828; Epicr. Myc. 495. 1838—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 288. 1872.

Polyporus Stephensii BERK. et BR. Ann. Mag. Nat. Hist. II. 2 : n. 356. 1848—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 252. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 284. 1871.

Physisporus serpens KARST. Hattsv. 2 : 64. 1882.

Antrodia serpens KARST. Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5:26. 1879; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 323. 1889.

Trametes albida f. *serpens* PILÁT, Ann. Myc, 38 : 72. 1940.

子實體は全背着にて基物に固着し，傘を作らず，薄くして厚さ1mm以下，革質，外緣は幅狹き無性帶に緣取られ，白色を呈し，內方は管孔を密生す。管孔は甚だ淺く，黃白色乃至淡材色を呈す，孔口は中等大，口緣は殆ど平坦，胞子は楕圓形，平滑，無色，10—17×4—6μ。

所在及產地

廣葉樹枯枝の下面に生ず

本州，四國，九州，琉球—歐.亞(錫.支)

和名 ヘビアミタケ（蛇網茸）〔安田〕

Trametes sendaiensis YAS.

ヒメヘビアミタケ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 37 : 83, *f. 1*. 1923 (安田. 植. 雜. 36:21. 1922—LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1128. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 394. 1927)

子實體は全背着，栓質，初め圓形，後互に癒着し不正形となり，廣く擴布し，薄し，徑 1—2cm，厚さ 0.4—1mm，緣に稍々廣き褐色帶あり，細き密絨毛を帶び，無性，肉は褐色，管孔面は白色，管長は甚だ短く，孔口は微細，圓形. 徑約 0.2mm，孔壁厚し，囊狀體なし，胞子は圓柱形，平滑，無色，4—5×1.5μ。

所在及產地

コナラ (*Quercus*) 樹皮上　　本州

和名 ヒメヘビアミタケ（姬蛇網茸）〔安田〕

疑問種

Trametes styracicola P. HENN. Bot. Jahrb. 32: 40. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 138. 1905. (松村，植. 名鑑，1 : 176. 1904—白井，日. 菌. 目. 100. 1905; ed. 2. 661. 1917; ed. 3. 394. 1927)

Trametes lactinea BERK.

(LLOYD, Myc. Writ. 4 : 13. 1912; 5, Lett. 63 : 6. 1916; Lett. 65 : 6. 1917; 6 : 980. 1920—安田，植. 雜. 36:51. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 393. 1927)

Trametes lactea FR.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1345. 1925)

Gloeophyllum KARST.

キカイガラタケ屬

KARSTEN, Hattsv. 2 : 79. 1879.

Ceratophora HUMB. ex BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 54. 1941.

Daedalea FRIES, Auct. plur. pr. p.

Lenzites FRIES, Auct. plur. pr. p.

Lenzitina KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 337. 1889.

Trametes FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生或は多年生，無莖或は半背着生，傘は半圓形，扁平或は稍々蹄形にて，屢々棚狀に連る，表面は平滑或は短毛を有す，無皮無殼，肉は革質或は木栓質，多くは黃褐色を呈し，香を有するもの多し，子實層托は管孔狀或は褶狀，1層或は不明瞭なる層を有し，孔口は圓形，迷路形又は溝狀，中乃至大，實質は傘肉と同質，屢々囊狀體を有す。胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は gloios（粘る）phyllon（葉）より出づ）

基準種　*G. sepiarium* (WULF. ex FR.) KARST.

本邦既知種檢索表

A. 子實層托は褶狀。
- a. 胞子は大形。
  - α. 肉は鏽色乃至黑褐色，木栓質，傘面鮮黃赤色乃至焦茶色，胞子 8—10×3—4μ，囊狀體小形，著しからず。
    キカイガラタケ ***G. sepiarium*** (237)
  - β. 肉は黑褐或は黑橙黃色，柔栓質，傘面黑褐色，胞子 9—12×4μ，囊狀體は多生，著し。
    コゲイロカイガラタケ ***G. abietinum*** (239)
- b. 胞子小形。
  - α. 肉は鏽色或は黃綠色にて鮮黃褐色を帶ぶ，硬栓革質，傘面通常栗褐色，胞子 7—9×3μ。
    ヒロハノキカイガラタケ ***G. subferrugineum*** (240)
  - β. 肉は赭褐色，柔栓質，傘面は通常灰黃褐色，胞子6—8×3—4μ。
    ヒメキカイガラタケ ***G. striatum*** (240)

B. 子實層托は後部褶狀，他部細かき網狀，傘面黃褐色，胞子 7—8×2.5μ，囊狀體なし。
  キチリメンタケ ***G. trabeum*** (241)

C. 子實層托は多角乃至迷路狀。
- a. 胞子 8—12×3.5μ，肉は黑褐色，堅革質，傘面有毛，環紋あり，黑褐色。
  ニオイアミタケ ***G. odoratum*** (242)
- b. 胞子 5×4μ，肉は黃褐色，栓質，傘面無毛，無環紋，黃褐色。
  ミダレハスタケ ***G. ungulatum*** (243)

Gloeophyllum sepiarium (WULF. ex FR.) KARST.

キカイガラタケ

KARSTEN, Hattsv. 2 : 79. 1882—SCHROETER,

Pilze Schles. 1:494. 1888—PILÁT, Ann. Myc. 38: 77. 1940; Atlas Champ. Fr. 3, Polyp. 1 : 337, *pl. 226*. 1940—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 64. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:75. 1943; 植. 分. 地. 13 : 253. 1943—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 90. 1952—原, 日. 菌. 目. 134. 1954)

Agaricus hirsutus SCHAEFF. Fung. Bavar. 1: 76. 1762—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 487. 1801 —NEES, Syst. Pilze Schw. 197, *pl. 22*, *f. 182*. 1817.

Agaricus sepiarius WULF. in JACQ. Coll. 1 : 339. 1876—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 487. 1801.

Merulius sepiarius SCHRANK, Baiersche Fl. 2 : 575. 1789—PERSOON, Obs. Myc. 2 : 93. 1799.

Merulius squamosus SCHRAD. Sp. Pl. Germ. 134. 1794.

Agaricus Boletiformis SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 3 : *pl. 418*. 1803.

Daedalea sepiaria SWARTZ, Vet. Acad. Handl. 2. 1810—FRIES, Syst. Myc. 1 : 333. 1821; Elench. Fung. 1:66. 1828—PERSOON, Myc. Eur. 3:10. 1828 —BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 132. 1836—CORDA, Icon. Fung. 5:83, *pl.10*, *f.90*. 1842—AMES, Ann. Myc. 11 : 244. 1913.

Lenzites saepiaria FR. Epicr. Myc. 407. 1838; Hymen. Eur. 494. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 443. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 228. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 214. 1869—FUCKEL, Symb. Myc. 15. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:248. 1871; Illus. Brit. Fungi, 7 : *pl. 1146 a*. 1888—1890; Handb. Austr. Fungi, 101. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 229, *pl. 14*, *f. 5*. 1872; Enchir. Fung. 154. 1886; Fl. Myc. 368. 1888—GILLET, Champ. Fr. 376. 1874 —KARSTEN, Myc. Fenn. 3:239. 1876—WINTER, Pilze, 1 : 491. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5 : 639. 1887—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 2 : 305. 1893; Brit. Fungi, 222. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 89. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 316. 1908— MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 240. 1912— OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 147. 1914—REA, Brit. Basid. 613. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 157. 1925; Hymen. Fr. 581. 1928—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 391, *pl. 37*, *f. 1—2*. 1931—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:18. 1932; 49:261. 1933—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1 b : 108. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 10, 16. 1912; Lett. 43:3. 1912; Lett. 56:4. 1915; 5, Lett. 65:5. 1917; 7 : 1125, 1126. 1922; 1296. 1924—安田, 植. 雜. 26 : 262. 1912; 31 : 61. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 317. 1917; ed. 3. 184. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 111. 1931—今關, 植. 研. 雜. 10 : 536. 1934; 日. 隱. 植. 圖. 483, *pl.232*, *f.3*. 1939—S.ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 124. 1940—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 397, *f.204*. 1945—原, 日. 菌. 目. 177. 1954)

Lenzites rhabarbarina BERK. et CURT. Ann. Mag. Nat. Hist. II, 12:438. 1853; Grev. 1:35. 1872.

Lenzitina saepiaria KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 337. 1889.

Cellularia hirsutus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 451. 1898.

Sesia hirsuta MURR. Jour. Myc. 9 : 88. 1903; Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 603. 1904.

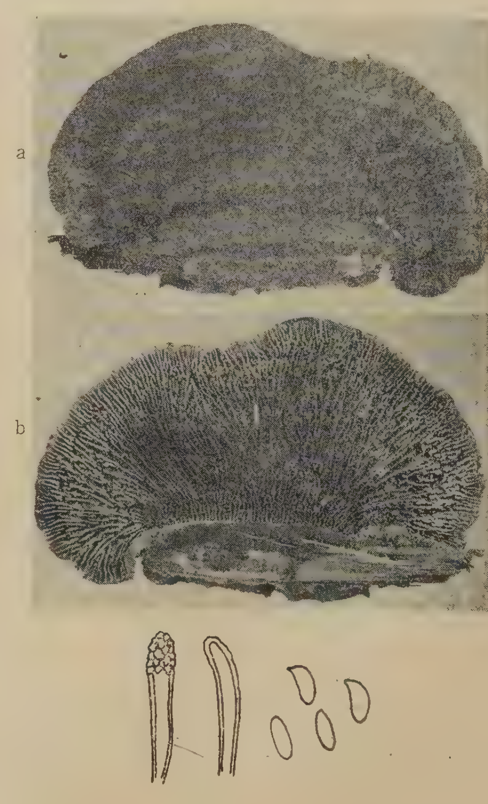
Gloeophyllum hirsutum MURR. Jour. Myc. 9 : 94. 1903. pr. p.; N. Am. Fl. 9:130. 1908; North. Polyp. 58. 1914; South. Polyp. 60. 1915.

Gloeophyllum abietinellum MURR. N. Am. Fl. 9 : 129. 1908.

Lenzites abietinella SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 126. 1912.

Lenzites hirsuta SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 509. 1915.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 317. 1917)



第 184 圖 キカイガラタケ *G. sepiarium*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1.2
c. 囊狀體及胞子 ×612　(大谷氏)

子實體は1年生或は多年生，坐生或は半背着生，革質乃至木栓質にて少しく撓曲性，傘は扇形，半圓形或は貝殼狀，疊生し，横着して棚狀となる，1—5×2—15×0.3—1cm，傘面は環紋を有し，硬尖毛あり，無殼皮，不平坦，鮮黃赤色，銹色乃至焦茶色乃至殆ど黑色，老時屢々淡色，傘緣は全緣乃至波狀，初め圓く，硬毛あり，下面無性，淡色，老時鋭く，有性，表面と同色，肉は同質或は不明瞭の層あり，木栓質，淡色，老時黑褐色，厚さ2—6mm，子實層托は褶狀をなし，時に纒絡す，實質は淡卵黃乃至橙黃色，廣さ0.5—1mm，深さ2—10mm，1mm間約1個，稜は初め厚く，長剛毛あり，全緣，老時薄くなり，無毛，齒裂す。子實層は無色，幅22—30μ，擔子柄は無色，徑4—5μ，胞子は長橢圓形，時に屈曲し，有嘴，平滑，無色，8—10×3—4μ，囊狀體は小形にて著しからず，菌絲狀をなし先端に結晶を被むる，10μ程抽出す。材の褐腐を起す。

所在及産地

針葉樹枯材上，稀に廣葉樹材上

全土—歐·北米·濠·亞(支·西比)

和名 キカイガラタケ（黃貝殼茸）〔安田〕

Gloeophyllum abietinum (BULL. ex FR.) KARST.

コゲイロカイガラタケ

KARSTEN, Hattsv. 2: 80. 1879—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 494. 1888—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 335, *pl. 225, 228*. 1940—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 64. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 75. 1943; among土岐, 林. 試. 研. 報. 67: 28. 1954—原, 日. 菌. 目. 134. 1954)

Agaricus senescens WILLD. Fl. Berol. 276. 1787.

Agaricus abietinus BULL. Herb. Fr. *pl. 442, f. 2*. 1789; *pl. 541, f. 1*. 1791—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 486. 1801—DC. Fl. Fr. 2: 133. 1815.

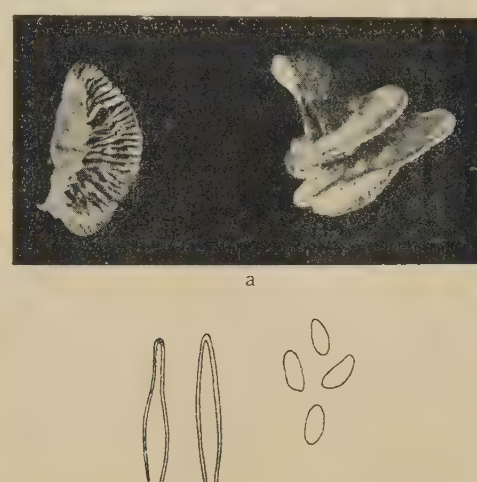
Agaricus asserculosum SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 134. 1794. (non BATSCH)

Daedalea abietina FR. Obs. Myc. 2: 230. 1818; Syst. Myc. 1: 334. 1821; Elench. Fung. 1: 66. 1828—PERSOON, Myc. Eur. 3: 12. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 132. 1836.

Lenzites abietina FR. Epicr. Myc. 407. 1833; Hymen. Eur. 495. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 443. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 229. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 215. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 15. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 248. 1871; Ill. Brit. Fungi, 7: *pl. 1146 b*. 1888—1890; Handb. Austr. Fungi, 101. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 229. 1872; Enchir. Fung. 154. 1886; Fl. Myc. 368. 1888—GILLET, Champ. Fr. 376. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 240. 1876; Hattsv. 2: 54. 1882—WINTER, Pilze, 1: 490. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5: 640. 1887; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 507. 1915—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 2: 306. 1893; Brit. Fungi, 222. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 316. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze. 2 (1): 240. 1912—REA, Brit. Basid. 613. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 158. 1925; Hymen. Fr. 581, *f. 167*. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 440, f. 2*. 1927—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 19. 1932; 51: 361. 1935.

(北島, 林. 試. 報. 28: 32, *pl. 4, f. 30, pl. 8, f. 24*. 1928—今關, 植. 研. 雜. 10: 534, *f. 3—4*. 1934; 日. 隱. 植. 圖. 483, *pl. 232, f. 2, 5*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 401, *f. 206*. 1945)

子實體は坐生，往々基部垂生背着し，通常多數疊生す。傘は通常半圓形にて貝殼狀，乾時內捲す，0.5—1.5×1—3cm，基物が水平なる際は互に横着し或は全背着す，厚さ2—5mm，表面は黑褐色或は黑橙黃色，幼時緣邊帶白色なるも，老時全體黑化す，短密毛を帶び，光澤なく，環紋殆どなし，肉は薄く，厚さ1mm內外，柔軟なる栓皮質，強靱，傘面と同色，緣は薄く，鋭し，子實層托は完全なる褶狀，褶は幅1—2mm，時に基部に於て5mmに及ぶものあり，各褶の間隔は廣し，稜は不規則なる細齒狀，表面は傘肉と同色なるも，粉狀にて灰褐色を呈す。胞子は圓筒形，有嘴，平滑，無色，9—12×4μ，囊狀體は多生，狹紡錘形，幅5μ內外，7—15μ程抽出，



第185圖 コゲイロカイガラタケ *G. abietinum*
a. 子實體 ×1.3 b. 囊狀體及胞子 ×544
（大谷氏）

無色，先端に通常結晶を被むる。材の褐腐を起す。

所在及産地

針葉樹材，丸太，土木用材上

全土─歐.米.濠.亞(支.西比)

和名 コゲイロカイガラタケ(焦色貝殼茸)〔北島〕

Gloeophyllum subferrugineum (BERK.) BOND. et SING.

ヒロハノキカイガラタケ

BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:64. 1941. (IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:75. 1943; 及土岐，林.試.硏.報. 67:28. 1954─原，日.菌.目. 135. 1954)

Lenzites subferruginea BERK. Lond. Jour. Bot. 6:134. 1854─SACCARDO, Syll. Fung. 5:643. 1887─BRESADOLA, Hedwigia, 53:50. 1913.

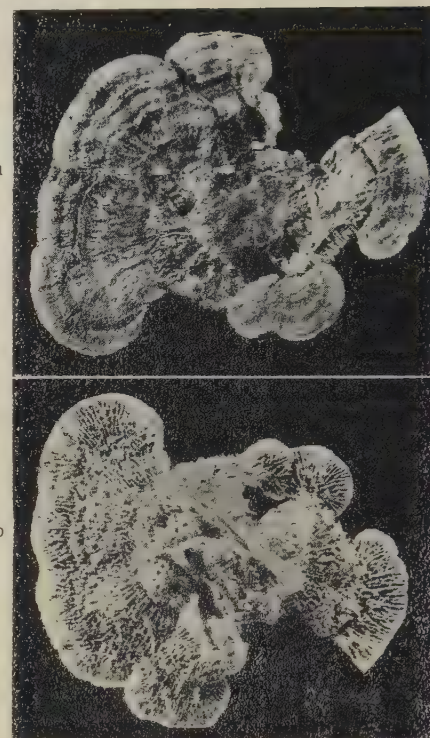
(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 33:1. 1911; 4, Lett. 42:13, 16. 1912; Lett. 47:9. 1913; Lett. 60:6, 12. 1915; Lett. 61:5. 1916; 5, Lett. 63:7. 1916; Lett. 65:4, 6. 1917; Lett. 66:7. 1917; Lett. 67:7. 1918; 762, *f. 1145─1146*. 1918; 7:1126, 1922; 1188. 1923; 1296, 1320. 1924─中路，植.雜. 30:102. 1916─安田，植.雜. 30:154. 1916; 31:61. 1917─白井，日.菌.目. ed. 2. 317. 1917; ed. 3. 185. 1927─堀川，臺.博.報. 37:136. 1918─北島，林.試.報. 28:20, *pl. 4, f. 31─2, pl. 8, f. 23*. 1928─澤田，臺.博.報. 25:332. 1935; 臺.菌.調.報. 5:80. 1931; 7:116. 1942─今關，植.硏.雜. 10:535, *f. 5 a─b, 6*. 1934; 日.隱.植.圖. 483, *pl. 232, f. 4, 6*. 1939─逸見及赤井，木.腐.菌學，400, *f. 205*. 1945─原，日.菌.目. 177. 1954)

Cellularia subferruginea KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 452. 1898.

Gloeophyllum edule MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 34: 480. 1907.

子實體は坐生或は基部狹細し着生，坐生のものは往々垂下背着す。傘は半圓形なるも多くは 2─3 癒着せるが如く緣邊不規則に淺裂し波曲或は重疊す，又往々互に橫着して長き棚狀をなす，1─3×1─7×0.5─1 cm，表面は通常栗褐色或は肉桂色にて變化性に富み，緣邊黃色を帶ぶ，全面短密毛を被むり或は無毛平滑，又屢々不規則なる粗糙の突起あり，通常明かなる環紋及環溝あり，緣は薄く，銳し，肉は澁色或は黃綠色，厚さ比較的薄く，1─3 mm，硬く，栓革質，子實層托は褶狀にて殆ど全く連絡せず，稀に叉狀分岐す，褶の幅 2─6 mm，各褶間廣く，表面粉狀にて灰色を帶ぶ，稜は黃色强くして細鋸齒狀をなす。胞子は圓筒形，有嘴，平滑，無色，7─9×3 μ，囊狀體は棒狀，幅 3─4 μ，10 μ 程抽出し，無色，先端に結晶を戴く，材の褐腐を起す。

a



b

第 186 圖 ヒロハノキカイガラタケ *G. subferrugineum*

a. 子實體表面 b. 同裏面 ×3/4 (大谷氏)

所在及産地

針葉樹材，丸太，土木用材上

本州，四國，九州─亞(比.印)

和名 ヒロハノキカイガラタケ (廣葉黃貝殼茸)〔安田〕

Gloeophyllum striatum (SWARTZ) MURR.

ヒメキカイガラタケ

MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32: 370. 1905; N. Am. Fl. 9: 129. 1908.

Agaricus striatus SWARTZ, Prodr. 148. 1788; Fl. Ind. Occ. 19. 1806.

Daedalea striata FR. Syst. Myc. 1: 334. 1821; Elench. Fung. 1:66. 1828─AMES, Ann. Myc. 11: 244. 1913.

Lenzites striata FR. Epicr. Myc. 406. 1838; Nov. Symb. Myc. 29. 1851─SACCARDO, Syll. Fung. 5: 643. 1887─COOKE, Handb. Austr. Fungi, 101. 1892─PATOUILLARD, Ess. Tax. 89. 1900─BRESADOLA, Hedwigia, 53:50. 1913─LLOYD, Myc. Writ. 6: 936, *f. 1716*. 1920─CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2: 227. 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38: 10. 1911; 4, Lett. 47: 9. 1913; 5, Lett. 63: 6. 1916; Lett. 65:

6. 1917; 6:1096. 1920—安田, 植. 雜. 26:262. 1912; 31:61. 1917; 理學界, 15(3):17. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 317. 1917; ed. 3. 185. 1927—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 1:510. 1917—原, 日. 菌. 目. 177. 1954)

Lenzites protracta FR. Nov. Symb. Myc. 29. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 5:640. 1887—PATOUILLARD, Ess. Tax. 89. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 29:7. 1910.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 31:2, 5. 1911)

Cellularia protracta KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2):452. 1898.

Cellularia striata KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 452. 1898.

Sesia striata MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31: 604. 1904.

子實體は無莖或は基部狹細して稍々莖狀となる，疊生，傘は膜質，撓曲性にて乾燥，半圓形乃至扇形にて貝殼狀，往々互に横着す，5—8×2—6×0.3—0.5cm，殼皮なし，細密軟毛を被むり，環紋あり，灰黃褐色乃至赭褐色，或は灰色，緣は頗る薄く，波狀，下面有性，肉は甚だ薄くして多くは1mm以下，柔栓質，赭褐色，子實層托は初めより褶狀，灰褐乃至赭褐色，深さ2—4mm，各褶間1—1.5mm，稜は薄く，全緣或は不規則の缺刻ありて老時裂く，特に後部に於て著し，胞子は圓壔形，平滑，無色，6—8×3—4μ。

所在及產地 枯材上

本州—濠. 阿. 北米. 亞(印. 錫. 比. ボルネオ. 臺)

和名 ヒメキカイガラタケ(姬黃貝殼茸)〔安田〕

Gloeophyllum trabeum (PERS. ex FR.) MURR.

キチリメンタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9:129. 1908; North. Polyp. 58. 1914; South. Polyp. 59. 1915—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:339, *pl. 224.* 1940; Ann. Myc. 38:77. 1940.

(MURRILL, Mycologia, 1:169. 1909—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:75. 1943; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67:28. 1954—原, 日. 菌. 目. 135. 1954)

Agaricus labyrinthiformis BULL. Herb. Fr. *pl. 442.* 1789. pr. p.

Agaricus trabeus PERS. Syn. Meth. Fung. xxix. 1801.

Daedalea trabea FR. Syst. Myc. 1:335. 1821—AMES, Ann. Myc. 11:244. 1913—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 80:8, *pl. 2, f. 2.* 1948.

Lenzites trabea FR. Epicr. Myc. 406. 1838; Hymen. Eur. 494. 1874—CORDA, Icon. Fung. 5: 83, *pl. 10, f. 89.* 1842—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:443. 1844—GILLET, Champ. Fr. 378. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 154. 1886; Fl. Myc. 367. 1888—WINTER, Pilze, 1:491. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5:638. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 508. 1915—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 392, *pl. 38, f. 1.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 107. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917; Lett. 69:7. 1919—安田, 植. 雜. 36:228. 1922—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 185. 1927—今關, 植. 硏. 雜. 10:533, *f. 1—2.* 1934; 日. 隱. 植. 圖. 483, *pl. 232, f. 1.* 1939—澤田, 臺. 博. 報. 25:50. 1935; 臺. 菌. 調. 報. 7:119. 1942—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 402, *f. 207.* 1945—原, 日. 菌. 目. 178. 1954)

Trametes protracta FR. Veg. Akad. Förh. 52. 1851; Hymen. Eur. 583. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6:346. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1049. 1916—PILÁT, Bull. Soc. Myc. 48:22. 1932.

(LLOYD, Myc. Writ. 5:1095. 1920—安田, 植. 雜. 37:67. 1923—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 394. 1927)

Trametes trabea OTTH. Bern. Mitteil. 92. 1870—BRESADOLA, Hymen. Hung. Kmet. 27. 1897; Ann. Myc. 1:81. 1903—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:162. 1925; Hymen. Fr. 586. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 442, f. 1.* 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 6:1095. 1920)

Lenzites vialis PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 26: 67. 1874.

Daedalea mutabilis QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 20:620, *pl. 6, f. 12.* 1895—SACCARDO, Syll. Fung. 21:351. 1912.

Cellularia trabea KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 452. 1898.

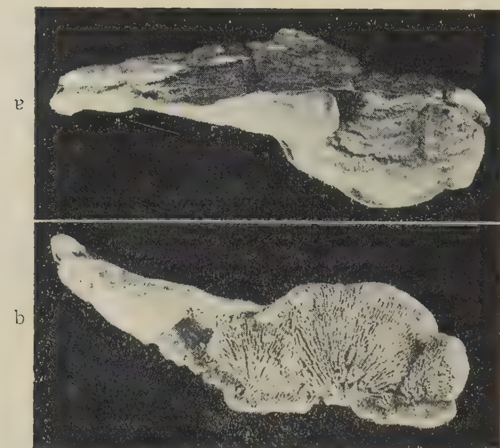
Cellularia vialis KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 452. 1898.

Sesia pallidofulva MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31:605. 1904.

Gloeophyllum pallidofulvum MURR. Bull. Torr. Bot. Club. 32:370. 1905.

Coriolopsis trabea BOND. et SING. Ann. Myc. 39:62. 1941.

子實體は坐生，半背着，稀に全背着生，傘は通常半圓形，0.8—3×1—5×0.2—0.7cm，時に互に横着す，表面は黃褐色或は汚黃褐色，幼時緣邊白色なるも，老時全體褪色して灰白色或は暗色を呈す，細密軟毛を有し，或は殆ど無毛平滑，鈍光澤あり，不規則なる皺或は緩かなる凹凸あり，環紋は不明瞭或は缺如，緣は全緣乃至波狀，鈍く，細密軟毛あり，下面無性，肉は稍々堅き羊皮質或は軟木栓質，强靱，傘と殆ど同色，厚さ0.5—2mm，基部4mmに及ぶものあり，子實層托は基部に近き部分は放射狀に走る褶狀をなし他部は細かき網目狀をなす，裏面生時



第187圖　キチリメンタケ *G. trabeum*
a. 子實體表面　　b. 同裏面 ×1（六谷氏）

帶白色にて鮮肉色を帶び，乾時上面と殆ど同色，長さ2—5mm，孔口は大小形狀不同，孔緣は薄く，波狀，褶の內壁面は淡灰褐色，粉狀，胞子は圓筒形乃至長楕圓形，有嘴，平滑，無色，7—8×2.5μ，囊狀體なし，材の褐腐を起す。

所在及產地

針葉樹材，丸太，土木用材上

全土—歐.北米.濠.亞(支)

和名　キチリメンタケ（黃縮緬茸）〔安田〕

Gloeophyllum odoratum (WULF. ex FR.) IMAZ.

ニオイアミタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 75. 1943.

（千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43:30. 1952—原，日. 菌. 目. 134. 1954）

Boletus annulatus SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl. 106*. 1763.

Boletus odoratus WULF. in JACQ. Coll. 2:150. 1788—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 532. 1801.

Polyporus odoratus FR. Syst. Myc. 1:373. 1821; Elench. Fung. 1:101. 1828—PERSOON, Myc. Eur. 2: 79. 1825—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:278. 1876.

Trametes odorata FR. Epicr. Myc. 489. 1838; Hymen. Eur. 582. 1874—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:286. 1872; Enchir. Fung. 182. 1886; Fl. Myc. 372. 1888—FUCKEL, Symb. Myc. Nachtr. 2:6. 1873—GILLET, Champ. Fr. 763. 1874—WINTER, Pilze, 1:404. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:345. 1888—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 336. 1889—PATOUILLARD, Ess. Tax. 92. 1900—MASSEE, Brit. Fungi, 387. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 223. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 43, *pl. 2, f. 10*. 1914—REA, Brit. Basid. 615. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:161. 1925; Hymen. Fr. 586. 1928—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 370, *pl. 31, f. 4*. 1931—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 443*. 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 20. 1932; 49: 264. 1933; 51: 361. 1935—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 100. 1934.

（LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45:4, 7. 1913; 7: 1126. 1922—梅村，植. 雜. 29: 65. 1915—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 661. 1917; ed. 3. 393. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 473, *pl. 227, f. 3—4*. 1939）

Fomes odorata KARST. Hattsv. 2: 79. 1882—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes. 273. 1915; 6:1019. 1920; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 84. 1936.

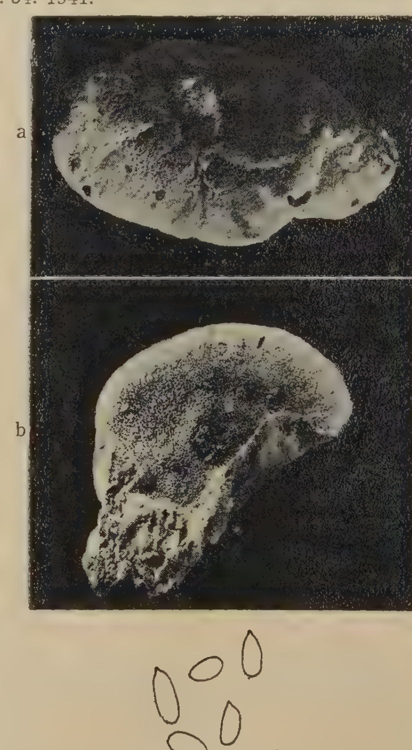
（安田，植. 雜. 31: 50. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 140. 1927）

Ochroporus odoratus SCHROET. Pilze Schles. 1: 488. 1888.

Trametes anulata SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1050. 1916.

Anisomyces odoratus PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 331, *pl. 222—3*. 1940.

Ceratophora odorata BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 54. 1941.



第188圖　ニオイアミタケ *G. odoratum*
a. 子實體表面　　b. 同裏面 ×1
c. 胞子 ×680　　（大谷氏）

子實體は1年或は多年生，坐生，幾分革質，傘は褥形乃至半圓形，時に蹄形，1—5×2—12×0.5—2 cm，傘面は有環紋，初め疎剛毛を有し，暗黄褐色乃至銹色にて，老時壓着せる硬尖糙蔚或は無毛となり，黒黄褐色，黒褐色乃至黒色となる，又老時曝らされて灰褐色乃至灰色となる，傘緣は圓きか或は鈍く，長剛毛を有し，同色或は淡色，下面無性，肉は堅緻，同質或は不明瞭なる層を有し，黒褐色，時に表面に近き部淡色，厚さ 0.5—3cm，子實層托は長さ 0.3—1cm，同色，內部黄褐色，孔口は角形乃至迷路狀，大さ形不正なり，1mm 間平均 1—2 個，黄褐乃至栗褐色，口壁厚くして細密軟毛あり，老時薄く無毛となる，孔壁は厚さを異にし，200—800μ，子實層は無色，厚さ 35—40μ，擔子柄は無色，徑 5—7μ，胞子は圓筒形乃至長楕圓形，有嘴，稀に屈曲す，平滑，無色，8—12×3—5μ，嚢狀體なし。材の褐腐を起す。

所在及産地

エゾマツ (*Picea*) 等針葉樹の枯株，倒木，材上　　北海道，本州一歐·北米·亞(西比)

和名　ニオイアミタケ（臭網茸）〔梅村〕

Gloeophyllum ungulatum (LLOYD) IMAZ.
ミダレハスタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 75. 1943. (原，日. 菌. 目. 135. 1954)

Daedalea ungulata LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60: 15. 1915; 4: 550, *f. 753.* 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 77. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60: 6. 1915—安田，植. 雜. 31: 61. 1917—今關，日. 隱. 植. 圖. 477, *pl. 229, f. 2.* 1939)

Trametes ungulata YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 32: 111, *1 f.* 1918—LLOYD, Myc. Writ. 5: 759, *f. 1138.* 1918.

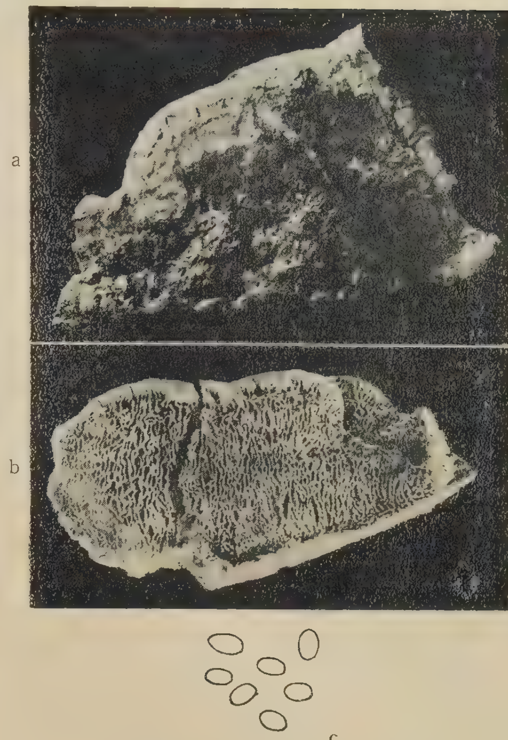
(安田，植. 雜. 31: 244. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 13, 15. 1917; 6: 963. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 394. 1927)

子實體は無莖，栓質，傘は不正蹄形をなし，横徑 2—4.5cm，厚さ 1—2.5cm，表面は淡黄褐色或は灰白色を呈し，殆ど無毛にて環紋なし，緣は鈍圓，肉は濃黄褐色，栓質，管孔は長さ 0.7—1.7cm，內面は灰白色，孔口は多角形乃至著しく迷路狀をなし，緣部のものは正形，幅 1mm 內外，胞子は短楕圓形，無色，平滑，約 5×4μ。

所在及産地

松材，杭等に生ず　　本州，四國，九州

和名　ミダレハスタケ（亂蓮茸）〔安田〕



第 189 圖　ミダレハスタケ *G. ungulatum*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×3/4
c. 胞子 ×680　(大谷氏)

Daedalea FR. emend. PAT.
ニクウチワタケ屬

FRIES, Syst. Myc. 1: 331. 1821. pr. p.—PATOUILLARD, Ess. Tax. 95. 1900.

Abortiporus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31: 421. 1904.

Heteroporus LAZARO, Rev. Roy. Acad. Cienc. Madr. 15: 119. 1916.

Phaeolus PATOUILLARD sensu PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 52: 67. 1935. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生，無莖或は有莖，傘は圓形，淺き漏斗形，扇形，半圓形等にて扁平，表面に短毛あり，無皮無殼，肉は2層にて上層は纖維狀海綿質，下層は革質にて堅靱，木材色，子實層托は不整管孔狀，1層，實質は傘の下層と同質，孔口は中乃至大，不整形，迷路狀或は齒牙狀，嚢狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は Daedalus（ギリシヤ神話中にある迷路の創作者より出づ）

基準種　*D. biennis* (BULL.) FR.

〔因記〕本屬の基準種につきては異論あるも，*D. biennis* となすを可とすべく，從つて２重組織を有するを大なる特徴とす。

本邦既知種

ニクウチワタケ ***D. biennis*** (244)

Daedalea biennis (BULL.) FR.

ニクウチワタケ

FRIES, Syst. Myc. 1:332. 1821; Elench. Fung. 1:65. 1828—QUÉLET, Enchir. Fung. 184. 1886; Fl. Myc. 374. 1888—REA, Brit. Basid. 617. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:152. 1925; Hymen. Fr. 576. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5:*pl. 447*. 1932—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:225. 1935.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:76. 1943; 及土岐，林. 試. 研. 報. 67:27. 1954—原，日. 菌. 目. 102. 1954)

Boletus biennis BULL. Herb. Fr. *pl. 449, f. 1*. 1789—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2:*pl. 191*. 1799.

Sistotrema rufescens PERS. Syn. Meth. Fung. 550. 1801; Myc. Eur. 2:206. 1825.

Sistotrema bienne PERS. Syn. Meth. Fung. 550. 1801—NEES, Syst. Pilze Schw. 226, *f. 228*. 1817—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:648. 1821.

Hydnum bienne DC. Fl. Fr. 2:112. 1815.

Daedalea biennis var. *Sowerberi* FR. Syst. Myc. 1:332. 1821.

Polyporus rufescens FR. Syst. Myc. 1:351. 1821; Elench. Fung. 1:75. 1828; Epicr. Myc. 433. 1838; Hymen. Eur. 529. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 238. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:264. 1871; Grev. 13:82. 1885; Handb. Austr. Fungi, 114. 1892—GILLET, Champ. Fr. 664. 1874—WINTER, Pilze, 1:448. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:78. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 955. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:482. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:232. 1892; Brit. Fungi, 367. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 337. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 157, *f. 456*. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):217. 1912.

(BERKELEY, Jour. Linn. Soc. 16:51. 1878—松村，植. 名鑑，1:164. 1904—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60:6. 1915; 6:1098. 1920; 7:1188. 1923—安田，植. 雜. 35:146. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 294. 1927—澤田，臺. 博. 學. 報. 25:178. 1935; 臺. 菌. 調. 報. 7:79. 1942)

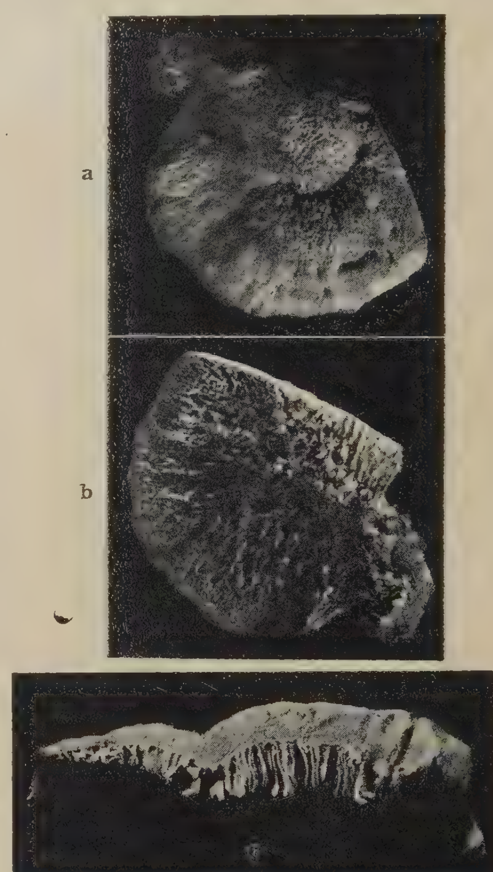
Polyporus biennis FR. Epicr. Myc. 433. 1838; Hymen. Eur. 529. 1874—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:269. 1872—GILLET, Champ. Fr. 664, cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1:447. 1884—COOKE, Grev. 13:82. 1885; Handb. Austr. Fungi, 114. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6:77. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 956. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):216. 1912—BRESADOLA, Icon. Myc. 20:*pl. 957*. 1931.

Polyporus heteroporus FR. in QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:274. 1872—FRIES, Hymen. Eur. 543. 1874—WINTER, Pilze, 1:437. 1884—COOKE, Grev. 13:82. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:78. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):217. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 158, *f. 457*. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:16. 1912—安田，植. 雜. 26:234. 1912; 31:56. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 475. 1917; ed. 3. 291. 1927)

Polystictus ? rufescens KARST. Hattsv. 2:69. 1882.

Heteroporus biennis LAZ. Rev. Real. Ac. Cienc. Madrid, 15:119. 1916—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:115, *pl. 48—52*. 1936—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:62. 1941.



第 190 圖　ニクウチワタケ *D. biennis*

a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1　c. 同斷面 ×2

(大谷氏)

Polyporus biennis var. *rufescens* BRES. Icon. Myc. 20 : *pl. 958*. 1931.
Phaeolus biennis PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 52 B : 69, *pl. 11—12*. 1935 (cum syn. ampl.)

子實體は有莖或は無莖，海綿質乃至肉狀革質，傘は屢々疊生し，盃形，扇形，篦形等をなし，時に半圓形をなす等變化多く，又互に癒着することあり，徑3—10cm，表面は硬尖鱗齒或は軟毛を被むり，屢々環紋あり，時に環溝を有す，白色乃至暗褐黃色，乾時帶褐赤色となり，遂に褐色となる，緣は薄く，淡色，往々反轉す，肉は2層よりなり，上層は纖維狀海綿質，下層は革質にて強靱，木材色，莖は類中心生或は側生し，又之を缺く，不正形，銹色，1—5×1.5—2cm，稍々軟毛を被る。子實層托は莖上に垂下し，白色，後肉色となり，迷路狀或は波曲し，遂に裂け，深さ 3—7mm，粉狀を呈す，實質は傘肉下層と同質，擔子柄は 15—25×5—7μ，胞子は廣橢圓形或は類球形，平滑，無色，5—7.5×3—5μ。嚢狀體なし。

所在及産地 切株，根及埋木上

北海道，本州—歐・北米・濠・亞(臺・支)

和名 ニクウチワタケ（肉團扇茸）〔安田〕

疑問種

Daedalea mollicula LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1146, *f. 2201*. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 77. 1936.
(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1922)
Daedalea glabrescens BERK.
(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1922)

Lenzites FR. emend. DONK
カイガラタケ屬

FRIES, Fl. Scand. 339. 1835. pr. p.—KARSTEN, Hattsv. 2:53. 1882. pr. p.—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 199. 1933.
Cellularia BULLIARD ex KUNTZE, Rev. Gen. 3(2): 451. 1891.

子實體は1年生，無莖，傘は扁平，半圓形，疊生，表面に粗毛密生し，その下に下皮あり，下皮は下殼と類似するも，その發達程度彼に比して低くして薄皮の如く傘面に殆ど並行せる通常有色の菌絲が緊密に結合して作らる，肉は類白色，木栓質或は革狀木栓質，子實層托は褶狀，實質は傘肉と同質，子實層に剛毛體なきも菌絲突起を有す。胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は HAROLD OTHMAR LENZ(獨逸菌學者）の姓より出づ）

基準種 *L. betulina* (L.) FR.

〔因 記〕本屬は褶狀管孔なるによりマツタケ科 (*Agaricaceae*) に收められたるも，その不當なるは已に述べたり，下皮を有することを特徵とし，これによりて *Trametes* と區別さる。

本邦既知種

カイガラタケ **L. betulina** (245)

Lenzites betulina (L.) FR.
カイガラタケ

FRIES, Epicr. Myc. 405. 1838; Hymen. Eur. 493. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 443. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 228, *pl. 15, f. 3*. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:214. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 15. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:247, *f. 61*. 1871; Illus. Brit. Fungi, 7 : *pl. 1145 a*. 1888—1890; Handb. Austr. Fungi, 101. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 228. 1872; Enchir. Fung. 153. 1886—GILLET, Champ. Fr. 378. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 238. 1876; Hattsv. 2 : 53. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 310. 1889—WINTER, Pilze, 1 : 492, *f. 1*. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5 : 638. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 506. 1915—SCHROETER, Pilze Schles. 1:493. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 2: 304. 1893; Brit. Fungi, 222. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 89. 1900—W. G. SMITH, Brit. Basid. 315, *f. 72*. 1908—MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 127. 1908; North. Polyp. 58. 1914; South. Polyp. 59. 1915—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):237, *pl. 37, f. 1—2*. 1912—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 146. 1914—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 115. 1925; Hymen. Eur. 579. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 11:*pl. 523*. 1929—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 18. 1932; 52 : 308. 1936—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 107. 1934—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 441, f. 1*. 1935—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:64. 1941—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 80 : 6, *pl. 3, f. 1—2*. 1948.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32:40. 1902—松村，植. 名鑑，1 : 150. 1904—白井，日. 菌. 目. 46. 1905; ed. 2. 315. 1917; ed. 3. 184. 1927—安田，植. 雜. 22: 373. 1908; 31:61. 1917—MURRILL, Mycologia, 1: 169. 1909—LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38:9. 1911; 4, Lett. 42 : 15. 1912; Lett. 45:4. 1913; Lett. 56: 4. 1915; Lett. 61 : 5. 1916; 5, Lett. 65 : 5. 1917; Lett. 67 : 7, 11. 1918; 6 : 963, 980, 1096. 1920; 7: 1188. 1923; 1296, 1320. 1924; 1345. 1925—中路，植. 雜. 30:102. 1916—金平，臺. 博. 報. 36 : 88. 1918—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 20, f. 13—14*. 1925; 日. 菌. 圖說, *n. 154*. 1929—北島，林. 試. 報. 28 : 30, *pl. 4, f. 27—28, pl. 7, f. 20*. 1928

—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:111. 1931—澤田，臺. 菌. 調. 報. 5:80. 1931; 7:113. 1942; 臺. 博. 會. 報. 25:51. 1935—今關，日. 隱. 植. 圖. 479, *pl. 230, f. 1—2*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:74. 1943; 及土岐，林. 試. 研. 報. 67:29. 1954—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，405, *f. 211*. 1945—原，日. 菌. 目. 177. 1954)

Agaricus betulinus L. Sp. Plant. 2:1176, 1753—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 182*. 1799.

Boletus agaricoides THUNB. Fl. Jap. 347. 1874.

Agaricus coriaceus BULL. Herb. Fr. *pl. 537, f. 1*. 1791—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 486. 1801.

Daedalea betulina REBENT. Fl. Neom. 371. 1804—FRIES, Obs. Myc. 1:104. 1815: Syst. Myc. 1: 333. 1821; Elench. Fung. 1:66. 1828—PERSOON, Myc. Eur. 3:13. 1828—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 131. 1836—AMES, Ann. Myc. 11:244. 1913.

Daedalea Thunbergii FR. Syst. Myc. 1:335. 1821; Elench. Fung. 1:68. 1828.

Lenzites Thunbergii FR. Epicr. Myc. 407. 1838.
(MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 392. 1868—松村，植. 名鑑，1:150. 1904—原，日. 菌. 目. 178. 1954)

Lenzites Berkeleyi LÉV. Ann. Sci. Nat. 5:122. 1846—SACCARDO, Syll. Fung. 5:643. 1887.
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:6. 1916; Lett. 65:6. 1917; 7:1128. 1922—安田，植. 雜. 35:93. 1921—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 184. 1927—原，日. 菌. 目. 177. 1954)

Lenzites flaccida var. *betulina* QUÉL. Fl. Myc. 367. 1888.

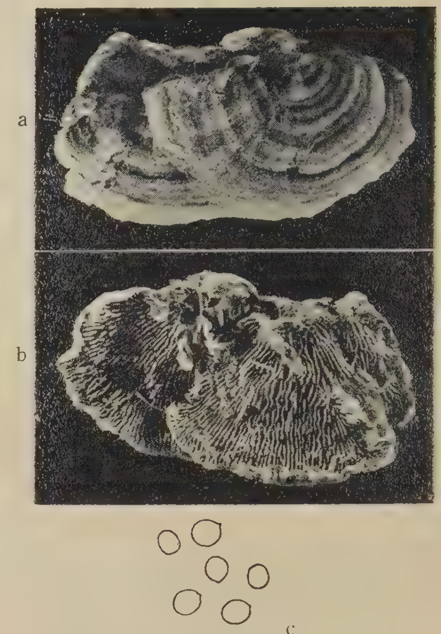
Lentinus Thunbergii SACC. Syll. Fung. 9:76. 1891. *Lenzites betulina* f. *daedaloides* YASUDA, 植. 雜. (Bot. Mag. Tokyo), 28:355. 1914.
(白井，日. 菌. 目. ed. 2. 315. 1917—原，日. 菌. 目. 177. 1954)

Lenzites variegata
(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32:40. 1902—松村，植. 名鑑，1:150. 1904—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 317. 1917; ed. 3. 185. 1927—原，日. 菌. 目. 178. 1954)

Lenzites furcata LLOYD, Myc. Writ. 7:1106, *f. 2029*. 1922; 1339, *f. 3117*. 1925.
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 39:6. 1912)

Trametes betulina PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:327, *pl. 220*. 1939; Ann. Myc. 38: 72. 1940.

子實體は1年生，坐生，屢々疊生，革質乃至幾分木栓質，傘は外圍半圓形乃至扇形にて貝殼狀，2—5×2—9×0.3—1cm，傘面は著しく細密軟毛ありて天鵞絨狀，下皮あり，多數の狹き多色環紋を有し，基本色は灰色乃至帶褐色，幾分不平坦にて，屢々放射狀の襞あり，傘緣は薄くして鋭く，往々波狀にて淺裂す，肉は甚だ薄く，1mm 以下，膜質，白色，



第191圖 カイガラタケ *L. betulina*
a. 子實體表面 ×3/4　b. 同裏面 2/3
c. 胞子 ×612　（大谷氏）

子實層托は普通褶狀なるも，時に僅か纒絡し或は孔狀をなす，褶は革質，約1mm 隔り，幅0.3—1cm，白色或は帶白色，稜は薄く，全緣乃至波狀，老時僅かに切目を生ず。胞子は球形，平滑，無色，5—6μ。材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹，針葉樹の枯幹，用材上

全土—歐·北米·濠·亞(支·馬·錫·臺·西比)

和名 カイガラタケ（貝殼茸）

疑 問 種

Lenzites nivea COOKE
(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 33:1. 1911)

Lenzites alutacea COOKE, Grev. 10:121. 1882—SACCARDO, Syll. Fung. 5:649. 1888.
(松村，植. 名鑑，1:150. 1904—白井，日. 菌. 目. 46. 1905; ed. 2. 315. 1917; ed. 3. 184. 1927—原，日. 菌. 目. 177. 1954)

Hexagona Pollini ex Fr. emend. Imaz
カドアナタケ屬

POLLINI, Pl. Nov. 35. 1816—FRIES, Epicr. Myc. 496. 1838. pr. p.—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:76. 1943.

Favolus MURRILL, N. Am. Fl. 9:83. 1908. (non

Favolus Auct. plur.)

子實體は1年生，無莖，傘は扁平，半圓形，表面は平滑或は著しく粗荒，薄き著しからざる殼皮を有す，肉は肉桂色乃至栗褐色，木栓質，子實層托は管孔狀，1層，實質は傘肉と略々同質，同色，孔口は中或は著しく大形，類圓形乃至多角形，孔壁稍々厚し，囊狀體なきも著しき剌狀體を有す，剌狀體は菌絲束よりなる針狀突起なり，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は hexagonus（六角）より出づ）

基準種　*H. apiaria* (PERS.) FR.

本邦既知種

アラゲカドアナタケ ***H. apiaria*** (247)

Hexagona apiaria (PERS.) FR.
アラゲカドアナタケ

FRIES, Epicr. Myc. 497. 1838—PATOUILLARD, Ess. Tax. 91. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 3, Hexag. 6, 39. *f. 279.* 1910.

（澤田，臺. 菌. 調. 報. 5:79. 1931—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:76. 1943—原，日. 菌. 目. 153. 1954）

Polyporus apiarius PERS. in GAUD. Voy. FREYC. 169. 1826.

Polyporus Wightii KLOTZ. Linn. 7:200, *pl. 10.* 1832.

Hexagona Wightii FR. Epicr. Myc. 496. 1838—PATOUILLARD, Ess. Tax. 91. 1900.

Hexagonia Wightii FR. Nov. Symb. Myc. 84. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 357. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 164. 1892.

Hexagonia apiaria SACC. Syll. Fung. 6: 358. 1888—BRESADOLA, Hedwigia, 53: 72. 1913.

Scenidium Wightii KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 515. 1898.

Scenidium apiarium KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 516. 1898.

子實體は無莖，栓革質，傘は半圓形或は腎臟形にて扁平，横徑8—10cm，表面は暗褐色，著しき分岐せる剛毛に被われ，著しからざる殼皮を有す，老時に粗豪纖維狀となる，環紋著し，緣は薄く，銳し，肉は薄くして銹色なり，管孔は長さ 5—10mm，孔口は大にて圓壔狀多角の蜂窩狀をなし，1cm 間 3—4 個，銹色にて，後灰青色となる，内壁に著しき剌狀體を有す。

所在及產地

樹皮上　本州一部（比. 印. 錫. 臺）濠

和名 アラゲカドアナタケ（荒毛角孔茸）〔澤田〕

疑問種

Hexagona Deschampsii HAR.
(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1128. 1922)

Daedaleopsis SCHROET. emend. DONK
チヤアミタケ屬

SCHROETER, Pilze Schles. 1: 492. 1888—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 196. 1933.

Daedalea FRIES, Auct. plur. pr. p.

Hexagona FRIES, Auct. plur. pr. p.

Scenidium KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 515. 1898. pr. p.

Trametes FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生，無莖，傘は半圓形，扁平或は丸山形乃至極めて薄く，疊生，表面は平滑或は短密毛を被むり，環紋及び淺き環溝を有し，大部分のものに薄皮あり，薄皮は殆ど水平に並び緊密に結合膠着せる濃色菌絲より成り，カンバタケ屬（*Piptoporus*）と異り傘肉より剝離せず，尙一部のものにヤニタケ屬（*Ischnoderma*）の如き殼皮を有するものあり，傘肉は類白色乃至木材色，木栓質乃至革質，子實層托は1層，管孔狀にて變形するもの多し，實質は傘肉と同質，孔口は中形，圓形乃至多角形或は迷路狀乃至褶狀，囊狀體なきも屢々剌狀體を有す。胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は*Daedalea*（屬名）—opsis（類する）より出づ）

基準種　*D. confragosa* (BOLT. ex FR.) SCHROET.

本邦既知種檢索表

A. 子實體は坐生乃至半背着生。

a. 子實層托は迷路狀或は褶狀。

α. 傘面環溝あり，環紋なく，木材色乃至茶褐色，子實層托は通常迷路狀にて殆ど褶狀。
　　チヤミダレアミタケ ***D. confragosa*** (248)

β. 傘面多彩の環紋あり。

I. 傘面紫褐色，子實層托は完全なる褶狀。
　　チヤカイガラタケ ***D. tricolor*** (249)

II. 傘面焦茶色，子實層托は長短不定の迷路狀溝。　エゴノキタケ ***D. styracina*** (249)

b. 子實層托は蜂窩狀，傘は厚さ 1—1.5mm，表面無毛，環溝あり，淡灰褐乃至淡黃褐色。
　　フルイタケ ***D. tenuis*** (250)

c. 子實層托は管孔狀。

α. 傘は厚さ 2cm 以下。

I. 傘は整形，2—6cm，表面無毛，肉桂色乃至栗色。　シジミアミタケ
　　D. conchiformis (251)

II. 傘は不整形，5—12cm，表面有毛，灰褐色。
センベイタケ ***D. luteo-olivacea*** (251)

β. 傘は厚さ 2cm 以上に及ぶ。

I. 傘面微絨毛あり，褐色，黒縁を有す，成時無毛帯を生じ多環紋となる。
ミイロアミタケ ***D. nipponica*** (251)

II. 傘面無毛，灰白乃至茶褐色，屢々暗紅斑を有す，著しく粗荒。
チヤアミタケ ***D. rubescens*** (252)

B. 子實體は全背着，薄質，肉色，孔口多角形。
キヌフルイタケ
D. papyraceo-resupinata (252)

Daedaleopsis confragosa (BOLT. ex FR.) SCHROET.

チヤミダレアミタケ

SCHROETER, Pilze Schles. 1:493. 1888—DONK, Medd. Bot. Mus. Utrecht, 9:197. 1933. pr. p.—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:64. 1941. (IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:77. 1943; 植. 分. 地. 13:250, 252. 1943—原, 日. 菌. 目. 103. 1954)

Boletus confragosus BOLT. Hist. Fung. Suppl. 3: *pl. 160*. 1791.

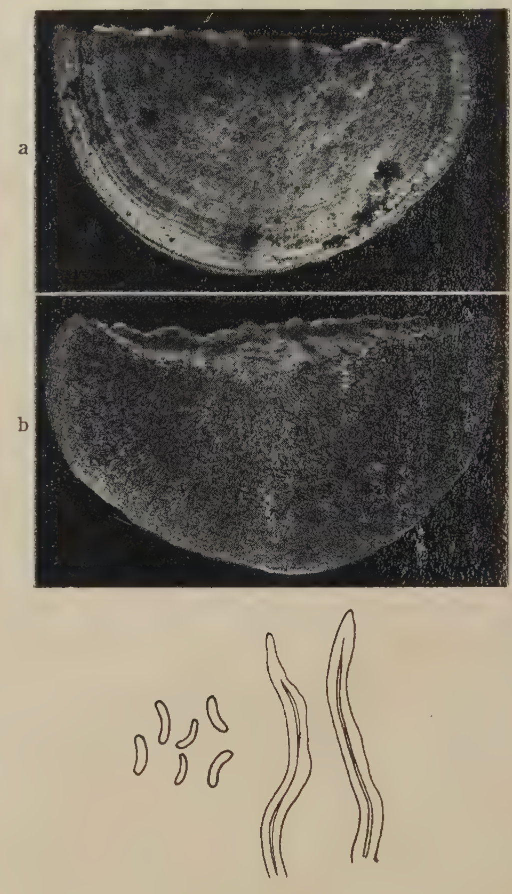
Daedalea confragosa PERS. Syn. Meth. Fung. 501. 1801; Myc. Eur. 3:7. 1828—FRIES, Syst. Myc. 1:336. 1821; Elench. Fung. 1:68. 1828; Epicr. Myc. 493. 1838; Hymen. Eur. 587. 1874—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:638. 1821—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):132. 1836; Outl. Brit. Fung. 254. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 288. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:288. 1872; Enchir. Fung. 184. 1886; Fl. Myc. 375. 1888—GILLET, Champ. Fr. 705. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:51. 1882—WINTER, Pilze, 1: 399. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:372. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1055. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:192. 1892; Brit. Fungi, 388. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 366. 1908—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 126. 1908; North. Polyp. 57. 1914; South. Polyp. 58. 1915—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze. 2(1):237. 1912—BRESADOLA, Hedwigia, 53:69. 1913—AMES, Ann. Myc. 11:244. 1913—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:144. 1914—NEUMAN, Polyp. Wisc. 34, *pl. 3, f. 12*. 1914—REA, Brit. Basid. 618. 1922—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b:103. 1934. (安田, 植. 雜. 26:119. 1912; 31:61. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 193. 1917; ed. 3. 114. 127—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 396. 1945)

Trametes confragosa RABENH. Deut. Krypt. Fl. 1: 416. 1844—PILÁT, Ann. Myc. 38:73. 1940.

Lenzites tricolor var. *daedalea* BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41:157. 1925; Hymen. Fr. 580. 1925.

Trametes nigroaspera LLOYD, Myc. Writ. 7: 1272, *f. 2793*. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 148. 1936.

子實體は1年生，坐生，傘は半圓形，2—10×3—15cm，厚さ 0.2—1.5cm，僅か撓曲性乃至剛直，木材色乃至茶褐色，薄皮を有し，平滑，放射狀皺襞及



第192圖 チヤミダレアミタケ *D. confragosa*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1/2
c. 刺狀體及胞子 ×544 (大谷氏)

び著しき環溝を有す，縁は薄くして鋭し，肉は帶白色，綿絮狀乃至木栓質，厚さ 0.2—1cm，管孔は長さ 0.1—1cm，孔口は帶白色乃至灰色，時に帶赤色，摩擦せば暗色となる，時に類圓形なるも通常は波曲或は迷路狀，殆ど褶狀となる，廣さ 0.5—1.5mm，胞子は圓壔形にて多くは屈曲す，平滑，無色，6—7.5×1.5—2μ，微細なる刺狀體を有す。材の白腐を

起す。

所在及産地

廣葉樹，枯木或は生木上

本州—歐. 北米. 濠. 亞(比. 支)

和名 チヤミダレアミタケ（茶亂網茸）〔安田〕

Daedaleopsis tricolor (BULL. ex FR.) BOND. et SING.

チヤカイガラタケ

BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:64. 1941. (IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:78. 1943; 植. 分. 地. 13:251. 1943; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67: 27. 1954—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:30. 1952—原, 日. 菌. 目. 103. 1954)

Agaricus tricolor BULL. Herb. Fr. *pl. 541, f. 2*. 1791—DC. Fl. Fr. 2: 133. 1815.

Agaricus sepiaria b. *tricolor* FR. Syst. Myc. 1: 334. 1821.

Lenzites tricolor FR. Epicr. Myc. 406. 1838; Hymen. Eur. 494. 1874—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2:355. 1873: Enchir. Fung. 154. 1886; Fl. Myc. 368. 1888—GILLET, Champ. Fr. 379. 1874—WINTER, Pilze, 1: 491. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 5:639. 1887; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 508. 1915—PATOUILLARD, Ess. Tax. 89. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 239. 1912—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 156. 1925; Hymen. Fr. 580. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 440, f. 1*. 1927—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 19. 1932.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38: 10. 1911; 5, Lett. 66: 7, 10. 1917; 6: 1012, 1095. 1922; 7: 1126. 1922; 1296. 1924; 1345. 1925—安田, 植. 雜. 25:442. 1911; 31:61. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 317. 1917; ed. 3.185. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 479, *pl. 230, f. 5—6*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 408, *f. 213*. 1945)

Cellularia tricolor KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 452. 1898.

Trametes rubescens var. *Lenzites tricolor* PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 20. 1932.

Trametes confragosa var. *Lenzites tricolor* PILÁT, Ann. Myc. 38: 73. 1940.

子實體は無莖，栓質，多數覆瓦狀に疊生す。傘は薄く，半圓形にて扁平，横徑 2—8cm，厚さ 0.5—0.8cm，緣は薄く，銳く，通常鋸歯狀をなす，表面はエゴノキタケに類似し，暗紫褐色にて屢々銹色の粉末（分生胞子）を被むる，多彩の著しき環紋，放射狀の細皺を有す。子實層托は完全なる褶をなし，褶は薄く，幅 2—6mm，間隔は 1mm 內外，灰白色乃至灰褐色にて往々淡黑色を帶ぶることあり，胞子

a



b

c

第193圖 チヤカイガラタケ *D. tricolor*
a. 子實體の表面　b. 同裏面 ×1
c. 胞子 ×680　(大谷氏)

圓筒形，平滑，無色，7—9×2—3μ。材の白腐を起す。

所在及産地

キンサクラ (*Prunus*) の枯幹上

全土—歐. 北米. 亞(支. 西比)

和名 チヤカイガラタケ（茶貝殼茸）〔安田〕

Daedaleopsis styracina (P. HENN. et SHIRAI) IMAZ.

エゴノキタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 78. 1943. (原, 日. 菌. 目. 103. 1954)

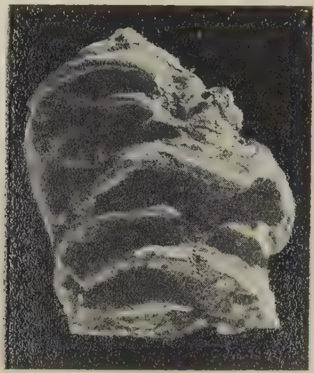
Daedalea styracina P. HENN. et SHIRAI, Bot. Jahrb. 28: 269. 1901—SACCARDO, Syll. Fung. 16: 168. 1902.

(松村, 植. 名鑑, 1: 139. 1904—白井, 日. 菌. 目. 28. 1905; ed. 2. 193. 1917; ed. 3. 114. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 33: 4. 1911)

Lenzites styracina LLOYD, Myc. Writ. 5: 860. *f. 1443*. 1919; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 93. 1926.

(安田, 植. 雜. 26:299. 1912; 31:62. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 69:10. 1919—北島, 林. 試. 報. 28:31, *pl. 4, f. 29, pl. 7, f. 21*. 1928—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3: 111. 1931—今關, 日. 隱. 植. 圖. 479, *pl. 230, f. 3—4*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 407, *f. 212*. 1945—原, 日. 菌. 目. 177. 1954)

傘は通常半圓形にて略々扁平, 往々基部垂生し又大きく背着することあり, 橫徑 2—8 cm, 厚さ 0.3—1.2 cm, 初め濃焦茶色の短毛を被むり絨狀, 漸次



a



b

第 194 圖　エゴノキタケ *D. styracina*
a. 傘形子實體 ×4/5　b. 背着子實體 ×4/5
(大谷氏)

同心の平滑帶を生じ, 多數の黑, 黑褐, 暗赤或は焦茶色の環紋となる, 放射狀の細き縮皺と淺き環溝あり, 肉は厚さ 1—2 mm, 白色乃至淡黃白色, 强靭栓革質, 上表に薄き黑色の殼皮を被むる。子實層托は不完全なる褶を有し, 長短不定の迷路狀溝を作る, 褶の幅2—10 mm, 間隔は 1—2 mm, 汚白色或は灰白色, 微粉を存す。材の白腐を起す。

所在及產地

エゴノキ (*Styrax*) 枯枝, 枯幹及材上

本州, 四國, 九州

和名 エゴノキタケ (エゴノキ茸) 〔安田〕

Daedaleopsis tenuis (HOOK. ex FR.) IMAZ.

フルイタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 78. 1943. (原, 日. 菌. 目. 103. 1954)

Boletus reticulatus HOOK. in KUNTH, Syn. Pl. 1 : 9. 1822.

Boletus tenuis HOOK. in KUNTH, Syn. Pl. 1 : 10. 1822.

Polyporus bivalvis PERS. in GAUD. Voy. FREYC. 168. 1826—FRIES, Epicr. Myc. 480. 1838.

Hexagona tenuis FR. Epicr. Myc. 498. 1838; Nov. Symb. Myc. 87. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6:366. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 165. 1892—PATOUILLARD, Ess. Tax. 91. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 3, Hexag. 23, 41. *f. 303—304. 306*. 1910.

(安田, 植. 雜. 36:116. 1922—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 162. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 485, *pl. 233, f. 1*. 1939; 植. 硏. 雜. 17:178. 1941—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:123. 1940—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 393, *f. 202*. 1945—原, 日. 菌. 目. 153. 1954)

Hexagonia Thwaitesii BERK. Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4 : 122. 1858—SACCARDO, Syll. Fung. 6:261. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 91. 1900.

(松村, 植. 名鑑, 1 : 146. 1904—白井, 日. 菌. 目. 41. 1905; ed. 2. 277. 1917; ed. 3. 162. 1927—原, 日. 菌. 目. 153. 1954)

Polystictus bivalvis COOKE, Grev. 14 : 87. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 286. 1888.

Scenidium tenue KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 516. 1898.

Scenidium Thwaitesii KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 516. 1898.

Favolus tenuis MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 100. 1905; N. Am. Fl. 9 : 83. 1903.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 165. 1909—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 1:511. 1919—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 136. 1927)

Hexagonia bivalvis BRES. Hedw. 41:318. 1912.

(安田, 植. 雜. 31:62. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 277. 1917—原, 日. 菌. 目. 153. 1954)

Hexagona bivalvis

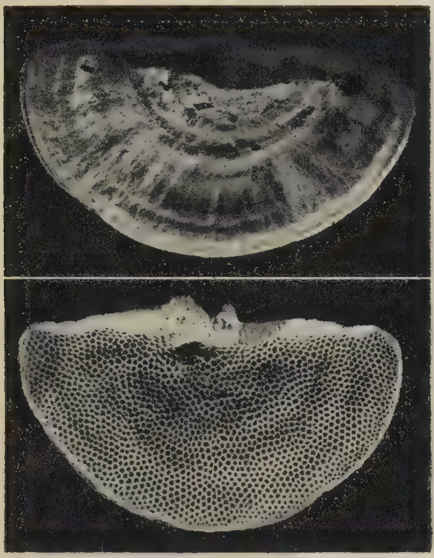
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:6. 1912—安田, 植. 雜. 27 : 117. 1913)

子實體は無莖, 革質, 傘は半圓形, 橫徑 5—10 cm, 厚さ 1—1.5 mm, 表面は淡灰褐色乃至淡黃褐色, 多數の著しき環紋を有し, 無毛平滑, 管孔は極めて淺く, 徑 0.6—1 mm, 孔口は略々規則正しき六角形をなし, 恰も絲目の如し, 通常灰白色にて粉狀或は灰褐色を帶ぶ。

所在及産地

枯木上　本州，小笠原島—熱帶各地

和名 フルイタケ（篩茸）〔安田〕



第195圖 フルイタケ *D. tenuis*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1（大谷氏）

Daedaleopsis conchiformis IMAZ.

シジミアミタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 77. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov Forest Exp. St. Tokyo, 57: 103. 1952; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67: 27. 1954—原, 日. 菌. 目. 103. 1954)

Trametes tricolor LLOYD, Myc. Writ. 6: 998, *f. 1807*. 1920 (non *Lenzites tricolor* FR.); STEVENSON & CASH, New Fungus Names Lloyd, 147. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 6: 980. 1920—今關, 日. 隱. 植. 圖. 447, *pl. 229*, *f. 1*. 1939; 植. 研. 雜. 17: 182. 1941)

傘は半圓形にて扁平，疊生し，徑 2—6cm，厚さ 0.3—0.6cm，表面は僅か皮膜を有し，肉桂色乃至栗色，無毛，放射狀に皺襞あり，環紋を有し，僅か環溝あり，薄皮は放射狀に並び互に膠着する菌絲より成る，緣は鈍く，下曲す，肉は厚さ 1—2mm，革栓質，材色を呈す。子實層托は管孔狀，長さ 1—4mm，1層，孔口は小形，類圓形或は類角形，普通正形，時に變形す，內部帶灰色，稜は薄く，齒裂す。刺狀體なし。材の白腐を起す。

所在及產地 廣葉樹枯幹上

本州，四國，九州—亞(朝)南洋.濠

和名 シジミアミタケ（蜆網茸）〔今關〕

Daedaleopsis luteo-olivacea (BERK. et BR.) IMAZ.

センベイタケ

Polyporus luteo-olivaceus BERK. et BR. Trans. Linn. Soc. II, 1: 402, *pl. 45*, *f. 8*. 1880.

Polystictus luteo-olivaceus COOKE, Grev. 14: 86. 1886; Handb. Austr. Fungi, 151. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 279. 1888.

(安田, 植. 雜. 31: 58. 1917)

Microporus luteo-olivaceus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 496. 1898.

Polystictus luteo-olivaceus var. *fuscus* LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 15. 1912; 5: 732, *f. 1100*. 1917; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 134. 1936.

(安田, 植. 雜. 27: 224. 1913—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 299. 1927—原, 日. 菌. 目. 282. 1954)

子實體は無莖，革質，傘は半圓形乃至不整形，薄し，3.5—5×6—12cm，表面は灰褐色にて密毛あり，深き環溝を有し，圓形の疣を有し粗面或は平滑，緣は鋭し，肉は帶紺黃又は褐色，管孔面は灰褐色，管長は短かし，孔口は小圓形。

所在及產地

株上　本州—濠

和名 センベイタケ（煎餅茸）〔安田〕

Daedaleopsis nipponica IMAZ.

ミイロアミタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 78. 1943.

(原, 日. 菌. 目. 103. 1954)

Trametes confragosa LLOYD, in YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 31: 60. 1917 (nom. nud.); STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 143. 1936. (non RABENH.)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 15. 1912; Lett. 47: 9. 1913—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 392. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 475, *pl. 228*, *f. 3—4*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 392, *f. 201*. 1945)

子實體は1年生，坐生，傘は半圓形にて扁平或は丸山形，徑 4—10cm，厚さ 0.5—3cm，表面は殼皮を有し，初め微絨毛を帶び，褐色，緣部に黑色帶あり，成時同心的に無毛帶を生じ，多環紋となり，環溝並に放射狀溝を有す，殼皮は多隔の斜上せる銹色菌絲の密結によりて成る，肉は木栓質，木材色を呈す。子實層托は管孔狀，厚さ 0.3—2cm，1層，孔口は中形，圓形，多角或は幾分稍々迷路狀，稜は齒裂す，初め淡色，後煤色となる。刺狀體なし，胞子は圓筒形にて僅か屈曲し，平滑，無色，5.5—8×



第 196 圖 ミイロアミタケ *D. nipponica*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×2/3 c. 胞子 ×680
（大谷氏）

2—2.5μ。材の白腐を起す。

所在及産地
廣葉樹枯木上 本州，四國，九州
和名 ミイロアミタケ（三色網茸）〔今關〕

Daedaleopsis rubescens (ALB. et SCHW. ex FR.) IMAZ.
チヤアミタケ

IMAZEKI, Acta Phytotax. Geobot. 13:251. 1943. (千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43:90. 1952—原，日. 菌. 目. 103. 1954)
Daedalea rubescens ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 238. 1805—FRIES, Syst. Myc. 1:339. 1821.
Daedalea Bulliardi FR. Syst. Myc. 1:335. 1821; Elench. Fung. 1 : 68. 1828.
Trametes Bulliardi FR. Epicr. Myc. 491. 1838; Hymen. Eur. 584. 1874—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 221. 1867—GILLET, Champ. Fr. 702. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:49. 1882—WINTER, Pilze, 1:403. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:337. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1046. 1916—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 297. 1891; Brit. Basid. 364. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:195. 1892; Brit. Fungi, 387. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):233. 1912—REA, Brit. Basid. 614. 1922. (LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44 : 8. 1913; 6: 980. 1920—安田，植. 雑. 27:167. 1913; 31:60. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 659. 1917; ed. 3. 392. 1927)
Trametes rubescens FR. Epicr. Myc. 492. 1838; Hymen. Eur. 584. 1874—RABENHORST, Krypt. Fl. 1 : 415. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 287. 1872; Enchir. Fung. 182. 1886; Fl. Myc. 373. 1888—GILLET, Champ. Fr. 701. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 49. 1882—WINTER, Pilze, 1:403. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 337. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1046. 1916—W. G. SMITH, Brit. Basid. 364. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):232. 1912—REA, Brit. Basid. 614. 1922—BOURDOT & MAUBLANC, Hymen. Fr. 590. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 20. 1932; 52 : 310. 1936.
（今關，日. 隱. 植. 圖. 475, *pl. 228, f. 1—2.* 1939）
Lenzites Bulliardi PAT. Ess. Tax. 89. 1900.
Daedaleopsis confragosa DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 162. 1933. pr. p.

子實體は無莖，栓質，傘は半圓形にて扁平乃至低山形，横徑 5—16cm，時に 20cm 餘に至る，厚さ 2—4cm，表面は無毛平滑なるも，細皺又は尖れる突起を有し著しく粗荒となる，周緣に著しき環溝あるもの多し，灰白色乃至茶褐色にて，屢々暗紅色の汚染あり，緣は薄く，鋭し，肉は淡材色，時に淡紅色を帶び，栓質，管孔は長さ 2cm に及び，同色，孔口は稍々大にて圓形乃至迷路狀，往々長き溝形となるも完全なる褶とならず，口緣は全緣或は僅か齒狀をなし，時に披針狀突起を垂下す。剌狀體なし，胞子は腸詰形，平滑，無色，7—9×2—2.5μ。

所在及産地 廣葉樹枯幹上
北海道，本州—歐. 北米. 亞(支. 西比)
和名 チヤアミタケ（茶網茸）〔今關〕

Daedaleopsis papyraceo-resupinata (S. ITO et IMAI) IMAZ.
キヌフルイタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 78. 1943. (原，日. 菌. 目. 103. 1954)
Hexagona papyraceo-resupinata S. ITO et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 123. 1940.

子實體は背着生，1—25×1—10mm，初め圓形，後縱に擴布し，極めて薄く，紙狀，厚さ 0.5mm 或はそれ以下なり，淡肉色或は肉色，緣は薄くして無

性，屢々内屈し，白色にて後同色となる。孔口は角形，全緣，徑 0.25—0.75 mm，口壁は薄く，白緣あり，胞子未詳。

所在及產地

落木上 小笠原島

和名 キヌフルイタケ（絹篩茸）〔今井〕

疑 問 種

（*Daedaleopsis* 所屬）

Polystictus caesio-glaucus COOKE

（白井，日．菌．目．74. 1905; ed. 2. 485. 1917; ed. 3. 297. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67:11. 1918; Lett. 68:8. 1918—安田，植．雜．37:156. 1923—原，日．菌．目．282. 1954）

2. Coriolinae カワラタケ亞族

子實體は1年生或は稀に多年生，無莖或は半背着生，樹上生，傘の表面は平滑或は有毛，屢々下殼發達す，傘肉は革質或は革栓質，子實層托は薄く，管孔狀なるも概して變形し易く，屢々迷路狀，褶狀，齒牙狀をなす，實質は傘肉と略々同質，胞子は無色，平滑。

屬檢索表

A. 無皮無殼，囊狀體あり。

a. 傘肉は革質，孔口は常に齒牙狀，管孔は1層。
ウスバタケ屬 **Irpex** (253)

b. 傘肉は木栓或は纖維木栓質，孔口は屢々不整細分裂す，管孔は多層。
シロサルノコシカケ屬 **Oxyporus** (254)

c. 傘は著しき毛被に蔽われ2重構造の觀を呈す，肉及子實層托は蠟質乃至膠質を帶び，乾時稍々軟骨質，孔口は淺く，類圓，溝狀又は牙狀に深裂す，管孔は1層。
シハイタケ屬 **Hirschioporus** (256)

B. 下皮は概して明瞭に發達す，傘は革質，孔口は圓，類圓，迷路狀，又は牙狀に深裂す，管孔は1層，囊狀體なし。 カワラタケ屬 **Coriolus** (260)

C. 下殼あり，傘肉は革質，孔口は類圓或は迷路狀，囊狀體なし。 シカタケ屬 **Antrodia** (272)

Irpex FR. emend. BOND. et SING.

ウスバタケ屬

FRIES, Elench. Fung. 1:142. 1828. pr. p.—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:63. 1941.

子實體は1年生，無莖にて屢々半背着生，傘は薄く，半圓形或は棚狀に連る，疊生，表面は無皮無殼，有毛，肉は類白色，革質，子實層托は類管孔狀或は齒牙狀，囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。（本屬名は irpex（耙）より出づ）

基準種 *I. lacteus* FR.

〔**因 記**〕 從來 *Irpex* 屬は齒牙狀の子實層托を有するが爲めにハリタケ科（*Hydnaceae*）に所屬せしめし程なるも，之れが本科に屬することは今日何等異論なきも，その屬的基準に就きては大に異なり，今關氏は *Coriolus* 屬に似て子實層托が齒牙狀をなし，且子實層に囊狀體を有するものに限定せり。從つて從來本屬とされたるものの大部分は囊狀體なき *Coriolus* 屬に移され，シハイタケ（*H. abietinus*）に近邇せる毛被ありて2重構造の觀を呈するもの（例えば *I. fusco-violaceus*, *I. purpurea*）は *Hirschioporus* 屬に收めらるるに至れり。

本邦既知種檢索表

A. 齒牙は短く，不整，白色乃至黃白色，長さ 1—2 mm。 ウスバタケ ***I. lacteus*** (253)

B. 齒牙は微細，扁平にて尖頭或は截頭，時に頂端分裂す，澁褐色，長さ 0.4—0.7 mm。
コゴメウスバタケ ***I. parvulus*** (254)

Irpex lacteus FR.

ウスバタケ

FRIES, Elench. Fung. 1:145. 1828; Epicr. Fung. 522. 1838; Hymen. Eur. 621. 1874—RABENHORST, Deut. Kryt. Fl. 1:403. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 2:358. 1873; Enchir. Fung. 198. 1886—GILLET, Champ. Fr. 730. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:294. 1876; Hattsv. 2:56. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 312. 1889—WINTER, Pilze, 1:366. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:484. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1112. 1916—BRESADOLA, Hymen. Hung. Kmet. 37. 1897; Ann. Myc. 1: 88. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 387. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 171, *pl. 29, f. 3—4.* 1912—REA, Brit. Basid. 611. 1922—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Eur. 573. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 22: *pl. 1063, f. 2.* 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:18. 1932; 49: 261. 1933; 51:359. 1935—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:63. 1941.

（LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 44:8. 1913; Lett. 66:7. 1917; 7:1167, 1296. 1924; 1345. 1925—安田，植．雜．27:167. 1913; 31:48. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 299. 1917; ed. 3. 175. 1927—今關，日．隱．植．圖．469, *pl. 225, f. 2.* 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:79. 1943; 植．分．地．13:254. 1943;

及土岐，林. 試. 硏. 報. 67：29. 1954—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43：30. 1952—原，日. 菌. 目. 167. 1954)

Sistotrema lacteum FR. Obs. Myc. 2：266, *pl. 6, f. 1*. 1818.

Hydnum lacteum FR. Syst. Myc. 1：412. 1821.

Xylodon lacteus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2)：541. 1898.

Irpiciporus lacteus MURR. N. Am. Fl. 9：15. 1907; Mycologia, 1：166. 1909; North. Polyp. 4. 1914; South. Polyp. 4. 1915.

Trametes lactea PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1：322, *pl. 215—6*. 1940; Ann. Myc. 38：75. 1940.

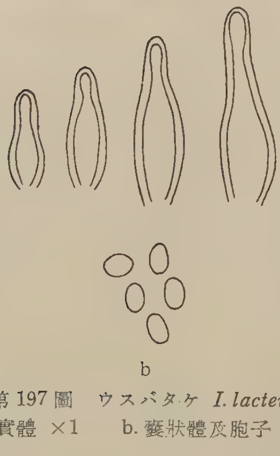
? *Irpex Miyabei* LLOYD, Myc. Writ. 7：1175, *f. 2336*. 1923.

(LLOYD, Myc. Writ. 7：1126. 1922)

子實體は着生物上に廣く擴布し，緣邊反轉して狹き傘或は半圓形の傘となる，扁平乃至貝殼狀，往々側着棚狀をなす，多數疊生，0—1.5×1—4×0.1—0.2cm，表面は白色，短絨毛を有し，環溝あり，緣は甚だ薄く，下屈し，波狀乃至淺裂す，肉は薄く，白色，革質，子實層托は齒牙狀，齒は短く，不整，白色乃至黃白色，長さ 1—2mm，胞子は橢圓形，平滑，無色，4—5×2—3μ，嚢狀體は廣紡錘形，50—150×4—9μ，稀に棍棒形，結晶を被むるものあり。



a



b

第 197 圖　ウスバタケ *I. lacteus*

a. 子實體 ×1　　b. 嚢狀體及胞子 ×544

（大谷氏）

所 在 及 產 地

廣葉樹枯幹上　　全土—歐. 北米. 亞(支. 西比[illegible]

和 名　ウスバタケ（薄齒茸）〔安田〕

Irpex parvulus YAS.

コゴメウスバタケ

YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 35：254. 1921(nom. seminud.); 36：84. *f. 1*. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 7：1128. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 175. 1927—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6：79. 1943; 及土岐，林. 試. 硏. 報. 67：29. 1954—原，日. 菌. 目. 167. 1954)

子實體は着生物上に擴布固着し，殼皮狀をなし，周緣少しく反轉す，甚だ薄く，革質，0.5—13cm，表面は汚白色，壓低されたる纖維密毛あり，環紋を有す，肉は白色，厚さ 0.2—0.3mm，子實層托は齒牙狀，齒は甚だ微細，淡褐色，扁平にて尖頭或は截頭，時に頂端分裂す，0.4—0.7×0.1—0.4mm，嚢狀體無色，棍棒形，厚膜，細結晶を被むる，35—40×6—8μ，胞子は橢圓形，平滑，無色，4—5×3—3.5μ。

所 在 及 產 地

ナラ(*Quercus*)，ザイフリボク(*Amelanchier*)，トネリコ(*Fraxinus*)，ハギ(*Lespedeza*) 類等の樹皮上　　本州

和 名　コゴメウスバタケ（小米薄齒茸）〔安田〕

Oxyporus DONK

シロサルノコシカケ屬

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9：202. 1933.

Coriolus QUÉLET, sect. *Oxyporus* BOURDOT et GALZIN, Hymen. Fr. 560. 1928.

Fomes Auct. plur. pr. p.

Polyporus Auct. plur. pr. p.

子實體は 1 年生又は多年生，無莖或は半背着生，傘は扁平或は稍々蹄形，疊生或は棚狀に連る，表面は無皮，平滑或は細毛あり，肉は白色或は類白色，木栓質，革質或は纖維狀木栓質，子實層托は管孔狀，1 層又は多層，孔口は中或は小，孔壁は薄く，屢々

不整細分裂す。嚢狀體は常に存在し，結晶を帶ぶ，胞子は無色，平滑，樹上生。

（本屬名は oxys（鋭き）poros（孔）より出づ）

基準種 *O. populinus* (SCHUM. ex FR.) DONK

〔囙記〕本屬は常に嚢狀體を有する特異の"*Polyporus*"なり。

本邦既知種検索表

A. 傘面白色乃至帶黃色，時に灰黑色，傘は厚く，胞子 3.5—4.5×3—4µ。

シロサルノコシカケ ***O. populinus*** (255)

B. 傘面材色，傘は薄く，胞子 6×4.5µ。

ザイモクタケ ***O. ravidus*** (256)

Oxyporus populinus (SCHUM. ex FR.) DONK

シロサルノコシカケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 204. 1933—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 341, *pl. 227 a.* 1940; Ann. Myc. 38: 77. 1940—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 63. 1941—W. M. COOKE, Mycologia, 41: 452. 1949.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 81. 1943; 植. 分. 地. 13: 254. 1943—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43: 31. 1952—原, 日. 菌. 目. 233. 1954)

Boletus populinus SCHUM. Enum. Pl. Saell. 2: 384. 1803.

Polyporus populinus FR. Syst. Myc. 1: 367, 1821; Elench. Fung. 1: 90. 1828; Epicr. Myc. 472. 1838; Hymen. Eur. 564. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 422. 1844—GILLET, Champ. Fr. 678. 1874—WINTER, Pilze, 1: 419. 1884—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 291. 1891.

Polyporus suaveolens * *populinus* PERS. Myc. Eur. 2: 66. 1825.

Polyporus obducens PERS. Myc. Eur. 2: 104. 1825—FRIES, Epicr. Myc. 485. 1838; Hymen. Eur. 577. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 417. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 251. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 234. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 17. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 282. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 285. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 275. 1876—WINTER, Pilze, 1: 408. 1884—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 295. 1891.

Polyporus connatus WEINM. Fl. Ross. 332. 1836. (non SCHW.)—FRIES, Epicr. Myc. 472. 1838; Hymen. Eur. 563. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 248. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 278. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 281 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 267. 1876—WINTER, Pilze, 1: 421. 1884—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 290. 1891.

Fomes connatus GILL. Champ. Fr. 684, cum icone. 1874—COOKE, Grev. 14: 20. 1885; Handb. Austr. Fungi, 135. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 196. 1888; 9: 176. 1891; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 994. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 219. 1892; Brit. Fungi, 376. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 351. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 190. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 71, *pl. 5, f. 23.* 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 129. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 215, *f. 572.* 1915—REA, Brit. Basid. 596. 1922—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 113. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 47: 9. 1913; 7: 1125. 1922—安田, 植. 雜. 27: 470. 1913; 31: 50. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 239. 1917; ed. 3. 138. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 449, *pl. 215, f. 1—3.* 1939)

Physisporus obducens GILL. Champ. Fr. 697. 1874.

Polyporus oxyporus SAUTER, Hedwigia, 15: 150. 1879—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 103. 1888.

Fomitopsis connata KARST. Rev. Myc. 3: 18. 1881; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 307. 1889.

Trametes connata KARST. Hattsv. 2: 47. 1882—PATOUILLARD, Ess. Tax. 92. 1900.

Trametes populina KARST. Hattsv. 2: 48. 1882.

Fomes populinus COOKE, Grev. 14: 20. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 197. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 994. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 218. 1892; Brit. Fungi, 376. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 75. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 352. 1908—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 99. 1908; North. Polyp. 47. 1914; South. Polyp. 47. 1915—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 191. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 246. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 70. 1914—REA, Brit. Basid. 596. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1002.* 1932.

Leptoporus connatus QUÉL. Enchir. Fung. 177. 1886.

Poria obducens COOKE, Grev. 14: 109. 1886—QUÉLET, Enchir. Fung. 180. 1886; Fl. Myc. 382. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 299. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1032. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 203. 1892; Brit. Fungi, 384. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 360. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 182. 1912—REA, Brit. Basid. 601. 1922.

Coriolus connatus QUÉL. Fl. Myc. 391. 1888—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 146. 1925; Hymen. Fr. 569. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 437.* 1935.

Scindalma connatus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 518. 1898.

Scindalma populinum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

Coriolus obducens BOURD. & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 147. 1925; Hymen. Eur. 570, *f. 168*. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 14. 1932; 49 : 263. 1933.

Oxyporus obducens DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 202. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 63. 1941.

Oxyporus populinus var. *obducens* PILÁT, Atl. Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 343. 1940.

子實體は多年生，坐生乃至背着生，傘は丸山形，疊生，木栓質乃至木質，2—10×3—15cm，厚さ 0.5—4cm，表面は白色乃至帶黄色，時に灰黒色となり，屢々蘚類及び藻類に被わる，絨軟毛を有し或は無毛，環紋なく，罅裂せず，緣は厚く，普通狭き無性部あり，肉は白色或は類白色，乾時白色或は乾酪色，柔軟，海綿質にて稍々多漿，乾時木栓質，厚さ 0.3—4，通常 2cm 以下，菌絲は稀に分岐し，徑 2—5μ，子實層托は白色或は類白色，明に層をなし，各層は厚さ 0.5—1mm の肉によりて境せらる，管長は各季 1—5mm，多くは約 3mm，孔口は白色，類白色或は帶黄色，屢々光澤あり，多角形，1mm 間平均 4—5 個，孔緣は全緣乃至僅か齒狀をなし，寧ろ薄し，囊狀體は屢々存在し，頭狀或は棍棒形，11—19×3—11μ，多くは子實層中に結晶體として見ゆ，擔子柄は 7—9×4—5μ，胞子は楕圓形乃至球形，平滑，無色，時に 1 油球あり，3.5—4.5×3—4μ。材の白腐を起す。

所在及產地

ナラ (*Quercus*) カエデ (*Acer*) 等枯幹上

北海道，本州一歐·北米·濠·亜(支·西比)

和名 シロサルノコシカケ（白猿腰掛）〔安田〕

Oxyporus ravidus (FR.) BOND. et SING.

ザイモクタケ

BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 63. 1941. (IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 81. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 31. 1952—原，日. 菌. 目. 233. 1954)

Boletus heteroclitus SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 3 : *pl. 367*. 1803. (non BOLT.)

Polyporus ravidus FR. Epicr. Myc. 478. 1838; Hymen. Eur. 566. 1874—GILLET, Champ. Fr. 679. 1874.

(安田，植. 雜. 30 : 26. 1916; 31 : 52. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 294. 1927)

Cladomeris ravida QUÉL. Enchir. Fung. 169. 1886.

Polystictus ravidus COOKE, Grev. 14 : 81. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 238. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1016. 1916—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 75. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 353. 1908—REA, Brit. Basid. 610. 1922.

Sistotrema cinereum ＊ *lutescens* PERS. Myc. Eur. 2 : 205. 1825.

Coriolus ravidus BOURD. et GALZIN, Hymen. Fr. 564. 1928.

Trametes ravida PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 272, *pl. 193*. 1939.

子實體は無莖，疊生，傘は薄く，革質，側邊相癒着して棚狀をなす，1.5—2.5×3—10cm，表面は材色，粗糙，甚だ短き密毛を被むり，不明瞭の環層を有す，肉は材色，管孔面は材色，長さ 1.5—2.5mm，孔口は多角形，不等大，囊狀體を有す。胞子は楕圓形，平滑，無色，6×4.5μ。

所在及產地

廣葉樹幹切株，倒木上　北海道，本州一歐

和名 ザイモクタケ（材木茸）〔安田〕

Hirschioporus DONK

シハイタケ屬

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 168. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 63. 1941—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 81. 1943.

Coriolus QUÉLET, pr. p.

Irpex FRIES, Auct. plur. pr. p.

Lenzites FRIES, Auct. plur. pr. p.

Polystictus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は 1 年生，無莖又は半背着生，傘は薄く，半圓形或は棚狀に連り，疊生，表面は多毛，無皮無殼，肉は蠟質乃至膠質を帶び，乾時稍々軟骨質，類白色にて淡紫紅色を帶ぶること多し，子實層托は 1 層，管孔狀，ウスバタケ狀，褶狀等，實質は傘肉と同質なり，孔口は淺し，囊狀體あり，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は hircinus（山羊の）より出づ）

基準種　*H. abietinus* (FR.) DONK

〔因記〕本屬に屬するものは傘面に著しき毛被を有し，屢々斷面に於て傘肉が 2 重構造を有するが如き觀を呈し，囊狀體を有す。

本邦既知種檢索表

A. 通常針葉樹上生。

a. 子實層托は孔狀，孔口 1mm 間 2—3 個，傘面の毛被は稍々斜上生。

シハイタケ ***H. abietinus*** (257)

b. 子實層托は齒牙狀にて放射狀に配列，長さ 1—3mm，傘面の毛被は稍々斜上生。

ウスバシハイタケ *H. fusco-violaceus* (258)

c. 子實層托は完全なる褶狀，各褶間 3 mm 內外，傘面の毛被は稍々直立性にて短小。

エゾシハイタケ *H. laricinus* (259)

B. 通常廣葉樹上生。

a. 子實層托は孔狀にて劃れ易く，傘面に著しき粗荒の長き毛被あり，稀にスギ上に生ず。

シラゲタケ *H. versatilis* (259)

b. 子實層托は齒牙狀にて，傘面に壓低せる柔纖維を被むり，子實層面紫褐色にて天鵞絨狀をなす。

ムラサキウスバタケ *H. purpureus* (260)

Hirschioporus abietinus (DICKS. ex FR.) DONK

シハイタケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:168. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:63. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:82. 1943; 植. 硏. 雜. 20:284, *f. 1, 5 a, 6 a, 7.* 1944; 及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67:29. 1954—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:31. 1952—原, 日. 菌. 目. 153. 1954)

Boletus abietinus DICKS. Pl. Crypt. Brit. 3:21, *pl. 9, f. 9.* 1793—PERSOON, Obs. Myc. 1:24. 1796; Syn. Meth. Fung. 541. 1801—DC. Fl. Fr. 6:40. 1815—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:643. 1821.

Boletus incarnatus SCHUM. Enum. Pl. Saell. 2:391. 1803.

Polyporus abietinus FR. Syst. Myc. 1:370. 1821; Elench. Fung. 1:97. 1828; Epicr. Myc. 479. 1838; Hymen. Eur. 569. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:77. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):141. 1836; Outl. Brit. Fung. 249. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:419. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:233. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:279. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:284. 1872—GILLET, Champ. Fr. 680, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:271. 1876—WINTER, Pilze, 1:415, *f. 1—2.* 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1:473. 1888—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:91. 1914—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 13:328, *pl. 18, f. 2—6.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b:62. 1934.

Polyporus parvulus SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4:157. 1832.

Bjerkandera abietina KARST. Hattsv. 2:43. 1882.

Coriolus abietinus QUÉL. Enchir. Fung. 175. 1886; Fl. Myc. 391. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 94. 1900—MURRILL, N. Am. Fl. 9:27. 1907; North. Polyp. 9. 1914; South. Polyp. 10. 1915—AMES, Ann. Myc. 11:242. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:144. 1925; Hymen. Fr. 567. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:170, *pl. 16, f. 1—3, pl. 21, f. 2—3, pl. 22, f. 2.* 1932; Bull. Soc. Myc. Fr. 48:13, *pl. 2. f. 1.* 193; 52:313, *f. 17.* 1936—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 439, f. 1.* 1935.

(MURRILL, Mycologia, 1:165. 1909)

Polystictus abietinus COOKE, Grev. 14:84. 1886—SACCARDO & CUBONI, Syll. Fung. 6:265. 1888: Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1019. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:215. 1892; Brit. Fungi, 381. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 354. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):227, *pl. 34 B, f. 1—2.* 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 65, *pl. 4, f. 22.* 1914—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 45:466. 1918—REA, Brit. Basid. 610. 1922.

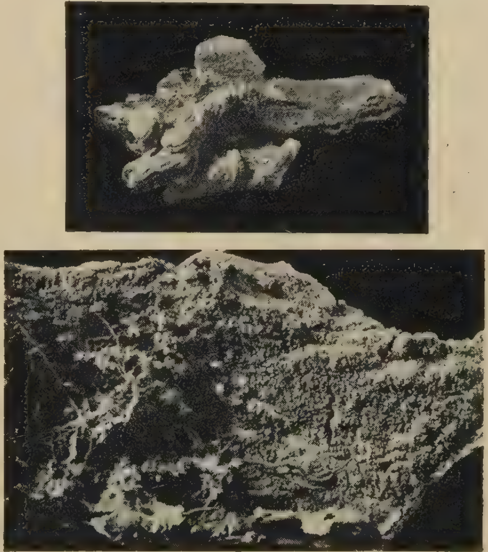
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:3. 1912; 5, Lett. 65:3, 5, 13. 1917; Lett. 66:7. 1917; 6:963, 1012. 1920; 7:1126, 1296. 1922—安田, 植. 雜. 27:560. 1913; 31:57. 1917—中路, 植. 雜. 30:102. 1916—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 485. 1917; ed. 3. 297. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 467, *pl. 224, f. 5—6.* 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 332, *f. 145.* 1945)

Hansenia abietina KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 305. 1889.

Microporus abietinus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2):495. 1898.

Trametes abietina PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:273, *pl. 187—190.* 1939; Ann. Myc. 38:72. 1940.

子實體は薄き革質にて强靱，無莖或は半背着生にて多數疊生す。傘は半圓形或は扇形にて，0.5—4×1—5cm，厚さ 0.1—0.2cm，反轉傘は 8×10cm に



第 198 圖 シハイタケ *H. abietinus* 子實體 ×1 (大谷氏)

及ぶ，往々全背着のものあり，傘面は白色乃至灰白色，短粗毛を密布し，淺き環薄を有す，緣は薄く，波狀或は裂片となり，乾時內屈す，肉は薄く，蠟質乃至膠質，乾時稍々軟骨質，白色或は淡色，管孔は短く，殆ど淺孔狀，孔口は中等大，圓形或は角形，淡肉色乃至淡紫色を呈し，1 mm 間平均 2—3 個，口壁は薄くして，少しく齒牙狀に裂け，平坦ならず，囊狀體は長紡錘形，無色，平滑，或は頂に結晶を被むり，15—25×3—8μ。胞子は長楕圓形，小嘴あり，平滑，無色，5—7×2μ。材の白腐を起す。

所 在 及 產 地

針葉樹枯木上（主にエゾマツ（*Picea*），マツ屬（*Pinus*））

全土—歐. 北米. 亞（朝. 滿. 支. 比. 樺. 西比）

和 名 シハイタケ（紫背茸）〔安田〕

Hirschioporus fusco-violaceus
(SCHRAD. ex FR.) DONK
ウスバシハイタケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht. 9:169. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:63. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 9:82. 1943; 植. 硏. 雜. 20:286, *f. 2, 5 b, 6 b*. 1944; 及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67:29. 1954—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:31. 1952—原, 日. 菌. 目. 153. 1954)

Agaricus decipiens WILLD. Bot. Mag. 4:12, *pl. 2, f. 5*. 1788.

Hydnum fusco-violaceum SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 180. 1794—FRIES, Syst. Myc. 1:421. 1821.

Sistotrema violaceum PERS. Syn. Meth. Fung. 551. 1801; Myc. Eur. 2:203. 1825—SCHROETER, Pilze Schles. 1:462. 1888.

Sistotrema fusco-violaceum EHLENB. Syl. Myc. Berol. 30. 1818—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 462. 1888.

Sistotrema decipiens SOMMERF. Fl. Lapp. 271. 1826.

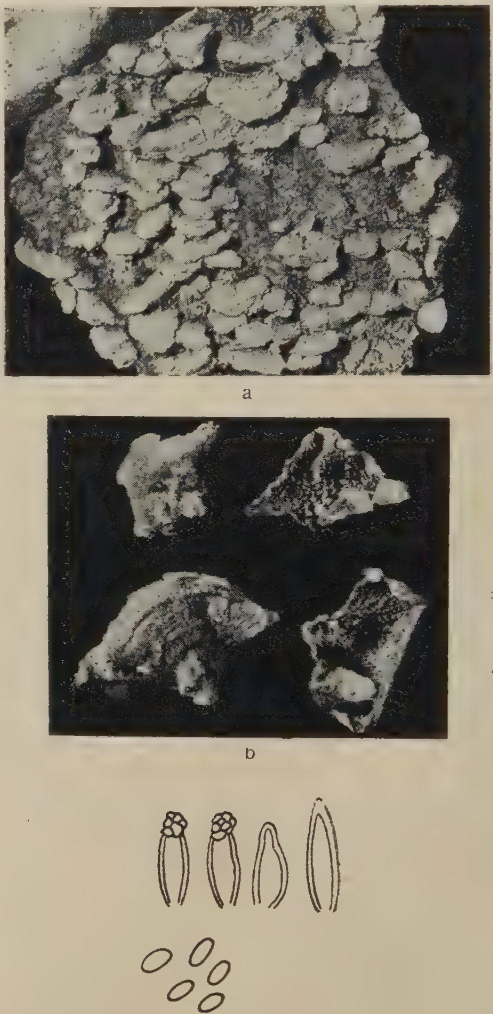
Irpex fusco-violaceus FR. Elench. Fung. 1: 144. 1828; Epicr. Myc. 521. 1838; Hymen. Eur. 620. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 403. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:255. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 23. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:303. 1871—GILLET, Champ. Fr. 729. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:297. 1876; Hattsv. 2:55. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 312. 1889—WINTER, Pilze, 1:366. 1884—QUÉLET, Enchir. Fung. 198. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:483. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 310. 1891; Brit. Basid. 387, *f. 88 A–D*. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:169. 1892; Brit. Fungi, 400. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):171. 1912—REA, Brit. Basid. 610. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1188, 1230, *f. 2566—7*. 1923—今關, 日. 隱. 植. 圖. 469, *pl. 225, f. 4—6*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 265, *f. 88*. 1945—原, 日. 菌. 目. 167. 1954)

Irpex violaceus QUÉL. Fl. Myc. 376. 1888—BRESADOLA, Hymen. Hung. Kmet. n. 126. 1897; Icon. Myc. 22: *pl. 1063*. 1932—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 572. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:18. 1932; 49:261. 1933.

Xylodon fusco-violaceus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2):541. 1898.

Irpex lamelliformis LLOYD, Myc. Writ. 5:715, *f. 1073*. 1917; 7:1353, *f. 3206*. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 71. 1936



第 199 圖 ウスバシハイタケ *H. fusco-violaceus*
a. 子實體群生の狀 ×3/4 b. 子實體 ×1
c. 囊狀體及胞子 ×612 （大谷氏）

—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 478. 1825. (sub UMEMURA)
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66 : 7. 1917; 7 : 1126, 1162. 1922; 1296. 1924; 1345. 1925—原, 日. 菌. 目. 167. 1954)
Irpex Noharae (non SACC. et TROTT.) LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63 : 7. 1916; 601, *f. 851.* 1916.

子實體は薄き革質，强靱，坐生或は擴布反轉して傘を生じ，疊生す。傘は半圓形或は棚狀，表面は白色，灰白色或は灰色，槪して長粗毛を密生し，淺き環溝を有す，緣は薄く，銳く，乾時內屈す，肉は薄く，白色，蠟質乃至膠質，乾時稍々軟骨質，シハイタケに酷似す，管孔は暗褐紫色，齒牙狀にて放射狀に配列し，長さ 1—3 mm，囊狀體は長紡錘形にて，先端に結晶を被むる。胞子は長楕圓形，小嘴あり，平滑，無色，5—7×2μ。腐朽型は前者に同じ。

所 在 及 產 地

針葉樹（主にトドマツ，モミ屬 (*Abies*)）

枯木材上　全土—歐. 北米. 亞(樺. 滿. 支. 西比)

和 名　ウスバシハイタケ（薄齒紫背茸）〔今關〕

Hirschioporus laricinus (KARST.) TERAMOTO

エゾシハイタケ

in CHIBA & TERAMOTO, Bull. Tokyo Univ. Forests, 43 : 31. 1952.
Lenzites laricina KARST. Acta Soc. Faun. Fl. Fenn. 27 (4) : 4. 1905—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 124. 1912—BURT, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 470. 1931—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 19. 1932.
Lenzites ambigua KARST. Acta Soc. Faun. Fl. Fenn. 27 (4) : 5. 1905—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 124. 1912.
Lenzites abietis LLOYD, Myc. Writ. 6 : 909, *f. 1607.* 1920; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 92. 1936.
(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1922)
Coriolus abietinus var. *lenzitoidea* (MURSKINSKY) PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51 : 367, *f. 2, pl. 7, f. 4.* 1935.
Hirschioporus abietis IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 82. 1943.
(今關, 植. 硏. 雜. 20 : 287, *f. 3, 5 c, 6 c.* 1944—原, 日. 菌. 目. 153. 1954)

子實體は薄き革質，强靱，坐生或は半背着，疊生，傘は半圓形にて貝殼狀，或は横着し棚狀，外形，色，質等シハイタケに酷似するも，稍々大形にて厚く，表面に明かなる環紋あり，毛被は前 2 種共に稍々斜上性なるに對し，稍々直立性にて短小（約 0.5 mm）なり，子實層托は完全なる褶狀をなして連絡なく，各褶間 3 mm 內外に及ぶ，囊狀體は紡錘形にて厚膜，殆ど無色，先端に結晶を被むり，12—18×5—5.5μ，8μ 程抽出す。胞子は長楕圓形，小嘴あり，平滑，無色，5—7×2μ。

所 在 及 產 地

トドマツ (*Abies*) カラマツ (*Larix*) 樹材上

北海道—北米. 亞(樺. 滿. 西比)

和 名　エゾシハイタケ（蝦夷紫背茸）〔今關〕

Hirschioporus versatilis (BERK.) IMAZ.

シラゲタケ

IMAZEKI, Jap. Jour. Bot. 20 : 288, *f. 4, 6 d.* 1944.
Trametes versatilis BERK. Lond. Jour. Bot. 1 : 150. 1842—PATOUILLARD, Ess. Tax. 92. 1900—PILÁT, Ann. Myc. 38 : 76. 1940.
(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1296. 1924—今關, 日. 隱. 植. 圖. 471, *pl. 226, f. 3—4.* 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 73. 1943)
Hexagona ciliata KLOTZ. Nov. Act. Acad. Leop. Carol. 19 : 235, *pl. 5, f. 1.* 1843—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 358. 1888.
Polystictus venustus BERK. Lond. Jour. Bot. 4 : 55. 1845—COOKE, Grev. 14 : 82. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 251. 1888.
Polystictus versatilis FR. Nov. Symb. Myc. 76. 1851—COOKE, Grev. 14 : 82. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 244. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 5 : 703, *f. 1049—50.* 1917; 7 : 1109, *f. 2051.* 1922—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 218. 1935.
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 16, 1912; 5, Lett. 65 : 13. 1917; Lett. 66 : 7. 1917—安田, 植. 雜. 26 : 234. 1912; 31 : 58. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 493. 1917; ed. 3. 301. 1927—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5 : 73. 1931—原, 日. 菌. 目. 283. 1954)
Trametes cilicioides FR. Nov. Symb. Myc. 87. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 266. 1888.
Polyporus cladotrichus BERK. et CURT. Jour. Linn. Soc. 10 : 309. 1868.
Trametes Zollingeriana LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 5 : 131. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 347. 1888—COOKE, Grev. 19 : 102. 1891.
Polystictus cladotrichus COOKE, Grev. 14 : 81. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 239. 1888.
Microporus cladotrichus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3 (2) : 495. 1898.
Microporus venustus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3 (2) : 497. 1898.
Microporus versatilis KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3 (2) : 497. 1898.
Funalia villosa MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 356. 1905; N. Am. Fl. 9 : 78. 1907. (non SWARTZ)
Funalia cladotricha MURR. Bull. Torr. Bot.

Club, 32: 357. 1905; N. Am. Fl. 9: 78. 1907; South. Polyp. 33. 1915.

Funalia versatilis MURR. North. Polyp. 33. 1914.

子實體は無莖或は半背着，疊生，傘は外圍通常半圓形にて，扁平又は貝殼狀，栓質，1.5—3×3—5 cm，厚さ 0.3—2 cm，表面は長さ 2—10 mm の粗剛なる毛束を密生し，極めて粗糙，灰白色，灰黃色乃至灰黃褐色，環紋を有す，緣は薄くして鋭く，波狀乃至淺裂し，同色，肉は薄く，革栓質，淡色，子實層托は長さ 1 cm 以上に及び，暗紫色乃至灰褐色，孔口は大にて，形狀變化性に富み，圓形乃至角形，更に迷路狀をなす，口壁は全緣或は齒牙狀をなし，平坦ならず，囊狀體は著しく，棍棒形，無色，15—25×4.5—6 μ，胞子は長楕圓形，平滑，無色，6—8×2—4 μ。

所在及產地

廣葉樹枯幹，稀にスギの切株上

本州，四國，九州—北南米.濠.亞

(臺.朝.支.印.比)

和名 シラゲタケ（白髮茸）〔安田〕，

シコンタケ（紫暈茸）〔澤田〕

Hirschioporus purpureus (YAS.) IMAZ.

ムラサキウスバタケ

Irpex purpureus YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 23: 191, *f. 2.* 1919—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 477. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66: 7. 1917; 715, *f. 1072.* 1917—安田，植.雜. 32: 173. 1918—白井，日.菌.目. ed. 3. 175. 1927)

子實體は半背着生，背着部は平たく擴布し，5.5—8×4.5—7.5 cm に及ぶ，反轉部は半圓形の傘を作る，革質，傘は 1.2—2.5×2—7×0.3—0.6 cm，表面は紫褐色，壓低せる柔纖維を被むり，不明瞭の環紋あり，肉は柔軟，淡紫褐色，菌齒は大形，疎生，扁平にて往々半ば以上迄癒着し，先端鋭く或は截頭，1.5—6×0.5—2.5 mm，表面紫褐色，絨樣にて，色澤はカミウロコタケに類似す。胞子は球形，平滑，無色，5—6 μ，囊狀體は多生，稍々厚膜，圓頭，上部に結晶を被むる，微淡紫褐色，50—60×4—7 μ。

所在及產地

カシワ (*Quercus*) 樹幹上 四國

和名 ムラサキウスバタケ（紫薄齒茸）〔安田〕

Coriolus QUÉL.

カワラタケ屬

QUÉLET, Enchir. Fung. 175. 1886.

Bulliardia LAZARO, Rev. Roy. Acad. Cienc. Madr. 14: 839. 1915—6.

Cerrena MICHELI ex S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 649. 1821.

Coriolopsis MURRILL. Bull. Torr. Bot. Club, 32: 358. 1905.

Cyclomycetella MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31: 422. 1904.

Hansenia KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5: 40. 1879.

Irpex FRIES, Auct. plur. pr. p.

Irpiciporus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32: 471. 1905.

Phyllodontia KARSTEN, Hedwigia, 22: 163. 1883.

Polystictus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Poronidulus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31: 425. 1904.

子實體は 1 年生，無莖或は半背着生，傘は薄質，半圓形又は棚狀に連結す，疊生，表面は通常粗毛を有す，下皮は多くは明瞭にて放射狀に走る着色菌絲の緊密なる結合によりて成る，肉は白色乃至肉桂色，革質なるを型的とす。子實層托は薄く，管孔狀或は齒牙狀，1 層，傘肉と同質，孔口は圓形，類圓形又は迷路狀，孔壁は屢々深裂し，ウスバタケ (*Irpex*) 狀を呈す。囊狀體なし，胞子は無色，平滑，樹上生。（本屬名は chorion（革）より出づ）

基準種 *C. versicolor* (L. ex FR.) QUÉL.

〔因記〕1851 年 FRIES 氏の創定せる *Polystictus* 屬はオツネンタケ (*P. perennis*) を基準種とし，其後傘肉薄くして多くは革質なる多數の菌を包含せしめたるため內容極めて雜然たるものありて，有莖無莖の別なく傘肉の色並に質等をも顧みざりき，今日之れを整理され多くは *Coriolus*, *Microporus* 及 *Coltricia* の屬に，少數のものは *Hirschioporus*, *Onnia* 其他の屬に收められ，*Polystictus* 屬を廢棄するに至れり，若し之れを保留せんとせば基準種の關係上 *Coltricia* 屬に代るべきものなり，上記 3 屬の區別は傘肉の色により *Coriolus*, *Microporus* はサルノコシカケ族 (*Polyporeae*) に屬し，前者は無莖，後者は有莖なり，*Coltricia* はキコブタケ族 (*Mucronoporeae*) に屬し肉は黃褐色有莖なるにより區別さる。

本邦既知種檢索表

A. 傘面に盃狀無性體あり。

サカズキカワラタケ ***C. conchifer*** (261)

B. 傘面に無性體なし。

a. 子實層托は齒牙狀となる。

α. 子實層托は初めより齒牙狀をなす，傘面無毛，褐色乃至赤褐色，多數疊生，小形菌。

ニクウスバタケ ***C. consors*** (262)

β. 子實層托は速かに齒牙狀となる。

I. 厚肉，傘面纖維毛あり，無環紋或は稍々環紋あり，白乃至栗色，孔口初め圓，多角或は波狀。　ミノタケ **C. biformis** (263)

II. 薄肉。

1. 管孔面紫褐色乃至暗紫色，孔口初め多角，傘面軟毛あり，環紋あり，白乃至灰褐色（例外的に嚢狀體あり）

ハカワラタケ **C. pargamenus** (263)

2. 管孔面紫色なし。

甲. 孔口初め角形，傘面微細密毛あり，白色乃至材白色，著しからざる環層あり。

シロバカワラタケ **C. elongatus** (264)

乙. 孔口初め迷路狀，傘面軟毛或は剛毛あり，白乃至淡褐，環層あり。

ミダレアミタケ **C. unicolor** (264)

γ. 子實層托はウスバタケ狀（齒牙狀）ならず。

I. 管孔面は材色に銀光澤を有す。傘面初め絨毛ありて黃銹色，後無毛銹褐色，環層あり，肉黃色，孔口小多角。

ウラギンタケ **C. neaniscus** (265)

II. 管孔面に銀光澤なし。

1. 傘面は粗毛を被むる。

甲. 子實體は坐生。

イ. 傘緣は鈍，下面無性帶あり，孔緣は全緣，傘面灰色，帶黃或は煙褐色，環紋あり，孔口圓形。

アラゲカワラタケ **C. hirsutus** (266)

ロ. 傘緣は甚だ銳く，下面無性部なし，孔緣は稍々齒裂，傘面前種に似たり，孔口角形。　キツネカワラタケ **C. polyzonus** (267)

乙. 傘の基部莖狀をなす。傘面灰褐乃至褐黃色，粗毛は高まり暗色，著しき環紋を作る。

レンジヤクタケ **C. lutescens** (267)

2. 傘面は微細軟毛に被わる。

イ. 傘面多彩の環紋を有す。

い. 環紋は褐，赤褐，黑，紫，綠，黃等あり，緣は白，帶黃色にて淡色，或環層は殆ど無毛のことあり，孔口は圓乃至角形。

カワラタケ **C. versicolor** (268)

ろ. 環紋は交互に鼠色軟毛帶と橙黃無毛帶の並列より成る。孔口は角形。

カワラタケモドキ **C. zonatus** (270)

ロ. 傘面多彩ならず。

い. 傘面灰黃褐乃至灰色，環溝あり，孔口は廣多角形。

フルイカワラタケ **C. pinsitus** (270)

ろ. 傘面類白或は灰色，環溝なし，孔口小圓形。　カゴメカワラタケ **C. fibula** (271)

Coriolus conchifer (SCHW.) PAT.

サカズキカワラタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 94. 1900—AMES, Ann. Myc. 11: 242. 1913—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 13. 1932; 49: 262. 1933—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 81: 5. 1949.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 80. 1943—原，日．菌．目．90. 1954)

Boletus conchifer SCHW. Syn. Fung. Carol. 98. 1822.

Boletus virgineus SCHW. Syn. Fung. Carol. 98. 1822.

Polyporus conchifer FR. Elench. Fung. 1: 96. 1828; Epicr. Myc. 463. 1838—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 93. 1914—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 68. 1934.

Polystictus virgineus COOKE, Grev. 14: 79. 1886.

Polystictus conchifer SACC. Syll. Fung. 6: 225. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 3: 41, *f. 365—6*. 1910; Stip. Polyp. 145. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 61, *pl. 4, f. 20*. 1914.

(LLOYD, Myc. Writ. 6: 963, 1012. 1920; 7: 1126. 1922—今關，日．隱．植．圖．463, *pl. 222, f. 5*. 1939)

Poronidulus conchifer MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31: 425. 1904; N. Am. Fl. 9: 16. 1907; Mycologia, 5: 289, *pl. 105*. 1913; 10: 108, *pl. 6, f. 2*. 1918; North. Polyp. 5. 1914; South. Polyp. 5. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 59. 1941.

Trametes conchifer PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 264, *pl. 178b*. 1939.

子實體は無莖或は側生瘤にて着生し後稍々有莖の觀を呈す。傘は腎臟形乃至半圓形，1—3×1—4cm，厚さ 0.1—0.3cm，革質，表面白色乃至帶黃色，無毛，環紋あるか或は之を缺く，緣は甚だ薄くして銳し，通常傘面及びその基部に小杯或は盤形の無性體を生ず，白色或は褐色にて內側に屢々環紋を有す，傘肉は白色，纖維質，厚さ 1mm 以下，管孔は初め白色，乾時屢々帶黃色，長さ 2mm 以下，孔口は角形にて薄壁，1mm 間平均 3 個，口壁は屢々齒牙狀を



第 200 圖　サカズキカワラタケ *C. conchifer*
(LLOYD 氏による)

なす。胞子は楕圓形，平滑，無色。

所在及産地

ニレ(*Ulmus*)の落枝上

北海道，本州—北米.歐.亞(西比)

和名　サカズキカワラタケ（盃瓦茸）〔今關〕

Coriolus consors (BERK.) IMAZ.

ニクウスバタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 80. 1909.
(原，日.菌.目. 90. 1954)

Irpex consors BERK. Jour. Linn. Soc. 16:51. 1878—SACCARDO, Syll. Fung. 11:486. 1895—LLOYD, Myc. Writ. 5 : 625. *f. 887*. 1917.
(松村，植.名鑑，1 : 148. 1904—白井，日.菌.目. 44. 1905; ed. 2. 299. 1917; ed. 3. 174. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 56:4. 1915; 5, Lett. 63:7. 1916; Lett. 65:6. 1917; Lett. 69:10. 1919; 7:1125, 1154, *f. 2261*. 1922; 1296. 1924—安田，植.雜. 31 : 48. 1917—北島，林.試.報. 28 : 41, *pl. 5*, *f. 44*, *pl. 8*, *f. 29*. 1952—今關，日.隱.植.圖. 469, *pl. 225*, *f. 1*. 1937; 植.硏.雜. 15:308. 1939—逸見及赤井，木.腐.菌學，263, *f. 87*. 1945—原，日.菌.目. 167. 1954)

Irpex brevis BERK. Fl. Nov. Zeal. 2 : 181. 1885—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 82 : 3, *f. 1—2*. 1949.

Irpex decurrens BERK. in COOKE, Grev. 19 : 109. 1891—SACCARDO, Syll. Fung. 11:111. 1895.
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67 : 11. 1918—白井，日.菌.目. 44. 1905; ed. 2. 299. 1917; ed. 3 : 174. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67 : 11. 1918)

Xylodon consors KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 541. 1898.

Xylodon decurrens KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 541. 1898.

? *Irpex Kusanoi* P. HENN. et SHIR. Bot. Jahrb. 28 : 267. 1901—SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 178. 1902.
(松村，植.名鑑，1 : 148. 1904—白井，日.菌.目. 44. 1905; ed. 2. 299. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67 : 11. 1918)

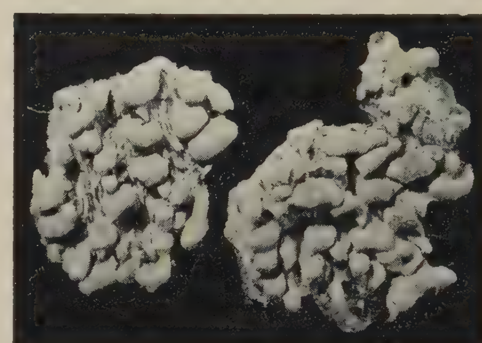
? *Hydnum Kusanoi* P. HENN. Bot. Jahrb. 37 : 160. 1905—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 375. 1912.
(白井，日.菌.目. ed. 2. 285. 1917; ed. 3. 166. 1927—原，日.菌.目. 155. 1954)

Irpiciporus consors MURR. Mycologia, 1 : 166. 1909.

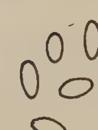
Irpiciporus japonicus MURR. Mycologia, 1 : 166. 1909.
(野原，植.雜. 24 : 7, *f. 1*, *6* b. 1910)

Irpex japonicus SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 377. 1912.
(安田，植.雜. 27:561. 1913; 31:48. 1917—中路，植.雜. 30:102. 1916—白井，日.菌.目. ed. 2 : 299. 1917; ed. 3. 175. 1927)

傘は薄く，略々半圓形，多數覆瓦狀に疊生し，基部垂下し互に連る，横徑 1—3 cm，表面は鮮茶褐色，赤褐色或は材色，無毛，平滑，細放射狀線と不明瞭



a



b

第 201 圖　ニクウスバタケ *C. consors*
a. 子實體 ×1　　b. 胞子 ×612（大谷氏）

の環紋を有す，緣は薄くして刄狀，乾時內屈す，肉は極めて薄く，生時膨軟，乾時革質，强靱，淡材色，下面に長さ 1—2.5 mm の薄齒を密生し，淡肉黃色乃至淡材白色，胞子は楕圓形，無色，4.5—6×2—3 μ。材の白腐を起す。

所在及産地

カシワ類(*Quercus*)其他の枯株幹上

本州，四國，九州—濠.亞(支.朝)

和名　ニクウスバタケ（肉薄齒茸）〔北島〕，
ウスバタケモドキ（擬薄齒茸）〔安田〕，
コバノウスバタケ（小齒薄齒茸）〔安田〕

Coriolus biformis (KLOTZ. ex FR.) PAT.

ミノタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 94. 1900—MURRILL, N. Am. Fl. 9:26. 1907—AMES, Ann. Myc. 11:242. 1913—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 439, f. 2*. 1935.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 80. 1943; 植. 分. 地. 13:249. 1943—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43: 30. 1952—原, 日. 菌. 目. 90. 1954)

Polyporus biformis KLOTZ. Linn. 8: 486. 1833—FRIES, Epicr. Myc. 475. 1828—THÜMEN, Beitr. Pilze Fl. Sibir. 2: n. 344. 1878—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:95. 1914—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 64. 1934.

Polyporus molliusculus BERK. Lond. Jour. Bot. 6: 320. 1847.

Polyporus carolinensis BERK. et CURT. Lond. Jour. Bot. 1: 392. 1849.

Polystictus biformis FR. Nov. Symb. Myc. 68. 1851—COOKE, Grev. 14: 81. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:240. 1888—NEUMAN, Polyp. Wisc. 69. 1914—LLOYD, Mrc. Writ. 5:580, *f. 817*. 1916.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:6. 1912; 6:1096. 1920; 7: 1126. 1922—安田, 植. 雑. 37: 118. 1913; 31:58. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 485. 1917; ed. 3. 297. 1927)

Bjerkandera biformis KARST. Hattsv. 2: 44. 1882.

Microporus biformis KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 495. 1898.

Trametes biformis PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 277, *pl. 179b*. 1939; Ann. Myc. 38: 72. 1940. pr. p.

子實體は無莖にて擴布反轉し或は全背着, 屢々疊生す。傘は半圓形或は側邊癒着して伸長す, 0—5.5×1.5—6 cm, 厚さ 0.2—1.5 cm, 生時柔革質にて撓曲性, 乾時僅か撓曲或は剛直, 表面は白色, 淡色, 栗色或は帶赤黄色を呈し, 壓着せる纖維毛を被むり, 一般に粗面, 無環紋或は稍々環紋あり, 緣は薄くして鋭し, 肉は白色或は類白色, 生時强靱纖維質, 乾時柔栓質, 厚さ 1—5 mm, 子實層托は實質白色にて乾時栗色となる, 長さ 1—5 mm, 孔口は圓形乃至多角形或は波狀, 1 mm 間に平均 1—2 個, 孔壁は寧ろ薄く, 通常齒裂し, 生育初期に於て已に齒牙狀となる, 時に傘緣部に孔狀となりて殘存す, 胞子は圓壔形にて屈曲し, 平滑, 無色, 7—8×2—2.6μ。

所在及産地

樹材上 (シナノキ等)

北海道, 本州—歐. 北米. 亜(支. 西比)

和名 ミノタケ (蓑茸) 〔安田〕

Coriolus pargamenus (FR.) PAT.

ハカワラタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 94. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 145. 1925 (in nota.); Hymen. Fr. 567. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 14. 1932; 49: 262. 1933.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:80. 1943; 植. 分. 地. 13: 250. 1943—原, 日. 菌. 目. 90. 1954)

Polyporus prolificans FR. Epicr. Myc. 443. 1838.

Polyporus pargamenus FR. Epicr. Myc. 480. 1838—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 92. 1914—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 329, *pl. 16, f. 4*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 63. 1934.

Polystictus pargamenus FR. Nov. Symb. Myc. 69. 1851—COOKE, Grev. 14:81. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:242. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1021. 1916—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 193. 1903—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:76. 1903—NEUMAN, Polyp. Wisc. 68. 1914.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 31:5. 1911; Lett. 38: 10. 1911; 4, Lett. 39: 6. 1912; 5, Lett. 69:7. 1919; 6: 1098. 1920; 7: 1125. 1922; 1188. 1923—安田, 植. 雑. 26:20. 1912; 31: 58. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 491. 1917; ed. 3. 300. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 465, *pl. 223, f. 4*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 329, *f. 142—144*. 1945)

Polystictus prolificans COOKE, Grev. 14: 80. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 230. 1888.

Microporus pergamenus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 496. 1898.

Microporus prolificans KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 497. 1898.

Coriolus prolificans MURR. N. Am. Fl. 9: 27. 1907; North. Polyp. 9. 1914; South. Polyp. 10. 1915—AMES, Ann. Myc. 11: 242. 1913.

(MURRILL, Mycologia, 1: 165. 1909)

Trametes biformis PILÁT, Ann. Myc. 38: 72. 1940. pr. p.

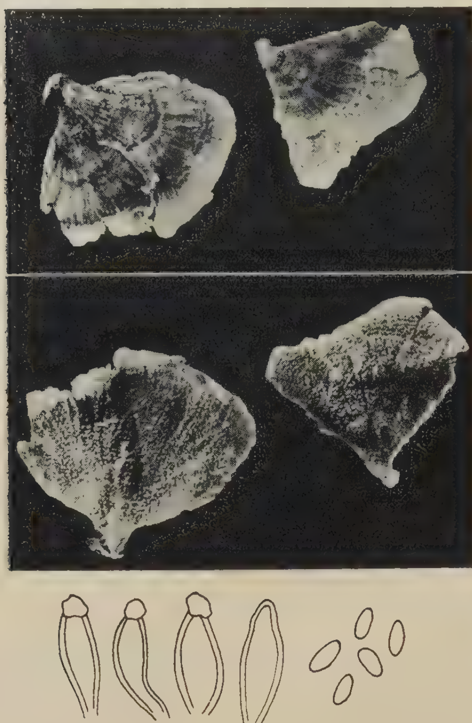
Hirschioporus pergamenus BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 63. 1941.

子實體は薄く, 革質, 坐生或は往々半背着生, 疊生す, 傘は半圓形, 扇形或は貝殼狀, 屢々基部狹細し莖狀となり着生物に着生す, 1—7×1—7 cm, 厚さ 1—4 mm, 傘面は環紋を有し, 長軟毛或は天鵞絨狀細密軟毛を被むる, 白色, 灰褐色乃至灰色, 時に環紋は黑色を呈す, 傘緣は甚だ薄くして鋭く, 波狀或は裂片となる, 下面廣く無性, 肉は甚だ薄く, 厚さ 1 mm 以下, 白色乃至黄褐色, 管孔は長さ 0.5—7 mm, 乾時脆し, 孔口は紫褐色乃至暗紫色, 老時褐色, 角形, 1 mm 間平均 2—3 個, 孔壁は薄くして速に齒牙狀に裂く, 厚さ 80—150μ, 子實層は厚さ 20μ, 無

色，擔子柄は幅 5—7μ，胞子は長楕圓形乃至腸詰形，平滑，無色，7—9×2—3μ，嚢狀體は多數或は不明

a

b



c

第202圖 ハカワラタケ *C. pargamenus*
a. 子實體表面 b. 同裏面 7/10
c. 嚢狀體及胞子 ×612 （大谷氏）

瞭，無色，結晶を被むるか或は平滑，子實層と同長或は 15μ 程抽出す。材の白腐を起す。

所在及産地 主に廣葉樹枯木上
本州，四國—歐. 北米. 亞(支. 西比)

和名 ハカワラタケ（齒瓦茸）〔安田〕

Coriolus elongatus (BERK.) PAT.
シロバカワラタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 94. 1900.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:80. 1943—原，日. 菌. 目. 90. 1954)

Polyporus elongatus BERK. Lond. Jour. Bot. 1: 149. 1842; Jour. Linn. Soc. 16 : 51. 1878.

(松村，植. 名鑑，1 : 163. 1904)

Polystictus elongatus FR. Nov. Symb. Myc. 62. 1851—COOKE, Grev. 14 : 80. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:231. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 10 : 503. 1912; Hedwigia, 51 : 314. 1912; 53 : 64. 1913.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53:8. 1914; 5, Lett. 63 : 7. 1916; Lett. 65 : 6. 1917; Lett. 66 : 7. 1917; Lett. 67:7. 1918; Lett. 68:7. 1918; 7 : 1320. 1924—白井. 日. 菌. 目. 74. 1905; ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 298. 1927—安田，植. 雜. 28 : 417. 1914; 31 : 58. 1917—中路，植. 雜. 30:102. 1916—今關，日. 隱. 植. 圖. 467, *pl. 224, f. 1.* 1939)

Microporus elongatus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 496. 1898.

子實體無莖なるも傘の基部狹小となり莖狀となる，傘は通常扇形或は半圓形，3.5—6×2—6cm，厚さ 0.1—0.3cm，甚だ薄く，革質，表面は白色乃至材白色，細微なる密毛を被むり，絹樣光澤あり，著しからざる環層を有す，肉は白色，管孔は淡材色乃至殆ど白色にて紫色を帶びず，孔口は角形，微小ならず，傘緣以外の部は孔壁伸長して齒牙狀をなす。胞子は球形，無色，平滑，3μ。材の白腐を起す。

所在及産地
廣葉樹幹上 全土—北米亞.（熱帶亞細亞. 支）

和名 シロバカワラタケ（白齒瓦茸）〔安田〕

Coriolus unicolor (BULL. ex FR.) PAT.
ミダレアミタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 94. 1900—AMES, Ann. Myc. 11 : 242. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:142. 1925; Hymen. Fr. 563. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 436.* 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 14. 1932; 49 : 263. 1933; 51 : 366. 1935.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 81. 1943; 植. 分. 地. 13:250. 1943—原，日. 菌. 目. 91. 1954)

Boletus unicolor BULL. Herb. Fr. *pl. 408.* 1788; *pl. 501, f. 3.* 1790—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 3: *pl. 325.* 1803—DC. Fl. Fr. 2: 115. 1815.

Boletus decipiens SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 169. 1794.

Sistotrema cinereum PERS. Syn. Meth. Fung. 551. 1801—NEES, Syst. Pilze Schw. 226, *f. 229.* 1817.

Daedalea unicolor FR. Syst. Myc. 1:336. 1821; Elench. Fung. 1:69. 1828; Epicr. Myc. 494. 1838; Hymen. Eur. 588. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 133. 1836; Outl. Brit. Fung. 254. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 414. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:217. 1867—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:288. 1871; Handb. Austr. Fungi, 162. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 288. 1872; Enchir. Fung. 184. 1886; Fl. Myc. 375. 1888—GILLET, Champ. Fr. 705. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 281. 1876; Hattsv. 2 : 52. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 310. 1889—WINTER, Pilze, 1:398. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:377. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1058. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 492. 1888—MIGULA, Krypt.

Fl. 3, Pilze, 2(1): 236. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 33. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:143. 1914—REA, Brit. Basid. 618. 1922—KONRAD, Bull. Soc. Myc. Fr. 39 : 42. 1923.

(BERKELEY, Jour. Linn. Soc. 16 : 51. 1878—P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 269. 1901; 31 : 737. 1902—松村, 植. 名鑑, 1 : 139. 1904—白井, 日. 菌. 目. 28. 1905; ed. 2. 193. 1917; ed. 3. 114. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:10, 15, 16. 1912; Lett. 43 : 4. 1912; Lett. 45 : 4. 1913; Lett. 60 : 6. 1915;5, Lett. 66 : 7. 1917; Lett. 67 : 7. 1918; 6 : 1096. 1920; 7 : 1126. 1922—安田, 植. 雜. 27 : 72. 1913; 31: 60. 1917—今關, 日. 隱. 植. 圖. 477, *pl. 229, f. 3—4*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 394, *f. 203*. 1945)

Sistotrema unicolor SECR. Myc. Sueisse, 2:498. 1833.

? *Daedalea tortuosa* CRAGIN, Bull. Wash. Lab. Nat. Hist. 1 : 26. 1884.

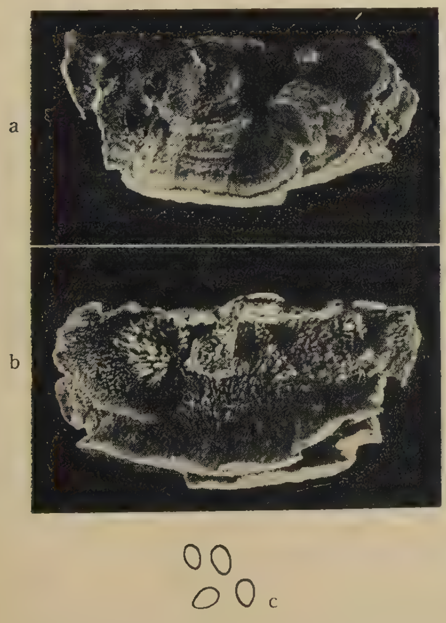
Cerrena unicolor MURR. Jour. Myc. 9:91. 1903; N. Am. Fl. 9:124. 1908; North. Polyp. 55. 1914; South. Polyp. 57. 1915—Mycologia, 10:110, *pl. 6, f. 6*. 1918.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 169. 1909)

Irpex unicolor LLOYD, Myc. Writ. 6 : 921, *f. 1649—50*. 1920; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 72. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 6 : 963, 1095. 1920)

Daedalea unicolor var. *hydnoidea* P. HENN. in LLOYD, Myc. Writ. 2 : 45. 1910.



第 203 圖　ミダレアミタケ *C. unicolor*
a. 子實體表面　b. 子實體裏面 ×3/4
c. 胞子 ×612　（大谷氏）

Phyllodontia unicolor BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 59. 1941.

? *Polystictus unicolor*

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:6. 1916; Lett. 65 : 6. 1917)

Trametes unicolor PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 279. 1939; Ann. Myc. 38 : 75. 1940.

子實體は1年生, 時に緣の菌絲は再生し次年生長を續く, 坐生或は半背着生にて疊生す。傘は外圍半圓形乃至扇形にて貝殼狀, 0.5—5×2—8cm, 厚さ2—5mm, 革質, 傘面は白色乃至灰色或は淡褐色, 時に藻類着生し, 綠色を呈す, 長軟毛或は長剛毛あり, 環紋或は環溝あり, 傘緣は薄くして鋭し, 下方無性, 肉は白色或は淡色, 纖維質, 厚さ1mm以下, 管孔は長さ1—4mm, 孔口は白色乃至灰色或は焦茶色, 初め迷路狀にて波曲するも, 後速に齒裂す, 傘緣のものは永く波曲の狀を存す, 1mm間平均2個, 胞子は卵形, 平滑, 無色, 4—6×3—4μ。材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹枯木及材上

全土—歐. 北米. 亞(支. 西比)

和名 ミダレアミタケ（亂網茸）〔安田〕

Coriolus neaniscus (BERK.) IMAZ.

ウラギンタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 80. 1943.

(原, 日. 菌. 目. 90. 1954)

Polyporus neaniscus BERK. Grev. 15 : 24. 1886.

(安田, 植. 雜. 29:193. 1915—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 479. 1917; ed. 3. 292. 1927)

Polystictus neaniscus COOKE, Grev. 14:85. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 275. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53:8. 1914; 5, Lett. 66:7. 1917—安田, 植. 雜. 28:391. 1914; 31:59. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 489. 1917)

Microporus neaniscus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 496. 1898.

Polystictus radiatus (non SOW. ex FR.)

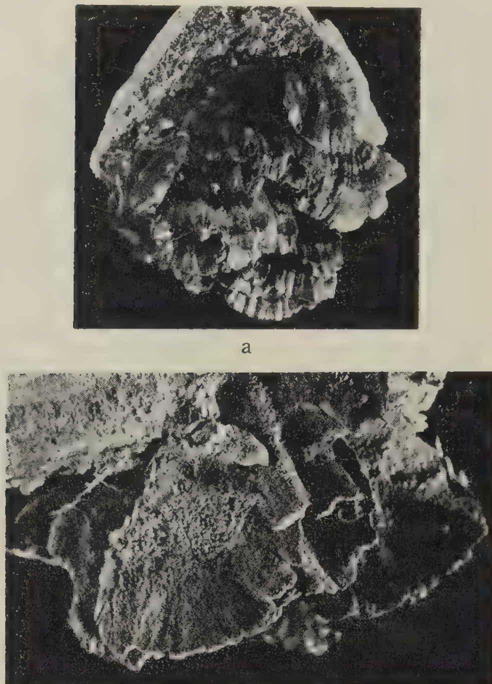
(安田, 植. 雜. 27:166. 1913—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 491. 1917)

子實體は無莖にて, 傘は半圓形, 疊生, 栓革質, 4—10×2—4cm, 表面は幼時絨毛を被むり, 黃褐色なるも, 後平滑となり銹褐色を帶ぶるに至る, 放射狀の皺襞及び環層あり, 緣邊內屈す, 肉は黃色, 管孔面は材色にて銀色の光澤あるを特徵とし, 後赤褐色となる孔口は小多角形なり。

所在及産地

廣葉樹幹上　本州—歐

和名 ウラギンタケ（裏銀茸）〔安田〕



a

b

第204圖 ウラギンタケ *C. neaniscus*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×7 10（大谷氏）

Coriolus hirsutus (WULF. ex FR.) QUÉL.

アラゲカワラタケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 175. 1886; Fl. Myc. 389. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 93. 1900—AMES, Ann. Myc. 11 : 242. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 140. 1925; Hymen. Fr. 561. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 13. 1932; 49 : 262. 1933; 51 : 365. 1935; 52 : 312. 1954—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 59. 1941—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 75 : 5, *pl. 1, f. 3.* 1948.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 80, *pl. 2, f. 3.* 1943; Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 99. 1952; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67 : 27. 1954—原, 日. 菌. 目. 90. 1954)

Boletus hirsutus WULF. in JACQ. Coll. 2 : 149. 1788. (non SCOPOLI, 1772)—SCHRADER, Sp. Pl. Germ. 169. 1794.

Boletus nigromarginatus SCHW. Syn. Fung. Carol. 72. 1822.

Polyporus hirsutus FR. Syst. Myc. 1 : 367. 1821; Elench. Fung. 1 : 93. 1828; Epicr. Myc. 477. 1838; Hymen. Eur. 567. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2 : 73. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 420. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 231. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 18. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 278. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 283. 1872—GILLET, Champ. Fr. 680. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 269. 1876—WINTER, Pilze, 1 : 416. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 474. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 292. 1891—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 93. 1914—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 324, *pl. 17, f. 3.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1 b : 66. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1128. 1922)

Polystictus hirtellus FR. Nov. Symb. Myc. 67. 1851—COOKE, Grev. 14 : 81. 1886.

Polystictus hirsutus FR. Nov. Symb. Myc. 70. 1851—COOKE, Grev. 14 : 83. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 257. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1022. 1916—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 147. 1892—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 213. 1893; Brit. Fungi, 380. 1911—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 192. 1903—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 75. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 352. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 226. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 64. 1914—REA, Brit. Basid. 608. 1922—KONRAD, Bull. Soc. Myc. Fr. 39 : 41, *pl. 3, f. 5—6.* 1923.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 269. 1901—松村, 植. 名鑑, 1 : 164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 74. 1905; ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 298. 1927—安田, 植. 雜. 25 : 442. 1911; 26 : 20. 1912; 29 : 35. 1915; 31 : 57. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45 : 1913; Lett. 53 : 8. 1914; 5, Lett. 63 : 8. 1916; Lett. 66 : 7, 11. 1917; 6 : 1012, 1096. 1920; 7 : 1126. 1922; 1345. 1925—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 20, f. 9—10.* 1925—北島, 林. 試. 報. 28 : 8, *pl. 1, f. 3, pl. 6, f. 6.* 1928—逸見及丹羽, 植. 病. 研究. 3 : 336, *f. 1—2.* 1937—今關, 日. 隱. 植. 圖. 465, *pl. 223, f. 1.* 1939; 植. 硏. 雜. 17 : 180. 1941—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 7 : 88. 1942—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 324, *f. 137—8.* 1945—原, 日. 菌. 目. 282. 1954)

Bjerkandera hirsuta KARST. Hattsv. 2 : 41. 1882.

Polystictus nigromarginatus COOKE, Grev. 14 : 83. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 259. 1888—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48 : 294. 1921.

(安田, 植. 雜. 28 : 191. 1914; 31 : 57. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 489. 1917; ed. 3. 299. 1927)

Hansenia hirsuta KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 304. 1889.

Microporus hirsutus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 496. 1898.

Microporus nigromarginatus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 496. 1898.

Coriolus nigromarginatus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 649. 1906; N. Am. Fl. 9 : 24. 1907; North. Polyp. 8. 1914; South. Polyp. 9. 1915.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 165. 1909)

Polystictus hirsutus f. *albidus* LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38:10. 1911; 4, Lett. 42 : 16. 1912; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 132. 1936.

(安田, 植. 雜. 29 : 36. 1915; 31 : 57. 1917—中路, 植. 雜. 30 : 102. 1916—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 298. 1927—川村, 日. 菌. 圖說, *n. 137*. 1929—原, 日. 菌. 目. 282. 1954)

Polystictus hirsutus f. *pores-adustus* LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38:10. 1911; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 133. 1936.

(安田, 植. 雜. 26:119. 1912; 31 : 59. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 299. 1927—原, 日. 菌. 目. 282. 1954)

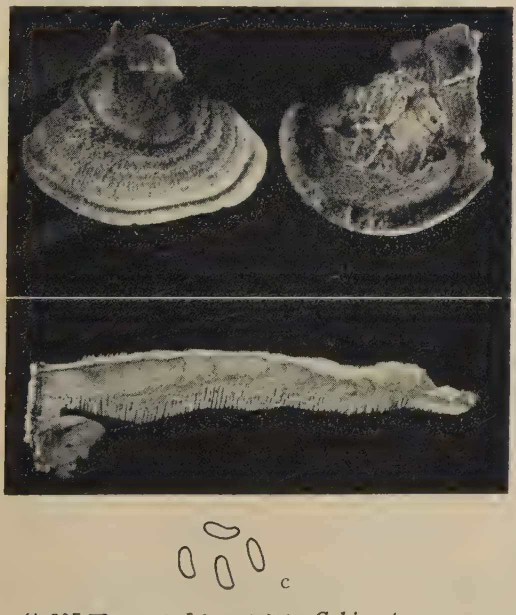
Polystictus hirsutus var. *albus* LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1096. 1921; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 133. 1936.

Polystictus ochrohirsutus LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1233, *f. 2591*. 1923; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 135. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1188. 1923)

Trametes hirsutus PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 265, *pl. 179a—180b*. 1939; Ann. Myc. 38 : 74. 1940.

子實體は坐生或は半背着，疊生或は孤生，傘は半圓形，1.5—5×1.5—7×0.2—1cm，濕時撓曲性，乾時堅緻にて時に剛直，灰色乃至帶黃色或は煙褐色，長剛毛を被り，環紋及環溝あり，縁は薄きか或は稍々厚く，鈍し，往々暗色を呈す，下面無性，肉は白色或は淡色，强靱乃至軟栓質，厚さ 1—6mm，管孔は長さ 1—4mm，孔口は白色，灰色或は灰褐色，圓形乃至稍々多角形，1mm 間 3—4 個，孔壁は稍々厚くして，常に全縁，胞子は圓筒形，屢々屈曲し，平滑，無色，5—8×2.5μ 時に菌絲束を存す，無色，普通結晶を被むり，各菌絲は識別し難し，50μ 程抽出し，幅 12—18μ，材の白腐を起す。



第 205 圖 アラゲカワラタケ *C. hirsutus*
a. 子實體 ×3/5 b. 同斷面 ×2 c. 胞子 ×612
(大谷氏)

所在及產地

廣葉樹枯幹，材上 全土—汎布

和名 アラゲカワラタケ（荒毛瓦茸）〔安田〕

Coriolus polyzonus (PERS.) IMAZ.
キツネカワラタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 80. 1943.

(千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:30. 1952—原, 日. 菌. 目. 90. 1954)

Polyporus polyzonus PERS. in GAUDICH. Voy. FREYC—FRIES, Epicr. Myc. 477. 1838.

Polystictus polyzonus COOKE, Grev. 14:85. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:278. 1888 (ut *polygonius*)—BRESADOLA, Hedwigia, 53 : 65. 1913—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:13. 1916; 6:1089. 1929.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915; Lett. 60:8. 1915; 5, Lett. 63:7. 1916; Lett. 65:6. 1917; 7 : 1126. 1922—安田, 植. 雜. 31 : 57. 1917; 35 : 46. 1921; 理學界, 15(3) : 15. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 491. 1917; ed. 3. 300. 1927—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 1:508. 1919—今關, 日. 隱. 植. 圖. 465, *pl. 223, f. 2*. 1939)

子實體は無莖或は半背着生，疊生，傘は扁平，半圓形或は扇形，1.5—4×2.5—8×0.15—0.5cm，薄質，革質，表面は灰白色或は狐色，粗毛を密布し，環溝あり，縁は刄狀に薄く，下面無性ならず，肉は白色，管孔は白色乃至材色，長さ短し，孔口は中等大にて角形，孔壁は薄くして平坦ならず，稍々齒狀に割裂す。胞子は圓壔形，平滑，無色，6—8×2—3μ。材の白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯木上

全土—歐. 中米. 濠. 亞(比. ボルネオ, 臺. 支)

和名 キツネカワラタケ（狐瓦茸）〔安田〕

Coriolus lutescens (PERS.) QUÉL.
レンジヤクタケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 175. 1886—PATOUILLARD, Ess. Tax. 93. 1900.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:80. 1943—

原，日．菌．目．90．1954）

Boletus lutescens PERS. Disp. Meth. Fung. 70. 1797.

Polyporus lutescens PERS. Myc. Eur. 2:71. 1825 —FRIES, Epicr. Myc. 476. 1838; Hymen. Eur. 567. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 420. 1844 —FUCKEL, Symb. Myc. 18. 1869—GILLET, Champ. Fr. 680. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 417. 1884.

Polyporus nidulans SECR. Myc. Sueisse, n. 47. 1883.

Polystictus lutescens COOKE, Grev. 14: 85. 1886 —SACCARDO, Syll. Fung. 6:273. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1019. 1916—LLOYD, Myc. Writ. 3:468, *f. 334.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 225. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:13. 1912; Lett. 61 : 6. 1916; 6 : 1095. 1920—梅村，植．雜．28 : 357. 1914—安田，植．雜．28:390. 1914—白井，日．菌．目．ed. 2. 489. 1917; ed. 3. 299. 1927)

Microporus lutescens KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 496. 1898.

子實體は無莖にて傘の基部狹小となり莖狀をなし着生す。傘は半圓形乃至腎臟形にて表面丸山形，革栓質，長徑 3—6，短徑約 3cm，表面は灰褐色乃至褐黃色，粗毛及び軟毛ありて，粗毛は高まり暗色，軟毛は壓着され淡色にて著しき環紋を作る。管孔は凹面，短く，孔口は比軟的大にて等大，淡色。

所在及産地

樹幹，倒木上　　本州一歐．アンガウル島

和名 レンジヤクタケ（連雀茸）〔梅村〕，

キカワラタケ（黃瓦茸）〔安田〕

Coriolus versicolor (L. ex FR.) QUÉL.

カワラタケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 175. 1886; Fl. Myc. 390. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 93. 1900—MURRILL, N. Am. Fl. 9:18. 1907; Mycologia, 5:287, *pl. 102.* 1913; North. Polyp. 6. 1914; South. Polyp. 6. 1915—AMES, Ann. Myc. 11 : 242. 1913 —BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 141. 1925; Hymen. Fr. 562. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51 : 365. 1935—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:59. 1941—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 75:3, *pl. 1, . 2.* 1948.

(MURRILL, Mycologia, 1:165. 1909—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:81, *pl. 2, f. 2.* 1943; 植．分．地．13:250. 1943; 及土岐，林．試．研．報．67:27. 1954—千葉及寺本，東．大．演．林．報．43 : 31. 1952 —原，日．菌．目．91. 1954)

Boletus versicolor L. Sp. Plant. 2 : 1176. 1753 —SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2:*pl. 229,* 1799; 3:*pl. 387, f. 7.* 1803—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 540. 1801—DC. Fl. Fr. 2:114. 1815—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 642. 1821.

(THUNBERG, Fl. Jap. 347. 1784)

Boletus imbricatus SCOP. Fl. Carn. 468. 1772.

Boletus variegatus SCHAEFF. Fung. Bavar. 4: *pl. 263.* 1774.

Boletus atrorufus SCHAEFF. Fung. Bavar. 4: *pl. 268.* 1774.

Polyporus versicolor FR. Syst. Myc. 1:368. 1821; Elench. Fung. 1:94. 1828; Epicr. Myc. 478. 1838; Hymen. Eur. 568. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 71. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 141. 1836; Outl. Brit. Fung. 248. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:420. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 232. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 18. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:279. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:283. 1872—GILLET, Champ. Fr. 681. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:270. 1876 —WINTER, Pilze, 1:470. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1:473. 1888—ROLLAND, Atl. Champ. 84, *pl. 96, n. 211.* 1910—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:91. 1914—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:323, *pl. 16, f. 2.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 65. 1934.

(MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 392. 1868—BERKELEY, Jour. Linn. Soc. Bot. 16:51. 1878—梅村，植．雜．28: 196. 1914)

Polyporus versicolor β. fuscatus FR. Syst. Myc. 1 : 369. 1821; Hymen. Eur. 569. 1874.

Polyporus argyraceus PERS. Myc. Eur. 2 : 73. 1825.

Polyporus hirsutulus SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4:156. 1832—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 92. 1914.

Polystictus versicolor FR. Nov. Symb. Myc. 70. 1851—COOKE, Grev. 14 : 83. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:253. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1020. 1916—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 146. 1892—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:212. 1892; Brit. Fungi, 380, *pl. 31, f. 4.* 1911—ATKINSON, Mashrooms, ed. 2 : 192. 1903—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 76. 1903; 10: 504. 1912—W. G. SMITH, Brit. Basid. 354, *f. 79.* 1908—SPEGAZZINI, Fungi Chilenses, 9. 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):225, *pl. 34.* 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 62. 1914—REA, Brit. Basid. 609. 1922—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:217, *f. 48.* 1935.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 269. 1901; 32: 39. 1903—松村，植．名鑑，1 : 165. 1904—白井，日．菌．目．75. 1905; ed. 2. 493. 1917; ed. 3. 301. 1927 —LLOYD, Myc. Writ. 2, Lett. 19:3. 1908; 3, Lett. 31:2, 3. 1911; Lett. 38 : 9, 10. 1911; 4, Lett. 42: 10, 16. 1912; Lett. 53:8. 1914; 5, Lett. 63:8. 1916; Lett. 65:3, 5. 1917; Lett. 69:7. 1919; 7:1126. 1922;

1320. 1924; 1345. 1925—安田, 植. 雜. 22:373. 1908; 31 : 57. 1917—梅村, 植. 雜. 26:152. 1912—中路, 植. 雜. 30:102. 1916—金平, 臺. 博. 報. 36 : 88. 1918—北島, 林. 試. 報. 28:9, *pl. 1, f. 4, pl. 6, f. 2.* 1928—川村, 日. 菌. 圖説, *n. 217.* 1929—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5 : 74. 1931; 7: 94. 1942; 臺. 博. 報. 25 :235. 1935—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3: 110. 1931—今關, 日. 隱. 植. 圖. 467, *pl. 224, f. 3.* 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 321, *f. 134—6.* 1945)

Polystictus azureus FR. Nov. Symb. Myc. 77. 1851—COOKE, Grev. 14 : 86. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 284. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 31 : 5. 1911; 5, Lett. 63: 5. 1916; Lett. 66 : 7. 1917; 6 : 980, 1096. 1920; 7: 1125, 1128. 1922; 1296. 1924; 1345. 1925—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 485. 1917; ed. 3. 297. 1927—原, 日. 菌. 目. 282. 1954)

Polyporus nigricans LASCH, in RABENHORST, Fung. Eur. n. 15. 1859. (non FRIES)

Bjerkandera versicolor KARST. Hattsv. 2 : 42. 1882.

Polystictus hirsutulus COOKE, Grev. 14 : 83. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 259. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45: 4. 1913; 5, Lett. 66: 7. 1917—中路, 植. 雜. 30 : 102. 1916—安田, 植. 雜. 31: 57. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 299. 1927)

Polystictus fuscatus COOKE, Grev. 14: 83. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 254. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1020. 1916.

Hansenia versicolor KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 305. 1889.

Polystictus nigricans SACC. Syll. Fung. 11: 92. 1895—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 225. 1912.

Microporus azureus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 495. 1898.

Microporus hirsutulus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 496. 1898.

Microporus nigricans KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 496. 1898.

Microporus versicolor KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 497. 1898.

Polystictus versicolor var. *nigricans* P. HENN. Bot. Jahrb. 28 : 269. 1901—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1020. 1916.

(松村, 植. 名鑑, 1 : 165. 1904—白井, 日. 菌. 目. 75. 1905; ed. 2. 493. 1917; ed. 3. 302. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 8. 1916—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 20, f. 11—12.* 1925—北島, 林. 試. 報. 28 : 4, *pl. 1, f. 1, pl. 6, f. 2.* 1928.

Coriolus hirsutulus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 463. 1906; N. Am. Fl. 9 : 18. 1907—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 59. 1941.

Trametes versicolor PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 261, *pl. 177—8 a.* 1939; Ann. Myc. 38: 76. 1940.

Coriolus azureus CUNNINGH. Rep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 75 : 7, *pl. 2, f. 2.* 1948.

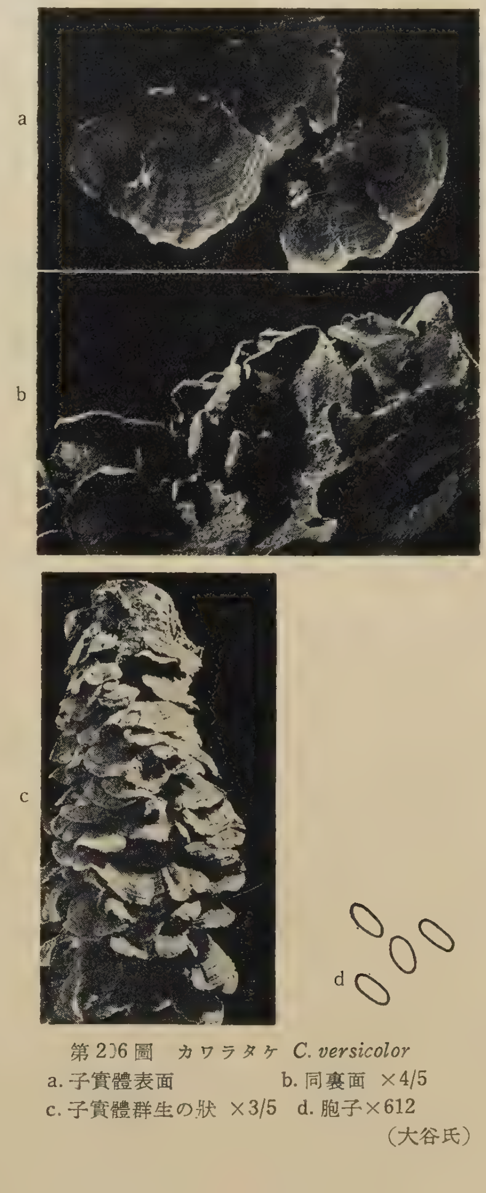
Polystictus versicolor f. *azureus*

(安田, 植. 雜. 26: 234. 1912—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 301. 1927)

Polystictus versicolor var. *fuscatus*

(白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 493. 1917; ed. 3. 301. 1927)

子實體は坐生或は半背着, 疊生或は孤生, 傘は半圓形, 或は着生物の位置により, 癒着して圓形とな



第 2?6 圖　カワラタケ *C. versicolor*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×4/5
c. 子實體群生の狀 ×3/5　d. 胞子×612
(大谷氏)

る，2—5×2—7×0.1—0.3cm，革質，灰色にて，之れに多數の狹き白色乃至黃色，褐色，帶赤色，帶綠色，帶黑色等の環紋を有す，絨氈狀，緣は薄く，鋭し，下面通常無性，肉は白色或は類白色，纖維質，厚さ 1 mm 以下，管孔長さ 1—2 mm，孔口は白色或は帶黃色，往々幾分光澤あり，圓形乃至角形，1 mm 間 3—5 個，孔壁薄く，全緣或は僅か裂く，胞子は圓壔形，往々屈曲し，平滑，無色，5—6.5×1.5—2 μ，菌絲束を有す，通常結晶を被むり，各菌絲は識別し難く，40 μ 程抽出す，幅 18—25 μ。材の白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹枯幹，材上　　　　全上 -汎布

和名 カワラタケ（瓦茸）〔安田〕，

クモタケ（雲茸）

Coriolus zonatus (NEES ex FR.) QUÉL.

カワラタケモドキ

QUÉLET, Enchir. Fung. 175. 1886; Fl. Myc. 390. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 93. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 141. 1925; Hymen. Fr. 562. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:13. 1932; 49: 262. 1933; 51: 365. 1935; 52: 312. 1936—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 59. 1941—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 75: 2, *pl. 1, f. 1.* 1948.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 81. 1942—原，日. 菌. 目. 90. 1954)

Boletus multicolor SCHAEFF. Fung. Bavar. 4: 91, *pl. 269.* 1774.

Boletus ochraceus PERS. Syn. Meth. Fung. 539. 1801.

Boletus Placenta SCHUM. Enum. Pl. Saell. 2: 387. 1803—PERSOON, Myc. Eur. 2: 73. 1925.

Boletus angulatus SCHUM. Enum. Pl. Saell. 2: 388. 1803—PERSOON, Myc. Eur. 2: 73. 1925.

Boletus zonatus NEES, Syst. Pilze. Schw. 221, *pl. 28, f. 221.* 1817.

Polyporus zonatus FR. Syst. Myc. 1: 368. 1821; Elench. Fung. 1: 94. 1828; Epicr. Myc. 478. 1938; Hymen. Eur. 568. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 420. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 231. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 18. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 283. 1872—GILLET, Champ. Fr. 6.81. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 270. 1876—WINTER, Pilze, 1: 416. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 474. 1888—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 66. 1934.

Polystictus zonatus FR. Nov. Symb. Myc. 70. 1851—COOKE, Grev. 14: 83. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 260. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 75. 1903; 10: 504. 1912—W. G. SMITH, Brit. Basid. 354. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 226. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 63. 1914—REA, Brit. Basid. 608. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 6: 1012. 1920—川村，日. 菌. 圖說，*n. 203.* 1929)

Bjerkandera zonata KARST. Hattsv. 2: 42. 1882.

Hansenia zonata KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 304. 1889.

Microporus multicolor KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 495. 1898.

Coriolus Lloydii MURR. N. Am. Fl. 9: 23. 1907.

Polyporus Lloydii OVERH. Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 95. 1914.

Polyporus multicolor SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1023. 1916.

? *Polystictus ochraceus* LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67: 12. 1918.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1296. 1924)

Trametes zonata PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 263, *pl. 181.* 1939; Ann. Myc. 38: 77. 1940.

子實體は革質，坐生或は半背着生，稀に互に癒着す。傘は半圓形或は貝殼狀，屢々基部狹細し莖狀となり着生物に附着す，1—4×1—7 cm，厚さ 2—5 mm，傘面は壓着せる細密軟毛と無毛と交互となりて環紋を生ず，軟毛帶は鼠色，無毛帶は卵黃色乃至橙黃色或は赭褐色なり，傘緣は薄く，全緣或は波曲，屢々栗褐色或は帶赤栗褐色，肉は白色，厚さ 0.5—2 mm，管孔は長さ 1—3 mm，孔口と同色，孔口は白色，卵黃色乃至鞣色，角形，1 mm 間平均 3 個，孔壁は老時裂く，厚さ 60—160 μ，子實層は厚さ 12—16 μ，密，擔子柄は幅 5—6 μ，胞子は圓壔狀腸詰形，平滑，無色，6—8×2—3 μ，菌絲束は存在し，無色，普通結晶を被むり，各菌絲は識別し難し，40 μ 程抽出し，徑 12—18 μ。材の白腐を起す。

所在及產地 廣葉樹枯幹上

本州，九州—歐. 北米. 亞(爪. 支. 西比)

和名 カワラタケモドキ（擬瓦茸）〔今關〕，

クリイロカワラタケ（栗色瓦茸）〔川村〕

Coriolus pinsitus (FR.) PAT.

フルイカワラタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 94. 1900—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 24. 1907.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 80. 1943—原，日. 菌. 目. 90. 1954)

Polyporus pinsitus FR. Elench. Fung. 1: 95. 1828.

Polyporus umbonatus FR. Nov. Symb. Myc. 71. 1851.

Hexagona Friesiana SPEG. Anal. Soc. Ci. Argent. 17:69. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:368. 1888.

Polystictus pinsitus COOKE, Grev. 14:83. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 262. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 2:26, *f. 262—3*. 1909; 3: 47, *f. 373*. 1910; 5: 841, *f. 1405*. 1919.

Polystictus jamaicensis P. HENN. Hedwigia, 37: 280. 1898.

Microporus pinsitus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 497. 1898.

子實體は全背着し互に癒合擴布し或は反轉して傘を作る。傘は半圓形或は扇形，2—4×3—7 cm，厚さ約 1 mm，薄く，膜狀革質，撓曲性，表面は灰黄褐乃至灰色，壓着せる絨狀細毛あり，光澤あり，環薄を有す，緣は薄く，波狀乃至淺裂，無性，乾時內屈す，肉は白色，膜質，强靱，管孔は淡色或は往々暗色，短く，1 mm 以下，孔口は深さに比し廣く，薄壁，多角，歯狀稜を有し，*Hexagona* に類似するも不等大，1 mm 間 2—3 個，胞子は圓壔形或は球形，平滑，無色，6—7×3μ。

所在及産地

枯木上　　本州—南北米

和名　フルイカワラタケ（篩瓦茸）〔今關〕

Coriolus fibula (SOW.) QUÉL.

カゴメカワラタケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 175. 1886; Fl. Myc. 390. 1888—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 141. 1925; Hymen. Fr. 562. 1928.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:80. 1943; 植. 分. 地. 13:250. 1943—原, 日. 菌. 目. 90. 1954)

Boletus Fibula SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 3: *pl. 387, f. 8*. 1803.

Polyporus Fibula FR. Epicr. Myc. 475. 1838; Hymen. Eur. 567. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 248. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 278. 1871—WINTER, Pilze, 1:417. 1884—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:254. 1892; Brit. Fungi, 375. 1911.

Polystictus fibula FR. Nov. Symb. Myc. 68. 1851—COOKE, Grev. 14:81. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:239. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1017. 1916—W. G. SMITH, Brit. Basid. 353. 1908—MIGULA, Krypt, Fl. 3, Pilze, 2(1): 227. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 66. 1914—REA, Brit. Basid. 609. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 6:1095. 1920—北島, 林. 試. 報. 28: 5, *pl. 1, f. 2, pl. 6, f. 3*. 1928.

Bjerkandera fibula KARST. Hattsv. 2:43. 1882.

Microporus Fibula KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 496. 1898.

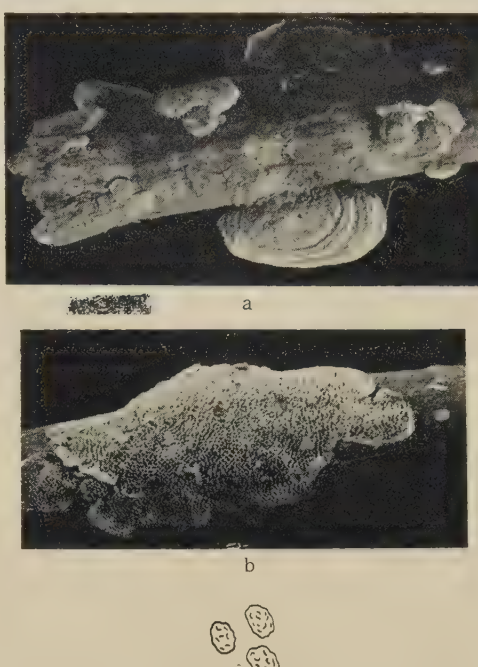
Polystictus hirsutus var. *fibula* BRES. Hedwigia, 53: 65. 1913.

Coriolus hirsutus var. *fibula* QUÉL. in PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51: 365. 1935.

Polystictus vellereus (BERK.) COOKE (teste BRESADOLA)

(安田, 植. 雜. 31:57. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 6: 1012. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 301. 1927)

子實體は無莖にて側着或は中央にて着生，傘は腎臟形或は圓形，1—3 cm，表面類白色或は灰色にて帶黄色となる，氈毛を被むり，無環薄，屢々放射狀皺



第 207 圖　カゴメカワラタケ *C. fibula*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1
c. 胞子 ×612　（大谷氏）

襞あり，緣は全緣にて鋭し，肉は雪白色，革質，管孔は白色，甚だ短し，孔口は白色にて黄色となる，小圓形，傘緣に之を缺く，孔壁は鋭く，遂に歯裂す。胞子は卵形乃至圓筒形，粗面，無色，7—9×2—3μ。

所在及産地　廣葉樹幹及材上

本州—北米. 歐. 亞(支. 比. 西比)

和名　カゴメカワラタケ（籠目瓦茸）〔今關〕

疑問種

(*Coriolus* 或は "*Polystictus*" 所屬)

Polystictus albo-regularis LLOYD, Myc. Writ. 7: 1145, *f. 2191*. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 127. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1125. 1922)

Polystictus caperatus COOKE
(LLOYD, Myc. Writ. 6, Lett. 45:4. 1913; Lett. 60:14. 1915—極村, 植. 雜. 28:357. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 485. 1917; ed. 3. 297. 1927—原, 日. 菌. 目. 282. 1954)
Trametes crenulata BERK.
(LLOYD, Myc. Writ. 7:1162. 1922—安田, 植. 雜. 37:138. 1923—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 392. 1927)
Polystictus Cryptomeriae P. HENN. Bot. Jahrb. 37:160. 1905—SACCARDO, Syll. Fung. 21:312. 1912.
(白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 298. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:7. 1918—原, 日. 菌. 目. 282. 1954)
Polyporus malacotis BRES. Ann. Myc. 18:33. 1920.
Polystictus subpictus LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:3. 1912; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 139. 1936.
(安田, 植. 雜. 31:59. 1917)
Polystictus Gleadowii MASS.
(LLOYD, Myc. Writ. 6:918, *f. 1642*. 1920)
Polystictus sulcifer (BERK. et CURT.) COOKE
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:7. 1916; Lett. 65:6. 1917)
Polystictus Blumei COOKE
(LLOYD, Myc. Writ. 4:563, *f. 770*. 1916; 7:136, *f. 3019*. 1924)
Polyporus subpellucidus BERK. Jour. Linn. Soc. 16:51. 1878. (松村, 植. 名鑑, 1:164. 1904)
=*Polystictus pellucidus* (BERK.) SACC. Syll. Fung. 6:233. 1888. (err. typ.)
(P. HENNINGS, in ENGLER & PRANTL, Natürl. Pfl.-fam. 1, 1**: 176. 1899—松村, 植. 名鑑, 1:164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 75. 1905; ed. 2. 489. 1917; ed. 3. 300. 1927—原, 日. 菌. 目. 283. 1954)
Polystictus pellucidus (JUNGH.) LLOYD, Myc. Writ. 4:554, *f. 760*. 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 136. 1936—TROTTER, in SACCARDO, Syll. Fung. 23:412. 1925)
Polystictus Ikenoi P. HENN. Bot. Jahrb. 31:737. 1902.
(松村, 植. 名鑑, 1:164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 74. 1917; ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 299. 1927)
=*P. Shenoi* (err. typ.) SACC. Syll. Fung. 17:130. 1905.
(白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 491. 1917; ed. 3. 301. 1927)

Antrodia KARST.
シカタケ屬

KARSTEN, Med. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5:40. 1879.
Daedalea FRIES, Auct. plur. pr. p.
Trametes FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生，無莖或は半背着生，傘は薄く，半圓形又は棚狀に連る，疊生，表面に緻細なる毛被あり，その下に下殼を存す，肉は薄くして革質，暗肉桂色，子實層托は薄く，管孔狀，1層，實質は傘肉と同質，孔口は類圓形，迷路狀，中又は大形，嚢狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。
（本屬名は antrum（穴）より出づ）
基準種 *A. mollis* (SOMMERF.) KARST.
〔因記〕傘肉薄くして革質，肉桂色を帯び明かなる下殼を有するを以て，*Daedalea* 或は *Trametes* とは異なれり。
本邦既知種 シカタケ ***A. mollis*** (272)

Antrodia mollis (SOMMERF.) KARST.
シカタケ

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. 5:40. 1879—MURRILL, N. Am. Fl. 9:82. 1908; North. Polyp. 37. 1914—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:61. 1941.
(今關, 植. 分. 地. 13:249. 1943—原, 日. 菌. 目. 18. 1954)
Daedalea mollis SOMMERF. Fl. Lapp. 271. 1826—FRIES, Elench. Fung. 1:71. 1828; Epicr. Myc. 495. 1838; Nov. Symb. Myc. 83. 1851—KARSTEN, Hattsv. 2:52. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 310. 1889.
Trametes mollis FR. Hymen. Eur. 585. 1874—QUÉLET, Enchir. Fung. 183. 1886; Fl. Myc. 371. 1888; Champ. Jura Vosg. Suppl. 18: *pl. 20, f. 17*. 1891—WINTER, Pilze, 1:401. 1884—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 298. 1891; Brit. Basid. 365. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:197. 1892; Brit. Fungi, 388. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 231. 1912—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 141. 1914—REA, Brit. Basid. 616. 1922—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:20. 1932; 49:266, *pl. 17, f. 4*. 1933; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:297, *pl. 204*. 1939; Ann. Myc. 38:75. 1940—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b:98. 1934.
(安田, 植. 雜. 27:339. 1913—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 657. 1917; ed. 3. 393. 1927)
Antrodia stereoides (non BOND. et SING.) IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:83. 1943.

子實體は革質，半背着生或は全背着生，剝ぎ取り易し，傘は貝殼形にて疊生，0.5—4×1—10cm，厚さ2—5mm，傘面は細密軟毛を有し，環紋あり，平坦ならず，汚黄褐色，黑褐色乃至殆ど黑色，傘緣は薄く，同色，遂に内捲す，肉は稀に厚さ1mm以上，2重にて管孔に近く赭色，上部汚黄褐色乃至黑褐色，紙の如き薄き黑線によつて分たる。管孔は長さ1—4

mm，時に塡塞され，内部灰褐色，孔口は形及大さ變化し，圓形乃至波狀，1mm 間平均約1個，黃褐色乃至赭色，孔壁は屢々裂け，厚さ種々ありて，200—600μ，子實層は無色，厚さ18—22μ，擔子柄は無色，徑5—7μ，胞子は圓筒形，有嘴，時に屈曲す，平滑，無色，9—12×3.5—4.5μ。囊狀體なし。

所在及產地

主に廣葉樹上　本州—歐·北米·亞(支·西比)

和名 シカタケ（鹿茸）〔安田〕

3. Tyromycetinae オシロイタケ亞族

子實體は1年生にて短命，無莖，樹上生，傘は無皮又は不明瞭なる薄皮を被むることあり，傘肉は略々肉質，纖維狀肉質或は海綿質，乾時脆弱又は堅し，子實層托は管孔狀，1層，管壁は往々割裂す，實質は傘肉と異質なるを常とす。胞子は無色，平滑。

本亞族の傘肉は稍々肉質にて短命性なるも，腐り易きものにあらず，屢々子實層托は膠質或は樹脂狀物質を分泌し，それがために膠化し傘肉と明かなる異層をなすものなり。

屬檢索表

A. 傘肉と實質との間に暗色線なく，2重構造なし，實質及之れに近接する部は膠狀ならず，組織は KOH 液にて著しき反應なし。

a. 孔口硫黃色，或は褐色，子實體は多くは大形，屢々共通基部より覆瓦狀に發達し，基部は短莖の觀を呈す，肉は黃或は肉色，乾時乾酪質，粉碎し易く，屢々厚膜胞子のみを生ずる異狀體(*Ptychogaster*)を作る。

アイカワタケ屬 **Laetiporus** (273)

b. 孔口硫黃色ならず，子實體は普通小形，無莖，半背着生，肉は白，材，淡黃，肉色等あり，乾時脆弱。オシロイタケ屬 **Tyromyces** (275)

B. 傘肉と實質との間に暗色線を有し或は2重構造となり，或は肉の實質近接部又は實質は膠狀，或は KOH 液にて著しく變色す。

a. KOH 液にて組織は變色せず。

α. 傘肉と實質との間に暗色線あり。

ヤケイロタケ屬 **Bjerkandera** (285)

β. 傘肉は2重構造を有し，膠狀帶あり，乾時角質となり，或は實質は膠質。

エビウラタケ屬 **Gloeoporus** (288)

b. 組織は KOH 液にて變色し，帶黑色，苺色或は淡菫色となる。

アカゾメタケ屬 **Hapalopilus** (290)

Laetiporus Murr.
アイカワタケ屬

MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31:607. 1904.

Cladomeris QUÉLET, Enchir. Fung. 167. 1886. pr. p.

Grifola S.F. GRAY, sensu PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 52:23. 1935. pr. p.

Polypilus KARSTEN, Rev. Myc. 3(9):17. 1881. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Tyromyces KARSTEN, sensu DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:141. 1933. pr. p.

子實體は1年生にて短命，無莖或は短側莖を有す，莖は屢々分岐す。傘は扁平，疊生或は集塊狀をなす，表面は無皮，略々平滑，肉は脆き肉質，乾時乾酪質にて粉碎され易し，著しく分岐せる菌絲より成る，黃色又は肉色，子實層托は管孔狀，1層，屢々發達せず，孔口は中形，孔壁は淺裂す。囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は laetus（鮮なる）poros（孔）より出づ）

基準種　*L. sulphureus* (BULL. ex FR.) BOND. et SING.

〔附記〕本屬は傘肉が隔膜多き著しく細かに分岐せる菌絲より成り，粉碎され易き乾酪質となる特異なる菌にして，內に往々子實層發達せずして傘肉は厚膜胞子を形成し，所謂異狀體(*Ptychogaster*)を作るものあり，かくの如き特性により近緣屬 *Tyromyces* より區別さる。

本邦既知種檢索表

A. 管孔面は著しき硫黃色を呈す。

a. 傘肉は白色或は淡黃色。

アイカワタケ ***L. sulphureus*** (273)

b. 傘肉は淡紅色。

マスタケ var. ***miniatus*** (275)

B. 管孔面は褐色，傘は端正形ならず，屢々異常體（厚膜胞子型）を生ず。

オオウズラタケ ***L. versisporus*** (275)

Laetiporus sulphureus (BULL. ex FR.) BOND. et SING.
アイカワタケ

BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:51. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:88. 1943—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:31. 1952—原, 日. 菌. 目. 175. 1954)

Agaricus speciosus BATT. Fung. Arim. Hist. 68, *pl. 34, f. 4.* 1755.

Boletus caudicinus SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl. 131—2.* 1763.

Boletus sulphureus BULL. Herb. Fr. *pl. 429.* 1788—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 135.* 1799—DC. Fl. Fr. 2 : 120. 1815.

Boletus citrinus PLAN. Ind. Pl. Erf. 26. 1788—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 524. 1801—NEES, Syst. Pilze Schw. 221, *pl. 28, f. 219.* 1817.

Polyporus sulphureus FR. Syst. Myc. 1:357. 1821; Epicr. Myc. 450. 1838; Hymen. Eur. 542. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):138. 1836; Outl. Brit. Fung. 241, *pl. 16, f. 3.* 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:429. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 225. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:268, *f. 65.* 1871; Grev. 13:85. 1885; Handb. Austr. Fungi, 119. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:273. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 255. 1876—WINTER, Pilze, 1 : 438. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:104. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 240. 1892; Brit. Fungi, 370, *pl. 28, f. 2.* 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 79. 1900—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 190, *f. 184—5.* 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 341. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 83, *n. 205.* 1910—BRESADOLA, Hedwigia, 51:309. 1912; 53:52. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 104, *pl. 12, f. 40.* 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:114. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 153. 1921—REA, Brit. Basid. 581. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:107. 1925; Hymen. Fr. 524. 1928—GUESSOW & ODELL, Mushr. Toadst. 198, *pl. 101.* 1927—BRESADOLA, Icon. Myc. 20 : *pl. 973.* 1931—BAXTER, Pap. Mich. Sci. Arts Lett. 14: 278, *pl. 47.* 1931—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:4. 1932—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 42. 1934.

(白井, 日. 菌. 目. 74. 1905; ed. 2. 483. 1917; ed. 3. 295. 1927—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 13, f. 1—2.* 1915; 日. 菌. 圖說, *n. 38.* 1929—梅村, 植. 雜. 30 : 103. 1916—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63 : 7. 1916; Lett. 65 : 6. 1917; Lett. 66 : 7. 1917; Lett. 67 : 10. 1918; 7 : 1296. 1924—安田, 植. 雜. 31:55. 1917—堀川, 臺. 博. 報. 37 : 136. 1918—北島, 林. 試. 報. 28:11, *pl. 2, f. 10, pl. 6, f. 9.* 1928—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5:72. 1931; 7:80. 1942; 臺. 博. 報. 26 : 262. 1936—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 110. 1931—逸見, 日. 學術協. 報. 7:409. 1932; Mem. Coll. Agr. Kyoto Imp. Univ. 20:21, *f. 7.* 1932; 植. 動. 3:307. 1935; 及赤井, 植. 病. 研究, 3:58, *f. 1—3, pl. 1—3.* 1937; 木. 腐. 菌學, 389, *f. 99—102.* 1945—今關, 日. 隱. 植. 圖. 425, *pl. 203, f. 1, 3.* 1939; 植. 研. 雜. 16: 264, *f. 1—2.* 1940)

Merisma sulfureus GILL. Champ. Fr. 691, cum icone. 1874.

Polypilus sulfureus KARST. Hattsv. 2:26. 1882.

Polyporus cincinnatus MORG. Jour. Cinc. Soc. Nat. Hist. 6 : 97. 1885.

Cladomeris sulfurea QUÉL. Enchir. Fung. 168. 1886.

Polyporus caudicinus SCHROET. Pilze Schles. 1:471. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 211. 1912—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 977. 1916. (non MURRILL)

(P. HENNINGS, Hedwigia, 39, Beibl. 155. 1900; Bot. Jahrb. 28 : 268. 1901—松村, 植. 名鑑. 1:163. 1904—白井, 日. 菌. 目. 72. 1905; ed. 2. 473. 1917—安田, 植. 雜. 28 : 355. 1914)

Polypilus caudicinus KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 289. 1889.

Polypilus speciosus MURR. Jour. Myc. 9 : 93. 1903.

Laetiporus speciosus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31:607. 1904; N. Am. Fl. 9:72. 1907; North. Polyp. 33. 1914; South. Polyp. 31. 1915.

a

b



c

第 208 圖 アイカワタケ *L. sulphureus*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×2/3
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

(MURRILL, Mycologia, 1 : 167. 1909)

Tyromyces sulphureus DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 145. 1933.

Grifola sulphurea PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 256. 1933; 51 : 352. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 40, *pl. 20—4*. 1936; Ann. Myc. 38 : 69. 1940.

子實體は叢生重疊し，屢々基部狹細し稍々莖狀をなす。傘は外圍半圓形乃至扇形，5—20×4—12×0.5—2.5 cm，幼時肉質にて濕潤，老時堅緻となる，傘面は帶黃色乃至鮮橙黃色，時に老時褪色す，微細の軟毛を有し或は無毛，無環紋或は廣き有色帶あり，傘緣は薄くして鋭く，有性，同色，波狀或は淺裂す，肉は白色或は淡黃色，生時肉質，乾時寧ろ柔くして脆し，厚さ 0.4—2 cm，管孔は硫黃色，管長 1—4 mm，孔口は鮮硫黃色，老時及乾時帶白色或は鈍黃色，小形にて角形或は幾分不正形，1 mm 間平均 2—4 個，孔壁は甚だ薄くして裂く，胞子は卵形乃至類球形，平滑，無色，5.5—7×4—5 μ。心材の褐腐を起す。

所在及產地

廣葉樹，稀に針葉樹切株及幹上　　全土—歐.北米.亞(比.西比.支)

和名 アイカワタケ（間皮茸）〔安田〕

var. **miniatus** (JUNGH.) IMAZ.

マスタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 88. 1943. (原，日. 菌. 目. 175. 1954)

Polyporus miniatus JUNGH. Crypt. Jav. p. 68. 1839—COOKE, Grev. 13 : 84. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:90. 1888—BRESADOLA, Hedwigia, 51 : 309. 1912; 53 : 52. 1913.

Laetiporus miniatus BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 51. 1941.

原種の肉は白色或は淡黃色なると異り，淡紅色を呈し鱒の肉色に類似するにより鱒茸と稱せらる。

所在及產地

切株上　　本州—亞(爪.比)

和名 マスタケ（鱒茸）

Laetiporus versisporus (LLOYD) IMAZ.

オオウズラタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 88. 1943. (原，日. 菌. 目. 175. 1954)

Polyporus versisporus LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54 : 5. 1915; Apus Polyp. 312. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 125. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 356. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915; Lett. 60:8. 1915—安田，植. 雜. 29:263. 1915; 31:52. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 483. 1917; ed. 3. 296. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 435, *l. 208, f. 7*. 1939; 植. 硏. 雜. 17 : 180. 1941)

Calvatia versispora LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 56:7, *f. 707*. 1915; 548, *f. 750*. 1916; 5, Lett. 68: 8. 1918; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 173. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 593. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 56:4. 1915; 5, Lett. 67:10. 1918; 6:980, 1096. 1920—安田，植. 雜. 37 : 203. 1923—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 61. 1927—原，日. 菌. 目. 70. 1954)

Ptychogaster versisporus LLOYD, Myc. Writ. 6:1005. *f. 1840*.1920; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 142. 1936.

Polyporus calvatioides IMAZ. Jap. Jour. Bot. 16 : 269, *f. 5—6*. 1940.

子實體は正常の發達をなすものと然らざるものとあり，正常體は無莖，栓木質にて傘は蹄形をなし，多數疊生し，其形端正ならず，3—5×1.8—2.5×1.8—2.5 cm，傘面は淡黃褐色にて赤斑を有す，平滑にて環層を缺くか或は僅に之を存す，肉は材色，栓質，管孔は淡褐色にて老時褐色を呈し，管長 8—10 mm，孔口は小にして圓形，胞子は圓柱狀，平滑，無色，8—10×3—4.5 μ。

異常體（*Ptychogaster*）は普通群生し，幼時扁球形にて徑 3—7 cm，熟するに從つて扁平に擴がり互に癒着して不規則なる複合塊となる，徑3—10—19 cm，厚さ 2.5—5 cm，表面は白色，淡材色或は屢々鮮黃色を呈し，粉狀，無殼，肉は白色乃至材色，幼時柔肉質にて水潤性なるも，速かに全內容は厚膜胞子の褐色粉塊に變ず。管孔は全く形成されざるか或は裏面に生じ，若し存在せば黃色を呈し，屢々痕跡的なり，肉の菌絲に 2 種あり，1 は厚膜にて幅 4—15 μ，他は薄膜にて原形質に充つ，兩者共盛に分岐す。厚膜胞子は類球形或は卵形，淡黃褐色，5—10×8—10 μ，薄膜菌絲より生ぜる小枝上に頂生又は間生す。

所在及產地

廣葉樹枯幹上　　本州，四國—南洋

和名 オオウズラタケ（大鶉茸）〔安田〕，ヒラフスベ（平贅）〔安田〕

Tyromyces KARST.

オシロイタケ屬

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9) : 17. 1881.

Leptoporus QUÉLET, Enchir, Fung, 175. 1886. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.
Spongipellis PATOUILLARD, Hymen. Eur. 140. 1887.
Spongiporus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 474. 1905.

子實體は1年生にて短命，無莖或は半背着生，傘は扁平或は丸山形，表面は無皮，稀に不明瞭なる薄皮を有す，平滑或は有毛，肉は生時多濕，柔肉質或は纖維狀肉質，乾時脆弱或は堅脆質，白色，木材色，淡紅色又は肉色，子實層托は管孔狀，1層，實質は傘肉と異質或は稍々異質，孔口は小或は中形，圓形，類圓形或は不整形，孔壁は往々淺裂す。囊狀體なきを常とし，時に之れを有するものあり，胞子は無色，平滑，樹上生。

（本屬名は tyros（乾酪）myces（菌）より出づ）

基準種　*T. chioneus* (FR.) KARST.

〔因 記〕本屬菌は無莖，肉質の白色 "*Polyporus*" として夙に注意を惹き區分され，永く QUÉLET 氏の *Leptoporus* 屬名を使用せられたるものなり。

本邦既知種検索表

A. 傘面に薄皮を有す。
  a. 肉は乾時堅硬。
    α. 傘は薄く，緣邊に環紋あり，無毛，圓形汚斑あり，孔壁屢々齒裂して毛狀となる，胞子小形，針葉樹上。　シミガタセンベイタケ **_T. guttulatus_** (277)
    β. 傘は斷面楔形，環紋なし，初め粉毛あり速に無毛となる，圓形汚斑なし，胞子大形，針葉樹上。　マツノオオウズラタケ **_T. squalens_** (277)
  b. 肉は乾時海綿質にて輕し，傘面に環紋なく，肉桂色の密毛ありて皮膜狀をなす，胞子小形，廣葉樹上。
    シロカイメンタケ **_T. sambuceus_** (278)
B. 傘面無皮。
  a. 肉は通常無層。
    α. 管孔面は帶白色乃至灰青色，傘面と共に擦傷によりて青變す，肉は柔軟，乾時脆弱，胞子 3—5×1—1.5μ。
      アオゾメタケ **_T. caesius_** (278)
    β. 管孔面は白色，傘面と共に擦傷により赤變す，老時煉瓦色，胞子 4.5—5.5×2—4μ。
      オオシミタケ **_T. erubescens_** (279)
    γ. 管孔面は白色，前者の如き特異性なし。
      I. 孔口は甚だ小（0.06—0.16 mm），薄壁，胞子は屢々新月形にて狹し，3—4×0.5μ。
        オオオシロイタケ **_T. chioneus_** (279)
      II. 前者より孔口及胞子幅廣し。
        1. 胞子楕圓形にて屈曲せず，傘は多數疊生す。
          甲. 管孔は純白，胞子短楕圓形，4×3μ。
            レンゲタケ **_T. floriformis_** (280)
          乙. 管孔は稍々飴色，胞子楕圓形，5×3μ。
            アワビタケ **_T. zonatulus_** (280)
        2. 胞子圓筒形にて屈曲す。
          甲. 環紋あり，黃白色，孔緣薄く全緣或は齒狀，肉は硬纖維質，胞子 6—8×2—3μ，廣葉樹上。
            ヤキフタケ **_T. pubescens_** (280)
          乙. 無環紋，純白色，孔緣は薄く齒牙狀，肉は肉狀纖維質，胞子 4—5×1—1.5μ，廣針葉樹上。
            オシロイタケ **_T. lacteus_** (281)
          丙. 無環紋或は不明瞭，孔緣は鈍くして全緣，肉は類栓質，胞子 7—9×3—5μ，針葉樹上。
            エゾオシロイタケ **_T. anceps_** (281)
  b. 肉は有層。
    α. 囊狀體なし。
      I. 菌體全部美しき淡薔薇乃至珊瑚色を呈す。
        アケボノオシロイタケ **_T. incarnatus_** (282)
      II. 美しき薔薇色ならず。
        1. 管孔面白色，乾時及擦傷によりて赤斑を生ず，管孔は乾時殆ど互に膠着す。
          甲. 變色の度著しく殊に管孔に於て强し，胞子類球形，4—5μ，肉は肉質にて水潤性，乾時堅脆。
            シミタケ **_T. fissilis_** (282)
          乙. 變色の度弱し，胞子楕圓形，8—9×6μ，肉は肉質，乾時稍々栓質。
            イロヅキタケ **_T. profissilis_** (282)
        2. 擦傷にて變色せず，管孔乾時膠着せず。
          甲. 生時アニス臭あり，胞子楕圓乃至類球形，5—7×4—5μ，廣葉樹上。
            ヒツジタケ **_T. spumeus_** (283)
          乙. 生時惡臭あり，胞子楕圓形，6×4μ，廣葉樹上。
            カタオシロイタケ **_T. spraguei_** (283)
    β. 囊狀體あり，針葉樹上。
      I. 緣下面無性ならず，孔口は白或は黃，胞子

5.5—7×4—7μ。心材白腐を起す。

エゾタケ ***T. borealis*** (284)

II. 緣下面無性，孔口は白或は褐色，胞子 3—6×2—3μ，心材褐腐を起す。

トドマツオオウズラタケ

T. balsameus (285)

Tyromyces guttulatus (PECK) MURR.

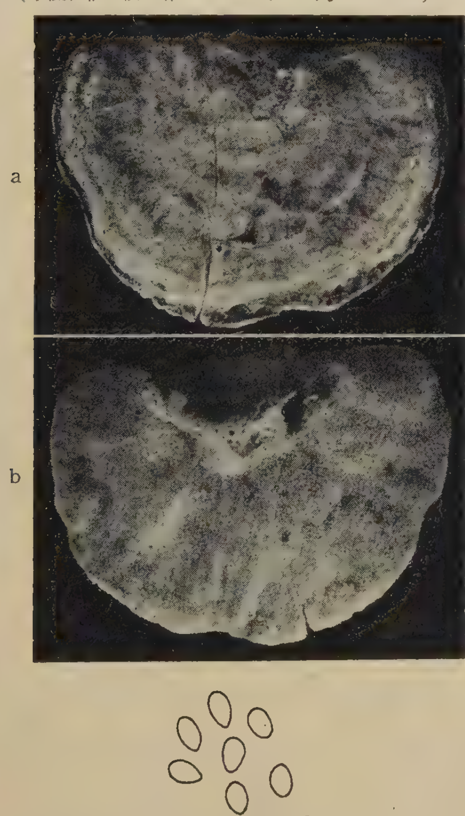
シミガタセンベイタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9: 31. 1907; North. Polyp. 11. 1914.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 84. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 31. 1952—原，日. 菌. 目. 374. 1954)

Polyporus guttulatus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 33: 37. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 106. 1888—AMES, Ann. Myc. 11: 238. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 97, *pl. 11, f. 38.* 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 100. 1914—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 84. 1934.

(今關，植. 研. 雜. 15: 441, 448, *f. 9.* 1939)



第 209 圖　シミガタセンベイタケ *T. guttulatus*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×3/4　c. 胞子 ×680
(大谷氏)

Polyporus maculatus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 26: 69. 1874. (non BERK.)

Polyporus alutaceus LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 301. 1915. (non FRIES)

子實體は坐生，時に疊生，生時軟肉質にて多濕，乾時輕く，堅くして脆し，傘は外圍半圓形或は扇形にて狹細の基部にて着生す，上面扁平，5—15×3—10×0.3—1.5cm，傘面は白色乃至帶黃色或は帶褐色，平滑，無毛，無環紋或は時に緣邊に環紋あり，屢々圓形の汚染斑紋を有す，薄き皮を被むる，傘緣は薄くして鋭く，波狀或は淺裂す，肉は白色或は淡色，厚さ 3—8mm，子實層托の實質は白色乃至材木色，管長 1—5mm，孔口は稍々角形，光澤あり，1mm 間平均 5—7 個，白色乃至黃色，屢々焦茶色の汚染を生ず，孔壁は薄く，脆くして毛狀に裂く，胞子は楕圓形或は長楕圓形，平滑，無色，4—5×2.5—3μ。

所在及產地

針葉樹枯幹上　　　北海道—北米

和名 シミガタセンベイタケ

(汚染型煎餅茸)〔今關〕

Tyromyces squalens (KARST.) IMAZ.

マツノオオウズラタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 84. 1943.

(今關，植. 分. 地. 13: 255. 1943; 及土岐，林. 試. 研. 報. 67: 31. 1954—原，日. 菌. 目. 374. 1954)

Trametes squalens KARST. G. WINT. Fung. Eur. exs. n. 3528—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 592. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 21. 1932; 49: 265. 1933; 51: 363. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 312, *pl. 176, 210b.* 1939.

Bjerkandera squalens KARST. Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 14: 79. 1887; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 297. 1889.

Polyporus squalens SACC. Syll. Fung. 6: 121. 1888.

(今關，植. 研. 雜. 15: 440, 448, *f. 8.* 1939)

Coriolellus squalens BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 60. 1941.

子實體は無莖，基部往々垂生，堅肉質，乾時堅し，傘は外圍通常半圓形にて，上面扁平或は丘狀，斷面楔形或は不正蹄形，2—12×2—5×1—3cm，傘面は帶白色或は汚卵黃色，材色乃至焦茶色の薄皮を有す，初は白色粉毛あるも速に無毛となる，通常無環紋，屢々放射狀の細皺或は不規則の皺を有す，傘緣は鈍圓，肉は白色乃至淡材色，管孔長さ 0.3—1cm，孔口は圓形乃至少しく劇れ，初め白色，摩擦せば僅か赤黑に變色す，古品は全面暗色，1mm 間 3—5 個，

孔壁は略々平坦，子實層は厚さ 15—18μ，擔子柄は徑 7.5μ，胞子は長楕圓形，小嘴を偏在，平滑，無色，8—10×3—4μ。不明瞭なる白色孔腐を起す。

所在及産地

針葉樹枯幹上

北海道，本州—歐.米.亞(支.樺.西比)

和名 マツノオオウズラタケ（松大鶉茸）〔今關〕

Tyromyces sambuceus (LLOYD) IMAZ.

シロカイメンタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 84. 1943. (千葉及寺本，東．大．演．林．報．43:31.1952—原，日．菌．目．374. 1954)

Polyporus sambuceus LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60 : 13. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 120. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 356. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60:8. 1915—安田，植．雜．29 : 420. 1915; 31 : 52. 1917—白井，日．菌．目．ed. 3. 294. 1927—今關，植．硏．雜．16:266, *f. 3—4*. 1940)

子實體は無莖，海綿質，傘は半圓形，稀に扇形，疊生，5—13×6—22×0.7—3cm，表面は肉色なるも，普通微細なる肉桂色の密毛を被むり，その毛は壓低膠着して皮膜狀を呈す，環層を缺く，肉は肉色，柔軟肉質，乾時白色，海綿質，輕くして脆弱となり接骨木髓の如し，管孔面は肉色，長さ 3—15mm，乾時白色，孔口は小多角形，時に劃裂す，口壁は薄し，胞子は楕圓形乃至核子形，平滑，無色，4—5.5×2—2.5μ。

所在及産地

廣葉樹切株，材上　　　北海道，本州

和名 シロカイメンタケ（白海綿茸）〔安田〕

Tyromyces caesius (SCHRAD. ex FR.) MURR.

アオゾメタケ

MURRILL, Ann. Myc. 9:34. 1907; N. Am. Fl. 9:34. 1907; North. Polyp, 14. 1914; South. Polyp. 14. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 51. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:84. 1943; 及土岐，林．試．硏．報．67:31. 1954—千葉及寺本，東．大．演．林．報．43 : 31. 1952—原，日．菌．目．374. 1954)

Boletus caesius SCHRAD. Sp. Pl. Germ. 167. 1794—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 526. 1801—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 640. 1821.

Boletus albidus SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 226*. 1799. (non SCHAEFF.)

Polyporus caesius FR. Syst. Myc. 1:360. 1821; Epicr. Myc. 454. 1838; Hymen. Eur. 547. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 63. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):139. 1836; Outl. Brit. Fung. 242. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:428. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 270. 1871; Grev. 13 : 86. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 275. 1872—GILLET, Champ. Fr. 671, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:258. 1876—WINTER, Pilze, 1:434. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:113. 1888; 17:114. 1905—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 470. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:252. 1892; Brit. Fungi, 374. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:73. 1903; 10:493. 1912; Icon. Myc. 20 : *pl. 976*. 1931—W. G. SMITH, Brit. Basid. 343. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):209, *pl. 33 D, f. 2*. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 238. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 92. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 96. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 322. 1915—REA, Brit. Basid. 589. 1922—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 337, *pl. 28, f. 3*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 80. 1934—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74 : 17. 1948.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 4. 1917; 6 : 980. 1920; 7 : 1126. 1922—安田，植．雜．34 : 265. 1920—白井，日．菌．目．ed. 3. 289. 1927—今關，日．隱．植．圖．435, *pl. 208, f. 1—2*. 1939)

Bjerkandera caesia KARST. Hattsv. 2:37. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 300. 1889.

Leptoporus caesius QUÉL. Enchir. Fung. 176. 1886; Fl. Myc. 386. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 85. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 122. 1925; Hymen. Fr. 540. 1928—PILÁT Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 8. 1932; 49 : 259. 1933; 51:357. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 170, *pl. 92—95, 100*. 1937; Ann. Myc. 38:71. 1940.

Polyporus caesiosimulans ATKINS. Ann. Myc. 6 : 61. 1908—AMES, Ann. Myc. 11 : 238. 1913.

? *Polyporus tokyoensis* LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 302, *f. 639*. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 123. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23:366. 1925(ex err. typ. *tokyvensis*)

子實體は坐生或は稀に半背着生，傘は半圓形にて山形，生時柔軟，海綿狀，乾時剛直，1—5×1—6cm，厚さ 0.3—2cm，傘面は濕潤，細密綿毛乃至長軟毛あり，殊に後方に於て著し，無環紋，白色乃至灰色，接觸或は擦れば靑色に變ず，傘緣は薄くして鋭し，肉は白色，柔軟，生時海綿質にて水潤，乾時粉狀にて脆し，厚さ 0.3—1.5cm，管孔は長さ 2—9mm，乾時崩潰す，孔口は白色乃至灰靑色，角形，1mm

間 3—4 個，孔壁は薄く，老時裂ける，胞子は圓壔狀腸詰形，平滑，無色，3—5×1—1.5μ。材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉及針葉樹上　　全土一歐.北米.濠.亞(爪.西比)

和名 アオゾメタケ（青染茸）〔安田〕

Tyromyces erubescens (FR.) BOND. et SING.

オオシミタケ

BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 52. 1941. (IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 84. 1943—原，日．菌．目．374. 1954)

Polyporus erubescens FR. Epicr. Myc. 461. 1838; Hymen. Eur. 554. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 425. 1844—WINTER, Pilze, 1: 427. 1884—COOKE, Grev. 13: 115. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 137. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 204. 1912—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 985, f. 1.* 1931.

Polyporus mollis ROSTK. in STURM, Deut. Fl. 4: *pl. 25.* 1828. (non PERSOON, nec FRIES)

Piptoporus erubescens KARST. Hattsv. 2: 45. 1882.

Leptoporus erubescens BOURD. et GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 124. 1925; Hymen. Fr. 542, *f. 152.* 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51: 355. 1935.

子實體は無莖，肉栓質，傘は半圓形にて扁平或は低山形，孤生或は疊生，微細毛を有するか殆んど無毛，淡肉色乃至暗褐紅色，2×2—4cm，厚さ 3—4 mm，肉は柔栓質，白色，老時煉瓦色，管孔面は同色，長さ 2—4mm，孔口は中等大，多角形，1mm 間 3 個，後齒裂す。傘及管孔面は擦傷によりて赤變する性を有す。胞子は屈曲圓筒形，平滑，無色，4.5—5.5×2—4μ。

所在及産地

針葉樹幹上　　本州一歐.亞(西比)

和名 オオシミタケ（大汚染茸）〔今關〕

Tyromyces chioneus (FR.) KARST.

オオオシロイタケ

KARSTEN, Rev. Myc. 3: 17. 1881—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 51. 1941. (non MURRILL. 1907)

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 84. 1943—原，日．菌．目．374. 1954)

Polyporus chioneus FR. Obs. Myc. 1: 125. 1796; Syst. Myc. 1: 359. 1821; Epicr. Myc. 453. 1838; Hymen. Eur. 546. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 241. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 269. 1871; Grev. 13: 86. 1885; Handb. Austr. Fungi, 121. 1892—GILLET, Champ. Fr. 669. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 257. 1876—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 8: 230. 1879—WINTER, Pilze, 1: 114. 1884—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 251. 1892; Brit. Fungi, 374. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 73. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 342. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 210. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 238. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc 92. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 94. 1914—REA, Brit. Basid. 591. 1922—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74: 32. 1948.

Polyporus candidus PERS. Myc. Eur. 2: 51, *pl. 15, f. 4—5.* 1825.

Polyporus semipileatus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 34: 43. 1881—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 115. 1888.

Polyporus semisupinus BERK. et CURT. Grev. 10: 52. 1882—COOKE, Grev. 13: 86. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 115. 1888—AMES, Ann. Myc. 11: 238. 1913—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 316, *f. 654—5.* 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1266. 1924)

Bjerkandera chionea KARST. Hattsv. 2: 36. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 298. 1889.

Leptoporus chioneus QUÉL. Enchir. Fung. 176. 1886; Fl. Myc. 385. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 84. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 125. 1925; Hymen. Fr. 680. 1928.

Tyromyces semisupinus MURR. N. Am. Fl. 9: 34. 1907.

Tyromyces semipileatus MURR. North. Polyp. 14. 1914; South. Polyp. 14. 1915.

Leptoporus semipileatus PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 183, *pl. 107—8.* 1938.

子實體は坐生，半背着或は全背着，叢生重疊し，革質，傘は半圓形にて貝殼狀，0.5—1.5×1—4cm，厚さ 1—3mm，表面は白色，帶赤黄色，暗褐或は黑褐色，無毛或は壓低されたる綿毛，放射狀の纖維を有す，屢々縁に近く環紋あり，縁は薄く，乾時內屈す，肉は薄く，柔軟，白色乃至帶白色，乾時脆し，管孔は短かく，孔口は甚だ小形（徑 0.06—0.16 mm），1mm 間約 4 個，圓形或は僅か角形，白色，後淡色或は僅か暗褐色，孔壁は薄く，堅脆，齒狀となる，胞子は圓筒形にて屈曲し，新月形となり，3—4×0.5μ。

所在及産地

廣葉樹枯枝上　　本州一歐.北米.濠

和名 オオオシロイタケ（大白粉茸）〔今關〕

Tyromyces floriformis (BRES.) BOND. et SING.

レンゲタケ

BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 51. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:84. 1943—原, 日. 菌. 目. 374. 1954)

Polyporus floriformis BRES. Fung. Trid. 1 : 61, *pl. 68*. 1884; Icon. Myc. 20 : *pl. 975*. 1931—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 14 : 7. 1885—COOKE, Grev. 13 : 85. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:102. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):211. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 103. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 317. 1915—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b:70. 1934; Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 19:144, *f. 5 A*, *pl. 15*, *f. 1*. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65:13. 1917—安田, 植. 雜. 34:162. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 290. 1927)

Leptoporus floriformis QUÉL. Enchir. Fung. 177. 1886—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 127. 1925; Hymen. Fr. 546. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 431*, *f. 2*. 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51:358. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:208. 1938; Ann. Myc. 38 : 71. 1940.

Coriolus floriformis QUÉL. Fl. Myc. 390. 1888.

Polystictus floriformis SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1017. 1916.

子實體は短莖を有し，堅肉質，傘は扇形にて多數疊生し，大部分互に癒着し，全形10cmに及ぶ，各傘は薄く，乾時緣邊內卷し，基部狹小となり莖狀を呈し共通の主莖に合す，幅2—3.5cm，表面は白色，略々平滑，著しからざる多數の環層を有し，放射狀皺襞あり，肉は白色，管孔面は白色，管長は短く，2—4mm，孔口は小，殆ど圓形，囊狀體なし，胞子は短楕圓形，平滑，無色，4×3μ。

所在及產地

樹皮上 本州—歐. 北米. 亞(西比. 支)

和名 レンゲタケ（蓮華茸）〔今關〕

Tyromyces zonatulus (LLOYD) IMAZ.

アワビタケ

Polyporus zonatulus LLOYD, Myc. Writ. 6 : 883, *f. 1520*. 1919; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 126. 1936.

(安田, 植. 雜. 35:206. 1921—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 297. 1927)

Polystictus venulosus (non JUNGH. nec SACC.) (LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917; Lett. 67:11. 1918—安田, 植. 雜. 32 : 26. 1918—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 30. 1927—原, 日. 菌. 目. 283. 1954)

子實體は無莖，革質，傘は半圓形，疊生癒着し，薄し，4.5×4×0.2—0.35cm，表面は白色，極めて微細の毛を有し或は殆ど無毛，多數の著しからざる環層及び細かき放射狀の皺あり，基部に數箇の凹溝あり，肉は甚だ薄く，白色，管孔は白色或はやや飴色を呈す，管長1.5—3mm，孔口は小，多角形，囊狀體なし，胞子は楕圓形，平滑，無色，5×3μ。

所在及產地

樹皮上 本州

和名 アワビタケ（鮑茸）〔安田〕

Tyromyces pubescens (SCHUM. ex FR.) IMAZ.

ヤキフタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 84. 1943.

(千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:31. 1952—原, 日. 菌. 目. 374. 1954)

Boletus pubescens SCHUM. Enum. Pl. Saell. 2: 384. 1803.

Polyporus pubescens FR. Obs. Myc. 1:126. 1815; Syst. Myc. 1:367. 1821; Elench. Fung. 1:87. 1828; Hymen. Eur. 553. 1874—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—WINTER, Pilze, 1 : 428. 1884—COOKE, Grev. 13:115. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 135. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 988. 1916—NEUMAN, Polyp. Wisc. 91, *pl. 11*, *f. 36*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 94. 1914—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):205. 1912—BRESADOLA, Icon. Myc. 20 : *pl. 982*. 1931.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:6. 1912—安田, 植. 雜. 27:224. 1913—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 481. 1917; ed. 3. 293. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 435, *pl. 208*, *f. 5—6*. 1939; 植. 分. 地. 13 : 255. 1943)

Polyporus Sullivantii MONT. Ann. Sci. Nat. II, 18 : 243, 1842.

Bjerkandera pubescens KARST. Hattsv. 2:41. 1882

Polystictus Sullivantii COOKE, Grev. 14 : 81. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 242. 1888.

Coriolus pubescens QUÉL. Fl. Myc. 391. 1888—MURRILL, Bull, Torr. Bot. Club, 32 : 645. 1906; N. Am. Fl. 9:18. 1907; North. Polyp. 6. 1914—AMES, Ann. Myc. 11 : 242. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 139. 1925; Hymen. Fr. 560. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 13. 1932; 49 : 262. 1933; 51 : 364. 1935; 52 : 312. 1936—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 59. 1941.

Leptoporus pubescens PAT. Ess. Tax. 84. 1900.

Trametes pubescens PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 268, *pl. 268*, *pl. 183—4*. 1939; Ann. Myc. 38 : 75. 1940.

Polystictus pubescens LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60: 12. 1915.

(安田, 植. 雑. 31:57. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 7: 1345. 1925—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 300. 1927—原, 日. 菌. 目. 283. 1954)

Polystictus velutinus sensu LLOYD

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 7. 1918)

Polystictus velutinus f. *glaber* LLOYD, Myc. Writ. 4: 3. 1915.

(安田, 植. 雑. 29: 207. 1915—白井, 日.菌, 目.ed. 2.491. 1917; ed. 3. 301. 1927—原, 日. 菌. 目. 283.1954)

子實體は坐生, 疊生, 傘は半圓形, 稀に腎臓形又は扇形等にて, 扁平或は貝殻狀, 3—5×4—8×0.4—0.8cm, 傘面は黄白色乃至材黄色, 微細なる纖維毛を放射し, 或は粉毛を被むり, 後殆ど無毛, 放射狀の微細なる皺と不鮮明なる環紋を表わす, 縁は薄くして鋭く少しく下屈す, 肉は薄く, 白色乃至淡材色, 纖維質, 粗麻狀革質, 管孔は白色, 後淡材色を帶び, 長さ 2—5mm, 孔口は圓形, 後亂れて迷路狀, 1mm 間 2—3 個, 孔壁は薄く, 全縁乃至齒狀, 胞子は圓筒形, 稍々屈曲し, 平滑, 無色, 6—8×2—3μ。

所在及產地

廣葉樹腐木上

北海道, 本州—歐. 北米. 亞(西比. 支)

和名 ヤキフタケ (燒麸茸) 〔安田〕

Tyromyces lacteus (FR.) MURR.

オシロイタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9:36. 1907; North. Polyp. 15. 1914; South. Polyp. 15. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 51. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 84. 1943—原, 日. 菌. 目. 374. 1954)

Polyporus lacteus FR. Syst. Myc. 1: 359. 1821; Epicr. Myc. 453. 1838; Hymen. Eur. 546. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 428. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 275. 1872—GILLET, Champ. Fr. 672. 1874—WINTER, Pilze, 1: 434. 1884—COOKE, Grev. 13:85. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:108. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 978. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 470. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 287. 1891; Brit. Basid. 343. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:253. 1892; Brit. Fungi, 374. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 208. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 238. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 94. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 97. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 317, *f. 656*. 1915—REA, Brit. Basid. 588. 1922—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 79. 1934—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74: 18, *pl. 5*, *f. 1*. 1948.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51: 4. 1914; Lett. 60: 8. 1915—安田, 植. 雑. 28: 325. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 477. 1917; ed. 3. 291. 1927)

Polyporus apalus LÉV. Ann. Sci. Nat. Bot. 9: 124. 1848.

Bjerkandera lactea KARST. Hattsv. 2:36. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 299. 1889.

Bjerkandera ciliatula KARST. Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 14: 80. 1887; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 298. 1889.

Polyporus ciliatulus SACC. Syll. Fung. 6: 127. 1888.

Polyporus albellus (non PECK)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 16. 1912—安田, 植. 雑. 27: 117. 1913—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 471. 1917; ed. 3. 288. 1927)

Polyporus trabeus LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 301, *f. 638*. 1915. (non ROSTK.)

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 4. 1917; Lett. 68: 7. 1918—安田, 植. 雑. 31: 52. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 295. 1927)

Coriolus lacteus PAT. Ess. Tax. 94. 1900—AMES, Ann. Myc. 11: 242. 1913.

Leptoporus lacteus QUÉL. Enchir. Fung. 176. 1886; Fl. Myc. 385. 1888—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 121. 1925; Hym. Fr. 539. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 6. 1932; 49: 260. 1933; 52: 307, *f. 6*. 1936; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 185, *pl. 88—91*. 1938; Ann. Myc. 38: 71. 1940.

子實體は坐生或は基部莖狀, 孤生, 傘は半圓形或は扇形にて丸山形, 屢々斷面三稜形となる, 2—4×5—8cm, 厚さ 0.5—1.5cm, 傘面は純白色, 乾時白或は乾酪色, 時に暗色となる, 細軟毛を有するか或は無毛, 環紋なく多少絹絲様の線條あり, 縁は同色, 薄く, 僅か内屈す, 肉は肉狀纖維質にて柔軟, 乾時堅脆, 白色, 管孔は細長, 長さ 5mm, 孔口は圓形乃至角形, 1mm 間 4—5 個, 光澤あり, 孔壁は薄く, 全縁或は齒狀, 白色乃至淡黄色, 胞子は腸詰形, 平滑, 無色, 4—5×1—1.5μ。

所在及產地

廣葉及針葉樹上

本州—歐. 北米. 濠. 亞(支. 西比)

和名 オシロイタケ (白粉茸) 〔安田〕

Tyromyces anceps (PECK) MURR.

エゾオシロイタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9: 35. 1907; North. Polyp. 15. 1914.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci Mus. 6:84. 1943—原, 日. 菌. 目. 373. 1954)

Polyporus anceps PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 22:207. 1895—LLOYD, Myc. Writ. 5:655, *f. 933—4*. 1917—KAUFFMAN, Mycologia, 18 : 27, *pl. 5*. 1926—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:343, *pl. 23, f. 2*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 83. 1934.

Tyromyces Ellisianus MURR. N. Am. Fl. 9:34. 1907; North. Polyp. 13. 1914.

Polyporus Ellisianus SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 281. 1912.

子實體は全背着或は緣邊狹く反轉す，類木栓質，稍々撓曲性なるも，乾時堅硬，傘は狹く，側邊癒着し棚狀となること多し，0.5—3×2—10 cm，厚さ 3—15 mm，表面は無環紋或は不明瞭の環紋あり，微細なる綿毛乃至鱗毛を有し，時に粗糙なる孔あり，白色乃至乾酪色，緣は寧ろ薄く，同色，全緣或は波狀，肉は白色，乾時幾分脆く，厚さ 5—8 mm，管孔は長さ 3—5 mm，孔口は圓形，1 mm 間 5—6 個，規則正しくして一樣，白色乃至淡灰褐色，光澤あり，口緣は鈍く，全緣，胞子は圓筒形乃至長楕圓形，稀に屈曲，平滑，無色，7—9×3—3.5 μ。

所 在 及 產 地

針葉枯幹上　　北海道—北米

和 名　エゾオシロイタケ（蝦夷白粉茸）〔今關〕

Tyromyces incarnatus IMAZ.

アケボノオシロイタケ

IMAZEKI & TOKI, Bull. Gov. For. Exp. St. 67: 31. 1954.

子實體は坐生，一年生，傘は初め箆形或は類扇形，後半圓形となり，9×5×1.3 cm，表面扁平，美しき淡薔薇色乃至珊瑚色，乾時粉狀，僅か有皺にて，稍々同心環溝あり，分散せる乳頭狀疣あり，緣は幼時屢々鈍く，成時薄くして，稍々銳し，肉は厚さ 7 mm に及び，生時軟肉質，多漿，多少脆弱，乾時軟栓質，幼時桃色，後淡薔薇色となる，僅か有層，菌絲は無色，徑 5—6.5 μ，管孔は 1 層，長さ 4 mm に及ぶ，孔壁は薄く，徑 3.7—5 μ の菌絲より成り，稍々異質なり，孔口は微小，類圓形，1 mm 間 3—4 個，稜は薄く，銳く，桃色，胞子は楕圓形，平滑，無色，4—5×2.5 μ。囊狀體なし。

所 在 及 產 地

針葉樹枯木上　　本州，九州

和 名　アケボノオシロイタケ（曙白粉茸）〔今關〕

Tyromyces fissilis (BERK. et CURT.) DONK

シミタケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:153. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 52. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:84. 1943; 植. 分. 地. 13:255. 1943—原, 日. 菌. 目. 374. 1954)

Polyporus fissilis BERK. et CURT. Jour. Bot. & Kew Misc. 5:234. 1853; Grev. 1:50. 1872—COOKE, Grev. 13:115. 1885—AMES, Ann. Myc. 11: 239. 1913—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 319. 1915—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b:77. 1934.

(安田, 植. 雜. 36:42. 1922—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 290. 1927)

Spongipellis fissilis MURR. N. Am. Fl. 9 : 39. 1907; South. Polyp. 16. 1915—DODGE, Mycologia, 8 : 14, *pl. 176*. 1916.

Polyporus albosordescens ROM. Svensk Bot. Tidskr. 6 : 637, *f. 1*. 1912.

Phaeolus albo-sordescens BOURD. et GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 135. 1925; Hymen. Fr. 555. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 308, *f. 8*. 1954.

Leptoporus albosordescens PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 8. 1932; 49 : 260. 1933.

Leptoporus fissilis PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 227, *pl. 144—6*. 1938.

? *Polyporus fragilis* (non FRIES)

(LLOYD, Myc. Writ. 6:980. 1920—安田, 植. 雜. 36 : 146. 1922—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 290. 1927)

子實體は坐生，屢々後部大きく背着し，稍々疊生，傘は半圓形，橫徑 8—15 cm，厚さ 2 cm に及ぶ，表面は白色，乾時汚褐色に變ず，凹凸ありて粗面，絨毛あり，無環紋，肉は白色，多濕柔軟，肉質，乾時黃褐色にて堅脆，層を有す。管孔は長さ 5—12 mm，孔口は角形，1 mm 間 2—3 個，白色，後灰色，乾時及擦傷により赤色斑を生ず，管孔は飴の如く互に膠着す。胞子は類球形，平滑，無色，4—5 μ。

所 在 及 產 地

針葉樹上　　本州—歐. 北米. 濠. 亜（西比）

和 名　シミタケ（汚染茸）〔安田〕

Tyromyces profissilis (LLOYD) IMAZ.

イロヅキタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 84. 1943. (原, 日. 菌. 目. 374. 1954)

Polyporus profissilis LLOYD, Myc. Writ. 5 : 810, *f. 1262*. 1918; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 115. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:7. 1918—安田, 植. 雜. 34: 67. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 293. 1927)

子實體は無莖，肉質，傘は半圓形にて兩面扁平，2.5—3.7×2.5—5.5cm，厚さ 0.5—1.2cm，表面は白色，乾時材色となり少しく赤色を帶ぶ，粗糙，密毛を被むる，皺襞あり，肉は白色，乾時稍々栓質，裂け易し，管孔面は白色，乾時淡赤褐色を帶ぶ，管長は 0.5—1cm，孔口は廣く，多角形，往々蟠曲す，徑 0.7—1mm，乾時孔壁殆ど互に膠着す。胞子は楕圓形，平滑，無色，8—9×6μ。

所在及產地

樹皮上　本州

和名 イロヅキタケ（着色茸）〔安田〕

Tyromyces spumeus (SOW. ex FR.) IMAZ.

ヒツジタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 84. 1943.

（千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 31. 1952—原，日. 菌. 目. 374. 1954）

Boletus spumeus SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 211*. 1799.

Boletus suberosus WAHL. Fl. Ups. n. 1054. 1820.

Polyporus spumeus FR. Syst. Myc. 1 : 358. 1821; Elench. Fung. 1 : 84. 1828; Epicr. Myc. 459. 1838; Hymen. Eur. 552. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 139. 1836; Outl. Brit. Fungi, 244, *pl. 16*, *f. 4*. 1860—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 273. 1871; Grev. 13 : 115. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 277. 1872—GILLET, Champ. Fr. 671. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 429. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 134. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 988. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 253. 1892; Brit. Fungi, 374. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 346. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 205. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 97. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 99. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 304, *f. 641—2*. 1915—REA, Brit. Basid. 590. 1922—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 345, *pl. 28*, *f. 2*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 73. 1934.

（安田，植. 雜. 38 : 121. 1924—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 294. 1927）

Boletus pulvinatus WAHL. Fl. Suec. n. 2001. 1824—6.

Bjerkandera spumea KARST. Hattsv. 2 : 40. 1882.

Inodermus spumeus QUÉL. Enchir. Fung. 174. 1886.

Spongipellis spumeus PAT. Ess. Tax. 84. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 116. 1925; Hymen. Fr. 533. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 306, *f. 2*. 1936—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 52. 1941.

Spongipellis occidentalis MURR. N. Am. Fl. 9 : 38. 1907; North. Polyp. 16. 1914.

Leptoporus spumeus PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 237, *pl. 155—7*. 1938; Ann. Myc. 38 : 71. 1940.

子實體は坐生し，稍々疊生し，生時柔軟にて水潤性，アニス樣臭を有し，乾時剛直，傘は半圓形，稀に基部狹細し莖狀となる，上面凸形をなす，5—20×6—20×2—6cm，乾時甚だ小形となる，傘面は無環紋，長剛毛，纖維毛を有し或は硬尖糙澁なり，白色乃至帶黃色，乾時淡卵黃色乃至澁色，傘緣は寧ろ厚きも鈍し，波曲乃至淺裂し，同色，肉は生時白色乃至帶黃色，乾時黃褐乃至赭色，不明の層あり，上部柔軟にて綿狀，下部堅緻にて纖維狀，厚さ 1—3cm，子實層托は肉と同色にて肉より區別明かなるも剝離せず，長さ 0.5—3cm，乾時屢々崩壞す，孔口は角形，同色，乾時暗色となる，1mm 間 2—4 個，孔壁は老時齒裂す，胞子は楕圓形乃至類球形，有嘴，平滑，無色，5—7×4—5μ。

所在及產地

廣葉樹上　北海道—歐. 北米. 亞（支. 西比）

和名 ヒツジタケ（羊茸）〔安田〕

Tyromyces spraguei (BERK. et CURT.) MURR.

カタオシロイタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 33. 1907; Mycologia, 11 : 103, *pl. 6*, *f. 4*. 1919; North. Polyp. 12. 1914; South. Polyp. 13. 1915.

（IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 84. 1942—原，日. 菌. 目. 374. 1954）

Polyporus Spraguei BERK. et CURT. Grev. 1 : 50. 1872—COOKE, Grev. 13 : 86. 1885—AMES, Ann. Myc. 11 : 238. 1913—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 101. 1914—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 74. 1934.

Polyporus sordidus COOKE, Grev. 15 : 20. 1886—NEUMAN, Polyp. Wisc. 93. 1914.

子實體は無莖にて廣く側生或は後部狹細，生時堅肉質或は濕潤，乾時剛直にて甚だ堅し，傘は半圓形或は扇形にて上面丸山形，時に疊生，4—12×4—10×0.6—2cm，傘面は乳白色乃至帶赤黃色，壓着せる細密軟毛あるか或は無毛，無環紋或は幾分環紋あり，傘緣は薄く或は稍々厚く，鈍し，波狀又は少しく鱗片を有し，乾時屢々黑變し內屈す，肉は白色，生時强靱纖維質，乾時往々甚だ堅くして幾分脆し，有層，厚さ 0.3—1.5cm，生時甚だ不快なる臭氣を有す，管孔は長さ 0.3—1cm，白色乃至帶黃色，孔口は白色或は變色し，圓形或は角形，1mm 間平均 3—4

個，孔壁は白色乃至帶黃色，薄く，全縁，胞子は稍圓形，平滑，無色，6×4μ。心材の褐腐を起す。

所在及産地

ブナ (*Fagus*) カシワ (*Quercus*) クリ (*Castanea*)等枯木，材上 本州—北米

和名 カタオシロイタケ（堅白粉茸）〔今關〕

Tyromyces borealis (FR.) IMAZ.

エゾタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 84. 1943; & TOKI, Bull. Gov. For. Exp. St. 67 : 31. 1954. (原，日. 菌. 目. 373. 1954)

Boletus albus SCHAEFF. Fung. Bavar. *pl. 314*. 1774.

Polyporus borealis FR. Syst. Myc. 1:366. 1821; Elench. Fung. 1:85. 1828; Epicr. Myc. 459. 1838; Hymen. Eur. 552. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 67. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:425. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 277. 1872 —GILLET, Champ. Fr. 672. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:261. 1876—WINTER, Pilze, 1:428. 1884—COOKE, Grev. 13:115. 1885; Handb. Austr. Fungi, 124. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6:134. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 987. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 471. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 288. 1891; Brit. Basid. 346. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:248. 1892; Brit. Fungi, 373. 1911—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 9, *f. 9—10*. 1903—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 73. 1903—MIGULA, Kryt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 204. 1912—AMES, Ann. Myc. 11 : 239. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 95, *pl. 11, f. 39*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 100. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 326, *f. 668—70*. 1915—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:335, *pl. 20*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 75. 1934.

(龜井，北. 大. 演. 林. 硏. 報. 14(2):157, *f. 1—3*. 1949)

Boletus borealis WAHL. Fl. Suec. 2 : 956. 1826.

Bjerkandera borealis KARST. Hattsv. 2:40. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 302. 1889.

Daedalea borealis QUÉL. Enchir. Fung. 184. 1886; Fl. Myc. 374. 1888—REA, Brit. Basid. 617. 1922.

Spongipellis borealis PAT. Ess. Tax. 84. 1900 —MURRILL, N. Am. Fl. 9:38. 1907; North. Polyp. 16. 1914—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:118. 1925; Hymen. Fr. 535. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5:*pl. 425*. 1926 —PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:5. 1932; 51:355. 1935.

Heteroporus borealis BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 62. 1941.

Leptoporus borealis PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 234, *pl. 147—151, 153—4*. 1938; Ann. Myc. 38 : 71. 1940.

子實體は坐生或は短莖を有す，傘は半圓形或は扇形，疊生し，基部に於て癒着することあり，或は時に數個橫に連結す，生時多少肉質にて柔軟，乾時纖



a



b

第 210 圖 エゾタケ *T. borealis*
a. 子實體 ×4/5 （龜井氏）
b. 嚢狀體及胞子 ×612 （大谷氏）

維質，革質或は軟骨質となり剛直，3—12×3—12 cm，厚さ 0.5—3 cm，表面は絨毛密生し，多少覆瓦狀をなす，無環紋，白色，微黃色乃至帶黃褐色或は帶赤黃色，縁は薄く，全縁或は多少缺刻あり，同色，裏面無性ならず，肉は 2 重にて上層は稍々粗なる纖維質にて軟く，下層は稍々堅實なる纖維質，傘面と同色，厚さ 0.2—2 cm，菌絲は稀に分岐し，徑 6—7μ。莖は側生或は中心生，時に狹細せる傘の基部によりて着生し，往々之を缺く，子實層托は長さ 3—12 mm，生時白色或は黃色，乾時黃褐色，膠質又は角質，孔口は白色或は黃色，初め圓形，後角形或は迷路狀，1 mm 間平均 1—2 個，孔壁は老時裂く，胞子は稍圓形乃至卵形，平滑，無色，5.5—7×4—7.5μ，嚢狀

體は多數，棍棒形，子實層に埋まり或は 16μ 程抽出す，25—28×8—15μ。心材の白腐を起す。

所在及產地

アカエゾマツ (*Picea*) トドマツ (*Abies*) の幹及材上　北海道，本州—歐. 北米. 亞(西比. 支)

和名 エゾタケ（蝦夷茸）〔今關〕

Tyromyces balsameus (PECK) MURR.

トドマツオオウズラタケ

MURRILL, North. Polyp. 13. 1914.

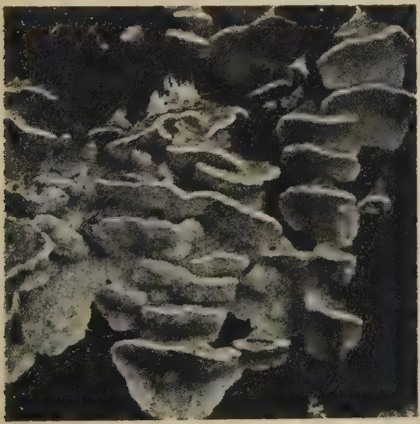
Polyporus balsameus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 30: 46. 1878—HUBERT, Phytopath, 19: 725, *f. 1—3*. 1929—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 71. 1934.

（龜井，北. 大. 演. 林. 報. 15(1): 159, *pl. 1—2*. 1951）

Polystictus balsameus COOKE, Grev. 14: 83. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 259. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 9. 1917.

Coriolus balsameus MURR. N. Am. Fl. 9: 21. 1907; Mycologia, 12: 7. 1920.

子實體は坐生或は半背着生，又は基部狹細し莖狀をなす，肉質或は軟革質，乾時栓質，疊生，傘は半圓形，庇形，時に漏斗形，往々横着す，0.5—2.5×



第 211 圖　トドマツオオウズラタケ *T. balsameus* の子實體　（龜井氏）

2—5×0.2—0.5cm，表面は白色或は淡褐色，微かに環紋あるか不鮮明，殆ど無毛或は倒伏せる絨毛あり，緣は薄く，下面無性，肉は白色，纖維狀，稍々層をなし，厚さ 0.5—1mm，子實層托は白色或は稍々汚褐色，管長 1.5—3.5mm，孔口は同色，圓形或は多角形，1mm 間 3—7 個，孔緣は薄くして齒牙狀或は厚くして全緣なり，囊狀體は棍棒形，薄膜，11—28×4—6μ，胞子は卵形或は圓筒形，小嘴あり，平滑，無色，3—6×2—3μ，心材の褐腐を起す。

所在及產地

トドマツ (*Abies*)，アカエゾマツ (*Picea*) 根株，材上　北海道—北米

和名 トドマツオオウズラタケ

（椴松大鶉茸）〔龜井〕

疑問種

（*Tyromyces* 所屬）

Polyporus undosus PECK

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 4. 1917)

Polyporus amygdalinus BERK. et RAV.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 8, 14. 1916; Lett. 67: 7, 16. 1918; 6: 1075. 1920)

Polyporus griseo-durus LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68: 12. 1918; STEVENSON & CASH, New Fung. Names. Lloyd, 106. 1936.

Polystictus glabratus LLOYD, Myc. Writ. 5: 626, *f. 889*. 1917; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 131. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 9. 1916; 7: 1126. 1922—安田，植. 雜. 31: 15, 58. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 298. 1927)

Trametes minutissima YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 34: 29. 1920 = *T. Symploci* YASUDA, l. c. 37: 84, *f. 2—3*. 1923.

（白井，日. 菌. 目. ed. 3. 394. 1927）

Bjerkandera KARST.

ヤケイロタケ屬

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5: 38. 1879.

Leptoporus QUÉLET, Enchir. Fung. 175. 1886. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は 1 年生，無莖或は半背着生，傘は半圓形，扁平，疊生，表面は無皮，密毛を帶ぶ，肉は栓肉質，類白色，子實層托との間に暗色の境界層あるを特徴とす，境界層は肉眼にて明瞭なる薄線として認められ，稍々密に結合する着色菌絲より成る。子實層托は管孔狀，1 層，暗灰色或は殆ど黑色を呈す，孔口は小又は中形，類圓形，囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

基準種　*B. adusta* (WILLD. ex FR.) KARST.

〔因 記〕本屬は前屬 *Tyromyces* と同性質なるも只肉眼的にも認めらるる暗色線の存在によりて區分さるるものなり，本屬名は人名より出でたるものなるべきも，その人を明かにすることを得ざりき。

本邦既知種檢索表

A. 傘は薄く，0.1—0.8cm，表面に放射纖維條あり，

波状，孔口は小形，1mm 間 4—6。

ヤケイロタケ **B. adusta** (286)

B. 傘は前者より大にて厚く，0.3—2cm，短毛は著しからずして放射纖維なし，孔口は稍々大，1mm 間 3—5，時に不快臭あり。

ヒメモグサタケ **B. fumosa** (287)

Bjerkandera adusta (WILLD. ex FR.) KARST.
ヤケイロタケ

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5: 38. 1879; Hattsv. 2: 39. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 301. 1889—MURRILL, N. Am. Fl. 9:40. 1907; North. Polyp. 18. 1914; South. Polyp. 16. 1915; Mycologia, 10:109, *pl. 6, f. 4.* 1918—AMES, Ann. Myc. 11:239.1913—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 52. 1941.

(MURRILL, Mycologia, 1:164. 1909—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 86. 1943—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:31. 1952—原, 日. 菌. 目. 33. 1954)

Boletus adustus WILLD. Fl. Berol. 392. 1787—PERSOON, Obs. Myc. 2:8. 1796; Syn. Meth. Fung. 529. 1801.

Boletus fuscoporus PLANER, Ind. Pl. Erf. 26. 1788.

Boletus suberosus BATSCH, Elench. Fung. Cont. 2: 117, *pl. 117, 226.* 1789.

Boletus pelleporus BULL. Herb. Fr. *pl. 501, f. 2.* 1790.

Boletus carpineus SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 231.* 1799.

Poria argentea EHRENB. Sylv. Myc. Berol. 17. 1818.

Polyporus adustus FR. Syst. Myc. 1:363. 1821; Epicr. Myc. 456. 1838; Nov. Symb. Myc. 39. 1851; Hymen. Eur. 549. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 64. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 139. 1836; Outl. Brit. Fung. 243. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:426. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 229. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:271. 1871; Grev 13: 87. 1885; Handb. Austr. Fungi, 123. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:276, *pl. 18, f. 2.* 1872—GILLET, Champ. Fr. 674. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:259. 1876—WINTER, Pilze, 1:431. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 125. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 985. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1:472. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 249. 1892; Brit. Fungi, 374. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 345. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 84, *pl. 96.* 1910—BRESADOLA, Ann. Myc. 10:494. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):207. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 88. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 102. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 328. 1915—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 45:463. 1918—REA, Brit. Basid. 587. 1922—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:339, *pl. 21, f. 1—4.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 59. 1934—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74: 16. 1948.

(BERKELEY, Jour. Linn. Soc. 16: 51. 1878—松村, 植. 名鑑, 1:163. 1904—白井, 日. 菌. 目. 72. 1905; ed. 2. 471. 1917; ed. 3. 288. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 31: 2. 1911; Lett. 38: 10. 1911; 4, Lett. 42:10, 15. 1912; Lett. 43:3. 1912; Lett. 45: 4. 1913; Lett. 53: 7. 1914; Lett. 56: 4. 1915; 5, Lett. 65:3. 1917—安田, 植. 雜. 26:119. 1912; 31: 53. 1917—梅村, 植. 雜. 30:104. 1916; 今關, 日. 隱. 植. 圖. 437, *pl. 209, f. 1—2.* 1939)

Boletus isabellinus SCHW. Syn. Fung. Carol. 96. 1822.

*Polyporus adustus * carpineus* FR. Epicr. Myc. 456. 1838; Hymen. Eur. 550. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:64. 1825—GILLET, Champ. Fr. 674, cum icone. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6:125. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 986. 1916.

Polyporus subcinereus BERK. Ann. Mag. Nat. Hist. II, 3: 391. 1839.

Polyporus secernibilis BERK. Lond. Jour. Bot. 6: 500. 1847—COOKE, Grev. 13: 85. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 102. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 239. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 15. 1912; 7: 1126. 1922—安田, 植. 雜. 31: 53. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 481. 1917; ed. 3. 295. 1927)

Myriadoporus adustus PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 11: 27. 1884.

Polyporus isabellinus SACC. Syll. Fung. 6:126. 1888.

Leptoporus adustus QUÉL. Enchir. Fung. 177. 1886; Fl. Myc. 388. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 85. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 132. 1925; Hymen. Fr. 551. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:11. 1932; 49:260. 1933; 51: 359. 1935.

Polystictus carpineus KONR. Bull. Soc. Myc. Fr. 39: 40. 1923.

Leptoporus adustus f. *carpineus* BOURD. et GALZ. Hymen. Fr. 552. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 432, f. 2.* 1932.

Polyporus adustus f. *secernibilis* YAS. Bot. Mag. Tokyo, 26: 329. 1912.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 288. 1927)

Gloeoporus adustus PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:157, *pl. 77—9.* 1937; Ann. Myc. 38: 71. 1940.

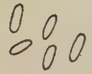
Bjerkandera secernibilis

(原, 日. 菌. 目. 33. 1954)

子實體は1年生, 坐生, 半背着或は全背着し, 疊生し, 往々癒合す。傘は貝殼狀, 生時肉質强靱, 乾時革質或は剛直, 1—5×2—10×0.1—0.8 cm, 傘面は波狀, 不明瞭なる環紋あるか或はこれを缺く, 細



a



b

第212圖 ヤケイロタケ *B. adustus*

a. 子實體 ×3/4 b. 胞子 ×612 (大谷氏)

密軟毛乃至殆ど無毛, 粗荒, 放射纖維條を表わす, 白色乃至灰色或は淡茶色, 傘緣は薄くして鋭く, 全緣乃至波狀, 下面無性, 乾時屢々黑色となる, 肉は生時寧ろ軟く, 乾時木栓質或は纖維狀木栓質, 白色或は淡色, 厚さ 1—7 mm, 子實層は明かなる狹き暗色線によつて境さる。管孔は長さ 0.5—1 mm, 孔口は灰色乃至黑色, 甚だ小形, 1 mm 間平均 4—6 個, 圓形乃至角形, 乾品にては往々塡塞さる, 孔壁は薄し, 胞子は圓壔形乃至長楕圓形, 稀に腸詰形, 平滑, 無色, 3—5×1.5—2.5 μ, 嚢狀體なし。材の海綿狀白腐を起す。

所在及産地

枯廣葉樹株幹上 全土一汎布

和名 ヤケイロタケ (燒色茸) 〔安田〕

Bjerkandera fumosa (PERS. ex FR.) KARST.

ヒメモグサタケ

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5 : 38. 1879; Hattsv. 2:38. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 300. 1889—MURRILL, N. Am. Fl. 9:41. 1907; North. Polyp. 18. 1914; South. Polyp. 16. 1915—AMES, Ann. Myc. 11:239. 1913—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 52. 1941.

(MURRILL, Mycologia, 1:164. 1909—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:86. 1943—原, 日. 菌. 目. 33. 1954.

Boletus imberbis BULL. Herb. Fr. *pl. 445, f. 2*. 1789.

Boletus fumosus PERS. Syn. Meth. Fung. 530. 1801.

Polyporus fumosus FR. Syst. Myc. 1:367. 1801; Elench. Fung. 1:88. 1828; Hymen. Eur. 549. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2 : 65. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 427. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 243. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 228. 1867— FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:271. 1871; Grev. 13:87. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 276. 1872—GILLET, Champ. Fr. 674. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 432. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:123. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 983. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 473. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:249, *f. 14—5*. 1892; Brit. Fungi, 273. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 344. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 207. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 89. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 103. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 308, *f. 647*. 1915—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 60. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 49 : 10. 1914; 7 : 1126. 1922—安田, 植. 雜. 28 : 390. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 475. 1917; ed. 3. 290. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 437, *pl. 209, f. 3*. 1939)

Polyporus levis PERS. Myc. Eur. 2 : 68. 1825.

Daedalea imberbis CHEV. Fl. Par. 247. 1826.

Polyporus imberbis FR. Epicr. Myc. 451. 1828; Hymen. Eur. 543. 1874—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:227. 1867—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:274. 1872—WINTER, Pilze, 1 : 437. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:144. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 972. 1916—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:73. 1903; Icon. Myc. 20:*pl. 987*. 1913—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 202. 1912.

Leptoporus fumosus QUÉL. Enchir. Fung. 177. 1886—PATOUILLARD, Ess. Tax. 85. 1900.

Leptoporus imberbis QUÉL. Fl. Myc. 388. 1888—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 131. 1925; Hymen. Fr. 550. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 260. 1933; 52 : 308. 1936.

Gloeoporus fumosus PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 161, *pl. 84—5*. 1937.

子實體は坐生或は半背着生, 屢々疊生す, 生時滲分强靱なる肉質, 乾時堅緻, 傘は半圓形或は貝殼狀, 2—7×3—8.5×0.3—2 cm, 傘面は帶灰色乃至甚だ淡き茶色, 後細密軟毛を有し, 稍々環紋あるか或は無環紋, 往々小疣あり, 傘緣は薄くして鋭く, 同色, 波狀, 容易に黑變す, 普通廣く無性, 肉は白色乃至淡焦茶色, 柔木栓質, 乾時木栓質, 厚さ 0.3—2 cm, 時に不快臭を有す, 子實層は明かなる狹き暗



第213圖 ヒメモグサタケ *B. fumosa*
（龜井氏）

色線によつて境せらる。管孔は短く，長さ 3mm 以下，孔口は帶白色或は煙色，摩擦によつて帶黑色に變ず，圓形乃至幾分角形，整形，1様にて，1mm 間平均 3—5 個，孔壁は厚くして全緣，胞子は楕圓形乃至類圓筒形，平滑，無色，5—7×2.5—4μ，囊狀體なし。

所在及產地

廣葉樹枯木上　　本州—歐.米.亞(西比)

和名 ヒメモグサタケ（姫艾茸）〔安田〕

Gloeoporus MONT.

エビウラタケ屬

MONTAGNE, Ann. Sci. Nat. Bot. II, 17:126. 1842.

Leptoporus QUÉLET, Enchir. Fung. 175. 1886. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生，無莖又は半背着生，傘は薄く，貝殼狀，疊生，表面は無皮，細毛又は纖維毛を被る，傘肉は白色，纖維狀肉質，子實層托は薄く，管孔狀，1層，實質は膠質を帶び，乾時軟骨質，通常鮮色を呈し傘肉とは明瞭なる異質を帶ぶ，孔口は小形，圓形或は類圓形，囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は gloios（粘る）poros（孔）より出づ）

基準種　*G. conchoides* MONT.

〔因記〕本屬は子實層托が膠質を帶ぶる特異なるものにて古くより廣く採用せられたるものなり。

本邦既知種檢索表

A. 管孔面は肉色，灰紫色乃至黑紫色，傘厚 1—4mm，廣葉樹上。　エビウラタケ ***G. dichrous*** (288)

B. 管孔面は橙黃或は紅色，傘厚 1—2mm，針葉樹上。　ウラベニタケ ***G. amorphus*** (289)

Gloeoporus dichrous (FR.) BRES.

エビウラタケ

BRESADOLA, Hedwigia, 53 : 74. 1914—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 151, *pl. 86—7*. 1937; Ann. Myc. 38 : 71. 1940—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 52. 1941.

（今關，日. 隱. 植. 圖. 457, *pl. 219, f. 4*. 1939; 植. 硏. 雜. 17 : 178. 1941; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 87. 1943; 植. 分. 地. 13 : 253. 1943—逸見及赤井，木. 腐. 菌學, 414, *f. 219*. 1945—原，日. 菌. 目. 134. 1954)

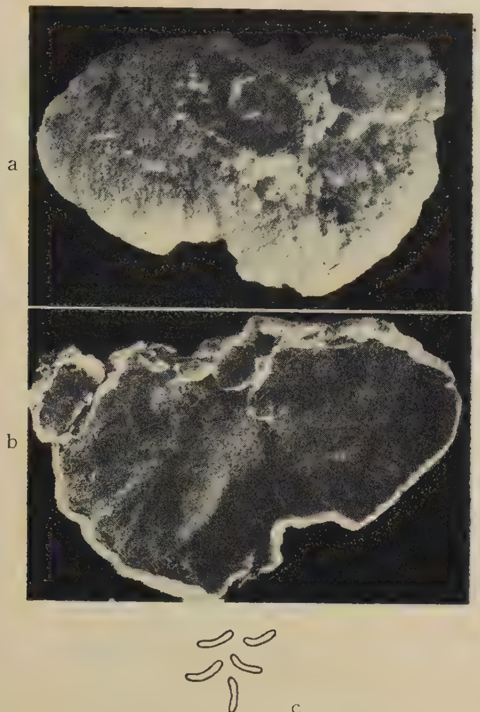
Boletus pelleporus SECR. Mongr. Suisse, n. 73. 1833.

Polyporus dichrous FR. Obs. Myc. 1:125. 1815; Syst. Myc. 1:364. 1821; Elench. Fung. 1:88. 1928; Epicr. Myc. 457. 1838; Hymen. Eur. 550. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 426. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 276. 1872—GILLET, Champ. Fr. 673. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 260. 1876—WINTER, Pilze, 1: 431. 1884—COOKE, Grev. 13 : 87. 1885; Handb. Austr. Fungi. 123. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 126. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 984. 1916—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:74. 1903—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):207. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 104. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 330. 1915—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 61. 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:240. 1935—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74 : 14. 1948.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 15. 1912; 5, Lett. 63 : 7. 1916; Lett. 65 : 6. 1917; Lett. 67 : 7. 1918; Lett. 68 : 7. 1918; 6 : 1012. 1920; 7 : 1345. 1925—安田，植. 雜. 26 : 361. 1912; 31 : 53. 1917—中路，植. 雜. 30:102. 1916—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 473. 1917; ed. 3. 290. 1927)

Bjerkandera dichroa KARST. Hattsv. 2 : 39. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 301. 1889.

Leptoporus dichrous QUÉL. Enchir. Fung. 177. 1886; Fl. Myc. 388. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 85. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:130. 1925; Hymen. Fr. 550, *f. 158*. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 11. 1932; 49 : 260. 1933.



第 214 圖 エビウラタケ *G. dichrous*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1.5
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

子實體は半背着或は全背着，傘は通常半圓形にて貝殼狀，階段狀に疊生或は横に癒着し棚狀となる，基部は垂生背着す，横徑 2—3.5 cm，或はそれ以上に及び，厚さ 1—4 mm，栓質にて乾時幾分脆し，表面は白色或は藁色，乾時灰色或は暗褐の色を帶ぶ，平坦或は環溝あり，時に環紋を生ず，短毛に被わる，緣は鈍尖，全緣或は細缺刻あり，下面無性，肉は白色乃至淡材白色，生時稍々柔軟，密なる菌絲帶により實質と分る，乾時彈性を失い，稍々脆質となる。管孔面は肉色，灰紫色乃至黑紫色となり，管長 0.5—1 mm にて短し，膠質を帶ぶ，孔口は微細にて略々圓形，1 mm 間 5—7 個，孔壁は細裂す，胞子は腸詰形，平滑，無色，4—5×1—1.5 μ。

所在及產地

廣葉樹枯枝幹上 全土一汎布

和名 エビウラタケ (蝦裏茸)〔安田〕

Gloeoporus amorphus (FR.) CLEM. et SHEAR

ウラベニタケ

CLEMENTS & SHEAR, Gen. Fungi, 347. 1931—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:153, *pl. 80—2*. 1937—BOURDOT & SINGER, Ann. Myc. 39: 52. 1941.

(今關，日. 隱. 植. 圖. 457, *pl. 219, f. 3*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 87. 1943—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，413, *f. 218*. 1945—原，日. 菌. 目. 134. 1954)

Boletus nitidus ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 258. 1805.

Boletus irregularis SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 423. 1815.

Boletus abietinus DC. Fl. Fr. 6: 40. 1815.

Boletus molluscus NEES, Syst. Pilze Schw. 223, *pl. 29 a, f. 223*. 1817.

Polyporus amorphus FR. Obs. Myc. 2: 258. 1818; Syst. Myc. 1: 364. 1821; Elench. Fung. 1: 88. 1828; Epicr. Myc. 457. 1838; Hymen. Eur. 550. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 139. 1836; Outl. Brit. Fung. 243. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 426. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 272. 1871; Grev. 13: 87. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 277. 1872—GILLET, Champ. Fr. 672, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 260. 1876—WINTER, Pilze, 1: 430. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 127. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 983. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 472. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 250. 1892; Brit. Fungi, 374. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 74. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 345. 1908—MIGULA, Kypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 206. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 332. 1915—OVERHOLTS, Mycologia, 9: 263, *pl. 12—3*. 1913—REA, Brit. Basid. 586. 1922—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1 b: 60. 1934—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74: 31. 1948.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 15. 1912—安田，植. 雜. 26: 299. 1912; 31: 53. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 471. 1917; ed. 3. 288. 1927)

Polyporus aureolus PERS. Myc. Eur. 2: 60. 1825.

Polyporus irregularis PERS. Myc. Eur. 2: 75. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 140. 1836.

Polyporus roseo-poris ROSTK. in STURM, Deut. Fl. 3(27): 23, *pl. 12*. 1848.

Bjerkandera amorpha KARST. Hattsv. 2: 39. 1882.

Leptoporus amorphus QUÉL. Enchir. Fung. 178. 1886; Fl. Myc. 387. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 85. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 129. 1925; Hymen. Fr. 549. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Myc. 5: *pl. 431, f. 1*. 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 11. 1932; 49: 260. 1933.

Bjerkandera irregularis KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 301. 1889.

Tyromyces amorphus MURR. Mycologia, 10:

109, *pl. 6, f. 5*. 1918.

子實體は半背着或は全背着，傘は半圓形にて貝殻狀，疊生或は横に癒着し，著しく波狀に屈曲す，基部は普通大きく垂生す，横徑 2—6 cm 或はそれ以上に及び，厚さ 1—2 mm，柔膜質乃至稍々革質，後硬剛となる，表面は白色，絹絲樣の短柔毛を密生し，無環紋，1—2 の環溝を有す，緣は薄く，銳く，全緣或は缺刻あり，乾時內屈す，肉は薄く，白色，生時極めて柔軟にて，屢々黄色透明帶にて實質と分る，乾時彈性を失う，管孔面は初め白色，後橙黄乃至紅色となり，膠質を帶ぶ，管長 1 mm 內外，孔口は微細，圓形乃至多角形，1 mm 間 2—4 個，孔壁は後に裂く，胞子は腸詰形，平滑，無色，3—5×1—1.5 μ。液材細狀腐朽を起す。

所在及產地

針葉樹枯幹上　　全土—歐. 北米. 濠. 亞(西比)

和名　ウラベニタケ（裏紅茸）〔今關〕

Hapalopilus KARST.

アカゾメタケ屬

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9): 18. 1881.

Aurantiporellus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32: 486. 1905.

Phaeolus PATOUILLARD, Ess. Tax. 86. 1900. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Pycnoporellus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32: 489. 1905.

子實體は 1 年生，無莖或は半背着生，傘は半圓形，扁平乃至丸山形，疊生，表面は無皮，短毛を帶ぶ，肉は輕疎なる海綿質，生時多濕柔軟，乾時脆弱，白色，肉桂色又は朱色，子實層托は管孔狀，1 層，實質は傘肉と通常稍々同質，孔壁は薄く，時に淺裂す，孔口は圓形乃至不整形，小乃至中形，囊狀體なきを常とし，稀に存在す。胞子は無色，平滑，樹上生。

（本屬名は hapalo (薄き)-pilus (傘) より出づ）

基準種　*H. nidulans* (FR.) KARST.

〔因記〕本屬菌の傘肉は輕疎なる海綿質にて無皮無殼なるを特徵とし，從つてカイメンタケの如きも，カイメンタケは傘肉黄褐色にてキコブタケ族(*Mucronoporeae*)に屬するものなり。

本邦既知種檢索表

A. 囊狀體なし。

a. 傘肉及表面白色。

α. 傘は横徑 1—5 cm，厚さ 2—5 mm，孔口中等大，胞子球形，5—6 μ。

ヒメシロカイメンタケ ***H. cuneatus*** (290)

β. 傘は横徑 0.6—2 cm，厚さ 1.5—3 mm，前種より小形，孔口甚だ小形，胞子楕圓形，4×2 μ。

シックイタケ ***H. gypseus*** (291)

b. 傘肉は橙黄或は南瓜色，表面赤橙黄，後赤褐色，管孔は肉より暗色，乾時樹脂狀，孔口小形，胞子卵形，3—4.5×2—3 μ。

オオカボチヤタケ ***H. croceus*** (291)

c. 傘肉は黄鏽色，表面黄鏽乃至栗褐色，孔口中等大，胞子楕圓形，3—5.5×2—3.5 μ。

アカゾメタケ ***H. nidulans*** (292)

B. 囊狀體あり，傘肉は南瓜色，表面は暗赤色乃至銹色，孔口は大，胞子長楕圓形，5—7×3—4 μ。

カボチヤタケ ***H. fibrillosus*** (291)

Hapalopilus cuneatus (MURR.) IMAZ.

ヒメシロカイメンタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 85. 1943.

（原，日．菌．目．146. 1954—今關及土岐，林．試．硏．報．67: 28. 1954）

Coriolellus cuneatus MURR. N. Am. Fl. 9: 28. 1907.

Polystictus cuneatus ELLIS in herb—LLOYD, Myc. Writ. 5: 600, *f. 848*. 1916; 764. 1918.

（安田，植．雜．35: 66. 1921—白井，日．菌．目．ed. 3. 298. 1927—今關，日．隱．植．圖．465, *pl. 223, f. 3*. 1939—原，日．菌．目．282. 1954）

Trametes cuneata SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21: 345. 1912.

Polystictus Sequoiae LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 49: 13. 1914. (non COPELAND)

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 13. 1913)

子實體は無莖，群生，傘は半圓形にて貝殻狀，横徑 1—5 cm，厚さ 2—5 mm，表面は白色，軟毛を密生し，環紋なし，肉は白色，薄く，柔軟なる纖維質，乾燥するも柔軟性を失わず，管孔は長さ 1—4 mm，白色乃至微乾酪色を帶ぶ，孔口は中等大，稍々大小不同，胞子は球形，平滑，無色，5—6 μ。材の白腐を起す。

所在及產地

スギ (*Cryptomeria*) ヒノキ (*Chamaecyparis*) 等の枯幹上　　北米

和名　シロカイメンタケ（白海綿茸）〔今關〕，シロヒメカイメンタケ（白姬海綿茸）〔今關〕，ヒメシロカイメンタケ（姬白海綿茸）〔今關及土岐〕

Hapalopilus gypseus (YAS.) IMAZ.

シックイタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 85. 1943.

(原, 日. 菌. 目. 146. 1954—今關及土岐, 林. 試. 研. 報. 67 : 29. 1954)

Polystictus gypseus YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 36 : 154, *f. 1*. 1922.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66 : 7. 1917; 6 : 1012. 1920—安田, 植. 雜. 32 : 249. 1918—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 298. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 463, *pl. 222*, *f. 4*. 1939)

子實體は無莖, 革質, 傘は半圓形, 往々疊生し, 横に互に癒着すること多し, 0. 3—1×0. 6—2×0. 15—0, 3 cm, 全體白色, 無光澤, 恰も漆喰にて作れるが如し, 表面は壓着せる短密毛を以て被われ, 數個の著しからざる環層を有す, 肉は白色, 管孔は短く, 孔口は甚だ小, 多角形, 嚢狀體なし, 胞子は楕圓形, 平滑, 無色, 4×2μ。



a



b

第 215 圖　シックイタケ *H. gypseus*
a. 子實體群生の狀 ×1　　b. 胞子 ×612
(大谷氏)

所在及産地

スギ (*Cryptomeria*) ヒノキ (*Chamaecyparis*) 等針葉樹枯幹上　本州

和名 シックイタケ (漆喰茸) 〔安田〕

Hapalopilus croceus (PERS. ex FR.) DONK

オオカボチヤタケ

DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 172. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 52. 1941.

(千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 31. 1952)

Boletus croceus PERS. Obs. Myc. 1 : 87. 1796; Syn. Meth. Fung. 525. 1801.

Polyporus croceus FR. Obs. Myc. 1 : 124. 1815; Syst. Myc. 1 : 364. 1801; Epicr. Myc. 454. 1838; Hymen. Eur. 548. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 59. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 427. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—GILLET, Champ. Fr. 676. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 433. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 117. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 982. 1916—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 74. 1903; 10 : 496. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 207. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 332. 1915.

Polyporus Pilotae SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4 : 157. 1832—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 115. 1914—NEUMAN, Polyp. Wis. 90. 1914.

Polyporus hypococcinus BERK. Lond. Jour. Bot. 6 : 319. 1847.

Inonotus croceus KARST. Hattsv. 2 : 71. 1882.

Inodermus croceus QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 14 : 7. 1885; Enchir. Fung. 174. 1886.

Ochroporus croceus SCHROET. Pilze Schles. 1 : 484. 1888.

Polyporus castanophilus ATK. Jour. Myc. 8 : 118. 1902.

Aurantiporus Pilotae MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 487. 1905; N. Am. Fl. 9 : 72. 1907; North. Polyp. 33. 1914; South. Polyp. 30. 1915.

子實體は坐生, 傘は半圓形にて丸山形, 8—20×10—40×1—3 cm, 表面は粗糙, 浸潤, 幼時短毛ありて氈狀, 初め帶赤黄色或は赤橙黄色, 速に黄色は褪色し, 赤褐色となる, 緣は帶赤黄色, 無性, 隆起し, 老時薄くなる, 肉は橙黄色或は南瓜色, 强靱, 水潤狀にて彈性あり, 乾時强直, 著しき浸潤帶を有す。子實層托は稍々肉質, 傘肉より暗色, 乾時樹脂狀, 管長 5—10 mm, 孔口は小, 同色, 1 mm 間 4—5 個, 孔壁は薄く, 微細毛あり, 胞子は卵形, 平滑, 無色, 3—4. 5×2—3μ。

所在及産地

ミズナラ (*Quercus*) 枯幹上

北海道—歐. 北米. 亞(爪)

和名 オオカボチヤタケ (大南瓜茸) 〔千葉及寺本〕

Hapalopilus fibrillosus (KARST.)

BOND. et SING.

カボチヤタケ

BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 52.

1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 85. 1943; 植. 分. 地. 13:254. 1943; 及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67: 28. 1954; 千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 31. 1952—原, 日. 菌. 目. 146. 1954)

Polyporus fibrillosus KARST. Finl. Polyp. 30. 1859—COOKE, Grev. 13 : 114. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:129. 1888—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 334, *pl. 17, f. 4—5*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 56. 1934.

(今關, 日. 隱. 植. 圖. 439, *pl. 210, f. 1—2*. 1939)

Polyporus aurantiacus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 26:69. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6:119. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3 : 377. 1908; 4, Apus Polyp. 341. 1915—NEUMAN, Polyp. Wisc. 90, *pl. 11, f. 35*. 1914.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126, 1132. 1922—安田, 植. 雜. 36:178. 1922—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 289. 1927)

Inonotus fibrillosus KARST. Hattsv. 2:72. 1882.

Polystictus aurantiacus COOKE, Grev. 14 : 82. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 246. 1888.

Ochroporus lithuaricus BLONSKI, Hedwigia, 28 : 280. 1889.

Polyporus Shiraianus P. HENN. Bot. Jahrb. 28: 269. 1901—SACCARDO, Syll. Fung. 16:149. 1902.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 31 : 737. 1902—松村, 植. 名鑑, 1 : 164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 481. 1917)

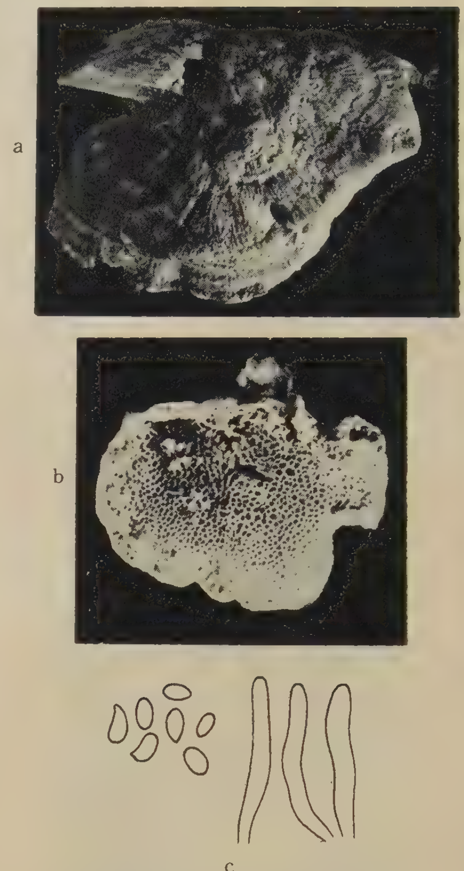
Pycnoporellus fibrillosus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32: 489. 1905; N. Am. Fl. 9:70. 1907; North. Polyp. 32. 1914.

Phaeolus aurantiacus PAT. Ess. Tax. 86. 1900.

Phaeolus fibrillosus AMES, Ann. Myc. 11 : 241. 1913—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 558. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 12. 1932; 49: 261, *pl. 20, f. 7*. 1933; 51 : 359. 1935; Beih. Bot. Centralbl. 52 B : 87. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 142, *pl. 71—5*. 1937.

Hapalopilus aurantiacus BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 53. 1941.

子實體は生時柔軟にて海綿質, 乾時脆弱, 坐生, 稀に半背着或は殆ど背着, 傘は半圓形, 疊生, 往々互に癒着す, 3—6×4—10cm, 厚さ 0.5—2cm, 傘面は纖維毛を有し, 環紋あり, 暗赤色乃至銹色, 緣は薄し, 肉は乾時海綿樣粉狀, 濕時軟弱, 不明瞭なる層あり, 南瓜色或は傘面と同色又は稍々淡色, 厚さ 0.5—1.5cm, KOH 液にて赤變す, 子實層托は可成り緻密なるも乾時脆し, 管長 2—6mm, 孔口は褐色にて老時淡鮭肉色, 角形にて不等大, 1mm 間 1—2 個, 孔壁は老時裂く, KOH 液にて赤變す, 胞子は長橢圓形, 往々有嘴, 平滑, 無色, 5—7×3—4 μ, 囊狀體は多生, 圓筒形, 幅約 4μ にて約 60μ 抽出す。材の褐腐を起す。



第 216 圖 カボチヤタケ *H. fibrillosus*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1
c. 囊狀體及胞子 ×612 (大谷氏)

所在及産地 針葉樹幹上
北海道, 本州—歐. 北米. 亞(西比. 支)

和名 カボチヤタケ (南瓜茸) 〔安田〕

Hapalopilus nidulans (FR.) KARST.

アカゾメタケ

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9) : 18. 1881—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:172. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 52. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:85. 1943; Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 112. 1952—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:31. 1952—原, 日. 菌. 目. 146. 1954)

Boletus suberosus BULL Herb. Fr. *pl. 482*. 1790—DC. Fl. Fr. 2 : 116. 1815.

Boletus rutilans PERS. Ic. Descr. Fung. 18, *pl. 6, f. 4*. 1798; Syn. Meth. Fung. 525. 1801.

Polyporus nidulans FR. Syst. Myc. 1:362. 1821; Elench. Fung. 1:101. 1828; Epicr. Myc. 455. 1838; Hymen. Eur. 548. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 59. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:427. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 242. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:270. 1871; Grev. 13:86. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 276. 1872—GILLET, Champ. Fr. 676, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:259. 1876—WINTER, Pilze, 1:432. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:118. 1888(ex err. typ. *niveus*)—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:247. 1892; Brit. Fungi, 373. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 344. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):208, *pl. 33 D, f. 1*. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 100, *pl. 11, f. 34*. 1914—REA, Brit. Basid. 585. 1922.

Polyporus rutilans FR. Syst. Myc. 1:363. 1821; Elench. Fung. 1:102. 1828; Epicr. Myc. 455. 1838; Hymen. Eur. 548. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 58. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:427. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 242. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:270. 1871; Grev. 13:86. 1885; Handb. Austr. Fungi, 344. 1892—GILLET, Champ. Fr. 676. 1874—WINTER, Pilze, 1:432. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:119. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 983. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:247. 1892; Brit. Fungi, 373. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1:74. 1903—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):207. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 334, *f. 674*. 1915—REA, Brit. Basid. 585. 1922—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b:53. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66: 7. 1917; 6: 980. 1920—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 294. 1927)

Polyporus pallido-cervinus SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4:156. 1832—SACCARDO, Syll. Fung. 6:120. 1888.

Inonotus nidulans KARST. Hattsv. 2:71. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 3 Till. 82. 1897—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 141. 1887.

Inonotus rutilans KARST. Hattsv. 2:71. 1882—QUÉLET, Fl. Myc. 391. 1888.

Leptoporus rutilans QUÉL. Enchir. Fung. 177. 1886.

Phaeolus nidulans PAT. Ess. Tax. 86. 1900—AMES, Ann. Myc. 11:241. 1913.

Hapalopilus rutilans MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31:416. 1904; N. Am. Fl. 9:80. 1908; North. Polyp. 35. 1914; South. Polyp. 34. 1915.

Polyporus suberosus SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 982. 1916.

Phaeolus rutilans BOURD. & GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41:135. 1925; Hymen. Fr. 554. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:12. 1932; Beih. Bot. Centralbl. 52B:82, *f. 10—11, pl. 13, f. 3—4*. 1935; Atl. Champ. Eur. 3, Polyp. 1:139, *pl. 65—8*. 1937; Ann. Myc. 38:71. 1940—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 437, f. 1*. 1935.

子實體は甚だ軟く，肉質，坐生，時に半背着，傘は半圓形或は腎臓形にて，丸山形，下面も凸形，普通廣く側着，往々多少疊生，2—4×3.5—7×0.5—1.5cm，表面平滑，無毅，無環紋，細長軟毛あるか無毛，黄𤏐色乃至栗褐色，緣は稍々厚く，全緣或は波狀，傷時赤褐色となる，肉は海綿質，乾時脆く，黄𤏐色，同質，厚さ 3—7mm，KOH 液にて菫赤色に染色す，子實層托は𤏐色乃至淡黄色，管長 3—6mm，孔口は角形，1mm 間平均 3 個，老時幾分不規則となる，孔壁は幼時白色，後𤏐色，薄くして脆し，稍々全緣なり，胞子は楕圓形，平滑，無色，3—5.5×2—3.5μ。

所在及産地 針葉樹枯木，落枝上

北海道，本州一歐.北米.濠.亜(西比.支)

和名 アカゾメタケ（赤染茸）〔今關〕

4. Piptoporinae カンバタケ亞族

子實體は 1 年生，無莖又は短莖を有す，樹上生，傘は明瞭なる薄皮を有するか或は薄き殼皮を被る，傘肉は略々肉質にて乾時脆弱化し或は稍々木栓質となる。子實層托は管孔狀，1 層，實質は傘肉と異質，胞子は無色，平滑。

本亜族は傘肉の性質，薄皮或は薄き殼皮を有することを基準として設けられたるものなり。

屬檢索表

A. 傘は薄き殼皮を被むる。

a. 無莖，傘は扁平或は丸山形。

ヤニタケ屬 **Ischnoderma** (293)

b. 短莖を側背生し，傘は點頭形。

ヌルデタケ屬 **Porodisculus** (295)

B. 傘は明かなる薄皮を被むり，薄皮は剝離するを得，肉と實質の間に離層あり。

カンバタケ屬 **Piptoporus** (296)

Ischnoderma KARST. emend. MURR.

ヤニタケ屬

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5:38.

1879. pr. p.—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 82. 1908.

Fomes FRIES, sensu KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6: 486. 1886. pr. p.

Placodes QUÉLET, Enchir. Fung. 170. 1886. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Ungulina PATOUILLARD, Cat. Tun. 48. 1897. pr. p.

子實體は1年生，無莖，傘は扁平或は丸山形，表面に微毛を帶び，薄き殼皮を有す，本屬の殼皮は分化程度低く，構成菌絲は稍々肥厚且つ厚膜化し，稍々斜上並列するも殆ど互に膠着することなく比較的粗糙なり，肉は類白色，生時栓肉質，乾時稍々木栓質，子實層托は管孔狀，1層，肉は稍々暗色を呈す，孔口は圓形，細小，囊狀體なし，胞子は無色，平滑，樹上生。

(本屬名は ischnos (薄き) derma (皮) より出づ)

基準種　*I. resinosum* (SCHW. ex FR.) MURR.

〔因 記〕本屬は *Fomitopsis* に似て傘質は輕軟なるのみならず殼皮の構造を異にするものなり。

本邦旣知種　ヤニタケ ***I. resinosum*** (294)

Ischnoderma resinosum (SCHRAD. ex FR.) KARST.

ヤニタケ

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5: 38. 1874; Hattsv. 2: 74. 1882—AMES, Ann. Myc. 11: 240. 1913—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 175. 1933—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 129, *pl. 59—64.* 1937; Ann. Myc. 38: 70. 1940—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 54. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 89. 1942—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 32. 1952—原，日. 菌. 目. 169. 1954)

Boletus fuliginosus SCOP. Fl. Carn. 2: 470. 1772.

Boletus rubiginosus SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 168. 1794.

Boletus resinosus SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 171. 1794.

Boletus fuscus PERS. Syn. Meth. Fung. 527. 1801.

Polyporus resinosus FR. Syst. Myc. 1: 361. 1821; Elench. Fung. 1: 100. 1828; Epicr. Myc. 461. 1838; Hymen. Eur. 554. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 58. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 425. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 278. 1872—GILLET, Champ. Fr. 676. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 262. 1876—WINTER, Pilze, 1: 427. 1884—COOKE, Grev. 13: 115. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 137. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 973. 1916—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 204. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 96, *pl. 11, f. 37.* 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 116. 1914—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 338, *pl. 22, f. 2.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 53. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 16. 1912—安田，植. 雜. 26: 149. 1912; 31: 52. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 481. 1917; ed. 3. 293. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 437, *pl. 209, f. 5.* 1939)

Boletus benzoinus WAHL. Fl. Suec. 2: n. 1076. 1826.

Polyporus benzoinus FR. Elench. Fung. 1: 100. 1828—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 3: 442. 1875—WINTER, Pilze, 1: 427. 1884—COOKE, Grev. 13: 115. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 137. 1888—A. L. SMITH & REA, Trans. Brit. Myc. Soc. 2: 130, *pl. 12, f. 2.* 1906—W. G. SMITH, Brit. Basid. 346. 1908—MIGULA. Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 204. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 333. 1915—REA, Brit. Basid. 585. 1922.

Boletus confluens ROSTK. in STURM, Deut. Fl. 4: 71, *pl. 34.* 1837.

Polyporus fuliginosus FR. Epicr. Myc. 451. 1838; Hymen. Eur. 543. 1874—WINTER, Pilze, 1: 437. 1884—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 973. 1916—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 984.* 1931.

Trametes benzoina FR. Epicr. Myc. 489. 1838.

Polyporus morosus KALCHBR. Bot. Zeit. 28: 496. 1870.

Polyporus resinosus * *benzoinus* FR. Hymen. Eur. 554. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 262. 1876.

Ischnoderma benzoinum KARST. Acta Soc. Faun. Fl. 2: 32. 1881—AMES, Ann. Myc. 11: 240. 1913.

Ischnoderma resinosum * *benzoinum* KARST. Hattsv. 2: 74. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 328. 1889.

Cladomeris fuliginosa QUÉL. Enchir. Fung. 169. 1886.

Inodermus fuliginosus QUÉL. Fl. Myc. 393. 1888.

Fomes fuliginosus COOKE, Grev. 13: 119. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 164. 1888.

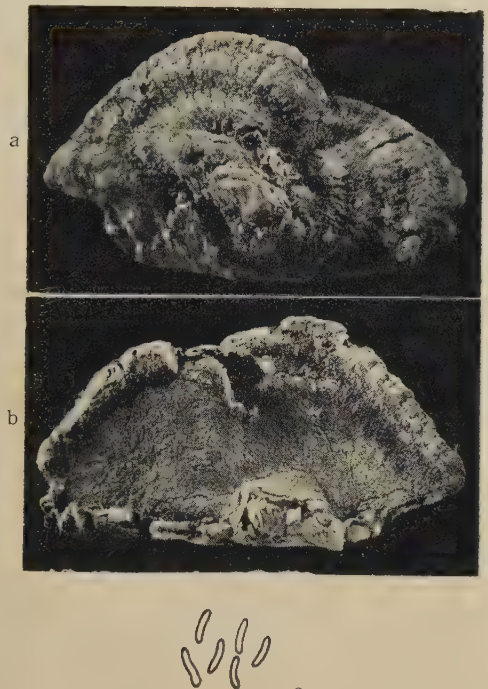
Ochroporus resinosus SCHROET. Pilze Schles. 1: 484. 1888.

Ungulina fuliginosa PAT. Ess. Tax. 103. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 178. 1925; Hymen. Fr. 605. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 268. 1933.

Ischnoderma fuliginosum MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31: 606. 1904; N. Am. Fl. 9: 82. 1908;

North. Polyp. 36, 1914; South. Polyp. 36. 1915.
Polyporus fuscus LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 334. 1915.
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67 : 11. 1918)
Ungulina benzoina PAT. Ess. Tax. 103. 1900—SINGER, Beih. Bot. Centralbl. 46(2) : 82. 1930.
Ungulina fuliginosa subsp. *fusca* PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 23. 1932.
Fomes benzoinus KONR. et MAUBL. Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 452*. 1935.

子實體は１年生，坐生，半背着生或は全背着生，疊生す。傘は扁平或は半圓形，往々垂下す，幼時幾分肉質にて水を含み，アニス臭を有す，熟時堅緻となり，乾時剛直，5—15×6—30×0.5—2.5cm，傘面は被膜を有し，粗豪，熟時環紋あり，乾時栗褐色にて，ある環紋は帶黑色なり，傘緣は初め厚くして鈍く，後薄くして鋭し，肉は生時肉質にて水潤，乾時堅緻にて脆し，淡卵黃色乃至汚黃褐色，厚さ 0.5—2cm，管孔は長さ 1—8mm，孔口は淡黃乃至黃褐色，傷時及び乾時暗色となる，圓形乃至角形，1mm間平均 4—6 個，孔壁は鏡下にて黃褐色，子實層は普通弛く，古品にては不明となる，胞子は圓筒形にて屈曲，平滑，無色，5—7×1—2μ，囊狀體なし。材の白腐を起す。



第 217 圖　ヤニタケ *I. resinosum*
a. 子實體表面　b. 同裏面×1　c. 胞子×612(大谷氏)

所在及產地　樹幹，切株及古材上
北海道，本州—歐. 北米. 亞(西比. 支)
和名　ヤニタケ（脂茸）〔安田〕

疑　問　種

（*Ischnoderma* 所屬）

Fomes fraxineus
(MURRILL, Mycologia, 1 : 168. 1909—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53 : 7. 1914)

Porodisculus MURR.
ヌルデタケ屬

MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 47. 1907.
Enslinia FRIES, Sum. Veg. Scand. 2 : 399. 1849. pr. p. (non REICHENBACH. 1828)
Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.
Porodiscus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 432. 1903. (non GREVILL. 1863)

子實體は１年生，短莖を有す。莖は短かく，側背生，傘は點頭形，表面は細毛を帶び，薄き殼皮を被むる，殼皮の性質は前屬 *Ischnoderma* に同じ，肉は類白色，生時栓肉質，乾時稍々堅き栓質，子實層托は管孔狀，１層，實質は傘肉と異質，孔口は細小，圓形，孔緣に細毛あり，囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は poros（孔）disculus（小卓）より出づ）
基準種　*P. pendulus* (SCHW.) MURR.
〔**因記**〕本屬菌は *Ischnoderma* 型の殼皮を有し，傘は點頭懸垂す。
本邦既知種　　ヌルデタケ　***P. pendulus*** (295)

Porodisculus pendulus (SCHW.) MURR.
ヌルデタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 47. 1907 ; North. Polyp. 20. 1914 ; South. Polyp. 18. 1915—AMES, Ann. Myc. 11 : 241. 1913.
(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 90. 1943—原，日. 菌. 目. 284. 1954)
Peziza pendula SCHW. Syn. Fung. Carol. 92. 1822.
Sphaeria Pocula SCHW. Jour. Acad. Nat. Sci. Phil. 5 : 7. 1825.
Enslina Pocula FR. Summa Veg, Scand. 2 : 399. 1847—PATOUILLARD, Ess. Tax. 104. 1900.
Polyporus Pocula BERK. et CURT. Proc. Am. Acad. Arts. Sci. 4 : 122. 1858—COOKE, Grev. 13 : 81. 1885—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 3 : 44, *f. 369—71*. 1910 ; Stip. Polyp. 140, *f. 443*. 1912 ; 4 : 569, *f. 777*. 1916—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 106. 1914—LOWE, Bull. N. Y. St.

Coll. For. 6, 1b: 34. 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2: 207. 1935—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74: 8, *pl. 2, f. 1.* 1948.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32: 39. 1903—松村, 植. 名鑑, 1: 164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 479. 1917; ed. 3. 293. 1927—安田, 植. 雑. 26: 419. 1912; 31: 55. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 7: 1345. 1925—今關, 日. 隱. 植. 圖. 433, *pl. 207, f. 3.* 1939)

Polyporus cupulaeformis BERK. et CURT. Grev. 1: 38. 1872—COOKE, Grev. 13: 81. 1885.

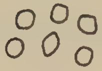
Enslina cupulaeformis PAT. Ess. Tax. 104. 1900.

Porodiscus pendula MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30: 433. 1903.

子實體は群生，短莖を有し，枯枝より懸垂す，生時革質，乾時堅し，傘は甚だ小形，外圍圓形にて洋獨樂形乃至洋盃形，徑 1—5 mm，厚さ 1—3 mm，



a



b

第218圖 ヌルデタケ *P. pendulus*
a. 子實體群生の狀 ×1.3 b. 胞子 ×612
(大谷氏)

傘面は帶白色乃至褐色，粉狀，老時屢々灰白色，無毅，無環紋，平滑，傘緣は同色，內屈，無性，肉は白色，纖維質，甚だ薄し，管孔は甚だ短く，0.5 mm 以下，內部白色，孔口は白色，或は帶褐色，縊れ，粉狀，圓形，甚だ小形，1 mm 間に平均 5—6 個，孔緣は全緣，莖は背部に着き傘と同色にて傘に擴がる，粉狀，5 mm より長からず，胞子は球形，平滑，無色，徑 4 μ 內外。

所在及產地

廣葉樹枯枝上 本州，四國，九州—北米. 濠

和名 ヌルデタケ（白膠木茸）〔安田〕

Piptoporus KARST.

カンバタケ屬

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9): 17. 1881.

Fomes sensu KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6: 486. 1937. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Ungularia LAZARO, Rev. Roy. Acad. Cienc. Madr. 14: 668. 1915—6.

Ungulina PATOUILLARD, Cat. Tun. 48. 1897. pr. p.

子實體は1年生，短莖を側生す。傘は丸山形，表面は無毛平滑，明瞭なる薄皮あり，薄皮は殼皮に比して遙に薄くして堅硬性なく，殆ど水平的に放射並行狀に配列し緊密に結着せる着色菌絲より成り，傘肉より剝離することを得，肉は白色，生時殆ど肉質，乾時脆弱，子實層托は管孔狀，1層，傘との境に薄離層ありて傘より離脫し易し，孔口は細小，圓形，囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は pip（核子）porus（孔）より出づ）

基準種 *P. betulinus* (BULL. ex FR.) KARST.

〔因 記〕本屬菌は剝離し得べき薄皮を有し，又子實層托は薄離層を有する等の特異の性質を有す。

本邦既知種檢索表

A. 傘は圓形或は腎臟形，平滑，著しき側生の隆瘤にて着生，薄皮は薄く剝離し易し，肉は白色，胞子 4—5×1.5—2 μ。

カンバタケ ***P. betulinus*** (296)

B. 傘は箆形或は扇形，基部狹細莖狀となる，薄皮は明瞭，肉は白色乃至材色，胞子 6.5—8×2.5 μ。

コカンバタケ ***P. quercinus*** (297)

Piptoporus betulinus (BULL. ex FR.) KARST.

カンバタケ

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9): 17. 1881; Hattsv. 2: 44. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 294. 1889—AMES, Ann. Myc. 11: 240. 1913—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 121, *pl. 55—7.* 1937; Ann. Myc. 38: 70. 1940—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 53. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 90. 1943—原, 日. 菌. 目. 275. 1954)

Boletus suberosus L. Sp. Plant. 2: 1176. 1753.

(THUNBERG, Fl. Jap. 347. 1784—MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 392. 1868—松村, 植. 名鑑, 1: 133. 1904)

Boletus betulinus BULL. Herb. Fr. *pl. 312.* 1786—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 212.* 1799—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 535. 1801—DC. Fl. Fr. 2: 123. 1815—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 641. 1821.

Polyporus betulinus FR. Syst. Myc. 1: 358. 1821; Elench. Fung. 1: 89. 1828; Epicr. Myc. 461. 1838;

Hymen. Eur. 555. 1874—BERKELEY, Engl. Fr. 5(2): 140. 1836; Outl. Brit. Fung. 244. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 424. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 373. 1871; Grev. 13: 115. 1885; Handb. Austr. Fungi, 124. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 278. 1872—GILLET, Champ. Fr. 677, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 263. 1876—WINTER, Pilze, 1: 426, *f. 3—4.* 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 139. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 975. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 478. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 248. 1892; Brit. Fungi, 373. 1911—ROLLAND, Atl. Champ. 82, *pl. 92, n. 203.* 1910—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 203, *pl. 33 B.* 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 109, *pl. 13, f. 46.* 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 104. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 293, *f. 631—2.* 1915—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 986.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 32. 1934.

(白井，日．菌．目．72. 1905; ed. 2. 473. 1917; ed. 3. 289. 1927—安田，植．雜．28: 294. 1914; 31: 52. 1917—逸見及倉田，植．病．硏究，1: 206, *pl. 10.* 1931—逸見及赤井，木．腐．菌學，293, *f. 105—6.* 1945)

Placodes betulinus QUÉL. Enchir. Fung. 170. 1886; Fl. Myc. 396. 1888.

Ungulina betulina PAT. Ess. Tax. 103. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 179. 1925; Hymen. Fr. 606. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51: 369. 1935; 52: 314. 1936.

Piptoporus suberosus MURR. Jour. Myc. 9: 94. 1903; N. Am. Fl. 9: 44. 1907; North. Polyp. 19. 1914.

(MURRILL, Mycologia, 1: 167. 1909)

子實體は坐生或は著しき側生の隆瘤にて着生，幼時幾分肉質，乾時堅緻にて剛直，傘は外圍腎臟形乃至圓形にて壓低されたる蹄形乃至丸山形，水平幹より懸垂するときは鐘形となる，3—13×6—22×2.5—7cm，傘面は煙色，薄き薄皮を有し，無毛，無環紋，平滑，老時罅裂す，傘緣は絨毛狀，同色，鈍く，多少內屈す，下面約 1cm に及ぶ廣き無性帶を有するを特徴とす，肉は白色，同質，生時堅肉質，乾時柔木栓質，厚さ 1—3.5cm，管孔は長さ 3—8mm，薄き桃色層にて傘肉と區別さる，孔口は白色，圓形乃至角形，1mm 間平均 3—4 個，孔壁は厚く，鈍くして全緣，老時碎け去りて平滑なる傘肉を露わす，子實層面に屢々突出する長剛毛あり，その長さ時に 2mm に及ぶ，胞子は圓筒形にて屈曲し，平滑，無色，4—5×1.5—2μ，材の腐朽部は柔軟脆弱，淡黃褐色を呈す，暖皮を作る。

所在及産地 カバ(*Betula*)の枯木上
全土—歐．北米．亞(西比．支)

和名 カンバタケ（樺茸）〔安田〕

Piptoporus quercinus (SCHRAD. ex FR.) KARST.

コカンバタケ

KARSTEN, Hattsv. 2: 45. 1882—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 124, *pl. 53—4, 58.* 1937—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 53. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 42: 5, *f. 2.* 1949)

Boletus quercinus SCHRAD. Spic. Fl. Germ. 157. 1794.

Polyporus suberosus KROMBH. Schwämme, 7: 7, *pl. 48, f. 11—13.* 1841.

Polyporus quercinus FR. Epicr. Myc. 441. 1838; Hymen. Eur. 555. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 239. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 266. 1871—GILLET, Champ. Fr. 677, cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1: 426. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 138. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 974. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 245. 1892; Brit. Fungi, 371. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 347. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 203. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 298. 1915—REA, Brit. Basid. 584. 1922.

Placodes quercinus QUÉL. Enchir. Fung. 170. 1886; Fl. Myc. 397. 1888.

Coriolus helveolus QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 17: 5. 1889.

Caloporus fuscopellis QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 18: 469, *pl. 3, f. 33.* 1891.

Ungulina quercina PAT. Ess. Tax. 103. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 179. 1925; Hymen. Fr. 606, *f. 170.* 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49: 268. 1933.

子實體は箆形乃至扇形をなし，基部短大の莖狀をなす，7×10cm，厚さ基部に近く 2cm 內外，緣は薄く，傘の斷面は楔形なり，表面は鞣皮狀觸感あり，薄き明かなる薄皮あり，薄皮は生時黃色，後黃褐色乃至淡茶褐色となる，肉は白色乃至材色，海綿狀木栓質にて極めて輕軟，厚さ 2cm，子實層托は管孔狀，管長は短く 1—2mm，接觸により赤變し乾けば殆ど暗黑色に變ず，又傘肉より剝げ易く乾燥せば部分的に脫落す，孔口は微細，胞子は長楕圓形，平滑，無色，6.5—8×2.5μ。

所在及産地

カシワ(*Quercus*)枯木上 本州—歐．亞(西比)

和名 コカンバタケ（小樺茸）〔今關〕

5. Fomitinae ツリガネタケ亞族

子實體は多年生又は1年生，無莖，樹上生，傘は概して殼皮を被むるが，時として無殼なり，傘肉は木栓質乃至木質にて堅硬，子實層托は管孔狀，概して整形，1層又は多層，實質は傘肉と稍々異質，胞子は無色（稀に帶褐色？），平滑。

本亞族は通常木質多年生の所謂サルノコシカケ類を含むものにて，一般に殼皮の發達を見るも，內に無殼のもの（*Rigidoporus*）あり。

屬檢索表

A. 胞子は長楕圓形，甚だ大形（16—20×5—6μ），傘肉は緊緻なるホクチ狀，褐乃至銹褐色，實質と明かに異質。　ツリガネタケ屬 **Fomes**（298）

B. 胞子は小形，諸形あり，肉は概して木質，堅硬，稍々淡色。

a. 胞子は截頭ならず。

α. 殼皮の分化程度前屬に劣るも倘著し，肉は實質と稍々異質。

ツガサルノコシカケ屬 **Fomitopsis**（299）

β. 殼皮の分化殆んどなし，肉は實質と明かに異質。　スルメタケ屬 **Rigidoporus**（312）

b. 胞子は截頭。

ウズラタケ屬 **Truncospora**（316）

Fomes KICKX emend. BOND. et SING.

ツリガネタケ屬

KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:236. 1867—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 55. 1941.

Elfvingia KARSTEN, sensu MURRILL, N. Am. Fl. 9: 113. 1908. pr. p.

Elfvingiella MURRILL North Polyp. 52. 1914.

Ganoderma KARSTEN, sensu AMES, Ann. Myc. 11: 247. 1913. pr. p.

Placodes QUÉLET, Enchir. Fung. 170. 1886. pr. p.

Ungulina PATOUILLARD, Hymen. Eur. 48. 1897. pr. p.

子實體は多年生或は1年生，無莖，傘は半圓形，扁平或は蹄形乃至鐘形，表面は平滑，環溝を有し，明瞭なる厚き堅き殼皮を被る，殼皮はツガサルノコシカケ屬(*Fomitopsis*)と同性質にて稍々分化程度高く，厚膜斜上性菌絲よりなり，堅厚にて，纖維質なる傘肉と明に異質なり，肉は黃褐色，子實層托は管孔狀，多層又は1層，孔口は細小，圓形，囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は fomes（ホクチ）より出づ）

基準種　*F. fomentarius* (L. ex FR.) GILL.

〔因 記〕 從來木質多年生の無莖多孔菌を總括して *Fomes* 屬に收めたりしが褐色多孔菌 (brown Polyporus) の概念の重要視さるるに至り，傘肉の常に黃褐色乃至同色系のもの（*Phellinus, Cryptoderma*）を分離し，傘肉白色乃至肉桂色等のものを*Fomes*屬となせり，後 BONDARZEW, SINGER 兩氏，今關氏等は更に傘肉がホクチの如き纖維質にて分化發達せる堅硬なる殼皮を有するものと，傘肉緻密にて殆ど木質又は木栓質にて殼皮の分化程度低きものとを區分し，前者を *Fomes* とし後者を *Fomitopsis* となし，後今關氏は之れより *Rigidoporus* MURR. と *Truncospora* PILÁT とを分割せり。

本邦既知種

ツリガネタケ ***F. fomentarius***（298）

Fomes fomentarius (L. ex FR.) KICKX

ツリガネタケ

KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 237. 1867—GILLET, Champ. Fr. 686, cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2:76. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 333. 1889—COOKE, Grev. 14:18. 1885; Handb. Austr. Fungi, 131. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6:179. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1004. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 220. 1892; Brit. Fungi, 377, *pl. 29, f. 2.* 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 348. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 194, *pl. 32 D.* 1912—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:136. 1914—NEUMAN, Polyp. Wisc. 82, *pl. 9, f. 30.* 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 235, *pl. 584.* 1915—REA, Brit. Basid. 592. 1922—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 120. 1934—HILBORN & LINDER, Mycologia, 31: 418. 1939—PILÁT, Ann. Myc. 38:77. 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:346. 1940—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 55. 1941.

(MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 392. 1868—松村，植. 名鑑，1:143. 1904—白井，日. 菌. 目. 35. 1905; ed. 2. 239. 1917; ed. 3. 138. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 2, Lett. 19:2. 1908; 5, Lett. 68: 7. 1918; 7: 1125. 1922; 1320. 1924—安田，植. 雜. 23: 69. 1909; 31: 50. 1917—北島，林. 試. 報. 28: 27, *pl. 3, f. 22, pl. 7, f. 19.* 1928—川村，日. 菌. 圖說，*n. 201.* 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:111. 1931—今關，日. 隱. 植. 圖. 453, *pl. 217, f. 2—3.* 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:

93. 1943—逸見及赤井, 木.腐. 菌學, 348, *f. 158—60.* 1945—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 32. 1952)

Boletus fomentarius L. Sp. Plant. 2:1176. 1753 —SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 133.* 1799—PERSOON, Obs. Myc. 2:1. 1799; Syn. Meth. Fung. 536. 1801—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 641. 1821.

(THUNBERG, Fl. Jap. 347. 1784)

Boletus ungulatus BULL. Herb. Fr. *pl. 491. f. 2.* 1790—PERSOON, Obs. Myc. 2: 4. 1799—DC. Fl. Fr. 2 : 116. 1815.

Boletus fomentarius δ. *ungulatus* PERS. Syn. Meth. Fung. 537. 1801.

Polyporus fomentarius FR. Syst. Myc. 1:374. 1821; Elench. Fung. 1 : 109. 1828; Epicr. Myc. 465. 1838; Hymen. Eur. 558. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):144. 1836; Outl. Brit. Fung. 245. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 424. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 274. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:279. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:264. 1876—WINTER, Pilze, 1:424. 1884 —ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 194. 1903—ROLLAND, Atl. Champ. 83, *pl. 94, n. 207.* 1910.

(白井, 日. 菌. 目. 72. 1905; ed. 2. 475. 1917)

Polyporus fomentarius var. *excavatus* BERK. Ann. Nat. Hist. 3 : 387. 1839.

Placodes fomentarius QUÉL. Enchir. Fung. 171. 1886; Fl. Myc. 486. 1888.

Ochroporus fomentarius SCHROET. Pilze Schles. 1 : 486. 1888.

Scindalma fomentarius KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 518. 1898.

Elfvingia fomentaria MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 298. 1903; N. Am. Fl. 9 : 113. 1908.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 168. 1909)

Ungulina fomentaria PAT. Ess. Tax. 102. 1900 —BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 174. 1925; Hymen. Fr. 601. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 23. 1932.

Ganoderma fomentarium AMES, Ann. Myc. 11: 247. 1913.

Elfvingiella fomentaria MURR. North. Polyp. 52. 1914; South. Polyp. 53. 1915.

Fomes minutulus (sub P. HENNINGS)

?(安田, 植. 雜. 26 : 234. 1912; 31 : 51. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 139. 1927)

Fomitopsis fomentarius

(原, 日. 菌. 目. 124. 1954)

子實體は多年生, 堅硬にて木質, 坐生, 傘は外圍半圓形にて表面丸山形乃至强き蹄形, 3.5—15×6—20×2—9 cm, 表面は灰色乃至鼠色, 帶褐色或は黑



a



b

第219圖 ツリガネタケ *F. fomentarius*
a. 子實體 ×1/2　b. 胞子 ×612　(大谷氏)

色, 厚き角質の殼皮を有し, 切斷せば黑色にて光澤あり, 無毛, 平滑, 罅裂せず, 環紋或は環溝あり, 傘緣は厚くして鈍し, 絨樣, 澁色乃至黃褐色, 肉はほくち狀乃至柔木栓質, 暗黃色乃至銹色, 光澤なし, 層あり, 厚さ 0.3—3 cm, 管孔は長さ各季 0.5—2.5 cm, 寧ろ明かなる層を有す, 實質は灰褐色乃至帶褐色, 孔口は灰色乃至肉桂色, 圓形, 1 mm 間平均 3 個, 孔壁は厚くして全緣, 傷時黑變す。胞子は長楕圓形乃至紡錘形, 平滑, 無色, 16—18×5—6 μ, 材の白腐を起し, 健全部との間に帶線を生ず。

所在及產地

廣葉樹生幹上

全土—歐. 北米. 亞(西比. 印. 支)

和名 ツリガネタケ (釣鐘茸) 〔今關〕

Fomitopsis KARST.

ツガサルノコシカケ屬

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9) : 18. 1881.

Earliella MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 478. 1905.

Flaviporus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32: 360. 1905.

Fomes KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:236. 1867. pr. p.

Heterobasidion BREFELD, Unters. Gesam. Myk. 8 : 154. 1889.

Nigrofomes MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31 : 425. 1904.

Nigroporus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 361. 1905.

Placodes QUÉLET, Enchir. Fung. 170. 1886. pr. p.

Ungulina PATOUILLARD, Cat. Tun. 48. 1897.

子實體は多年生或は1年生，無莖，傘は半圓形，扁平或は蹄形，表面は平滑，一般に堅き殼皮を被る，その構成菌絲は暗色にて厚膜，斜上性，緊密に堅く膠着するもマンネンタケ屬（*Ganoderma*）の如く菌絲の末端肥厚せず又配列整然たらざるを異點とす，肉は殆ど木質にて堅緻，白色，肉桂色，淡紫色或は紫黑色，子實層托は多層或は1層，管孔狀，孔口は細小乃至中形，圓形或は類圓形，囊狀體なきを常とし時に之を存す。胞子は無色，平滑，樹上生。

（本屬名は *Fomes*（屬名）-opsis（類する）より出づ）

基準種　*F. pinicola* (SW.) KARST.

本邦既知種檢索表

A. 傘肉白色乃至淡色（黃白，材，桃色，紫色等）

a. 扁平なる側莖あり，傘は扇形，薄く，淡褐色，表面に多數の平疣ありてガマの背に似たり，肉及管孔白色。

ガマタケ ***F. komatsuzakii*** (301)

b. 坐生或は半背着。

α. 傘肉柔軟脆弱，傘は蹄形，白色，淺き環溝あり，肉及管孔白色，後淡黃色，針葉樹上。

エブリコ ***F. officinalis*** (301)

β. 傘肉堅硬，栓木質。

I. 小形菌，通常 1cm 內外，傘は半圓丸山形，屢々楯狀，暗褐色，後黑色，幾分環溝あり，孔口白乃至焦茶色，廣葉樹上。

ヒメシロヒズメタケ ***F. scutellata*** (302)

II. 中或は大形菌，傘肉白色乃至材色。

1. 背着性強く，狹き傘を生ず。

甲. 反轉傘部は不正形にて通常貝殼狀，表面天鵞狀乃至殆ど無毛，有環紋，初め黃褐，遂には黑色，肉は白乃至黃白，管孔面は白色乃至卵黃色，主に針葉樹上。　マツノネクチタケ

F. annosa (302)

乙. 背着體緣邊僅に傘面を露出す，表面黃褐色，有環溝，肉は甚だ薄くして白色，KOH 液にて急ち赤變す，針葉樹上。

アカゾメアミタケ ***F. sensitiva*** (304)

2. 背着性弱く，半圓形貝殼狀の薄傘を作る。

甲. 傘は廣き白色の緣邊を有し，中部煉瓦色，管孔面は白色。

レングワタケ ***F. insularis*** (304)

乙. 傘緣に廣き白帶なく，多くは同色。

イ. 時に傘の基部莖狀となり凹まず，管孔面は灰褐色にて桃色を帶ぶ。

オオスルメタケ ***F. rhodophaeus*** (305)

ロ. 傘の基部莖狀となることなく凹入す，管孔面は灰褐色にて桃色を帶びず。　ベッコウタケ

F. semilaccatus (305)

3. 子實體は坐生。

甲. 子實體は中形，着生部に狹き黑帶あり，表面有環溝，粒瘤あり，灰卵黃色，肉は厚く，同色，針葉樹上。

ヒメツガサルノコシカケ

F. subungulata (306)

乙. 子實體は稍々大形，着生部に黑帶なし，表面老時殆ど黑色，普通著しき環溝あり，肉は白乃至淡黃色，管孔面白乃至淡黃色。

イ. 傘緣は赤栗褐色を呈し，材の褐腐を起す，針葉及廣葉樹上。

ツガサルノコシカケ

F. pinicola (306)

ロ. 傘緣同色或は灰白色にて赤色を呈せず，材の白腐を起す，常綠カシ樹上。　カシサルノコシカケ

F. kiyosumiensis (308)

III. 中形菌，傘肉帶紅色。

1. 子實體は蹄形，厚さ 4cm に及ぶ，肉は淡桃乃至桃色，表面に密軟毛を有し，環溝あり，緣は鈍圓，胞子 6—9×2—3μ。

バライロサルノコシカケ

F. rosea (308)

2. 子實體は貝殼狀，厚さ 2cm 以下。

甲. 肉は暗桃色，表面に初め天鵞絨狀毛被あり，著しき環紋を生ず，脫毛後環溝及放射狀皺を露わす，胞子 6—8×2—3μ。　ケニクアミタケ

F. roseozonata (309)

乙. 肉は鮭肉紅色或は肉褐色，傘面短微毛を有し，環溝あり，胞子球形，徑 5μ。

ニクアミタケ ***F. carnea*** (310)

Ⅳ. 中形菌，傘肉葡萄色乃至帶紫色，半背着或は基部莖狀，表面紫褐色，環紋及放射狀皺あり，胞子4—4.5μ，針葉樹上。

ブドウタケ ***F. vinosa*** (310)

B. 傘肉は帶褐色。

a. 背着性强く，緣邊遊離し狹き傘面を露わす，肉は淡セピア色，管孔面は暗褐色にて藍色を帶ぶ。

シイノサルノコシカケ ***F. olivacea*** (311)

b. 子實體は坐生す，背着の物あるも明かなる傘を作る。

α. 傘は薄く，扁平貝殼狀，表面暗褐乃至黑色，淺溝あり，肉は暗褐色，管孔面同色，廣葉樹上。 クロブドウタケ ***F. caliginosa*** (311)

β. 傘は厚し。

Ⅰ. 傘は坐生或は背着，傘は稍々大形，蹄形にて不整，表面黑褐，著しき凹凸ある環狀隆起と環溝あり，肉は暗紫褐色，管孔面は暗黑乃至濃栗褐色。

クロサルノコシカケ ***F. castanea*** (312)

Ⅱ. 傘は坐生，半圓形，中形菌，表面暗淡褐色，無環溝，肉は同色，管孔は同色にて稍々石竹色を帶ぶ，胞子は淡色なり。

ホウネンタケ ***F. pubertatis*** (312)

Fomitopsis komatsuzakii (YAS.) IMAZ.

ガマタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 92. 1943.

(原，日. 菌. 目. 125. 1954)

Polyporus Komatsuzakii YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 31: 279, *f. 1—2*. 1917.

(安田，植. 雜. 31: 329. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 291. 1927)

子實體は有莖，革質，傘は扇形，4.5—6.5×7—11×0.5—1.2cm，表面は極めて淡き褐色，多數の平たき疣を以て被わる，疣は圓形或は楕圓形にて徑1—2mm，放射狀の疎なる皺襞を有し，不明瞭の疎環層あり，甚だ短き微毛を有す，肉は白色，管孔は長く，長さ2—5mm，白色，孔口は小多角形，往々罅裂す。囊狀體なし，莖は側生，長短不同，長さ0.4—4cm，扁平にて幅1—2cm，厚さ1cm，表面は傘面と連續し，裏面は管孔の有無により傘と區別さる，表裏共に傘面と同じく圓疣を以て被われ，甚だ淡き褐色を呈す。

所在及產地

樹皮上　　本州，四國

和名 ガマタケ (蝦蟆茸)〔安田〕

Fomitopsis officinalis (VILL. ex FR.) BOND. et SING.

エブリコ

BONDRAZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 55. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 92. 1943—原，日. 菌. 目. 125. 1954)

Boletus Laricis JACQ. Misc. Austr. 1: 164, *pl. 20—21*. 1778.

Boletus officinalis VILL. Hist. Pl. Dauph. 3: 1041. 1789.

Boletus purgans PERS. Syn. Meth. Fung. 531. 1801.

Polyporus officinalis FR. Syst. Myc. 1: 365. 1821; Epicr. Myc. 462. 1838; Hymen. Eur. 555. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 67. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 424. 1844—GILLET, Champ. Fr. 677. 1874—WINTER, Pilze, 1: 426. 1884—COOKE, Grev. 13: 115. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 139. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilz, 2(1): 203. 1912—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 115. 1914.

(猪子，東. 醫. 雜. 3. 1889—田中，植. 雜. 3: 50. 1889—白井，植. 雜. 3: 141, 154. 1889; 4: 369. 1890; 日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 479. 1917—P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28: 268. 1901—松村，植. 名鑑，1: 163. 1904—安田，植. 雜. 32: 136. 1918)

Polyporus Laricis DELLE CHIAJE, Icon. Piante Med. *pl. 66*, *f. 3*. 1824—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 976. 1916.

Piptoporus officinalis KARST. Hattsv. 2: 45. 1882.

Leptoporus officinalis QUÉL. Fl. Myc. 387. 1888.

Ungulina officinalis PAT. Ess. Tax. 103. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 180. 1925; Hymen. Fr. 607. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52: 316, *f. 18*. 1936.

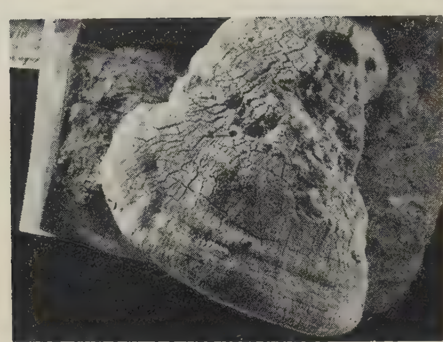
Fomes albogriseus PECK, Bull. Torr. Bot. Club, 30: 97. 1903.

Fomes Laricis MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30: 230. 1903; N. Am. Fl. 9: 99. 1908; North. Polyp. 47. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 216. 1915—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 989*. 1931.

(安田，植. 雜. 34: 68. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 139. 1927—逸見，日. 學術協. 報. 7: 407. 1932; Mem. Coll. Agr. Kyoto Imp. Univ. 20: 8, *pl. 1*, *f. 6*. 1932; 及赤井，木. 腐. 菌學，350, *f. 161—3*. 1945—今關，日. 隱. 植. 圖. 449, *pl. 215*, *f. 5*. 1939)

Fomes officinalis AMES, Ann. Myc. 11: 246. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 85, *pl. 10*, *f. 33*. 1914—PILÁT, Atl. Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 355, *pl. 237b*, *238*, *239b*. 1940; Ann. Myc. 38: 781. 1940.

子實體は無莖，木質，傘は蹄形乃至鐘形，着生物に側着，橫徑15cm，高さ15cmに及ぶものあり，



a



b

第220圖 エブリコ *F. officinalis*
a. 子實體 ×1/3 b. 胞子 ×612 (大谷氏)

表面白色，後淡黄褐色の汚斑を生ず，殆ど平滑，縦横に龜裂を生じ，淺き環溝を存す，肉は白色，稍々柔軟にて脆弱，苦味あり，管孔は長さ約 1cm, 多層をなし年々新生さる，初め白色，後淡黄色を帶ぶ，孔口は圓形，孔壁は時に裂く，胞子は楕圓形，平滑，無色，5×2.5μ。材の褐腐を起す。藥用。

所在及産地

マツ (*Pinus*) モミ (*Abies*) カラマツ (*Larix*) 樹幹上 北海道，千島，本州一 歐.北米.亞(支.西比)

和名 エブリコ〔方言〕，トボシ〔方言〕

Fomitopsis scutellata (SCHW.) BOND. et SING.

ヒメシロヒズメタケ

BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 55. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:92. 1943—原，日. 菌. 目. 125. 1954)

Polyporus scutellatus SCHW. Trans. Am. Phil. Soc. II, 4 : 157. 1832.

Fomes scutellatus COOKE, Grev. 14 : 19. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:192. 1888—MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 30:230. 1903; North. Polyp. 45. 1914; South. Polyp. 46. 1915—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:128. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 218. 1915—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 111. 1934.

Trametes scutellata NEUMAN, Polyp. Wisc. 41. 1914.

Ungulina scutellata PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 267. 1933.

子實體は多年生，坐生，屢々傘の頂點にて着生，生時木栓質，乾時堅くして木質，傘は外圍半圓形或は圓形にて丸山形，屢々枝の下面に生じて楯狀をなす，0.5—1.5×0.5—2×0.1—0.5cm，普通横徑 1cm 内外，表面暗褐色或は少くとも熟時黒色，絨毛を有し，無環紋或は幾分環溝あり，傘緣は寧ろ厚くして鈍し，肉は白色乃至材色，木栓質，厚さ 2mm より少し，管孔は長さ 1—2mm，不明瞭の層あり，孔口は白色乃至焦茶色，圓形或は類圓形，1mm 間平均 4—5 個，胞子は圓筒形，平滑，無色，10—12×3.5μ。

所在及産地

廣葉樹落枝上 (ハイノキ (*Bobua*) 等) 九州一北米.亞(西比)

和名 ヒメシロヒズメタケ (姫白蹄茸)〔今關〕

Fomitopsis annosa (FR.) KARST.

マツノネクチタケ

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9) : 18. 1881—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 55. 1941—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 76 : 2, *pl. 1, f. 1.* 1948.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:92. 1943; 植. 分. 地. 13:252. 1943—原，日. 菌. 目. 124. 1954)

Boletus cryptarum BULL. Herb. Fr. *pl. 478.* 1789—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 542. 1801—DC. Fl. Fr. 2: 114. 1815—NEES, Syst. Pilze Schw. 223, *pl. 29, f. 222 B.* 1817.

Polyporus annosus FR. Syst. Myc. 1:373. 1821; Epicr. Myc. 471. 1838; Hymen. Eur. 564. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:422. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 247. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 277. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:281. 1872—GILLET, Champ. Fr. 678. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 420. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 476. 1888.

(白井，日. 菌. 目. 72. 1905; ed. 2. 471. 1917; ed. 3. 288. 1927)

Polyporus cryptarum FR. Syst. Myc. 376. 1821; Epicr. Myc. 474. 1838; Hymen. Eur. 566. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2 : 87. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt, Fl. 1 : 421. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 18. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 282. 1872—GILLET, Champ. Fr. 679. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 418. 1884—REA, Brit. Basid. 585. 1922.

Polyporus serpentarius PERS. Myc. Eur. 2 : 82. 1825.

Polyporus undatus PERS. Myc. Eur. 2 : 90, *pl. 16, f. 3.* 1825—FRIES, Elench. Fung. 1:111. 1828;

Epicr. Myc. 476. 1838—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 420. 1844.

Polyporus subpileatus WEINM. Hymen. Ross. 332. 1827.

Polyporus scoticus KLOTZ. in BERK. Engl. Fl. 5(2): 142. 1836.

Polyporus makraulos ROSTK. in STURM, Deut. Fl. 17: 113, *pl. 55*. 1838—FRIES, Hymen. Eur. 573. 1874—WINTER, Pilze, 1: 412. 1884.

Trametes radiciperda HARTIG, Wicht. Krankh. Waldb. 62, *pl. 3, f. 20—29*. 1874.

(白井, 日. 菌. 目. 123. 1905; ed. 2. 661. 1917)

Polyporus Gillotii ROUM. Rev. Myc. 4: 234, *pl. 32, f. A–B*. 1882.

Trametes annosa KARST. Hattsv. 2: 48. 1882.

Physisporus makraulos CHEV. in KARST. Hattsv. 2: 57. 1882.

Fomes annosus COOKE, Grev. 14: 20. 1885; Handb. Austr. Fungi, 135. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 197. 1888; 17: 120. 1905; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 995. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 223. 1892; Brit. Fungi, 379. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 75. 1903—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 190, *pl. 32*. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 246. 1913—MURRILL, North. Polyp. 46. 1914; South. Polyp. 47. 1915—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 217, *f. 573*. 1915—REA. Brit. Basid. 595. 1922—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 389, *pl. 36*. 1931—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1003*. 1932—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 209. 1933—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 114. 1934—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 451*. 1934—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 362, *pl. 243a, 244—5*. 1941.

(白井, 日. 菌. 目. 34. 1905; ed. 2. 237. 1917; ed. 3. 137. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 51: 4. 1914; Lett. 56: 4. 1915—安田, 植. 雑. 28: 354. 1914; 31: 50. 1917—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 353, *f. 165—6*. 1945)

Fomes cryptarum COOKE, Grev. 14: 21. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 205. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1006. 1916—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 97. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 190. 1912.

Polystictus undatus COOKE, Grev. 14: 87. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 291. 1888.

Placodes annosus QUÉL. Enchir. Fung. 172. 1886.

Inodermus cryptarum QUÉL. Enchir. Fung. 174. 1886.

Poria makraulos QUÉL. Enchir. Fung. 179. 1886.

Phellinus cryptarum QUÉL. Fl. Myc. 395. 1888—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 335. 1889.

Heterobasidion annosum BREF. Unters. Gesamtgeb. Myk. 8: 154, *pl. 9—11*. 1889.

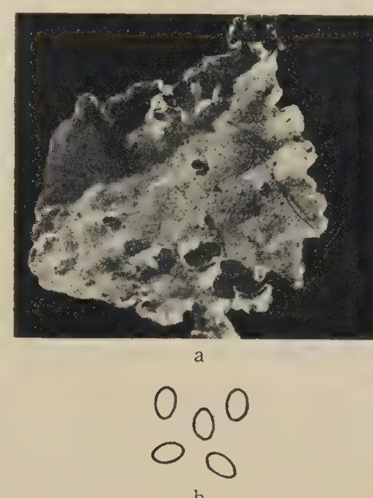
Fomes ferruginosus MASS. Brit. Fung. Fl. 1: 227. 1892. pr. p.

Polyporus irregularis UNDERW. Bull. Torr. Bot. Club, 24: 85. 1897.

Scindalma annosum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 518. 1898.

Ungulina annosa PAT. Ess. Tax. 103. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 177. 1925; Hymen. Fr. 604. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 23. 1932; 49: 268. 1933; 52: 314. 1954.

子實體は多年生，坐生，半背着生或は全背着生，木質，傘は不正形にて通常貝殻狀乃至扁平，5—12×5—18×0.5—2cm，傘面は天鵞絨狀乃至殆ど無毛，皺あり，有環紋，初め黄褐乃至赭色，老時赤褐色，汚栗褐色乃至黑色なり，傘緣は全緣乃至波狀，鋭く，傘面の幼時と同色，下面無性，年々の管孔層はその緣にて互に弛く接合す，肉は厚さ 2—10mm，白色乃至黄白色，上部に堅き角質にて黑或は暗褐色の殼皮を有し，その厚さ 0.2—0.3mm あり，殼皮の下は白色，管孔は不等にて不明瞭なる層を有す，各季の管長 2—6mm，古孔は普通塡塞され，白色乃至淡卵黄色，孔口は圓形乃至角形，不整にて不等大，1mm 間 2—3 個，白色，淡卵黄色乃至卵黄色，孔壁は老時齒牙狀となる，胞子は卵形，平滑，無色，4—6×3—4μ，囊狀體を見ず。材の白腐を起す。



第 221 圖 マツノネクチタケ *F. annosa*
a. 子實體 ×3/5 b. 胞子 ×612（大谷氏）

所在及産地

主に針葉樹幹下部及根上

北海道，本州—歐. 北米. 濠. 亜(西比)

和名 マツノネクチタケ（松根朽茸）〔安田〕

Fomitopsis sensitiva (LLOYD) IMAZ.

アカゾメアミタケ

in CHIBA & TERAMOTO, Bull. Tokyo Univ. Forests, 43 : 32. 1952.

Trametes sensitiva LLOYD, Myc. Writ. 5:710, *f. 1062*. 1917; Lett. 68:12. 1918; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd. 146. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 439. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917; 6:12. 1918—安田，植. 雜. 32 : 111. 1918—原，日. 菌. 目. 366. 1954—今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67:31. 1954)

子實體は半背着生，背着部は不定形にて厚く，栓木質，0.5—1.4×4—11cm，表面極めて不規則にて凹凸多く，黃褐色を帶ぶ，緣邊僅かに傘面を露出す，其表面は黃褐色にて波狀に彎曲し，平滑，比較的細かき深き環溝を有す，肉は甚だ薄く，白色，管孔面は白色，管長は長く傘厚の全部を占む，孔口は小圓形，囊狀體なし，胞子は楕圓形，平滑，無色，4.5×3μ，本菌の組織は KOH 液にて急ち赤變し，その色は暫時にて消滅する特性を有す。

所在及產地

樹皮(エゾマツ等)倒木上　北海道，本州

和名 アカゾメアミタケ (赤染網茸) 〔安田〕

〔**因記**〕 安田氏は本菌と一見酷似するも遙かに薄く，且つアルカリによつて赤變せざる淡路國洲本町三熊山採集の菌を新種としウヅラアミタケと命名せられたり，今ここに同氏の記載及文獻を揭げ，暫く後來の硏究をまつ。

Trametes japonica YAS. 植. 雜. 32 : 356. 1918. (LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:7. 1918; 7:1162. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 393. 1927)

"菌傘は平たく樹皮に著生し薄くして栓木質を帶ぶ，輪廓に一定したるところ無く，直徑 6 乃至 7cm，厚さ 1.5—5mm あり，樹皮面に附着せる部分は生長極めて不規則にして凹凸甚だしく，黃褐色を呈し，眞正の表面は發達せず，內部の實質は頗る薄くして淡褐色を呈す，裏面は白くして菌管は長く，殆ど菌傘の厚みの全部を占有す，管孔は頗る小さくして圓し，子實層は囊狀體を缺く（原文，子囊層は剛毛體を缺く）胞子（原文，基子）は楕圓形を爲し，無色にして平滑なり，短徑 3μ あり，本菌の組織は苛性加里液を注ぐも全く變色せず。"

Fomitopsis insularis (MURR.) IMAZ.

レングワタケ

IMAZEKI, Acta Phytotax. Geobot. 13:253. 1943. (千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43:32. 1952—原，日. 菌. 目. 124. 1954—今關及土岐，林. 試. 硏. 報. 67 : 28. 1954)

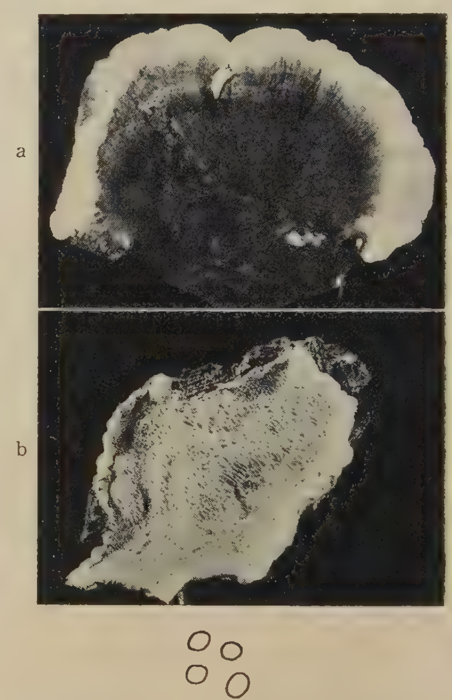
Trametes insularis MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 35:405. 1908—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 342. 1912—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48:467. 1918—LLOYD. Myc. Writ. 7 : 1114, *f. 2086*. 1922.

Polystictus Persoonii (non COOKE)

(安田，植. 雜. 26:261. 1912; 31 : 58. 1917; 理學界, 15(3) : 14. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61: 6. 1916; 5, Lett. 66 : 7. 1917; Lett. 69 : 7. 1919; 6 : 1012. 1920—中路，植. 雜. 30 : 102. 1916—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 491. 1917; ed. 3. 300. 1927—澤田，臺. 菌. 調. 報. 1 : 507. 1919; 7 : 110. 1942; 臺. 博. 報. 25 : 331. 1935—北島，林. 試. 報. 28 : 6, *pl. 1, f. 6, pl. 6, f. 4*. 1928—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，338, *f. 148*. 1945)

Fomes annosus (non COOKE)

(今關，自然科學と博物館，9(12) : 13. 1938)



第 222 圖　レングワタケ *F. insularis*

a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1　c. 胞子 ×612

(大谷氏)

子實體は無莖，或は半背着，革木質，疊生，傘は半圓形，或は不正形にて貝殼狀，2.5—5×4—8×1—1.5cm，表面は粗荒，無毛，煉瓦色，緣部白或は黃色，放射狀皺襞ありて著しからざる環溝あり，緣は鈍く，或は銳く，無性，全緣，肉は白色乃至黃白色，木質，有層，厚さ 1.5—3mm，管孔は長さ後方に於て 1cm，同色，孔口は類圓形，後に迷路狀となる，白色，1mm 間約 3 個，囊狀體なし，胞子は類球形，平滑，無色，4—5μ，腐朽材は微黃色，柔軟。

所在及產地

針葉樹切株及材上

北海道，本州，九州—亞(比. 臺)

和名　レングワタケ（煉瓦茸）〔安田〕

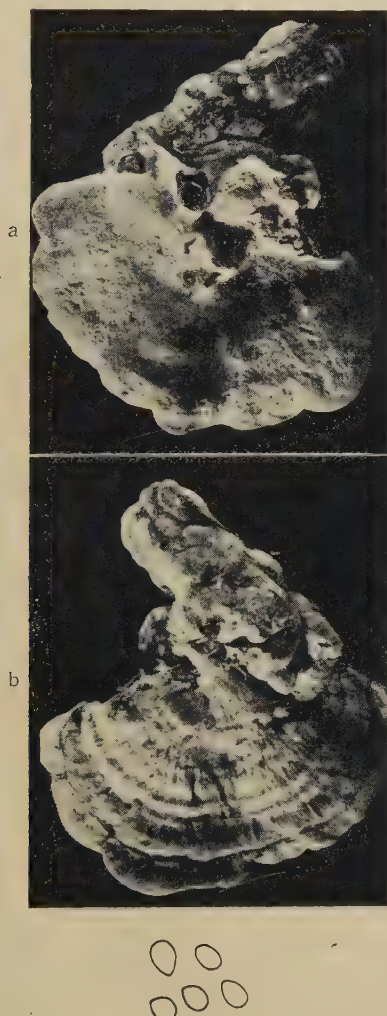
Fomitopsis rhodophaeus (LÉV.) IMAZ.

オオスルメタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943.

Polyporus rhodophaeus LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2:190. 1843—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 175. 1888 —BRESADOLA, Hedwigia, 53 : 53. 1913. pr. p.— GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48 : 286. 1921. (今關，植. 硏. 雜. 17 : 180. 1941)

Fomes rhodophaeus COOKE, Grev. 14 : 18. 1885



第 223 圖　オオスルメタケ　*F. rhodophaeus*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×2/3
c. 胞子 ×612　（大谷氏）

—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 175. 1888.

Rigidoporus rhodophaeus IMAZ. Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 118. 1952.

(原，日. 菌. 目. 317. 1954)

子實體は無莖，傘は半圓形にて貝殼狀或は扁平，時に基部狹細して莖狀をなし扇狀を呈し，又多少沿下するものあり，基部凹陷せずして屢々瘤を生ず，4—7×6—15×0.5—1.5 cm，表面は殼皮を有し，赤褐乃至黑褐色，無毛，淺き環溝及放射狀線條あり，時に老時褪色し著しき帶赤黃色と帶褐黑色との環紋をなす，緣は眞直或は少しく下屈し，初め稍々赤味ある灰色，後中央と同色或は帶紫褐色となる，薄くして銳く或は稍々鈍し，下面無性，肉は栓木質，强靱，材色或は淡褐色，管孔面は灰褐色にて桃色を帶び粉狀，管孔は異質，有層，褐色或は淡菫色，管長 2—4 mm，孔口は微小，圓形，1 mm 間 6—8 個，孔壁薄し，胞子は類球形，平滑，無色，徑 5—6.5 μ.

所在及產地　樹材上　九州

和名　オオスルメタケ（大鯣茸）〔今關〕

Fomitopsis semilaccatus (BERK. ex COOKE)

ベッコウタケ

Polyporus zonalis var. *semilaccatus* BERK. Jour. Linn. Soc. 16 : 46. 1878.

Fomes semilaccatus COOKE, Grev. 14:21. 1885; 15:22. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:203. 1888.

Polyporus semilaccatus LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 337. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 33 : 4. 1911; 4, Lett. 42 : 15. 1912; Lett. 61:5. 1916; 5, Lett. 63 : 6, 8. 1916; Lett. 65 : 5, 6. 1917; 6 : 1096. 1920—安田，植. 雜. 26 : 299. 1912; 31 : 53. 1917—金平，臺. 博. 學. 會. 報. 36:88. 1918—澤田，臺. 菌. 調. 報. 5: 71. 1931)

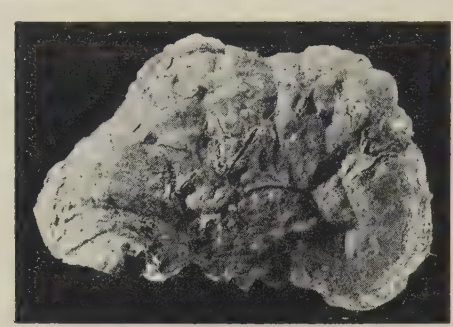
Scindalma semilaccatum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 519. 1898.

Coriolopsis semilaccata MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 34 : 466. 1907.

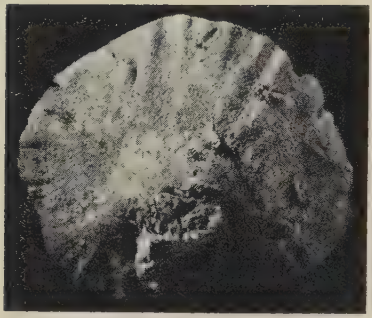
Polyporus rhodophaeus (non LÉVEILLÉ)

(今關，日. 植. 病. 學. 報. 4:205. 1935; 日. 隱. 植. 圖. 437, *pl. 209, f. 4.* 1939—逸見及赤井，日. 植. 病. 學. 報. 9:199. 1939; 木. 腐. 菌學，302. *f. 114—6.* 1945—伊藤一雄，日. 林. 學. 報，22:126. 1940; 林. 試. 報. 37 : 1. 1941)

子實體は無莖，傘は半圓形にて貝殼狀，基部少しく狹きも莖狀ならず，屢々疊生し，又橫着して不整形となる，基部多くは凹陷す，5—12×5—20×0.5—1.5 cm，表面は殼皮を有し，初め卵黃色にて後黃褐乃至栗褐色となり遂に類黑色となる，無毛，淺き環



a



b



c

第 224 圖 ベッコウタケ *F. semilaccatus*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×3/5
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

溝あり，放射狀線條を有す，縁は淡色或は同色，少しく下屈す，鈍或は鋭，下面有性，肉は栓木質，材色，强韌，管孔面は灰色乃至灰褐色にて桃色を帶びず，粉狀，管孔は有層，傘肉と同色，管長 3—10 mm，孔口は微小，圓形，孔壁薄し，胞子は類球形，平滑，無色，徑 4.5—6.5μ。

所在及產地

サクラ (*Prunus*) ニセアカシア (*Robinia*) 等
廣葉樹根株上 北海道，本州，九州

和名 ベッコウタケ (鼈甲茸)〔安田〕

〔**因 記**〕本菌は前種と類似し同一種と認められたる場合多し，但しベッコウタケの學名が *semilaccatus* にて妥當なりや否やは後來の硏究を要す。

Fomitopsis subungulata (MURR.) IMAZ.
ヒメツガサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943.
(原. 日. 菌. 目. 125. 1954)

Fomes subungulatus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 35: 410. 1908—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 286. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 219. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 6. 1917—安田, 植. 雜. 31 : 50. 1917—白井, 日. 菌. 目. 141. 1927)

子實體は坐生，剛直，傘は半圓形にて丸山形，廣く側着し，附着點は狹き黑帶に界さる，約 6×8×1—2 cm，表面は無毛，環溝あり，僅か粒瘤を有し，灰卵黃色にて各所に赤褐色部あり，縁は厚く，鈍圓にて全緣，肉は厚く，5—8 mm，灰卵黃色，有層，軟栓質，管孔內部白色，管長 3—5 mm，明かなる層なし，孔口は小形にて圓形，1 mm 間 5 個，白色乃至灰卵黃色，孔壁は鈍く，厚し，囊狀體なし，胞子は卵形，平滑，無色，5×3.5μ。

所在及產地

針葉樹倒木上 四國一匝(比)

和名 ヒメツガサルノコシカケ (姬栂猿腰掛)

Fomitopsis pinicola (SWARTZ ex FR.) KARST.
ツガサルノコシカケ

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9): 18. 1881; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 309. 1889—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 55. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943; 及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67 : 28. 1954—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 32. 1952—原, 日. 菌. 目. 125. 1954)

Boletus ungulatus SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl. 137—8.* 1763—PERSOON, Obs. Myc. 2 : 6. 1799; Syn. Meth. Fung. 534. 1801.

Boletus fulvus SCHAEFF. Fung. Bavar. 3 : *pl. 262.* 1770.

Boletus semiovatus SCHAEFF. Fung. Bavar. 3: *pl. 270.* 1770.

Boletus igniarius SCOP. Fl. Carn. 2 : 469. 1772.

Boletus marginatus PERS. Obs. Myc. 2 : 6. 1799; Syn. Meth. Fung. 534. 1801.

Boletus pinicola SWARTZ, Act. Acad. Holm. 1810 : 88. 1810.

Polyporus marginatus FR. Syst. Myc. 1 : 372. n. 2. 1821; Elench. Fung. 1 : 105. 1828; Epicr. Myc. 468. 1838; Hymen. Eur. 561. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 422. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 281, *pl. 19, f. 2.* 1872—WINTER, Pilze, 1 : 422. 1884.

Polyporus pinicola FR. Syst. Myc. 1 : 372. n. 3. 1821; Epicr. Myc. 468. 1838; Hymen. Eur. 561. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 143. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 423. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 281. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 266. 1876—WINTER, Pilze,

1 : 422. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 476. 1888—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 194. 1903.

Trametes pini FUCK. Symb. Myc. Nachtr. 1 : 8. 1871.

Fomes marginatus GILL. Champ. Fr. 683. 1874 —COOKE, Grev. 14 : 17. 1885; Handb. Austr. Fungi, 129. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 168. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1003. 1916—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 192. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 75, *pl. 6*, *f. 25*. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 5 : 775, *f. 1168*. 1918—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 991*. 1931—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 449*. 1932—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 349, *pl. 232—4*. 1940; Ann. Myc. 38 : 77. 1940.

Fomes pinicola COOKE, Grev. 14 : 17. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 167. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 192, *pl. 32 B*. 1912—AMES, Ann. Myc. 11 : 246. 1913—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 130. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 219. 1915—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 377, *pl. 33, 34*, *f. 1—2*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 113. 1934.

(? P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 268. 1901—?松村, 植. 名鑑, 1 : 144. 1904—白井, 日. 菌. 目. 36. 1905; ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 140. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 16. 1912; Lett. 45 : 4. 1913; Lett. 61 : 6. 1916; 7 : 1125. 1922; 1188. 1923—安田, 植. 雜. 26 : 148. 1912; 31 : 51. 1917—梅村, 植. 雜. 28 : 357. 1914—金平, 臺. 博. 報. 36 : 88. 1918—北島, 林. 試. 報. 28 : 24, *pl. 3*, *f. 18—9*, *pl. 7*, *f. 17*. 1928—川村, 日. 菌. 圖說, *n. 159*. 1929—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5 : 76. 1931—逸見, 日. 學術協. 報. 7 : 407. 1932; Mem. Coll. Agr. Kyoto Imp. Univ. 20 : 10, *f. 3—4*, *pl. 2*, *f. 5—7*. 1932—今關, 日. 隱. 植. 圖. 451, *pl. 216*, *f. 2—3*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 357, *f. 167—171*. 1945)

Trametes marginata KARST. Myc. Fenn. 3 : 46. 1876.

Fomes ungulatus SACC. Mich. 1 : 539. 1879; Syll. Fung. 6 : 167. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1003. 1916—MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 98. 1908; Mycologia, 5 : 292, *pl. 107—8*. 1913; North. Polyp. 46. 1914; South. Polyp. 47. 1915—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 192. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 73, *pl. 5*, *f. 24 a–b*, *pl. 8*, *f. 28*. 1914—BRESADOLA, Icon. Myc. 20 : *pl. 990*. 1931.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 168. 1909)

Trametes pinicola KARST. Hattsv. 2 : 46. 1882.

Placodes marginata QUÉL. Enchir. Fung. 171. 1886; Fl. Myc. 396. 1888.

Placodes pinicola QUÉL. Enchir. Fung. 171. 1886.

Scindalma semiovatum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) 517. 1898.

Scindalma marginatum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 519. 1898.

Scindalma ungulatum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 519. 1898.

Ungulina marginata PAT. Ess. Tax. 103. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 174. 1925; Hymen. Fr. 601. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 314. 1954.

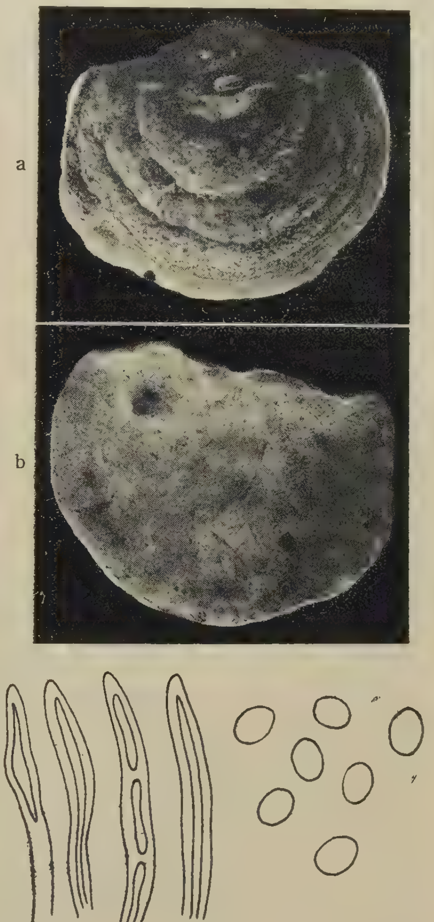
Fomes ponderosus SCHRENK, U. S. Dept. Agr. Bur. Pl. Ind. Bull. 36 : 30. 1903.

Fomes ungulatus pinicola NEUMAN, Polyp. Wis. 74, *pl. 5*, *f. 24 c, d*. 1914.

Placodes ungulatus RICKEN, Vadem. 225. 1918.

Ungulina pinicola SING. Beih. Bot. Centralbl. 46(2) : 79. 1930.

子實體は多年生，坐生，時に全背着生，木質にて



第 225 圖 ツガサルノコシカケ *F. pinicola*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1/2
c. 囊狀體及胞子 ×544 (大谷氏)

剛直，傘は扁平，丸山形にて，稀に蹄形，外圍は半圓形，4—20×3—20×1—10 cm，傘面は無毛，時に粉狀，普通環溝を有し，殼皮を有し或は之れを缺く，幼時淡黃色乃至淡黃褐色，後淡褐，汚赤褐乃至殆ど黑色となる，屢々樹脂狀なり，傘緣は薄く或は厚く，多くは鈍圓，傘面の他部より淡色なるも後帶黃色或は赤栗褐色となること多し，下面屢々無性，肉は幼時厚さ 4 cm に及ぶも，老時 0.5—2 cm，木栓質乃至木質，白色乃至淡黃色，管孔は各季 2—5 mm，淡黃，淡汚桃色乃至肉桂色，孔口は圓形，白色，黃白色乃至淡黃色，時に卵黃色を呈し，傷によりて明かに黃褐色となる，1 mm 間平均 4—5 個，孔壁厚し，胞子は卵形，平滑，無色，6—8×5—6.5 μ。毛狀の囊狀體あり，幅 3—5 μ，先端に向つて狹細し尖頭，子實層外に 25 μ 程抽出す。材に角形の褐腐を起す。

所在及產地

針葉及廣葉樹幹上　　全土一汎布

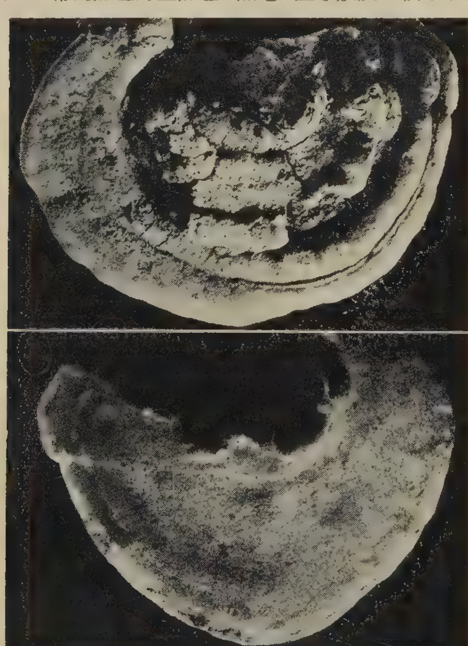
和名 ツガサルノコシカケ（栂猿腰掛）

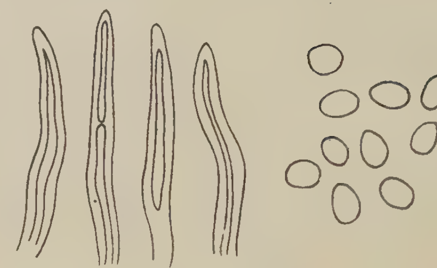
Fomitopsis kiyosumiensis IMAZ. et SASAKI
カシサルノコシカケ

Fomitopsis sp. 今關及青島，日. 植. 病. 報. (Ann. Phytopath. Soc. Japan) 16(2): 88. 1952.

子實體は多年生，坐生，木質にて剛直，傘は半圓形にて扁平乃至丸山形，4—15×5—20×2—8 cm，表面は帶褐黑色乃至黑色，無毛，堅き殼皮を被むり，

a
b





c

第 226 圖　カシサルノコシカケ *F. kiyosumiensis*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1/3
c. 囊狀體及胞子 ×544　（大谷氏）

著しき環溝あり，緣は厚くして鈍圓，同色或は灰白色にて赤色を帶びず，下面無性，肉は堅緻，材色，子實層面は帶褐灰色乃至灰白色，粉狀，管孔は層をなし，層間に傘肉介在す，管長 2—5 mm，古孔は白色菌絲塡充す，同色，孔口は微小，圓形，1 mm 間 5—6 個，孔壁厚し，胞子は卵形，無色，平滑，6—7.5×5—6.5 μ，毛狀の囊狀體あり，幅約 5 μ，先端に向つて狹細し尖頭，子實層外に 22 μ 程抽出す。材に白腐を起す。

所在及產地

常綠カシ (*Quercus*) 樹幹上　　本州，九州

和名 カシサルノコシカケ（樫猿腰掛）〔今關〕

Fomitopsis rosea (ALB. et SCHW. ex FR.) KARST.
バライロサルノコシカケ

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9): 18. 1881; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 309. 1889—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 55. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 92. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 32. 1952—原，日. 菌. 目. 125. 1954)

Boletus roseus ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 251. 1805.

Polyporus roseus FR. Syst. Myc. 1: 372. 1821; Elench. Fung. 1: 105. 1828; Epicr. Myc. 469. 1838; Hymen. Eur. 562. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 422. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 13: 282. 1884—WINTER, Pilze, 1: 421. 1884—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 477. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 290. 1891.

Polyporus rufo-pallidus TROG, Flora, 15: 556. 1832.

Trametes rosea KARST. Hattsv. 2: 47. 1882.

Fomes roseus COOKE, Grev. 14: 19. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 189. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 997. 1916—MASSEE, Brit. Fung.

Fl. 1:219. 1892; Brit. Fungi, 377. 1911—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 95. 1908; North. Polyp. 44. 1914; South. Polyp. 46. 1915—W. G. SMITH, Brit. Basid. 350. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 195. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 246. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 72. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 223, *f. 576*. 1915—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 45: 465, 1918—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 1000*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 116. 1934—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 352, *pl. 235 b, 236*. 1940.

(安田, 植. 雜. 35:255. 1921—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 141. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 451, *pl. 216, f. 4*. 1939)

Placodes roseus QUÉL. Enchir. Fung. 171. 1886.

Fomes rufo-pallidus COOKE, Grev. 13: 119. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 163. 1888.

Scindalma roseum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

Ungulina rosea PAT. Ess. Tax. 103. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 177. 1925; Hymen. Fr. 605. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 23. 1932.

子實體は多年生，坐生或は半背着生，革木質，傘は蹄形，屢々疊生す，1—5×1—6×1—4cm，傘面は環溝あり，罅裂し，細密軟毛乃至殆ど無毛，帶桃暗褐黑色乃至帶桃黑色，緣は圓く，汚栗褐色乃至同色，下面無性，肉は厚さ 0.5—2cm，堅緻木栓質，不明瞭なる層あり，淡桃色乃至桃色，管孔は同色，層あり，古層の管孔は塡塞され，新層のものには白緣あり，各季の管長は 1—3mm，孔口は同色或は老穎品にては僅か暗色，圓形乃至僅か角形，1mm 間 3—5 個，孔緣は厚さ 60—140μ，黃褐色，胞子は圓筒形，稀に屈曲し，平滑，無色，6—9×2—3μ，嚢狀體を見ず。材の褐腐を起す。

所在及產地

針葉樹幹上　　全土—北米. 亞(比. 西比. 樺)

和名 バライロサルノコシカケ

(薔薇色猿腰掛)〔安田〕

Fomitopsis roseozonata (LLOYD)

ケニクアミタケ

Trametes roseo-zonata LLOYD, Myc. Writ. 7: 1144, *f. 2182*. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 146. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1126. 1922)

Trametes subrosea WEIR, Rhodora, 25: 217. 1923—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 372. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 96. 1934)

(今關, 植. 硏. 雜. 15: 444, *f. 12*. 1939)

Fomes subrosea OVERH. Pen. Agr. Exp. St. Tech. Bull. 316. 1935.

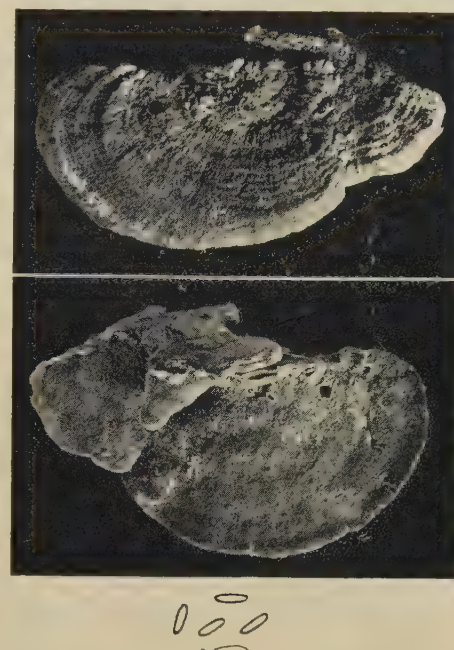
Fomitopsis subrosea BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 55. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 92. 1943—原, 日. 菌. 目. 125. 1953)

子實體は通常 1 年生，坐生或は半背着生，木栓質，傘は半圓形にて扁平或は貝殼狀，疊生し，垂下部により上下連結す，薄し，2—10×1.5—7×0.4—1 cm，

a

b



c

第 227 圖　ケニクアミタケ *F. roseozonata*

a. 子實體表面　　b. 同裏面 ×3/4

c. 胞子 ×612　　(大谷氏)

表面は初め鳶色の密なる毛被を被むるも，後脫毛し，暗褐色乃至黑色の環紋帶を生じ，更に全面無毛黑色となり，淺き環溝及放射狀細皺を露出す，緣は薄く，稍々鈍圓或は鋭く，同色或は淡色，下面無性にて往々廣き部分を占む，肉は薄く木栓質，帶肉桂桃色或は鈍桃色，管孔は長さ 1—3.5mm，初め淡暗桃色，後肉と同色，孔口は略々圓形，1mm 間約 5 個，全緣，淡桃色にて往々暗紅色，胞子は圓筒形，有嘴，平滑，無色，5—6×1.5μ，殼皮は 60μ に及び暗褐色，嚢狀體なし。材の褐腐を起す。

所在及產地

主に針葉樹倒木上

北海道，本州—北米. 亞(樺)

和名 ケニクアミタケ (毛肉網茸)〔今關〕

〔因 記〕 *Trametes subrosea* は米國に於て相當有

名なる種類なるも，その發表の一年前に宮部氏より送附されし種類に LLOYD 氏が命名せる *Tr. roseo-zonata* 菌と全く同一なるにより，後種名を採用せざるべからざるに至れり。

Fomitopsis carnea (NEES ex FR.) IMAZ.

ニクアミタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943. (原，日. 菌. 目. 124. 1954)

Polyporus carneus NEES, Nov. Act. Nat. Curios. 13 : 14. *pl. 3*. 1827—FRIES, Epicr. Myc. 471. 1838; Hymen. Eur. 563. 1874—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 291. 1891—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 225. 1892.

Fomes carneus COOKE, Grev. 14 : 21. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 202. 1888—W. G. SMITH, Brit. Basid. 351. 1908—MASSEE, Brit. Fungi, 379. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 10 : 496. 1912; Hedwigia, 51 : 311. 1912; 53 : 57. 1913—REA, Brit. Basid. 596. 1922.

Trametes carnea LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 224, *f. 577*. 1915; 6 : 1037, *f. 1899*. 1926—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 19. 1932.

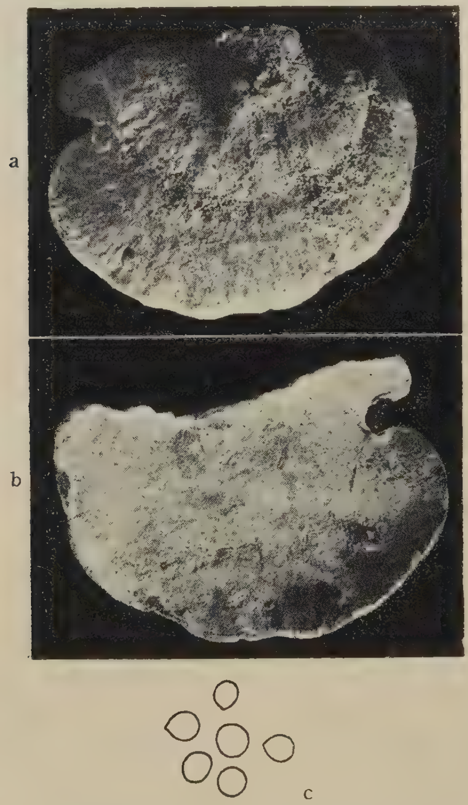
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68 : 7. 1918; 7 : 1126. 1922—安田，植. 雑. 36 : 139. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 392. 1927)

子實體は無莖，栓木質，傘は半圓形，往々覆瓦狀に疊生す，薄く，堅緻，2.5—4×4—7×0.3—2 cm，傘面は肉褐色，老時黒色を帶ぶ，甚だ短き微毛を有し或は平滑，環溝あり，肉は鮭肉紅色或は肉褐色，管孔は短く，肉色，孔口は小圓形，囊狀體なし，胞子は球形，平滑，無色，徑 5μ。

所在及產地

樹皮面　　本州—濠. 南北米. 亞(爪. 比. 西比)

和名 ニクアミタケ (肉網茸)〔安田〕



第 228 圖　ニクアミタケ *F. carnea*
a. 子實體表面　　b. 同裏面 ×3/4
c. 胞子 ×612　　(大谷氏)

Fomitopsis vinosa (BERK.) IMAZ.

ブドウタケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 111. 1952.

(千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 32. 1952—原，日. 菌. 目. 125. 1954—今關及土岐，林. 試. 研. 報. 67 : 28. 1954)

Polyporus badius JUNGH. in MORITZI System. Verz. 120. 1845—6. (invalid) (non WEINMANN, Fl. Ross. 311. 1836)—ZOLLINGER, Pl. Jav. n. 10—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 375. 1915.

? *Polyporus tristis* LÉV. Champ. Mus. 126. 1846—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 388. 1915.

Polyporus vinosus BERK. Ann. Mag. Nat. Hist. II, 9 : 195. 1852—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 342, *f. 679*. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 16. 1912—安田，植. 雑. 26 : 234. 1912; 31 : 53. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 296. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 439, *pl. 210, f. 3*. 1939)

Polyporus xerophyllaceus BERK. Jour. Bot. 8 : 200. 1856.

(non CURREY, Trans. Linn. Soc. II, 1 : 120. 1876)

Polystictus xerophyllaceus (BERK.) COOKE, Grev. 14 : 86. 1886.

Polystictus vinosus COOKE, Grev. 15 : 51. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 273. 1888.

(S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 123. 1940)

? *Trametes tristis* (LÉV.) SACC. Syll. Fung. 6 : 336. 1888.

Polystictus Mollerianus SACC. et BERL. Rev. Myc. 11. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 182. 1891.

Coriolus vinosus PAT. Ess. Tax. 94. 1900.

Nigroporus vinosus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 361. 1905; South. Polyp. 37. 1915.

Polystictus badius (JUNGH.) BRES. Ann. Myc. 10 : 504. 1912. (non BERKELEY. 1842)

Polyporus Mollerianus LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 147. 1912 ; 4, Apus Polyp. 342. 1915; 5 : 660, *f. 944*. 1917.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 5. 1917)

子實體は無莖，往々基部狹細莖狀となり着生或は廣く垂下し疊生す。傘は通常半圓形乃至腎臓形，薄く，1—3×4—10×0.4—1 cm，表面は葡萄色，暗紫褐色乃至黑紫色，濃淡の環紋を有し，往々細き放射狀皺あり，細絨毛を有し或は無毛，緣は幼時帶黃色，薄く，鋭し，乾時屢々下屈す，肉は栓木質，剛直强靱，淡葡萄色乃至淡紫色，管孔は長さ 3—5 mm，灰紫色，孔口は小圓形，1 mm 間 7—9 個，孔壁は薄く，全緣，葡萄色，幼時粉狀，老時帶黑色，胞子は腸詰形，平滑，無色，4—4.5×1.5μ。

所在及產地

エゾマツ (*Picea*) マツ (*Pinus*) 其他の切株上　全土—亞(滿.支.印)中米.阿.南洋

和名 ブドウタケ (葡萄茸)〔安田〕

Fomitopsis olivacea (LLOYD) IMAZ. et AOSH.

シイノサルノコシカケ

IMAZEKI & AOSHIMA, 日. 植. 病. 學. 報. 15 : 9. 1950.

(原, 日. 菌. 目. 125. 1954)

Fomes olivaceus LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 14. 1917; 6 : 984. 1920; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 84. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 13, 14. 1917—安田, 植. 雜. 31 : 294. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 140. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 451, *pl. 216*, *f. 1*. 1939)

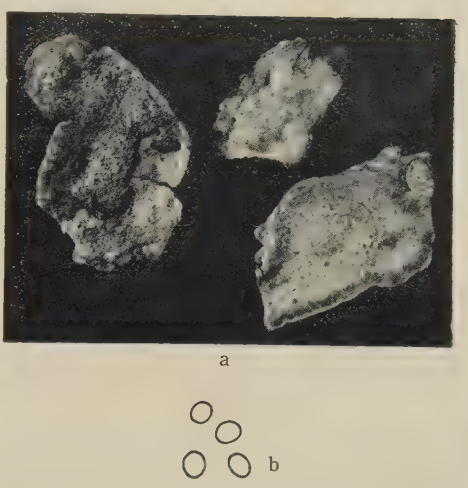
Fomitopsis cinereus IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943.

(原, 日. 菌. 目. 124. 1954)

子實體は殆ど背着，栓木質，圓形或は楕圓形にて平盤狀，背面の大部分を着生物に附着し，緣邊遊離して狹き背面を露わし，稀に傘狀となる，徑 7—15 cm，厚さ 0.5—3 cm，背面は暗褐色，短密毛を被むり，不規則なる階段狀環層をなし，甚だ粗荒，肉は輕き栓木質，淡セピア色，管孔面は暗褐色にて藍色を帶ぶ，不明瞭なる層をなす，孔口は微細，嚢狀體なし，胞子は球形，平滑，無色，徑 4—5μ。

所在及產地

シイ (*Shiia*) の枯幹上　本州


a　b

第 229 圖　シイノサルノコシカケ *F. olivacea*
a. 子實體 ×1.2　b. 胞子 ×612 (大谷氏)

和名 シイノサルノコシカケ (椎猿腰掛)〔安田〕

Fomitopsis caliginosa (BERK.) IMAZ.

クロブドウタケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 110. 1952.

(原, 日. 菌. 目. 124. 1954)

Polyporus caliginosus BERK. Jour. Linn. Soc. 16 : 46. 1878.

Fomes caliginosus COOKE, Grev. 14 : 20. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 194. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 237. 1915.

Pyropolyporus caliginosus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 34 : 478. 1907.

Coriolopsis Copelandi MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 35 : 392. 1908.

Fomes roseo-albus BRES. Ann. Myc. 8 : 587. 1910; Hedwigia, 53 : 57. 1913—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 284. 1915.

子實體は多年生，無莖，稍々疊生，傘は半圓形にて貝殼狀，横に連結す，僅か撓曲性，3—4×5—6×0.3—0.5 cm，表面は暗褐色乃至黑色，無毛，時に光澤あり，淺環溝あり，乾時僅か放射狀に粗糙，緣は寧ろ厚く，無性，肉はホクチ狀，暗褐色，厚さ 1—2 mm，管孔は長さ 3—4 mm，内部暗褐色，子實層は泥褐色，時に殆ど黑色，乾時裂く，孔口は微小，角形，1 mm 間 7—9 個，孔壁は薄し，全緣或は稍々房毛あり，胞子は類球形，平滑，稍々無色，徑 3μ。

所在及產地

廣葉樹枯幹上　九州—亞(比.臺)南洋.濠

和名 クロブドウタケ (黑葡萄茸)〔今關〕

Fomitopsis castanea IMAZ.

クロサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 42: 1, *pl. 1, f. 4.* 1949.

(千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 32. 1952)

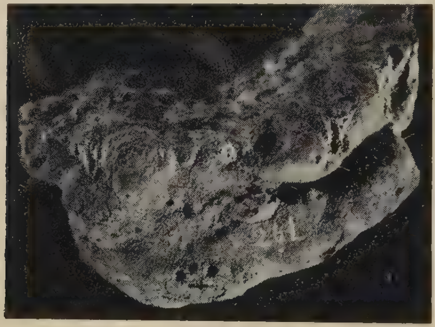
Fomes melanoporus (non COOKE)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45 : 5. 1913; 5, Lett. 65:13. 1917; 7:1126. 1922—安田, 植. 雜. 27: 339. 1913; 31: 50. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 139. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 453, *pl. 217, f. 4—5.* 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 367, *f. 179—81.* 1945)

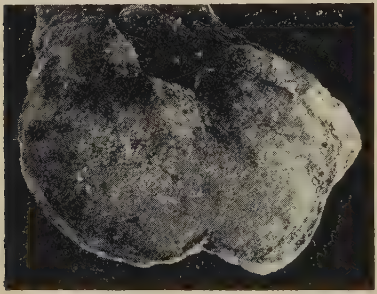
Fomitopsis melanopora IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943.

(原, 日. 菌. 目. 125. 1954)

子實體は多年生, 無莖, 時に全背着, 傘はほぼ蹄形なるも不整形となり易し, 幅 30 cm, 厚さ 10—15 cm に及び, かなり大形, 表面の幼部は栗褐色にて微細粉毛あり, 古部は黒褐色にて表層硬化して殼皮となる, 廣き凹凸に富む畝形環狀隆起帶と著しき環溝を有す, 緣は一般に厚くして鈍し, 傘肉は比較的軟き木栓質, 暗紫褐色, 同心的輪紋あり, 子實層托は管孔狀, 多層, 肉と同色, 管孔面は暗黑色乃至濃栗褐色, 孔口は微細, 1 mm 間に 5—6 個, 孔緣は全緣, 孔壁薄し, 嚢狀體なし, 胞子は類球形, 平滑, 無色, 徑 4—5 μ。材の褐腐を起す。



a



b



c

第 230 圖 クロサルノコシカケ *F. castanea*

a. 子實體表面 b. 同裏面 ×3/5 c. 胞子 ×612 (大谷氏)

所在及産地

廣葉樹特にナラ類(*Quercus*) クリ(*Castanea*)の枯幹, 切株, 稀に立木上 北海道, 本州

和名 クロサルノコシカケ (黑猿腰掛) 〔安田〕

Fomitopsis pubertatis (LLOYD) IMAZ.

ホウネンタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943.

(原, 日. 菌. 目. 125. 1954)

Polyporus pubertatis LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 358, *f. 692.* 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 116. 1936—YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 30 : 66. 1916 (nom. seminud.)—TANAKA, Mycologia, 11 : 153. 1919.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 56 : 5. 1915—安田, 植. 雜. 31 : 54. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 481. 1917; ed. 3. 293. 1927)

子實體は無莖, 栓質, 堅緻, 傘は半圓形, 縱斷面三角形, 3—4×7.5—8×2—3 cm, 輕し, 表面は暗淡褐色, 平滑, 極めて微細なる密毛を被むる, 無環溝, 肉は暗淡褐色にて厚し, 管孔は同色にて稍々石竹色を帶ぶ, 長さ長く, 0.5—1 cm, 孔口は小圓形, 孔壁厚し, 同色, 胞子は其量多く, 淡色なるを特徴とし, 楕圓形, 平滑, 約 5×3 μ。

所在及産地 樹皮面 本州—濠. 南米

和名 ホウネンタケ (豐年茸) 〔安田〕

疑 問 種

Fomes caryophylli RAC.

(安田, 植. 雜. 26:329. 1912; 31:51. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 239. 1917; ed. 3. 137. 1927)

Fomes Terminaliae S. ITO et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 125. 1940. (再調査中)

Rigidoporus MURR.

スルメタケ屬

MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32:478. 1905.

Fomitopsis KARSTEN, Rev. Myc. 3(9) : 18. 1881. pr. p.

Fomes KICKX, Auct. plur. pr. p.

子實體は 1 年生或は多年生, 無莖, 傘は一般に扁平, 多くは乾時强く下方に屈曲す, 表面は無毛平滑, 殼皮の分化は全く或は殆ど無し, 肉は類白色乃至淡黃色, 或は小豆色, 革栓質, 乾時著しく硬化, 木質となる。子實層托は管孔狀, 1 又は多層, 實質は傘肉と異質にて, 色一般に濃色, 孔口は細小, 圓形,

胞子は無色，平滑，嚢状體なし，樹上生。

（本屬名は rigidus (剛直なる) porus(穴)より出づ)

基準種　*R. zonalis* (BERK.) IMAZ.

〔因記〕從來*Fomitopsis*屬中に收めたる菌の中にて殼皮の分化なきか殆ど無きものを分ちて本屬に收む。

本邦既知種檢索表

A. 大形肥厚菌。

a. 極めて大形となる，表面白色，老時暗色，瘤を密布す，緣は鈍く，眞直或は僅か下屈，下面白乃至灰褐色，紫色を帶びず，管孔は白乃至褐色，ニレ等廣葉樹根際上。

ニレサルノコシカケ **R. ulmarius** (313)

b. 橫徑 25 cm に及ぶ，表面淡黃褐乃至黃白，瘤なきか少し，緣は薄く，多少下屈，下面は表面より濃色にて紫色を帶ぶ，管孔は褐色，スギ等針葉樹根際及幹上。

オオシロサノコシカケ **R. geotropus** (314)

B. 中形薄肉菌にて貝殼狀。

a. 傘肉は白色乃至淡黃色。

α. 傘は鮮赤褐，下面鮮橙赤色，根の白腐を起す。

ネツタイスルメタケ **R. lignosus** (314)

β. 傘は鈍赤褐，下面帶肉色乃至汚鉛灰色，前者より小形，孔腐を起す。

スルメタケ **R. zonalis** (315)

b. 傘肉は小豆色，全體淡靑色粉を裝う。

ヨソオイサルノコシカケ **R. durus** (315)

Rigidoporus ulmarius (SOW. ex FR.) IMAZ.
ニレサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Gov. For. Exp. St. 57:97. 1952.

Boletus ulmarius SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 1: *pl. 88*. 1797.

Polyporus ulmarius FR. Syst. Myc. 1:365. 1821; Epicr. Myc. 469. 1838; Hymen. Eur. 562. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):142. 1836; Outl. Brit. Fung. 246, *pl. 16*, *f. 5*. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:276. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 10: 669. 1880—WINTER, Pilze, 1: 421. 1886.

Fomes ulmarius GILL. Champ. Fr. 683, cum icone. 1874—COOKE, Grev. 13: 119. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:166. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 997. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 218. 1892; Brit. Fungi, 376. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 350. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 191. 1912—BRESADOLA, Ann. Myc. 10: 496. 1912. pr. p.—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 228. 1915—REA, Brit. Basid. 595. 1922—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 359, *pl. 241 a*. 1940.

(今關，日. 隱. 植. 圖. 449, *pl. 215*, *f. 4*. 1939. pr. p.)

Placodes ulmarius QUÉL. Enchir. Fung. 172. 1886.

Ungulina ulmaria PAT. Ess. Tax. 103. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 176. 1925; Hymen. Fr. 603. 1928.

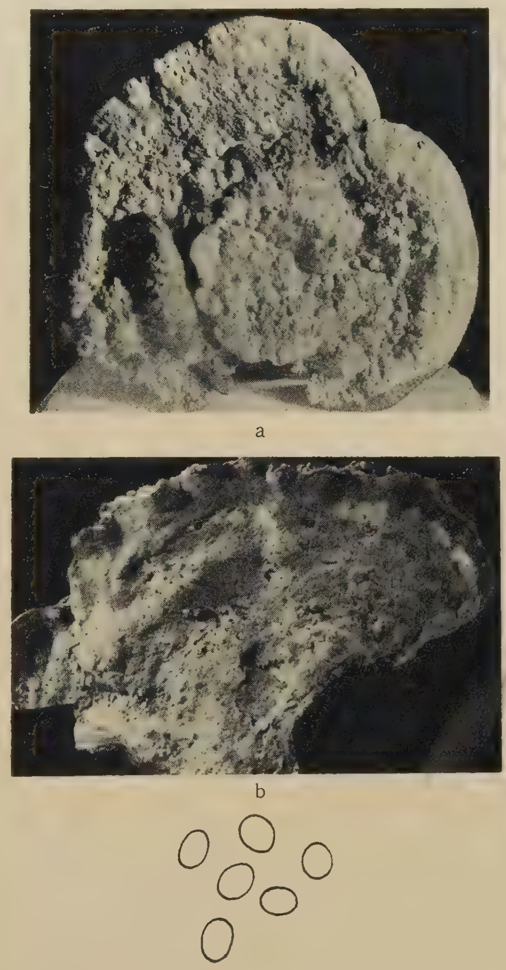
Fomitopsis ulmaria BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 55. 1941.

(千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 32. 1952)

Trametes picta (non BERK. et BR.)

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1126. 1922)

子實體は無莖，栓木質，孤生，傘は半圓形にて扁平或は丸山形にて往々不定形塊狀となる，傘は大形



a

b

c

第 231 圖　ニレサルノコシカケ *R. ulmarius*
a. 子實體表面 ×1/6 (龜井氏)　b. 同裏面 ×2/5
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

にて横径 60cm に及び，稀に 135cm に至る，表面は白色，老時暗色となる，不規則なる多數の瘤を密布し，無環紋，無環溝，時に瘤が幾分環狀に列ぶ，無毛，殼皮なし，緣は鈍く，眞直，時に僅か下屈す，下面無性，肉は白色，乾時往々材色，甚だ堅し，管孔面は白色乃至褐色，乾時灰褐色，紫色を帶ぶることなし，管孔は有層，層間に傘肉介在し，傘肉と同色，長さ 3—8mm，孔口は小にて圓形，1mm 間 5—6 個，孔緣厚し，胞子は類球形，平滑，無色，徑 5—7μ。心材の腐朽を起す。

所在及產地

ニレ (*Ulmus*)等 廣葉樹根際上

北海道，本州一歐

和名 ニレサルノコシカケ（楡猿腰掛）〔今關〕

Rigidoporus geotropus (COOKE) IMAZ.

オオシロサルノコシカケ

Polyporus geotropus COOKE, Grev. 13:32. 1884.

Fomes geotropus COOKE, Grev. 13: 119. 1885 —SACCARDO, Syll. Fung. 6:166. 1888—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 100. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 228. 1915.

Fomes ulmarius (non GILL.)

（逸見，平山及野島，植. 雜. 43:657, *f. 2—9.* 1929 —HEMMI, Mem. Coll. Agr. Kyoto Imp. Univ. 20: 3, *f. 1—2, pl. 1, f. 1—5, pl. 2, f. 1—2, pl. 3, f. 1—2.* 1932; 日. 學術協. 報. 7: 406. 1932; 及赤井, 木. 腐. 菌學, 344, *f. 158—160.* 1945—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:125. 1940）

子實體は無莖，木栓質或は木質，孤生或は疊生，傘は半圓形にて扇形或は丸山形，横徑 25cm に及ぶ，表面は淡黃褐乃至黃白色，平滑，無環紋，不規則なる環溝あり，緣は薄くして鋭く或は稍々鈍く，多少下屈し波狀をなす，肉は幼時比較的柔軟，白色，老時帶白色となり堅し，管孔面は表面より濃色にて淡紫褐色，淡赤褐色乃至淡黃色，管孔は有層，各層間に傘肉介在し，赤褐色乃至褐色，管長は 4—15mm，孔口は小にて，1mm 間4 —7 個，孔緣は薄し，胞子は類球形，平滑，無色，徑 5—8.5μ。心材腐朽を起す。

所在及產地

スギ (*Cryptomeria*) 等針葉樹幹及根際上

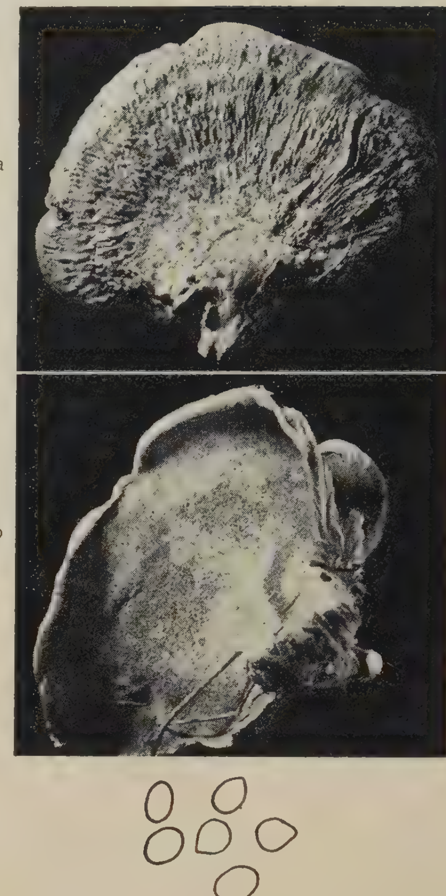
本州，九州，小笠原島一北米

和名 オオシロサルノコシカケ（大白猿腰掛）〔逸見〕

〔**因記**〕本菌は前種ニレサルノコシカケと類似し BRESADOLA(1912) 氏は同一種とし，LLOYD(1915) 氏は多分同一種なるべきかと述べ，逸見氏はこれに贊同せられたり，其後 CURTWRIGHT, FINDLEY (1950) 兩氏は英國 *Fomes ulmarius* の培養最適溫度は 28° にて 38° にては生長せざるに逸見氏の最適溫 36° にて 44° に至るも尙幾分生長するとの記錄より見て，兩種は異なるものなるべきを記せり。

a

b



c

第 232 圖 オオシロサルノコシカケ *R. geotropus*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×3/4
c. 胞子 ×612 （大谷氏）

Rigidoporus lignosus (KLOTZ.) IMAZ.

ネツタイスルメタケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57: 118, *pl. 12, f. 36.* 1952.

（原, 日. 菌. 目. 317. 1954）

Polyporus lignosus KLOTZ. Linn. 8: 485. 1833 —FRIES, Epicr. Myc. 471. 1838—COOKE, Grev. 13: 116. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 146. 1888.

Polyporus Auberianus MONT. Pl. Cell. Cuba, 339, *pl. 16, f. 1.* 1842; Syll. Crypt. n. 500. 1856 —COOKE, Grev. 13:116. 1885—SACCARDO, Syll.

Fung. 6 : 145. 1888.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32:219. 1893; Monsunia, 1 : 11. 1899—松村, 植. 名鑑, 1 : 163. 1904—白井, 日. 菌. 目. 72. 1905; ed. 2. 471. 1917; ed. 3. 288. 1927)

Fomes Auberianus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 491. 1905; N. Am. Fl. 9 : 100. 1908.

Ungulina Auberiana PAT. Ess. Tax. 103. 1900.

Fomes lignosus BRES. Ann. Myc. 10:496. 1912; Hedwigia, 53 : 60. 1913—LLOYD, Myc. Writ. 4 : 519, *f. 515*. 1912; Fomes. 230, *f. 580—1*. 1915.

Rigidoporus microporus van OVEREEM, Icon. Fung. Malay, 5 : 1—5, *pl. 5*, *f. 1—9*. 1924. pr. p.

子實體は坐生，時に背着，疊生，傘は半圓形にて貝殼狀或は扁平，4—10×7—15×1—2cm，稀に厚さ4—6cm に至る，表面は無毛，生時鮮赤褐色，後放射狀線條及弱き環溝あり，緣は薄く或は鈍く，初め黃色，後淡黃褐色，傷時栗褐色となる，波狀或は淺裂し，下屈す，肉は木栓質乃至木質，白色，老時帶黃色，厚さ 0.5—1.5cm，管孔面は鮮橙赤色或は赤褐色，管孔は有層，各管長 3—7mm，淡栗褐色，孔口は小にて圓形，徑 0.06—0.12mm，孔緣厚し，胞子は球形，平滑，無色，徑約 3μ。根を一樣に白腐せしむ。

所在及產地

廣葉樹根際上

小笠原島—中南米. 濠. 南洋. 亞(臺. 馬. 錫)

和名 ネツタイスルメタケ（熱帶鯣茸）〔今關〕

〔**因記**〕熱帶地方に於けるゴムノキの大害菌として有名なる菌なり。

Rigidoporus zonalis (BERK.) IMAZ.

スルメタケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 119. 1952.

(原, 日. 菌. 目. 317. 1954)

Boletus zonalis KONIG, Ann. Mag. Nat. Hist, 1, Suppl. 10 : 375, *pl. 10*, *f. 5*. 1843.

Polyporus zonalis BERK. Jour. Bot. 6:504. 1847—COOKE, Grev. 13:116. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:145. 1888—BRESADOLA, Hedwigia, 51 : 310. 1912; 53 : 53. 1913—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:101. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 336, *f. 675*. 1915—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48 : 287. 1921.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 49:10. 1914; Lett. 61:5. 1916—安田, 植. 雜. 28:151. 1914; 31:53. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 296. 1927—今關, 植. 研. 雜. 17 : 180. 1941)

Polyporus rugulosus LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2 : 189. 1844—BRESADOLA, Ann. Myc. 10 : 495. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 385. 1915.

(安田, 植. 雜. 28:294. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 481. 1917; ed. 3. 294. 1927)

Fomes rugulosus COOKE, Grev. 14 : 17. 1888—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 168. 1888.

Scindalma rugulosum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 519. 1898.

Polyporus rigidus LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2 : 189. 1844—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 337. 1915; 6 : 1078, 1083. 1920.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53:8. 1914—安田, 植. 雜. 31 : 53. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 294. 1927)

Polystictus rigidus COOKE, Grev. 14:85(n. 849, non n. 860). 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 271. 1888.

Microporus rigidus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 497. 1898.

? *Polyporus Yoshinagai* LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54 : 5. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 126. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 357. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915—安田, 植. 雜. 29 : 193. 1915; 31 : 55. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 483. 1917; ed. 3. 296. 1927)

Fomitopsis zonalis IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943.

子實體は坐生，半背着或は全背着，傘は半圓形或は側着癒合して棚狀をなす，各傘は貝殼狀或は扁平，重疊群生す，0—2.5×1—5×0.2—0.5cm，表面は赤褐色にて無毛，放射狀線條及環溝あり，緣は初め厚く，後薄く，乾時下屈す，肉は木栓質にて白色乃至帶赤黃色，乾時堅くして剛直，管孔面は通常多少肉色を帶び，老時汚鉛灰色となる，管孔は長さ 1—3mm，白色，孔口は小にて圓形，1mm 間 4—5 個，壁は厚し，胞子は球形，平滑，無色，徑 2.5—5μ。孔腐を起す。

所在及產地

材上　本州, 四國, 九州, 小笠原島—北南米. 濠. 南洋. 亞(比. 臺. 錫)

和名 スルメタケ（鯣茸）〔安田〕

Rigidoporus durus (JUNGH.) IMAZ.

ヨソオイサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 117. 1952.

(原, 日. 菌. 目. 317. 1954)

Polyporus durus JUNGH. Crypt. Java, 1 : 62. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 147. 1888—BRESADOLA, Hedwigia, 51 : 311. 1912; 53 : 54.

1913—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 341. 1915.

Nigroporus durus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 34 : 471. 1907.

子實體は無莖，疊生，傘は半圓形にて扁平，薄く，5×8×1cm に及ぶ，表面は平滑，帶紫灰色にて菫黑色を帶び，粉狀，淡青色，緣は薄く，多少鋭く，下屈す，肉は乾時甚だ堅く，剛直，類小豆色，有層，厚さ 2—4mm，管孔面は黑紫色乃至帶菫黑色，淡青色粉を裝う，管孔は微細，圓形，胞子は球形，平滑，無色，徑約 3μ。材の白腐を起す。

所在及産地

ハイノキ (*Symplocos*) 樹材上

九州一亞(爪.比.臺)阿

和名 ヨソオイサルノコシカケ(裝猿腰掛)〔今關〕

Truncospora PILÁT

ウズラタケ屬

PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 365. 1941.

子實體は一年生又は多年生，無莖，半圓形或は半背着生，傘の表面は無毛，無殼，肉は淡色，木栓質，子實層托は管孔狀，單層或は多層，孔口は小，實質は傘肉と同質，胞子は無色，截頭狀卵形，平滑，嚢狀體なし。樹上生。

(本屬名は truncos(截頭の) spora(胞子)より出づ)

基準種 *T. ochroleuca* (BERK.) PILÁT

〔**因記**〕 本科に屬する菌にて截頭の胞子を有するものはマンネンタケ (*Ganoderma*) コフキタケ (*Elfvingia*) 等極めて尠く，本屬も亦特異なるものなり。

本邦既知種檢索表

A. 傘は後種に比して大形，0.5—3×1—4×1.5—2 cm，表面帶赤黃色乃至帶黃褐色，緣は同色，肉は藁色或は淡黃色，胞子12—15×6—8μ，ウメ，スモモ等上。 ウズラタケ ***T. ochroleuca*** (316)

B. 傘は 0.7—1×1.8—2.5×0.5cm，表面黑褐色，緣は黃褐色，肉は淡褐，胞子 7×5μ，アベマキ上。 ヒメウズラアミタケ ***T. truncatospora*** (316)

Truncospora ochroleuca (BERK.) PILÁT

ウズラタケ

PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 365. 1941.

Polyporus ochroleucus BERK. Lond. Jour. Bot. 7:63. 1848—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 145. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 311, *f. 651*. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 39:6. 1912; Lett. 42 : 10, 15. 1912; Lett. 56 : 4. 1915—安田，植. 雜. 26 : 361. 1912; 31 : 52. 1917—梅村，植. 雜，30:104. 1916—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 479. 1917; ed. 3. 293. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 435, *pl. 208*, *f. 3—4*. 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，315, *f. 128—31*. 1945)

Trametes ochroleucus COOKE, Grev. 15 : 53. 1886; Handb. Austr. Fungi, 158. 1892.

Ungulina ochroleuca PÁT. Cat. Pl. Tunis. 48. 1897; Ess. Tax. 102. 1900.

Fomes ochroleucus LLOYD, Myc. Writ. 5: 714, *f. 1070*. 1917; 6 : 1083. 1927; 7 : 1299. 1927; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 84. 1936.

? *Polyporus junctus* LLOYD, Myc. Writ. 7:1317, *f. 3028*. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 108. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1296. 1924)

Fomitopsis ochroleuca IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 92. 1943—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 76:5, *pl. 3*, *f. 1*. 1948.

(原，日. 菌. 目. 125. 1954)

子實體は多年生，堅緻にて栓質，無莖，孤生或は疊生，傘は蹄形或は3稜形にて，小形の著しき尖頂頭を有す，0.5—3×1—4×1.5—2cm，表面は帶赤黃色乃至帶黃色，暗色の環紋を有し，同心環溝あり，細かき放射線條を有し，往々バニス狀光澤あり，緣は鋭或は鈍圓，同色，全緣或は圓刻あり，肉は厚さ 1—3mm，藁色或は淡黃色，不明瞭の層あり，管孔面は扁平或は凹面，赭色，孔壁は齒狀ならず，管孔は無層或は不明瞭の層あり，孔口は圓形或は角形，各層に於ける長さ 3—6mm，斷面藁色或は材色，1mm 間 3—4 個，孔壁厚し，胞子は長楕圓或は楕圓狀倒卵形にて先端圓形，基端截頭，平滑，無色，12—15×6—8μ。材の白腐を起す。

所在及産地

ウメ，スモモ (*Prunus*) 其他廣葉樹枯幹，

支柱上 本州，四國，九州一濠.阿.亞(支.印.錫)

和名 ウズラタケ (鶉茸)〔安田〕

Truncospora truncatospora (LLOYD)

ヒメウズラアミタケ

Trametes truncatospora LLOYD, Myc. Writ. 5 : 853, *f. 1429*. 1919; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 147. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 69 : 10. 1919; 980. 1920—安田，植. 雜. 33 : 284. 1919—白井，日. 菌. 目.

ed. 3. 394. 1927)

子實體は半背着生，栓木質，傘は半圓形，0.7—1×1.8—2.5cm，基部厚さ約5mm，表面は黑褐色，略々平滑，著しき環溝あり，緣は黃褐色を帶ぶ，肉は淡褐色，KOH 液にて赤變せず，子實層托は淡褐色，管長は短く，孔口は白色，甚だ小，圓形，孔壁は厚し，囊狀體なし，胞子は卵圓形，基部截頭，平滑，無色，7×5μ。

所在及產地

アベマキ (*Quercus*) 幹上　本州一亞(朝)

和名　ヒメウズラアミタケ（姬鶉綱茸）〔安田〕

6. Favolinae ハチノスタケ亞族

子實體は1年生，有莖，樹上生，傘は無皮又は有皮，表面は平滑或は有毛又は鱗皮を帶ぶ，傘肉は革肉質或は革質，子實層托は管孔狀，胞子は無色，平滑。

本亞族は傘肉の靱肉質（革肉質或は革質），有莖なる一群にて容易に他と區別さる。

屬檢索表

A. 傘肉と實質とは異質，傘面の薄皮は一般に發達良好，孔口は圓形，稀に長蜂窩狀，一般に微細。

オツネンタケモドキ屬 **Polyporellus** (317)

B. 傘肉と實質とは全く或は略々同質。

a. 傘面の表皮は殆んど分化せず，孔口は一般に長蜂窩狀，中或は大形。

ハチノスタケ屬 **Favolus** (322)

b. 傘面に薄皮あり，孔口は圓形，微細。

ツヤウチワタケ屬 **Microporus** (326)

Polyporellus KARST.
オツネンタケモドキ屬

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5: 23. 1789.

Favolus FRIES, em. AMES, Ann. Myc. 11: 240. 1913. pr. p.

Leucoporus QUÉLET, Enchir. Fung. 165. 1886. pr. p.

Melanopus PATOUILLARD, Hymen. Eur. 137. 1887. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生，有莖，極めて稀に無莖，莖は中心生乃至側生，屢々明瞭なる表皮を被むる。傘は稍々漏斗狀の圓形，或は扇形又は箆形，表面は一般に薄皮を被むり，平滑又は密毛を被むる，肉は生時强靱なる肉質乃至革肉質，乾時收縮硬化し强靱性を失う，類白色，子實層托は管孔狀，實質は傘肉と異質にて，構成菌絲は彼れより纖細にて一般に膠着性あり，孔口は圓形，稀に放射狀に長き蜂窩狀，通常微細，孔緣は薄くして全緣或は細鋸齒あり，胞子は無色，平滑，囊狀體なし，樹上生。

（本屬名は *Polyporus*（屬名）の縮小詞なり）

基準種　*P. brumalis* (PERS. ex FR.) KARST.

〔因記〕 *Favolus* 屬については人により各々解釋を異にせるところにて AMES 女史は管孔の性質を輕視し綜合的性質によりて其範圍を擴大せるも，その內に傘肉と實質と異質にて薄皮の發達良好にて孔口圓形且つ小なる一群と，傘肉と實質と略々同質，表皮の殆んど分化せざる孔口やや大なる長蜂窩狀なる一群とあり，よりて前者を本屬 *Polyporellus* とし，*Favolus* 屬を後者に限定されたるものなり。

本邦既知種檢索表

A. 莖の基部黑色ならず，傘は徑5cm以下，表面に微細剛毛，稀に僅か小鱗片あり，孔口は1mm間2—3，胞子は圓筒形，9×2.5μ。

オツネンタケモドキ ***P. brumalis*** (317)

B. 莖の基部黑色。

a. 傘は大形，表面に大なる壓着せる鱗片を有し，孔口は大形，徑1—4mm，莖は通常側生，胞子は長卵或は長楕圓形，12—16×5—6μ。

アミヒラタケ ***P. squamosus*** (319)

b. 傘は大形ならず，表面には全く鱗片なく，孔口は通常小形。

α. 傘面は帶赤黃色乃至赤褐色，放射狀線條を有し或は殆どなく，孔口は1mm間4—5，胞子は6—8(10)×2.5—3.5μ。

キアシグロタケ ***P. varius*** (320)

β. 傘面は褐色乃至殆ど黑色にて，少くとも中央部或は成時に於て著し，孔口は1mm間6—8，胞子は5.5—7×2—3μ。

アシグロタケ ***P. picipes*** (321)

Polyporellus brumalis (PERS. ex FR.) KARST.
オツネンタケモドキ

KARSTEN, Hattsv. 2: 28. 1882—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 4. 1932; 49: 257. 1933; 52: 305. 1936; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 63, *pl. 26—29.* 1936; Beih. Bot. Centralbl. 41 B: 6, *f. 1, pl. 1.*

1937.

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest. Exp. St. Tokyo, 57 : 96. 1952

Boletus Polyporus RETZ, Vet. Acad. Handl. 1769 : 253. 1769.

Boletus brumalis PERS. Neues Mag. Bot. 1 : 107. 1794; Syn. Meth. Fung. 517. 1801—FRIES, Obs. Myc. 2 : 159. 1818.

Boletus fasciculatus SCHRAD. Spic. 154. 1794.

Polyporus brumalis FR. Syst. Myc. 1:348. 1821; Epicr. Myc. 430. 1838; Hymen. Eur. 526. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:42. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):135. 1836; Outl. Brit. Fung. 237. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 434. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 21. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 262. 1871; Grev. 13 : 81. 1885; Handb. Austr. Fungi, 112. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:268. 1872—GILLET, Champ. Fr. 666, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:251. 1876—WINTER, Pilze, 1:450. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:63. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 959. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 482. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:230. 1892; Brit. Fungi, 366. 1911—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 191, *f. 186*. 1903—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 73. 1903; Icon. Myc. 20 : *pl. 951*. 1931—W. G. SMITH, Brit. Basid. 336. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 218. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 170. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 110, *pl. 13, f. 47*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 107. 1914—REA, Brit. Basid. 576. 1922—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:132. 1933—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 36. 1934—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 58. 1941.

(松村, 植. 名鑑, 1 : 163. 1904—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 13. 1912; 6 : 1098. 1920—梅村, 植. 雜. 30 : 104. 1916—安田, 植. 雜. 36 : 82. 1922—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 109. 1931)

Polyporus luridus BERK. et CURT. Grev. 1 : 37. 1879.

Leucoporus brumalis QUÉL. Enchir. Fung. 165. 1886; Fl. Myc. 403. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 82. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 113. 1925; Hymen. Fr. 530. 1928.

Polyporellus Polyporus MURR. Jour. Myc. 9 : 93. 1903.

Polyporus Polyporus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30:33. 1904; N. Am. Fl. 9:56. 1907; North. Polyp. 22. 1914; South. Polyp. 22. 1915; Mycologia, 10 : 108, *pl. 6, f. 3*. 1918.

Favolus brumalis AMES, Ann. Myc. 11 : 241. 1913.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:95. 1943; 植. 分. 地. 13:252. 1943—原, 日. 菌. 目. 123. 1954)

子實體は有莖, 生時皮質强靭, 乾時剛直, 傘は外圍圓形にて丸山形, 後扁平となり, 時に中央に幾分中窪を有し或は淺漏斗状をなす, 徑 1.5—5cm, 厚



a b c

第 233 圖　オツネンタケモドキ *P. brumalis*
a. 子實體表面 (鹿井氏)　b. 同裏面 ×7 10
c. 胞子 ×612 (六谷氏)

さ 0.2—0.4cm, 傘面は黃褐色乃至黑褐色或は殆ど黑色となる, 微細なる剛毛を有し, 稀に僅か小鱗片を有す, 後平滑となる, 通常無環紋なるも, 時に之れを有す, 傘緣は薄くして全緣, 幼時內捲し, 乾時內屈す, 肉は白色或は淡色, 生時柔纖維質, 乾時堅緻, 厚さ 2mm 或はそれ以下なり, 管孔は長さ 1—3 mm, 通常僅か莖上に垂下す, 孔口は白色或は帶白色, 初め圓形にて厚壁, 後角形にて薄壁となる, 1mm 間平均 2—3 個, 莖は中心生或は亞中心生, 圓柱形, 灰色或は帶褐色, 細微の剛毛あるか或は無毛, 2—3×0.2—0.3cm, 胞子は圓筒形, 時に少しく屈曲す, 平滑, 無色, 9×2.5μ。

所在及産地

枯材上　本州, 四國, 九州—
歐. 北米. 濠. 阿. 亞(西比. 支)

和名 オツネンタケモドキ（擬越年茸）〔今關〕，
サカズキタケ（盃茸）〔梅村〕

Polyporellus squamosus (HUDS. ex FR.) KARST.

アミヒラタケ

KARSTEN, Hattsv. 2:30. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 290. 1889—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 5. 1932; 51: 353. 1935; Atl. Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 86, *pl. 39—42*. 1936; Beih. Bot. Centralbl. 56: 40, *f. 5*, *pl. 8*. 1937; Ann. Myc. 38:70. 1940.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57: 96. 1952)

Boletus Juglandis SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl. 101—2*. 1763—PERSOON, Myc. Eur. 2: 521. 1825.

Boletus caudicinus var. 1, SCOP. Fl. Carn. 2: 469. 1772.

Boletus cellulosus LIGHTF. Fl. Scott. 2: 1032. 1777.

Boletus squamosus HUDS. Fl. Angl. 626. 1778—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 3: *pl. 260*. 1803.

Polyporus Ulmi PAUL. Traite Champ. 2: 102. 1793.

Boletus platyporus PERS. Syn. Meth. Fung. 521. 1801.

Polyporus squamosus FR. Syst. Myc. 1: 343. 1821; Elench. Fung. 1:73. 1828; Epicr. Myc. 438. 1838; Hymen. Eur. 532. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):134. 1836; Outl. Brit. Fung. 232. 1860—CORDA, Icon. Fung. 3: 51, *pl. 9*, *f. 132*. 1839—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 432. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:222. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 265. 1871; Grev. 13: 82. 1885; Handb. Austr. Fungi, 115. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:270. 1872—GILLET, Champ. Fr. 668, cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1: 445. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:79. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 951. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 479. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:232. 1892; Brit. Fungi, 367, *pl. 28*, *f. 1*. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 338. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 81, *pl. 90*, *n. 198*. 1910—LLOYD, Myc. Writ. 3, Ovinus Polyp. 85. 1911; Stip. Polyp. 168. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 215. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 114, *pl. 14*, *f. 51*, *pl. 15*, *f. 51*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:109. 1914—REA, Brit. Basid. 579. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 20, *pl. 962—3*. 1931—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:356, *pl. 29*, *f. 1—2*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b:29. 1934—GRAFF, Mycologia, 28: 159. 1936—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 58. 1941.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43: 6. 1912—安田，植. 雜. 27: 118. 1913; 31: 56. 1917—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 15*, *f. 15—6*. 1915; 日. 菌. 圖說，*n. 103*. 1929—梅村，植. 雜. 30: 103. 1916—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 481. 1917; ed. 3. 295. 1927—堀川，臺. 博. 學. 報. 37:136. 1918—今關，日. 隱. 植. 圖. 431, *pl. 206*, *f. 1—2*. 1927—澤田，臺. 菌. 調. 報. 5:72. 1931—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，292, *f. 103—4*. 1945)

Grifola platypora S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 643. 1821.

Polyporus flabelliformis PERS. Myc. Eur. 2: 53. 1825.

Bresadolia paradoxa SPEG. Anal. Sci. Argent. 16: 15. 1883—SACCARDO, Syll. Fung. 6:388. 1888.

Cerioporus squamosus QUÉL. Enchir. Fung. 167. 1886.

Melanopus squamosus PAT. Hymen. Eur. 137. 1887; Ess. Tax. 80. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 108. 1925; Hymen. Fr. 525. 1928.

Polyporus caudicinus MURR. Jour. Myc. 9: 89. 1903; N. Am. Fl. 9: 63. 1907; North. Polyp. 24. 1914; South. Polyp. 23. 1915.

Bresadolia caucasica SCHEST. in MAGNUS, Hedwigia, 50: 101, *pl. 2*. 1911.

Favolus squamosus AMES, Ann. Myc. 11: 241. 1913.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 95. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 32. 1952—原，日. 菌. 目. 123. 1954)

子實體は短莖を有し，或は殆ど坐生，生時肉質，乾時堅緻にて甚だ脆し，孤生又は疊生，傘は外圍幼時稍々圓形なるも後速に扇形となる，徑 10—40(50) cm，厚さ 0.5—4 cm，傘面は平滑，無環紋，生時淡桃色乃至黃褐色，乾時黃褐色乃至赭色，大形の壓着或は遊離せる暗褐色乃至黑褐色の鱗片を有す，鱗片は屢々同心圓的に配列され，殊に中央部に於て著し，傘緣は薄くして銳く，內捲し，僅か波狀，肉は生時軟くして白色，乾時木栓質，淡黃色，同質，厚さ 0.5—3.5 cm，管孔は莖上に淺窩或は縱狀襞として垂下す，初は只網目なるも後長さ 8 mm 迄發達す，白色乃至淡黃色，乾時肉桂色，孔口は大形，角形にて不正形，縱狀，徑 1—4 mm，管孔と同色，孔壁は稜圓くして廢し，莖は側生或は偏心生，形及大さ種々ありて，屢々痕跡的，上部は縱狀孔にて管孔と同色，下部は帶黑色にて屢々網目あり，中實，同質，胞子は長卵形乃至長楕圓形，有嘴，平滑，無色，



第234圖 アミヒラタケ *P. squamosus*
a. 子實體 b. 同裏面 ×1/5 (龜井氏)
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

12—16×5—6μ, 嚢狀體なし。材の白腐を起す。

所在及產地 廣葉樹幹上
全土—歐. 南北米. 濠. 亞(臺. 支. 比)

和名 アミヒラタケ (網平茸)〔今關〕,
チヤウチワタケ (茶團扇茸)〔安田〕

Polyporellus varius (PERS. ex FR.) KARST.
キアシグロタケ

KARSTEN, Hattsv. 2 : 32. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 292. 1889—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:4. 1932; 49:257. 1933; Ann. Myc. 38:70. 1940.

(今關及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67 : 29. 1954)

Boletus elegans BULL. Herb. Fr. *pl. 46*. 1780.

Boletus nummularis BULL. Herb. Fr. *pl. 124*. 1782.

Boletus varius PERS. Obs. Myc. 1 : 85. 1796; Syn. Meth. Fung. 523. 1801.

Polyporus varius FR. Syst. Myc. 1 : 352. 1821; Elench. Fung. 1 : 76. 1828; Epicr. Myc. 440. 1838; Hymen. Eur. 535. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 51. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 136. 1836; Outl. Brit. Fung. 239. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 224. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 266. 1871; Grev. 13 : 83. 1885; Handb. Austr. Fungi, 116. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 271. 1872—GILLET, Champ. Fr. 667, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 258. 1876—WINTER, Pilze, 1 : 443. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 84. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 480. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 236. 1892; Brit. Fungi, 369. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 339. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 215. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 180. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 116. 1914—REA, Brit. Basid. 577. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 20 : *pl. 966*. 1831—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 358, *pl. 27, f. 4—7*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 25. 1934—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 58. 1941.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 15. 1912; 6 : 1012. 1920; 7 : 1126. 1922—安田, 植. 雜. 26 : 300. 1912; 31 : 56. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 483. 1917; ed. 3. 296. 1927—今關, 日. 隱. 植. 圖. 433, *pl. 207, f. 2*. 1939)

Grifola varia S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 644. 1821.

Polyporus elegans FR. Epicr. Myc. 440. 1838; Hymen. Eur. 538. 1874—Auct. plur.

Polyporus calceolus BRITZ. Hymen. Südbay. *pl. 593, f. 9, pl. 621, 627, f. 125*. 1879—94—MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31 : 41. 1904—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 953. 1916.

Leucoporus calceolus QUÉL. Enchir. Fung. 165. 1886; Fl. Myc. 404. 1888.

Melanopus varius PAT. Hymen. Eur. 137. 1887; Ess. Tax. 80. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 110. 1925; Hymen. Fr. 527. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6 : 482. 1935.

Favolus varius IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 95. 1943.

(千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 32. 1952—原, 日. 菌. 目. 123. 1954)

Polyporus infundibuliformis

(梅村, 富士. 植. 誌. 379. 1923—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 291. 1927)

子實體は有莖, 生時革質, 乾時剛直, 傘は圓形乃至扇形或は腎臟形にて丸山形乃至扁平, 時に中央壓低さる, 徑 3—10 cm, 厚さ 0.2—1 cm, 表面は帶赤



第235圖　キアシグロタケ *P. varius*
a. 子實體表面　b. 同裏面　×2/3
c. 胞子　×680　（大谷氏）

黄色乃至帶赤澁色或は淡赤褐色，粉毛或は殆ど無毛，暗色纖維の放射狀線條あるか或は微かなる線條あり，縁は薄く，鋭く或は鈍く，屢々下面に狹き無性部あり，肉は白色乃至淡色，木栓質，厚さ 1—7 mm，菌絲は分岐し，厚膜，幅 3—5 μ，管孔は莖上に垂下し，帶白色，乾時帶黄褐色或は暗色，長さ 1—4 mm，孔口は微細，圓形，孔壁は中位に厚く，老時薄く，全縁，莖は中心生或は側生，基部黒色，粉毛狀乃至無毛，0.2—8×0.2—1 cm，嚢狀體なし，擔子柄は幅 7—8.5 μ，胞子は圓筒形，時に僅か屈曲し，平滑，無色，6—8(10)×2.5—3.5 μ。

所在及産地

闊葉樹幹上　全土—歐．北米

和名　キアシグロタケ（黄脚黑茸）〔安田〕

〔**因記**〕キアシグロタケ（*P. varius*）とアシグロタケ（*P. picipes*）とは研究者によりて見解を異にし，同一種となすものあるも，アシグロタケは前種より傘薄く暗色なるによりて區別せらる。又 *P. varius* と *P. elegans* とを別種となし，前者は傘面に著しき線條を有し，後者は線條著しからずと稱するも，PILÁT 氏は兩者を同一菌と認めつつあり。

Polyporellus picipes (FR.) KARST.

アシグロタケ

KARSTEN, Hattsv. 2:31. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basid. 291. 1889—PILÁT, Bull. Soc. Fr. 51 : 354. 1935; Beih. Bot. Centralbl. 56 : 57, *f. 8B, pl. 4, f. 1—3, pl. 5*. 1937; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 99, *pl. 44*. 1937.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 116. 1952—原，日．菌．目．281. 1954)

Polyporus picipes FR. Epicr. Myc. 440. 1838; Nov. Symb. Myc. 35. 1851; Hymen. Eur. 534. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 239. 1860—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 224. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 265. 1871; Grev. 13 : 83. 1885; Handb. Austr. Fungi, 115. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 271. 1872; Fl. Myc. 404. 1888—GILLET, Champ. Fr. 667. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 253. 1876—WINTER, Pilze, 1 : 444. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 83. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 953. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 480. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 235. 1892; Brit. Fungi, 369. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 339. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 215. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 180. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 116, *pl. 14, f. 52*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 109. 1914—REA, Brit. Basid. 577. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 20 : *pl. 965*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 27. 1934—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 58. 1941.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1922—川村，日．菌．圖說，*n. 206*. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 110. 1931)

Polyporus fissus BERK. Lond. Jour. Bot. 4 : 318. 1847—FRIES, Nov. Symb. Myc. 35. 1851—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 83. 1888—MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 62. 1907.

Leucoporus picipes QUÉL. Enchir. Fung. 165. 1886; Fl. Myc. 404. 1888.

Melanopus picipes PAT. Hymen. Eur. 137. 1887; Ess. Tax. 80. 1900.

? *Polyporus Saitoi* LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1269, *f. 2770*. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 119. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1345. 1925)

子實體は有莖，生時革質，乾時剛直にて脆し，傘は圓形乃至腎臟形にて，丸山形乃至中窩を有し或は漏斗形，徑 5—20 cm，厚さ 0.2—0.8 cm，表面は栗褐色或は赤褐色又は暗色，稀に黄褐色，通常中央部暗色，無環紋，縁は甚だ薄く，乾時通常暗色となる，下面有性，肉は白色或は淡色，生時堅靱，厚さ 1—7 mm，菌絲は中位に分岐し，厚膜，幅 2—4 μ，莖は

中心乃至偏心生，基部黒色或は屢々管孔部に至る迄黒色，初め絨毛狀，後殆ど無毛となり，通常微細點を有す，1—5×0.5—1.5cm，管孔は莖上に垂下し，白色乃至帶褐色，長さ 1—3mm，孔口は同色，初め圓形，後多角形，老時多少癒合し迷路狀となる，1mm 間平均 6—8 個，壁は稍々厚く，全緣，囊狀體なし，擔子柄は幅 6—8μ，胞子は圓筒狀楕圓形，平滑，無色，5.5—7×2—3μ。

所在及産地
廣葉，稀に針葉樹株及丸太上
全土—歐．北米．濠．亞(西比．支)

和名 アシグロタケ（脚黒茸）〔安田〕

Favolus Fr. emend. Imaz.
ハチノスタケ屬

FRIES, Syst. Orb. Veg. 76. 1825; Elench. Fung. 1:44. 1828—IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57: 96. 1952.

Favolus FR. emend. AMES, Ann. Myc. 11: 240. 1913. pr. p.

Leucoporus QUÉLET, Enchir. Fung. 165. 1886. pr. p.

Polyporus FR. Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生にて短命，有莖或は短莖狀基脚を有す，莖は中心生，偏心生或は側生，莖肉は革質堅靱，傘は薄く，扁平，表面は平滑，鱗被を有し，表皮の分化は極めて不充分，肉は稍々肉質或は革肉質乃至革栓質，類白色，子實層托は管孔狀，實質は傘肉と同質，孔口は一般に放射狀に長き蜂窩狀又は圓形，中又は大形，孔緣は一般に不整細鋸齒狀，囊狀體なし，胞子は無色，平滑。

（本屬名は favus（蜂巣）より出づ）

基準種 *F. alveolarius* (BOSC. ex FR.) QUÉL.

〔附記〕本屬は傘肉の性質に於て *Microporus* 屬に類似するも，管孔の形狀を異にす。

本邦既知種檢索表

A. 莖は側生或は稍々偏心生。
- a. 傘面に鱗片あり。
  - α. 傘面に環溝なし。
    - I. 傘は徑 8cm に及び，暗橙黃色，孔口は大なる蜂窩狀，莖は短し。
      ハチノスタケ ***F. alveolarius*** (322)
    - II. 傘は徑 14cm に及び，黑褐色，粗剛毛ありて後鱗片狀となる，孔口は中等大，莖は屢々不規則，5cm に及ぶ。
      シロアミヒラタケ ***F. hirtus*** (323)
  - β. 傘面に環溝あり，頗る小形にて傘は徑 6mm に及ぶ，微細なる鱗片あり，白色，孔口小多角，莖は短し。
    スズメタケ ***F. rhipidium var. pusillus***(324)
- b. 傘面に放射狀條線あり。
  - α. 放射狀條線著し，傘面淡黃，老時焦茶色，孔口小圓形にて各所稍々大なるものを混ず。
    スジウチワタケ ***F. grammocephalus*** (324)
  - β. 放射狀條線不明瞭，傘面白色，孔口多角形，前種より大。
    スジウチワタケモドキ ***F. emerici*** (324)
  - γ. 放射狀條線微細，傘面白乃至淡材黃色，孔口は稍々小，圓或は稍々多角。
    ミカワタケ ***F. mikawai*** (325)

B. 莖は中心生，傘面黃褐乃至鈍黃色，小鱗片あり，孔口稍々大形，多角形，傘徑 8cm に及び，莖長傘徑に半ばす。
アミスギタケ ***F. arcularius*** (325)

Favolus alveolarius (BOSC. ex FR.) QUÉL.
ハチノスタケ

QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 11: 399. 1882; Enchir. Fung. 185. 1886; Fl. Myc. 369. 1888—AMES, Ann. Myc. 11: 241. 1913—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1060. 1916—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 394, *pl. 38, f. 5*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 90. 1934—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6: 384. 1936; Encycl. Myc. 14: 436. 1948.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 94. 1943; Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57: 108. 1952—千葉及寺本，東．大．演．林．報．43: 32. 1952—原，日．菌．目．123. 1954)

Polyporus alveolarius BOSC. Berl. Naturf. Mag. 84, *pl. 4, f. 1*. 1811—FRIES, Syst. Myc. 1: 343. 1821; Epicr. Myc. 431. 1938; Nov. Symb. Myc. 33. 1851—COOKE, Grev. 13: 82. 1885—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 58. 1941.

Merulius alveolaris DC. Fl. Fr. 6: 43. 1815.

Hexagona Mori POLLINI, Pl. Nov. 35, *pl. 1, f. 2—3*. 1816.

Cantharellus alveolaris FR. Syst. Myc. 1: 322. 1821.

Boletus arcularius SCHW. Schr. Nat. Ges. Leipz. 1: 95. 1822. (non BATSCH 1783)

Polyporus Mori PERS. Myc. Eur. 2: 35. 1825.

Favolus canadensis KLOTZ. Linn. 7: 197. 1832.

Favolus europaeus FR. Epicr. Myc. 498. 1838; Nov. Symb. Myc. 87. 1851; Hymen. Eur. 590. 1874

—GILLET, Champ. Fr. 707, cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 398, *f. 1*. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 392. 1888—QUÉLET, Fl. Myc. 369. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 2 : 17, *f. 256*. 1909—NEUMAN, Polyp. Wisc. 31, *pl. 1*, *f. 6*. 1914—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 116. 1925; Hymen. Fr. 533. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 21 : *pl. 1031*. 1932.

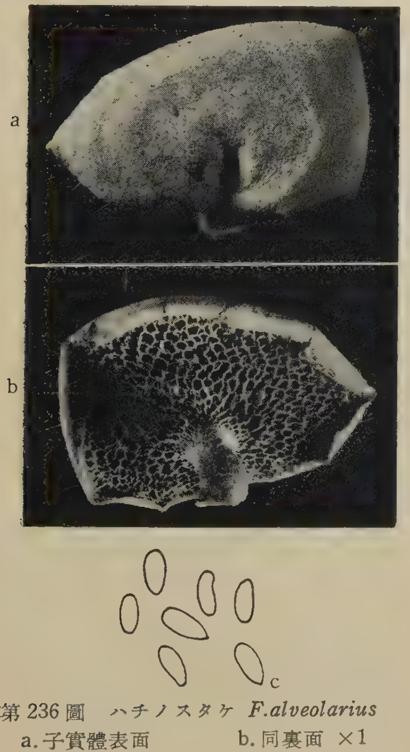
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 16. 1912; 5 : 659, *f. 943*; Lett. 65 : 5. 1917; Lett. 69 : 7, 13. 1919—安田, 植. 雜. 26 : 148. 1912; 31 : 62. 1917—三宅, 蠶. 試. 報. 1(5) : 335. 1916—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 237. 1917; ed. 3. 136. 1927—川村, 日. 菌. 圖說, *n. 226*. 1929—MATSUURA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 2 : 136, *f. 2—4*. 1930; & KANADA, 3 : 111. 1931—今關, 日. 隱. 植. 圖. 485, *pl. 233*, *f. 2*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 411, *f. 217*. 1945)

Polyporus favoloides DOASS. et PAT. Bull. Soc. Bot. Fr. 27 : 335. 1880.

Hexagona alveolaris MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31 : 327. 1904; N. Am. Fl. 9 : 48. 1907; North. Polyp. 21. 1914; South. Polyp. 19. 1915.

Polyporellus alveolarius PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 83, *pl. 33—4*. 1936; Beih. Bot. Centralbl. 56(B) : 36. 1937; Ann. Myc. 38 : 69. 1940.

子實體は有莖，傘は外圍腎臟形，扇形乃至圓形にて，丸山狀扁平，壓低さる，生時强靱，乾時脆し，1—4×1—8×0.2—0.7 cm，傘面は初め硬尖毛狀鱗片を有し，暗橙黃色乃至壼色，最後に殆ど無毛にて淡黃に褪色す，緣は初め薄く全緣にて內屈するも，老時厚さを增し，波狀乃至淺裂す，同色或は栗褐色，肉は同質，厚さ 0.5—2 mm，生時白色，乾時淡黃色乃至壼色，子實層托は莖に下垂し，初め白色乃至淡黃，乾時汚濃桃色乃至黑銹色，管長 1—5 mm，孔口は同色，放射狀に長く，長さ 2—5(10) mm，幅 1—2.5 mm，放射狀に並ぶ，孔緣は薄く，屢々孔口は裂けて合流して褶狀となる，齒牙狀，莖は側生，稀に偏心生，短く，通常側生瘤狀，厚さ 2—8 mm，長さ 1—12 mm，傘面と同色，胞子は長楕圓形，有嘴，時に屈曲す，平滑，無色，9—12×3—4.5 μ，囊狀體なし。材の白腐を起す。



a

b

c

第 236 圖　ハチノスタケ *F. alveolarius*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1
c. 胞子 ×612　(大谷氏)

所在及產地

廣葉樹材上　　全土—歐. 北米. 濠. 亜(支)

和名 ハチノスタケ (蜂巢茸) 〔安田〕

Favolus hirtus (QUÉL.) IMAZ.

シロアミヒラタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 95. 1943.

(原, 日. 菌. 目. 123. 1954)

Polyporus hirtus QUÉL. Champ. Jura Vosg. 2 : 356, *pl. 2*, *f. 7*. 1873—FRIES, Hymen. Eur. 536. 1874—GILLET, Champ. Fr. 666. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 442. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 80. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 130, *f. 426*. 1912—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 357, *pl. 27*, *f. 3*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b : 33. 1934—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 58. 1941.

Fomes hirtus COOKE, Grev. 13 : 118. 1885.

Cerioporus hirtus QUÉL. Enchir. Fung. 167. 1886; Fl. Myc. 408. 1888.

Polyporus hispidellus PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 52 : 649. 1899—NEUMAN, Polyp. Wisc. 109. 1914.

Leucoporus hirtus PAT. Ess. Tax. 82. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 115. 1925; Hymen. Fr. 532. 1928.

Scutiger hispidellus MURR. West. Polyp. 16. 1915.

Polyporellus hirtus PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 81, *pl. 32*. 1936; Beih. Bot. Centralbl. 56(B) : 33, *f. 4*. 1937.

子實體は有莖，通常孤生，肉質强靱，傘の外圍圓形或は類圓形にて丸山形或は壓低さる，徑 5—14 cm，厚さ 1—2.5 cm，表面は無環紋，粗剛毛を被むり，平滑，老時網目或は鱗片を生ず，黑褐色にて乾時變

色せざるか灰褐色となる，傘緣は波狀に裂け，同色，肉は柔軟，同質，白色乃至淡黄色，厚さ 3—20 mm，管孔は莖上に垂生，長さ 3—10 mm，白色，乾時淡黄色乃至黄褐色，傷時時に帶黑色となる，孔口は角形或は不正形，1 mm 間 1—2 個，管孔と同色，孔壁は薄く，齒狀，莖は側生或は偏心生，屢々不規則，2—5×1—5 cm，中實，同質，細密軟毛あり，白色乃至淡汚桃色，胞子は長楕圓形，平滑，無色，12—16×4—6μ，嚢狀體なし。

所在及産地

針葉樹腐木或は地上　　本州—歐.北米

和名　シロアミヒラタケ（白網平茸）〔今關〕

Favolus rhipidium (BERK.) COOKE var. **pusillus** (LÉV.) IMAZ.

スズメタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 95. 1943.

(原，日. 菌. 目. 123. 1954)

Gloeoporus pusillus LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2 : 195. 1844—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 404. 1888.

Favolus rhipidium f. *minor* P. HENN. Bot. Jahrb. 18, Beib. 44 : 32. 1894. (nom. nud.)

Polyporus diminutus MASS. Jour. Bot. 39 : 153, *pl. 357, f. 17—8.* 1896—SACCARDO, Syll. Fung. 14 : 171. 1899.

Polyporus pusillus PERS. in LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 2 : 24, *f. 260 E.* 1909; Stip. Polyp. 185. 1912; 7 : 1238. 1924.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61 : 6. 1916—安田，植. 雜. 31 : 55. 1917)

Polyporus Rhipidium var. *pusillus* LLOYD, in YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 34 : 194. 1920—KOBAYASI, Bull. Biogeogr. Soc. Japan, 7 : 3, *pl. 2.* 1937.

Polyporus Rhipidium f. *pusillus* S. ITO et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 121. 1940.

子實體は叢生，稀に散生，革狀肉質，撓曲性，乾時脆弱，傘は半圓形，腎臟形或は圓形，徑 2—4 mm，表面は綿絮狀，淡帶赤黄色，老時帶赤色となり，乾時殆ど白色，罅裂するも，生時放射狀線條或は環紋なし，只乾時同心の皺を生ず，緣は內屈す，肉は褐色，厚さ基部に於て約 1 mm，緣に向つて漸次薄くなる。孔口は多少放射狀に配列し，多角形，徑 70—120×150—200μ 緣に向つて減小す，その稜上に無定形の白色物を有す，管孔は帶白色或は淡帶赤黄色，長さ 0.7—0.8 mm，莖は側生，傘より區別され，帶白色，綿絮狀，圓筒形，時に基部に於て膨大す，1—2×0.6—0.8 mm，擔子柄は其數少く，棍棒形或は頭狀，11—12×5—5.5μ，2—3—4 小柄を有す，胞子は類球形，平滑，無色，2.5—3μ，管孔部は夜間淡青色の光を放つ。

所在及産地　枯枝枯幹上

小笠原島—濠.中南米.南洋.亞(錫)

和名　スズメタケ（雀茸）〔安田〕

ヒナノウチワ（雛團扇）〔小林〕

Favolus grammocephalus (BERK.) IMAZ.

スジウチワタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 95. 1943; Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 108. 1952.

(原，日. 菌. 目. 123. 1954)

Polyporus grammocephalus BERK. Lond. Jour. Bot. 1 : 148. 1842—FRIES, Nov. Symb. Myc. 36. 1851—COOKE, Grev. 13 : 84. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 92. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 136, *f. 437.* 1912—BRESADOLA, Ann. Myc. 10 : 493. 1912; Hedwigia, 51 : 309. 1912; 53 : 52. 1913.

(今關，植. 硏. 雜. 17 : 179. 1941)

Leucoporus grammocephalus PAT. Ess. Tax. 82. 1900.

Polystictus grammocephalus S. ITO et IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 121. 1940.

Polyporus Guilfoylei (non BERK. et BR.)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60 : 8. 1915—安田，植. 雜. 30 : 66. 1916; 31 : 56. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 475. 1917; ed. 3. 291. 1927)

子實體は革質，有莖，傘は大形にて薄く，扇形にて扁平，8—13×8—9，厚さ 2 mm 內外，表面は淡黄色，老時焦茶色，平滑，著しき放射狀の多數淡褐色細條を有す，肉は黄褐色，管孔面は淡褐色乃至焦茶色，管長は甚だ短く，0.5—1 mm，孔口は小圓形にて各所に稍々大なるものを混ず，口緣は鋭し，嚢狀體なし，莖は側生，表面黑色，平滑，肉は淡黄褐色，約 4×1 cm。

所在及産地　枯木上　小笠原島—濠.中南米.亞(比.爪.馬.錫)南洋

和名　スジウチワタケ（條團扇茸）〔安田〕，ネッタイハウチワタケ（熱帶葉團扇茸）〔今井〕

Favolus emerici (COOKE) IMAZ.

スジウチワタケモドキ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 95. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 96. 1952—原，日. 菌. 目. 123. 1954)

Polyporus Emerici BERK. Grev. 10 : 96. 1881—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 93. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 137. 1911.

Polyporus grammocephalus var. *Emerici* Co-

OKE, Grev. 18 : 84. 1885.

子實體は有莖，革質，傘は箆形乃至腎臟形，表面は白色，平滑，壓着纖維により不明瞭の縱條あり，緣は薄し，莖は甚だ短し，孔口は中等大にて多角形，孔壁は薄く，速に裂く，囊狀體なし。

所在及產地

枯木上　　九州一亞(比.印)

和名 スジウチワタケモドキ(擬條團扇茸)〔今關〕

Favolus mikawai (LLOYD) IMAZ.

ミカワタケ

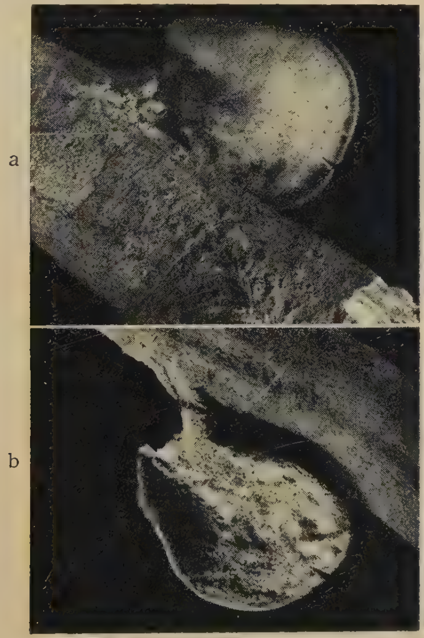
IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 95. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 96. 1952—原，日. 菌. 目. 123. 1954)

Polyporus mikawai LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:5. 1915; Lett. 56:12, *f. 716*. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 111. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 357. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54 : 3. 1915—安田，植. 雜. 29 : 236. 1915; 31 : 55. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 477. 1917; ed. 3. 292. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 433, *pl. 207, f. 1*. 1939; 植. 硏. 雜. 17 : 179. 1941)

子實體は有莖，革質，傘は腎臟形，扇形或は箆形，通常波曲す，2—5×1.5—3.5 cm，表面は白色乃至淡材黃色，無毛，微細なる放射條線を有し，無環紋，緣は薄く，往々淺裂し，下屈す，肉は白色，薄く，



第 237 圖　ミカワタケ *F. mikawai*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1 (大谷氏)

革質，管孔は長さ 1—3 mm，莖に垂下す，孔口は稍々小，圓形或は稍々角形，白色乃至淡材色，口緣は平坦或は少しく齒狀をなす，莖は極めて短く，稀に 5 mm に至り，側生，胞子は圓柱形，平滑，無色，9—10×3 μ。

所在及產地

廣葉樹枯枝，枯幹上　　日本全土

和名 ミカワタケ（三河茸）〔安田〕

Favolus arcularius (BATSCH ex FR.) AMES.

アミスギタケ

AMES, Ann. Myc. 11 : 241. 1913.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 95. 1943; Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 98. 1952; 及土岐，林. 試. 硏. 報. 67 : 28. 1954—原，日. 菌. 目. 123. 1954)

Boletus arcularius BATSCH, Elench. Fung. 97, 1783—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 518. 1801. (non SCHW.)

Boletus exasperatus SCHRAD. Sp. Fl. Germ. 153. 1794.

Polyporus arcularius FR. Syst. Myc. 342. 1821; Epicr. Myc. 430. 1838; Nov. Symb. Mycol. 33. 1851; Hymen. Eur. 526. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2 : 36. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 434. 1844—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 268. 1872—GILLET, Champ. Fr. 665, cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 449. 1884—COOKE, Grev. 13 : 81. 1885; Handb. Austr. Fungi, 113. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 67. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 958. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 482, 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 72. 1903—A. L. SMITH & REA, Trans. Brit. Myc. Soc. 2 : 171, *pl. 16*. 1906—MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 59. 1907; North. Polyp. 24. 1914; South. Polyp. 23. 1915—W. G. SMITH, Brit. Basid. 336. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2 (1) : 217. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 175. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 110. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 107. 1914—REA, Brit. Basid. 576. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 20 : *pl. 956*. 1931—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 346, *pl. 24, f. 5—6*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1 b : 36. 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 206. 1935—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 58. 1941—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74 : 22, *pl. 2, f. 3*. 1948.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 39, Beibl. 155. 1900—松村，植. 名鑑，1 : 163. 1904—白井，日. 菌. 目. 72. 1905; ed. 2. 471. 1917; ed. 3. 288. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 16. 1912; Lett. 43 : 3. 1912; 5, Lett. 67 : 7. 1918; 7 : 1125. 1922—安田，植. 雜. 26 : 233. 1912; 31 : 56. 1917—金平，臺. 博. 學. 報. 37 :

135. 1918—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 15*, *f. 10—14*. 1915; 日. 菌. 圖說, *n. 90*. 1929—梅村, 植. 雜. 30 : 104. 1916—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5 : 69. 1931—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 109. 1931—今關, 日. 隱. 植. 圖. 431, *pl. 206*, *f. 3*. 1939)

Boletus rhombiporus PERS. Myc. Eur. 2 : 211. 1825.

Polyporellus arcularius KARST. Hattsv. 2 : 28. 1882—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 75, *pl. 30—1*. 1936; Beih. Bot. Centralbl. 56 : 22, *f. 2*, *pl. 2*. 1937.

Leucoporus arcularius QUÉL. Enchir. Fung. 165. 1886; Fl. Myc. 402. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 82. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 114. 1925; Hymen. Fr. 531. 1928.

Polyporus arculariellus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31 : 36. 1904.

Polyporus arculariformis MURR. Torreya, 4 : 151. 1904.

子實體は有莖，生時强靱肉質或は革質，乾時剛直，傘は外圍圓形にて丸山形乃至中窩を有し，時に漏斗形，徑 1—8 cm，厚さ 1—4 mm，傘面は無環紋，小鱗片，剛毛，細密軟毛を有し或は無毛なり，生時黃褐乃至鈍黃色，乾時黃褐乃至暗栗褐色，傘緣は銳く，有毛，眞直にて乾時反曲す，肉は白色，乾時白色乃至淡桃色，厚さ 0.5—2 mm，子實層托は莖上に垂下し，白色乃至淡桃色，乾時淡桃色乃至濃色，長さ 1—3 mm，孔口は稍々大形，角形，實質と同色，屢々放射狀に伸長し，橫 1 mm 間平均 2 個，縱 1 mm 間に約 1 個，莖は中心生或は殆ど中心生，細長，2—4×0.2—0.3 cm，上部暗褐色の小鱗片，細密軟毛を有し或は無毛，基部纖維毛ありて球根形，傘と同色或は暗色，孔壁は無色，口に向つて狹細し銳稜となる，稜は僅か裂ける，胞子は長楕圓形，有嘴，平滑，無色，7—9×2—3 μ，菌絲束を有す，普通結晶を被むらず，菌絲は識別し離し，60 μ 程抽出し，徑 15—20(45) μ，材の白腐を起す。



第 238 圖　アミスギタケ　*F. arcularius*
a. 子實體表面　　b. 同裏面　×1
c. 胞子　×612　　（大谷氏）

所 在 及 產 地

廣葉樹幹上　　　　　　全國一汎布

和 名　アミスギタケ（網杉茸）〔白井〕

疑　問　種

Favolus subspathulatus LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1345. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 80. 1936. (nom. nud.)

Microporus KUNTZE emend. PAT.
ツヤウチワタケ屬

KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 494. 1898. pr. p. —PATOUILLARD, Ess. Tax. 83. 1900.

Polystictus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は 1 年生，有莖，莖は中心生乃至側生，强靱なる革質，表面は薄皮を被むり，屢々天鵞絨狀，傘は薄く，稍々漏斗形，扇形或は箆形，表面に薄皮あり，薄皮は肉より剝離せず，表面に微かに或は密に短毛を被る，肉は强靱なる革質，略々白色，子實層托は薄く，管孔狀，1 層，傘肉と略々同質，孔口は圓形或は類圓形，細微，囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は micro-（小）porus（孔）より出づ）

基準種　*M. concinnus* BEAUV. ex KUNTZE

〔因 記〕初め O. KUNTZE 氏は "*Polystictus*" 全部を機械的に本屬名下に收めたりしが，PATOUILLARD 氏は有莖，革質，微細孔を有する薄肉の "*Polystictus*" に制限せるものなり。

本邦既知種檢索表

A. 莖は側生にて圓柱狀。

　a. 傘面は無毛平滑。

　　α. 傘面無環層，傘面淡黃白乃至栗褐色，厚さ 1.5—3 mm，傘肉靱革質，類白色，莖は栗褐乃至黑色。

　　　　ツヤウチワタケ　*M. affinis*　(327)

β. 傘面多數環層あり，傘面黃褐色，厚さ前者より厚し，肉は硬革質，白色，莖は淡黃褐色。
シマウチワタケ ***M. luteus*** (327)

b. 傘面は絨毛環紋を有す，傘面黃褐乃至暗褐色，莖は暗褐乃至黑褐色。
ウチワタケ ***M. flabelliformis*** (328)

B. 莖は短かきか殆ど無莖。

a. 傘面ワニス狀光澤あり，黃褐色，厚さ 0.3—0.5cm。 ワニスタケ ***M. vernicipes*** (329)

b. 傘面光澤あるもワニス狀ならず，淡褐色，厚さ 0.3—1cm，下面 2—3mm の無性縁あり，口縁稍々齒牙狀。
ツヤウチワタケモドキ ***M. subaffinis*** (329)

c. 傘の基部圓盤狀となり側着す，傘面光澤なく，白色，厚さ 0.15—0.2cm。
アカギタケ ***M. nipponicus*** (329)

C. 莖は中心生，傘面茶褐或は栗褐色，無毛，莖は黃褐色，基部栗褐色。
ツヤジョウゴタケ ***M. xathopus*** (330)

Microporus affinis (BLUM. et NEES ex FR.) KUNTZE

ツヤウチワタケ

KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 495. 1898—PATOUILLARD, Ess. Tax. 83. 1900.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 95. 1943; Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57: 113. 1952—原，日. 菌. 目. 202. 1954)

Polyporus affinis BLUM. et NEES, Fungi Jav. 18, *pl. 4, f. 1.* 1826—FRIES, Elench. Fung. 1: 75. 1828.

Polystictus affinis FR. Nov. Symb. Myc. 59. 1851—COOKE, Grev. 14: 78. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 219. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Mic. Tab. Fun. Polyst. 53, *f. 340.* 1910—BRESADOLA, Ann. Myc. 10: 503. 1912; Hedwigia, 51: 314. 1912; 53: 62. 1913—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48: 293. 1921.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 31: 5. 1911; 4, Lett. 54: 3, 5. 1915; 5, Lett. 63: 9. 1916—安田，植. 雜. 29: 262. 1915; 31: 59. 1917—中路，植. 雜. 30: 102. 1916—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 485. 1917; ed. 3. 297. 1927—金平，臺. 博. 學. 報. 36: 88. 1918—澤田，臺. 菌. 調. 報. 5: 72. 1931; 7: 83. 1942; 臺. 博. 學. 會. 報. 25: 258. 1935—今關，日. 隱. 植. 圖. 461, *pl. 221, f. 1—2.* 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，339, *f. 149.* 1945)

子實體は短莖を側生し，稀に坐生，强靱革質，傘は薄く，扇形，半圓形或は腎臟形，橫徑 2—6cm，厚さ 1.5—3mm，表面は淡黃白色乃至栗褐色，無毛平滑，絹絲狀光澤あり，不明瞭なる濃淡の環紋を有し，放射狀の淺き皺襞あり，緣は刄狀に薄く，通常鋸齒狀をなす，肉は靱革質，類白色，管孔は長さ 1mm 內外，同色，孔口は微細なる圓形，口緣は平坦，淡材白色，莖は稀に偏心生，通常側生，長短不定，2—10×2—4mm，時に長さ 2cm に及ぶものあり，莖の基部盤狀をなし着生物に固着す，表面は平滑，傘面と略々同色乃至黑色なり，胞子は長楕圓形，平滑，無色，4—5×2μ。

所在及產地

廣葉樹枯枝上 本州，四國，九州—亞(臺. 支. 比. 印. 爪)濠. 南米. 南洋

和名 ツヤウチワタケ (艶團扇茸)〔安田〕

Microporus luteus (BLUM. et NEES) KUNTZE

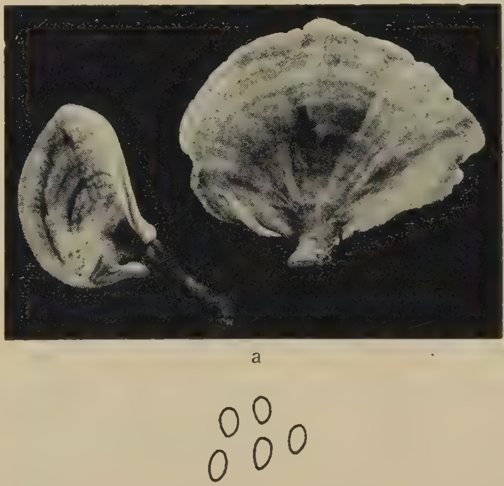
シマウチワタケ

KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 496. 1898—PATOUILLARD, Ess. Tax. 83. 1900.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 95. 1943—原，日. 菌. 目. 202. 1954)

Polyporus luteus BLUM. et NEES, Fungi Jav. 16, *pl. 4, f. 2.* 1826—FRIES, Elench. Fung. 1: 76. 1828; Epicr. Myc. 445. 1838.

Polystictus luteus FR. Nov. Symb. Myc. 58. 1851—COOKE, Grev. 14: 78. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 218. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Mic. Tab. Fun. Polyst. 53, *f. 341.* 1910; Stip. Polyp. 142. 1912.



a

b

第 239 圖 シマウチワタケ *M. luteus*
a. 子實體 ×2/3 b. 胞子 ×680 (大谷氏)

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32:220. 1893; Monsunia, 1:12. 1899—松村, 植. 名鑑, 1:164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 74. 1905; ed. 2. 489. 1917; ed. 3. 299. 1927—安田, 植. 雑. 30:100. 1916; 31:59. 1917—金平, 臺. 博. 報. 36:88. 1918; 64:15. 1923—LLOYD, Myc. Writ. 7:1126. 1922—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5:72. 1931)

子實體は有莖, 硬革質, 傘は薄く, 扇形, 2.4—5×2—5.3cm, 表面は黄褐色, 著しからざる多數の環層を有し, 無毛にて光澤あり, 肉は白色, 管孔は白色, 老時材色を帶ぶ, 長さ短し, 孔口は甚だ微細にて圓形, 口壁厚し, 莖は強固, 圓柱形, 基部楯狀をなし着生す, 表面平滑, 淡黄褐色, 8—10×0.5—4mm, 胞子は卵圓形, 平滑, 無色, 4×2.5μ。

所在及産地

樹皮上　小笠原島—

北南米.濠.阿.亞(印.馬.爪.比.臺)

和名　シマウチワタケ（島團扇茸）〔安田〕

Microporus flabelliformis (KLOTZ. ex FR.) KUNTZE

ウチワタケ

KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2):496. 1898—PATOUILLARD, Ess. Tax. 83. 1900.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:95, *pl.2, f.1*. 1943; Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57:113. 1952—原, 日. 菌. 目. 202. 1954)

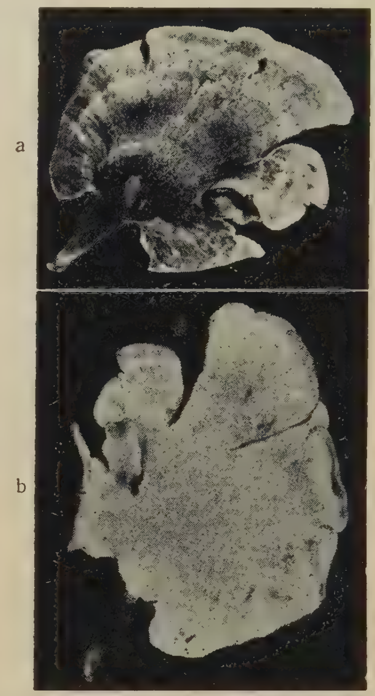
Polyporus flabelliformis KLOTZ. Linn. 8:483. 1833—FRIES, Epicr. Myc. 444. 1838—BERKELEY, Exot. Fungi, 386. 1839. (non PERSOON, 1825)

Polystictus flabelliformis FR. Nov. Symb. Myc. 58. 1851—COOKE, Grev. 14:78. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6:210. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Mic. Tab. Fun. Polyst. 55, *f. 344—5*. 1910; Stip. Polyp. 143. 1912—BRESADOLA, Ann. Myc. 10:503. 1912; Hedwigia, 51:314. 1912; 53:63. 1913—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48:294. 1921.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32: 220. 1893—松村, 植. 名鑑, 1:164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 74. 1905; ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 298. 1927—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl.3, f.26—9*. 1912; 日. 菌. 圖說, *n. 23*. 1929—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45: 4. 1913—安田, 植. 雑. 31:59. 1917—金平, 臺. 博. 報. 36:88. 1918—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5:72. 1931; 7:86. 1942; 臺. 博. 報. 25:335. 1935—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3. 110. 1931—今關, 日. 隱. 植. 圖. 461, *pl. 221, f. 4—5*. 1939; 植. 研. 雑. 17:180. 1941—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:121. 1940—原, 日. 菌. 目. 282. 1954)

Polystictus celebicus P. HENN. Monsunia, 1: 12. 1900.

子實體は有莖, 強靱革質, 群生, 傘は薄く, 半圓形, 腎臟形又は扇形, 横徑 3—10cm, 厚さ 1.5—3mm, 表面は黄褐色, 赤褐色乃至暗褐色, 多くの狹き環紋を有し, 灰綠色を帶ぶる短密毛を被むり絨狀をなす, 老時環紋狀に脫毛し平滑帶を生ず, 緣は薄くして双狀, 往々淺裂乃至深裂す, 肉は靱革質, 白色, 管孔は長さ 0.5—1mm, 同色, 孔口は極めて微細なる圓形, 莖は圓柱狀, 0.5—4×0.2—0.5cm, 表面は暗褐色乃至黑褐色, 短毛を密に被むる, 基部圓盤形をなし着生物に固着す。



第 240 圖　ウチワタケ *M. flabelliformis*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×2/3 (大谷氏)

所在及産地

廣葉樹枯幹上　本州, 九州—

中南米.濠.阿.亞(比.爪.臺.錫.印)南洋

和名　ウチワタケ（團扇茸）〔川村〕

〔**因記**〕本種と異なり, 傘は殆ど坐生し, 色稍々淡く, 孔口は更に白色なるものを LLOYD 氏は var. *japonica*(Myc. Writ. 5:623, *f.883*. 1917; Lett. 63: 9. 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 131. 1936) とせり, 但し兩者間に移行形ありて更に調査を要す。

Microporus vernicipes (BERK.) IMAZ.

ワニスタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 96. 1943.
(原，日．菌．目．203. 1954)

Polyporus vernicipes BERK. Jour. Linn. Soc. 16 : 50. 1878—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 144, *f. 448*. 1912.
(松村，植．名鑑，1 : 164. 1904)

Polystictus vernicipes COOKE, Grev. 14:78. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 219. 1888.
(白井，日．菌．目．75. 1905;ed.2. 493. 1917; ed. 3. 301. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:6. 1912—安田，植．雜．27 : 72. 1913; 31 : 59. 1917—澤田，臺．博．會．報．25:420. 1935;臺．菌．調．報．7:93.1942)

Polystictus scopulosus LLOYD, Myc. Writ. 5 : 843. *f. 1411*. 1919; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 138. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 415. 1925.

? *Polyporus ochrotinctus* BERK. et CURT. Proc. Am. Acad. Arts Sci. 4 : 122. 1858.
(白井，日．菌．目．73. 1905; ed. 2. 479. 1917; ed. 3. 293. 1927)

? *Polystictus ochrotinctus* COOKE, Grev. 14 : 79. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 225. 1888.
(松村，植．名鑑，1 : 164. 1904—白井，日．菌．目．75. 1905; ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 299. 1927—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 122. 1940)

子實體は有莖，革質，傘は扇形，薄く，3—6×5—8×0.3—0.5 cm，表面は黄褐色或は稍々淡き栗褐色，平滑，粗面，著しからざる環層あり，光澤を有す，緣は淡色，薄く，波曲す，肉は白色乃至淡黄色，莖は短く，側生，扁平，平滑，管孔面は淡黄褐色，孔口は微細，類圓形，嚢狀體なし，胞子は楕圓形，平滑，淡褐色，7×5 μ。

所在及產地

樹皮上　　本州，小笠原島—亞(比．臺)阿

和名 ワニスタケ（假漆茸）〔安田〕

Microporus subaffinis (LLOYD) IMAZ.

ツヤウチワタケモドキ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 96. 1943.
(原，日．菌．目．203. 1954)

Polystictus subaffinis LLOYD, Myc. Writ. 4 : 550, *f. 755*. 1916; 7:1239, *f. 2633*. 1924.
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61:5. 1916; 5, Lett. 63 : 7. 1916; Lett. 65 : 6. 1917—安田，植．雜．31 : 59. 1917—白井，日．菌．目．ed. 3. 300. 1927—今關，日．隱．植．圖．461, *pl.221, f.6—7*. 1939—原，日．菌．目．283. 1954)

子實體はツヤウチワタケに類似す。傘は扇形，半圓形，腎臟形をなし，基部狹細して莖狀となり或は短莖を側生す，厚さ稍々厚く 0.3—1 cm，表面は無毛平滑，淡褐色，光澤あり，環紋を有す，緣は薄く，下面に幅 2—3 mm の平滑無性帶あり，肉は靱革質，白色，管孔面は平坦ならず，孔口は微細，圓形，口緣稍々齒牙狀を呈す，淡材白色，莖は短大，基端盤狀をなす，胞子は圓筒形，時に僅か屈曲し，平滑，無色，5—6.5×2.5 μ。



第 241 圖　ツヤウチワタケモドキ *M. subaffinis*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×2/3　c. 胞子 ×612
(大谷氏)

所在及產地

カシ (*Quercus*) シイ (*Shiia*) 等の枯幹上
本州，九州—亞(爪)

和名 ツヤウチワタケモドキ（擬艶團扇茸）〔安田〕

Microporus nipponicus (YAS.) IMAZ.

アカギタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 95. 1943.
(原，日．菌．目．202. 1954)

Polystictus nipponicus YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 30 : 291, cum icone. 1916.
(安田，植．雜．30:298. 1916; 31:58. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 489. 1917; ed. 3. 299. 1927—原，日．菌．目．283. 1954)

子實體は無莖，革質，傘は半圓形にて往々疊生す，比較的小形にて薄く，基部圓盤狀をなし，側着す，1.5—3×2—4×0.15—0.2 cm，表面は白色，粉狀の

微毛に被われ，乾時材色となり，諸處脱毛す，平坦なれども，特に基部に近く著しく隆起せる多數の放射狀皺襞あり，甚だ不明なる環層あり，肉は白色，管孔は白色，乾時材色を帶ぶ，長さ短し，孔口は周邊部のものは小圓形，內部のものは稍々大にて多角形なり，胞子は球形，平滑，無色，徑4—5μ。

所在及產地

樹皮上 本州

和名 アカギタケ（赤城茸）〔安田〕

Microporus xanthopus (FR.) PAT.

ツヤジヨウゴタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 83. 1900.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:96. 1943—原，日．菌．目．203. 1954)

Polyporus xanthopus FR. Obs. Myc. 2:255. 1799; Syst. Myc. 1:350, 505. 1821; Elench. Fung. 1:74. 1828; Epicr. Myc. 437. 1838—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 173, *f. 469*. 1912.

（白井，日．菌．目．ed. 3. 296. 1927）

Polystictus xanthopus FR. Nov. Symb. Myc. 58. 1851—COOKE, Grev. 14:78. 1886; Handb. Austr. Fungi, 139. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6:215. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Mic. Tab. Fun. Polyst. 50, *f. 336*. 1910—BRESADOLA, Hedwigia, 53:61. 1913.

（金平，臺．博．報．36:88. 1918—安田，植．雜．33:76. 1919—澤田，臺．菌．調．報．5:74. 1931—今關，日．隱．植．圖．461, *pl. 221, f. 3*. 1939—逸見及赤井，木．腐．菌學，340, *f. 150*. 1945—原，日．菌．目．283. 1954）

子實體は革質，有莖，傘は漏斗形，堅く，薄し，徑4—9cm，高さ約2cm，厚さ約1mm，表面は茶褐色乃至栗褐色，放射狀皺襞を有し，多數の環紋あり，絹絲樣光澤を有す，緣は全緣，肉は白色，莖は中心生或は偏心生，木質，堅硬，圓柱狀，基端楯狀をなす，淡汚黃色乃至汚黃褐色，基部栗褐色，平滑，少しく光澤あり，1—4.5×0.4cm，管孔面は橙黃白色，放射狀皺襞あり，孔口は微細，圓形，1mm 間に約7箇。材の白腐を起す。

所在及產地

枯木上 本州—亞（臺．交趾支．比．爪．スマトラ．印）濠．阿．中南米

和名 ツヤジヨウゴタケ（艶漏斗茸）〔安田〕

疑問種

（*Microporus* 所屬）

Polystictus minutoporus LLOYD, Myc. Writ. 7:1317, *f. 3027*. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 135. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1296. 1924)

Polystictus pterygodes FR.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 39:6. 1912; Lett. 43:6. 1912; Lett. 45:4. 1913—安田，植．雜．27:72. 1913; 31: 59. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 491. 1917; ed. 3. 300. 1927—原，日．菌．目．283. 1954)

Polystictus discipes BERK.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1321. 1924)

7. Polyporinae タマチヨレイタケ亞族

子實體は1年生，有莖，地上生又は樹上生，莖は屢々著しく分岐す，傘肉は肉質，早腐性，子實層托は管孔狀，管壁は概して淺裂性，實質は傘肉と異質，胞子は無色，平滑にて，ミヤマトンビマイタケ屬（*Bondarzewia*）に於ては細刺を有す。

屬檢索表

A. 胞子は平滑，沃度反應なし。
 a. 子實體は1傘，地上生。
  タマチヨレイタケ屬 **Polyporus** (330)
 b. 子實體は多傘，根際，稀に直接樹材上生。
  マイタケ屬 **Grifola** (335)
B. 胞子は殆ど球形，細刺を有し，沃度反應あり，樹根に寄生。
  ミヤマトンビマイタケ屬 **Bondarzewia** (338)

Polyporus MICHELI ex FR. emend. IMAZ.

タマチヨレイタケ屬

FRIES, Syst. Myc. 1:341. 1821. pr.p.—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:96. 1943. (non *Polyporus* sensu DONK, nec. BONDARZEW et SINGER)

Albatrellus MICHELI, ex S.F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 645. 1821.

Caloporus QUÉLET, Enchir. Fung. 164. 1886.

Scutiger PAULET ex MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 30: 428. 1903.

子實體は1年生にて短命，有莖，莖は中心生，偏心生又は側生，時として稍々分岐す，傘は圓形，漏斗形或は扇形，表面は無皮或は僅に薄皮を被る，平滑，密毛或は鱗被を有す，肉は肉質にて早腐性，白色乃至類白色，子實層托は管孔狀，實質は傘肉と異質，孔口は圓形又は不整形，中形，孔緣は屢々淺裂す，囊狀體なし，胞子は無色，平滑，地上生。

（本属名は polys（多キ），porus（孔）より成ル），

基準種　P. tuberaster [illegible]

〔注意〕 "Polyporus" は "[illegible]" [illegible] 種なり。[illegible] 円形，肉質乃至革質，[illegible] 質と革質なるもの [illegible] なり，[illegible] 普通は [illegible] 種類の外，[illegible] タマチョレイタケ（Polyporus tuberaster）を基準種として本属を [illegible] せるもの [illegible] 数を [illegible] のとし，今菌蓋は [illegible] 質，単生，[illegible] のものに限定せり，従って [illegible] のものは新亜科 Favolinae に [illegible]。Favolus 及 Polyporellus となれり，[illegible] 本属 [illegible] Grifola 及 [illegible] [illegible] "Polyporus" には Amauroderma, Phaeolus 及 Onnia 等あり，第1者は Ganodermeae に属し，[illegible] 第2者は共に Mucronoporeae に属し，[illegible]

次に無柄の "Polyporus" には多くの新亜属あり，

[illegible]

Tyromycetinae—Laetiporus, Tyromyces, Bjerkandera, [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] に記したる所なり。

[illegible] "Polyporus" 属には12種 [illegible] 素を要する種類の存することは当然の事に属す。[illegible] Polyporus [illegible] ITO et IMAI, P. nitidulus BERK. et CURT., P. Schimae S. ITO et IMAI に就きても亦その要を認めたるところ [illegible] ところあり。しかも何れの [illegible] するかを知るべからず，よりて本誌には之れらの [illegible] を略せり。

本邦既知種検索表

A. [illegible]

[illegible]

[illegible]

アミラッパタケ P. cantharellus (331)

B. [illegible]

a. [illegible]

[illegible]

[illegible]

タマチョレイタケ P. tuberaster (332)

b. [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ニンギョウタケモドキ P. ovinus (332)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

アオロウジ P. caeruleoporus (333)

[illegible] 形，[illegible] 褐色，[illegible]

[illegible] 4.5—5/4—4.5

[illegible] P. yasudai (333)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

6—7/4—5μ。

サガンタケ P. cristatus (333)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ニンギョウタケ P. confluens (334)

2. [illegible] 形，[illegible] 色，[illegible] 色，[illegible]

[illegible]

コウモリタケ P. dispansus (334)

Polyporus cantharellus LLOYD

アミラッパタケ

LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:5. 1915; 6:882, f. 1515. 1919; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 100. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23:349. 1925.

LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54:3. 1915; 6:882. 1919—安田，植. 雑. 29:386. 1915; 31:56. 1917—[illegible] Tokyo Sci. Mus. 6:97. 1943—原，日. 菌. 目. 281. 1954)

子実体は有柄，肉質，傘は薄くして漏斗状をなし [illegible] 紫色，中央部は往々淡黄色，[illegible] を被むる，肉は白色，[illegible]，管孔面は白色，[illegible] に移行す，管孔は短く，孔口は多角形，[illegible]，柄は中心生，白色，[illegible] を有す，1.5—3/0.4 [illegible]

分布及産地

[illegible]

和名　アミラッパタケ（[illegible]）（安田）

Polyporus tuberaster FR.

タマチヨレイタケ

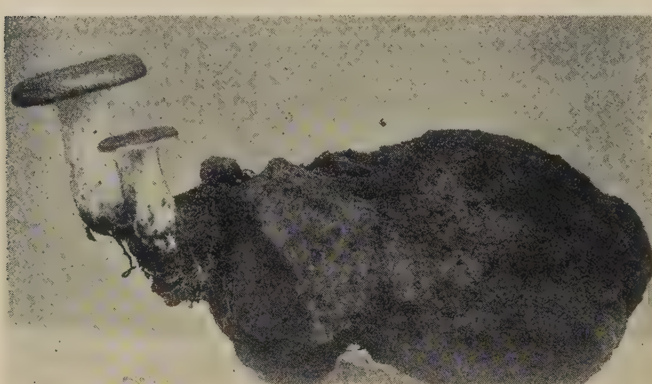
FRIES, Syst. Myc. 1:347. 1821; Epicr. Myc. 428. 1838; Hymen. Eur. 523. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:40. 1825—GILLET, Champ. Fr. 661. 1874—WINTER, Pilze, 1:453. 1884—COOKE, Grev. 13: 80. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:56. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 965. 1916—PATOUILLARD, Ess. Tax. 78. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 3, Ovinus Polyp. 74, 92, *f. 509*. 1911; Stip. Polyp. 166. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 216. 1912—BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 687. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 19: *pl. 946*. 1931—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 58. 1941.

(白井, 植. 集說, 31, *pl. 1—4*. 1911—LLOYD, Myc. Writ. 4: 524. 1912—川村, 植. 圖說, *n. 120*. 1929—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 97. 1943—原, 日. 菌. 目. 281. 1954)

Ceriomyces Tuberaster BATT. Fung. Arim. Hist. *pl. 24, f. A*. 1775.

Polyporellus Tuberaster PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 71, *pl. 35*. 1936; Beih. Bot. Cetralbl. 56: 18. 1937.

Polyporus tuberaster var. *japonica* (白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 483. 1917; ed. 3. 295. 1927)



第242圖 タマチヨレイタケ *P. tuberaster* (白井氏による)

傘は肉質, 彈性, 初め丸山形, 後扁平となり, 更に盃形に至り反轉緣を有す, 刺狀鱗片を被むり, 帶黃色, 肉は白色, 管孔は强靱, 初め小形, 後大形となりて角形, 等大, 類白色, 莖は眞直ならず, 强靱, 撓曲性, 無毛, 類白色, 中心生か幾分偏心生, 胞子は平滑, 無色, 12×4μ, 菌絲によりて堅められたる土塊所謂擬菌核 (Pseudosclerotium) より生ず。

所在及產地

林地 本州—歐

和名 タマチヨレイタケ (球猪苓茸) 〔白井〕

Polyporus ovinus (SCHAEFF.) FR.

ニンギヨウタケモドキ

FRIES, Syst. Myc. 1:346. 1821; Epicr. Myc. 428. 1838; Hymen. Eur. 523. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:40. 1825—CORDA, Icon. Fung. 5:83, *pl. 10, f. 87*. 1842—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 435. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 21. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:267. 1871—GILLET, Champ. Fr. 661, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:250. 1876; Hattsv. 2:23. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 288. 1889—WINTER, Pilze, 1:452. 1884—COOKE, Grev. 13:80. 1885; Handb. Austr. Fungi, 111. 1892—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 136. 1887; Ess. Tax. 78. 1900—SACCARDO, Syll. Fung. 6:57. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 964. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 481. 1888—ROLLAND, Atl. Champ. 83, *pl. 93, n. 204*. 1910—LLOYD, Myc. Writ. 3, Ovinus Polyp. 76. 1911; Stip. Polyp. 167. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):220, *pl. 33, f. 1—3*. 1912—AMES, Ann. Myc. 11:238. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 114, *pl. 12, f. 42*. 1914—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 102. 1925; Hymen. Fr. 519. 1928—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:350, *pl. 24, f. 2*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 38. 1934—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 421*. 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:110. 1931—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:97. 1943; 及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67:30. 1954—原, 日. 菌. 目. 281. 1954)

Boletus ovinus SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl. 121—2*. 1763—NEES, Syst. Pilze Schw. 218, *pl. 27, f. 210*. 1817.

Boletus fragilis PERS. Obs. Myc. 1: 84. 1796.

Boletus albidus PERS. Syn. Meth. Fung. 515. 1801.

Albatrellus albidus S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 645. 1821.

Polyporus subsquamosus ROSTK. in STURM, Deut. Fl. 4: 9, *pl. 3*. 1828.

Caloporus ovinus QUÉL. Enchir. Fung. 167. 1886; Fl. Myc. 405. 1888—PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 48(2): 413, *f. 2, pl. 15*. 1931; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 15, *pl. 1—2, f. 1*. 1936.

Scutiger ovinus MURR. Mycologia, 12:20. 1920—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:120. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:47. 1941.

子實體は有莖, 群生或は孤生, 肉質, 傘は外圍圓

形にて丸山形，径4—14cm，厚さ3—10mm，傘面は初め細密軟毛あり，白色或は淡韲色，老時網狀となり，稍々小鱗片を生じ，更に稀に稍々被膜を生ず，乾時灰褐色乃至褐灰色にて黒點を有す，傘緣は鋭く，平坦或は波狀，同色或は帶黒色，乾時內屈す，肉は初め白色，乾時淡桃色，通常子實層に近く黒線を有す，厚さ1—6mm，管孔は莖上に垂下し，初め帶白色，乾時赭色，淡韲色乃至栗褐色，長さ1—3mm，孔口は角形，管孔と同色，1mm間2—3個，孔壁は老時齒裂し，幅20—80μ，莖は中心生，中實，普通基部球根狀となる，細微軟毛を有し，初め帶白色乃至淡韲色，乾時淡赤褐色乃至赭色，屢々黒斑を有す，球狀部は淡褐色，2—7×1—2cm，胞子は類球形，平滑，無色，3.5—4.5×2.5—3μ。嚢狀體なし。可食。

所在及産地

針葉樹林地上　　本州—歐.北米.亞(比)

和名 ニンギョウタケモドキ（擬人形茸）〔今關〕

Polyporus caeruleoporus PECK
アオロウジ

PECK, Buff. Soc. Nat. Sci. Bull. 1:60. 1873; Rep. N.Y. St. Mus. 26:68. 1874—COOKE, Grev. 13:80. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:59. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Ovinus Polyp. 79. 1911; Stip. Polyp. 167. 1912—AMES, Ann. Myc. 11:238. 1913—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b:38. 1934.

(梅村，植.雜. 29:64. 1915—白井，日.菌.目. ed. 2. 473. 1917; ed. 3. 289. 1927—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:97. 1943—原，日.菌.目. 281. 1954)

Scutiger caeruleoporus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30:429. 1903; N. Am. Fl. 9:66. 1907; North. Polyp. 27. 1914; South. Polyp. 26. 1915.

子實體は肉質，有莖，群生或は叢生，傘は外圍圓形にて廣き丸山形，径2.5—5cm，厚さ0.7—1cm，傘面は稍々軟毛を有し，生時吸水性，初め鮮菫色或は青色，老時帶褐色，肉は肉質，脆く，白色，乾時黄色となる。管孔は莖上に垂下し，短く，長さ3—5mm，生時灰青色，乾時內面煉瓦色，孔口は角形，1mm間に2—3個，孔壁は薄くして1樣ならず，齒狀，生時鮮青色，乾時栗褐色となる，莖は中心生或は偏心生，同色，4—5×0.5cm，胞子は類球形，平滑，無色，4.5—5μ。可食。

所在及産地

林地　　本州—北米

和名 アオロウジ（青老爺）〔方言〕

Polyporus yasudai LLOYD
ヌメリアイタケ

LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44:10. 1913; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 126. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23:23. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44:8. 1913—安田，植.雜. 27:166. 1913; 31:56. 1917—白井，日.菌.目. ed. 2. 483. 1917; ed. 3. 296. 1927—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:97. 1943—原，日.菌.目. 281. 1954)

子實體は有莖，肉質，傘は圓形，径2—5cm，表面は藍鼠色にて粘質，乾時褐色となり，假漆樣光澤あり，肉は薄く，白色，管孔面は白色，管長は短く，莖の上部迄垂生す，孔口は寧ろ小にて略々圓形，莖は白色，2—4×0.4—1cm，胞子は楕圓形，1側端に小突起あり，平滑，4.5—5×4—4.5μ。

所在及産地

林地　　本州

和名 ヌメリアイタケ（粘藍茸）〔安田〕

Polyporus cristatus (PERS.) FR.
ザボンタケ

FRIES, Syst. Myc. 1:356. 1821; Epicr. Myc. 447. 1838; Hymen. Eur. 539. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:50. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):138. 1836; Outl. Brit. Fung. 240. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:430. 1844—BARLA, Champ. Nice, 59, *pl. 29, f. 4—7.* 1859—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 267. 1871; Grev. 13:84. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:272. 1872—WINTER, Pilze, 1:440. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:96. 1888—SCHROETER, Pilze Schles. 1:477. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:238. 1892; Brit. Fungi, 370. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 78. 1900—W.G. SMITH, Brit. Basid. 340. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 3, Ovinus Polyp. 80, *f. 501.* 1911; Stip. Polyp. 167. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):212. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 106. 1914—REA, Brit. Basid. 581. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:103. 1925; Hymen. Fr. 520. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 423.* 1929—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 971.* 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b:39. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7. 1917; Lett. 68:7. 1918—安田，植.雜. 32:75. 1918—白井，日.菌.目. ed. 3. 289. 1927—川村，日.菌.圖說，*n. 147.* 1929—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:97. 1943)

Boletus flabelliformis SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl. 113.* 1763 (non PERS.)

Boletus cristatus PERS. Comm. Fung. Clav. 125.

1797; Syn. Meth. Fung. 522. 1801—NEES, Syst. Pilze Schw. 220, *pl. 28, f. 217*. 1817.

Boletus subsquamosus SECR. Myc. Suisse, n. 5. 1833.

Polyporus poripes FR. Nov. Symb. Myc. 32. 1851.

Merisma cristatus GILL. Champ. Fr. 692. 1874.

Polypilus cristatus KARST. Hattsv. 2:25. 1882.

Cladomeris cristata QUÉL. Enchir. Fung. 168. 1886—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 138. 1887.

Caloporus cristatus QUÉL. Fl. Myc. 406. 1888—PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 48(2): 433. 1931.

Grifola poripes MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31: 335. 1904; N. Am. Fl. 9: 68. 1907.

Polyporus flabelliformis SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 966. 1916.

Polypilus poripes BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 47. 1941.

Scutiger cristatus BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 47. 1941.

子實體は有莖，肉質，屢々叢生し塊狀をなす。傘は圓形にて殆ど扁平，徑 4—6cm，表面は綠黃色或は暗藍色，微毛を帶び，往々微細なる鱗片あり，緣は薄く，波狀にて下屈す，肉は稍々薄く，碎け易し，黃色，管孔面は白色，漸次莖に移行す，管長は短く，孔口は小圓形或は角形，老時稍々大となり，孔壁裂く，莖は中心生，偏心生或は側生，分岐し，上部擴がる，白色，微毛を有し，管孔は上部，時に半ば以下迄垂生す，2.5—4×0.5—0.7cm，胞子は短楕圓形，有嘴，平滑，無色，6—7×4—5μ。可食。

所在及產地

林地 本州—歐.北米

和名 ザボンタケ（文旦茸）〔安田〕

ナスビタケ（茄茸）

Polyporus confluens (ALB. et SCHW.) FR.

ニンギョウタケ

FRIES, Syst. Myc. 1: 355. 1821; Epicr. Myc. 447. 1838; Hymen. Eur. 539. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 47. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 430. 1844—BARLA, Champ. Nice. 58, *pl. 29, f. 1—2*. 1859—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 255. 1876—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 10: 669. 1880—WINTER, Pilze, 1: 440. 1884—COOKE, Grev. 13: 84. 1885; Handb. Austr. Fungi, 118. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 96. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 967. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 498. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 78. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 3, Ovinus Polyp. 81. 1911; Stip. Polyp. 167. 1912—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 213, *pl. 33, f. 4*. 1912—KAUFFMAN, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 1: 119, *pl. 34*. 1923—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 104. 1925; Hymen. Fr. 521. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 970*. 1931—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 351, *pl. 28, f. 1*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 39. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44: 8. 1913—安田，植. 雜. 27: 224. 1913; 31: 56. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 473. 1917; ed. 3. 290. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 429, *pl. 205, f. 1*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 97. 1939—原，日. 菌. 目. 281. 1954)

Boletus confluens ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 244. 1805. (non SCHUM. 1803)

Polyporus Artemidorus LENZ, Schwamme, 80, *f. 43*. 1831.

Polyporus aurantius TROG, Flora, 15: 354. 1832.

Merisma confluens GILL. Champ. Fr. 692. 1874.

Polypilus confluens KARST. Hattsv. 2: 26. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 289. 1889.

Cladomeris confluens QUÉL. Enchir. Fung. 168. 1886.

Caloporus confluens QUÉL. Fl. Myc. 405. 1888—PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 48(2): 428, *pl. 13*. 1931; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 22, *pl. 6*. 1936.

Scutiger confluens BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 47. 1941.

子實體は分岐莖を有し，塊狀をなす。傘は圓形或は不正形にて低丸山形或は中窩あり，往々互に癒着す，各傘は徑 3—10cm，厚さ 1—3cm，全塊の徑 30 cm に及ぶ，傘面は無毛，被膜を有し，老時龜裂し或は鱗片を生ず，生時材白色乃至黃褐色，乾時黃褐乃至栗褐色，緣は全緣或は淺裂す，稍々薄し，波狀屈曲し，同色，肉は白色，厚さ 1—2.5cm，生時柔軟，乾時黃褐乃至汚桃色，管孔の長さ 1—2mm，白色乃至乾酪色，莖上に垂下し，屢々斜となる，孔口は圓形乃至角形，白色，孔壁は厚く，老時薄く，齒裂，時に崩壞す。莖は分岐或は癒着す，3—10×0.5—2cm，偏心或は側生，上部次第に太く傘との境界不明にて移行す，類白色，胞子は楕圓形，1 側稍々扁平，平滑，無色，4.5—5×3—3.5μ。嚢狀體なし。可食。

所在及產地

針葉樹林地上

本州，四國—歐.北米.濠.亞(樺)

和名 ニンギョウタケ（人形茸）〔安田〕

Polyporus dispansus LLOYD

コウモリタケ

LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 192, *f. 498*. 1912; STEVENSON & CASH, New Fung. Names

Lloyd, 102. 1936—IMAZEKI, Jap. Jour. Bot. 9:559, *f. 1—2.* 1933.

（安田，植. 雑. 26:265. 1912; 31:55. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66:7, 10. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 473. 1917; ed. 3. 290. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 427, *pl. 204, f. 2.* 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:97. 1943; & TOKI, Bull. Gov. For. Exp. St. 67:29. 1954—原，日. 菌. 目. 281. 1954）

Polyporus illudens OVERH. Mycologia, 33:95, *f. 6.* 1941.

子實體は著しく分岐する莖を有し，全體の徑 5—15cm，高さ 5—15cm，莖の基部は徑 2—4cm，上方不規則分岐し，各枝端漸次扁平擴大して傘に移る。傘は箆形，半圓形，扇形等不規則なる形をなし，往々深裂し，緣邊は波曲し，强く下屈す，徑 3—10cm，表面は鮮黃色，乾時肉桂色，殆ど平滑或は微細なる鱗被を有し，環紋なし，肉は薄く，厚さ 1—2mm，白色，脆き肉質，乾時堅し，管孔は短く，著しく莖に垂生，孔口は微細，圓形，傘肉及管孔は生時純白色なるも，乾時漸次黃朱色に變化する特徵あり，莖は比較的基部に近く著しく分岐叢生す，胞子は球形，平滑，無色，徑 3—4µ。

所在及産地

林地　　本州—北米

和名　コウモリタケ（蝙蝠茸）〔安田〕

Grifola S. F. GRAY
マイタケ屬

S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:643. 1821.

Cladodendron LAZARO, Roy. Acad. Cienc. Madr. 14:863. 1915—6.

Cladomeris QUÉLET, Enchir. Fung. 167. 1886.

Meripilus KARSTEN, Hattsv. 2:33. 1882.

Merisma GILLET, Champ. Fr. 688. 1878.

Polypilus KARSTEN, Rev. Myc. 3(9):17. 1881.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生にて短命，有莖，莖は概して著しく分岐す，中心生，或は側生，傘は箆形，扇形或は圓形，薄く，表面は無皮或は僅に薄皮を被る，平滑或は微毛あり，肉は類白色，肉質にて早腐性，柔軟又は脆弱，子實層托は管孔狀，實質は傘肉と異質，孔口は類圓形なるも崩れ易し，孔緣は屢々不整淺裂す。囊狀體なし，胞子は無色，平滑。樹上生。

（本屬名は griffon（半獅子，半鷲の怪物）より出づ）

基準種　*G. frondosa* (DICKS. ex FR.) S.F. GRAY

本邦既知種檢索表

A. 子實體は肉質，共通の主莖より漸進的に小枝を分つ。

a. 傘は中心莖を有し，外圍圓形にて淺き漏斗形。

チョレイマイタケ ***G. umbellata*** (335)

b. 傘は側莖を有し，外圍扇形或は箆形。

α. 傘面は淡黑，鼠乃至淡茶褐色，孔口は小圓形，傘肉菌絲に特に肥大のものを混ぜず。

マイタケ ***G. frondosa*** (336)

β. 傘面は淡色，孔口は迷路狀，傘肉中に徑 20µ 餘の肥大菌絲を混ず。

シロマイタケ ***G. albicans*** (337)

B. 子實體は革質，共通主莖の先端に急に枝を分つ，側莖，半圓形。

トンビマイタケ ***G. gigantea*** (337)

Grifola umbellata (PERS. ex FR.) PILÁT
チョレイマイタケ

PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 52B:25. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:29, *pl. 8—10.* 1936.

（IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:98. 1943; 植. 研. 雑. 19:384, *f. 1, 3.* 1943—原，日. 菌. 目. 140. 1954）

Boletus ramosissimus SCHAEFF. Fung. Bavar. 3: *pl. 265—6,* 1770—SCOPOLI, Fl. Carn. 2:470. 1772.

Boletus ramosus MUELL. Fl. Dan. *pl. 1197.* 1782.

Boletus umbellatus PERS. Syn. Meth. Fung. 519. 1801—NEES, Syst. Pilze Schw. 220, *pl. 27, f. 215.* 1817.

Boletus polycephalus PERS. Syn. Meth. Fung. 520. 1801.

Polyporus umbellatus FR. Syst. Myc. 1:354. 1821; Epicr. Myc. 446. 1838; Hymen. Eur. 537. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:46. 1825—CORDA, Icon. Fung. 3:51, *pl. 9, f. 133.* 1839—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:431. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:225. 1867—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:272, *pl. 18, f. 1.* 1872—WINTER, Pilze, 1:441. 1884—COOKE, Grev. 13:84. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:95. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 966. 1916—W.G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 283. 1891; Brit. Basid. 340. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:340. 1892; Brit. Fungi, 369. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 78. 1900—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 189, *f. 183.* 1903—ROLLAND, Atl. Champ. 81, *pl. 91, n. 200.* 1910—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 150. 1912—AMES, Ann. Myc. 11:238. 1913—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:112. 1914—NEUMAN, Polyp. Wisc. 106. 1914—REA, Brit. Basid. 580. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:104. 1925; Hymen. Fr. 520. 1928—GÜSSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 200. *pl. 102.* 1927—BRESADOLA, Icon.

Myc. 20: *pl. 969*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 40. 1934.

(白井, 植. 集說, 31. 1911; 日. 菌. 目. ed. 2. 483. 1917; ed. 3. 296. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 9. 1916—安田, 植. 雜. 31: 55. 1917; 34: 136. 1920)

Merisma umbellata GILL. Champ. Fr. 691, cum icone. 1874.

Polypilus umbellatus KARST. Hattsv. 2: 24. 1882.

Cladomeris umbellata QUÉL. Enchir. Fung. 167. 1886—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 138. 1887.

Polyporus ramosissimus SCHROET. Pilze Schles. 1: 481. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 213. 1912.

Cerioporus umbellatus QUÉL. Fl. Myc. 409. 1888.

Grifola ramosissima MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31: 336. 1904; N. Am. Fl. 9: 69. 1907; North. Polyp. 31. 1914.

Polyporus Chu-ling SHIRAI, Bot. Mag. Tokyo, 19: 92, *pl. 4*. 1905.

Polypilus ramosissimus BOND. et SING. Ann. Myc. 39: 47. 1941.

子實體は肉質, 乾時剛直, 有莖にて莖は再三分岐し, 密に集まり, 高さ 10—15, 幅 7—20 cm 或はそれ以上の塊となり, 各分枝端に傘を着く, 各傘は外圍圓形, 上面平山形, 中央窪みて淺き漏斗狀をなす,



第 243 圖　チョレイマイタケ *G. umbellata* ×2/3 (大谷氏)

徑 1—4 cm, 厚さ約 5 mm, 表面は淡色乃至淡褐色, 微細なる鱗被を被むり, 無環紋, 縁は薄くして鋭く, 全縁, 内屈す, 肉は白色, 稍々纖維狀肉質, 乾時寧ろ脆し, 管孔は長さ約 2 mm 以下, 莖上に沿下す, 孔口は白色, 小類圓形, 1 mm 間平均 2—4 個, 口壁は薄く, 全縁或は裂く, 莖は複合, 枝莖は稍々長く, 圓柱狀, 中心生或は稍々中心生, 白色, 通常沿下せる管孔によつて全く蔽わる。胞子は細長卵狀楕圓形, 1端尖り, 平滑, 無色, 7—10×3—4 μ。傘肉の菌絲に2種ありて, 1は著しく肥大, 屢々多隔, 徑 5.5—13 μ, 他は纖細, 徑 1.5—2.5 μ にて不規則に走る, 管孔部の菌絲は纖細, 徑 1.5—2.5 μ, 往々子實體は菌核 (猪苓) より生ず。可食, 菌核は漢方藥 (利尿, 脫水用) とす。

所在及産地

廣葉樹, 殊にブナ, ミヅナラ, モミヂ等の生根上の菌核より或は切株又は倒木上に生ず。

北海道, 本州—歐・北米・亞(支)

和名 チョレイマイタケ (猪苓舞茸)

Grifola frondosa (DICKS. ex FR.) S. F. GRAY
マイタケ

S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 643. 1821—MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 21: 336. 1904; N. Am. Fl. 9: 69. 1907; Mycologia, 5: 290, *pl. 106*. 1913; North. Polyp. 30. 1914; South. Polyp. 29. 1915—PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 52 **B**: 28, *pl. 8*. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 32, *pl. 11, 25*. 1936.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 98. 1943; 植. 硏. 雜. 19: 385, *f. 2, 4*. 1943—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43: 32. 1952—原, 日. 菌. 目. 140. 1954)

Boletus ramosissimus SCHAEFF. Fung. Bavar. 2: *pl. 127—9*. 1763.

Boletus frondosus DICKS. Pl. Crypt. Brit. 1: 18. 1785—SCHRANK, Fl. Dan. 16: *pl. 952*. 1787—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fung. 1: *pl. 87*. 1797—NEES, Syst. Pilze Schw. 220, *pl. 27, f. 216*. 1817—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 520. 1825.

Polyporus frondosus FR. Syst. Myc. 1: 355. 1821; Epicr. Myc. 446. 1838; Hymen. Eur. 538. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 46. 1825—BERKELEY, Engl. Fr. 5(2): 137. 1836—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 430. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 272. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 254. 1876—WINTER, Pilze, 1: 441. 1884—COOKE, Grev. 13: 84. 1885; Handb. Austr. Fungi, 118. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 95. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 967. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 477. 1888—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 284. 1891; Brit. Basid. 340. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 238. 1892; Brit. Fungi, 369. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 78. 1900—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 188, *f. 181—2*. 1903—ROLLAND, Atl. Champ. 82, *pl. 91, n. 201*. 1910—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 150. 1952—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 213, *pl. 33F*. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 238. 1913—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard.

1:112. 1914—NEUMAN, Polyp. Wisc. 105, *pl. 12, f. 43.* 1914—REA, Brit. Basid. 580. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 104. 1925; Hymen. Fr. 521. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 968.* 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 41. 1934.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 39, Beibl. 155. 1900—松村, 植. 名鑑, 1:163. 1904—高橋, 植. 雜. 19:3, *f. 1.* 1905—白井, 日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 475. 1917; ed. 3. 290. 1927—安田, 植. 雜. 25:442. 1911; 31: 55. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66: 7. 1917; Lett. 67: 11. 1918; 7: 1126. 1922—KAWAMURA, Illus. Jap. Fung. *pl. 17, f. 17—8.* 1925; 日. 菌. 圖說, *n. 80.* 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3: 109. 1931—今關, 日. 隱. 植. 圖. 427, *pl. 204, f. 1.* 1939—伊藤一雄, 日. 林. 雜. 23:562, 593. 1941—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 287, *f. 98.* 1945)

Merisma frondosus GILL. Champ. Fr. 692. 1874.

Polypilus frondosus KARST. Rev. Myc. 3(9): 17. 1881; Hattsv. 2:25. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 289. 1889—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9:122. 1933—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 47. 1941.

Cladomeris frondosus QUÉL. Enchir. Fung. 168. 1886—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 138. 1887.

Caloporus frondosus QUÉL. Fl. Myc. 406. 1888.

子實體は强靱肉質，乾時剛直，有莖にて莖は多數分岐し，之れに多くの重疊する小傘を着け，全體は多少球狀の團塊となり，徑 40cm 或はそれ以上に及ぶ，各傘は半圓形，扇形或は箆形にて，形及大さ變化に富み，徑 2—7cm，厚さ 2—5mm，表面は淡黑褐色，鼠色乃至茶褐色にて，莖に向つて淡色となる，無毛或は細微毛を被むり，無環紋，放射狀線あり，緣は薄く，鋭くして，波狀或は淺裂し，乾時著しく內屈す，肉は白色或は帶白色，生時纖維狀肉質，乾時脆し，厚さ 2mm 以下，管孔は白色，長さ 2—3 mm，莖上に沿下す，孔口は白色，圓形或は不正圓形，1mm 間 1—3 個，孔壁は薄く，全緣或は裂く，莖は複合，漸次分岐し，末枝扁平となりて扁平の傘に連る。擔子柄は無色，棍棒形，20—25×6—8μ，胞子は卵形乃至楕圓形，小嘴あり，平滑，無色，6—9×4.5—6μ，傘肉の菌絲は絲狀，多隔，徑 5.5—7μ にて略放射狀に配列す，管孔部の菌絲は徑 2.5—3μ，材の軟腐，白斑を生ず。可食。

所在及產地

ミヅナラ (*Quercus*) クリ (*Castanea*) ブナ (*Fagus*) 等の切株根際

北海道，本州—歐·北米·濠·亞(支？)

和名 マイタケ (舞茸)

Grifola albicans IMAZ.

シロマイタケ

IMAZEKI, Jap. Jour. Bot. 19:386, *f. 5, 7—8.* 1943. (原，日．菌．目．140. 1954)

子實體は强靱なる肉質，有莖にて，再三分岐して傘を側生す。傘は扇形或は箆形，徑約 2—5cm，其狀普通のマイタケに類似するも，表面淡色にて殆ど白色，淡灰色乃至帶褐色なり，肉は脆肉質，多漿，白色にて，徑約 4μ の絲狀菌絲と肥大有隔の徑約 7—27μ の菌絲より成る。管孔は長さ約 2mm，纖細なる約徑 2.5—3μ の菌絲より成る，孔口は迷路狀にて崩れ易し，胞子は楕圓或は卵形，小嘴を有し，平滑，無色，5—7×4μ，腐朽型はマイタケに類す。美味ならず。

所在及產地

ミヅナラ (*Quercus*) 切株の根際に生ず　本州

和名 シロマイタケ (白舞茸)〔今關〕

Grifola gigantea (PERS. ex FR.) PILÁT

トンビマイタケ

PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 52B: 35, *pl. 4, f. 2.* 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:37, *pl. 12—13.* 1936.

(今關，植．硏．雜．19: 389, *f. 6, 9.* 1943)

Boletus mescentericus SCHAEFF. Fung. Bavar. *pl. 267.* 1770.

Boletus acanthoides BULL. Herb. Fr. *pl. 486.* 1790—DC. Fl. Fr. 2: 121. 1815.

Boletus imbricatus SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 1: *pl. 86.* 1797.

Boletus giganteus PERS. Syn. Meth. Fung. 521. 1801.

Polyporus giganteus FR. Syst. Myc. 1:356. 1821; Epicr. Myc. 448. 1838; Hymen. Eur. 540. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 47. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 139. 1836; Outl. Brit. Fung. 240. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:429. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:226. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:268, *f. 64.* 1871; Grev. 13: 84. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:273. 1872—WINTER, Pilze, 1:440. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6:99. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 971. 1916—SCHROETER, Pilze Schles. 1: 478. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:239. 1892; Brit. Fungi, 370. 1911—PATOUILLARD, Ess. Tax. 78. 1900—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 212. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 151. 1912—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:113. 1914—REA, Brit. Basid. 583. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 543. 1925; Hymen. Fr. 523. 1928—BRESADOLA,

Icon. Myc. 20 : *pl. 972*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1 b : 41. 1934.

Merisma gigantea GILL. Champ. Fr. 689, cum icone. 1874.

Cladomeris gigantea QUÉL. Enchir. Fung. 168. 1886.

Caloporus acanthoides QUÉL. Fl. Myc. 419. 1888.

Grifola Sumstinei MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 21 : 335. 1904; N. Am. Fl. 9 : 68. 1907; North. Polyp. 30. 1914; South. Polyp. 28. 1915.

Polyporus intybaceus (non FRIES)

(川村, 日. 菌. 圖說, *n. 161*. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 109. 1931)

Grifola intybacea IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 98. 1943.

(原, 日. 菌. 目. 140. 1954)

子實體は塊莖狀莖より比較的少數の大傘を側生重疊す, 全形多少球塊狀, 極めて大形となることあり, 傘は半圓乃至扇形或は箆形, 强韌肉質乃至革肉質, 徑 5—15 cm, 或は更に大形, 表面は微細なる鱗被を被むり, 細皺襞, 僅か環紋あり, 濃茶褐色乃至鳶茶色, 放射狀の微細なる皺襞あり, 僅か環紋を有す, 緣は普通淡色, 薄く, 鋭く, 屢々淺裂し, 乾時內屈す, 肉は韌肉質乃至革肉質, 略白色, 空氣に觸れて黑變す。管孔は比較的短かく, 1—3 mm, 初め白色, 擦傷及乾燥によりて黑色となる, 孔口は微細, 殆ど圓形, 1 mm 間 5—7 個, 老後裂く, 莖は短大, 胞子は廣楕圓乃至卵形, 4.5—6×4—5.5 μ, 傘肉の菌絲は稍々多隔, 分岐多く, 徑 4—8 μ, 管孔部のものは纖細絲狀, 徑 3—4 μ, 無毒なるも食用に適せず。材の白腐を起す。

所在及產地

ブナ (*Fagus*) 等の根際

北海道, 本州—歐. 北米

和名 トンビマイタケ (鳶舞茸) 〔川村〕

疑 問 種

(*Grifola* 所屬)

Polyporus lithophylloides HAR. et PAT. Bull. Mus. Hist. Nat. 1902 : 129—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 107. 1905—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 152. 1912.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 477. 1917; ed. 3. 292. 1927)

Bondarzewia SINGER

ミヤマトンビマイタケ屬

SINGER, Ann. Myc. 39 : 47. 1941.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Grifola S. F. GRAY, sensu MURRILL. pr. p.

Polypilus KARSTEN, Auct. plur. pr. p.

子實體は 1 年生にて短命, 無莖或は短莖を有す。莖は屢々分岐す。傘は扁平, 大形, 疊生, 半圓形又は扇形, 表面は無皮, 天鵞絨狀, 肉は肉質又は纖維狀肉質にて早腐性, 類白色, 子實層托は管孔狀, 實質は傘肉と異質, 孔口は類圓形或は不整形, 中乃至稍々大形, 孔壁は全緣, 後淺裂す。囊狀體なし, 胞子は球形, 無色, 細刺を有す, 胞子膜は菌絲膜と共に沃度加里液によりて暗紫色を呈す。樹上生。

(本屬名は A. BONDARZEW 氏 (露國植物病理學者) の姓より出づ)

基準種 *B. montana* (QUÉL.) SING.

〔因 記〕 本屬は胞子膜に細刺を有し, 沃度反應を有することに於て極めて特殊なるものなり。

本邦既知種 ミヤマトンビマイタケ

B. montana (338)

Bondarzewia montana (QUÉL.) SING.

ミヤマトンビマイタケ

SINGER, Ann. Myc. 39 : 47. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 99. 1943—原, 日. 菌. 目. 34. 1954)

Cerioporus montanus QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 16 : 4, *pl. 21, f. 10*. 1887; Fl. Myc. 408. 1888.

Polyporus montanus BRES. Hymen. Kmet. 69. 1897—FERRY, Rev. Myc. 19 : 144, *pl. 180, f. 27*. 1897—PATOUILLARD, Ess. Tax. 78. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 3 : 38, *f. 364*. 1910; Stip. Polyp. 148. 1912; 7 : 1147, *f. 2203*. 1922—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 260. 1912; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 965. 1916—KILLERMAN, Hedwigia, 61 : 1, *pl. 1*. 1920—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 106. 1925; Hymen. Fr. 523. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 424*. 1929.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1922—今關, 植. 硏. 雜. 15 : 442, 448, *f. 10—11*. 1939)

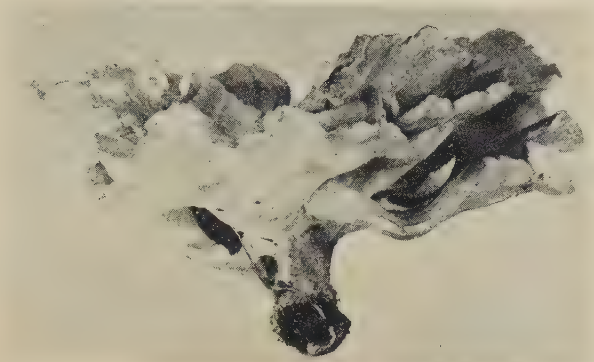
Cladomeris montana BIG. et GUILL. Fl. Champ. Fr. 410. 1909.

Grifola montana PILÁT, Beih. Bot. Centralbl. 52 B : 62, *pl. 5*. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 55, *pl. 17—19*. 1936.

? *Polyporus Dickinsii* BERK. Jour. Linn. Soc. 16 : 49. 1878—COOKE, Grev. 13 : 84. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 94. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 3 : 40. 1910; Stip. Polyp. 149. 1912.

(松村, 植. 名鑑, 1 : 163, 1904—白井, 日. 菌. 目. ed. 1. 72. 1905; ed. 2. 473. 1917; ed. 3. 290. 1927)

子實體は有莖, 通常共通の莖より多數の大傘を叢生し, 覆瓦狀或は四方に分布し, 徑 30 cm 或はそれ以上に及ぶ大團塊をなす, 肉質なり, 傘は外圍腎臟



第 244 圖　ミヤマトンビマイタケ *B. montana*　×1/5(大谷氏)

形，半圓形或は扇形にて上面扁平，5—15×4—10×0.5—2cm，表面は粗天鵞絨狀短毛を有し，濃或は淡煙草色，不明瞭の環紋を有す，緣は鈍くして圓く，通常波狀或は淺裂し，內屈す，肉は肉質，多濕，白色，傷によりて黑變せず，管孔は長さ 1—3mm，孔口は不規則なる網狀をなし，形狀大小1樣ならず，徑 0.5—1.5mm，孔緣は稍々齒牙狀をなす，實質は生時白色，後汚白色となり又煙草色の汚斑を生ず，莖は側生，短大にて傘との限界不明瞭，往々塊狀をなす，上面は傘面と同樣なり，胞子は球狀，小嘴あり，有刺，無色，徑 6—7μ，1端に長さ 7—9μ の小柄あり。

所在及產地

針葉樹枯幹及老木根際等　北海道，本州一歐

和名　ミヤマトンビマイタケ(深山舞茸)〔今關〕

III. Ganodermeae　マンネンタケ族

子實體は裸實，一年生又は多年生，無莖又は有莖，樹上生，傘は常に明瞭なる殼皮を有し，表面は屢々漆狀光澤を帶ぶ，肉は木栓質，纖維狀木栓質又は稀に稍々肉質，類白色，肉桂色或は栗褐色，子實層托は管孔狀，1層又は多層，胞子は楕圓形又は卵形にて先端屢々截頭，概して2重の膜を有し，外膜は無色，平滑，內膜は屢々細刺又は刻紋を有し，黃褐色。

屬檢索表

A. 殼皮は倒棍棒狀に肥大せる厚膜多胞暗色菌絲が柵狀組織狀に並列して作らる。
- a. 傘面に漆樣光澤なし，有莖，胞子球形乃至楕圓形，外膜無色，平滑，內膜往々微細なる刻紋ありて有色。　コマタケ屬 **Amauroderma** (339)
- b. 傘面に漆樣光澤あり，有莖又は無莖，胞子卵形，通常截頭，外膜無色，平滑，內膜黃褐色，細突起あり。マンネンタケ屬 **Ganoderma** (341)

B. 殼皮は厚膜多胞菌絲が斜上又は直上して作られ，菌絲先端肥大せず，又柵狀組織狀とならず，漆樣光澤なし，無莖。
- a. 傘肉は木栓質乃至木質，有色，胞子は前屬と等し。　コフキタケ屬 **Elfvingia** (346)
- b. 傘肉は生時肉質，乾時木質狀，白色，胞子は著しく大形。エビタケ屬 **Trachyderma** (349)

Amauroderma (Pat.) Murr.
コマタケ屬

Murrill, Bull. Torr. Bot. Club, 30: 301. 1903.
Fomes Kickx, Auct. plur. pr. p.
Ganoderma sect. *Amauroderma* Patouillard, Bull. Soc. Myc. Fr. 5: 64. 1889.
Polyporus Fries, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生，有莖，莖は中心生，偏心生或は側生，傘面と同樣に殼皮を被る。傘は扁平，圓形，腎臟形等，表面は常に殼皮を有す，殼皮は倒棍棒狀に肥厚せる多胞の菌絲端より成り，菌絲は並列し稍々柵狀組織狀をなす，漆樣光澤なし，傘肉は木栓質，肉桂色，子實層托は管孔狀，1層，孔口は圓形，細小，囊狀體なし，胞子は球形乃至楕圓形，2重の膜を有することあり，外膜は無色，平滑，內膜は往々微細なる刻紋を有し，有色。樹上生。

（本屬名は amauros (暗き，明を失う) derma (皮) より出づ）

基準種　*A. regulicolor* (Cooke) Murr.

〔因記〕本屬は *Ganoderma* 屬の如き漆光澤なく，殼皮の構造も稍々異なるも，胞子の2重膜を有する等近緣なること明なり。

本邦既知種檢索表

A. 管孔面は擦傷により變色す。
- a. 傘は大形にて 10cm 內外，莖長は傘徑と大差なし，胞子 8—12×8—10μ。
  シユツケツマンネンタケ *A. rugosum* (340)

b. 傘は比較的小形にて徑 5cm 內外，莖長は傘徑と大差なし，胞子 7—8μ。

コマタケ *A. juxtarugosum*(340)

B. 擦傷により變色せず，傘は徑 5cm 內外，莖長は傘徑の 2 乃至 3 倍に及ぶ，胞子徑約 12μ。

ナガエコマタケ *A. omphalodes* (340)

Amauroderma rugosum (BLUM. et NEES) IMAZ.

シユツケツマンネンタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 100. 1943. (IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57: 99. 1952—原，日．菌．目．16. 1954)

Polyporus rugosus BLUM. et NEES, Fung. Jav. 21: *pl.7*. 1826—FRIES, Epicr. Myc. 435. 1838; Nov. Symb. Myc. 44. 1851—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 110. 1912.

Fomes rugosus COOKE, Grev. 13: 117. 1885; Handb. Austr. Fungi, 128. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6. 152. 1888.

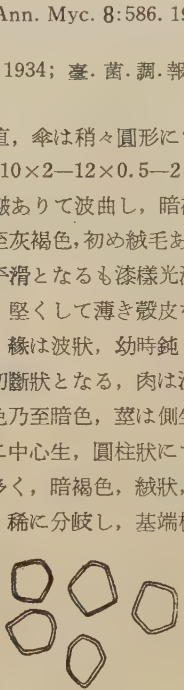
Ganoderma rugosum PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 5: 68. 1889—BRESADOLA, Ann. Myc. 8: 586. 1910; 10: 500. 1912.

(澤田，臺．博．報．24: 453. 1934; 臺．菌．調．報．7: 105. 1942)

子實體は有莖，革質，剛直，傘は稍々圓形にて丸山形，後中凹となる，1.5—10×2—12×0.5—2cm，表面は淺き環溝及放射狀に皺ありて波曲し，暗褐色乃至灰褐色，初め絨毛あり，後平滑となるも漆樣光澤なし，堅くして薄き殼皮を有す，緣は波狀，幼時鈍く，後切斷狀となる，肉は汚灰褐色乃至暗色，莖は側生，時に中心生，圓柱狀にて結節多く，暗褐色，絨狀，有殼，稀に分岐し，基端根狀をなす，3—10×0.4—1.5cm，管孔面は凹面，初め白色，擦傷によりて速に紫色を呈し，後藍黑色となる，乾時暗灰色，管長 3—7mm，孔口は小，圓形或は角形，1mm 間平均 5 個，孔壁薄し，囊狀體なし，胞子は類球形或は卵形，有嘴，平滑，淡色，8—12×8—10μ。



a



b

第 245 圖 シユツケツマンネンタケ *A. rugosum*
a. 子實體 ×1 b. 胞子 ×612 (大谷氏)

所在及產地

根上，稀に根株上

九州？—阿．濠．亞(比．爪．錫．臺)

和名 シユツケツマンネンタケ

(出血萬年茸)〔澤田〕

Amauroderma juxtarugosum (LLOYD) IMAZ.

コマタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 100. 1943. (原，日．菌．目．16. 1954)

Polyporus juxtarugosus LLOYD, Myc. Writ. 6: 1096. 1921; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 108. 1936.

(安田，植．雜．37: 118. 1923—白井，日．菌．目．ed. 3. 291. 1927)

子實體は有莖，栓革質，高さ 2.5—7cm，傘は外圍圓形，薄く，徑 3—5cm，厚さ 2—7mm，表面は殼皮を被むり，肉桂色，多數の皺と不明瞭なる環層を有し，平滑なるも平坦ならず，肉は肉桂色，管孔は莖の上端周圍に狹き間隙を存して下垂し，往々莖を包圍する觀を呈す，管孔は短かくして肉桂色，長さ 1—3mm，孔口は甚だ小にて圓形，口緣暗褐色，徑 0.16—2mm，生時傷によりて血色を呈し，乾時その部は黑色となる，莖は中心生，細圓柱狀，1.5—6.5×0.25—0.4cm，上部少しく肥大，表面肉桂色，粉狀微毛に被われ，中空，子實層に囊狀體なし，胞子は球形，平滑，淡褐色，徑 7—8μ。

所在及產地

林地上 本州，四國

和名 コマタケ（獨樂茸）〔安田〕

Amauroderma omphalodes (BERK.) IMAZ.

ナガエコマタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 100. 1943. (原，日．菌．目．16. 1954)

Polyporus omphalodes BERK. Jour. Bot. 8: 172. 1856—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 113, *f. 409*. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1345. 1925)

Fomes omphalodes COOKE, Grev. 13: 117. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 153. 1888.

Ganoderma omphalodes PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 5: 77. 1889; Ess. Tax. 105. 1900.

Scindalma omphalodes KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

子實體は有莖，傘は丸山形にて中窩を有し，外圍圓形，稀に正圓形なるも，多くは緣邊多少淺裂波曲し，時に裂けて莖に及ぶ，徑 2.5—5cm，表面は無毛，有殼なるも漆様物なく，皺襞を有し，多少環層あり，管孔部は凹形，灰色，管孔長さ約 2mm，孔口は小點形，孔壁は粉狀，莖は細長，10—15×0.2—0.4cm，光澤なき淡褐色，有根，粉狀，胞子は球形，平滑，淡色，徑 12μ。

所在及產地

林地　本州一南米

和名 ナガエコマタケ（長柄獨樂茸）〔今關〕

Ganoderma KARST. emend. MURR.

マンネンタケ屬

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9): 17. 1881—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 118. 1908.

Fomes KICKX, Auct. plur. pr. p.

Placodes QUÉLET, Enchir. Fung. 170. 1886. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生，有莖或は無莖，莖は概して側生，傘と同様の殼皮を被る。傘は扁平，腎臟形乃至扇形等，表面は常に明瞭なる殼皮を被むり，且つ漆様光澤を有す，殼皮は厚膜の倒棍棒形なる暗色の菌絲端より成り，互に並列して柵狀組織狀をなす，傘肉は纖維狀木栓質，肉桂色，子實層托は管孔狀，通常1層，孔口は圓形，細小，囊狀體なし，胞子は卵形，先端は通常截頭，2種の膜を被むり，外膜は平滑，無色，內膜は略々楕圓形，黃褐色，細かき突起を有す。樹上生。（本屬名は ganos（光る）derma（皮）より出づ）

基準種　*G. lucidum* (LEYSS. ex FR.) KARST.

本邦既知種檢索表

A. 傘肉は淡材白色乃至淡肉桂色，管孔に近き部分のみ濃色。

a. 長き直立莖を有し，傘は中等大。

α. 傘面に著しき光澤あり。

Ⅰ. 傘面は赤褐乃至紫褐色，稀に殆ど黑色，莖は普通側生，徑 1—2cm，通常廣葉樹上。

マンネンタケ ***G. lucidum*** (341)

Ⅱ. 傘面殆ど黑色，放射狀の疎大なる皺襞あり，莖は多くは側生，徑 1cm 以下，針葉樹上。

マゴシヤクシ ***G. neo-japonicum*** (343)

Ⅲ. 傘面は黑色，放射狀の疎大なる皺襞あり，肉は3層，莖は中心生，徑 1.8cm。

コウモリマンネンタケ ***G. subumbraculum*** (343)

β. 傘面光澤乏しきか全くなし，黃褐乃至チョコレート色，莖は側生，廣葉樹上。

ツヤケシサイワイタケ ***G. curtisii*** (343)

b. 莖は短大，屢々痕跡的或は無莖，傘は大形。

α. 傘面赤褐乃至殆ど黑色，平滑，莖は水平に側生，短大にて通常長さ 4cm 內外，針葉樹上。

ツガノマンネンタケ ***G. tsugae*** (344)

β. 傘面は帶紫チョコレート色，僅か環溝あり，莖は殆ど痕跡的，偏在，長さ 2cm 內外，廣葉樹上。

オオマンネンタケ ***G. sessile*** (345)

γ. 傘面淡黃色，平滑，坐生，甚だ大形にて輕し，徑 48cm に及ぶ，カキノキ上。

ニセカンバタケ ***G. colossum*** (345)

B. 傘肉は1様に濃褐色，莖は短く，傘の背面に偏在或は無莖。

α. 胞子卵形，內膜突起著し，傘面殆ど黑色或は帶紫チョコレート色。

クロガネマンネンタケ ***G. fornicatum*** (345)

β. 胞子は狹卵形，內膜突起微細にて不鮮明，シュロ類上。

シママンネンタケ ***G. boninense*** (346)

Ganoderma lucidum (LEYSS. ex FR.) KARST.

マンネンタケ

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9): 17. 1881; Hattsv. 2: 33. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 327. 1889—PATOUILLARD, Bull. Soc. Myc. Fr. 5: 66. 1889; Ess. Tax. 105. 1900—BRESADOLA, Ann. Myc. 1: 74. 1903—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 102, 189. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 247. 1913—REA, Brit. Basid. 597. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 182. 1925; Hymen. Fr. 609. 1928—GÜSSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 196, *pl. 100, f. 2*. 1927—HADDOW, Jour. Arn. Arb. 12: 39, *f. 1—3, 8—11*. 1931—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 1: 34, *f. 1 a–b, 2 a, 3—4*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 125. 1934. pr. p.—PILÁT, Ann. Myc. 38: 78. 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 481, *pl. 304, 307*. 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 58. 1941.

（今關，自然科學と博物館，61: 11, *f. 1—3*. 1935; 日. 隱. 植. 圖. 445, *pl. 213, f. 4*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 101. 1943; 植. 分. 地. 13: 253. 1943—逸見，日. 學術協. 報. 11: 384. 1936; 及田中，植. 動. 4: 1005. 1936; 及赤井，木. 腐. 菌學，378, *f. 189*. 1945—日野，植. 動. 5: 918. 1937. pr. p.—原，日. 菌.

目. 131. 1954)

Agaricus pseudoboletus JACQ. Fl. Austr. 1 : 26, *pl. 41*. 1773.

Boletus rugosus JACQ. Fl. Austr. 2:44, *pl. 169*. 1774.

Boletus obliquatus BULL. Herb. Fr. 335, *pl. 7*. 1780; *pl. 459*. 1790—DC. Fl. Fr. 2 : 121. 1815.

Boletus lucidus LEYSS. Fl. Halens. 300. 1783—SOWERBY, Col. Fig Engl. Fungi, 2 : *pl. 134*. 1799—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 522. 1801.

Boletus dimidiatus THUNB. Fl. Jap. 348, *pl. 39*. 1784.

Polyporus lucidus FR. Syst. Myc. 1:353. 1821; Elench. Fung. 1:76. 1828; Epicr. Myc. 442. 1838; Nov. Symb. Myc. 45. 1851; Hymen. Eur. 537. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2):136. 1836; Outl. Brit. Fung. 240. *pl. 16, f. 2*. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:431. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 20. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:267. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 271. 1872—GILLET, Champ. Fr. 666, cum icone. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:254. 1876—WINTER, Pilze, 1:442. 1884—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 193, *f. 188*. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 339. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 84, *pl. 95, n. 209*. 1910.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38:9. 1911; 4, Lett. 43 : 6. 1912; Lett. 60 : 6. 1915; Lett. 61 : 4. 1916; 5, Lett. 63:7. 1916; Lett. 65:3, 6. 1917; Lett. 66: 7. 1917; 7:1188. 1923—安田, 植. 雑. 31 : 54. 1917. pr. p.; 理學界, 15(3): 14. 1917—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 1:505. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 292. 1927)

Grifola lucida S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 644. 1821.

Polyporus laccatus PERS. Myc. Eur. 2:54. 1825.

Polyporus japonicus FR. Epicr. Myc. 442. 1838.

(MIQUEL, Prol. Fl. Jap. 392. 1868—安田, 植. 雑. 31 : 54. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 6 : 964. 1920—野島, 植. 病. 研究, 1:178, *f. 1—2, 4, pl. 6—7*. 1931)

Fomes lucidus KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 238. 1867—COOKE, Grev. 13 : 118. 1885; 14 : 118. 1886; Handb. Austr. Fungi, 128. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6:157. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:217. 1892; Brit. Fungi, 376. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 195. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 85, *pl. 9, f. 32*. 1914.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32:219. 1893; Monsunia, 1:10. 1899; Bot. Jahrb. 28 : 268. 1901; 32: 36. 1903—松村, 植. 名鑑, 1 : 143. 1904—白井, 日. 菌. 目. 35. 1905; ed. 2. 241. 1917—安田, 植. 雑. 27: 223. 1913)

Fomes amboinensis b. *japonicus* COOKE, Grev. 13 : 118. 1885.

Placodes lucidus QUÉL. Enchir. Fung. 170. 1886; Fl. Myc. 399. 1888.

Fomes japonicus SACC. Syll. Fung. 6:156. 1888.

(田中, 植. 雑. 4:385. 1890—白井, 新. 日. 植. 圖. 2: *pl. 74*. 1901; 日. 菌. 目. 35. 1905; ed. 2. 241. 1917; ed. 3. 139. 1927—松村, 植. 名鑑, 1:143. 1905—KAWAMURA, Illus. Jap. Fung. *pl. 8, f. 17—19*. 1913; 日. 菌. 圖說, *n. 142*. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:111. 1931)

Fomes japonicus f. *dimidiata* SACC. Syll. Fung. 6 : 156. 1888.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 241. 1917; ed. 3. 139. 1927)

Phaeoporus lucidus SCHROET. Pilze Schles. 1: 491. 1888.

Scindalma variegatum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 517. 1898.

Ganoderma pseudoboletum MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 29: 602. 1902—ATKINSON, Bot. Gaz. 46 : 334, *f. 1, pl. 19, f. 6*. 1908.

Fomes lucidus f. *mesopoda* MATSUMURA, Ind. Pl. Jap. 1 : 143. 1904.

(白井, 日. 菌. 目. 35. 1905)

Fomes laccatus MASS. Brit. Fungi, 376. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 267, *f. 603*. 1915.

Ganodermus japonicus LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 102. 1912.

Ganoderma lucidum var. *japonicum* BRES. Ann. Myc. 10 : 500. 1912.

Ptychogaster lucidus LLOYD, Myc. Writ. 5: 699, *f. 1046*. 1916; 6:949. 1920; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 141. 1936.

Ganoderma laccatum BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41:185. 1925; Hymen. Fr. 612. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 21 : *pl. 1004*. 1932.

? *Ptychogaster japonicus* LLOYD, Myc. Writ. 5:681, *f. 1017*. 1917; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 141. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65 : 13. 1917)

? *Ceriomyces japonicus* TROTT. in SACC. Syll. Fung. 23 : 452. 1925.

子實體は1年生，有莖，傘は腎臟形，半圓形或は類圓形，扁平或は少しく丸山形，表面は平滑，不明瞭なる環溝を有し，放射狀の細皺あり，初め卵黃白色，後黃褐乃至赤褐色，更に栗褐色或は殆ど黑色となることあり，著しき漆狀光澤あり，緣は薄く或は厚く，時に截斷狀，全緣又は波曲乃至淺裂す，肉は纖維狀木栓質，2層より成り，上層は帶白色にて稍々柔く，下層は肉桂色にて堅し，管孔は長さ1cmに及び，肉桂色，孔口は初め帶白色乃至帶綠黃白色，後濃肉桂色となる。莖は3—15×0.6—2cm，稀に缺如す，直立，側生，偏心或は中心生，普通不規則に凹凸，屈曲す，表面は傘面と略々等しく，殆ど黑色なり，胞子は卵形，先端鈍圓或は截頭，平滑，9.5—11×5.5—7μ，內膜は淡黃褐色，細突起を密布し，



a　　　　　　　　　　b

第246圖　マンネンタケ *G. lucidum*
a. 子實體 ×1/2　　b. 胞子 ×612（大谷氏）

7.5—8.5×5—5.5μ，傘の殼皮は柵狀組織狀をなし，厚さ 30—37μ，構成菌絲は棍棒形，黃褐色，厚膜，徑5—7.5μ，規則正しく密に並列す，漆層は無色，厚さ 7—15μ。

異狀體（*Ptychogaster*）は白色，柔軟，肉質にて地上に生ず，組織は大なる不規則の剛直なる菌絲より成り，その菌絲は細軟毛瘤となりて突出す，胞子を認めず。

所 在 及 產 地

普通廣葉樹切株，枯木及附近地上，時に生木樹上及根際　　全土—歐.北米.阿.濠.亞(爪.支)

和 名　マンネンタケ（萬年茸），サイワイタケ(幸茸)，レイシ（靈芝）

〔**因 記**〕異狀體につきては後來の調査を要す。

Ganoderma neo-japonicum IMAZ.

マゴシヤクシ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 1:37, *f. 1 c, 2 b, 5*. 1931.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 101. 1943; 及土岐，林.試.研.報. 67:28. 1954—原，日.菌.目. 131. 1954)

Ganoderma lucidum (non KARST.)

（日野，植.動. 5: 918. 1937. pr. p.）

子實體は1年生，有莖，傘は腎臟形乃至類圓形，3—11×4—11cm，通常丸山形，表面は平滑，放射狀の疎大なる皺襞を有し，環溝は殆どなし，幼時より黑色或は鮮赤褐色，後紫黑色又は殆ど黑色となる，著しき漆狀光澤あり，緣は下方に屈曲し，通常薄く，時に截斷狀，略々全緣，肉は纖維狀木栓質，厚さ 0.7cm に及び，2層より成り，上層は帶白色にて柔く，下層は肉桂色にて稍々堅し，管孔は長さ 0.2—1cm，肉桂色，孔口は始め帶白色乃至帶綠黃白色，後濃肉桂色となる。莖は 5—27×0.7—1.3cm，常に直立，側生，時に偏心又は中心生，表面は傘面に等し，胞子は 10—12.5×7.5—8.5μ，內膜は 8—9×5.5—6.5μ，その他は前種に等し，傘の殼皮は柵狀組織狀をなし，厚さ 35—50μ，構成菌絲は棍棒形，厚膜，黃褐色，徑 5—7.5μ，規則正しく密に並列す，漆層は無色，厚さ 7—15μ。

所 在 及 產 地

針葉樹枯根幹上　　本州，九州

和 名　マゴシヤクシ（孫杓子）〔方言〕

Ganoderma subumbraculum IMAZ.

コウモリマンネンタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 1:38, *f. 7*. 1931—PILÁT, Ann. Myc. 38: 79, *pl. 3, f. 1*. 1940.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:101. 1943—原，日.菌.目. 131. 1954)

子實體は1年生，有莖，傘は圓形，稍々丸山形に彎曲し，殊に中央部廣く隆起す，放射狀の疎大なる皺襞と數個の淺き環溝を有し，平滑，黑色，强き漆狀光澤あり，緣は急に薄く，下方に少しく屈曲し，著しく波曲す，肉は3層より成り，上層は傘の中央部に於て能く發達し，厚さ 1—1.2cm，柔毛氈質，肉桂色，中層は薄く，1—2mm，汚白色にて稍々堅く，莖の肉と同質にてこれと連絡し，上下兩層の間に挾まる，下層は上層よりも濃き肉桂色にて厚さ 2—5mm，中央部以外は略々1樣の厚さを有し，傘の周邊部にては殆ど下層組織のみより成る。管孔は長さ 1cm 內外，莖に殆ど着生し，濃肉桂色を呈す。莖は 6×1.8cm，中心生，圓柱狀，上下同幅，外面は黑色にて强き光澤あり，殼皮は傘の殼皮に比し遙かに厚くして堅硬，內部には太き髓あり，胞子は卵形，11—12×7—7.5μ，內膜部は 8—9×6—6.5μ，その他は前種に等し，殼皮は規則正しき柵狀組織狀をなし厚さ 30—35μ，漆層は無色，厚さ 5μ。

所 在 及 產 地

枯木上　　四國

和 名　コウモリマンネンタケ(洋傘萬年茸)〔今關〕

Ganoderma curtisii (BERK.) MURR.

ツヤケシサイワイタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9: 120. 1908; North. Polyp. 55. 1914; South. Polyp. 55. 1915—ATKINSON, Bot. Gaz. 46: 336, *f. 3, pl. 19, f. 3*. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 102. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 247. 1913—HADDOW, Jour. Arn. Arb. 12: 40,

f.6, 8—20. 1931—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 1: 40, *f. 2c, 8.* 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 126. 1934.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 101. 1943—原, 日. 菌. 目. 131. 1954)

Polyporus Curtisii BERK. Hook. Jour. Bot. 1: 101. 1849—FRIES, Nov. Symb. Myc. 45. 1851.

Fomes Curtisii COOKE, Grev. 13: 118. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 158. 1888.

Ganoderma pseudoboletus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 29: 603. 1903. pr. p.

Ganoderma flabelliforme MURR. Jour. Mycol. 9: 94. 1903. pr. p.

子實體は1年生，有莖，傘は腎臓形或は類圓形，8—12×4—6cm，扁平或は少しく丸山形或は中央部窪む，表面は平滑，著しからざる放射状の縮皺と環溝とを有す，漆狀分泌物は少く，鈍光澤或は無光澤，黄褐色乃至チョコレート色，緣は鈍黄乃至黄白色，薄く或は略々截斷狀，通常波曲し，屢々淺裂す，肉は堅き纖維狀木栓質，2層より成り，上層は淡色，下層は肉桂色，管孔は長さ 1cm に及び，肉桂色，孔口は帶綠黄白色，後肉桂色となる。莖は側生或は偏在し，直立，往々不規則に屈曲す，7—12×1.5—2.5cm，表面は濃チョコレート色乃至黑色，光澤强し，胞子は卵形，10—11.5×7—8μ，內膜は 8—9.5×5—6μ，その他前種に等し，殼皮は不完全なる柵狀組織狀をなし，厚さ 15—25μ，構成菌絲は短棍棒形，厚膜，黄褐色，不規則に並列し，先端部は平坦ならず，漆層は厚さ 0—7μ。

所在及產地

廣葉樹枯木上　　九州—北米．阿

和名 ツヤケシサイワイタケ（艶消幸茸）〔今關〕

Ganoderma tsugae MURR.

ツガノマンネンタケ

MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 29: 601. 1902; N. Am. Fl. 9: 118. 1908; North. Polyp. 54. 1914; Mycologia, 11: 101, *pl.6, f.1.* 1919—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci, Mus. 1: 41, *f. 9—10.* 1931.

(今關，日. 隱. 植. 圖. 445, *pl.213, f.1—3.* 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 101. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 32. 1952—原，日. 菌. 目. 131. 1954)

Fomes Tsugae SACC. et D.SACC. Syll. Fung. 17: 123. 1905.

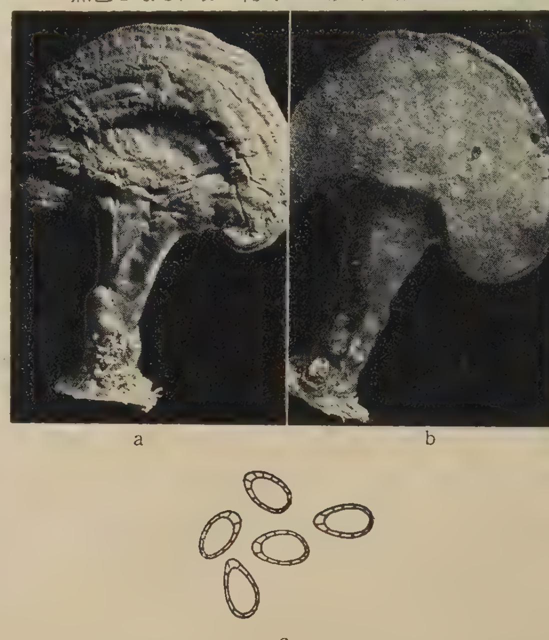
Ganoderma pseudoboletum f. *tsugae* ATKINS. Bot. Gaz. 46: 335, *pl. 19, f. 2.* 1908.

Polyporus Tsugae OVERH. Ann. Missouri Bot. Gard. 2: 714. 1915—WEST, Mycologia, 11: 264. 1919.

Polyporus oregonensis (non MURR.)

(LLOYD, Myc. Writ. 4: 3. 1915—安田，植. 雜. 29: 421. 1915; 31: 54. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 293. 1927)

子實體は1年生，有莖，傘は初め扇形又は箆形，後半圓形或は腎臓形となる，10—25×7—16cm，厚さ基部に於て 1—4cm，扁平又は少しく丸山形，表面は平滑，略々平坦，著しき漆狀光澤あり，幼時少しく粘性，黄色乃至銹黄色，後赤褐色より遂に殆ど黑色となる，緣は薄くして銳く，稀に截斷狀，全緣，



第247圖　ツガノマンネンタケ *G. tsugae* a. 子實體表面　b. 同裏面×2/5　c. 胞子×612（大谷氏）

肉は初め多濕，熟後纖維狀木栓質，淡材白色にて管孔部に近ずくに從つて次第に肉桂色を呈す。管孔は長さ 1—1.5cm，肉桂色，孔口は帶白色乃至帶綠黄白色，後に肉桂色，莖は常に側生，水平に展び稀に斜上す，通常長さ 2—4cm，稀に 10cm 餘に及ぶ，表面は傘面と等しく黑色，胞子は卵形，10—12×6.5—7.2μ，內膜部は 8—9.5×5.3—6μ，その他は前種と等し，殼皮は正しき柵狀組織狀をなし，厚さ 40—60μ，構成菌絲は徑 5—7μ，厚膜，長棍棒形，黄褐色，規則正しく並列す，漆層は厚さ 10—22μ，無色，液材腐蝕を起す。

所在及產地

針葉樹枯木，倒木上

北海道，本州，九州—北米．亞(樺)

和名 ツガノマンネンタケ（栂萬年茸）

マンネンタケモドキ（擬萬年茸）〔安田〕

Ganoderma sessile MURR.

オオマンネンタケ

MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 29:601. 1902; N. Am. Fl. 9:120. 1908; North. Polyp. 54. 1914; South. Polyp. 55. 1915; Mycologia, 11:102, *pl. 6, f. 3.* 1919—AMES, Ann. Myc. 11:247. 1913—HADDOW, Jour. Arn. Arb. 12:40, *f. 4—5, 12—15.* 1931—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 1:43, *f. 1d, 11.* 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 127. 1934.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:101. 1943—原，日．菌．目．131. 1954)

Fomes sessilis SACC. et D. SACC. Syll. Fung. 17: 122. 1905.

Ganoderma subperforatum ATKINS. Bot. Gaz. 46:337, *f. 5, pl. 19, f. 5.* 1908—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 301. 1912.

Polyporus valesiacus (non BOUDIER)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60:8. 1915—安田，植．雜．29: 420. 1915; 31: 54. 1917—白井，日．菌．目．ed. 3. 296. 1927)

Polyporus sessilis LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 371. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 121. 1936.

子實體は1年生，殆ど無莖，傘は外圍腎臟形乃至類圓形にて上面丸山形，10—27×8—20 cm，傘面は2—3の明かなる環溝あり，又不規則に起伏し瘤狀隆起あり，平滑，著しき漆狀色澤あり，帶紫チョコレート色，傘緣は鈍圓又は稍々薄く，全緣或は波曲，肉は纖維狀木栓質，淡材白色にて管孔に近く肉桂色を呈す，往々基脚部を中心に微かに層あり，管孔は長さ 0.8—1.3 cm，肉桂色，孔口は同色，莖は殆ど痕跡的，傘の下面に著しく偏在，2×3—5 cm，直立性，胞子は偏卵形，先端圓鈍，平滑，11×6—7 μ，外膜は極めて薄く，內膜は微細の突起を有し，淡黃褐色，9—10×6 μ，傘の殼皮は整然たる柵狀組織をなし，厚さ 30—35 μ，構成菌絲は厚膜，黃褐色，密に並列す，漆層は厚さ 10—22 μ。

所在及產地

闊葉樹枯木上　本州—北米

和名　オオマンネンタケ（大萬年茸）〔安田〕

Ganoderma colossum (FR.) BOSE

ニセカンバタケ

BOSE, Bull. Carmich. Medic. Coll. 2: 3. 1921.
(IMAZEKI, Nagaoa, 3: 22. 1953)

Polyporus Colossus FR. Nov. Symb. Myc. 40. 1851—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:7. 1912; Apus Polyp. 368, *f. 702.* 1915.

Ganoderma Obockense PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 3: 119, *pl. 9.* 1887; 5: 67. 1889.

Dendrophagus Colossus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32: 473. 1905.

Tomophagus Colossus MURR. Torreya, 5: 197. 1905; N. Am. Fl. 9: 30. 1907; Trop. Polyp. 18. 1915.

子實體は坐生，傘は半圓形乃至腎臟形にて丸山形，甚だ大形にて橫徑 48 cm，厚さ約 10 cm に及ぶ，表面は無毛，平滑，環紋なく，殼皮を被むる，殼皮は薄く，剝げ易く，淡黃色，多少光澤あり，薄き漆狀分泌物に蔽わる，柵狀組織狀菌絲より成る，緣は鈍圓，同色，肉は極めて輕く，柔軟，海綿質，淡褐色，管孔の長さ3—10 mm，孔口は小形にて 1 mm 間3—4個，胞子は廣卵形，截頭，12—14.5×9.5—10.5 μ，外膜は厚さ 1 μ，內膜は淡黃褐色，明かに有刺。

所在及產地

カキ（*Diospyros*）の切株上

九州—北米．阿．亞（印．比）

和名　ニセカンバタケ（贋樺茸）〔今關〕

Ganoderma fornicatum (FR.) PAT.

クロガネマンネンタケ

PATOUILLARD, Bull. Soc. Myc. Fr. 5: 71. 1889—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 104, *f. 398.* 1912—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 47, *f. 14.* 1939.

(今關，植．硏．雜．17: 178. 1941—澤田，臺．菌．調．報．7: 105. 1942—原，日．菌．目．131. 1954)

Polyporus fornicatus FR. Epicr. Myc. 443. 1838.

Fomes amboinensis f. *fornicatus* COOKE, Grev. 13: 118. 1885.

Fomes fornicatus SACC. Syll. Fung. 6: 156. 1888.

子實體は1年生，短莖を有するか或は無莖にて側着，傘は外圍類圓形乃至半圓形，通常上背面に偏在して莖をつけ，上面少しく丸山形，或は扁平，7—11×7—8 cm，表面は平滑，緩かなる放射狀の疎皺及び著しからざる環溝あり，殆ど黑色或は帶紫チョコレート色，强き漆狀光澤あり，傘緣は鈍圓又は截頭狀，下面往々無性，肉は稍々堅き纖維狀木栓質，同質，栗色乃至煙草色，管孔に近く濃色，厚さ基部に於て 1 cm 內外，管孔は長さ 1 cm 內外，同色，孔口は更に暗色，莖は甚だ短く，殆ど瘤狀にて痕跡的，胞子は卵形，黃褐色，9—11×6—7 μ，內膜部は 6.5—8×5—5.5 μ，突起は顯著なり，傘の殼皮は頗る堅硬，柵狀組織をなす，構成菌絲は棍棒形，厚膜，黃褐色，35—45×4—6 μ，密に並列す，漆層は黃色，厚さ 15 μ 內外。

所在及産地

枯木上　　琉球一亜(臺.錫)南洋.南米.濠

和名 クロガネマンネンタケ(黒金萬年茸)〔今關〕

Ganoderma boninense PAT.

シママンネンタケ

PATOUILLARD, Bull.Soc. Myc. Fr. 5:72. 1889—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 1:45, *f. 1e, 11.* 1931.

(今關, 日.隱.植.圖. 447, *pl.214, f.1, 2, 5.* 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:101. 1943; 植.研.雜. 17: 178. 1941—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:126. 1940—小林.服部植.研.報. 17. 1953—原, 日.菌.目. 131. 1954)

Fomes lucidus f. *boninensis* SACC. Syll. Fung. 6:157. 1888.

(松村, 植.名鑑, 1:143. 1904—白井, 日.菌.目. 35. 1905; ed. 2:241. 1917)

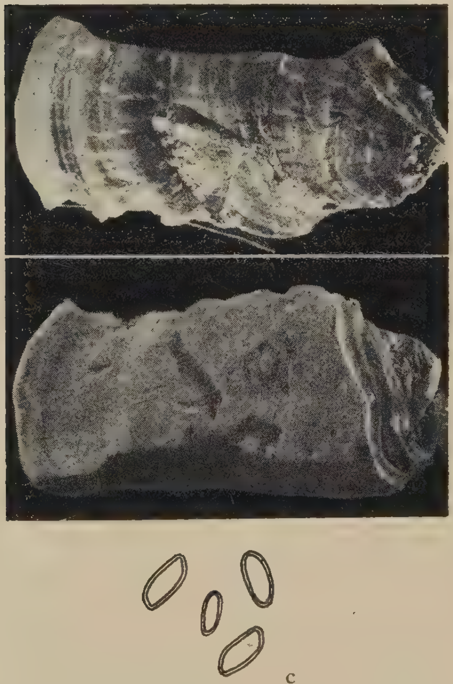
? *Ganoderma sulcatum* MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 29:607. 1902; South. Polyp. 56. 1915.

? *Ganoderma zonatum* MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 29:606. 1902; South. Polyp. 56. 1915.

Fomes boninensis LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 104. 1912.

Fomes japonicus f. *boninensis*

(白井, 日.菌.目. ed. 3. 139. 1927)



第248圖　シママンネンタケ *G. boninense*
a.子實體表面　b.同裏面 ×1　c.胞子 ×612
(大谷氏)

子實體は1年生,短莖或は殆ど無莖,時に側生，傘は外圍類圓形，半圓形又は腎臓形，通常上背面の側方に近く莖を着け，上面丸山形，時に稍々蹄形，5—12×3—9cm, 傘面は平滑，多くの淺環溝,及狹き放射狀縮皺あり，著しき漆樣光澤あり，紫褐色，栗褐色乃至黒褐色，傘緣は漸次薄く，少しく下曲，時に著しく波曲又は截斷狀，肉は柔き纖維狀木栓質，同質，濃煙草色，厚さ1cm 內外にて比較的薄し，管孔は長さ 0.8—2cm，同色，孔口は帶綠黃白色或は淡黃色等，後に暗肉桂色となる。莖は 2×1—2.5 cm，表面は傘面と同じ，胞子は狹長卵形，截頭或は鈍圓，淡黃色，11—12.5×5—6μ，外膜は極めて薄く，內膜上の突起も極めて微細にて殆ど不明瞭なり,傘の殼皮は整然たる柵狀組織をなし,厚さ30μ內外,構成菌絲は厚膜,棍棒形,黃褐色,徑 7.5μ 內外，漆層はよく發達し，厚さ 15—35μ，無色又は黃色。

所在及産地

椰子枯幹上　　九州，小笠原島一南洋

和名 シママンネンタケ（島萬年茸）

疑問種

(*Ganoderma* 所屬)

Fomes amboinensis COOKE

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32:219. 1893; Monsunia, 1:10. 1899(Leg. O. WARBURG. Liukiu Isl.)—松村, 植.名鑑, 1:143. 1904—白井, 日.菌.目. 34. 1905; ed. 2. 237. 1917; ed. 3. 139. 1927)

Elfvingia KARST. emend. IMAZ.

コフキタケ屬

KARSTEN, Krit.Oefv. Finl. Basidsv.333. 1889—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:101. 1943.

Fomes KICKX, Auct. plur. pr. p.

Friesia LAZARO, Rev. Roy. Acad. Cienc. Madr. 14:587. 1915—16.

Ganoderma KARSTEN, Auct. plur. pr. p.

子實體は多年生，時に1年生，無莖，傘は半圓形又は蹄形，表面は平滑，無毛，堅硬なる殼皮を被むるも漆樣光澤なし，殼皮の構成菌絲は暗色，厚膜，多細胞にて表面に向つて斜上或は直上するも特に肥大せず，又柵狀組織樣をなさず，傘肉は纖維狀木栓質或は稀に强靱なる肉質，類白色又は栗褐色，子實層托は1層又は多層，孔口は細小，胞子は卵形，2種の膜を被むり，外膜は平滑，無色，內膜は黃褐色，細かき突起を有す。樹上生。

(本屬名は芬蘭菌學者 FEDR ELFVING 氏の姓より出づ)

基準種　*E. applanata* (PERS.) KARST.

〔因記〕 本屬は *Ganoderma* の如き漆光澤なく，殊に殼皮の構造等を異にす。

本邦既知種　コフキタケ ***E. applanata*** (347)

Elfvingia applanata (PERS) KARST.

コフキタケ

KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 334. 1889.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:102. 1943; 及土岐，林．試．研．報．67 : 28. 1954—千葉及寺本，東．大．演．林．報．43:32. 1952—AOSHIMA, Nagaoa, 3 : 5, *f. 4*. 1953; 林．試．研．報．67 : 1—18. 1954—原，日．菌．目．113. 1954)

Boletus lipsiensis BATSCH, Elench. Fung. 1 : 183, *pl. 25*, *f. 130*. 1786.

Boletus applanatus PERS. Obs. Myc. 2 : 2. 1799—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 642. 1821.

Boletus fomentarius β. applanatus PERS. Syn. Meth. Fung. 536. 1801; Myc. Eur. 2 : 80. 1825.

Polyporus tornatus PERS. in FREYC. Voy. 173. 1826.

Polyporus australis FR. Elench. Fung. 1 : 108. 1928; Epicr. Myc. 464. 1838; Nov. Symb. Myc. 47. 1851; Hymen. Eur. 556. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 425. 1884.

Polyporus applanatus WALLR. Fl. Crypt. Germ. 2:591. 1833—FRIES, Epicr. Myc. 465. 1838; Hymen. Eur. 557. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 424. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 245. 1860—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:274. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:279, *pl. 19*, *f. 4*. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:263. 1876—WINTER, Pilze, 1:425. 1884—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 193. 1903.

Polyporus vegetus FR. Epicr. Myc. 464. 1838; Hymen. Eur. 556. 1874—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 245. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 274. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 14 : 7. 1885.

Polyporus megaloma LÉV. Ann. Sci. Nat. Bot. III, 5 : 128. 1846.

Polyporus leucophaeus MONT. Syll. Crypt. 157. 1856.

Fomes applanatus GILL. Champ. Fr. 686, cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 76. 1882—COOKE, Grev. 14:18. 1885; Handb. Austr. Fungi, 130. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6:176. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:224. 1892; Brit. Fungi, 379. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 348. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1):193. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 83, *pl. 9*, *f. 31*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 137. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 263. 1915; 6:1022. 1920—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b : 123. 1934—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 79 : 19, *pl. 6*, *f. 1*. 1948.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32:39. 1904—白井，日．菌．目．35. 1905; ed. 2. 239. 1917; ed. 3. 137. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:15. 1912; 45 : 4. 1913; 6, Lett. 69 : 7. 1919; 7 : 1125. 1922; 1267. 1924—安田，植．雜．26 : 298. 1912; 31 : 51. 1917—金平，臺．博．會．報．64:15. 1923—川村，日．菌．圖說，*n. 220*. 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 110. 1931—澤田，臺．菌．調．報．5 : 76. 1931)

? *Polyporus glaucotus* COOKE, Grev. 9 : 12. 1880.

Fomes vegetus KARST. Hattsv. 2 : 75. 1882—COOKE, Grev. 14:18. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:179. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:223. 1892; Brit. Fungi, 377. 1911—W.G. SMITH, Brit. Basid. 345. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 193. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 286. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126. 1922)

Fomes leucophaeus COOKE, Grev. 14 : 18. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 173. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 264. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 2, Lett. 19 : 2. 1908; 4, Lett. 42 : 15. 1912; Lett. 45 : 4. 1913; Lett. 53 : 7. 1914; 5:1012. 1920; 7:1296. 1924; 1345. 1925—安田，植．雜．23:69. 1909; 31:51, 76. 1917—梅村，植．雜．28 : 357. 1914—中路，植．雜．30 : 102. 1916—白井，日．菌．目．ed. 2. 241. 1917; ed. 3. 139. 1927—金平，臺．博．學．報．36:88. 1918—澤田，臺．菌．調．報．5:76. 1931)

Fomes megaloma COOKE, Grev. 14 : 18. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 173. 1888.

Fomes australis COOKE, Grev. 14 : 18. 1885; Handb. Austr. Fungi, 130, *f. 56*. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 176. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 265. 1915; 7 : 1165. 1922—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 81 : 3. 1949.

(P. HENNINGS, Hedwigia, 32:219. 1893; Monsunia, 1 : 10. 1899; Bot. Jahrb. 28 : 268. 1901—松村，植．名鑑，1:143. 1904—白井，日．菌．目．35. 1905; ed. 2. 239. 1917; ed. 3. 137. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:13. 1912—金平，臺．博．學．報．64: 15. 1923—澤田，臺．菌．調．報．5 : 76. 1931)

? *Fomes glaucotus* COOKE, Grev. 14 : 19. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 184. 1888.

(田中，植．雜．4 : 385. 1890—松村，植．名鑑，1 : 143. 1904—白井，日．菌．目．35. 1905; ed. 2. 241. 1917; ed. 3. 138. 1927)

Placodes australis QUÉL. Enchir. Fung. 171. 1886.

Placodes vegetus QUÉL. Enchir. Fung. 171. 1886.

Placodes applanatus QUÉL. Enchir. Fung. 171. 1886; Fl. Myc. 400. 1888.

Phaeoporus applanatus SCHROET. Pilze Schles. 1 : 490. 1888.

Phaeoporus vegetus SCHROET. Pilze Schles. 1 : 490. 1888.

Ganoderma applanatum PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 5:67. 1889; Ess. Tax. 105. 1900—BRESADOLA, Champ. Hongr. 4. 1890; Ann. Myc. 10:502. 1912—AMES, Ann. Myc. 11 : 247. 1913—REA, Brit. Basid. 597. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 184. 1925; Hymen. Fr. 611. 1928—GÜSSOW & ODELL, Mushr. & Toadst. 196. 1927—HUMPHREY & LEUS, Philipp. Jour. Sci. 45:514, *pl. 1—36*. 1931—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:374, *pl. 32*, *f. 4*. 1931—BRESADOLA, Icon. Myc. 21 : *pl. 1012*. 1932—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 448*. 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:25. 1932; 49:266. 1933; Ann. Myc. 38:78. 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:487. 1942—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:202. 1935—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 58. 1941.

(横木, 農. 園. 5:739. 1930—YAMANO, Spec. Rep. Tohoku Imp. Univ. IV, 6:199. 1931—澤田, 臺. 博. 會. 報. 24:450. 1934; 臺. 菌. 調. 報. 7:101. 1942—今關, 日. 隱. 植. 圖. 447, *pl. 214*, *f. 4, 6*. 1939; 植研. 雜. 17:177. 1941—S. ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16:125. 1940—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 375, *f. 186—8*. 1945)

Ganoderma australe PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 5:71. 1889; Ess. Tax. 105. 1900—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1011. 1916—REA, Brit. Basid. 598. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:184. 1925; Hymen. Fr. 612. 1928—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 58. 1941.

Ganoderma leucophaeum PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 5 : 73. 1889—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 58. 1941.

Scindalma lipsiense KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 518. 1898.

Scindalma glaucotum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 518. 1898.

Scindalma leucophaeum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

Scindalma Megaloma KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

Elfvingia Lipsiensis MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 297. 1903.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 168. 1909)

Elfvingia megaloma MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 300. 1903; N. Am. Fl. 9 : 114. 1908; Mycologia, 5: 291, *pl. 108*. 1913; North. Polyp. 53. 1914; South. Polyp. 54. 1915.

Elfvingia tornata MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 301. 1903; N. Am. Fl. 9 : 115. 1908.

Ganoderma lipsiensis ATKINS. Ann. Myc. 6 : 186, *pl. 2—4*. 1908—SACCARDO, Syll. Fung. 21 : 304. 1912; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1009. 1916.

Ganoderma tornatum BRES. Hedwigia, 53 : 55. 1912—AMES, Ann. Myc. 11 : 247. 1913.

Fomes adamantinus LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 235. 1915. pr. p. (non BERK.)

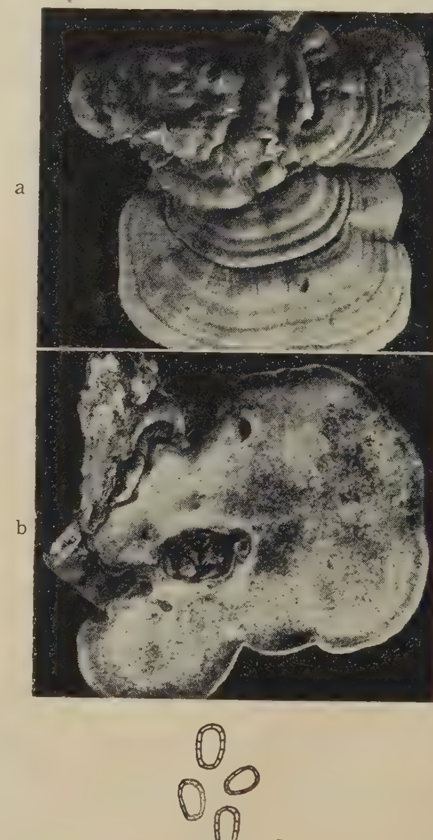
Ganoderma vegetus SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1012. 1916.

Ganoderma applanatum var. *vegetum* ROMELL, apud. REA, Brit. Basid. 597. 1922.

Ganoderma applanatum f. *australe* PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 266. 1933.

? *Fomes nigro-laccatus*

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:13, 15. 1912—安田, 植. 雜. 27:306. 1913—梅村, 植. 雜. 28:196. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 139. 1927)



第 249 圖 コフキタケ *E. applanata*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1/2
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

子實體は多年生, 坐生, 傘は扁平, 稀に蹄形, 5—30×5—50×1—15 cm, 傘面は扁平或は丸山形, 環溝を有し, 殼皮を有す, 殼皮は柔肉の爲めに破るる事あり, 粉狀, 摩擦せざれば光澤なし, 色種々あり, 即ち淡黄色, 灰色, 肉桂色, 赤褐色乃至帶黑色, 傘緣は圓く, 下面無性, 白色乃至淡黄色, 殼皮は厚

さ1mm以下，角質，斷面帶黑色或は暗褐色にて光澤あり，不規則に並ぶ膨大せる菌絲端によつて作らる，肉は柔く，層を有し，厚さ 2—12mm，種々なる色を呈す，即ち淡黃色乃至黑褐色，管孔は1樣に層をなし，傘肉の薄層によつて區分さる，その厚さ 0.5—2mm，管長各季 3—18mm，古孔は白色塡塞され，若孔は肉と殆ど同色，孔口は圓形，1mm 間 4—6 個，幼時白色，淡黃色乃至淡黃白色，傷によつて暗色に變ず，老時管孔と同色，孔壁は薄く，幅 40—80μ，子實層は鏡下にて無色乃至帶黃色，厚さ 16—25μ，單一或は叉狀にて不等幅の菌絲が擔子柄外に抽出す，これは嚢狀體の性を有せず，擔子柄は無色乃至帶黃色，徑 5—7μ，胞子は卵形にて截頭，細微刺ある如く見ゆ，褐色，材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹，稀に針葉樹幹上　　全土一汎布

和名 コフキタケ（粉吹茸）〔安田〕

コフキサルノコシカケ（粉吹猿腰掛）

Trachyderma IMAZ.

エビタケ屬

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57: 97. 1952.

Ganoderma subgen. *Trachyderma* IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 1: 49. 1939.

Ganoderma KARSTEN, Auct. plur. pr. p.

Elfvingia KARSTEN, sensu IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 101. 1943. pr. p.

子實體は1年生，傘は無莖，扁平乃至山形，表面は分化著しからざる殼皮を被むる，殼皮面は著しく粗荒或は平滑，無光澤或は鈍光澤を有す，肉は類白色，生時肉質，多濕，柔軟，乾時收縮し著しく堅硬となる。子實層托は1層，管孔狀，胞子は卵形，淡黃色，*Ganoderma* 型にて2重膜，內膜に突起あり，殼皮は *Elfvingia* 型にて柵狀組織狀ならず。樹上生。

（本屬名は trachy（粗荒の）derma（皮）より出づ）

基準種　*T. tsunodae* (YAS.) IMAZ.

本邦既知種　エビタケ ***T. tsunodae*** (349)

Trachyderma tsunodae (YAS.) IMAZ.

エビタケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. 57: 97. 1952. (原，日．菌．目．365. 1954)

Polyporus Tsunodae YASUDA, in LLOYD, Myc. Writ. 5: 792, *f. 1193.* 1918—YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 33: 139, *f. 1—2.* 1919.

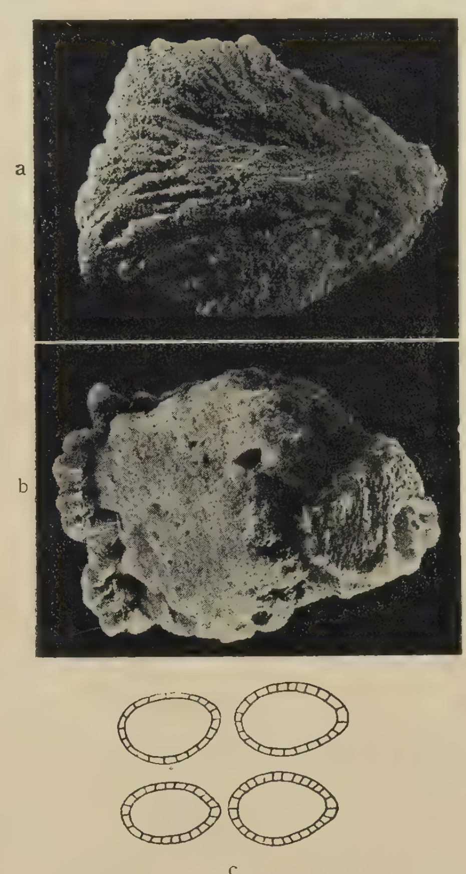
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 67: 11. 1918—安田，植．雜．33: 15. 1919—白井，日．菌．目．ed. 3. 295. 1927)

Ganoderma Tsunodae TROTT. in SACCARDO, Syll. Fung. 23: 139. 1925—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 1: 49, *f. 1, f 15.* 1931.

（今關，日．隱．植．圖．447, *pl. 214, f. 3, 7.* 1939—澤田，臺．菌．調．報．7: 110. 1942）

Elfvingia Tsunodae IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 102. 1943.

子實體は1年生，無莖，側着，傘は外圍半圓形乃至稍々扇形にて基部狹細す，3—22×3—19cm，厚さ基部に於て 1.5—3.5cm，上面少しく丸山形，或



第250圖　エビタケ *T. tsunodae*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1/2
c. 胞子 ×612　（大谷氏）

は扁平，傘面は放射狀細皺及粒狀突起ありて粗荒，乾時甚だ堅し，環紋及環溝なし，通常胞子粉を被むり，栗褐色乃至煙草色を呈し，光澤なし，傘緣は厚くして鈍圓，僅か下屈す，肉は生時濕潤にて纖維狀肉質，乾時堅き纖維狀木質，肉は白色，肉質，裂け易し，2種の菌絲より成り，1は徑 1—5μ，薄膜，

纖細にて不規則に纒絡し，他は徑5—7μ，厚膜にて束をなし放射狀に貫走す。管孔は長さ1.5cm内外，肉桂色或は暗褐色，孔口は小形，同色又は濃色，胞子は廣卵形，先端鈍圓，20—24×14—16.5μ，外膜は無色，平滑，內膜は淡黃色，稍々粗なる突起を有す，16—19×12—14.5μ。傘の殼皮は黃褐色，厚膜，多節なる菌絲より成り，各菌絲は表面に斜上し，少しく交錯しつつ並列し，緊密に結合，膠着し，柵狀組織をなさず。

所在及產地

廣葉樹殊にブナ (*Fagus*) 枯幹上

本州，九州一亞(臺)

和名 エビタケ（蝦茸）

IV. Cryptoporeae ヒトクチタケ族

子實體は包膜を有し半被實，1年生，無莖，傘の表面に漆樣の分泌物を被むり光澤あるも殼皮なし，傘肉は木栓質，子實層托は初め包膜によりて全く被覆さるるも，後膜は規則正しく開孔す，實質は傘肉と異質，胞子は無色，平滑，樹上生。

旣知屬　ヒトクチタケ屬 **Cryptoporus** (350)

Cryptoporus (PECK) HUBB.

ヒトクチタケ屬

HUBBARD, Canad. Ent. 24 : 250. 1892.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

族の性質と同じ

（本屬名は crypto (隱れたる) poruo (孔) より出づ）

基準種　*C. volvatus* (PECK) HUBB.

〔因記〕本屬は包膜を有し被實的なる全く特殊なる屬なり。

本邦旣知種

ヒトクチタケ ***C. volvatus*** (350)

Cryptoporus volvatus (PECK) SHEAR

ヒトクチタケ

SHEAR, Bull. Torr. Bot. Club, 29 : 450. 1902—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 125. 1905—MURRILL, N. Am. Fl. 9:94. 1907; North. Polyp. 43. 1914—AMES, Ann. Myc. 11:240. 1913—ZELLER, Mycologia, 7:120, *f. 1*, *pl. 159*. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 53. 1941.

（白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 185. 1917—今關, 日. 隱. 植. 圖. 457, *pl.219*, *f.1—3*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 111. 1943; 及土岐, 林. 試. 研. 報. 67:27. 1954—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:33. 1952—原, 日. 菌. 目. 98. 1954）

Polyporus volvatus PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 27:98, *pl. 2*, *f. 3—6*. 1875; Bull. Torr. Bot. Club, 7:104, *f. 1—3*. 1880—NEUMAN, Polyp. Wisc. 108, *pl. 13*, *f. 45*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:105. 1914—SCHMITZ, Phytopath. 12: 494, *f. 1*. 1922—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:321, *pl. 16*, *f. 1*. 1931—LOWE, Bull.N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 57. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 2: Lett. 19:2. 1908; 4, Lett. 41:1. 1912; Lett. 47 : 16. 1913; Lett. 65 : 5. 1917; 5, Lett. 67:7, 16. 1918; 2:376. 1908; 3, Polyp. Iss. 2 : 24, *f. 261*. 1909; 4, Apus Polyp. 313, *f. 652*. 1915; 5:661, *f. 948*. 1917; 6:1079. 1920; 7:1125. 1922—安田, 植. 雜. 22:32, *1 f.* 1908; 38:417. 1914; 31:52. 1917—KAWAMURA, Illus. Jap. Fungi, *pl. 2 f. 10—13*. 1912; 日. 菌. 圖說, *n. 37*. 1929—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 296. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 110. 1931—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 317, *f. 132*. 1945)

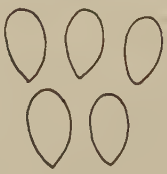
Polyporus obvolutus BERK. et COOKE, Grev. 7: 1. 1878.

Polyporus inflatus ELL. et MART. Am. Nat. 18: 722. 1884.

Fomes volvatus COOKE, Grev. 13 : 119. 1885—



a



b

第251圖　ヒトクチタケ *C. volvatus*

a. 子實體 ×2/3（龜井氏）　b. 胞子 ×612（大谷氏）

SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 165. 1888.

Fomes volvatus var. *obvolutus* SACC. Syll. Fung. 6 : 166. 1888.

Polyporus volvatus var. *Helix* P. HENN. Hedwigia, 37 : 273. 1898—SACCARDO, Syll. Fung. 16 : 152. 1902.

Scindalma volvatum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 519. 1898.

Ungulina volvata PAT. Ess. Tax. 102. 1900.

Ungulina volvata var. *pleurostoma* PAT. Bull. Soc. Myc. Fr. 23 : 74, *pl. 8, f. 4*. 1907.

Cryptoporus volvatus var. *pleurostoma* SACC. Syll. Fung. 21 : 282. 1912.

子實體は1年生，無莖或は甚だ稀に短莖を有し，普通蟲孔より生ず。傘は球形或は壓低されたる球形にて，徑 1—6cm，厚さ 1—4cm，生時幾分革狀木栓質，乾時堅緻，傘面は初め樹脂狀にて光澤あり，少しく粘質を帶ぶ，帶白色，淡卵黃色乃至赤褐色，平滑，無毛，無環紋，大形品には稍々網狀の皺襞を有す，緣は厚くして圓く，下方及び腹面に擴がり，子實層面を包む膜被（volva）となる，膜被は初め其緣部に傘面の樹脂狀分泌物を存するも，速に剝離し，1様に白色乃至淡桃色を呈す，柔くして細軟毛を有す，初め無口，後基部に普通1個の圓形或は稍々不規則の口を生ず，口の徑 3—6 mm，傘肉は白色或は淡色，柔木栓質，同質，厚さ 2—10 mm，管孔は初め白色，老時淡卵黃色乃至汚卵黃色，長さ 2—5 mm，孔口は甚だ小，帶白色乃至帶褐色，圓形乃至角形，1 mm 間平均 3—4 個，孔壁は口部に向つて厚く，全緣なり，胞子は圓壔狀楕圓形，有嘴，平滑，無色或は淡肉色，10—13×4—6μ。材の白腐を起す。

所在及產地

針葉樹幹上

北海道，本州，九州—北米. 亞(支. 朝)

和名 ヒトクチタケ（一口茸）〔安田〕

V. Mucronoporeae キコブタケ族

子實體は裸實，1年生又は多年生，無莖或は有莖，地上生又は樹上生，傘は一般に無皮無殼なるも，屢々下殼が發達し，稀に殼皮を有するものあり，傘肉は常に黃褐色系の色を帶び，加里液によつて暗色に變ず，纖維質，木栓質又は木質，子實層托は管孔狀，稀に同心的褶狀或は齒牙狀を呈す，1層或は多層，剛毛を作る傾向あり，菌絆を有せず，胞子は無色或は褐色，平滑。

〔**因記**〕今關氏は本族を *Mucronoporaceae* キコブタケ科として獨立せしめたり（Bull. Gov. For. Exp. St. 67 : 25. 1954），常に黃褐色系の傘肉を有し，菌絆を有せざる一群の菌なり。

屬檢索表

A. 無莖。

a. 下殼あり。

α. 孔口變形，胞子無色。

I. 孔口齒牙狀にて迷路狀或は稍々褶狀，傘肉は纖維質乃至革質，一般に剛毛體あり。

コガネウスバタケ屬 **Hydnochaete** (352)

II. 孔口は微細圓形，連絡して同心圓的環溝或は完全なる環褶を作る，傘肉は革質，通常剛毛體を有す。

ワヒダタケ屬 **Cyclomyces** (353)

β. 孔口正形，胞子無色或は黃褐色。

I. 下殼の發達不良，傘肉は多濕纖維質或は帶肉木栓質，乾時硬脆，孔口類圓形，屢々形崩る，少數の剛毛體あり。

カワウソタケ屬 **Inonotus** (355)

II. 下殼發達良好，傘肉は木栓質乃至木質，孔口類圓形又は迷路狀，一般に剛毛體あり。

スグリタケ屬 **Cryptoderma** (359)

b. 無皮無殼，胞子無色。

α. 殼皮なきも屢々僞殼を有す，傘肉は堅硬木質又は木栓質，孔口圓形，槪して剛毛體あり。

キコブタケ屬 **Phellinus** (368)

β. 傘肉は海綿狀肉質，乾時著しく脆弱，孔口類圓形，崩れ易し，剛毛體なし。

カイメンタケ屬 **Phaeolus** (380)

B. 有莖，胞子無色或は黃褐色。

a. 無皮，傘肉は纖維質又は稍々革質，孔口類圓又は多角形，剛毛體なし。

オツネンタケ屬 **Coltricia** (381)

b. 下殼あり，傘肉は木栓質又は木質，孔口圓形，剛毛體あり。

ニセカイメンタケ屬 **Onnia** (384)

c. 堅き殼皮を有し，傘肉は木質，孔口圓形，剛毛體なし。 ツヤナシマンネンタケ屬 **Pyrrhoderma** (388)

Hydnochaete BRES.
コガネウスバタケ屬

BRESADOLA, Hedwigia, 35 : 287. 1896.
Cerrenella MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32: 361. 1905.
Hydnoporia MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 3. 1907.

子實體は1年生，無莖又は背着生，傘は薄く，半圓形乃至棚狀に連る，表面は有毛，毛被の下に屢々下殼を有す，傘肉は纖維質乃至革質，黃褐色，子實層托は齒牙狀，迷路狀或は稍々褶狀をなす，1層，剛毛は一般に形成され，時に絲狀體を有す，胞子は無色，平滑，樹上生。

（本屬名は *Hydnum*（屬名）chaite（刺）より出づ）

基準種 *H. badia* BRES.

〔附 記〕本屬は永くハリタケ科（*Hydnaceae*）に收められたるものなり。

本邦既知種檢索表

A. 傘を作る。
- a. 傘面は灰色，肉は綠黃色，子實層托は扁平針狀，褐色，胞子 4×2*μ*。
  エヒメウスバタケ ***H. ravenelii*** (352)
- b. 傘面は黃褐色，肉は黃褐色，子實層托は薄き皺褶狀にて長溝狀乃至迷路狀網目となる，黃灰乃至灰褐色，胞子 5—6×1*μ*。
  コガネウスバタケ ***H. tabacinoides*** (352)

B. 全背着生，灰褐色，多數の稍々長き疣粒を密生す，胞子は球形，徑 3.5*μ*。
  サメガワタケ ***H. japonica*** (353)

Hydnochaete ravenelii (BERK.) PAT.
エヒメウスバタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 99. 1900.
(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:103. 1943—原，日. 菌. 目. 154. 1954)
Daedalea Ravenelii BERK. Grev. 1 : 68. 1872—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 372. 1888.
Irpex tabacinus BERK. et CURT. in FRIES, Nov. Symb. Myc. 90. 1851—BERKELEY, Grev. 1: 102. 1872—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 487. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 175. 1892.
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66 : 7, 10. 1917)
Cerrenella tabacina MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 361. 1905.
Cerrenella Ravenelii MURR. N. Am. Fl. 9 : 73. 1908; South. Polyp. 32. 1915.
Coriolus ravenelii AMES, Ann. Myc. 11 : 242. 1913.
Irpex iyoensis YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 31: 74. 1917.
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65:6. 1917; 633, *f. 903*. 1917; 682. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 174. 1927)
Fomes iyoensis LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 65: 13. 1917.

子實體は無莖，革質，傘は扇形，基部狹小，下部は廣く延長し着生物面に沿下す，疊生し合着す，5—7×8—17 cm，橫に癒着して 2.5 cm に至るものあり，表面は灰色，微毛を帶び，多數の細かき環層あり，肉は甚だ薄く，綠黃色，子實層托は扁平針狀にて往々基脚部結合す，各針の長さ 1.5—2.5 mm，稀に剛毛體あり，形小にして圓錐形，厚膜，褐色，20—30×4—6*μ*，外に層面より突出する菌絲を有す，この菌絲は稍々黃褐色を帶び，先端に往々小なる結晶を附す，8—12×2—4*μ*。胞子は楕圓形，平滑，無色，4×2*μ*。

所在及產地
樹皮上　　四國—北米・濠

和名 エヒメウスバタケ（愛媛薄齒茸）〔安田〕

Hydnochaete tabacinoides (YAS.) IMAZ.
コガネウスバタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 103. 1943. (原，日. 菌. 目. 154. 1954)
Irpex tabacinoides YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 33 : 189, *f. 1*. 1919—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 477. 1925.
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67:11. 1918; Lett. 68 : 8. 1918; 7 : 1159, 1162, *f. 2301—2*. 1922—安田，植. 雜. 34:96. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 175. 1927—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，267, *f. 89*. 1945—原，日. 菌. 目. 167. 1954)

子實體は着生物上に廣く擴布し，緣邊反轉して傘を作り，又半圓形の傘を疊生す，傘は極めて薄く，橫徑 0.5—1.5 cm，表面は黃褐色にて絹絲狀光澤ある短毛を密布し，多くの狹き環紋を具う，肉は柔革質にて黃褐色，齒は多くは長さ 0.5 mm にて 1.5 mm に及ぶものあり，寧ろ薄き皺褶狀をなし，長溝狀乃至迷路狀の網目となる，黃灰色乃至灰褐色なり，胞子は圓柱狀，無色，5—6×1*μ*，剛毛體は楔形，黃褐色の厚膜を有し，60—100×10—18*μ*。材の白腐を起す。

所在及產地
廣葉樹枯枝上　　本州，四國，九州

和名 コガネウスバタケ（黃金薄齒茸）〔安田〕

Hydnochaete japonica LLOYD

サメガワタケ

LLOYD, Myc. Writ. 4:561, *f. 768*. 1916; Lett. 61:7. 1916; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 67. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23:476. 1925.

（安田，植. 雜. 30:124. 1916; 31:46. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 281. 1917; ed. 3. 164. 1927—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，257. 1945—原，日. 菌. 目. 154. 1954）

子實體は樹皮面に全背着擴布固着す，比較的厚くして硬し，徑 6—14 cm，厚さ 1—2 mm，灰褐色を呈し，多數の稍々長き疣粒を密生す，疣粒は先端鈍圓にて長さ 0.4—2 mm，徑 0.3—0.8 mm，緣は薄くして正形ならず，肉は厚く，褐黑色，剛毛は多生，肉中に埋り，剛直，褐色，鋭頭，40—60×8—10 μ，40—50 μ 程抽出す，胞子は球形，無色，平滑，徑約 3.5 μ。

所在及產地

樹皮上　　小笠原島

和名　サメガワタケ（鮫皮茸）〔安田〕

Cyclomyces KUNZE ap. FRIES emend. PAT. ワヒダタケ屬

FRIES, Linn. 5:512. 1830—PATOUILLARD, Ess. Tax. 98. 1900.

Cyclomycetella MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 34:468. 1907.

子實體は 1 年生，無莖，傘は薄く，半圓形，疊生，表面は無皮，有毛，屢々下殼發達す，傘肉は革質，黃褐色，子實層托は管孔狀乃至同心的褶狀，孔口は圓形にて微細，又は同心的に連絡して環狀の溝を作り或は完全なる同心的褶を作る。剛毛は通常存在す，胞子は無色，平滑，樹上生。

（本屬名は kyklos（圓）myces（菌）より出づ）

基準種　*C. fuscus* KUNZE ap. FR.

〔**因記**〕本屬は初め單に同心環溝狀管孔を有するものとなしたるによりウズタケ（*Coltricia greenii*）は無條件に永く本屬として分類せられたりしが，PATOUILLARD 氏は無莖なるものに制限せしによりウズタケは玆に屬せず。

本邦既知種檢索表

A. 子實層托は同心圓狀褶なり。

　　ワヒダタケ ***C. fuscus***（353）

B. 前種と形狀色彩等酷似するも只子實層托は管孔狀にて孔口微細なる圓形をなす。

　　キヌハダタケ ***C. tabacinus***（354）

Cyclomyces fuscus KUNZE ap. FR.

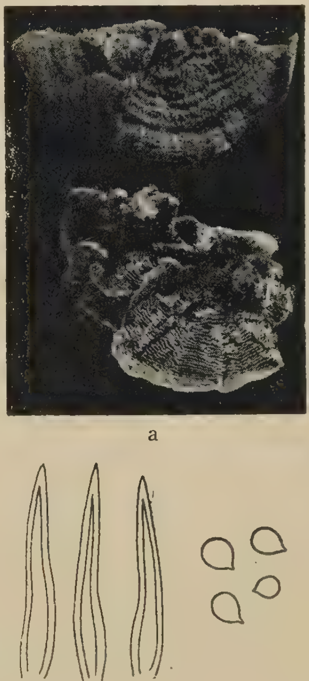
ワヒダタケ

KUNZE, Sieber Crypt. exs. n. 63—FRIES, Linn. 5:512, *pl. 2, f. 3*. 1830; Epicr. Myc. 496. 1838—SACCARDO, Syll. Fung. 6:389. 1888—PATOUILLARD, Ess. Tax. 98. 1900—LLOYD, Myc. Writ. 3:487, *f. 379, 487*. 1910—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:57. 1941.

（田中，植. 雜. 4:385. 1890—松村，植. 名鑑，1:139. 1904—白井，日. 菌. 目. 27. 1905; ed. 2. 187. 1917; ed. 3. 111. 1927—MURRILL, Mycologia, 1:169. 1909—梅村，植. 雜. 26:152. 1912; 28:196. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 39:6. 1912: 5, Lett. 67:11. 1918; 7:1296. 1924—安田，植. 雜. 27:470. 1913; 31:62. 1917—逸見及赤井，植. 病. 研究，3:342, *f. 1, pl. 13*. 1937; 木. 腐. 菌學，409, *f. 214—6*. 1945—今關，日. 隱. 植. 圖. 485, *pl. 233, f. 3*. 1939; Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:103. 1943—原，日. 菌. 目，100. 1954）

Cyclomyces australis KROMBH. Schw. 75, *pl. 4, f. 17—8*. 1821.

子實體は無莖，多數疊生し基部癒着す。傘は通常半圓形或は扇形，1—2×2—5×0.1—0.15 cm，表面は暗褐色乃至焦茶色を呈し，絨狀密毛を被むり，光



a　b

第 252 圖　ワヒダタケ *C. fuscus*

a. 子實體 ×1　b. 剛毛體及胞子 ×612（大谷氏）

澤あり，多數の著しき環溝を有す，肉は薄く，暗褐色，革質，子實層托は同心圓の褶狀をなす，褶は薄

く，密集し，稜は歯裂す，暗褐色，普通縁に近き部に横壁を有し孔狀を呈す。剛毛體は多數に存在す，楔形にて有色，胞子は類卵形にて一端尖り，平滑，無色，3—4×2μ。

所在及產地

シイ (*Shiia*) の枯幹上

本州，四國，九州—阿. 亞(印. 馬. 瓜. 比. 等)

和名 ワヒダタケ（輪襞茸）〔田中〕

Cyclomyces tabacinus (MONT.) PAT.

キヌハダタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 98. 1900—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 57. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 103. 1943—原, 日. 菌. 目. 100. 1954)

Polyporus tabacinus MONT. Ann. Sci. Nat. II, 3 : 349. 1835.

Polystictus tabacinus FR. Nov. Symb. Myc. 77. 1851—COOKE, Grev. 14 : 86. 1886; Handb. Austr. Fungi, 151. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 280. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Mic. Tab. Fun. Polyst. 59, *f. 347*. 1910—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 45 : 467. 1918.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1128. 1922—安田, 植. 雜. 38 : 96. 1924—白井, 日. 菌. 目. 301. 1927)

Polyporus xerampelinus KALCHBR. Grev. 4 : 72. 1876.

Inonotus tabacinus KARST. Rev. Myc. 3 : 19. 1881—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 78 : 3, *pl. 2, f. 1—2*. 1948.

Polystictus spadiceus COOKE, Grev. 14 : 86. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 281. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Mic. Tab. Fun. Polyst. 62. 1910.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 66 : 7. 1917)

Polystictus xerampelinus COOKE, Grev. 14 : 86. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 282. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 151. 1892.

Microporus spadiceus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 497. 1898.

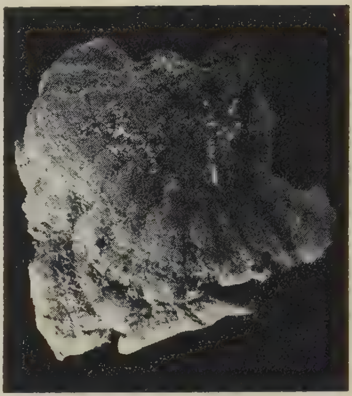
Microporus tabacinus KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 497. 1898.

Inonotus corrosus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31 : 598. 1904.

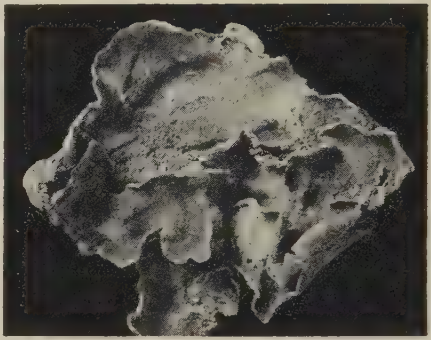
Polystictus iodinus (non MONT.)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 13. 1912; Lett. 47 : 9. 1913—安田, 植. 雜. 27 : 469. 1913; 31 : 58. 1917—梅村, 植. 雜. 28 : 357. 1914—中路, 植. 雜. 30 : 102. 1916—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 487. 1917—今關, 日. 隱. 植. 圖. 459, *pl. 220, f. 4—5*. 1939)

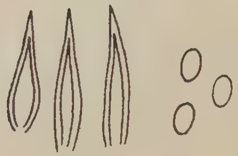
子實體は無莖，革質，傘は通常半圓形，多數疊生，橫徑 2—5 cm，厚さ 1—2 mm にて薄し，表面は暗褐色乃至赫褐色，絨狀密毛を被むり，絹絲樣光澤あり，



a



b



c

第 253 圖　キヌハダタケ *C. tabacinus*

a. 子實體表面　b. 同裏面 ×3/4

c. 剛毛體及胞子 ×612　（大谷氏）

下殼あり，多數の狹き環溝を有す，肉は同色，薄くして堅し，管孔面は暗褐色乃至黑褐色，時に島嶼狀に新層の發達することあり，管長は極めて短く，1 mm 內外，孔口は微細，多角形，環狀配列をなす。剛毛體は多生，楔形，褐色，厚膜，18—27×5—6μ，胞子は卵形乃至楕圓形，平滑，無色，5—6.5×2.5—3μ。

所在及產地

廣葉樹切株上

本州，四國，九州—亞(比. 爪)濠. 阿

和名 キヌハダタケ（絹肌茸）〔安田〕

Inonotus KARST. emend. IMAZ.
カワウソタケ屬

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5 : 39. 1879—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 105. 1943.

Inodermus QUÉLET, Enchir. Fung. 173. 1886. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Polystictoides LAZARO, Roy. Acad. Cienc. Madr. 14 : 754. 1915—6. pr. p.

子實體は1年生，無莖，傘は半圓形，扁平，疊生，表面は多毛にて，極めて厚き毛被を作ることあり，下殼は屢々形成され，その發育進み毛被は乾固脫落し同心無毛帶を生じ或は全面無毛となり一見殼皮の如きことあり，又その發達を見ずして傘肉と毛被との2重組織狀をなすことあり，肉は黃褐色，生時多濕なる纖維質或は帶肉木栓質，乾時彈力を失い硬脆質となる。子實層托は管孔狀，1層，實質は屢々膠着せる菌絲よりなる，孔口は類圓形，屢々形崩る，細小，剛毛體は存在するも常にその數少し，胞子は無色或は黃褐色，平滑，樹上生。

（本屬名は ino-(纖維) notus (背) より出づ）

基準種 *I. cuticularis* (BULL. ex FR.) KARST.

〔因 記〕 本屬の基準的特徵稍々把握に困難なる所ありしが，今關氏はこれを整理し“傘の表面に通常厚き毛被を有し，傘肉は生時多潤柔軟にて所謂肉質に近く，乾時全く彈性なく輕き比較的脆質，或は剛毛あるも其數著しく少きこと”等の共通性を有し，下殼は發達せざるものも明かに形成するものも存すると記せり，之れにより下殼發達良好，木栓質乃至木質なる “*Fomes*” 型の *Cryptoderma* と區分さる。

本邦既知種檢索表

A. 胞子無色。

a. 傘面絨毛狀乃至無毛，放射皺襞あり，黃褐，銹色乃至殆ど黑色，裏面銀光澤あり。

ミヤマウラギンタケ ***I. radiatus*** (355)

b. 傘面に厚さ3mmに及ぶ毛被あり，褐色或は銹黃褐色，裏面銀光澤なし。

ラツコタケ ***I. sciurinus*** (356)

B. 胞子有色。

a. 子實層に剛毛體あり。

α. 傘面に長粗毛を被むる，毛層厚さ5mmに及ぶ，子實體は生乾兩時に色及質甚だ異り，乾時脆弱なる炭質となり，燒けこげたる感を與う，胞子 9—11×7.5—9μ。

ヤケコゲタケ ***I. hispidus*** (356)

β. 傘面幼時天鵞絨狀短毛を被むり，後無毛となる，褐色或は赤褐色，老時變化少し，胞子 6—6.5×3.5—6μ。

オニカワウソタケ ***I. patouillardii*** (357)

γ. 傘面無毛，灰褐乃至暗褐色，幼時及生時水滴を出す特徵あり，胞子 8—10×7—8μ。

マクラタケ ***I. dryadeus*** (357)

b. 子實層に剛毛體を見ず，傘面に短粗毛を環紋狀に生ず，黃褐乃至銹褐色，胞子 4—6×3—4μ。

カワウソタケ ***I. cuticularis*** (358)

Inonotus radiatus (SOW. ex FR.) KARST.
ミヤマウラギンタケ

KARSTEN, Rev. Myc. 3(9): 19. 1881; Hattsv. 2:73. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 331. 1889—MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31 : 599. 1904; N. Am. Fl. 9 : 90. 1908—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 245. 1933—PILÁT, Ann. Myc. 38 : 81. 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 556, *pl. 363 a—364*. 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 56. 1941.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 166. 1909—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 105. 1943—原, 日. 菌. 目. 165. 1954)

Boletus radiatus SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 196*. 1799.

Polyporus radiatus FR. Syst. Myc. 1 : 369. 1821; Elench. Fung. 1 : 102. 1828; Epicr. Myc. 474. 1838; Hymen. Eur. 565. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 70. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 143. 1836; Outl. Brit. Fung. 248. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 421. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 278. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 282. 1872—GILLET, Champ. Fr. 679. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 268. 1876—WINTER, Pilze, 1 : 418. 1884—NEUMAN, Polyp. Wisc. 101. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 118. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 351, *f. 688*. 1915—REA, Brit. Basid. 586. 1922—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1 b : 52. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67 : 11. 1918; 7 : 1126. 1922—安田, 植. 雜. 32 : 205. 1918—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 294. 1927)

Polyporus plicatus PERS. Myc. Eur. 2 : 212. 1825.

Polyporus cuculatus BERK. et CURT. Grev. 1 : 51. 1872.

Polyporus glomeratus PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 24 : 78. 1873.

Inodermus radiatus QUÉL. Enchir. Fung. 174. 1886.

Polystictus radiatus COOKE, Grev. 14 : 82. 1886; Handb. Austr. Fungi, 146. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 247. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1018. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 213. 1892; Brit.

Fungi, 380. 1911—W.G. SMITH, Brit. Basid. 352. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 228. 1912 —AMES, Ann. Myc. 11: 245. 1913.

Ochroporus radiatus SCHROET. Pilze Schles. 1: 485. 1888.

Polyporus aureo-nitens PAT. et PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 42: 25. 1889.

Poria setigera PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 51: 293. 1898.

Xanthochrous radiatus PAT. Ess. Tax. 100. 1900 —BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 199. 1925; Hymen. Fr. 633. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 28. 1932; 51: 375. 1935; 52: 316, *f. 22*. 1936.

Xanthochrous aureonitens PAT. Ess. Tax. 100. 1900.

Fomes radiatus KONR. et MAUBL. Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 454*. 1935.

子實體は無莖或は垂生し，時に疊生或は側邊にて合着，堅緻にて剛直，傘は外圍半圓形或は扇形にて狹細基部にて着生す，2—5×2—7×0.3—2cm，傘面は黃褐色或は銹色又は殆ど黑色，絨毛樣乃至無毛，時に著しき環紋あるも無環紋のものあり，後甚しき放射狀細皺を生ず，傘緣は薄く或は厚く，銳し，淡色，波狀或は淺裂す，肉は黃色乃至銹褐色，木栓質にて幾分脆し，厚さ2—5mm，管孔は長さ1—8mm，細長，帶灰褐色乃至黃色，孔口は圓形，後角形，1mm 間平均4—5個，孔壁は初め白色，後暗黃色，銀色光澤あり，薄く，叢毛狀乃至裂く，胞子は楕圓形，平滑，無色，4—6×3—4μ。剛毛體は稀に存在し，短くして太し。

所在及産地

廣葉樹枯木上　本州—歐.北米.亜(支.西比)

和名 ミヤマウラギンタケ（深山裏銀茸）〔安田〕

Inonotus sciurinus IMAZ.

ラツコタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 106, *pl. 1, f. 5*; *pl. 3, f. 1—2*. 1943.

（原，日. 菌. 目. 165. 1954）

子實體は一年生，無莖，傘は半圓形にて丸山形或は扁平，1—3.5×3—8×0.5—1.5cm，疊生す，表面は褐色或は銹黃褐色，環紋あり，表生の毛層は厚さ3mmに及び，下殼は明かにて黑色を帶び，分岐せる斜上の密結菌絲より成る，肉は乾時剛直，木質，銹色或は黃銹色，管孔は1層，長さ約5mm，同色，老時堅くして脆し，孔口は小形，類圓形，1mm 間3—5個，稜は薄く，淡色，後黃褐色となる。剛毛體は甚だ稀にて，15—22×5—7.5μ，胞子は圓筒形，平滑，無色，5—6.5×2μ。材の白孔腐を起す。

所在及産地

廣葉樹枯幹上　本州，九州

和名 ラツコタケ（海獺茸）〔今關〕

Inonotus hispidus (BULL. ex FR.) KARST.

ヤケコゲタケ

KARSTEN, Medd. Soc. Faun. Fl. Fenn. 5: 39. 1879; Hattsv. 2: 70. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 330. 1889—PILÁT, Ann. Myc. 38: 81. 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 567, *pl. 365—7*. 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 56. 1941.

（IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 105, *pl. 1, f. 6*. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 33. 1952—原，日. 菌. 目. 165. 1954）

Boletus hirsutus SCOP. Fl. Carn. 2: 468. 1772.

Boletus spongiosus LIGHTF. Fl. Scot. 1033. 1777.

Boletus villosus HUDS. Fl. Angl. 626. 1778.

Boletus hispidus BULL. Herb. Fr. *pl. 210*. 1784; *pl. 493*. 1790—S.F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 640. 1821.

Boletus velvutinus SOW. Col. Fig. Engl. Fungi, 3: *pl. 345*. 1803.

Polyporus hispidus FR. Syst. Myc. 1: 362. 1821; Elench. Fung. 1: 83. 1828; Epicr. Myc. 458. 1838; Hymen. Eur. 551. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 138. 1836; Outl. Brit. Fung. 243. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 426. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 230. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 272. 1871; Grev. 13: 114. 1885; Handb. Austr. Fungi, 123. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 277, *pl. 18, f. 3*. 1872—GILLET, Champ. Fr. 675, cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1: 430. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 129. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 991. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 243. 1892; Brit. Fungi, 371, *pl. 29, f. 1*. 1911—W.G. SMITH, Brit. Basid. 348. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 205. 1912—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 119. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 359. 1915—REA, Brit. Basid. 584. 1922——LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 49. 1934.

（白井，日. 菌. 目. ed. 2. 475. 1917; ed. 3. 291. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 439, *pl. 210, f. 4*. 1939—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，319, *f. 133*. 1945）

Polyporus endocrocinus BERK. Lond. Jour. Bot. 6: 320. 1847.

Inodermus hispidus QUÉL. Enchir. Fung. 173. 1886; Fl. Myc. 393. 1888.

Phaeoporus hispidus SCHROET. Pilze Schles. 1: 490. 1888.

Xanthochrous hispidus PAT. Ess. Tax. 100. 1900 —BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:

203. 1925; Hymen. Fr. 638. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52 : 317. 1936.

Inonotus hirsutus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31 : 594. 1904; N. Am. Fl. 9 : 86. 1908; North. Polyp. 38. 1914; South. Polyp. 38. 1915.

Polystictus hispidus AMES, Ann. Myc. 11 : 245. 1913.

子實體は無莖，時に疊生，海綿狀にて濕潤，乾時堅緻にて脆弱，傘は半圓形にて低蹄形，6—20×9—25×3—7cm，表面は褐黃色，後銹褐色乃至殆ど黑色，長粗毛を密生し，毛層厚さ5mmに及ぶ，無環紋，乾時毛被脫落し肉を露わす，緣は厚く或は薄く，鈍く或は銳し，肉は生時柔肉質，乾時堅脆，銹褐色乃至濃赤褐色，管孔は長さ約1—2cm，初め黃色，老時殆ど黑褐色，孔口は圓形，後多角形，孔壁は深く裂け，極めて脆き炭質となる，胞子は廣楕圓形乃至類球形，平滑，濃赤褐色，9—11×7.5—9μ。

所在及產地

廣葉樹幹上　　本州—歐.北米.亞(支.西比)

和名 ヤケコゲタケ (燒焦茸) 〔今關〕

Inonotus patouillardii (RICK) IMAZ.

オニカワウソタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 105. 1943. (原，日. 菌. 目. 165. 1954)

Polystictus Patouillardii RICK, Broteria, 6 : 89. 1907.

Polyporus Patouillardii THEISS. Dec. Fung. Brasil. n. 178. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 365. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 114. 1936—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 217. 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 56 : 8. 1915; 6 : 1095. 1920—安田，植. 雜. 37 : 34. 1923—野島，植.病.研究，2 : 156, *f. 2, pl. 3, f. 1—6*. 1933—逸見，植. 動. 3 : 307. 1935—逸見及赤井，木. 腐. 菌學，299, *f. 110—3*. 1945)

? *Polyporus rheades* (non PERS.)

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1188. 1923)

子實體は無莖，孤生或は僅か疊生，傘は半圓形にて低蹄形，7—14×11—20×2—3cm，表面は褐色或は赤褐色，波狀隆起を有し，幼時天鵞狀密毛に被われ，不明瞭の環紋あり，老時粗維，時に外皮剝げて粗鱗狀をなす，緣は厚し，肉は暗褐色，生時稍々海綿質，乾時硬脆，微かに層あり，光線を反射す，管孔は長さ6—18mm，汚黃褐色，實質內に太き濃色剛直の菌絲埋在す，孔口は小，不規則の多角形，1mm間2—3個，褐色，剛毛體は稀に存在し，先端尖り，厚膜，褐色，約20×3μ，胞子は不正楕圓形乃至腎臟形，平滑，黃褐色，6—6.5×3.5—6μ。心材の白腐を起す。

所在及產地

カシ (*Quercus*) 其他廣葉樹幹及根際部上

本州，九州—濠.阿.南米.亞(比)

和名 オニカワウソタケ (鬼水獺茸) 〔安田〕

Inonotus dryadeus (PERS.) MURR.

マクラタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9 : 86. 1908; North. Polyp. 38. 1914; South. Polyp. 38. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 56. 1941—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 554, *pl. 335—6*. 1942. (千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 33. 1952)

Boletus dryadeus PERS. Obs. Myc. 2 : 3. 1799—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 642. 1821.

Boletus pseudo-igniarius BULL. Herb. Fr. *pl. 458*. 1789—DC. Fl. Fr. 2 : 116. 1815.

Boletus fomentarius γ *dryadeus* PERS. Syn. Meth. Fung. 537. 1801.

Polyporus dryadeus FR. Syst. Myc. 1 : 374. 1821; Elench. Fung. 1 : 108. 1828; Epicr. Myc. 460. 1838; Hymen. Eur. 553. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 143. 1836; Outl. Brit. Fung. 244. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 425. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 273. 1871; Grev. 13 : 115. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 278. 1872—GILLET, Champ. Fr. 677. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 428. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 139. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 243. 1892; Brit. Fungi, 371. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 346. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 3 : 490, *f. 388*. 1910; 4, Apus Polyp. 352. 1915—LONG, Jour. Agr. Res. 1 : 250, *pl. 21, f. 4, pl. 22, f. 4*. 1913; Phytopath. 3 : 285. 1913—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 119. 1914—REA, Brit. Basid. 584. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 464*. 1900—BRESADOLA, Icon. Myc. 19 : *pl. 983*. 1931—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b : 51. 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 215. 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1126, 1131. 1922—安田，植. 雜. 36 : 203. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 290. 1927)

Ischnoderma ? *dryadeum* KARST. Hattsv. 2 : 74. 1882.

Placodes dryadeus QUÉL. Enchir. Fung. 170. 1886; Fl. Myc. 398. 1888.

Ochroporus pseudoigniarius SCHROET. Pilze Schles. 1 : 483. 1888.

Phellinus dryadeus PAT. Ess. Tax. 97. 1900—AMES, Ann. Myc. 11 : 246. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 187. 1925; Hymen.

Fr. 615, *f. 171*. 1928.

Polyporus pseudoigniarius SACC. Fl. Ital. Crypt. Hymen. 972. 1916—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 204. 1922.

子實體は無莖，普通疊生，肉質乃至海綿狀木栓質にて水潤性，乾時寧ろ脆し，傘は外圍半圓形，稀に類圓形，上面扁平或は壓低され，下面凸形，6—30×8—35×2—6 cm，傘面は甚だ不平坦，無環紋，無毛，灰褐乃至暗褐色，甚だ薄き皮を有し，稍々光澤あり，傘緣は厚くして鈍く，全緣或は波狀，淡色，幼時及生育時水滴を出す，肉は厚くして有層，褐色乃至黃色，柔軟にて水潤性，乾時木栓質乃至木質，稍々光澤あり，厚さ 1.5—4 cm，管孔は長さ 0.3—2 cm，孔口は灰褐色，乾時暗色，圓形にて後角形となり，1 mm 間平均 3—5 個，口壁は薄く，房毛狀に裂け，老時深裂す，胞子は類球形，平滑，無色，或は淡褐色，8—10×7—8 μ，剛毛體は稀に存在し，眞直，15—35×5—9 μ。

所在及產地

シイノキ (*Shiia*) 其他廣葉樹幹上

北海道，本州—歐.北米.濠

和名 マクラタケ（枕茸）〔安田〕

Inonotus cuticularis (BULL. ex FR.) KARST.

カワウソタケ

KARSTEN, Hattsv. 2: 70. 1882—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 56. 1941—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 564, *pl. 364 b, 357*. 1942.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 105. 1943; 及土岐, 林. 試. 硏. 報. 67: 26. 1954—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43: 33. 1952—原, 日. 菌. 目. 165. 1954)

Boletus cuticularis BULL. Herb. Fr. *pl. 462*. 1789—DC. Fl. Fr. 2: 119. 1815.

Polyporus cuticularis FR. Syst. Myc. 1: 363. 1821; Elench. Fung. 1: 102. 1828; Epicr. Myc. 458. 1838; Hymen. Eur. 551. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2: 56. 1825—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 426. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2: 230. 1869—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 272. 1871; Grev. 13: 114. 1885—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 277. 1872—GILLET, Champ. Fr. 675. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 261. 1876—WINTER, Pilze, 1: 429. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 128. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 989. 1916—W. G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 288. 1891; Brit. Basid. 346. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 244. 1892; Brit. Fungi, 371. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 206. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 102. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 118. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 359, *f. 693—4*. 1915—REA, Brit. Basid. 585. 1922—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 50. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 9. 1916—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 289. 1927)

Inodermus cuticularis QUÉL. Enchir. Fung. 173. 1886; Fl. Myc. 393. 1888.

Phaeoporus cuticularis SCHROET. Pilze Schles. 1: 489. 1888.

Xanthochrous cuticularis PAT. Ess. Tax. 100. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 200. 1925; Hymen. Fr. 635. 1928.

Polyporus Mikadoi LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43: 3. 1912; Apus Polyp. 360, *f. 695*. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 110. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 367. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43: 3, 6. 1912; Lett. 60: 8. 1915; 6: 1096. 1920; 7: 1162. 1922; 1296. 1924—安田, 植. 雜. 27: 71. 1913; 31: 54. 1917—梅村, 植. 雜. 28: 356. 1914—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 477. 1917; ed. 3. 292. 1927—金平, 臺. 博. 報. 36: 88. 1918—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc.



第 254 圖 カワウソタケ *I. cuticularis*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

Agr. Sci. 3 : 109. 1931—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 5:71. 1931—逸見及野島, 菌類, 1 : 90. 1931—野島, 植. 病. 研究, 2:155, *f. 1*, *pl. 2*. 1933—逸見, 植. 動. 3:307. 1935—今關, 日. 隱. 植. 圖. 441, *pl. 211*, *f. 5—7*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 296, *f. 107—9*. 1945)

Inonotus perplexus MURR. North. Polyp. 39. 1914; South. Polyp. 39. 1915.

子實體は無莖, 屢々群生疊生, 生時堅肉質, 乾時革質剛直, 傘は半圓形或は狹細基部を有して扇形, 1.5—3.5×2—6×1—2.5 cm, 表面は黃褐色乃至銹褐色, 緊密なる短粗毛を環紋狀に生ず, 後纖維狀或は殆ど無毛となる, 緣は薄く鋭し, 乾時內屈す, 肉は黃褐色或は銹色, 生時稍々彈力ある肉狀纖維質或は栓質, 厚さ 2—7 mm, 乾時收縮す, 管孔は長さ 1 cm に及び, 孔口は灰白或は傘と同色, 圓形或は不正形, 時に稍々迷路狀, 1 mm 間 2—4 個, 剛毛體なし, 胞子は類球形乃至廣楕圓形, 平滑, 黃褐色, 3—6×3—4 μ。

所在及產地

サクラ (*Prunus*) 其他廣葉樹枯幹上

全土—歐. 北米

和名 カワウソタケ (氵獺茸) 〔安田〕

疑　問　種

(*Inonotus* 所屬)

Polyporus subradiatus LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 346. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 122. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 33:376. 1925. (non BRESADOLA, 1916)

Cryptoderma IMAZ.

スグリタケ屬

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 106. 1943.

Fomes KICKX, Auct. plur. pr. p.

Phellinus QUÉLET, Enchir. Fung. 172. 1886. pr. p.

Ochroporus SCHROETER, Pilze Schles. 1 : 483. 1889. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Porodaedalea MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32 : 367. 1905.

Xanthochrous PATOUILLARD, Cat. Tun. 51. 1897. pr. p.

子實體は1年生或は多年生, 無莖或は半背着生, 傘は半圓形, 扁平或は蹄形, 疊生, 表面は細毛或は粗毛を有し, 毛被下には通常下殼發達す, 下殼は傘面より 1 mm 內外の部に於て菌絲が細かく分岐し互に緊密に結着し薄き黑線として認めらるるものあり, 或は毛被極めて薄くして, 下殼は極めて厚く 1 mm 以上にも發達し, 恰も殼皮の如き觀を呈し, 只傘緣部に於て區別し得るもの等あり, 肉は木栓質乃至木質, 黃褐色乃至暗褐色, 子實層托は管孔狀, 1層或は多層, 孔口は概して細小, 時に稍々大形, 類圓形或は迷路形, 剛毛體は多くのものに形成さる, 胞子は無色或は黃褐色, 平滑, 樹上生。

(本屬名は crypto (隱れたる) derma (皮) より出づ)

基準種 *C. ribis* (Fr.) IMAZ.

〔因 記〕本屬は舊 *Fomes* 屬より傘肉の色によつて分離されたる木質又は木栓質の多孔菌にて, 今關氏は內に傘面に殼皮を形成せず屢々僞殼を作るか又は下殼をも作らぬ一群と毛被の下に通常下殼を作る一群とのあるを認め前者を *Phellinus*, 後者を新屬とし *Cryptoderma* となせり, 從つて PATOUILLARD 氏が *Phellinus* を無色胞子, *Xanthochrous* を有色胞子を有するものとなせしとは意義を異にす。尙 *Cryptoderma* 屬のものは脫毛して殼皮狀を呈するも傘緣に於て毛を存するにより知ることを得。

本邦既知種檢索表

A. 胞子無色。
  a. 剛毛體なし, 傘は蹄形, 小形, 暗褐色, 肉は肉桂色, 胞子球形, 6—7 μ。
    ヒメヒズメタケ ***C. pusillum*** (360)
  b. 剛毛體あり。
    α. 肉は淡色。
      I. 傘は貝殼狀, 橙色, 肉は同色, 胞子類球形, 4—5 μ。
        ダイダイタケ ***C. citrinum*** (360)
      II. 傘は扁平, 黑褐色, 肉は橙褐色, 胞子球形, 約 3 μ。
        シマサルノコシカケ ***C. lamaense*** (361)
    β. 肉は暗褐色。
      I. 傘は薄し, 最厚部にても 2—3 mm, 褐色, 胞子球形, 3—4 μ。
        キヌハダタケモドキ ***C. substygium*** (362)
      II. 傘は厚し, 蹄形。
        甲. 傘は黑褐乃至黑色, 肉は暗褐色, 孔口圓形或は迷路狀, 剛毛體は尖頭, 胞子 4—6×3.5—4 μ。カラマツ上
          マツノカタワタケ ***C. pini*** (362)
        乙. 傘は暗灰褐色, 肉は帶黑褐色, 孔口正圓形, 剛毛體は圓頭, 胞子 5—6.5×4—5 μ。カツラ上
          エゾヒズメタケ ***C. cercidiphyllum*** (363)

B. 胞子有色。

a. 剛毛體なし。

α. 肉は黄褐色，傘は暗褐色，胞子類球形，4—5μ，センダン上

センダンサルノコシカケ *C. fastuosum* (363)

β. 肉は暗褐色。

I. 傘は小形，扁平或は稍々蹄形，栗褐色乃至小豆色，肉は暗褐色，胞子 4—5×3μ。

ヒメスグリタケ *C. pullum* (364)

II. 傘は狹き反轉部より成る，暗黄褐絨毛層と黒色平滑層と交互す，肉は暗黄褐色，胞子 5—6.5×3.5—4μ。

ツクシサルノコシカケ *C. mc.gregorii* (364)

III. 傘は貝殼狀にて棚狀に連結す，銹色乃至赭褐色，肉は暗褐色，胞子 3—4×3μ。

スグリタケ *C. ribis* (365)

b. 剛毛體あり。

α. 小形菌，傘は約 1×3×0.3cm，表面赤褐色，肉は橙褐色，胞子約 3.5μ。

チヨウジタケ *C. sanfordii* (366)

β. 中形菌。

I. 傘の斷面楔形，5×10×5cm，表面は褐色乃至黒色，肉は茶褐色，胞子 4—5×3—3.5μ。 ウツギノサルノコシカケ

C. lonicerinum (366)

II. 傘の斷面楔形ならず。

1. 孤生，傘は約 15×11×3cm にて厚く，下殼厚し，肉は肉桂色或は銹色，有層，胞子 6—8×5—6μ。

クロスジサルノコシカケ *C. pachyphloeum* (366)

2. 疊生，傘は 4—8×4—12×0.4—1cm にて薄し，下殼薄く，肉は栗褐色，無層，胞子約 3μ。

ユラタケ *C. kanehirae* (367)

γ. 大形菌，傘は橫徑 30—40cm，厚さ 15—20cm，表面褐黒色，肉は黄褐色，胞子 5—7×4—5μ。

エゾサルノコシカケ *C. yamanoi* (367)

Cryptoderma pusillum (MURR.) IMAZ.

ヒメヒズメタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. **6** : 107. 1943. (原，日．菌．目. 97. 1954)

Inonotus pusillus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, **31** : 599. 1904; N. Am. Fl. **9** : 87. 1908.

Fomes pusillus LLOYD, Myc. Writ. **4**, Fomes, 240. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 87. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. **23** : 273. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. **49**:10, 13. 1914; **6** : 1013. 1920—安田，植．雜. **28** : 151. 1914; **31** : 50. 1917—白井，日．菌．目. ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 140. 1927)

子實體は無莖，栓質，傘は小形にて輕く，蹄形，高さ 0.7—2cm，長徑 1.2—2.5cm，短徑 0.7—1.8cm，表面は暗褐色にて黒被を被むり，平滑，細き環溝あり，肉は肉桂色，管孔は淡灰褐色，層を有す，孔口は甚小，多角形，剛毛體なし，胞子は球形，平滑，無色，6—7μ。

所在及產地

ケヤキ (*Zelkowa*) 幹上　本州—南米

和名 ヒメヒズメタケ (姫蹄茸)〔安田〕

Cryptoderma citrinum IMAZ.

ダイダイタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. **6** : 107. 1943; & TOKI, Bull. Gov. For. Exp. St. **67** : 26. 1954. (原，日．菌．目. 96. 1954)

Polyporus illicicola (non P. HENNINGS) LLOYD, Myc. Writ. **4**, Apus Polyp. 348. 1915.

(安田，植．雜. **27** : 339. 1913; **31** : 54. 1917—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. **45** : 5, 7. 1913; Lett. **56** : 4. 1915; **7** : 1126. 1922—金平，臺．博．報. **36** : 88. 1918—北島，林．試．報. **28**:10, *pl. 1*, *f. 8*, *pl. 6*, *f. 7*. 1928—澤田，臺．菌．調．報. **5** : 71. 1931—今關，日．隱．植．圖. 441, *pl. 211*, *f. 1*. 1939—逸見及赤井，木．腐．菌學, 314, *f. 127*. 1945)

Polystictus illicicola

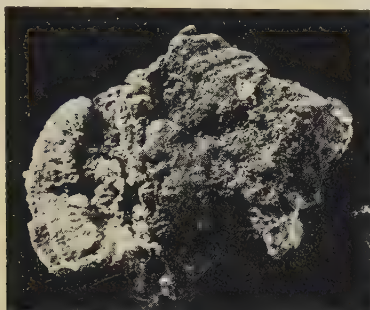
(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. **67** : 11. 1918; **6** : 1012. 1920; **7** : 1126. 1922)

子實體は無莖，或は半背着，多數疊生，傘は半圓形或は側着して棚狀をなす，扁平或は貝殼狀，屢々波曲す，2.5—4×3—12×0.3—0.5cm，表面は絨毛狀，有環溝紋，黄褐色，緣は薄く鋭し，初め著しき橙色，後褪色す，毛被は厚さ約 1mm，褐色，肉は薄く，約 0.3mm，橙色，下の境界層は暗色，管孔は 1 層，長さ 1—3mm，傘肉と異質にて褪色し，黄褐色，孔口は小，類圓形，1mm 間 4—5 個，孔壁は薄く，鋭し，初め橙色，後帶褐色，剛毛體は著しく，30—60×5—9μ，胞子は類球形，平滑，無色，4—5μ。材の白腐を起す。

所在及産地

廣葉樹（ナラ，クヌギ等）枯幹上，シイタケ榾木上　　全土一帯(臺)

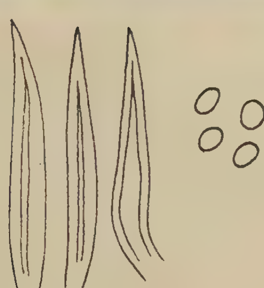
和名　ダイダイタケ（橙茸）〔安田〕



a



b



c

第 255 圖　ダイダイタケ *C. citrinum*
a. 子實體表面　b. 同裏面　×3/4
c. 剛毛體及胞子　×612　　（大谷氏）

Cryptoderma lamaense (MURR.) IMAZ.

シマサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 107. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 100, *f. 1, pl. 1, f. 4—5*. 1952—原, 日. 菌. 目. 97. 1954)

Pyropolyporus lamaensis MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 34 : 479. 1907.

Pyropolyporus Williamsii MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 34 : 479. 1907.

Fomes lamaoensis SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 287. 1912; 23 : 380. 1925—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 245. 1915—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48 : 291. 1918.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63 : 9. 1916—安田, 植. 雜. 30 : 350. 1916; 31 : 51. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 139. 1927—澤田, 臺. 山. 林. 報. 30 : 26, *f. 1—2*. 1928; 臺. 菌. 調. 報. 4 : 86. 1928)

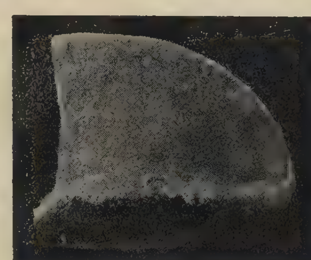
Fomes Williamsii SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 289. 1912.

Phellinus Williamsii PAT. Leafl. Philipp. Bot. 6 : 2249. 1914.

子實體は無莖，時に背着，傘は半圓形にて扁平，時に縦に廣き基部にて樹面に着生し，斷面 3 角形を呈す，寧ろ薄し，4—11×7—17 cm，木質，表面は平滑，褐黒色の硬き下殻を被むり，著しき環溝あり，



a



b



c

第 256 圖　シマサルノコシカケ *C. lamaense*
a. 子實體表面　b. 同裏面　×3/5
c. 剛毛體及胞子　×544　　（大谷氏）

表面の毛被は幼體の縁部に存す，肉は鮮かなる橙褐色，管孔面は淡褐色，數層をなし，各層間に褐色の傘肉介在す，古層の管孔には白色菌絲塡充す，剛毛體は褐色，厚膜，先端鈍頭，徑 8—12μ，實質内に剛毛菌絲埋在す。胞子は球形，平滑無色，徑約 3.5μ。

所在及産地　廣葉樹幹上

九州，小笠原島一亞(瓜.比.臺)南洋

和名　シマサルノコシカケ（島猿腰掛）〔安田〕

Cryptoderma substygium (BERK. et BR.) IMAZ.

キヌハダタケモドキ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 107. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest. Exp. St. Tokyo, 57: 102. 1952—原，日．菌．目．97. 1954)

Polyporus substygius BERK. et BR. in herb.—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 364, *f. 698*. 1915.

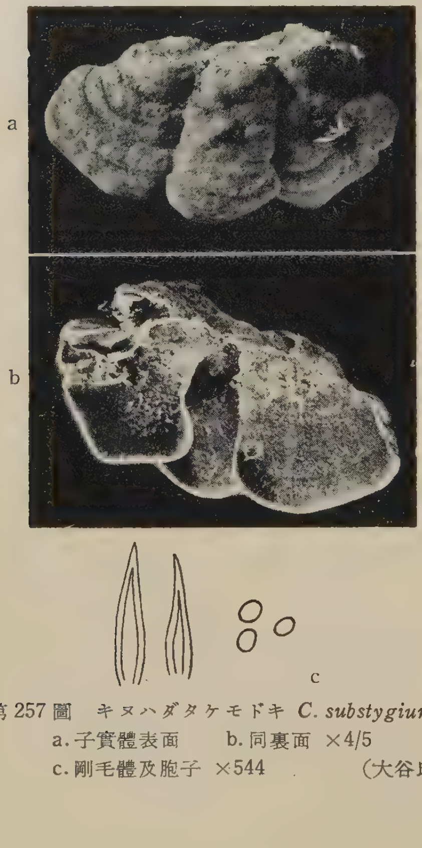
Fomes substygius COOKE, Grev. 14: 20. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 195. 1888.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 61: 5, 7. 1916; 5, Lett. 62: 8. 1916)

Scindalma substygium KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

Polystictus substygius BRES. Hedwigia, 53: 66. 1913.

子實體は無莖，狹縮後部にて側着，或は亦沿下す，傘は半圓形，薄く，剛直，3—3.5×4—6cm，最厚部にて2—3mm，表面は絨毛を被むり，褐色，狹き隆起せる環溝紋あり，緣は薄し，肉は薄く，褐色，管孔部は殆ど同色，長さ1—1.5mm，孔口は小形，後に褐色，口壁堅し，1mm間7—8個，剛毛體多し，少しく厚き基部を有す。胞子は球形，平滑，無色，3—4μ。



第257圖　キヌハダタケモドキ *C. substygium*

a. 子實體表面　b. 同裏面　×4/5

c. 剛毛體及胞子　×544　（大谷氏）

所在及産地

樹幹上　九州一亞(錫.馬.比.臺)南洋.濠

和名　キヌハダタケモドキ（擬絹膚茸）〔今關〕

Cryptoderma pini (THORE ex FR.) IMAZ.

マツノカタワタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 107. 1943; Forsch. Geb. Pfl. Krankh. 4: 175. 1951.

(原，日．菌．目．97. 1954)

Boletus Pini THORE, Chl. Land. 487. 1803—BROTERO, Fl. Lusit. 2: 468. 1804.

Daedalea Pini FR. Linn. 5: 514. 1820; Syst. Myc. 1: 336. 1821; Elench. Fung. 1: 68. 1828.

Polyporus Pini PERS. Myc. Eur. 2: 83. 1825—KARSTEN, Myc. Fenn. 3: 278. 1876.

Trametes Pini FR. Epicr. Myc. 489. 1838; Hymen. Eur. 582. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 416. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 253. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 285. 1871; Handb. Austr. Fungi, 159. 1892—FUCKEL, Symb. Myc. Nachtr. 1: 290. 1821; 2: 6. 1873—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. Suppl. 5: 324—XXXII. 1877; Enchir. Fung. 182. 1886; Fl. Myc. 371. 1888—GILLET, Champ. Fr. 703. 1874—WINTER, Pilze, 1: 405. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 345. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1051. 1916—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 335. 1889—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 194. 1892; Brit. Fungi, 387. 1911—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 234, *pl. 35*. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 44, *pl. 4*, *f. 16*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 142. 1914—REA, Brit. Basid. 615. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 21: *pl. 1026*. 1932.

Fomes Pini KARST. Hattsv. 2: 79. 1882—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 275, *f. 608—9*. 1915; 7: 1208. 1923; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 85. 1936—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 379, *pl. 32*, *f. 2—3*. 1931—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 455*. 1932—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 119. 1934.

Fomes Abietis KARST. Hattsv. 2: 242. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 336. 1889.

Ochroporus Pini SCHROET. Pilze Schles. 1: 487. 1888.

Polyporus piceinus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 42: 25. 1889.

Polystictus piceinus SACCARDO, Syll. Fung. 9: 187. 1891.

Xanthochrous Pini PAT. Ess. Tax. 101. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 198.

1925; Hymen. Fr. 632. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:27. 1932; 49:272. 1933; 51:376. 1935; 52:317, *f. 23.* 1936.

Trametes piceinus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 54:169. 1901—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 277, *f. 610.* 1915.

Porodaedalea Pini MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32:367. 1905; N. Am. Fl. 9:111. 1907; North. Polyp. 51. 1914; South. Polyp. 51. 1914.

Trametes Abietis LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 277, *f. 610.* 1915.

Phellinus pini AMES, Ann. Myc. 11:246. 1913—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:56. 1941—PILÁT, Atlas Champ, Eur. 3, Polyp. 1:517, *pl. 349—354 a.* 1942.

子實體は多年生，無莖，傘は半圓形，扁平或は稍々蹄形，橫徑 20—30 cm，厚さ 1—6 cm，表面粗にて環溝あり，老時罅裂す，疎剛毛，密軟毛を有し或は無毛，黑褐色，暗栗褐色乃至黑色，縁は圓く或は鋭く，同色或は屢々淡色，肉は薄く，木質，甚だ暗褐色，子實層托は甚だ不明瞭なる層あり，通常古層のものは塡塞され，新層は可成り永き間中空，管長各季 2—10 mm，孔口は圓形或は迷路狀，屢々不等大，灰色乃至灰褐色，孔壁は薄し，剛毛體は多生，尖頭，幅 8—12 μ，胞子は類球形，平滑，初め無色，後淡褐色となる，4—5—6×3.5—4 μ。材の白腐を起す。

所在及産地

カラマツ (*Larix*) 幹上

本州—歐·北米·亜(樺·滿·西比)

和名 マツノカタワタケ（松不具茸）〔安田〕

Cryptoderma cercidiphyllum IMAZ.

エゾヒズメタケ

IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 42: 2, *f. 1, pl. 1, f. 1.* 1949.

（千葉及寺本，東．大．演．林．報．43:33. 1952）

子實體は多年生，無莖，群生，傘は初め扁平，老時殆ど蹄形，3.5—6—15×3—4—10×0.7—3—5 cm，表面は密なる著しき環溝を有し，稍々粗糙，暗灰褐色を呈す，老時漸次凹凸を失い淺き環溝と細龜裂を生じ，黑色を加え鈍光澤を帶ぶ，縁は薄くして鈍く，下縁に 2 mm 內外の無性帶あり，傘肉は薄く，厚さ 1—2 mm，帶黑褐色，幼時薄き毛被層下に黑色の薄き下殼あるも，老時毛被脫落或は炭化し下殼と共に皮殼化す。子實層托は管孔狀，多層，傘肉と略々同色，各層の厚さ 1—3 mm，孔口は微細，1 mm 間に 4—5 個，正圓形，口縁は稍々厚く，全緣，僅かに灰白色を帶ぶ，菌絲は傘肉，實質共に徑 2.5—3 μ，剛毛體はフラスコ形，21—30×7—11 μ，胞子は類球形，平滑，無色，5—6.5×4—5 μ。

所在及産地

カツラ (*Cercidiphyllum*) の樹上　　北海道

和名 エゾヒズメタケ（蝦夷蹄茸）〔今關〕

Cryptoderma fastuosum (LÉV.) IMAZ.

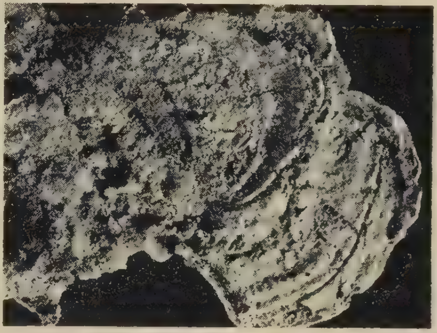
センダンサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:107. 1943.（原，日．菌．目．96. 1954）

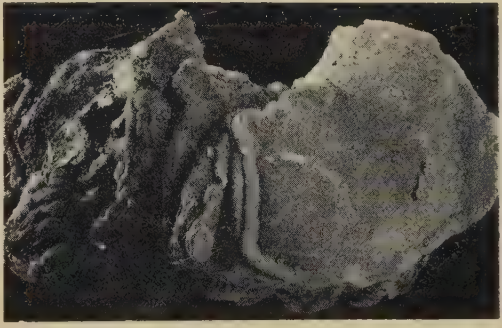
Polyporus fastuosus LÉV. Ann. Sci. Nat. III, 2: 190. 1844.

Fomes fastuosus COOKE, Grev. 14:18. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6:172. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 10:497. 1912—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 250. 1915.

(LLOYD, Myc. Writ. 6:980. 1920—安田，植．雜．35:221. 1921—白井，日．菌．目．ed. 3. 138. 1927—



a



b



c

第 258 圖　センダンサルノコシカケ *C. fastuosum*
a. 子實體表面　b. 同裏面　×1/2
c. 胞子　×612　（大谷氏）

今關, 植. 硏. 雜. 16 : 583, *f. 1—2*. 1940)

Scindalma fastuosum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 518. 1898.

Xanthochrous fastuosus PAT. Ess. Tax. 101. 1900.

Pyropolyporus fastuosus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 34 : 479. 1907.

(MURRILL, Mycologia, 1 : 169. 1909—澤田, 臺. 菌. 調. 報. 1 : 511. 1919)

子實體は無莖, 革木質, 傘は半圓形, 5×8.5×1—2cm, 表面は厚さ約 1mm に及ぶ毛被に被われ, 輪層を有し, 暗褐色, 緣は鈍圓, 下面無性, 肉は鮮かなる黃褐色, 表面毛被下に下殼あり, 縱斷面にて狹き黑線に見ゆ, 之れ盛に分岐せる厚膜菌絲が密に纒絡して作らる, 傘肉の菌絲は徑 3.5—5μ, 寧ろ厚膜なり, 管孔部は稍々濃厚なる黃褐色, 層をなし, 長さ 2—4mm, 孔口は小圓形, 剛毛體なし, 胞子は類球形, 平滑, 黃色, 4—5μ。

所在及產地

センダン (*Melica*) 樹幹上

四國, 九州—阿. 南米. 亞(爪. 比. 馬. 支. 臺)

和名 センダンサルノコシカケ (栴檀猿腰脚) 〔今關〕, マツノサルノコシカケ (松猿腰掛) 〔安田〕

Cryptoderma pullum (BERK. et MONT.) IMAZ.

ヒメスグリタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 107. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 102. 1952—原, 日. 菌. 目. 97. 1954)

Polyporus pullus BERK. et MONT. in BERK. Lond. Jour. Bot. 3 : 332. 1844—MONTAGNE, Syll. Crypt. n. 495. 1856.

Fomes pullus COOKE, Grev. 14 : 19. 1885; Handb. Austr. Fungi, 133. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 192. 1888; 23 : 381. 1925—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 253. 1915.

(今關, 植. 硏. 雜. 16 : 591, *f. 9*. 1940; 17 : 176. 1941)

Xanthochrous pullus PAT. Ess. Tax. 101. 1900.

子實體は無莖, 剛直, 傘は小形, 端正の半圓形にて扁平乃至稍々蹄形, 縮小せる基部にて樹面に側着す, 1.5—3×1—1.7×0.6—0.8cm, 表面は纖細毛を被むり, 甚だ狹き環溝あり, 栗褐色乃至小豆色, 緣は薄く銳し, 肉は薄く, 最も厚き部にて 1—2mm, 暗褐色, 毛被の下に明かなる下殼を有す。管孔は不明瞭の層を有し, 古層は小豆色, 新層は黃褐色を呈す, 孔口は小圓形, 黃色にて光澤あり, 剛毛體なし, 胞子は廣楕圓形, 平滑, 黃色, 4—5×3μ。

所在及產地

廣葉樹枯木上　　九州—阿. 南洋. 亞(爪. 比)

和名 ヒメスグリタケ (姬須具利茸) 〔今關〕

Cryptoderma mc.gregorii (BRES.) IMAZ.

ツクシサルノコシカケ

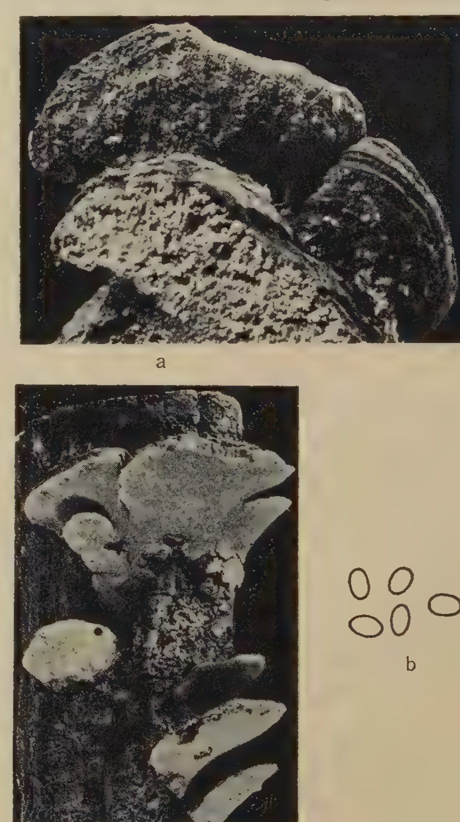
IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 107. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest. Exp. St. Tokyo, 57 : 101. 1952—原, 日. 菌. 目. 97. 1954)

Fomes Mc.Gregorii BRES. Hedwigia, 53 : 58. 1913—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 254. 1915—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 387. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68 : 7. 1918)

子實體は半背着生, 革木質, 反轉して狹き傘を作る。傘は年に從つて著しき環溝紋を生じ, 暗黃褐なる絨毛層と黑色の平滑層と交互し, 稍々光澤あり, 薄き下殼を被むる, 2×4—6cm, 肉は薄くして堅く暗黃褐色, 一樣に厚膜なる徑 2—3μ の菌絲より成る。管孔は革質, 同色, 孔口は小形, 類圓形, 1mm 間 5—6 個, 黃色乃至暗色, 剛毛體なし, 胞子は楕



a

b

第 259 圖　ツクシサルノコシカケ *C. mc.gregorii*
a. 子實體 ×3/5　b. 胞子 ×544　(大谷氏)

圓形，平滑，黄色，5—6.5×3.5—4μ。

所在及産地

幹上　九州—亞(比)濠

和名　ツクシサルノコシカケ(筑紫猿腰掛)〔今關〕

Cryptoderma ribis (SCHUM. ex FR.) IMAZ.

スグリタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 107. 1943; & TOKI, Bull. Gov. For. Exp. St. 67 : 26. 1954. (原, 日. 菌. 目. 97. 1954)

Boletus Ribis SCHUM. Enum. Pl. Saell. 2 : 386, *f. 5*. 1803—DC. Fl. Fr. 6 : 41. 1815.

Polyporus Ribis FR. Syst. Myc. 1 : 375. 1821; Elench. Fung. 1 : 110. 1828; Epicr. Myc. 467. 1838; Hymen. Eur. 560. 1874—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 145. 1836; Outl. Brit. Fung. 246. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 423. 1844—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 220. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 21. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 275. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 280. 1872—WINTER, Pilze, 1 : 423. 1884.

Polyporus Ribesius PERS. Myc. Eur. 2 : 80. 1825.

Polyporus Lonicerae WEINM. Syll. Pl. Nov. 2 : 102. 1827—FRIES, Elench. Fung. 1 : 110. 1828; Epicr. Myc. 467. 1838; Hymen. Eur. 560. 1874.

Agaricus Ribis DUBY, Fl. Orlean. 178. 1832.

Polyporus rubiginosus WALLR. Fl. Crypt. Germ. 2 : 587. 1833.

Trametes Lonicerae FR. Summa Veg. Scand. 323. 1849.

Trametes Ribis FR. Summa Veg. Scand. 323. 1849—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 220. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 21. 1869.

Polyporus Evonymi KALCHBR. Mathem. Term. Közl. n. 1232. 1869; Ic. Hymen. Fung. 4 : 55, *pl. 35*, *f. 3*. 1877—FRIES, Hymen. Eur. 560. 1874—WINTER, Pilze, 1 : 423. 1884.

Trametes Evonymi FUCK. Symb. Myc. 21. 1869.

Fomes Lonicerae GILL. Champ. Fr. 684. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 78. 1882—COOKE, Grev. 14 : 18. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 182. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1002. 1916.

Fomes Ribis GILL. Champ. Fr. 685. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 78. 1882—COOKE, Grev. 14 : 19. 1885—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 180. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1001. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 225. 1892; Brit. Fungi, 379. 1911—BRESADOLA, Ann. Myc. 1 : 75. 1903—W. G. SMITH, Brit. Basid. 350. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 193. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 77. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 252, *f. 594*. 1915—REA, Brit. Basid. 594. 1922—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 453*. 1928—BRESADOLA, Icon. Myc. 20 : *pl. 996*. 1931 (f. *Evonymi*)—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 121. 1934. (P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 268. 1901—松村, 植. 名鑑, 1 : 144. 1904—白井, 日. 菌. 目. 36. 1905; ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 140. 1927—安田, 植. 雑. 26 : 149. 1912)

Fomes Evonymi GILL. Champ. Fr. 685. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 182. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1002. 1916—W. G. SMITH, Brit. Basid. 350. 1908.

Fomes lonicerae var. *euonymi* COOKE, Grev. 14 : 18. 1885.

Phellinus Lonicerae QUÉL. Enchir. Fung. 173. 1886.

Phellinus ribis QUÉL. Enchir. Fung. 173. 1886—KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 335. 1889—AMES. Ann. Myc. 11 : 246. 1913—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 537, *pl. 345—6 a, 347—8*. 1942.

Ochroporus Ribis SCHROET. Pilze Schles. 1 : 486. 1888.

Ochroporus Ribis f. *Euonymi* SCHROET. Pilze Schles. 1 : 486. 1888.

Phellinus salicinus QUÉL. var. *Loniceae* KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 334. 1889.

Scindalma Lonicerae KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

Scindalma Ribis KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

Xanthochrous ribis PAT. Ess. Tax. 101. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 204. 1925; Hymen. Fr. 638. 1928.

Xanthochrous Evonymi PAT. Ess. Tax. 101. 1900.

Pyropolyporus Ribis MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 118. 1903; N. Am. Fl. 9 : 108. 1908.

Inonotus ribis PILÁT, Ann. Myc. 38 : 81. 1940.

Phellinus ribis BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 56. 1941.

Fulvifomes Ribis MURR. North. Polyp. 50. 1914.

子實體は無莖，靱栓質にて剛直となる。傘は扁平，貝殼狀にて，側着し棚狀となり，疊生す，3—5×5—10×0.7—1.5cm，表面は粗面にて絨毛を被むり，明かならざる環紋あり，銹色乃至赭褐色，後無毛となり，下殼を表わす，縁は波狀乃至淺裂し，銹色にて皺あり，肉は栓革質或は火口狀，暗褐色，厚さ3—5mm，管孔は不明の層あり，各季長さ1—2mm，黄褐色，孔口は圓形，1mm間5—6個，口縁は寧ろ薄くして全縁，剛毛體なし，胞子は球形乃至類球形，平滑，淡黄褐色，3—4×3μ。

所在及産地

スグリ (*Ribes*) 其他灌木根際上

本州—歐.北米.亞(支.西比)

和名 スグリタケ（須具利茸）〔安田〕

Cryptoderma sanfordii (LLOYD) IMAZ.

チヨウジタケ

Fomes Sanfordii LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 258. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 87. 1936—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. Perad. 6(2): 46. 1916—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 399. 1925.
(LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1095. 1920)

Polyporus caryophylleus sensu YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 30:52. 1916; 31 : 51. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 473. 1917; ed. 3. 289. 1927.

傘は薄く，扁平，緣は鋭し，約1×3×0.3cm，表面は赤褐色，環溝あり，堅硬，毛被を有し，下殼あり，肉は橙褐色，堅硬，厚さ約 2mm，子實層托は傘肉より暗色，孔口は小形，同色，剛毛體は甚だ廣き基部を有す。胞子は類球形，有色，3.5μ 内外。

所在及産地

樹材上　　本州—南米・亞(錫・比)

和名 チヨウジタケ（丁字茸）〔安田〕

Cryptoderma lonicerinum (BOND.) IMAZ.

ウツギノサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 107. 1943.
(原, 日. 菌. 目. 97. 1954)

Fomes lonicerinus BOND. Acta Inst. Bot. Acad. Sci. URSS, II, 2 : 500. 1934.

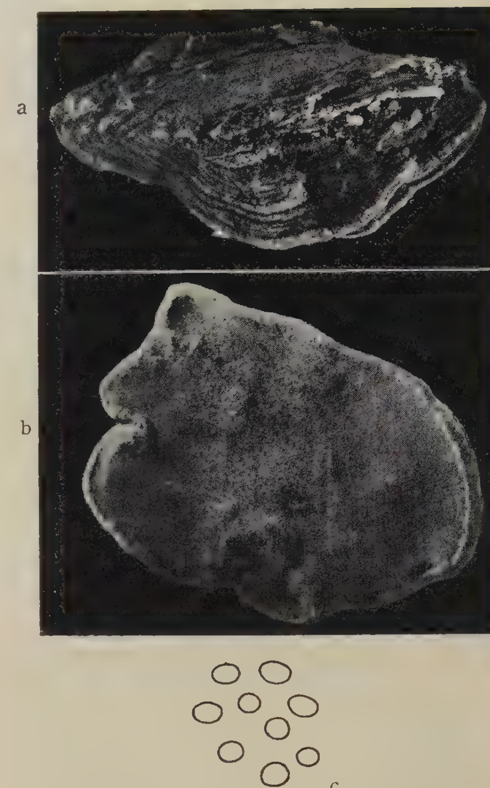
Phellinus lonicerinus BOND. et SING. Ann. Myc. 39 : 56. 1941.

子實體は無莖，時に半背着生，多年生，傘は半圓形にて扁平乃至山形，一般に周緣は薄く，斷面は楔形，5×10×5cm，表面は初め褐色の密毛を被むるも，速に毛被脫落して殆ど黑色となる，周邊に幅狹き著しき環溝を有す，緣は狹き鮮黃或は黃褐色の新鮮なる層を有す，肉は木質にて堅く，茶褐色，周邊部には毛被の下に下殼ありて後毛被消失し，下殼露出す。子實層托は管孔狀，不明瞭なる層あり，各層幅 2mm 内外，孔口は微細，1mm 間 5—6 箇，孔口面は直視せば暗褐色，斜視せば黃色なり，剛毛體は尖頭，下半部は球狀に膨大す，やや少數，長さ 25—30μ，下半部徑 9—11μ. 胞子は類球形，平滑，淡黃褐色，4—5×3—3.5μ。

所在及産地

ハコネウツギ (*Weigela grandiflora* FORT.)
幹上　　本州，九州—亞(西比)

和名 ウツギノサルノコシカケ
（空木猿腰掛）〔今關〕



第 260 圖　ウツギノサルノコシカケ *C. lonicerinum*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1
c. 胞子 ×612　（大谷氏）

Cryptoderma pachyphloeum (PAT.) IMAZ.

クロスジサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Gov. For. St. Tokyo, 57 : 101, *f.* 2. 1952.
(原, 日. 菌. 目. 97. 1954)

Polyporus pachyphloeus PAT. Jour. Bot. 3 : 257. 1889.

Fomes pachyphloeus BRES. Bull. Soc. Myc. Fr. 6 : 41. 1890—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 174. 1891—LLOYD, Myc. Writ. 4 : 260. 1915—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Pl. Dis. Div. Bull. 79 : 5, *pl. 1, f. 2.* 1948.
(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 13. 1912—梅村, 植. 雜. 28 : 196. 1914—安田, 植. 雜. 31 : 51. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 140. 1927)

Scindalma pachyphloeum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 260. 1898.

Phellinus pachyphloeum PAT. Ess. Tax. 97. 1900.

Elfvingia Elmeri MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 34 : 476. 1907.

Pyropolyporus Merrillii MURR. Bull. Torr. Bot.

Club, 34 : 479. 1907.

Fomes Merrillii SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 287. 1912.

Ganoderma Elmeri SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 295. 1912.

子實體は堅緻，木質，無莖，孤生，多年生，傘は扁平或は蹄形，約 15×11×3cm，表面は同心環溝を有し，一樣色或は栗褐又は肉桂色と赭褐色との交互帶を有す，下殼は厚さ 2mm に及び，通常 0.5—1 mm，堅く，黑色，光澤あり，大形の埋在剛毛を有する纏絡結着有色菌絲より成る，緣は銳く，一樣にて，細毛を有し，銹色を呈す，肉は有層，厚さ 15mm，肉桂色或は銹色，管孔面は僅か凹面，初め肉桂色にて後赭褐色となり，狹き肉桂色の無性なる 1—2mm の軟毛帶を有す，子實層托は有層にて其間に傘肉の狹帶を有す，銹色，管長は各層 3—5mm，孔口は角形，1mm 間 5—6 個，孔壁に粗剛毛あり，剛毛體に 2 種あり，1 は披針形，黑栗褐色，約 250×12—14μ，他は紡錘形，淡栗褐色，主に斜に生ず，22—32×6—8μ，胞子は球形，類球形或は倒卵形，平滑，無色，後淡褐色となる，6—8×5—6μ，白腐を起す。

所在及產地

倒木上　　本州—南米.中米.阿.濠.亞(印)

和名 クロスジサルノコシカケ

(黑條猿腰掛)〔安田〕

Cryptoderma kanehirae (YAS.) IMAZ.

ユラタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 107. 1943. (原，日. 菌. 目. 96. 1954)

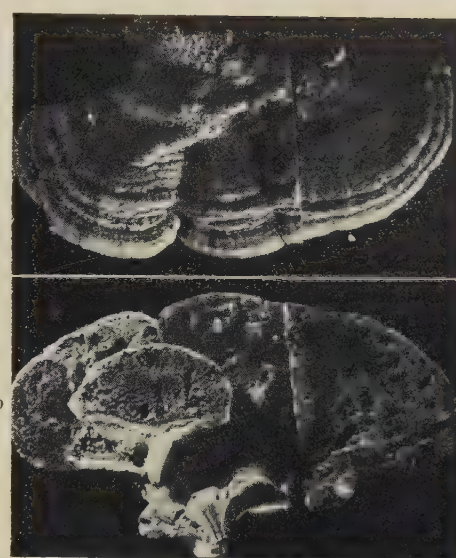
Polyporus Kanehirae YAS. Bot. Mag. Tokyo, 35 : 205. 1921; 36 : 85, *f. 2—3.* 1922.

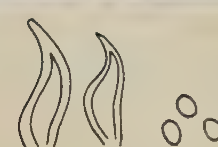
(LLOYD, Myc. Writ. 6 : 1095. 1920 ; 7 : 1113. 1922—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 291. 1927)

子實體は無莖，傘は扇形にて稍々扁平なる貝殼狀，裏面は凹み，基部狹小，疊生癒着し，薄し，4—8×4—12×0.4—1cm，表面は黑褐色の粗毛を被り，脫落後灰褐色の傘面を露わす，多數の環溝を有し，往々著しき段階をなす，緣は薄くして銳し，肉は栗褐色，木質，表面に近く黑線あり，子實層面は褐色，古品にては龜裂し，黑褐色，子實層托は管孔狀，長さ 2—4mm，傘肉と同色，孔緣は薄く，孔口は微細，1mm 間 5—6 個，圓形乃至多角形，剛毛體は褐色，厚膜，尖頭，眞直或は彎曲し，約 20×8μ，胞子は類球形，平滑，淡黃褐色，徑約 3μ。

所在及產地

ヒメシヤラ (*Stewartia monadelpha* S. et Z.)





第 261 圖　ユラタケ *C. kanehirae*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×3/5
c. 剛毛體及胞子 ×544　　(大谷氏)

幹上　　九州—亞(臺)

和名 ユラタケ (油羅茸)〔安田〕

〔因記〕本菌名は金平亮三氏が臺灣の油羅山に於て採集されたるを以て附せらる。

Cryptoderma yamanoi IMAZ.

エゾサルノコシカケ

IMAZEKI, Forsch. Ges. Pfl.-Krankh. 4 : 176. 1951. (千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 33. 1952—原，日. 菌. 目. 97. 1954)

Trametes Picei YAMANO, 御料林，25 : 69, *f. 2, 5.* 1930；林業會報，330 : 7, *f. 2, 5.* 1930.

Daedalea jezoensis YAMANO, 御料林，25 : 70, *f. 1, 3, 7, 8.* 1930；林業會報，330:8, *f. a–d, 1, 4, 7, 8.* 1930.

Fomes yezoense TOCHINAI et KAMEI, 日. 植. 病. 學. 報. 2 : 573. 1933.

Cryptoderma yezoense IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 107. 1943.

(原，日. 菌. 目. 97. 1954)

Trametes Pini (non FRIES)

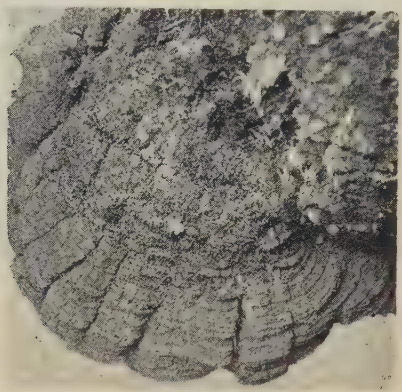
(松村，植. 名鑑，1 : 176. 1904—白井，日. 菌. 目. 100. 1905; ed. 2. 661. 1917; ed. 3. 396. 1927—安田，植. 雜. 29:236. 1915—逸見，日. 學術協. 報. 7:

405. 1932; Mem. Coll. Agr. Kyoto Imp. Univ. 20: 23, *pl.3*, *f.3—5*, *pl.4*, *f.3—4*. 1932; 及赤井，木．腐．菌學，381, *f. 190—5*. 1945—今關，日．隱．植．圖．473, *pl. 227*, *f. 1—2*. 1939)

Fomes Pini (non KARSTEN)

(安田，植．雜．31:51. 1917—白井，日．菌．目．ed. 3. 140. 1927)

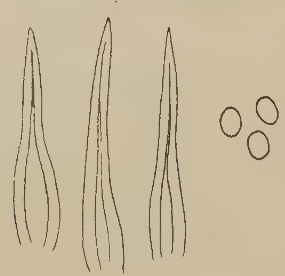
子實體は多年生，無莖，傘は半圓形，扁平或は稍々蹄形，横徑 30—40 cm，厚さ 15—20 cm に及ぶ，表面は著しき環溝あり，幼時粗剛毛を有し，帶黃褐



a



b



c

第 262 圖　エゾサルノコシカケ *C. yamanoi*
a. 子實體表面 ×1/2 (龜井氏)　b. 同裏面 ×1/2
c. 剛毛體及胞子 ×544 (大谷氏)

色，後黑色或は褐黑色，無毛となる，粗糙罅裂す，縁は屢々稍々鋭く，稍々波狀を呈す，肉は薄く，木質黃褐色，子實層托は管孔狀，明かに多層，稍々同色，管長各季 2—4 mm，速に同色或は甚だ鮮色の菌絲に塡充さる，孔口は微小乃至中形，圓形或は迷路狀，剛毛體は狹圓錐形，鋭尖，厚膜，40—60×6—9.5 μ，胞子は類球形，初め無色，速に褐色となる，平滑，5—6—7×4—5 μ，心材の白腐を起す。

所在及産地

主にエゾマツ (*Picea*) 幹上

北海道，本州一亞(朝．滿．樺)北米

和名　エゾサルノコシカケ（蝦夷猿腰掛）〔山野〕

疑　問　種

(*Cryptoderma* 所屬)

Fomes elaphinus BRES. Ann. Myc. 18:36. 1920.

Phellinus QUÉL. emend. IMAZ.

キコブタケ屬

QUÉLET, Enchir. Fung. 172. 1886. pr. p.—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 104. 1943.

Fomes KICKX, Auct. plur. pr. p.

Ochroporus SCHROETER, Pilze Schles. 1: 483. 1888. pr. p.

Pseudofomes LAZARO, Roy. Acad. Cienc. Madr. 14: 542. 1915—6.

Pyropolyporus MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 30: 109. 1903. pr. p.

Scindalma HILL. ex KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3 (2): 517. 1898. pr. p.

子實體は 1 年生或は多年生，無莖，傘は扁平乃至蹄形，表面は一般に平滑或は粗荒にて割裂す，眞の殼皮を有せざるも，長く雨露に曝され表面菌絲が變質硬化し黑色を呈し殼皮狀の觀を呈す，本屬には屢々この僞殼を有す，肉は堅緻なる木質或は木栓質，黃褐色，子實層托は管孔狀，1 層或は多層，孔口は圓形，細小，剛毛體は概して存在す。胞子は無色或は黃褐色，平滑，樹上生。

(本屬名は phellus (コルク) より出つ)

基準種　*P. igniarius* (L. ex FR) QUÉL.

〔因 記〕本屬は殼皮及下殼を有せざる "*Fomes*" の黃褐菌なるも，往々殼皮の如き觀を呈する僞殼を作ることあり，之れ全く組織的分化の結果に非らざるを以て區別さる。

本邦既知種檢索表

A. 子實體は坐生し，背着性少し。

a. 胞子無色，剛毛體を有す。

α. 傘は比較的粗大ならず (通常縱徑 5 cm 內外)

I. 傘は薄し (0.5—1.5 cm)，扁平或は貝殼狀，表面褐乃至灰褐，粗糙，無環溝，管孔面黃褐，後暗褐，剛毛體多生，胞子 4—5×3.5

—4μ。 ネンドタケ ***P. gilvus*** (369)

II. 傘は比較的厚し。

1. 剛毛體は楔形にて先端稍々尖る，傘面環層ありて粗糙，濃灰褐色，管孔面初め紫色を帯び後暗褐色，剛毛體多生，胞子 4—5×3—4.5μ。

コルクタケ ***P. torulosus*** (370)

2. 剛毛體は楔形にて先端釣針狀をなす，傘面環溝及放射狀皺襞あり，黃褐乃至殆ど黑色，管孔面銹褐色，剛毛體多生，胞子 3.5—5×3—4μ，

ツリバリサルノコシカケ

P. hamatus (371)

β. 傘は粗大。

I. 傘肉黃褐色乃至肉桂色。

1. 剛毛體稀生，傘面灰褐，老時殆ど黑色，環溝あり，龜裂す，傘肉層剝離せず，傘緣に屢々黃帶あり。

甲. 廣葉樹上生。

コブサルノコシカケ

P. robustus (372)

乙. 針葉樹上生。

モミサルノコシカケ

P. hartigii (373)

2. 剛毛體多生，傘面暗灰褐，老時其色を保ち，傘肉剝離し古層を露出す。

コブサルノコシカケモドキ

P. setulosus (374)

II. 傘肉は暗褐色，傘面灰黑色，老時黑色，環溝あり，細かき龜裂多し，緣に黃肉桂色或は灰白色の帶あり，管孔面栗褐色，稀に灰色，胞子 6—7×3—4μ。

キコブタケ ***P. igniarius*** (374)

b. 胞子有色。

α. 剛毛體なし，傘面は灰色，暗褐色或は灰褐又は殆ど黑色，大龜裂を有し，肉は帶褐黃色，管孔面は暗黃乃至銹褐色，胞子 5—6×4—5μ。

オオメシマコブ ***P. rimosus*** (375)

β. 剛毛體あり。

I. 傘面殆ど黑色，緣邊鮮黃色，肉は鮮黃或は褐黃色，管孔面黃色，胞子 3—4μ。クワ上。

メシマコブ ***P. yucatanensis*** (376)

II. 傘面純肉桂色，遂に殆ど黑色，肉は黃褐色，管孔面栗褐乃至帶紫暗褐色，胞子 3—3.5×3μ。ハシドイ上。

エゾキコブタケ ***P. baumii*** (377)

B. 背着又は半背着。

a. 剛毛體多生。

α. 肉中及管孔層間に黑線を生ず，胞子 6—8×2—3μ，エゾマツ上。

エゾノハスグサレタケ

P. nigrolimitatus (377)

β. 黑線を有せず。

I. 傘面に褐色剛毛を被むる，胞子 3×2μ，カシワ上。

ネンドタケモドキ ***P. gilvoides*** (378)

II. 傘面赤褐乃至灰黑色，絨狀綿毛あり，後無毛，胞子 6—9×1.5—2μ，針廣葉樹上。

オオサビサルノコシカケ

P. isabellinus (378)

b. 剛毛體稀生，傘面黃褐乃至灰褐色，殆ど無毛，胞子 5—6×4—5μ，サクラ類上。

サクラノサルノコシカケ

P. pomaceus (379)

Phellinus gilvus (SCHW. ex FR.) PAT.

ネンドタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 97. 1900—AMES, Ann. Myc. 11 : 246. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 193. 1925; Hymen. Fr. 621. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 26. 1932; 49 : 270, *pl. 20*, *f. 4—6*. 1933; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 498, *pl. 316—7 a*. 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 56. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 104, *pl. 2*, *f. 4*. 1943; 植. 分. 地. 13 : 254. 1943; Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 114. 1952—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43 : 33. 1952—原, 日. 菌. 目. 248. 1954)

Boletus impuber BULL. in SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 195*. 1799.

Boletus gilvus SCHW. Syn. Fung. Carol. 96. 1822.

Polyporus gilvus FR. Elench. Fung. 1 : 104. 1828; Epicr. Myc. 455. 1838; Hymen. Eur. 548. 1874—COOKE, Grev. 13 : 87. 1885; Handb. Austr. Fungi, 122. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 121. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 983. 1916—W.G. SMITH, Outl. Brit. Fung. Suppl. 287. 1891; Brit. Basid. 344. 1908—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 419. 1892—BRESADOLA, Ann. Myc. 10 : 495. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 99. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 117. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 346. 1915—GRAFF, Bull. Torr. Bot. Club, 48 : 285. 1921—REA, Brit. Basid. 586. 1922—

LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 52. 1934.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 32:39. 1903—松村, 植. 名鑑, 1:163. 1904—白井, 日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 475. 1917; ed. 3. 290. 1927—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42 : 15. 1912; Lett. 45 : 4. 1913; 5, Lett. 63:5. 1916; 6:980, 1096. 1920; 7:1126. 1922; 1266, 1321. 1924—安田, 植. 雜. 26 : 329. 1912; 31 : 53. 1917—梅村, 植. 雜. 28:356. 1914—北島, 林. 試. 報. 28:13, *pl. 1, f. 9, pl. 6, f. 10.* 1928—今關, 日. 隱. 植. 圖. 441, *pl. 211, f. 2—4.* 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 313, *f. 125—6.* 1945)

Polyporus carneofulvus BERK. in FRIES, Nov. Symb. Myc. 52. 1851—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 347. 1915.

Polyporus breviporus COOKE, Grev. 12:17. 1883.

Polystictus purpureofuscus COOKE, Grev. 14 : 86. 1886; 15 : 24. 1886.

Polystictus breviporus COOKE, Grev. 14 : 87. 1886.

Placodes fuscatus QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 15 : 4, *pl. 9, f. 7.* 1886; Fl. Myc. 399. 1888.

Mucronoporus gilvus ELL. et EV. Jour. Myc. 5: 28. 1889.

Polyporus illicicola P. HENN. Bot. Jahrb. 32 : 39. 1903—SACCARDO, Syll. Fung. 17 : 110. 1905.

(松村, 植. 名鑑, 1 : 163. 1904—白井, 日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 477. 1917; ed. 3. 291. 1927)

Hapalopilus gilvus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31:418. 1904; N. Am. Fl. 9:81. 1908; North. Polyp. 36. 1914; South. Polyp. 35. 1915.

Fomes gilvus LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 47 : 14. 1913; 7 : 1157, *f. 2285.* 1922—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 74:10, *pl. 4, f. 1.* 1948.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43 : 4. 1912)

Polystictus gilvus LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1296. 1924.

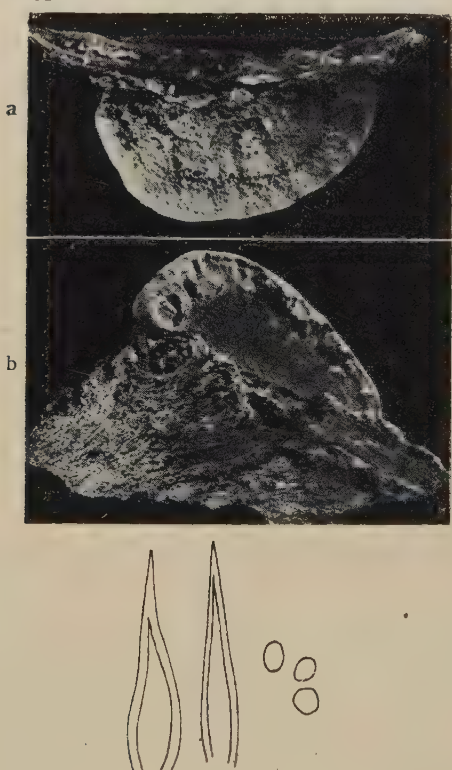
子實體は無莖，多數疊生，木栓質，傘は半圓形にて扁平或は貝殼狀，屢々上下連結す，3—6×5—10×0.5—1.5 cm，傘面は鮫肌狀突起と粉毛を密生し，粗糙，無環溝，褐色乃至灰褐色，粘土に似たり，緣は薄く，鈍圓，絨毛を有す，銹色，全緣或は波狀，下面無性，肉は黃褐色，纖維狀海綿質乃至木栓質，有層，厚さ 3—7 mm，管孔の長さ 3—5 mm，屢々有層，孔口は小，圓形乃至多角形，老時裂くることあり，1 mm 間 6—8 個，孔緣は初め厚く，後薄し，全緣，光澤あり，初め黃褐色，後暗褐色，剛毛體は多生，黃褐色，略々楔形或は德利形にて先端尖り，25—28×6—7.5 μ，胞子は類球形，平滑，無色，4—5×3.5—4 μ。材の白腐を起す。

所在及產地

廣葉樹腐木，材上

全土—歐.北中米.南洋.亞(西比.支.爪)

和名 ネンドタケ（粘土茸）〔安田〕



第 263 圖 ネンドタケ *P. gilvus*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1
c. 剛毛體及胞子 ×544 （大谷氏）

Phellinus torulosus (PERS.) BOURD. et GALZ.
コルクタケ

BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 191. 1925; Hymen. Eur. 619. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:26. 1932; 49 : 271. 1933; 51 : 374. 1935; Ann. Myc. 38 : 80. 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:501, *pl. 334 b,* 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 56. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 105. 1943—原, 日. 菌. 目. 249. 1954)

Boletus igniarius var. *c.* BULL. Herb. Fr. *pl. 454.* 1789.

Polyporus torulosus PERS. Myc. Eur. 2:79. 1825.

Phellinus rubriporus QUÉL. Champ. Jura Vosg. Suppl. 10 : 669. 1880; Enchir. Fung. 173. 1886; Fl. Myc. 394. 1888.

Polyporus fusco-purpureus BOUD. Bull. Soc. Bot. Fr. 28 : 92, *pl. 2, f. 3.* 1881.

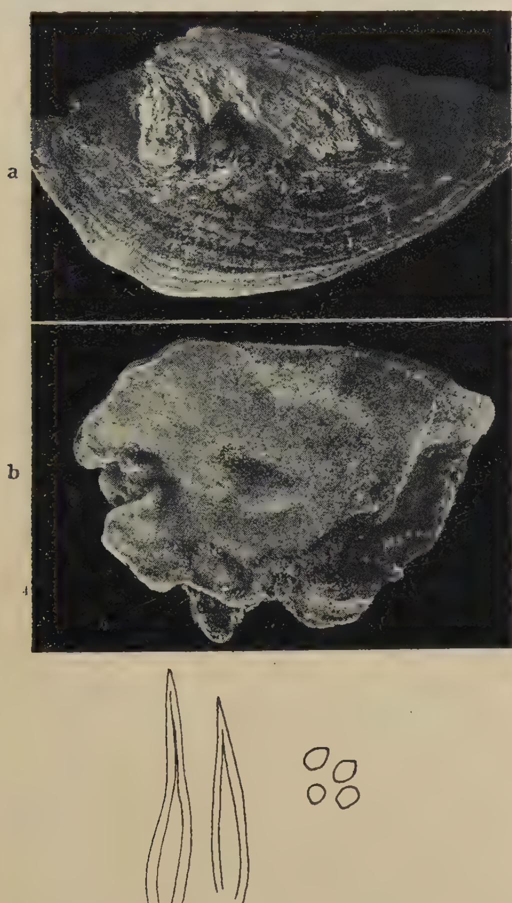
Fomes fusco-purpureus PAT. Hymen. Eur. 140.

1887.

Fomes torulosus LLOYD, Myc. Writ. 3: 470. 1910; Polyp. Iss. 3: 48. 1910; 4, Fomes, 243. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 88. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 21: 294. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45: 5. 1913; Lett. 49: 10. 1914—安田，植．雜．27: 386. 1913; 31: 51. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 245. 1917; ed. 3. 141. 1927—澤田，臺．博．學．報．24: 458. 1934; 臺．菌．調．報．7: 98. 1942—今關，日．隱．植．圖．455, *pl. 218, f. 1—3.* 1939—逸見及赤井，木．腐．菌學，372, *f. 183—4.* 1945)

子實體は無莖或は背着，木栓質，傘は薄く，半圓形にて扁平乃至低蹄形，或は枝に一部背着して廣き波曲せる傘を作る，1—5×2—10×1—7cm，表面は



第264圖　コルクタケ *P. torulosus*
a. 子實體表面　b. 同裏面　×3/4
c. 剛毛體及胞子　×544　（大谷氏）

黄褐色或は濃灰褐色，初め柔軟，栗褐色の絨毛を被むり，後脱毛，著しき鈍廣なる環隆層を生じ，粗糙，緣は鈍圓にて少しく隆起し，或は鋭し，肉は黄褐乃至灰褐色，管孔面は初め紫色を帶び，後褪色し暗褐色，管孔は多層，各層は厚さ 0.3—1cm，孔口は微細，圓形，1mm 間 7—8 個，孔壁は薄し，剛毛體は多生，黄褐色，厚膜，楔形，先端細く稍々尖る，20—37×5—6μ，約 10—20μ 突出す，胞子は類球形，平滑，無色，4—5×3—4.5μ。材の白腐を起す。

所在及産地

サクラ類 (*Prunus*) カシ類 (*Quercus*) 其他ザクロ (*Punica*) 或はマツ (*Pinus*) 等の枯幹上
本州，四國，九州—歐．北米．亜（臺．支．西比）

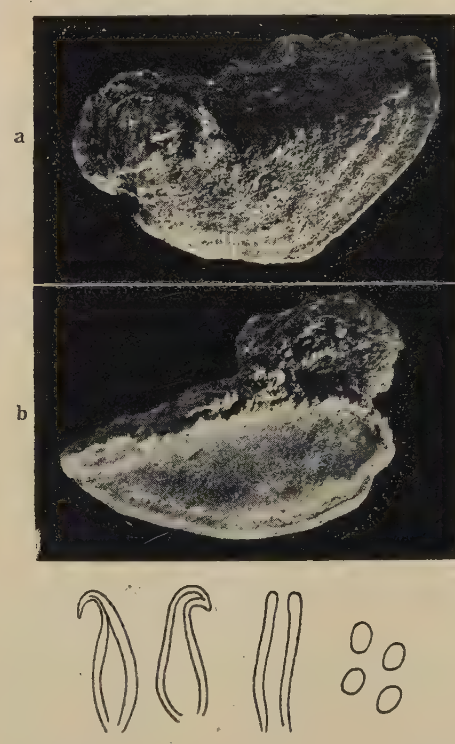
和名　コルクタケ（木栓茸）〔安田〕

Phellinus hamatus (CORNER) IMAZ.
ツリバリサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 104. 1943. (原，日．菌．目．248. 1954)

Fomes senex var. *hamatus* CORNER, Trans. Brit. Myc. Soc. 17: 75. 1932.

Fomes hamatus IMAZ. Jour. Jap. Bot. 16: 586, *f. 4—5.* 1940—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 79: 4. 1948.



第265圖　ツリバリサルノコシカケ *P. hamatus*
a. 子實體表面　b. 同裏面　×2/3
c. 剛毛體，絲狀體及胞子　×544　（大谷氏）

子實體は無莖，木栓質，多數疊生，上下連結す。傘は半圓形乃至棚狀にて低蹄形，2—5×5—14×2—10cm，表面は環溝を有し，多少有疣，放射狀皺襞あり，粗面，黄褐色乃至褐色，後暗褐色乃至殆ど黑色となり，殼皮及下殼なきも堅き炭質となり僞殼を作る，縁は鈍く，黄褐乃至褐色，細絨毛あり，下面無性，肉は厚さ 0.5mm 以下，栗褐色，木栓質にて堅緻，管孔は明かに有層，屢々傘肉を介入す，各層厚さ 2—6mm，古管は褐色菌絲に塡充さる，肉と同色，孔口は小，圓形，1mm 間 5—7 個，孔壁は厚く，全緣，銹褐色，剛毛體は楔形，先端有鈎，25—40×5—9μ，絲狀體は無色，雌蕋形，20×3—5μ，胞子は廣楕圓乃至類球形，平滑，無色，3.5—5×3—4μ。材の白腐を起す。

所在及產地　クリ類 (*Castanea*) 幹上
本州，四國，九州—濠.亜(馬)

和名　ツリバリサルノコシカケ
(釣針猿腰掛)〔今關〕

Phellinus robustus (KARST.) BOURD. et GALZ.

コブサルノコシカケ

BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 188. 1925; Hymen. Fr. 616. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 26. 1932; 49 : 270. 1933; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 504, *pl. 320—3*. 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 56. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 104, *pl. 2, f. 5*. 1943—原, 日. 菌. 目. 249. 1954)

Fomes robustus KARST. Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 467. 1889—SACCARDO, Syll. Fung. 9 : 173. 1891; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1000. 1916—BRESADOLA, Ann. Myc. 6 : 38. 1908; 14 : 223. 1916—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 242, *f. 589*. 1915; 7 : 1317, *f. 3032*. 1924—REA, Brit. Basid. 593. 1922—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b : 120. 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 197. 1935—LOHWAG, Ann. Myc. 35 : 342, *f. 2*. 1939. (Auct. plur. pr. p.)

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 45 : 5. 1913; 5, Lett. 65 : 6. 1917; 6 : 1095. 1920; 7 : 1125. 1922; 1296, 1299. 1924—安田, 植. 雜. 27 : 386. 1913; 31 : 50. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 245. 1917; ed. 3. 141. 1927—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3 : 111. 1931—今關, 日. 隱. 植. 圖. 455, *pl. 218, f. 5*. 1939)

Placodes robustus QUÉL. Fl. Myc. 400. 1888.

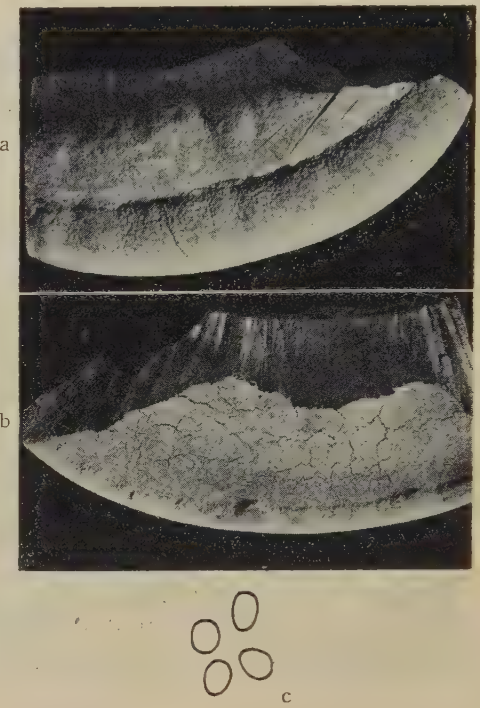
Pyropolyporus Bakeri MURR. N. Am. Fl. 9 : 104. 1908; North. Polyp. 48. 1914; South. Polyp. 48. 1915.

Fomes Bakeri SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 293. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 79, *pl. 6, f. 27 a, pl. 7, f. 27 b–d*. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Form. 243. 1915; 7 : 1298. 1924—OVERHOLTS, Mycologia, 12 : 136, *pl. 9*. 1920.

(安田, 植. 雜. 31 : 51. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 3. 137. 1927)

Fomes rubustus f. *fuscescens* BOURD. in KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 462*. 1932.

子實體は多年生，孤生，木質，堅緻，無莖，時に背着，傘は半圓形にて蹄形，時に扁平，稀に半球形 3—16×5—30×3—15cm，傘面は普通環溝を有し，



第 266 圖　コブサルノコシカケ *P. robustus*
a. 子實體表面一部　b. 同裏面一部 ×3/4
c. 胞子 ×612　(大谷氏)

瘤を生ずること多し，時に平坦，老時甚だ堅く，罅裂す，暗灰褐，後殆ど黑色，僞殼を有す，緣は鈍圓，全緣，黄褐色，肉は黄褐乃至肉桂色，厚さ 2—5mm，管孔面は平面或は僅か垂下し，平坦，栗褐或は銹色，管長 2—5mm，有層，各層間に傘肉介在す，孔口は小，圓形，1mm 間 4—6 個，剛毛體は稀生，18—36×6—11μ，胞子は類球形或は廣楕圓形，平滑，無色，6—9×5.5—8.5μ。材の白腐を起す。

所在及產地

カシワ (*Quercus*) シイ (*Shiia*) 等廣葉樹幹上

全土―歐・北米・濠・亞(臺・支・錫・西比)

和名 コブサルノコシカケ（瘤猿腰掛）〔今關〕，
カシサルノコシカケ（樫猿腰掛）〔安田〕

Phellinus hartigii (ALLESCH. et SCHNABL) IMAZ.

モミサルノコシカケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 104. 1943.（千葉及寺本，東．大．演．林．報．43:33. 1952—原．日．菌．目．249. 1954—今關及土岐，林．試．研．報．67 : 26. 1954)

Polyporus fulvus HARTIG, Zersetz. Holzes, 40, *pl. 7*. 1878. (non SCOP. nec FR.)

Ochroporus fulvus SCHROET. Pilze Schles. 1 : 487. 1888. (sensu HARTIG)

Placodes igniarius var. *fulvus* QUÉL. Fl. Myc. 399. 1888.

Polyporus Hartigii ALLESCH. et SCHNABL, Fung. Bavar. exs. Cent. 1 : n.48. 1890—PRILLEUX, Malad. Pl. Agr. 1 : 336, *f. 142—4*. 1895.

Fomes igniarius var. *Pinuum* BRES. Rev. Myc. 12 : 105. 1890—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 440. 1925.

Fomes Hartigii BRES. Hymen. Hung. Kmet. 37. 1897; Ann. Myc. 1 : 75. 1903—SACCARDO & TRAVERSO, Syll. Fung. 19 : 712. 1910; 21 : 294. 1912—LOHWAG, Ann. Myc. 35 : 339, *f. 1*. 1937.
（逸見及赤井，木．腐．菌學．360, *f. 172—4*. 1945)

? *Fomes Yasudai* LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 272, *f. 606*. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 89. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 390. 1925.

Phellinus robustus f. *Hartigii* BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 188. 1925; Hymen. Fr. 617. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 463*. 1932—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 49 : 271, *pl. 16*, *f. 1*. 1933.

Fomes Hartigii var. *japonica* MIYABE et KUSAMA
（龜井及今井，日．植．病．學．報．2 : 566. 1933)

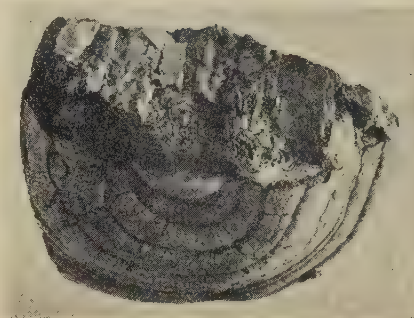
Fuscoporia tsugina (MURR.)
ツガアナタケ

Fomitiporia tsugina MURR. N. Am. Pl. 9 : 9. 1907.

Poria tsugina SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 332. 1912—OVERHOLTS, Mycologia, 23 : 121, *pl. 12*, *f. 4*, *pl. 14*, *f. 14*, *16*. 1931—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 19 : 328. 1934—LOWE, Lloydia, 11 : 168. 1948.
（青島，林．試．研．報．46 : 163. 1950)



a



b



c

第267圖　モミサルノコシカケ *P. hartigii*
a. 子實體側面（龜井氏）　b. 同背面 ×1/2
c. 胞子 ×612（大谷氏）

子實體は多年生，孤生，木質，堅緻，無莖，稀に背着生，背着の場合は廣く擴布し，50cm 以上に及ぶことあり，生時固着するも乾古品にては往々剝離す，厚さ 1—10 mm 或はそれ以上に及ぶ，緣は初め淡蜜黃色，幅 1 mm，固着し，不規則にて無性，細毛を有するも，後消失す，時に無性部は廣幅，65 mm に及ぶ，初め粘土色，後暗褐色，最後に帶灰黑色となる，基層は 1 mm 以下，管孔は層をなし，屢々 15 層に及ぶ，各季の長さ 2—8，多くは 4 mm，幾分古層に白色塡充物あり，孔口 1 mm 間 5—7 個，淡色乃至汚黃褐及淡褐灰色，類多角形乃至類圓形，孔壁厚く，全緣，有傘の場合傘は半圓形にて蹄形，時に扁平，稀に半球形，3—10×4—18 cm，厚さ 3—16 cm，表面は明かなる環溝を有し，老時甚だ堅く，罅裂す，幼部は黃褐乃至灰褐色，微毛を有し，老部は黑褐乃至灰黑色，僞殼を有す，緣は鈍圓，全緣，肉は黃褐

乃至肉桂色，管孔面は平面，或は凸面，往々段階あり，管孔は多層，各層間に傘肉介在し，傘肉と同色，管長は長し，胞子は球形或は類球形，平滑，無色，徑6—8μ。剛毛體なく，菌絲は褐色，分岐せず，隔膜及菌絆なく，徑2—4μ。材の白腐を起し，樹幹に縱溝を作る。

所在及産地

トドマツ（*Abies*）ツガ（*Tsuga*）等針葉樹上　北海道，本州—歐. 北米. 亞(西比)

和名 モミサルノコシカケ（樅猿腰掛）〔有傘型，安田〕，ミゾクサレタケ（溝腐茸）〔有傘型，宮部〕，ツガアナタケ（栂孔茸）〔背着型，青島〕

Phellinus setulosus (LLOYD) IMAZ.

コブサルノコシカケモドキ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 104, *pl. 2, f. 6*. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. St. Tokyo, 57 : 115. 1952—原，日. 菌. 目. 249. 1954)

Fomes setulosus LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 243. 1915; 5 : 713, *f. 1069*. 1917; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 88. 1936—PETCH, Ann. Roy. Bot. Gard. 6(2) : 45. 1916—SACCARDO, Syll. Fung. 23 : 392. 1925—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 198. 1935—CUNNINGHAM, Dep. Res. Ind. Pl. Dis. Div. Bull. 79:7, *pl. 3, f. 1*. 1948.

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1321. 1924—今關，植. 硏. 雜. 16 : 589, *f. 6—7*. 1940; 17 : 177. 1941)

コブサルノコシカケに類似するも，多數の剛毛體(18—36×6—11μ) を有し，兩者共に眞の殼皮を有せざるも，本菌の傘面は幾分有粉にて暗灰褐色を呈し，老時も其色を保ち，彼の如く黑色とならず，尙本菌の傘肉は屢々層を有し，各層は容易に剝離し古層を露出する特性を有す，胞子は類球形或は廣楕圓形，平滑，無色，4.5—6×4—4.5μ。

所在及産地

カシワ（*Quercus*）イスノキ（*Dictylium*）等の幹上　九州—濠. 南洋. 亞(錫. 臺. 支)

和名 コブサルノコシカケモドキ（擬瘤猿腰掛）〔今關〕，ニセコブサルノコシカケ（似非瘤猿腰掛）〔今關〕

Phellinus igniarius (L. ex FR.) QUÉL.

キコブタケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 172. 1886—PATOUILLARD, Ess. Tax. 97. 1900—AMES, Ann. Myc. 11 : 246. 1913—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 189. 1925; Hymen. Fr. 617. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48 : 26. 1932; 49 : 270. 1933; Ann. Myc. 38 : 80. 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 508, *pl. 324*, 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 56. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 104. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43 : 33. 1952—原，日. 菌. 目. 249. 1954)

Boletus igniarius L. Sp. Plant. 2 : 1176. 1753—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2 : *pl. 132*. 1799—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 534. 1801—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1 : 641. 1821.

Agaricus igniarius BATT. Fung. Arim. Hist. *pl. 37 H*. 1755.

Boletus obtusus PERS. Obs. Myc. 2 : 4. 1799.

Boletus fomentarius E. *obtusus* PERS. Syn. Meth. Fung. 538. 1801.

Polyporus igniarius FR. Syst. Myc. 1 : 375. 1821; Elench. Fung. 1 : 109. 1828; Epicr. Myc. 466. 1838; Hymen. Eur. 559. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2 : 81. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2) : 144. 1836; Outl. Brit. Fung. 246. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1 : 423. 1844—FUCKEL, Symb. Myc. 19. 1869—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1 : 275. 1871; Handb. Austr. Fungi, 131. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1 : 280. 1872—KARSTEN, Myc. Fenn. 3 : 265. 1876—WINTER, Pilze, 1 : 424. 1884—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 194. 1903.

(白井，日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 475. 1917)

Polyporus loricatus α. PERS. Myc. Eur. 2 : 86. 1825.

Fomes igniarius KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2 : 237. 1867—GILLET, Champ. Fr. 687, cum icone. 1874—KARSTEN, Hattsv. 2 : 77. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 333. 1889—COOKE, Grev. 14 : 18. 1885—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 140. 1887—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 180. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1001. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1 : 221, *f. 20*. 1892; Brit. Fungi, 377. 1911—W. G. SMITH, Brit. Basid. 349. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1) : 194, *pl. 32 E*. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 79. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 135. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 245. 1915—REA, Brit. Basid. 593. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 20 : *pl. 994*. 1931—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18 : 382, *pl. 35*. 1931—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5 : *pl. 465*. 1934—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b : 116. 1934.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 268. 1901—松村，植. 名鑑，1 : 143. 1904—白井，日. 菌. 目. 35. 1905; ed. 2. 241. 1917; ed. 3. 138. 1927—安田，植. 雜. 34 : 97. 1920—LLOYD, Myc. Writ. 7 : 1125, 1128. 1922—川村，日. 菌. 圖說，*n. 210*. 1929—今關，日. 隱. 植.

圖. 455, *pl. 218, f. 4.* 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 341, *f. 151—2.* 1945)

Placodes igniarius QUÉL. Fl. Myc. 399. 1888.

Ochroporus igniarius SCHROET. Pilze Schles. 1 : 487. 1888—DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9 : 249. 1933.

Scindalma igniarium KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2) : 517. 1898.

Pyropolyporus igniarius MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 110. 1903; N. Am. Fl. 9 : 103. 1908; North. Polyp. 48. 1914.

Fuscoporia laevigata (FR.) CUNNING.
キコブアナタケ

CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 73 : 9, *pl. 1, f. 6.* 1948.

(青島, 林. 試. 研. 報. 46 : 161(165), *pl. 2, f. 4.* 1950)

Polyporus laevigatus FR. Hymen. Eur. 571. 1874.

(白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 477. 1917; ed. 3. 292. 1927)

Poria laevigata KARST. Hattsv. 2 : 82. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 340. 1889—COOKE, Grev. 14 : 114. 1886—QUÉLET, Enchir. Fung. 178. 1886; Champ. Jura Vosg. Suppl. 19 : 488, *pl. 3, f. 11.* 1893—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 326. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1040. 1916—NEUMAN, Polyp. Wisc. 57. 1914—REA, Brit. Basid. 606. 1922—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41 : 244. 1925—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 262. 1935—LOWE, Lloydia, 11 : 166. 1948.

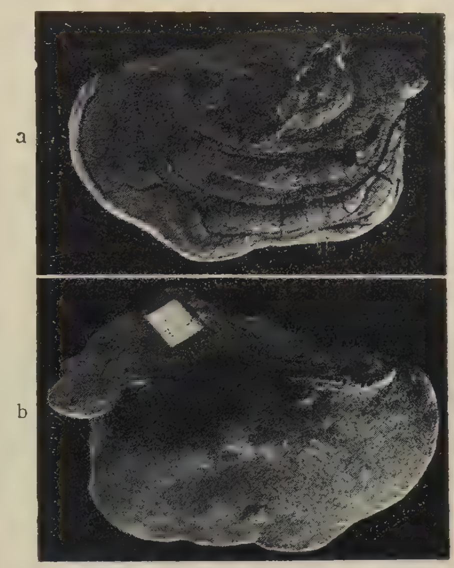
Fomitiporella betulina MURR. N. Am. Fl. 9 : 12. 1907.

Poria betulina SACC. et TROTT. Syll. Fung. 21 : 331. 1912.

Phellinus laevigatus BOURD. et GALZ. Hymen. Fr. 624. 1928.

Fomes igniarius var. *laevigatus* OVERH. in BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 19 : 313, *pl. 58, f. 1, pl. 59, f. 1.* 1934—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b : 117. 1934.

子實體は多年生，無莖，或は稀に全背着生，木質，背着の場合は廣く擴布し，普通厚さ 10 mm に及び，剝離せず，緣は褐色にて風化して鼠色となる，基層は厚さ 1 mm に及ぶ，坐生の場合傘は蹄形にて稀に扁平，1—10×2—20×1—12 cm，傘面は初め平滑，老時明かに細罅裂を生ず，僞殼を有し，環紋あり，有毛乃至無毛，灰黑色，老時黑色，時に光澤あり，緣は鈍圓，短密毛を有し，罅裂なきか少し，黃肉桂色或は灰色，肉は厚さ 1 mm 以下，暗褐色，管孔は有層，子實體の大部分を占め，古層のものは著しく白色菌絲にて塡塞さる，各季の管長 1—5，多くは



第 268 圖　キコブタケ *P. igniarius*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×1/3　(大谷氏)

2 mm，栗褐色，孔口は普通圓形，1 mm 間 4—5 個，栗褐稀に灰色，孔壁は薄く，擔子柄は 15—17×5 μ，胞子は類球形乃至卵形，平滑，無色，3—6×3—4 μ，剛毛體は稀に存在し，尖頭，基部 6—8 μ，12—16 μ 程抽出す。菌絲は褐色，稀に分岐し，隔膜なく，菌絆なし，徑 2—4 μ。材の白腐を起し，腐蝕材中に褐線紋を生ず。

所在及產地

廣葉樹幹上　　北海道，本州，九州—
　　　　　　　　歐. 北米. 濠. 亞(西比. 支)

和名 キコブタケ (木瘤茸)〔有傘型，川村〕，ニセホクチタケ (擬引火絮茸)〔有傘型，安田〕，キコブアナタケ (木瘤孔茸)〔背着型〕

Phellinus rimosus (BERK.) PILÁT
オオメシマコブ

PILÁT, Ann. Myc. 38 : 80. 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1 : 526. 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39 : 56. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 104. 1943—原, 日. 菌. 目. 249. 1954)

Polyporus rimosus BERK. Lond. Jour. Bot. 4 : 54. 1848—FRIES, Nov. Symb. Myc. 50. 1851.

Fomes rimosus COOKE, Grev. 14 : 18. 1885; Handb. Austr. Fungi, 131. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6 : 181. 1888—NEUMAN, Polyp. Wisc. 82. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1 : 133. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 248. 1915—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b : 122. 1934

—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2:199, *f. 42*. 1935.

(今關, 植. 硏. 雜. 16 : 585, *f. 3*. 1940)

Scindalma rimosum KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 519. 1898.

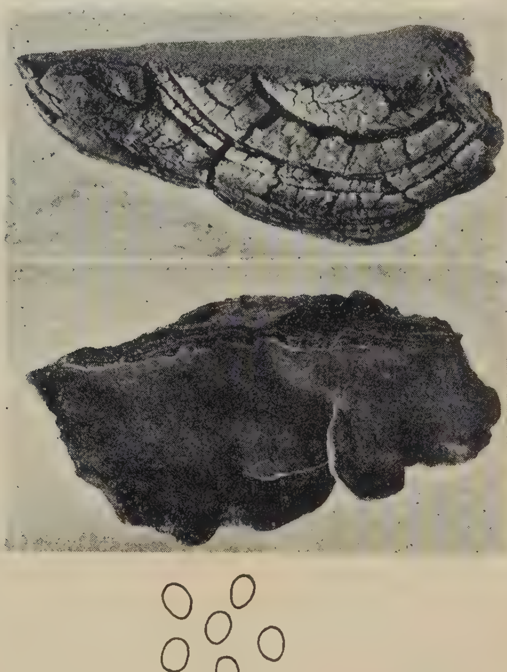
Pyropolyporus Robiniae MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 114. 1903; N. Am. Fl. 9 : 105. 1908.

Xanthochrous rimosus PAT. Ess. Tax. 101. 1900.

Fulvifomes Robiniae MURR. North. Polyp. 49. 1914; South. Polyp. 51. 1915.

a

b



c

第 269 圖 オオメシマコブ *P. rimosus*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×1/3
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

子實體は多年生, 無莖, 木質, 傘は半圓形にて丸山形乃至蹄形, 3—20×6—30×1.5—10 cm, 表面は灰色, 暗褐色或は灰褐又は殆ど黑色, 幼時絨狀, 老時無毛, 甚だ罅裂す, 環溝あり, 緣は鈍圓, 肉は帶褐黃色, 有層, 厚さ 0.5—3 cm, 管孔は多層, 管長 1—5 mm, 孔口は暗黃乃至銹褐色, 圓形, 1 mm間5—6個, 孔壁は寧ろ厚くして全緣, 剛毛體なし, 胞子は類球形, 平滑, 黃褐色, 5—6×4—5 μ。

所在及産地

ヨコグラノキ (*Berchemiella*) クワ (*Morus*) 等の幹上

四國, 小笠原島—北南米. 濠. 阿. 亞(印. 錫. 支)

和名 オオメシマコブ〔方言〕

Phellinus yucatanensis (MURR.) IMAZ.

メシマコブ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6 : 105. 1943. (原, 日. 菌. 目. 249. 1954)

Pyropolyporus Yucatanensis MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30 : 119. 1903.

Fomes yucatensis SACC. et D. SACC. Syll. Fung. 17 : 116. 1905(err. typ.)—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 257. 1915—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2 : 200. 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:7. 1918—今關, 日. 隱. 植. 圖. 453, *pl. 217, f. 1*. 1939—逸見及赤井, 木. 腐. 菌學, 370, *f. 182*. 1945)

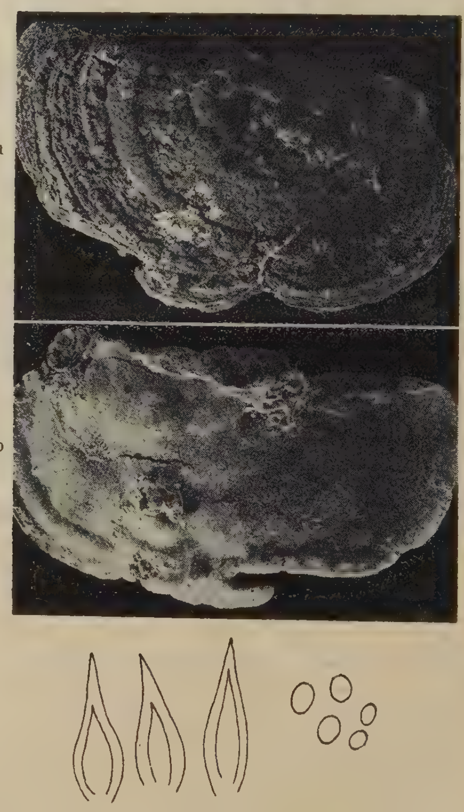
Fomes rimosus (non COOKE)

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28 : 268. 1901; 32 : 39. 1903—松村, 植. 名鑑, 1 : 144. 1904—白井, 日. 菌. 目. 36. 1905; ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 141. 1927—三宅, 蠶. 試. 報. 1(5):335. 1916—川村, 日. 菌. 圖說, *n. 53*. 1939—S.ITO & IMAI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 16 : 124. 1940)

子實體は無莖, 木質, 傘は半圓形にて略々蹄形,

a

b



c

第 270 圖 メシマコブ *P. yucatanensis*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×2/5
c. 剛毛體及胞子 ×544 (大谷氏)

横徑 6—12, 多くは 10cm 以下, 表面は殆ど黒色, 縱横に多くの罅裂を生じ, 短毛を被むり, 粗糙, 環溝あり, 緣邊鮮黄色を呈す, 肉は鮮黄或は褐黄色, 子實層托は多層, 實質は同色, 管長 2—4mm, 孔口は微細, 圓形, 黄色, 剛毛體は多生, 黄褐色, 楔形, 厚膜, 15—40×7.5—11μ, 胞子は類球形, 平滑, 淡黄褐色, 3—4μ。材の腐朽を起す。漢藥.

所在及産地

クワ (*Morus*) の生木上

本州, 九州, 小笠原島—北米.濠

和名 メシマコブ〔方言〕

Phellinus baumii PILÁT

エゾキコブタケ

PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:25, *pl.2, f.2, pl. 5, f.3, pl.8, f.3.* 1933; Ann. Myc. 38:79, *pl.4, f.1—2.* 1940; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:524, *pl. 342.* 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:56. 1941.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest. Exp. St. Tokyo, 42:4, *pl. 1, f. 3.* 1949—千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:33. 1952)

Fomes conchatus (non GILLET)

(LLOYD, Myc. Writ. 6:1012. 1920—安田, 植. 雜. 38:147. 1924)



第 271 圖　エゾキコブタケ *P. baumii*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×2/3
c. 剛毛體及胞子 ×612　（大谷氏）

子實體は多年生, 無莖, 傘は半圓形にて稍々蹄形, 或は貝殼狀, 3—8×4—10cm, 厚さ基部に近く 4.5cm, 表面は初め微絨毛ありて鈍き肉桂色, 後漸次暗色化し, 遂に殆ど灰黒色となり, 著しき縱横の龜裂及び多數の環溝を有するも殼皮なし, 緣は鈍緣或は截斷狀, 下面は無性帶にて緣取らる, 傘肉は黄褐色, 木質, 菌絲は黄褐色, 徑 3—3.5μ, 放射狀に走り, 先端斜上し暗色に硬化し炭質の僞殼を作る。子實層托は管孔狀, 多層, 肉と同色, 孔口は圓形, 微細, 1mm 間 8—10 個, 口緣は薄く, 全緣, 全面栗褐乃至帶紫黒褐色, 剛毛體は紡錘形, 15—21×5—6.5μ。胞子は類球形, 平滑, 淡褐色, 3—3.5×3μ。材の白腐を起す。

所在及産地

ハシドイ (*Syringa*) 生木上

北海道—亞(西比. 支. 滿)歐

和名 エゾキコブタケ (蝦夷木瘤茸)〔今關〕

Phellinus nigrolimitatus (ROM.) BOURD. et GALZ.

エゾノハスグサレタケ

BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:193. 1925; Hymen. Fr. 622. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 52:316, *f.20, pl.6, f.3.* 1936; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:544, *pl. 317 b, 318—9.* 1942—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39:56. 1941.

(千葉及寺本, 東. 大. 演. 林. 報. 43:33. 1952)

Polyporus nigrolimitatus ROM. Ark. Bot. 11(8):18, *pl. 1, f. 3.* 1911.

Fomes nigrolimitatus EGELAND, Nyt. Mag. 52:135. 1914—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18:380, *pl.38, f.2—3.* 1931—BAXTER, Pap. Mich. Acad. Sci. Arts Lett. 19:317, *pl.45.* 1933—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 79:9. 1948.

? *Fomes putearius* WEIR, Jour. Agr. Res. 2:163. 1914.

Cryptoderma nigrolimitatum IMAZ. et AOSH. Ann. Phytopath. Soc. Jap. 16:88. 1952.

子實體は半背着にて甚だ屢々全背着す，傘は 1—5×4—20×1—5cm，全背着の場合は 30×60cm に及ぶ，傘面は初め柔軟にて無環紋，密軟毛を有し，殼皮なし，老時木質となり，不明瞭なる環紋を有し，薄き脆き僞殼に被わる，初め淡栗褐色乃至栗褐色，老時蕋色或は殆ど黑色となる，緣は鋭或は鈍，細軟毛あり，栗褐色，下面無性，肉は柔軟にて海綿狀，帶赤栗褐色，厚さ 0.2—5cm，子實層托より約 1mm の部に幅 1mm 以下の黑き細線を有す，此線以下の肉は淡色なり，子實層托は有層，往々各層間に黑線を生ず，栗褐色乃至黑橙黃色，管長各季 0.2—2cm，孔口は圓形或は多角形，同色，1mm 間 4—6 個，孔壁薄し，剛毛體は多生，突錐形，栗褐色，幅 8—10 μ，35 μ 程抽出す。胞子は圓筒形或は長卵形，平滑，無色，6—8×2—3μ。材の白孔腐を起す。

所在及產地

エゾマツ (*Picea*) 等針葉樹上

北海道—歐·北米·濠·亞(西比)

和名 エゾノハスグサレタケ(蝦夷蓮腐茸)〔今關〕

Phellinus gilvoides (LLOYD) IMAZ.

ネンドタケモドキ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 104. 1943. (原，日．菌．目．248. 1954)

Trametes gilvoides LLOYD, Myc. Writ. 4: 520, *f. 516*. 1912; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 144. 1936—MURRILL, Mycologia, 12: 18. 1920—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 441. 1925.

子實體は殆ど全背着にて汚卵黃色，僅か出でたる傘面は剛直なる褐色剛毛に被わる，肉は同色，管孔口は小圓形，光澤あり，剛毛體は突錐形にて多生，胞子は球形，無色或は淡色，3×2.5μ。

所在及產地

カシワ (*Quercus*) 枝上 本州—北米

和名 ネンドタケモドキ (擬粘土茸)〔今關〕

Phellinus isabellinus (FR.) BOURD. et GALZ.

オオサビサルノコシカケ

BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 193. 1925; Hymen. Fr. 622. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 51: 373. 1935; Atl. Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 542, *pl. 339—40, f. 256*. 1942.

Trametes isabellina FR. Hymen. Eur. 585. 1874—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 355. 1888—BRESADOLA, Ann. Myc. 18: 62. 1920—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 363, *pl. 30, f. 1—2*. 1931.

Fomes tenuis KARST. Medd. Soc. Fauna Fl. Fenn. 14: 81. 1887—SACCARDO, Syll. Fung. 9: 175. 1891.

Polyporus tenuis ROMELL, Ark. Bot. 11(3): 24. 1911.

Trametes setosus WEIR, Jour. Agr. Res. 2: 164. 1914.

Polyporus setosus LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 350, *f. 686—7*. 1915; 7: 1300. 1924; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 121. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 368. 1925.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1296. 1924)

Trametes tenuis (sub KARSTEN)

LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 100. 1934—Auct. Amer.

Fuscoporia viticola (SCHW.) MURR.

オオサビアナタケ

MURRILL, N. Am. Fl. 9: 4. 1907—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 73: 6, *pl. 1, f. 4*. 1948.

Polyporus viticola SCHW. in FRIES, Elench. Fung. 1: 115. 1828—SCHWEINITZ, Trans. Am. Phil. Soc. II, 4: 158. 1832.

Poria viticola COOKE, Grev. 14: 114. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 329. 1888—OVERHOLTS, Mycologia, 15: 227, *f. 27—8, pl. 24, f. 4—5*. 1923.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68: 7. 1918—安田，植．雜．33: 262. 1919—白井，日．菌．目．ed. 3. 303. 1927—原，日．菌．目．284. 1954)

子實體は 1 年生或は多年生，多くは背着生にて着生物上に擴布し，初め圓形或は楕圓形，癒合して大形となる，堅緻にて剝離せず，基層は薄く，厚さ 0.3—0.6mm，鮮銹褐色，往々殊に幼時無性の狹き緣を有す，初め蕋色にて絨毛あり，老時無毛となる，熟後緣邊反轉し狹傘を作ることあり，傘は介殼狀乃至丸山形，革質乃至木質，0—1.5×1—10×0.1—0.6 cm，表面は赤褐色，老時褪色して灰黑色となる，絨狀綿毛を被むり，後多少無毛となり，環層あり，緣は多くは鋭く，淡色，下面無性，肉は黃褐乃至赤褐色，厚さ 0.5—1mm，菌絲は寧ろ薄膜，稀に分岐し，徑 2.5—3μ，管孔は無層，肉桂褐色乃至黃褐色，通常內部灰色，長さ背着は 1—2mm，有傘は 1—6mm，孔口は同色，圓形，長圓或は不正多角形乃至幾分波曲，壁は中位厚乃至薄く，殆ど全緣，1mm 間背着は 1—3，有傘は 2—4 個，擔子柄は 10—15×3—4μ，胞子は圓筒形，1 側僅か扁平，基端有嘴，平滑，無色，6—9×1.5—2μ，剛毛體は多生，紡錐狀突錐形，黃褐或は赤褐色，屢々頂に無色の粘滴を荷う，40—60×6—8μ，24—45μ 程抽出す。材の白腐を起す。

所在及產地

針葉及廣葉樹上

北海道，本州一歐·北米·濠·亞(西比)

和名 オオサビサルノコシカケ（大銹猿腰掛茸）〔有傘型〕，オオサビアナタケ（大銹孔茸）〔背着型，安田〕

〔**因記**〕背着のものの管孔は稍々大形に長さ短かきも移行形を有す。

Phellinus pomaceus (PERS.) QUÉL.

サクラノサルノコシカケ

QUÉLET, Enchir. Fung. 173. 1886—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 56. 1941.

Boletus fulvus SCOP. Fl. Carn. 2: 469. 1772. (non SCHAEFF. 1774)

Boletus pomaceus PERS. Obs. Myc. 2: 5. 1799—S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 642. 1821.

Boletus fomentarius ζ. B. pomaceus PERS. Syst. Meth. Fung. 538. 1801.

Polyporus igniarius b. *minor* FR. Syst. Myc. 1: 375. 1821.

Polyporus pomaceus PERS. Myc. Eur. 2: 84. 1825.

Polyporus pomaceus β. prunastri PERS. Myc. Eur. 2: 85. 1825.

Fomes fulvus GILL. Champ. Fr. 687. 1878—BRESADOLA, Hymen. Hung. Kmet. n. 38. 1897; Ann. Myc. 9: 426. 1911—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 999. 1916—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 383, *pl. 34, f. 4—6*. 1931.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28: 268. 1901; 32: 39. 1903—松村，植．名鑑，1: 143. 1904—白井，日．菌．目．35. 1905; ed. 2. 239. 1917; ed. 3. 183. 1927)

Placodes pomaceus QUÉL. Fl. Myc. 399. 1888.

Placodes fulvus QUÉL. Fl. Myc. 399. 1888. pr. p.

Polyporus fulvus PRILL. Malad. Pl. Agr. 1: 163. 1895.

(白井，日．菌．目．73. 1905; ed. 2. 475. 1917)

Pyropolyporus fulvus MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 30: 112. 1903; N. Am. Fl. 9: 103. 1908; North. Polyp. 48. 1914; South. Polyp. 49. 1915.

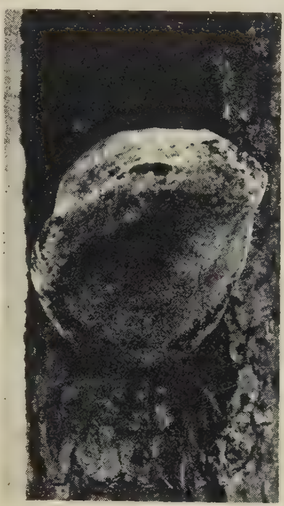
Fomes pomaceus BIGEARD et GUILLEMIN, Fl. Champ. Fr. 2: 355. 1913—LLOYD, Myc. Writ. 4, Fomes, 241, *f. 588*. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 86. 1936—REA, Brit. Basid. 594. 1922—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 118. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 6: 963. 1920—安田，植．雜．37: 202. 1923—白井，日．菌．目．ed. 3. 140. 1927—逸見，教育農藝，11: 1264, *pl. 2, f. 1—7*. 1942; 及赤井，木．腐．菌學，364, *f. 175—8*. 1945)

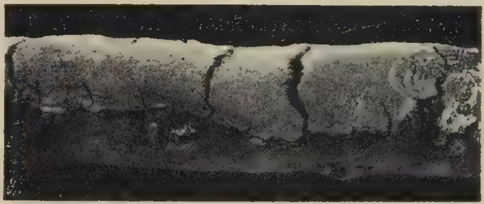
Phellinus fulvus et f. *Prunastri* BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 190, 191. 1925; Hymen. Fr. 619. 1928—PILÁT, Ann. Myc. 38: 80. 1940.

Fomes pomaceus f. *Prunastri* KONR. et MAUBL. Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 459*. 1927.

子實體は樹枝の下面に全背着すること多く，年々の成長によりて緣邊離れ不正形の傘を生じ，稀に完全に坐生し，外圍半圓形にて丸山形乃至蹄形の傘を作る，傘は木質，堅緻，0—3×2—10×0.5—5cm，



a



b



c

第 272 圖 サクラノサルノコシカケ *P. pomaceus*
a. 有傘子實體 ×2/3（龜井氏） b. 背着子實體 ×2/3
c. 胞子 ×612 （大谷氏）

表面は初め平滑，老時多少罅裂し，僞殼を有す，初め黃褐乃至灰褐色にて老時灰褐乃至黑褐色となり，大部分殆ど無毛なり，緣は鈍圓，有毛，黃褐色，罅裂せず，下面無性，肉は帶黃暗褐色にてキコブタケ (*P. igniarius*) とコブサルノコシカケ (*P. robustus*) の中間に位す。管孔は褐色，有層，各層 1—6 mm，古層のものは時に白色菌絲を塡充す，孔口は小，圓形，1 mm 間 4—5 個，灰褐色，孔壁寧ろ厚し，剛毛體は稀生，幅 6—8 μ，厚膜，褐色，鋭尖，12—16 μ

程抽出す。擔子柄は徑5.5—6.5μ，胞子は類球形乃至卵形，平滑，無色，5—6×4—5μ，材の褐腐を起す。

所在及産地

サクラ類（*Prunus*）樹幹上

北海道，本州—歐·北米·亜（支）

和名 サクラノサルノコシカケ

（櫻猿腰掛茸）〔安田〕

疑 問 種

（*Phellinus* 所屬）

Fomes densus LLOYD

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 67: 7. 1918)

Fomes rhaponticus LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44: 11. 1913; Fomes, 258. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 87. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 53: 8. 1914)

Polyporus setosus LLOYD

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1296, 1300. 1924)

Fomes longinquus LLOYD, Myc. Writ. 7: 1335, *f. 3081*. 1925; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 83. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1296. 1924)

Phaeolus PAT. emend. MURR.

カイメンタケ屬

PATOUILLARD, Ess. Tax. 86. 1900. pr.p.—MURRILL, N. Am. Fl. 9: 90. 1908.

Hapalopilus KARSTEN, sensu DONK. Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 171. 1933. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Polystictus FRIES, sensu KARSTEN, Hattsv. 2: 67. 1882. pr. p.

子實體は1年生にて短命，無莖或は不完全なる莖を有す，傘は扁平，疊生，表面は多毛，無皮，肉は海綿狀肉質，乾時著しく脆弱，黃褐色，子實層托は管孔狀，1層，孔口は中或は稍々大形，類圓形なるも崩れ易し，剛毛體なし，胞子は無色，平滑，樹上生。

（本屬名は phaios（薄黑き）より出づ）

基準種 *P. Schweinitzii* (FR.) PAT.

〔因 記〕 本屬は白色系菌 *Hapalopilus* と對立する輕疎海綿質の黃褐色系菌なり。

本邦既知種

カイメンタケ ***P. schweinitzii*** (380)

Phaeolus schweinitzii (FR.) PAT.

カイメンタケ

PATOUILLARD, Ess. Tax. 86. 1900—AMES, Ann. Myc. 11: 241. 1913—GILLBERT, Bull. Soc. Myc. Fr. 40: 209, *pl. 10*. 1924—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 134. 1925; Hymen. Fr. 554. 1928—KONRAD & MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 433*. 1925—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 12. 1932; 49: 261. 1933; Beih. Bot. Centralbl. 52B: 76, *f.9*, *pl.14*. 1935; Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1: 153, *pl. 69—70a*. 1937.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 108. 1943—千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. 43: 33. 1952—原，日. 菌. 目. 246. 1954)

Boletus sistotremoides ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 243. 1805.

Sistotrema spadicea SWARTZ, Act. Acad. Holm. 238. 1810.

Polyporus Schweinitzii FR. Syst. Myc. 1: 351. 1821; Epicr. Myc. 433. 1838; Hymen. Eur. 529. 1874—CORDA, Icon. Fung. 5: 83, *pl.10*, *f.88*. 1842—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 433. 1844—BERKELEY, Outl. Brit. Fung. 238. 1860—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1: 264. 1871; Grev. 13: 82. 1885; Handb. Austr. Fungi, 114. 1892—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1: 267. 1872—GILLET, Champ. Fr. 664, cum icone. 1874—WINTER, Pilze, 1: 448. 1884—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 76. 1888—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 231. 1892; Brit. Fungi, 367. 1911—W.G.SMITH, Brit. Basid. 337. 1908—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 1: 13, *f. 208*. 1908; Stip. Polyp. 159. 1912—NEUMAN, Polyp. Wisc. 112, *pl. 14*, *f. 50*. 1914—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 120. 1914—REA, Brit. Basid. 582. 1922—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 347, *pl. 25*, *f. 1—2*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 46. 1934—CLELAND, Toadst. Mushr. S. Austr. 2: 210. 1935.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 15. 1912; 5, Lett. 66: 7. 1917—安田，植. 雜. 31: 56. 1917—金平，臺. 博. 報. 36: 88. 1918—北島，林. 試. 報. 28: 14, *pl. 1*, *f.7*, *pl.7*, *f.11*. 1928—逸見，病蟲. 雜. 15: 4, 78. 1928; 日. 學術協. 報. 7: 408. 1932; Mem. Coll. Agr. Kyoto Imp. Univ. 20: 18. 1932; 植. 動. 3: 307. 1935; 及赤井，木. 腐. 菌學, 305, *f. 117—9*. 1945—澤田，臺. 菌. 調. 報. 5: 71. 1931—永友，植. 病. 研究, 1: 192. 1931; 鹿兒. 高. 農. 記念論文集, 前篇, 325. 1934—今關，日. 隱. 植. 圖. 443, *pl. 212*, *f. 1—2*. 1939.

Daedalea epigaea LENZ, Schwämme, 62, 1831.

Polyporus tabulaeformis BERK. Lond. Jour. Bot. 4: 302. 1845—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 76. 1888—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 114. 1892.

Polyporus spectabilis FR. Nov. Symb. Myc. 32. 1851.

Polyporus spongia FR. Monogr. Hymen. Suec. 2: 268, *pl. 172*. 1863.

Polyporus mollis HARTIG, Zersetz. Holzes, 49.

1878. (non FRIES)

Polyporus hispidoides PECK, Rep. N.Y. St. Mus. 33: 21. 1880—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 129. 1888.

Polystictus Schweinitzii KARST. Rev. Myc. 3(9): 18. 1881; Hattsv. 2: 68. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 326. 1889.

Polyporus Schweinitzii var. *tabulaeformis* COOKE, Grev. 13: 82. 1885.

Cladomeris Schweinitzii QUÉL. Enchir. Fung. 169. 1886.

Inodermus Schweinitzii QUÉL. Fl. Myc. 394. 1888.

Ochroporus sistotremoides SCHROET. Pilze Schles. 1: 488. 1888.

Romellia sistotremoides MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31: 339. 1904.

Phaeolus sistotremoides MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 32: 363. 1905; N. Am. Fl. 9: 90. 1908; North. Polyp. 40. 1914; South. Polyp. 41. 1915.

Polyporus sistotremoides LAFER, Handb. Tech. Myk. 3: 295, *f. 47*. 1906—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 216. 1912—SACCARDO, Fl. Ital. Crypt. Hymen. 956. 1916.

(P. HENNINGS, Bot. Jahrb. 28: 268. 1901—松村, 植. 名鑑, 1: 164. 1904—白井, 日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 481. 1917; ed. 3. 295. 1927—安田, 植. 雜. 26: 361. 1912)

Hapalopilus Schweinitzii DONK, Med. Bot. Mus. Utrecht, 9: 173. 1933.

Coltricia Schweinitzii CUNNINGH. Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 77: 7. 1948.

子實體は有莖或は無莖, 生時海綿狀或は柔木栓質, 堅緻, 剛直, 時に乾時脆し, 傘は外圍圓形乃至半圓形, 丸山形, 中窩を有し更に漏斗形に及ぶ, 徑 5—20—50 cm, 厚さ 0.5—2(4) cm, 傘面は無環紋或は有環紋, 長剛毛乃至細密硬毛ありて鱗片層をなす, 平坦, 有孔, 細皺或は有粒, 栗褐色, 栗毛或は帶黑色を呈す, 傘緣は同色或は汚卵黄色, 屢々細微の絨毛を有す, 薄くして鋭く, 乾時內屈す, 下面無性, 肉は柔海綿狀, 乾時脆し, 有層, 厚さ 0.2—3(6) cm, 黄褐色乃至栗褐色, 子實層托は莖に垂下し, 長さ 2—8 mm, 淡橙黄色, 老時變色し傘面と同色となる, 孔口は管孔と同色, 不規則にて不等大, 1 mm 間平均 1—3 個, 孔壁は厚さ 120—150 μ, 老時齒狀, 時に崩れて甚だ大形の孔となる。莖は中心生, 偏心生, 側生或はこれを缺く, 1—6×1—4 cm, 傘と同色, 同質, 胞子は卵狀楕圓形, 平滑, 無色, 6—8×4—5 μ, 嚢狀體は時に存することあり, 長圓筒形或は棍棒形, 黄褐色, 幅 8—10 μ, 60 μ 程抽出す。材の褐腐を起す、

所在及産地

主に針葉樹生木, 枯木, 倒木, 株, 根上

全土—歐. 北米. 濠. 亜(小亜. 印. 西比)

和名 カイメンタケ (海綿茸)



a



b



c

第 273 圖 カイメンタケ *P. schweinitzii*
a. 子實體表面 (龜井氏) b. 同裏面 ×3/5
c. 胞子 ×612 (大谷氏)

Coltricia MICHELI ex S. F. GRAY
オツネンタケ屬

S.F.GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 644. 1821.

Coltriciella MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31: 348. 1904.

Fomes sensu KONRAD et MAUBLANC, Icon. Sel. Fung. 6: 486. 1937. pr. p.

Mucronoporus ELLIS et EVERHART, Jour. Myc. 5: 28. 1889. pr. p.

Polystictus FRIES, sensu KARSTEN, Hattsv. 2: 67. 1882. pr. p.

Strilia MICHELI ex S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 645. 1821.

Xanthochrous PATOUILLARD, Cat. Tun. 51. 1897. pr. p.

子實體は1年生，有莖，莖は中心生或は側生，時に背着生，傘は薄く，圓形，箆形或は點頭形，表面は無皮，絹毛を帶びるか或は殆ど無毛，肉は纖維質或は稍々革質，黃褐色，子實層托は管孔狀，1層，孔口は類圓形或は多角形，中形，孔壁は屢々不齊淺裂す，剛毛體なし，胞子は無色或は黃褐色，平滑，地上生又は樹上生。

（本屬名は col-（共に）tricae（毛）より出づるか）

基準種　*C. perennis* (FR.) MURR.

〔因 記〕本屬は狹義に於ける "*Polystictus*" 屬にて，已に述べしが如く "*Polystictus*" 屬が餘りにも不純に慣用せられたるにより本屬名を採用されたるものなり。

本邦既知種檢索表

A. 莖は中心生。

a. 孔口は多角形。

α. 傘面肉桂色乃至銹褐色，絹絲樣の强き光澤あり。　ニクケイタケ ***C. cinnamomea*** (382)

β. 傘面栗褐色乃至灰褐色，光澤なし。　オツネンタケ ***C. perennis*** (383)

b. 子實層托は同心環褶。　ウズタケ ***C. greenii*** (384)

B. 莖は傘背の中央に生じ，子實體は點頭懸垂す。　ヒメカイメンタケ ***C. dependens*** (384)

Coltricia cinnamomea (JACQ. ex FR.) MURR.

ニクケイタケ

MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 31: 343. 1904; N. Am. Fl. 9: 91. 1908; North. Polyp. 41. 1914; South. Polyp. 43. 1915—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 77: 5, *pl. 1*, *f. 2*. 1948.

(MURRILL, Mycologia, 1: 164. 1909—IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 109. 1943; 及土岐，林. 試. 硏. 報. 67: 25. 1954—原，日. 菌. 目. 42, 84. 1954)

Boletus cinnamomeus JACQ. Collect. 1: 116, *pl. 2*. 1786—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 515. 1908.

Strilia cinnamomea S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1: 645. 1821.

Polyporus parvulus KLOTZ. Linn. 8: 483. 1833.

Polyporus cinnamomeus FRIES, Epicr. Myc. 468. 1838—W. G. SMITH, Brit. Basid. 338. 1908—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1: 123. 1914—REA. Brit. Basid. 575. 1922—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Gard. 18: 354, *pl. 24*, *f. 3*. 1931—LOWE, Bull. N. Y. St. Coll. For. 6, 1b: 45. 1934.

（梅村，植. 雜. 28: 196. 1914）

Polyporus splendens PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 26: 68. 1874.

Polystictus cinnamomeus SACC. Michel. 1: 362. 1878; Syll. Fung. 6: 210. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1025. 1916—COOKE, Handb. Austr. Fungi, 138. 1892—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1: 211. 1892; Brit. Fungi, 380. 1911—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 1: 6, *f. 200*. 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 229. 1912—BRESADOLA, Ann. Myc. 10: 502. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 245. 1931—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 57. 1941.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 15. 1912; 5, Lett. 63: 8. 1916; 7: 1126. 1922—安田，植. 雜. 26: 419. 1912; 31: 59. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 298. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 459, *pl. 220*, *f. 1—2*. 1939)

Polyporus subsericeus PECK, Rep. N. Y. St. Mus. 33: 37. 1880.

Polystictus oblectans (non COOKE)

(P. HENNINGS, in ENGLER. & PRANTL, Nat. Pfl.-fam. 1, 1**: 178. 1898—松村，植. 名鑑，1: 164. 1904)

Xanthochrous cinnamomeus PAT. Ess. Tax. 100. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 196. 1925; Hymen. Fr. 630. 1928.

Xanthochrous splendens PAT. Ess. Tax. 100. 1900.

Xanthochrous palvulus PAT. Ess. Tax. 100. 1900.

Polystictus subsericeus NEUMAN, Polyp. Wisc. 59. 1914.

子實體は有莖，群生，往々癒合し，革質，撓曲性，傘は圓形にて丸山形或は中窩あり，徑 1—4cm，厚さ1—3mm，表面は環紋を有し，放射狀に壓着せる細密軟毛乃至纖維を被むり，絹絲狀の强き光澤あり，鮮肉桂色乃至銹褐色，緣は薄く銳し，波狀或は僅か淺裂し，往々房毛を有す，下面時に無性，肉は厚さ 1mm 以下，同色，莖は中心生，天鵞絨狀，傘面と同色，往々上部廣く附着し，扁平にて分岐す，中實，基端屢々球根狀，1—4×0.1—0.5cm，管孔は莖に直生或は僅か垂生，長さ 1—2mm，帶赤肉桂色乃至銹色，孔口は多角形，1mm 間 2—3 個，管孔と同色，孔壁は齒裂し，口に向つて狹細す，胞子は長楕圓形，平滑，淡黃褐色，6—7×5—5.5μ，囊狀體及剛毛體なし。

所在及產地　針葉樹林地上

全土一歐. 南北米. 濠. 亞(爪. 支. 印)

和名　ニツケイタケ（肉桂茸）〔安田〕

Coltricia perennis (L. ex FR.) MURR.

オツネンタケ

MURRILL, Jour. Mycol. 9:91. 1903; N. Am. Fl. 9:92. 1908; Nroth. Polyp. 41. 1914; South. Polyp. 43. 1915—CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 77:5, *pl. 3, f. 1.* 1948.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:109. 1943—原, 日. 菌. 目. 42, 84. 1954)

Boletus perennis L. Sp. Plant. 2:1177. 1753—SOWERBY, Col. Fig. Engl. Fungi, 2: *pl. 192.* 1799—PERSOON, Syn. Meth. Fung. 518. 1801—NEES, Syst. Pilze Schw. 219, *f. 212.* 1817.

Boletus coriaceus SCOP. Fl. Carn. 2:465. 1772.

Boletus subtomentosa BOLT. Hist. Fung. 2:87, *pl. 87.* 1788.

Boletus confluens SCHUM. Enum. Pl. Saell. 2:378. 1803.

Polyporus perennis FR. Syst. Myc. 1:350. 1821; Epicr. Myc. 434. 1838; Hymen. Eur. 531. 1874—PERSOON, Myc. Eur. 2:45. 1825—BERKELEY, Engl. Fl. 5(2): 136. 1836; Outl. Brit. Fung. 238. 1860—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1:433. 1844—COOKE, Handb. Brit. Fungi, 1:264. 1871—QUÉLET, Champ. Jura Vosg. 1:269, *pl. 17, f. 3.* 1872—GILLET, Champ. Fr. 663. 1874—KARSTEN, Myc. Fenn. 3:251. 1876—WINTER, Pilze, 1:446. 1884—W. G. SMITH, Brit. Basid. 338. 1908—ROLLAND, Atl. Champ. 81, *pl. 89, n. 197.* 1910—OVERHOLTS, Ann. Missouri Bot. Gard. 1:122. 1914—REA, Brit. Basid. 375. 1922—BRESADOLA, Icon. Myc. 20: *pl. 959.* 1931—SHOPE, Ann. Missouri Bot. Grad. 18:353, *pl. 26, f. 3.* 1931.

Coltricia connata S. F. GRAY, Nat. Arr. Brit. Pl. 1:644. 1821.

Trametes perennis KICKX, Fl. Crypt. Flandr. 2:219. 1867—FUCKEL, Symb. Myc. 21. 1869.

Polystictus perennis KARST. Rev. Myc. 3(9): 18. 1881; Hattsv. 2:67. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 326. 1889—COOKE, Grev. 14:77. 1886; Handb. Austr. Fungi, 138. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6:210. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1026. 1916—MASSEE, Brit. Fung. Fl. 1:211. 1892; Brit. Fungi, 380. 1911—ATKINSON, Mushrooms, ed. 2. 192, *f. 187.* 1903—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 1:7, *f. 201, 204.* 1908; Stip. Polyp. 164. 1912; 6:909, *f. 1608—9.* 1920—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, 2(1): 229, *pl. 34 B, f. 3.* 1912—AMES, Ann. Myc. 11:245. 1913—NEUMAN, Polyp. Wisc. 60. 1914—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 57. 1941—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. 1:579, *pl. 370 a, 371.* 1942.

(LLOYD, Myc. Writ. 3, Lett. 38:10. 1911—安田, 植. 雜. 26:20. 1912; 31:59. 1917—白井, 日. 菌. 目. ed. 2. 489. 1917; ed. 3. 300. 1927—川村, 日. 菌. 圖說, *n. 27.* 1929—MATSUURA & KANADA, Trans. Tottori Soc. Agr. Sci. 3:110. 1931)

Pelloporus perennis QUÉL. Enchir. Fung. 166. 1886; Fl. Myc. 401. 1888—PATOUILLARD, Hymen. Eur. 143. 1887.

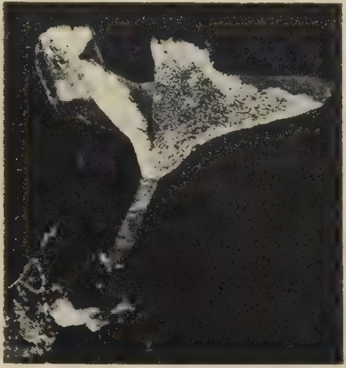
Ochroporus perennis SCHROET. Pilze Schles. 1:488. 1888.

Microporus perennis KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 494. 1898.

Xanthochrous perennis PAT. Ess. Tax. 100, *f. 56, 1.* 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. 41:195. 1925; Hymen. Fr. 630. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48:27. 1932; 52:318. 1936.

Fomes perennis KONR. et MAUBL. Icon. Sel. Fung. 5: *pl. 456.* 1935.

子實體は有莖，群生，往々癒着す，革質，乾時剛直，傘は圓形にて丸山形，或は中窩あり，徑 1—6 cm，厚さ 1—6 mm，傘面に環紋あり，細密軟毛を被むり，往々環紋は無毛なり，栗褐色，時に淡色となり灰褐色を呈す，緣は薄く鋭し，平坦，波狀或は淺裂し，往々房毛あり，時に下面無性，肉は厚さ 1 mm 以下，傘面と同色，莖は中心生，天鵞絨狀，普通傘と同色，往々上部廣くなりて附着し，時に扁平にて分岐するも多くは圓柱狀にて分岐せず，中實，屢々基端球根狀，2—7×0.3—0.7 cm，管孔は莖に直生或は垂生し，長さ 1—4 mm，內部灰色，孔口は多角形，1 mm 間 2—3 個，老時不規則となる，灕色，褐色乃至肉桂色，孔壁は齒裂し，口に向つて狹細す，



a



b

第 274 圖 オツネンタケ *C. perennis*

a. 子實體 ×1 b. 胞子 ×612 (大谷氏)

胞子は長楕圓形，平滑，黄褐色，8—10×4—5μ，嚢狀體及剛毛體なし。

所在及産地

林地，燒土上　全土—歐·北米·濠·亜(西比)

和名 オツネンタケ（越年茸）〔安田〕

Coltricia greenii (BERK.) IMAZ.

ウズタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 109. 1943; & TOKI, Bull. Gov. For. Exp. St. 67: 25. 1954.

(原，日．菌．目. 42, 84. 1954)

Cyclomyces Greenii BERK. Lond. Jour. Bot. 4: 306, *pl. 11.* 1845—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 390. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3: 488, *f. 380, 382.* 1910—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 109. 1934.

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63: 9. 1916; 633, *f. 902.* 1917—安田，植．雜. 30: 125. 1916; 31: 62. 1917—白井，日．菌．目. ed. 2. 187. 1917; ed. 3. 112. 1927—今關，日．隱．植．圖. 485, *pl. 233, f. 4.* 1939)

Cycloporus Greenei MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31: 424. 1904; N. Am. Fl. 9: 131. 1908; North. Polyp. 59. 1914; South. Polyp. 60. 1915—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. 39: 57. 1941.

Xanthochrous Greenii PAT. Ess. Tax. 100. 1900.

Polyporus Greenii LLOYD, Myc. Writ. 5: 843, *f. 1410.* 1919; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 106. 1936—YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 33: 141, *f. 3.* 1919—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 371. 1925.

Polystictus greenii AMES, Ann. Myc. 11: 245. 1913.

Polyporus montagnei var. *greenei* GILBERTSON, Mycologia, 46: 232, *f. 7—9.* 1954.

傘は圓形にて倒圓錐形乃至扁平，稀に叢生し，幅 5—10 cm，厚さ中心部に於て 5—10 mm，縁に向つて漸薄す，表面は波狀を呈し，環紋あり，有毛乃至平滑，光澤あり，銹褐色を呈す，緣は波狀をなし，薄し，肉は海綿質にて脆弱，層を有し，銹色乃至黄褐色，莖は中心生，上部太く，不正，有毛，3—8×1.5—2 cm，子實層托は同心的に多數の褶を生ず，褶は波狀に屈曲し，深さ 5—8 mm，相互間 1—2 mm，薄く，老時裂ける。尙この褶は互に連結し網狀となることあり，胞子は卵形，平滑，淡黄褐色，9—12×5—6μ。

所在及産地

地上　本州—亜(支)北米

和名 ウズタケ（渦茸）〔安田〕，
アミウズタケ（網渦茸）〔安田〕

Coltricia dependens (BERK. et CURT.) CUNNINGH.

ヒメカイメンタケ

CUNNINGHAM, Dep. Sci. Ind. Res. Pl. Dis. Div. Bull. 77: 2, *pl. 1, f. 1.* 1948.

(IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 109. 1943—原，日．菌．目. 42, 84. 1954)

Polyporus dependens BERK. et CURT. Ann. Nat. Hist. II, 12: 431. 1853—LOWE, Bull. N.Y. St. Coll. For. 6, 1b: 43. 1934.

Polystictus dependens COOKE, Grev. 14: 78. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 213. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Polyp. Iss. 1: 12, *f. 207.* 1908; Stip. Polyp. 165. 1912—AMES, Ann. Myc. 11: 245. 1913.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 54: 3, 5. 1915—安田，植．雜. 29: 236. 1915; 31: 59. 1917—白井，日．菌．目. ed. 2. 487. 1917; ed. 3. 298. 1927—今關，日．隱．植．圖. 459, *pl. 220, f. 3.* 1939—原，日．菌．目. 282. 1954)

Microporus dependens KUNTZE, Rev. Gen. Pl. 3(2): 496. 1898.

Coltriciella dependens MURR. Bull. Torr. Bot. Club, 31: 348. 1904; N. Am. Fl. 9: 91. 1908; North. Polyp. 40. 1914; South. Polyp. 42. 1915.

子實體は群生或は叢生し，多數重疊し，時に癒着す，上背面に短莖を有し，材面より懸垂し蜂巣狀を呈す，傘は甚だ小形にて圓錐狀をなし，徑 0.5—2.5 cm，表面は肉桂色乃至銹褐色を呈し，柔軟，微細なる密毛を被むり，或は殆ど平滑，長縱線を有し，稍々環紋あり，緣は鋭くして纖維あり，肉は極めて薄く，1—2 mm，海綿質，銹褐色，子實層托は長く 3—8 mm，黄褐色，孔口は中等大，多角形，1 mm 間 1—2 個，緣に近き部分のものは小形，口緣は薄くして齒狀，黄色乃至黄褐色，莖は中心生にて傘背に附着し，圓筒形，傘に向つて漸次太く，長さ約 1 cm，幅 1—3 mm，表面及び肉質は傘に等し，稀に無莖のことあり，胞子は楕圓形，黄褐色，平滑，7—8×4—5μ。

所在及産地

枯腐木上　本州，四國，九州—北米·阿

和名 ヒメカイメンタケ（姬海綿茸）〔安田〕

Onnia KARST.

ニセカイメンタケ屬

KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 326. 1889.

Phelloporus QUÉLET, Enchir. Fung. 166. 1886. pr. p.

Phaeolopis MURRILL, Bull. Torr. Bot. Club, 32: 489. 1905.

Xanthochrous PATOUILLARD, Cat. Tun. 51. 1897.

pr. p. —BOURDOT & GALZIN, Hymen. Fr. 628. 1927. pr. p.

Polyporus FRIES, Auct. plur. pr. p.

Polystictus FRIES, Auct. plur. pr. p.

子實體は1年生或は多年生，有莖，莖は中心生又は側生，傘は圓形，扇形或は腎臓形，扁平，表面は細密毛を被むる，毛被は通常薄く緻密なるも時に厚く輕疎なり，下殼は槪して明瞭，傘面より深く肉眼にて黑色の薄線として認めらるるも原始的のものは只傘肉が2重なるが如き觀を呈し，その上部卽ち毛被は走向及密度によりて肉と區別さる，肉は堅き木栓質或は木質，黃褐色，子實層托は管孔狀，1層或は部分的に再生し多層となる，孔口は細小，圓形，剛毛體は屢々存在す。胞子は無色或は黃褐色，平滑，樹上生。

（本屬名は ONNI KARSTEN の名より出づ）

基準種 *O. tomentosa* (FR.) KARST.

〔因 記〕 本屬は剛毛體の存在のみならず，下殼の存在，傘肉の質によりて前屬 *Coltricia* より明かに區分さる。

本邦既知種檢索表

A. 胞子有色，剛毛體あり。

a. 中心莖を有す。傘面淡黃褐乃至黃褐色，絨狀，管孔面灰赭褐色。

ニセカイメンタケ ***O. tomentosa*** (385)

b. 側莖を有す。傘面黃褐乃至黑褐色，絨狀，管孔面灰黃白色。

α. 胞子廣楕圓形， 7.5—10×7—10μ， 剛毛體 50—74×10—19μ。

トウヒカワラタケ ***O. triqueter*** (386)

β. 胞子卵圓乃至核子形，5—7×3.5—4μ，剛毛體 39—67×10—14.5μ。

エゾカワラタケ ***O. subpertusa*** (386)

B. 胞子無色。

a. 剛毛體あり，中心莖を有す。傘面銹褐色，絨狀，管孔面銹褐或は暗褐色。

アズマタケ ***O. orientalis*** (387)

b. 剛毛體なし，側莖を有す。

α. 傘面黃褐乃至暗褐色，緣邊鮮黃色，絨狀，管孔面鮮黃色。 サジタケ ***O. cumingii*** (387)

β. 傘面褐色，微毛あり，管孔面暗褐色。

シヤクシタケ ***O. scaurus*** (388)

Onnia tomentosa (FR.) KARST.

ニセカイメンタケ

KARSTEN, Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 326. 1889. (IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. **6**: 110, *pl. 3, f. 3.* 1943 —千葉及寺本，東. 大. 演. 林. 報. **43**: 33. 1952—原，日. 菌. 目. 231. 1954)

Polyporus tomentosus FR. Syst. Myc. **1**: 351. 1821; Epicr. Myc. 434. 1838; Hymen. Eur. 530. 1874—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. **1**: 433. 1844 —GILLET, Champ. Fr. 664. 1874—WINTER, Pilze, **1**: 447. 1884—W. G. SMITH, Brit. Basid. 337. 1908 —LLOYD, Myc. Writ. **3**, Stip. Polyp. 160. 1912— NEUMAN, Polyp. Wisc. 111. 1914—REA, Brit. Basid. 574. 1922.

Polyporus rufescens ROSTK. in STURM, Deut. Fl. **4**: 17, *pl. 7.* 1828.

Trametes tomentosus FR. Summa Veg. Scand. 323. 1845—KICKX, Fl. Crypt. Flandr. **2**: 219. 1867.

Polystictus tomentosus KARST. Hattsv. **2**: 67. 1882—COOKE, Grev. **14**: 77. 1886; Handb. Austr. Fungi, 139. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. **6**: 208. 1888; Fl. Ital. Crypt. Hymen. 1024. 1916—LLOYD, Myc. Writ. **3**, Polyp. Iss. **1**: 2, *f. 197.* 1908—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze, **2**(1): 230. 1912—AMES, Ann. Myc. **11**: 245. 1913—BONDARZEW & SINGER, Ann. Myc. **39**: 57. 1941—PILÁT, Atlas Champ. Eur. 3, Polyp. **1**: 583, *pl. 370 b, 372.* 1942. (山野，日. 林. 會. 誌. **15**: 463, *f. 1—2, pl. 1.* 1933 —逸見及赤井，木. 腐. 菌學，334, *f. 146.* 1945)

Pelloporus tomentosus QUÉL. Enchir. Fung. 166. 1886.

Mucronoporus tomentosus ELL. et EV. Jour. Myc. **5**: 28. 1889.

Xanthochrous tomentosus PAT. Cat. Tun. 52. 1897; Ess. Tax. 100. 1900—BOURDOT & GALZIN, Bull. Soc. Myc. Fr. **41**: 196. 1925; Hymen. Fr. 630. 1928.

Coltricia tomentosa MURR. Bull. Torr. Bot. Club, **31**: 346. 1904; N. Am. Fl. **9**: 93. 1908; North. Polyp. 42. 1914; South. Polyp. 44. 1915.

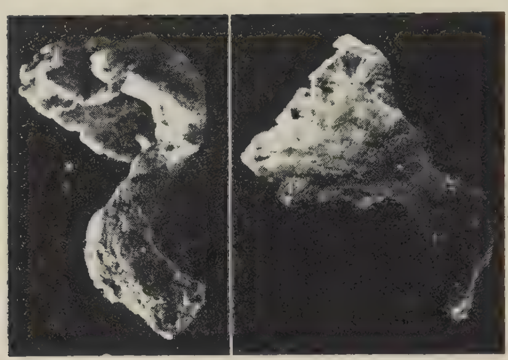
Polyporus circinatus

(安田，植. 雜. **34**: 214. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 289. 1927)

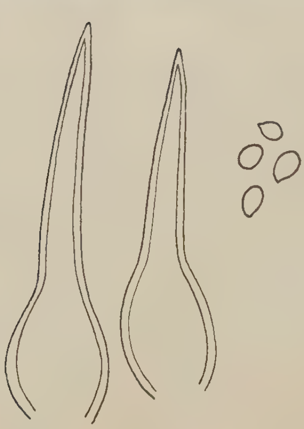
Polystictus circinatus

(原，日. 菌. 目. 282. 1954)

子實體は有莖，傘は不規則なる扇形，半圓形又は圓形にて扁平或は凹入，徑6—12cm，厚さ3—5mm，往々疊生す，表面は淡黃褐色乃至黃褐色の絨毛に蔽われ，無環紋，稀に稍々環紋あり，褶曲ありて平滑ならず，緣は淡色，銳く，全緣乃至淺裂，下面無性，肉は淡黃乃至淡黃褐色，韌皮狀木栓質，莖は中心乃至偏心生，或は缺如，不等大，肥厚，黃褐色の絨毛あり，長さ 7cm に及ぶ，子實層托は往々莖上に垂下し，管長約 1mm，灰褐色，孔口は小，角形，1mm 間 3—5 個，初め淡黃白色の皮膜に被わる，孔緣は



a



b

第 275 圖　ニセカイメンタケ *O. tomentosa*

a. 子實體 ×1　　b. 剛毛體及胞子 ×544（大谷氏）

白色，全緣灰赭褐色，甚だ薄し，老時齒裂す。剛毛體は多生，初め卵狀披針形，後細長となり，赤褐色，42×9.5 μ，胞子は卵形，小嘴あり，平滑，淡褐色，5—7×2—4 μ，平均 5.5×3.5 μ，根の白斑腐を起す。

所在及產地

エゾマツ（*Picea*）トドマツ（*Abies*）等の根上

北海道—歐．北米．亞（樺）

和名 ニセカイメンタケ（似非海綿茸）〔山野〕

Onnia triqueter (ALB. et SCHW. ex FR.) IMAZ.

トウヒカワラタケ

Boletus triqueter ALB. et SCHW. Consp. Fung. Lusat. 248. 1805—SECRETAN, Myc. Suisse, n. 18. 1833.

Polyporus triqueter FR. Epicr. Myc. 474. 1838; Hymen. Eur. 565. 1874. (non PERS.)—RABENHORST, Deut. Krypt. Fl. 1: 421. 1844—WINTER, Pilze, 1: 418. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 4, Apus Polyp. 353. 1915.

Polystictus triqueter COOKE, Grev. 14: 82. 1886; Handb. Austr. Fungi, 137. 1892—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 248. 1888—MIGULA, Krypt. Fl. 3, Pilze 2(1): 228. 1912.

（山野，日．林學會誌，17: 654, *f. 1, 3, pl. 1, f. 4, 6—7*. 1935—逸見及赤井，木．腐．菌學，336. 1945）

Inonotus triqueter KARST. Hattsv. 2: 73. 1882; Krit. Oefv. Finl. Basidsv. 331. 1889.

Ochroporus triqueter SCHROET. Pilze Schles. 1: 485. 1888.

Polystictus circinatus var. *triqueter* BRES. Ann Myc. 1: 75. 1903.

Xanthochrous circinatus var. *triqueter* BOURD. et GALZ. Bull. Soc. Myc. Fr. 41: 198. 1925; Hymen. Fr. 632. 1928—PILÁT, Bull. Soc. Myc. Fr. 48: 27. 1932; 51: 376. 1935.

子實體は革質，短側莖を有し，孤生或は疊生，傘は半圓形乃至腎臟形，3—4×4—6×0.7—1 cm，表面は黃褐色乃至黑褐色，厚き絨毛を被むり，環層あり，下殼を有し，緣は薄く，銳し，管孔面は灰黃白色，管長 0.5—0.8 cm，孔口は小，圓形，胞子は廣楕圓形，平滑，淡黃褐色，7.5—10×7—10 μ，剛毛體は黑褐色，基部太く，尖端屈曲鉤狀，50—74×10—19 μ，材の白腐を起す。

所在及產地

エゾマツ（*Picea*）の樹幹上

北海道—歐．亞（西比）

和名 トウヒカワラタケ（唐檜瓦茸）〔山野〕

Onnia subpertusa (LLOYD) IMAZ.

エゾカワラタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 110. 1943.（原，日．菌．目．231. 1954）

Polyporus subpertusus LLOYD in herb. STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 122. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1126. 1922—龜井，札．農林．報．22: 1931)

Polystictus subpertusus YAMANO，日．林學會誌，17: 655, *f. 2, 4, pl. 1, f. 1—3, 5*. 1935.

（逸見及赤井，木．腐．菌學，337, *f. 147*. 1945—原，日．菌．目．283. 1954）

子實體は革質，短側莖を有し，孤生或は疊生，傘は半圓形乃至腎臟形，4—7×5—12×0.7—1 cm，表面は黃褐色乃至黑褐色，厚き絨毛を被むり，環層あり，下殼を有す，緣は薄く，銳し，管孔面は灰黃白色，管長 0.4—0.6 cm，孔口は小，圓形，時に不規則なる大形のものを混ず，胞子は卵圓形乃至核子形，小嘴あり，平滑，淡黃褐色，5—7×3.5—4 μ，剛毛體

は黒褐色，基部太く，尖端屈曲鉤状，39—67×10—14.5μ，材の白腐を起す。

所在及産地

エゾマツ (*Picea*)，トドマツ (*Abies*) の樹幹上
北海道

和名 エゾカワラタケ（蝦夷瓦茸）〔山野〕

Onnia orientalis (LLOYD) IMAZ.

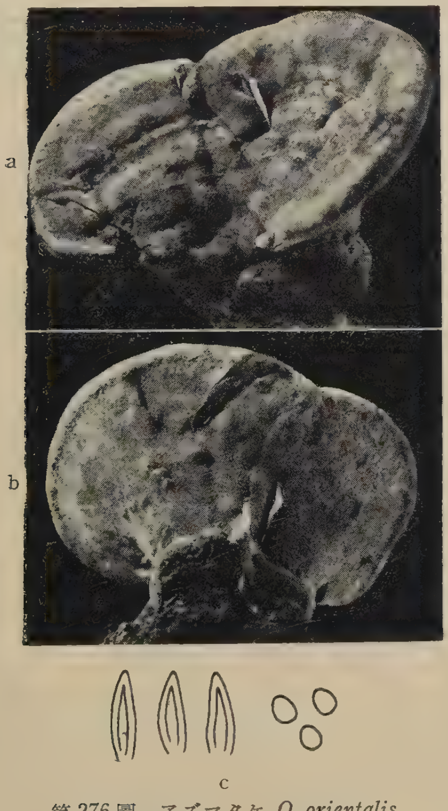
アズマタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 110, *pl. 1, f. 3*. 1943.

(原，日．菌．目．230. 1954)

Polyporus orientalis LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 193, *f. 499*. 1912; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 113. 1936—SACCARDO, Syll. Fung. 23: 371. 1925.

(梅村，植．雜．28: 195. 1914—LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 60: 8, 13. 1915—安田，植．雜．30: 101. 1916; 31: 55. 1917—白井，日．菌．目．ed. 2. 479. 1917; ed. 3. 293. 1927—逸見及野島，日．植．病．學．報．2: 70. 1928—逸見，病蟲．雜．15: 4, 78. 1928; 日．學術協．報．7: 409. 1932; Mem. Coll. Agr. Kyoto Imp. Univ. 20: 14, *f. 5—6, pl. 2, f. 3—4, pl. 3, f. 6—8*. 1932; 植．動．3: 307. 1935; 及赤井，木．腐．菌學，309, *f. 120—3*. 1945—今關，日．隱．植．圖．443, *pl. 212, f. 4*. 1939)



第276圖　アズマタケ *O. orientalis*
a. 子實體表面　b. 同裏面 ×3/4
c. 剛毛體及胞子 ×612　（大谷氏）

子實體は有莖，木質乃至栓木質，傘は通常圓形にて扁平或は中央部少しく凹む，徑 3—13cm，厚さ 0.5—1cm，表面は銹褐色，短密毛ありて絨狀，少數の環溝あり，肉は黃褐色，堅硬，管孔面は銹褐色或は暗褐色，管長甚だ短く，通常 0.5—2mm，孔口は不正圓形，微細，口緣は全緣，莖は中心生，短大，長さ 2—3cm，剛毛體は褐色，厚膜，楔形，鋭頭，20—25×5—8.5μ，胞子は球形乃至楕圓形，平滑，無色，3—5μ 或は 3—5×2.5—4μ。根の白孔腐を起す。

所在及産地

赤松，黒松 (*Pinus*) 根部に寄生，枯死せしむ
全上一亞(比)

和名 アズマタケ（東茸）〔梅村〕

Onnia cumingii (BERK.) IMAZ.

サジタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. 6: 110. 1943.

(IMAZEKI, Bull. Gov. Forest Exp. st. Tokyo, 57: 114. 1952—千葉及寺本，東．大．演．林．報．43: 33. 1952—原，日．菌．目．230. 1954)

Polyporus Cumingii BERK. Lond. Jour. Bot. 1: 147. 1842—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 162. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 44: 8, 11. 1913; 5, Lett. 53: 8. 1914; 7: 1126. 1922—安田，植．雜．31: 55. 1917—白井，日．菌．目．ed. 3. 289. 1927—今關，日．隱．植．圖．443, *pl. 212, f. 3*. 1937)

Polystictus Cumingii COOKE, Grev. 14: 77. 1886—SACCARDO, Syll. Fung. 6: 209. 1888.

Xanthochrous Cumminghii PAT. Ess. Tax. 100. 1900.

子實體は有莖，木質，傘は扇狀腎臟形，側莖を着く，堅硬，横徑 10cm に及ぶ，表面は黃褐色乃至暗褐色，緣邊鮮黃色，著しき放射狀皺襞あり，短密毛を密布し絨狀なり，不明瞭の環紋あり，稀に顯著，肉は黃褐色，管孔面は生時鮮黃色，後灰黃褐色となる，孔長は短く，2—3.5mm，莖上に垂下す，孔口は微細，圓形，口緣は全緣なり，莖は甚だ不正形，通常扁平，屢々屈曲し，著しき皺襞を有し，黃褐色の短密毛あり，普通側生なるも稀に偏心生，往々數個合着簇生す，8×3cm に及ぶものあり，胞子は球形，平滑，無色，3—3.5μ。

所在及産地

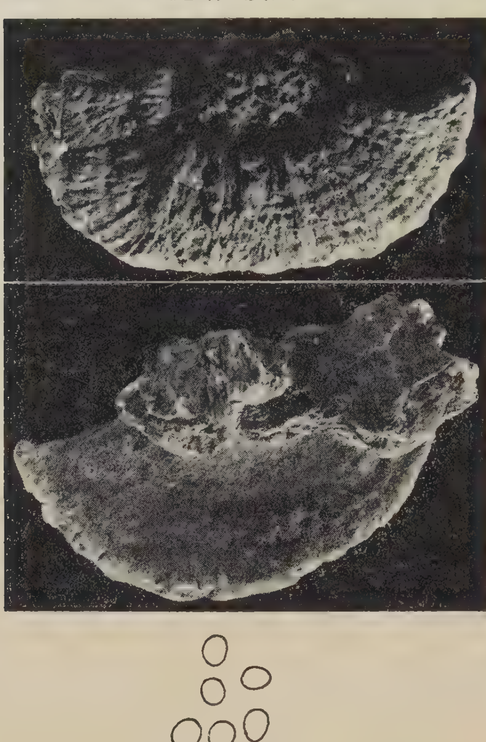
廣葉樹幹，根際に生ず

本州，九州—亞(比.臺)濠

和名 サジタケ（匙茸）〔安田〕

a

b



c

第277圖 サジタケ *O.cumingii*
a. 子實體表面 b. 同裏面 ×3/4
c. 胞子 ×612 （大谷氏）

Onnia scaurus (LLOYD) IMAZ.

シヤクシタケ

IMAZEKI, Bull. Tokyo Sci. Mus. **6**: 110. 1943.
(原，日. 菌. 目. 230. 1954)

Fomes scaurus LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. **44**: 11. 1913.

(安田，植. 雜. **27**: 502. 1913—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 245. 1917; ed. 3. 141. 1927)

Polyporus scaurus LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. **53**: 11. 1914; Lett. **56**: 8. 1915; 4, Lett. **58**: 8. 1915; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 120. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. **56**: 5. 1915—安田，植. 雜. **31**: 55. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 294. 1927)

子實體は有莖，木質，傘は略々半圓形にて薄く，徑7—12cm，漸細して莖に移行す，表面は褐色，微細軟毛を被むり，環紋あり，放射狀の淺き皺襞を有



第278圖 シヤクシタケ *O. scaurus* 子實體
（龜井氏）

す，肉は薄く 3—8mm，堅くして有層，暗褐色，管孔面は暗褐色，管孔は長さ短かく，褐色，孔口は甚だ小，多角形，剛毛體なし，莖は太く，幅 3—4cm，不正形にて短く，通常側生す，肉は堅く，木質，褐色，表面は絨毛を有す。胞子は楕圓形，平滑，無色，5—8×3—4 μ。

所在及産地

林地 本州—亞(比)

和名 シヤクシタケ（杓子茸）〔安田〕

疑 問 種

(*Onnia* 所屬)

Fomes latistipitatus LLOYD, Myc. Writ. **6**: 1062, *f. 1999*. 1921; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 83. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. **6**: 1079. 1920)

Pyrrhoderma IMAZ.

ツヤナシマンネンタケ屬

子實體は一年生，有莖，傘は扁平，表面は無毛，或は微毛を有し，平滑，堅き殼皮を被むる，肉は木質，茶褐色，莖は側着，斜上或は直立し，傘面と同じく殼皮を有し，肉は傘と同質，子實層托は單層，孔口は微細，圓形，剛毛體なし，胞子は楕圓形，或は球形，無色或は淡黃色，平滑，樹上生。

（本屬名はpyrrho（火紅色の）derma（皮）より出づ）

基準種 *P. sendaiense* (YAS.) IMAZ.

〔因記〕本屬はキコブタケ族中殼皮を有する唯一の屬にして，その殼皮はマンネンタケ屬（*Ganoderma*）のものと異り，肉と同樣なる菌絲の結合によつて作らる。

本邦既知種檢索表

A. 傘は扇形或は腎臟形，無毛，莖は圓柱狀にて僅か

屈曲す，胞子楕圓形，淡黃色。

ツヤナシマンネンタケ **P. sendaiense** (389)

B. 傘は略々圓形，微毛あり，莖は長大，不整形，胞子球形，無色。

ムサシタケ **P. musashiense** (389)

Pyrrhoderma sendaiense (YAS.) IMAZ.

ツヤナシマンネンタケ

Polyporus sendaiensis YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 37:128, *f. 2—3*. 1923.

(安田，植. 雜. 37:101.1923—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 294. 1927—今關，日. 隱. 植. 圖. 445, *pl. 213*, *f. 5*. 1939)

子實體は有莖，木質，傘は扇形或は腎臓形，橫徑3—7cm，厚さ0.3—1cm，表面は薄き堅き殼皮を有し，無毛，褐色乃至灰褐色，放射狀の疎皺と淺き環溝を有す，肉は黃褐色，木質にて折れ易し，管孔は長さ1.5—3.5mm，孔口は小圓形，口緣少しく灰褐色を帶ぶ，莖は圓柱狀，僅か屈曲す，表面は平滑，殼皮を被むり，中實，3.5—5.5×0.7—2.2cm，胞子は楕圓形，淡黃色，12—14×7—9μ。

所在及產地

埋木上　本州，九州

和名 ツヤナシマンネンタケ(無艷萬年茸)〔安田〕

Pyrrhoderma musashiense (P. HENN.) IMAZ.

ムサシタケ

Fomes musashiensis P. HENN. Bot. Jahrb. 31: 737. 1902—SACCARDO, Syll. Fung. 17:120. 1905.

(松村，植. 名鑑，1:143. 1904—白井，日. 菌. 目. 35. 1905; ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 139. 1927)

Whitfordia musashiensis MURR. Mycologia, 1: 168. 1909.

Polyporus musashiensis LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 135, 191, *f. 436*. 1912; 7:1110, *f. 2057*. 1922; STEVENSON & CASH, New Fung. Names Lloyd, 112. 1936.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42: 13. 1912; 6: 1096. 1920; 7: 1296. 1924—梅村，植. 雜. 28:195. 1914—安田，植. 雜. 31: 54. 1917; 38:146, 1924—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 477. 1917; ed. 3. 292. 1927)

Onnia musashiensis IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus. 6:110. 1943.

(原，日. 菌. 目. 230. 1954)

子實體は有莖，類木質，傘は略々圓形，可成り厚く，約6×4×0.8—1.5cm，表面は褐色，微毛を被むり，環紋環溝あり，緣は鈍圓，稍々全緣，肉は黃褐色，管孔は同色，長さ短し，孔口は甚だ小にて圓形，徑0.15—0.2mm，口壁に細微毛あり，莖は側着或は背着，長大，不整形，約8.5×1.5—2cm，微毛あり，傘面と同色，胞子は球形，平滑，無色，徑約6μ。

所在及產地

切株及根際　本州

和名 ムサシタケ（武藏茸）〔安田〕

疑問種

（綜　合）

Fomes minutus

(LLOYD, Myc. Writ. 4: Lett. 42:16. 1912)

Fomes pudens

(白井，日. 菌. 目. ed. 2. 243. 1917; ed. 3. 140. 1927)

Irpex obliquus

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 63:9. 1916—安田，植. 雜. 30:420. 1916; 31:48. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 174. 1927)

Irpex pachylon

(安田，植. 雜. 34:183. 1920—白井，日. 菌. 目. ed. 3. 175. 1927)

Lenzites lepideus

(LLOYD, Myc. Writ. 5, Lett. 68:7. 1918)

Polyporus foedatus

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 43:6. 1912—安田，植. 雜. 17:306. 1913; 31:52. 1917—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 475. 1917; ed. 3. 290. 1927)

Polyporus Ireyei

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1345. 1925)

Polyporus Linkinsenses

(LLOYD, Myc. Writ. 7:1346. 1925)

Polyporus mikraulos

(LLOYD, Myc. Writ. 6:980. 1920)

Polyporus mutabilis

(白井，日. 菌. 目. 73. 1905; ed. 2. 479. 1917; ed. 3. 292. 1927)

Polyporus pocas BERK. Jour. Linn. Soc. 16:51. 1878.

(松村，植. 名鑑，1:163. 1904)

= *Polystictus Pocas* COOKE, Grev. 14:83. 1886 —SACCARDO, Syll. Fung. 6:259. 1888—LLOYD, Myc. Writ. 3, Stip. Polyp. 145. 1912.

(LLOYD, Myc. Writ. 4, Lett. 42:15. 1912—安田，植. 雜. 16:330. 1912—白井，日. 菌. 目. ed. 2. 491. 1917; ed. 3. 300. 1927)

Polyporus Wakawae YAS.

(LLOYD, Myc. Writ. 6:1095. 1921)

Polystictus crenatus

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1267. 1924)

Polystictus Sequoiae

(LLOYD, Myc. Writ. 5 Lett. 65: 13. 1917)

Trametes fusca

(LLOYD, Myc. Writ. 7: 1346. 1925)

菌學名屬別索引

（括弧内數字は挿圖のある頁を示す）

A

Abortiporus……243
Achroomyces……4
Acia……189
Actinostroma……166
Agaricaceae……245
Agaricales……45
Agaricus abietinus……239
asserculosum……239
betulinus……246
Boletiformis……238
cantharelloides……98
cantharellus……97
cinnabarinus……97
coriaceus……246
decipiens……258
hirsutus……238
igniarius……374
labyrinthiformis……241
pseudoboletus……342
Ribis……365
senescens……239
sepiaria b. tricolor……249
sepiarius……238
speciosus……274
striatus……240
trabeus……241
tricolor……249
tristis……174
Albatrellus……330
albidus……332
Alectorolophoides……96
cibarius……97
Aleurodiscineae……105, 125
Aleurodiscus……22, 23, 105, 125
acerinus…… 126, 127
amorphus……125, 126, (126)
aurantius……126, 127
japonicus……126, 127
oakesii……126, 127
orientalis……126, 129
reflexus……126, 128
roseus……126, 128
sendaiensis……130
stereoides……126, 128
subacerinus……128
subcruentatus
……126, 129, (129)
tsugae……126, 130
Amauroderma……331, 339, 339
juxtarugosum……340, 340
omphalodes……340, 340
regulicolor……339
rugosum……339, 340, (340)
Amyloporia……212
lenis……216
xantha……215
Anisomyces odoratus……242
Anthina (Pterula) subulata……59
Antrodia……224, 253, 272
mollis……272, 272
serpens……236
stereoides……272
Aphelaria……57, 61
dendroides……61, 61
tuberosa……61, 62
Aphyllophoraceae subfam. Polyporoideae……222
Aphyllophorales……45, 45
Apodes……154
Asterostroma……105, 123
albo-carneum……123
cervicolor……123, 123, (123)
corticola……123
epigaeum……125
hapalum……123
muscicolum……123
pallidum……123
Asterostromeae……105, 123
Asterostromella……124
epigaea……125
epiphylla……124
investiens……124
Athelia……122
epiphylla……124
scirpina……122
Typhae……122
Aurantiporellus……290
Aurantiporus Pilotae……291
Auricula……4
ampla……9
delicata……6
hispidula……9
Judae……7
nigra……9
polytricha……9
reflexa……202
tremellosa……6
Auricularia……2, 4
albicans……7
albida……7
ampla……8
aurantiaca……119, 202
Auricula……8
auricula-judae……4, *6*, 7, (8), *9*
caryophyllea……174
corrugata……5
corticalis……118
crassa……6
delicata……4, 6
ferruginea……157
glandulosa……20
hispidula……9
Hunterii……6
leucochroma……4, 7
mesenterica……4, 4, (5)
nigra……9
nigrescens……9
ornata……5
papyracea……4, 6
papyrina……206
phosphorea……113
polytricha……4, 8, (9)
porphyrea……9
pulverulenta……208
pusio……5
reflexa……135, 202
sambucina……7
strigoso-zonata……202
tabacina……155
tremellodes……5
tremellosa……6
violacea……5
Auriculariaceae……2, 2
Auriculariales……1, 2
Auriculariella……4
Auriscalpium……186, 192
auriscalpium……193
vulgare……192, 192(193)

B

Basidiomycetes …… 1
Baumanniella …… 71
Beccariella …… 166
Bjerkandera …… 273, 285, 331
abietinus …… 257
adusta …… 285, 286, 286, (287)
amorpha …… 289
biformis …… 263
borealis …… 284
caesia …… 278
chionea …… 279
ciliatula …… 281
dichroa …… 288
fibula …… 271
fumosa …… 286, 287, (288)
hirsuta …… 266
irregularis …… 289
lactea …… 281
pubescens …… 280
secernibilis …… 286
spumea …… 283
squalens …… 277
versicolor …… 269
zonata …… 270
Boletopseae …… 171, 185
Boletopsis …… 171, 185
grisea …… 185
leucomelas …… 185, 185
Boletus …… 210
Boletus c. Poria …… 212
Beletus abietinus …… 257, 289
acanthoides …… 337
adustus …… 286
agaricoides …… 246
albidus …… 278, 332
albus …… 284
angulatus …… 270
annulatus …… 242
applanatus …… 347
arboreus …… 207
arcularius …… 322, 325
atrorufus …… 268
benzoinus …… 294
betulinus …… 296
biennis …… 244
borealis …… 284
brumalis …… 318
Buglossum …… 210
caesius …… 278
carpineus …… 286
caudicinus …… 274
var. 1 …… 319
cellulosus …… 319
cinnabarinus …… 235
cinnamomeus …… 382
citrinus …… 274
coccineus …… 235
conchifer …… 261
confluens …… 294, 334, 383
confragosus …… 248
coriaceus …… 383
cristatus …… 333
croceus …… 291
cryptarum …… 302
cuticularis …… 358
decipiens …… 264
dimidiatus …… 342
dryadeus …… 357
elegans …… 320
exasperatus …… 325
fasciculatus …… 318
ferruginosus …… 221
Fibula …… 271
flabelliformis …… 333
fomentarius …… 299
β. applanatus …… 347
γ. dryadeus …… 357
E. obtusus …… 374
ζ. B. pomaceus …… 379
δ. ungulatus …… 299
fragilis …… 332
frondosus …… 336
fuliginosus …… 294
fulvus …… 306, 379
fumosus …… 287
fuscoporus …… 286
fuscus …… 294
giganteus …… 337
gilvus …… 369
hepaticus …… 210
heteroclitus …… 256
hirsutus …… 266, 356
hispidus …… 356
igniarius …… 306, 374
var. *c.* …… 370
imberbis …… 287
imbricatus …… 268, 337
impuber …… 369
incarnatus …… 257
incertus …… 216
irregularis …… 289
isabellinus …… 286
Juglandis …… 319
lacrymans …… 207
Laricis …… 301
leucomelas …… 185
lipsiensis …… 347
lucidus …… 342
lutescens …… 268
marginatus …… 306
medulla-panis …… 213, 215
mescentericus …… 337
molluscus …… 289
multicolor …… 270
nigromarginatus …… 266
nitidus …… 289
nummularis …… 320
cbliquatus …… 342
obliquus …… 221
obtusus …… 374
ochraceus …… 270
odoratus …… 242
officinalis …… 301
ovinus …… 332
pelleporus …… 286, 288
perennis …… 383
Pini …… 362
pinicola …… 306
Placenta …… 270
platyporus …… 319
polycephalus …… 335
Polyporus …… 318
pomaceus …… 379
populinus …… 255
pseudo-igniarius …… 357
pubescens …… 280
pulvinatus …… 283
purgans …… 301
purpurascens …… 206
quercinus …… 297
radiatus …… 355
Radulus …… 217
ramosissimus …… 335, 336
ramosus …… 335
resinosus …… 294
reticulatus …… 250
rhombiporus …… 326
Ribis …… 365
roseus …… 308
rubiginosus …… 294
rugosus …… 342
rutilans …… 292
sanguineus …… 236
semiovatus …… 306
sistotremoides …… 380
spongiosus …… 356
spumeus …… 283
squamosus …… 319
suaveolens …… 225
suberosus …… 283, 286, 292, 296
subsquamosus …… 334
subtomentosa …… 383
sulphureus …… 274

tenuis ·····250
triqueter ·····386
ulmarius ·····313
umbellatus ·····335
ungulatus·····299, 306
unicolor ·····264
Vaillantii·····213
vaporarius ·····213
variegatus ·····268
varius ·····320
velutinus ·····356
versicolor ·····268
villosus ·····356
virgineus·····261
vitellinus ·····216
zonalis ·····315
zonatus·····270
Bondarzewia ·····330, 331, 338
montana····· 338, 338, (339)
Bonia papyrina·····16
Boninohydnum ·····186, 197
pini ·····197, 197
Botryobasidium ·····105
Solani ·····106
Botryochaete ·····10
faginea ·····10
Botryohypochnus ·····105
Bresadolia caucasica·····319
paradoxa ·····319
Buglossus·····210
quercinus·····210
Bulliardia ·····260

C

Calocera ·····32, 41
alba ·····41, 41
coralloides ·····41, 43
cornea ·····41, 42, 42, (42)
f. furcata ·····44
f. gracils ·····41, 42
corniformis·····41, 42
flammea ·····43
var. *furcata* ·····44
flavida ·····41, 43
furcata ·····41, 44
mucida ·····44
palmata ·····41, 41, (42)
tuberosa ·····75
variiformis ·····41
viscosa ·····41, 43, (43)
var. *frucata* ·····44
Calodon·····171. 176
albo-nigrum ·····176, 181
amicum·····176, 180
aurantiacum ·····176, 176
cyathiforme
·····176, 178, (178)
graveolens ·····176, 178
melaleucum·····176, 179
nigrum·····176, 179, (180)
olidum ·····176, 177
pullum ·····179
putidum ·····176, 180
suaveolens ·····176
zonatum ·····176, 177, (178)
Caloporus·····330
acanthoides ·····338
confluens ·····334
cristatus ·····334
frondosus·····337
fuscopellis ·····297
leucomelas ·····185
ovinus ·····332
subsquamosus var.
leucomelas ·····185
Calvatia versispora ·····275
Calyptella·····167
Cantharellaceae·····45, 96
Cantharellus ·····96, 96, *104*
alveolaris ·····322
brevipes ·····103
cibarius ·····96, 97, (98)
cinereus·····97, 99, (99)
cinnabarinus ·····96, 97
clavatus ·····103
cornucopioides·····101
crispus ·····203
cystidioides ·····101
edulis ·····97
flabellatus·····101
floccosus·····97, 100, (100)
Friesii·····97
fujisanensis·····103
hydrolips ·····99
infundibuliformis
·····97, 98, (99)
minor ·····96, *97*, 98
multiplex ·····184
pallidus ·····97, 100, (100)
vulgaris ·····97
Cellularia·····245
acuta·····232
albida ·····227
heteromorpha ·····228
hirsutus ·····238
japonica ·····232
protracta ·····241
repanda ·····232
striata ·····241
subferruginea·····240
trabea ·····241
tricolor ·····249
vialis·····241
Ceraceae ·····114
Ceraporia·····212
Ceratella·····76
Ceratellopsis ·····58, 76
aculeata ·····77
dryopteridis ·····77, 77
Ceratophora·····237
odorata ·····242
Ceriomyces japonicus ·····342
Tuberaster ·····332
Cerioporus hirtus ·····323
montanus ·····338
squamosus ·····319
umbellatus ·····336
Cerocorticium ·····108
Cerrena ·····260
unicolor ·····265
Cerrenella ·····352
Ravenelii ·····352
tabacina ·····352
Chaetocypha pendula·····168
Chaetoporus·····212
euporus·····217
radulus·····217
rixosus ·····218
Chanterel ·····96
Chantharellus ·····97
cinnabarinus ·····97
floccosus ·····100
infundibuliformis ·····98, 99
minor ·····98
Cladaria·····62
Cladodendron ·····335
Cladoderreae ·····105, 166
Cladoderris ·····105, 166
caperata····· 167, 167, (167)
dendritica ·····167
spongiosa·····167, 167
Cladomeris ·····273, 335
confluens ·····334
cristata ·····334
frondosus·····337
fuliginosa ·····294
gigantea ·····338
montana ·····338
ravida ·····256
Schweinitzii·····381
sulfurea ·····274
umbellata ·····336
Clavaria·····*41*, 58, *60*, 83, *90*
sect. Clavariopsis·····28
sect. Ramaria ·····62

γ *Typhula*……77
Clavaria abietina……65
acroporphyria……66
aculeiformis……42
acuta……83, 87, (87)
aeruginea……63
amethystina……84
amethystinoides……81
amoena……93
anthocephala……173
apiculata……66
Ardenia……75
argillacea……83, 86, (86)
asperula……89
asperulans……89
aurantio-cinnabarina……94
aurea……69
avellanc-nigrescens ……83, 86, (86)
boninensis……91
botryoides……68
botrytis……67, 68
Broomei……64
caespitosa……75
caput-Medusae……192
chionea……89
citrina……94
cornata……61
cornea……42
corniculata……92
var. *pratensis*……92
crispa……170
cristata……82
β *fallax*……82
crocea……90
cyanocephala……63
cylindrica……88
dendroides……61
densa……68
eburnea……88
ericetorum……86
var. *argillacea*……86
erythropus……79
falcata……87
fasciculata……93
fastigiata……92
fellea……92
filata……78
filipes……87
fistulosa……75
var. *ardenia*……75
flaccida……64
flammea……43
flava……68
var. *divaricata*……69
flavescesns……69
flavipes……86
formosa……67
formosula……67
fragilis……87, 88, 93
fumosa……83, *84*, 85, (85)
fumosoides……84
furcata……44
fusiformis……93
gigaspora……62
grandis……64
helveola……91, 94
helvola……91
herculeana……73
hirta……76
inaequalis……91
var. *aurantia*……94
juncea……76
Kunzei……89
laciniata……17
laeta……93, 95
laetissima……61
lanceolata……83, 87, (87)
lavendula……84
ligula……74
lutea……69
luteo-alba……94
luteola……75
meakanensis……83, 87, (87)
miniata……95
Miyabeana……95
mucida……44, 70
muscoides……92
nebulosa……84
nigrescens……64
Nymaniana……84
obtusissima……70
occidentalis……85
ornatipes……81
pallida……65
palmata……172
Peckii……92
persimilis……94
Petersii……61
phacorrhiza……77
phoenicea……95
pilosa……76
pistillaris……73, 74
platyclada……93
plebeja……67
pratensis……92
pulchra……94
pulvinata……75
purpurea……83, *84*, (84)
pyxidata……60
quercicola……80
Rieleii……67
rosea……83, 85, (85)
rugosa……82
sculpta……67
Shimadai……95
similis……92
spathulata……73
spiculospora……64
stricta……65
strigosa……93
subacuta……84, 88
subargillacea……93
subaurantiaca……93
subbotrytis……68
subcaespitosa……89
subcorticalis……89
subfalcata……? 86, 87
subumbrinella……96
Tochinaiana……78
triuncialis β. *juncea*……76
truncata……72, 103
Tsugina……66
vermicularis ……83, 84, 88, (88)
var. sphaerospora ……84, 89
vermiculata……88
virgultorum……76
viscosa……43
vitellina……92
Zippelii……63
zollingeri……83, 84
Clavariaceae……45, 56
Clavariadelphus……57, 72
fistulosus……72, 75, (75)
junceus……72, 76, (76)
ligula……72, 74, (75)
pistillaris……72, 73, (74)
var. americanus ……72, 74, (74)
truncatus……72, 72, (73)
Clavariella……62
apiculata……66
aurea……69
cristata……82
crocea……90
fistulosa……75
flaccida……65
formosa……67
ligula……75
pistillaris……73
stricta……65
Clavariopsis……28
Clavicorona……57, 60

coronata ··· *61*
pyxidata ··· 60, 60, (61)
taxophila ··· 60
Clavulina ··· 58, 80
amethystinoides ··· 81, 81, (81)
cristata ··· 81, 82, (82)
Kunzei ··· *89*
ornatipes ··· 81, 81
rugosa ··· 81, 82, (83)
Clavulinopsis ··· 58, 90
amoena ··· 91, 93
aurantio-cinnabarina ··· 91, 94, (95)
boninensis ··· 90, 91
corniculata ··· 91, 92, (92)
fusiformis ··· 91, 93, (94)
helvola ··· 90, 91, (91), 91
luteo-alba ··· 91, 94
miniata ··· 90, 91, 95
miyabenana ··· 91, 95, (95)
pulchra ··· 91, 94
subumbrinella ··· 91, 96
Climacodon ··· *193*
ochraceus ··· *194*
pudorinus ··· *194*
septentrionalis ··· *195*
Cnazonaria ··· *79*
erythropus ··· *79*
Coltricia ··· 260, 351, 381
cinnamomea ··· 382, 382
connata ··· *383*
dependens ··· 382, 384
greenii ··· 353, 382, 384
perennis ··· 382, 383, (383)
Schweinitzii ··· *381*
tomentosa ··· *385*
Coltriciella ··· *381*
dependens ··· *384*
Coniophora ··· 201, 208
arida ··· 209, 209
cellaris ··· *209*
cerebella ··· *209*
Cookei ··· *209*
matsuzawae ··· 209, 209
puteana ··· 208, 209
Coralloides ··· *28*
Coriolellus ··· *223*
cuneatus ··· *290*
flavescens ··· *226*
Kusanoi ··· *227*
sepium ··· *227*
serialis ··· *226*
squalens ··· *277*
Coriolinae ··· 223, 253, 331
Coriolopsis ··· *260*
Copelandi ··· *311*
semilaccata ··· *305*
trabea ··· *241*
Coriolus ··· 224, 253, *356*, 260, 260, 271
sect. Oxyporus ··· *254*
abietinus ··· *257*
var. *lenzitoidea* ··· *259*
azureus ··· *269*
balsameus ··· *285*
biformis ··· 261, 263
conchifer ··· 260, 261, (262)
connatus ··· *255*
consors ··· 260, 262, (262)
elongatus ··· 261, 264
fibula ··· 261, 271, (271)
floriformis ··· *280*
helveolus ··· *297*
hexagoniformis ··· *228*
hirsutulus ··· *269*
hirsutus ··· 261, 266, (267)
var. *fibula* ··· *271*
lacteus ··· *281*
Lloydii ··· *270*
lutescens ··· 261, 267
neaniscus ··· 261, 265, (266)
nigromarginatus ··· *266*
obducens ··· *256*
pargamenus ··· 261, 263, (264)
pinsitus ··· 261, 270
polyzonus ··· 261, 267
prolificans ··· *263*
pubescens ··· *280*
ravenelii ··· *352*
ravidus ··· *256*
unicolor ··· 261, 264, (265)
versicolor ··· 260, 261, 268, (269)
vinosus ··· *310*
zonatus ··· 261, 270
Cornicularia ··· *90*
Cororatae ··· 114
Corticiaceae ··· 46, 104
Corticieae ··· 104, 108
Corticium ··· 11, 104, 108, 114, 119, 201
§ *Coniophora* ··· *208*
sect Botryodea ··· *105*
abeuns ··· *121*
acerinum ··· *128*
aemulans ··· *120*
alliaceum ··· *128*
Aluta ··· *109*
alutaceum ··· *121*
alutarium ··· *124*
amorphum ··· *126*
arachnoideum ··· *111*
aridum ··· *209*
aurantium ··· *127*
boninense ··· 108, 110, (110)
Bresadolae ··· *109*
caeruleum ··· 108, 109, 113
calceum ··· *115*
centrifugum ··· 108, 110, (111)
cervicolor ··· *123*
chlamydosporium ··· *109*
chrysocreas ··· *121*
cinereum ··· *117*
cinnamoneum ··· *162*
confluens ··· 109, 111
var. *subcalceum* ··· *112*
corrugatum ··· *164*
cremeum ··· *115*
crocicreas ··· *122*
cyatheae ··· 108, 110, (110)
diminuens ··· *109*
epiphyllum ··· *124*
evolvens ··· 109, 112, (113)
filamentosum ··· *114*
fumigatum ··· *117*
fuscum ··· *171*
galactinum ··· 108, 110
giganteum ··· *116*
glebulosum ··· *115*
grammicum ··· *109*
incarnatum ··· *119*
incrustans ··· *17*
investiens ··· *124*
javanicum ··· *112*
Komabensis ··· *119*
laeve ··· *112, 116*
lilacino-fuscum ··· *142*
Marchandii ··· *127*
Mougeotii ··· *161*
mutatum ··· *120*
myxosporum ··· *186*
nudum ··· *118*
Oakesii ··· *127*
odoratum ··· *143*
portentosum ··· 108, 109
var. *crystallophorum* ··· *109*
puteaneum ··· *209*
quercinum ··· *118*
radiatum ··· *115*
rigescens ··· *110*
roseolum ··· *129*
roseum ··· *128*
salmonicolor ··· 109, 112

Sasakii ··· *107*
scirpinum ··· *122*
scutellare ··· 108, 109
sebaceum ··· *17*
setigerum ··· *186*
simile ··· *117*
simulans ··· *161*
Solani ··· *106*
spiculosum ··· *175*
subrepandum ··· *142*
subzonatum ··· *135*
Typhae ··· *122*
vagum ··· *106*
var. *Solani* ··· *106*
vellereum ··· 108, 109
versicolor ··· *117*
Zimmermanni ··· *112*
Coryne ··· *32*
Cratherellus ··· 96, 101
aureus ··· 101, 102
clavatus ··· *103*
cornucopioides ··· 101, 101, (102)
dubius ··· 101, 102
multiplex ··· *184*
pistillaris ··· *73*
sinuosus var. *folccosus* ··· *100*
Creolophus ··· *193*
agaricoides ··· *196*
pulcherrimus ··· *196*
septentrionalis ··· *195*
Crustaceae ··· 21
Cryptoderma ··· 298, 351, 355, 359, 359, 368
cercidiphyllum ··· 359, 363
citrinum ··· 359, 360, (361)
fastuosum ··· 360, 363, (363)
Kanehirae ··· 360, 367, (367)
lamaense ··· 359, 361, (361)
lonicerinum ··· 360, 366, (366)
mc.gregorii ··· 360, 364, (364)
nigrolimitatum ··· *377*
pachyphloeum ··· 360, 366
pini ··· 359, 362
pullum ··· 360, 364
pusillum ··· 359, 360
ribis ··· 359, 360, 365
sanfordii ··· 360, 366
substygium ··· 359, 362, (362)
yamanoi ··· 360, 367, (368)
yezoense ··· *367*
Cryptoporeae ··· 212, 350
Cryptoporus ··· 350, 350
volvatus ··· 45, 350, 350, (350)
var. *pleurostoma* ··· *351*
Cubamyces ··· *223*
Cyclomyces ··· 211, 351, 353
australis ··· *353*
fuscus ··· 353, 353, (353)
Greenii ··· *384*
tabacinus ··· *353*, 354, (354)
Cyclomycetella ··· *260, 353*
Cycloporus Greenei ··· *384*
Cymbella ··· *168*
Cyphella ··· 105, 167
amorpha ··· *126*
cyatheae ··· 168, 168, (168)
digitalis ··· 168, *168*
epileuca ··· *168*
involuta ··· *168*
pendula ··· 168, 168
quercina ··· *168*
Cyphellaceae ··· 105
Cyphelleae ··· 105, 167

D

Dacrymyces ··· 31, *32*, 34
adpressus ··· 34, 36
applanatus ··· 34, 37
aurantius ··· 34, 35
chrysocomus ··· 34, 38
deliquescens ··· 34, 34
minor ··· 34, 37
nikkomontanus ··· 34, 37
palmatus ··· 34, 35, (35)
pezizoides ··· 34, 37
pulcher ··· 34, 37
punctiformis ··· 34, 36
puniceus ··· 34, 36
roseotinctus ··· 34, 36
subalpinus ··· 34, 36
tortus ··· *35, 36*
tremellosus ··· 34, 37
Dacrymycetaceae ··· 31, 31
Dacrymycetales ··· 1, 31
Dacryobolus ··· *186*
Dacryomitra ··· *32*
sect. Dacryopsis ··· *32*
nuda ··· *32*
pedunculata ··· *32*
Dacryomyces ··· *34*
aurantia ··· *36*
chrysosperma ··· *35*
flabellum ··· *35*
lacrymalis ··· *35*
palmata ··· *35*
rosea ··· *36*
Dacryopsis ··· *32*
nuda ··· *32*
Ulcis ··· *39*
Daedalea ··· 211, *223*, 224, *237*, 243, *247*, 272, *272*, 331
abietina ··· *239*
albida ··· *227*
Amanitoides ··· *231*
betulina ··· *246*
biennis ··· 243, 244, 244, (244)
var. *Sowerberi* ··· *244*
borealis ··· *284*
Bulliardi ··· *252*
confragosa ··· *248*
Dickinsii ··· *229*
epigaea ··· *380*
gibbosa ··· *231*
glabrescens ··· *245*
heteromorpha ··· *228*
imberbis ··· *287*
indica ··· *232*
jezoensis ··· *367*
kusanoi ··· *224, 227, 230*
mollicula ··· *245*
mollis ··· *272*
mutabilis ··· *241*
Palisoti ··· *231*
Pini ··· *362*
quercina ··· *230*
Ravenelii ··· *352*
repanda ··· *231*
rubescens ··· *252*
sepiaria ··· *238*
sepium ··· *227*
serpens ··· *236*
striata ··· *240*
styracina ··· *249*
Thunbergii ··· *246*
tortuosa ··· *265*
trabea ··· *241*
ungulata ··· *243*
unicolor ··· *264*
var. *hydnoidea* ··· *265*
Daedaleopsis ··· 223, 224, 247, 253
conchiformis ··· 247, 251
confragosa ··· 247, 248, (248), *252*
luteo-olivacea ··· 248, 251
nipponica ··· 248, 251, (252)
papyraceo-resupinata ··· 248, 252
rubescens ··· 248, 252
styracina ··· 247, 249, (250)
tenuis ··· 247, 250, (251)
tricolor ··· 247, 249, (249)
Deflexula ··· 57, 58
fascicularis ··· 58, 58, (58)
pacifica ··· 58, 59, (59)

Dendrophagus Colossus ······*345*
Dentinum······*199*
albidum······*202*
repandum ······*199*
Dictyolus ······96, 104
boninensis ···104, 104, (104)
lobatus ······104
Ditiola ······31, 32
conformis ······*39*
lentiformis······*39*
luteo-alba ······*39*
merulina ······*33*
nuda ······32, 32
radicata ······32, *39*
Shopei······*33*
Ulcis ······*39*
Donkia pulcherrima ······*196*
Dryodon ······*190*
caput-Medusae ······*192*
coralloides ······*191*
erinaceus ······*191*
pulcherimum ······*196*

E

Earliella ······*299*
Ecchyna······*10*
faginea ······*10*
Echinodontium ······186, 197
japonicum ······198, 198
tinctorium ······198
tsugicola ······198, 198, (198)
Elfvingia······*298*, 316, 339, 346, 349, *349*
applanata ······18, 347, 347, (348)
Elmeri ······*366*
fomentaria ······*299*
Lipsiensis······*348*
megaloma······*348*
tornata ······*348*
Tsunodae······*349*
Elfvingiella······*298*
fomentaria ······*299*
Elvella carnea ······*102*
cornucopioides······*101*
lentiformis······*39*
mesenterica ······*24*
ramosa ······*169*
Encephalium······*27*
Enslinia ······*295*
cupulaeformis······*296*
pocula ······*295*
Eoagaricus······*71*
Epithele ······105, 122
typhae ······122, 122
Etheirodon ······*186*
Euauricularia······4
Eudacrymyces ······34
Eu-Gloeocystidum······119
Exidia······*4*, 15, 18, 23
ampla ······*8*
arborea ······*20*
Auricula ······*7*
Auricula-Judae ······*7*
gelatinosa ······*19*
glandulosa······18, 20, (20)
hispidula ······*8*
japonica ······18, 18, (19)
pedunculata ······*32*
pezizaeformis ······*39*
polytricha······*8*
Porphyrea ······*8*
purpurascens ······*8*
recisa ······18, 19
saccharina······*25*
sagarum······*19*
truncata······18, 19, (20)
uva-passa ······18, 18
viscosa ······*22*
Exobasidiaceae ······45, 46
Exobasidium ······46, 46
bisporum ······47, 50, (51)
Butleri ······*55*
camelliae ······46, 48, (48)
var. *gracilis*······*49*
var. *nudo* ······*48*
Camelliae-oleiferae ······*49*
empetri ······46, 47, (47)
gracile ······47, 49, (49)
hemisphaericum ······47, 51, (53)
hexasporium ······*55*
japonicum ······47, 53, (53)
Magnusii ······*55*
nudum ······47, 48, (49)
pentasporium ···47, 52, (53)
pieridis······47, 51
reticulatum ······47, 49, (50)
Rhododendri ······*53*
Sawadae······*55*
shiraianum ······47, 51, (52)
Symploci······*55*
symploci-japonicae ······47, 55, (55)
uliginosi······*54*
vaccinii ······46, 47, 54, (54)
vaccinii-uliginosi ······47, 53, (54)
Vaccinii f. ramicola ······*54*
Vaccinii d. Vaccinii
vexans ······47, 50, (50)
Yoshinagai ······*55*

F

Favolae······331
Favolinae······223, 317
Favolus······211, *246*, 317, *317*, 322, *322*, 331
alveolarius ···322, 322, (323)
arcularius ···322, 325, (326)
brumalis ······*318*
canadensis ······*322*
emerici······322, 324
europaeus······*322*
grammocephalus ···322, 324
hirtus ······322, 323
mikawai ······322, 325, (325)
rhipidium f. minor ······*324*
rhipidium var. pusillus ······322, 324
squamosus ······*319*
subspathulatus ······*326*
tenuis ······*250*
varius ······*320*
Femsjonia ······32, 38
luteo-alba ······38, 38, (39)
orientalis ······38, 39
pezizaeformis ······*39*
Fibuloporia ······*212*
Fistulina ······210, 210
buglossoides······*210*
hepatica ······210, 210, (211)
pendula ······*211*
Fistulinaceae ······46, 210
Flaviporus ······*299*
Fomes ······211, 212, 222, *254*, *294*, *296*, 298, 298, *299*, *312*, *339*, *341*, *346*, 355, 359, *359*, 368, *368*, *381*
Abietis ······*362*
adamantinus ······*348*
albogriseus ······*301*
amboinensis······*346*
f. fornicatus······*345*
b. japonicus ······*342*
angularis ······*166*
angulus ······*166*
annosus ······*303*, *304*
applanatus ······*347*
Auberianus ······*315*
australis ······*347*
Bakeri ······*372*
benzoinus ······*295*
boninensis ······*346*
caliginosus ······*311*
carneus······*310*

caryophylli ……312
conchatus ……377
connatus ……255
cryptarum ……303
Curtisii ……344
densus ……380
elaphinus ……368
epimiltinus ……218
Evonymi ……365
fastuosus ……363
ferruginosus ……*221*, *303*
fomentarius…298, 298, (299)
fornicatus ……345
fraxineus ……295
fuliginosus ……294
fulvus ……379
fusco-purpureus ……370
geotropus ……314
gilvus ……370
glaucotus ……347
hamatus ……371
Hartigii ……373
var. *japonica* ……373
hirtus ……323
igniarius ……374
var. *laevigatus* ……375
var. *Pinuum* ……373
iyoensis ……352
japonicus ……342
f. boninensis ……346
f. dimidiata ……342
laccatus ……342
lamaoensis ……361
Laricis ……301
latistipitatus ……388
leucophaeus ……347
lignosus ……315
longinquus ……380
Lonicerae ……365
var. *evonymi* ……365
lonicerinus ……366
lucidus ……342
f.boninensis ……346
f.mesopoda ……342
marginatus ……307
Mc.Gregorii ……364
megaloma ……347
melanoporus ……312
Merrillii ……367
minutulus ……299
minutus ……389
musashiensis ……389
nigro-laccatus ……348
nigrolimitatus ……377
obliquus ……221
ochroleucus ……316
odorata ……242
officinalis ……301
olivaceus ……311
omphalodes ……340
pachyphloeus ……366
perennis ……383
Pini ……*362*, *368*
pinicola ……307
pomaceus ……379
f. Prunastri ……379
ponderosus ……307
populinus ……255
pudens ……389
pullus ……364
pusillus ……360
putearius ……377
radiatus ……356
rhaponticus ……380
rhodophaeus ……305
Ribis ……365
rimosus ……*375*, *376*
robustus ……372
f. fuscescens ……372
roseo-albus ……311
roseus ……308
rufo-pallidus ……309
rugosus ……340
rugulosus ……315
Sanfordii ……366
scaurus ……388
scutellatus ……302
semilaccatus ……305
senex var. *hamatus* ……371
sessilis ……345
setulosus ……374
subrosea ……309
substygius ……362
subungulatus ……306
tenuis ……378
Terminaliae ……312
torulosus ……371
Tsugae ……344
ulmarius ……*313*, *314*
ungulatus ……307
ungulatus pinicola ……307
vegetus ……347
volvatus ……350
var. *obvolutus* ……351
Williamsii ……361
Yasudai ……373
yezoense ……367
yucatanensis ……376
Fomitinae ……223, 298
Fomitiporella ……219
betulina ……375
inermis ……220
Fomitiporia ……219
laminata ……220
obliquiformis ……220
prunicola ……222
tsugina ……373
Weirii ……220
Fomitopsis……294, 298, 299, *312*, 313
annosa ……300, 302, (303)
caliginosa ……301, 311
carnea ……300, 310, (310)
castanea ……301, 312, (312)
cinereus ……311
connata ……255
fomentarius ……299
insularis ……300, 304(304)
kiyosumiensis ……300, 308, (308)
komatsuzakii ……300, 301
melanopora ……312
ochroleuca ……316
officinalis……300, 301, (302)
olivacea ……301, 311, (311)
pinicola ……300, 306, (307)
pubertatis ……301, 312
rhodophaeus…300, 305, (305)
rosea ……300, 308
roseozonata …300, 309, (309)
scutellata……300, 302
semilaccatus……300, 305, 306, (306)
sensitiva ……300, 304
subrosea ……309
subungulata ……300, 306
ulmaria ……313
vinosa ……301, 310
zonalis ……315
Friesia ……346
Friesites ……190
Fulvifomes Ribis ……365
Robiniae ……376
Funalia ……223
cladotricha ……259
Trogii ……228
versatilis ……260
villosa ……259
Fuscoporella ……219
Fuscoporia ……212, 219
inermis ……219, 220
ferruginosa……219, 221
laevigata ……*219*, *375*
obliqua ……219, 221
prunicola ……219, 222

punctata ··············219, 220
tsugina ··················*219, 373*
veticola ··················*219, 378*
weirii ···················219, 220
Fusidium Vaccinii ··············*55*

G

Ganoderma······211, *298*, 300, 316, 339, 341, 346, *346*, 347, 388, 349, *349*
sect. amauroderma·········*339*
subgen. trachyderma······*349*
Ganoderma *applanatum* ······*348*
f. australe ············*348*
var. *vegetum* ·········*348*
australe ···················*348*
boninense······341, 346, (346)
colossum ················341, 345
curtisii ···················341, 343
Elmeri ·······················*367*
flabelliforme ···············*344*
fomentarium ···············*299*
fornicatum ············341, 345
japonicus ····················*342*
laccatum ····················*342*
leucophaeum ···············*348*
lipsiensis ····················*348*
lucidum·········341, 341, *343*, (343)
var. *japonicum* ······*342*
neo-japonicum ······341, 343
Obockense····················*345*
omphalodes ·················*340*
pseudoboletum···············*342*
f. tsugae ···············*344*
pseudoboletus ···············*344*
rugosum ····················*340*
sessile ···················341, 345
subperforatum ············*345*
subumbraculum······341, 343
sulcatum ····················*346*
tornatum ····················*348*
tsugae ·········341, 344, (344)
Tsunodae····················*349*
vegetus ·······················*348*
zonatum ····················*346*
Gandermeae ·········212, 331, 339
Gastromycetes ············1, 45, 211
Gausapia ·························*11*
Glenospora·························*11*
Gliocoryne ·······················*80*
Gloeocystidium ············105, 119
abeuns ··················119, 121
aemulans ····················*120*
boninensis ···119, 121, (121)
chrysocreas············119, 121
exsudans ······················119
incarnatum···119, 119, (120)
mutatum ···············119, 120
Gloeopeniophora············119, 119
incarnata ····················*120*
Gloeophyllum·········222, 223, 224, 237
abietinellum·················*238*
abietinum ···237, 239, (239)
edule ··························*240*
hirsutum ····················*238*
odoratum ······237, 242, (242)
pallidofulvum ···············*241*
sepiarium ············224, 237, 237, (238)
striatum ···············237, 240
subferrugineum······237, 240, (240)
trabeum ···············237, 241
ungulatum ···237, 243, (243)
Gloeoporus ············273, 288, 331
adustus·······················*286*
amorphus···············288, 289
conchoides ···················288
dichrous ······288, 288, (289)
fumosus ····················*287*
pusillus·······················*324*
Gloeostereae ···············105, 170
Gloeostereum ···············105, 170
incarnatum············170, 170
Glomerularia Cinnamoni ······*55*
Gomphus ···························*96*
clavatus ····················*103*
truncatus ····················*103*
Grandiniella ·····················*186*
Grifola············*273*, 330, 331, 335, 338, *338*
albicans ···············335, 337
frondosa ···············335, 336
gigantea ···············335, 337
intybacea ····················*338*
lucida ·························*342*
montana ····················*338*
platypora ····················*319*
poripes ·······················*334*
ramossima ···················*336*
sulphurea····················*275*
Sumstinei····················*338*
umbellata······335, 335, (336)
varia ··························*320*
Guepinia ·····29, *29*, 32, *32*, *38*, 39
alpina ··························*33*
cochlearis ····················*33*
femsjoniana ···················*39*
fissa·····················40, 40, (40)
helvelloides ··················*29*
imazekiana ···············40, 41
merulina ·····················*33*
monticola ····················*33*
Peziza··························*33*
rufa ···························*29*
spathularia ···39, 40, 40, (40)
Guepiniopsis ·········29, 31, 32, *39*
alpinus ···················33, 33
fissus ··························*40*
merulinus ···32, 33, 33, (33)
spathularius ·················*40*
tortus ··························*33*
Gyraria auricularis ··············*7*
foliacea ······················*25*
lacrymalis ····················*35*
mesenterica ·················*24*
Gyrocephalus·····················*29*
rufus ··························*29*
Gyromitra ·······················*29*
Gyrophana ················201, 207
lacrymans ···207, 207, (208)
pulverulenta ···············207, 208, (208)
Gyrophora ······················*207*
lacrymans ···················*207*

H

Hansenia ·······················*260*
abietina·······················*257*
hirsuta ······················*266*
versicolor ····················*269*
zonata ·······················*270*
Hapalopilus······273, 290, 331, 380, *380*
aurantiacus ·················*292*
croceus·················290, 291
cuneatus ···············290, 290
fibrillosus ···290, 291, (292)
gilvus ·······················*370*
gypseus ······290, 291, (291)
nidulans ···············290, 292
rutilans ·····················*293*
Schweinitzii·················*381*
Haploporus Ljubarskyi·········*233*
Helicobasidium···············2, 2, 11
compactum ···················*3*
mompa ···············3, (3), *12*
f.macrosporum ·········*3*
purpureum ······················3
var. *orientale* ············*3*
Tanakae·························*13*
typhuloides ····················*4*
Helotium ··························*32*

Helvella hydrolips ·····99
mesenterica ·····5
nicotiana ·····155
rubiginosa ·····157
tremellina ·····5
versicolor ·····137
Hemibasidiae ·····1
Hericium ·····186, 190
caput-medusae ·····190, 192
coralloides ·····190, 191
erinaceus ·····190, 191, (192)
laciniatum ·····190, 190, (190)
Herpobasidium ·····2
Heterobasidiae ·····1, 1
Heterobasidion ·····299
annosum ·····303
Heterochaete ·····15, 16
andina ·····16
ogasawarasimensis ·····16, 16, (16)
tenuicula ·····16, 16
Heteroporus ·····243
biennis ·····244
borealis ·····284
Heterotextus ·····32
alpinus ·····33
Hexagona ·····211, 223, 224, 246, *247*, 271
alveolaris ·····323
apiaria ·····247, 247
bivalvis ·····250
ciliata ·····259
Deschampsii ·····247
Friesiana ·····271
Mori ·····322
papyraceo-resupinata ·····252
tenuis ·····250
Wightii ·····247
Hexagonia apiaria ·····247
bivalvis ·····250
Thwaitesii ·····250
Wightii ·····247
Himantia domestica ·····207
Hirneola ·····*4*, 4
albida ·····7
ampla ·····8
Auricula ·····8
auricula-Judae ·····7
delicata ·····6
hispidula ·····9
nigra ·····9
nigricans ·····9
picea ·····10
polytricha ·····9
porphyrea ·····9
Hirschioporus ·····224, 253, 256, 260
abietinus ·····253, 256, 257, (257)
abietis ·····259
fusco-violaceus ·····257, 258, (258)
laricinus ·····257, 259
pergamenus ·····263
purpureus ·····257, 260
versatilis ·····257, 259
Hoelen ·····218
Holtermannia ·····15, 28
coralloides ·····28, 29, (29)
corniformis ·····28, 28, (28)
pinguis ·····28
Holtermanniella ·····28
Homobasidiae ·····1, 45
Hyaloriaceae ·····15
Hydnaceae ·····46, 185, 253, 352
Hydnelleae ·····171, 176
Hydnellum ·····176
aurantiacum ·····176
concrescens ·····177
zonatum ·····177
Hydnochaete ·····351, 352
japonica ·····352, 353
ravenelii ·····352, 352
tabacinoides ·····352, 352
Hydnofomes ·····198
tsugicola ·····198
Hydnophysa ·····198
Hydnoporia ·····352
Hydnopsis ·····186
Hydnum ·····*176*, *181*, 186, *189*, 199, *210*
**Tremellodon* ·····30
abietinum ·····190
adustum ·····196
affine ·····201
albidum ·····199, 201
albonigrum ·····181
alnicolum ·····194
amicum ·····180
aspratum ·····183
aurantiacum ·····176
auriscalpium ·····192
basiasperatum ·····196
bicolor ·····187
bienne ·····244
Blackfordae ·····183
bubalinum ·····183
caput-Medusae ·····192
carnosum ·····199
cervinum ·····182
chrysellum ·····189
cinereum ·····180
clandestinum ·····199
conchiforme ·····194
concrescens ·····177
conigenum ·····201
Copelandii ·····189
coralloides ·····190, 191
crystallinum ·····31
cucullatum ·····201
cuneatum ·····201
cyathiforme ·····177, 178
Daviesii ·····194
delicatulum ·····201
discolor ·····196
Erinaceus ·····191
fasciculare ·····59
flabelliforme ·····194
flavidum ·····199
floriforme ·····176
fragile ·····201
friabile ·····196
fuligineo-album ·····201
fusco-violaceum ·····258
fuscum foetens ·····178
gelatinosum ·····31
glabrescens ·····196
graveolens ·····178
guaraniticum ·····196
helvolum ·····197
Ikenoi ·····201
imbricatum ·····181
japonicum ·····199
Kusanoi ·····262
laciniatum ·····190
lacteum ·····254
laevigatum ·····182
leptopus γ graveolens ·····178
medicum ·····199
melaleucum ·····179
nigrum ·····179
ochraceum ·····194
ochroleucum var. *subtile* ·····187
olidum ·····177
olivacea-nigrum ·····180
pergameneum ·····197
plumarium ·····194
pudorinum ·····194
pulcherrimum ·····196
pullum ·····179
putidum ·····180
pygmaeum ·····184
Radula ·····188
ramosum ·····190
rawakense ·····196

reniforme·····196
repandum······199, 199, (200)
vra. *albidum*·····201
var. album······199, 200
var. *rufescens*·····200
Rhois·····194
rufescens·····199, 200
scabrosum·····182
septentrionale·····195
serratum·····187
squamosum·····182
squarrosum·····182
stalagmodes·····201
stohlii·····176
striatum·····182
suberosum
var. *aurantiacum*···176
cinereum·····179
subtile·····187
tenuiculum·····16
tomentosum·····178
γγ atro-album·····179
umbilicatum·····199
vellereum·····180
violascens·····183
Wrightii·····201
zonatum·····177
Hygrophorus cinnabarinus···97
Hymenochaetaceae·····105
Hymenochaete·····105, 154
§ *Veluticeps*·····166
abietina·····146
abnormis·····146
adusta·····154, 158, (158)
arida·····154, 161, (161)
attenuata······154, 159, (160)
avellanea·····156
badia·····352
boninensis·····150
cinnamomea······154, 162, (162)
corrugata······154, 164, (164)
crassa·····146
dendroidea·····18
elegantissima·····159
episphaeria·····155, 165
ferruginea·····157
fimbriata·····146
fomitoporioides ·····154, 163, (164)
fuliginosa·····163
imbricata·····156
imbricatula·····156
insularis·····164
intricata······154, 160, (160)
intricatum·····160
Kalchbrenneri·····146
laevigata·····163
laxa·····161
lirata·····138
medica·····166
mougeotii······154, 161, (162)
multispinulosa·····146
palmicola······155, 165, (165)
pertenuis······155, 165, (165)
purpurea·····146
rimosa·····*163, 164*
rubiginosa···154, 157, (157)
rudis·····162
rufomarginata······154, 158
rugispora·····146
sallei·····154, 158, (159)
scabriseta·····146
simulans·····161
spreta·····154, 163
tabacina·····154, 155, (155), *156*
tenuissima·····159
tjibodensis·····149
umbrina·····146
unicolor······154, 163, (163)
versiformis·····150
vibrans·····138
vinosa·····146
yasudai·····154, 156, (156)
Hymenochaetella arida·····161
laxa·····161
rudis·····162
Hymenomycetes·····1, 45, 45
Hypochneae·····104, 105
Hypochnus·····*105, 171*
§ *Epithele*·····122
acerinus·····128
centrifugus·····111
cinnamomeus·····162
confluens·····*209, 112*
Cucumeris·····111
epiphyllus·····124
filamentosus·····106
fuscus·····171
laevis·····113
roseus·····129
sasakii·····107
Solani·····*106, 107*
Typhae·····122
Hypodrys·····210
hepaticus·····210
Hypothele·····199
repanda·····199

I

Inodermus·····355
croceus·····291
cryptarum·····303
cuticularis·····358
fuliginosus·····294
hispidus·····356
radiatus·····355
Schweinitzii·····381
spumeus·····283
Inonotus·····331, 351, 355, 359
corrosus·····354
croceus·····291
cuticularis···355, 358, (358)
dryadeus·····355, 357
fibrillosus·····292
hirsutus·····357
hispidus·····335, 356
nidulans·····293
patouillardii·····355, 357
perplexus·····359
pusillus·····360
radiatus·····355, 355
ribis·····365
rutilans·····293
sciurinus·····355, 356
tabacinus·····354
triqueter·····386
Irpex···205, 224, 253, 253, *256, 260*
brevis·····262
castaneus·····204
Cerasi·····214
consors·····262
decurrens·····262
fusco-violaceus······*253, 258*
iyoensis·····352
japonicus·····262
Kusanoi·····262
lacteus·····253, 253, (254)
lamelliformis·····258
Miyabei·····254
Noharae·····*188, 259*
obliquus·····389
pachylon·····389
parvulus·····253, 254
purpurea·····253
purpureus·····260
tabacinoides·····352
tabacinus·····352
Tanakae·····227
unicolor·····265
violaceus·····258
Irpiciporus·····260
consors·····262

japonicus ……262
lacteus ……254
Noharae ……188
Tanakae ……227
Ischnoderma……247, 293, 293, 295, 331
benzoinum ……294
? *dryadeum* ……357
fuliginosum ……294
resinosum …294, 294, (295)
**benzoinum* ……294

K

Karstenia ……208
Kneiffia ……*114, 186*
cinerea ……117
corticalis ……118
cremea ……115
gigantea ……116
glebulosa ……115
incarnata ……120
laevis ……116
purpurea ……146
Ravenelii ……115
Typhae ……122
Kneiffiella ……186
setigera ……186
Kordyana……46, 55
celebensis ……56
commelinae ……56, 56, (56)

L

Lachnocladium dendroides …61
Englerianum ……63
funale ……61
giganteum ……63
insigne ……63
Lauterbachii ……66
Moellerianum ……66
ornatipes ……81
semivestitum ……62
simplex ……95
strictum ……66
subcorticale ……89
Warburgii ……66
Laetiporus ……273, 273, 331
miniatus ……275
speciosus ……274
sulphureus …273, 273, (274)
var. miniatus…273, 275
versisporus ……273, 275
Laschia ……4
subgen. Auriculariella …4
delicata ……6
tremellosa ……6
Lasioderma ……10
Lentaria ……57, 70
mucida ……70, 70, (70)
surculus ……70
Lentinus Thunbergii ……246
Lenzites …223, 224, *237*, 245, *256*
abietina ……239
abietinella ……238
abietis ……259
acuta ……*224, 232*
albida ……227
alutacea ……246
ambigua ……259
Berkeleyi ……246
betulina ……245, 245, (246)
f. daedaloides ……246
Bulliardi ……252
Earlei ……231
flaccida var. *betulina* …246
furcata ……246
gibbosa ……231
heteromorpha ……228
hirsuta ……238
japonica ……232
laricina ……259
lepideus ……389
murinus ……232
nivea ……246
Palisoti ……231
protracta ……241
repanda ……231
rhabarbarina ……238
saepiaria ……238
seriata ……240
styracina ……249
subferruginea ……240
tenuis ……*224, 231*
Thunbergii ……246
trabea ……241
tricolor ……*249, 251*
var. *daedalea* ……248
variegata ……246
vialis ……241
Yoshinagai ……227
Lenzitina ……237
saepiaria ……238
Leptodon ……*192, 193*
auriscalpium ……193
ochraceum ……194
pudorinum ……194
Leptoglossum ……104
flabellatum ……101
Leptoporus ……*275, 276, 285, 288*
adustus ……286
f. carpineus ……286
albosordescens ……282
amorphus ……289
borealis ……284
caesius ……278
chioneus ……279
cinnabarinus ……235
connatus ……255
dichrous ……288
erubescens ……279
fissilis ……282
floriformis ……280
fumosus ……287
imberbis ……287
lacteus ……281
officinalis ……301
pubescens ……280
rutilans ……293
semipileatus ……279
spumeus ……283
Vaillantii ……213
Leptotus ……104
Leucoporus ……*317, 322*
arcularius ……326
brumalis ……318
calceolus ……320
grammocephalus ……324
hirtus ……323
picipes ……321
Lloydella ……105, 143
abietina ……144, 145
bicolor ……144, 144, (145)
boninensis ……144, 150
cinerascens ……144
fusca ……145
hamamelidis ……144, 145
japonica ……144, 150
medica ……166
okabei ……144, 147, (147)
rosea ……144, 149, (149)
rugispora ……144, 146
scabriseta ……146
sepia ……144, 149
striata ……146
subpileata……144, 148, (148)
sulcata ……144, 147, (148)
umbrina ……144, 146, (147)
versiformis ……144, 149
Lopharia ……186, 188
javanica ……188
lirellosa ……188
mirabilis ……188, 188, (189)
Lycoperdon solidum ……218
Lyomyces ……108
roseus ……129

M

Manina……190
coralloides……191
cordiformis……191
flagellum……190
Masseeola crispa……170
Medusina……190
coralloides……191
patula……191
Melanoporella……219
Melanoporia……219
Melanopus……317
picipes……321
squamosus……319
varius……320
Membranaceae……141
Meripilus……335
Merisma……172, 335
anthocephalum……173
confluens……334
cristatum……17
β. fuscum……175
cristatus……334
dendroides……61
foetidum……172
β. anthocephala……173
frondosus……337
gigantea……338
palmatum……172
penicillatum……175
serratum……17
sulfureus……274
umbellata……336
Meruliaceae……46, 201
Meruliporia……212
Merulius……15, *96*, 201, 203, *207*
alveolarius……322
aureus……204, 206
Auricula……7
Cantharellus……97
carneus……103
castaneus……203, 204, (204)
cinereus……99
clavatus……103
corium……204, 206
cornucopioides……101
crispus……203
destruens……207
domesticus……207
fagineus……203
gibbosus……231
infundibuliformis……98
lacrymans……207
var. *pulverulentus*……208
laeticolor……204
mesentericus……5
molluscus……203, 204
papyrinus……206
Pruni……205
pulverulentus……208
sepiarius……238
Spathularia……40
squamosus……238
strigoso-zonatus……202
subauranticus……204
tremellosus……203, 204, 205, (205)
umbrinus……208
vastator……206, 207
Mesenteriformes……21
Microporus……221, 317, 260, 322, 326, 330
abietinus……257
affinis……326, 327
azureus……269
biformis……263
cladotrichus……259
concinnus……326
dependens……384
elongatus……264
Fibula……271
flabelliformis……327, 328, (328)
var. *japonica*……328
hirsutulus……269
hirsutus……266
luteo-olivaceus……251
lutescens……268
luteus……327, 327, (327)
multicolor……270
neaniscus……265
nigricans……269
nigromarginatus……266
nipponicus……327, 329
perennis……383
pergamenus……263
pinsitus……271
prolificans……263
rigidus……315
sanguineus……236
spadiceus……354
subaffinis……327, 329, (329)
tabacinus……354
venustus……259
vernicipes……327, 329
versatilis……259
versicolor……269
xanthopus……327, 330
Microstroma……46
album var. japonicum……46
hexaspora……55
juglandis……46
pentaspora……52
tonellianum……46
Mohortia……11
Mucronella……58
fascicularis……58
pacifica……59
Mucronoporaceae……351
Mucronoporeae……212, 260, 290, 331, 351
Mucronoporus……381
gilvus……370
tomentosus……385
Musseeola……169
Mycobonia papyrina……16
Mycoleptodon……193
guaraniticum……197
ochraceum……194
Rawakense……196
reniforme……197
Myriadoporus adustus……286

N

Naematelia……15, 27
encephala……27, *27*, 27, (27)
encephaliformis……27
japonica……27
Nakaiomyces……15, 27
nipponicus……28, 28, (28)
Necator decretus……112
Neokneiffia……186
Neurophyllum……96, 102
clavatum……102, 102, (103)
fujisanensis……102, 103, (103)
Nigrofomes……300
Nigroporus……300
durus……316
vinosus……310
Nodularia balsamicola……126

O

Ochroporus……359, 368
croceus……291
fomentarius……299
fulvus……373
igniarius……375
lithuaricus……292
odoratus……242
perennis……383
Pini……362
pseudoigniarius……357
radiatus……356

resinosus ······*294*
Ribis ······*365*
f. Euonymi ······*365*
sistotremoides ······*381*
triqueter ······*386*
Odontia ······186, 186
acerina ······*187*
Archeri ······*187*
bicolor ······186, 187
fimbriata ······186
setigera ······186, 186
subtilis ······*187*
Wrightii ······*122, 187*
Oncomyces ······*4*
mesenterica ······*5*
Onigena decorticata ······*10*
faginea ······*10*
Onnia ······260, 331, 351, 384, 388
Cummingii ···358, 387, (388)
musashiensis ······*389*
orientalis ······385, 387, (387)
scaurus ······385, 388, (388)
subpertusa ······385, 386
tomentosa ···385, 385, (386)
triqueter ······385, 386
Ordonia ······*11*
Oxydontia ······186, 189
chrysella ······189, 189
copelandii ···189, 189, (189)
setosa ······189
Oxyporus ······253, 254, 331
obducens ······*256*
populinus ······255, 255
var. *obducens* ······*256*
ravidus ······255, 256

P

Pachyma Cocos ······*218*
Hoelen ······*218*
Patila ······*4*
lobata ······*5*
mesenterica ······*5*
Pellicularia ······104, 105, 105
filamentosa ······106, 106, (106), 107
f. spec. Sasakii ······*107*
f. spec. solani ······*106*
Koleroga ······106
multifida ······*60*
sasakii ······106, 107, (107)
Pelloporus perennis ······*383*
tomentosus ······*385*
Penicillaria ······*59*
multifida ······*60*
Peniophora ······105, 114
aemulans ······*120*
affinis ······114, 116
Allescheri ······*120*
aspera ······*187*
cinerea ······114, 117
corticalis ······*118*
cremea ······114, 115
discoidea ······*119*
Ellisii ······*150*
filamentosa ······114, 114
gigantea ······114, 116, (116)
glebulosa ······114, 115
incarnata ······*119*
intermedia ······*146*
laevis ······*116*
var. *affinis* ······*116*
lilacina ······*117*
mutata ······*120*
nuda ······114, 118
ochracea ······*118*
phyllophila ······*124*
quercina ······114, 118
var. Komabensis ······144, 119
radiata ······*115*
ravenelii ······114, 115
setigera ······*186*
similis ······114, 117
unicolor ······*114*
versicolor ······114, 117
Pereniporia ······*212*
Peziza * Phialea ······*32*
amorpha ······*126*
aurea ······*38*
Auricula ······*7*
Auricula-Judae ······*7*
chrysocoma ······*38*
cornucopioides ······*101*
Digitalis ······*168*
gelatinosa ······*19*
merulina ······*33*
? *nigrescens* ······*8*
? *nigricans* ······*8*
pendula ······*168, 295*
subplana ······*38*
Willkommii ······*126*
Phacorrhiza ······*77*
erythropus ······*79*
filiformis ······*78*
Phaeocarpus ······*168*
Phaeoclavulina ······*62*
Broomei ······*64*
nigrescens ······*64*
phaeodon ······*181*
aspratus ······*183*
aurantiacus ······*177*
imbricatus ······*182*
scabrosus ······*182*
zonatus ······*177*
Phaeolopis ······*384*
Phaeolus ···*243, 290*, 331, 351, 380
albo-sordescens ······*282*
aurantiacus ······*292*
biennis ······*245*
fibrillosus ······*292*
nidulans ······*293*
rutilans ······*293*
schweinitzii ······380, 380, (381)
sistotremoides ······*381*
Phaeoporus applanatus ······*347*
cuticularis ······*358*
hispidus ······*356*
lucidus ······*342*
obliquus ······*221*
vegetus ······*348*
Phaeopterula ······*59*
Phaeoradulum ······*187*
Phanerochaete odorata ······*143*
Phellinus ······298, 351, 359, *359*, 368, 380
baumii ······369, 377, (377)
cinnabarinus ······*235*
cryptarum ······*303*
dryadeus ······*357*
ferruginosus ······*222*
fulvus ······*379*
f. Prunastri ······*379*
gilvoides ······369, 378
gilvus ······369, 369, (370)
hamatus ······369, 371, (371)
hartigii ···219, 369, 373, (373)
igniarius ······*219*, 368, 369, 374, (375), 379
isabellinus ······219, 369, 378
laevigatus ······*375*
Lonicerae ······*365*
lonicerinus ······*366*
nigrolimitatus ······369, 377
pachyphloeum ······*366*
pini ······*363*
pomaceus ······369, 379, (379)
ribis ······*365*
rimosus ······369, 375, (376)
robustus ······369, 372, (372), 379
f. Hartigii ······*373*
rubriporus ······*370*
salicinus
var. *Loniceae* ······*365*

setulosus ……369, 374
torulosus ……369, 370, (371)
Williamsii ……*361*
yucatanensis……369, 376, (376)
Phellodon ……*176*
amicus ……*180*
cyathiforme ……*178*
graveolens ……*179*
melaleucus ……*179*
niger ……*180*
pullus ……*179, 180*
vellereus ……*180*
Phelloporus ……*384*
Phialea merulina ……*33*
Phlebia ……201, 202
aurantiaca ……*202*
var. *radiata* ……*202*
mesenterica ……*5*
radiata ……202, 202
reflexa ……*202*
strigoso-zonata ……202, 202
Phleogena ……*10*
faginea ……*10*
Phlogiotis ……15, 29, 32, 39
helvelloides ……29, 29, (30)
rufa ……*29*
Phylacteria ……*172*
anthocephala ……*173*
laciniata ……*175*
multipartita ……*173*
palmata ……*172*
terrestris ……*175*
Phylacteriaceae ……46, 105, 170
Phylacterieae ……170, 171
Phyllocarbon Yasudai ……*184*
Phyllodontia ……*260*
unicolor ……*265*
Physalacria ……57, 71
inflata ……71
var. orientalis ……71, 71
komabensis ……71, 72
sasae ……71, 71
f. sterilis ……71, 71, (72)
Physisporinus ……*212*
Physisporus ……*212, 219*
callosus ……*226*
euporus ……*217*
ferruginosus ……*221*
lenis ……*216*
luteoalbus ……*215*
makraulos ……*303*
medulla-panis ……*215*
obducans ……*255*
obliquus ……*221*
radulus ……*217*
serpens ……*236*
Vaillantii ……*213*
Pilacraceae ……2, 10
Pilacre ……10, 10
faginea ……10, 10, (10)
Petersii ……*10*
Piptoporinae ……223, 293, 331
Piptoporus ……247, 293, 296, 331
betulinus ……296, 296
erubescens ……*279*
officinalis ……*301*
quercinus ……296, 297
suberosus ……*297*
Pistillaria ……58, 77, 79
alba ……80, 80
Dryopteridis ……*77*
petasitidis ……80, 80, (80)
pusilla ……80
quercicola ……80, 80, (80)
Placodes ……*294, 298, 300, 341*
annosus ……*303*
applanatus ……*347*
australis ……*347*
betulinus ……*297*
dryadeus ……*357*
fomentarius ……*299*
fulvus ……*379*
fuscatus ……*370*
igniarius ……*375*
var. *fulvus* ……*373*
lucidus ……*342*
marginata ……*307*
pinicola ……*307*
pomaceus ……*379*
quercinus ……*297*
robustus ……*372*
roseus ……*309*
ulmarius ……*313*
ungulatus ……*307*
vegetus ……*347*
Platygloea ……2, 4
nigricans ……4
sp. ……*4*
Pleurodon ……*192, 193*
auriscalpium ……*193*
pudorinum ……*194*
Plicatura ……201, 203
crispa ……203, 203
faginea ……*203*
Podoporia ……*212*
Podoscypha ……105, 150
albida ……151, 153, (154)
burtiana ……150, 151, (151)
diaphana ……150, 151
elegans ……150, 151
harmandi ……151, 153
obliqua ……151, 152, (153)
obliquula ……151, 153, (153)
surinamensis……151, 152, (152)
Polyozelleae ……171, 184
Polyozellus ……171, 184
multiplex ……184, 184
Polyozus contortus ……*62*
Polypilus ……*273, 335, 338*
caudicinus ……*274*
confluens ……*334*
cristatus ……*334*
frondosus ……*337*
poripes ……*334*
ramossimus ……*336*
speciosus ……*274*
sulfureus ……*274*
umbellatus ……*336*
Polyporaceae ……46, 211
Polyporales ……*45*
Polyporeae ……212, 222, 260
Polyporellus ……317, 317, 331
alveolarius ……*323*
arcularius ……*326*
brumalis ……317, 317, (318)
elegans ……321
hirtus ……*323*
picipes ……317, 321, 321
Polyporus ……*318*
squamosus ……317, 319, (320)
Tuberaster ……*332*
varius ……317, 320, 321, (321)
Polyporinae ……223, 330
Polyporus……185, 211, *243*, *254*, *273*, 276, *276*, *285*, *288*, *290*, *294*, *295*, *296*, *317*, *322*, 330, 330, *330*, 331, *335*, *338*, *339*, *341*, *350*, *355*, *359*, *380*, *385*
abietinus ……*257*
adustus ……*286*
*adustus * carpineus* ……*286*
f. secernibilis ……*286*
affinis ……*327*
albellus ……*281*
albosordescens ……*282*
alutaceus ……*277*
alveolarius ……*322*
amorphus ……*289*
amygdalinus ……*285*
anceps ……*282*
anebus ……*234*
annosus ……*302*
apalus ……*281*

apiarius ······247
applanatus ······347
arculariellus ······326
arculariformis ······326
arcularius ······325
argyraceus ······268
Artemidorus ······334
attenuata ······217
Auberianus ······314
aurantiacus ······292
aurantius ······334
aureolus ······289
aureo-nitens ······356
australis ······347
badius ······310
balsameus ······285
benzoinus ······294
betulinus ······296
bibulus ······215
biennis ······244
var. *rufescens* ······245
biformis ······263
bivalvis ······250
Blyttii ······217
borealis ······284
breviporus ······370
brumalis ······318
caeruleoporus ······331, 333
caesiosimulans ······278
caesius ······278
calceolus ······320
caliginosus ······311
callosus ······226
calvatioides ······275
candidus ······279
cantharellus ······331, 331
carneofulvus ······370
carneus ······310
carolinensis ······263
caryophylleus ······366
castanophilus ······291
caudicinus ······274, 319
chioneus ······279
Chu-ling ······336
ciliatulus ······281
cincinnatus ······274
cinnabarinus ······235
cinnamomeus ······382
circinatus ······385
cladotrichus ······259
Colossus ······345
conchifer ······261
confluens ······331, 334
connatus ······255
cristatus ······331, 333
croceus ······291
cryptarum ······302
cuculatus ······355
Cummingii ······387
cupulaeformis ······296
Curtisii ······344
cuticularis ······358
dependens ······384
dichrous ······288
var. *Maccuni* ······221
Dickinsii ······338
diminutus ······324
dispansus ······331, 334
dryadeus ······357
durus ······315
elegans ······320
Ellisianus ······282
elongatus ······264
Emerici ······324
endocrocinus ······356
epilinteus ······217
epimiltinus ······218
erubescens ······279
euporus ······217
Evonymi ······365
fastuosus ······363
favoloides ······323
ferruginosus ······221
fibrillosus ······292
Fibula ······271
fissilis ······282
fissus ······321
flabelliformis ···319, 328, 334
floriformis ······280
foedatus ······389
fomentarius ······299
var. *excavatus* ······299
fornicatus ······345
fragilis ······282
frondosus ······336
frustularis ······226
fuliginosus ······294
fulvus ······373, 379
fumosus ······287
fusco-purpureus ······370
fuscus ······295
geotropus ······314
giganteus ······337
Gillotii ······303
gilvus ······369
glaucotus ······347
glomeratus ······355
grammocephalus ······324
var. *Emerici* ······324
Greenii ······384
griseo-durus ······285
griseus ······185
Guilfoylei ······324
guttulatus ······277
Hartigii ······373
heteroporus ······244
Hinoi ······331
hirsutulus ······268
hirsutus ······266
hirtus ······323
hispidellus ······323
hispidoides ······381
hispidus ······356
hypococcinus ······291
igniarius ······374
b. minor ······379
illicicola ······360, 370
illudens ······335
imberbis ······287
incrustans ······221
inflatus ······350
infundibuliformis ······320
intybaceus ······338
Ireyei ······389
irregularis ······289, 303
isabellinus ······286
Itoi ······225
japonicus ······342
junctus ······316
juxtarugosus ······340
Kanehirae ······367
Komatsuzakii ······301
laccatus ······342
lacteus ······281
laevigatus ······375
Laricis ······301
Lenkinsenses ······389
leucomelas ······185
subsquamosus γ ······185
leucophaeus ······347
levis ······287
lignosus ······314
lithophylloides ······338
Lloydii ······270
Lonicerae ······365
loricatus α ······374
lucidus ······342
luridus ······318
luteo-olivaceus ······251
lutescens ······234, 268
luteus ······327
Macouni ······221
maculatus ······277

makraulos ··· 303
malacotis ··· 272
marginatus ··· 306
mariannus ··· 234
medulla-panis ··· 215
megaloma ··· 347
Mikadoi ··· 358
mikawai ··· 325
mikraulos ··· 389
miniatus ··· 275
Mollerianus ··· 311
mollis ··· 279, 380
molliusculus ··· 263
montagnei var. *greenii* ··· 384
montanus ··· 338
Mori ··· 322
morosus ··· 294
multicolor ··· 270
musashiensis ··· 389
mutabilis ··· 389
neaniscus ··· 265
nidulans ··· 268, 293
nigricans ··· 269
nigrolimitatus ··· 377
nitidulus ··· 331
obducens ··· 255
obliquus ··· 221
obvolutus ··· 350
ochroleucus ··· 316
ochrotinctus ··· 329
odoratus ··· 242
officinalis ··· 301
omphalodes ··· 340
oregonensis ··· 344
orientalis ··· 387
ovinus ··· 331, 332
oxyporus ··· 255
pachyphloeus ··· 366
pallido-cervinus ··· 293
pargamenus ··· 263
parvulus ··· 257, 382
Patouillardii ··· 357
perennis ··· 383
piceinus ··· 362
picipes ··· 321
Pilotae ··· 291
Pini ··· 362
pinicola ··· 306
pinsitus ··· 270
plicatus ··· 355
pocas ··· 389
Pocula ··· 295
Polyporus ··· 318
polyzonus ··· 267
pomaceus ··· 379
  β. prunastri ··· 379
populinus ··· 255
poripes ··· 334
profissilis ··· 282
prolificans ··· 263
pseudoigniarius ··· 358
pubertatis ··· 312
pubescens ··· 280
pulchella ··· 215
pullus ··· 364
punctatus ··· 220
purpurascens ··· 206
pusillus ··· 324
quercinus ··· 297
radiatus ··· 355
Radulus ··· 217
ramosissimus ··· 336
ravidus ··· 256
resinosus ··· 294
resinosus * *benzoinus* ··· 294
rheades ··· 357
Rhipidium
  f. pusillus ··· 324
  var. *pusillus* ··· 324
rhodophaeus ··· 305
Ribesius ··· 365
Ribis ··· 365
rigidus ··· 315
rimosus ··· 375
rixosus ··· 218
roseo-poris ··· 289
roseus ··· 308
rubiginosus ··· 365
rufescens ··· 244, 385
rufo-pallidus ··· 308
rugosus ··· 340
rugulosus ··· 315
rutilans ··· 293
Saitoi ··· 321
sambuceus ··· 278
sanguineus ··· 236
scalaris ··· 226
scaurus ··· 388
Schimae ··· 331
Schweinitzii ··· 380
  var. *tabulaeformis* ··· 381
scoticus ··· 303
scutellatus ··· 302
secernibilis ··· 286
semilaccatus ··· 305
semipileatus ··· 279
semisupinus ··· 279
sendaiensis ··· 389
serialis ··· 226
serpens ··· 236
serpentarius ··· 302
sessilis ··· 345
setosus ··· 378, 380
Shiraianus ··· 292
sistotremoides ··· 381
sordidus ··· 283
spectabilis ··· 380
splendens ··· 382
spongia ··· 380
Spraguei ··· 283
spumeus ··· 283
squalens ··· 277
squamosus ··· 319
Stephensii ··· 236
suaveolens ··· 225
suaveolens * *populinus* ··· 255
subacida ··· 214
subcinereus ··· 286
suberosus ··· 293, 297
subpellucidus ··· 272
subpertusus ··· 386
subpileatus ··· 303
subradiatus ··· 359
subsericeus ··· 382
subsquamosus ··· 332
substygius ··· 362
sulfureus ··· 274
Sullivantii ··· 280
sulphureus ··· 274
tabacinus ··· 354
tabulaeformis ··· 380
tenuis ··· 378
tokyoensis ··· 278
tomentosus ··· 385
tornatus ··· 347
torulosus ··· 370
trabeus ··· 281
triqueter ··· 386
tristis ··· 310
Tsugae ··· 344
Tsunodae ··· 349
tuberaster ··· 331, 332, (332)
  var. *japonica* ··· 332
ulmarius ··· 313
Ulmi ··· 319
umbellatus ··· 335
umbonatus ··· 270
undatus ··· 302
undosus ··· 285
Vaillantii ··· 213
valesiacus ··· 345
vaporarius ··· 216
varius ··· 320

vegetus ······ 347
vernicipes ······ 329
versicolor ······ 268
β. fuscatus ······ 268
versisporus ······ 214, 275
vinosus ······ 310
vitellinus ······ 216
viticola ······ 378
vittatus ······ 232
volvatus ······ 350
var. *Helix* ······ 351
vulgaris var. *calceus* ······ 215
Wakawae ······ 389
Wightii ······ 247
xanthopus ······ 330
xanthus ······ 215
xerampelinus ······ 354
Xerophyllaceus ······ 301
yasudai ······ 331, 333
Yoshinagai ······ 315
zonalis ······ 315
var. *semilaccatus* ······ 305
zonatulus ······ 280
zonatus ······ 270
Polyporus ser. Poria ······ 212
Polysticta ······ 211
Polystictoides ······ 355
Polystictus ······ 211, 224, 256, 260, 271, 326, 380, 382, 385
abietinus ······ 257
affinis ······ 327
albo-regularis ······ 271
aurantiacus ······ 292
azureus ······ 269
badius ······ 311
balsameus ······ 285
biformis ······ 263
bivalvis ······ 250
Blumei ······ 272
breviporus ······ 370
caesio-glaucus ······ 253
caperatus ······ 272
carpineus ······ 286
celebicus ······ 328
cinnabarinus ······ 235
cinnamomeus ······ 382
circinatus ······ 385
var. *triqueter* ······ 386
cladotrichus ······ 259
conchifer ······ 261
crenatus ······ 389
Cryptomeriae ······ 272
Cummingii ······ 387
cuneatus ······ 290
dependens ······ 384
discipes ······ 330
elegans ······ 320
elongatus ······ 264
fibula ······ 271
flabelliformis ······ 328
floriformis ······ 280
fuscatus ······ 269
gilvus ······ 370
glabratus ······ 285
Gleadowii ······ 272
grammocephalus ······ 324
greenii ······ 384
gypseus ······ 291
heteromorpha ······ 228
hirsutulus ······ 269
hirsutus ······ 266
f. albidus ······ 267
var. *albus* ······ 267
var. *fibula* ······ 271
f. pores-adustus ······ 267
hirtellus ······ 266
hispidus ······ 257
Ikenoi ······ 272
illicicola ······ 360
iodinus ······ 354
jamaicensis ······ 271
luteo-olivaceus ······ 251
var. *fuscus* ······ 251
lutescens ······ 268
luteus ······ 327
minutoporus ······ 330
Mollerianus ······ 310
neaniscus ······ 265
nigricans ······ 269
nigromarginatus ······ 266
nipponicus ······ 329
oblectans ······ 382
ochraceus ······ 270
ochrohirsutus ······ 267
ochrotinctus ······ 229
orientalis ······ 224, 233
pargamenus ······ 263
Patouillardii ······ 357
pellucidus ······ 272
perennis ······ 260, 383
Persoonii ······ 304
piceinus ······ 362
pinsitus ······ 271
Pocas ······ 389
polyzonus ······ 267
prolificans ······ 263
pterygodes ······ 330
pubescens ······ 281
purpureofuscus ······ 370
radiatus ······ 265, 355
ravidus ······ 256
rigidus ······ 315
rufescens ······ 244
sanguinea ······ 224
sanguineus ······ 236
Schweinitzii ······ 381
scopulosus ······ 329
Sequoiae ······ 290, 389
Shenoi ······ 272
spadiceus ······ 354
subaffinis ······ 329
subpertusus ······ 386
subpictus ······ 272
subsericeus ······ 382
substygius ······ 362
sulcifer ······ 272
Sullivantii ······ 280
tabacinus ······ 354
tomentosus ······ 385
triqueter ······ 386
undatus ······ 303
unicolor ······ 265
vellereus ······ 271
velutinus ······ 281
f. glaber ······ 281
venulosus ······ 280
venustus ······ 259
vernicipes ······ 329
versatilis ······ 259
versicolor ······ 268
f. azureus ······ 269
var. *fuscatus* ······ 269
var. *nigricans* ······ 269
vinosus ······ 310
virgineus ······ 261
vittatus ······ 232
xanthopus ······ 330
xerampelinus ······ 354
xerophyllaceus ······ 310
zonatus ······ 270
Poria ······ 211, 212, 212
argentea ······ 286
attenuata ······ 217
aurantiotingens ······ 218
betulina ······ 375
Blyttii ······ 217
var. *eupora* ······ 217
calcea var. *coriacea* ······ 216
var. *luteoalba* ······ 215
var. *xantha* ······ 215
callosa ······ 226
cocos ······ 213, 218, (218)
epilintea ······ 217
epimiltina ······ 213, 218

eupora ……213, 216
var. *subfimbriata* ……*217*
fatiscens ……*222*
ferruginosa ……*221*
Friesiana ……*220*
glaucogilva ……*222*
incerta ……*216*
inermis ……*220*
laminata ……*220*
laevigata ……*375*
lenis ……213, 215
luteo-alba ……*215*
Macouni ……*221*
makraulos ……*303*
medulla-panis ……213, 214
var. *pulchella* ……*215*
medullaris ……*215*
nitida ……*217*
obducens ……*255*
obliqua ……*221*
obliquiformis ……*220*
ornata ……*222*
prunicola ……*222*
pulchella ……*215*
punctata ……*220*
radula ……213, 217
rixosa ……213, 217
setigera ……*356*
sinuosa ……*222*
subacida ……213, 214
subspadicea ……*222*
tsugina ……*373*
Tulipiferae ……*222*
vaillantii ……212, 213
vaporaria ……213, *213*, *214*, 216
versipora ……213, 214
vitellina ……213, 216
viticola ……*378*
vulgaris ……212
vulgarjs var. luteo-alla ……*215*
Weirii ……*220*
xantha ……213, 215
Porieae ……212, 212
Porodaedalea ……*359*
Pini ……*363*
Porodisculus ……293, 295, 331
pendulus ……295, 295, (296)
Porodiscus ……*295*
pendula ……*296*
Poronidulus ……*260*
conchifer ……*261*
Prillieuxia ……*208*
Prothelium Vaillantii ……*213*
Pseudofomes ……*368*
Pseudotrametes ……*231*
Pterula ……57, 59
dendroides ……*61*
fasicularis ……*58*
fusispora ……59, 60, (60)
multifida ……59, 59, (60)
penicillata ……*60*
subulata ……59, 59
Ptychogaster Japonicus ……*342*
lucidus ……*342*
versisporus ……*275*
Punctularia ……*108*
Pycnodon ……*186*
Pycnoporellus ……*290*
fibrillosus ……*292*
Pycnoporus ……*223*
cinnabarinus ……*235*
sanguineus ……*236*
serialis ……*226*
Pyropolyporus ……*368*
Bakeri ……*372*
caliginosus ……*311*
fastuosus ……*364*
fulvus ……*379*
igniarius ……*375*
lamaensis ……*361*
Merrillii ……*366*
Ribis ……*365*
Robiniae ……*376*
Williamsii ……*361*
Yucatanensis ……*376*
Pyrrhoderma ……351, 388
musashiense ……389, 389
sendaiense ……388, 389, 389

R

Radicatae ……114
Radulum ……120, 186, 187
investiens ……*124*
javanicum ……*188*
membranaceum ……*188*
mirabile ……*188*
molare ……188, 188
molariforme ……*188*
orbiculare ……188
Ramaria ……57, 62
apiculata ……63, 66, (66)
aurea ……63, 69, (69)
botryoides ……63, 68
botrytis ……62, 63, 66
corniculata ……*92*
cristata ……*82*
cyanocephala ……63, 63
fallax ……*82*
fastigiata ……*92*
flaccida ……63, 64
flava ……63, 68, (69)
formosa ……63, 67
grandis ……63, 64
Kunzei ……*89*
moelleriana ……63, 66
muscoides ……*92*
nigrescens ……63, 64, (64)
obtusissima ……63, 70
pratensis ……*92*
rugosa ……*83*
stricta ……62, 63, 65, (65)
subbotrytis ……63, 68
Ramariopsis ……58, 89
crocea ……89, 90
kunzei ……89, 89, (90)
Resupinatae ……154
Rhizoctonia centrifuga ……*111*
Solani ……*106*
Rigidoporus ……298, 312
durus ……313, 315
geotropus ……313, 314, (314)
lignosus ……313, 314
microporus ……*315*
rhodophaeus ……*305*
ulmarius ……313, 313, (313)
zonalis ……313, 315
Romellia sistotremoides ……*381*

S

Sarcodon ……171, 181, 185
amicum ……*180*
aspratum ……181, 183
blackfordae ……181, 183
imbricatum ……181, 181
laevigatum ……181, 182
pygmaeum ……181, 184
repandum ……*199*
var. *rufescens* ……*200*
scabrosum ……181, 182
violascens ……181, 183, (184)
Sarcoporia ……*212*
Scenidium ……*247*
apiarium ……*247*
tenue ……*250*
Thwaitesii ……*250*
Wightii ……*247*
Scindalma ……*368*
annosum ……*303*
connatus ……*255*
fastuosum ……*364*
fomentarius ……*299*
glaucotum ……*348*
igniarium ……*375*
leucophaeum ……*348*

lipsiense ··· 348
Lonicerae ··· 365
marginatum ··· 307
Megaloma ··· 348
omphalodes ··· 340
pachyphloeum ··· 366
populinum ··· 255
Ribis ··· 365
rimosum ··· 376
roseum ··· 309
rugulosum ··· 315
semilaccatum ··· 305
semiovatum ··· 307
substygium ··· 362
ungulatum ··· 307
variegatum ··· 342
volvatum ··· 351
Scleromitra ··· 79
Sclerotium Cocos ··· 218
irregulare ··· 107
Oryzae ··· 107
Rolfsii ··· 111
Scutiger ··· 330
caeruleoporus ··· 333
confluens ··· 334
cristatus ··· 334
griseus ··· 185
hispidellus ··· 323
ovinus ··· 332
Scyphopilus ··· 172
Sebacina ··· 15, 16
dendroidea ··· 17, 17, (18)
incrustans ··· 17, 17
laciniata ··· 17
Septobasidiaceae ··· 2, 11
Septobasidium ··· 11, 11
bogoriense ··· 11, 11, (12)
compactum ··· *3*
indigophorum ··· 11, 14, (14)
mariani var. japoicum ··· 11, 14
Mompa ··· *3, 12*
f. macrosporum ··· *3*
pedicellatum ··· 12
pilosum ··· 11, 13
prunophilum ··· 11, 14
tanakae ··· 11, *12*, 13, (13)
velutinum ··· 11
Septocolla adpressa ··· 35
Serpula ··· *203, 207*
aurea ··· 206
destruens ··· 207
lacrymans ··· 207
mollusca ··· 204
Sesia ··· 203
aurea ··· 206
byssina ··· 207
Corium ··· 206
hirsuta ··· 238
mollusca ··· 204
pallidofulva ··· 241
striata ··· 241
tremellosa ··· 205
Sirobasidiaceae ··· 15
Sistotrema bienne ··· 244
cellare ··· 207
cinereum ··· 264
*cinereum * lutescens* ··· 256
decipiens ··· 258
fusco-violaceum ··· 258
lacteum ··· 254
molariforme ··· 188
rufescens ··· 244
spadicea ··· 380
unicolor ··· 265
violaceum ··· 258
Solenia ··· 105, 168
candida ··· 168
filicina ··· 169, (169)
Soppitella ··· 16
cristata ··· 17
sebacea ··· 17
Sparasseae ··· 105, 169
Sparassis ··· 105, 169
crispa ··· 169, 169, (169)
ramosa ··· 170
Sparassoides ··· 21
Sphaeria Pocula ··· 295
Sphaerula ··· 80
Spongipellis ··· 276
borealis ··· 284
fissilis ··· 282
occidentalis ··· 283
spumeus ··· 283
Spongiporus ··· 276
Steccherinum ··· 186, 193
adustum ··· 194, 196
agaricoides ··· 196
helvolum ··· 194, 197
Morgani ··· 197
ochraceum ··· 193, 194, 194, (195)
pergameneum ··· 194, 197
pulcherrimum ··· 194, 196
rawakense ··· 194, 196
reniforme ··· 197
Rhois ··· 194
septentrionale ··· 194, 195, (195)
Stereae ··· 105, 130
Stereofomes annosus ··· 140
Palmicola ··· 143
Stereum ··· 105, 130, 144, *150*, 154
abietinum ··· 145
acerinum ··· 128
adustum ··· 158
albidum ··· 153
annosum ··· 131, 139, (140)
arcticum ··· 136
attenuatum ··· 159
avellanum ··· 156
Bertolonii ··· 137
bicolor ··· 144
boninense ··· 150
Burtianum ··· 151
Burtissimum ··· 149
caperatum ··· 167
cinericum ··· 136
coffeatum ··· 144
complicatum ··· 137
contrarium ··· 141
corugatum ··· 164
Coryli ··· 133
crassum ··· 146
crispum ··· 134
cristulatum ··· 132
diaphana ··· 152
duriusculum ··· 143
durum ··· 140
elegans ··· 151
elegantissimum ··· 159
epigaeum ··· 125
evolvens ··· 113
fasciatum ··· 131, 136, (137)
ferruginea ··· 157
frustulosum ··· 131, 142, (143)
fulvo-nitens ··· 152
fuscum ··· 145
gausapatum ··· 130, 132, (133)
glaucescens ··· 146
hamamelidis ··· 145
Harmandi ··· 153
hirsutum ··· 130, 131, 135, (136)
var. *cristulatum* ··· 132
hiugense ··· 131, 141, (142)
illudens ··· 131, 140
induratum ··· 149
intricatum ··· 160
japonicum ··· *150, 166*
kurilense ··· 131, 140
laciniatum ··· 174
lilacino-fuscum ··· 142
liratum ··· 138
medicum ··· 166

membranaceum ············147
molle ············136
Mougeotii ············161
nipponicum ············132
obliquulum ············153
obliquum ············152
occidentale ············132
odoratum ············131, 143
ostreum ············136
palmicolum ············143
plicatulum ············133
Portentosum ············109
princeps ······131, 141, (141)
purpureum ···130, 131, (132)
pusillum ············143
radians ············137
radiatum ······131, 138, (139)
var. *reflexum* ············139
rameale ············131, 137
reflexum ············136
rimosum ······130, 135, (135)
roseo-corneum ······131, 142
roseum ············149
rugisporum ············146
rugosum ······130, 133, (134)
Sallei ············160
sanguinolentum
············130, 134, (134)
scytale ············141
sendaiense ············142
sepium ············143, 149
spadiceum ············132
var. *plicatum* ············132
spectabile······131, 139, (139)
spiniferum ············140
striatum ············146
subcruentatum ············130
subpileatum ············148
sulcatum ············148
surinamense ············152
tabacinum ············155
tenuissimum ············159
tuberosum ············62
umbrinum ············146
variicolor ············136
vellereum ············131, 140
versicolor ············131, 137
versiforme ············149
vibrans·········131, 138, (138)
vorticosum ············132
Strilia ············382
cinnamomea ············382
Stypinella ············2
Mompa ············3
purpurea ············3
Tanakae ············13

T

Tachaphantium ············4
Terana caerulea ············113
chrysocreas ············122
evolvens ············113
portentosa ············109
salmonicolor ············112
Thaelaephora mesenterica ······5
Thelephora ············*150*, 171, 172
subt. Coniophora
············208
* *Corticium* ············108
abietina ············145
acerina ············128
adglutinata ············118
adusta ············158
amorpha ············126
anthocephala·········172,
173, (173)
anthrochroa ············142
arida ············209
aspera ············186
atrocaerulea ············113
aurantia ············127
bicolor ············144
bolaris ············119
borealis ············202
caerulea ············113
calcea var. *glebulosa* ······115
caperata ············167
caryophyllea ············174
cerebella ············209
cinerea ············117
cinnamomea ············162
confluens ············111
contorta ············62
Corium ············206
corrugata ············164
corticalis ············118
corylea ············133
crassa ············146
crispa ············134
cristata ············17
dendroidea ············18
dendroides ············61
diaphana ············151
digitata ············173
domestica ············207
elegans ············151
epiderma ············112
epiphylla ············124
episphaeria ············166
evolvens ············112
fallax ············119
fasciata ············136
ferruginea ············157
fimbriata ············113, 116
frustulata ············143
funalis ············61
fusca ············144, 171
galactina ············110
gausapata ············132
gigantea ············116
hirsuta ············135
β. ramealis ············137
imbricatula ············155
incarnata ············119
incrustans ············17
Indigo ············113
japonica ············172, 174
komabensis ············152
laciniata ············175
laevis ············112, 116
lateritia ············119
Laurocerasi ············133
laxa ············113
lilacina ············117
lobata ············137
macrorrhiza ············151
mesenterica ············5
mollis ············136
Mougeotii ············161
multipartita·········172,
173, (174)
nuda ············118
ochracea ············135
odorata ············143
Ostrea ············136
padi ············164
palmata ······172, 172, (172)
β. anthocephala ······173
papillosa ············172, 174
penicillata ············175
perdix ············143
pergamenea ············116
princeps ············141
purpurea ············5, 132
puteana ············209
quercina ············118
ramealis ············137
rosea ············129
rosec-carnea ············142
rubiginosa ············157
rugosa ············133
sanguinolenta ············134
sebacea ············17
sericea β. sanguinolenta
············134

setigera……186
sinuans……143
soluta……173
spadicea……132
spiculosa……172, 175
striata……145
subochracea……124
subzonata……135
tabacina……155
α. chrysoloma……155
terrestris……172, 174, (175)
tremellina……5
tremelloides……5
tristis……175
tuberosa……62
Typhae……122
versicolor……137
β. fasiata……136
vinosa……171
viscosa……22
Willeyi……151
Thelephoreae……171
Thelephorella……166
Thwaitesiella……188
mirabilis……188
Tinctoporia……219
aurantiotingens……218
Tomentella……105, 170, 171
sect. Tomellastrum
subsect. Botrytes……105
brunnea……209
ferruginea……171
fusca……171, 171, (171)
Tomophagus Colossus……345
Trachyderma……339, 349
tsunodae……349, 349, (349)
Trametes……211, 223, 223,
224, *237*, 245, *247*, 272, *272*
abietina……257
Abietis……363
acuta……224, 232, (232)
albida……224, 227, (227)
f. serpens……237
aneba……225, 234
annosa……303
anulata……242
benzoina……294
betulina……246
biformis……263
Bulliardi……252
carnea……310
cilicioides……259
cinnabarina……225, 235, (235)
f. sanguinea……236
conchifer……261
confragosa……*224*, *248*, *251*
var. *Lenzites tricolor*
……249
connata……255
crenulata……272
cuneata……290
dickinsii……224, 229, (229)
Evonymi……365
favus var. *Trogii*……228
flavescens……224, 226
fusca……389
gibbosa……224, 230, (231)
gilboides……378
heteromorpha……224, *227*, 228
hirsutus……267
hispida……225, *228*,
234, 234, (234)
insularis……304
isabellina……378
japonica……304
kusanoana……224, 230, (230)
kusanoi……*227*, *230*
lacerata……228
lactea……*237*, *254*
lactinea……237
ljubarskyi……224, 233
Lonicerae……365
lutescens……234
var. *Trogii*……228
malicola……225, 234
marginata……307
medulla-panis……215
minutissima……285
mollis……*224*, *272*
muelleri……224, 233
nigroaspera……248
ochroleucus……316
odorata……242
odoratum……224
orientalis……224, 232, (233)
palisoti……224, 231
perennis……383
Picei……367
piceinus……363
picta……313
Pini……*307*, *362*, *367*
pinicola……307
populina……255
protracta……241
pubescens……280
purpurea……224, 230
radiciperda……303
ravida……256
Ribis……365
rosea……308
roseola……229
roseo-zonata……309
rubescens……252
sanguinea……225, 236
scutellata……302
sendaiensis……225, 237
sensitiva……304
sepium……227
serialis……224, 226
serpens……225, 236
setosus……378
squalens……277
styracicola……237
suaveolens……223,
224, 225, (225)
subrosea……309, *309*
tenuis……378
tomentosus……385
trabea……241
trabeum……224
tricolor……251
tristis……310
trogii……224, 228, (229)
truncatospora……316
ungulata……243
unicolor……265
versatilis……259
versicolor……269
vittata……*232*, *233*
Zollingeriana……259
zonata……270
Trametinae……223, 223
Tremella……15, 20, *23*, 27, *27*, 28
arborea……20
atra……20
aurantia……36
Auricula……7
Auricula-Judae……7
auriformis……*7*, *24*
boninensis……21, 21, (22)
candida……21, 22
caulicola……21, 23
cerebrina……24
chrysocoma……24
crispa……26
deliquescens……35
encephala……27
encephaliformis……27
ferruginea……25
fimbriata……21, 25
flammea……21, 23
foliacea……21, 25, 25, (25)
frondosa……21, 25
fuciformis……21, 23, 26, (26)
f.corniculata……21, 26

glandulosa ……20
helvelloides ……29
iduensis ……21, 24
incrustans ……21, 22
isabellina ……21, 23
japonica ……27
lacrymalis ……35
lichenoides ……27
lutescens ……24, 33
mesenterica ……21, 24, (24)
mesenteriformis ……25
mycetophiloides ……21, 22
neofibulifera ……21, 23
palmata ……35, 42
pulvinalis ……21, 23
recisa ……19
roseo-tincta ……21, 24
rufa ……29
sagarum ……19
salicum ……19
samoensis ……21, 21
samoensis var. *boninensis* ……21
spiculosa ……20
succina ……25
tinctoria ……26
undulata ……26
verticalis ……26
viscosa ……21, 22
Tremellaceae ……15, 15
Tremellales ……1, 15
Tremellella ……21
Tremellodon ……16, 30
crystallinum ……31
gelatinosum ……30, 30, (30)
Trogia ……203
crispa ……203
faginea ……203
Trombetta aurea ……102
clavata ……103
dubia ……102
Truncospora ……298, 316
ochroleuca ……316, 316
truncatospora ……316, 316
Tubinellus ……96
floccosus ……100
Tubuliferae ……114
Tylodon ……187
Typhula ……58, 77
subgen. Leptorrhizae ……79
subgen. Phacorrhiza ……77
alba ……80
erythropus ……77, 79
filata ……78
graminum ……78
incarnata ……77, 78, (78)
ishikariensis ……77, 79
Itoana ……78
juncea ……76
phacorrhiza ……77, 77
subsclerotioides ……77, 79
tochinaiana ……77, 78, (78)
Tyrodon ……199
repandus ……199
rufescens ……200
violascens ……183
Tyromyces ……273, *273*, ……275, 285, 331
amorphus ……289
anceps ……276, 281
balsameus ……277, 285, (285)
borealis ……277, 284, (284)
caesius ……276, 278
chioneus ……276, 279
Ellisianus ……282
erubescens ……276, 279
fissilis ……276, 282
floriformis ……276, 280
guttulatus ……276, 277, (277)
incarnatus ……276, 282
lacteus ……276, 281
profissilis ……276, 282
pubescens ……276, 280
sambuceus ……276, 278
semipileatus ……279
semisupinus ……279
spraguei ……276, 283
spumeus ……276, 283
squalens ……276, 277
sulphureus ……275
Symploci ……285
zonatulus ……276, 280
Tyromycetinae ……223, 273, 331

U

Ulocola foliacea ……25
mesenteriformis ……25
Ungularia ……296
Ungulina ……*294, 296, 298, 300*
annosa ……303
Auberiana ……315
benzoina ……295
betulina ……297
fomentaria ……299
fuliginosa ……*294, 295*
marginata ……307
ochroleuca ……316
officinalis ……301
pinicola ……307
quercina ……297
rosea ……309
scutellata ……302
ulmaria ……313
volvata ……351
var. *pleurostoma* ……351
Uredinales ……1, 211
Uredinella ……11
Urobasidium ……46
rostratum ……46
Ustilaginales ……1, 211

V

Vararia ……105, 124
epigaea ……124, 125
investiens ……124, 124
phyllophila ……124, 124, (125)
Vararieae (Asterostromelleae) ……105, 124
Veluticeps ……105, 166
medicum ……166, 166

W

Whitfordia musashiensis ……389

X

Xanthochrous ……*359, 382, 384*
aureonitens ……356
cinnamomeus ……382
circinatus var. *triqueter* ……386
Cummingii ……387
cuticularis ……358
Evonymi ……365
fastuosus ……364
Greenii ……384
hispidus ……356
obliquus ……221
palvulus ……382
perennis ……383
pini ……362
pullus ……364
radiatus ……356
ribis ……365
rimosus ……376
splendens ……382
tomentosus ……385
Xerocarpus (*Vararia*) ……124
acerinus ……128
alutarius ……124
corrugatus ……164
frustulosus ……143
odoratus ……143
Xylobolus frustulosus ……143
Xylodon consors ……262
decurrens ……262
fusco-violaceus ……258
lacteus ……254
Xylomyzon ……*203, 207*
destruens ……207
molluscum ……204
pulchrum ……204
tremellosum ……205

Z

Zygodesmus fuscus ……171

菌學名種別索引

A

abeuns
Corticium……121
Gloeocystidium ……119, 121
abietina
Clavaria……65
Daedalea……239
Hansenia……257
Hymenochaete……146
Lenzites……239
Lloydella……144, 145
Thelephora……145
Trametes……257
abietinella
Lezites……238
abietinellum
Gloeophyllum……238
abietinum
Gloeophyllum
……237, 239, (239)
Hydnum……190
Stereum……145
abietinus
Agaricus……239
Bjerkandera……257
Boletus……289
Coriolus……257
Hirschioporus
……253, 256, 257, (257)
Microporus……257
Polyporus……257
Polystictus……257
abietis
Fomes……362
Hirschioporus……259
Lenzites……259
Trametes……363
abnormis
Hymenochaete……146
acanthoides
Boletus……337
Caloporus……338
acerina
Odontia……187
Thelephora……128
acerinum
Corticium……128
Stereum……128
acerinus
Aleurodiscus ……126, 127
Hypochnus……128
Xerocarpus……128
acroporphyria
Clavaria……66
aculeata
Ceratellopsis……77
aculeiformis
Clavaria……42
acuta
Cellularia……232
Clavaria……83, 87, (87)
Lenzites……224, 232
Trametes……224, 232, (232)
adamantinus
Fomes……348
adglutinata
Thelephora……118
adpressa
Septocolla……35
adpressus
Dacrymyces ……*34*, 36
adusta
Bjerkandera……285, 286,
286, (287)
Hymenochaete……154,
158, (158)
Thelephora……158
adustum
Hydnum……196
Steccherinum……194, 196
Stereum……158
adustus
Boletus……286
Gloeoporus……286
Leptoporus……286
Myriadoporus……286
Polyporus……286
aemulans
Corticium……120
Gloeocystidium……120
Peniophora……120
aeruginea
Clavaria……63
affine
Hydnum……201
affinis
Microporus……326, 327
Peniophora……114, 116
Polyporus……327
Polystictus……327
agaricoides
Boletus……246
Creolophus……196
Steccherinum……196
alba
Calocera……41, 41
Pistillaria……80, 80
Typhula……80
albellus
Polyporus……281
albicans
Auricularia……7
Grifola……335, 337
albida
Auricularia……7
Cellularia……227
Daedalea……227
Hirneola……7
Lenzites……227
Podoscypha……151, 153, (154)
Trametes……224, 227, (227)
albidum
Dentinum……201
Hydnum……199, 201
Stereum……153
albidus
Albatrellus……332
Boletus……278, 332
albo-carneum
Asterostroma……123
albogriseus
Fomes……301
albo-nigrum
Calodon……176, 181
Hydnum……181
albo-regularis
Polystictus……271
albosordescens
Leptoporus……282
Phaeolus……282
Polyporus……282
album
Microstroma……46
albus
Boletus……284
Allescheri

Feniophora ……120
alliaceum
Corticium ……128
alnicolum
Hydnum ……194
alpina
Guepinia ……33
alpinus
Guepiniopsis ……33, 33
Heterotextus ……33
alutacea
Lenzites ……246
alutaceus
Polyporus ……277
alutarium
Corticium ……124
alutarius
Xerocarpus ……124
alveolaris
Cantharellus ……322
Hexagona ……323
Merulius ……322
alveolarius
Favolus ……322, 322, (322)
Polyporellus ……323
Polyporus ……322
Amanitoides
Daedalea ……231
ambigua
Lenzites ……259
amboinensis
Fomes ……346
amethystina
Clavaria ……84
amethystinoides
Clavaria ……81
Clavulina ……81, 81, (81)
amicum
Calodon ……176, 180
Hydnum ……180
Sarcodon ……180
amicus
Phellodon ……180
amoena
Clavaria ……93
Clavulinopsis ……91, 93
amorpha
Bjerkandera ……289
Cyphella ……126
Peziza ……126
Thelephora ……126
amorphum
Corticium ……126
amorphus
Aleurodiscus…125, 125,
126, (126)
Gloeoporus ……288, 289
Leptoporus ……289
Polyporus ……289
Tyromyces ……289
ampla
Auricula ……9
Auricularia ……8
Exidia ……8
Hirneola ……8
amygdalinus
Polyporus ……285
anceps
Polyporus ……282
Tyromyces ……276, 281
andina
Heterochaete ……16
aneba
Trametes ……225, 234
anebus
Polyporus ……234
angularis
Fomes ……166
angulatus
Boletus ……270
angulus
Fomes ……166
annosa
Fomitopsis …300, 302, (303)
Trametes ……303
Ungulina ……303
annosum
Heterobasidion ……303
Scindalma ……303
Stereum ……131, 139, (140)
annosus
Fomes ……303, 304
Placodes ……303
Polyporus ……302
Stereofomes ……140
annulatus
Boletus ……242
anthocephala
Clavaria ……173
Merisma ……173
Phylacteria ……173
Thelephora …172, 173, (173)
anthrochroa
Thelephora ……142
anulata
Trametes ……242
apalus
Polyporus ……281
apiaria
Hexagona ……247, 247
Hexagonia ……247
apiarium
Scenidium ……247
apiarius
Polyporus ……247
apiculata
Clavaria ……66
Clavariella ……66
Ramaria ……63, 66, (66)
applanata
Elfvingia ……18, 347,
347, (348)
applanatum
Ganoderma ……348
applanatus
Boletus ……347
Dacrymyces ……34, 37
Fomes ……347
Phaeoporus ……347
Placodes ……347
Polyporus ……347
arachnoideum
Corticium ……111
arborea
Exidia ……20
Tremella ……20
arboreus
Boletus ……207
arcticum
Stereum ……136
arculariellus
Polyporus ……326
arculariformis
Polyporus ……326
arcularius
Boletus ……322, 325
Favolus ……322, 325, (326)
Leucoporus ……326
Polyporellus ……326
Polyporus ……325
Ardenia
Clavaria ……75
argentea
Poria ……286
argillacea
Clavaria ……83, 86, (86)
argyraceus
Polyporus ……268
arida
Coniophora ……209, 209
Hymenochaete ……154,
161, (161)
Hymenochaetella ……161
Thelephora ……209
aridum

Corticium……209
Artemidorus
Polyporus……334
aspera
Peniophora……187
Thelephora……186
asperula
Clavaria……89
asperulans
Clavaria……89
aspratum
Hydnum……183
Sarcodon……181, 183
aspratus
Phaeodon……183
asserculosum
Agaricus……239
atra
Tremella……20
atrocaerulea
Thelephora……113
atrorufus
Boletus……268
attenuata
Hymenochaete……154, 159, (160)
Polyporus……217
Poria……217
attenuatum
Stereum……159
Auberiana
Ungulina……315
Auberianus
Fomes……315
Polyporus……314
aurantia
Dacryomyces……36
Thelephora……127
Tremella……36
aurantiaca
Auricularia……119, 202
Phlebia……202
aurantiacum
Calodon……176, 176
Hydnellum……176
Hydnum……176
aurantiacus
Hapalopilus……292
Phaeodon……177
Phaeolus……292
Polyporus……292
Polystictus……292
aurantio-cinnabarina
Clavaria……94
Clavulinopsis……91, 94, (95)
aurantiotingens
Physisporus……219
Poria……218
Tinctoporia……218
aurantium
Corticium……127
aurantius
Aleurodiscus……126, 127
Dacrymyces……34, 35
Polyporus……334
aurea
Clavaria……69
Clavariella……69
Peziza……38
Ramaria……63, 69, (69)
Serpula……206
Sesia……206
Trombetta……102
aureolus
Polyporus……289
aureonitens
Polyporus……356
Xanthochrous……356
aureus
Craterellus……101, 102
Merulius……204, 206
auricula
Auricularia……8
Exidia……7
Hirneola……8
Merulius……7
Peziza……7
Tremella……7
auricula-judae
Auricularia……4, *6*, 7, (8), *9*
Exidia……7
Hirneola……7
Peziza……7
Tremella……7
auricularis
Gyraria……7
auriformis
Tremella……7, 24
auriscalpium
Auriscalpium……193
Hydnum……192
Leptodon……193
Pleurodon……193
australe
Ganoderma……348
australis
Cyclomyces……353
Fomes……347
Placodes……347
Polyporus……347
avellanea
Hymenochaete……156
avellano-nigrescens
Clavaria……83, 86, (86)
avellanum
Stereum……156
azureus
Coriolus……269
Microporus……269
Polystictus……269

B

badia
Hydnochaete……352
badius
Polyporus……310
Polystictus……311
Bakeri
Fomes……372
Pyropolyporus……372
balsameus
Coriolus……285
Polyporus……285
Polystictus……285
Tyromyces……277, 285, (285)
balsamicola
Nodularia……126
baumii
Phellinus……369, 377, (377)
benzoina
Trametes……294
Ungulina……295
benzoinum
Ischnoderma……294
benzoinus
Boletus……294
Fomes……295
Polyporus……294
Berkeleyi
Lenzites……246
Bertolonii
Stereum……137
betulina
Daedalea……246
Fomitiporella……375
Lenzites……245, 245, (246)
Poria……375
Trametes……246
Ungulina……297
betulinus
Agaricus……246
Boletus……296
Piptoporus……296, 296
Placodes……297
Polyporus……296

bibulus
Polyporus ……215
bicolor
Hydnum ……187
Lloydella ……144, 144, (145)
Odontia ……186, 187
Stereum ……144
Thelephora ……144
bienne
Hydnum ……244
Sistotrema ……244
biennis
Boletus ……244
Daedalea ……243, 244, 244, (244)
Heteroporus ……244
Phaeolus ……245
Polyporus ……244
biformis
Bjerkandera ……263
Coriolus ……261, 263
Microporus ……263
Polyporus ……263
Polystictus ……263
Trametes ……263
bisporum
Exobasidium ……47, 50, (51)
bivalvis
Hexagona ……250
Hexagonia ……250
Polyporus ……250
Polystictus ……250
Blackfordae
Hydnum ……183
Sarcodon ……181, 183
Blumei
Polystictus ……272
Blyttii
Polyporus ……217
Poria ……217
bogoriense
Septobasidium ……11, 11, (12)
bolaris
Thelephora ……119
Boletiformis
Agaricus ……238
boninense
Corticium ……108, 110, (110)
Ganoderma ……341, 346, (346)
Stereum ……150
boninensis
Clavaria ……91
Clavulinopsis ……90, 91
Dictyolus ……104, 104, (104)
Fomes ……346
Gloeocystidium ……119, 121, (121)
Hymenochaete ……150
Lloydella ……144, 150
Tremella ……21, 21, (22)
borealis
Bjerkandera ……284
Boletus ……284
Daedalea ……284
Heteroporus ……284
Leptoporus ……284
Polyporus ……284
Spongipellis ……284
Thelephora ……202
Tyromyces ……277, 284, (284)
botryoides
Clavaria ……68
Ramaria ……63, 68
botrytis
Clavaria ……68
Ramaria ……62, 63, 66
Bresadolae
Corticium ……109
brevipes
Cantharellus ……103
breviporus
Polyporus ……370
Polystictus ……370
brevis
Irpex ……262
Broomei
Clavaria ……64
Phaeoclavulina ……64
brumalis
Boletus ……318
Favolus ……318
Leucoporus ……318
Polyporellus ……317, 317, (318)
Polyporus ……318
brunnea
Tomentella ……209
bubalinum
Hydnum ……183
buglossoides
Fistulina ……210
Buglossum
Boletus ……210
Bulliardi
Daedalea ……252
Lenzites ……252
Trametes ……252
burtiana
Podoscypha ……150, 151, (151)
Burtianum
Stereum ……151
Burtissimum
Stereum ……149
Butleri
Exobasidium ……55
byssina
Sesia ……207

C

caerulea
Terana ……113
caeruleoporus
Polyporus ……331, 333
Scutiger ……333
Thelephora ……113
caeruleum
Corticium ……108, 109, 113
caesia
Bjerkandera ……278
caesio-glaucus
Polystictus ……253
caesiosimulans
Polyporus ……278
caesius
Boletus ……278
Leptoporus ……278
Polyporu ……278
Tyromyces ……276, 278
caespitosa
Clavaria ……75
calceolus
Leucoporus ……320
Polyporus ……320
calceum
Corticium ……115
caliginosa
Fomitopsis ……301, 311
caliginosus
Fomes ……311
Polyporus ……311
Pyropolyporus ……311
callosa
Poria ……226
callosus
Physisporus ……226
Polyporus ……226
calvatioides
Polyporus ……275
Camelliae
Exobasidium ……46, 48, (48)
Camelliae-oleiferae
Exobasidium ……49
canadensis
Favolus ……322
candida

Solenia ··························168
Tremella ··················21, 22
candidus
Polyporus ··················279
cantharelloides
Agaricus ··················98
Cantharellus
Merulius ··················97
Polyporus ············331, 331
caperata
Cladoderris
··············167, 167, (167)
Thelephora ··················167
caperatum
Stereum ··················167
caperatus
Polystictus ··················272
Caput-medusae
Clavaria ··················192
Dryodon ··················192
Hericium ··············190, 192
Hydnum ··················192
carnea
Elvella ··················102
Fomitopsis ···300, 310, (310)
Trametes ··················310
carneofulvus
Polyporus ··················370
carneus
Craterellus ··················103
Fomes ··················310
Merulius ··················103
Polyporus ··················310
carnosum
Hydnum ··················199
carolinensis
Polyporus ··················263
carpineus
Boletus ··················286
Polystictus ··················286
caryophyllea
Auricularia ··················174
Thelephora ··················174
caryophylleus
Polyporus ··················366
caryophylli
Fomes ··················312
castanea
Fomitopsis ···301, 311, (312)
castaneus
Irpex ··················204
Merulius ······203, 204, (204)
castanophilus
Polyporus ··················291
caucasica
Bresadolia ··················319
caudicinus
Boletus ··················274
Polypilus ··················274
Polyporus ··················274, 319
caulicola
Tremella ··················21, 23
celebensis
Kordyana ··················56
celebicus
Polystictus ··················328
cellare
Sistotrema ··················207
cellaris
Coniophora ··················209
cellulosus
Boletus ··················319
centrifuga
Rhizoctonia ··················111
centrifugum
Corticium ···108, 110, (111)
centrifugus
Hypochnus ··················111
cerasi
Irpex ··················214
cercidiphyllum
Cryptoderma ··········359, 363
cerebella
Coniophora ··················209
Thelephora ··················209
cerebrina
Tremella ··················24
cervicolor
Asterostroma······123,
123, (123)
Corticium ··················123
cervinum
Hydnum ··················182
Chantharellus
Agaricus ··················97
Chanterel ··················97
chionea
Bjerkandera ··················279
Clavaria ··················89
chioneus
Leptoporus ··················279
Polyporus ··················279
Tyromyces ············276, 279
chlamydosporium
Corticium ··················109
chrysella
Oxydontia ············189, 189
chrysellum
Hydnum ··················189
chrysocoma
Peziza ··················38
Tremella ··················24
chrysocomus
Dacrymyces ············34, 38
chrysocreas
Corticium ··················121
Gloeocystidium ······119, 121
Terana ··················122
chrysosperma
Dacryomyces ··················35
Chu-ling
Polyporus ··················336
cibarius
Alectorolophoides ··················97
Cantharellus······96, 97, (98)
ciliata
Hexagona ··················259
ciliatula
Bjerkandera ··················281
ciliatulus
Polyporus ··················281
cilicioides
Trametes ··················259
cincinnatus
Polyporus ··················274
cinerascens
Lloydella ··················144
cinerea
Kneiffia ··················117
Peniophora ············114, 117
Thelephora ··················117
cinereum
Corticium ··················117
Hydnum ··················180
Sistotrema ··················264
cinereus
Cantharellus······97, 99, (99)
Fomitopsis ··················311
Merulius ··················99
cinericum
Stereum ··················136
cinnabarina
Trametes······225, 235, (235)
cinnabarinus
Agaricus ··················97
Boletus ··················235
Cantharellus ············96, 97
Chanterel ··················97
Hygrophorus ··················97
Leptoporus ··················235
Phellinus ··················235
Polyporus ··················235
Polystictus ··················235
Pycnoporus ··················235
cinnamomea

Coltricia ……………382, 382
Hymenochaete……154, 162, (162)
Strilia ……………382
Thelephora ……………162
cinnamomeum
Corticium……………162
cinnamomeus
Boletus ……………382
Hypochnus ……………162
Polyporus ……………382
Polystictus ……………382
Xanthochrous ……………382
Cinnamoni
Glomerularia……………55
circinatus
Polyporus……………385
Polystictus ……………385
citrina
Clavaria……………94
citrinum
Cryptoderma………359, 360, (361)
citrinus
Boletus ……………274
cladotricha
Funalia……………259
cladotrichus
Microporus ……………259
Polyporus……………259
Polystictus ……………259
clandestinum
Hydnum ……………199
clavata
Trombetta ……………103
clavatum
Neurophyllum……102, 102, (103)
clavatus
Cantharellus ……………103
Craterellus ……………103
Gomphus ……………103
Merulius ……………103
coccineus
Boletus ……………235
cochlearis
Guepinia……………33
cocos
Pachyma ……………218
Poria…………213, 218, (218)
Sclerotium ……………218
coffeatum
Stereum ……………144
colossum
Ganoderma …………341, 345
Colossus
Dendrophagus……………345
Polyporus……………345
Tomophagus……………345
commelinae
Kordyana ………56, 56, (56)
compactum
Helicobasidium ……………3
Septobasidium……………3
complicatum
Stereum ……………137
conchatus
Fomes ……………377
conchifer
Boletus……………261
Coriolus ……260, 261, (262)
Polyporus……………261
Polystictus ……………261
Poronidulus……………261
Trametes ……………261
conchiforme
Hydnum ……………194
conchiformis
Daedaleopsis ………247, 251
conchoides
Gloeoporus ……………288
concinnus
Microporus……………326
concrescens
Hydnellum ……………177
Hydnum ……………177
confluens
Boletus …………294, 334, 383
Caloporus……………334
Cladomeris ……………334
Corticium …………109, 111
Hypochnus …………112, 209
Merisma ……………334
Polypilus ……………334
Polyporus …………331, 334
Scutiger ……………334
Thelephora ……………111
conformis
Ditiola ……………39
confragosa
Daedalea ……………248
Daedaleopsis………247, 248, (248), *252*
Trametes ………*224, 248, 251*
confragosus
Boletus ……………248
conigenum
Hydnum ……………201
connata
Coltricia ……………383
Fomitopsis ……………255
Trametes ……………255
connatus
Coriolus ……………255
Fomes ……………255
Leptoporus ……………255
Polyporus……………255
Scindalma ……………255
consors
Coriolus ……260, 262, (262)
Irpex……………262
Irpiciporus ……………262
Xylodon ……………262
contorta
Thelephora ……………62
contortus
Polyozus ……………62
contrarium
Stereum ……………141
Cookei
Coniophora……………209
copelandii
Coriolopsis ……………311
Hydnum ……………189
Oxydontia …189, 189, (189)
coralloides
Calocera ……………41, 43
Dryodon ……………191
Hericium……………190, 191
Holtermannia …28, 29, (29)
Hydnum ……………*190, 191*
Manina……………191
Medusina……………191
cordiformis
Manina……………191
coriaceus
Agaricus ……………246
Boletus ……………383
Corium
Merulius ……………204, 206
Sesia ……………206
Thelephora ……………206
cornea
Calocera ……41, 42, (42), *42*
Clavaria……………42
corniculata
Clavaria……………92
Clavulinopsis …91, 92, (92)
Ramaria……………92
corniformis
Calocera ……………41, 42
Holtermannia …28, 28, (28)
cornucopioides
Cantharellus ……………101
Craterellus …101, 101, (102)

Elvella ·····101
Merulius ·····101
Peziza ·····101
coronata
Clavaria ·····61
Clavicorona ·····61
corrosus
Inonotus ·····354
corrugata
Auricularia ·····5
Hymenochaete ···154, 164, (164)
Thelephora ·····164
corrugatum
Corticium ·····164
Stereum ·····164
corrugatus
Xerocarpus ·····164
corticalis
Auricularia ·····118
Kneiffia ·····118
Peniophora ·····118
Thelephora ·····118
corticola
Asterostroma ·····123
corylea
Thelephora ·····133
Coryli
Stereum ·····133
crassa
Auricularia ·····6
Hymenochaete ·····146
Thelephora ·····146
crassum
Stereum ·····146
cremea
Kneiffia ·····115
Peniophora ·····114, 115
Cremeum
Corticium ·····115
crenatus
Polystictus ·····389
crenulata
Trametes ·····272
crispa
Clavaria ·····170
Masseeola ·····170
Plicatura ·····203, 203
Sparassis ·····169, 169, (169)
Thelephora ·····134
Tremella ·····26
Trogia ·····203
crispum
Stereum ·····134
crispus
Cantharellus ·····203
Merulius ·····203
cristata
Cladomeris ·····334
Clavaria ·····82
Clavariella ·····82
Clavulina ·····81, 82, (82)
Ramaria ·····82
Soppitiella ·····17
Thelephora ·····17
cristatum
Merisma ·····17
cristatus
Boletus ·····333
Caloporus ·····334
Merisma ·····334
Polypilus ·····334
Polyporus ·····331, 333
Scutiger ·····334
cristulatum
Stereum ·····132
crocea
Clavaria ·····90
Clavariella ·····90
Ramariopsis ·····89, 90
croceus
Boletus ·····291
Hapalopilus ·····290, 291
Inodermus ·····291
Inonotus ·····291
Ochroporus ·····291
Polyporus ·····291
crocicreas
Corticium ·····122
cryptarum
Boletus ·····302
Fomes ·····303
Inodermus ·····303
Phellinus ·····303
Polyporus ·····302
cryptomeriae
Polystictus ·····272
crystallinum
Hydnum ·····31
Tremellodon ·····31
cuculatum
Hydnum ·····201
cuculatus
Polyporus ·····355
Cucumeris
Hypochnus ·····111
cummingii
Onnia ·····385, 387, (388)
Polyporus ·····387
Polystictus ·····387
Xanthocrous ·····387
cuneata
Trametes ·····290
cuneatum
Hydnum ·····201
cuneatus
Coriolellus ·····290
Hapalopilus ·····290, 290
Polystictus ·····290
cupulaeformis
Enslina ·····296
Polyporus ·····296
curtisii
Fomes ·····344
Ganoderma ·····341, 343
Polyporus ·····344
cuticularis
Boletus ·····358
Inodermus ·····358
Inonotus ·····355, 358, (358)
Phaeoporus ·····358
Polyporus ·····358
Xanthochrous ·····358
cyanocephala
Clavaria ·····63
Ramaria ·····63, 63
cyatheae
Corticium ···108, 110, (110)
Cyphella ·····168, 168, (168)
cyathiforme
Calodon ·····176, 178, (178)
Hydnum ·····177, 178
Phellodon ·····178
cylindrica
Clavaria ·····88

D

Daviesii
Hydnum ·····194
decipiens
Agaricus ·····258
Boletus ·····264
Sistotrema ·····258
decorticata
Onigena ·····10
decretus
Necator ·····112
decurrrens
Irpex ·····262
Xylodon ·····262
delicata
Auricula ·····6
Auricularia ·····4, 6
Hirneola ·····6
Laschia ·····6

delicatulum
Hydnum ……201
deliquescens
Dacrymyces ……34, 34
Tremella ……35
dendritica
Cladoderris ……167
dendroidea
Hymenochaete ……18
Sebacina ……17, 17, (18)
Thelephora ……18
dendroides
Aphelaria ……61, 61
Clavaria ……61
Lachnocladium ……61
Merisma ……61
Pterula ……61
Thelephora ……61
densa
Clavaria ……68
densus
Fomes ……380
dependens
Coltricia ……380, 384
Coltriciella ……384
Microporus ……384
Polyporus ……384
Polystictus ……384
Deschampsii
Hexagona ……247
destruens
Merulius ……207
Serpula ……207
Xylomyzon ……207
diaphana
Podoscypha ……150, 151
Stereum ……152
Thelephora ……151
dichroa
Bjerkandera ……288
dichrous
Gloeoporus ……288, 288, (289)
Leptoporus ……288
Polyporus ……288
Dickinsii
Daedalea ……229
Polyporus ……338
Trametes ……224, 229, (229)
Digitalis
Cyphella ……168
Peziza ……168
digitata
Thelephora ……173
dimidiatus
Boletus ……342
diminuens
Corticium ……109
diminutus
Polyporus ……324
discipes
Polystictus ……330
discoidia
Peniophora ……119
discolor
Hydnum ……196
dispansus
Polyporus ……331, 334
domestica
Himantia ……207
Thelephora ……207
domesticus
Merulius ……207
dryadeum
Ischnoderma ……357
dryadeus
Boletus ……357
Inonotus ……355, 357
Phellinus ……357
Placodes ……357
Polyporus ……357
dryopteridis
Ceratellopsis ……77, 77
Pistillaria ……77
dubia
Trombetta ……102
dubius
Craterellus ……101, 102
duriusculum
Stereum ……143
durum
Stereum ……140
durus
Nigroporus ……316
Polyporus ……315
Rigidoporus ……313, 315

E

Earlei
Lenzites ……231
eburnea
Clavaria ……88
edule
Gloeophyllum ……240
edulis
Cantharellus ……97
elaphinus
Fomes ……368
elegans
Boletus ……320
Podoscypha ……150, 151
Polyporellus ……321
Polyporus ……320
Stereum ……151
Thelephora ……151
elegantissima
Hymenochaete ……159
elegantissimum
Stereum ……159
Ellisianus
Polyporus ……282
Tyromyces ……282
Ellisii
Peniophora ……150
Elmeri
Elfvingia ……366
Ganoderma ……367
elongatus
Coriolus ……261, 264
Microporus ……264
Polyporus ……264
Polystictus ……264
Emerici
Favolus ……322, 324
Polyporus ……324
empetri
Exobasidium ……46, 47, (47)
encephala
Naematelia ……27, *27*, 27, (27)
Tremella ……27
encephaliformis
Naematelia ……27
Tremella ……27
endocrocinus
Polyporus ……356
Englerianum
Lachnocladium ……63
epiderma
Thelephora ……112
epigaea
Asterostromella ……125
Daedalea ……380
Vararia ……124, 125
epigaeum
Asterostroma ……125
Stereum ……125
epileuca
Cyphella ……168
epilintea
Poria ……217
epilinteus
Polyporus ……217
epimiltina
Poria ……213, 218
epimiltinus
Fomes ……218

Polyporus……218
epiphylla
Asterstromella……124
Athelia……124
Thelephora……124
epiphyllum
Corticium……124
epiphyllus
Hypochnus……124
episphaeria
Hymenochaete……155, 165
Thelephora……166
erinaceus
Dryodon……191
Hericium……190, 191, (192)
Hydnum……191
erubescens
Leptoporus……279
Piptoporus……279
Polyporus……279
Tyromyces……276, 279
erythropus
Clavaria……79
Cnazonaria……79
Phacorrhiza……79
Typhula……77, 79
eupora
Poria……213, 216
euporus
Chaetoporus……217
Physisporus……217
Polyporus……217
europaeus
Favolus……322
evolvens
Corticium……109, 112, (113)
Stereum……113
Terana……113
Thelephora……112
Evonymi
Fomes……365
Polyporus……365
Trametes……365
Xanthochrous……365
exasperatus
Boletus……325
excavatus
Polyporus……299
exudans
Gloeocystidium……119

F

faginea
Botryochaete……10
Ecchyna……10
Onigena……10
Phleogena……10
Pilacre……10, 10, (10)
Plicatura……203
Trogia……203
fagineus
Merulius……203
falcata
Clavaria……87
fallax
Ramaria……82
Thelephora……119
fasciata
Thelephora……136
fasciatum
Stereum……131, 136, (137)
fasciculare
Hydnum……59
fascicularis
Deflexula……58, 58, (58)
Mucronella……58
Pterula……58
fasciculata
Clavaria……93
fasciculatus
Boletus……318
fastigiata
Clavaria……92
Ramaria……92
fastuosum
Cryptoderma……360, 363, (363)
Scindalma……364
fastuosus
Fomes……363
Polyporus……363
Pyropolyporus……364
Xanthochrous……364
fatiscens
Poria……222
favoloides
Polyporus……323
fellea
Clavaria……92
femsjoniana
Guepinia……39
ferruginea
Auricularia……157
Hymenochaete……157
Stereum……157
Thelephora……157
Tomentella……171
Tremella……25
ferruginosa
Fuscoporia……219, 221
Poria……221
ferruginosus
Boletus……221
Fomes……221, 303
Phellinus……222
Physisporus……221
Polyporus……221
fibrillosus
Hapalopilus……290, 291, (292)
Inonotus……292
Phaeolus……292
Polyporus……292
Pycnoporellus……292
fibula
Bjerkandera……271
Boletus……271
Coriolus……261, 271, (271)
Microporus……271
Polyporus……271
Polystictus……271
filamentosa
Pellicularia……106, 106, (106), 107
Peniophora……114, 114
filamentosum
Corticium……114
filamentosus
Hypochnus……106
filata
Clavaria……78
Typhula……78
filicina
Solenia……169, (169)
filiformis
Phacorrhiza……78
filipes
Clavaria……87
fimbriata
Hymenochaete……146
Odontia……186
Thelephora……113, 116
Tremella……21, 25
fissa
Guepinia……40, 40, (40)
fissilis
Leptoporus……282
Polyporus……282
Spongipellis……282
Tyromyces……276, 282
fissus
Guepiniopsis……40
Polyporus……321
fistulosa
Clavaria……75
Clavariella……75

fistulosus
Clavariadelphus ……72, 75, (75)
flabellatus
Cantharellus ……*101*
Leptoglossum ……*104*
flabelliforme
Ganoderma ……*344*
Hydnum ……*194*
flabelliformis
Boletus ……*333*
Microporus …327, 328, (328)
Polyporus ……*319, 328, 334*
Polystictus ……*328*
flabellum
Dacryomyces ……*35*
flaccida
Clavaria ……*64*
Clavariella ……*65*
Ramaria ……63, 64
flagellum
Manina ……*190*
flammea
Calocera ……*43*
Clavaria ……*43*
Tremella ……21, 23
flava
Clavaria ……*68*
Ramaria ……63, 68, (69)
flavescens
Clavaria ……*69*
Coriolellus ……*226*
Trametes ……224, 226
flavida
Calocera ……41, 43
flavidum
Hydnum ……*199*
flavipes
Clavaria ……*86*
floccosus
Cantharellus …97, 100, (100)
Chanterel ……*100*
Turbinellus ……*100*
floriforme
Hydnum ……*176*
floriformis
Coriolus ……*280*
Leptoporus ……*280*
Polyporus ……*280*
Polystictus ……*280*
Tyromyces ……276, 280
foedatus
Polyporus ……*389*
foetidum
Merisma ……*172*
foliacea
Gyraria ……*25*
Tremella ……21, *25*, 25, (25)
Ulocolla ……*25*
fomentaria
Earliella ……*299*
Elfvingia ……*299*
Elfvingiella ……*299*
Flaviporus ……*299*
Ungulina ……*299*
fomentarium
Ganoderma ……*299*
fomentarius
Boletus ……*299*
Fomes ……298, 298(299)
Fomitopsis ……*299*
Ochroporus ……*299*
Placodes ……*299*
Polyporus ……*299*
Scindalma ……*299*
fomitoporioides
Hymenochaete ……154, 163, (164)
formosa
Clavaria ……*67*
Clavariella ……*67*
Ramaria ……63, 67
formosula
Clavaria ……*67*
fornicatum
Ganoderma ……341, 345
fornicatus
Fomes ……*345*
Polyporus ……*345*
fragile
Hydnum ……*201*
fragilis
Boletus ……*332*
Clavaria ……*87, 88, 93*
Polyporus ……*282*
fraxineus
Fomes ……*295*
friabile
Hydnum ……*196*
Friesiana
Hexagona ……*271*
Poria ……*220*
Friesii
Cantharellus ……*97*
frondosa
Grifola ……335, 336
Tremella ……21, 25
frondosus
Boletus ……*336*
Caloporus ……*337*
Cladomeris ……*337*
Merisma ……*337*
Polypilus ……*337*
Polyporus ……*336*
frustularis
Polyporus ……*226*
frustulata
Thelephora ……*143*
frustulosum
Stereum ……131, 142, (143)
frustulosus
Xerocarpus ……*143*
Xylobolus ……*143*
fuciformis
Tremella ……21, 23, 26, (26)
fujisanensis
Cantharellus ……*103*
Neurophyllum ……102, 103, (103)
fuligineo-album
Hydnum ……*201*
fuliginosa
Cladomeris ……*294*
Hymenochaete ……*163*
Ungulina ……*294, 295*
fuliginosum
Ischnoderma ……*294*
fuliginosus
Boletus ……*294*
Fomes ……*294*
Inodermus ……*294*
Polyporus ……*294*
fulvo-nitens
Stereum ……*152*
fulvus
Boletus ……*306, 379*
Fomes ……*379*
Ochroporus ……*373*
Placodes ……*379*
Polyporus ……*373, 379*
Pyropolyporus ……*379*
fumigatum
Corticium ……*117*
fumosa
Bjerkandera ……286, 287, (288)
Clavaria ……83, 84, 85(85)
fumosoides
Clavaria ……*84*
fumosus
Boletus ……*287*
Gloeoporus ……*287*
Leptoporus ……*287*
Polyporus ……*287*
funale

Lachnocladium ··············61
funalis
Thelephora ··················61
furcata
Calocera ··················41, 44
Clavaria························44
Lenzites ····················246
fusca
Lloydella ···················145
Thelephora ···········144, 171
Tomentella ···171, 171, (171)
Trametes ····················389
fuscatus
Placodes ····················370
Polystictus ·················269
fuscopellis
Caloporus···················297
fuscoporus
Boletus ······················286
fusco-purpureus
Fomes ························370
Polyporus····················370
fusco-violaceum
Hydnum ·····················258
Sistotrema ·················258
fusco-violaceus
Hirschioporus·········257, 258, (258)
Irpex····················253, 258
Xylodon ····················258
fuscum
Corticium····················171
Stereum ·····················145
fuscus
Boletus ······················294
Cyclomyces···353, 353, (353)
Hypochnus ·················171
Polyporus····················295
Zygodesmus ················171
fusiformis
Clavaria······················93
Clavulinopsis ···91, 93, (94)
fusispora
Pterula ···········59, 60, (60)

G

galactina
Thelephora ·················110
galactinum
Corticium ···········108, 110
gausapata
Thelephora ·················132
gausapatum
Stereum ······130, 132, (133)
gelatinosa
Exidia ·························19
Peziza··························19
gelatinosum
Hydnum·······················31
Tremellodon ······30, 30, (30)
geotropus
Fomes ························314
Polyporus····················314
Rigidoporus·········313, 314, (314)
gibbosa
Daedalea ····················231
Lenzites ····················231
Pseudotrametes ···········231
Trametes······224, 230, (231)
gibbosus
Merulius ····················231
gigantea
Cladomeris ·················338
Grifola ··················335, 337
Kneiffia······················116
Merisma ····················338
Peniophora ···114, 116, (116)
Thelephora ·················116
giganteum
Corticium····················116
Lachnocladium ··············63
giganteus
Boletus ······················337
Polyporus ···················337
gigaspora
Clavaria·······················62
Gillotii
Polyporus ···················303
gilvoides
Phellinus ···············369, 378
Trametes ····················378
gilvus
Boletus ······················369
Fomes ························370
Hapalopilus ················370
Mucronoporus ··············370
Phellinus······369, 369, (370)
Polyporus ···················369
Polystictus ·················370
glabratus
Polystictus ·················285
glabrescens
Daedalea ····················245
glandulosa
Auricularia ·················20
Exidia ···············18, 20(20)
Tremella ······················20
glaucescens
Stereum ·····················146
glaucogilva
Poria··························222
glaucotum
Scindalma ··················348
glaucotus
Fomes ························347
Polyporus····················347
Gleadowii
Polystictus ·················272
glebulosa
Kneiffia······················115
Peniophora ············114, 115
glebulosum
Corticium····················115
glomeratus
Polyporus····················355
gracile
Exobasidium······47, 49, (49)
graminum
Typhula························78
grammicum
Corticium ···················109
grammocephalus
Favolus ················322, 324
Leucoporus ·················324
Polyporus····················324
Polystictus ·················324
grandis
Clavaria·······················64
Ramaria ··················63, 64
graveolens
Calodon ················176, 178
Hydnum ·····················178
Phellodon····················179
Greenii
Coltricia ·········353, 382, 384
Cyclomyces ·················384
Cycloporus ·················384
Polyporus····················384
Polystictus ·················384
Xanthochrous ···············384
grisea
Boletopsis···················185
griseo-durus
Polyporus····················285
griseus
Polyporus····················185
Scutiger ·····················185
guaraniticum
Hydnum ·····················196
Mycoleptodon ··············197
Guilfoylei
Polyporus····················324
guttulatus
Polyporus····················277

Tyromyces …276, 277, (277)
gypseus
Hapalopilus …290, 290, (291)
Polystictus ……291

H

hamamelidis
Lloydella ……144, 145
Stereum ……145
hamatus
Fomes ……371
Phellinus ……369, 371, (371)
hapalum
Asterostroma ……123
harmandi
Podoscypha ……151, 153
Stereum ……153
hartigii
Fomes ……373
Phellinus ……219, 369, 373, (373)
Polyporus ……373
helvelloides
Guepinia ……29
Phlogiotis ……29, 29, (30)
Tremella ……29
helvola
Clavaria ……91, 94
Clavulinopsis ……90, 91, 91, (91)
helvolum
Hydnum ……197
Steccherinum ……194, 197
helvolus
Coriolus ……297
hemisphaericum
Exobasidium ……47, 51, (51)
hepatica
Fistulina ……210, 210, (211)
hepaticus
Boletus ……210
Hypodrys ……210
herculeana
Clavaria ……73
heteroclitus
Boletus ……256
heteromorpha
Cellularia ……228
Daedalea ……228
Lenzites ……228
Polystictus ……228
Trametes ……224, *227*, 228
heteroporus
Polyporus ……244
hexagoniformis
Coriolus ……228
hexaspora
Microstroma ……55
hexasporium
Exobasidium ……55
Hinoi
Polyporus ……331
hirsuta
Bjerkandera ……266
Hansenia ……266
Lenzites ……238
Sesia ……238
Thelephora ……135
hirsutulus
Coriolus ……269
Microporus ……269
Polyporus ……268
Polystictus ……269
hirsutum
Gloeophyllum ……238
Stereum ……130, 131, 135, (136)
hirsutus
Agaricus ……238
Boletus ……266, 356
Cellularia ……238
Coriolus ……261, 266, (267)
Inonotus ……357
Microporus ……266
Polyporus ……266
Polystictus ……266
Trametes ……267
hirta
Clavaria ……76
hirtellus
Polystictus ……266
hirtus
Cerioporus ……323
Favolus ……322, 323
Fomes ……323
Leucoporus ……323
Polyporellus ……323
Polyporus ……323
hispida
Trametes ……225, *228*, 234, *234*, (234)
hispidellus
Polyporus ……323
Scutiger ……323
hispidoides
Polyporus ……381
hispidula
Auricula ……9
Auricularia ……9
Exidia ……8
hispidus
Boletus ……356
Inodermus ……356
Inonotus ……355, 356
Phaeoporus ……356
Polyporus ……356
Polystictus ……357
Xanthochrous ……356
hiugense
Stereum ……131, 141, (142)
Hoelen
Pachyma ……218
Hunterii
Auricularia ……6
hydrolips
Cantharellus ……99
Helvella ……99
hypococcinus
Polyporus ……291

I

iduensis
Tremella ……21, 24
igniarium
Scindalma ……375
igniarius
Agaricus ……374
Boletus ……306, 374
Fomes ……374
Ochroporus ……375
Phellinus ……*219*, 368, 369, 374, (375), 379
Placodes ……375
Polyporus ……374
Pyropolyporus ……375
Ikenoi
Hydnum ……201
Polystictus ……272
illicicola
Polyporus ……360, 370
Polystictus ……360
illudens
Polyporus ……335
Stereum ……131, 140
imazekiana
Guepinia ……40, 41
imberbis
Boletus ……287
Daedalea ……287
Leptoporus ……287
Polyporus ……287
imbricata
Hymenochaete ……156
imbricatula
Hymenochaete ……156

Thelephora ……155
imbricatum
Hydnum ……181
Sarcodon ……181, 181
imbricatus
Boletus ……268, 337
Phaeodon ……182
impuber
Boletus ……369
inaequalis
Clavaria ……91
incarnata
Gloeopeniophora ……120
Kneiffia ……120
Peniophora ……119
Thelephora ……119
Typhula ……77, 78, (78)
incarnatum
Corticium ……119
Gloeocystidium ……119, 119, (120)
Gloeostereum ……170, 170
incarnatus
Boletus ……257
Tyromyces ……276, 282
incerta
Poria ……216
incertus
Boletus ……216
incrustans
Corticium ……17
Polyporus ……221
Sebacina ……17, 17
Thelephora ……17
Tremella ……21, 22
ndica
Daedalea ……232
Indigo
Thelephora ……113
indigophorum
Septobasidium ……11, 14, (14)
induratum
Stereum ……149
inermis
Fomitiporella ……220
Fuscoporia ……219, 220
Poria ……220
inflata
Physalacria ……71
inflatus
Polyporus ……350
infundibuliformis
Cantharellus ……97, 98, (99)
Chanterel ……98, 99
Merulius ……98
Polyporus ……320
insigne
Lachnocladium ……63
insularis
Fomitopsis ……300, 304, (304)
Hymenochaete ……164
Trametes ……304
intermedia
Peniophora ……146
intricata
Hymenochaete ……154, 160, (160)
intricatum
Hymenochaete ……160
Stereum ……160
intybacea
Grifola ……338
intybaceus
Polyporus ……338
investiens
Asterostromella ……124
Corticium ……124
Radulum ……124
Vararia ……124, 124
involuta
Cyphella ……168
iodinus
Polystictus ……354
Ireyei
Polyporus ……389
irregulare
Sclerotium ……107
irregularis
Bjerkandera ……289
Boletus ……289
Polyporus ……289, 303
isabellina
Trametes ……378
Tremella ……21, 23
isabellinus
Boletus ……286
Phellinus ……219, 369, 378
Polyporus ……286
ishikariensis
Typhula ……77, 79
Itoana
Typhula ……78
Itoi
Polyporus ……225
iyoensis
Fomes ……352
Irpex ……352

J

jamaicensis
Polystictus ……271
japonica
Cellularia ……232
Exidia ……18, 18, (19)
Hydnochaete ……352, 353
Lenzites ……232
Lloydella ……144, 150
Naematelia ……27
Thelephora ……172, 174
Tremella ……27
japonicum
Echinodontium ……198, 198
Exobasidium ……47, 53, (53)
Hydnum ……199
Stereum ……166, 150
japonicus
Aleurodiscus ……126, 127
Ceriomyces ……342
Fomes ……342
Ganoderma ……342
Irpex ……262
Irpiciporus ……262
Polyporus ……342
Ptychogaster ……342
javanica
Lopharia ……188
javanicum
Corticium ……112
Radulum ……188
jezoensis
Daedalea ……367
Judae
Auricula ……7
Juglandis
Boletus ……319
Microstroma ……46
juncea
Clavaria ……76
Typhula ……76
junceus
Amauroderma ……340, 340
Clavariadelphus ……72, 76, (76)
junctus
Polyporus ……316
juxtarugosum
Amauroderma ……340, 340
juxtarugosus
Polyporus ……340

K

Kalchbrenneri
Hymenochaete ……146
kanehirae
Cryptoderma ……360,

367, (367)
Polyporus ········· *367*
kiyosumiensis
Fomitopsis ···300, 308, (308)
koleroga
Pellicularia ········· 106
komabensis
Corticium ········· *119*
Physalacria ········· 71, 72
Thelephora ········· *152*
Komatsuzakii
Fomitopsis ········· 300, 301
Polyporus ········· *301*
Kunzei
Clavaria ········· *89*
Clavulina ········· *89*
Ramaria ········· *89*
Ramariopsis ······89, 89, (90)
kurilense
Stereum ········· 131, 140
kusanoana
Trametes ······224, 230, (230)
Kusanoi
Coriolellus ········· *227*
Daedalea ········· *224, 227, 230*
Hydnum ········· *262*
Irpex ········· *262*
Trametes ········· *227*

L

labyrinthiformis
Agaricus ········· *241*
laccatum
Ganoderma ········· *342*
laccatus
Fomes ········· *342*
Polyporus ········· *342*
lacerata
Trametes ········· *228*
laciniata
Clavaria ········· *17*
Phylacteria ········· *175*
Sebacina ········· *17*
Thelephora ········· *175*
laciniatum
Hericium ······190, 190(190)
Hydnum ········· *190*
Stereum ········· *174*
lacrymalis
Dacryomyces ········· *35*
Gyraria ········· *35*
Tremella ········· *35*
lacrymans
Boletus ········· *207*
Gyrophana ···207, 207, (208)
Merulius ········· *207*
Serpula ········· *207*
lactea
Bjerkandera ········· *281*
Trametes ········· *237, 254*
lacteum
Hydnum ········· *254*
Sistotrema ········· *254*
lacteus
Coriolus ········· *281*
Irpex ·········253, 253, (254)
Irpiciporus ········· *254*
Leptoporus ········· *281*
Polyporus ········· *281*
Tyromyces ········· 276, 281
Xylodon ········· *254*
lactinea
Trametes ········· *237*
laeta
Clavaria ········· *93, 95*
laeticolor
Merulius ········· *204*
laetissima
Clavaria ········· *61*
laeve
Corticium ········· *112, 116*
laevigata
Fuscoporia ········· *219, 375*
Hymenochaete ········· *163*
Poria ········· *375*
laevigatum
Hydnum ········· *182*
Sarcodon ········· 181, 182
laevigatus
Phellinus ········· *375*
Polyorus ········· *375*
laevis
Hypochnus ········· *113*
Kneiffia ········· *116*
Peniophora ········· *116*
Thelephora ········· *112, 116*
lamaense
Cryptoderma ·········359, 361, (361)
lamaensis
Pyropolyporus ········· *361*
lamaoensis
Fomes ········· *361*
lamelliformis
Irpex ········· *258*
laminata
Fomitiporia ········· *220*
Poria ········· *220*
lanceolata
Clavaria ·········83. 87, (87)
laricina
Lenzites ········· *259*
laricinus
Hirschioporus ········· 257, 259
Laricis
Boletus ········· *301*
Fomes ········· *301*
Polyporus ········· *301*
lateritia
Thelephora ········· *119*
latistipitatus
Fomes ········· *388*
Laurocerasi
Thelephora ········· *133*
Lauterbachii
Lachnocladium ········· *66*
lavendula
Clavaria ········· *84*
laxa
Hymenochaete ········· *161*
Hymenochaetella ········· *161*
Thelephora ········· *113*
lenis
Amyloporia ········· *216*
Physisporus ········· *216*
Poria ········· 213, 215
lentiformis
Ditiola ········· *39*
Elvella ········· *39*
lepidus
Lenzites ········· *389*
leucochroma
Auricularia ········· 4, 7
leucomelas
Boletopsis ········· 185, 185
Boletus ········· *185*
Caloporus ········· *185*
Polyporus ········· *185*
leucophaeum
Ganoderma ········· *348*
Scindalma ········· *348*
leucophaeus
Fomes ········· *347*
Polyporus ········· *347*
levis
Polyporus ········· *287*
lichenoides
Tremella ········· *27*
lignosus
Fomes ········· *315*
Polyporus ········· *314*
Rigidoporus ········· 313, 314
ligula
Clavaria ········· *74*
Clavariadelphus

……………………72, 74, (75)
Clavariella ……………………75
lilacina
Peniophora ……………………117
Thelephora ……………………117
lilacino-fuscum
Corticium ……………………142
Stereum ……………………142
Linkinsenses
Polyporus ……………………389
lipsiense
Scindalma ……………………348
lipsiensis
Boletus ……………………347
Elfvingia ……………………348
Ganoderma ……………………348
lirata
Hymenochaete ……………………138
liratum
Stereum ……………………138
lirellosa
Lopharia ……………………188
lithophylloides
Polyporus ……………………338
lithuaricus
Ochroporus ……………………292
Ljubarskyi
Haploporus ……………………233
Trametes ……………………224, 233
Lloydii
Coriolus ……………………270
Polyporus ……………………270
lobata
Patila ……………………5
Thelephora ……………………137
lobatus
Dictyolus ……………………104
longinquus
Fomes ……………………380
Lonicerae
Fomes ……………………365
Phellinus ……………………365
Polyporus ……………………365
Scindalma ……………………365
Trametes ……………………365
lonicerinum
Cryptoderma ……………………360, 366, (366)
lonicerinus
Fomes ……………………366
Phellinus ……………………366
lucida
Grifola ……………………342
lucidum
Ganoderma ……341, 341, *343*, (343)
lucidus
Boletus ……………………342
Fomes ……………………342
Phaeoporus ……………………342
Placodes ……………………342
Polyporus ……………………342
Ptychogaster ……………………342
lutea
Clavaria ……………………69
luteo-alba
Clavaria ……………………94
Clavulinopsis ……………………91, 94
Ditiola ……………………39
Femsjonia ……………………38, 38, (39)
Poria ……………………215
luteoalbus
Physisporus ……………………215
luteola
Clavaria ……………………75
luteo-olivacea
Daedaleopsis ……………………248, 251
luteo-olivaceus
Microporus ……………………251
Polyporus ……………………251
Polystictus ……………………251
lutescens
Boletus ……………………268
Coriolus ……………………261, 267
Microporus ……………………268
Polyporus ……………………*234, 268*
Polystictus ……………………268
Trametes ……………………234
Tremella ……………………*24, 33*
luteus
Microporus …327, 327, (327)
Polyporus ……………………327
Polystictus ……………………327

M

Macouni
Polyporus ……………………221
• *Poria* ……………………221
macrorrhiza
Thelephora ……………………151
maculatus
Polyporus ……………………277
Magnusii
Exobasidium ……………………55
makraulos
Physisporus ……………………303
Polyporus ……………………303
Poria ……………………303
malacotis
Polyporus ……………………272
malicola
Trametes ……………………225, 234
Marchandii
Corticium ……………………127
marginata
Placodes ……………………307
Trametes ……………………307
Ungulina ……………………307
marginatum
Scindalma ……………………307
marginatus
Boletus ……………………306
Fomes ……………………307
Polyporus ……………………306
marianus
Polyporus ……………………234
matsuzawae
Coniophora ……………………209, 209
mc.gregorii
Cryptoderma ……………………360, 364, (364)
Fomes ……………………364
meakanensis
Clavaria ……………………83, 87, (87)
medica
Hymenochaete ……………………166
Lloydella ……………………166
medicum
Hydnum ……………………199
Stereum ……………………166
Veluticeps ……………………166, 166
medulla-panis
Boletus ……………………*213, 215*
Physisporus ……………………215
Polyporus ……………………215
Poria ……………………213, 214
Trametes ……………………215
medullaris
Poria ……………………215
Megaloma
Elfvingia ……………………348
Fomes ……………………347
Polyporus ……………………347
Scindalma ……………………348
melaleucum
Calodon ……………………176, 179
Hydnum ……………………179
melaleucus
Phellodon ……………………179
melanopora
Fomitopsis ……………………312
melanoporus
Fomes ……………………312
membranaceum
Radulum ……………………188

Stereum ……147
Merrillii
Fomes ……367
Pyropolyporus ……366
merulina
Ditiola ……33
Guepinia ……33
Peziza ……33
Phialea ……33
merulinus
Guepiniopsis ……32, 33, 33, (33)
mesenterica
Auricularia ……4, 4, (5)
Elvella ……24
Gyraria ……24
Helvella ……5
Oncomyces ……5
Patila ……5
Phlebia ……5
Thaelaephora ……5
Thelephora ……5
Tremella ……21, 24, (24)
mescentericus
Boletus ……337
Merulius ……5
mesenteriformis
Tremella ……25
Ulocolla ……25
microporus
Rigidoporus ……315
Mikadoi
Polyporus ……358
mikawai
Favolus ……322, 325(325)
Polyporus ……325
mikraulos
Polyporus ……389
miniata
Clavaria ……95
Clavulinopsis ……90, 91, 95
miniatus
Laetiporus ……275
Polyporus ……275
minor
Cantharellus ……96, 98, *97*
Chanterel ……98
Dacrymyces ……34, 37
minutissima
Trametes ……285
minutoporus
Polystictus ……330
minutulus
Fomes ……299
minutus
Fomes ……389
mirabile
Radulum ……188
mirabilis
Lopharia ……188, 188, (189)
Thwaitesiella ……188
Miyabeana
Clavaria ……95
Clavulinopsis ……91, 95, (95)
Miyabei
Irpex ……254
moelleriana
Ramaria ……63, 66
Moellerianum
Lachnocladium ……66
molare
Radulum ……188, 188
molariforme
Radulum ……188
Sistotrema ……188
molle
Stereum ……136
Mollerianus
Polyporus ……311
Polystictus ……310
mollicula
Daedalea ……245
mollis
Antrodia ……272, 272
Daedalea ……272
Polyporus ……279, 380
Thelephora ……136
Trametes ……224, 272
molliusculus
Polyporus ……263
mollusca
Serpula ……204
Sesia ……204
Molluscum
Xylomyzon ……204
molluscus
Boletus ……289
Merulius ……203, 204
Serpula ……204
Mompa
Helicobasidium ……3, (3), *12*
Septobasidium ……3, 12
Stypinella ……3
montana
Bondarzewia ……338, 338, (339)
Cladomeris ……338
Grifola ……338
montanus
Cerioporus ……338
Polyporus ……338
monticola
Guepinia ……33
Morgani
Steccherinum ……197
Mori
Polyporus ……322
morosus
Polyporus ……294
Mougeotii
Corticium ……161
Hymenochaete ……154, 161, (162)
Stereum ……161
Thelephora ……161
mucida
Calocera ……44
Clavaria ……44, 70
Lentaria ……70, 70, (70)
muelleri
Trametes ……224, 233
multicolor
Boletus ……270
Polyporus ……270
Microporus ……270
multifida
Penicillaria ……60
Pterula ……59, 59, (60)
multipartita
Phylacteria ……173
Thelephora ……172, 173, (174)
multiplex
Cantharellus ……184
Craterellus ……184
Polyozellus ……184, 184
multispinulosa
Hymenochaete ……146
murinus
Lenzites ……232
musashiense
Pyrrhoderma ……389, 389
musashiensis
Fomes ……389
Onnia ……389
Polyporus ……389
Whitfordia ……389
muscicolum
Asterostroma ……123
muscoides
Clavaria ……92
Ramaria ……92
mutabilis
Daedalea ……241
Polyporus ……389
mutata

Peniophora ··················*120*
mutatum
Corticium ··················*120*
Gloeocystidium ······119, 120
mycetophiloides
Tremella ··················21, 22
myxosporum
Corticium ··················*186*

N

neaniscus
Coriolus ······261, 265, (266)
Microporus ··················*265*
Polyporus ··················*265*
Polystictus ··················*265*
nebulosa
Clavaria ··················*84*
neofibulifera
Tremella ··················21, 23
neo-japanicum
Ganoderma ············341, 343
nicotiana
Helvella ··················*155*
nidulans
Hapalopilus ············290, 292
Inonotus ··················*293*
Phaeolus ··················*293*
Polyporus ··················*268, 293*
niger
Phellodon ··················*180*
nigra
Auricula ··················*9*
auricularia ··················*9*
nigrescens
Auricularia ··················*9*
Clavaria ··················*64*
Peziza ··················*8*
Phaeoclavulina ··················*64*
Ramaria ············63, 64, (64)
nigricans
Hirneola ··················*9*
Microporus ··················*269*
Peziza ··················*8*
Platygloea ··················4
Polyporus ··················*269*
Polystictus ··················*269*
nigroaspera
Trametes ··················*248*
nigro-laccatus
Fomes ··················*348*
nigrolimitatum
Cryptoderma ··················*377*
nigrolimitatus
Fomes ··················*377*
Phellinus ··················369, 377
Polyporus ··················*377*
nigromarginatus
Boletus ··················*266*
Coriolus ··················*266*
Microporus ··················*266*
Polystictus ··················*266*
nigrum
Calodon ······176, 179, (180)
Hydnum ··················*179*
nikkomontanus
Dacrymyces ············34, 37
nipponica
Daedaleopsis ······248, 251, (252)
nipponicum
Stereum ··················*132*
nipponicus
Microporus ············327, 329
Nakaiomyces ······28, 28, (28)
Polystictus ··················*329*
nitida
Poria ··················*217*
nitidulus
Polyporus ··················*331*
nitidus
Boletus ··················*289*
nivea
Lenzites ··················*246*
Noharae
Irpex ··················*188, 259*
Irpiciporus ··················*188*
nuda
Dacryomitra ··················*32*
Dacryopsis ··················*32*
Ditiola ··················32, 32
Peniophora ············114, 118
Thelephora ··················*118*
nudum
Corticium ··················*118*
Exobasidium ······47, 48, (49)
nummularis
Boletus ··················*320*
Nymaniana
Clavaria ··················*84*

O

Oakesii
Aleurodiscus ·········126, 127
Corticium ··················*127*
obducans
Physisporus ··················*255*
obducens
Coriolus ··················*256*
Oxyporus ··················*256*
Physisporus ··················*255*
Polyporus ··················*255*
Poria ··················*255*
oblectans
Polystictus ··················*382*
obliqua
Fuscoporia ············219, 221
Podoscypha ···151, 152, (153)
Poria ··················*221*
obliquatus
Boletus ··················*342*
obliquiformis
Fomitiporia ··················*220*
Poria ··················*220*
obliquula
Podoscypha ···151, 153, (153)
obliquulum
Stereum ··················*153*
obliquum
Stereum ··················*152*
obliquus
Boletus ··················*221*
Fomes ··················*221*
Irpex ··················*389*
Phaeoporus ··················*221*
Physisporus ··················*221*
Polyporus ··················*221*
Xanthochrous ··················*221*
Obockense
Ganoderma ··················*345*
obtusissima
Clavaria ··················*70*
Ramaria ··················63, 70
obtusus
Boletus ··················*374*
obvolutus
Polyporus ··················*350*
occidentale
Stereum ··················*132*
occidentalis
Clavaria ··················*85*
Spongipellis ··················*283*
ochracea
Peniophora ··················*118*
Thelephora ··················*135*
ochraceum
Hydnum ··················*194*
Leptodon ··················*194*
Mycoleptodon ··················*194*
Steccherinum······193, 194, 194, (195)
ochraceus
Boletus ··················*270*
Climacodon ··················*194*
Polystictus ··················*270*
ochrohirsutus

Polystictus ··········267
ochroleuca
Fomitopsis ··········316
Truncospora ··········316, 316
Ungulina ··········316
ochroleucus
Fomes ··········316
Polyporus ··········316
Trametes ··········316
ochrotinctus
Polyporus ··········329
Polystictus ··········329
odorata
Ceratophora ··········242
Fomes ··········242
Phanerochaete ··········143
Thelephora ··········143
Trametes ··········242
odoratum
Corticium ··········143
Gloeophyllum ······237, 242, (242)
Stereum ··········131, 143
Trametes ··········224
odoratus
Anisomyces ··········242
Boletus ··········242
Ochroporus ··········242
Polyporus ··········242
Xerocarpus ··········143
officinalis
Boletus ··········301
Fomes ··········301
Fomitopsis ···300, 301, (302)
Leptoporus ··········301
Piptoporus ··········301
Polyporus ··········301
Ungulina ··········301
ogasawarasimensis
Heterochaete ······16, 16, (16)
okabei
Lloydella ······144, 147, (147)
olidum
Calodon ··········176, 177
Hydnum ··········177
olivacea
Fomitopsis ···301, 311, (311)
olivaceo-nigrum
Hydnum ··········180
olivaceus
Fomes ··········311
omphalodes
Amauroderma ······340, 340
Fomes ··········340
Ganoderma ··········340
Polyporus ··········340
Scindalma ··········340
orbiculare
Radulum ··········188
oregonensis
Polyporus ··········344
orientalis
Aleurodiscus ··········126, 129
Femsjonia ··········38, 39
Onnia ··········385, 387, (387)
Polyporus ··········387
Polystictus ··········224, 233
Trametes ······224, 232, (233)
ornata
Auricularia ··········5
Poria ··········222
ornatipes
Clavaria ··········81
Clavulina ··········81, 81
Lachnocladium ··········81
Oryzae
Sclerotium ··········107
Ostrea
Thelephora ··········136
ostreum
Stereum ··········136
ovinus
Boletus ··········332
Caloporus ··········332
Polyporus ··········331, 332
Scutiger ··········332
oxyporus
Polyporus ··········255

P

pachylon
Irpex ··········389
pachyphloeum
Cryptoderma ··········360, 366
Phellinus ··········366
Scindalma ··········366
pachyphloeus
Fomes ··········366
Polyporus ··········366
pacifica
Deflexula ··········58, 59, (59)
Mucronella ··········59
Padi
Thelephora ··········164
Palisoti
Daedalea ··········231
Lenzites ··········231
Trametes ··········224, 231
pallida
Clavaria ··········65
pallido-cervinus
Polyporus ··········293
pallidofulva
Sesia ··········241
pallidofulvum
Gloeophyllum ··········241
pallidum
Asterostroma ··········123
pallidus
Cantharellus ···97, 100, (100)
palmata
Calocera ··········41, 41, (42)
Clavaria ··········172
Dacryomycs ··········35
Phylacteria ··········172
Thelephora ···172, 172, (172)
Tremella ··········35, 42
palmatum
Merisma ··········172
palmatus
Dacrymyces ······34, 35, (35)
palmicola
Hymenochaete ······155, 165, (165)
Stereofomes ··········143
palmicolum
Stereum ··········143
palvulus
Xanthochrous ··········382
papillosa
Thelephora ··········172, 174
papyracea
Auricularia ··········4, 6
papyraceo-resupinata
Daedaleopsis ··········248, 252
Hexagona ··········252
papyrina
Auricularia ··········206
Bonia ··········16
Mycobonia ··········16
papyrinus
Merulius ··········206
paradoxa
Bresadolia ··········319
pargamenus
Coriolus ······261, 263, (264)
Polyporus ··········263
Polystictus ··········263
parvulus
Irpex ··········253, 254
Polyporus ··········257, 382
Xanthochrous ··········382
Patouillardii
Inonotus ··········355, 357
Polyporus ··········357

Polystictus ……357
patula
Medusina ……191
Peckii
Clavaria ……92
pedicellatum
Septobasidium ……12
pedunculata
Dacryomitra ……32
Exidia ……32
pelleporus
Boletus ……286, 288
pellucidus
Polystictus ……272
pendula
Chaetocypha ……168
Cyphella ……168, 168
Fistulina ……211
Peziza ……168, 295
Porodiscus ……296
pendulus
Porodisculus……295, 295, (296)
penicillata
Pterula ……60
Thelephora ……175
penicillatum
Merisma ……175
pentaspora
Microstroma ……52
pentasporium
Exobasidium……47, 52, (53)
perdix
Thelephora ……143
perennis
Boletus ……383
Coltricia ……382, 383, (383)
Fomes ……383
Microporus ……383
Ochroporus ……383
Pelloporus ……383
Polyporus ……383
Polystictus ……260, 383
Trametes ……383
Xanthochrous ……383
pergamenea
Thelephora ……116
pergameneum
Hydnum ……197
Steccherinum……194, 197
pergamenus
Hirschioporus ……263
Microporus ……263
perplexus
Inonotus ……359
persimilis
Clavaria ……94
Persoonii
Polystictus ……304
pertenuis
Hymenochaete……155, 165, (165)
petasitidis
Pistillaria ……80, 80, (80)
Petersii
Clavaria ……61
Pilacre ……10
Peziza
Guepinia ……33
pezizaeformis
Exidia ……39
Femsjonia ……39
pezizoides
Dacrymyces ……34, 37
phacorrhiza
Clavaria ……77
Typhula ……77, 77
phoenicea
Clavaria ……95
phosphorea
Auricularia ……113
phyllophila
Peniophora ……124
Vararia ……124, 124, (125)
picea
Hirneola ……10
Picei
Trametes ……367
piceinus
Polyporus ……362
Polystictus ……362
Trametes ……363
picipes
Leucoporus ……321
Melanopus ……321
Merulius ……321
Polyporellus ……317, 321, 321
Polyporus ……321
picta
Trametes ……313
pieridis
Exobasidium ……47, 51
pilosa
Clavaria ……76
pilosum
Septobasidium ……11, 13
Pilotae
Aurantiporus ……291
Polyporus ……291
pinguis
Holtermannia ……28
Pini
Boletus ……362
Boninohydnum ……197, 197
Cryptoderma ……359, 362
Daedalea ……362
Fomes ……362, 368
Ochroporus ……362
Phellinus ……363
Polyporus ……362
Porodaedalea ……363
Trametes ……307, 362, 367
Xanthochrous ……362
pinicola
Boletus ……306
Fomes ……307
Fomitopsis ……300, 306, (307)
Placodes ……307
Polyporus ……306
Trametes ……307
Ungulina ……307
pinsitus
Coriolus ……261, 270
Microporus ……271
Polyporus ……270
Polystictus ……271
pistillaris
Clavaria ……73, 74
Clavariadelphus ……72, 73, (74)
Clavariella ……73
Craterellus ……73
Placenta
Boletus ……270
platyclada
Clavaria ……93
platypora
Grifola ……319
platyporus
Boletus ……319
plebeja
Clavaria ……67
plicatulum
Stereum ……133
plicatus
Polyporus ……355
plumarium
Hydnum ……194
pocas
Polyporus ……389
Polystictus ……389
Pocula
Enslina ……295
Polyporus ……295
Sphaeria ……295

polycephalus
Boletus 335
Polyporus
Boletus 318
Polyporellus 318
Polyporus 318
polytricha
Auricula 9
Auricularia 4, 8, (9)
Exidia 8
Hirneola 9
polyzonus
Coriolus 261, 267
Polyporus 267
Polystictus 267
pomaceus
Boletus 379
Fomes 379
Phellinus 369, 379, (379)
Placodes 379
Polyporus 379
ponderosus
Fomes 307
populina
Trametes 255
populinum
Scindalma 255
populinus
Boletus 255
Fomes 255
oxyporus 255, 255
Polyporus 255
poripes
Grifola 334
Polypilus 334
Polyporus 334
porphyrea
Auricularia 9
Exidia 8
Hirneola 9
portentosa
Terana 109
portentosum
Corticium 108, 109
Stereum 109
pratensis
Clavaria 92
Ramaria 92
princeps
Stereum 131, 141, (141)
Thelephora 141
profissilis
Polyporus 282
Tyromyces 276, 282
prolificans
Coriolus 263
Microporus 263
Polyporus 263
Polystictus 263
protracta
Cellularia 241
Lenzites 241
Trametes 241
Pruni
Merulius 205
prunicola
Fomitiporia 222
Fuscoporia 219, 222
Poria 222
prunophilum
Septobasidium 11, 14
Pseudoboletum
Ganoderma 342
pseudoboletus
Agaricus 342
Ganoderma 344
pseudoigniarius
Boletus 357
Ochroporus 357
Polyporus 358
pterygodes
Polystictus 330
pubertatis
Fomitopsis 301, 312
Polyporus 312
pubescens
Bjerkandera 280
Boletus 280
Coriolus 280
Leptoporus 280
Polyporus 280
Polystictus 281
Trametes 280
Tyromyces 276, 280
pudens
Fomes 389
pudorinum
Hydnum 194
Leptodon 194
Pleurodon 194
pudorinus
Climacodon 194
pulchella
Polyporus 215
Poria 215
pulcher
Dacrymyces 34, 37
pulcherimum
Dryodon 196
pulcherrima
Dryodon 196
pulcherrimum
Hydnum 196
pulcherrimus
Creolophus 196
pulcherrinum
Steccherinum 194, 196
pulchra
Clavaria 94
Clavulinopsis 91, 94
pulchrum
Xylomyzon 204
pullum
Calodon 179
Cryptoderma 360, 364
Hydnum 179
pullus
Fomes 364
Phellodon 179, 180
Polyporus 364
Xanthochrous 364
pulverulenta
Auricularia 208
Gyrophana 207, 208, (208)
pulverulentus
Merulius 208
pulvinalis
Tremella 21, 23
pulvinata
Clavaria 75
pulvinatus
Boletus 283
punctata
Fuscoporia 219, 220
Poria 220
punctatus
Polyporus 220
punctiformis
Dacrymyces 34, 36
puniceus
Dacrymyces 34, 36
purgans
Boletus 301
purpurascens
Boletus 206
Exidia 8
Polyporus 206
purpurea
Clavaria 83, 84
Hymenochaete 146
Irpex 253
Kneiffia 146
Stypinella 3
Thelephora 5, 132
Trametes 224, 230

purpureofuscus
  Polystictus ……370
purpureum
  Helicobasidium ……3
  Stereum ……130, 131, (132)
purpureus
  Hirschioporus……257, 260
  Irpex……250
pusilla
  Pistillaria ……80
pusillum
  Cyptoderma……359, 360
  Stereum ……143
pusillus
  Fomes ……360
  Gloeoporus ……324
  Inonotus ……360
  Polyporus ……324
pusio
  Auricularia……5
puteana
  Coniophora ……208, 209
  Thelephora ……209
puteaneum
  Corticium……209
putearius
  Fomes ……377
putidum
  Calodon ……176, 180
  Hydnum ……180
pygmaeum
  Hydnum ……184
  Sarcodon ……181, 184
pyxidata
  Clavaria……60
  Clavicorona ……60, 60, (61)

Q

quercicola
  Clavaria……80
  Pistillaria ……80, 80, (80)
quercina
  Cyphella ……168
  Daedalea ……230
  Peniophora ……114, 118
  Thelephora ……118
  Ungulina……297
quercinum
  Corticium……118
quercinus
  Boletus ……297
  Buglossus……210
  Piptoporus ……296, 297
  Placodes ……297
  Polyporus……297

R

radians
  Stereum ……137
radiata
  Peniophora ……115
  Phlebia……202, 202
radiatum
  Corticium……115
  Stereum ……131, 138, (139)
radiatus
  Boletus ……355
  Fomes ……356
  Inodermus ……355
  Inonotus ……355, 355
  Ochroporus ……356
  Polyporus……355
  Polystictus ……265, 355
  Xanthochrous ……356
radicata
  Ditiola ……32, *39*
radiciperda
  Trametes ……303
Radula
  Hydnum ……188
  Poria……213, 217
Radulus
  Boletus ……217
  Chaetoporus……217
  Physisporus……217
  Polyporus……217
rameale
  Stereum ……131, 137
ramealis
  Thelephora ……137
ramosa
  Elvella ……169
  Sparassis……170
ramosissimus
  Boletus ……335, 336
  Polyporus……336
ramossima
  Grifolia ……336
ramossimus
  Polypilus ……336
ramosum
  Hydnum ……190
ramosus
  Boletus ……335
Ravenelii
  Cerrenella ……352
  Coriolus ……352
  Daedalea ……352
  Hydnochaete ……352, 352
  Kneiffia……115
  Peniophora ……114, 115
ravida
  Cladomeris ……256
  Trametes ……256
ravidus
  Coriolus ……256
  Oxyporus……255, 256
  Polyporus……256
  Polystictus ……256
rawakense
  Hydnum ……196
  Mycoleptodon ……196
  Steccherinum……194, 196
recisa
  Exidia ……18, 19
  Tremella……19
reflexa
  Auricula ……135, 202
  Auricularia……135, 202
  Phlebia ……202
reflexum
  Stereum ……136
reflexus
  Aleurodiscus ……126, 128
regulicolor
  Amauroderma ……339
reniforme
  Hydnum ……196
  Mycoleptodon ……197
  Steccherinum ……197
repanda
  Cellularia……232
  Daedalea ……231
  Hypothele……199
  Lenzites ……231
repandum
  Hydnum ……199, 199, (200)
  Dentinum……199
  Sarcodon ……199
repandus
  Tyrodon ……199
resinosum
  Ischnoderma……294, 294, (295)
resinosus
  Boletus ……294
  Ochroporus ……294
  Polyporus……294
reticulatum
  Exobasidium……47, 49, (50)
reticulatus
  Boletus ……250
rhabarbarina
  Lenzites ……238
rhaponticus

Fomes ……380
rheades
Polyporus ……357
Rhododendri
Exobasidium ……53
rhodophaeus
Fomes ……305
Fomitopsis …300, 305, (305)
Polyporus ……305
Rigidoporus ……305
Rhois
Hydnum ……194
Steccherinum ……194
rhombiporus
Boletus ……326
Ribesius
Polyporus ……365
Ribis
Agaricus ……365
Boletus ……365
Cryptoderma …359, 360, 365
Fomes ……365
Fulvifomes ……365
Inonotus ……365
Ochroporus ……365
Phellinus ……365
Polyporus ……365
Pyropolyporus ……365
Scindalma ……365
Trametes ……365
Xanthochrous ……365
Rieleii
Clavaria ……67
rigescens
Corticium ……110
rigidus
Microporus ……315
Polyporus ……315
Polystictus ……315
rimosa
Hymenochaete ……163, 164
rimosum
Scindalma ……376
Stereum ……130, 135, (135)
rimosus
Fomes ……375, 376
Phellinus ……369, 375, (376)
Polyporus ……375
Xanthochrous ……376
rixosa
Poria ……213, 217
rixosus
Chaetoporus ……218
Polyporus ……218
Robiniae
Fulvifomes ……376
Pyropolyporus ……376
robustus
Fomes ……372
Phellinus ……369, 372, (372), 379
Placodes ……372
Rolfsii
Sclerotium ……111
rosea
Clavaria ……83, 85, (85)
Dacryomyces ……36
Fomitopsis ……300, 308
Lloydella ……144, 149, (149)
Thelephora ……129
Trametes ……308
Ungulina ……309
roseo-albus
Fomes ……311
roseo-carnea
Thelephora ……142
roseo-carneum
Stereum ……131, 142
roseola
Trametes ……229
roseolum
Corticium ……129
roseo-poris
Polyporus ……289
roseo-tincta
Tremella ……21, 24
roseotinctus
Dacrymyces ……34, 36
roseo-zonata
Fomitopsis …300, 309, (309)
Trametes ……309
roseum
Corticium ……128
Scindalma ……309
Stereum ……149
roseus
Aleurodiscus ……126, 128
Boletus ……308
Fomes ……308
Hypochnus ……129
Lyomyces ……129
Placodes ……309
Polyporus ……308
rostratum
Urobasidium ……46
rubescens
Daedalea ……252
Daedaleopsis ……248, 252
Trametes ……252
rubiginosa
Helvella ……157
Hymenochaete ……154, 157, (157)
Thelephora ……157
rubiginosus
Boletus ……294
Polyporus ……365
rubriporus
Phellinus ……370
rudis
Hymenochaete ……162
Hymenochaetelle ……162
rufa
Guepinia ……29
Phlogiotis ……29
Tremella ……29
rufescens
Hydnum ……199, 200
Polyporus ……244, 385
Polystictus ……244
Sistotrema ……244
Tyrodon ……200
rufomarginata
Hymenochaete ……154, 158
rufo-pallidus
Fomes ……309
Polyporus ……308
rufus
Gyrocephalus ……29
rugispora
Hymenochaete ……146
Lloydella ……144, 146
rugisporum
Stereum ……146
rugosa
Clavaria ……82
Clavulina ……81, 82, (83)
Ramaria ……83
Thelephora ……133
rugosum
Amauroderma ……339, 340, (340)
Ganoderma ……340
Stereum ……130, 133, (134)
rugosus
Boletus ……342
Fomes ……340
Polyporus ……340
rugulosum
Scindalma ……315
rugulosus
Fomes ……315
Polyporus ……315
rutilans
Boletus ……292

Hapalopilus ··· *293*
Inonotus ··· *293*
Leptoporus ··· *293*
Phaeolus ··· *293*
Polyporus ··· *293*

S

saccharina
Exidia ··· *25*
saepiaria
Lenzites ··· *238*
Lenzitina ··· *238*
sagarum
Exidia ··· *19*
Tremella ··· *19*
Saitoi
Polyporus ··· *321*
salicum
Tremella ··· *19*
Sallei
Hymenochaete ··· 154, 158, (159)
Stereum ··· *160*
salmonicolor
Corticium ··· 109, 112
Terana ··· *112*
sambuceus
Polyporus ··· *278*
Tyromyces ··· 276, 278
sambucina
Auricularia ··· *7*
samoensis
Tremella ··· 21, 21
sanfordii
Cryptoderma ··· 360, 366
Fomes ··· *366*
sanguinea
Polystictus ··· *224*
Trametes ··· 225, 236
sanguineus
Boletus ··· *236*
Microporus ··· *236*
Polyporus ··· *236*
Polystictus ··· *236*
Pycnoporus ··· *236*
sanguinolenta
Thelephora ··· *134*
sanguinolentum
Stereum ··· 130, 134, (134)
sasae
Physalacria ··· 71, 71
Sasakii
Corticium ··· *107*
Hypochnus ··· *107*
Pelicularia ··· 106, 107, (107)
Sawadae
Exobasidium ··· *55*
scabriseta
Hymenochaete ··· *146*
Lloydella ··· *146*
scabrosum
Hydnum ··· *182*
Sarcodon ··· 181, 182
scabrosus
Phaeodon ··· *182*
scalaris
Polyporus ··· *226*
scaurus
Fomes ··· *388*
Onnia ··· 385, 388, (388)
Polyporus ··· *388*
Schimae
Polyporus ··· *331*
Schweinitzii
Cladomeris ··· *381*
Coltricia ··· *381*
Hapalopilus ··· *381*
Inodermus ··· *381*
Phaeolus ··· 380, 380, (381)
Polyporus ··· *380*
Polystictus ··· *381*
scirpina
Athelia ··· *122*
scirpinum
Corticium ··· *122*
sciurinus
Inonotus ··· 355, 356
scopulosus
Polystictus ··· *329*
scoticus
Polyporus ··· *303*
sculpta
Clavaria ··· *67*
scutellare
Corticium ··· 108, 109
scutellata
Fomitopsis ··· 300, 302
Trametes ··· *302*
Ungulina ··· *302*
scutellatus
Fomes ··· *302*
Polyporus ··· *302*
scytale
Stereum ··· *141*
sebacea
Soppitiella ··· *17*
Thelephora ··· *17*
sebaceum
Corticium ··· *17*
secernibilis
Bjerkandera ··· *286*
Polyporus ··· *286*
semilaccata
Coriolopsis ··· *305*
semilaccatum
Scindalma ··· *305*
semilaccatus
Fomes ··· *305*
Fomitopsis ··· 300, 305, (306)
Polyporus ··· *305*
semiovatum
Scindalma ··· *307*
semiovatus
Boletus ··· *306*
semipileatus
Leptoporus ··· *279*
Polyporus ··· *279*
Tyromyces ··· *279*
semisupinus
Polyporus ··· *279*
semivestitum
Lachnocladium ··· *62*
sendaiense
Pyrrhoderma ··· 388, 389, 389
Stereum ··· *142*
sendaiensis
Aleurodiscus ··· *130*
Polyporus ··· *389*
Trametes ··· 225, 237
senescens
Agaricus ··· *239*
sensitiva
Fomitopsis ··· 300, 304
Trametes ··· *304*
sepia
Lloydella ··· 114, 149
sepiaria
Daedalea ··· *238*
sepiarium
Gloeophyllum ··· 224, 237, 237, (238)
sepiarius
Agaricus ··· *238*
Merulius ··· *238*
sepium
Coriolellus ··· *227*
Daedalea ··· *227*
Stereum ··· *143, 149*
Trametes ··· *227*
septentrionale
Hydnum ··· *195*
Steccherinum ··· 194, 195, (195)
septentrionalis
Climacodon ··· *195*

Creolophus ……195
Sequoiae
Polystictus ……290, 389
serialis
Coriolellus ……226
Polyporus ……226
Pycnoporus ……226
Trametes……224, 226
serpens
Antrodia ……236
Daedalea ……236
Physisporus ……236
Polyporus ……236
Trametes……225, 236
serpentarius
Polyporus ……302
serratum
Hydnum ……187
Merisma……17
sessile
Ganoderma ……341, 345
sessilis
Fomes ……345
Polyporus ……345
setigera
Kneiffiella……186
Odontia……186, 186
Peniophora ……186
Poria……356
Thelephora ……186
setigerum
Corticium……186
setosa
Oxydontia ……189
setosus
Polyporus……378, 380
Trametes ……378
setulosus
Fomes ……374
Phellinus……369, 374
shenoi
Polystictus ……272
Shimadai
Clavaria……95
shiraianum
Exobasidium……47, 51, (52)
Shiraianus
Polyporus……292
Shopei
Ditiola……33
simile
Corticium……117
similis
Clavaria……92
Peniophora ……114, 117
simplex
Lachnocladium ……95
simulans
Corticium……161
Hymenochaete ……161
sinuans
Thelephora ……143
sinuosa
Poria……222
sistotremoides
Boletus ……380
Ochroporus ……381
Phaeolus ……381
Polyporus ……381
Romellia ……381
Solani
Botryobasidium ……106
Corticium……106
Hypochnus ……106, 107
Rhizoctonia ……106
solidum
Lycoperdon ……218
soluta
Thelephora ……173
sordidus
Polyporus……283
spadicea
Sistotrema ……380
Thelephora ……132
spadiceum
Stereum ……132
spadiceus
Microporus ……354
Polystictus ……354
spathularia
Guepinia ……39, 40, 40, (40)
Merulius ……40
spathularius
Guepiniopsis ……40
spathulata
Clavaria……73
speciosus
Agaricus ……274
Laetiporus……274
Polypilus ……274
spectabile
Stereum ……131, 139, (193)
spectabilis
Polyporus……380
spiculosa
Thelephora……172, 175
Tremella ……20
spiculospora
Clavaria……64
spiculosum
Corticium……175
spiniferum
Stereum ……140
splendens
Polyporus……382
Xanthochrous ……382
spongia
Polyporus……380
spongiosa
Cladoderris ……167, 167
spongiosus
Boletus ……356
Spraguei
Polyporus……283
Tyromyces ……276, 283
spreta
Hymenochaete ……154, 163
spumea
Bjerkandera ……283
spumeus
Boletus ……283
Inodermus ……283
Leptoporus ……283
Polyporus……283
Spongipellis……283
Tyromyces ……276, 283
squalens
Bjerkandera ……277
Coriolellus ……277
Polyporus……277
Trametes ……277
Tyromyces ……276, 277
squamosum
Hydnum ……182
squamosus
Boletus ……319
Cerioporus……319
Favolus……319
Melanopus ……319
Merulius ……238
Polyporellus……317, 319, (320)
Polyporus……319
squarrosum
Hydnum ……182
stalagmodes
Hydnum ……201
Stephensii
Polyporus……236
stereoides
Aleurodiscus ……126, 128
Antrodia ……272
stohlii
Hydnum ……176
striata

Cellularia······241
Daedalea······240
Lenzites······240
Lloydella······146
Sesia······241
Thelephora······145
striatum
Gloeophyllum······237, 240
Hydnum······182
Stereum······146
striatus
Agaricus······240
stricta
Clavaria······65
Clavariella······65
Ramaria······62, 63, 65, (65)
strictum
Lachnocladium······66
strigosa
Clavaria······93
strigoso-zonata
Auricularia······202
Phlebia······202, 202
strigoso-zonatus
Merulius······202
styracicola
Trametes······237
styracina
Daedalea······249
Daedaleopsis······247, 249, (250)
Lenzites······249
suaveolens
Boletus······225
Calodon······176
Polyporus······225
Trametes······223, 224, 225, (225)
subacerinus
Aleurodiscus······128
subacida
Polyporus······214
Poria······213, 214
subacuta
Clavaria······84, 88
subaffinis
Microporus······327, 329, (329)
Polystictus······329
subalpinus
Dacrymyces······34, 36
subargillacea
Clavaria······93
subaurantiaca
Clavaria······93
subauranticus
Merulius······204
subbotrytis
Clavaria······68
Ramaria······63, 68
subcaespitosa
Clavaria······89
subcinereus
Polyporus······286
subcorticale
Lachnocladium······89
subcorticalis
Clavaria······89
subcruentatum
Stereum······130
subcruentatus
Aleurodiscus······126, 129, (129)
suberosus
Boletus······283, 286, 292, 296
Piptoporus······297
Polyporus······293, 297
subfalcata
Clavaria······86, 87
subferruginea
Cellularia······240
Lenzites······240
subferrugineum
Gloeophyllum······237, 240, (240)
subochracea
Thelephora······124
subpellucidus
Polyporus······272
subperforatum
Ganoderma······345
subpertusa
Onnia······385, 386
subpertusus
Polyporus······386
Polystictus······386
subpictus
Polystictus······272
subpileata
Lloydella······144, 148, (148)
subpileatum
Stereum······148
subpileatus
Polyporus······303
subplana
Peziza······38
subradiatus
Polyporus······359
subrepandum
Corticium······142
subrosea
Fomes······309
Fomitopsis······309
Trametes······309
subsclerotioides
Typhula······77, 79
subsericeus
Polyporus······382
Polystictus······382
subspadicea
Poria······222
subspathulatus
Favolus······326
subsquamosus
Boletus······334
Polyporus······332
substygium
Cryptoderma······359, 362, (362)
Scindalma······362
substygius
Fomes······362
Polyporus······362
Polystictus······362
subtile
Hydnum······187
subtilis
Odontia······187
subtomentosa
Boletus······383
subulata
Anthina······59
Pterula······59, 59
subumbraculum
Ganoderma······341, 343
subumbrinella
Clavaria······96
Clavulinopsis······91, 96
subungulata
Fomitopsis······300, 306
subungulatus
Fomes······306
subzonata
Thelephora······135
subzonatum
Corticium······135
succina
Tremella······25
sulcata
Lloydella······144, 147, (148)
sulcatum
Ganoderma······346
Stereum······148
sulcifer
Polystictus······272
sulfurea

Cladomeris ……274
sulfureus
Merisma ……274
Polypilus ……274
Sullivantii
Polyporus ……280
Polystictus ……280
sulphurea
Grifola ……275
sulphureus
Boletus ……274
Laetiporus …273, 273, (274)
Polyporus ……274
Tyromyces ……275
Sumstinei
Grifola ……338
surculus
Lentaria ……70
surinamense
Stereum ……152
surinamensis
Podoscypha …151, 152, (152)
Symploci
Exobasidium ……55
Tyromyces ……285
symploci-japonicae
Exobasidium ……47, 55, (55)

T

tabacina
Auricularia ……155
Cerrenella ……352
Hymenochaete ……154, 155, (155), *156*
Thelephora ……155
tabacinoides
Hydnochaete ……352, 352
Irpex ……352
tabacinum
Stereum ……155
tabacinus
Cyclomyces …353, 354, (354)
Inonotus ……354
Irpex ……352
Microporus ……354
Polyporus ……354
Polystictus ……354
tabulaeformis
Polyporus ……380
Tanakae
Helicobasidium ……13
Irpex ……227
Irpiciporus ……227
Septobasidium ……11, 12, 13, (13)
Stypinella ……13
taxiphila
Clavicorona ……60
tenue
Scenidium ……250
tenuicula
Heterochaete ……16, 16
tenuiculum
Hydnum ……16
tenuis
Boletus ……250
Daedaleopsis ……247, 250, (251)
Favolus ……250
Fomes ……378
Hexagona ……250
Lenzites ……224, 231
Polyporus ……378
Trametes ……378
tenuissima
Hymenochaete ……159
tenuissimum
Stereum ……159
terminaliae
Fomes ……312
terrestris
Phylacteria ……175
Thelephora …172, 174, (175)
Thunbergii
Daedalea ……246
Lentaria ……246
Lentinus ……246
Lenzites ……246
Thwaitesii
Hexegonia ……250
Scenidium ……250
tinctoria
Tremella ……26
tinctorium
Echinodontium ……198
tjibodensis
Hymenochaete ……149
tochinaiana
Clavaria ……78
Typhula ……77, 78, (78)
tokyoensis
Polyporus ……278
tomentosa
Coltricia ……385
Onnia ……385, 385, (386)
tomentosum
Hydnum ……178
tomentosus
Mucronoporus ……385
Pelloporus ……385
Polyporus ……385
Polystictus ……385
Trametes ……385
Xanthochrous ……385
tonellianum
Microstroma ……46
tornata
Elfvingia ……348
tornatum
Ganoderma ……348
tornatus
Polyporus ……347
tortuosa
Daedalea ……265
tortus
Dacrymyces ……35, 36
Guepiniopsis ……33
torulosus
Fomes ……371
Phellinus ……369, 370, (371)
Polyporus ……370
trabea
Cellularia ……241
Coriolopsis ……241
Daedalea ……241
Lenzites ……241
Trametes ……241
trabeum
Cloeophyllum ……237, 241
Trametes ……224
trabeus
Agaricus ……241
Polyporus ……281
tremellina
Helvella ……5
Thelephora ……5
tremellodes
Auricularia ……5
Thelephora ……5
tremellosa
Auricula ……6
Auricularia ……6
Sesia ……205
tremellosum
Xylomyzon ……205
tremellosus
Dacrymyces ……34, 37
Merulius ……203, 204, 205, (205)
tricolor
Agaricus ……249
Cellularia ……249
Daedaleopsis ……247, 249, (249)
Lenzites ……249, 251

Trametes ……251
triqueter
Boletus ……386
Inonotus ……386
Ochroporus ……386
Onnia ……385, 386
Polyporus ……386
Polystictus ……386
tristis
Agaricus ……174
Polyporus ……310
Thelephora ……175
Trametes ……310
Trogii
Funalia ……228
Trametes……224, 228, (229)
truncata
Clavaria ……72, *103*
Exidia……18, 19, (20)
truncatospora
Trametes ……316
Truncospora ……316, 316
truncatus
Clavariadelphus ……72, 72, (73)
Gomphus ……103
Tsugae
Aleurodiscus ……126, 130
Fomes ……344
Ganoderma …341, 344, (344)
Polyporus ……344
tsugicola
Echinodontium……198, 198, (198)
Hydnofomes ……198
tsugina
Clavaria ……66
Fomitiporia ……373
Fuscoporia ……219, 373
Poria ……373
Tsunodae
Elfvingia ……349
Ganoderma ……349
Polyporus ……349
Trachyderma……349, 349, (349)
Tuberaster
Ceriomyces ……332
Polyporellus ……332
Polyporus …331, 332, (332)
tuberosa
Aphelaria ……61, 62, *62*
Calocera ……75
Thelephora ……62
tuberosum
Stereum ……62
tulipiferae
Poria ……222
typhae
Athelia ……122
Corticium ……122
Epithele ……122, 122
Hypochnus ……122
Kneiffia ……122
Thelephora ……122
typhuloides
Helicobasidium ……4

U

Ulcis
Dacryopsis ……39
Ditiola ……39
ulmaria
Fomitopsis ……313
Ungulina ……313
ulmarius
Boletus ……313
Fomes ……313, 314
Placodes ……313
Polyporus ……313
Rigidoporus…313, 313, (313)
Ulmi
Polyporus ……319
umbellata
Cladomeris ……336
Grifola ……335, 335, (336)
Merisma ……336
umbellatus
Boletus ……335
Cerioporus ……336
Polypilus ……336
Polyporus ……335
umbilicatum
Hydnum ……199
umbonatus
Polyporus ……270
umbrina
Hymenochaete ……146
Lloydella ……144, 146, (147)
umbrinum
Stereum ……146
umbrinus
Merulius ……208
undatus
Polyporus ……302
Polystictus ……303
undosus
Polyporus ……285
undulata
Tremella ……26
ungulata
Daedalea ……243
Trametes ……243
ungulatum
Gloeophyllum……237, 243, (243)
Scindalma ……307
ungulatus
Boletus ……299, 306
Fomes ……307
Placodes ……307
unicolor
Boletus ……264
Cerrena ……265
Coriolus ……261, 264, (265)
Daedalea ……264
Hymenochaete ……154, 163, (163)
Irpex ……265
Peniophora ……114
Phyllodontia ……265
Polystictus ……265
Sistotrema ……265
Trametes ……265
uva-passa
Exidia ……18, 18

V

vaccinii
Exobasidium ……46, 47, 54, (54)
Fusidium ……55
vaccinii-uliginosi
Exobasidium ……47, 53, (54)
vagum
Corticium ……106
Vaillantii
Boletus ……213
Leptoporus ……213
Physisporus ……213
Polyporus ……213
Poria……212, 213
Prothelium ……213
valesiacus
Polyporus ……345
vaporaria
Poria ……213, 214, 216
vaporarius
Boletus ……213
Polyporus ……216
varia
Grifola ……320
variegata
Lenzites ……246
variegatum

Scindalma ……342
variegatus
Boletus ……268
variicolor
Stereum ……136
variiformis
Calocera ……41
varius
Boletus ……320
Favolus ……320
Melanopus ……320
Merulius ……320
Polyporellus…317, 320, 321, (321)
Polyporus ……320
vastator
Merulius ……206, 207
vegetus
Fomes ……347
Ganoderma ……348
Phaeoporus ……348
Placodes ……347
Polyporus ……347
vellereum
Corticium ……108, 109
Hydnum ……180
Stereum ……131, 140
vellereus
Phellodon ……180
Polystictus ……271
velutinum
Septobasidium ……11
velutinus
Boletus ……356
Polystictus ……281
venulosus
Polystictus ……280
venustus
Microporus ……259
Polystictus ……259
vermicularis
Clavaria ……83, 84, 88, (88)
vermiculata
Clavaria ……88
vernicipes
Microporus ……327, 329
Polyporus ……329
Polystictus ……329
versatilis
Funalia ……260
Hirschioporus……257, 259
Microporus ……259
Polystictus ……259
Trametes ……259
versicolor
Bjerkandera ……269
Boletus ……268
Coriolus……260, 261, 268, *269*, (269)
Corticium ……117
Hansenia ……269
Helvella ……137
Microporus ……269
Peniophora ……114, 117
Polyporus ……268
Polystictus ……268
Stereum ……131, 137
Thelephora ……137
Trametes ……269
versiforme
Stereum ……149
versiformis
Hymenochaete ……150
Lloydella ……144, 149
versiporus
Laetiporus ……273, 275
Polyporus ……214
versispora
Calvatia ……275
Poria ……213, 214
versisporus
Polyporus ……275
Ptychogaster ……275
verticalis
Tremella ……26
vexans
Exobasidium ……47, 50, (50)
vialis
Cellularia ……241
Lenzites ……241
vibrans
Hymenochaete ……138
Stereum ……131, 138, (138)
villosa
Funalia ……259
villosus
Boletus ……356
vinosa
Fomitopsis ……301, 310
Hymenochaete ……146
Thelephora ……171
vinosus
Coriolus ……310
Nigroporus ……310
Polyporus ……310
Polystictus ……310
violacea
Auricularia ……5
violaceum
Sistotrema ……258
violascens
Hydnum ……183
Irpex ……258
Sarcodon ……181, 183, (184)
Tyrodon ……183
virgineus
Boletus ……261
Polystictus ……261
virgultorum
Clavaria ……76
viscosa
Calocera ……41, 43, (43)
Clavaria ……43
Exidia ……22
Thelephora ……22
Tremella ……21, 22
vitellina
Clavaria ……92
Poria ……213, 216
vitellinus
Boletus ……216
Polyporus ……216
viticola
Fuscoporia ……*219*, *378*
Polyporus ……378
Poria ……378
vittata
Trametes ……232, 233
vittatus
Polystictus ……232
Polyporus ……232
volvata
Ungulina ……351
volvatum
Scindalma ……351
volvatus
Cryptoporus……45, 350, 350, (350)
Fomes ……350
Polyporus ……350
vorticosum
Stereum ……132
vulgare
Auriscalpium ……192, 192, (193)
vulgaris
Cantharellus ……97
Poria ……212

W

wakawae
Polyporus ……389
Warburgii
Lachnocladium ……66
Weirii

Fomitiporia ··················220
Fuscoporia ············219, 220
Poria ························220
Wightii
Hexagona ···················247
Hexagonia ··················247
Polyporus ··················247
Scenidium ··················247
Willeyi
Thelephora ·················151
Williamsii
Fomes ······················361
Phellinus ··················361
Pyropolyporus ··············361
willkommii
Peziza ·····················126
wrightii
Hydnum ·····················201
Odontia ················122, 187

X

xantha
Amyloporia ·················215
Poria ·················213, 215
xanthopus
Microporus ············327, 330
Polyporus ··················330
Polystictus ·················330
xanthus
Polyporus ··················215
xerampelinus
Polyporus ··················354
Polystictus ·················354
xerophyllaceus
Polyporus ··················310
Polystictus ·················310

Y

yamanoi
Cryptoderma······360, 367, (368)
Yasudai
Fomes ······················373
Hymenochaete······154, 156, (156)
Phyllocarbon ···············184
Polyporus ············331, 333
yezoense
Fomes ······················367
Cryptoderma ················367
Yoshinagai
Exobasidium ·················55
Lenzites ····················227
Polyporus ··················315
Yucatanensis
Phellinus······369, 376, (376)
Pyropolyporus ··············376
yucatensis
Fomes ······················376

Z

Zimmermanni
Corticium ··················112
Zippelii
Clavaria ····················63
zollingeri
Clavaria ··················83, 84
Zollingeriana
Trametes ···················259
zonalis
Boletus ····················315
Fomitopsis ·················315
Polyporus ··················315
Rigidoporus ···········313, 315
zonata
Bjerkandera ················270
Hansenia ···················270
Trametes ···················270
zonatulus
Polyporus ··················280
Tyromyces ············276, 280
zonatum
Calodon ······176, 177, (178)
Ganoderma ··················346
Hydnellum ··················177
Hydnum ·····················177
zonatus
Boletus ····················270
Coriolus ·············261, 270
Phaeodon ···················177
Polyporus ··················270
Polystictus ·················270

菌和名索引

ア

アイイロオオコウヤクタケ …114
アイカワタケ……273, 273, (274), 275
アイカワタケ属 …………273, 273
アイコウヤクタケ …109, 113, 114
アオゾメタケ ………276, 278, 279
アオロウジ …………331, 333, 333
アカウロコタケ ………………162
アカエガマホタケ………77, 77, 78
アカオオウロコタケ……154, 161, 162, (162)
アカキクラゲ……………34, 35, 36
アカキクラゲ科…………29, 31, 31
アカキクラゲ属 ……………31, 34
アカキクラゲ目……………1, 31
アカギタケ …………327, 329, 330
アカギンコウヤクタケ ……………………109, 111, 112
アカギンタケ …………………112
アカコウヤクタケ……125, 126, (126), 127
アカコウヤクタケ族 ……105, 125
アカコウヤクタケ属 ……105, 125
アカゴロモビョウキン ………112
アカゾメアミタケ …300, 304, 304
アカゾメタケ ………290, 292, 293
アカゾメタケ属 …………273, 290
アカナギナタタケ……91, 94, 95, (95)
アカヒメホウキタケ……89, 90, 90
アカラッパタケ ……101, 102, 102
アクイロウスタケ……97, 99, 99, (99)
アケボノオシロイタケ…276, 282, 282
アケボノソウメンタケ…91, 95, 96
アシギウスタケ…………………99
アシグロタケ …317, 321, 321, 322
アズマウロコタケ …131, 140, 141
アズマコウヤクタケ……126, 129, 129
アズマタケ …385, 387, 387, (387)
アセアミタケ …………………228
アセハリタケ ………194, 196, 196
アツミヒビウロコタケ…154, 163, 163, (163)
アナタケ ……………213, 214, 214
アナタケ族 ………………212, 212
アナタケ属 ………………212, 212
アミウズタケ …………………384
アミウスバタケ ………………228
アミキクラゲ ……………4, 6, 6
アミスギタケ………322, 325, 326, (326)
アミヒラタケ………317, 319, 320, (320)
アミラッパタケ …………331, 331
アメウロコタケ……130, 135, 135, (135)
アラゲウロコタケ……167, 167, (167)
アラゲカドアナタケ ……247, 247
アラゲカワラタケ…261, 266, 267, (267)
アラゲキクラゲ………4, 8, (9), 10
アワビタケ …………276, 280, 280
アンズタケ ………96, 97, 98, (98)
アンズタケ科 ……………45, 96
アンズタケ属 ……………96, 96

イ

イシカリガマホタケ……77, 79, 79
イタチハリタケ ……199, 200, 200
異担子菌亜綱 ……………………1, 1
イトタケ …………17, 17, 18, (18)
イドタケ ……………208, 209, 209
イドタケ属 ………………201, 208
イネモンガレビョウキン ……*108*
イボタケ ……………172, 174, 174
イボタケ科……………………46, 170
イボタケ族 ………………170, 171
イボタケ属 ………………171, 172
イマゼキツノマタタケ…40, 41, 41
イロヅキタケ ………276, 282, 283

ウ

ウサギタケ …224, 228, 229, (229)
ウスカミウロコタケ……155, 165, 165, (165)
ウスキアナタケ ……213, 214, 215
ウスキイロカワタケ……114, 115, 115
ウスキカワタケ……124, 124, 125, (125)
ウスギキクラゲ ……………4, 7, 7
ウスタケ……97, 100, 100, (100), 102, 103, 184
ウズタケ ………353, 382, 384, 384
ウスバシハイタケ……257, 258, (258), 259
ウスバタケ……205, 253, 253, 254, (254), 256, 260
ウスバタケ属 ……………253, 253
ウスバタケモドキ ……………262
ウスベニウロコタケ……144, 149, 149, (149)
ウスベニオオコウヤクタケ …129
ウスベニコウヤクタケ…126, 128, 129
ウズラタケ ………………316, 316
ウズラタケ属 ………298, 316, 316
ウチワタケ …327, 328, 328, (328)
ウツギノサルノコシカケ ……………360, 366, 366, (366)
ウヅラアミタケ ………………304
ウラギンタケ……216, 265, 266, (266)
ウラジロウロコタケ……144, 144, 145, (145)
ウラベニタケ ………288, 289, 290
ウロコタケ ………………126, 154
ウロコタケ科 …………………104
ウロコタケ族 ……………105, 130
ウロコタケ属 ………105, 130, 144
ウロコタケモドキ …126, 128, 128

エ

エゴノキタケ………247, 249, 249, 250, (250)
エゾオシロイタケ …276, 281, 282
エゾカワラタケ ……385, 386, 387
エゾキコブタケ……369, 377, 377, (377)
エゾサビイロアナタケ…219, 220, 221
エゾサルノコシカケ……360, 367, 368, (368)
エゾシハイタケ ……257, 259, 259
エゾシロアミタケ …224, 233, 234
エゾタケ ……277, 284, (284), 285
エゾノハスグサレタケ…369, 377, 378
エゾハリタケ …………………196
エゾヒズメタケ ……359, 363, 363
エビウラタケ……288, 288,

289, (289)
エビウラタケ属 ……273, 288, 288
エビウロコタケ……154, 157, (157), 158
エビウロコタケモドキ…154, 158, 158
エビオオコウヤクタケ ………113
エビコウヤクタケ…109, 112, 113, (113)
エビタケ ……349, 349, (349), 350
エビタケ属 …………………339, 349
エヒメウスバタケ ………352, 352
エブリコ ……300, 301, 302, (302)

オ

オウギハリタケ ……194, 197, 197
オオウズラタケ ……273, 275, 275
オオウロコタケ………131, 141, 141, (141)
オオオシロイタケ …276, 279, 279
オオカイガラタケ…224, 232, 232, (232)
オオカタウロコタケ…131, 139, 140, (140)
オオカボチャタケ …290, 291, 291
オオサビアナタケ …219, 378, 379
オオサビサルノコシカケ ……………………369, 378, 379
オオシミタケ ………276, 279, 279
オオシロサルノコシカケ ……………313, 314, 314, (314)
オオシワタケ………203, 204, (204), 205
オオスルメタケ……300, 305, 305, (305)
オオタバコウロコタケ…154, 158, 158, (158)
オオタマバリタケ …………71, 71
オオチリメンタケ…224, 230, 231, (231)
オオツブキンカクビョウキン ………………………… ……108
オオツブシラキヌビョウキン ………………………………108
オオマンネンタケ …341, 345, 345
オオミダレアミタケ…224, 230, 230, (230)
オオメシマコブ……369, 375, 376, (376)
オガサワラカミコウヤクタケ ……………108, 110, 110, (110)
オガサワラキンハナビラタケ …………………21, 21, 22, (22)
オガサワラシロヒメホウキタケ …………………………90, 91, 92
オガサワラニカワウロコタケ ………………………………121
オガサワラネバリコウヤクタケ ……………119, 121, 121, (121)
オガサワラハリヒラタケ ………………………197, 197
オガサワラハリヒラタケ属 ………………………186, 197
オカベウロコタケ…144, 147, 147, (147)
オクバタケ ………………188, 188
オクバタケ属 ……………186, 187
オシロイタケ ………276, 281, 281
オシロイタケ亜族 ………223, 273
オシロイタケ属 …………273, 275
オツネンタケ…260, 382, 383, (383), 384
オツネンタケ属 …………351, 381
オツネンタケモドキ…317, 317, (318), 319
オツネンタケモドキ属 …317, 317
オニカワウソタケ …355, 357, 357
オリーブハリタケ …181, 183, 183
オロシタケ …………………16, 16
オロシタケ属 ………………15, 16

カ

カイガラタケ………245, 245, 246, (246)
カイガラタケ属 …………223, 245
カイメンタケ……290, 380, 380, 381, (381)
カイメンタケ属 …………351, 380
カオリウロコタケ …144, 146, 146
カキン …………………………208
カゴメカワラタケ…261, 271, 271, (271)
カサウロコタケ……144, 147, 148, (148)
カシサルノコシカケ…300, 308, 308, (308), *373*
カタウロコタケ……131, 142, 143, (143)
カタオシロイタケ …276, 283, 284
カタシラガタケ……225, 234, 234, (234)
カタマリシロキクラゲ…21, 26, 26
カドアナタケ属 …………223, 246
カノシタ ……199, 199 200, (200)
カバアナタケ ………219, 221, 221
カベタケ ……………………209, 209
カボチャタケ………290, 291, 292, (292)
ガマタケ ……………300, 301, 301
ガマホタケ属 ………………58, 77
ガマホタケモドキ属 ………58, 79
カミウロコタケ……144, 146, 147, (147)
カミカワタケ………114, 116, (116), 117
カミキクラゲ ………………4, 6, 7
カミコウヤクタケ ………122, 122
カミコウヤクタケ属 ……105, 122
カミハリタケ ………194, 197, 197
カラスタケ …………………184, 184
カラスタケ族 ……………171, 184
カラスタケ属 ……………171, 184
カラスマイタケ …………………184
カレエダタケ ……81, 82, 83, (83)
カレエダタケ属 ……………58, 80
カレエダタケモドキ…81, 82, 83, (83)
カワウソタケ………355, 358, (358), 359
カワウソタケ属 …………351, 355
カワシワタケ ………204, 206, 206
カワタケ ……………114, 118, 119
カワタケ属 ………………105, 114
カワラケタケ ………224, 233, 233
カワラタケ …261, 268, (269), 270
カワラタケ亜族 …………223, 253
カワラタケ属 ……………253, 260
カワラタケモドキ …261, 270, 270
ガンコウランハブクレモチビョウキン ……46, 47, (47), 48
カンザシタケ ……59, 60, 60, (60)
カンザシタケモドキ ………59, 59
カンゾウタケ………210, 210, 211, (211)
カンゾウタケ科……………46, 210
カンゾウタケ属 …………210, 210
カンバタケ …………296, 296, 297
カンバタケ亜族 …………223, 293
カンバタケ属 ………247, 293, 296

キ

キアシグロタケ……317, 320, 321, (321)
キアシセンコウタケ…83, 86, (86), 87
キアナタケ …………213, 216, 216
キイロダンアミタケ……224, 226, 226
キイロニカワタケ………21, 24, 24
キウロコタケ………131, 135, 136, (136)
キカイガラタケ……224, 237, 237, (238), 239
キカイガラタケ属 …222, 223, 237
キカワタケ ……114, 115, 117, 117

キカワラタケ ……*268*
キクラゲ ……4, 7, 8, (8)
キクラゲ科 ……2, 2
キクラゲ属 ……2, 4
キクラゲ目 ……1, 2
キコハリタケ ……189, 189, 190
キコブアナタケ ……375
キコブタケ……219, 369, 374, 375, (375), 379
キコブタケ科 ……*351*
キコブタケ族…212, 219, 222, 260, 290, 351, 388
キコブタケ属 ……351, 368
キコメバタケ ……122
キシワタケ ……204, 206, 206
キソウメンタケ …90, 91, 91, (91)
キゾメタケ ……213, 218, 218
キチリメンタケ……237, 241, 242, (242)
キツネカワラタケ …261, 267, 267
キツネノコンニャク…18, 19, 20, (20)
キヌハダタケ……353, 354, 354, (354)
キヌハダタケモドキ……359, 362, 362, (362)
キヌフルイタケ ……248, 252, 253
キハリタケ ……176, 176, 177, *190*
キヒモカワタケ ……114, 114, 115
キブリイボタケ……172, 173, 174, (174)
キブリウロコタケ …151, 153, 153
キホウキタケ ……63, 68, 69, (69)
キリタケ……71
キンイロアナタケ …213, 214, 214
ギンジ……26
ギンジモドキ……25
菌蕈類 ……1, 45, 45
キンハナビラタケ ……21, 21
キンホウキタケ …91, 92, (92), 93

ク

クサハリタケ ……176, 178, 179
クシノハシワタケ…188, 188, 189, (189)
クシノハシワタケ属 ……186, 188
クジラタケ …224, 232, 233, (233)
クズノタマ……21, 23, 23
クスリウロコタケ ……166, 166
クスリウロコタケ属 ……105, 166
クスリオオウロコタケ ……166
クダタケ ……72, 75, (75), 76
クマデタケ ……172, 175, 175
クモタケ ……270
クモノスコウヤクタケ…106, 106, (106), 107
クモノスコウヤクタケ族 ……104, 105
クモノスコウヤクタケ属 ……104, 105
クリイロカワラタケ ……270
クリハリタケ ……176, 179, 179
クリームカワタケ …114, 115, 116
クロウスタケ ……102
クロガネマンネンタケ…341, 345, 346
クロカワ ……185, 185
クロカワ族 ……171, 185
クロカワ属 ……171, 185
クロキクラゲ……20
クロキモチビョウキン…47, 55, 55, (55)
クロサルノコシカケ……301, 312, 312, (312)
クロスジサルノコシカケ ……360, 366, 367
クロセンコウタケ……83, 86, 86, (86)
クロツブガマホタケ……77, 79, 79
クロハナビラニカワタケ ……21, 25, 26
クロハリタケ……176, 179, 180, (180)
クロブドウタケ ……301, 311, 311
クロボキン目 ……1
黒穂菌類 ……211
クロマメノキコナモチビョウキン ……47, 53, 54, (54)
クロラッパタケ……101, 101, 102, (102)
クロラッパタケ属……96, 101
クワペンタケ……91, 94, 94
クワモンパキン …11, 13, 13, (13)

ケ

ケアシホウキタケ ……81, 81
ケイヒウロコタケ…154, 162, (162), 163
ケイヒウロコタケモドキ ……154, 163, 163
ケウロコタケ ……131, 140, 140
ケシワウロコタケ ……202, 202
ケニクアミタケ……300, 309, 309, (309)
ケモンパキン……11, 13, 14
ケロウジ ……181, 182, 182

コ

コアカエガマホタケ……77, 79, 79
コアラホウキタケ……63, 64, 64, (64)
コアンズタケ……98
コウタケ ……181, 183, 183
コウモリタケ ……331, 334, 335
コウモリマンネンタケ…341, 343, 343
コウヤクタケ ……114, 201
コウヤクタケ科……46, 104
コウヤクタケ族 ……104, 108
コウヤクタケ属 ……104, 108 119
コウヤクタケモドキ ……124, 124
コウヤクタケモドキ族 …105, 124
コウヤクタケモドキ属 …105, 124
コウヤクビョウキン……12
コウヤクマンネンハリタケ ……198, 198, 199
コカサウロコタケ…144, 148, (148), 149
コカサウロコタケモドキ ……144, 149, 149
コガネウスバタケ ……352, 352
コガネウスバタケ属 ……351, 352
コガネウロコタケ…154 158, 159, (159)
コガネコウヤクタケ……122, 126, 127, 127
コガネシワウロコタケ …202, 202
コガネニカワタケ……21, 24, 24 (24)
コガネネバリコウヤクタケ ……119, 121, 122
コガネホウキタケ……63 69, (69), 70
コカンバタケ ……296, 297 297
コクロラッパタケ …101, 102, 102
コゲイロカイガラタケ…237, 239, (239), 240
コケモモモチビョウキン ……47, 54 (54), 55
コゴメウスバタケ …253, 254, 254
コシロガマホタケ ……80, 80
コスリコギタケ …72, 74, 75, (75)
コツブコウヤクタケ……108, 110, 111, (111)
コツブシラキヌビョウキン …111
コナナミダタケ……207, 208, 208, (208)
コバノウスバタケ ……262
コフキサルノコシカケ ……349
コフキタケ…17, 18, 316, 347, 347, (348), 349
コフキタケ属 ……339, 346
コブサルノコシカケ……369, 372, (372), 373, 374, 379
コブサルノコシカケモドキ

……………………369, 374, 374
コブシタケ ………………168, 168
コホウキタケ……………63, 68, 68
コマタケ ……………340, 340, 340
コマタケ属 ………………339, 339
コマバカワタケ ……114, 119, 119
コメバタケ属 ……………186, 186
コモタケ………………………98
コルクタケ …369, 370, 371, (371)
コルジアナ属 ………………46, 55
コンイロコウヤクタケ ………114
コンイロモンパキン…11, 14, 14, (14)

サ

ザイモクタケ ………255, 256, 256
サイワイタケ …………………343
サカズキウロコタケ……151, 152, 152, (152)
サカズキカワラタケ……260, 261, 262, (262)
サカズキコウヤクタケ…126, 127, 127
サカズキタケ …………………319
サガリハリタケ …189, 189, (189)
サガリハリタケ属 ………186, 189
サギウロコタケ……151, 153, 153, (154)
サキジロホウキタケ……63, 64, 64
サクラノサルノコシカケ ……………369, 379, (379), 380
サクラノモンパキン……11, 14, 14
ササキクモノスコウヤクタケ ……………106, 107, (107), 108
サザンクヮモチビョウキン ……………………47, 49, 49, (49)
サジタケ ……385, 387, 388, (388)
サビアナタケ ………219, 221, 222
サビアナタケ属 …………212, 219
サビウロコタケ……131, 138, 138, (138)
サビカワウロコタケ……131, 138, 139, (139)
サビカワタケ ………114, 117, 117
サビキン目 ………………………1
銹菌類 …………………………211
ザボンタケ …………331, 333, 334
サメガワタケ ………352, 353, 353
サヤナギナタタケ……83, 85, (85), 86
サルノコシカケ科…………46, 211
サルノコシカケ族 …212, 222, 260
サルノコシカケ目………………45
サルノコシカケ類 ……………298
サンゴタケ ………28, 29, 29, (29)
サンゴハリタケ……190, 190, (190), 191
サンゴハリタケ属 ………186, 190
サンゴハリタケモドキ…190, 191, 191
サンゴホウキタケ………63, 68, 68

シ

シイノサルノコシカケ…301, 311, (311)
シカタケ ………*182*, 272, 272, 273
シカタケ属 ………………253, 272
シコンタケ …………………*260*
シシガシラ …………190, 192, 192
シシタケ ……………181, 181, 182
シシタケ族 ………………171, 176
シシタケ属 …………171, 181, 185
シシタケモドキ ……181, 182, 183
シジミアミタケ ……247, 251, 251
シタウロコタケ ……151, 152, 153, (153)
シタウロコタケモドキ…151, 153, 153, (153)
シダガマホタケモドキ ……77, 77
シダガマホタケモドキ属 …58, 76
シダパイプタケ …169, 169, (169)
シダレハナビタケ……58, 58, (58), 59
シックイコウヤクタケ…126, 128, 128
シックイタケ………290, 291, (291), 291
シハイタケ……253, 256, 257, (257), 258
シハイタケ属 ……………253, 256
シブウロコタケ……154, 161, 161, (161)
シブウロコタケモドキ…155, 165, 166
シブオオウロコタケ …………161
シブハリタケ …………………180
シブハリタケモドキ …176, 181, 181
シマウチワタケ……327, 327, (327), 328
シマウロコタケ ……144, 150, 150
シマオオウロコダケ …………150
シマサルノコシカケ……359, 361, (361), 362
シマホウキタケ…………63, 66, 66
シママンネンタケ…341, 346, 346, (346)
シミガタセンベイタケ…276, 277, 277, (277)
シミタケ ……………276, 282, 282
シミダシカタウロコタケ ……………130, 133, 134, (134)
シャクシタケ………385, 388, 388, (388)
シャクナゲコナモチビョウキン …………………47, 51, 52, (52)
シャクナゲタマモチビョウキン …………………47, 51, 51, (51)
シュイロタケ …………………236
ジュズタンシキン科……………15
シュタケ ……225, 235, (235), 236
シュッケツマンネンタケ ……………339, 340, 340, (340)
ジョウゴハリタケ…176, 178, 178, (178)
シラウオタケ ……70, 70, (70), 71
シラウオタケ属 ……………57, 70
シラゲタケ …………257, 259, 260
シロアミタケ………224, 225, (225), 226
シロアミヒラタケ …322, 323, 324
シロアンズタケ……97, 100, (100), 101
シロウロコタケ ……150, 151, 152
シロカイメンタケ…276, 278, 278, *290*
シロカノシタ ………199, 200, 200
シロキクラゲ ……21, 26, 26, (26)
シロキクラゲ科 ……………15, 15
シロキクラゲ属 ……………15, 20
シロキクラゲ目………………1, 15
シロキクラゲモドキ……21, 22, 22
シロキツネノコンニャク………26
シロコウヤクタケ ……………113
シロコメバタケ ……186, 186, 187
シロサルノコシカケ……255, 255, 256
シロサルノコシカケ属 …253, 255
シロソウメンタケ……84, 88, (88), 89
シロソウメンタケモドキ …………………………84, 89, 89
シロチャカワタケ …119, 120, 121
シロツノマタタケ …………41, 41
シロニカワタケ…………21, 23, 23
シロバカワラタケ …261, 264, 264
シロヒメカイメンタケ ………*290*
シロヒメスリコギタケ……80, 80, (80)
シロヒメホウキタケ…89, 89, 90, (90)
シロマイタケ ………335, 337, 337
シロヤリタケ ……83, 87, (87), 88
シロロウジ …………………*200*
シワウロコタケ ………………*203*

シワウロコタケ属 ………201, 202
シワタケ…15, 204, 205, (205), 206
シワタケ科…………………46, 201
シワタケ属 ………………201, 203

ス

スイショウキン科………………15
スグリタケ …………360, 365, 366
スグリタケ属 ……………351, 359
スジウチワタケ ……322, 324, 324
スジウチワタケモドキ…322, 324, 325
スズメタケ …………322, 324, 324
スミレウロコタケ …131, 142, 142
スミレハリタケ……181, 183, 184, (184)
スリコギタケ ……72, 73, 74, (74)
スリコギタケ属 ……………57, 72
スリコギタケモドキ…72, 72, 73, (73)
スルメタケ …………313, 315, 315
スルメタケ属 ……………298, 312

セ

センケツタケ …………………211
センダンサルノコシカケ ……………360, 363, (363), 364
センベイタケ ………248, 251, 251

ソ

ソウメンタケ属 ……………58, 83

タ

ダイダイタケ………359, 360, 361, (361)
ダイダイナギナタタケ……91, 94, 94
ダクリオキン……………………35
タチウロコタケ ……150, 151, 151
タチウロコタケ属 ………105, 150
タテガタツノマタタケ …33, 33, (33)
タテガタツノマタタケ属 ………………………29, 31, 32
タバコウロコタケ…154, 155, (155), 156
タバコウロコタケ属 ……105, 154
タマキクラゲ ………………18, 18
タマチョレイタケ…331, 332, 332, (332)
タマチョレイタケ亜族 …223, 330
タマチョレイタケ属……185, 330, 330
タマナギナタタケ……77, 78, (78), 79
タマバリタケ ………………71, 71
タマバリタケ属 ……………57, 71
タマバリタケモドキ…71, 71, 72, (72)
ダンアミタケ ………224, 226, 227
担子菌 …………………………1

チ

チウロコタケ………130, 132, 133, (133)
チウロコタケモドキ……130, 134, (134), 135
チシマウロコタケ …131, 140, 140
チズガタサルノコシカケ ……166
チチイロオオコウヤクタケ …………………………108, 110
チチイロコウヤクタケ …110, 110
チヂミタケ属………………96, 104
チヂレタケ ………………203, 203
チヂレタケ属 ……………201, 203
チャアナタケ ………219, 220, 220
チャアナタケモドキ……219, 220, 220
チャアミタケ ………248, 252, 252
チャアミタケ属 …………223, 247
チャアミモチビョウキン ……………………47, 49, 50, (50)
チャイボタケ………172, 174, 175, (175)
チャイロオオコウヤクタケ ……………………108, 109, 109
チャウチワタケ ………………320
チャウラハリタケ …194, 196, 196
チャウロコタケ……131, 136, 137, (137)
チャカイガラタケ…247, 249, 249, (249)
チャサクラアナタケ……219, 222, 222
チャハブクレモチビョウキン ……………………47, 50, 50, (50)
チャハリタケ…176, 177, 178, (178)
チャハリタケ属 …………171, 176
チャハリタケモドキ……194, 196, 197
チャホウキタケ …63, 65, (65), 66
チャホウキタケモドキ…63, 66, 66, (66)
チャボハリタケ ……181, 184, 184
チャミダレアミタケ……247, 248, (248), 249
チョウクアナタケ …213, 215, 215
チョウクタケ………126, 129, (129), 130
チョウジタケ ………360, 366, 366
チョウノフエ …………………100
チョコタケ ……………………100
チョレイマイタケ…335, 335, 336, (336)
チリメンタケ ………224, 231, 232

ツ

ツガアナタケ ……………373, 374
ツガコウヤクタケ …126, 130, 130
ツガサルノコシカケ……300, 306, (307), 308
ツガサルノコシカケ属 …298, 299
ツガノニクイロアナタケ ……………………213, 217, 218
ツガノマンネンタケ……341, 344, 344, (344)
ツクシカワタケ ……114, 118, 118
ツクシサルノコシカケ…360, 364, (364), 365
ツチウロコタケ ……124, 125, 125
ツチコウヤクタケモドキ ……125
ツチコンニャク…………21, 22, 22
ツツジタケ …………176, 180, 180
ツツジテングスモチビョウキン ……………………47, 52, 53, (53)
ツツジモチビョウキン…47, 53, 53, (53)
ツノフノリタケ …41, 42, 42, (42)
ツノフノリタケモドキ…41, 42, 43
ツノマタタケ…………40, 40, (40)
ツノマタタケ属…………29, 32, 39
ツバキコナモチビョウキン ……………………47, 48, 49, (49)
ツバキモチビョウキン…47, 48, 48, (48)
ツブイボタケ ………172, 174, 174
ツブキクラゲ ……18, 18, 19, (19)
ツヤウチワタケ……326, 327, 327, 329
ツヤウチワタケ属 ………317, 326
ツヤウチワタケモドキ…327, 329, 329, (329)
ツヤケシサイワイタケ…341, 343, 344
ツヤジョウゴタケ …327, 330, 330
ツヤナシマンネンタケ …389, 389
ツヤナシマンネンタケ属 ……………………………351, 388
ツユクサハクハンビョウキン ……………………………56, 56, (56)
ツリガネタケ…298, 298, 299, (299)
ツリガネタケ亜族 ………223, 298
ツリガネタケ属 ……222, 298, 298

ツリパリサルノコシカケ……369, 371, (371), 372

テ

テンハリタケ……176, 177, 177

ト

同担子菌亜綱……1, 45
トウヒカワラタケ……385, 386, 386
トキイロラッパタケ……102
トゲシロキクラゲ……28, 28, (28)
トゲシロキクラゲ属……15, 27
トサカイボタケ……172, 173, 173, (173)
トサカホウキタケ……63, 70, 70
トドマツオオウズラタケ……277, 285, 285, (285)
トビイロウロコタケ……154, 163, 164, (164)
トビイロホウキタケ……63, 63, 64
トボシ……302
トメバリキン……10, (10), 11
トメバリキン科……2, 10
トメバリキン属……10, 10
トンビマイタケ……335, 337, 338

ナ

ナガエコマタケ……340, 340, 341
ナギナタタケ……91, 93, 94, (94)
ナギナタタケ属……58, 90
ナスビタケ……*334*
ナミダタケ……207, 207, 208, (208)
ナミダタケ属……201, 207
ナメシカワタケ……114, 115, 115
ナメシコウヤクタケ……*121*
ナメシネバリコウヤクタケ……119, 121, 121

ニ

ニオイアミタケ……237, 242, (242), 243
ニオイウロコタケ……131, 143, 143
ニオイヒメアミタケ……225, 234, 234
ニカワウロコタケ……170, 170
ニカワウロコタケ族……105, 170
ニカワウロコタケ属……105, 170
ニカワウロコタケモドキ……16, 16, (16)
ニカワジョウゴタケ……29, 29, 30, (30)
ニカワジョウゴタケ属……15, 29
ニカワタケ……27, 27, (27), 39
ニカワタケ属……15, 27
ニカワツノタケ……28, 28, (28), 29
ニカワツノタケ属……15, 28
ニカワハナビラタケ……30
ニカワハリタケ……30, 30, (30), 31
ニカワハリタケ属……16, 30
ニカワホウキタケ……41, 43, (43), 44
ニカワホウキタケ属……32, 41
ニクアミタケ……300, 310, 310, (310)
ニクイロアナタケ……213, 216, 217
ニクイロオオコウヤクタケ……109, 112, 112
ニクウスバタケ……260, 262, 262, (262)
ニクウチワタケ……244, 244, (244), 245
ニクウチワタケ属……223, 243
ニクカワタケ……119, 119, 120, (120)
ニクケイタケ……382, 382
ニクコウヤクタケ……126, 127, 127
ニクハリタケ……194, 194, 195, (195)
ニクハリタケ属……186, 193
ニセカイメンタケ……385, 385, 386, (386)
ニセカイメンタケ属……351, 384
ニセカンバタケ……341, 345, 345
ニセコブサルノコシカケ……374
ニセホクチタケ……375
ニレサルノコシカケ……313, 313, (313), 314
ニンギョウタケ……331, 334, 334
ニンギョウタケモドキ……331, 332, 333

ヌ

ヌメリアイタケ……331, 333, 333
ヌルデタケ……295, 295, 296, (296)
ヌルデタケ属……293, 295

ネ

ネジキモチビョウキン……47, 51, 51
ネズミタケ……67
ネッタイスルメタケ……313, 314, 315
ネッタイハウチワタケ……324
ネバリコウヤクタケ属……105, 119
ネバリニカワタケ……21, 22, 22
ネンドタケ……369, 369, 370, (370)
ネンドタケモドキ……369, 378, 378

ハ

ハイイロカワタケ……114, 117, 118
ハイイロコウヤクタケ……127
ハイイロモンパキン……11, 11, 12, (12)
パイプタケ属……105, 168
ハカワラタケ……261, 263, 264, (264)
ハダイロアナタケ……213, 217, 217
ハチノスタケ……322, 322, (322), 323
ハチノスタケ亜属……223, 317
ハチノスタケ属……317, 322
ハナウロコタケ……150, 151, 151, (151)
ハナビタケ……58, 59, 59, (59)
ハナビタケ属……57, 58
ハナビラダクリオキン……34, 35, 35, (35)
ハナビラタケ……169, 169, (169), 170
ハナビラタケ族……105, 169
ハナビラタケ属……105, 169
ハナビラニカワタケ……21, 25, 25, (25)
ハナヒリヒラモチビョウキン……47, 50, 51, (51)
ハナホウキタケ……63, 67, 68
バライロサルノコシカケ……300, 308, 309
ハリタケ……15, 16
ハリタケ科……46, 185, 253, 352
ハリタケ属……186, 199
ハリセンボン……192
ハリタケモドキ……186, 187, 187
ハリヒラタケ……194, 195, (195), 196
半担子菌亜綱……1

ヒ

ヒイロタケ……225, 236, 236
ヒウガオオウロコタケ……131, 141, 142, (142)
ヒダアナタケ……213, 215, 216
ヒダキクラゲ……4, 4, (5), 6
ヒダナシタケ目……45, 45
ヒツジタケ……276, 283, 283
ヒトクチタケ……45, 350, 350, (350), 351
ヒトクチタケ族……212, 350
ヒトクチタケ属……350, 350
ヒナアンズタケ……96, 98, 98
ヒナノウチワ……324
ヒビウロコタケ……154, 164, (164), 165
ヒビコウヤクタケ……126, 127, 128
ヒビチョウクタケ……128
ヒメアカキクラゲ……34, 34, 35

ヒメアンズタケ……98
ヒメウズラアミタケ……316, 316, 317
ヒメウロコタケ……154, 159, 160, (160)
ヒメカイメンタケ…382, 384, 384
ヒメキカイガラタケ……237, 240, 241
ヒメキクラゲ……18, 20, 20, (20)
ヒメキクラゲ属……15, 18
ヒメサビウロコタケ……144, 149, 150
ヒメシロアミタケ…224, 227, (227), 228
ヒメシロカイメンタケ… 290, 290
ヒメシロヒズメタケ……300, 302, 302
ヒメシワタケ……203, 204, 204
ヒメスグリタケ……360, 364, 364
ヒメダクリオキン……34, 37, 37
ヒメタマバリタケ……71, 72, 72
ヒメツガサルノコシカケ……300, 306, 306
ヒメツノタケ……41, 43, 43, 93
ヒメツノタケモドキ……41, 43, 43
ヒメツノフノリタケ……41, 42, 42
ヒメハリタケ……199, 201, 201
ヒメヒズメタケ……359, 360, 360
ヒメベツコウタケ…225, 234, 235
ヒメヘビアミタケ…225, 237, 237
ヒメホウキタケ…63, 64, 65, (65)
ヒメホウキタケ属……58, 89
ヒメホウキタケモドキ…91, 96, 96
ヒメホウロクタケ…224, 230, 230
ヒメモグサタケ……286, 287, 288, (288)
ヒヤクヒロタケ……24
ヒラカワタケ……114, 116, 116
ヒラフスベ……275
ビロウドホウキタケ……61, 61, 62
ビロウドホウキタケ属……57, 61
ヒロハノキカイガラタケ……237, 240, 240, (240)

フ

フウリンタケ族……105, 167
フウリンタケ属……105, 167
フェムスジョウタケ…38, 38, 39, (39)
フェムスジョウタケ属……32, 38
フェムスジョウタケモドキ 38, 39, 39
フキガマホタケモドキ…80, 80, (80)
腹菌類……1, 45, 21
ブクリョウ…213, 218, (218), 219
フクリンハリタケ…176, 180, 181
フサタケ……59, 59, 60, (60)
フサタケ属……57, 59
フサヒメホウキタケ…60, 60, 61, (61)
フサヒメホウキタケ属……57, 60
フジウスタケ……102, 103, 103, (103)
フジウロコタケ……131, 137, 137
ブドウタケ……301, 310, 311
フトウラスジタケ……167, 167
フトウラスジタケ族……105, 166
フトウラスジタケ属……105, 166
フノリタケ……41, 44, 44
フユガレガマホタケ…77, 78, 78, (78)
プラチグロエア属……2, 4
ブラッシモンパキン……11, 14, 15
フルイカワラタケ…261, 270, 271
フルイタケ…247, 250, 251, (251)

ヘ

ヘゴノコウヤクタケ……108, 110, 110, (110)
ヘゴフウリンタケ…168, 168, (168)
ベッコウタケ……300, 305, 306, (306)
ベニウスタケ……96, 97, 97
ベニセンコウタケ……83, 85, 85, (85)
ベニナギナタタケ……91, 95, 95, (95)
ヘビアミタケ……225, 236, 237
ヘラスリコギタケ……72, 74, 74, (74)

ホ

ホウキタケ……15, 63, 66, 67
ホウキタケ科……45, 56
ホウキタケ属……57, 62
ホウネンタケ……301, 312, 312
ホウロクタケ……224, 229, (229), 230
ホウロクタケ亜族……223, 223
ホウロクタケ属……223, 223
ホシゲタケ……123, 123, (123)
ホシゲタケ族……105, 123
ホシゲタケ属……105, 123
ホソツノマタタケ……40, 40, (40)
ホソヤリタケ……72, 76, 76, (76)

マ

マイタケ……335, 336, 337
マイタケ属……330, 335
マクラタケ……355, 357, 358
マゴシャクシ……341, 343, 343
マスタケ……273, 275, 275
マツカサタケ……192, 192, 193, (193)
マツカサタケ属……186, 192
マツタケ科……96, 245
マツタケ目……45
マツノウロコタケ…144, 145, 146
マツノウロコタケ属……105, 143
マツノオオウズラタケ…276, 277, 278
マツノカタワタケ…359, 362, 363
マツノサルノコシカケ……364
マツノタバコウロコタケ……154, 156, (156), 157
マツノネクチタケ…300, 302, 303, (303)
マツホド……219
マワタグサレキン…212, 213, 214
マンサクウロコタケ……144, 145, 145
マンネンタケ…316, 341, 341, 343, (343)
マンネンタケ族……212, 339
マンネンタケ属……300, 339, 341, 388
マンネンタケモドキ……*345*
マンネンハリタケ…198, 198, (198)
マンネンハリタケ属……186, 197

ミ

ミイロアミタケ……248, 251, 252, (252)
ミカワタケ…322, 325, 325, (325)
ミキイロウスタケ……97, 98, 99, (99)
ミゾクサレタケ……374
ミダレアミタケ……261, 264, 265, (265)
ミダレハスタケ……237, 243, 243, (243)
ミノタケ……261, 263, 263
ミミタケ……8
ミヤベオオウロコタケ…154, 160, (160), 161
ミヤマウラギンタケ……355, 355, 356
ミヤマウロコタケ……149
ミヤマシロアミタケ…224, 228, 228
ミヤマダクリオキン……33, 33, 34
ミヤマチャウロコタケ…131, 137

138
ミヤマトンビマイタケ…338, 338, 339, (339)
ミヤマトンビマイタケ属 ……330, 338

ム

ムサシタケ ……389, 389
ムニンキアシセンコウタケ ……91, 93, 93
ムニンチヂミタケ…104, 104, (104)
ムニンヤリノホタケ……84, 88, 88
ムラサキウスバタケ……257, 260, 260
ムラサキウロコタケ…130, 131, 132, (132)
ムラサキナギナタタケ…83, 84, (84), 85
ムラサキホウキタケ…67, 83, 84, 84
ムラサキホウキタケモドキ ……81, 81, (81), 82
ムラサキモンパ ……3, 3, (3)
ムラサキモンパ属 ……2, 2

メ

メアカンナギナタタケ…83, 87, 87, (87)
メシマコブ …369, 376, (376), 377

モ

モチビョウキン科 ……45, 46
モチビョウキン属 ……46, 46
モミサルノコシカケ……219, 369, 373, (373), 374
モミジウロコタケ…131, 139, 139, (139)
モミジタケ …172, 172, (172), 173
モミジフノリタケ……41, 41, 42, (42)
モミノダクリオキン……34, 37, 37
モモイロダクリオキン…34, 36, 36
モンパキン科……2, 11
モンパキン属 ……11, 11
モンパタケ ……*233*

ヤ

ヤキフタケ ……276, 280, 281
ヤケイロコウヤクタケ…108, 109, 109
ヤケイロタケ……286, 286, 287, (287)
ヤケイロタケ属 ……273, 285
ヤケコゲタケ ……355, 356, 357
ヤシウロコタケ……155, 165, 165, (165)
ヤスリタケ ……209, 209, 210
ヤニタケ ……294, 294, 295, (295)
ヤニタケ属 ……247, 293, 293
ヤマトウロコタケ …144, 150, 150
ヤマブシタケ……190, 191, 192, (192)
ヤリノホタケ ……83, 87, 87, (87)

ユ

ユラタケ ……360, 367, 367, (367)

ヨ

ヨソオイサルノコシカケ…313, 315, 316

ラ

ラシャタケ ……171, 171, (171)
ラシャタケ属 ……170, 171
ラッコタケ ……355, 356, 356
ラッパタケ……100, 102, 102, 103, (103)
ラッパタケ属……96, 102

レ

レイシ ……343
レングヮタケ……300, 304, (304), 305
レンゲタケ ……276, 280, 280
レンジャクタケ ……261, 267, 268

ロ

ロウジ ……185
ロウタケ ……17, 17
ロウタケ属 ……15, 16

ワ

ワタグサレキン……213, 214, 216, 216
ワタグサレモドキ ……214
ワタゲオオコウヤクタケ ……108, 109, 109
ワニスタケ ……327, 328, 329
ワヒダタケ …353, 353, (353), 354
ワヒダタケ属 ……351, 353

—— 終 ——

昭和30年6月10日　第1版印刷
昭和30年6月15日　第1版發行

日本菌類誌
第二卷・第四號

定価1000円

著作者　伊　藤　誠　哉

東京都文京區森川町70番地
發行者　株式會社　養賢堂
代表者　及川伍三治

東京都新宿區市ケ谷本村町27番地
印刷者　平　尾　秀　吉

東京都新宿區市ケ谷本村町27番地
印刷所　新日本印刷株式會社

東京都文京區森川町70番地
発行所　株式会社　養賢堂

三冊ノ內

定 價 1000 圓

地方書店でのお買上は送料の内
50 圓だけを御負擔願います。